

あり 有 馬 遺 跡 I

奈良・平安時代編

おお 大 久 保 B 遺 跡

— 関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第26集 —

1 9 8 9

群 馬 県 教 育 委 員 会
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

あり^ま有馬遺跡Ⅰ

奈良・平安時代編

おお^くほ大久保B遺跡

—関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第26集—

1989

群馬県教育委員会
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



天部形立像



出土陶磁器

序

関越自動車道新潟線は、太平洋側の首都東京と日本海側の新潟市を結ぶ高速自動車道として、昭和60年10月1日に開通いたしました。本道路の開通に際しては、数多くの埋蔵文化財が、事前の道路建設工事に先だって調査されました。本県でも58箇所の埋蔵文化財包蔵地が発掘調査され、記録保存されています。

本報告による有馬遺跡は、渋川市有馬、また大久保B遺跡は北群馬郡吉岡村大久保に所在する埋蔵文化財包蔵地であり、昭和57年1月から昭和59年1月にかけて、当事業団が調査しました。両遺跡は、弥生時代の墳墓・住居・古墳時代の畠、古墳時代から平安時代にかけて継続的に営まれた集落跡等が調査され、古代における本県の歴史を知る上での数々の貴重な資料が得られました。これら資料は昭和62年9月から、報告書作成のための整理作業が行われました。そして古墳時代後期に大爆発した榛名山二ツ岳の火山灰が、降下して堆積したFA層より上層にある遺構について整理が完了し、ここに有馬遺跡の第1分冊としての報告書を作成することができ、併せて大久保B遺跡も本報告書にて報告することになりました。

発掘調査から報告書の作成に至るまで、日本道路公団東京第二建設局、群馬県教育委員会、渋川市教育委員会、吉岡村教育委員会、地元関係者等から種々のご援助、ご指導、ご協力を賜りましたことに対し、深甚なる感謝の意を表し、併せて本報告書が広く県民各位、研究者、教育機関等に活用され、本県の歴史を解明するための資料として、役立てられることを願い序とします。

平成元年5月20日

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 清水一郎

例 言

1. 本書は関越自動車道（新潟線）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。本書は有馬遺跡Ⅰ・Ⅱ、全2冊の内、奈良・平安時代編、大久保B遺跡『有馬遺跡Ⅰ・大久保B遺跡』であり、有馬遺跡弥生時代編『有馬遺跡Ⅱ』とはFA降下以前、以後により分けてある。
2. 調査地域は有馬遺跡が群馬県渋川市有馬から八木原に至る地域であり、大久保B遺跡は北群馬郡吉岡村大久保字宮・十石塚である。
3. 発掘調査は有馬遺跡が昭和57年1月から昭和57年11月、昭和58年3月から59年1月までの二度にわたり実施され、大久保B遺跡は昭和57年12月から昭和58年2月まで実施された。
4. 事業主体者 日本道路公団
5. 調査主体者 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
6. 整理主体者 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
7. 発掘調査担当者
有馬遺跡
佐藤明人 関根慎二 神谷佳明 山口逸弘 大西雅広 友廣哲也
大久保B遺跡
佐藤明人 山口逸弘 友廣哲也
8. 発掘調査、整理事業に関わった財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団事務局職員
小林起久治 白石保三郎 邊見長雄 井上唯雄 松本浩一 大澤秋良 田口紀雄 上原啓己 神保侑史
近藤平志 定方隆史 住谷進 平野進一 真下高幸 国定均 笠原秀樹 小林昌嗣 須田朋子 吉田有光
柳岡良宏 並木綾子 野島のぶ江 吉田笑子 吉田恵子 今井もと子 松井美智子 角田みづほ
9. 本書作成の整理事業は昭和62年10月より平成元年5月まで行った。
10. 整理担当職員
調査研究員 友廣哲也
補 助 員 大友美代子 金子ひろ子 狩野君江 狩野フミ子 小林恵美子 篠原富子 下境マサ江
高柳哲子 南雲素子 茂木範子 吉田文子
11. 本書中の人骨鑑定及び原稿は森本岩太郎氏、吉田俊爾氏（聖マリアンナ医科大学）、石材鑑定は飯島静男氏（群馬地質学協会）に依頼し、金銅像は平尾良光氏（東京国立文化財研究所）、浅井和春氏（東京国立博物館）に鑑定及び原稿をお願いした。また、陶磁器については本事業団調査研究員大西雅広がこれにあたった。
12. 本書作成にあたっては次の方々から御助言、御指導をいただいた。
浅井和春 新井房雄 飯島静雄 早乙女雅博 十菱駿武 玉口時雄 平尾良光 本村豪章 森本岩太郎
吉田俊爾
13. 本書の執筆者
平尾良光
森本岩太郎
吉田俊爾

大西雅広

友廣哲也

14. 本書に使用した遺物写真は宇貫達男氏（タツミ写真スタジオ）に依頼した。また遺構写真撮影は調査担当者が行った。
15. 金属製品の保存処理は、関邦一技師、北爪健二嘱託員、小材浩一補助員がこれにあたった。
16. 本書に用いた地図は、国土地理院「前橋」「榛名山」1：50,000である。
17. 発掘調査・整理作業に関する史・資料は総て群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。
18. 本書の編集は友廣哲也が行い、本文の執筆はことわりがない限り友廣哲也が行った。

凡 例

1. 本報告書は有馬遺跡奈良・平安時代を対象としている。弥生・古墳時代編とはF A降下以前、以後により分けてある。
2. 住居跡の番号は発掘調査の順番を示し、時代、時間を示さない。
3. 本書中の遺構の縮尺は住居跡が $\frac{1}{60}$ であり、竈図は $\frac{1}{30}$ である。遺構によってはその限りでない。その場合は図版中に縮尺を付してある。
4. 本書中の遺物の縮尺は土器は $\frac{1}{3}$ 、石は $\frac{1}{4}$ 、鉄製品は $\frac{1}{2}$ が基本であり、縮尺の異なる物については図版中に付してある。
5. 遺物図版中の土器番号は遺構図版の土器番号と同一である。
6. 土器の色調は「標準土色帳」農林省農林水産技術会議事務所・財団法人日本色彩研究所監修によった。
7. 遺構についての計測は以下、図に示したとおりである。

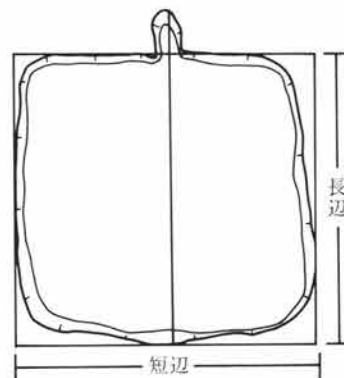


Fig.1 凡 例

目 次

序
例 言
凡 例

有 馬 遺 跡

第1章 発掘調査の経緯と調査過程	3
第1節 発掘調査の経緯と調査過程	3
第2節 立地と周辺の遺跡	3
第3節 調査の方法	5
第4節 基本層序	6
第2章 検出された遺構と遺物	7
第1節 竪穴住居跡	7
1号住居跡	7
2・3号住居跡	8
4号住居跡	9
5号住居跡	10
6号住居跡	11
8号住居跡	12
9号住居跡	15
10号住居跡	16
11・12号住居跡	18
13号住居跡	21
14号住居跡	23
15号住居跡	23
16号住居跡	25
17号住居跡	27
18号住居跡	29
19号住居跡	30
20号住居跡	31
21号住居跡	33
22号住居跡	34
23号住居跡	37
24号住居跡	38
25・26号住居跡	39
27号住居跡	42
28号住居跡	42
29号住居跡	43
30号住居跡	45
31号住居跡	46
32号住居跡	47
33号住居跡	48
34号住居跡	49
35号住居跡	51
36号住居跡	53
37号住居跡	54
38号住居跡	56
40号住居跡	57
41号住居跡	59
42号住居跡	62
43号住居跡	63
44号住居跡	65
46号住居跡	66
47号住居跡	66
48号住居跡	66

50号住居跡	67	107号住居跡	125
51号住居跡	69	108号住居跡	129
52号住居跡	70	109号住居跡	131
53号住居跡	72	110号住居跡	132
55号住居跡	75	111号住居跡	134
56号住居跡	76	112・143号住居跡	135
57号住居跡	77	113号住居跡	138
58号住居跡	78	114号住居跡	139
59号住居跡	79	115号住居跡	141
60号住居跡	82	116号住居跡	144
61号住居跡	83	117号住居跡	145
62号住居跡	84	118号住居跡	146
63号住居跡	86	119号住居跡	148
64号住居跡	88	120号住居跡	150
65号住居跡	89	121号住居跡	152
67号住居跡	90	122号住居跡	155
68号住居跡	91	123号住居跡	155
69号住居跡	91	124号住居跡	157
70号住居跡	92	125号住居跡	158
71号住居跡	93	126号住居跡	159
79号住居跡	94	127号住居跡	160
80号住居跡	95	141号住居跡	161
81号住居跡	96	129号住居跡	164
92号住居跡	97	130号住居跡	165
93号住居跡	100	131号住居跡	167
94号住居跡	101	132・133号住居跡	168
95号住居跡	103	134号住居跡	170
96号住居跡	104	135号住居跡	172
97号住居跡	107	136号住居跡	174
98号住居跡	109	137号住居跡	176
99号住居跡	112	138号住居跡	177
100号住居跡	114	139号住居跡	180
101号住居跡	114	140号住居跡	181
102号住居跡	116	145号住居跡	183
103号住居跡	118	146号住居跡	185
104号住居跡	121	147号住居跡	187
105号住居跡	122	148・171号住居跡	188
106号住居跡	125	149号住居跡	191

150・184号住居跡	193	172号住居跡	231
151号住居跡	197	173号住居跡	232
152号住居跡	198	174号住居跡	233
153号住居跡	200	175号住居跡	234
154号住居跡	203	176号住居跡	236
155号住居跡	205	177号住居跡	238
156号住居跡	207	178号住居跡	240
157号住居跡	208	179号住居跡	241
159号住居跡	209	181号住居跡	242
160号住居跡	211	182号住居跡	243
161号住居跡	213	183号住居跡	244
162号住居跡	215	186号住居跡	245
163号住居跡	216	187号住居跡	246
164号住居跡	218	188号住居跡	247
165号住居跡	219	189号住居跡	248
166・167号住居跡	222	190・191号住居跡	249
168号住居跡	225	193号住居跡	253
169号住居跡	228	194号住居跡	254
170号住居跡	230		
第2節 土坑	257		
第3節 墓壇	268		
第4節 溝	270		
第5節 井戸	273		
第6節 掘立柱建物跡	288		
第3章 渋川市有馬遺跡出土の平安時代および中世人骨について (森本岩太郎・吉田俊爾)	289		
第4章 有馬遺跡出土天部形立像 非破壊蛍光X線分析法による有馬遺跡出土天部形立像	295 296		
第5章 有馬遺跡出土の陶磁器 (大西雅広)	298		

大久保 B 遺跡

第 1 章 検出された遺構と遺物

第 1 節 竪穴住居跡

1 号住居跡315

2 号住居跡317

3 号住居跡321

4 号住居跡323

5 号住居跡325

6 号住居跡326

第 2 節 土坑・溝・井戸328

第 3 節 掘立柱建物跡329

第 2 章 陶磁器（大西雅広）330

有馬遺跡

第1章 発掘調査の経緯と調査過程

第1節 発掘調査の経緯と調査過程

有馬遺跡の発掘調査は昭和57年1月に開始された。関越自動車道開通昭和60年をめざし埋蔵文化財の発掘調査が開始された。群馬県下では藤岡市・多野郡新町・佐波郡玉村町・高崎市・前橋市・群馬郡群馬町・北群馬郡吉岡村・渋川市・勢多郡北橋村・同郡赤城村・利根郡昭和村・沼田市・利根郡月夜野町・同郡水上町の14市町村が通過対象となった。この対象地の間55遺跡の存在を確認した。有馬遺跡は渋川市に所在し南から22番目の埋蔵文化財包蔵地で（KK22）と通称された。

当遺跡は4世紀の浅間山噴火（浅間山C軽石）に伴う火山災害を始め5世紀後葉から6世紀前半に2度の榛名山噴火に伴う火山災害（二ツ岳FA・FP）があり、また11世紀（天仁元年、1101）と考えられている浅間山の噴火（浅間山B軽石）等たび重なる火山災害により遺構確認面は多面に互っている。この中でも特に奈良・平安時代の調査面は6世紀の泥流の上に構築されていた。この泥流はFPF1と呼ばれ、2mに近い堆積であった。

有馬遺跡は昭和57年に調査が開始され同年11月に中断し、58年3月から59年1月をもって終了した。有馬遺跡中断中57年12月から58年2月の間大久保遺跡の調査を終了した。調査の経過は以下に概要を記す。

昭和57年1月からトレンチをいれ同年3月までの終了をめどに調査対象面積28,000㎡のうち4,000㎡を対象としてF区の調査を開始した。先述した火山災害面を確認しながらの調査は奈良・平安時代住居跡の確認さらにFAに覆われる畠の面を確認した。

昭和57年4月から同年11月の間、F区の調査に加え調査区の東側に沿う側道部F区北側、G区北側のカルパートボックス部の調査を開始した。B軽石面の畠を確認さらに奈良・平安時代の住居跡を確認した。また、FAに覆われた畠、古墳・弥生時代の住居跡、礫床墓、浅間山C軽石が混入する畠等の遺構を確認した。

昭和58年から59年1月の間、関越自動車道本線部をさらに追加して調査を開始する。FPF1上面に奈良・平安時代の住居跡、井戸、溝、畠、土坑等の遺構を検出、またFAに覆われた畠、古墳・弥生時代住居跡、礫床墓等の遺構を検出した。

これにより有馬遺跡の発掘調査を終了する。

第2節 立地と周辺の遺跡

有馬遺跡はJR上越線八木原駅の西方約0.7kmの地点、榛名山の中腹を源とする小河川によって形成された扇状地に位置している。遺跡の東方約2kmには利根川が南流し、北方約0.5kmに午王川、南方約0.4kmに滝沢川が流れ、標高約177mを前後しながら東北に緩やかに傾斜している。

有馬遺跡周辺では縄文時代から中世に至る遺跡が調査され特に本報告書に報告のある奈良・平安時代の遺跡は北側に接して調査された有馬条里遺跡(1)、南西約0.5kmにある有馬廃寺遺跡(2)がある。有馬寺は奈良時代に建立されたとされ寺畑地内に推定されている。昭和62年に渋川市教育委員会によって調査され、多数の瓦が検出されている。寺は「日本書紀」「和名抄」に見られる阿利真君の本拠と考えられている。有馬条里遺跡では条里遺構は確認できなかったが奈良・平安時代における集落、墓跡等資料の報告がある。また有馬条里

第1章 発掘調査の経緯と調査過程

遺跡に北接して調査された中村遺跡(3)でも奈良・平安時代の好資料が認められた。とくに中村遺跡では天明3年に噴火した浅間山泥流により埋没した畠跡が検出された。また周辺地域では縄文時代からの遺跡も多数検出され空沢遺跡(4)では中期加曾利E期の敷石住居跡を含む数十軒の集落跡が検出されている。行幸田遺跡(5)でも中期集落跡の報告がある。弥生時代終末から古墳時代に至る資料としては、以上3遺跡に加え行幸田山遺跡(6)、空沢遺跡、愛宕塚遺跡(7)で墓跡、礫床墓、古式古墳等が検出され、集落遺跡としては中筋遺跡(8)が特筆される。古墳は榛名山系から東へ張り出した台地先端部には十数基の円墳よりなる行幸田古墳群や空沢遺跡で検出されている。

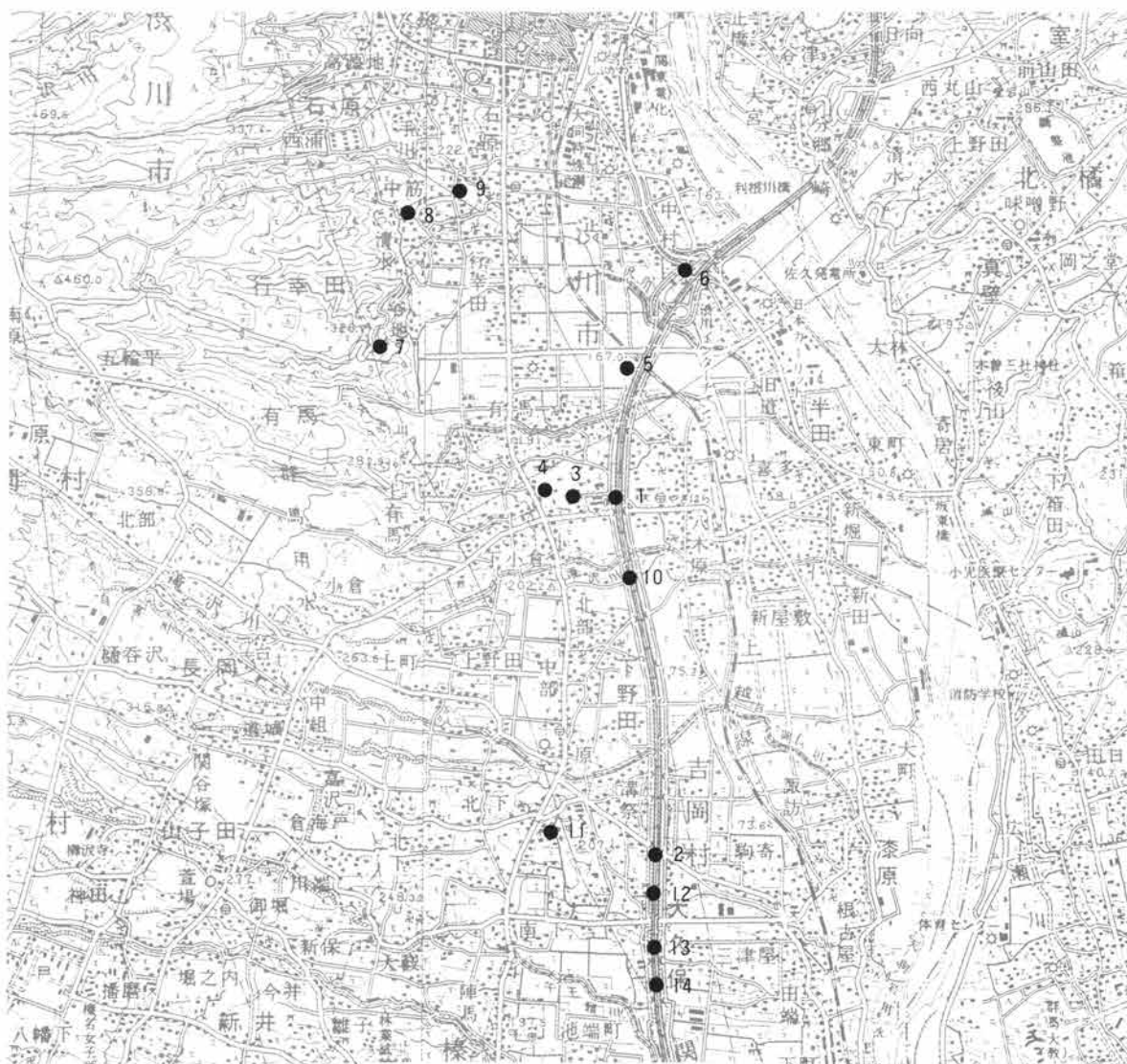


Fig. 2 有馬遺跡・大久保B遺跡周辺遺跡

No.	遺跡名	遺跡の概要	文献
1	有馬遺跡	本報告の遺跡	
2	大久保B遺跡	本報告の遺跡	
3	愛宕塚遺跡	弥生～歴史時代集落址	S55. 渋川市教育委員会調査
4	有馬庵寺遺跡	有馬寺推定地	渋川市教育委員会 1988, 3

5	有馬条里遺跡	弥生～歴史時代集落址、墓址、生産址	有馬条里遺跡、渋川市教育委員会1983, S57～59. 当事業団調査
6	中村遺跡	弥生～歴史時代集落址、墓址、生産址、江戸時代畑址	渋川市教育委員会、1986
7	行幸田山遺跡	縄文時代集落址、古墳、中世砦址	行幸田山遺跡、渋川市教育委員会 1987, 3

8	中筋遺跡	縄文～歴史時代集落址、墓址、生産址	S59, 61, 渋川市教育委員会調査
9	空沢遺跡	縄文～歴史時代集落址、古墳	S53～55, 58～60 渋川市教育委員会調査
10	滝沢古墳	古墳	七日市遺跡、滝沢古墳、女塚遺跡、吉岡村教育委員会、1986

11	南下古墳群	古墳	群馬県史、資料編3 群馬県
12	大久保A遺跡	歴史時代集落址	七日市遺跡、滝沢古墳、女塚遺跡、吉岡村教育委員会、1986
13	女塚遺跡	歴史時代集落址	七日市遺跡、滝沢古墳、女塚遺跡、吉岡村教育委員会、1986
14	七日市遺跡	歴史時代集落址	七日市遺跡、滝沢古墳、女塚遺跡、吉岡村教育委員会、1986

第3節 調査の方法

グリッド設定法 関越自動車道の建設予定区域は幅員約80mである。路線内中央には建設工事用測量杭が設置されている。この杭の内S T A 262～266の間が有馬遺跡の調査範囲である。遺跡は座標系第IX系に属している。このためグリッドの設定は国家座標第IX系東西+51.5をE区00ラインとし、2メートル間隔で西に向かうごとに1番ずつ増えていく。南北もこれに習い北に向かうごとに番号が増えていく。南北はまた50mごとにアルファベットが進んで行くことになる。つまり30 E 00から30 E 49の次は30 F 00になるという具合である。

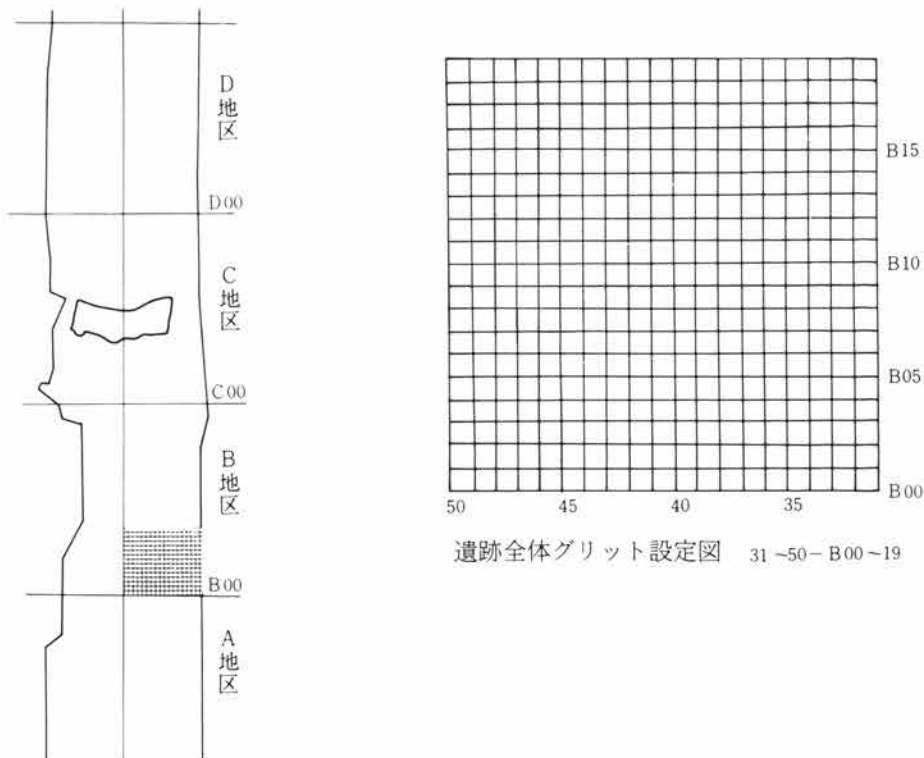


Fig. 3 グリッド設定法

第4節 基本層序



Fig. 4 有馬遺跡基本層序

有馬遺跡一帯は渋川市の中心部から南東に位置している。北に隣接する有馬条里遺跡では、ローム層が明確に認められず、砂礫層が広がっており、おそらく河川により浸蝕されているものと考えられる。当遺跡では河川の浸蝕は及ばなかったようでローム層が基盤層として確認されている。以下各層位を略述したい。

- I層 表土
- II層 古代末～中世期に及ぶ耕作面
- III層 浅間山B軽石層（天仁元年、1108年の噴出）
- IV層 黒色土層
- V層 榛名山二ツ岳泥流、当遺跡では2～3mの厚さで確認されている。
- VI層 榛名山二ツ岳噴出火山灰（F A）
- VII層 浅間C軽石と黒色土の混土層
- VIII層 黒色土層
- IX層 関東ローム層

第2章 検出された遺構と遺物

第1節 竪穴住居跡

1号住居跡 (Fig. 5・6、PL. 1・68)

F区南東部に位置し34F 9・10の範囲にある。2・3号住居跡の南西にあり、北東部で4号住居跡、西半部で1号溝と重複する。新旧関係は4号住居跡より新しく1号溝より古い。このため長辺、短辺、また主軸方位も不明であるが東壁は約2.6mを測る。竈は検出されていない。床面は軟弱で壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。

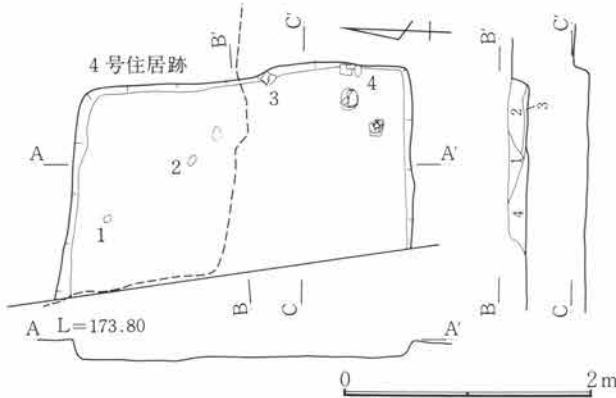


Fig. 5 1号住居跡

- 1号住居跡
- 1 暗褐色土層 FPを少量含み、粘性なくしまりある
 - 2 暗褐色土層 FPを含み、粘性、しまりなし
 - 3 茶褐色土層 炭化物を微量含み、砂質土
 - 4 暗褐色土層 FPを多量に含み、粘性、しまりなし

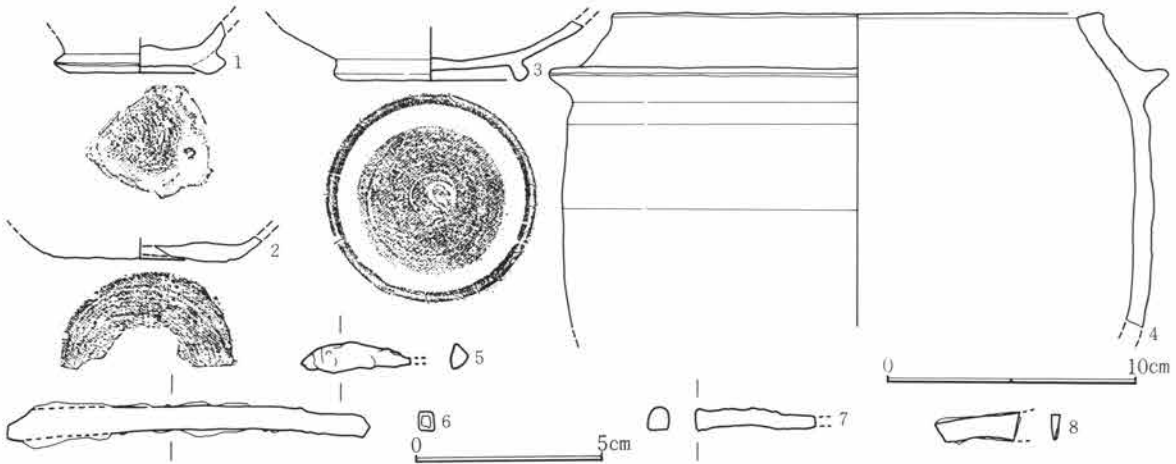


Fig. 6 1号住居跡出土遺物

第1号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
6-1 68	須恵器 埴	底-5.2	床面	付高台底部回転糸切	①良好②橙色③細砂粒含む ④底部残存
6-2 68	須恵器 坏	底-7.0	床面 No 2	底部回転糸切	①良好②灰色③細砂粒含む ④底部残存
6-3 68	灰釉陶器 埴	底-7.0	床面 No 3	付高台底部回転糸切	①良好②灰白色③密④底部 残存
6-4 68	羽釜	口-18.8	床面 No 4	鑿やや上を向き口縁内湾する	①良好②にぶい橙色③1 ~2mm砂粒含む④口縁部破片
Fig. 6-5 PL. 68	鉄製品	長-3.0cm 厚-4mm			
Fig. 6-6 PL. 68	鉄製品	長-9.6cm 厚-5mm			
Fig. 6-7 PL. 68	鉄製品	長-3.2cm 厚-6mm		釘?	
Fig. 6-8 PL. 68	鉄製品	長-2.4cm 厚-2mm		刀子?	

第2章 検出された遺構と遺物

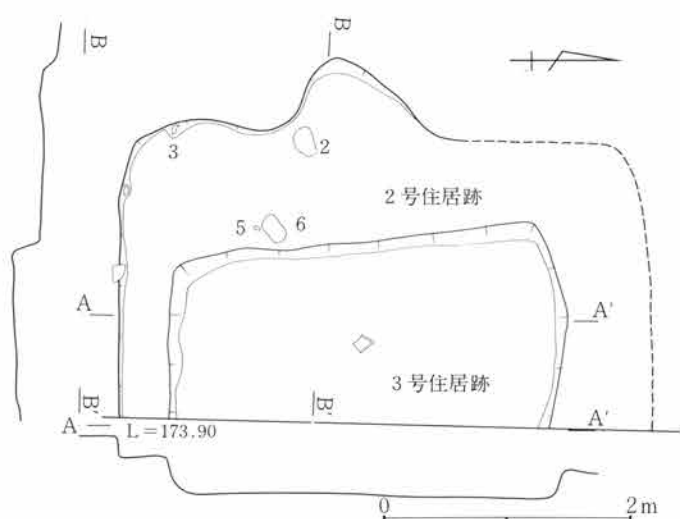


Fig. 7 2・3号住居跡

2・3号住居跡 (Fig. 7・8、PL. 1・68)

F区南東部に位置し32・33F12～14の範囲にある。1号住居跡の北東にあり、2・3号住居跡は重複し2号住居跡の中に3号住居跡がある。両住居跡ともに東半部は調査区域外にあるためプランの確認はできなかった。新旧関係は2号住居跡が新しい。両住居跡ともに竈は検出されていないが2号住居跡西壁に竈状の張り出しが認められた。

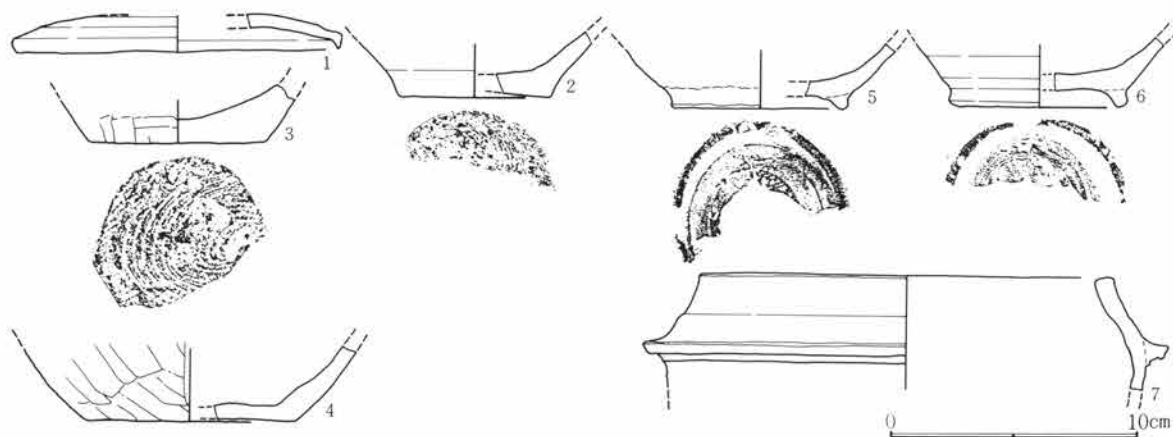


Fig. 8 2号住居跡出土遺物

第2号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
8-1 68	須恵器 蓋	径-13.0	覆土	返りをもたず外面回転ヘラ調整	①良好②灰色③密④破片
8-2 68	須恵器 坏	底-6.0	No.2	底部回転糸切	①良好②灰白色③1～2mmの砂粒含む④底部破片
8-3 68	土師器 甕	底-7.0	No.3	底部回転糸切	①良好②褐色③1～2mmの砂粒含む④底部破片
8-4 68	土師器 甕	底-8.3	覆土	外面ヘラケズリ内面ナデ調整	①良好②褐灰色③細砂粒含む④底部破片
8-5 68	須恵器 坏	底-6.7	No.5	付高台	①良好②褐色③1～2mmの砂粒含む④底部破片
8-6 68	須恵器 埴	底-6.5	No.6	付高台底部回転糸切	①良好②灰白色③1～2mmの砂粒含む④底部破片
8-7 68	羽 釜	口-16.3	覆土	鋤下を向く口縁部内傾する	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁部破片

4号住居跡 (Fig. 9・10・11、PL. 1・68・69)

F区南東部に位置し33~35 F10~12の範囲にある。2・3号住居跡の南西にあり、南西部を1号住居跡と重複する。新旧関係は1号住居跡より古い。規模は一辺4mを測り、平面形態は方形を呈する。主軸方位はN-86°-Eである。壁高は約10cm~15cmを測る。床面には一面に炭化物が検出され木材の形状を遺しており焼失家屋である。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は焼焼部幅約70cm、同長約40cmを測る。

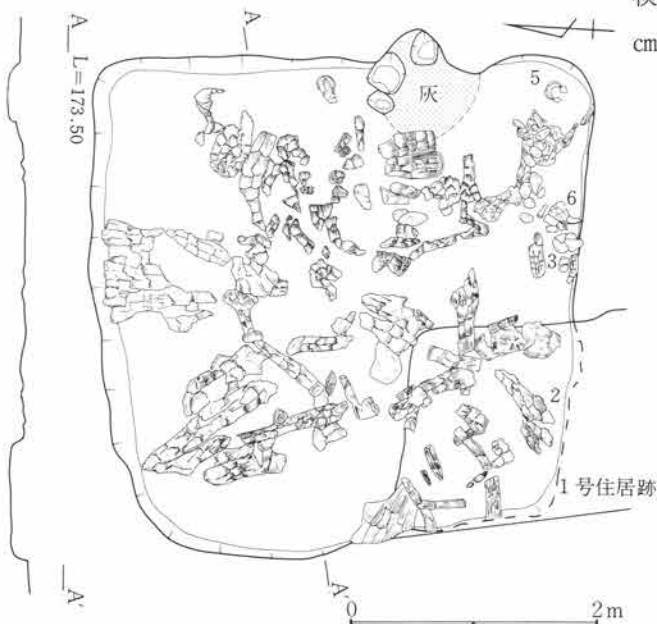


Fig. 9 4号住居跡

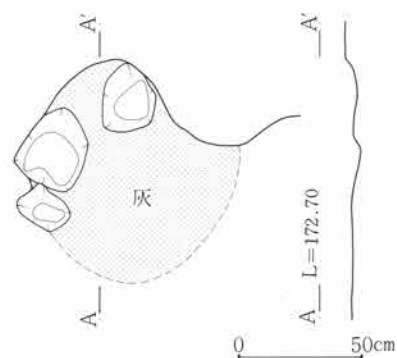


Fig.10 4号住居跡竈

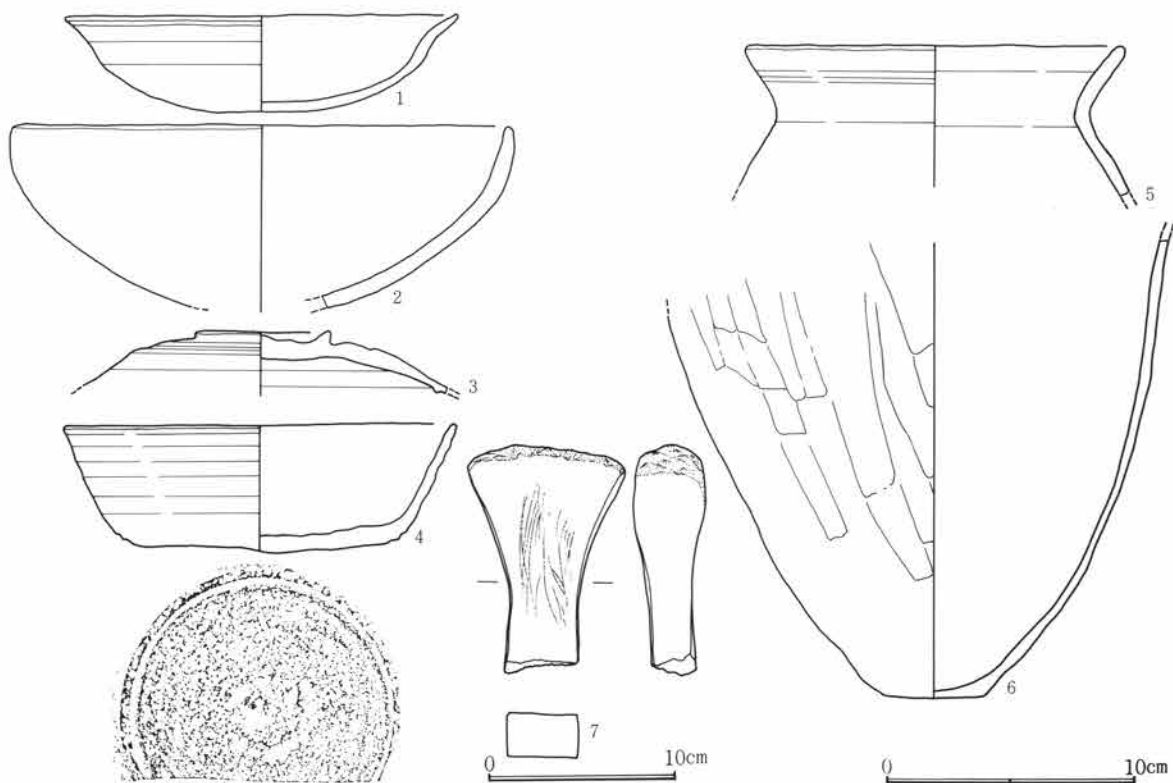


Fig.11 4号住居跡出土遺物

第2章 検出された遺構と遺物

第4号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
11-1 68	土師器 坏	口-15.8	覆土	口縁部外湾して外傾する口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④%残存
11-2 68	土師器 坏	口-20.0	No.2	口縁部直状に立ち上がる口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ調整	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④%残存
11-3 68	須恵器 蓋		床面 No.3	外面ヘラ調整内面に返りをもつ外周欠損	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④ほぼ完形
11-4 68	須恵器 坏	口-15.6 高-5.0 底-10.5	床面	口縁部直状に外傾する底部削り出し高台	①良好②灰白色③細砂粒含む④%残存
11-5 69	土師器 甕	口-15.0	床面 No.5	口縁部くの字状に外傾する口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ調整	①良好②橙色③1~2mmの砂粒含む④%残存
11-6 68	土師器 甕	底-3.8	床面 No.6	外面ヘラケズリ内面ナデ調整	①良好②赤褐色③1~2mmの砂粒含む④%残存
Fig. 11-7 PL. 69 砥石 長-12.1cm 幅-8.4cm 厚-3.8cm 流紋岩					

5号住居跡 (Fig. 12・13・14, PL. 1・69)

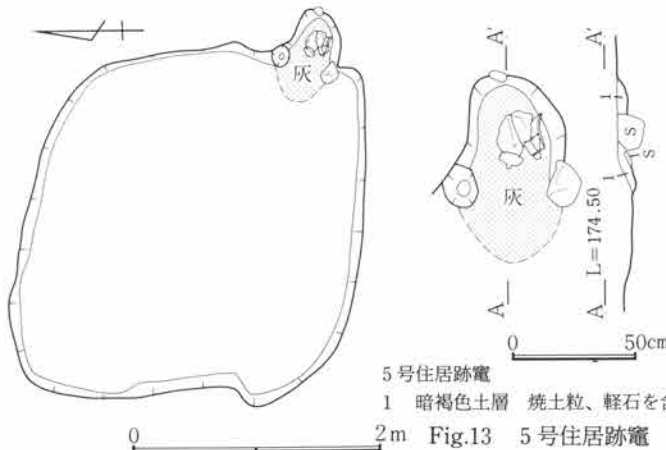


Fig.12 5号住居跡

F区中央に位置し42・43F25・26の範囲にある。3号溝の北にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺3m、短辺2.7mの歪んだ隅丸方形を呈する。主軸方位はN-96°-Eである。壁高は約5cm~10cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃烧部幅約50cm、同長約50cmを測る。

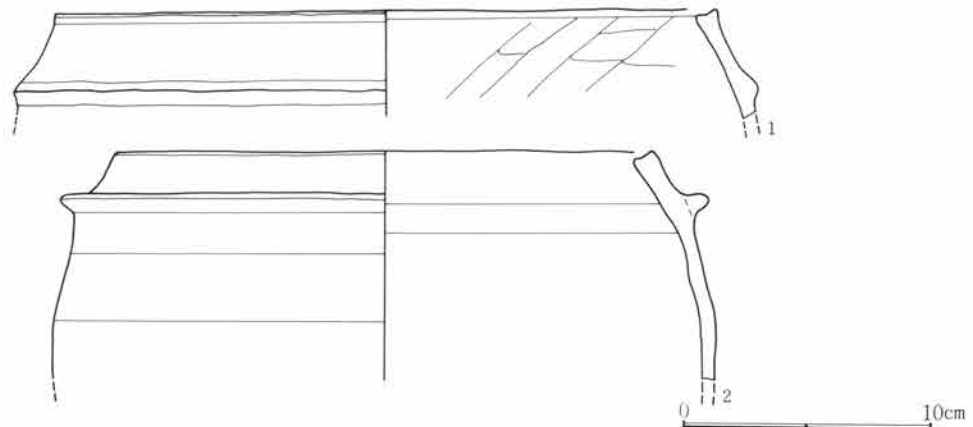


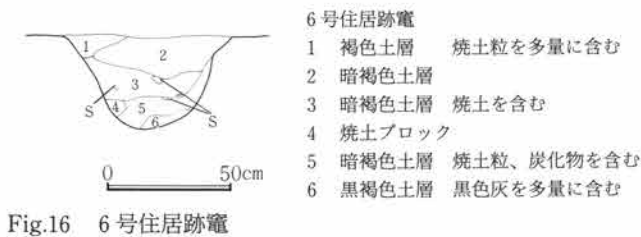
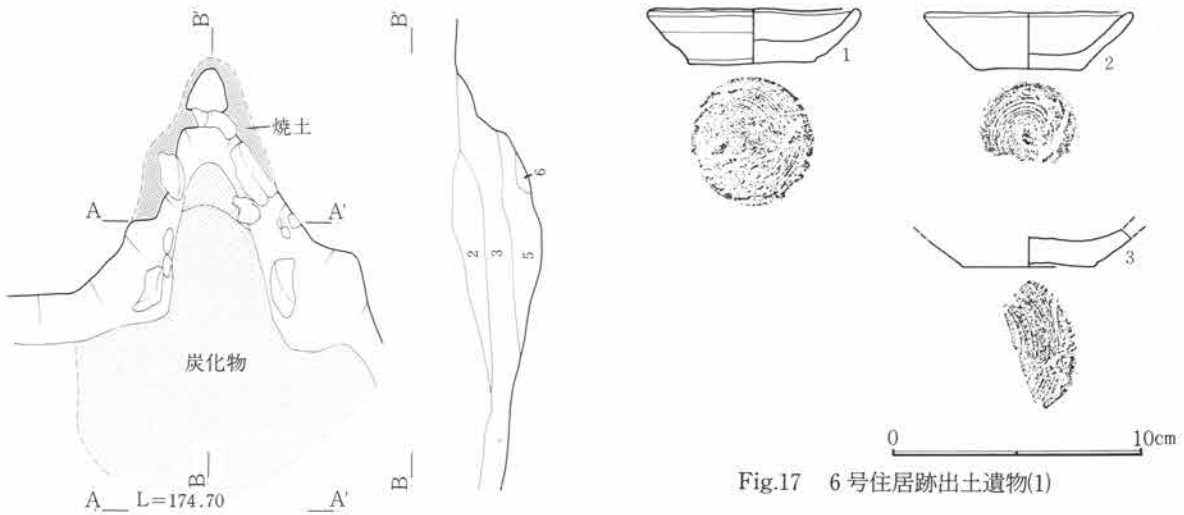
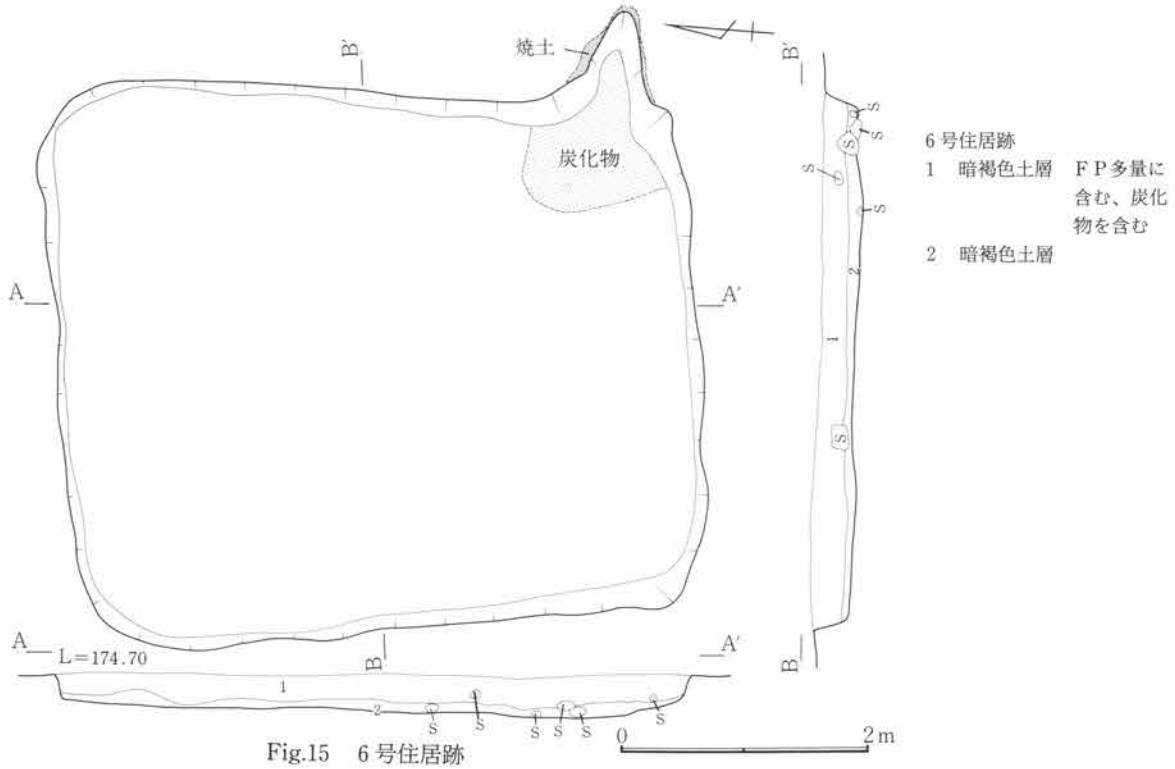
Fig.14 5号住居跡出土遺物

第5号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
14-1 69	羽釜	口-26.2	床面	鋳短い口縁部内傾する内面ナデ調整	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
14-2 69	羽釜	口-21.3	床面	鋳上を向く口縁部内傾する	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁部破片

6号住居跡 (Fig. 15・16・17・18、PL. 1・69)

F区中央部に位置し39~41 F 33~36の範囲にある。5号住居跡の北にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺5.2m、短辺4.5mを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-87°-Eである。壁高は約20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南コーナーに検出された。規模は燃焼部幅約50cm、同長約1mを測る。



第2章 検出された遺構と遺物

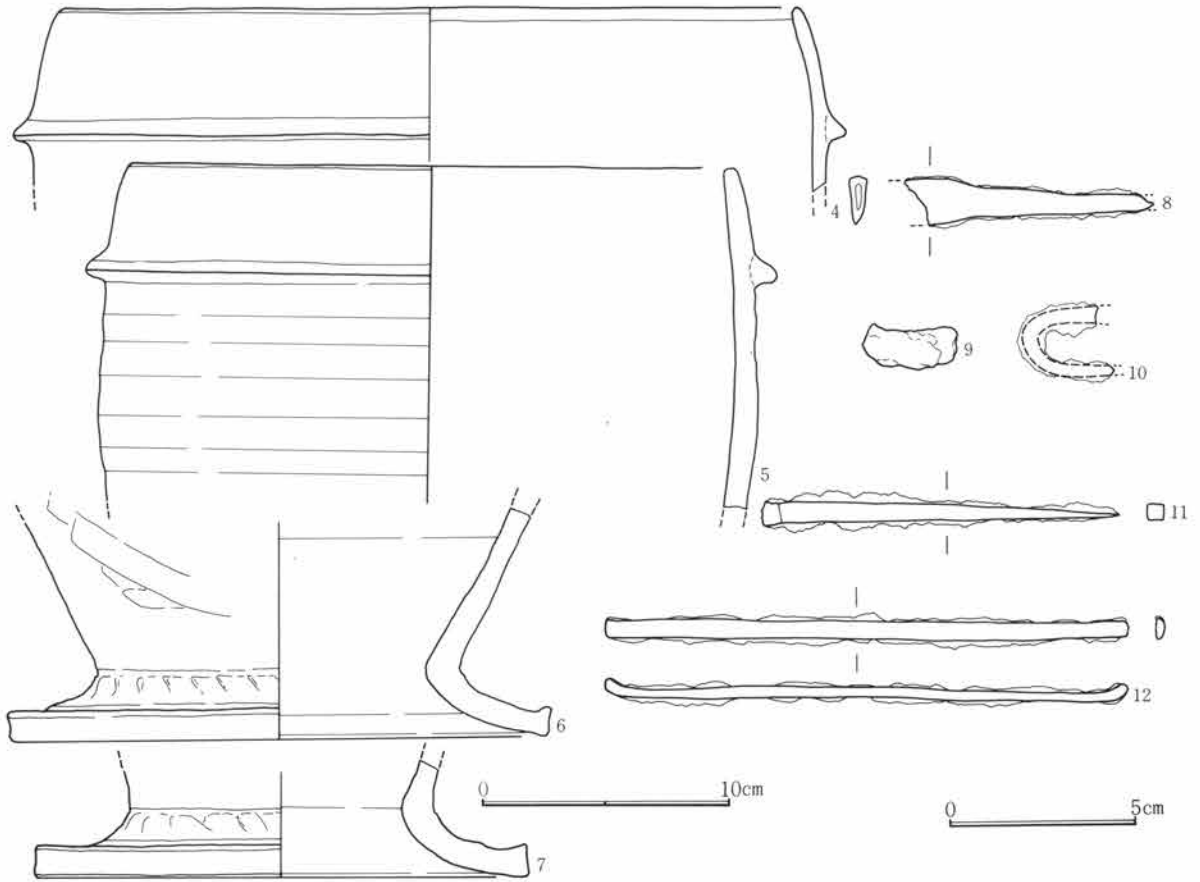


Fig.18 6号住居跡出土遺物(2)

第6号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
17-1 69	須恵器 皿	口-8.4 高-2.2 底-4.9	覆土	器壁厚く口縁部やや内湾する底部回転糸切	①良好②淡黄褐色③細砂粒含む④残存
17-2 69	須恵器 皿	口-8.2 高-2.3 底-4.0	覆土	底部口縁部に弱い稜をもつ底部回転糸切	①良好②灰褐色③細砂粒含む④残存
17-3	須恵器 坏	底-4.0	床面	底部回転ヘラ調整	①良好硬質②灰色③密④底部破片
18-4	羽釜	口-29.2	覆土	鋳薄く口縁部直立する	①良好②明橙色③2~3mmの砂粒含む④口縁部破片
18-5 69	羽釜	口-24.1	竈覆土	口縁部直状に立ち上がり鋳短く下を向く	①良好②明橙色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
18-6 69	甗	径-21.3	床面	胴下部ヘラケズリ屈曲部ヘラ押さえ痕	①良好②橙色③2~3mmの砂粒含む④胴下部残存
18-7 69	甗	径-19.6	床面	屈曲部ヘラ押さえ痕	①良好②橙色③2~3mmの砂粒含む④破片
Fig. 18-8	PL. 69	鉄製品 長-6.4cm 厚-4mm	刀子?		
Fig. 18-9	PL. 69	鉄製品 長-2.2cm	釘?		
Fig. 18-10	PL. 69	鉄製品 長-2.0cm	釘?		
Fig. 18-11	PL. 69	鉄製品 長-10.0cm 厚-4mm	角釘?		
Fig. 18-12	PL. 69	鉄製品 長-14.0cm 厚-3mm	釘?		

8号住居跡 (Fig. 19・20・21・22、PL. 1・2・69・70)

F区北部に位置し42~44 F 39~41の範囲にある。6号住居跡の北西にあり、他の遺構との重複はない。規

第1節 竪穴住居跡

模は長辺4m、短辺3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-93°-Eである。また南東部竈部に南北幅約2.5m、東西幅約50cmの張り出しをもち、張り出し部は約20cmの深さをもつ。壁高は約40cm~50cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、南東コーナーに貯蔵穴が検出された。規模は約80cm×70cm、深さ約15cmを測る。また貯蔵穴西に小穴が検出され、規模は約40cm×30cm、深さ約20cmを測る。竈は東壁南寄り張り出し部に検出された。規模は燃焼部幅約60cm、同長約70cmを測る。

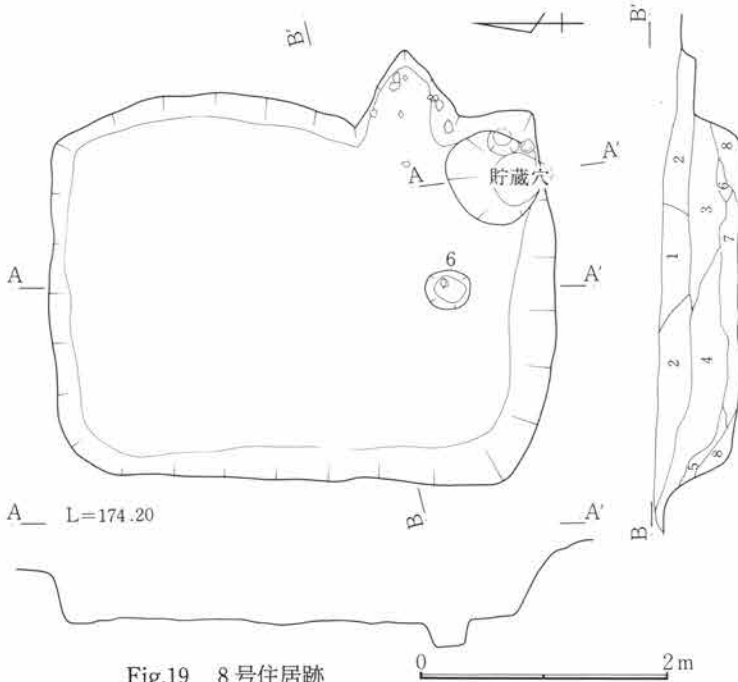
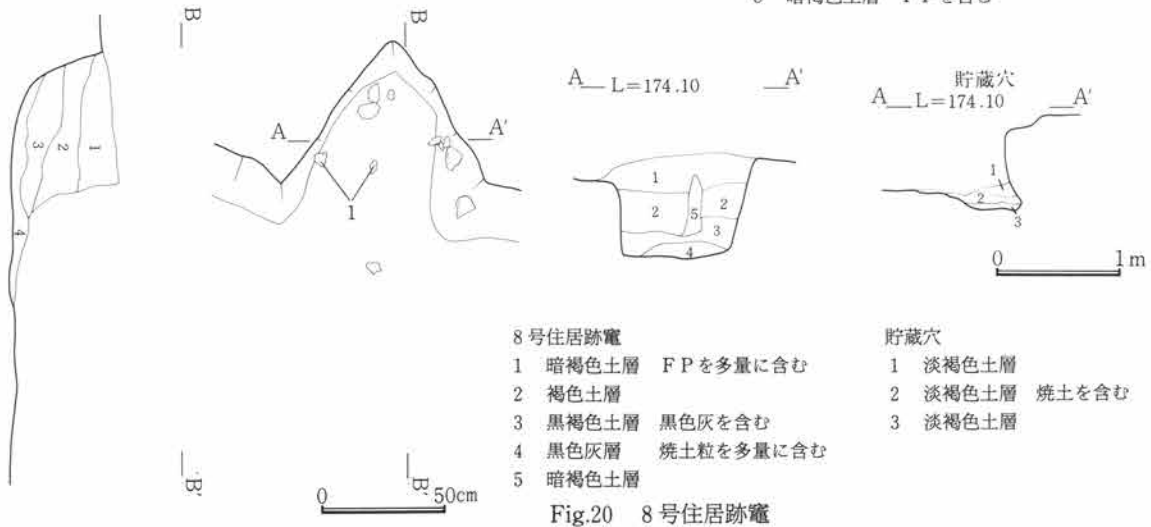


Fig.19 8号住居跡

8号住居跡

- 1 黒褐色土層 FPを少量含む
- 2 暗褐色土層 FPを多量に含む
- 3 暗褐色土層 FPを多量に含む、焼土粒多量に炭化物を少量含む
- 4 暗褐色土層 FPを多量に含む
- 5 暗褐色土層 FPを少量含みしまっている
- 6 暗褐色土層 FP、焼土粒を少量含む
- 7 暗褐色土層 FPを少量含む
- 8 暗褐色土層 FPを含む



8号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 FPを多量に含む
- 2 褐色土層
- 3 黒褐色土層 黒色灰を含む
- 4 黒色灰層 焼土粒を多量に含む
- 5 暗褐色土層

貯蔵穴

- 1 淡褐色土層
- 2 淡褐色土層 焼土を含む
- 3 淡褐色土層

Fig.20 8号住居跡竈

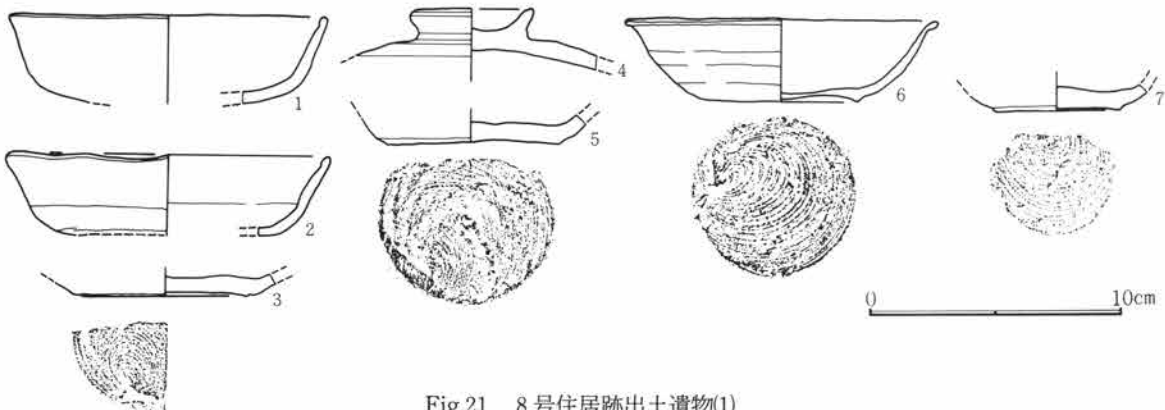


Fig.21 8号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

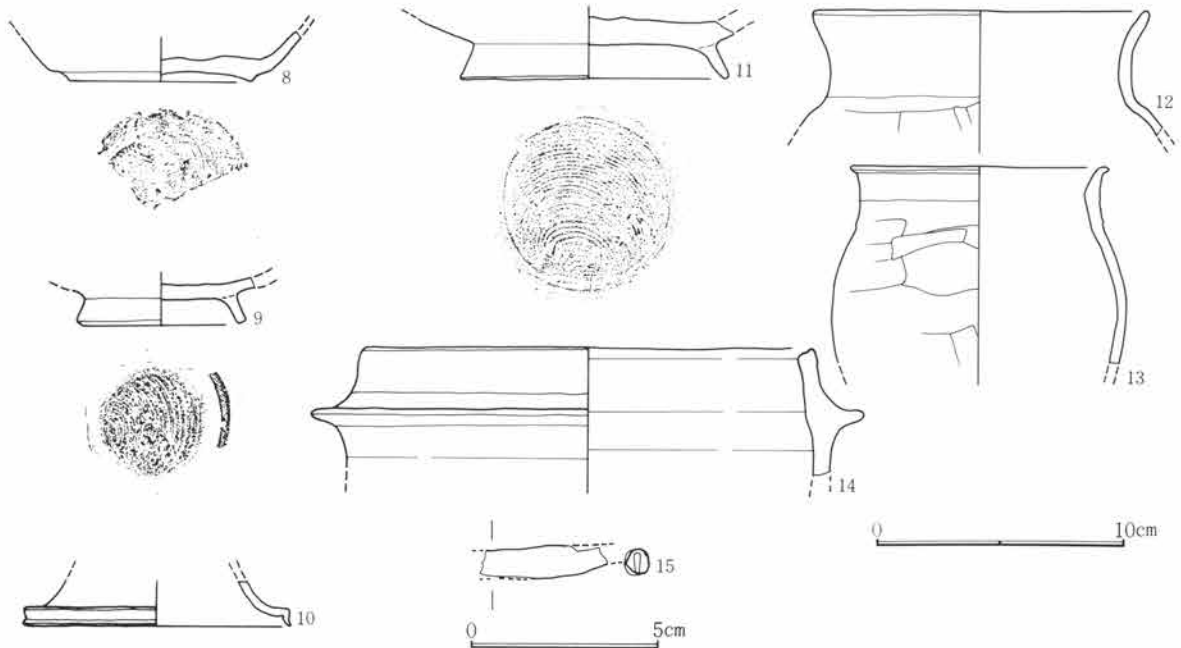


Fig.22 8号住居跡出土遺物(2)

第8号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
21-1 69	土師器 坏	口-12.6	No 1	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ口縁部内側に向かい厚くなる口縁ややゆがむ	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁部破片
21-2 69	土師器 坏	口-12.9	竈 覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ調整口縁部内側に沈線入る	①良好②明橙色③細砂粒含む④口縁部破片
21-3	須恵器 坏	底-6.9	覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③密④底部残存
21-4 69	須恵器 蓋	つまみ径-5.0	小穴 覆土	外面回転ヘラ調整つまみ部周辺ナデ	①良好②灰色③密④つまみ部周辺
21-5 69	須恵器 坏	底-6.9	覆土	底部回転糸切右廻り	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④底部破片
21-6 69	須恵器 坏	口-13.5 底-6.3	No 6	底部回転糸切右廻り口縁部外側に屈曲する	①良好②暗灰色③2~3mmの砂粒含む④ほぼ完形
21-7 69	須恵器 坏	底-4.9	覆土	底部回転糸切	①良好②淡橙色③細砂粒含む④底部残存
22-8 69	須恵器 坏	底-7.2	覆土	底部回転糸切底部中央に向かい盛り上がる	①良好②灰褐色③1~2mmの砂粒含む④底部残存
22-9 69	須恵器 埴	底-6.7	覆土	底部回転糸切付高台	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④底部残存
22-10 69	須恵器 高坏	径-10.7	覆土	脚端部薄くなり屈曲する	①良好②灰白色③密④破片
22-11 70	須恵器 壺	底-10.7	覆土	底部回転糸切付高台周辺部ナデ	①良好②灰褐色③密④底部残存
22-12 70	土師器 甕	口-13.3	覆土	口縁部緩やかに外湾する口縁部内外面ヨコナデ胴部ヘラケズリ	①良好②赤褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部残存
22-13 70	土師器 甕	口-10.3	覆土	口縁部外傾し端部屈曲する口縁部内外面ナデ胴部ヘラケズリ	①良好②ぶい橙色③細砂粒含む④口縁~胴部破片
22-14 70	羽釜	口-13.0	覆土	銜やや上を向き薄く張り出す	①良好②灰褐色③2~3mmの砂粒含む④口縁部破片
Fig. 22-15 PL. 70		鉄製品 長-2.4cm 厚-6mm 釘?			

9号住居跡 (Fig. 23・24・25・26, PL. 2・70)

F区北部に位置し44~46 F 35~37の範囲にある。6号住居跡の西にあり、16号住居跡と重複する。新旧関係は16号住居跡より新しい。規模は長辺4.6m、短辺4.3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-84°-Eである。壁高は約30cm~40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴は検出されていない。南西部に小穴が2基(1号・2号)検出され各々の規模は1号が約80cm×70cm、深さ約40cm。2号は約80cm×60cm、深さ約40cmを測る。竈は南東コーナーに検出された。規模は袖幅約55cm、同長約70cmを測る。両袖部から構築材の石が検出された。

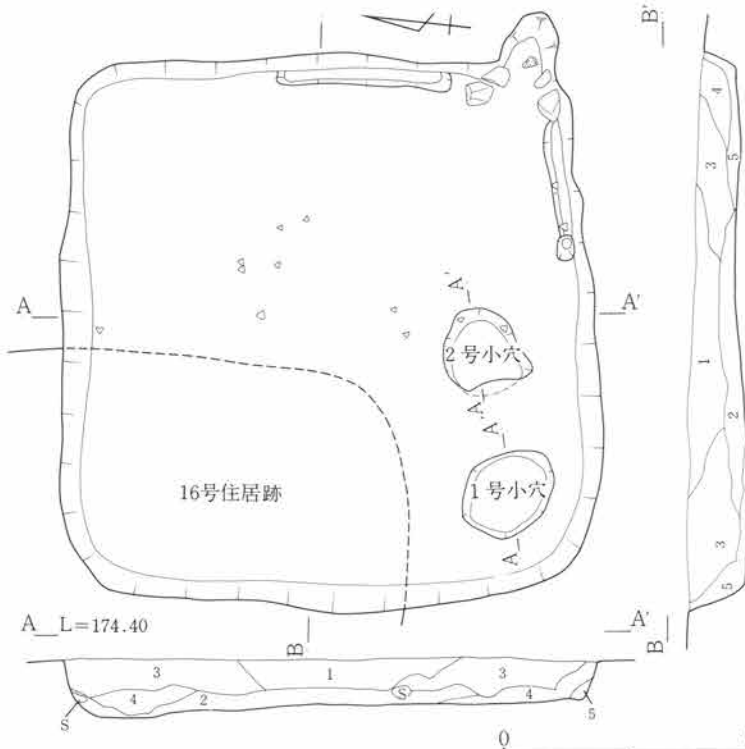


Fig.23 9号住居跡

9号住居跡

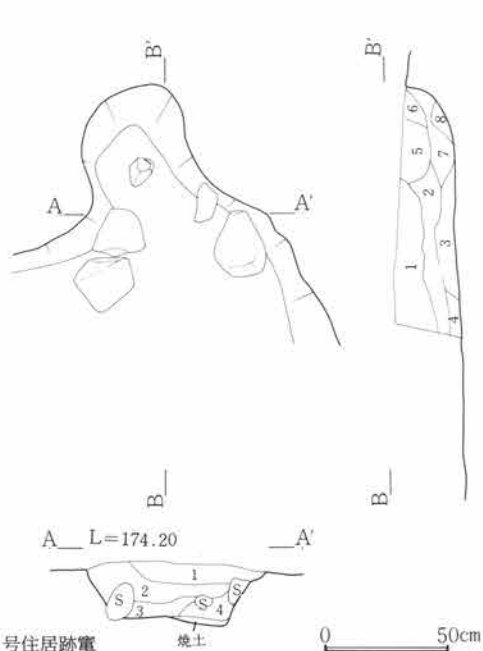
- 1 暗褐色土層 FPを多量に含む、炭化物、焼土粒少量含む
- 2 暗褐色土層 FPを含む
- 3 暗褐色土層 FPを少量含む、炭化物を含む
- 4 暗褐色土層 FPを含む
- 5 暗褐色土層 FPを含む粘質土

1号小穴

- 1 黒褐色土層
- 2 暗褐色土層 FP、炭化物を含む
- 3 淡褐色土層

2号小穴

- 1 暗褐色土層
- 2 淡褐色土層 FPを含む
- 3 暗褐色土層 黒色灰を含む
- 4 淡褐色土層 FPを含む
- 5 淡褐色土層 FPを含む
- 6 淡褐色土層 FAを含む
- 7 黒褐色土層 黒色灰を含む



9号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 軽石を多量に含む
- 2 淡褐色土層 黒色灰を含む
- 3 淡褐色土層
- 4 黒褐色土層
- 5 暗褐色土層 焼土粒を含む
- 6 暗褐色土層 焼土ブロック
- 7 暗褐色土層 焼土粒、黒色灰を含む
- 8 焼土層

Fig.24 9号住居跡竈

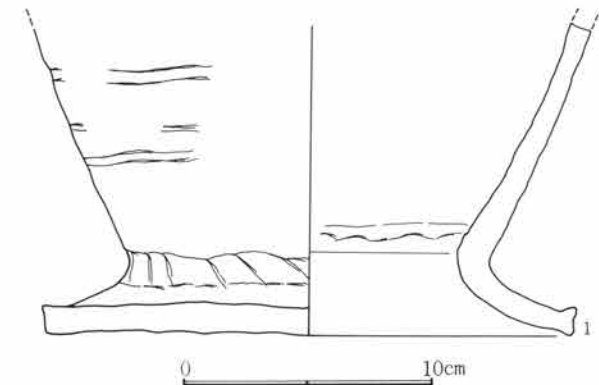
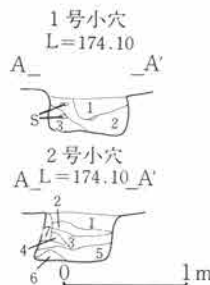


Fig.25 9号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

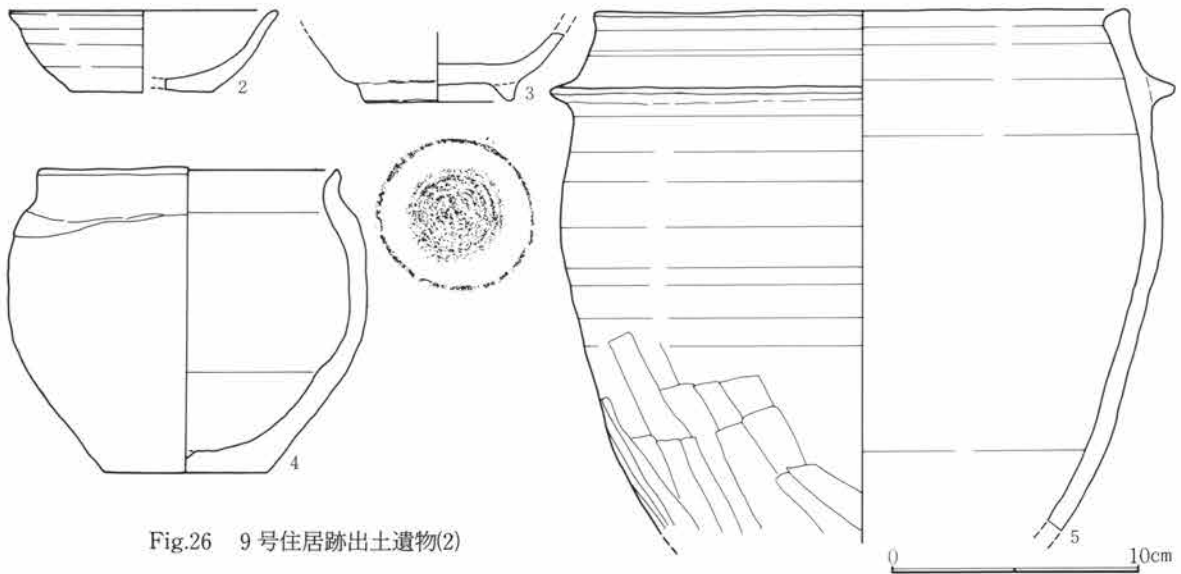


Fig.26 9号住居跡出土遺物(2)

第9号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
25-1 70	甔	底-20.6	覆土	外面底部周辺ヘラ痕	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④1/2残存
26-2 70	須恵器 坏	口-10.6 高-3.2 底-5.5	覆土	口縁部外湾する底部回転糸切右廻り	①良好②にぶい橙色③1~2mmの砂粒含む④1/2残存
26-3 70	須恵器 塊	底-5.9	覆土	高台部から腰部にかけて緩やかに外湾する底部回転糸切付高台粗雑	①やや軟質②にぶい橙色③2~3mm砂粒含む④底部残存
26-4 70	土師器 甕	口-11.8 高-12.0 底-6.5	床面	口縁部直上に立ち上がる口縁部ヨコナデ胴部ナデ	①良好②灰褐色③1~2mmの砂粒含む④1/2残存
26-5 70	羽釜	口-21.6	覆土	口縁部内湾する胴下部ヘラケズリ	①良好②にぶい橙色③1~2mmの砂粒含む④1/2残存

10号住居跡 (Fig. 27・28、PL. 2・70・71)

F区北部に位置し48・49F32・33の範囲にある。9号住居跡の南西にあり、他の遺構との重複はない。東部は攪乱により削平されているため長辺、短辺は不明である。西壁は約4.2mを測る。平面形態は長方形を呈するものと考えられる。壁高は約20cmを測る。床面は凹凸が多く不明瞭である。壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は検出されていない。

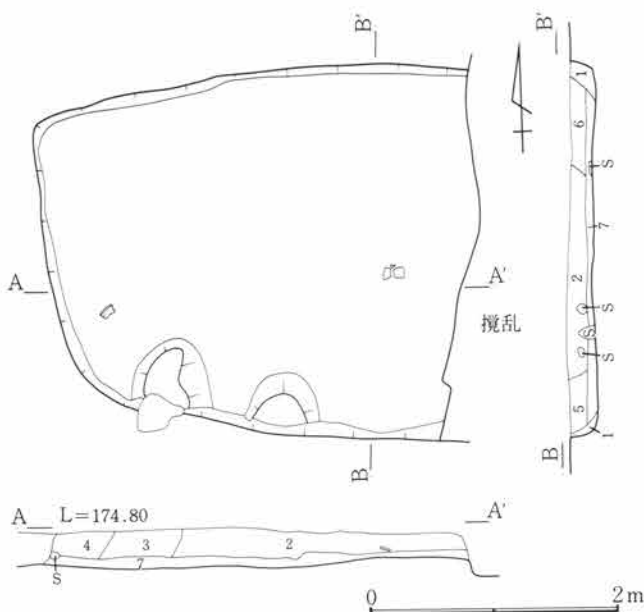


Fig.27 10号住居跡

10号住居跡

- 1 暗褐色土層
- 2 暗褐色土層 炭化物を含む、FPを含む
- 3 暗褐色土層 炭化物を含む
- 4 暗褐色土層 炭化物を少量含む
- 5 暗褐色土層
- 6 灰褐色土層 FP、炭化物を含む
- 7 灰褐色土層

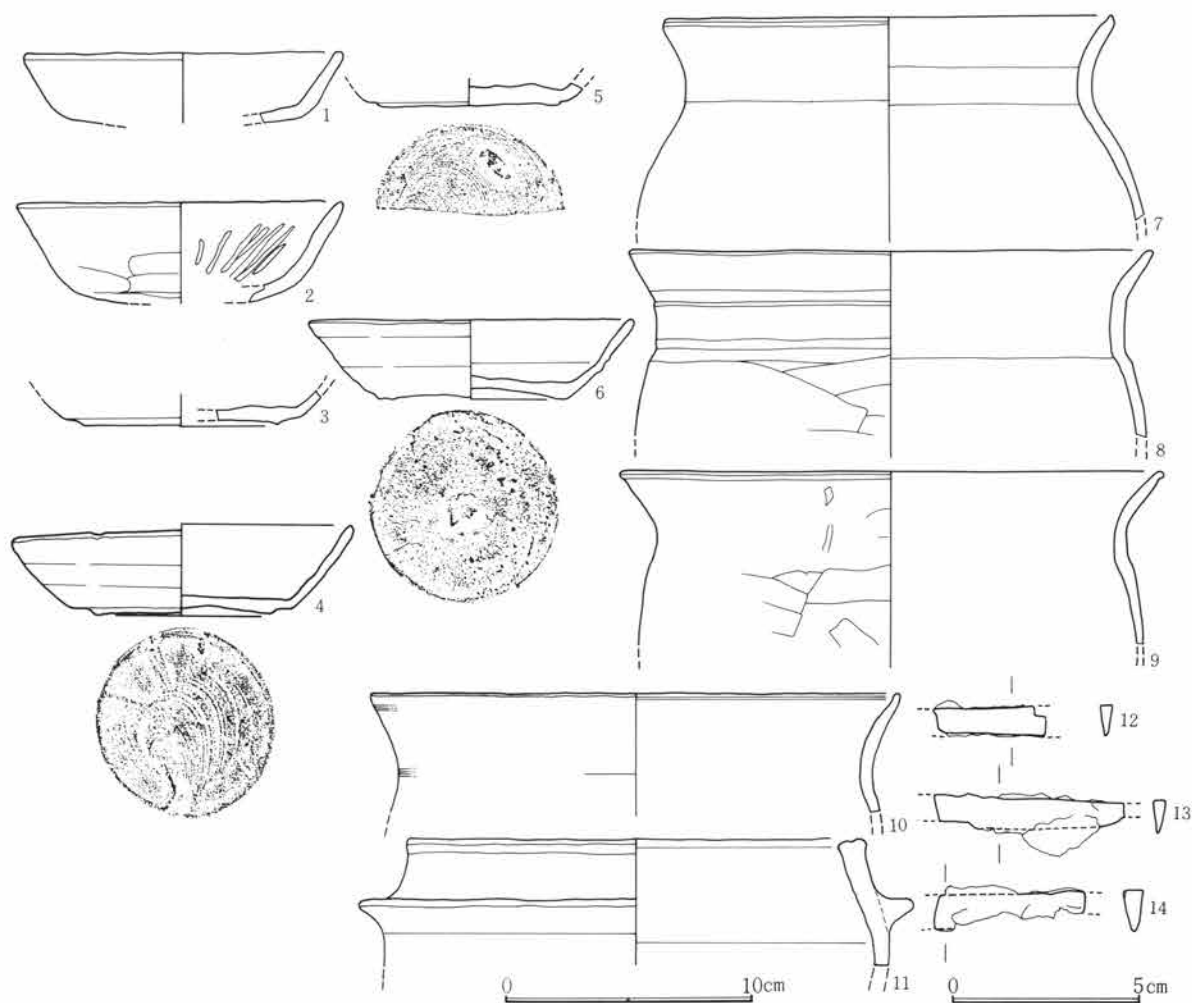


Fig.28 10号住居跡出土遺物

第10号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
28-1 71	土師器 坏	口-12.7	床面	腰部に弱い稜をもつ口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ	①良好②赤褐色③細砂粒含む④破片
28-2 71	土師器 坏	口-13.0	覆土	腰部は緩いカーブをもつ口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②橙色③細砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存
28-3 71	須恵器 坏	底-7.7	床面	底部腰部の境に稜をもつ底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む④底部破片
28-4 71	須恵器 坏	口-13.5 高-3.4 底-7.0	小穴 覆土	底部腰部の境に稜をもつ底部回転糸切右廻り	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存
28-5 71	須恵器 坏	底-7.1	覆土	底部腰部の境に稜をもつ底部回転糸切	①良好②灰白色③密④底部 $\frac{1}{2}$ 残存
28-6 71	須恵器 坏	口-13.0 底-7.4	小穴 覆土	口縁部直線状に外傾し底部中央部は盛り上がる底部ヘラ調整	①良好②灰白色③密④ $\frac{1}{4}$ 残存
28-7 71	土師器 甕	口-17.8	覆土	口縁端部に沈線が巡る口縁部ヨコナデ胴上部ヘラケズリ	①良好②橙色③細砂粒含む④口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存
28-8 71	土師器 甕	口-20.8	床面	コの字状口縁を呈する口縁部ヨコナデ胴上部ヘラケズリ	①良好②赤褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存
28-9 71	土師器 甕	口-21.6	小穴 覆土	口縁部外傾し端部に向かい外湾する口縁部内外面ナデ胴上部ヘラケズリ	①良好②赤褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存
28-10 71	土師器 甕	口-21.0	覆土	口縁部外湾し端部内側に屈曲する口縁部内外面ヨコナデ	①良好②赤褐色③細砂粒含む④口縁部破片

第2章 検出された遺構と遺物

Fig. No PL. No	器 種 器 形	計 測 値 (cm)	出土位置	成 形 及 び 調 整 の 特 徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
28-11 71	羽 釜	口-18.2	覆 土	鍔やや上を向き口縁部内傾する	①良好②灰白色③5~6mm の砂粒含む④口縁部破片
Fig. 28-12 PL. 70		鉄製品 長-3.0cm 厚-3mm	釘?		
Fig. 28-13 PL. 70		鉄製品 長-5.0cm 厚-3mm	釘?		
Fig. 28-14 PL. 70		鉄製品 長-4.0cm 厚-3mm	釘?		

11号住居跡 (Fig. 29・30・32、PL. 2・71)

F区中央に位置し48・49F38・39の範囲にある。10号住居跡の北にあり、12号住居跡と重複する。新旧関係は11号住居跡が新しい。規模は長辺3.2m、短辺2.9mを測り、平面形態はほぼ隅丸方形を呈する。主軸方位はN-77°-Eである。壁高は約20cm~30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は南東コーナーに検出された。規模は燃焼部幅約50cm、同長約80cmを測る。竈の袖部に構築材としてFPが検出された。

12号住居跡 (Fig. 29・31・33・34、PL. 2・71・72)

F区中央部に位置し48・49F36・37の範囲にある。10号住居跡の北にあり、11号住居跡と重複する。新旧関係は11号住居跡が新しい。規模は長辺3.5m、短辺3.1mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-95°-Eである。壁高は約20cm~30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁中央部に検出された。燃焼部幅約60cm、同長約30cmを測る。

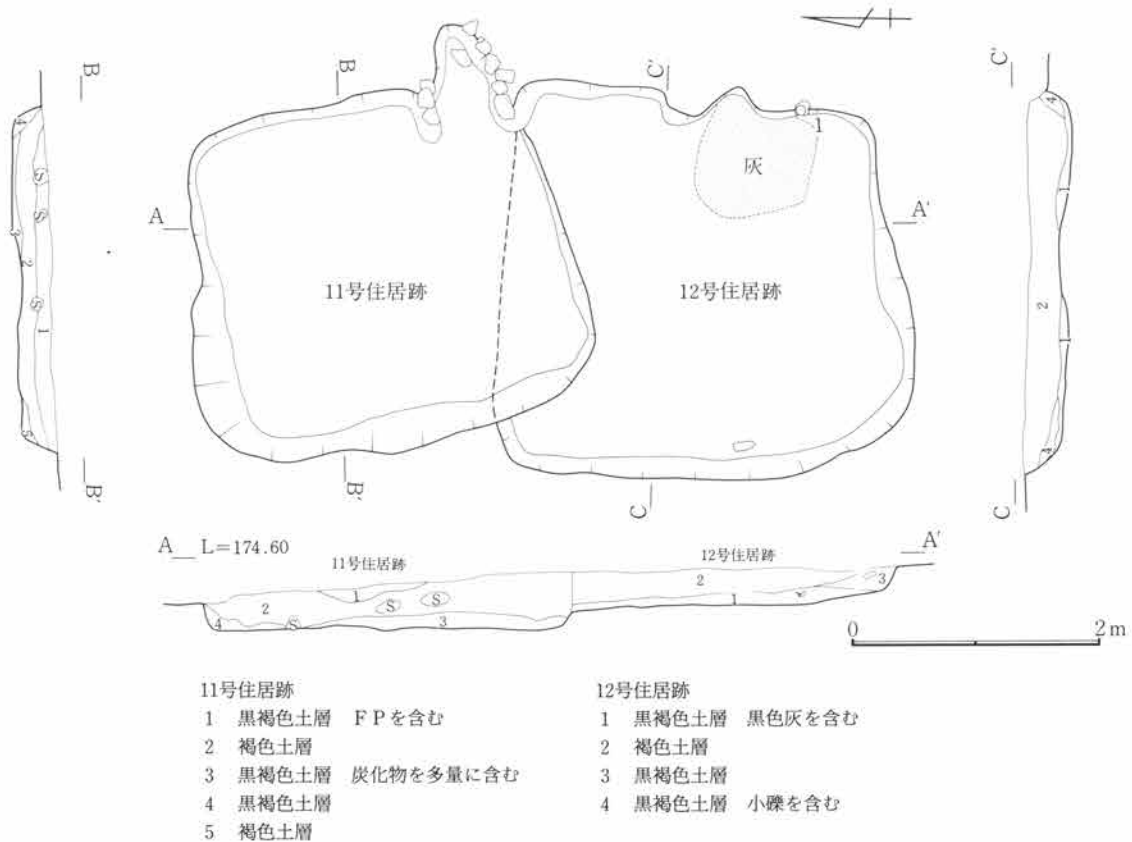
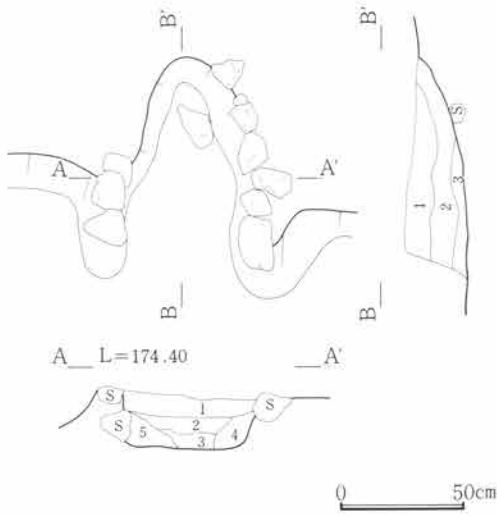


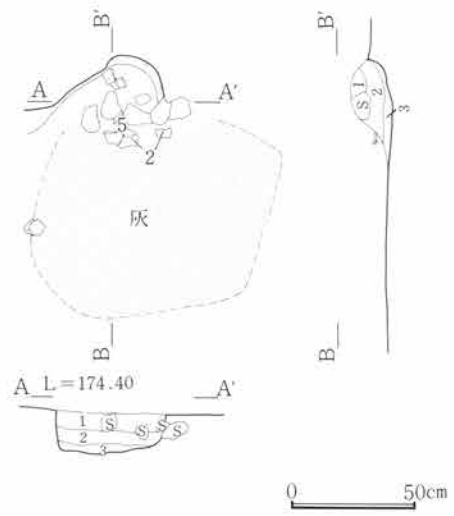
Fig.29 11・12号住居跡



11号住居跡竈

- 1 灰褐色土層 FPを含む
- 2 暗褐色土層 焼土粒を含む
- 3 暗褐色土層 焼土粒、黒色灰を含む
- 4 暗褐色土層
- 5 淡褐色土層 黒色灰を含む

Fig.30 11号住居跡竈



12号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 FPを含む
- 2 暗褐色土層 黒色灰を含む
- 3 黒色灰層

Fig.31 12号住居跡竈

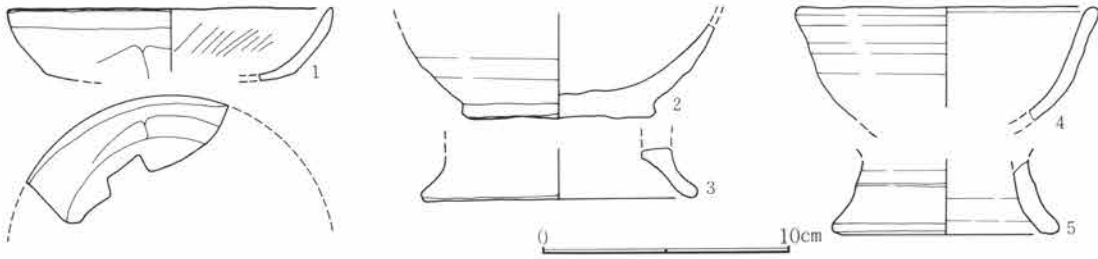


Fig.32 11号住居跡出土遺物

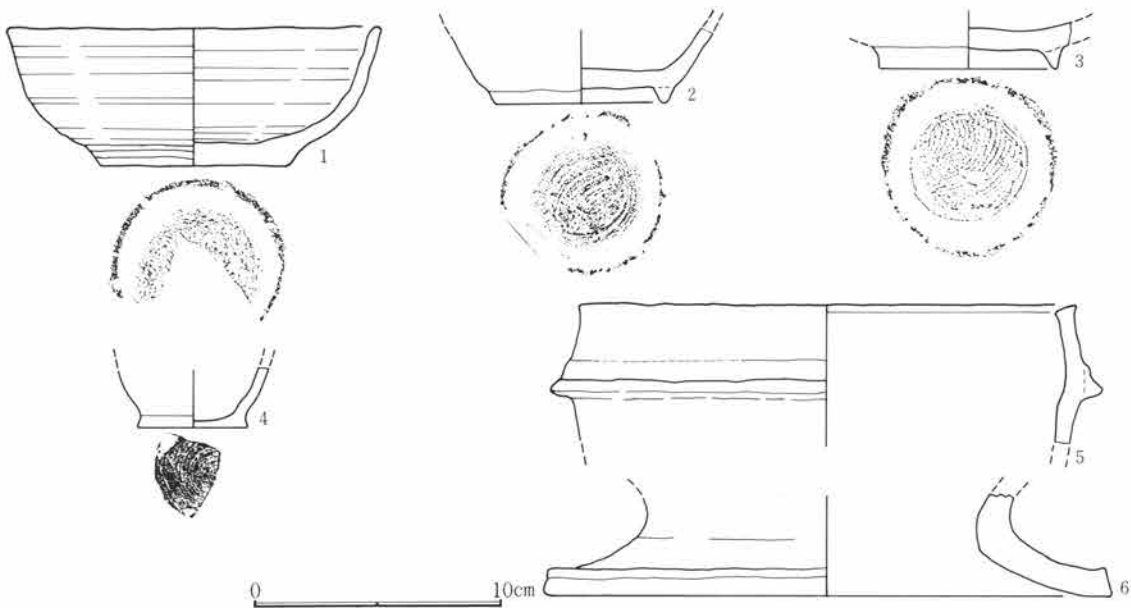


Fig.33 12号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

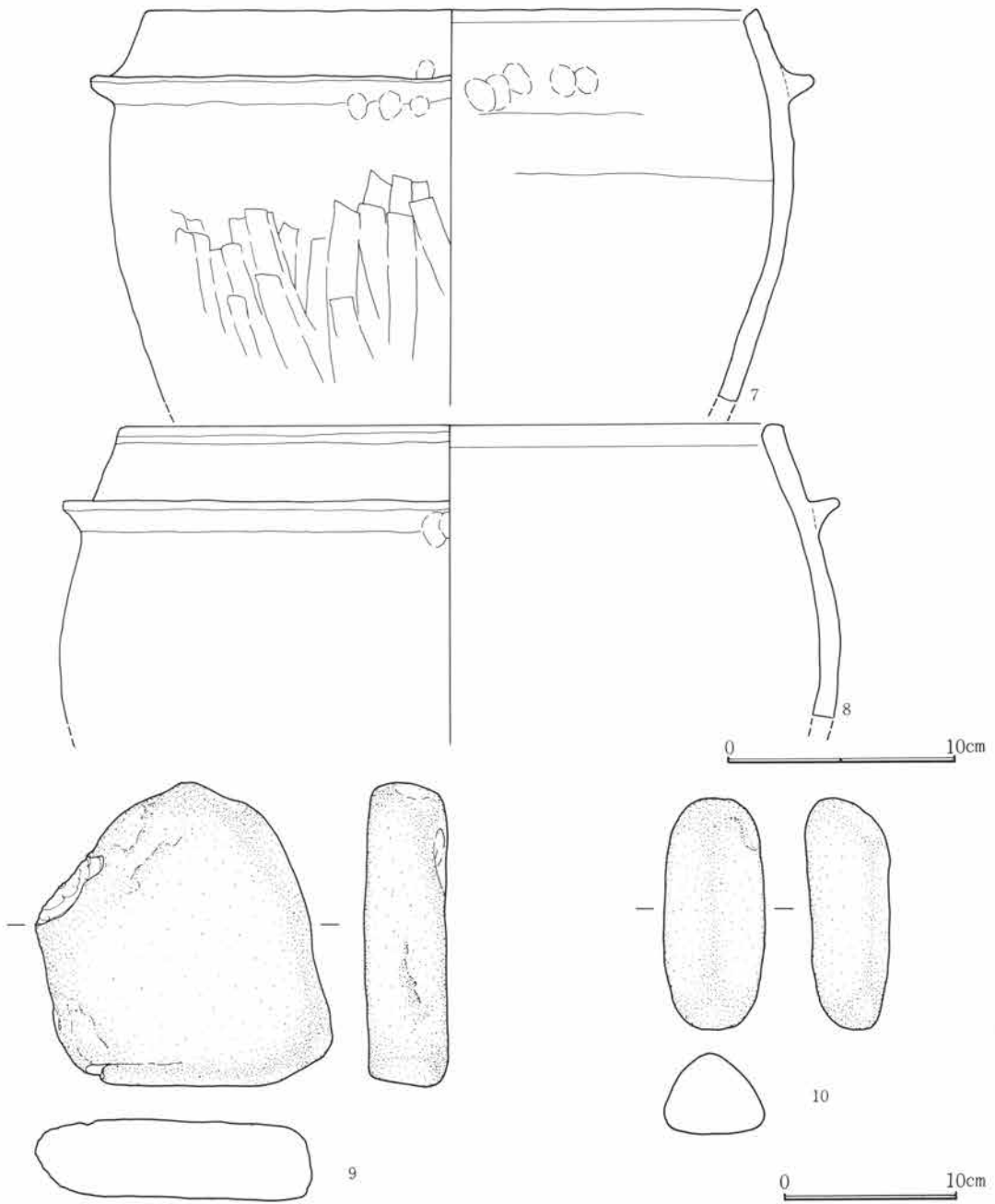


Fig.34 12号住居跡出土遺物(2)

第11号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
32-1 71	土師器 坏	口-12.9	覆土	口縁部弱く内湾する口縁部ヨコナデ口縁下部体部 ヘラケズリ内面暗文が施される	①良好②橙色③細砂粒含む ④口縁部残存
32-2 71	須恵器 坏	底-7.7	床面	底縁部腰部の境に稜をもつ	①良好②褐灰色③2~3mm の砂粒含む④底部残存
32-3 71	須恵器 埴	底-11.0	覆土	欠落面は平坦をなし高台は直線状に開く	①良好②橙色③1~2mmの 砂粒含む④高台部破片
32-4 71	須恵器 埴	口-12.0	覆土	口縁部弱く内湾して立ち上がる	①良好②にぶい橙色③細砂 粒含む④口縁部破片
32-5 71	須恵器 埴	底-9.0	床面	端部に向かい開く	①良好②灰白色③密④底部 残存

第12号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
33-1 71	須恵器 埴	口-14.8 高-5.4 底-7.4	No.1	腰部から内湾しながら立ち上がる底部回転糸切右廻り	①軟質②赤褐色③2~3mmの砂粒含む④%残存
33-2 71	須恵器 埴	底-6.8	No.2	底部回転糸切付高台高断面三角形を呈する	①良好②灰白色③3~4mmの砂粒含む④底部%残存
33-3 71	須恵器 埴	底-7.0	覆土	底部回転糸切高台部先端に向かい薄くなる	①やや軟質②灰白色③2~3mmの砂粒含む④底部残存
33-4 71	須恵器 壺	底-4.4	小穴 覆土	底部から腰部にかけて稜をもつ底部回転ヘラ調整	①良好②灰白色③密④底部破片
33-5 71	羽釜	口-19.6	No.5	口縁部は直立ぎみ鋸短くやや下を向く	①良好②赤褐色③3~4mmの砂粒含む④%残存
33-6 71	甔	底-22.4	覆土	端部は平坦をなす	①良好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④底部%残存
34-7 71	羽釜	口-26.0	覆土	鋸上を向き口縁部やや内湾する胴部たて方向のヘラケズリ	①良好②褐色③3~4mmの砂粒含む④口~胴部%残存
34-8 72	羽釜	口-28.4	覆土	口縁部丸みもち内傾する鋸上を向く	①良好②にぶい橙色③1~2mmの砂粒含む④%残存
Fig. 34-9 PL. 72		石 長-17.4cm 幅-17.2cm 厚-4.7cm		粗粒安山岩	
Fig. 34-10 PL. 72		石 長-13.3cm 幅-5.85cm 厚-4.8cm		粗粒安山岩	

13号住居跡 (Fig. 35・36・37, PL. 2・3・72)

F区北部に位置し45・46 F 42~44の範囲にある。8号住居跡の北西にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺4.2m、短辺3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-94°-Eである。壁高は約10cm~20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、床土にはFPが混入して検出され、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。燃焼部幅約60cm、同長約60cmを測る。燃焼部南北壁に接し構築材と思われる石が検出された。

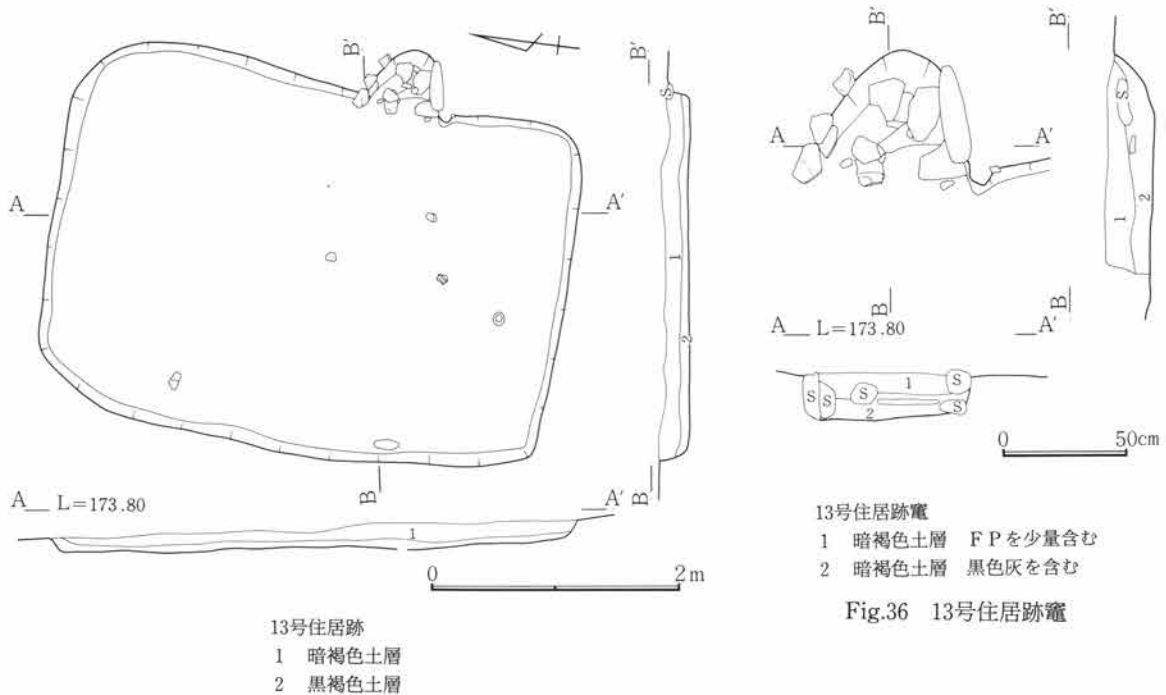


Fig.35 13号住居跡

Fig.36 13号住居跡竈

第2章 検出された遺構と遺物

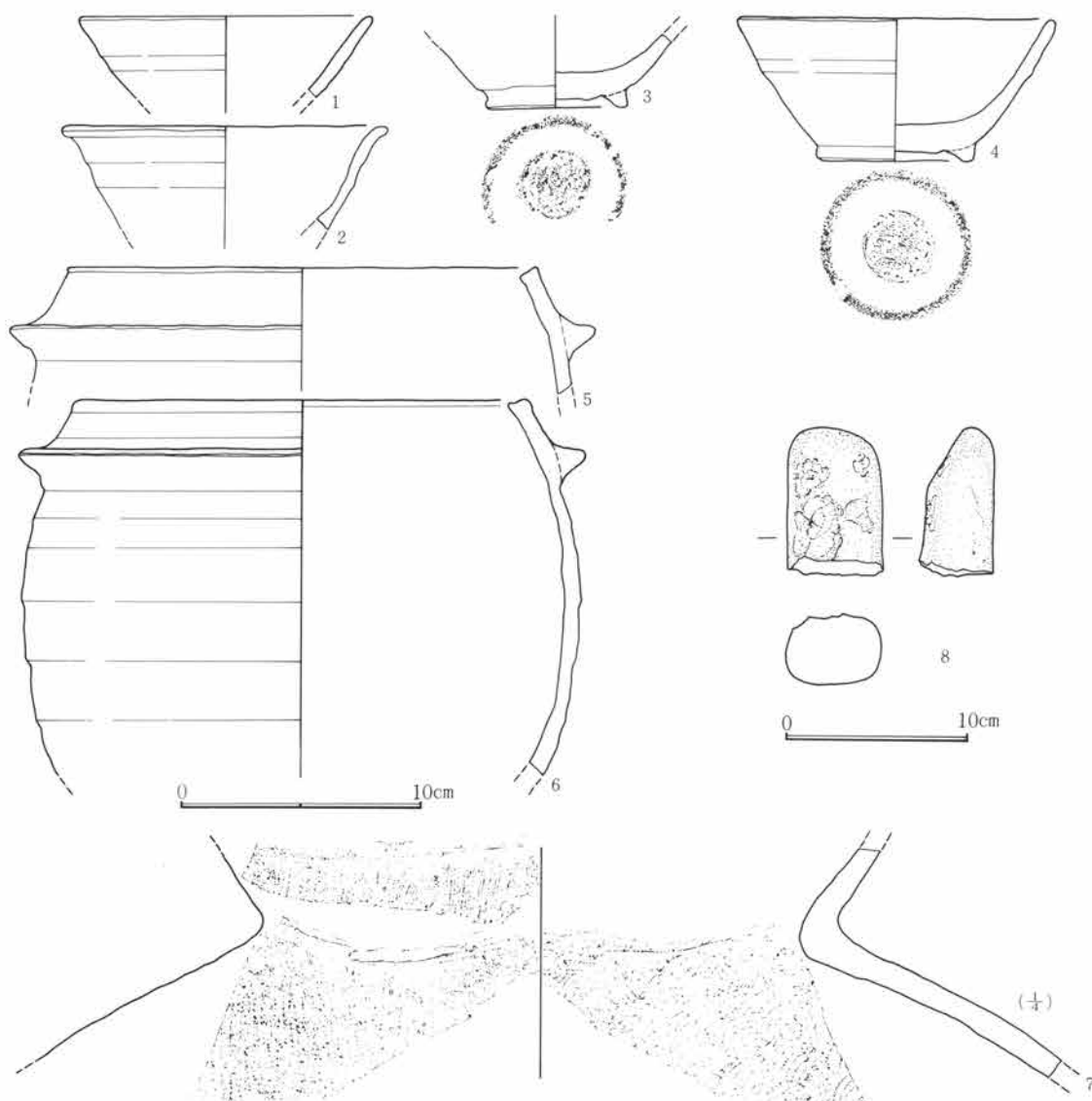


Fig.37 13号住居跡出土遺物

第13号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
37-1 72	須恵器 坏	口-11.8	覆土	口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③細砂粒含む④口縁部破片
37-2 72	須恵器 坏	口-13.0	床面	口縁部やや外傾する	①良好②にぶい橙色③1~2mmの砂粒含む④残存
37-3 72	須恵器 埴	底-5.8	床面	底部回転糸切付高台	①良好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④底部残存
37-4 72	須恵器 埴	口-13.0 高-5.8 底-6.5	床面	口縁部弱く内湾して立ち上がる底部回転糸切付高台	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④残存
37-5 72	羽釜	口-19.0	覆土	口縁部内傾する罎上を向く	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④残存
37-6 72	羽釜	口-18.4	竈覆土	口縁部内傾する罎上を向き貼りつけ丁寧	①良好②にぶい橙色③1~2mmの砂粒含む④残存
37-7 72	須恵器 甕	頸-32.4	覆土	頸部から口縁部に向かい外傾する外面叩目内面あて目痕残る	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④肩部残存
Fig. 37-8 PL. 72		石 長-8.0cm 幅-5.2cm 厚-4.0cm 粗粒安山岩			

14号住居跡 (Fig. 38・39、PL. 3・72・73)

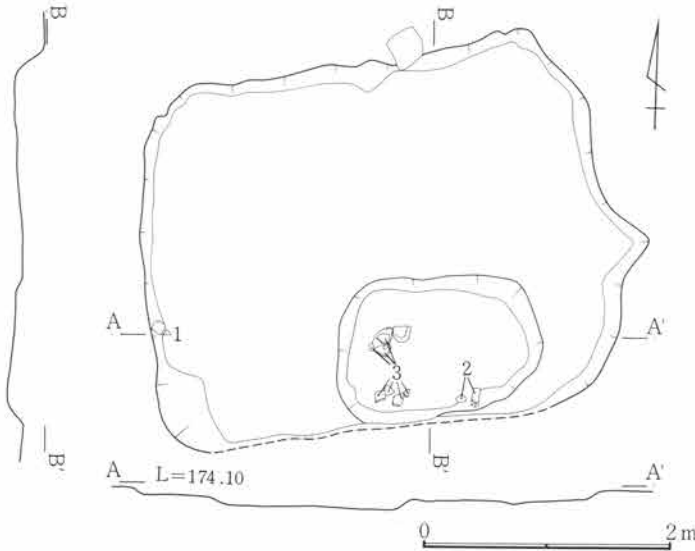


Fig.38 14号住居跡

F区北部に位置し43・44 F44・45の範囲にある。13号住居跡の北西にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺3.9m、短辺2.9mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁の遺存状態は悪く高さは約5cm～6cmを測る。床面は堅く締まっており、南部に約5cm～10cmの落ち込みが確認されている。規模は約1.7m×1.2mである。壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は検出されていない。

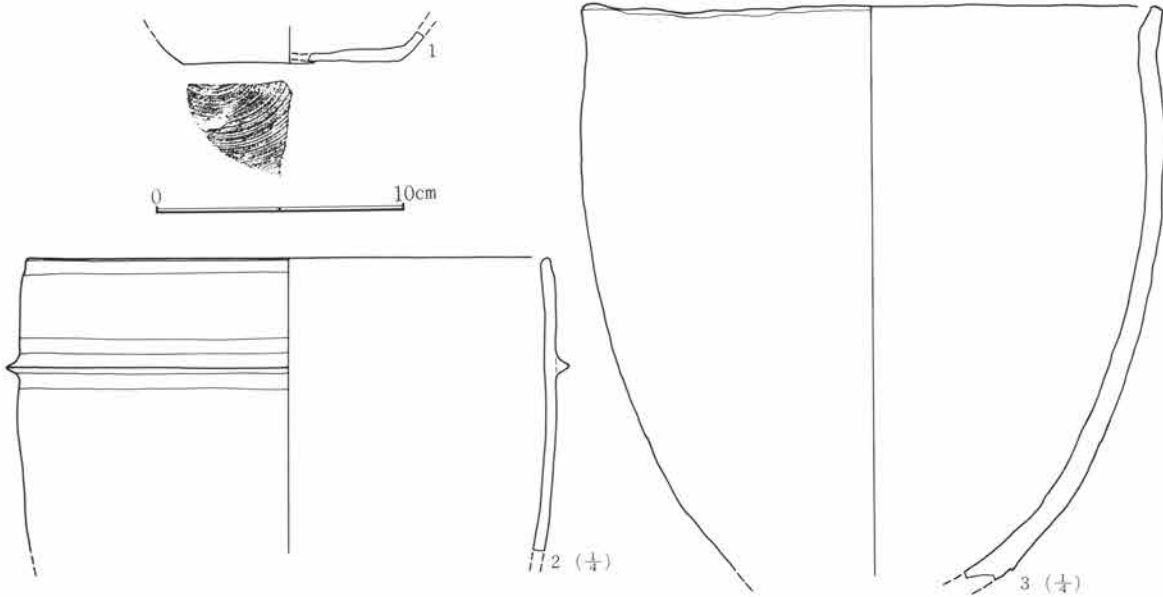


Fig.39 14号住居跡出土遺物

第14号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
39-1 72	須恵器 坏	底-8.4	No 1	底部回転糸切	①良好②灰白色③密④底部破片
39-2 72	羽 釜	口-27.7	No 2	鋸短く口縁部直立する	①良好②赤褐色③1～2mmの砂粒含む④口縁部残存
39-3 73	土 釜	口-31.7	No 3	口縁端部外側へ屈曲する外面へラケズリ	①良好②赤褐色③3～4mmの砂粒含む④口縁～胴部残存

15号住居跡 (Fig. 40・41・42・43、PL. 3・73)

F区北部に位置し44～46 F45～47の範囲にある。14号住居跡の北西にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺4.2m、短辺3.6mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-106°-Eである。壁高は約

第2章 検出された遺構と遺物

30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は袖幅約60cm、燃焼部長約60cmを測る。袖部は床面上に張り出して構築されている。

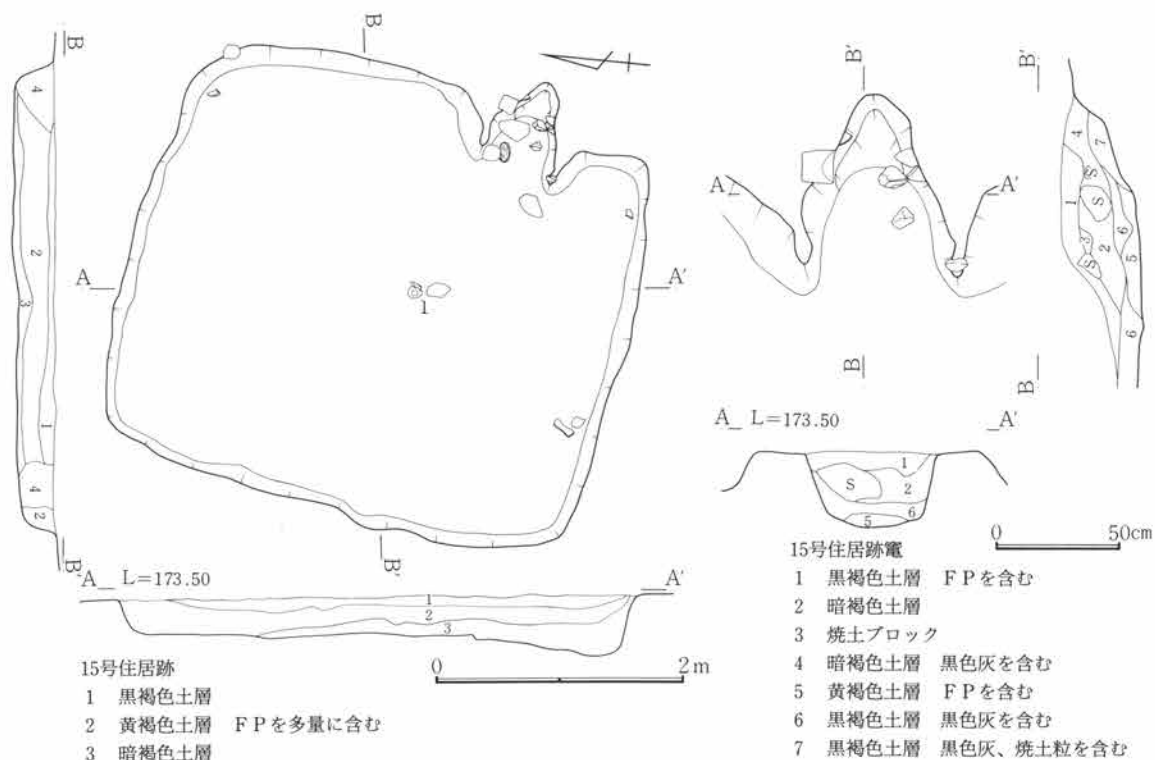
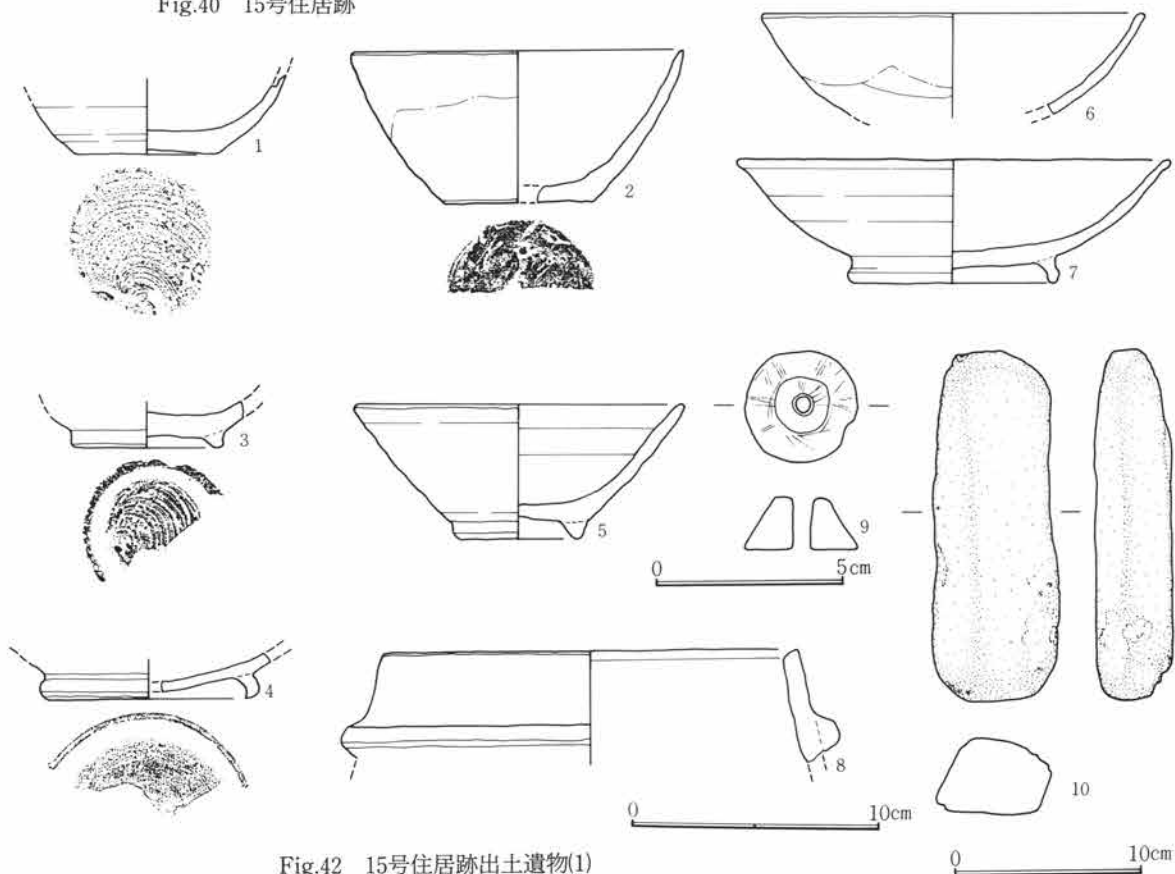
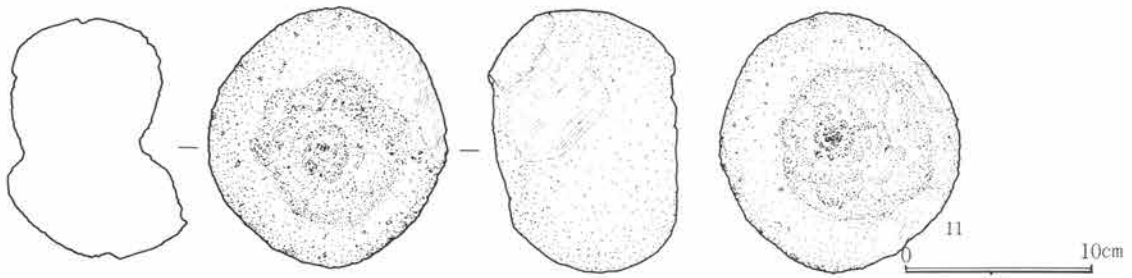


Fig.40 15号住居跡

Fig.41 15号住居跡竈





第15号住居跡出土遺物観察表

Fig.43 15号住居跡出土遺物(2)

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
42-1 73	須恵器 坏	底-5.8	床面 No 1	底部回転糸切右廻り底部やや盛り上がる	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④底部残存
42-2 73	須恵器 坏	口-13.2 底-6.0	竈覆土	口縁部内湾ぎみに立ち上がる底部へラ調整	①良好②灰白色③密④残存
42-3 73	須恵器 埴	底-6.0	覆土	底部回転糸切付高台高台部外側へ開く	①良好②灰褐色③1~2mmの砂粒含む④底部残存
42-4 73	灰釉陶器 埴	底-8.6	覆土	底部回転へラ調整付高台高台内側へ内湾する	①良好②灰白色③密④底部残存
42-5 73	須恵器 埴	口-13.1 高-5.3 底-5.1	覆土	付高台口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④残存
42-6 73	灰釉陶器 埴	口-15.2	覆土	口縁部外側へ弱く屈曲する内外面上部釉	①良好②灰白色(釉色緑色)③密④残存
42-7 73	灰釉陶器 埴	口-16.2 高-4.9 底-8.4	覆土	口縁部外側へ屈曲する底部回転糸切付高台口縁上部内外面施釉	①良好②灰白色③密④残存
42-8 73	羽釜	口-16.6	覆土	口縁部内傾する鋳横を向き断面台形状を呈する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
Fig. 42-9 PL. 73	紡錘車	底-4.5cm×2.3cm 高-2.1cm			
Fig. 42-10 PL. 73	石	長-18.4cm 幅-6.8cm 厚-4.1cm			
Fig. 43-11 PL. 73	石	長-13.7cm 幅-12.7cm 厚-10.0cm			

16号住居跡 (Fig. 44・45、PL. 3・74・75)

F区北部に位置し46・47F36・37の範囲にある。6号住居跡の北西にあり、9号住居跡と重複している。

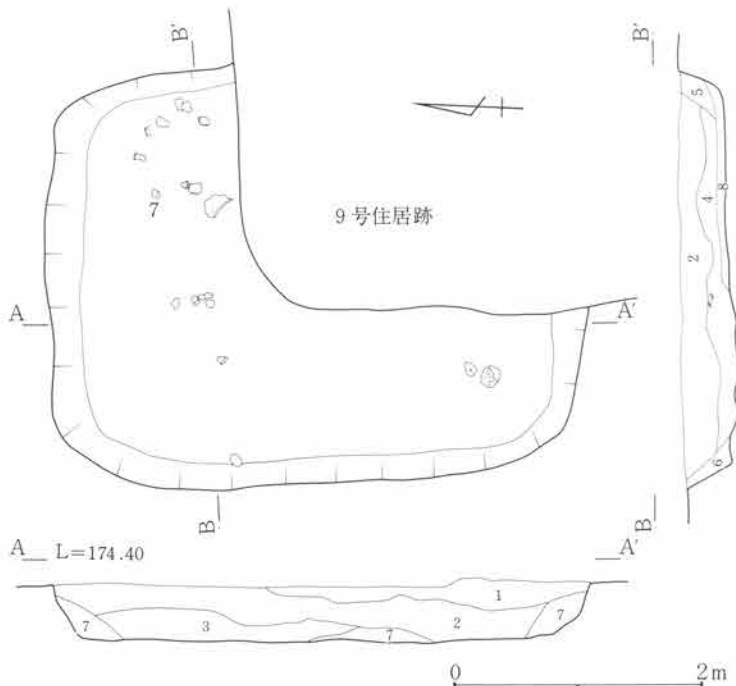


Fig.44 16号住居跡

新旧関係は9号住居跡が新しい。規模は長辺4.4m、短辺3.2mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-86°-Eである。壁高は約40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁中央部9号住居跡床面下に検出された。規模は燃焼部幅約70cm、同長約70cmである。

16号住居跡

- 1 暗褐色土層
- 2 暗褐色土層 FPを含む
- 3 黒褐色土層
- 4 暗褐色土層 炭化物粒を含む
- 5 暗褐色土層 褐色土ブロックを含む
- 6 暗褐色土層
- 7 黄褐色土層 黄色土(泥流)ブロックを含む
- 8 黒褐色土層 黒色灰を含む

第2章 検出された遺構と遺物

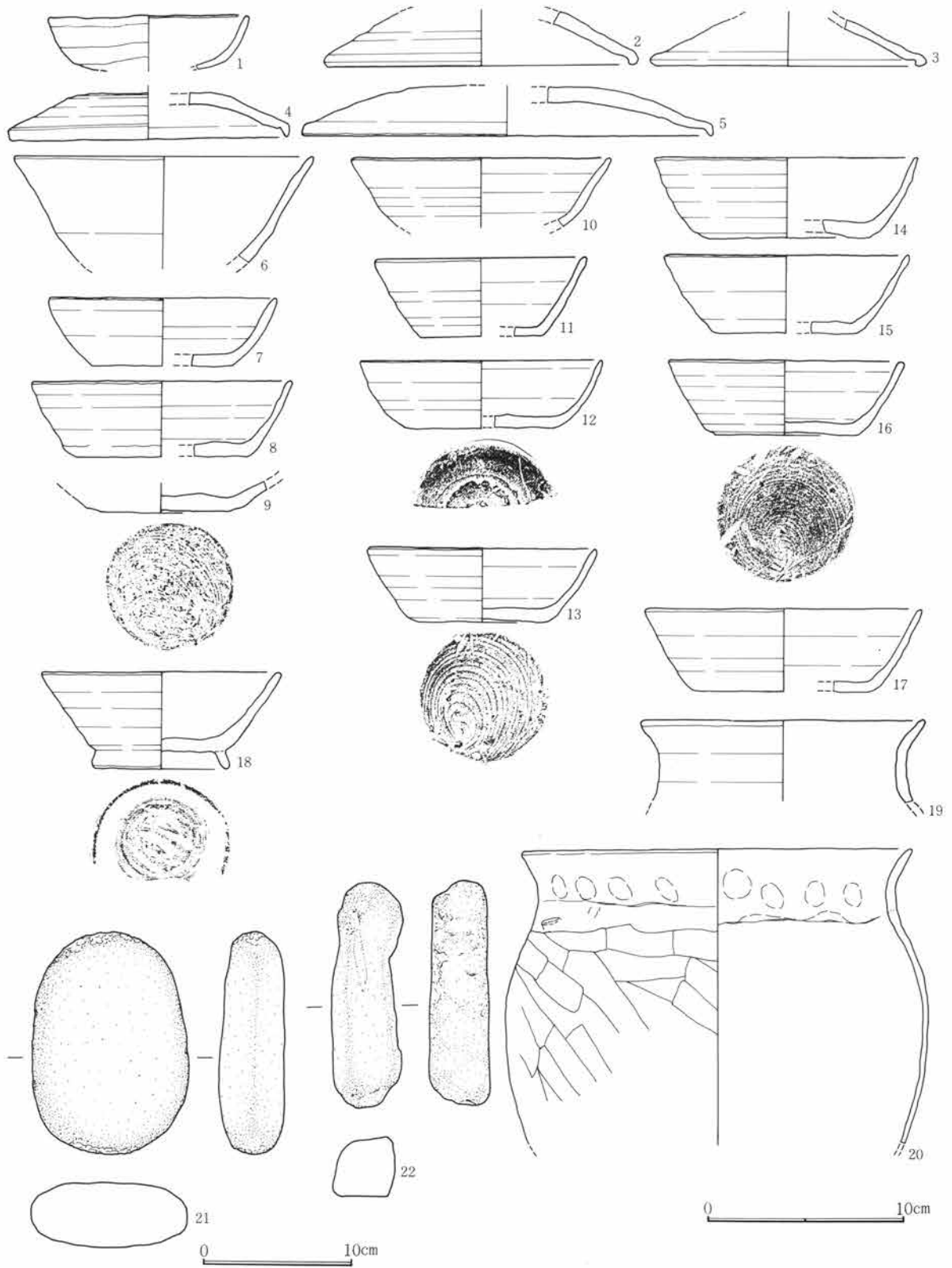


Fig.45 16号住居跡出土遺物

第16号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
45-1 74	土師器 坏	口-12.0	覆土	口縁部歪みや内湾する口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ口縁部体部の間ナデ調整	①良好②橙色③細砂粒含む④½残存
45-2 74	須恵器 蓋	口-15.6	覆土	外面回転ヘラ調整	①良好②灰白色③細砂粒含む④破片
45-3 74	須恵器 蓋	口-13.9	覆土	外面回転ヘラ調整	①良好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④破片
45-4 74	須恵器 蓋	口-14.0	覆土	外面回転ヘラ調整	①良好②灰白色③細砂粒含む④破片
45-5 74	須恵器 蓋	口-20.4	覆土	外面回転ヘラ調整	①良好②灰白色③細砂粒含む④½残存
45-6 74	須恵器 塊	口-15.4	覆土	口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③密④口縁部破片
45-7 74	須恵器 坏	口-11.4 高-3.4 底-7.0	床面 No.7	底部平底口縁部直線状に外傾する底部手持ちヘラ調整	①良好(硬質)②灰色③細砂粒含む④½残存
45-8 74	須恵器 坏	口-13.0 底-8.5	覆土	底部平底口縁部直線状に外傾する底部回転糸切	①良好(硬質)②灰色③1~2mmの砂粒含む④½残存
45-9 74	須恵器 坏	底-6.4	覆土	底部回転糸切	①良好②暗灰色③3~4mmの砂粒含む④底部残存
45-10 74	須恵器 坏	口-12.8	覆土	口縁部直線状に外傾する	①良好②灰色③密④½残存
45-11 74	須恵器 坏	口-10.5 高-6.1 底-6.1	覆土	底部平底口縁部直線状に外傾する底部手持ちヘラ調整	①良好(硬質)②灰色③密④½残存
45-12 74	須恵器 坏	口-12.0 高-3.4 底-7.0	覆土	底部平底口縁部直線状に外傾する底部回転ヘラ調整	①良好②灰白色③密④½残存
45-13 74	須恵器 坏	口-11.5 高-3.7 底-6.3	覆土	底部平底口縁部直線状に外傾する底部回転糸切右廻り	①良好(硬質)②灰色③1~2mmの砂粒含む④½残存
45-14 74	須恵器 坏	口-13.2 高-4.0 底-8.1	覆土	口縁部直線状に外傾する底部回転糸切	①良好②灰白色③密④½残存
45-15 74	須恵器 坏	口-12.3 高-3.9 底-7.0	覆土	口縁部薄手になり直線状に外傾する底部回転糸切	①良好②灰白色③密④½残存
45-16 74	須恵器 坏	口-11.8 高-3.7 底-6.9	覆土	底部平底口縁部直線状に外傾する底部回転糸切右廻り	①良好②灰白色③密④½残存
45-17 74	須恵器 坏	口-13.8 高-4.1 底-9.0	覆土	底部平底口縁部直線状に外傾する底部回転糸切	①良好②灰白色③密④½残存
45-18 74	須恵器 塊	口-12.0 高-4.8 底-6.8	覆土	口縁部直線状に外傾する底部雑なヘラ調整付高台	①良好②灰色③密④½残存
45-19 74	土師器 甕	口-14.2	覆土	口縁部ヨコナデ口縁部弱い稜を持ち外反する	①良好②淡橙色③細砂粒含む④口縁部破片
45-20 74	土師器 甕	口-19.4	覆土	口縁部ヨコナデ指頭痕胴部ヘラケズリ口縁部緩く外反する	①良好②橙色③細砂粒含む④½残存
Fig. 45-21 PL. 75	石 長-14.8cm 幅-10.5cm 厚-4.4cm 石英閃緑岩				
Fig. 45-22 PL. 75	石 長-15.0cm 幅-4.6cm 厚-4.1cm 黒色頁岩				

17号住居跡 (Fig. 46・47・48・49、PL. 3・75)

F区北東部に位置し29~31 F 38~40の範囲にある。18・20・47号住居跡の南にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺4.1m、短辺3.4mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-90°-Eである。壁高は約30cm~40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝は幅約10cm、深さ約3cm~5cmを測り四周に検出された。貯蔵穴は南東コーナーに検出され規模は約1m×80cm、深さ約20cmを測る。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約60cm、同長約50cmを測る。

第2章 検出された遺構と遺物

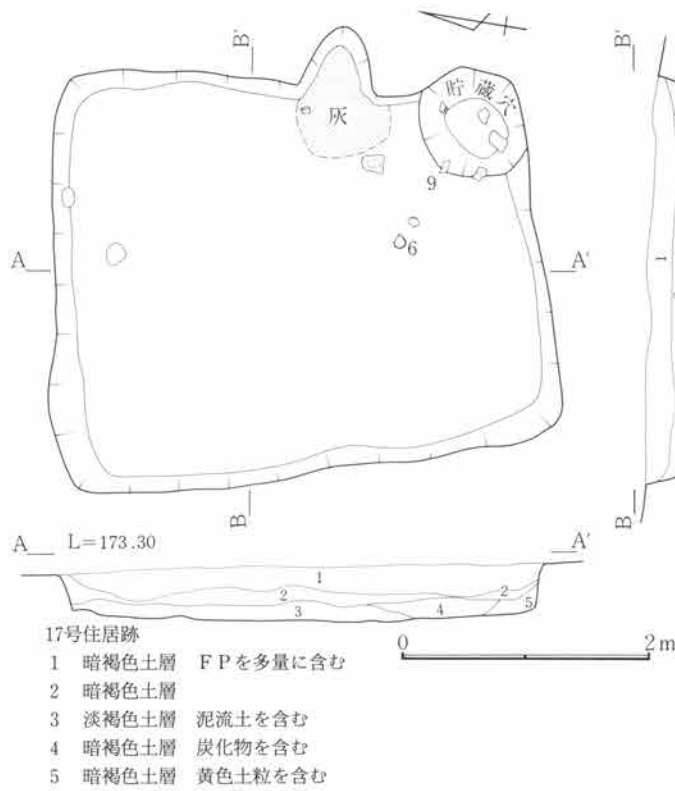
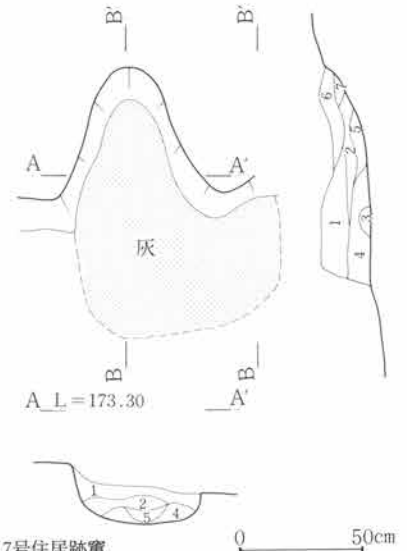


Fig.46 17号住居跡



17号住居跡竈

Fig.47 17号住居跡竈

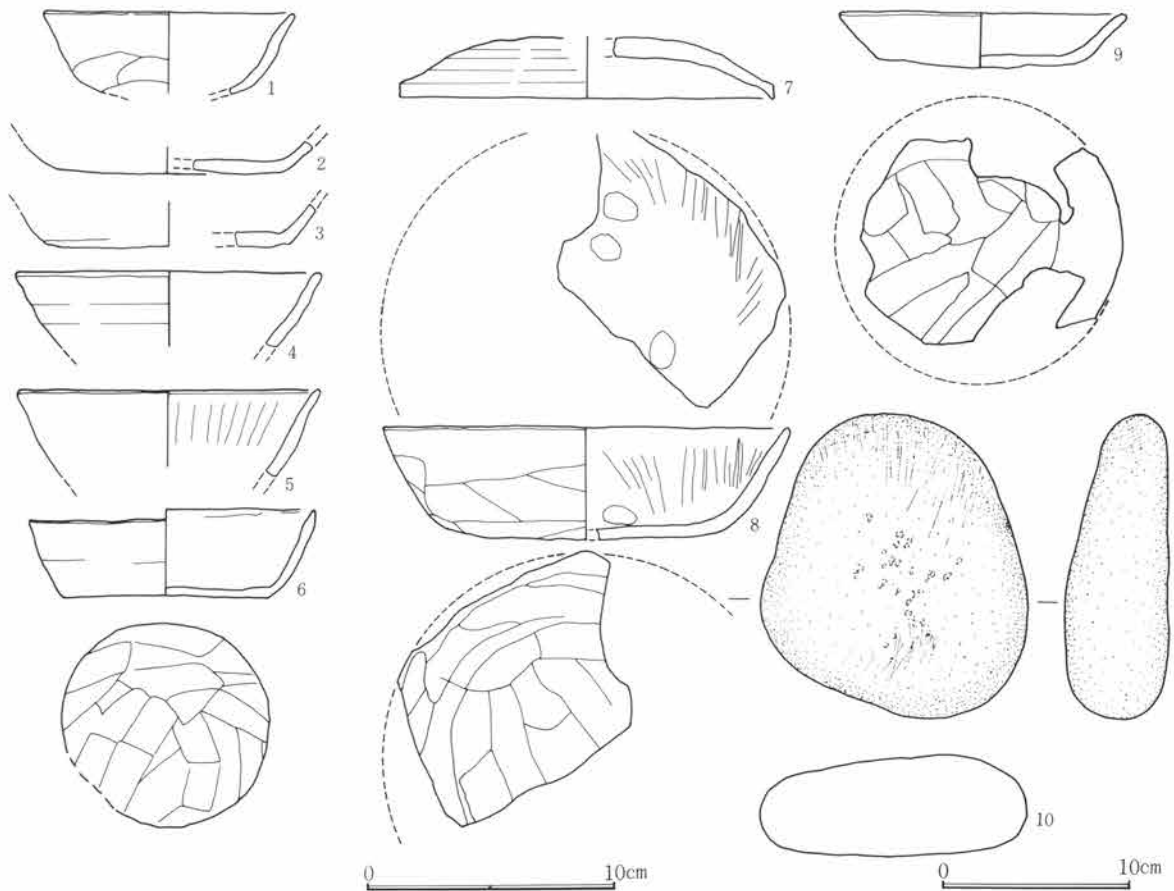


Fig.48 17号住居跡出土遺物(1)

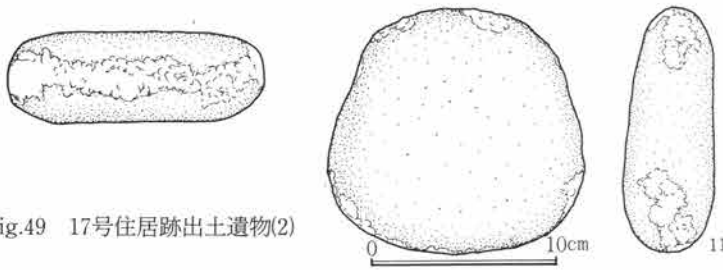


Fig.49 17号住居跡出土遺物(2)

第17号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
48-1 75	土師器 坏	口-10.0	覆土	口縁部ヨコナデ体部下へラ調整内面ナデ口縁部弱く外湾する	①良好②にぶい赤褐色③細砂粒含む④口縁部破片
48-2 75	土師器 坏	底-8.5	覆土	底部手持へラケズリ	①良好②赤褐色③細砂粒含む④底部破片
48-3 75	須恵器 坏		覆土	底部へラ調整	①良好②灰白色③密④底部破片
48-4 75	須恵器 坏	口-12.0	覆土	口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③密④口縁部破片
48-5 75	土師器 坏	口-12.0	覆土	口縁部ヨコナデ内面放射状研磨	①良好②赤褐色③細砂粒含む④口縁部破片
48-6 75	土師器 坏	口-11.3 高-3.5 底-8.0	No.6	口縁部ヨコナデ体部下半弱いナデ底部へラケズリ内面ナデ	①良好②明赤褐色③細砂粒含む④残存
48-7 75	須恵器 蓋	口-14.8	覆土	外面回転へラ調整	①良好②灰白色③密④破片
48-8 75	土師器 坏	口-16.1 高-4.4	覆土	口縁部ヨコナデ体部下半弱いナデ内面放射状研磨(暗文)	①良好②橙色③細砂粒含む④残存
48-9 75	土師器 坏	口-11.4 高-2.2	No.9	口縁部ヨコナデ底部へラケズリ内面ナデ口縁部弱く外反する	①良好②明赤褐色③細砂粒含む④残存
Fig. 48-10 PL. 75		石 長-15.9cm 幅-14.2cm 厚-5.4cm	粗粒安山岩		
Fig. 49-11 PL. 75		石 長-12.9cm 幅-13.6cm 厚-4.8cm	粗粒安山岩		

18号住居跡

(Fig. 50・51・52、PL. 4・75)

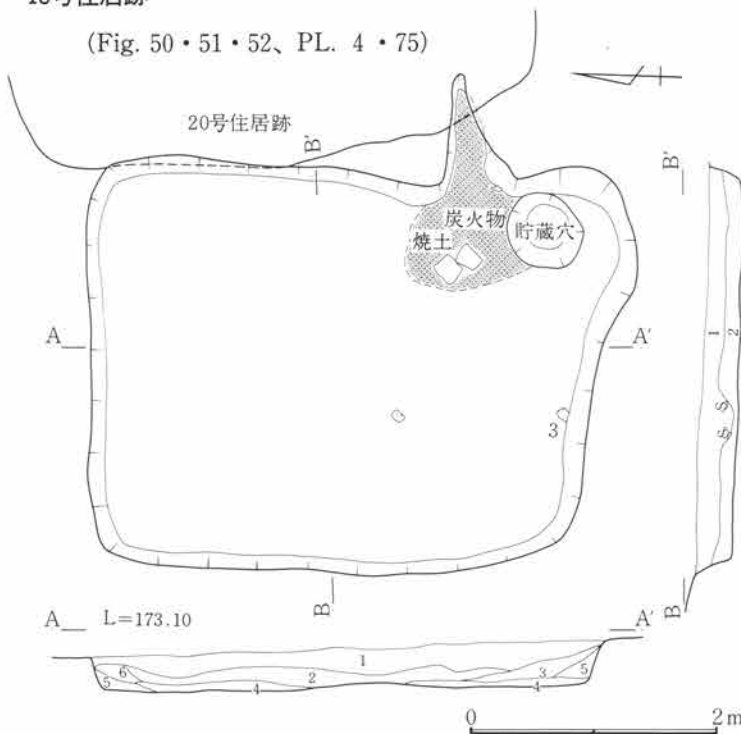


Fig.50 18号住居跡

F区北東部に位置し30~32F 42~44の範囲にある。17号住居跡の北にあり、20号住居跡と東壁部を重複する。新旧関係は18号住居跡が新しい。規模は長辺4.5m、短辺3.3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-90°-Eである。壁高は約20cm~40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝は検出されていない。貯蔵穴は東南コーナーに検出され規模は約70cm×60cm、深さ約20cmを測る。竈は東壁南寄りに検出さ

18号住居跡

- 1 暗褐色土層 F Pを含む
- 2 暗褐色土層
- 3 暗褐色土層 淡褐色泥流ブロックを含む
- 4 淡褐色土層
- 5 黒褐色土層
- 6 暗褐色土層

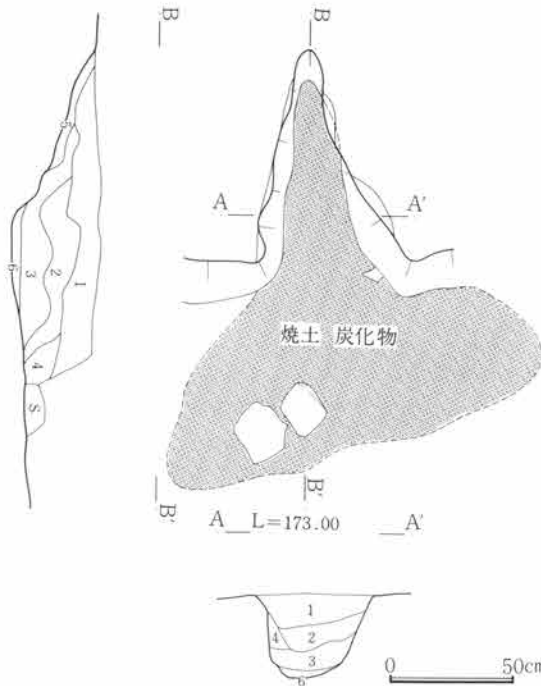


Fig.51 18号住居跡竈

れた。規模は燃烧部幅約70cm、同長約1mを測る。燃烧部と煙道部の境は明確には確認されていない。

Fig.52 18号住居跡出土遺物

- 18号住居跡竈
- 1 暗褐色土層 FPブロックを含む
 - 2 暗褐色土層
 - 3 暗褐色土層 焼土粒を含む
 - 4 暗褐色土層
 - 5 黒色灰層
 - 6 黒褐色土層 黒色灰を含む

第18号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
52-1 75	灰釉陶器 壺	口-12.0	覆土	口縁部弱く内湾ぎみに立ち上がる	①良好②灰白色③密④口縁部破片
52-2 75	須恵器 壺	口-12.2	覆土	口縁端部外側へ屈曲する	①良好②灰色③2~3mmの砂粒含む④口縁部破片
52-3 75	須恵器 小壺	底-4.1	No 3	底部回転糸切右廻り後部分的にナデ調整底部は平底	①良好②灰色③細砂粒含む④%残存

19号住居跡 (Fig. 53・54・55、PL. 4・75・76)

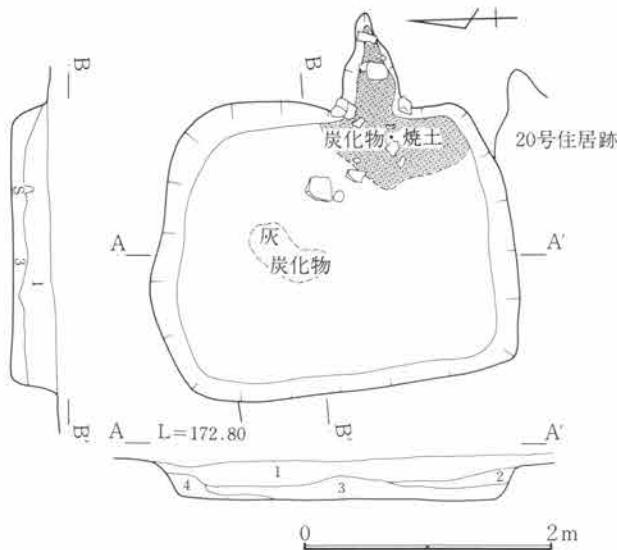
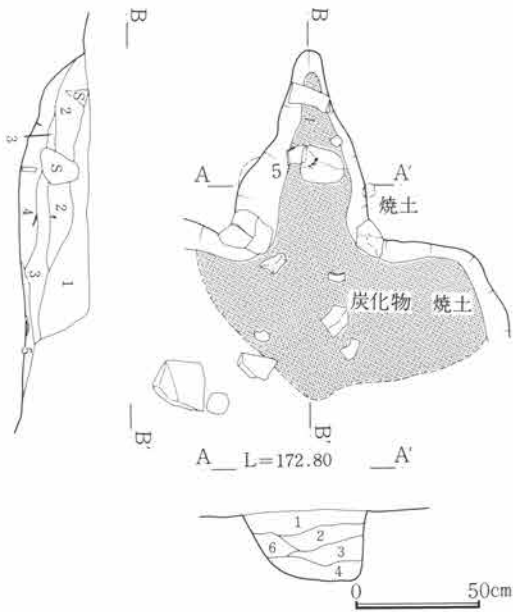


Fig.53 19号住居跡

F区北東部に位置し28~30 F43~45の範囲にある。18号住居跡の東にあり、南西部を20号住居跡と重複する。新旧関係は19号住居跡が新しい。規模は長辺3m、短辺2.6mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-93°-Eである。壁高は約30cm~40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁ほぼ中央に検出された。燃烧部幅約40cm、同長約70cmを測る。

- 19号住居跡
- 1 暗褐色土層 FPを含む
 - 2 暗褐色土層 FPを含む
 - 3 暗褐色土層 FAを含む泥流土
 - 4 暗褐色土層



- 19号住居跡竈
- 1 暗褐色土層 F P、焼土粒を含む
 - 2 黄褐色土層
 - 3 暗褐色土層 焼土粒を含む
 - 4 褐色土層 焼土粒、炭化物、灰を含む
 - 5 暗褐色土層 炭化物、黒色灰を含む
 - 6 暗褐色土層 焼土粒を含む

Fig.54 19号住居跡竈

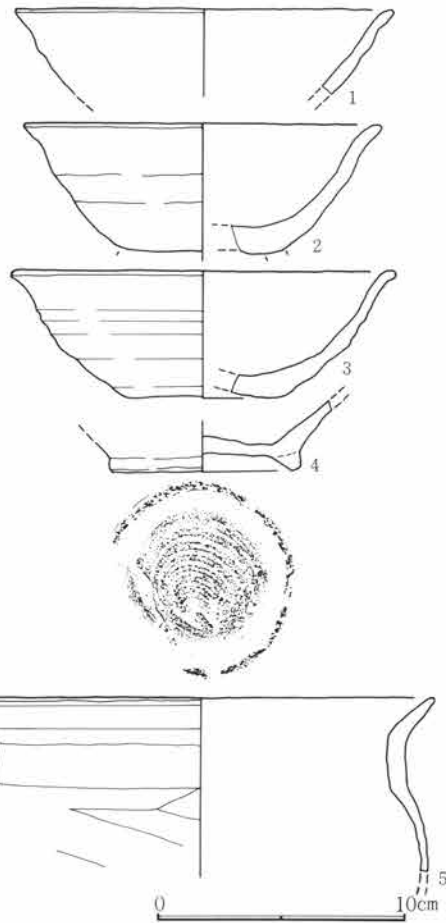


Fig.55 19号住居跡出土遺物

第19号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
55-1 75	須恵器 埴	口-15.0	覆土	口縁端部外側へ弱く屈曲する	①良好②淡橙色③2~3mmの砂粒含む④口縁部破片
55-2 75	須恵器 埴	口-14.2	覆土	底部回転糸切付高台欠落口縁端部外側へ屈曲する	①良好②灰色③細砂粒含む④1/2残存
55-3 75	須恵器 埴	口-15.3 高-5.0 底-6.0	覆土	底部付高台口縁端部外側へ屈曲する	①良好②灰褐色③細砂粒含む④1/2残存
55-4 76	須恵器 埴	底-7.6	覆土	底部回転糸切付高台高台断面台形を呈する	①良好②灰白色③3~4mmの砂粒含む④底部1/2残存
55-5 76	土師器 甕	口-18.3	Na 5	口縁部ヨコナデ胴上部ヘラケズリ内面ナデ口縁端部外側に沈線巡る	①良好②赤褐色③2~3mmの砂粒含む④口縁部破片

20号住居跡 (Fig. 56・57・58、PL. 4・76)

F区北東部に位置し30・31F41~43の範囲にある。18号住居跡の東にあり、北東部を19号住居跡と重複する。新旧関係は19号住居跡が新しい。規模は長辺4.3m、短辺2.9mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-78°-Eである。壁高は約35cm~45cmを測る。床面はほぼ平坦をなすが、南東部に幅約1.4m×70cmで約2cm~10cmの落ち込みが検出された。壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約60cm、同長約90cmを測る。

第2章 検出された遺構と遺物

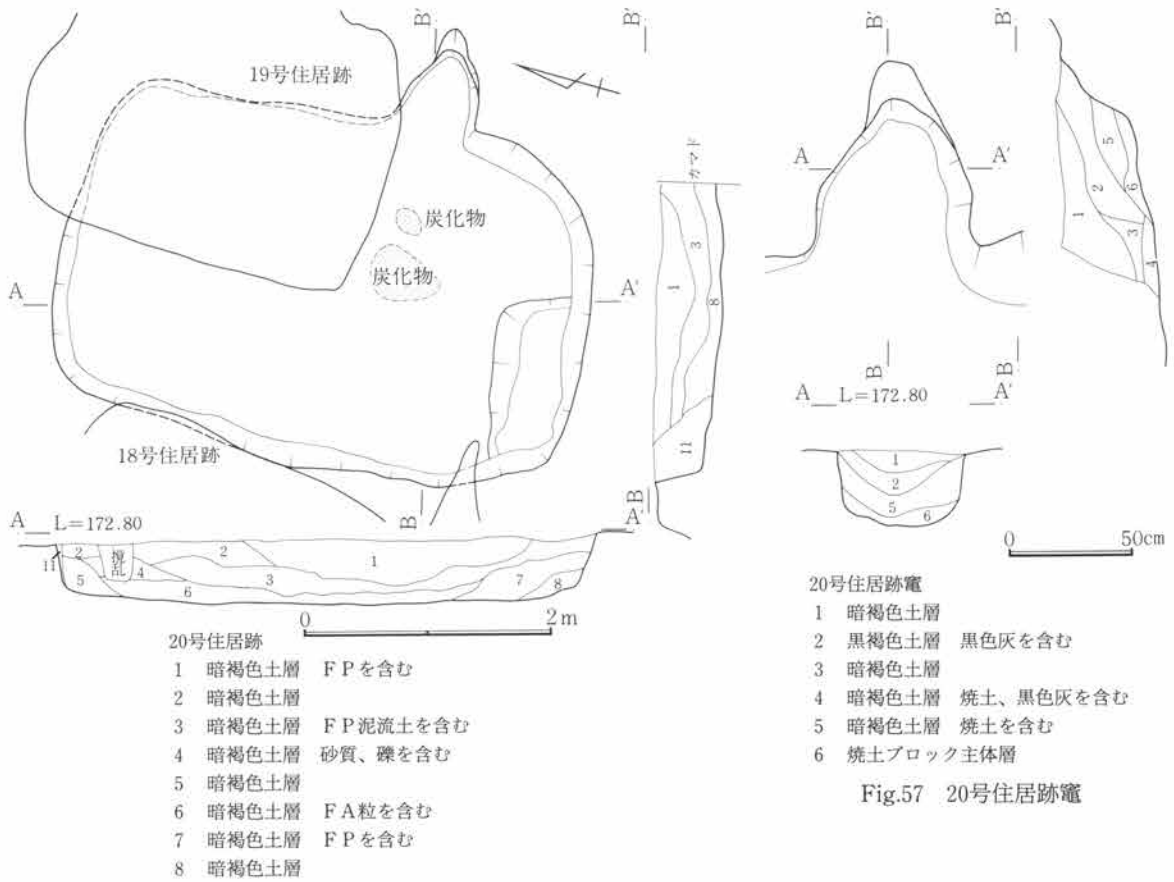


Fig.56 20号住居跡

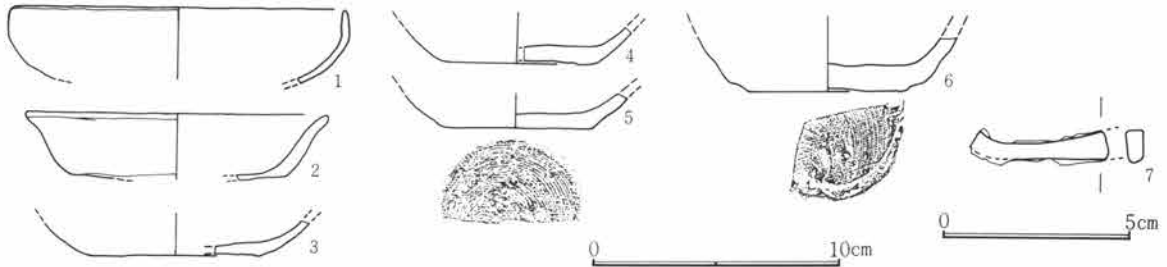
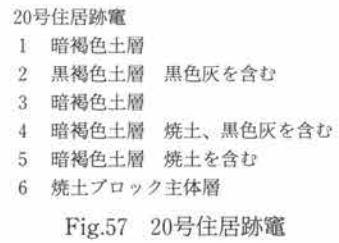


Fig.58 20号住居跡出土遺物

第20号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
58-1 76	土師器 坏	口-13.0	覆土	口縁部ヨコナデ体部弱いヘラ調整口縁端部直立ぎみ	①良好②橙色③細砂粒含む④口縁部破片
58-2 76	土師器 坏	口-12.0	覆土	口縁端部外湾する口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ口縁端部外反する	①良好②赤褐色③2~3mmの砂粒含む④口縁部破片
58-3 76	須恵器 坏	底-6.5	覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④底部破片
58-4 76	須恵器 坏	底-5.6	覆土	底部回転糸切右廻り	①良好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④底部破片
58-5 76	須恵器 坏	底-5.7	覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③2~3mmの砂粒含むが密④底部残存
58-6 76	須恵器 坏	底-6.2	覆土	底部回転糸切右廻り	①良好②灰白色③密④底部残存
Fig. 58-7 PL. 76		鉄製品 長-3.8cm 厚-8mm 釘			

21号住居跡

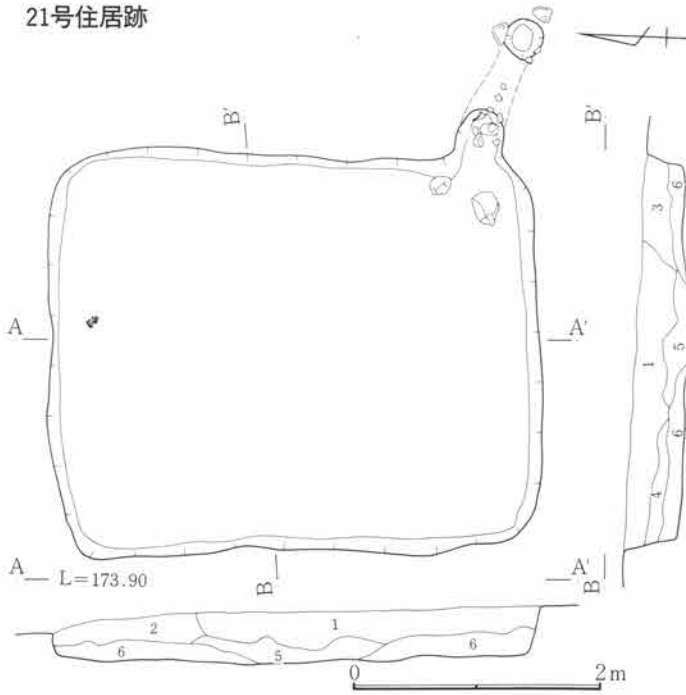


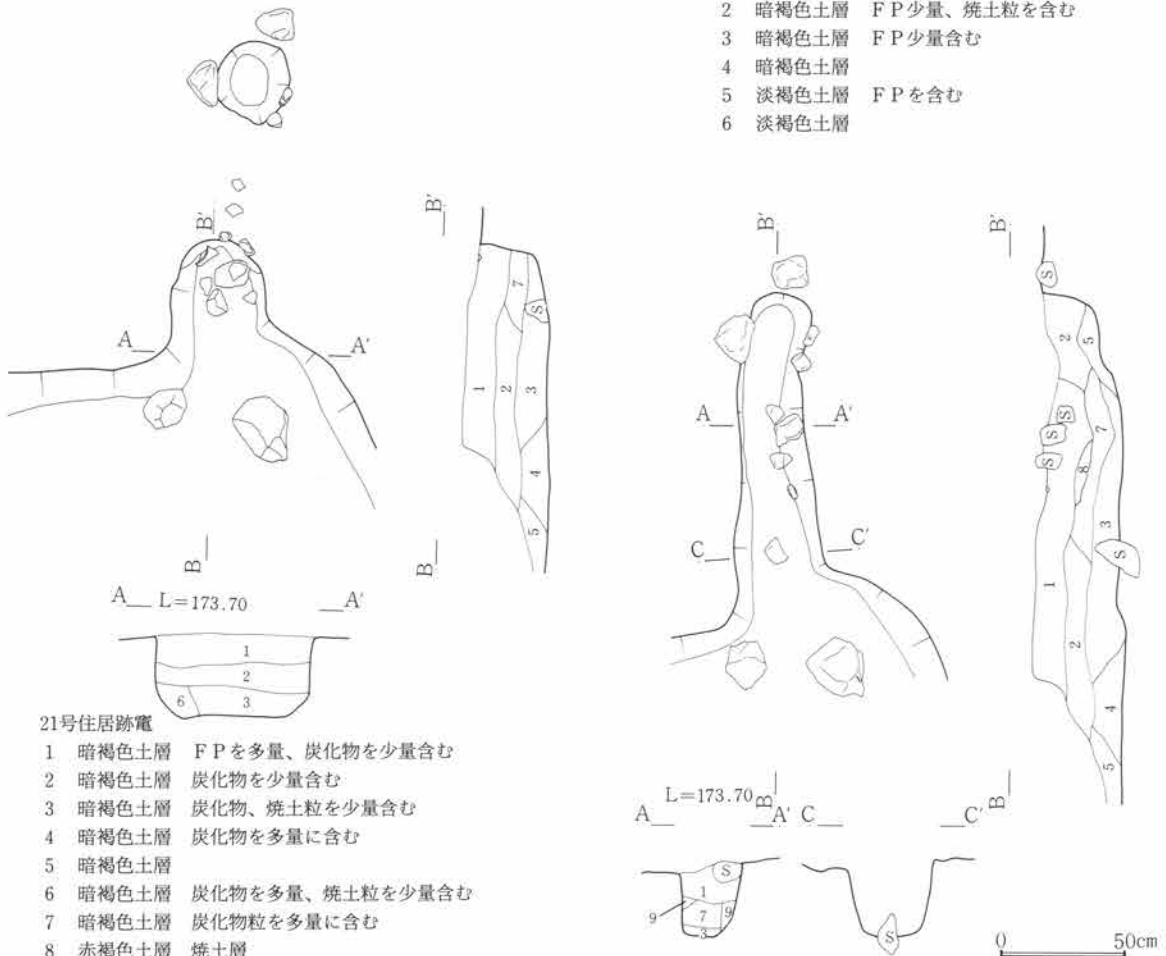
Fig.59 21号住居跡

(Fig. 59・60・61, PL. 4・5・76)

F区北東部に位置し36・37 F37・38の範囲にある。17号住居跡の南西にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺4.1m、短辺3.8mを測り平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位は $N-91^{\circ}-E$ である。壁高は約30cm~40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南コーナー近くに検出され、遺存状態は良好で煙道天井部が確認された。竈の規模は燃烧部幅約40cm、同長約50cm、煙道部長約90cmを測る。竈手前より袖材と考えられる石が検出され、燃烧部中央に支脚と考えられる石が検出された。

21号住居跡

- 1 暗褐色土層 FP多量、焼土粒、炭化物少量含む
- 2 暗褐色土層 FP少量、焼土粒を含む
- 3 暗褐色土層 FP少量含む
- 4 暗褐色土層
- 5 淡褐色土層 FPを含む
- 6 淡褐色土層



21号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 FPを多量、炭化物を少量含む
- 2 暗褐色土層 炭化物を少量含む
- 3 暗褐色土層 炭化物、焼土粒を少量含む
- 4 暗褐色土層 炭化物を多量に含む
- 5 暗褐色土層
- 6 暗褐色土層 炭化物を多量、焼土粒を少量含む
- 7 暗褐色土層 炭化物粒を多量に含む
- 8 赤褐色土層 焼土層
- 9 褐色土層 焼土化した層

Fig.60 21号住居跡竈

第2章 検出された遺構と遺物

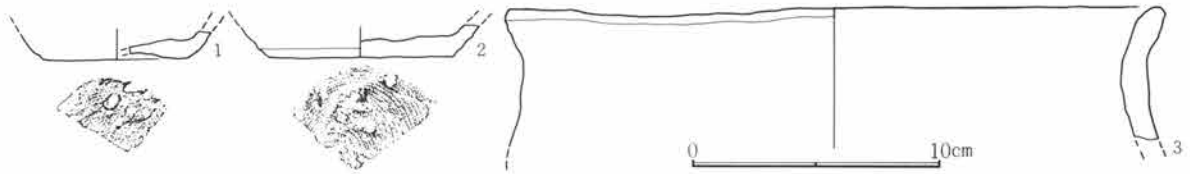


Fig.61 21号住居跡出土遺物

第21号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
61-1 76	須恵器 坏	底-5.8	覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③密④底部破片
61-2 76	須恵器 坏	底-7.2	覆土	底部回転糸切底部は平底	①良好酸化済み②橙色③2~3mm砂粒含む④底部破片
61-3 76	土師器 甕	口-26.2	覆土	口縁部雑なナデ口縁部外湾する	①良好②赤褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部残存

22号住居跡 (Fig. 62・63・64・65、PL. 5・76・77)

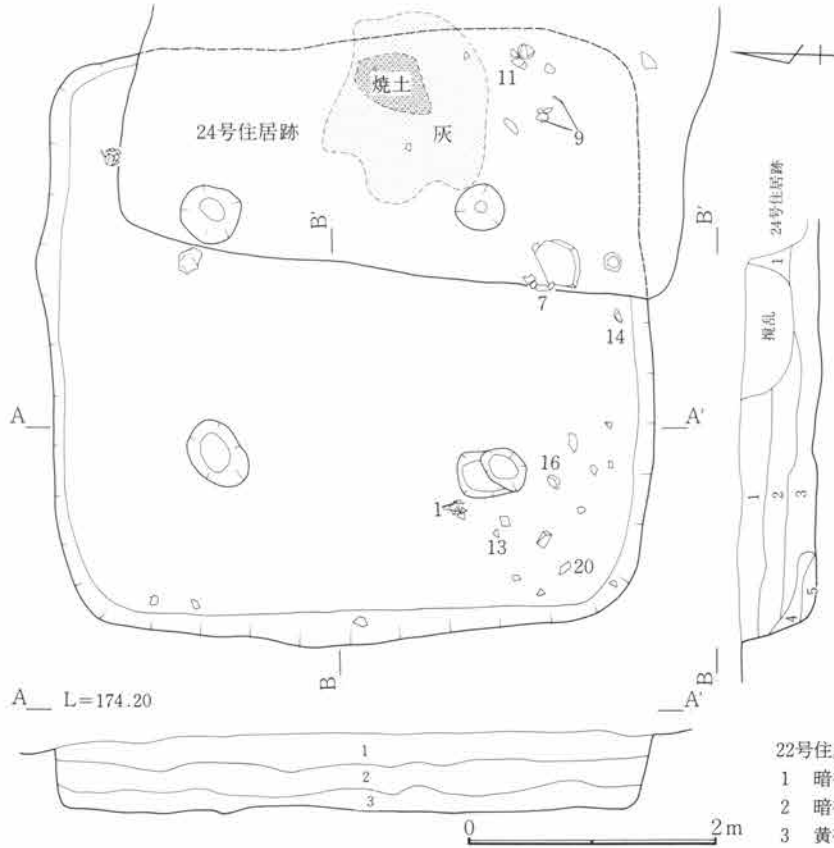


Fig.62 22号住居跡

F区北東部に位置し33~35F39~41の範囲にある。21号住居跡の北東にあり、24号住居跡と重複する。新旧関係は24号住居跡が新しい。規模は一辺4.9mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-84°-Eである。壁高は約40cm~60cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁ほぼ中央に痕跡を検出した。灰・焼土の範囲は約1.5m×1.1mを確認した。

22号住居跡

- 1 暗褐色土層 FPを多量に含む
- 2 暗褐色土層 FP、焼土、炭化物を含む
- 3 黄褐色土層 炭化物、焼土粒を多量に含む
- 4 黄褐色土層 FAをブロック状に含む
- 5 黄褐色土層 FAを含む

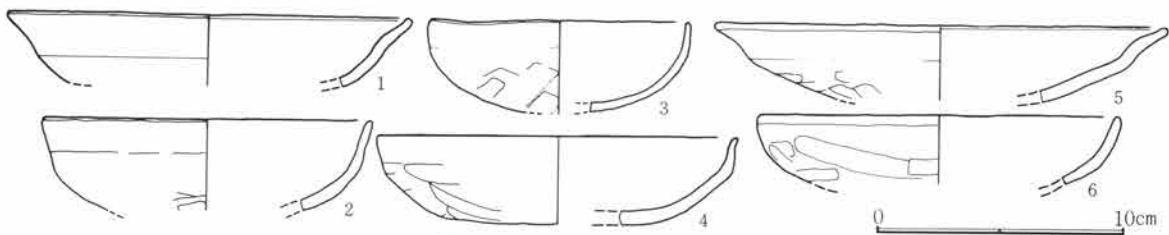


Fig.63 22号住居跡出土遺物(1)

第1節 竪穴住居跡

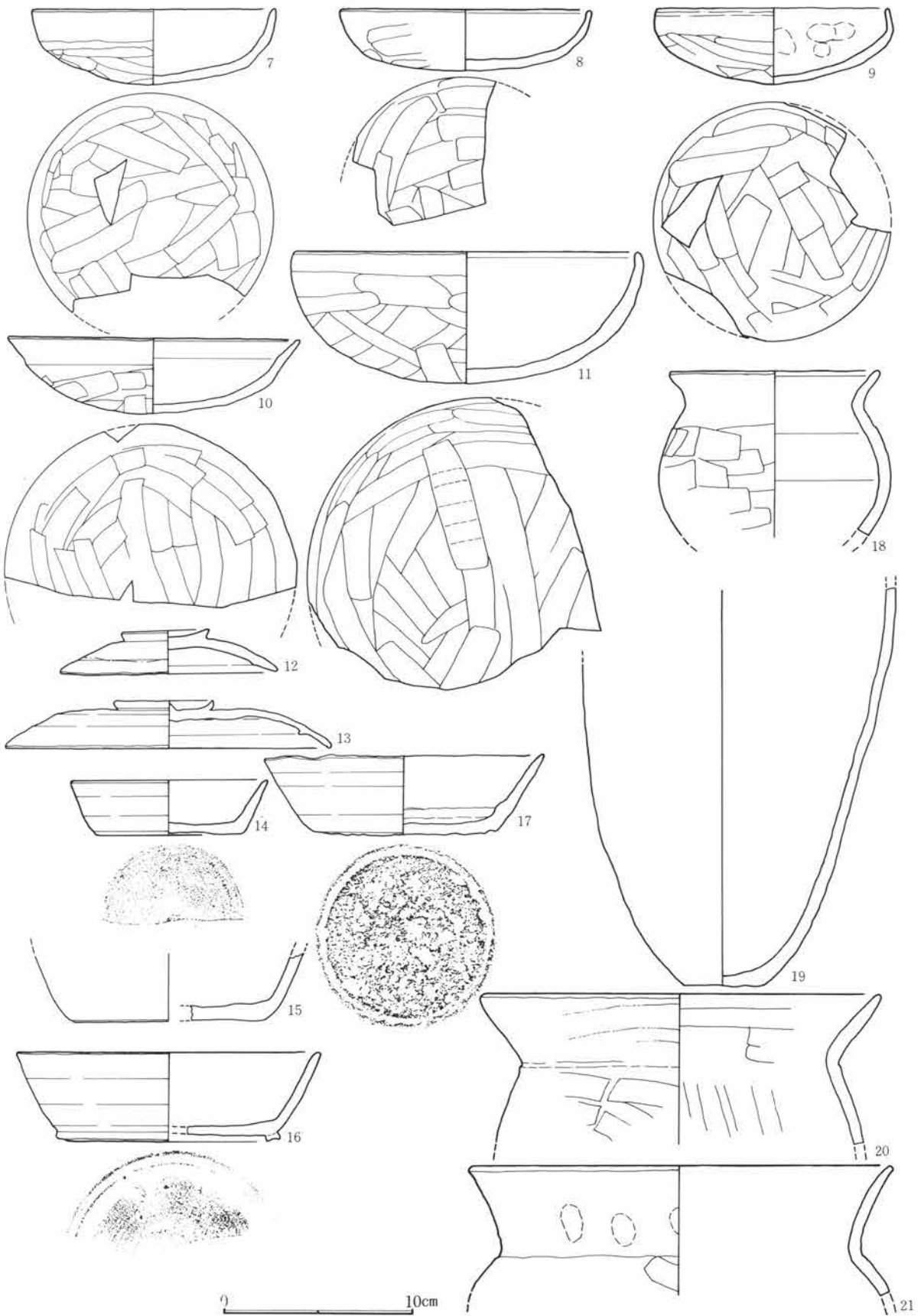


Fig.64 22号住居跡出土遺物(2)

第2章 検出された遺構と遺物

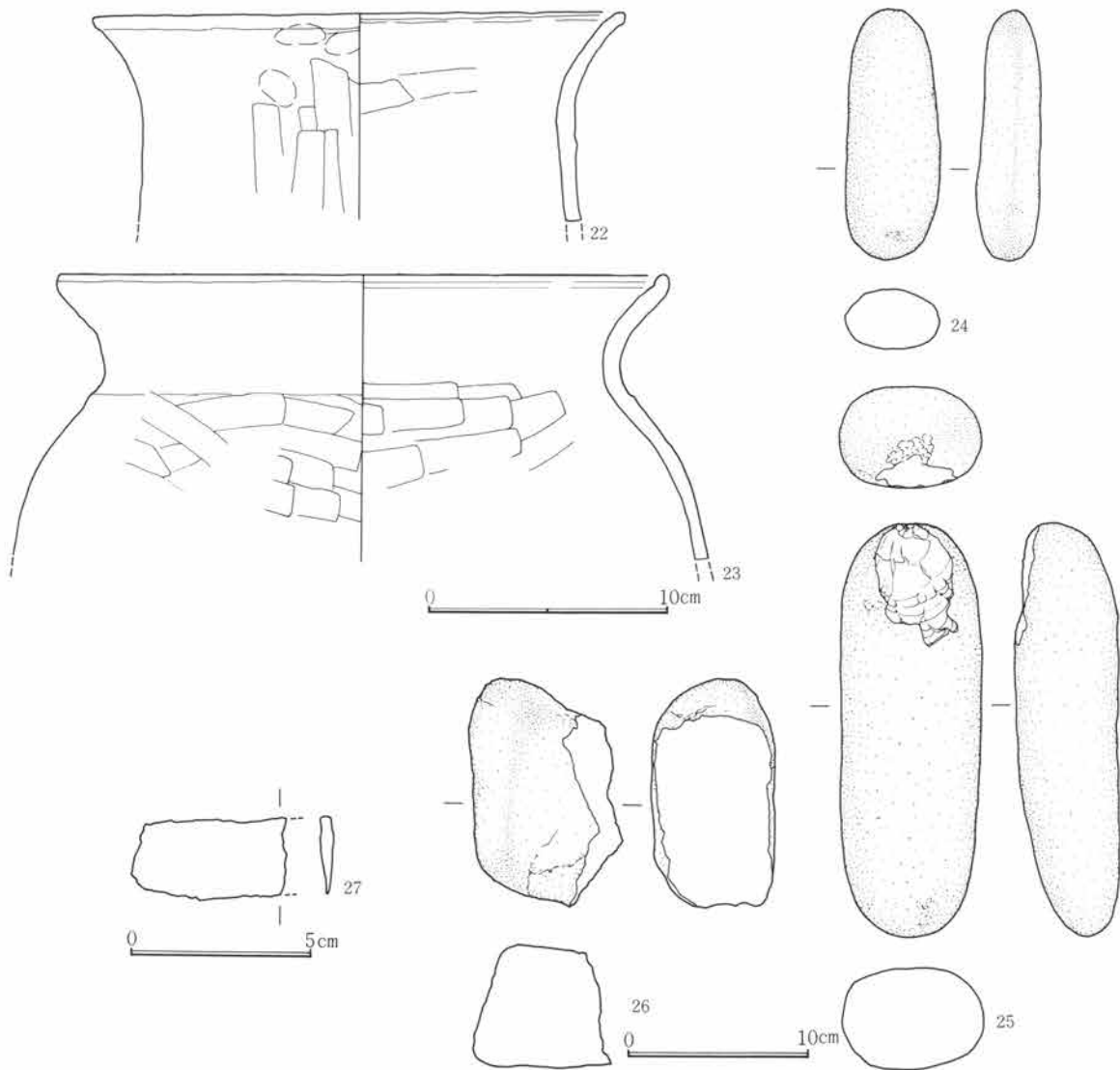


Fig.65 22号住居跡出土遺物(3)

第22号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
63-1 76	土師器 坏	口-16.0	No 1	口縁部体部の間に弱い稜をもつ口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部外反する	①良好②橙色③細砂粒含む ④口縁部破片
63-2 76	土師器 坏	口-13.0	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ口縁部と体部の間 弱いナデ内面ナデ	①良好②にぶい橙色③細砂 粒含む④口縁部破片
63-3 76	土師器 坏	口-5.2 高-3.6	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部直 立ぎみ	①良好②橙色③細砂粒含む ④½残存
63-4 76	土師器 坏	口-14.2 高-3.4	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部直 立ぎみ	①良好②橙色③細砂粒含む ④口縁部½残存
63-5 76	土師器 盤	口-19.0	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部は 弱く外反する	①良好②橙色③細砂粒含む ④破片
63-6 76	土師器 坏	口-14.4	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ口縁部と体部の間 弱いヘラナデ内面ナデ口縁部内湾して立ち上がる	①良好②赤褐色③細砂粒含 む④口縁部½残存
64-7 76	土師器 坏	口-12.6 高-3.9	No 7	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ口縁部と体部の間 に弱いナデ口縁部直立ぎみ	①良好②橙色③2~3mmの 砂粒含む④½残存

第1節 竪穴住居跡

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
64-8 76	土師器 坏	口-13.0 高-3.1	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部弱く内湾ぎみに立ち上がる	①良好②橙色③1~2mmの砂粒含む④½残存
64-9 76	土師器 坏	口-12.0 高-3.9	No.9	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部体部の間に弱いヘラナデあり口縁端部内傾する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④½残存
64-10 77	土師器 坏	口-15.2 高-3.9	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部弱く外反する	①良好②橙色③細砂粒含む④½残存
64-11 77	土師器 坏	口-18.0 高-6.8	No.11	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ口縁部と体部の間に弱いヘラナデ内面ナデ口縁部内湾する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④½残存
64-12 76	須恵器 蓋	口-11.4 高-2.3	覆土	外面回転ヘラ調整内面に返りをもつ	①良好②灰色③密④完形
64-13 77	須恵器 蓋	口-16.8	No.13	外面回転ヘラ調整内面に返りをもつ	①良好②灰褐色③2~3mmの砂粒含む④½残存
64-14 76	須恵器 坏	口-8.2 高-2.8 底-7.6	No.14	底部回転ヘラ調整口縁部直線状に外傾する	①良好②灰色③密④½残存
64-15 76	須恵器 坏	底-15.4	覆土	底部回転ヘラ調整底部は平底	①良好②灰白色③密④底部½残存
64-16 76	須恵器 坏	口-15.6 高-4.6 底-11.6	床面 No.16	付高台底部回転ヘラ調整口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③密④½残存
64-17 77	須恵器 坏	口-14.5 高-4.1 底-9.5	覆土	表面剝落ひどい底部周辺にケズリ出し高台状の調整がある口縁部直線状に外傾する	①軟質②灰白色③細砂粒含む④完形
64-18 76	土師器 甕	口-10.8	覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部弱い内湾をもち外傾する	①良好②にぶい橙色③1~2mmの砂粒含む④½残存
64-19 77	土師器 長甕	底-4.0	覆土	胴下部タテ方向のヘラケズリ不明瞭	①良好②暗赤褐色③1~2mm砂粒含む④胴下半部残存
64-20 76	土師器 長甕	口-20.8	覆土 No.20	口縁部ヨコナデ後ヘラナデ胴部ヘラケズリ内面口縁部ヨコナデ後ヘラナデ胴部ヘラナデ	①良好②橙色③細砂粒含む④口縁部破片
64-21 77	土師器 甕	口-22.0	覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ頸部緩く外傾する	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④口縁部½残存
65-22 77	土師器 長甕	口-22.0	覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面弱いヘラナデ口縁部緩く外湾する	①良好②赤褐色③2~3mmの砂粒含む④口縁部½残存
65-23 77	土師器 甕	口-25.0	覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面弱いヘラナデ口縁部内湾ぎみに外傾する	①良好②赤褐色③1~2mmの砂粒含む④½残存
Fig. 65-24	PL. 77	石 長-13.7cm 幅-5.2cm 厚-3.5cm	石英閃緑岩		
Fig. 65-25	PL. 77	石 長-22.6cm 幅-7.85cm 厚-5.7cm	粗粒安山岩		
Fig. 65-26	PL. 77	石 長-12.4cm 幅-8.45cm 厚-6.8cm	粗粒安山岩		
Fig. 65-27	PL. 77	鉄製品 長-4.3cm 厚-3mm	刀子		

23号住居跡 (Fig. 66・67・68、PL. 5・78)

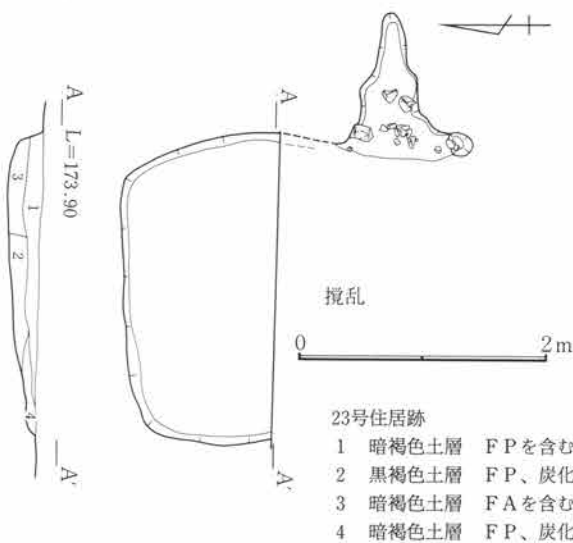


Fig.66 23号住居跡

F区中央に位置し36・37 F 31・32の範囲にある。他の遺構との重複はない。住居跡中央部は攪乱により検出されていないが、住居跡の北半部と東壁に竈が検出された。規模は北壁2.4mを測り、平面形態は不明である。主軸方位は竈長軸でN-85°-Eである。壁高は約10cm~15cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈の規模は燃焼部幅約80cm、同長約50cm、煙道部長約60cmを測る。

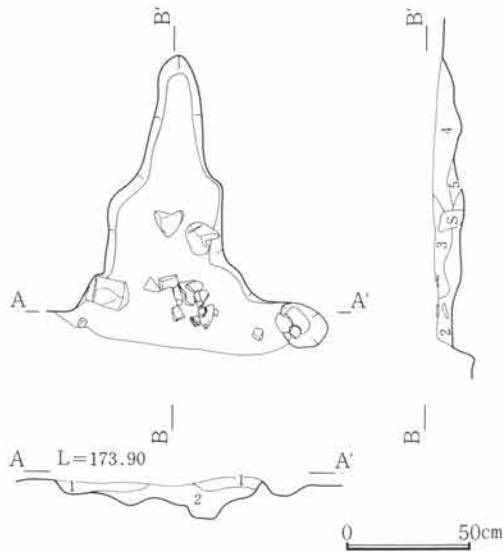


Fig.67 23号住居跡竈

23号住居跡竈

- 1 黒褐色土層 炭化物、黒色灰を多量に含む
- 2 黒褐色土層 焼土粒を多量に含む
- 3 暗褐色土層
- 4 暗褐色土層 F P、焼土粒、炭化物を含む
- 5 暗褐色土層 焼土粒、炭化物を多量に含む

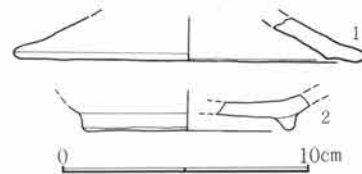


Fig.68 23号住居跡出土遺物

第23号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
68-1 78	須恵器 蓋	口-14.0	覆土	外面回転ヘラ調整内面に返りをもつ	①良好②白灰色③細砂粒含む④破片
68-2 78	須恵器 埴	底-8.5	覆土	付高台底部回転ヘラ調整	①良好②灰白色③密④底部破片

24号住居跡 (Fig. 69・70・71、PL. 5・78)

F区北東部に位置し32~34 F 39・40の範囲にある。21号住居跡の北東にあり、西半部で22号住居跡と重複する。新旧関係は24号住居跡が新しい。規模は長辺4.7m、短辺3.4mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。

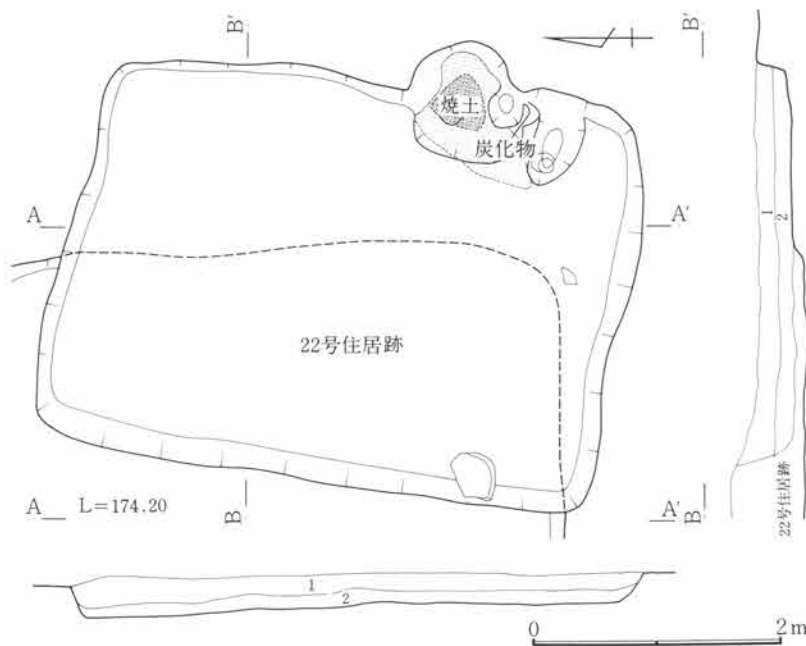
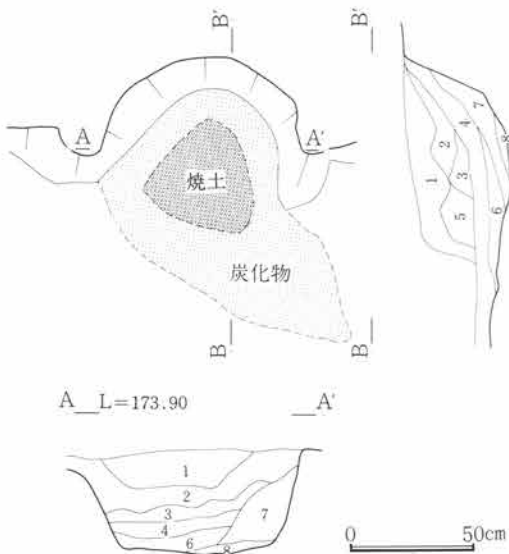


Fig.69 24号住居跡

主軸方位はN-90°-Eである。壁高は約30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等は検出されていない。南東コーナーに高まりが検出された。規模は約80cm×40cm、高さ約5cm~6cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃烧部幅約70cm、同長約60cmを測る。

24号住居跡

- 1 暗褐色土層 F Pを含む
- 2 暗褐色土層 F P、焼土、炭化物粒を含む



- 24号住居跡竈
- 1 暗褐色土層 FP、焼土粒少量含む
 - 2 暗褐色土層 炭化物を多量に含む
 - 3 暗褐色土層 焼土粒、炭化物を多量に含む
 - 4 暗褐色土層
 - 5 暗褐色土層 焼土粒を含む
 - 6 暗褐色土層 炭化物を含む
 - 7 黄褐色土層
 - 8 暗褐色土層 焼土粒を多量に含む

Fig.70 24号住居跡竈

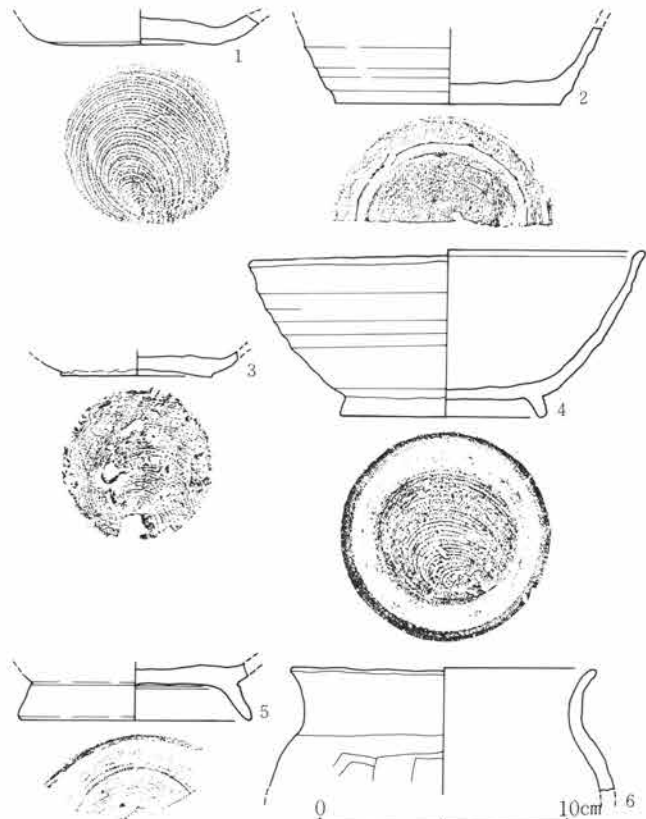


Fig.71 24号住居跡出土遺物

第24号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
71-1 78	須恵器 坏	底-6.4	覆土	底部回転糸切右廻り	①良好②灰白色③密④底部残存
71-2 78	須恵器 坏	底-9.0	覆土	高台欠落底部回転ヘラ調整底部平底で口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③密④底部残存
71-3 78	須恵器 坏	底-6.0	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③密④底部残存
71-4 78	須恵器 埴	口-15.6 高-6.4 底-8.2	床面	付高台底部回転糸切口縁端部外側へ屈曲する	①良好②灰色③2~3mmの砂粒含む④残存
71-5 78	須恵器 埴	底-9.2	覆土	付高台底部回転糸切高台先端薄く直線状に開く	①良好②灰色③密④底部残存
71-6 78	土師器 甕	口-12.0	覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部緩いカーブをもつ	①良好②にぶい赤褐色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片

25号住居跡 (Fig. 72・73、PL. 6・78)

F区北東部に位置し29・30F48・49の範囲にある。20号住居跡の北にあり、北東部を26号住居跡と重複する。新旧関係は26号住居跡が新しい。規模は長辺3m、短辺2.9mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁の遺存状態は悪く壁高は約20cm~25cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は26号住居跡に切り崩されているが、南東コーナー部から構築材と思われる石が土器と共に検出された。

26号住居跡 (Fig. 72・74・75、PL. 6・78)

F区北東部に位置し28・29F48~G00の範囲にある。20号住居跡の北にあり、南西部を25号住居跡と重複する。新旧関係は26号住居跡が新しい。また東部は調査区域外へかかるためプランは確認されていない。

第2章 検出された遺構と遺物



Fig.72 25・26号住居跡・8号土坑

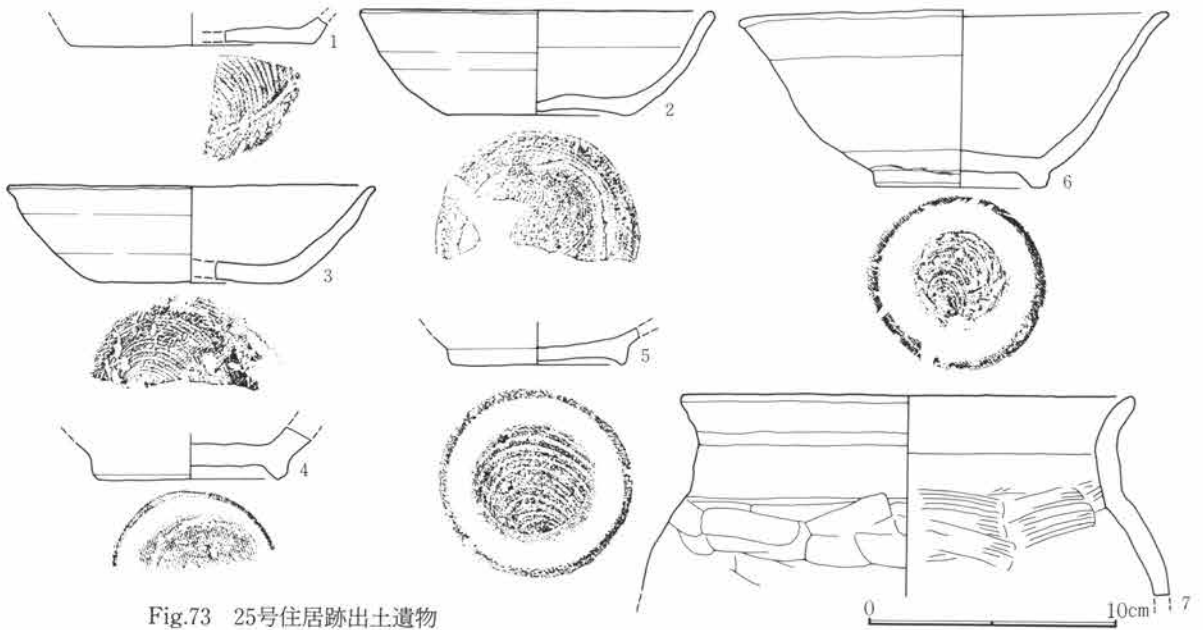


Fig.73 25号住居跡出土遺物

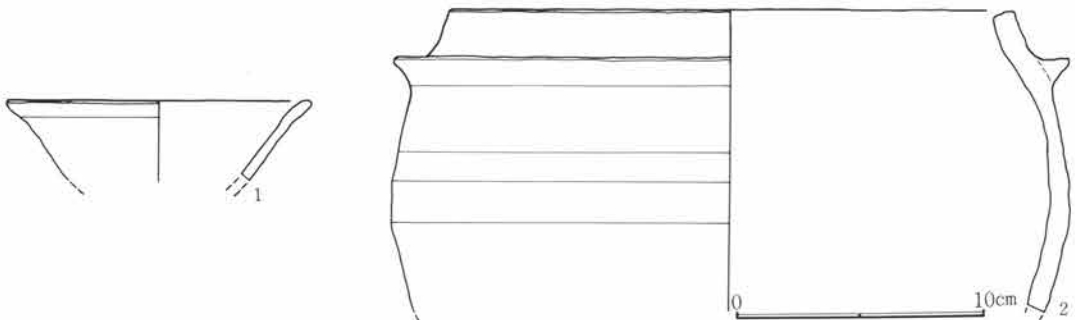


Fig.74 26号住居跡出土遺物(1)

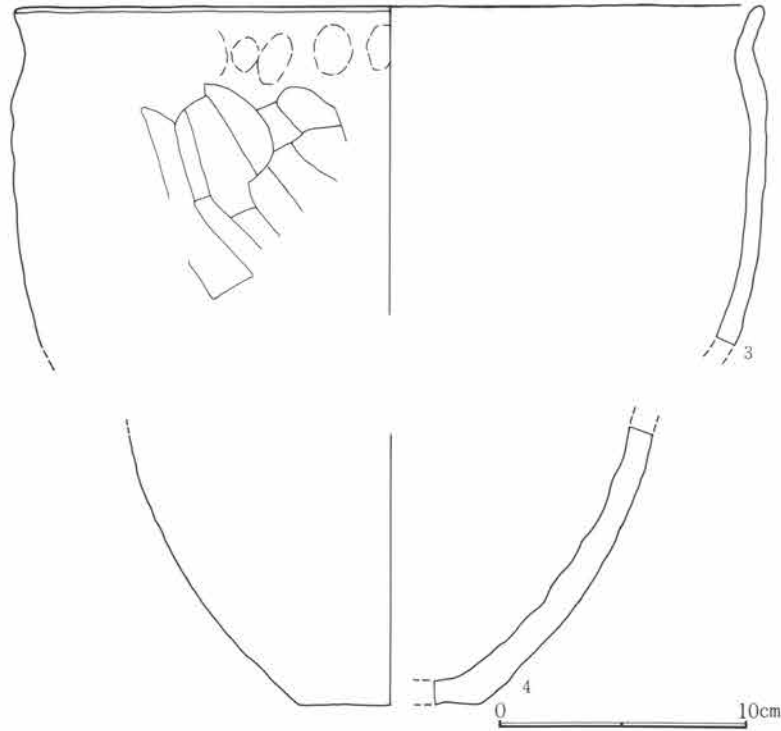


Fig.75 26号住居跡出土遺物(2)

第25号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
73-1	須恵器 坏	底-9.5	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③密④底部 残存
73-2	須恵器 碗	口-14.1	No 2	付高台欠落底部回転糸切口縁部緩やかに内湾する	①良好②灰色③2~3mmの 砂粒含む④残存
73-3	須恵器 坏	口-14.6 高-3.8 底-7.8	No 3	底部回転糸切口縁端部弱く外反する	①良好②灰色③2~3mmの 砂粒含む④残存
73-4	灰釉陶器 坏	底-7.0	覆土	底部回転ヘラ調整内面一部釉	①良好②白灰色③密④底部 残存
73-5	須恵器 碗	底-7.6	No 5	付高台底部回転糸切	①良好②灰色③1~2mmの 砂粒含む④底部残存
73-6	須恵器 碗	口-17.0	No 6	口縁部弱く外湾する付高台底部回転糸切口縁端部弱く外反する	①良好②白灰色③1~2mm の砂粒含む④残存
73-7	土師器 甕	口-18.0	No 7	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ヘラ状工具のナデ頸部弱いコの字状を呈する	①良好②赤褐色③2~3mm の砂粒含む④残存

第26号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
74-1	土師器 碗	口-12.0	覆土	口縁部外湾する	①良好②淡橙色③細砂粒含 む④口縁部残存
74-2	羽 釜	口-22.2	No 2	鏝上を向く口縁部内湾する	①良好②赤褐色③2~3mm の砂粒含む④口縁部残存
75-3	土師器 甕	口-29.4	No 3	胴部ヘラケズリ口縁部弱く外反する	①良好②にぶい橙色③2~3 mm砂粒含む④口縁部残存
75-4	土師器 甕	底-7.0	No 4		①良好②赤褐色③1~2mm の砂粒含む④底部残存

第2章 検出された遺構と遺物

27号住居跡 (Fig. 76・77、PL. 6・79)

F区東部に位置し31・32F27・28の範囲にある。23号住居跡の南西にあり、南半部を3号溝と重複する。新旧関係は3号溝が新しい。東半部は調査区域外へかかるためプランは確認されていない。床面はほぼ平坦をなす。平面形態、主軸方位は不明である。壁高は約10cm～15cmを測る。

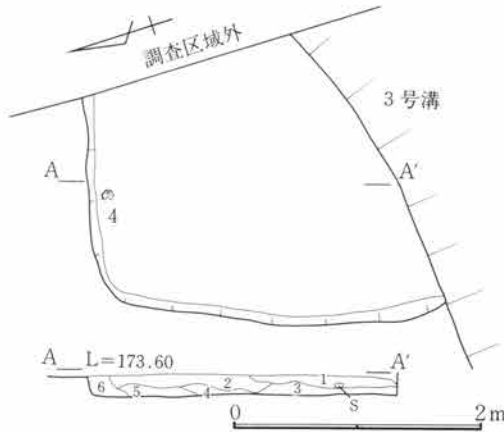


Fig.76 27号住居跡

27号住居跡

- 1 暗褐色土層 F Pを多量、炭化物を少量含む
- 2 暗褐色土層 炭化物を多量に含む
- 3 黄褐色土層 F Pを少量含む
- 4 暗褐色土層
- 5 暗褐色土層 炭化物を少量含む
- 6 黄褐色土層 炭化物を含む

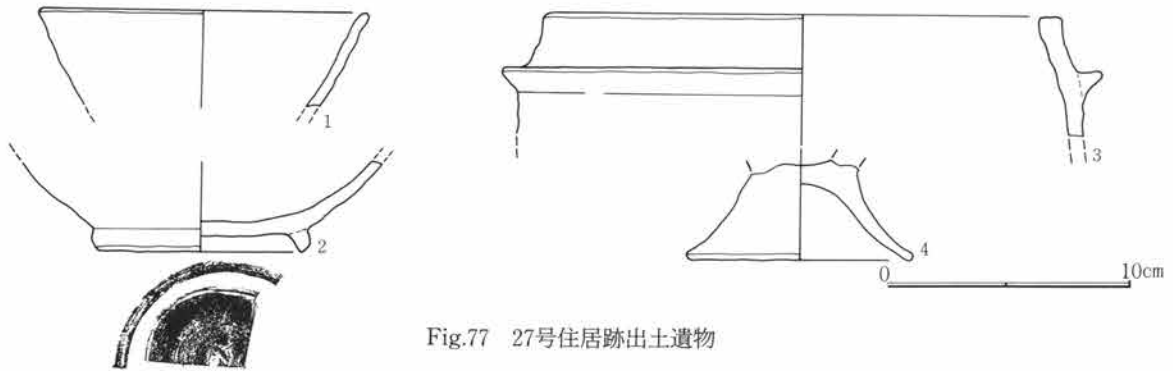


Fig.77 27号住居跡出土遺物

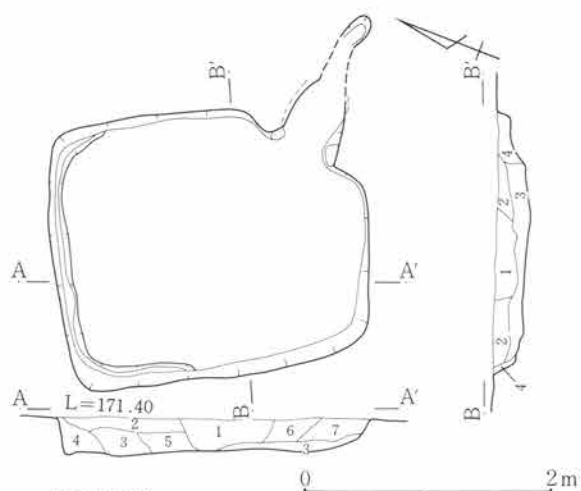
第27号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
77-1 79	須恵器 坏	口-13.1	覆土	口辺部直線状に外傾する	①良好②灰色③2～3mmの砂粒含む④口縁部破片
77-2 79	灰釉陶器 碗	底-8.1	覆土	内外面一部に釉	①良好②灰白色③密④底部%残存
77-3 79	羽釜	口-20.4	覆土	鋳上を向く口縁部内傾する	①良好②にぶい橙色③1～2mmの砂粒含む④破片
77-4 79	土師器 台付甕	底-9.1	No.4	内外面共にナデハの字状に開く	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④脚部%残存

28号住居跡 (Fig. 78・79・80、PL. 6・79)

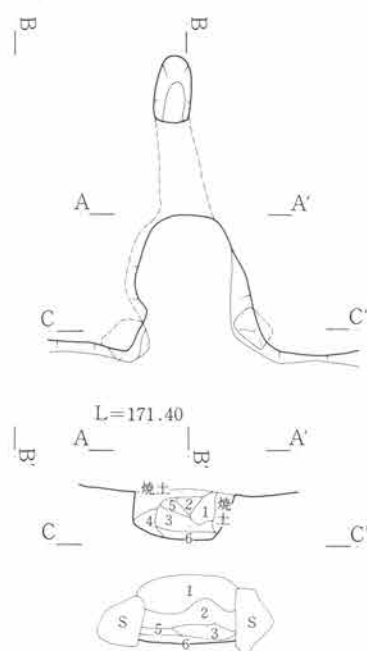
G区東部に位置し29～31G19・20の範囲にある。34号住居跡の西にあり、南東部を35号住居跡と重複する。新旧関係は28号住居跡が新しい。規模は長辺2.6m、短辺2.1mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-64°-Eである。壁高は約20cm～30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝は北・西壁に検出された。規模は幅約10cm、深さ約5cmを測る。貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈の遺存状態は良好で南東コーナーに煙道部の天井部を遺し検出された。長軸は南にふれN-97°-Eである。規模は袖幅約50cm、同長約50cm、煙道部長約70cmを測る。左袖部に構築材の石が検出された。

第1節 竪穴住居跡



- 28号住居跡
- 1 黒褐色土層 炭化物を少量含む
 - 2 暗褐色土層 FPを含む
 - 3 暗褐色土層 FP、FAを含む
 - 4 暗褐色土層 FPを含む
 - 5 暗褐色土層 FA泥流土を含む
 - 6 暗褐色土層 FPを含み、FAブロックを含む
 - 7 暗褐色土層 FPを含む

Fig.78 28号住居跡



- 28号住居跡竈
- 1 暗褐色土層 焼土を多量に含む、FAを含む
 - 2 暗褐色土層 焼土を含む
 - 3 暗褐色土層 焼土ブロックを含む
 - 4 暗褐色土層 黒色灰を含む
 - 5 暗褐色土層
 - 6 暗褐色土層 黒色灰を多量に含む

Fig.79 28号住居跡竈

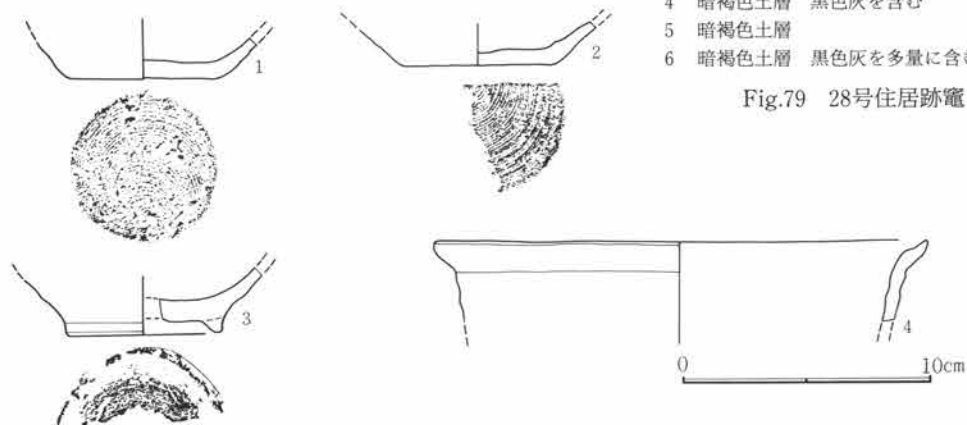


Fig.80 28号住居跡出土遺物

第28号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
80-1 79	須恵器 坏	底-5.9	覆土	底部回転糸切右廻り	①良好②灰色③密④底部残存
80-2 79	須恵器 坏	底-6.0	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④底部残存
80-3 79	須恵器 坏	底-6.0	覆土	付高台底部回転糸切	①やや軟質②灰色③1~2mmの砂粒含む④底部残存
80-4 79	土師器 甕	口-19.4	覆土	口縁部ヨコナデ口縁端部外反する	①良好②赤褐色③細砂粒含む④口縁部破片

29号住居跡 (Fig. 81・82・83、PL. 6・79・80)

G区南東部に位置し26~28G 5~7の範囲にある。30号住居跡の東にあり、他の遺構との重複はない。東

第2章 検出された遺構と遺物

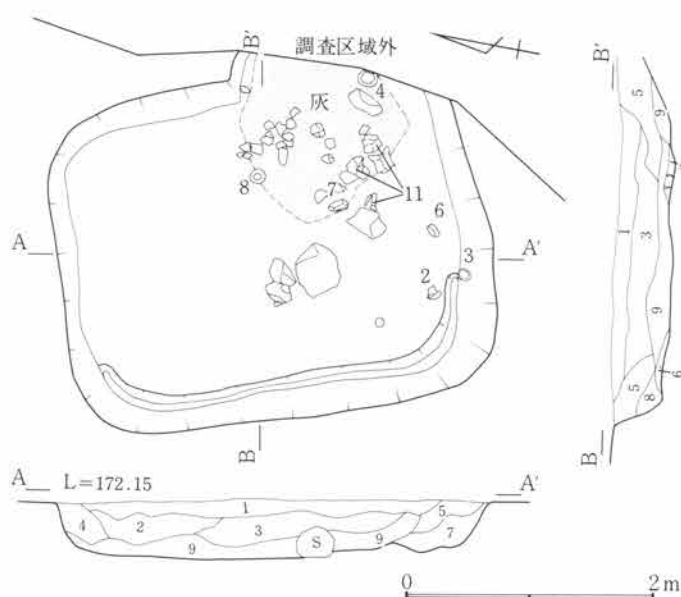


Fig.81 29号住居跡

側一部は調査区域外にあるためプランは確認できなかった。規模は長辺3.5m、短辺2.7mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約30cm~40cmを測る。壁周溝は北・西・南壁に検出された。規模は約10cm、深さ約5cm~10cmを測る。竈は検出されておらず、南東部に灰が検出され、調査区域外にあるものと思われる。

29号住居跡

- 1 暗褐色土層 FP、焼土粒を含む
- 2 暗褐色土層 焼土、炭化物を含む
- 3 暗褐色土層 FPを含む
- 4 暗褐色土層
- 5 暗褐色土層 FP、焼土粒を含む
- 6 暗褐色土層 FPを含む
- 7 暗褐色土層 FPを多量に含む
- 8 暗褐色土層
- 9 暗褐色土層 黒色灰、焼土、炭化物を含む

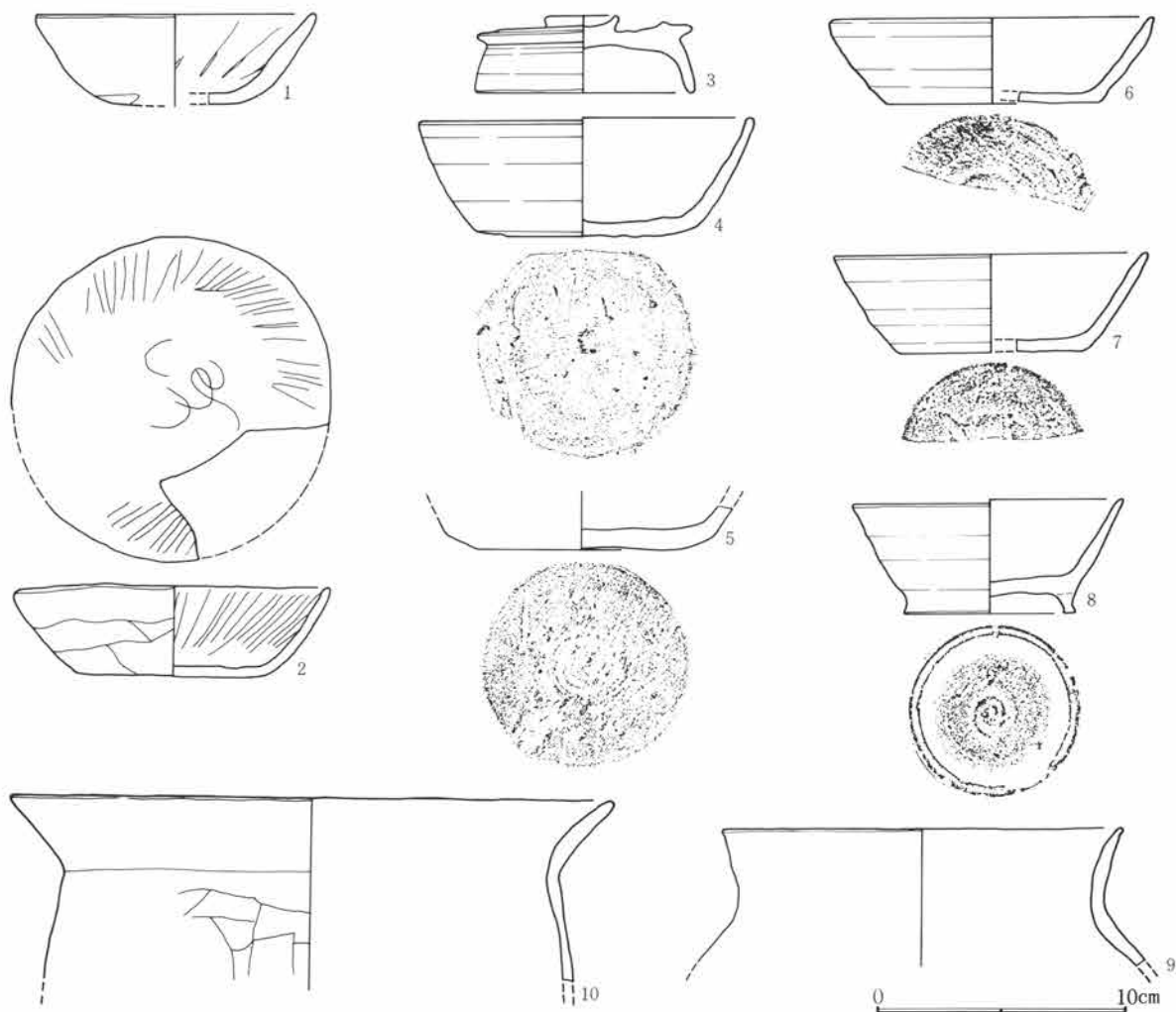


Fig.82 29号住居跡出土遺物(1)

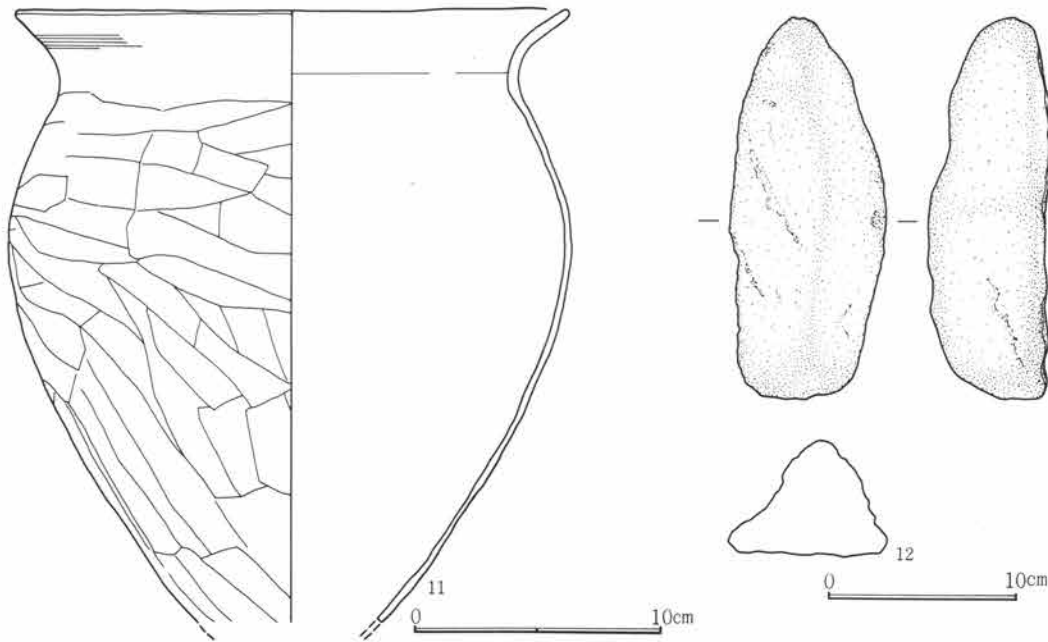


Fig.83 29号住居跡出土遺物(2)

第29号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
82-1 79	土師器 坏	口-11.0	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面暗文器肉厚く底部と腰部の境不明瞭	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存
82-2 79	土師器 坏	口-22.6 高-3.6 底-7.0	No.2	口縁部ヨコナデ体部底部ヘラケズリ内面暗文口縁部から底部の境不明瞭	①良好②橙色③細砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存
82-3 79	須恵器 蓋	口-8.6 高-3.1	No.3	端部に向かい内湾ぎみに開く上面外側へ水平に開く	①良好②灰色③密④完形
82-4 79	須恵器 坏	口-13.2 高-4.7 底-8.5	No.4	底部ヘラ切後ヘラ調整口縁部直線状に外傾する	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存
82-5 79	須恵器 坏	底-8.2	覆土	底部回転ヘラ調整	①良好②灰色③3~4mmの砂粒含む④底部残存
82-6 79	須恵器 坏	口-12.7 高-3.4 底-8.4	No.6	底部ヘラ調整底部は平底で口縁部は直線状に外傾する	①良好②灰色③密④ $\frac{1}{2}$ 残存
82-7 79	須恵器 坏	口-12.4 高-3.9 底-7.4	No.7	底部回転ヘラ調整口縁部直線状に外傾する	①良好②白灰色③細砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存
82-8 79	須恵器 埴	口-10.6 高-4.5 底-6.7	No.8	付高台底部回転ヘラ調整高台部先端平坦をなし口縁部直線状に外傾する	①良好②灰色③2~3mmの砂粒含む④完形
82-9 79	土師器 甕	口-16.0	覆土	口縁部ヨコナデ口縁部外湾する	①良好②赤褐色③細砂粒含む④口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存
82-10 79	土師器 甕	口-23.8	覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ口縁部外反する	①良好②赤褐色③細砂粒含む④口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存
83-11 80	土師器 甕	口-22.0	No.11	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②橙色③細砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存
Fig. 83-12 PL. 80 石 長-20.1cm 幅-8.35cm 厚-6.15cm 粗粒安山岩					

30号住居跡 (Fig. 84・85・86、PL. 7・79・80)

G区南東部に位置し28・29G 6~8の範囲にある。29号住居跡の西にあり、31号住居跡と重複する。新旧関係は30号住居跡が新しい。規模は長辺3.3m、短辺2.2mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-87°-Eである。壁高は約10cm~20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は袖幅約40cm、燃烧部長約50cmを測る。両袖部に構築材の石が検出された。

第2章 検出された遺構と遺物

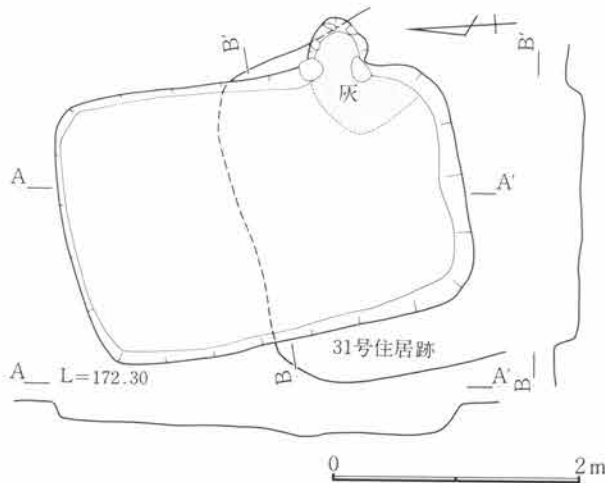
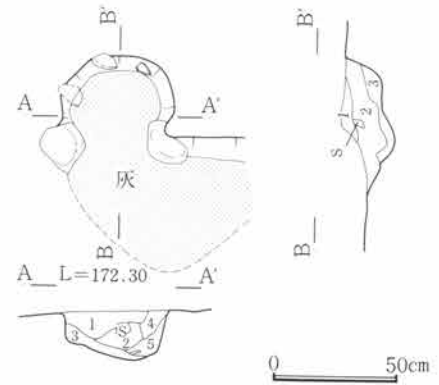


Fig.84 30号住居跡



30号住居跡竈

- 1 淡褐色土層 F Aブロックを多量に含む
- 2 暗褐色土層 F Pを含む
- 3 暗褐色土層 黒色灰を含む
- 4 黄褐色土層 F A泥流土を含む
- 5 淡褐色土層

Fig.85 30号住居跡竈

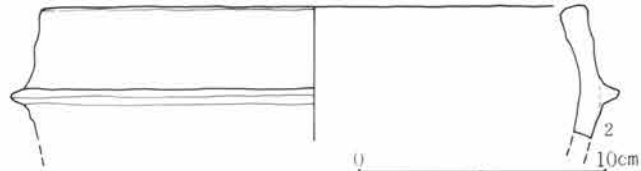
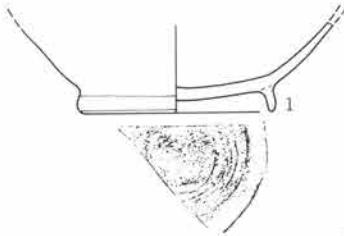


Fig.86 30号住居跡出土遺物

第30号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
86-1 79	灰釉陶器 壺	底-9.5	覆土	底部回転ヘラ調整	①良好②白灰色③密④底部 片残存
86-2 80	羽 釜	口-21.8	覆土	口縁部ヨコナデ口縁部内湾し鋤短く下を向く	①良好②にぶい橙色③細砂 粒含む④口縁部破片

31号住居跡 (Fig. 87・88、PL. 7・80)

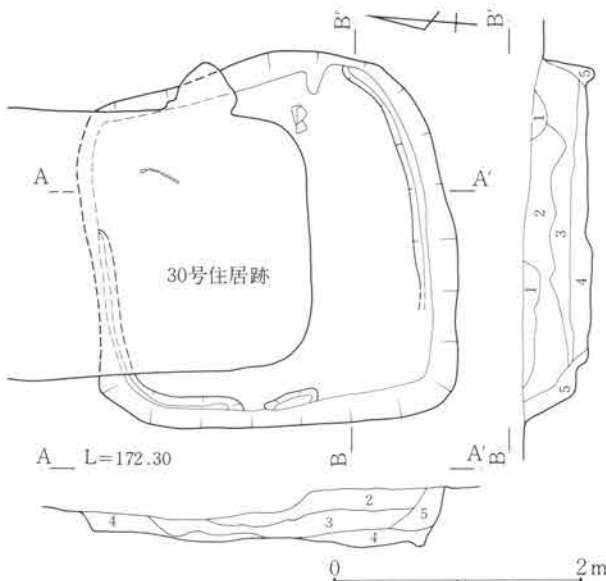


Fig.87 31号住居跡

G区南東部に位置し28・29G 6・7の範囲にある。29号住居跡の西にあり、30号住居跡と重複する。新旧関係は30号住居跡が新しい。規模は一辺3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝は南・西・北壁に検出された。規模は幅約10cm、深さ約5cmを測る。貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は検出されていない。

31号住居跡

- 1 暗褐色土層 F Pを含む
- 2 黄褐色土層 F Pを少量含む
- 3 黄褐色土層
- 4 暗褐色土層 泥流土を含む
- 5 暗褐色土層



Fig.88 31号住居跡出土遺物

第31号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
88-1 80	土師器 坏	口-12.1	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部外反する	①良好②明橙色③細砂粒含む④口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存
88-2 80	土師器 甕	口-12.6	竈覆土	口縁部内外面ヨコナデ胴部ヘラケズリ口縁部直線状に外傾し頸部に稜をもつ	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存

32号住居跡 (Fig. 89・90・91、PL. 7・80)

G区南東部に位置し26・27G 8～10の範囲にある。29号住居跡の北にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺3.7m、短辺2.5mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-90°-Eである。壁高は約10cm～20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁ほぼ中央に検出された。袖幅約70cm、燃烧部長約40cmを測る。両袖部に構築材の石が検出された。燃烧部中央部に支脚が検出された。また南東コーナーから竈構築材と思われる石が集中して検出された。

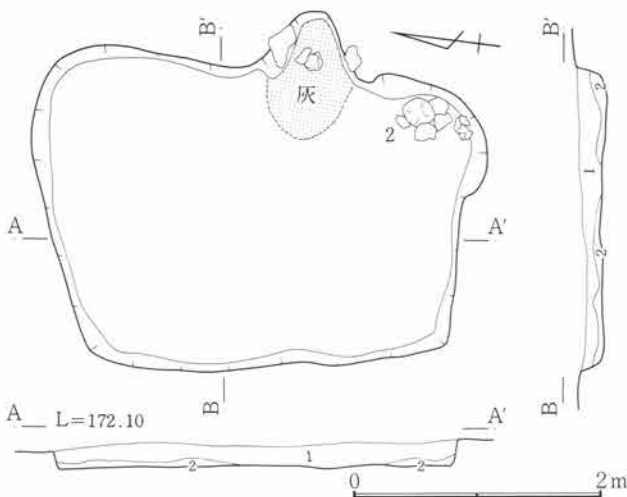


Fig.89 32号住居跡

規模は長辺3.7m、短辺2.5mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-90°-Eである。壁高は約10cm～20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁ほぼ中央に検出された。袖幅約70cm、燃烧部長約40cmを測る。両袖部に構築材の石が検出された。燃烧部中央部に支脚が検出された。また南東コーナーから竈構築材と思われる石が集中して検出された。

32号住居跡

- 1 暗褐色土層 FPを含む
- 2 黄褐色土層

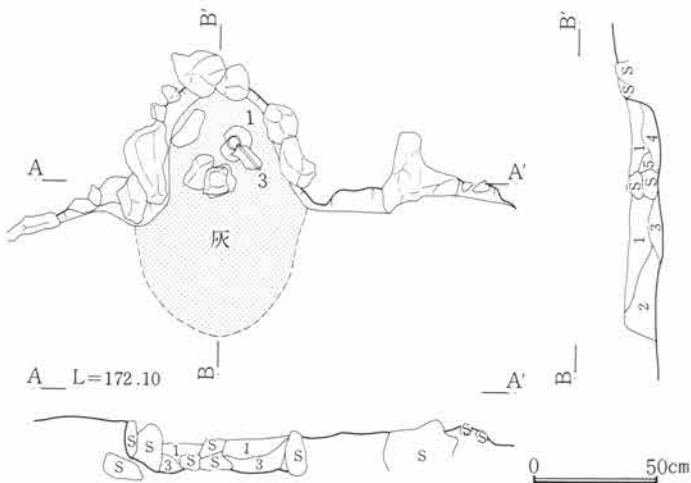


Fig.90 32号住居跡竈

32号住居跡竈

- 1 黄褐色土層
- 2 黒褐色土層 黒色灰を含む
- 3 黒色灰層
- 4 淡褐色土層 焼土を含む
- 5 暗褐色土層 黒色灰を少量含む

第2章 検出された遺構と遺物

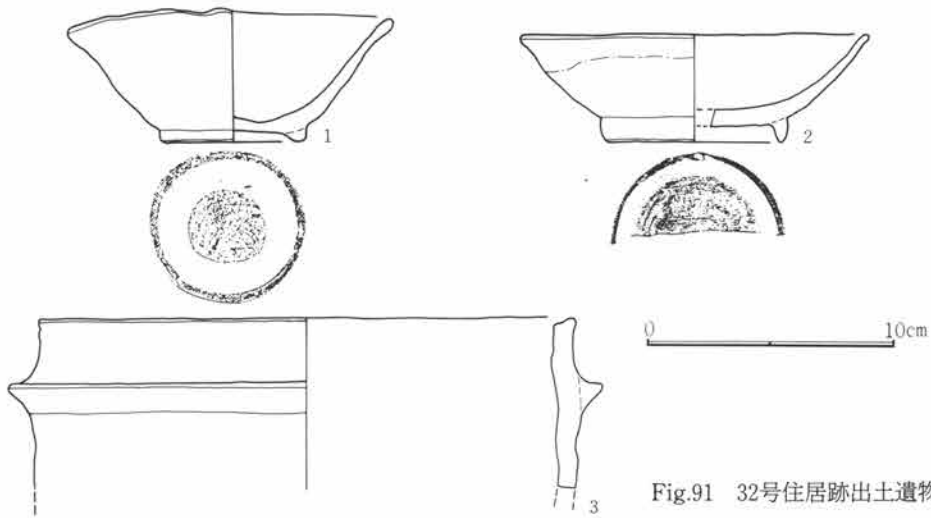


Fig.91 32号住居跡出土遺物

第32号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
91-1 80	須恵器 坏	口-12.9 高-5.2 底-5.8	No 1	口縁部ゆがみが大きい付高台底部回転糸切	①良好②灰色③5~6mmの砂粒含む④完形
91-2 80	灰釉陶器 塊	口-13.8 高-4.2 底-6.9	No 2	付高台底部ナデ調整口縁部に釉口縁端部弱く外側へ屈曲する	①良好②白灰色③2~3mmの砂粒含む④残存
91-3 80	羽釜	口-21.2	No 3	鈎やや上を向く口縁部直立ぎみ	①良好②橙色③2~3mmの砂粒含む④口縁部残存

33号住居跡 (Fig. 92・93・94、PL. 7・80・81)

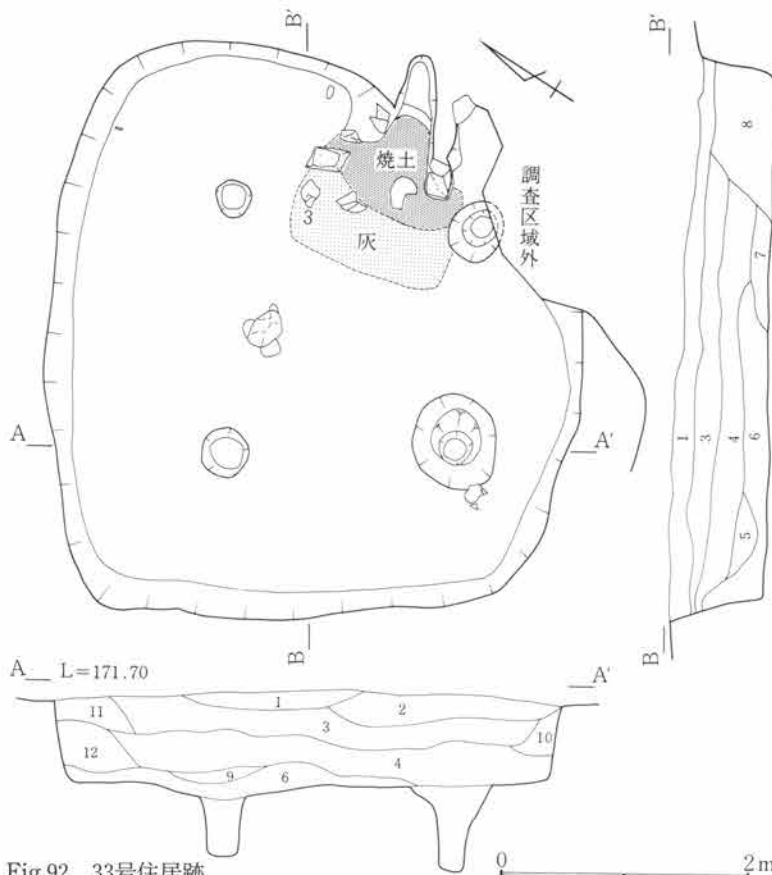


Fig.92 33号住居跡

G区南東部に位置し25~28G 14~16の範囲にある。32号住居跡の北にあり、他の遺構との重複関係はない。南東コーナーは調査区域外に延びるためプランは確認されていない。規模は長辺4.6m、短辺4.4mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-66°-Eである。壁高は約60cm~70cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は

33号住居跡

- 1 黒褐色土層 FPを多量に含む
- 2 暗褐色土層 砂粒を含む
- 3 暗褐色土層
- 4 黒褐色土層 FP、炭化物を少量含む
- 5 淡褐色土層 FP、FAを含む
- 6 淡褐色土層 炭化物を含む
- 7 灰褐色土層 大形FPを含む
- 8 暗褐色土層
- 9 暗褐色土層 FPを少量含む
- 10 黒褐色土層 FAブロックを含む
- 11 黒褐色土層 FA粒を含む
- 12 暗褐色土層 FA粒を含む

第1節 竪穴住居跡

検出されていない。竈は東壁に検出された。
 燃焼部幅約60cm、同長約90cmを測る。

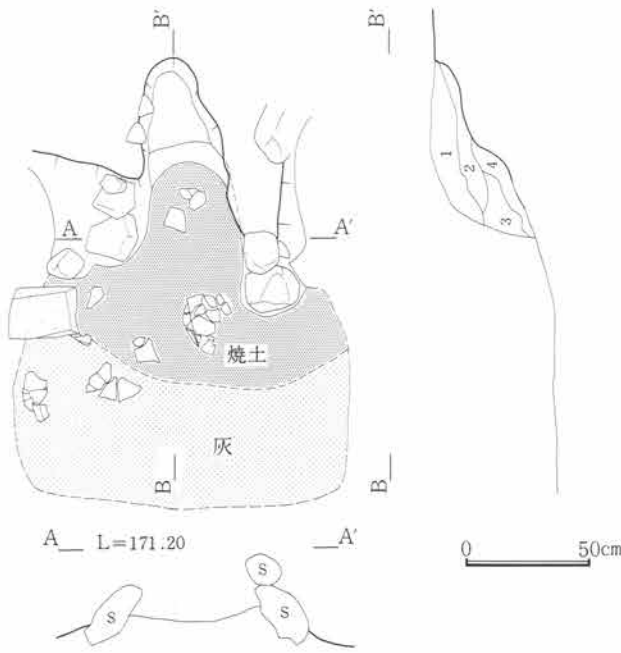


Fig.93 33号住居跡竈

33号住居跡竈

- 1 暗褐色土層
- 2 暗褐色土層 焼土を含む
- 3 暗褐色土層 焼土少量含む
- 4 暗褐色土層 焼土主体層

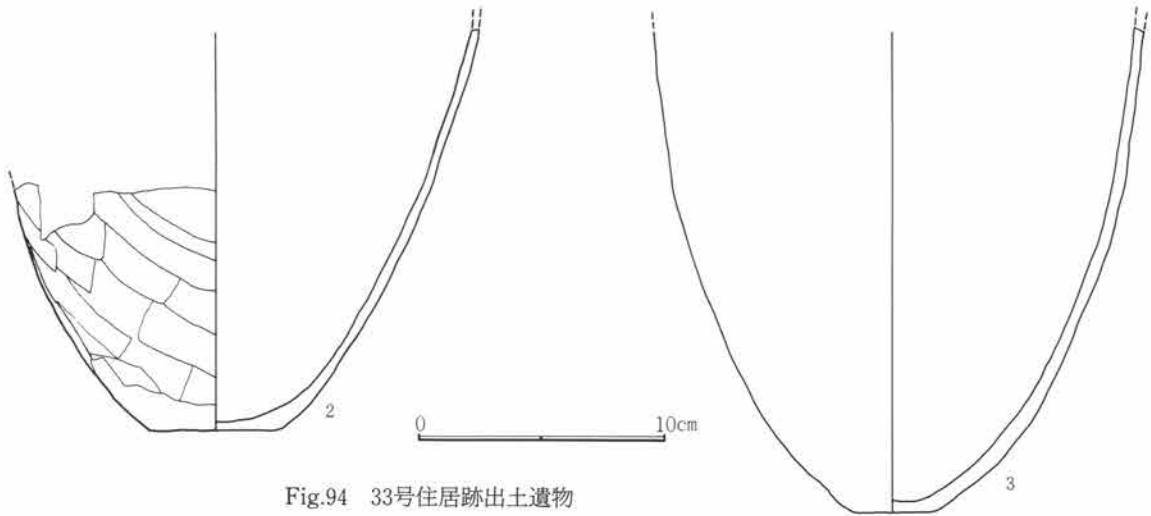
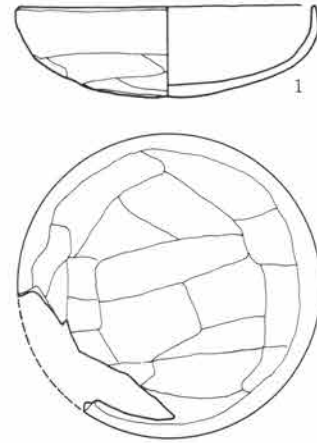


Fig.94 33号住居跡出土遺物

第33号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
94-1 80	土師器 坏	口-11.8 高-3.6	小穴 覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ口縁部と体部の間 弱いナデ内面ナデ口縁部直立ぎみ	①良好②にぶい橙色③1 ~2mm砂粒含む④ほぼ完形
94-2 80	土師器 甕	底-5.0	竈覆土	外面ヘラケズリ	①良好②にぶい橙色③1~2 mm砂粒含む④下胴部残存
94-3 81	土師器 甕	底-3.0	No.3	外面ヘラケズリ磨滅して不明瞭	①軟質②褐色③2~3mmの 砂粒含む④下胴部残存

34号住居跡 (Fig. 95・96・97・98、PL. 7・8・80・81)

G区東部に位置し26~28G19~21の範囲にある。33号住居跡の北にあり、西部を35号住居跡と重複する。
 新旧関係は35号住居跡が新しい。規模は長辺3.8m、短辺3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位

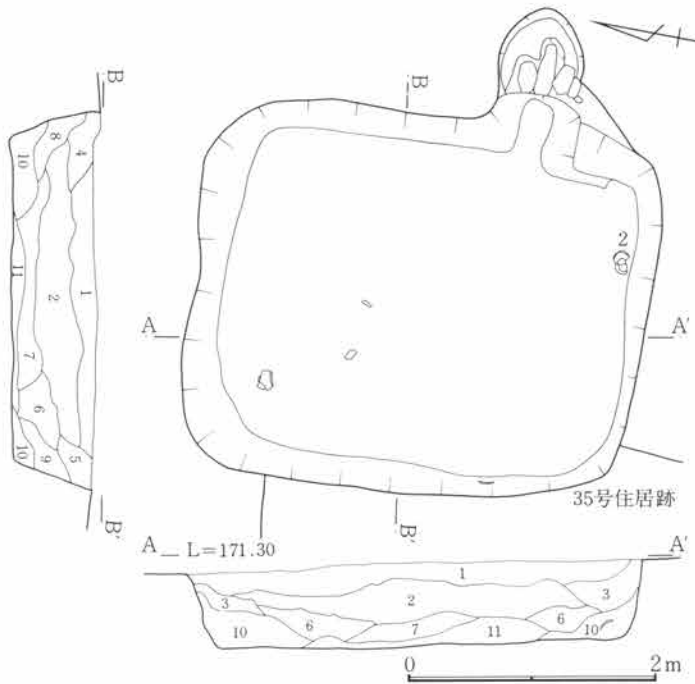


Fig.95 34号住居跡

はN-84°-Eである。壁高は約50cm～60cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。竈の形態は燃焼部から煙道部との境目に約30cmの段差をもち上面から石が検出された。規模は燃焼部幅約50cm、同長約40cm、煙道部長約70cmを測る。

34号住居跡

- 1 暗褐色土層 FP、焼土粒を含む
- 2 暗褐色土層 FP、炭化物ブロックを含む
- 3 暗褐色土層 炭化物を含む
- 4 暗褐色土層 FPを含む
- 5 暗褐色土層
- 6 暗褐色土層 榛名泥流を少量含む
- 7 暗褐色土層
- 8 黄褐色土層
- 9 暗褐色土層
- 10 暗褐色土層 砂礫を含む
- 11 暗褐色土層 炭化物を多量に含む

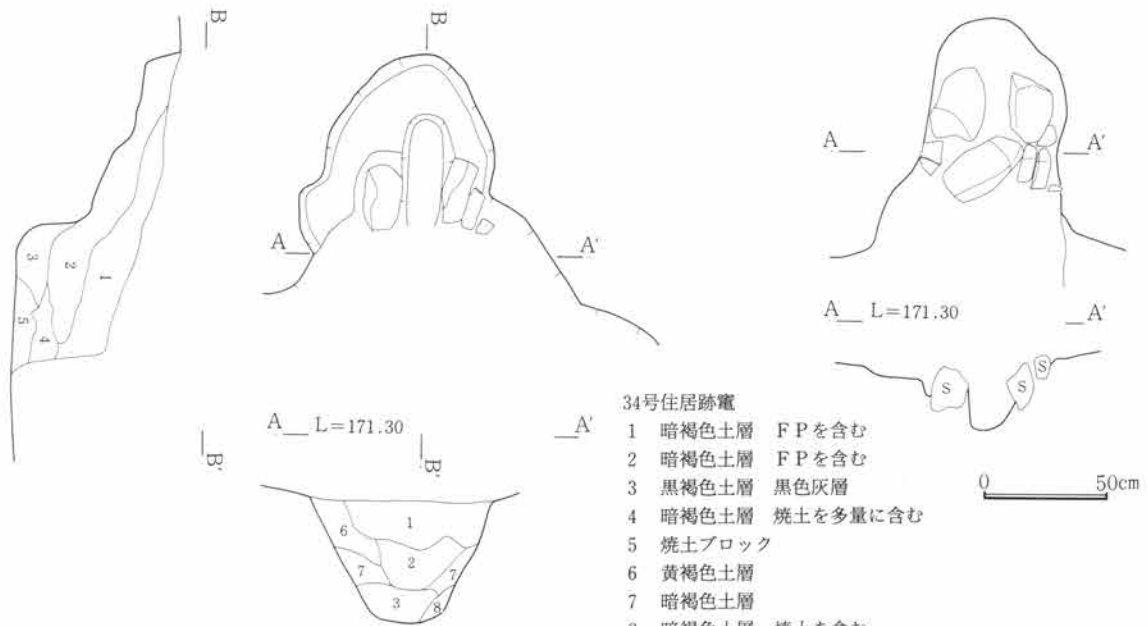


Fig.96 34号住居跡竈

34号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 FPを含む
- 2 暗褐色土層 FPを含む
- 3 黒褐色土層 黒色灰層
- 4 暗褐色土層 焼土を多量に含む
- 5 焼土ブロック
- 6 黄褐色土層
- 7 暗褐色土層
- 8 暗褐色土層 焼土を含む

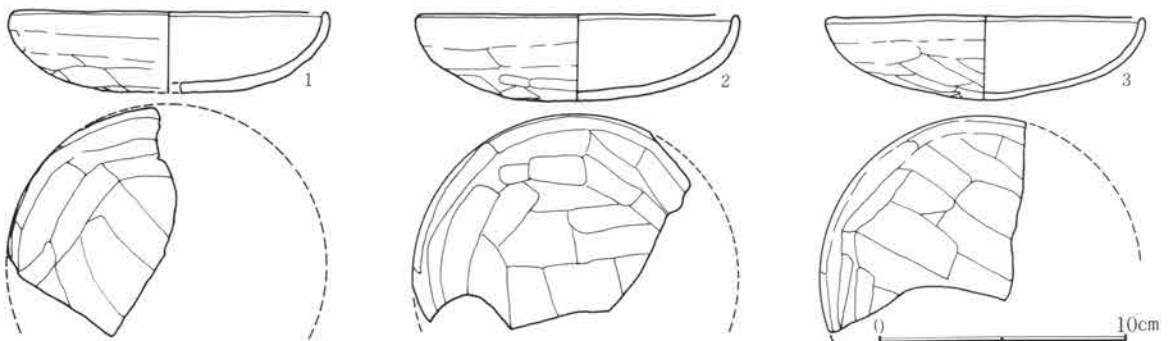


Fig.97 34号住居跡出土遺物(1)

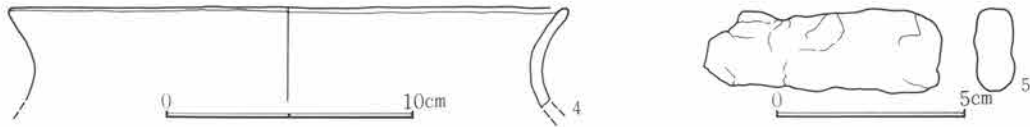


Fig.98 34号住居跡出土遺物(2)

第34号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
97-1 80	土師器 坏	口-12.6 高-3.2	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ口縁部体部の間弱いナデ内面ナデ口縁部直立ぎみ	①良好②にぶい橙色③1~2mmの砂粒含む④½残存
97-2 80	土師器 坏	口-12.8 高-3.4	No.2	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ口縁部体部の間弱いナデ内面ナデ口縁部直立ぎみ	①良好②橙色③1~2mmの砂粒含む④½残存
97-3 81	土師器 坏	口-12.7 高-3.3	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ口縁部体部の間弱いナデ内面ナデ口縁部直立ぎみ	①良好②にぶい橙色③1~2mmの砂粒含む④½残存
98-4 81	土師器 甕	口-22.2	覆土	口縁部ヨコナデ口縁部外反する	①良好②橙色③細砂粒含む④口縁部破片
Fig. 98-5 PL. 81		鉄製品 長-6.3cm 厚-1.1cm			

35号住居跡 (Fig. 99・100・101、PL. 8・81)

G区東部に位置し28~30G18~20の範囲にある。30号住居跡の北西にあり、東部を34号住居跡、北西部を28号住居跡と重複する。新旧関係は28号住居跡が旧く、34号住居跡が新しい。規模は長辺4.4m、短辺3.9mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-76°-Eである。壁高は約50cm~60cmである。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていないが、南東コーナーに約10cmの不定形の落ち込みが確認された。竈は東壁に検出された。規模は燃烧部幅約90cmを測る。竈の先端は34号住居跡により切り崩されているが、約50cmを遺している。

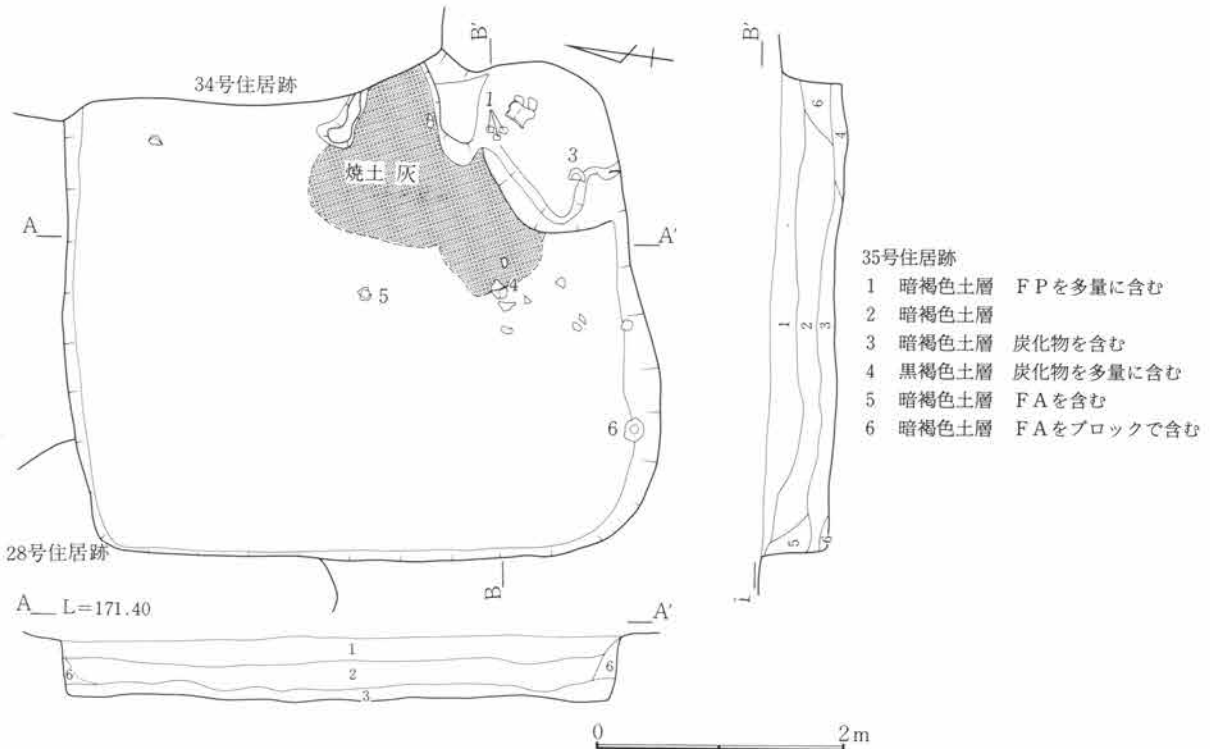
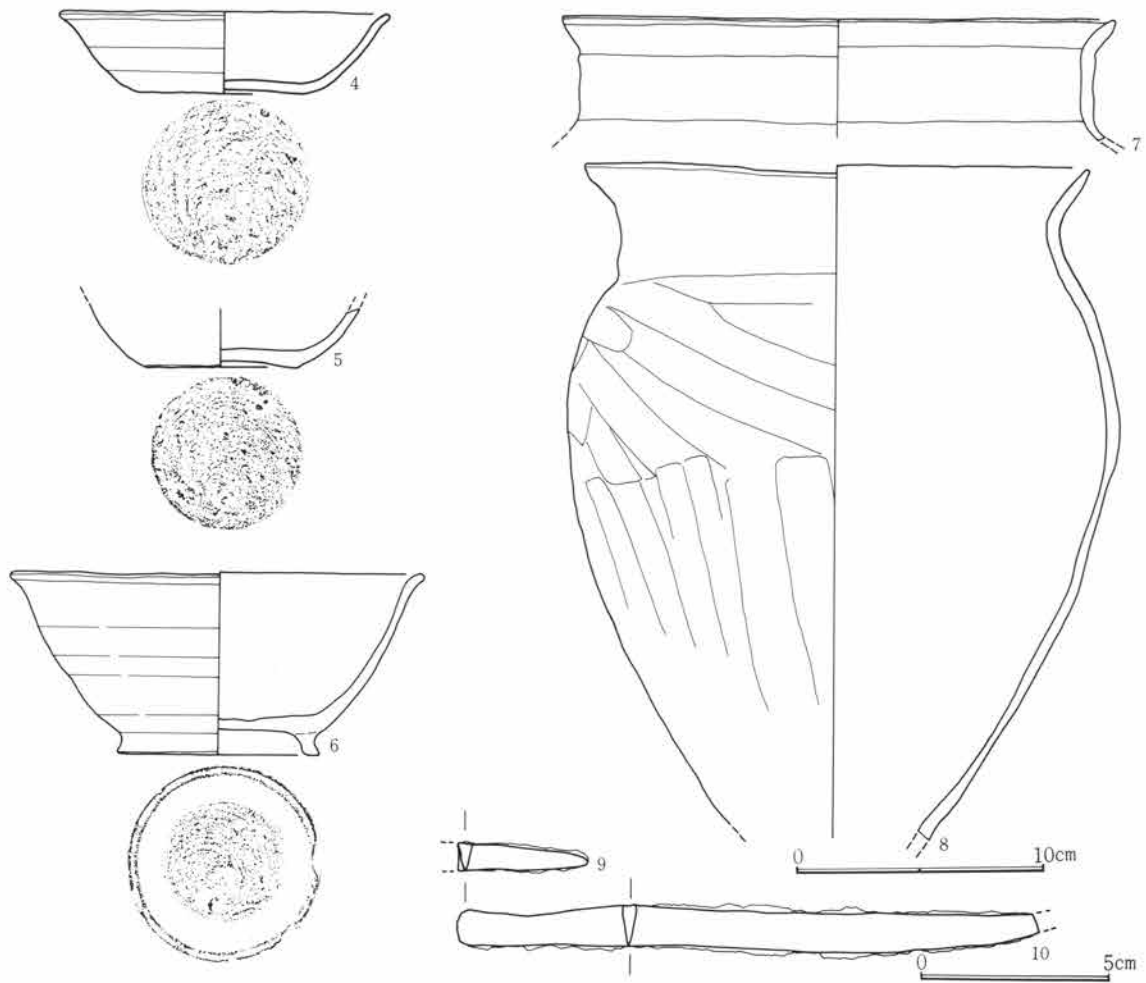
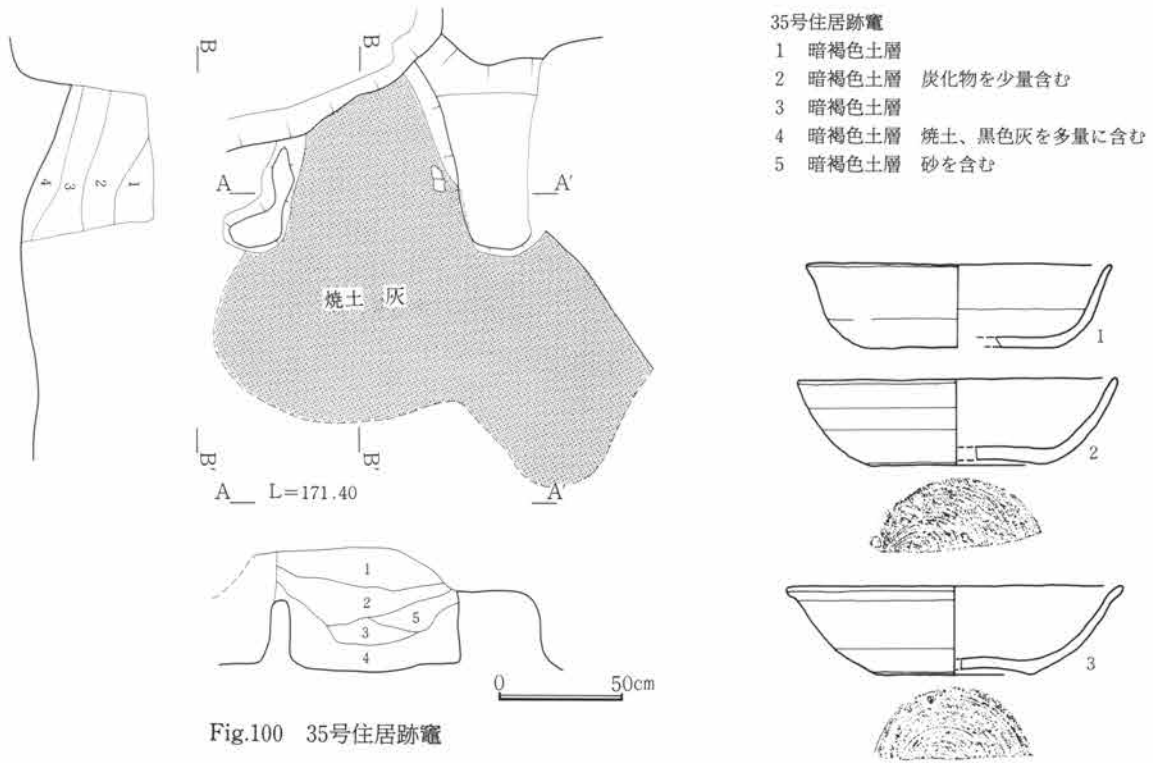


Fig.99 35号住居跡

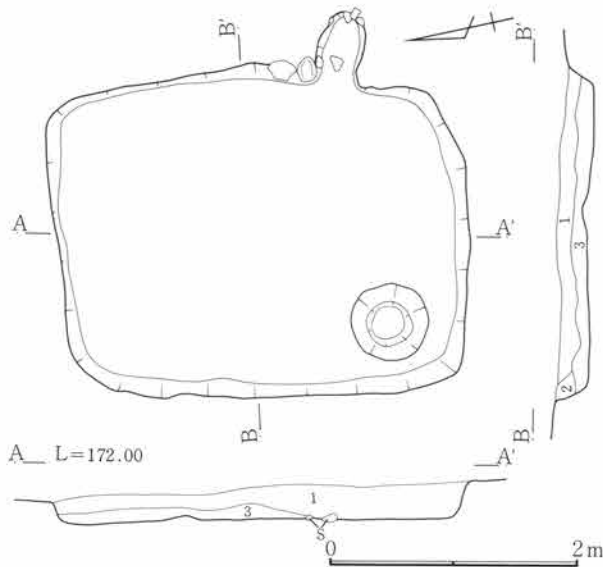


第35号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
101-1 81	土師器 坏	口-12.2 高-3.3 底-7.2	No.1	口縁部ヨコナデ体部弱いナデ内面ナデ	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存
101-2 81	須恵器 坏	口-12.8 高-3.4 底-7.0	覆土	底部回転糸切口縁部弱く内湾して立ち上がる	①良好②灰色③密④ $\frac{1}{2}$ 残存
101-3 81	須恵器 坏	口-13.4 高-3.5 底-6.2	No.3	底部回転糸切口縁部外側へ屈曲する	①良好②灰色③2~3mmの砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存
101-4 81	須恵器 坏	口-13.1 高-3.2 底-6.8	No.4	底部回転糸切右廻り口縁部外側へ弱く屈曲する	①良好②灰色③3~4mmの砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存
101-5 81	須恵器 坏	底-6.1	No.5	底部回転糸切右廻り	①良好②灰色③3~4mmの砂粒含む④底部残存
101-6 81	須恵器 壺	口-16.4 高-7.2 底-8.0	No.6	付高台底部回転糸切右廻り口縁部外側へ屈曲する	①良好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④ほぼ完形
101-7	土師器 甕	口-22.0	覆土	口縁部ヨコナデコの字状を呈する	①良好②橙色③細砂粒含む④口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存
101-8 81	土師器 甕	口-20.0	覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部だれたコの字状を呈する	①良好②赤褐色③1~2mmの砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存
Fig. 101-9 PL. 81	鉄製品 長-3.4cm 厚-4mm 刀子?				
Fig. 101-10 PL. 81	鉄製品 長-15.6cm 厚-4mm 刀子				

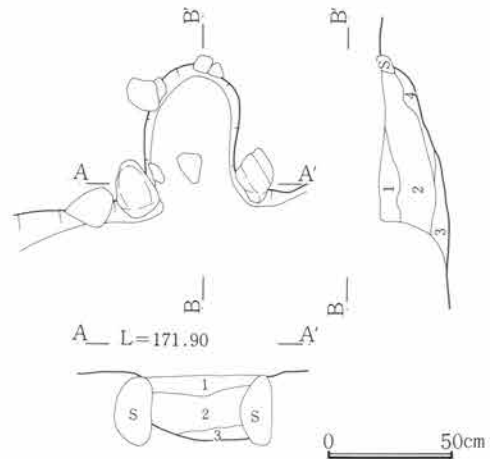
36号住居跡 (Fig. 102・103・104, PL. 8・81)

G区東部に位置し30・31G13~15の範囲にある。30号住居跡の南西にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺3.4m、短辺2.9mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-91°-Eである。壁高は約20cm~30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。竈長軸の方位は住居跡の方位とずれ、N-119°-Eである。規模は燃焼部幅約40cm、同長約70cmを測る。



- 36号住居跡
- 1 暗褐色土層 FPを含む
 - 2 暗褐色土層 黄褐色土を含む
 - 3 暗褐色土層

Fig.102 36号住居跡



- 36号住居跡竈
- 1 暗褐色土層 FPを含む
 - 2 暗褐色土層 炭化物を含む
 - 3 暗褐色土層 焼土、炭化物、灰を含む
 - 4 黒褐色土層 黒色灰を含む

Fig.103 36号住居跡竈

第2章 検出された遺構と遺物

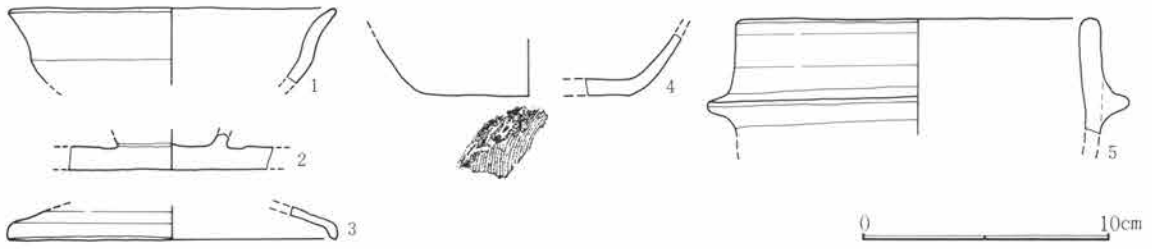


Fig.104 36号住居跡出土遺物

第36号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
104-1 81	土師器 坏	口-13.0	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部弱く外反する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存
104-2 81	須恵器 蓋		覆土		①良好②灰白色③密④つまみ部残存
104-3	須恵器 蓋	口-13.0	覆土	外面回転ヘラ調整	①良好②灰白色③密④ $\frac{1}{2}$ 残存
104-4 81	須恵器 坏	底-8.0	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④底部 $\frac{1}{2}$ 残存
104-5 81	羽釜	口-14.4	覆土	口縁部直立する銚短く横を向く	①良好②灰褐色③2~3mmの砂粒含む④口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存

37号住居跡 (Fig. 105・106・107、PL. 8・82)

G区東部に位置し30~32G9~11の範囲にある。36号住居跡の南にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺3.4m、短辺2.9mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-64°-Eである。壁高は約60cm~70cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁ほぼ中央に上面を攪乱された状態で検出された。規模は燃焼部幅約90cm、同長約60cmを測る。

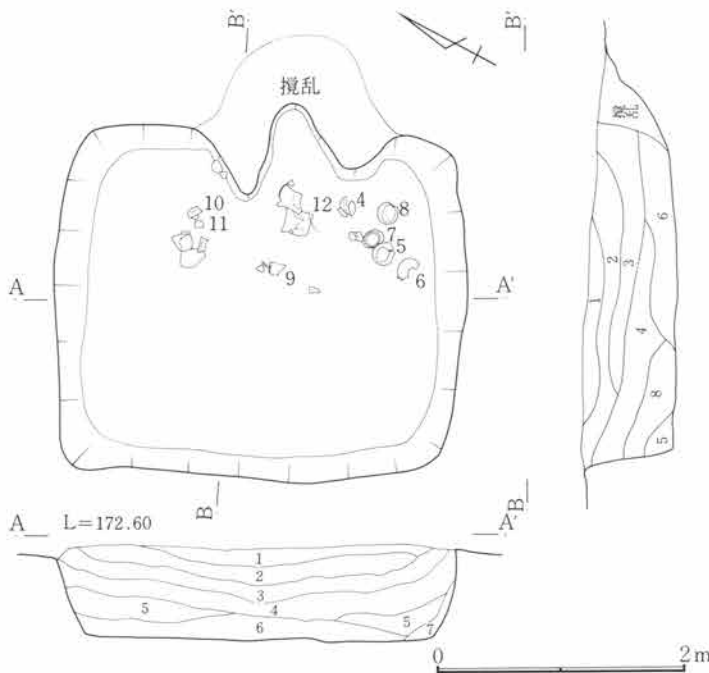


Fig.105 37号住居跡

37号住居跡

- 1 暗褐色土層
- 2 暗褐色土層 FA泥流土を含む
- 3 暗褐色土層 FA小ブロックを含む
- 4 暗褐色土層 黒色土を含む
- 5 暗褐色土層 FAを含む
- 6 暗褐色土層 泥流土を含む
- 7 暗褐色土層 黄褐色土を含む
- 8 暗褐色土層 FAを含む

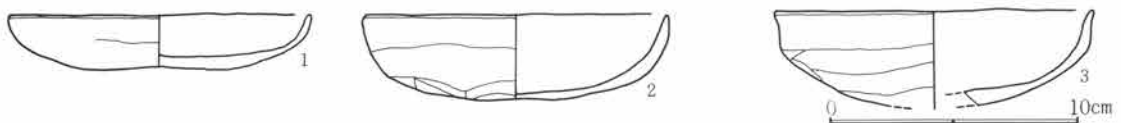


Fig.106 37号住居跡出土遺物(1)

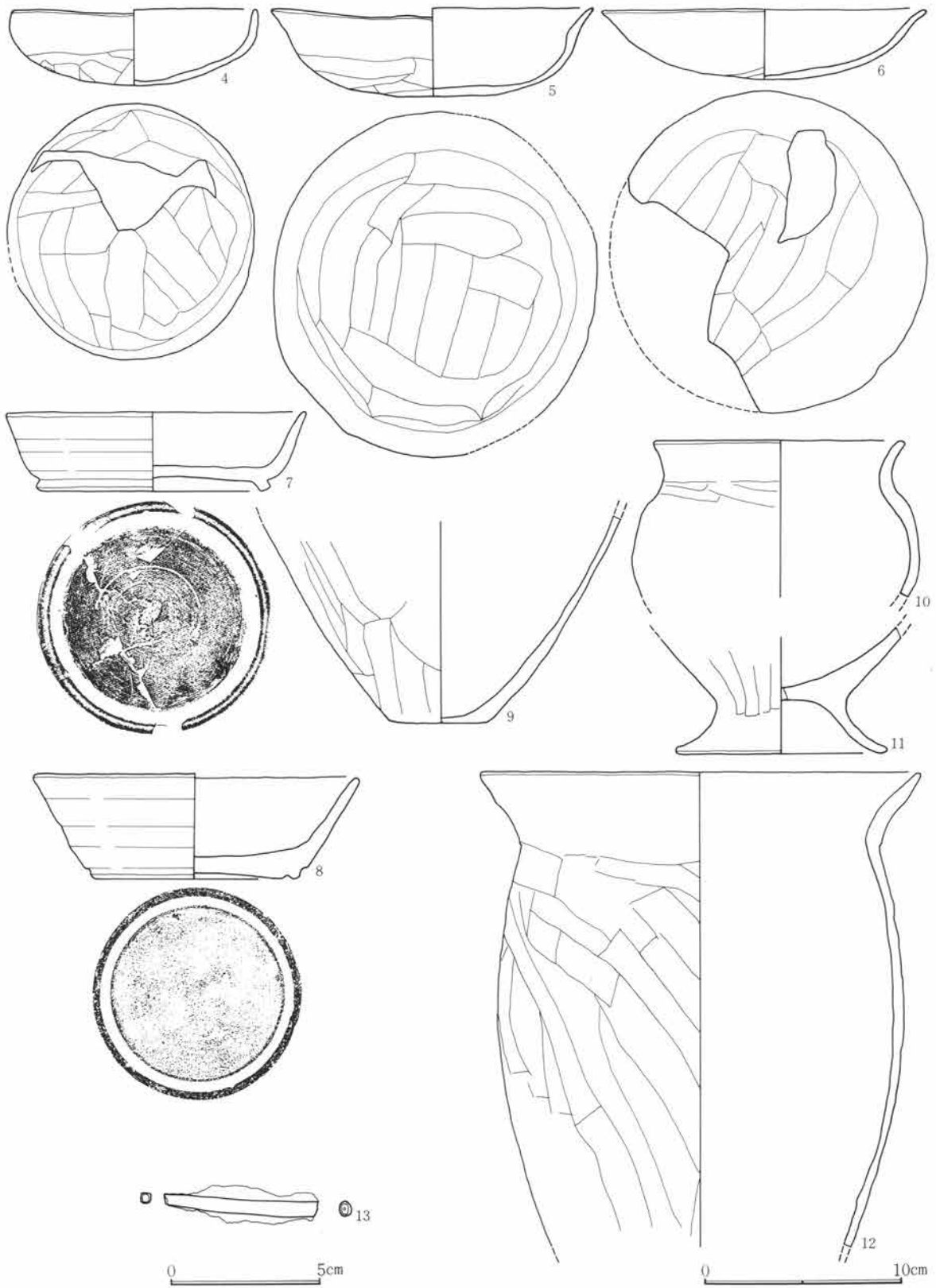


Fig.107 37号住居跡出土遺物(2)

第2章 検出された遺構と遺物

第37号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
106-1 82	土師器 坏	口-12.0 高-2.0	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ口縁部体部の間弱いナデ内面ナデ口縁部直立ぎみ	①良好②明赤褐色③細砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存
106-2 82	土師器 坏	口-12.0 高-3.3	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ口縁部体部の間弱いナデ口縁部直立ぎみ	①良好②橙色③細砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存
106-3 82	土師器 坏	口-12.7	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部外反する	①良好②にぶい橙色③1~2mmの砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存
107-4 82	土師器 坏	口-12.2 高-3.7	No.4	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ口縁部体部の間弱いナデ内面ナデ口縁部直立ぎみ	①良好②橙色③細砂粒含む④完形
107-5 82	土師器 坏	口-16.1 高-4.4	No.5	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部外反する	①良好②橙色③1~2mmの砂粒含む④完形
107-6 82	土師器 坏	口-16.1 底-3.5	No.6	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部外反する	①軟質②橙色③1~2mmの砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存
107-7 82	須恵器 埴	口-14.9 高-3.9 底-11.0	No.7	底部回転ヘラ調整付高台口縁部直線状に外傾する	①良好②灰色③密④完形
107-8 82	須恵器 埴	口-16.0 高-5.2 底-10.0	No.8	底部糸切後回転ヘラ調整ケズリ出し高台口縁部直線状に外傾する	①良好②灰色③砂粒含むが密④完形
107-9 82	土師器 甕	底-4.8	No.9	外面ヘラケズリ内面ナデ	①良好②橙色③細砂粒含む④底部残存
107-10 82	土師器 甕	口-12.5	No.10	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部外湾する	①良好②橙色③1~2mmの砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存
107-11 82	土師器 台付甕	底-10.0	No.11	胴下部ヘラケズリ脚部ヨコナデ内面ナデ脚部ハの字状に開き端部外湾する	①良好②明赤褐色③細砂粒含む④脚部 $\frac{1}{2}$ 残存
107-12 82	土師器 甕	口-22.0	No.12	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部外反する	①良好②橙色③細砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存
Fig. 107-13 PL. 82 鉄製品 長-5.1cm 厚-4mm 釘					

38号住居跡 (Fig. 108・109・110、PL. 9・82・83)

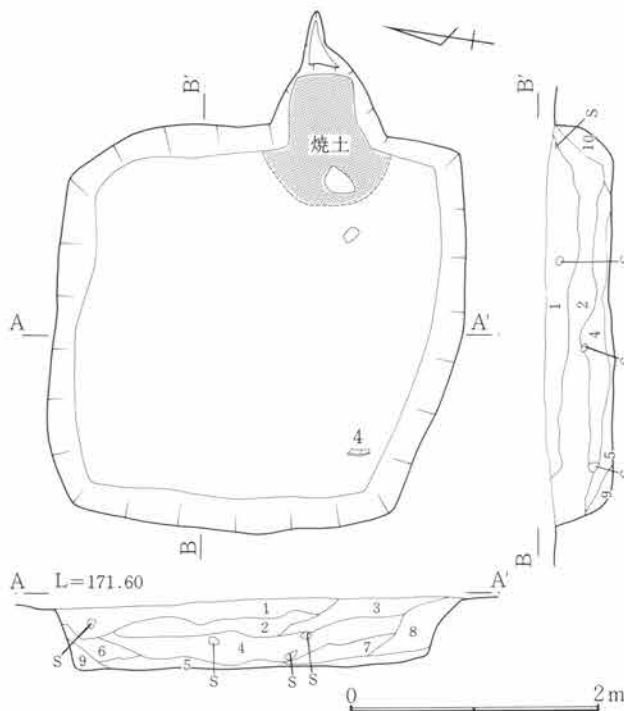
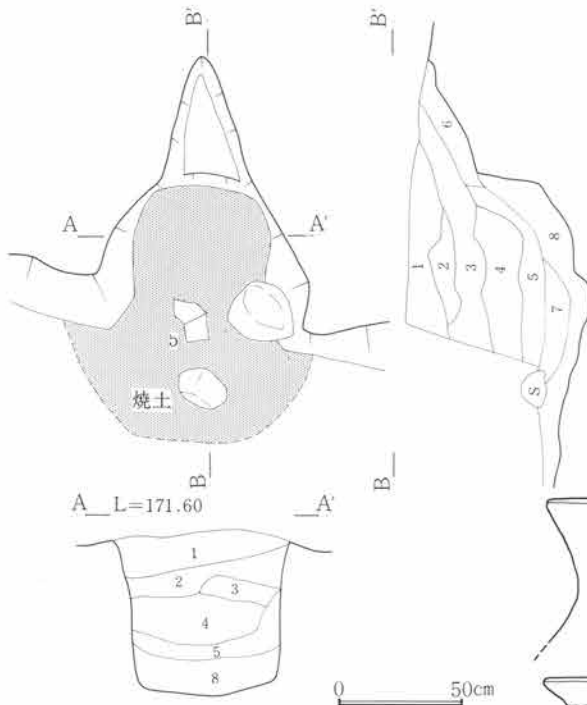


Fig.108 38号住居跡

G区東部に位置し31~33G17~19の範囲にある。35号住居跡の南西にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺3.3m、短辺3.2mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-85°-Eである。壁高は約45cm~50cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃烧部幅約80cm、同長約60cm、煙道部長約40cmを測る。

38号住居跡

- 1 暗褐色土層 F P、焼土粒を含む
- 2 暗褐色土層 F P、焼土、炭化物を含む
- 3 暗褐色土層 F P、炭化物を含む
- 4 暗褐色土層 F Pを含む
- 5 暗褐色土層 F Pを多量に含む
- 6 暗褐色土層
- 7 黄褐色土層 焼土、炭化物を含む
- 8 黄褐色土層 焼土を多量に含む
- 9 暗褐色土層
- 10 暗褐色土層 焼土粒を含む、砂質土



38号住居跡竈

- 1 暗褐色土層
- 2 暗褐色土層 FAを含む
- 3 暗褐色土層
- 4 淡褐色土層
- 5 淡褐色土層 黑色灰、焼土を含む
- 6 淡褐色土層 焼土粒を含む
- 7 淡褐色土層 焼土、黑色灰を多量に含む
- 8 淡褐色土層 焼土、黑色灰を含む

Fig.109 38号住居跡竈

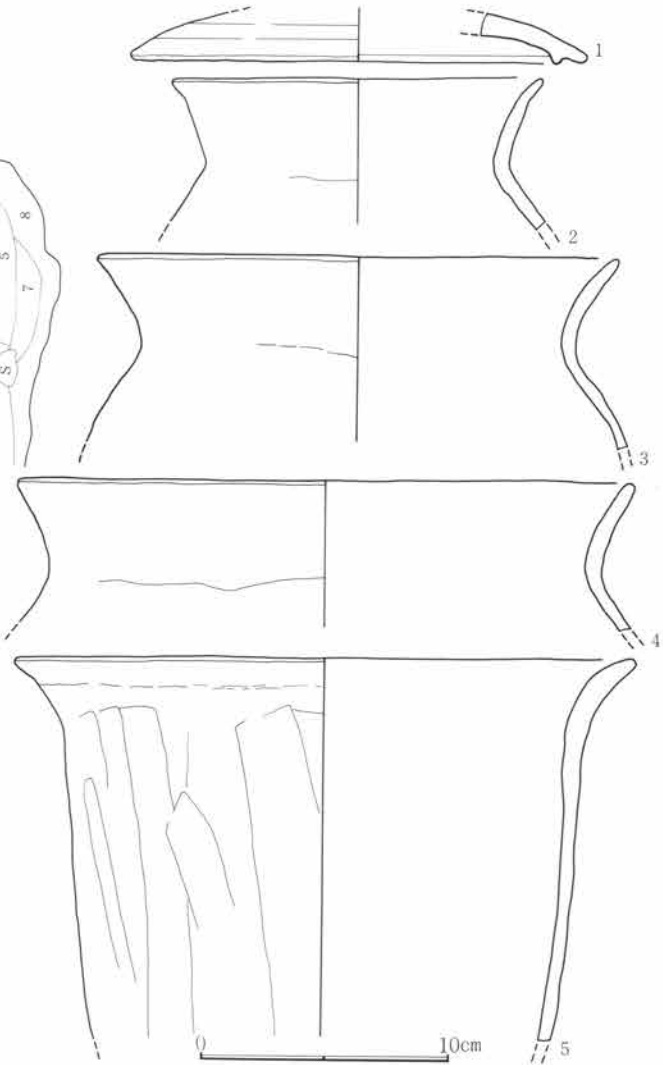


Fig.110 38号住居跡出土遺物

第38号住居跡出土遺物観察表

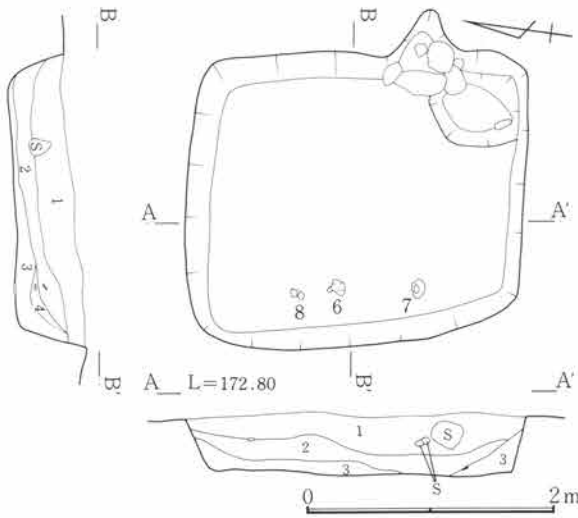
Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
110-1 82	須恵器 蓋	□-18.2	覆土	内面に返りをもつ外面回転ヘラ調整	①良好②灰色③密④½残存
110-2 82	土師器 甕	□-15.7	覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部外反する	①良好②橙色③細砂粒含む ④口縁部½残存
110-3 83	土師器 甕	□-20.7	覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部外湾する	①良好②橙色③細砂粒含む ④口縁部½残存
110-4 83	土師器 甕	□-24.6	No.4	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ヨコナデ口縁部外反する	①良好②橙色③細砂粒含む ④口縁部½残存
110-5 83	土師器 甕	□-24.6	No.5	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部外反する	①良好②にぶい橙色③3~4mm砂粒含む④口縁部½残存

40号住居跡 (Fig. 111・112・113・114、PL. 9・83)

G区南東部に位置し33・34G 3・4の範囲にある。30号住居跡の南西にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺2.8m、短辺2.4mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-80°-Eである。壁高は約30cm~50cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南

第2章 検出された遺構と遺物

寄りに検出された。竈両袖部に構築材の石が検出され、さらに袖石の上に長い天井石が確認された。規模は袖幅約60cm、燃烧部長約60cmを測る。



- | | | | |
|----------------|--|--------------------|--|
| 40号住居跡 | | 40号住居跡竈 | |
| 1 暗褐色土層 F Pを含む | | 1 暗褐色土層 焼土、炭化物を含む | |
| (大形径約30cm) | | 2 暗褐色土層 F Pを含む | |
| 2 暗褐色土層 F Pを含む | | 3 暗褐色土層 F P、炭化物を含む | |
| 3 暗褐色土層 | | 4 暗褐色土層 炭化物を含む | |
| 4 暗褐色土層 炭化物を含む | | 5 暗褐色土層 焼土、炭化物を含む | |

Fig.111 40号住居跡

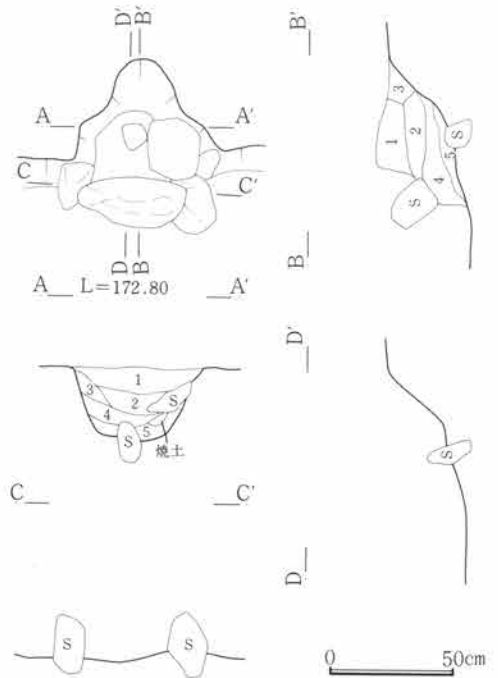


Fig.112 40号住居跡竈

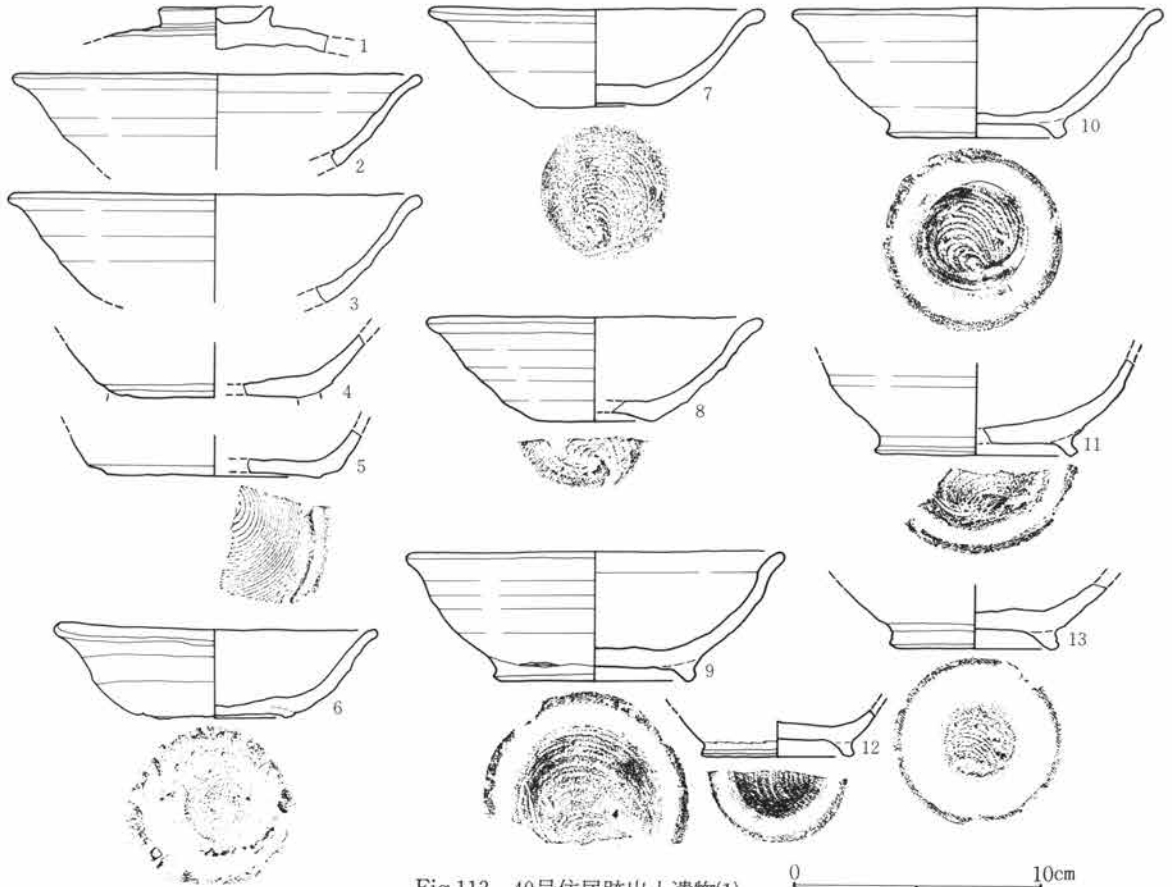


Fig.113 40号住居跡出土遺物(1)

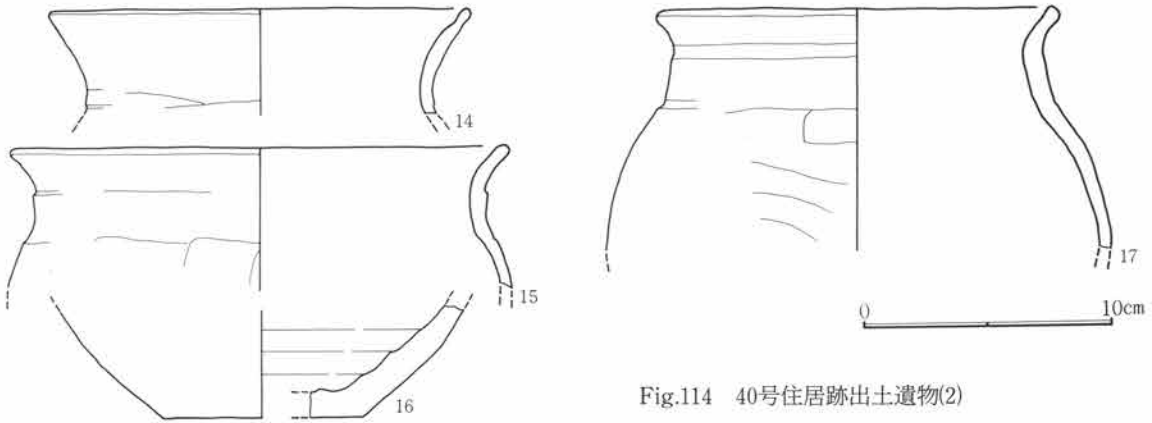


Fig.114 40号住居跡出土遺物(2)

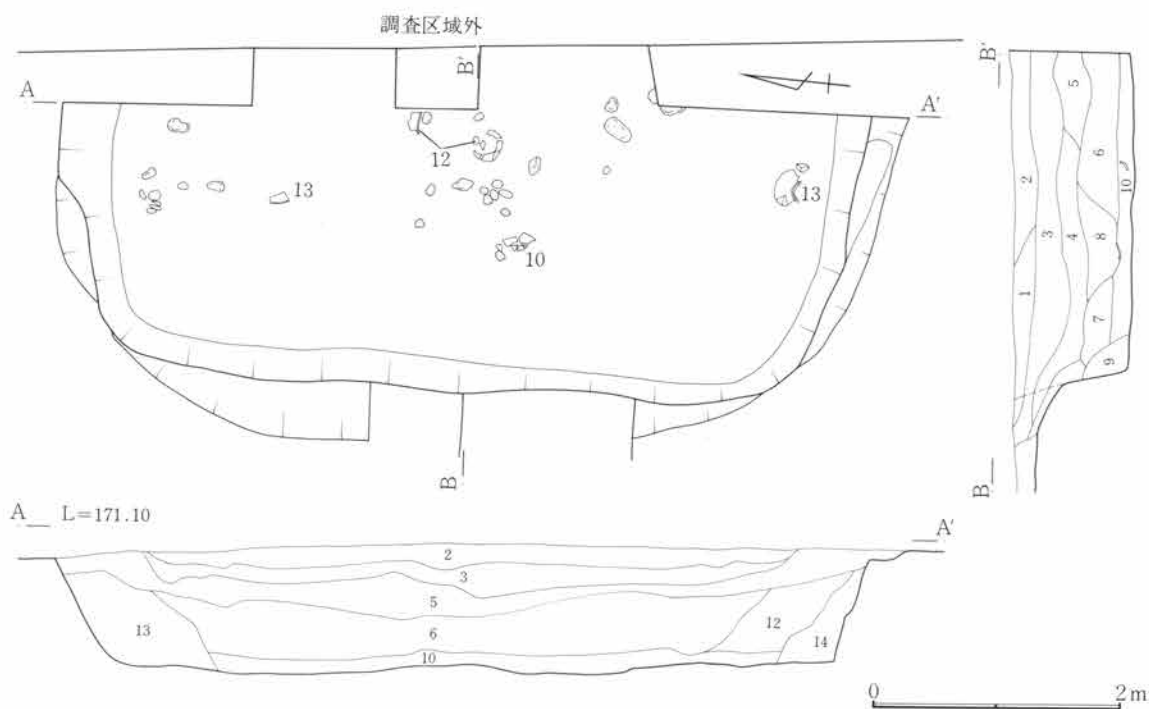
第40号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
113-1 83	須恵器 蓋	つまみ径-4.5	覆土	外面回転ヘラ調整	①良好②明紫灰色③密④つまみ部残存
113-2 83	須恵器 坏	口-16.3	覆土	口縁端部外側へ屈曲する	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④口縁部残存
113-3 83	須恵器 坏	口-16.4	覆土	口縁端部外側へ屈曲する	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④口縁部残存
113-4 83	須恵器 埴		覆土	付高台欠落	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④底部残存
113-5 83	須恵器 坏	底-8.4	覆土	底部回転糸切	①良好②赤褐色③密④底部残存
113-6 83	須恵器 坏	口-12.8 高-3.4 底-5.9	No 6	底部回転糸切口縁端部外側へ屈曲する	①良好②灰白色③細砂粒含む④ほぼ完形
113-7 83	須恵器 坏	口-13.3 高-3.75 底-4.3	No 7	底部回転糸切右廻り口縁端部外側へ屈曲する	①良好やや酸化済み②灰白色③密④残存
113-8 83	須恵器 坏	口-13.3 高-4.1 底-4.5	No 8	底部回転糸切右廻り口縁端部外側へ弱く屈曲する	①良好②灰白色③細砂粒含む④残存
113-9 83	須恵器 埴	口-15.0 高-5.1 底-7.3	覆土	底部回転糸切付高台口縁部外側へ屈曲する	①良好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④残存
113-10 83	須恵器 埴	口-14.7 高-5.1 底-6.4	覆土	底部回転糸切付高台口縁部外側へ屈曲する	①良好②にぶい橙色③2~3mmの砂粒含む④残存
113-11 83	須恵器 埴	底-7.0	覆土	底部回転糸切付高台	①良好②灰白色③細砂粒含む④底部残存
113-12 83	須恵器 埴	底-6.0	竈覆土	底部回転糸切付高台	①良好②灰白色③密④底部残存
113-13 83	須恵器 埴	底-6.7	覆土	底部回転糸切付高台	①良好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④底部残存
114-14 83	土師器 甕	口-16.6	覆土	口縁部ヨコナデ胴上部ヘラ痕残る口縁部外反する	①良好②橙色③細砂粒含む④口縁部残存
114-15 83	土師器 甕	口-19.6	覆土	口縁部コの字状を呈する	①良好②明赤褐色③1~2mm砂粒含む④口縁部残存
114-16 83	土師器 甕	底-7.9	覆土		①良好②褐灰色③細砂粒含む④底部残存
114-17 83	土師器 甕	口-16.0	覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ頸部コの字状を呈し口縁部外反する	①良好②赤褐色③2~3mmの砂粒含む④口縁部残存

41号住居跡 (Fig. 115・116・117、PL. 10・84・85)

G区東部に位置し27・28G23~26の範囲にある。24号住居跡の北にあり、確認されたのは住居跡の一部であり、東部の大半は調査区域外にあるためプランの確認はされていない。検出されたのは西側の一部である。規模は西壁で6.8mを測る。竈・主軸方位等は不明である。壁高は約70cm~80cmを測り、高い所では約1mを測る。

第2章 検出された遺構と遺物



A L=171.10

- | | | |
|----------------------|------------------|----------------|
| 41号住居跡 | | |
| 1 黒褐色土層 FPを多量に含む | 6 黒褐色土層 炭化物を含む | 11 灰褐色土層 |
| 2 暗褐色土層 FAを含む | 7 暗褐色土層 炭化物を含む | 12 暗褐色土層 焼土を含む |
| 3 黒褐色土層 FPを含む、FA粒を含む | 8 暗褐色土層 FPを少量含む | 13 暗褐色土層 FPを含む |
| 4 暗褐色土層 FPを多量に含む | 9 灰褐色土層 FP、FAを含む | 14 暗褐色土層 |
| 5 黒褐色土層 FP、炭化物を含む | 10 黒褐色土層 | |

Fig.115 41号住居跡

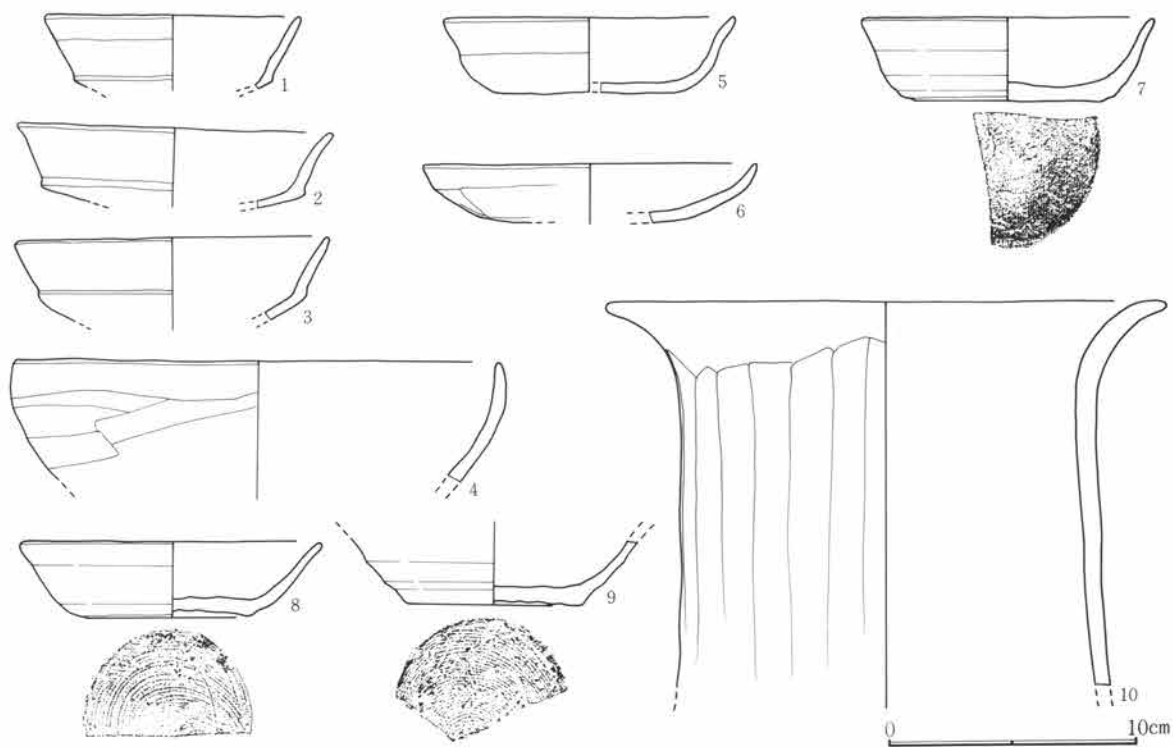


Fig.116 41号住居跡出土遺物(1)

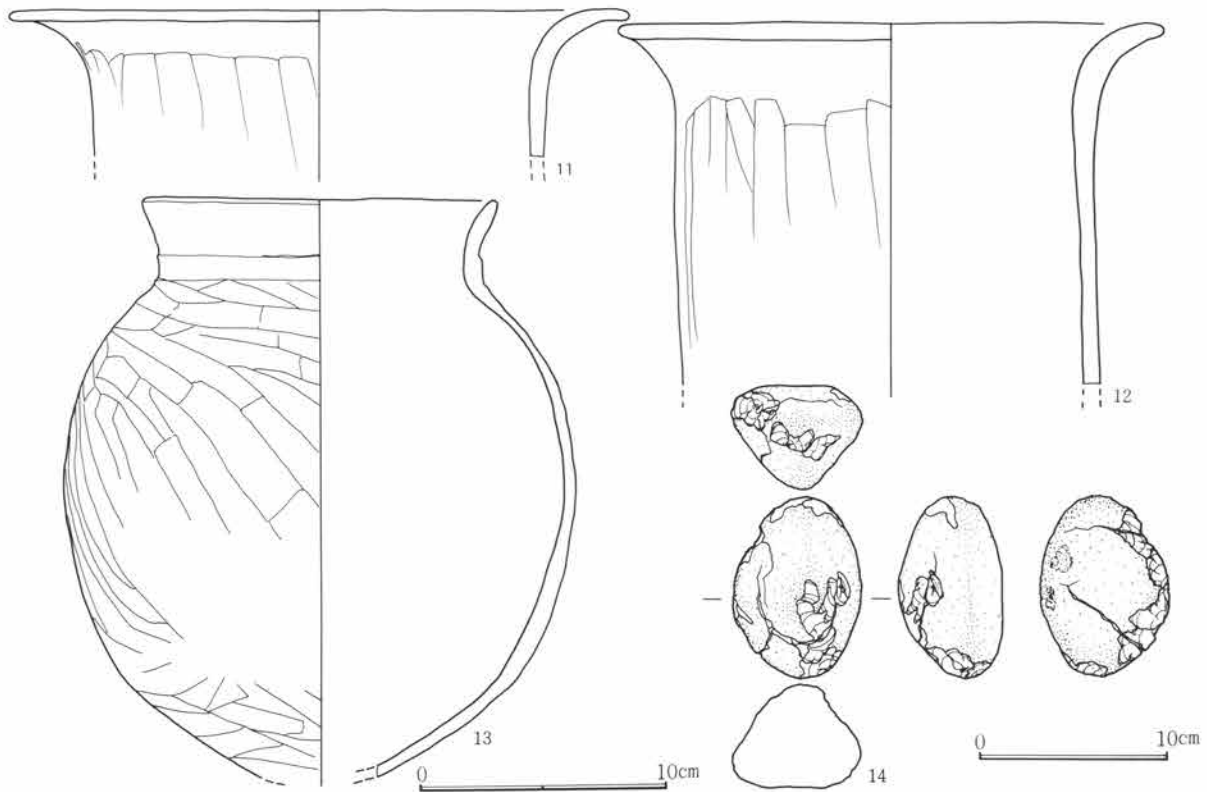


Fig.117 41号住居跡出土遺物(2)

第41号住居跡出土遺物観察表

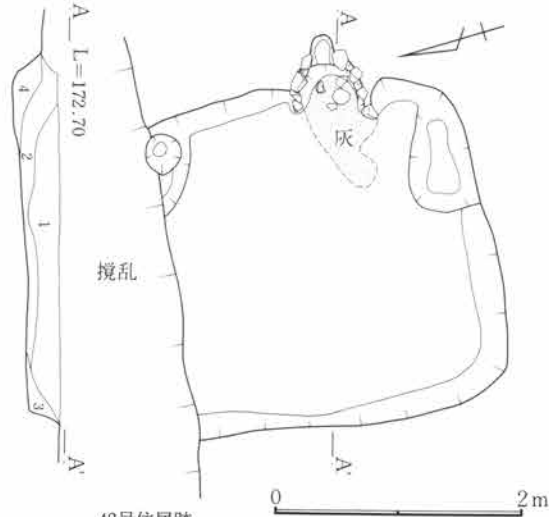
Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
116-1 84	土師器 坏	口-10.2	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部稜をもち外傾する	①良好②明橙色③細砂粒含む④口縁部破片
116-2 84	土師器 坏	口-12.6	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ口縁部稜をもち外反する	①良好②明橙色③2~3mmの砂粒含む④口縁部1/2残存
116-3 84	土師器 坏	口-12.5	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部稜をもち外傾する	①良好②明橙色③細砂粒含む④口縁部1/2残存
116-4 84	土師器 坏	口-19.3	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②橙色③密④口縁部1/2残存
116-5 84	土師器 坏	口-11.6 高-3.0 底-7.0	覆土	口縁部ヨコナデ体部弱いナデ底部ヘラケズリ内面ナデ口縁部外反し腰部内湾する	①良好②にぶい橙色③密④1/2残存
116-6 84	土師器 坏	口-13.2	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部内側へ立ち上がる	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部1/2残存
116-7 84	須恵器 坏	口-11.6 高-3.3 底-7.4	覆土	底部手持ヘラ調整口縁部直線状に外傾する	①良好②灰色③密④1/2残存
116-8 84	須恵器 坏	口-12.1 高-2.8 底-6.7	覆土	底部回転糸切口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③密④1/2残存
116-9 84	須恵器 坏	底-7.0	覆土	底部回転糸切	①良好②黄灰色③3~4mmの砂粒含む④底部1/2残存
116-10 84	土師器 甕	口-22.2	No10	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部外反する	①良好②にぶい橙色③2~3mm砂粒含む④口縁~胴部1/2残存
117-11 84	土師器 甕	口-24.6	覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部外反する	①良好②淡橙色③3~4mmの砂粒含む④口縁部1/2残存
117-12 84	土師器 甕	口-21.6 高-14.2	No12	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部外反する	①良好②にぶい橙色③2~3mm砂粒含む④口縁全周
117-13 85	土師器 甕	口-19.0	No13 覆土	口縁部沈線状の線をもちヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②にぶい橙色③3~4mmの砂粒含む④1/2残存

Fig. 117-14 PL. 84 石 長-9.5cm 幅-6.8cm 厚-5.5cm 粗粒安山岩

第2章 検出された遺構と遺物

42号住居跡 (Fig. 118・119・120、PL. 10・84・85)

G区南東部に位置し32・33G 3・4の範囲にある。40号住居跡の南東にあり、他の遺構との重複はない。北壁は攪乱を受けて検出されていない。規模は南壁で2.8mを測る。主軸方位は竈長軸でN-96°-Eである。壁高は約20cm~30cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃烧部幅約50cm、同長約50cmを測る。



- 42号住居跡
- 1 暗褐色土層 FPを含む
 - 2 暗褐色土層 FPを多量に含む
 - 3 黄褐色土層
 - 4 黄褐色土層 焼土粒、黒色灰を含む

Fig.118 42号住居跡

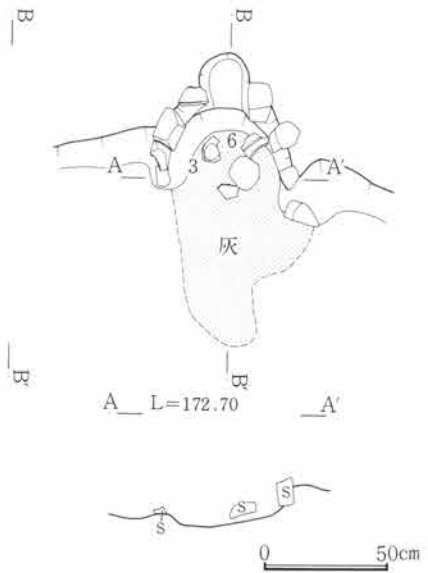


Fig.119 42号住居跡竈

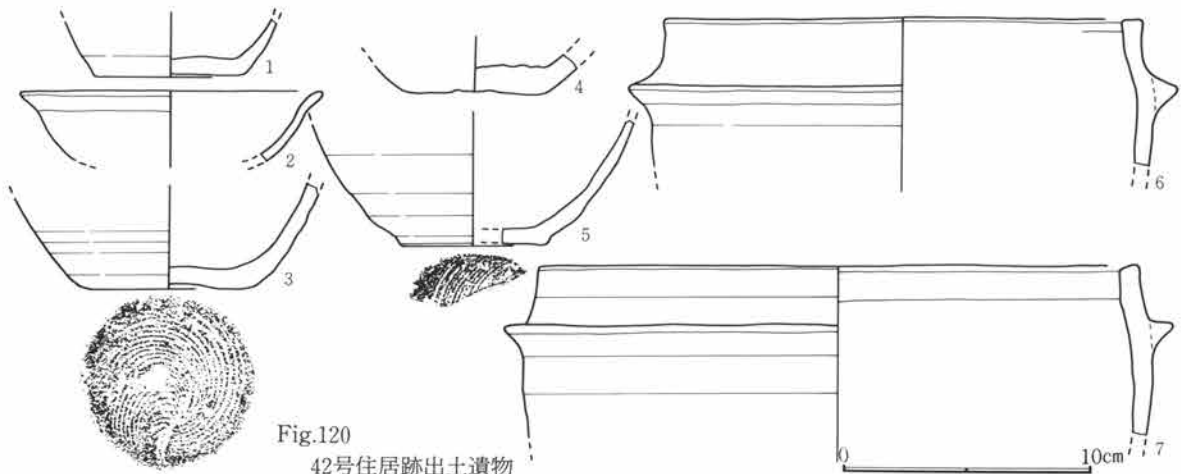


Fig.120 42号住居跡出土遺物

第42号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
120-1 85	須恵器 坏	底-5.8	覆土	底部回転系切右廻り	①良好②灰白色③密④底部 残存
120-2 84	須恵器 坏	口-12.0	覆土	口縁端部外側へ屈曲する	①良好酸化②にぶい橙色③ 細砂粒含む④口縁部残存
120-3 84	須恵器 坏	底-6.5	No 3	底部回転系切口縁部直線状に外傾する	①良好酸化ぎみ②にぶい橙色 ③2~3mm砂粒含む④底部残存
120-4 85	須恵器 坏	底-5.0	覆土		①良好②褐色③1~2mm の砂粒含む④底部破片

Fig. No PL. No	器 種 形	計 測 値 (cm)	出土位置	成 形 及 び 調 整 の 特 徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
120-5 84	須恵器 坏	底-5.5	覆 土	底部回転糸切口辺部内湾ぎみに立ち上がる	①良好酸化②にぶい橙色③細砂粒含む④底部残存
120-6 85	羽 釜	口-19.0	No 6	鋳上を向く口縁部外湾ぎみに直立する	①良好②灰白色③密④口縁部残存
120-7 85	羽 釜	口-23.6	覆 土	口縁部直立ぎみで鋳短く上を向く	①良好②橙色③2~3mmの砂粒含む④口縁部残存

43号住居跡 (Fig. 121・122・123、PL. 10・85・86)

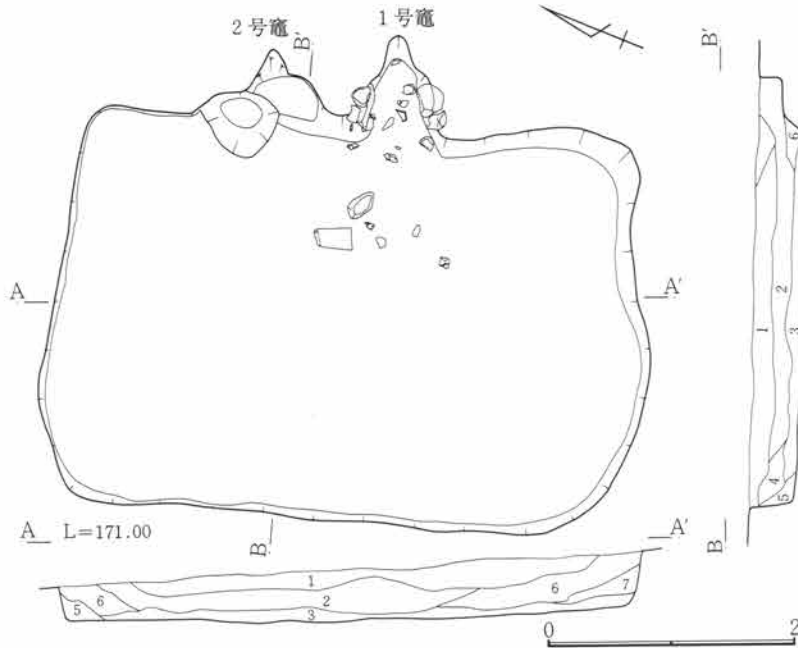


Fig.121 43号住居跡

G区東部に位置し30~32G 25~27の範囲にある。39号住居跡の北東にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺4.9m、短辺3.3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-70°-Eである。壁高は約30cm~45cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁中央部(1号)とやや北側(2号)の2基が検出された。

1号は燃烧部幅約70cm、同長約90cmを測る。2号は形状ははっきりせず規模は燃烧部幅約90cm、同長約50cmを測る。2号は使用面から遺物は検出されておらず1号に先行するものと考えられる。

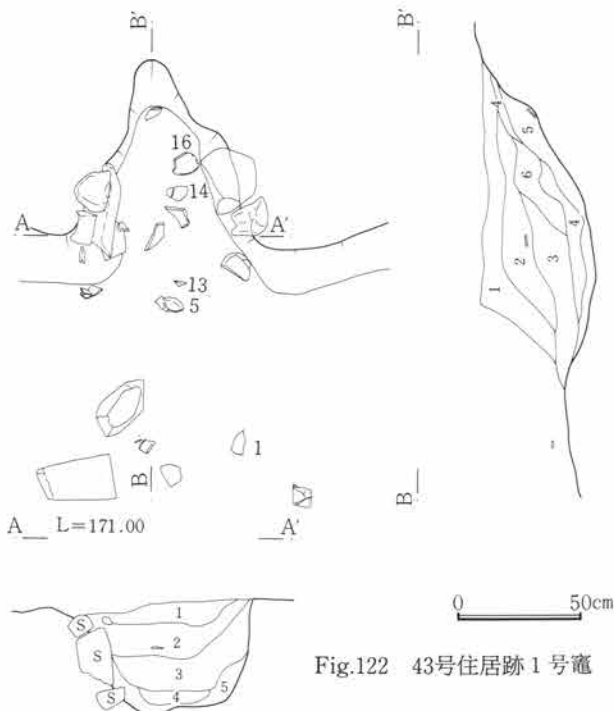


Fig.122 43号住居跡1号竈

43号住居跡

- 1 暗褐色土層 FPを含む
- 2 暗褐色土層 炭化物を含む
- 3 暗褐色土層 黒色土を含む
- 4 暗褐色土層
- 5 黒褐色土層 FAを含む
- 6 暗褐色土層 黒色土を含む
- 7 暗褐色土層

43号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 FPを含む
- 2 暗褐色土層 黄色土粒を含む
- 3 暗褐色土層
- 4 暗褐色土層 焼土、灰を含む
- 5 暗褐色土層 焼土粒を含む
- 6 黄褐色土層 焼土ブロックを含む

第2章 検出された遺構と遺物

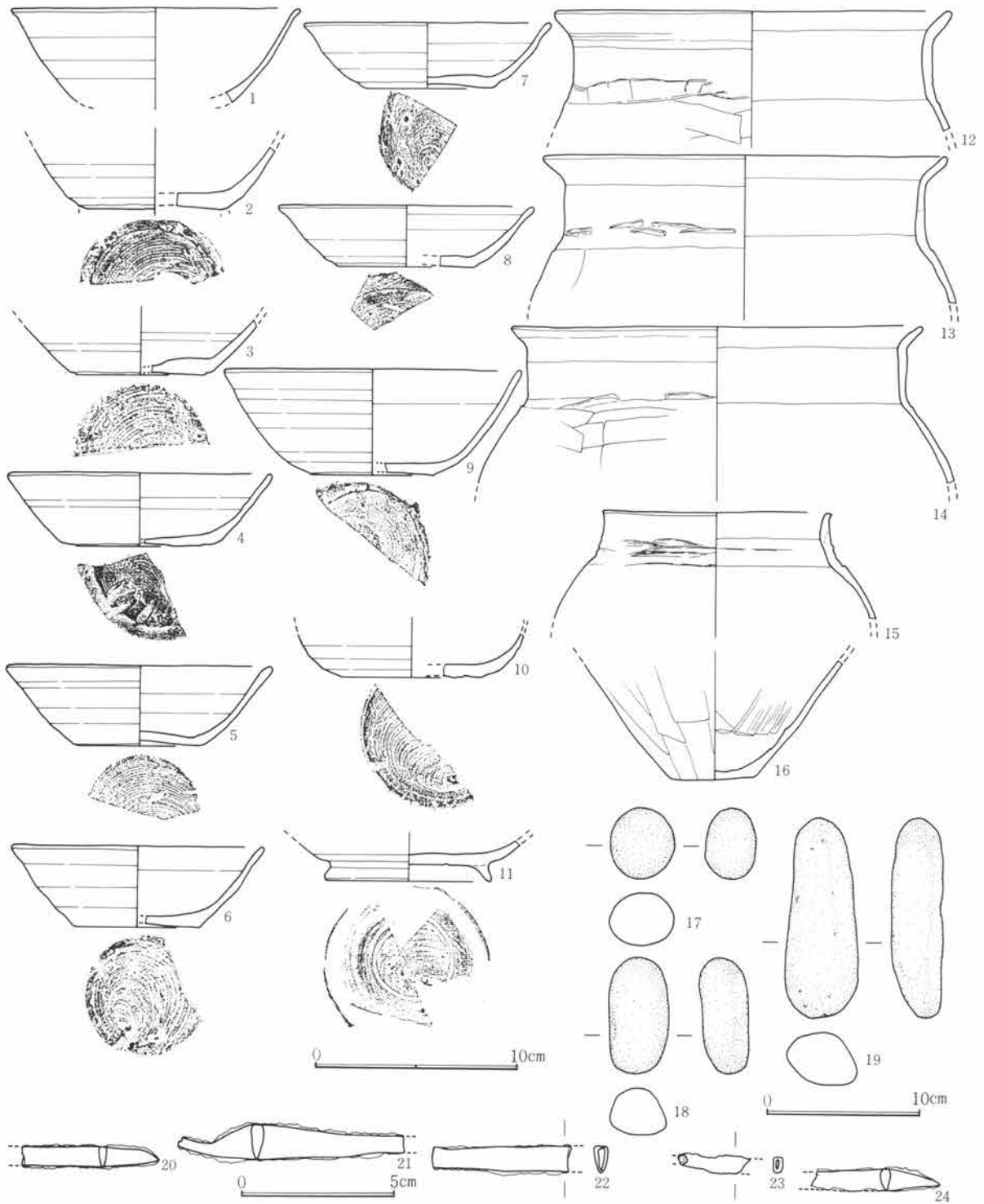


Fig.123 43号住居跡出土遺物

第43号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
123-1 85	須恵器 坏	口-14.0	No.1	口縁端部外側へ屈曲する	①良好②灰色③2~3mmの砂粒含む④口縁部残存
123-2 85	須恵器 坏	底-7.3	覆土	底部回転糸切高台部欠落	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④底部残存

第1節 竪穴住居跡

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
123-3 85	須恵器 坏	底-6.4	覆土	底部回転糸切	①良好や酸化ぎみ②灰白色③ 2~3mm砂粒含む④底部残存
123-4 85	須恵器 坏	口-12.6 高-3.5 底-6.0	覆土	底部回転糸切右廻り口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③密④残存
123-5 85	須恵器 坏	口-12.8 高-3.9 底-6.0	No 5	底部回転糸切右廻り口縁部直線状に外傾する	①良好酸化ぎみ②灰白色③ 2~3mm砂粒含む④残存
123-6 85	須恵器 坏	口-12.2 高-3.9 底-6.1	竈覆土	底部回転糸切口縁部直線状に外傾する	①良好②灰色③1~2mmの 砂粒含む④残存
123-7 85	須恵器 坏	口-12.0 高-3.2 底-6.2	覆土	底部回転糸切口縁部弱く外湾する	①良好②灰白色③密④残存
123-8	須恵器 坏	口-12.3 高-2.9 底-6.5	覆土	底部回転糸切口縁部弱く外側へ屈曲する	①良好②灰白色③密④残存
123-9	須恵器 坏	口-14.2 高-5.1 底-6.0	覆土	底部回転糸切口縁部弱く内湾ぎみに立ち上がる	①良好②灰白色③密④残存
123-10 85	須恵器 坏	底-7.0	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③密④底部 残存
123-11 85	須恵器 坏	底-8.0	覆土	底部回転糸切付高台部貼付の痕が断面に確認	①良好②灰白色③密④底部 残存
123-12 85	土師器 甕	口-19.0	覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部コ の字状を呈する	①良好②橙色③1~2mmの 砂粒含む④口縁部残存
123-13 86	土師器 甕	口-19.5	No13	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ頸部にヘ ラ痕残る口縁部コの字状を呈する	①良好②にぶい橙色③細砂 粒含む④口縁部残存
123-14 85	土師器 甕	口-20.0	No14	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部コ の字状を呈する	①良好②にぶい赤褐色③細 砂粒含む④口縁部破片
123-15 86	土師器 甕	口-11.0	覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ口縁部弱く外湾し ながら内傾する	①良好②にぶい褐色③細砂 粒含む④口縁部破片
123-16 86	土師器 甕	底-4.1	No16	外面ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②にぶい橙色③細砂 粒含む④底部残存
Fig. 123-17 PL. 86	石 長-4.1cm 幅-4.25cm 厚-3.5cm 粗粒安山岩				
Fig. 123-18 PL. 86	石 長-7.6cm 幅-3.9cm 厚-3.1cm 細粒安山岩				
Fig. 123-19 PL. 86	石 長-12.9cm 幅-4.8cm 厚-3.35cm 砂岩				
Fig. 123-20 PL. 86	鉄製品 長-4.5cm 厚-2mm 刀子				
Fig. 123-21 PL. 86	鉄製品 長-7.4cm 厚-5mm 刀子				
Fig. 123-22 PL. 86	鉄製品 長-4.5cm 厚-2mm 刀子				
Fig. 123-23 PL. 86	鉄製品 長-2.4cm 厚-2mm 刀子				
Fig. 123-24 PL. 86	鉄製品 長-4.1cm 厚-3mm 刀子				

44号住居跡 (Fig. 124・125・126, PL. 10・86)

F区東部に位置し35・36F28・29の範囲にある。23号住居跡の南にあり、南半部を5号溝と重複し切り崩されている。新旧関係は5号溝が新しい。このため規模は不明であるが北壁長は2.8mを測る。主軸方位も不明である。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈も検出されていない。

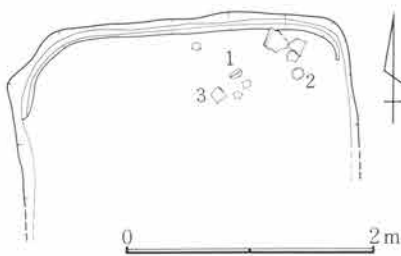


Fig.124 44号住居跡

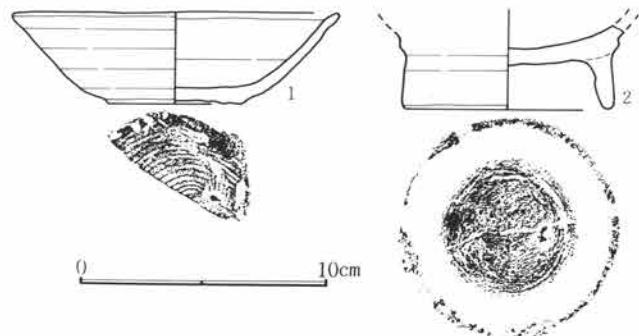


Fig.125 44号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

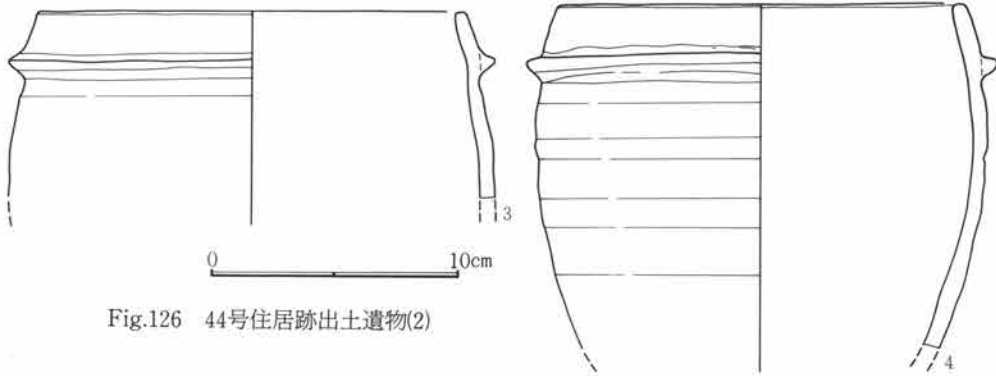


Fig.126 44号住居跡出土遺物(2)

第44号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
125-1 86	須恵器 坏	口-13.0 高-3.6 底-5.3	No.1	底部回転糸切口縁端部弱く外湾する	①良好②灰色③細砂粒含む ④残存
125-2 86	須恵器 埴	底-8.0	No.2	底部回転糸切付高台	①良好②にぶい橙色③3 ~4mm砂粒含④高台部残存
126-3 86	羽釜	口-23.0	No.3	罎横を向く口縁部内傾する	①良好②灰褐色③細砂粒含む ④口縁部残存
126-4 86	羽釜	口-21.5	覆土	罎上を向く口縁部内傾する	①良好②褐灰色③5~6mm 砂粒含④口縁~胴部残存

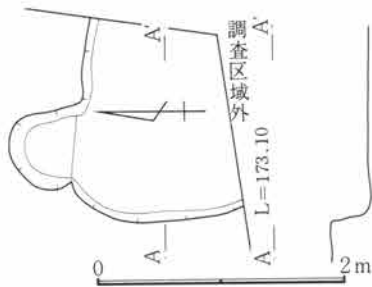


Fig.127 46号住居跡

46号住居跡 (Fig. 127)

F区北東部に位置し28・29F46・47の範囲にある。20号住居跡の北にあり、他の遺構との重複はないが北部で土坑状の遺構と重複する。新旧関係は住居跡が新しい。また南部は水道管により壊されている。東部は調査区域外へ延びるため住居跡の一部のみを検出するに止どまる。床面は平坦をなし、壁高は約20cm~30cmを測る。

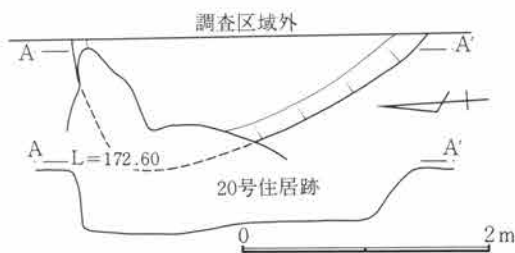


Fig.128 47号住居跡

47号住居跡 (Fig. 128)

F区北東部に位置し29F42・43の範囲にある。20号住居跡の南東にあり、東部は調査区域外へ延びるため住居跡の一部を検出するのみである。壁高は約30cm~40cmを測る。

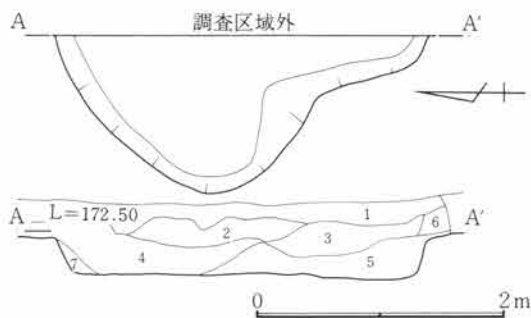


Fig.129 48号住居跡

48号住居跡 (Fig. 129、PL. 11)

G区南東に位置し28G1・2の範囲にある。29号住居跡の南にあり、東半部は調査区域外に延びるため一部を検出したのみである。壁高は約20cm~30cmを測る。

48号住居跡

- 1 暗褐色土層 FA、FPを含む
- 2 暗褐色土層 FPを多量に含む
- 3 灰褐色土層 FPを含む砂質土
- 4 淡褐色土層 FPを少量含む
- 5 淡褐色土層 FPを少量含む砂質土
- 6 淡褐色土層 FAを含む
- 7 淡褐色土層 FAを多量に含む

50号住居跡

(Fig. 130・131・132・133, PL. 11・86・87)

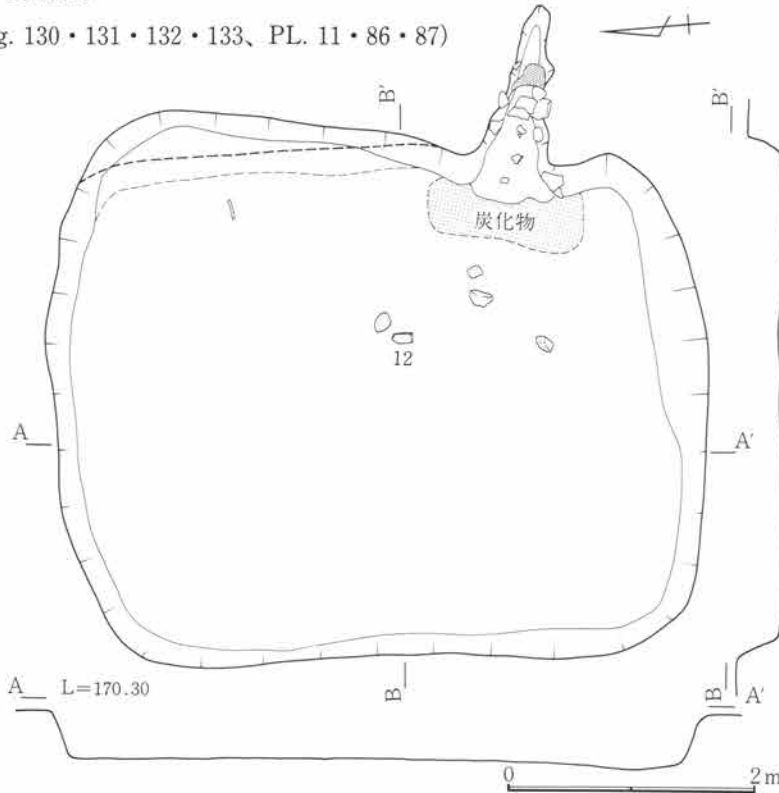


Fig.130 50号住居跡

G区東部に位置し30～32G34～37の範囲にある。51号住居跡の西にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺5.5m、短辺4.4mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-100°-Eである。壁高は約30cm～40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。また北東部分に拡張の後と思われる部分がある。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約60cm、同長約90cmを測る。

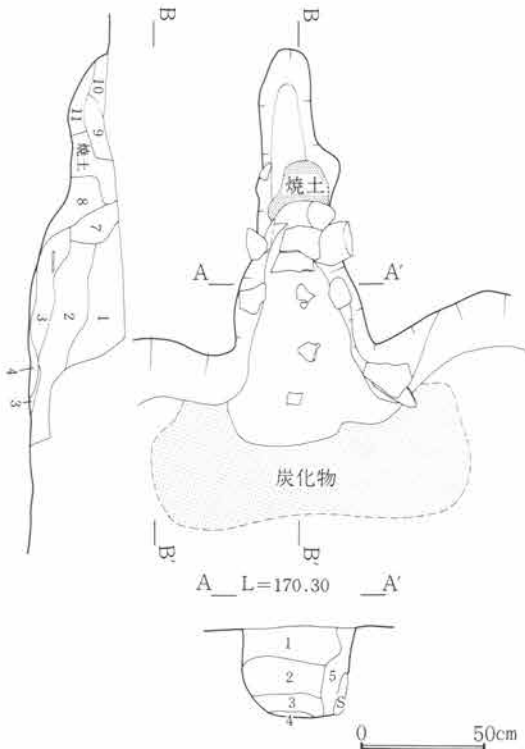


Fig.131 50号住居跡竈

50号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 F Pを少量含む
- 2 暗褐色土層 黒色灰を多量に含む
- 3 黒褐色土層 焼土ブロックを含む
- 4 焼土塊
- 5 暗褐色土層 焼土粒を含む
- 6 焼土塊、天井部の崩落
- 7 黒褐色土層 焼土粒、炭化物を含む
- 8 黒褐色土層 黒色灰を含む
- 9 暗褐色土層 焼土粒少量含む
- 10 暗褐色土層 焼土粒多量に含む
- 11 黒褐色土層 焼土粒を含む

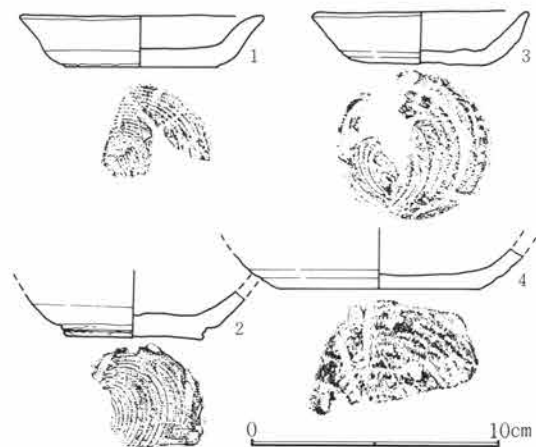


Fig.132 50号住居跡出土遺物(1)

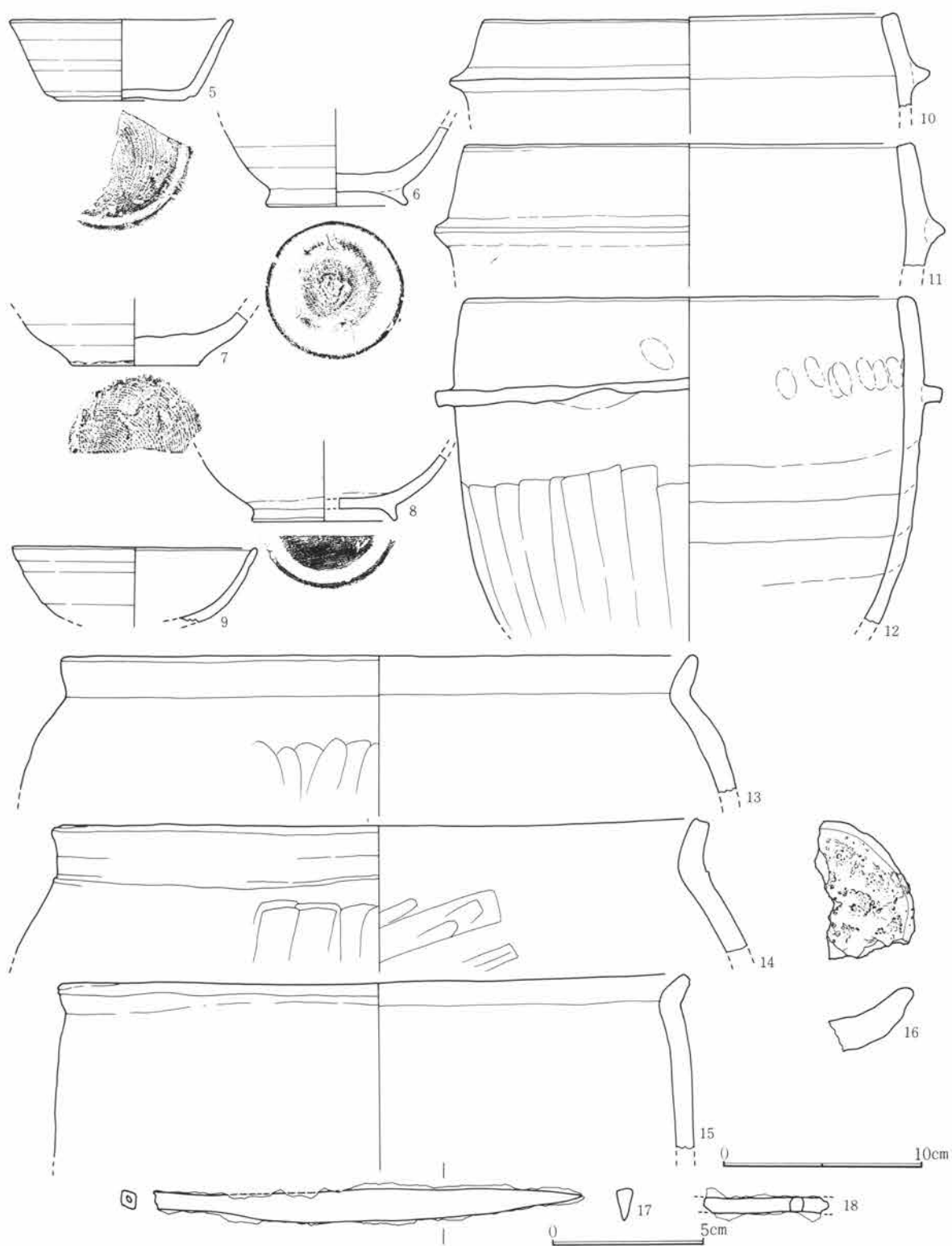


Fig.133 50号住居跡出土遺物(2)

第50号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
132-1 86	須恵器 小 坏	口-9.8 高-2.0 底-6.0	覆 土	底部回転糸切口縁部外湾する	①良好②黄橙色③2~3mmの砂粒含む④残存
132-2 86	須恵器 坏	底-5.4	覆 土	底部回転糸切	①良好②灰色③密④底部残存
132-3 86	須恵器 小 皿	口-8.6 高-2.1 底-4.7	覆 土	底部回転糸切右廻り器肉厚い	①良好②淡橙色③細砂粒含む④ほぼ完形
132-4 86	須恵器 坏	底-8.0	覆 土		①良好②橙色③1~2mmの砂粒含む④底部破片
133-5 86	須恵器 坏	口-11.0 高-4.0 底-6.3	覆 土	底部回転糸切右廻り	①良好②灰白色③密④底部残存
133-6 86	須恵器 埴	底-6.8	覆 土	底部回転調整付高台内黒土器高台外へ開く	①良好②明赤褐色内面黒色③細砂粒含む④底部残存
133-7 86	須恵器 坏	底-6.2	覆 土	底部回転糸切	①良好②灰褐色③細砂粒含む④底部残存
133-8 86	須恵器 埴	底-7.0	覆 土	付高台底部回転調整	①良好②灰白色③密④底部残存
133-9 87	灰釉陶器 坏	口-12.0	覆 土		①良好②灰白色③密④口縁部破片
133-10 87	羽 釜	口-20.2	覆 土	鈔横を向く口縁部内傾する	①良好②灰白色③細砂粒含む④口縁部残存
133-11 87	羽 釜	口-22.0	覆 土	鈔低く横を向く口縁部直線状に内傾する	①やや軟質②にぶい赤褐色③2~3mm砂粒含む④口縁部残存
133-12 87	羽 釜	口-22.0	Na12	鈔貼付ややゆがむ	①良好②にぶい赤褐色③5~6mmの砂粒含む④口~胴部残存
133-13 87	土 師 器 甕	口-31.0	覆 土	口縁部短く外反する	①良好②赤褐色③2~3mmの砂粒含む④口縁部破片
133-14 87	土 師 器 甕	口-32.3	覆 土	口縁部コナデ胴部ヘラケズリ内面ヘラナデ口縁部外反する	①良好②にぶい赤褐色③細砂粒含む④口縁部残存
133-15 87	土 師 器 甕	口-31.0	覆 土	口縁部短く外反する	①良好②にぶい赤褐色③3~4mm砂粒含む④口縁部破片
133-16 87	埴 塼	口-4.7	覆 土	手捏ね器肉厚く溶解物付着	①良好還元②灰黄色③細砂粒含む④破片
Fig. 133-17 PL. 87	鉄製品 長-14.0cm 厚-5mm 刀子				
Fig. 133-18 PL. 87	鉄製品 長-4.1cm 厚-5mm 釘?				

51号住居跡 (Fig. 134・135、PL. 11・87)

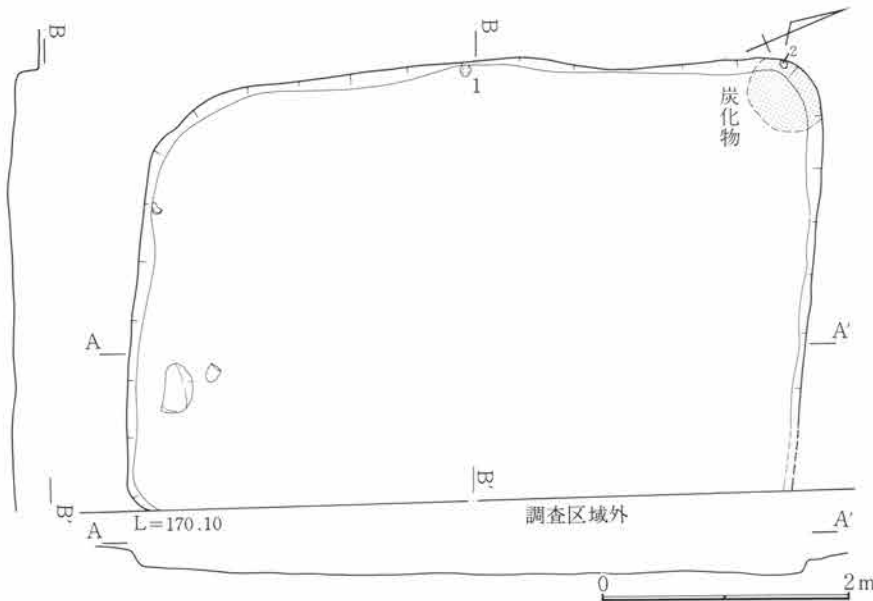


Fig.134 51号住居跡

G区東部に位置し28~30G34~37の範囲にある。50号住居跡の東にあり、他の遺構との重複はない。東半部は調査区域外へ延びるためにプランは確認されていないが西壁は5.6mを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていな

第2章 検出された遺構と遺物

い。竈は検出されていない。

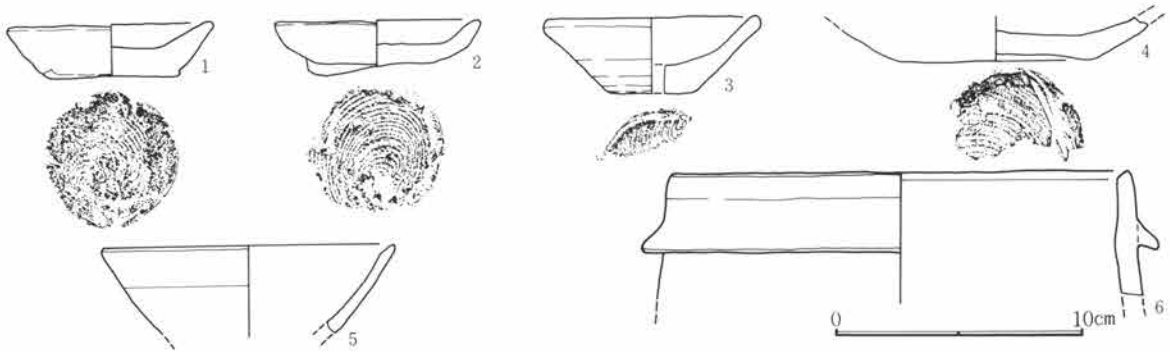


Fig.135 51号住居跡出土遺物

第51号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
135-1 87	須恵器 皿	口-8.2 高-2.05 底-5.2	No 1	底部回転糸切右廻り	①良好②にぶい橙色③2~3mmの砂粒含む④完形
135-2 87	須恵器 皿	口-8.15 高-1.8 底-5.0	覆土	底部回転糸切右廻り底部糸切面突出している	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④完形
135-3 87	須恵器 坏	口-8.4 高-3.0 底-3.0	覆土	底部回転糸切右廻り	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④残存
135-4 87	須恵器 坏	底-7.6	覆土	底部回転糸切	①良好②明褐色③1~2mmの砂粒含む④底部残存
135-5 87	灰釉陶器 塊	口-11.7	覆土	灰釉	①良好②白灰色③密④口縁部破片
135-6 87	羽釜	口-18.2	覆土	鋳下を向く口縁部直立する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片

52号住居跡 (Fig. 136・137・138、PL. 11・87・88)

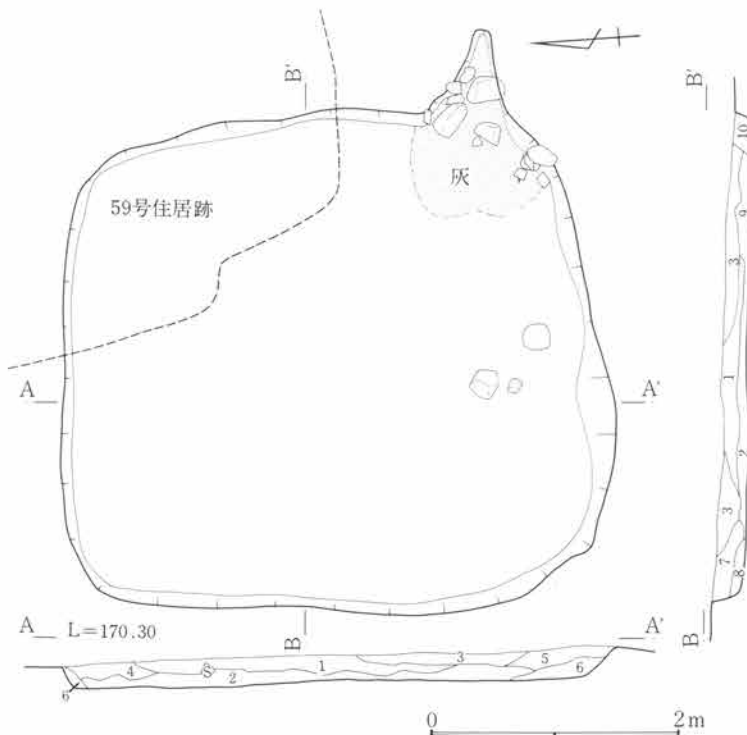


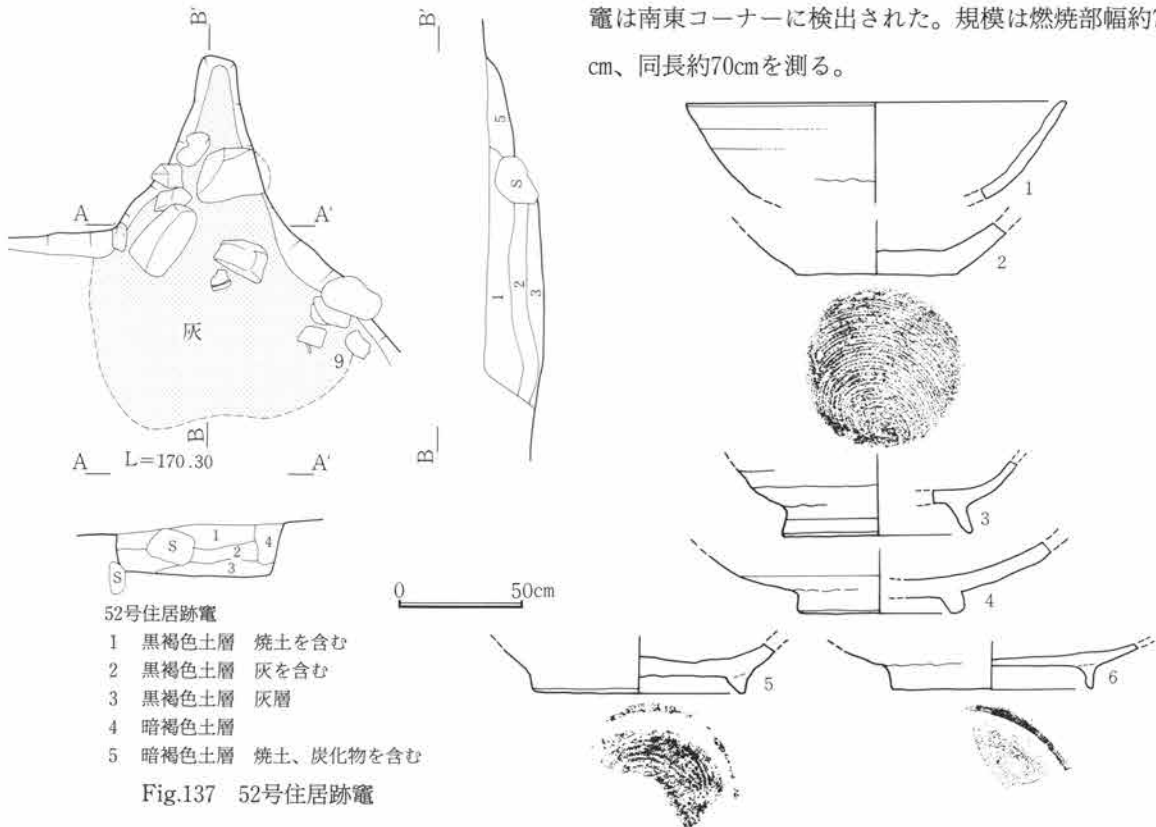
Fig.136 52号住居跡

G区東部に位置し38~40G37~39の範囲にある。50号住居跡の北にあり、北東部を59号住居跡と重複する。新旧関係は52号住居跡が新しい。規模は長辺4.5m、短辺4mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-90°-Eである。壁高は約20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。

52号住居跡

- 1 暗褐色土層 F Pを含む
- 2 暗褐色土層 焼土を含む
- 3 暗褐色土層 炭化物を含む
- 4 暗褐色土層 F Aを含む
- 5 暗褐色土層 F A、炭化物を含む
- 6 暗褐色土層 F Aを含む、黒色土を含む
- 7 暗褐色土層 F Aを少量含む
- 8 暗褐色土層 F Pを含む
- 9 暗褐色土層
- 10 暗褐色土層 F Pを少量含む

竈は南東コーナーに検出された。規模は燃烧部幅約70cm、同長約70cmを測る。



52号住居跡竈

- 1 黒褐色土層 焼土を含む
- 2 黒褐色土層 灰を含む
- 3 黒褐色土層 灰層
- 4 暗褐色土層
- 5 暗褐色土層 焼土、炭化物を含む

Fig.137 52号住居跡竈

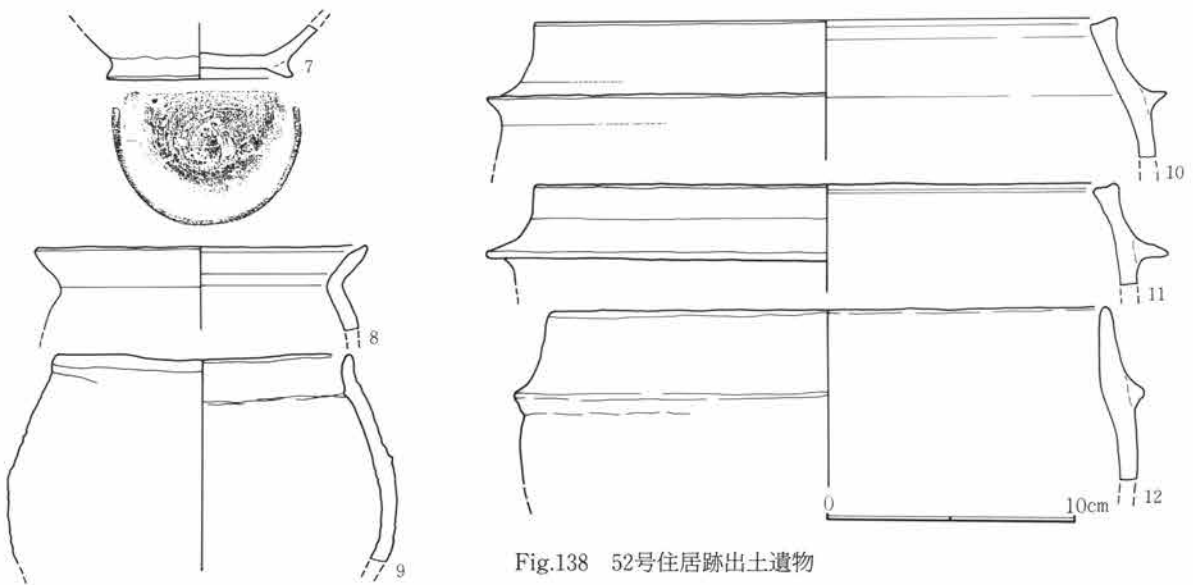


Fig.138 52号住居跡出土遺物

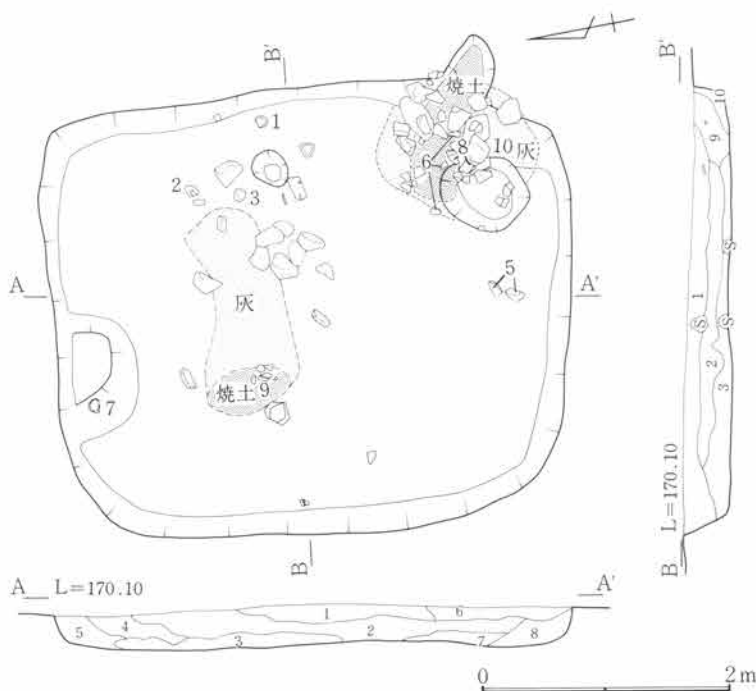
第52号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
138-1 87	灰釉陶器 坏	口-15.0	覆土	釉淡緑	①良好②灰色③密④口縁部破片
138-2 87	須恵器 坏	底-3.2	覆土	底部回転糸切右廻り	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④底部残存
138-3 87	灰釉陶器 坏	底-7.4	竈覆土	付高台	①良好②灰白色③密④底部破片
138-4 87	須恵器 坏	底-6.4	覆土	付高台底部回転調整	①良好②灰白色③密④底部破片

第2章 検出された遺構と遺物

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
138-5 87	須恵器 埴	底-8.4	覆土	付高台底部回転糸切	①良好酸化②にぶい黄褐色③3~4mm砂粒含④底部%残存
138-6 87	緑釉陶器 坏	底-8.0	覆土	付高台底部回転調整内面緑釉	①良好②灰白色③密④底部破片
138-7 87	須恵器 埴	底-7.4	覆土	底部回転糸切付高台	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④底部%残存
138-8 88	土師器 甕	口-13.2	覆土	口縁部鋭く外反する	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
138-9 88	土師器 甕	口-11.4	No.9	口縁部直立ぎみ内面に稜をもつ	①軟質②にぶい赤褐色③3~4mm砂粒含④口縁部%残存
138-10 88	羽釜	口-23.0	覆土	鋳やや下を向く口縁部内傾する	①良好②赤褐色③細砂粒含む④口縁部破片
138-11 88	羽釜	口-23.0	覆土	鋳やや上を向く口縁部内傾する	①良好②にぶい赤褐色③1~2mm砂粒含④口縁部破片
138-12 88	羽釜	口-22.0	覆土	鋳短く下を向く口縁部内傾する	①軟質②にぶい赤褐色③3~4mm砂粒含④口縁部破片

53号住居跡 (Fig. 139・140・141・142、PL. 11・88・89)



53号住居跡

- 1 暗褐色土層 FA、炭化物を含む
- 2 暗褐色土層 焼土粒を含む
- 3 暗褐色土層 FP少量含む
- 4 暗褐色土層 炭化物を含む
- 5 暗褐色土層 焼土、炭化物を含む
- 6 暗褐色土層
- 7 暗褐色土層 FAを少量含む
- 8 暗褐色土層 FA粒を含む
- 9 暗褐色土層 FPを含む
- 10 暗褐色土層

Fig.139 53号住居跡

G区東部に位置し29~31G42~44の範囲にある。51号住居跡の北にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺4.3m、短辺3.6mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-93°-Eである。壁高は約20cm~25cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。北壁に接し壁から約60cm、幅約1mの規模で約5cm~10cmの高さを持つ部分が検出された。住居跡中央部からは焼土・灰が確認された。竈は南東コーナーに検出された。規模は袖幅約50cm、燃烧部長約80cmを測る。両袖部からは竈構築材と思われる石が検出されている。竈長軸は住居跡主軸からさらに南へふれ、N-118°-Eである。

第1節 竖穴住居跡

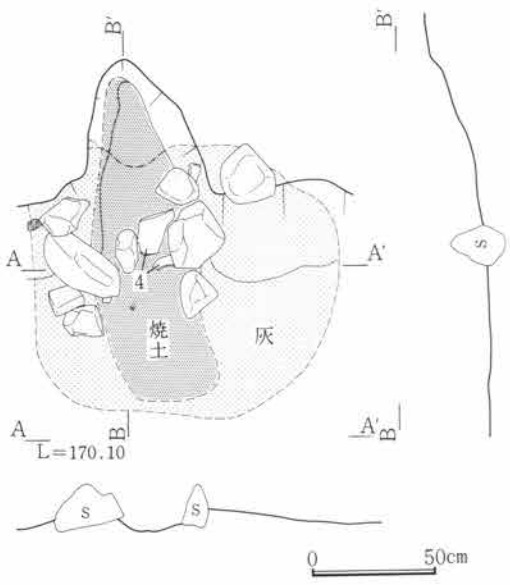


Fig.140 53号住居跡竈

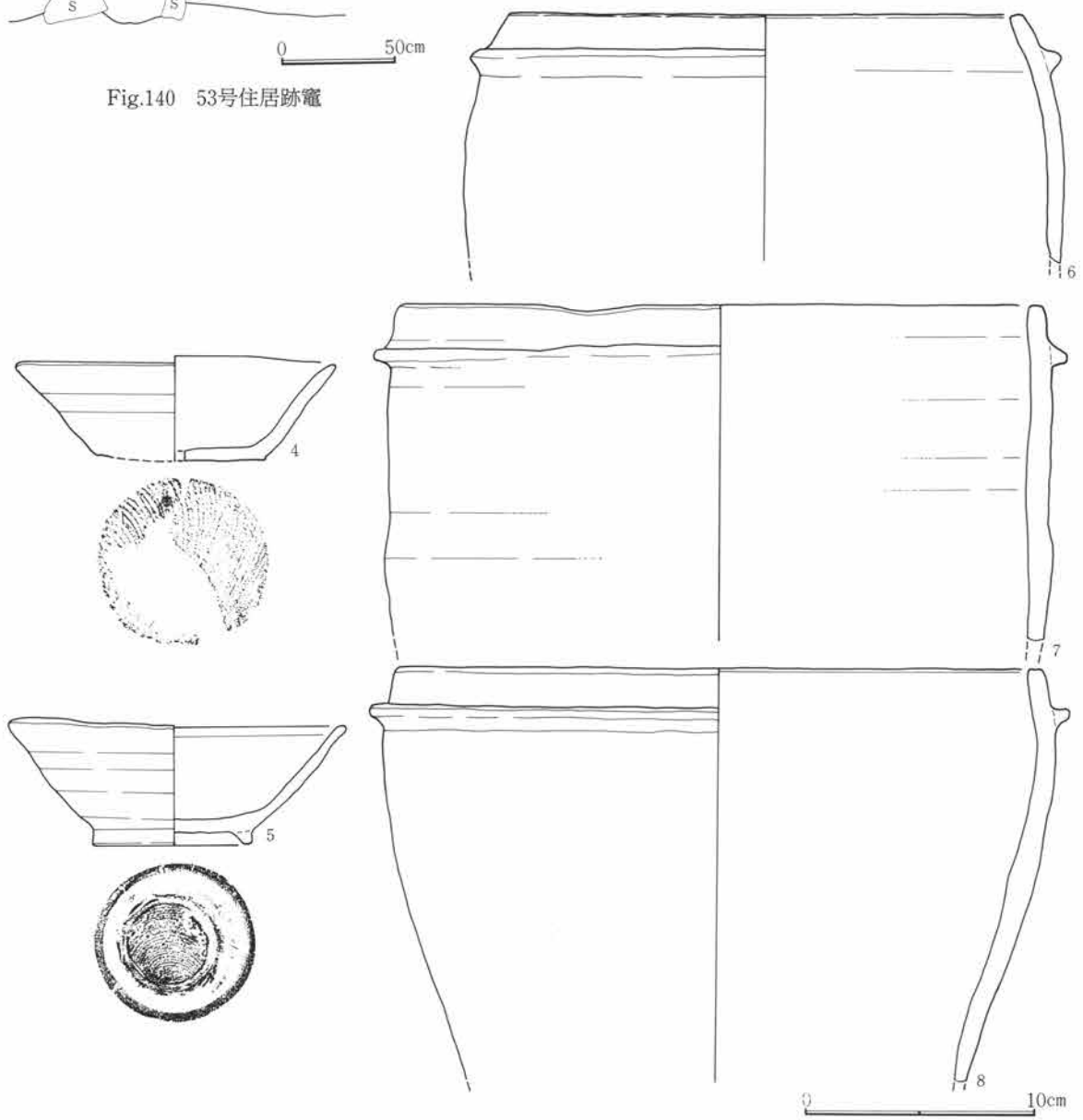
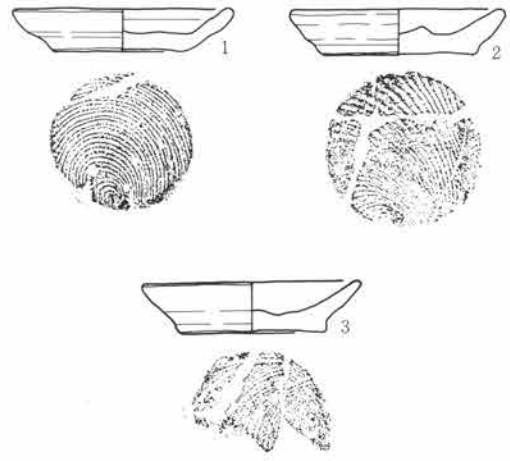


Fig.141 53号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

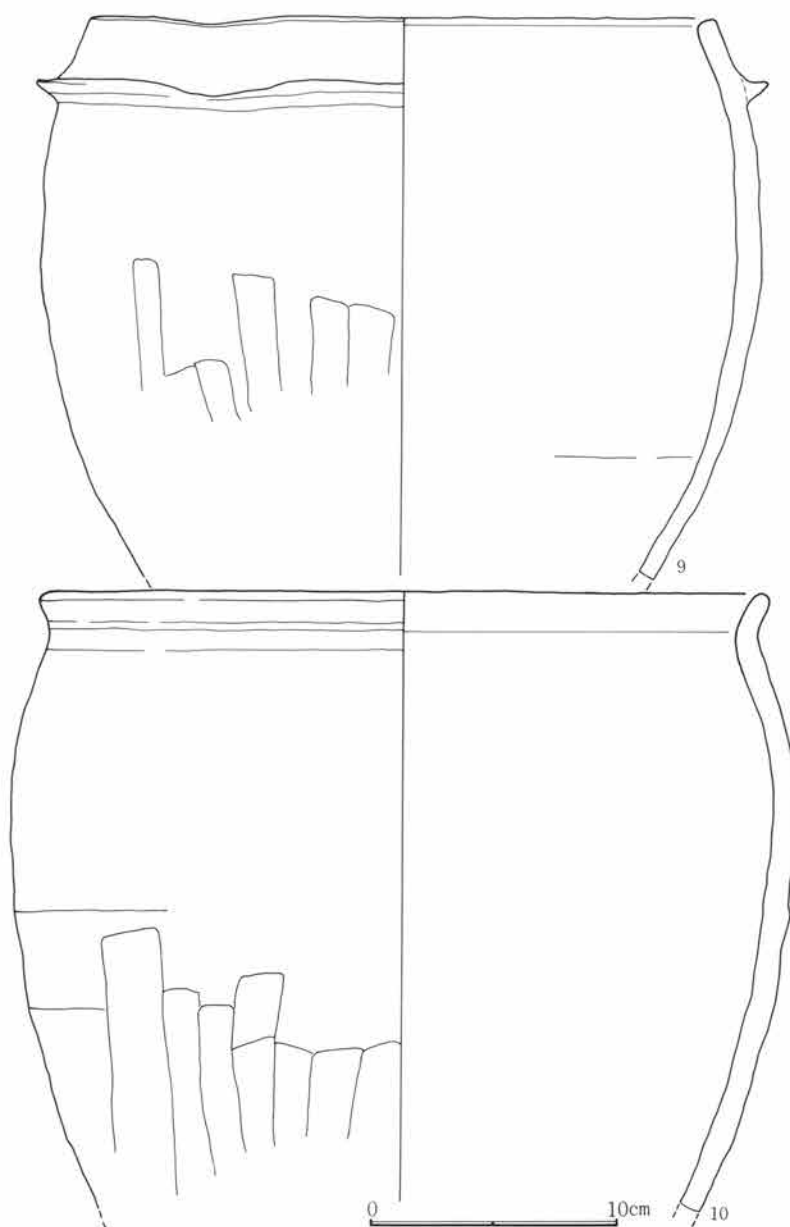


Fig.142 53号住居跡出土遺物(2)

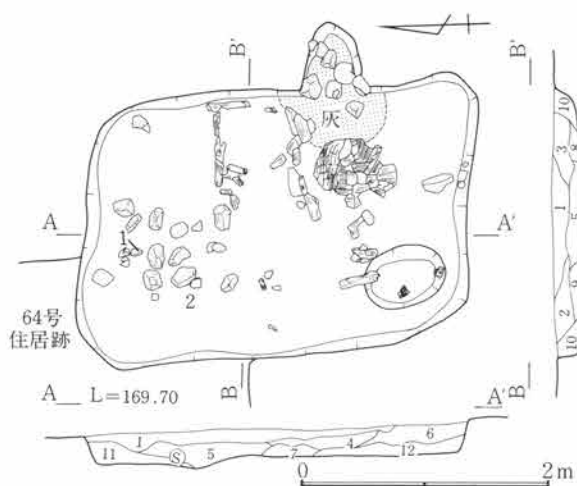
第53号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
141-1 88	須恵器 皿	口-8.8 高-1.7 底-5.3	No.1	底部回転糸切右廻り	①良好②橙色③細砂粒含む ④ $\frac{1}{2}$ 残存
141-2 88	須恵器 皿	口-8.5 高-1.7 底-6.0	No.2	底部回転糸切右廻り内面指ナデ突起あり	①良好②にぶい赤褐色③細 砂粒含む④ほぼ完形
141-3 88	須恵器 皿	口-8.7 高-2.0 底-5.7	No.3	底部回転糸切右廻り	①良好②にぶい赤褐色③細 砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存
141-4 88	須恵器 坏	口-13.7 高-4.5	No.4	底部回転糸切口縁端部弱く外反する	①良好酸化②にぶい橙色③ 細砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存
141-5 88	須恵器 坏	口-14.5 高-5.6 底-7.0	貯穴No.5	底部回転糸切付高台口縁端部弱く外側へ屈曲する	①良好②灰白色③1~2mm の砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存
141-6 88	羽釜	口-22.0	No.6	鈿短くやや上を向く口縁部内傾する	①軟質②にぶい橙色③2~ 3mm砂粒含む④口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存
141-7 88	羽釜	口-28.0	No.7	鈿低く貼付雑外面ナデ口縁部直立ぎみ	①良好軟質②橙色③3~4 mm砂粒含む④口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
141-8 88	羽釜	□-27.5	No.8	鋳低く貼付雑内外面ナデ口縁部短く内傾する	①軟質②橙色③3~4mmの砂粒含む④口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存
142-9 88	羽釜	□-24.5	No.9	鋳短くゆがんで上を向く口縁部内湾する	①良好②赤褐色③2~3mmの砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存
142-10 89	土釜	□-29.0	No.10	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ口縁部短く外反する	①良好②明赤褐色③2~3mm砂粒含む④口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存

55号住居跡 (Fig. 143・144・145・146、PL. 12・89)

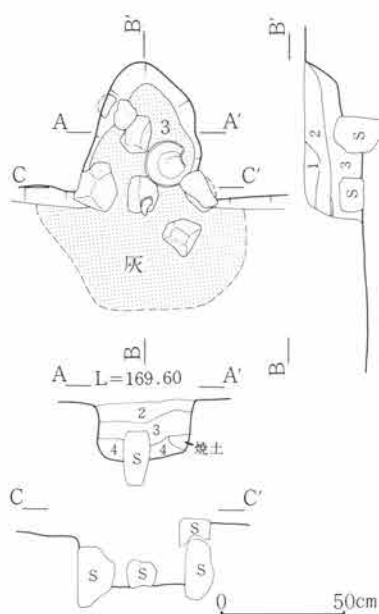
H区南東に位置し31・32G49H1の範囲にある。69号住居跡の北西にあり、北西部を64号住居跡と重複する。新旧関係は55号住居跡が新しい。規模は長辺3.4m、短辺2.2mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-86°-Eである。壁高は約20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出さ



55号住居跡

- 1 暗褐色土層 FPを多量に含む
- 2 暗褐色土層 炭化物を多量に含む
- 3 暗褐色土層 FA、FP、炭化物を含む
- 4 暗褐色土層 FA、炭化物を含む
- 5 暗褐色土層 FA、FPを含む
- 6 暗褐色土層 FP、FAブロックを含む
- 7 暗褐色土層 炭化物を含む
- 8 暗褐色土層 FPを少量含む
- 9 暗褐色土層 炭化物を少量含む
- 10 暗褐色土層 FPを少量含む
- 11 暗褐色土層
- 12 黒褐色土層 FA、炭化物を多量に含む

Fig.143 55号住居跡



55号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 FAブロックを含む
- 2 灰褐色土層 炭化物を含む
- 3 暗褐色土層 炭化物、黒色灰を含む
- 4 黒褐色土層

Fig.144 55号住居跡竈

れていない。床面上には炭化材・炭化物等が分布した状態で検出され、焼失家屋である。北半部からは石が多数検出されている。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は袖幅約40cm、燃焼部長約50cmを測る。両袖部、燃焼部中央より竈構築材、支脚等と思われる石が検出された。

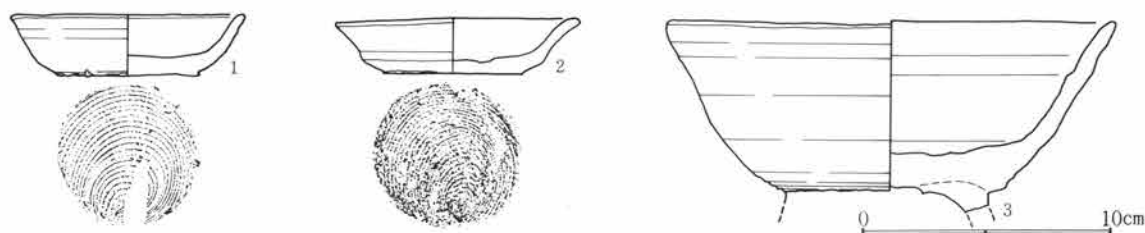


Fig.145 55号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物



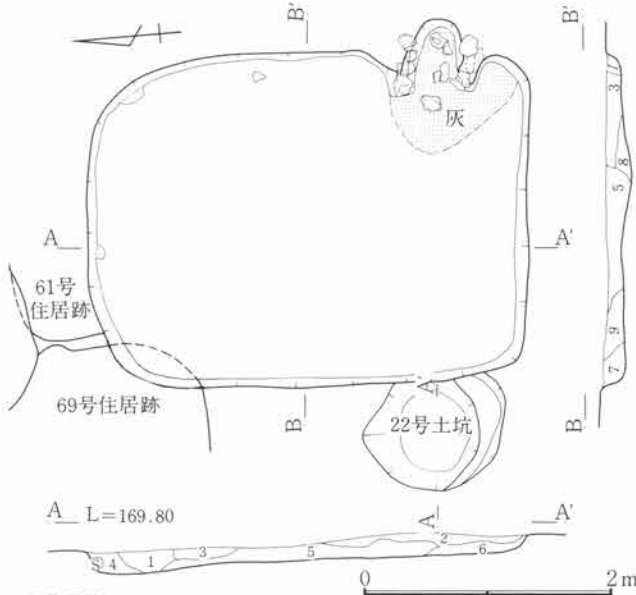
Fig.146 55号住居跡出土遺物(2)

第55号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
145-1 89	須恵器 坏	口-9.3 高-2.4 底-5.4	Na 1	底部回転糸切右廻り	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④%残存
145-2 89	須恵器 皿	口-9.7 高-2.2 底-5.5	Na 2	底部回転糸切右廻り	①良好②赤褐色③1~2mmの砂粒含む④%残存
145-3 89	須恵器 埴	口-17.7	Na 3	付高台底部回転ナデ調整	①良好②明褐色③密④%残存
Fig. 146-4 PL. 89	鉄製品	長-7.9cm 厚-9mm	鎌		

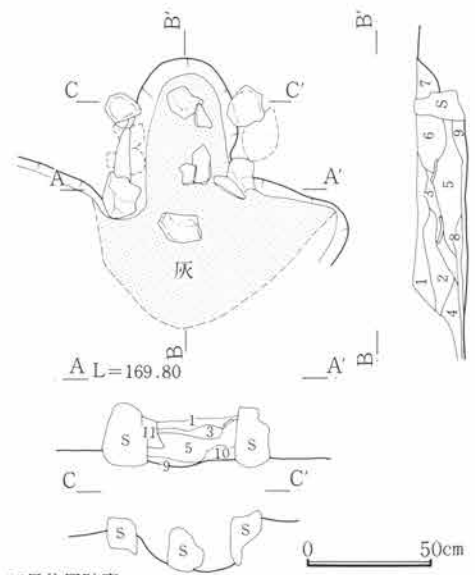
56号住居跡 (Fig. 147・148・149, PL. 12・89)

G区北東部に位置し27~29G47・48の範囲にある。55号住居跡の南東にあり、北東部を61号住居跡、北西コーナーの一部を69号住居跡と重複する。新旧関係は61・69号住居跡よりも新しい。規模は長辺3.6m、短辺2.8mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-99°-Eである。壁高は約15cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は袖幅約50cm、燃焼部長約50cmを測る。両袖部より石が検出された。



- 56号住居跡
- 1 暗褐色土層 砂粒を含む
 - 2 暗褐色土層
 - 3 暗褐色土層 礫を含む
 - 4 暗褐色土層 大型の礫を含む
 - 5 暗褐色土層 FAブロックを含む
 - 6 暗褐色土層 礫を少量含む
 - 7 暗褐色土層 赤色粒を含む
 - 8 暗褐色土層
 - 9 暗褐色土層 FAを含む
- 22号土坑
- 1 暗褐色土層 FP、FAブロックを含む
 - 2 暗褐色土層 FAを含む

Fig.147 56号住居跡・22号土坑



- 56号住居跡竈
- 1 暗褐色土層 焼土ブロック、炭化物を少量含む
 - 2 褐色土層 FAブロックを少量含む
 - 3 褐色土層 焼土ブロック、炭化物、黒色灰を含む
 - 4 暗褐色土層 砂礫を多量に含む
 - 5 暗褐色土層 焼土粒、黒・白色灰を含む
 - 6 暗褐色土層 焼土粒、少量の黒色灰を含む
 - 7 暗褐色土層 焼土粒、炭化物を含む
 - 8 黒色灰層 黒色灰に焼土、炭化物を含む
 - 9 黒褐色土層
 - 10 黒褐色土層 黒・白色灰を含む
 - 11 黒褐色土層 黒色

Fig.148 56号住居跡竈

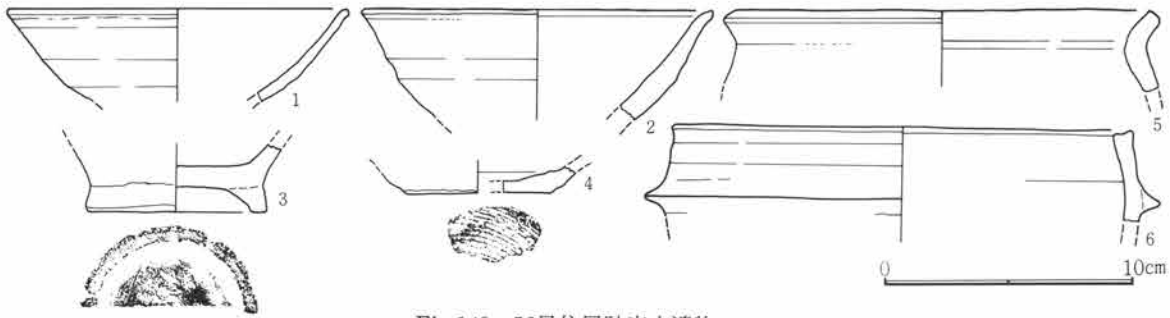


Fig.149 56号住居跡出土遺物

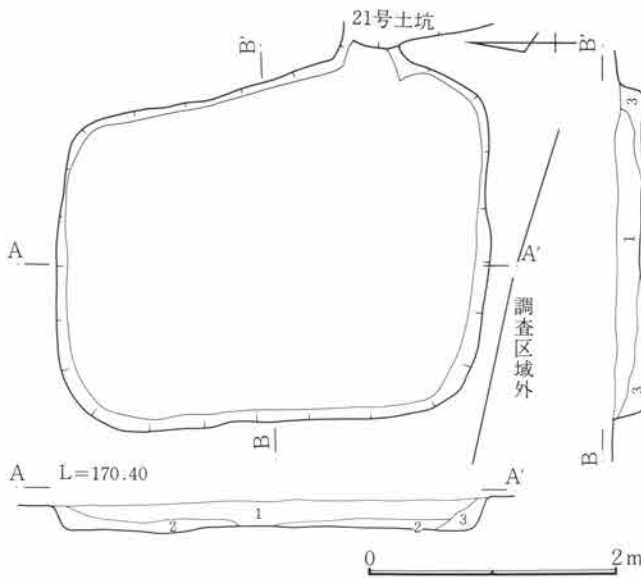
第56号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
149-1 89	灰釉陶器 坏	口-13.4	覆土	口縁部釉口縁端部外側へ屈曲する	①良好②灰白色③密④口縁部破片
149-2 89	須恵器 碗	口-14.0	覆土	口縁端部外側へ屈曲する	①良好②灰褐色③細砂粒含む④口縁部破片
149-3 89	須恵器 碗	底-7.0	覆土	付高台	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④底部残存
149-4 89	須恵器 坏	底-5.8	覆土	底部回転糸切	①良好②褐色③細砂粒含む④底部破片
149-5 89	土師器 甕	口-16.6	覆土	口縁部短く外反する	①良好②明赤褐色③3~4mmの砂粒含む④口縁部破片
149-6 89	羽釜	口-18.0	覆土	鈔横を向く口縁部内傾する	①良好②灰色③細砂粒含む④口縁部破片

57号住居跡 (Fig. 150・151、PL. 12・89)

G区東部に位置し31・32G32・33の範囲にある。50号住居跡の南にあり、竈の一部を21号土坑と重複する。新旧関係は土坑が新しく竈が切り崩されている。規模は長辺3.8m、短辺2.9mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-75°-Eである。壁高は約15cm~20cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵

穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。燃烧部幅約60cm、燃烧部東部は21号土坑に切り崩され、約20cmの長さを測る。



- 57号住居跡
 1 暗褐色土層 炭化物を含む
 2 暗褐色土層 炭化物多量を含む
 3 暗褐色土層

Fig.150 57号住居跡

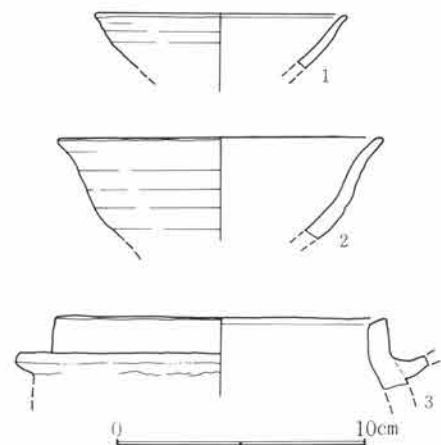


Fig.151 57号住居跡出土遺物

第57号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
151-1	灰釉陶器 壺	口-12.0	覆土	口縁端部外側へ弱く屈曲する	①良好②灰白色③密④破片
151-2 89	須恵器 壺	口-13.0	覆土	口縁部弱く外湾する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
151-3 89	羽釜	口-13.0	覆土	口縁部やや内湾し鑿上を向く	①良好②にぶい赤褐色③2~3mm砂粒含む④口縁部破片

58号住居跡 (Fig. 152・153・154, PL. 12・89)

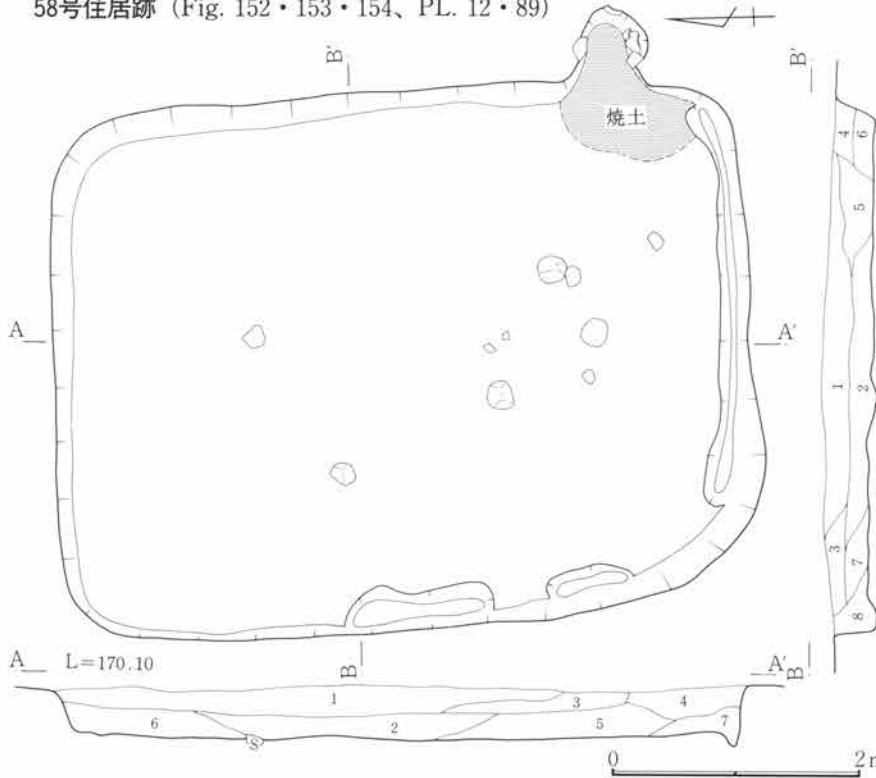


Fig.152 58号住居跡

G区北東部に位置し30~32G 41~43の範囲にある。56号住居跡の南西にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺5.7m、短辺4.2mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-87°-Eである。壁高は約30cm~35cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、南・西壁に幅約10cm~35cm、深さ約5cm~10cmを測る周溝が確認された。貯蔵穴は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約60cm、同長約70cmを測る。

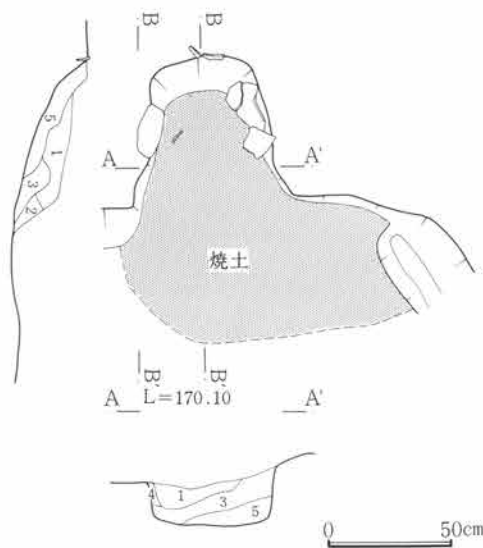


Fig.153 58号住居跡竈

58号住居跡

- 1 暗褐色土層 F Pを含む
- 2 暗褐色土層 F P、焼土、炭化物を含む
- 3 暗褐色土層 小礫を含む
- 4 暗褐色土層 F Aを含む
- 5 暗褐色土層 炭化物を含む
- 6 暗褐色土層 F Pブロックを含む
- 7 暗褐色土層 F P、F Aを含む
- 8 暗褐色土層 F Aブロックを含む

58号住居跡竈

- 1 黒褐色土層 焼土を含む
- 2 黒褐色土層 黒色灰を含む
- 3 褐色土層 灰を含む
- 4 暗褐色土層 焼土を多量に含む
- 5 暗褐色土層 焼土、灰を含む

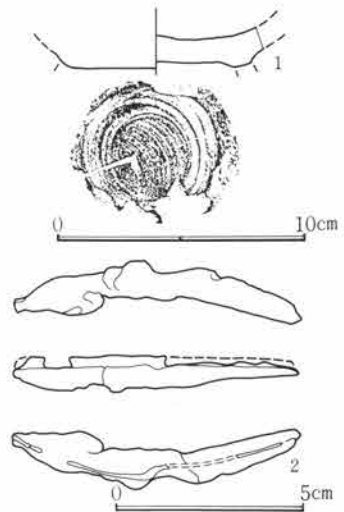
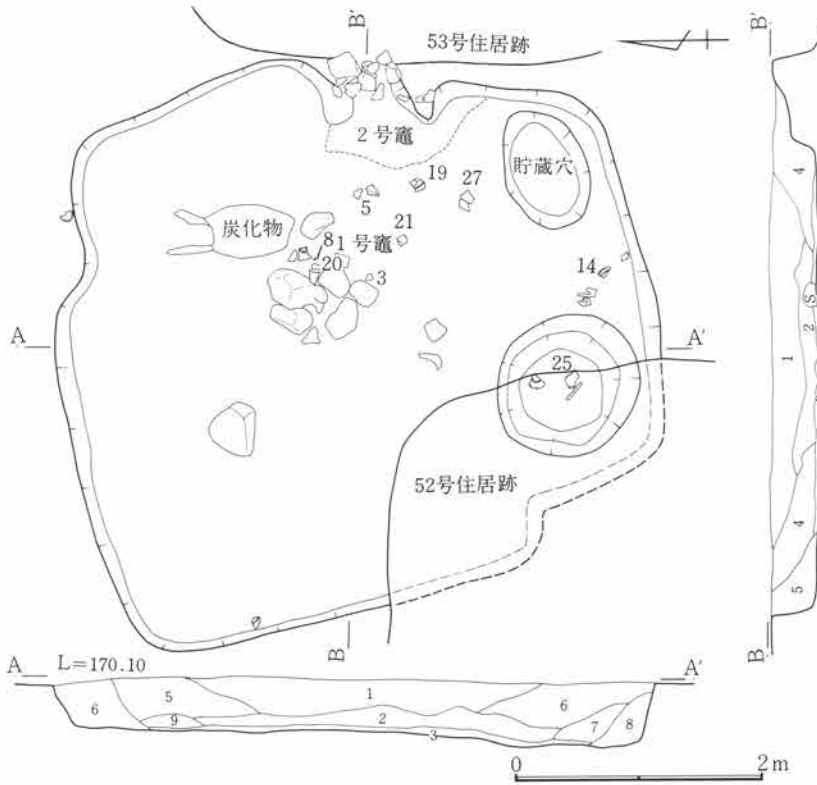


Fig.154 58号住居跡出土遺物

第58号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
154-1 89	須恵器 坏		覆土	付高台欠落底部回転糸切	①良好②灰色③細砂粒含む ④底部残存
Fig. 154-2 PL. 89	銅製品	長-7.6cm 厚-3mm	不明		

59号住居跡 (Fig. 155・156・157・158・159、PL. 13・89・90)

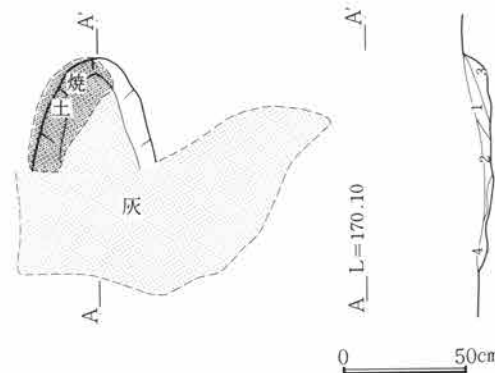


G区北東部に位置し30~32G 38~41の範囲にある。58号住居跡の南にあり、西部、東部でそれぞれ52号住居跡、53号住居跡と重複する。新旧関係は52・53号住居跡が新しい。当住居跡は2軒の重複が考えられ、それぞれA・Bと付した。新旧関係は不明である。床面はほぼ平坦をなす。貯蔵穴は南東部に検出され規模は約1m×0.6m、深さ約50cmを測る。竈は東壁ほぼ中央と床面中央の2基が検出された。規模は東側が燃焼部幅約50cm、同長約40cmを測り煙道の先端部は53号住居跡により壊されている。西側の竈は燃焼部幅約40cm、同長約40cmを測る。

59号住居跡

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 暗褐色土層 小型のFPを少量含む | 6 暗褐色土層 FPを少量含む |
| 2 暗褐色土層 FPを多量に含む | 7 暗褐色土層 FP、炭化物を含む |
| 3 暗褐色土層 FP、円礫を含む | 8 暗褐色土層 砂礫を含む |
| 4 暗褐色土層 FP、焼土、炭化物を含む | 9 暗褐色土層 FP、焼土、炭化物を含む |
| 5 暗褐色土層 焼土、炭化物を少量含む | |

Fig.155 59号住居跡



59号住居跡1号竈

- | |
|------------------|
| 1 暗褐色土層 焼土を多量に含む |
| 2 暗褐色土層 焼土、灰を含む |
| 3 黒褐色土層 焼土を含む |
| 4 黒褐色土層 灰を含む |

Fig.156 59号住居跡1号竈

第2章 検出された遺構と遺物

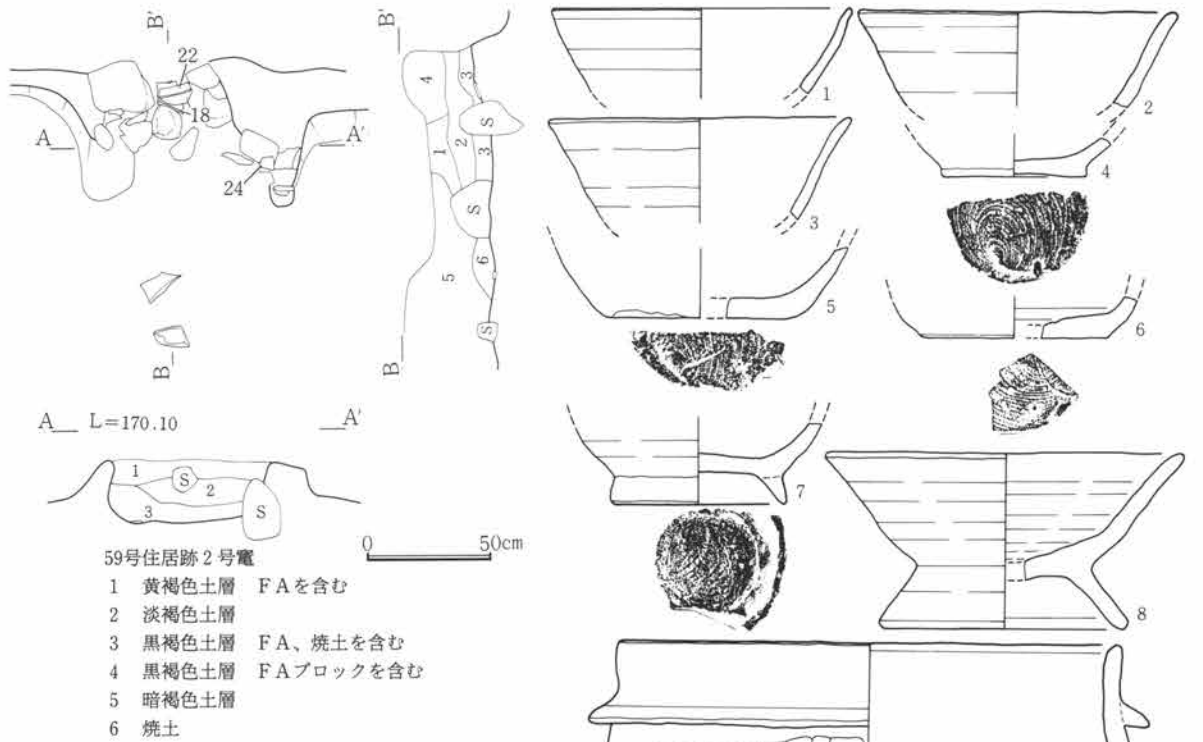


Fig.157 59号住居跡2号竈

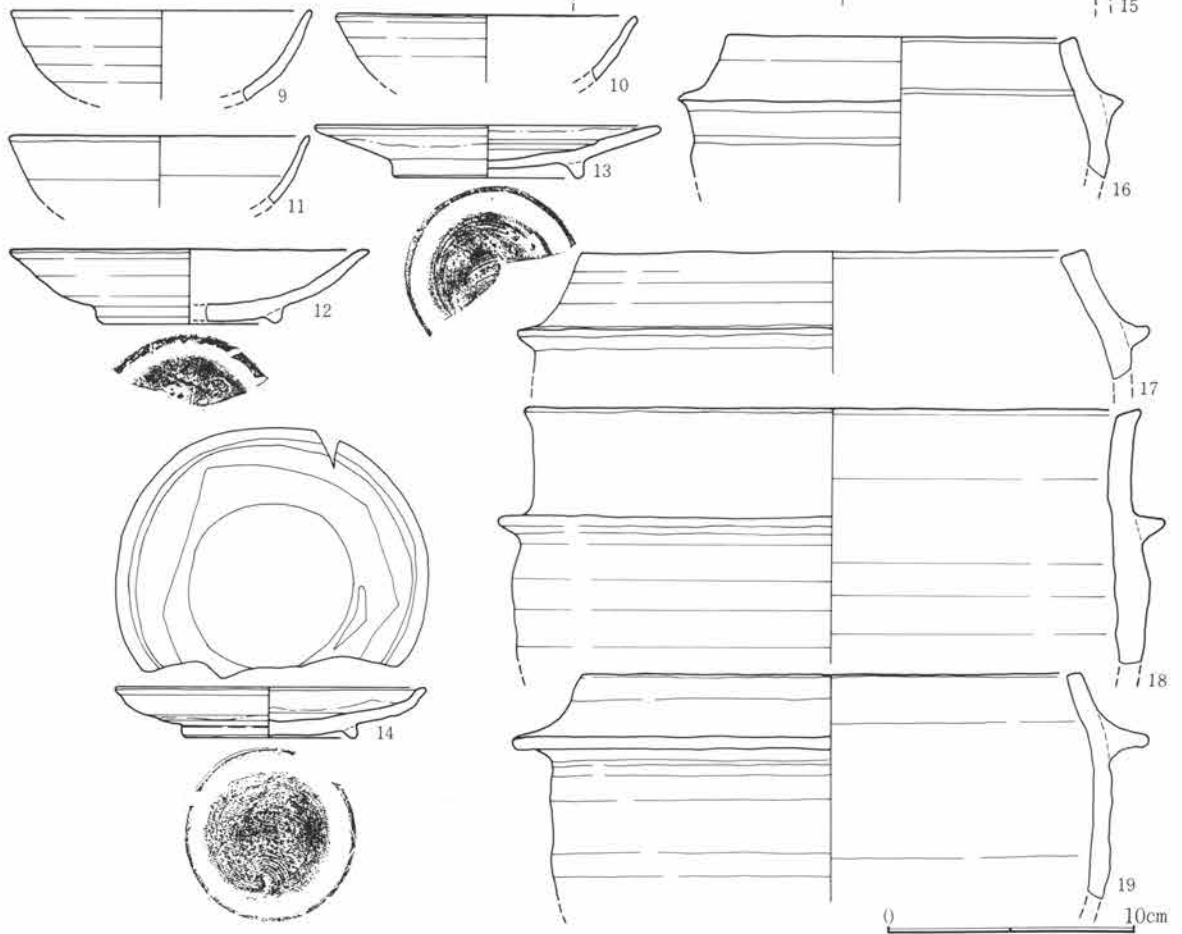


Fig.158 59号住居跡出土遺物(1)

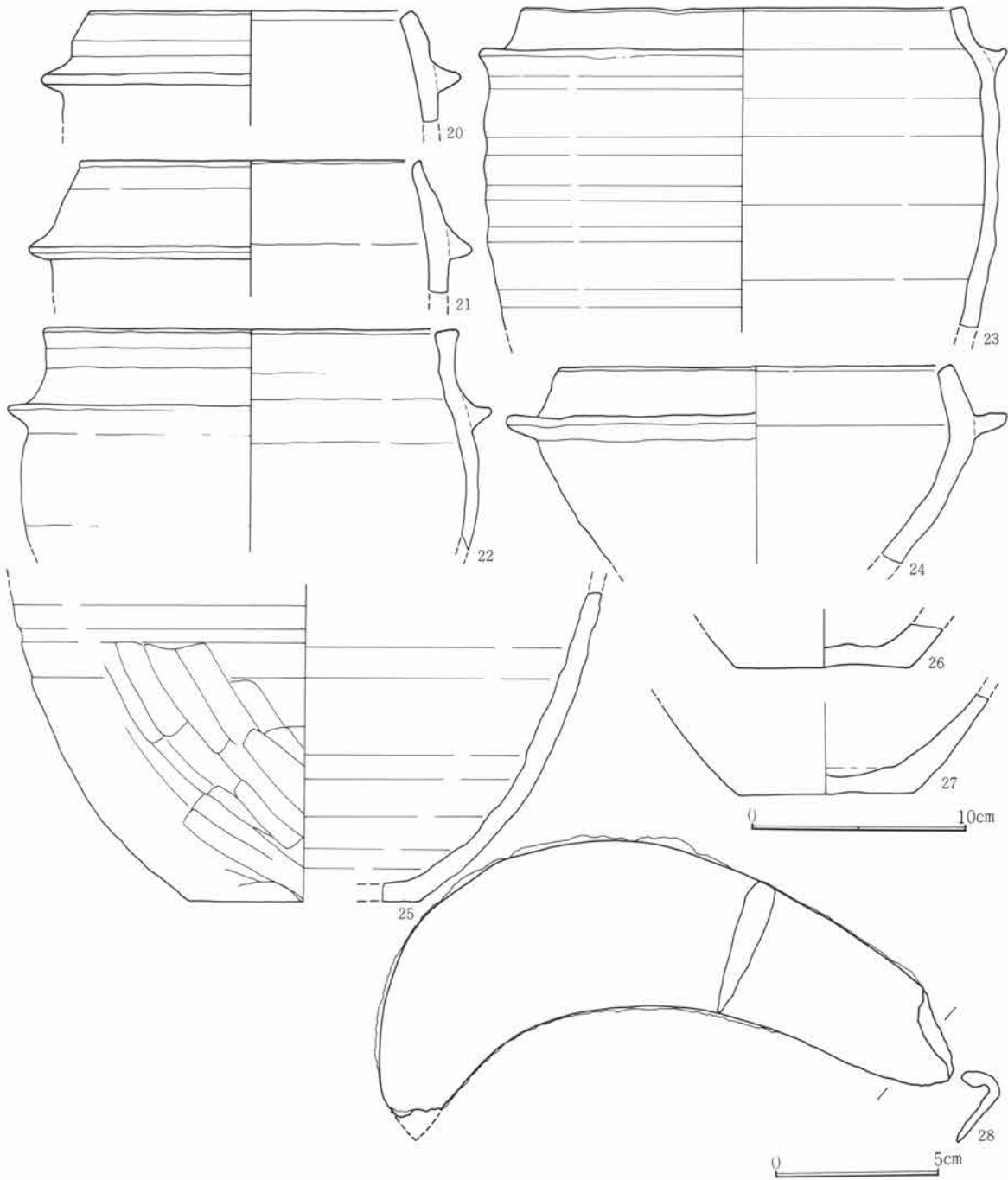


Fig.159 59号住居跡出土遺物(2)

第59号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
158-1 89	須恵器 壺	口-12.0	覆土	口縁端部弱く外反する	①良好②灰色③細砂粒含む ④口縁部破片
158-2 89	土師器 杯	口-12.6	覆土	口縁部直線状に外傾する	①良好②赤褐色③1~2mm の砂粒含む④口縁部破片
158-3 89	須恵器 壺	口-12.0	No 3	口縁端部弱く外反する	①良好②にぶい赤褐色③細 砂粒含む④口縁部破片
158-4 89	須恵器 杯	底-5.7	覆土	底部回転糸切右廻り	①良好②にぶい橙色③細砂 粒含む④底部½残存

第2章 検出された遺構と遺物

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
158-5 89	須恵器 坏	底-7.0	No 5	底部回転糸切	①良好②にぶい黄橙色③細砂粒含む④底部 $\frac{1}{4}$ 残存
158-6 89	須恵器 坏	底-7.4	竈覆土	底部回転糸切	①良好②にぶい灰白色③細砂粒含む④底部破片
158-7 89	須恵器 塊	底-6.6	覆土	付高台底部回転糸切	①良好②にぶい灰白色③細砂粒含む④底部 $\frac{1}{4}$ 残存
158-8 89	須恵器 塊	口-14.3 高-6.9 底-9.4	No 8	高台高くハの字状に開く口縁部は弱く外湾する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④ $\frac{1}{4}$ 残存
158-9 89	灰釉陶器 塊	口-12.0	覆土	口縁部外側へ屈曲する	①良好②にぶい灰白色③密④口縁部破片
158-10 89	灰釉陶器 坏	口-10.8	覆土	口縁部釉	①良好②にぶい灰白色③密④口縁部破片
158-11 89	灰釉陶器 坏	口-12.0	覆土		①良好②にぶい灰白色③密④口縁部破片
158-12 89	灰釉陶器 皿	口-14.3 高-2.9 底-6.8	覆土	底部回転調整口縁部内外面施釉口縁部弱く外反する	①良好②にぶい灰白色③密④ $\frac{1}{4}$ 残存
158-13 89	灰釉陶器 皿	口-13.8 高-2.1 底-7.6	覆土	口縁部内外面施釉口縁部直線状に外傾する	①良好②にぶい灰白色③密④ $\frac{1}{4}$ 残存
158-14 90	須恵器 皿	口-12.3 高-2.0 底-6.8	No14	口縁部内外面施釉つけがけ底部回転糸切	①良好②にぶい灰白色③密④ $\frac{1}{4}$ 残存
158-15 90	羽釜	口-20.0	覆土	鋳低く下を向く鋳から下ヘラケズリ	①良好②にぶい灰褐色③細砂粒含む④口縁部 $\frac{1}{4}$ 残存
158-16 90	羽釜	口-13.8	覆土	鋳低く横を向く口縁部内傾する	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片
158-17 90	羽釜	口-10.0	覆土	鋳低く横を向く口縁部内傾する	①良好②にぶい褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
158-18 90	羽釜	口-24.4	No18	鋳やや上を向く鋳下位で外へふくらむ口縁部弱く外反する	①良好②にぶい灰白色③細砂粒含む④口縁部 $\frac{1}{4}$ 残存
158-19 90	羽釜	口-19.8	No19	鋳やや長く横を向く口縁部内傾する	①良好②にぶい灰白色③細砂粒含む④口縁部 $\frac{1}{4}$ 残存
159-20 90	羽釜	口-14.8	No20	鋳横を向く口縁部内傾する	①良好②にぶい褐色③細砂粒含む④口縁部破片
159-21 90	羽釜	口-15.7	No21	鋳短く下を向く口縁部薄く内傾する	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④口縁部 $\frac{1}{4}$ 残存
159-22 90	羽釜	口-19.0	No22	鋳上を向く口縁部直立ぎみ	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片
159-23 90	羽釜	口-20.2	竈覆土	口縁部内湾し鋳上を向く口縁部内傾する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部 $\frac{1}{4}$ 残存
159-24 90	羽釜	口-18.0	No24	鋳上を向き鋳から下内湾する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部 $\frac{1}{4}$ 残存
159-25 90	土師器 甕	底-10.6	No25	胴下位ヘラケズリ	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④口縁部 $\frac{1}{4}$ 残存
159-26 90	土師器 甕	底-8.0	覆土		①良好②にぶい灰白色③2~3mmの砂粒含む④底部 $\frac{1}{4}$ 残存
159-27 90	土師器 甕	底-8.0	No27		①良好②にぶい黄褐色③1~2mmの砂粒含む④底部 $\frac{1}{4}$ 残存

Fig. 159-28 PL. 90 鉄製品 長-17.5cm 厚-9mm 鎌

60号住居跡 (Fig. 160・161、PL. 90)

遺跡地内ほぼ中央に位置し39・40G48・49の範囲にある。94号住居跡の東にある。他の遺構との重複はない。住居跡は北半部のみ検出され平面形態、主軸方位は不明であるが北辺は約3mを測る。壁高は約40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は検出されていない。

第1節 竪穴住居跡

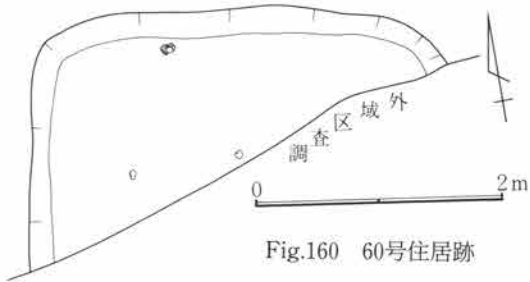


Fig.160 60号住居跡

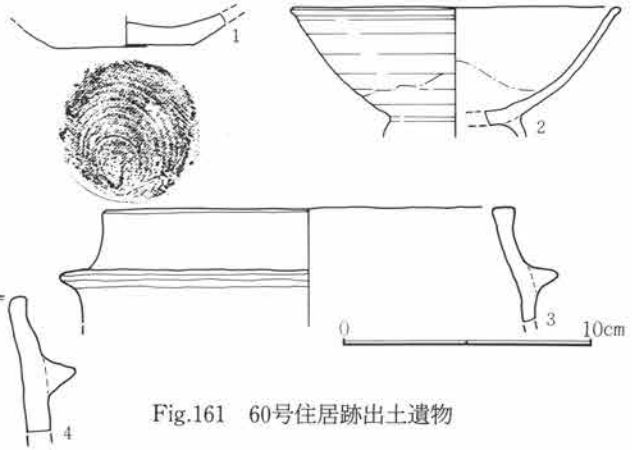
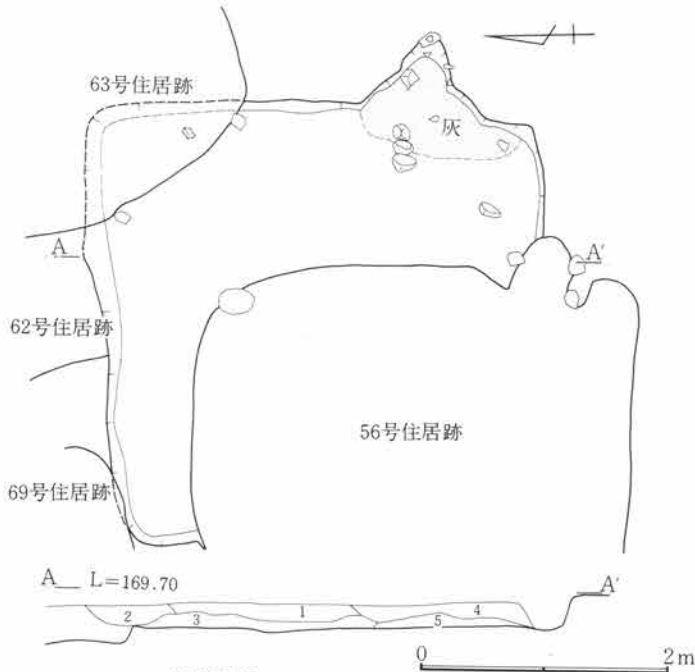


Fig.161 60号住居跡出土遺物

第60号住居跡出土遺物観察表

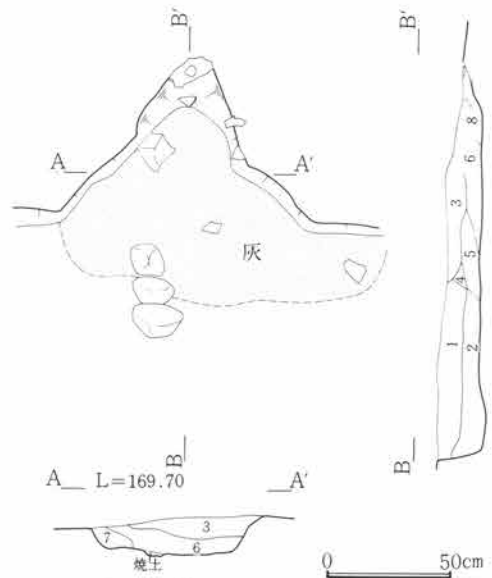
Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
161-1 90	須恵器 坏	底-5.4	覆土	底部回転糸切右廻り	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④底部残存
161-2 90	灰釉陶器 埴	口-13.1	覆土	口縁部内外面施釉口縁部外側へ屈曲する	①良好②灰白色③密④残存
161-3 90	羽釜	口-16.4	覆土	鋳低く横を向く口縁部内傾する	①良好②にぶい赤褐色③細砂粒含む④口縁部破片
161-4 90	羽釜	口-20.0	覆土	鋳低く横を向く口縁部内傾する	①良好②灰色③細砂粒含む④口縁部破片

61号住居跡 (Fig. 162・163・164, PL. 13・90・91)



- 61号住居跡
- 1 黒褐色土層 FP、FAを含む
 - 2 黒褐色土層 FP、炭化物を含む
 - 3 暗褐色土層 FP、小礫を含む
 - 4 黒褐色土層 FA、炭化物を含む
 - 5 暗褐色土層 FAを含む

Fig.162 61号住居跡



- 61号住居跡竈
- 1 黒褐色土層 FPを含む
 - 2 黒褐色土層 FP、炭化物を含む
 - 3 暗褐色土層 FA、焼土、炭化物を含む
 - 4 暗褐色土層 焼土を含む
 - 5 淡褐色土層 焼土、炭化物を含む
 - 6 暗褐色土層 FA、焼土を含む
 - 7 淡褐色土層 FA、灰を含む
 - 8 焼土、灰層

Fig.163 61号住居跡竈

第2章 検出された遺構と遺物

G区北東部に位置し27G47・48の範囲にある。北東部、西部をそれぞれ62・63号住居跡、56号住居跡と重複している。新旧関係は他の住居跡に壊されている。住居跡は東部を一部検出したのみで規模、平面形態、主軸方位は不明である。壁高は約10cm～15cmを測り、床面はほぼ平坦をなし、貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁に検出された。規模は燃烧部幅約80cm、同長約70cmを測る。竈長軸の方位はN-96°-Eである。

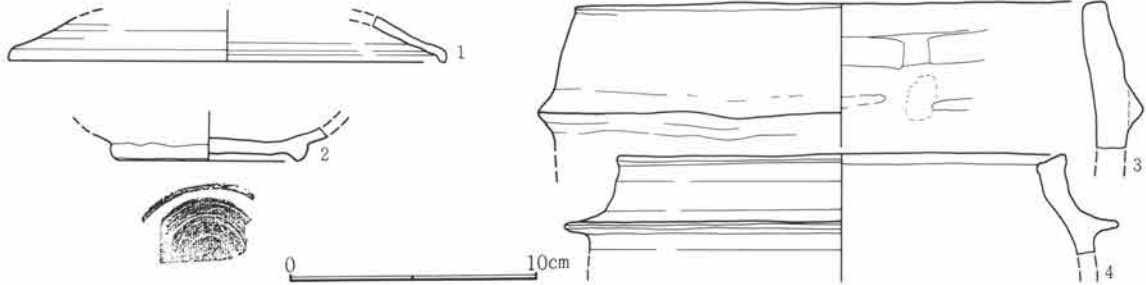


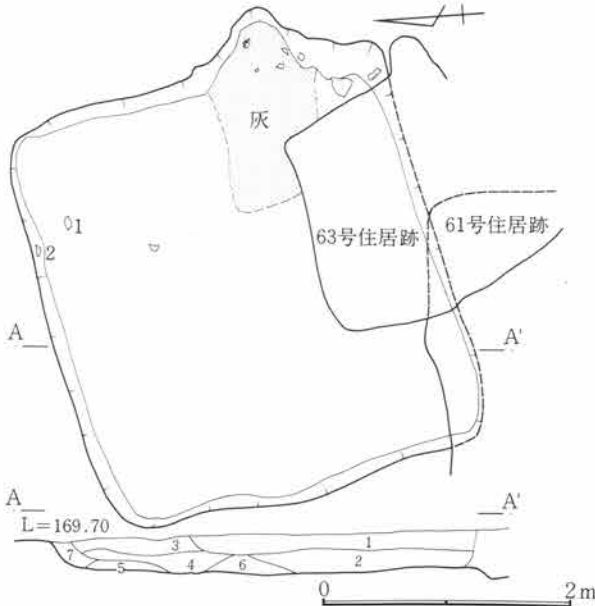
Fig.164 61号住居跡出土遺物

第61号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
164-1 90	須恵器 蓋	口-17.4	覆土	器肉薄い	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④破片
164-2	灰釉陶器 皿	底-7.2	覆土	付高台底部回転ヘラ調整	①良好②灰白色③密④底部破片
164-3 91	羽釜	口-18.0	竈覆土	鈿長く横を向く口縁部内傾する	①良好②におい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
164-4 91	羽釜	口-21.0	覆土	鈿低くややゆがむ	①良好②暗赤褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片

62号住居跡 (Fig. 165・166、PL. 13・91)

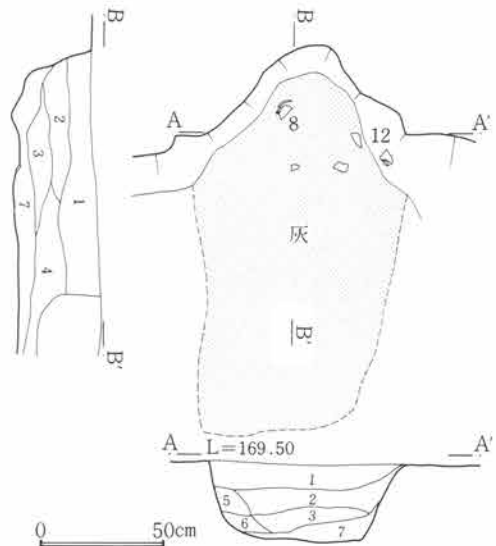
G区北東部に位置し26～28G49H00の範囲にある。南部を61・63号住居跡と重複している。新旧関係は61・



62号住居跡

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 黒褐色土層 FPを含む | 5 灰褐色土層 FAを含む |
| 2 暗褐色土層 炭化物を含む | 6 暗褐色土層 FP、炭化物を含む |
| 3 暗褐色土層 FP、FAを含む | 7 暗褐色土層 FPを少量含む |
| 4 黒褐色土層 FA、炭化物を含む | |

Fig.165 62号住居跡



62号住居跡竈

- | |
|------------------------|
| 1 暗褐色土層 FPを含む |
| 2 暗褐色土層 灰を含む |
| 3 暗褐色土層 焼土、炭化物、灰を含む |
| 4 暗褐色土層 焼土、灰を含む |
| 5 暗褐色土層 |
| 6 暗褐色土層 FA、灰を含む |
| 7 暗褐色土層 焼土、炭化物、灰を多量に含む |

Fig.166 62号住居跡竈

63号住居跡より古い。規模は長辺3.5m、短辺3.4mである。平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cmを測る。主軸方位はN-81°-Eである。床面は平坦をなし、貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は焼成部幅約80cm、同長約40cmを測る。

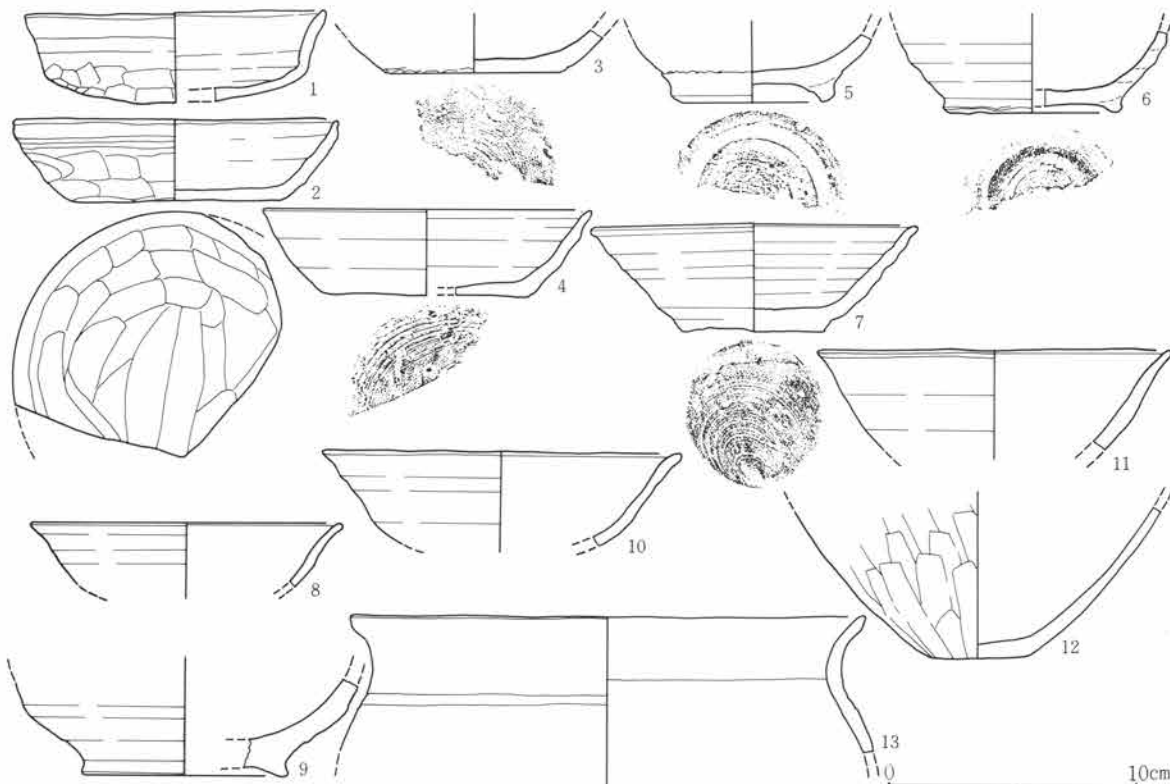


Fig.167 62号住居跡出土遺物

第62号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
167-1 91	土師器 坏	口-12.0 高-3.5	No 1	口縁部ヨコナデ体部底部ヘラケズリ内面ナデ口縁部稜をもち外湾ぎみに外傾する	①良好②にぶい赤褐色③細砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存
167-2 91	土師器 坏	口-12.8 高-3.3 底-8.4	No 2	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ底部ヘラケズリ口縁部内傾する	①良好②にぶい赤褐色③細砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存
167-3 91	須恵器 坏	底-6.8	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む④底部 $\frac{1}{2}$ 残存
167-4 91	須恵器 坏	口-13.0 高-3.4 底-8.0	覆土	底部回転糸切口縁部器形直状に外傾する	①良好②褐灰色③1~2mmの砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存
167-5 91	須恵器 塊	底-5.6	覆土		①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④底部 $\frac{1}{2}$ 残存
167-6 91	須恵器 塊	底-7.1	覆土	付高台底部回転糸切	①良好②灰色③細砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存
167-7 91	須恵器 坏	口-13.0 高-4.3 底-5.7	竈覆土	底部回転糸切右廻り口縁部外側へ屈曲し外面成形痕残る	①良好②灰色③細砂粒含む④完形
167-8 91	須恵器 坏	口-12.4	No 8	口縁部外側へ弱く屈曲する	①良好②褐灰色③細砂粒含む④口縁部破片
167-9 91	土師器 塊	底-6.0	覆土	付高台内黒	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存
167-10 91	土師器 塊	口-14.2	覆土	口縁部外側へ弱く屈曲する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
167-11 91	土師器 坏	口-14.0	覆土	口縁部弱く外湾する	①良好②明褐灰色③細砂粒含む④口縁部破片
167-12 91	土師器 甕	底-3.6	No 12	外面ヘラケズリ内面ナデ	①良好②にぶい赤褐色③細砂粒含む④底部 $\frac{1}{2}$ 残存
167-13 91	土師器 甕	口-20.4	竈覆土	口縁部ヨコナデ胴上部ヘラケズリ口縁部外湾する	①良好②にぶい赤褐色③細砂粒含む④口縁部破片

63号住居跡 (Fig. 168・169・170・171、PL. 13・91・92)

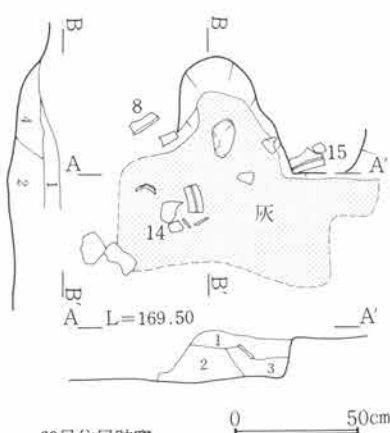
G区北東部に位置し26・27G48・49の範囲にある。北半部を62号住居跡と重複している。新旧関係は62号



63号住居跡

- 1 黒褐色土層 FPを含む
- 2 暗褐色土層 FP、炭化物を含む
- 3 暗褐色土層 FAを含む
- 4 暗褐色土層 FA、FPを含む

Fig.168 63号住居跡



63号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 FA、炭化物を含む
- 2 暗褐色土層 炭化物を多量に含む
- 3 黒褐色土層 炭化物、灰を含む
- 4 黒褐色土層 焼土、炭化物を含む

Fig.169 63号住居跡竈

住居跡が古い。規模は長辺2.4m、短辺1.9mである。平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cmを測り、主軸方位はN-78°-Eである。床面は平坦をなし、貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。竈は東壁に検出された。規模は燃焼部幅約50cm、同長約40cmを測る。

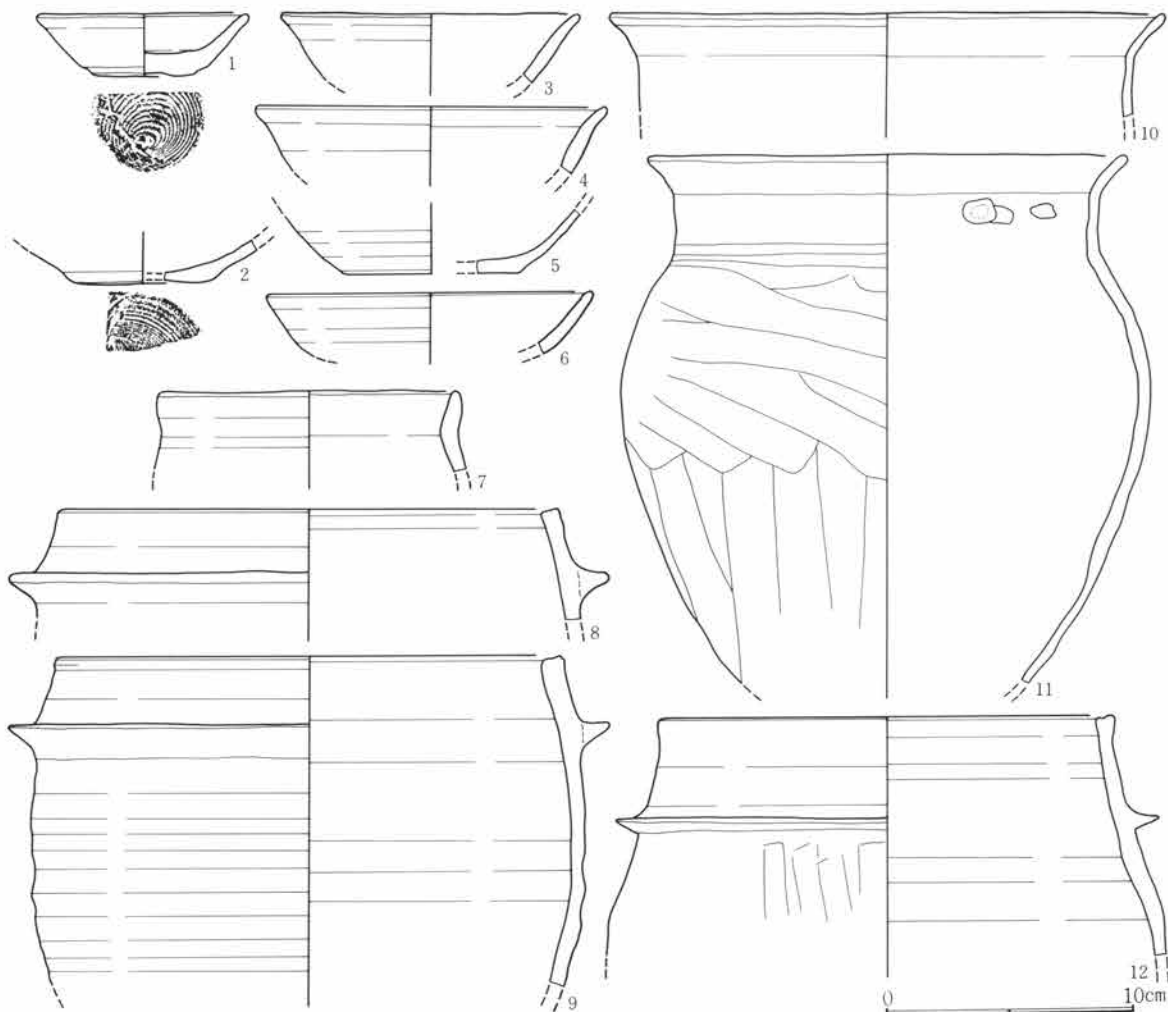


Fig.170 63号住居跡出土遺物(1)

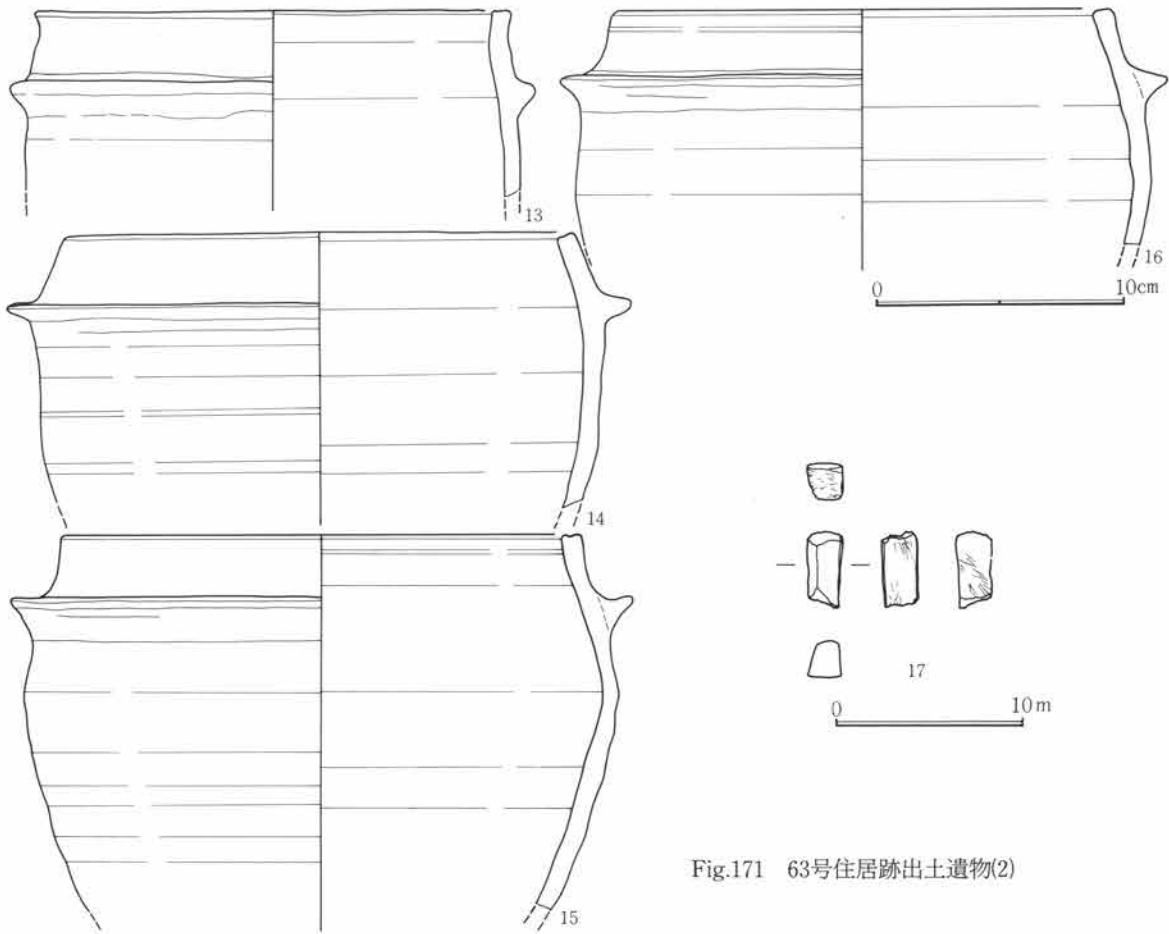


Fig.171 63号住居跡出土遺物(2)

第63号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
170-1 91	須恵器 坏	口-10.4 高-2.4 底-6.0	覆土	底部回転糸切右廻り	①良好②橙色③細砂粒含む ④½残存
170-2 91	須恵器 坏	底-5.5	覆土	底部回転糸切	①良好②にぶい橙色③1 ~2mm砂粒含む④底部½残存
170-3 91	須恵器 坏	口-12.0	覆土	口縁部弱く外反する	①良好②赤褐色③細砂粒含む ④口縁部破片
170-4 91	須恵器 埴	口-14.0	覆土	口縁端部弱く外反する	①良好②淡橙色③細砂粒含む ④口縁部破片
170-5 91	須恵器 坏	底-7.0	竈覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③1~2mm の砂粒含む④底部破片
170-6 91	灰釉陶器 皿	口-13.0	覆土	口縁部内面一部釉口縁部内湾ぎみ	①良好②灰白色③密④口縁 部破片
170-7 91	土師器 甕	口-12.0	覆土	口縁部ヨコナデ口縁部直立ぎみ	①良好②灰褐色③細砂粒含む ④口縁部破片
170-8 91	羽釜	口-20.0	No.8	鋳上を向く口縁部内傾する	①良好②灰色③細砂粒含む ④½残存
170-9 91	羽釜	口-20.0	覆土	鋳上を向く口縁部内傾する	①良好②褐灰色③細砂粒含む ④½残存
170-10 91	土師器 甕	口-22.0	覆土	口縁部内外面ヨコナデ口縁部コの字状を呈する	①良好②にぶい赤褐色③細 砂粒含む④口縁部破片
170-11 92	土師器 甕	口-19.0	覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部コの字状を呈する	①良好②にぶい橙色③細砂 粒含む④½残存
170-12 92	羽釜	口-18.0	覆土	鋳薄く横を向く口縁部内傾する	①良好②灰褐色③細砂粒含む ④½残存

第2章 検出された遺構と遺物

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
171-13 92	羽釜	口-18.9	覆土	鋳低く横を向く口縁部直立ぎみ	①良好②浅黄橙色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
171-14 92	羽釜	口-21.0	No14	鋳横を向く口縁部内湾する	①良好②明赤褐色③細砂粒含む④残存
171-15 92	羽釜	口-20.6	No15	口縁部内湾し鋳上を向く口縁部内傾する	①良好②灰色③細砂粒含む④残存
171-16 92	羽釜	口-19.5	覆土	鋳上を向く口縁部内傾する	①良好②灰色③細砂粒含む④残存

Fig. 171-17 PL. 92 石 長-4.0cm 幅-1.9cm 厚-1.9cm 砥石 流紋岩(砥沢)

64号住居跡 (Fig. 172・173、PL. 92)

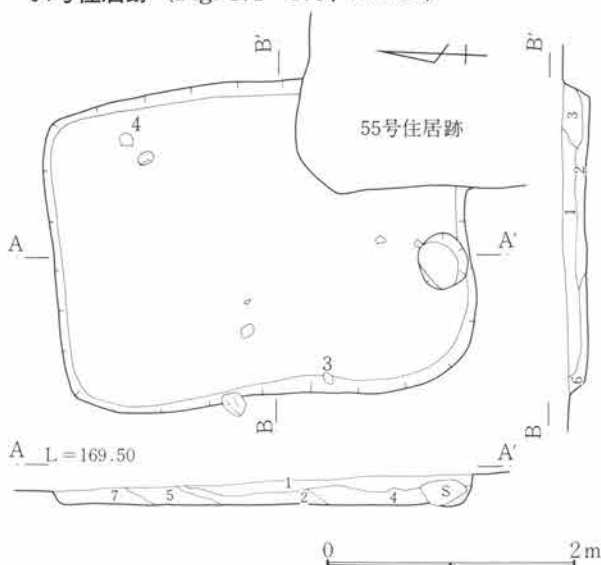


Fig.172 64号住居跡

H区南東部に位置し32・33H 0~2の範囲にある。69号住居跡の北東にあり、南東部で55号住居跡と重複している。新旧関係は64号住居跡が古い。規模は長辺3.4m、短辺2.6mである。平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cm~15cmを測る。床面は北に向い約10cmの比高差をもち高くなる。竈は検出されていない。

64号住居跡

- 1 暗褐色土層 FPを含む
- 2 暗褐色土層 炭化物を含む
- 3 暗褐色土層
- 4 褐色土層 砂礫を含む
- 5 暗褐色土層 炭化物を多量に含む
- 6 黒褐色土層 FAブロックを含む
- 7 暗褐色土層 礫を含む

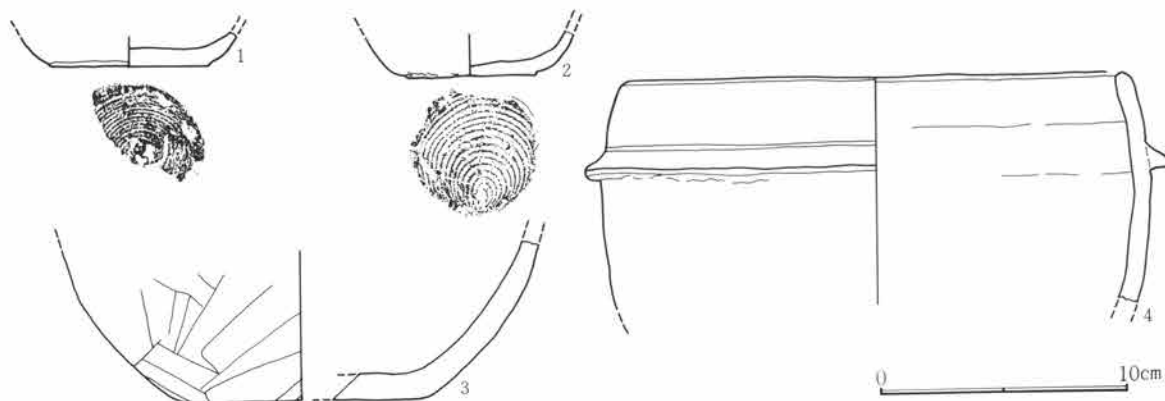


Fig.173 64号住居跡出土遺物

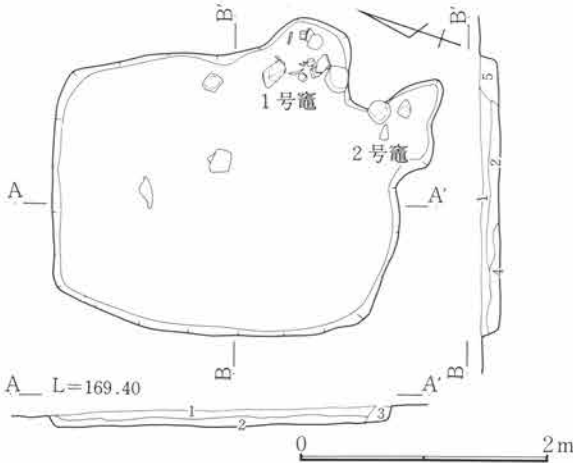
第64号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
173-1 92	須恵器 坏	底-6.2	覆土	底部回転糸切	①良好②にぶい褐色③細砂粒含む④底部残存
173-2 92	須恵器 坏	底-5.0	覆土	底部回転糸切	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④底部残存
173-3 92	土師器 甕	底-9.4	No 3		①良好②暗褐色③2~3mmの砂粒含む④底部残存
173-4 92	羽釜	口-20.0	No 4	鋳低く横を向く鋳下にヘラケズリ状痕跡がみられる口縁部内湾する	①良好②灰褐色③細砂粒含む④口縁部破片

65号住居跡 (Fig. 174・175・176・177、PL. 13・14・92)

H区南東部に位置し30~32H 3・4の範囲にある。64号住居跡の北東にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺3.3m、短辺2.3mである。平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約5cm~6cmを測り、主軸方位はN-69°-Eである。床面は平坦をなし、貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。竈は南東コーナー

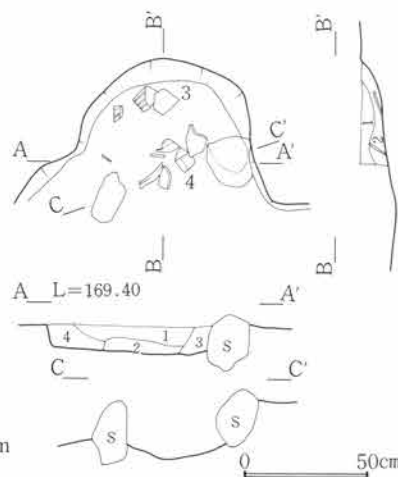
に2基検出された。1号竈は燃焼部幅約80cm、同長約40cmを測る。2号竈は燃焼部幅約40cm、同長約70cmを測る。竈長軸方位は北側がN-93°-E、南側がN-116°-Eである。



65号住居跡

- 1 暗褐色土層 FP、炭化物を含む
- 2 黒褐色土層 炭化物を含む
- 3 黒褐色土層 FPを含む
- 4 黒褐色土層 FP、FAを含む
- 5 暗褐色土層 FAブロックを含む

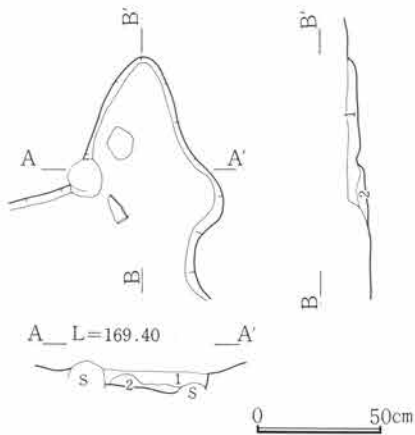
Fig.174 65号住居跡



65号住居跡1号竈

- 1 黒褐色土層 FP、炭化物を含む
- 2 暗褐色土層 炭化物を含む
- 3 暗褐色土層 FPを含む
- 4 黒褐色土層 FAブロックを含む

Fig.175 65号住居跡1号竈



65号住居跡2号竈

- 1 暗褐色土層
- 2 暗褐色土層 炭化物、焼土を含む

Fig.176 65号住居跡2号竈

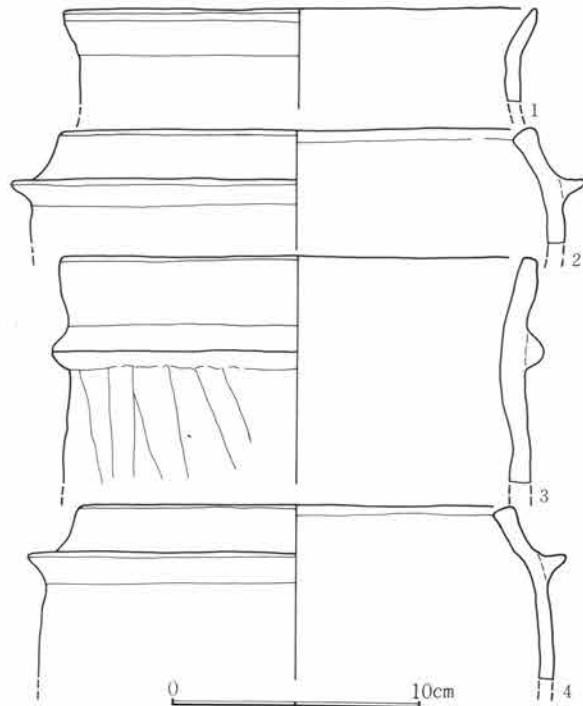


Fig.177 65号住居跡出土遺物(1)

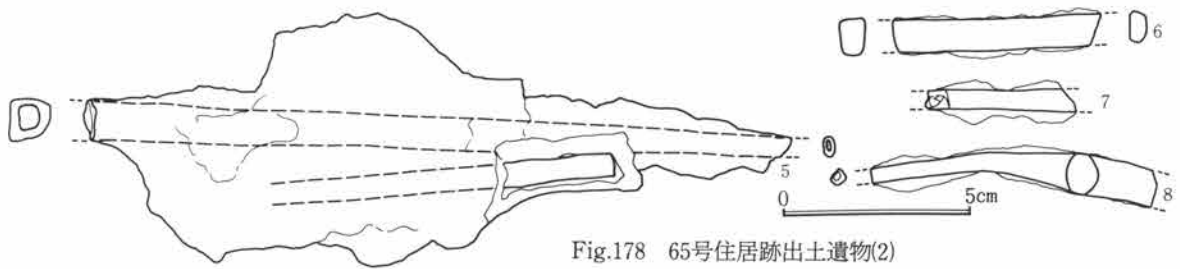


Fig.178 65号住居跡出土遺物(2)

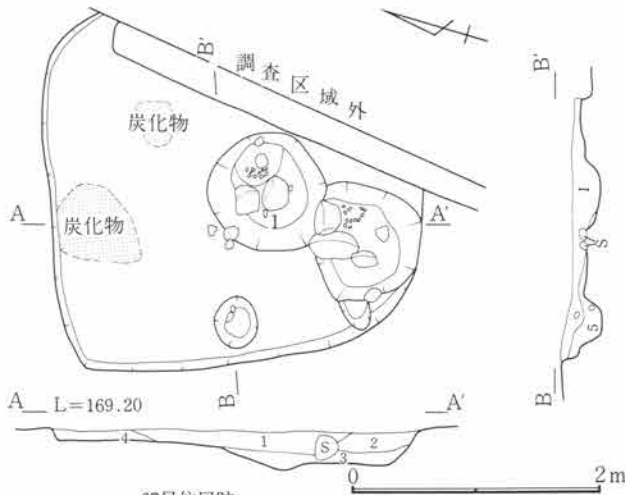
第65号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
177-1 92	土師器 甕	口-18.4	覆土	口縁部外反する	①良好②橙色③細砂粒含む ④口縁部破片
177-2 92	羽釜	口-19.0	覆土	鐙上を向く口縁部内湾する	①良好②褐色③細砂粒含む ④口縁部破片
177-3 92	羽釜	口-19.0	No 3	鐙断面丸みをもち鐙下ややふくらみをもち下から 上方向へのヘラケズリ口縁部弱く外傾する	①良好②灰色③2~3mmの 砂粒含む④口縁部残存
177-4 92	羽釜	口-17.2	No 4	鐙上を向く口縁部内湾する	①良好②灰色③細砂粒含む ④口縁部破片
Fig. 178-5 PL. 92	鉄製品	長-18.5cm 厚-6mm	棒状		
Fig. 178-6 PL. 92	鉄製品	長-5.5cm 厚-7mm	釘?		
Fig. 178-7 PL. 92	鉄製品	長-3.9cm 厚-6mm	釘?		
Fig. 178-8 PL. 92	鉄製品	長-7.6cm 厚-9mm	釘?		

67号住居跡 (Fig. 179・180、PL. 14・93)

H区南西部に位置し25・26H4・5の範囲にある。68号住居跡の北にあり、東部は調査区域外にある。このためプラン・規模・主軸方位等は不明であるが、西壁は約3mを測る。壁高は約10cmを測り、床面はほぼ平坦をなし、床面上2カ所から炭化物が集中して検出された。南西コーナーに2カ所の落ち込みが確認された。規模は南側は約90cm×80cm、北側は約1m×1m、深さは2基共に約10cm~15cmを測る。2基共に小穴から大型の石を検出し覆土内から多量の鉄滓を出土した。また西壁に沿う床面に小穴が検出され規模は約40cm×35

cm、深さ約10cmを測る。この小穴覆土内から羽口の破片が2点検出された。他の住居跡からも鞆の羽口が検出されているが当住居跡のような多量の鉄滓は検出されておらず、当遺跡内の小鍛冶跡と考えられる。竈は検出されていない。



- 67号住居跡
- 1 暗褐色土層 炭化物、黒色灰を含む
 - 2 暗褐色土層 鉄滓を含む
 - 3 暗褐色土層 鉄滓を少量含む
 - 4 暗褐色土層 炭化物を多量に含む
 - 5 暗褐色土層 炭化物、灰を含む

Fig.179 67号住居跡

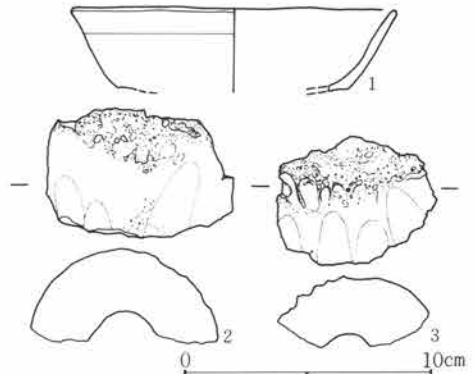


Fig.180 67号住居跡出土遺物

第67号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ③胎土 ②色調 ④残存
180-1 93	須恵器 坏	口-13.0	No 1	底部回転糸切2度切の可能性あり	①良好②灰色③密④口縁部 1/2残存
180-2 93	羽口		覆土	先端部溶解物付着	①良好②明橙色③細砂粒含 む④破片
180-3 93	羽口		覆土	先端部溶解物付着	①良好②明橙色③細砂粒含 む④破片

68号住居跡 (Fig. 181、PL. 14)

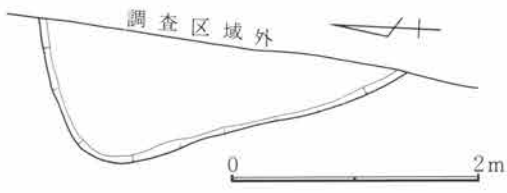
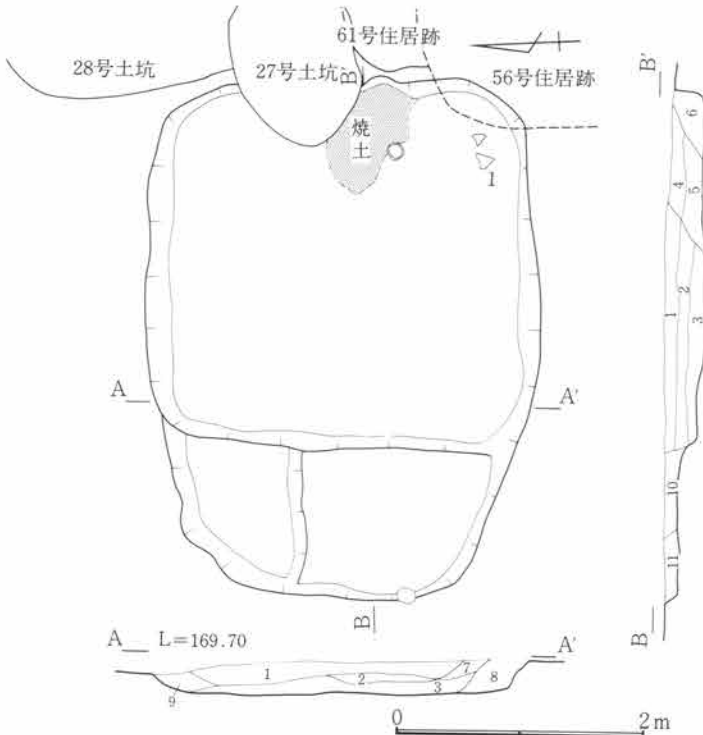


Fig.181 68号住居跡

H区南東に位置し25・26H 2～4の範囲にある。67号住居跡の南にあり、東半部の大部分は調査区域外にあるためプラン・規模等は確認されていない。西壁は約2.7mを測る。壁高は約10cmを測り、床面はほぼ平坦をなす。貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。竈は検出されていない。

69号住居跡 (Fig. 182・183・184、PL. 14・93)

G区北東部に位置し28～30G 48・49の範囲にある。56号住居跡の北西にあり、新旧関係は56号住居が古い。規模は長辺4.2m、短辺3.2mであり、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cm～30cmを測る。床面は西側がやや高くなり東半部は約3.2m×3mの範囲でほぼ平坦をなす。西部は約1.2mの幅で張り出しが確認され、北半部、南半部に分けられ北は東部より約10cm高く、南はさらに約10cm高くなる。竈は検出されていない。

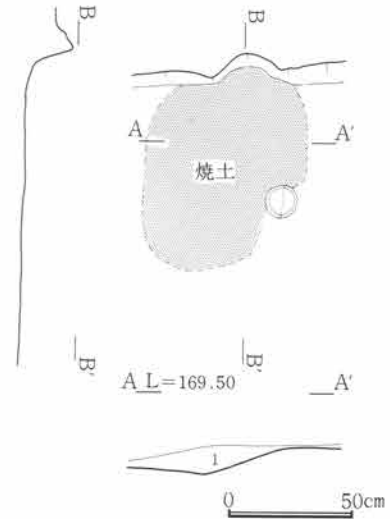


69号住居跡

- 1 黒褐色土層 FAブロック、FP、鉄分を含む
- 2 淡褐色土層 FAを多量に含む

Fig.182 69号住居跡

- 3 暗褐色土層 FAを含む、鉄分を多量に含む
- 4 暗褐色土層 鉄分を含む
- 5 暗褐色土層 FA、鉄分を含む
- 6 暗褐色土層 FAを少量、鉄分を含む



69号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 焼土ブロック、灰を含む

Fig.183 69号住居跡竈

- 7 暗褐色土層 FP、鉄分を少量含む
- 8 暗褐色土層 FA、FPを含む
- 9 暗褐色土層 FPを少量含む
- 10 黄褐色土層 FAを多量に含む
- 11 暗褐色土層 FPを含む

第2章 検出された遺構と遺物

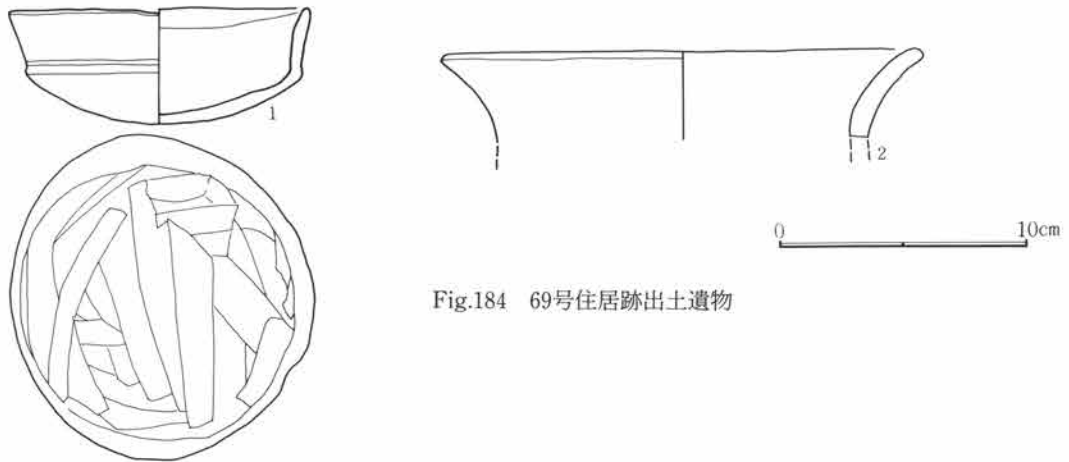


Fig.184 69号住居跡出土遺物

第69号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
184-1 93	土師器 坏	口-12.0 高-4.5	No.1	外面口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部稜をもち外傾する	①良好②明橙色③細砂粒含む④完形
184-2 93	土師器 甕	口-19.2	覆土	口縁部内外面ヨコナデ口縁部外反する	①良好②浅黄橙色③細砂粒含む④口縁部残存

70号住居跡 (Fig. 185・186・187、PL. 15・93)

E区に位置し34~36E 41~43の範囲にある。当住居跡は71号住居跡とともに2軒のみ遺跡地内の南東部に位置し、他の遺構との重複はない。規模は長辺5.1m、短辺3.6mである。平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cm~30cmを測り、主軸方位はN-84°-Eである。床面はほぼ平坦をなすが、南北で約10cmの比高差をもち北側が高くなる。貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約90cm、同長50cmである。

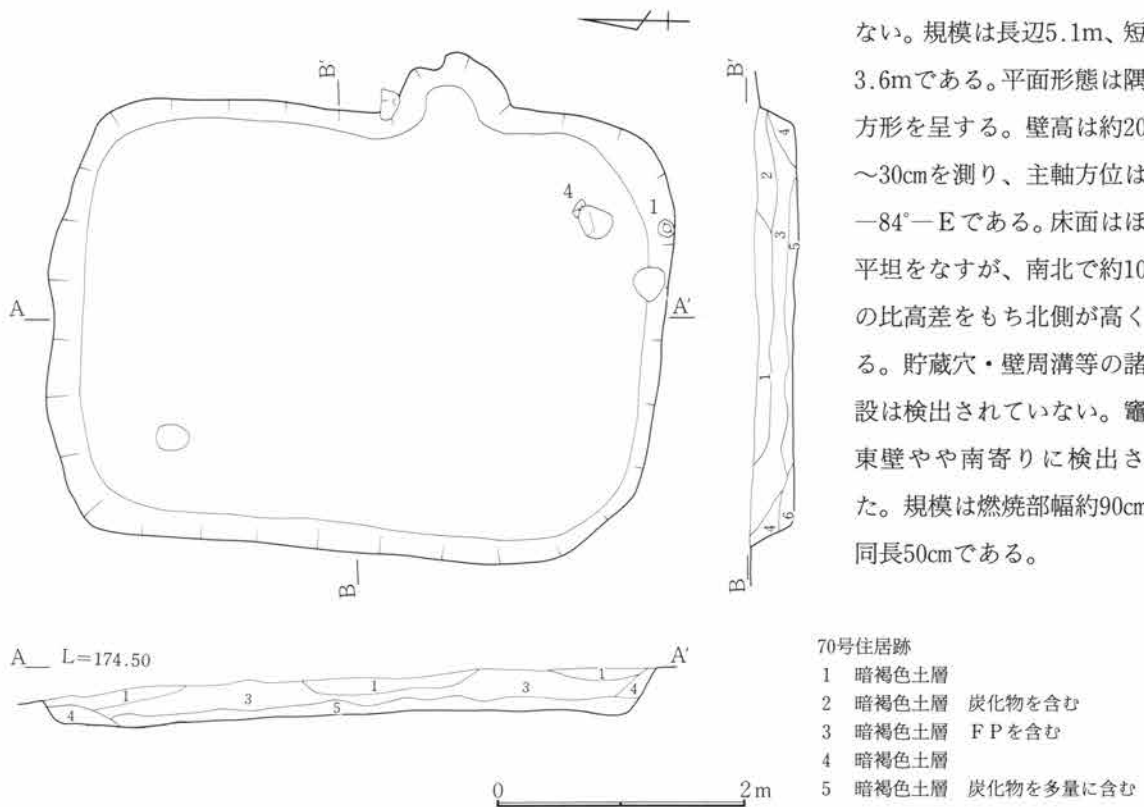
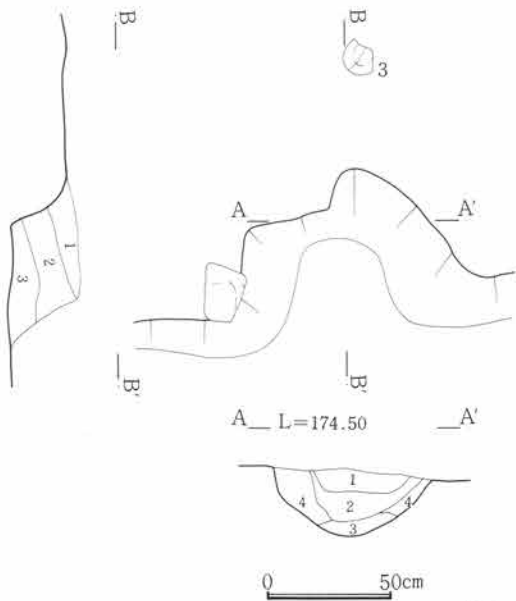


Fig.185 70号住居跡



- 70号住居跡竈
 1 暗褐色土層
 2 淡褐色土層 泥流土を含む
 3 暗褐色土層 炭化物を含む
 4 暗褐色土層 焼土を含む

Fig.186 70号住居跡竈

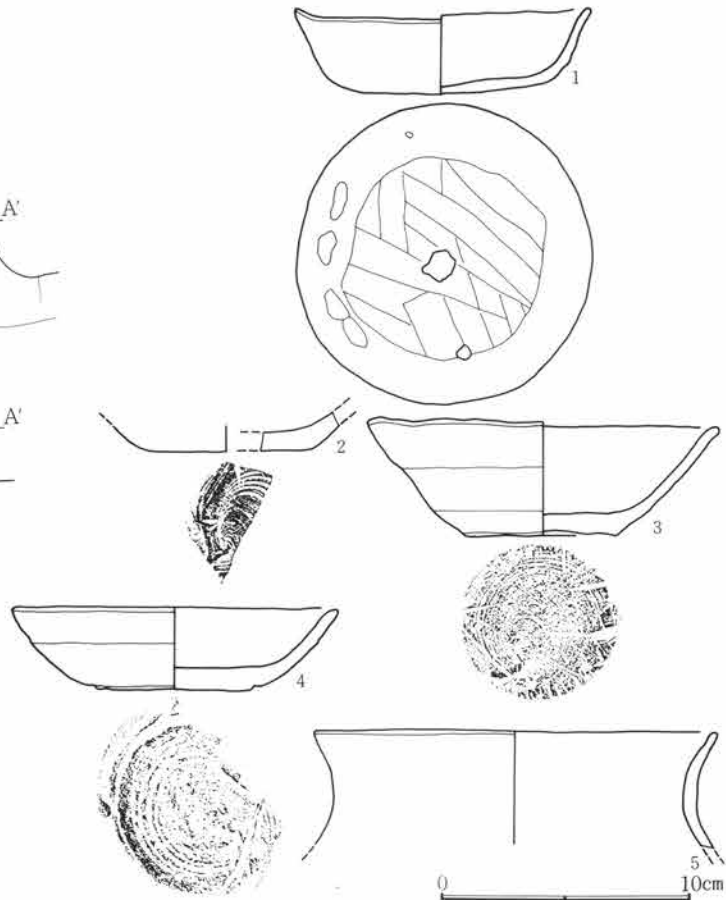
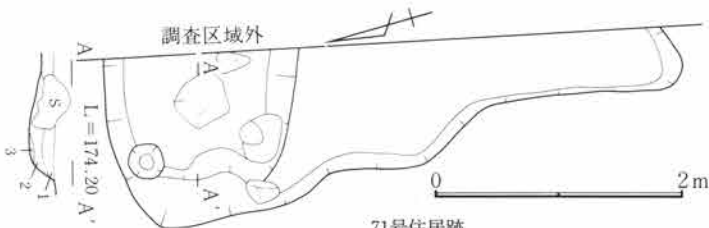


Fig.187 70号住居跡出土遺物

第70号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
187-1 93	土師器 坏	口-11.8 高-3.4 底-8.0	No.1	外面口縁部ヨコナデ底部ヘラケズリ内面ナデ3個所に孔がある口縁部ゆがみ外湾する	①良好②赤褐色③細砂粒含む④完形
187-2 93	須恵器 坏	底-6.1	覆土	底部回転糸切右廻り	①良好②灰色③細砂粒含むが密④底部破片
187-3 93	須恵器 坏	口-12.0 高-4.7 底-6.1	覆土	底部回転糸切右廻り糸切痕上ヘラ痕あり口縁部弱く外湾する	①良好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④残存
187-4 93	須恵器 坏	口-13.0 高-3.2 底-6.2	No.4	底部回転糸切右廻り口縁部内湾ぎみに立ち上がる	①良好②淡橙色③細砂粒含む④残存
187-5 93	土師器 甕	口-16.0	覆土	口縁部ヨコナデ口縁部外湾する	①良好②赤褐色③細砂粒含む④口縁部破片

71号住居跡 (Fig. 188、PL. 15)



- 71号住居跡
 1 淡褐色土層 FPを含む
 2 暗褐色土層 FP、炭化物を含む
 3 褐色土層 FAを含む

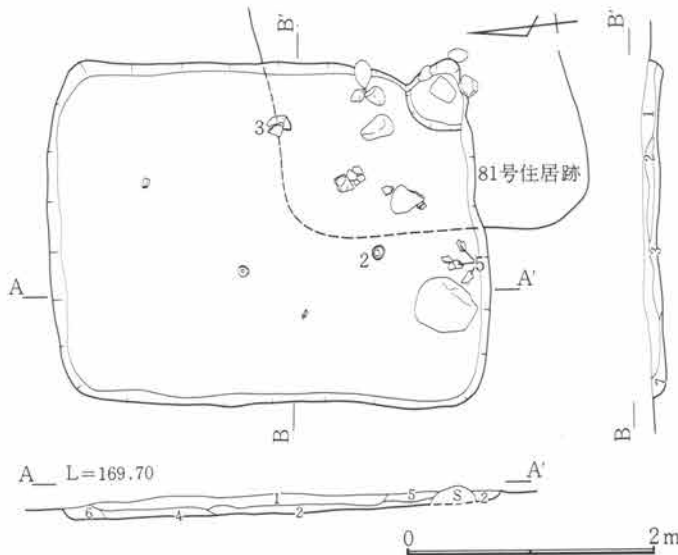
Fig.188 71号住居跡

E区に位置し32E 43~46の範囲にある。70号住居跡の北西にあり、住居跡の大半は調査区域外にあるため規模・主軸方位等は不明である。床面はほぼ平坦をなし北西部に小穴を検出した。東半部は調査区域外にあるが規模は約1.6m×1mを測り、深さ約10cmである。竈は検出されていない。

第2章 検出された遺構と遺物

79号住居跡 (Fig. 189・190・191, PL. 15・93)

G区の北東に位置し32~34G47~49の範囲にある。80号住居跡の北にある。南東部で81号住居跡と重複している。新旧関係は79号住居跡が新しい。規模は長辺3.6m、短辺2.7mである。平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cmを測り、主軸方位はN-99°-Eである。床面は平坦をなし、貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。床面上からは大型の石が検出されている。竈は南東コーナーに検出された。規模は燃焼部幅約70cm、同長約40cmを測る。竈燃焼部中央より支脚と考えられる石を検出した。また竈覆土中より構築材と考えられる石を検出した。

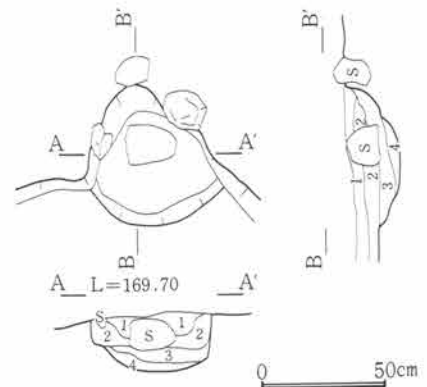


79号住居跡

- 1 黒褐色土層 F Pを含む
- 2 黒褐色土層 炭化物を含む
- 3 暗褐色土層 F P、炭化物を含む
- 4 暗褐色土層 炭化物を少量含む
- 5 暗褐色土層 F P、炭化物を少量含む
- 6 黒褐色土層 炭化物を含む
- 7 黒褐色土層 小礫、F Pを含む

Fig.189 79号住居跡

約70cm、同長約40cmを測る。竈燃焼部中央より支脚と考えられる石を検出した。また竈覆土中より構築材と考えられる石を検出した。



79号住居跡竈

- 1 灰褐色土層 焼土ブロックを含む
- 2 灰褐色土層 炭化物を含む
- 3 黒褐色土層 黒色灰を含む
- 4 黒褐色土層 炭化物を多量に含む

Fig.190 79号住居跡竈



Fig.191 79号住居跡出土遺物

第79号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
191-1 93	須恵器 坏	口-6.0 高-2.2 底-2.4	覆土	底部回転糸切	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④ほぼ完形
191-2 93	須恵器 皿	口-8.4 高-2.0 底-5.6	No 2	底部回転糸切右廻り内面煤付着	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④完形
191-3 93	須恵器 埴	口-15.9 高-6.1 底-7.0	No 3	付高台口縁部内湾ぎみに立ち上がる高台部ハの字状に開く	①良好②橙色③1~2mmの砂粒含む④完形
191-4 93	須恵器 埴	口-15.4 高-6.25 底-7.2	覆土	内黒土器内面研磨口縁端部弱く外反する	①良好②橙色③細砂粒含むが密④残存
191-5 93	羽釜	口-24.8	No 5	鈔低く貼付雑口縁部直立ぎみ	①良好②黒褐色③2~3mmの砂粒含む④口縁部残存
Fig. 191-6 PL. 93	石 長-5.9cm 幅-3.05cm 厚-2.9cm 砥石 流紋岩(砥沢?)				
Fig. 191-7 PL. 93	石 長-4.7cm 幅-5.2cm 厚-4.0cm 砥石 流紋岩(砥沢?)				

80号住居跡 (Fig. 192・193・194、PL. 15・93)

G区北東部に位置し31・32G44~46の範囲にある。58号住居跡の北にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺3.4m、短辺2.5mである。平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約5cm~10cmを測り、主軸方位はN-77°-Eである。床面は平坦をなし、貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。竈は東壁ほぼ中央に検出された。竈の北側には張り出し部をもつ。規模は燃焼部幅約80cm、同長約50cmを測る。燃焼部中央より支脚の跡と考えられる小穴が検出された。

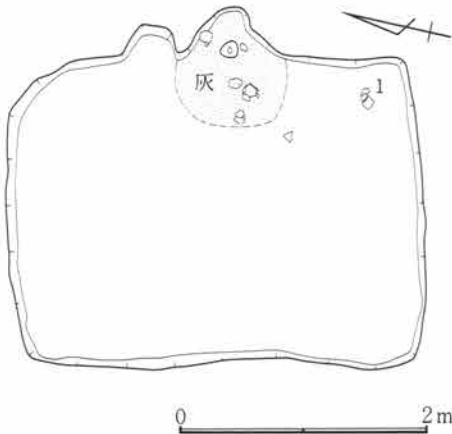


Fig.192 80号住居跡

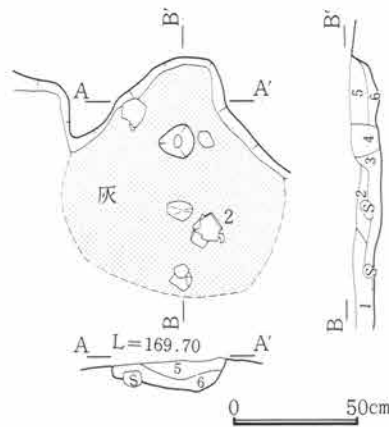


Fig.193 80号住居跡竈

80号住居跡竈

- 1 黒褐色土層 FP、FAを含む
- 2 淡褐色土層 FAを含む
- 3 黒褐色土層 FPを少量含む
- 4 淡褐色土層 FA、FPを少量含む
- 5 淡褐色土層 炭化物を多量に含む
- 6 黒褐色土層 焼土、灰を含む

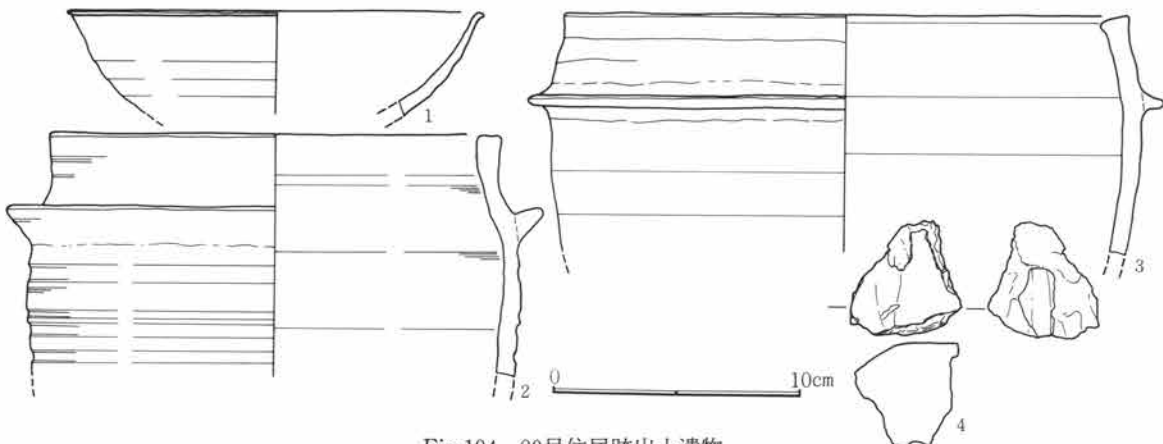


Fig.194 80号住居跡出土遺物

第2章 検出された遺構と遺物

第80号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
194-1 93	灰釉陶器 碗	口-16.6	No 1	内外面釉口縁端部外側へ屈曲する	①良好②灰白色③密④口縁部破片
194-2 93	羽釜	口-18.0	No 2	鏝上を向く口縁部外湾ぎみに内傾する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部残存
194-3 93	羽釜	口-22.4	覆土	鏝短く横を向く口縁部内傾する	①良好②褐灰色③細砂粒含む④口縁部残存
194-4 93	羽口		覆土	外面ナデ	①良好②橙色③細砂粒含む④破片

81号住居跡 (Fig. 195・196・197、PL. 15・93・94)

G区北東に位置し33・34G47・48の範囲にある。80号住居跡の北にある。北西部で79号住居跡と重複している。新旧関係は81号住居跡が古い。規模は長辺3.2m、短辺2.4mである。平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cmを測り、主軸方位はN-175°-Eである。床面は平坦をなし、貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。竈は南壁東寄りに検出された。規模は燃焼部幅約50cm、同長約40cmを測る。

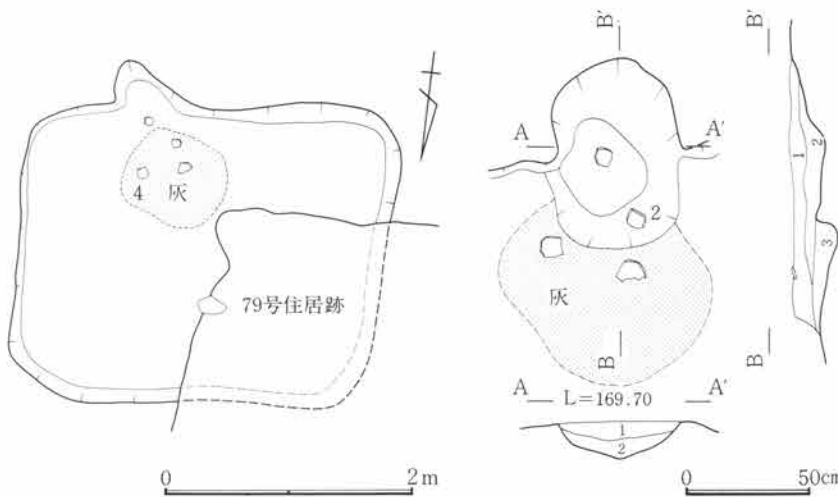


Fig.195 81号住居跡

Fig.196 81号住居跡竈

81号住居跡竈

- 1 黒褐色土層 焼土を含む
- 2 暗褐色土層 焼土を多量に含む
- 3 暗褐色土層 灰、焼土層

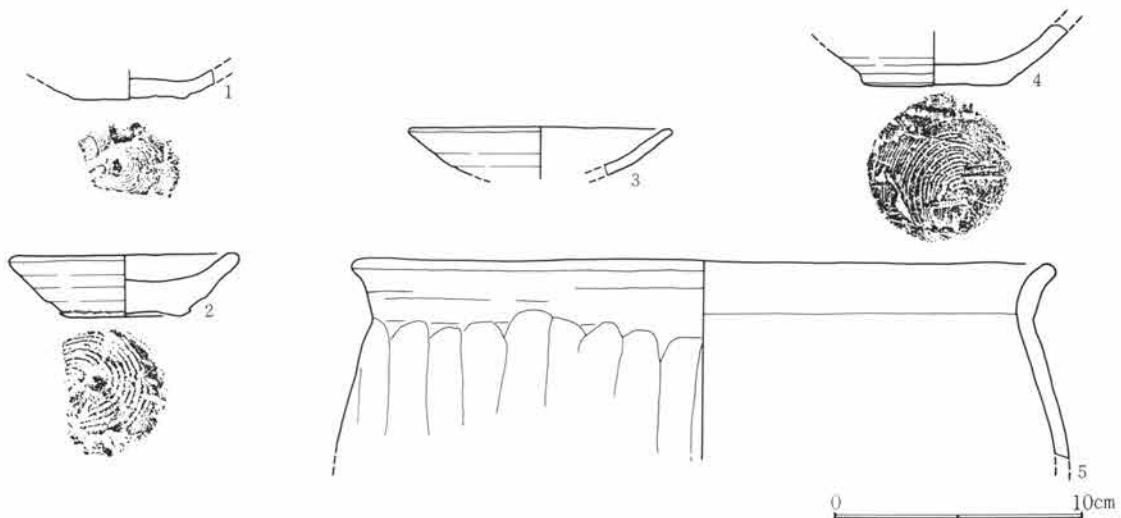


Fig.197 81号住居跡出土遺物

第81号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
197-1 93	須恵器 坏	底-4.2	覆土	底部回転糸切右廻り	①良好②橙色③細砂粒含む ④底部残存
197-2 93	須恵器 皿	口-9.0 高-2.5 底-4.4	No 2	底部回転糸切右廻り器内厚い	①良好②にぶい橙色③1 ~2mmの砂粒含む④残存
197-3 93	灰釉陶器 埴	口-10.4	覆土	口縁部内外面に釉	①良好②灰白色③密④口縁 部破片
197-4 94	須恵器 坏	底-5.6	No 4	底部回転糸切右廻り	①良好②にぶい橙色③細砂 粒含む④底部残存
197-5 94	土師器 甕	口-27.8	覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部 短く外湾する	①良好②にぶい赤褐色③3 ~4mm砂粒含む④口縁部残存

92号住居跡 (Fig. 198・199・200・201、PL. 16・94・95)

F区南西に位置し66~68F2~5の範囲にある。93号住居跡の北にある。他の遺構との重複はない。規模は

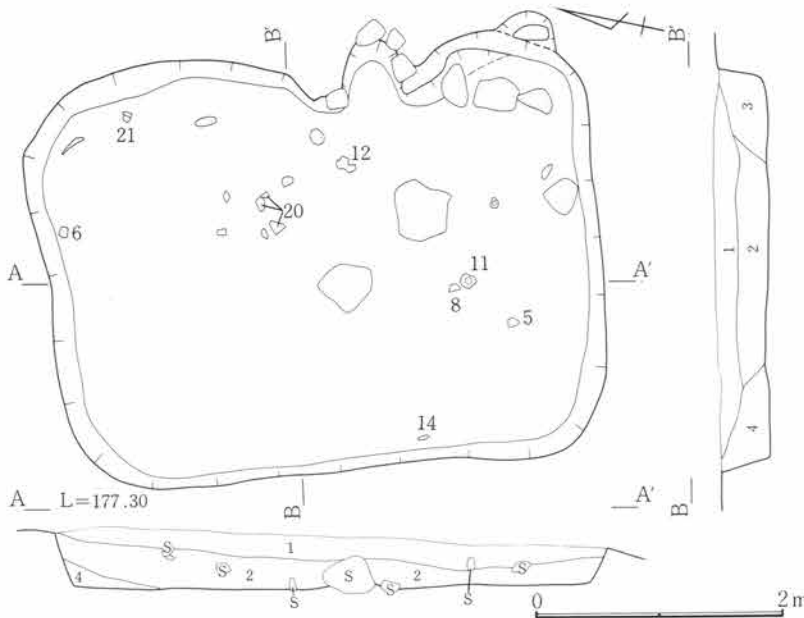


Fig.198 92号住居跡

長辺4.5m、短辺3.5mである。平面形態は隅丸方形を呈し、主軸方位はN-70°-Eである。壁高は約30cm~40cmを測る。床面は平坦をなし貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。床面上には人頭より大型の軽石が散布しており埋没の状況がうかがえる。また南東コーナーには人頭より大型の石が一行に並び床に密着あるいは3cm程浮いた状態で検出された。竈は東壁やや南寄りに検出された。

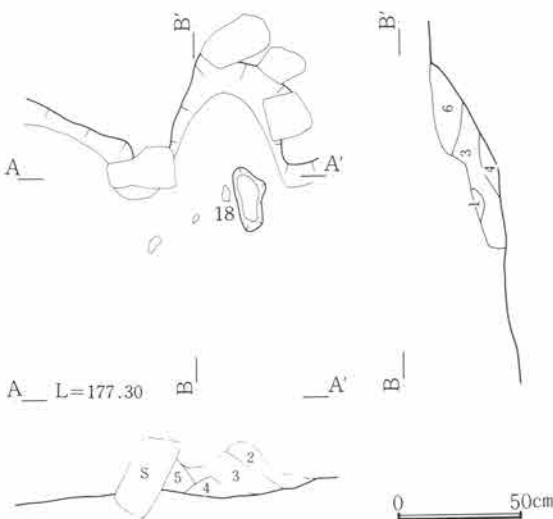


Fig.199 92号住居跡竈

竈手前に黒色の灰が散布している。竈の規模は袖幅約60cm、燃烧部長約50cmを測る。両袖部には構築材として石が検出され左袖部には切り石が使用されている。床面直上から鉄製鎌先が検出された。

92号住居跡

- 1 黒褐色土層 FPを多量に含む
- 2 暗褐色土層 FPを少量含む
- 3 暗褐色土層 黒色土を含む
- 4 暗褐色土層 黄褐色土を含む

92号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 焼土を含む
- 2 暗褐色土層
- 3 黒褐色土層 焼土を少量含む
- 4 黒褐色土層 炭化物を含む
- 5 黒褐色土層 FPを含む
- 6 暗褐色土層 焼土を含む

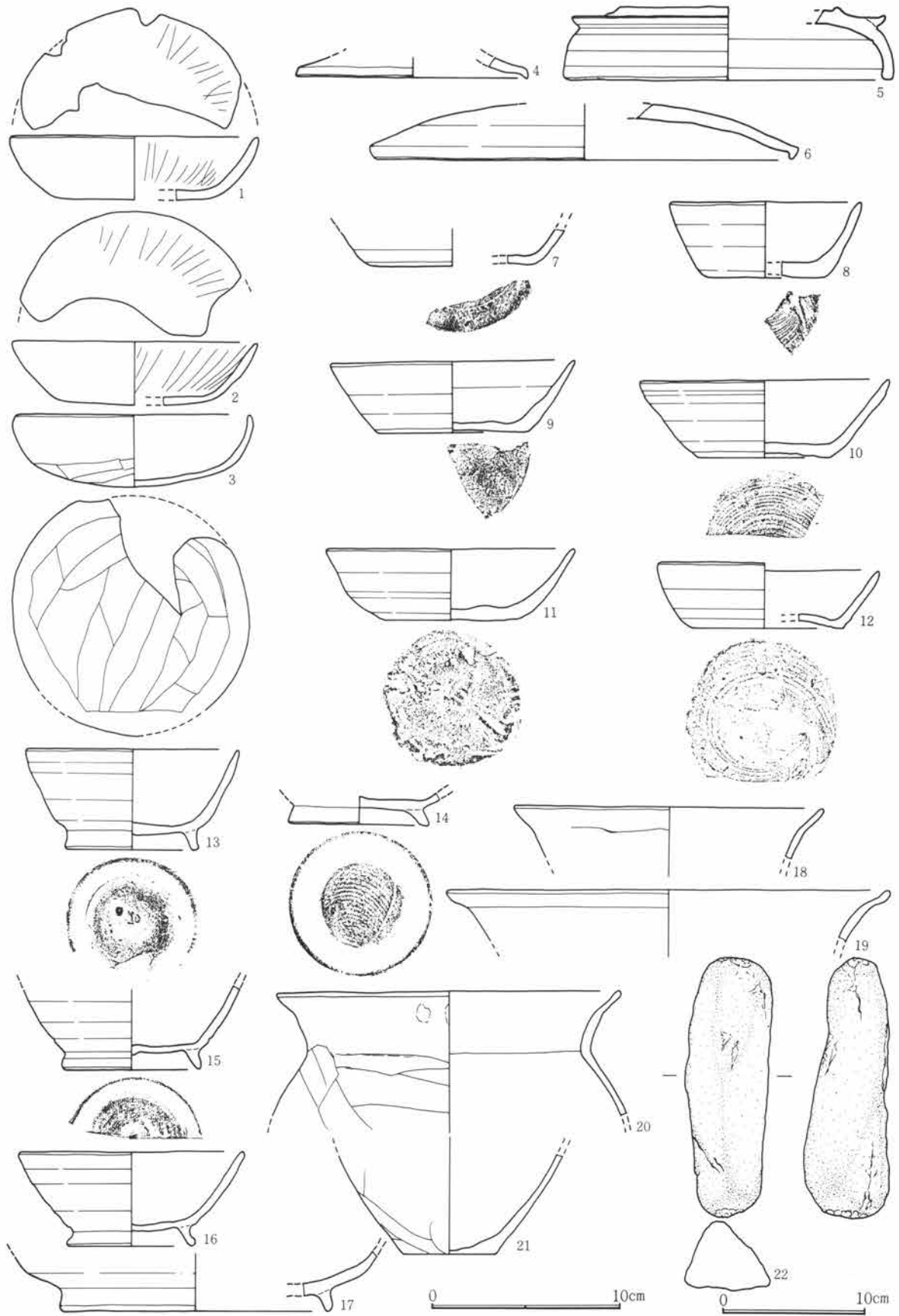


Fig.200 92号住居跡出土遺物(1)

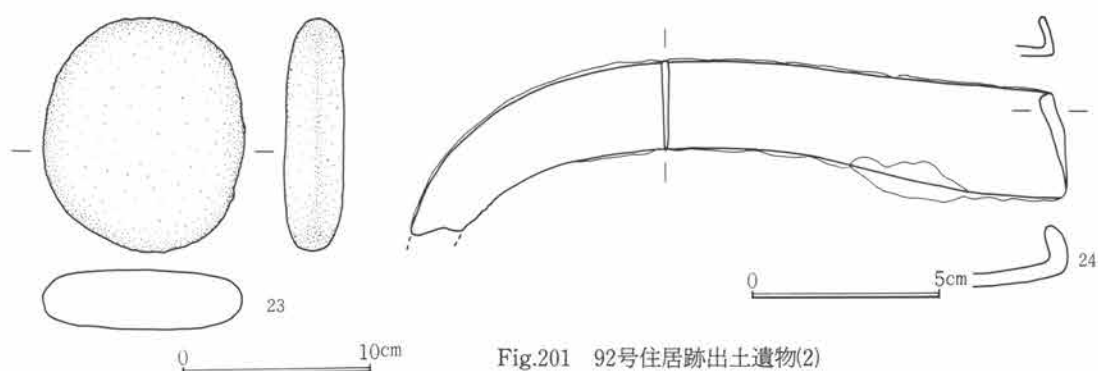


Fig.201 92号住居跡出土遺物(2)

第92号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
200-1 94	土師器 坏	口-13.4	貯穴覆土	口縁部ヨコナデ内面暗文口縁部弱く内湾する	①良好②橙色③細砂粒含む ④½残存
200-2 94	土師器 坏	口-12.8 底-8.0	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ内面方射状暗文口縁部直線状に外傾する	①良好②橙色③細砂粒含む ④½残存
200-3 94	土師器 坏	口-12.3 高-3.7	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部内湾する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④½残存
200-4 94	須恵器 蓋	口-12.0	覆土	外面回転ヘラ調整	①良好②灰白色③細砂粒含む④破片
200-5 94	須恵器 蓋	口-16.8	No.5		①良好②灰白色③密④破片
200-6 94	須恵器 蓋	口-22.4	No.6	外面回転ヘラ調整	①良好②灰色③細砂粒含む ④½残存
200-7 94	須恵器 坏	底-8.4	覆土	底部回転ヘラ調整	①良好②灰色③密④底部破片
200-8 94	須恵器 坏	口-10.0 高-3.9 底-6.0	No.8	底部回転糸切右廻り口縁部直線状に外傾する	①良好②灰色③細砂粒含む ④½残存
200-9 94	須恵器 坏	口-12.7 高-3.6 底-7.6	覆土	底部手持ヘラ調整口縁部直線状に外傾する	①良好②灰色③密④½残存
200-10 94	須恵器 坏	口-13.0 高-9.0 底-7.0	覆土	底部回転糸切口縁部直線状に外傾する	①良好②灰色③密④½残存
200-11 94	須恵器 坏	口-12.8 高-4.2 底-7.0	No.11	底部ヘラ切口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含むが密④½残存
200-12 94	須恵器 坏	口-11.6 高-3.4 底-7.8	No.12	底部回転糸切右廻り底部中心もり上がる口縁部直線状に外傾する	①良好②灰色③密④½残存
200-13 94	須恵器 塊	口-11.1 高-5.2 底-6.7	覆土	付高台底部ヘラ切り口縁部弱く内湾する	①良好②灰白色③細砂粒含む④½残存
200-14 94	須恵器 塊	底-7.2	No.14	付高台底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む④底部残存
200-15 94	須恵器 塊	底-7.0	覆土	付高台底部ヘラ切	①良好②灰白色③密④½残存
200-16 94	須恵器 塊	口-11.7 高-4.9 底-6.4	覆土	付高台底部回転糸切回転調整口縁部弱く内湾する	①良好②灰白色③密④½残存
200-17 94	須恵器 塊	底-13.8	覆土	付高台	①良好②灰白色③密④底部破片
200-18 94	土師器 甕	口-16.0	No.18	口縁部ヨコナデ口縁部外反する	①良好②赤褐色③細砂粒含む④口縁部破片
200-19 94	土師器 甕	口-23.0	覆土	口縁部ヨコナデ端部屈曲する口縁部外反する	①良好②橙色③細砂粒含む ④口縁部破片
200-20 94	土師器 甕	口-18.0	No.20	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部外反する	①良好②橙色③細砂粒含む ④口縁部½残存
200-21 95	土師器 甕	底-5.0	No.21	外面ヘラケズリ	①良好②暗赤褐色③細砂粒含む④底部破片
Fig. 200-22 PL. 94		石 長-18.1cm 幅-6.1cm 厚-5.8cm	変質安山岩		
Fig. 201-23 PL. 95		石 長-12.4cm 幅-10.8cm 厚-3.2cm	粗粒安山岩		
Fig. 201-24 PL. 95		鉄製品 長-17.5cm 厚-4mm	鎌		

93号住居跡 (Fig. 202・203・204・205, PL. 16・95)

E区北西部に位置し65~68E 44~47の範囲にある。92号住居跡の南にある。他の遺構との重複はない。規

模は長辺4.3mである。平面形態は隅丸方形を呈し、主軸方位はN-75°-Eである。東・北壁はゆがみがあるが床面の状況から崩れたものと思われる。壁高は約30cm~40cmを測る。床面はほぼ平坦をなし、竈付近を除き四周を周溝が巡る。周溝幅は約10cm~15cm、深さ約数cmを測る。南西コーナーに小穴が検出された。規模は約80cm×70cm、深さ約30cmを測る。この小穴から大型の石が6点検出された。竈は南東コーナーに検出された。規模は燃烧部幅約70cm、同長約80cm、煙道部約40cmを測る。燃烧部内からは人頭大の石が検出され、竈の構築材と考えられる。

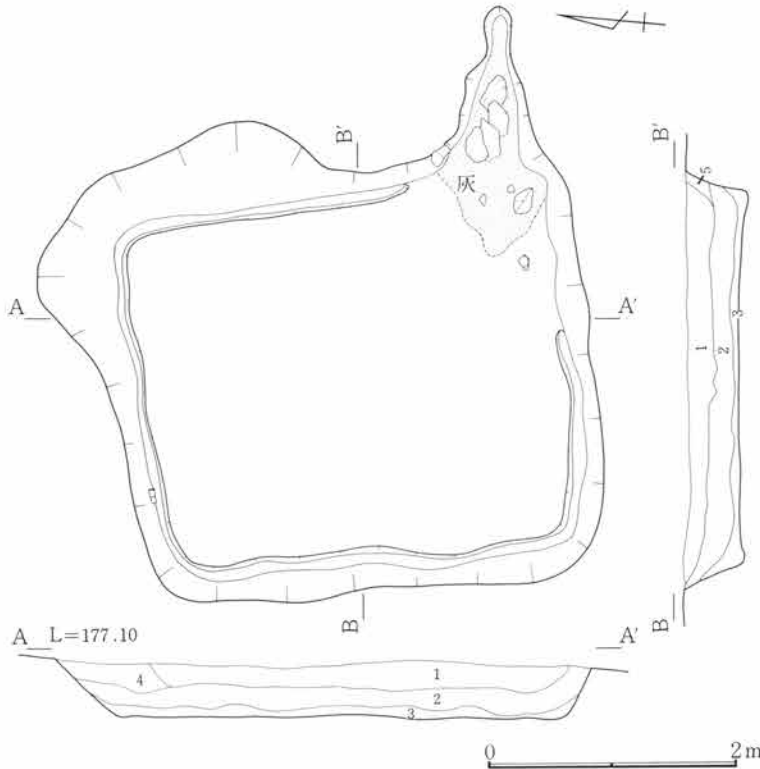


Fig.202 93号住居跡

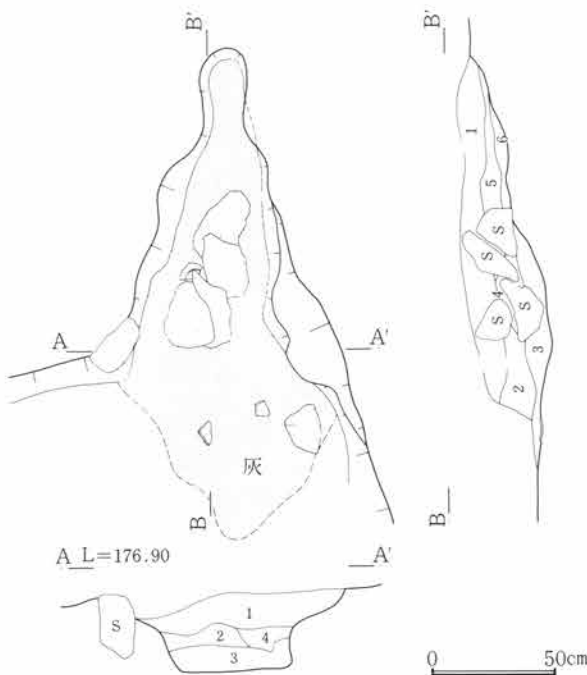


Fig.203 93号住居跡竈

93号住居跡

- 1 黒褐色土層 F Pを含む
- 2 暗褐色土層
- 3 黄褐色土層 黄色土粒を含む
- 4 褐色土層
- 5 暗褐色土層

93号住居跡竈

- 1 黒褐色土層 F Pを含む
- 2 暗褐色土層 F P、焼土を含む
- 3 暗褐色土層 F P、焼土、炭化物を含む
- 4 暗褐色土層 焼土を少量含む
- 5 黒褐色土層 焼土を多量に含む
- 6 黒褐色土層 焼土、炭化物を含む

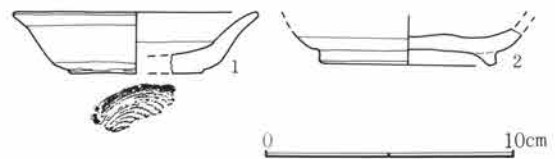
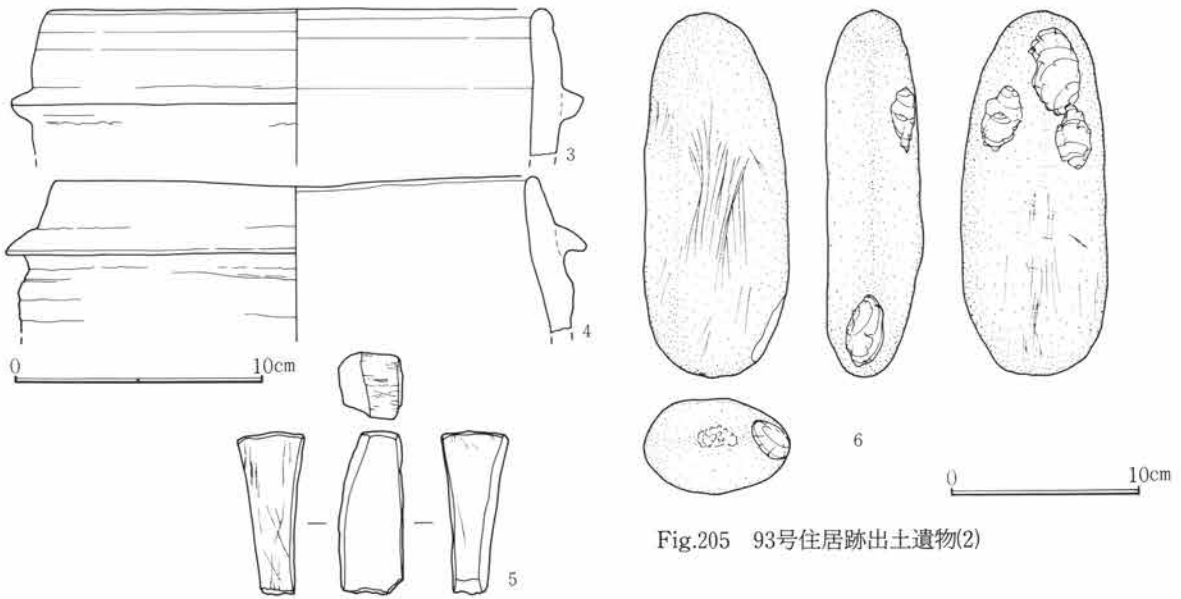


Fig.204 93号住居跡出土遺物(1)

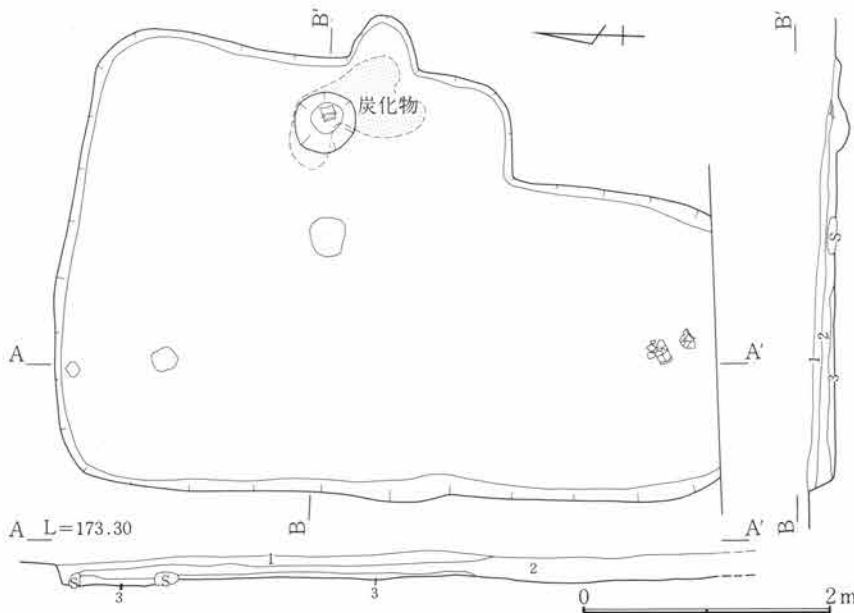
第1節 竪穴住居跡



第93号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
204-1 95	須恵器 小皿	口-9.7 高-2.4 底-5.3	小穴覆土	底部回転糸切口縁部外反する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④残存
204-2 95	須恵器 壺	底-6.5	覆土	付高台底部回転糸切	①良好②褐灰色③細砂粒含む④底部破片
205-3 95	羽釜	口-20.0	覆土	鈔低く横を向く口縁部直立ぎみ	①やや軟質②にぶい赤褐色③5~6mm砂粒含む④口縁部破片
205-4 95	羽釜	口-19.1	竈覆土	鈔下を向く口縁部内傾する	①良好②暗赤褐色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片
Fig. 205-5 PL. 95		石 長-4.5cm 幅-3.5cm 厚-3.5cm	砥石		
Fig. 205-6 PL. 95		石 長-19.2cm 幅-7.7cm 厚-5.0cm	粗粒安山岩		

94号住居跡 (Fig. 206・207・208、PL. 16・95)



G区北部に位置し43~45G0・1の範囲にある。95号住居跡の南にある。他の遺構との重複はない。西壁の延長上に約2m、東西約2.6mの規模で張り出し部がある。張り出し部の床面は住居跡床面と同レベルで平坦をなす。重複の可能性は床面のレベル差がないこと

- 94号住居跡
- 1 褐色土層 FP多量を含む
 - 2 黄褐色土層 FPを含む
 - 3 黄褐色土層 FP大型を含む

Fig.206 94号住居跡

第2章 検出された遺構と遺物

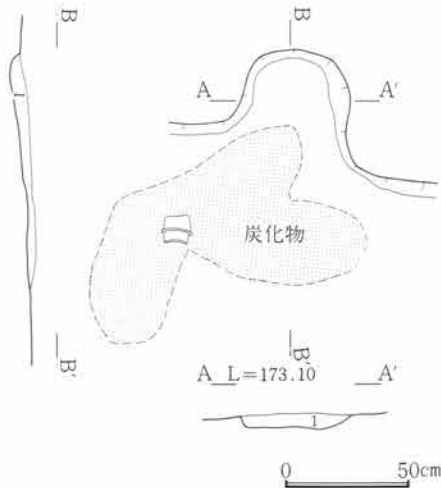


Fig.207 94号住居跡竈

覆土の差が見られないことからないものと思われる。壁高は約15cm～20cmを測り、主軸方位はN-97°-Eである。床面からは密着した状態で平石が検出されている。竈手前から小穴が検出され規模は約50cm×50cm、深さ約11cmを測る。小穴内からは羽釜口縁部の破片が検出された。竈は東壁やや南寄りに検出された。遺存状態は悪く数cmの壁高しか残っていない。規模は燃焼部幅約60cm、同長約40cmを測る。

94号住居跡竈

1 黒褐色土層 F P、炭化物を含む

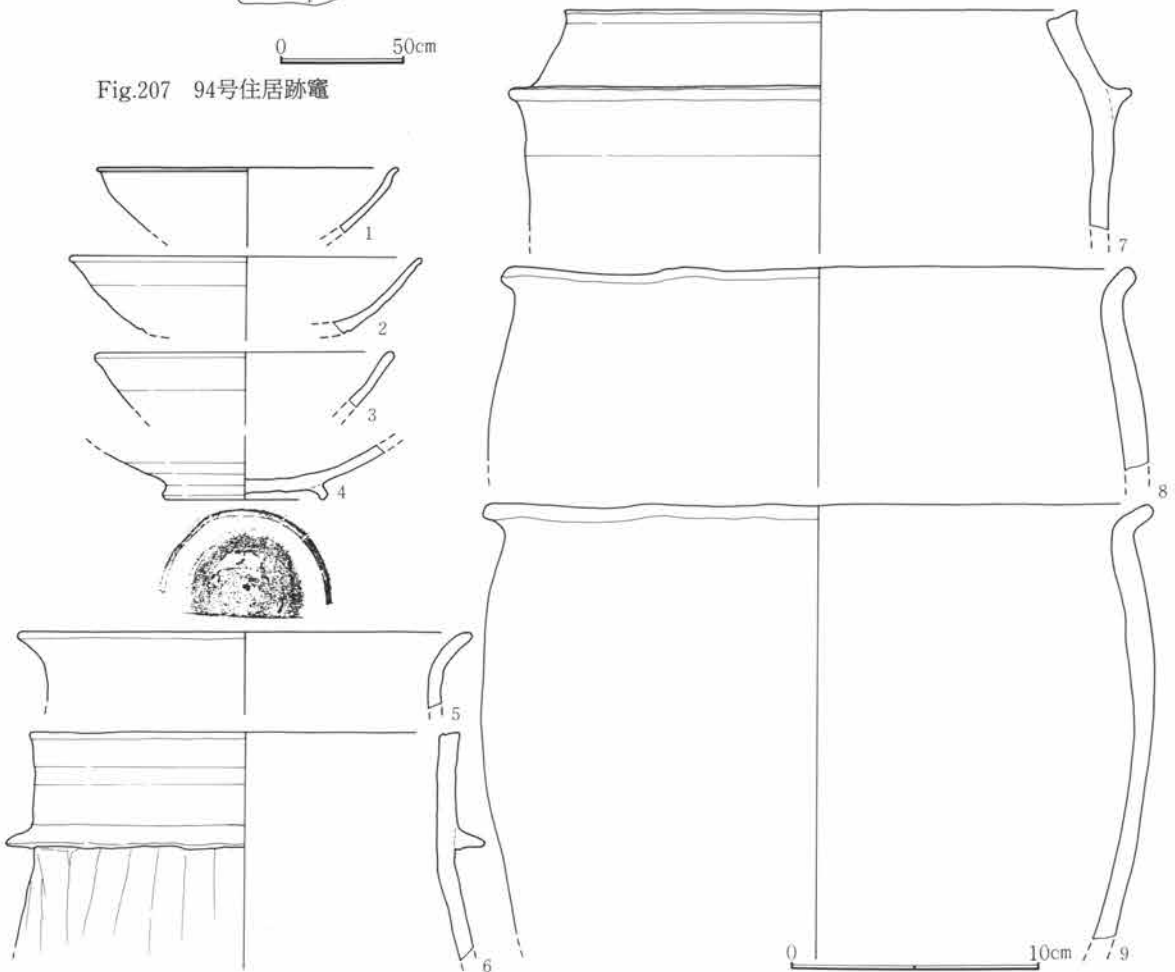


Fig.208 94号住居跡出土遺物

第94号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
208-1 95	灰釉陶器 碗	口-12.0	覆土	内外面釉口縁端部外側へ屈曲する	①良好②灰白色③密④口縁部破片
208-2 95	灰釉陶器 碗	口-13.8	覆土	口縁部内外面釉	①良好②にぶい橙色③密④口縁部破片
208-3 95	須恵器 坏	口-14.8	覆土	口縁部直線状に外傾する	①良好②灰色③密④口縁部破片
208-4 95	灰釉陶器 皿	底-6.3	覆土	付高台	①良好②灰色③密④底部残存

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
208-5 95	土師器 壺	口-18.0	覆土	口縁部ヨコナデ口縁部外反する	①良好②橙色③細砂粒含む ④口縁部破片
208-6 95	羽釜	口-17.0	覆土	鈔薄く横を向く鈔から下は下から上へヘラケズリ	①良好②灰白色③3~4mm の砂粒含む④口縁部残存
208-7 95	羽釜	口-20.2	覆土	鈔上を向く口縁部内傾する	①良好②灰黄褐色③細砂粒 含む④口縁部残存
208-8 95	土釜	口-24.7	覆土	全面ナデ口縁部短く外反する	①軟質②灰褐色③2~3mm の砂粒含む④口縁部破片
208-9 95	土釜	口-26.4	覆土	内外面ともに雑なナデ調整口縁部短く外反する	①軟質②にぶい赤褐色③5 ~6mm砂粒含む④口縁部残存

95号住居跡 (Fig. 209・210・211、PL. 16・17・95・96)

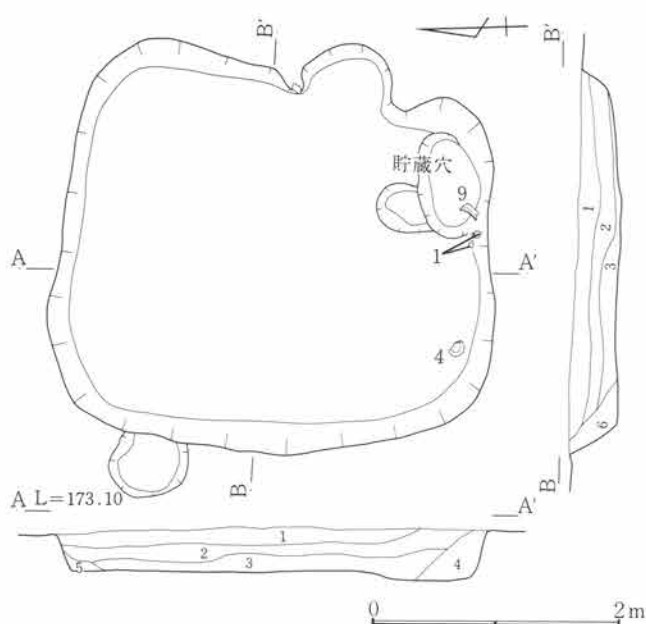


Fig.209 95号住居跡

G区南部に位置し42・43G 1~3の範囲にある。94号住居跡の北にあり、他の遺構との重複はない。規模は長辺3.6m、短辺3.1mである。壁高は約30cm~40cmを測り、主軸方位はN-103°-Eである。床面は平坦をなし、南東コーナーに2基重複して貯蔵穴を検出した。壁際のもが新しく古いものは幅約40cmを測り長径は切られている。新しい貯蔵穴の規模は約90cm×50cm、深さ約30cmを測る。また南西コーナー壁際から床面に密着した状態で内面に字を刻んだ塼が検出された。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃烧部幅約70cm、同長約40cmを測る。

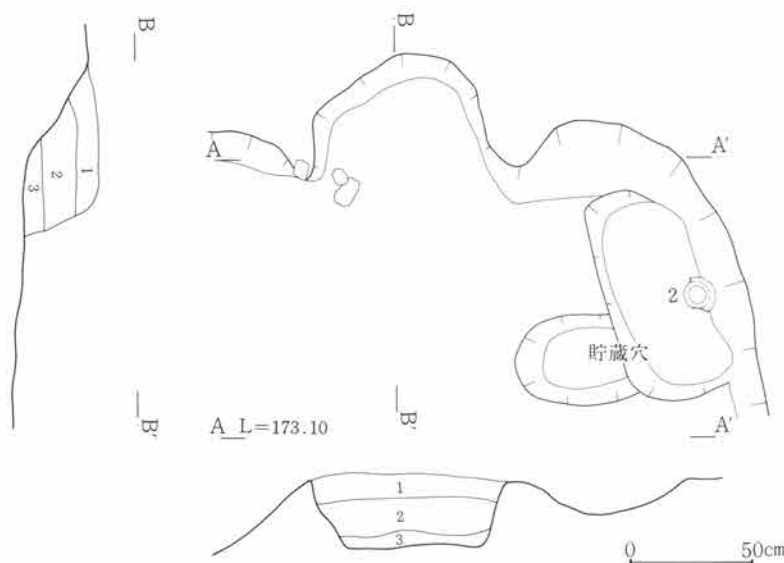


Fig.210 95号住居跡竈

95号住居跡

- 1 暗褐色土層 FPを多量に含む
- 2 暗褐色土層
- 3 暗褐色土層 FP、炭化物を含む
- 4 暗褐色土層 FPを含む
- 5 褐色土層
- 6 暗褐色土層

95号住居跡竈

- 1 黄褐色土層 FP、焼土を含む
- 2 黄褐色土層 炭化物を多量に含む
- 3 黄褐色土層 焼土、炭化物を含む

第2章 検出された遺構と遺物

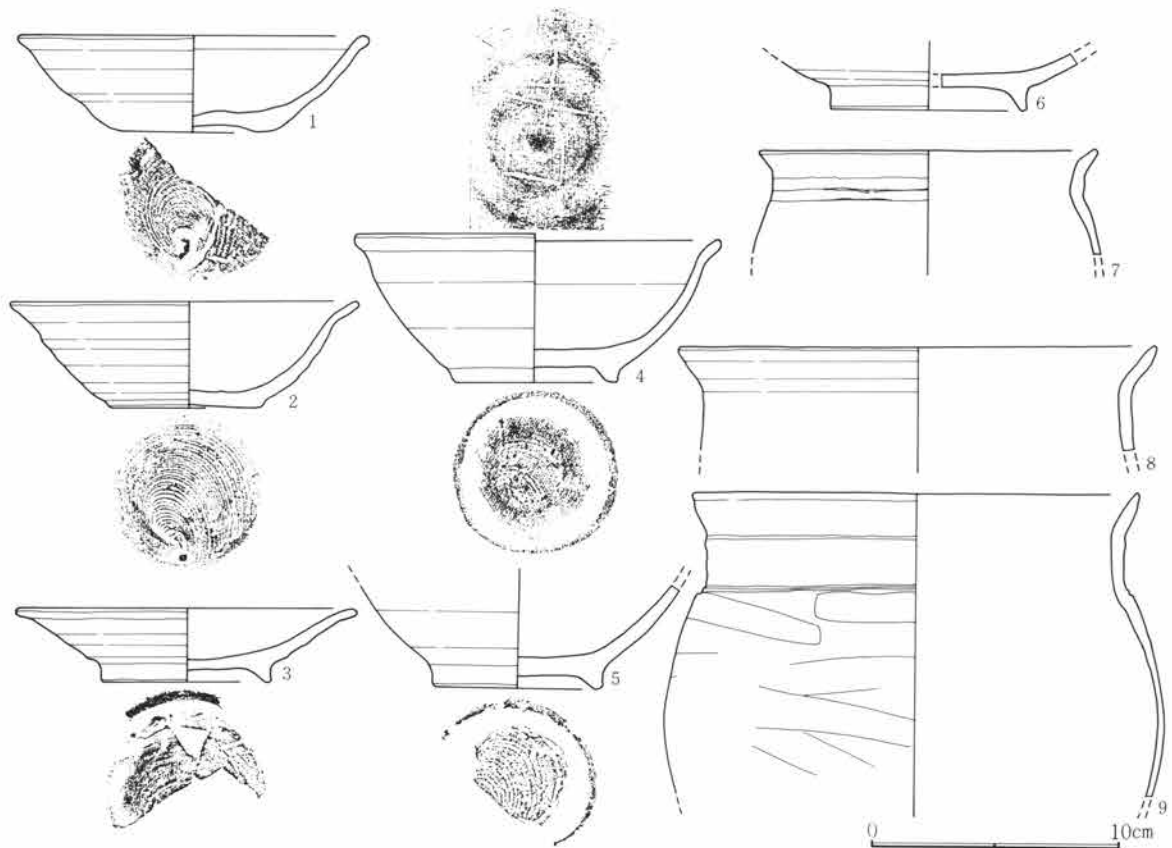


Fig.211 95号住居跡出土遺物

第95号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
211-1 95	須恵器 坏	口-14.0 高-3.8 底-5.0	No 1	底部回転糸切右廻り口縁端部外側へ弱く屈曲する	①良好②にぶい黄橙色③細砂粒含む④½残存
211-2 95	須恵器 坏	口-13.8 高-4.2 底-6.0	No 2	底部回転糸切右廻り口縁端部外反する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含むが密④ほぼ完形
211-3 95	須恵器 皿	口-13.5 高-2.9 底-6.7	覆土	付高台底部回転糸切口縁端部外反する	①良好②灰色③細砂粒含むが密④½残存
211-4 96	須恵器 坏	口-14.5 高-5.9 底-6.5	No 4	付高台底部回転糸切内面にヘラによる字口縁端部外湾する	①良好②灰色③細砂粒含む④½残存
211-5 96	須恵器 埴	底-6.8	覆土	付高台底部回転糸切	①良好②褐灰色③1~2mmの砂粒含む④½残存
211-6	須恵器 埴	底-7.8	覆土	付高台底部回転糸切	①良好②灰色③密④底部½残存
211-7 96	土師器 甕	口-13.6	覆土	口縁部ヨコナデ口縁部弱いコの字状を呈する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
211-8 96	土師器 甕	口-19.0	覆土	口縁部ヨコナデ口縁部外反する	①良好②赤褐色③細砂粒含む④口縁部½残存
211-9 96	土師器 甕	口-17.8	No 9	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部コの字状を呈する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④½残存

96号住居跡 (Fig. 212・213・215・216、PL. 17・96・97)

G区南部に位置し46~49G 3~5の範囲にある。95号住居跡の北西にある。他の遺構との関係は北東コーナーで145号住居跡と167号土坑が重複している。東壁に接し168号土坑がある。新旧関係は96号住居跡、167号土坑が新しい。規模は長辺4.7m、短辺4.4mであり、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約50cm~60cmを

第1節 竪穴住居跡

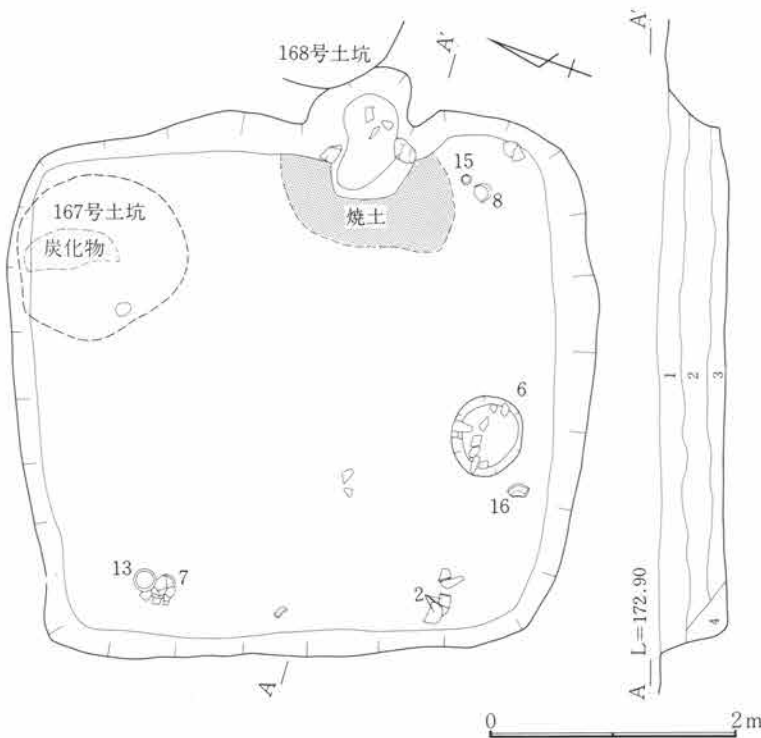


Fig.212 96号住居跡

測り、主軸方位はN-69°-Eである。床面は平坦をなし、南壁やや西寄りに小穴が検出された。規模は約70cm×60cm、深さ約30cmを測る。竈は東壁やや南寄りに検出された。袖は床面にやや張り出し、両袖部には袖材として石が検出された。北側袖石には加工の痕跡が認められた。燃焼部前面には灰が散布している。規模は袖幅約60cm、燃焼部長約80cmを測る。煙道部は168号土坑により切り崩されている。

96号住居跡

- 1 暗褐色土層 FPを多量に含む
- 2 暗褐色土層
- 3 暗褐色土層 炭化物、FAを含む
- 4 黄褐色土層

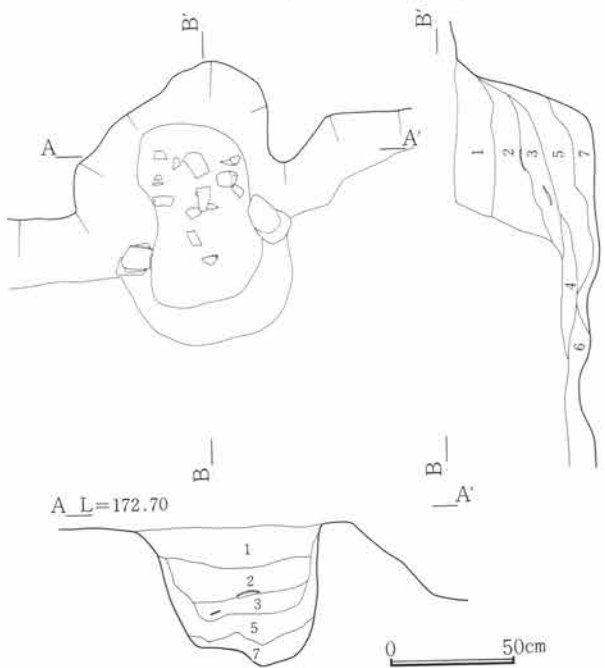
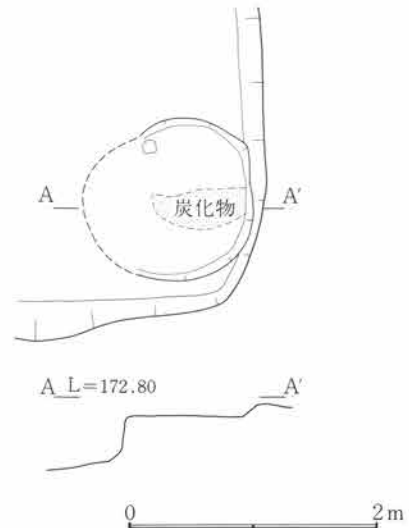


Fig.213 96号住居跡竈



167号土坑

- 1 黒褐色土層 炭化物、焼土を含む

Fig.214 167号土坑

96号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 FP、焼土、炭化物を含む
- 2 黒褐色土層 FA、焼土を含む
- 3 褐色土層 焼土、炭化物を多量に含む
- 4 黒褐色土層 焼土少量、炭化物を多量に含む
- 5 暗褐色土層 焼土、灰を多量に含む
- 6 暗褐色土層 FAを含む
- 7 暗褐色土層 焼土、灰を含む

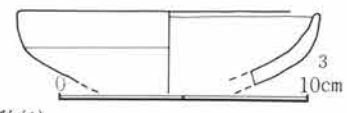
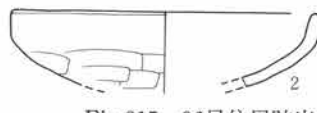


Fig.215 96号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

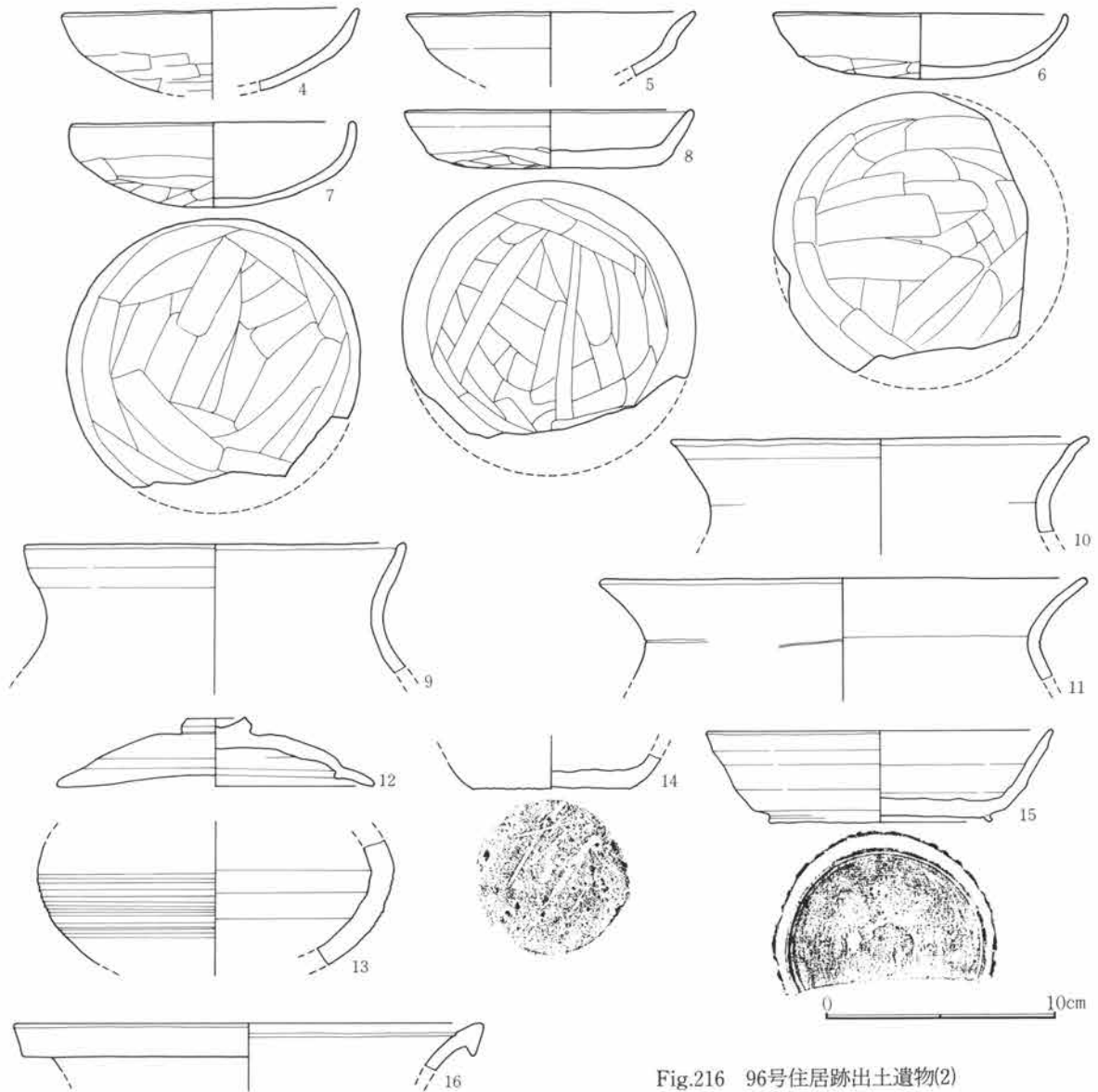


Fig.216 96号住居跡出土遺物(2)

第96号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
215-1 96	土師器 坏	口-14.4	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラナデ内面ナデ放射状暗文	①良好②にぶい褐色③細砂粒含む④口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存
215-2 96	土師器 坏	口-6.2	No.2	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
215-3 96	土師器 坏	口-12.0	覆土	口縁部ヨコナデ	①良好②橙色③細砂粒含む④口縁部破片
216-4 96	土師器 坏	口-12.8	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②橙色③細砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存
216-5 96	土師器 坏	口-12.4	覆土	口縁部外湾する口縁部ヨコナデ	①良好②橙色③細砂粒含む④口縁部破片
216-6 96	土師器 坏	口-12.6 高-2.8	No.6	口縁部ヨコナデ体部弱いナデ底部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存
216-7 96	土師器 坏	口-11.8 高-3.6	No.7	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②橙色③1~2mmの砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存
216-8 96	須恵器 坏	口-12.3 高-2.4 底-7.0	No.8	底部回転ヘラケズリ底部手持ヘラ調整	①良好②灰色③密④ $\frac{1}{2}$ 残存

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
216-9 96	土師器 甕	口-16.4	覆土	口縁部ヨコナデ	①良好②にぶい赤褐色③細砂粒含む④口縁部破片
216-10 96	土師器 甕	口-17.8	覆土	口縁部ヨコナデ	①良好②にぶい赤褐色③細砂粒含む④口縁部破片
216-11 96	土師器 甕	口-21.0	覆土	口縁部ヨコナデ	①良好②にぶい赤褐色③細砂粒含む④口縁部破片
216-12 96	須恵器 蓋	口-13.6 高-2.9	覆土	外面回転ヘラ調整内面返りをもつ	①良好②灰白色③細砂粒含む④完形
216-13 96	須恵器 壺		No13	体部回転調整痕	①良好②褐色③密④胴部破片
216-14 96	須恵器 坏	底-6.7	覆土	底部手持ヘラケズリ	①良好②褐色③細砂粒含むが密④底部残存
216-15 97	須恵器 坏	口-14.8 高-3.9 底-9.5	No15	ケズリ出し高台底部回転ヘラ調整一部不定方向ヘラ調整	①良好②褐色③密④%残存
216-16	須恵器 甕	口-20.0	No16		①良好②褐色③1~2mm砂粒含むが密④口縁部破片

97号住居跡 (Fig. 217・218・219・220、PL. 17・97)

G区中央に位置し49~51G15~18の範囲にある。140号住居跡の南にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺5.4m、短辺5.15mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約30cm~50cmを測り、主軸方位はN-86°-Eである。床面は南に向い低く傾斜している。南壁は崩れている。竈は南東コーナーに検出され、竈

長軸方位はやや南に傾きN-104°-Eを指す。燃烧部内からは構築材の石が検出され両袖部、支脚、さらに天井部に大型の石が2個検出された。竈の規模は袖幅約60cm、燃烧部長約110cmを測り、煙道部は明確ではない。

97号住居跡

- 1 黒褐色土層 FPを多量に含む
- 2 暗褐色土層 FPを含む
- 3 褐色土層 FP、FAを少量含む
- 4 暗褐色土層 炭化物を少量含む
- 5 暗褐色土層
- 6 灰褐色土層 黄色土を含む
- 7 黒褐色土層 FAを含む

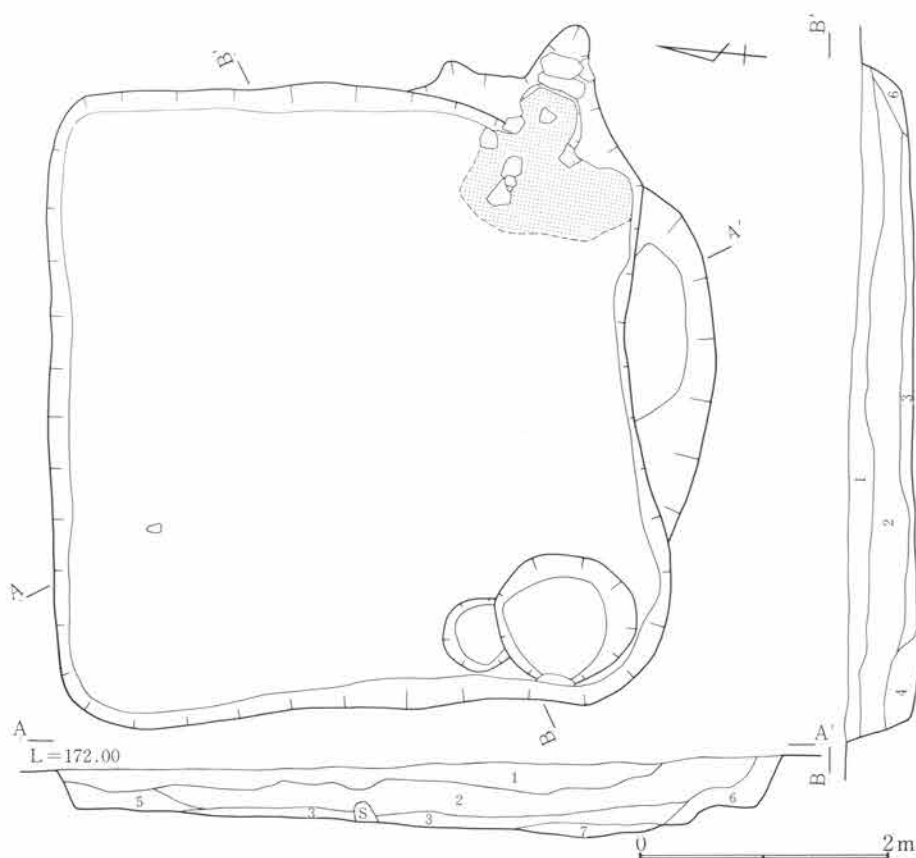
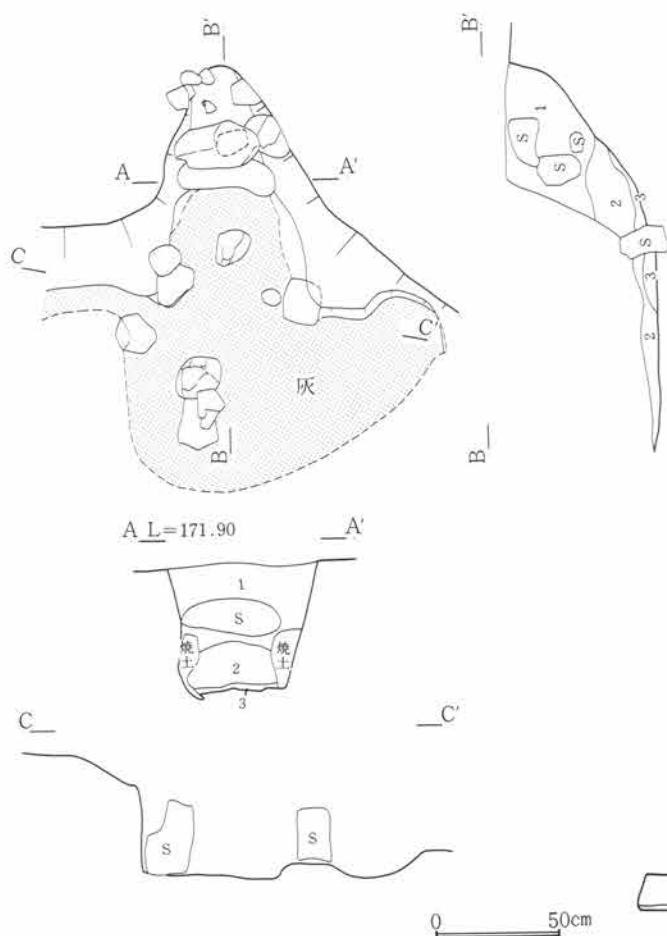


Fig.217 97号住居跡



97号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 FPを多量に含む
- 2 暗褐色土層 焼土、炭化物を含む
- 3 暗褐色土層 焼土、炭化物を多量に含む

Fig.218 97号住居跡竈

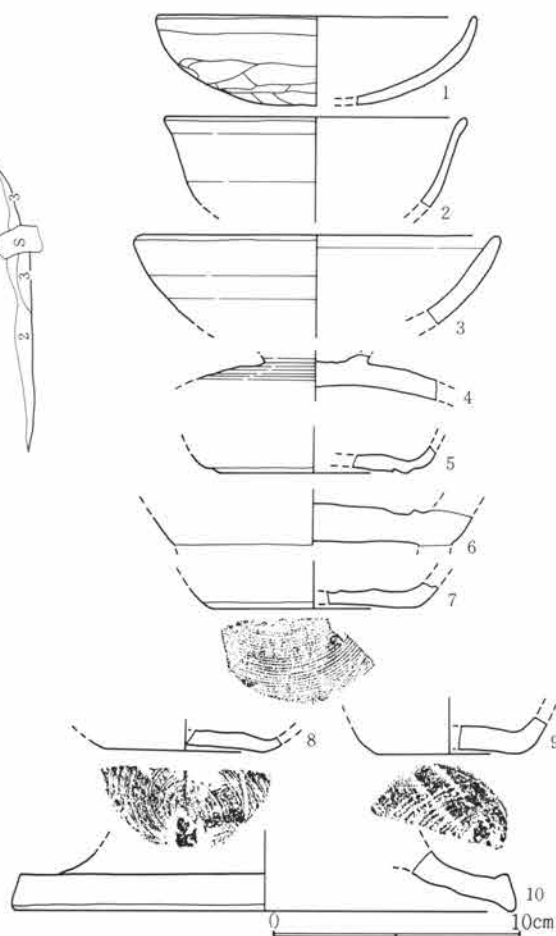


Fig.219 97号住居跡出土遺物(1)

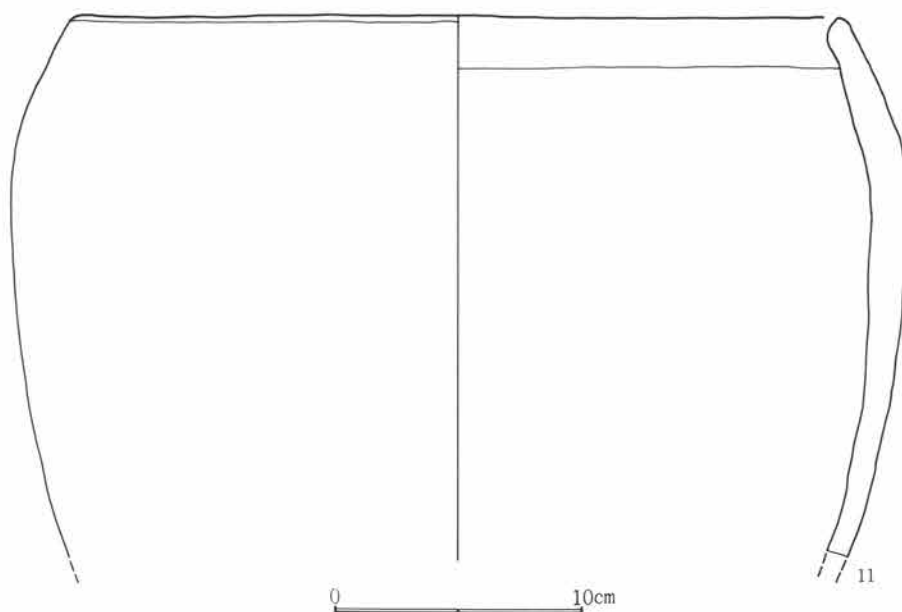


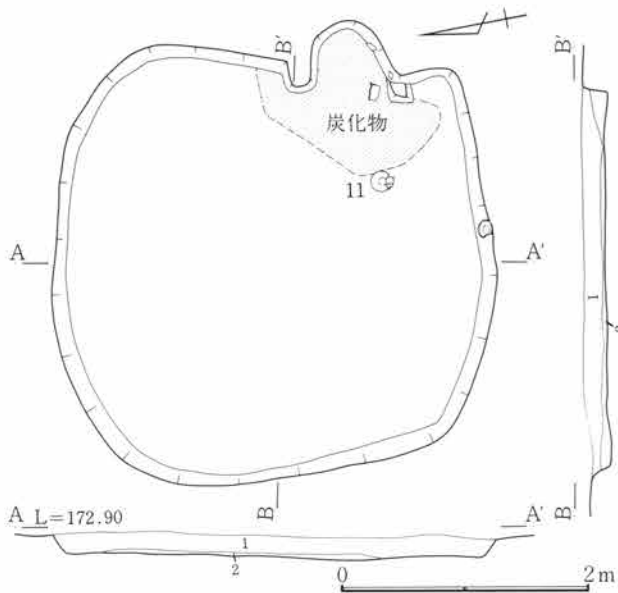
Fig.220 97号住居跡出土遺物(2)

第97号住居跡出土遺物観察表

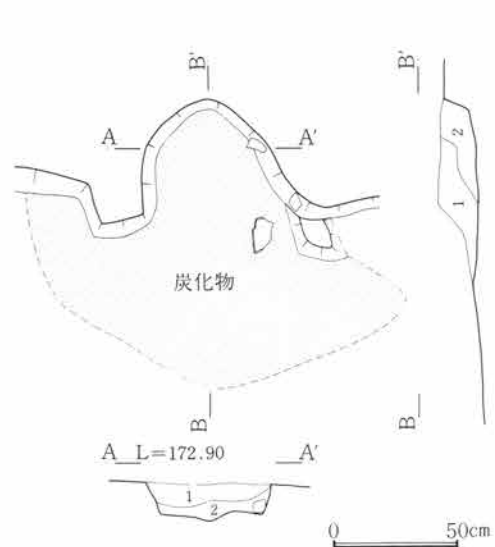
Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
219-1 97	土師器 坏	口-12.65	覆土	口縁部ヨコナデ体部弱いナデ底部ヘラケズリ内面ナデ口縁端部直立ぎみ	①良好②橙色③細砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存
219-2 97	須恵器 坏	口-12.0	覆土	口縁端部外側へ弱く屈曲する	①良好②灰色③密④口縁部破片
219-3 97	土師器 埴	口-14.0	覆土	口縁部弱く内湾する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
219-4 97	須恵器 蓋		覆土	外面回転ヘラ調整	①良好②灰色③密④つまみ部破片
219-5 97	須恵器 坏	底-7.3	覆土	底部回転糸切右廻り	①良好②灰褐色③密④底部破片
219-6 97	須恵器 長頸壺		覆土	高台欠落底部回転ヘラ調整	①良好②灰白色③密④底部 $\frac{1}{2}$ 残存
219-7 97	須恵器 坏	底-8.0	覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③密④底部 $\frac{1}{2}$ 残存
219-8 97	須恵器 坏	底-6.1	覆土	底部回転糸切右廻り	①良好②灰色③密④底部 $\frac{1}{2}$ 残存
219-9 97	須恵器 坏	底-5.5	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む④底部 $\frac{1}{2}$ 残存
219-10 97	甌	口-20.0	覆土		①良好②灰白色③細砂粒含む④底部破片
220-11 97	土釜	口-30.0	竈覆土	内外面器面荒れている	①軟質②にぶい褐色③2~5mmの砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存

98号住居跡 (Fig. 221・222・223, PL. 17・97・98)

G区南部に位置し38・39G 2・3の範囲にある。95号住居跡の東にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺3.6m、短辺3.45mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約15cm~20cmを測り、主軸方位はN-105°-Eである。床面は平坦をなし、貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃烧部幅約80cm、同長約50cmである。



98号住居跡
1 暗褐色土層
2 灰褐色土層 FPを含む
Fig.221 98号住居跡



98号住居跡竈
1 暗褐色土層 FPを含む
2 暗褐色土層 焼土、灰を含む
Fig.222 98号住居跡竈

第2章 検出された遺構と遺物

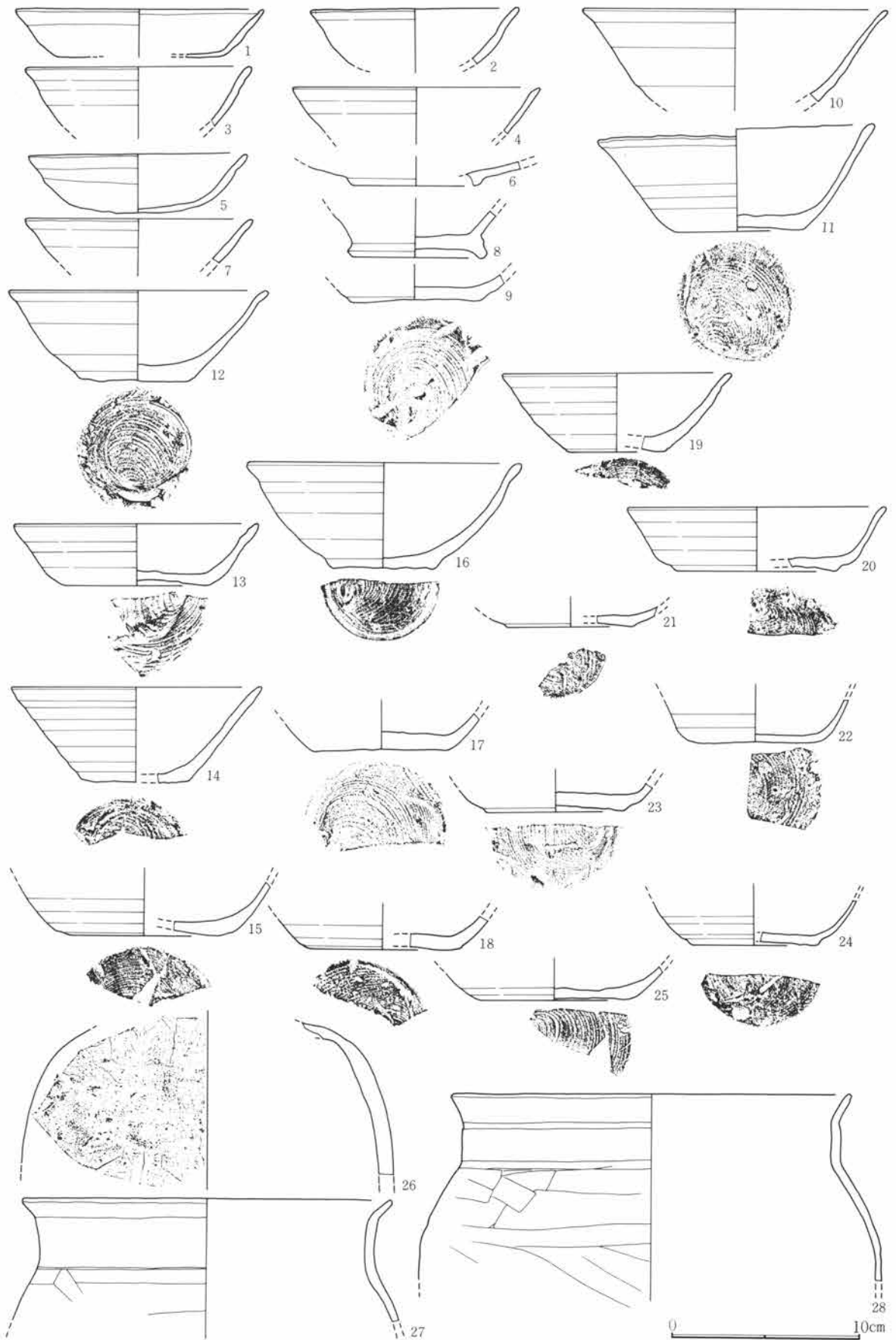


Fig.223 98号住居跡出土遺物

第98号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
223-1 97	土師器 坏	口-14.0	覆土	口縁部ヨコナデ体部弱いナデ底部ヘラケズリ内面ナデ口縁端部内側に沈線巡る	①良好②橙色③細砂粒含む④口縁部破片
223-2 97	須恵器 坏	口-11.0	覆土	口縁部ヨコナデ体部弱いヘラナデ口縁部弱く外反する	①良好②にぶい褐色③細砂粒含む④口縁部破片
223-3 97	須恵器 坏	口-11.8	覆土	口縁部弱く外反する	①良好②灰色③細砂粒含む④口縁部破片
223-4 97	灰釉陶器 塊	口-14.0	覆土	口縁部釉	①良好②灰白色③密④口縁部破片
223-5 97	土師器 坏	口-11.4 高-3.1	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁端部弱く外反する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④残存
223-6 97	灰釉陶器 皿	底-6.5	覆土	内面に釉	①良好②灰白色③密④底部破片
223-7 97	須恵器 坏	口-12.0	覆土	口縁端部弱く外反する	①良好②灰白色③細砂粒含む④口縁部破片
223-8 97	須恵器 塊	底-6.8	覆土	付高台	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含むが密④底部残存
223-9 97	須恵器 坏	底-6.8	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む④底部残存
223-10 97	須恵器 坏	口-16.0	覆土	口縁端部弱く外反する	①良好②灰白色③細砂粒含む④口縁部破片
223-11 97	須恵器 坏	口-14.6 高-5.5 底-6.7	No11	底部回転糸切口縁端部弱く外湾する	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④残存
223-12 97	須恵器 坏	口-13.6 高-4.75	覆土	付高台欠落底部回転糸切口縁端部外反する	①良好②灰白色③細砂粒含む④残存
223-13 98	須恵器 坏	口-12.8 高-3.2 底-7.6	覆土	底部回転糸切口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③細砂粒含む④底部破片
223-14 97	須恵器 坏	口-13.2	覆土	底部回転糸切口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③細砂粒含む④残存
223-15 98	須恵器 坏	底-6.8	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む④底部破片
223-16 98	須恵器 坏	口-14.4 高-5.5 底-5.4	覆土	底部回転糸切口縁端部外反する	①良好②灰白色③細砂粒含む④残存
223-17 98	須恵器 坏	底-7.0	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む④底部残存
223-18 98	須恵器 坏	底-13.6	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む④底部破片
223-19 98	須恵器 坏	口-12.0 高-4.05 底-4.8	覆土	底部回転糸切口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③細砂粒含む④残存
223-20 98	須恵器 坏	口-13.6 高-3.3 底-8.6	覆土	底部回転糸切口縁部直線状に外傾する	①良好②褐色③密④底部破片
223-21 98	須恵器 坏	底-6.6	覆土	底部回転糸切右廻り	①良好②灰色③細砂粒含む④底部破片
223-22 98	須恵器 坏	底-6.1	覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③密④底部残存
223-23 98	須恵器 坏	底-7.4	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む④底部残存
223-24 98	須恵器 坏	底-6.6	覆土	底部回転糸切右廻り	①良好②灰色③密④残存
223-25 98	須恵器 坏	底-7.8	覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③密④底部破片
223-26 98	須恵器 壺		覆土		①良好②灰色③密④肩部破片
223-27 98	土師器 甕	口-19.4	覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部コの字状を呈する	①良好②灰黄褐色③細砂粒含む④残存
223-28 98	土師器 甕	口-21.0	覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部コの字状を呈する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④残存

99号住居跡

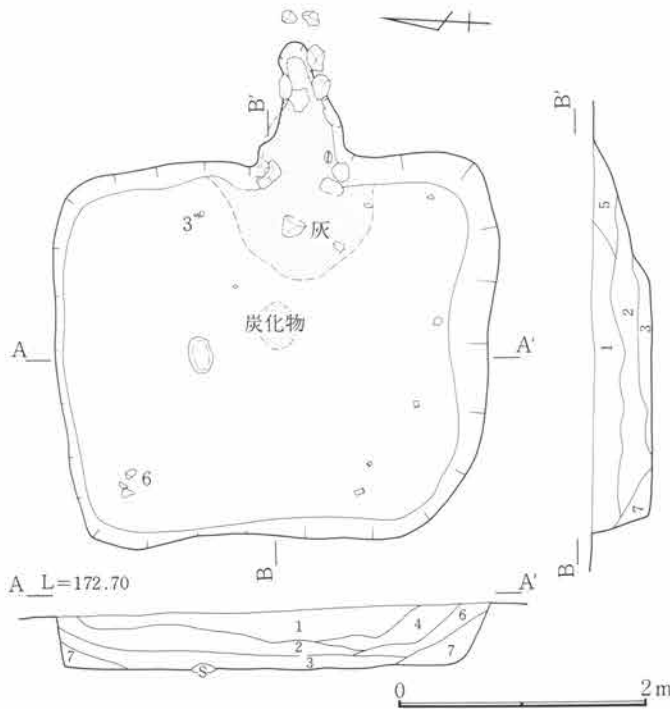


Fig.224 99号住居跡

(Fig. 224・225・226・227、PL. 18・98)

G区南部に位置し45・46G 6・7の範囲にある。96号住居跡の北西にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺3.6m、短辺3.05mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約40cm~50cmを測り、主軸方位はN-86°-Eである。床面は平坦をなし、貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁ほぼ中央に検出された。竈は両袖部および壁に沿い石が壁材として補強されたと考えられる。また袖材・補強材とともに燃焼部前面に石が検出され支脚になるかは不明である。規模は袖幅約60cm、燃焼部長約60cm、煙道部長約50cmを測る。

99号住居跡

- 1 黒褐色土層 FPを多量に含む
- 2 暗褐色土層 FP、FAを含む
- 3 暗褐色土層 FAを含む
- 4 暗褐色土層
- 5 褐色土層
- 6 暗褐色土層 FAを含む
- 7 暗褐色土層 FAブロックを含む

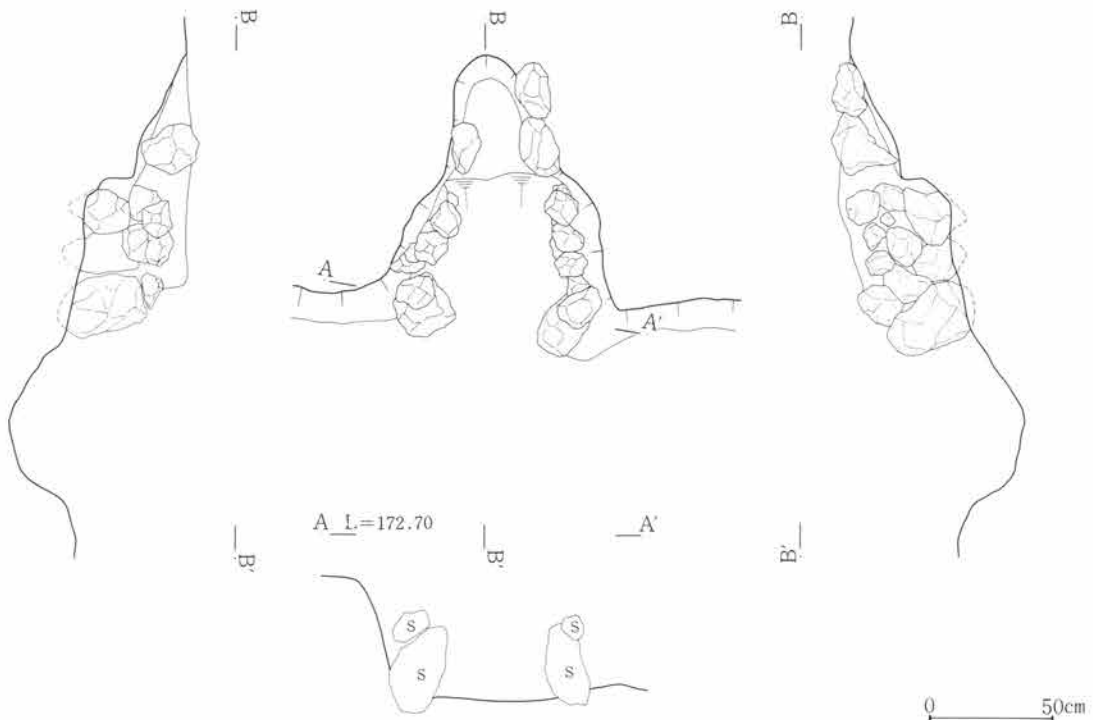
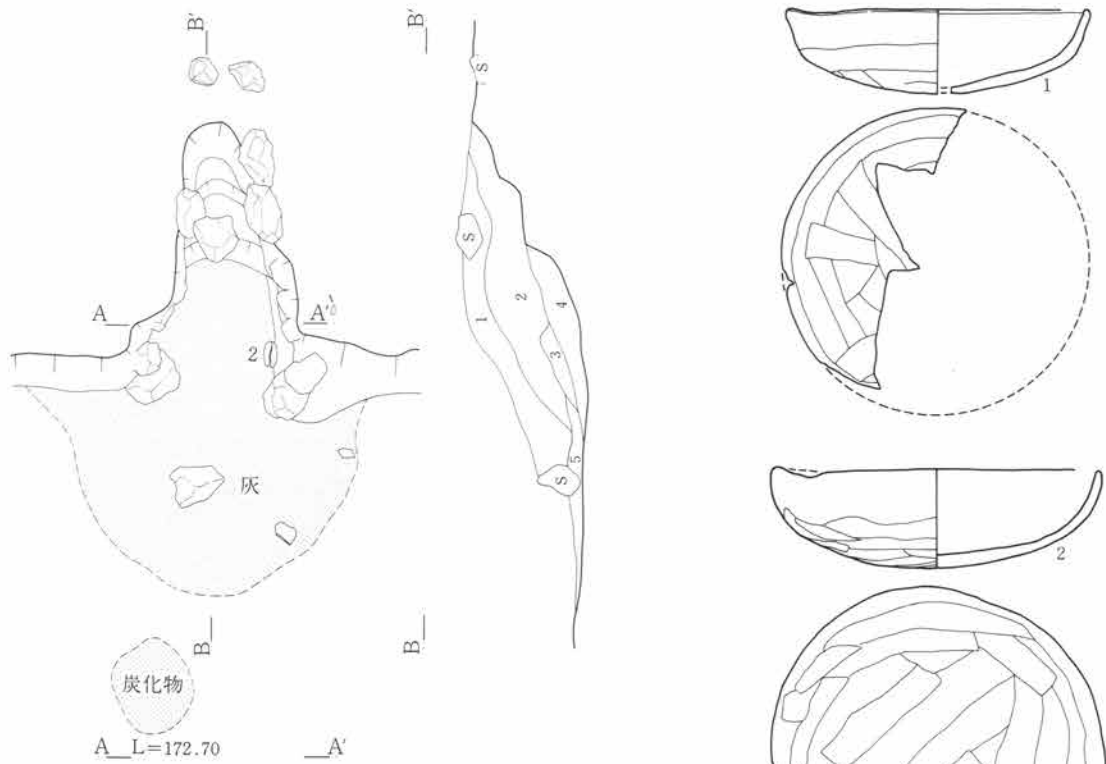
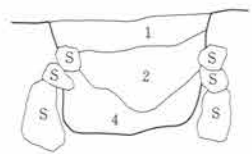


Fig.225 99号住居跡竈(1)



A L=172.70 A'

0 50cm



99号住居跡竈

- 1 灰褐色土層 F Pを含む
- 2 暗褐色土層 炭化物を含む
- 3 暗褐色土層 焼土、灰を含む
- 4 黒褐色土層 灰を多量に含む
- 5 淡褐色土層 FAを含む

Fig.226 99号住居跡竈(2)

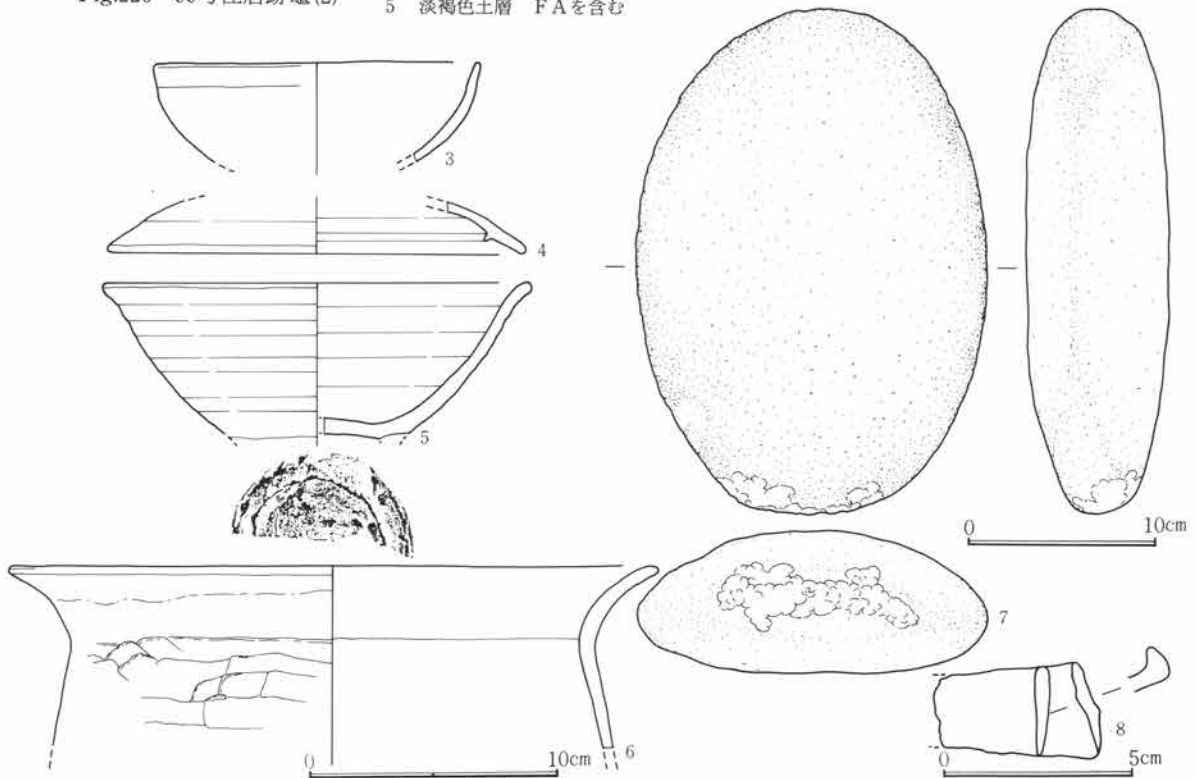


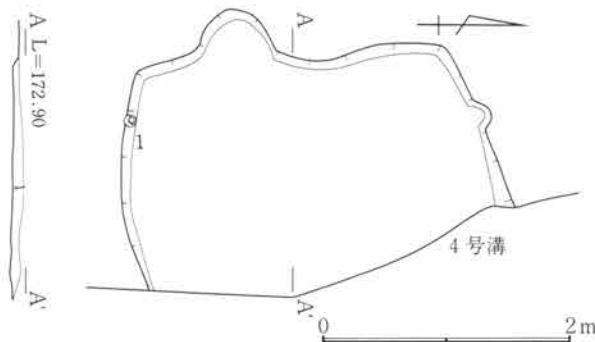
Fig.227 99号住居跡出土遺物

第99号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
227-1 98	土師器 坏	口-12.0	覆土	口縁部ヨコナデ口縁部との間弱いナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②明赤褐色③細砂粒含む④残存
227-2 98	土師器 坏	口-12.6 高-4.0	No 2	口縁部ヨコナデ口縁部との間弱いナデ内面ナデ口縁部直立ぎみ	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④ほぼ成形
227-3 98	土師器 坏	口-13.0	No 3	口縁部ヨコナデ体部弱いナデ内面ナデ	①良好②にぶい赤褐色③細砂粒含む④残存
227-4 98	須恵器 蓋	口-16.6	覆土	外面回転ヘラ調整内面に返りをもつ	①良好②灰白色③細砂粒含む④破片
227-5 98	須恵器 塊	口-17.0	貯穴覆土	付高台欠落底部回転糸切口縁部外側へ屈曲する	①良好②褐灰色③細砂粒含む④残存
227-6 98	土師器 甕	口-25.6	No 6	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部外反する	①良好②橙色③細砂粒含む④口縁部破片
Fig. 227-7	PL. 98	石 長-26.6cm 幅-18.6cm 厚-7.6cm 石英閃緑岩			
Fig. 227-8	PL. 98	鉄製品 長-4.5cm 厚-7mm 鎌			

100号住居跡 (Fig. 228・229、PL. 18・99)

G区南部に位置し36・37G 2・3の範囲にある。98号住居跡の東にある。他の遺構との重複は東半部で4号溝と重複し、東半部は削平されている。新旧関係は住居跡が古い。竈は検出されていない。このため規模・主軸方位等は不明である。西壁は3mを測る。壁高は約4cm～5cmを測り、床面はほぼ平坦をなす。



100号住居跡
1 黒褐色土層 F Pを含む
Fig.228 100号住居跡

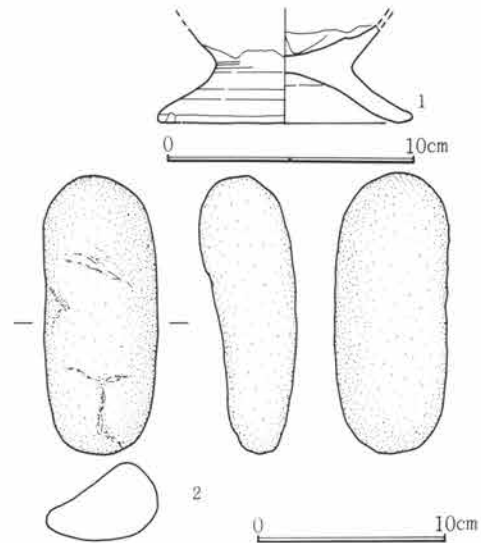


Fig.229 100号住居跡出土遺物

第100号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
229-1 99	土師器 甕	底-10.0	No 1	台部ハの字状に開く	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④脚のみ残存
Fig. 229-2	PL. 99	石 長-14.8cm 幅-6.0cm 厚-4.8cm 粗粒安山岩			

101号住居跡 (Fig. 230・231・232・233、PL. 18・99)

G区南部に位置し41～43G 4～6の範囲にある。95号住居跡の北西にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺4.75m、短辺3.6mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cm～20cmを測り、主軸方位はN-90°-Eである。床面は約10cmの比高をもち南側が高くなる。貯蔵穴は不明であるが床面上には計6基の

第1節 竪穴住居跡

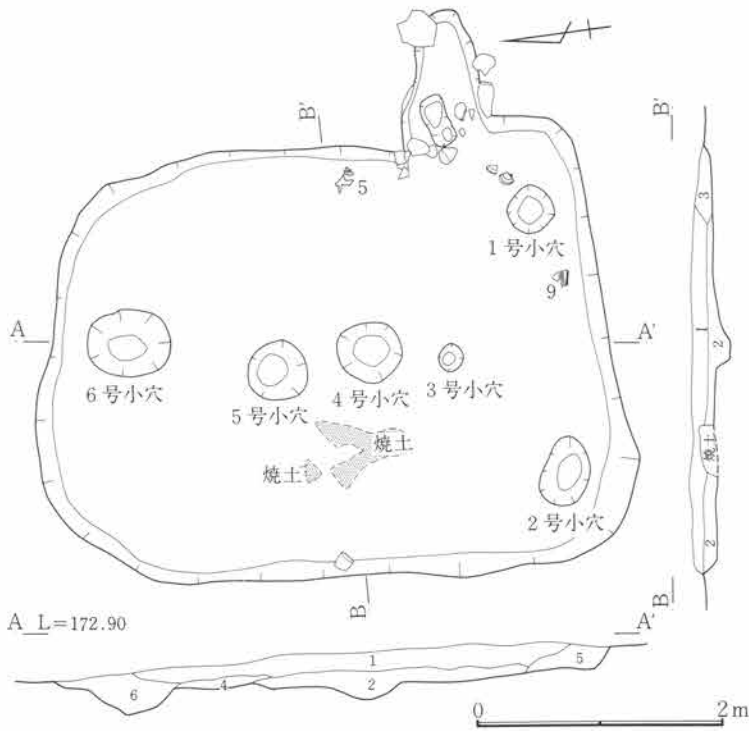
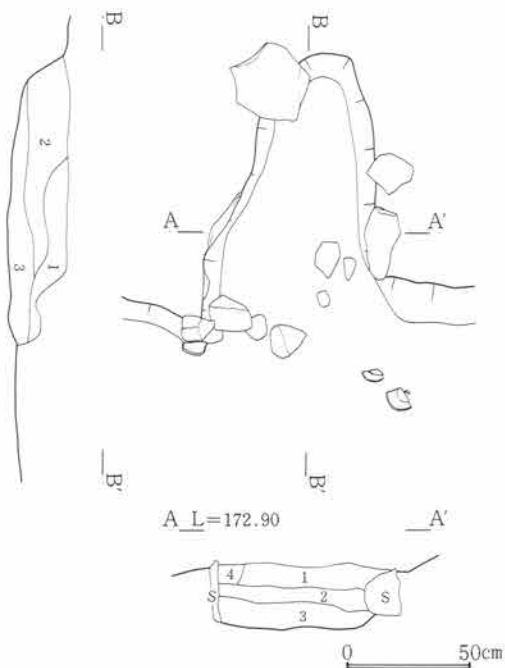


Fig.230 101号住居跡

小穴が検出された。南東コーナー、南西コーナーの小穴をそれぞれ1号・2号さらに南から3号～6号小穴とした。それぞれの規模は1号は径約40cm、深さ約6cm、2号は径約55cm×40cm、深さ約15cm、3号は径約20cm、深さ約10cm、4号は径約50cm、深さ約10cm、5号は径約50cm、深さ約10cm、6号は径約70cm×50cm、深さ約20cmを測る。竈は東壁南寄りに検出され、規模は燃焼部幅約80cm、同長約1mを測る。

101号住居跡

- 1 黒褐色土層 FPを多量に含む
- 2 暗褐色土層
- 3 暗褐色土層 FPを少量含む砂質土
- 4 黄褐色土層 黄色土を含む
- 5 暗褐色土層 FPを含む
- 6 暗褐色土層 砂質土



101号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 FPを多量に含む
- 2 暗褐色土層 焼土、炭化物を含む
- 3 暗褐色土層 焼土を含む
- 4 暗褐色土層 焼土、炭化物を多量に含む

Fig.231 101号住居跡竈

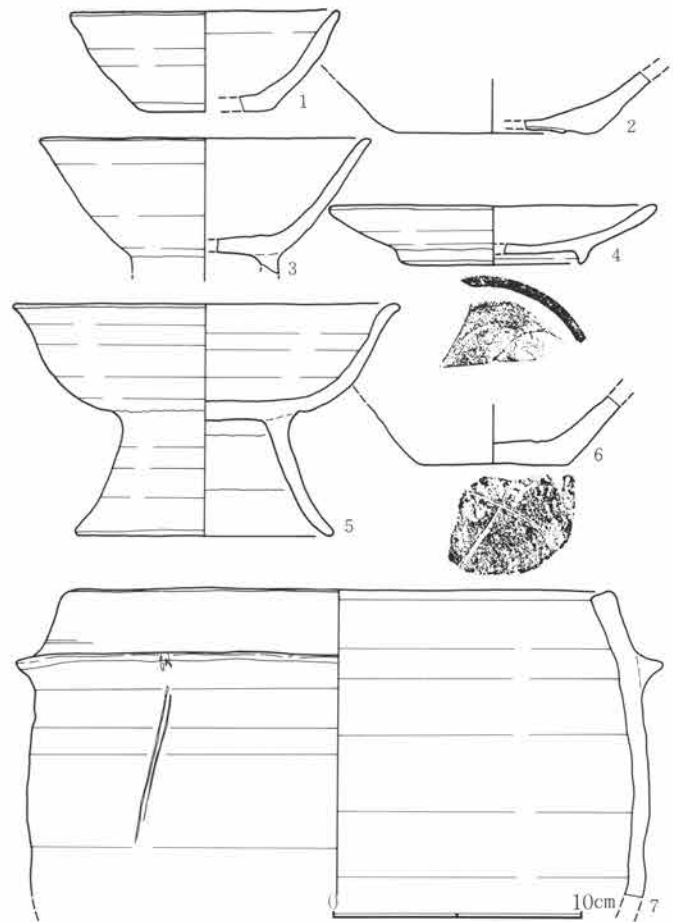
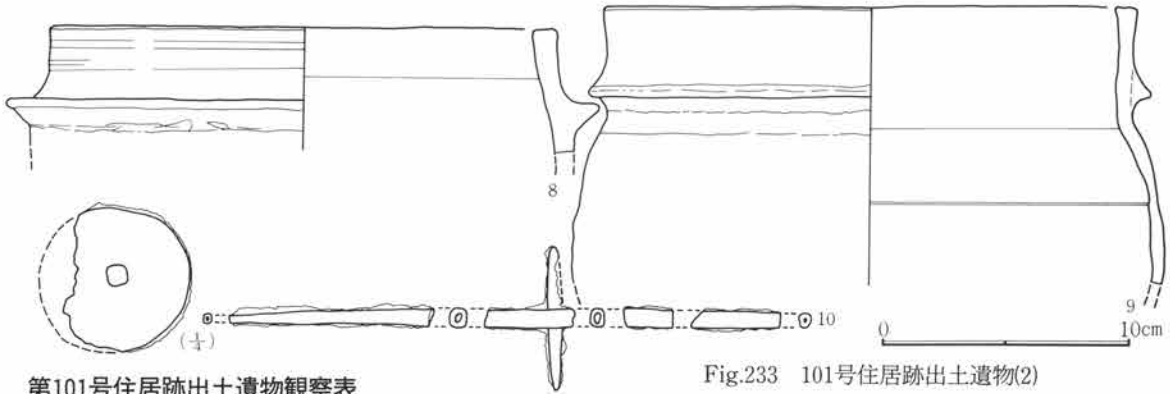


Fig.232 101号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物



第101号住居跡出土遺物観察表

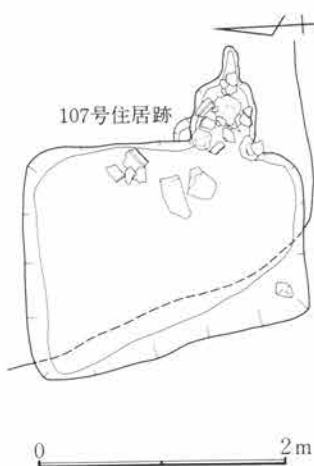
Fig.233 101号住居跡出土遺物(2)

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
232-1 99	須恵器 坏	口-10.6 高-4.0 底-5.2	覆土	底部回転糸切口縁部弱く内湾して立ち上がる	①良好②にぶい褐色③細砂粒含む④口縁部破片
232-2 99	須恵器 坏	底-7.8	覆土	底部回転糸切2度切の可能性あり	①良好②にぶい黄褐色③細砂粒含む④底部残存
232-3 99	須恵器 坏	口-13.1	竈覆土	付高台欠損口縁部弱く外反する	①良好②明褐色③1~2mmの砂粒含む④残存
232-4 99	灰釉陶器 皿	口-6.5 高-2.35 底-6.9	覆土	口縁部内外面釉口縁部弱く内湾して外傾する 付高台	①良好②灰白色③密④残存
232-5 99	須恵器 高台付埴	口-15.3 高-9.2 底-10.0	No.5	高台部高くハの字状を呈する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④残存
232-6 99	土師器 甕	底-6.0	竈覆土	底部にへらによる×印	①良好②灰色③細砂粒含む④底部残存
232-7 99	羽釜	口-21.5	竈覆土	鋳ゆがみ横を向く口縁部内湾する胴部にへら痕	①良好②明褐色③細砂粒を含む④残存
233-8 99	羽釜	口-20.0	覆土	鋳上を向く鋳下貼付痕口縁部内傾する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
233-9 99	羽釜	口-21.1	No.9	鋳低く下を向く鋳下弱いナデ口縁部直立ぎみ	①良好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④口縁部残存

Fig. 233-10 PL. 99 鉄製品 長-13.8cm 厚-4mm 紡錘車

102号住居跡 (Fig. 234・235・236、PL. 18・19・99・100)

G区南部に位置し46・47G9の範囲にある。99号住居跡の北にある。他の遺構との重複は107号住居跡と重複し、新旧関係は102号住居跡が新しい。南壁以外は明瞭に検出はできなかった。壁高は約10cmを測り、床面は平坦をなしやや軟弱である。竈は東壁に検出され、主軸方位はN-97°-Eである。規模は袖幅約50cm、同長約55cm、煙道部約30cmを測る。両袖部には構築材の石が検出され左袖部前面には天井石と思われる切り石が検出された。



102号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 炭化物を含む
- 2 暗褐色土層 焼土、炭化物を含む
- 3 暗褐色土層 焼土を多量に含む

Fig.234 102号住居跡

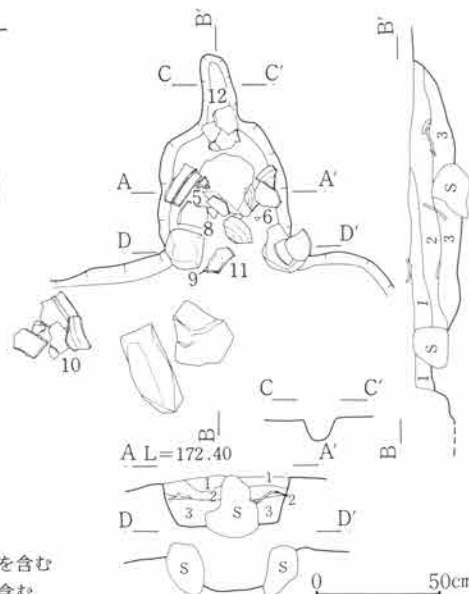


Fig.235 102号住居跡竈

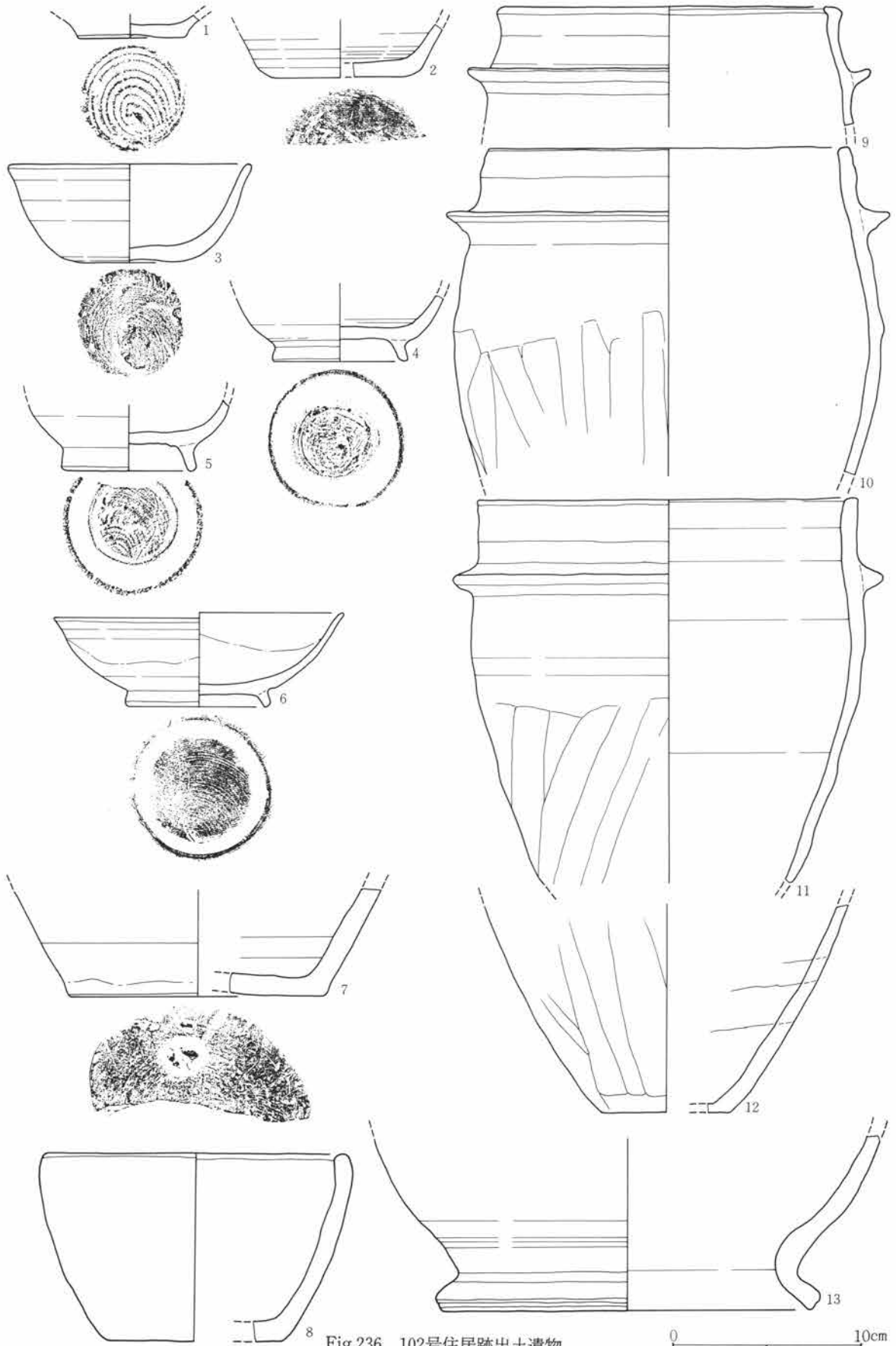


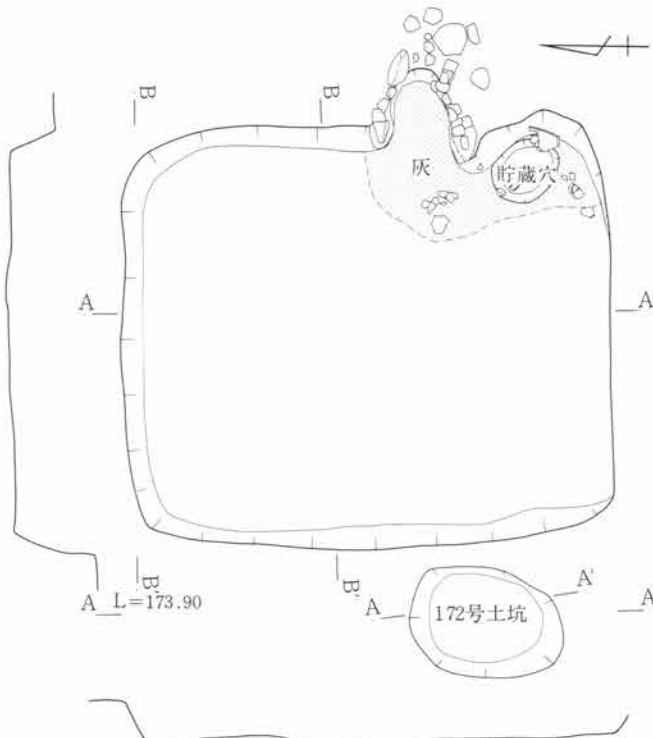
Fig.236 102号住居跡出土遺物

第102号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
236-1 99	須恵器 坏	底-5.5	覆土	底部回転糸切右廻り	①良好②灰白色③細砂粒含む④底部残存
236-2 99	須恵器 坏	底-7.0	覆土	底部手持ヘラ調整	①良好②灰色③密④底部残存
236-3 99	須恵器 坏	口-12.7 高-5.1 底-5.3	覆土	底部回転糸切口縁部内湾ぎみに立ち上がり端部弱く外湾する	①良好②にぶい橙色③1~2mmの砂粒含む④残存
236-4 99	須恵器 塊	底-7.0	覆土	付高台底部回転糸切	①良好②にぶい橙色③密④底部残存
236-5 99	須恵器 塊	底-7.0	No 5	付高台底部回転糸切	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④底部残存
236-6 99	灰釉陶器 坏	口-15.0 高-4.9 底-7.5	No 6	付高台底部回転糸切右廻り口縁部内外面釉口縁端部弱く外反する	①良好②灰白色③密④残存
236-7 99	須恵器 甕	底-13.3	覆土	底部ヘラ調整	①良好②灰白色③密④底部破片
236-8 100	土師器 鉢	口-16.4 高-9.7 底-9.0	No 8	内外面ヘラ状ナデ口縁部内湾する	①良好②にぶい赤褐色③3~4mmの砂粒含む④破片
236-9 100	羽釜	口-18.0	No 9	鈔上を向く口縁部外湾ぎみに内傾する	①良好②にぶい橙色③2~3mm砂粒含む④口縁部破片
236-10 100	羽釜	口-18.6	No 10	鈔上を向く胴下位ヘラケズリ口縁部内傾する	①良好②にぶい赤褐色③細砂粒含む④残存
236-11 100	羽釜	口-20.0	No 11	鈔横を向く胴下位ヘラケズリ口縁部直立ぎみ	①良好②赤褐色③1~2mmの砂粒含む④残存
236-12 100	土師器 甕	底-6.6	No 12	外面ヘラケズリ内面ナデ輪痕残す	①良好②にぶい橙色③3~4mmの砂粒含む④残存
236-13 100	甕	底-19.2	覆土	底部から下胴部へ外に向かいカーブする底部端部に沈線が巡る	①良好②明褐色③細砂粒含む④底部破片

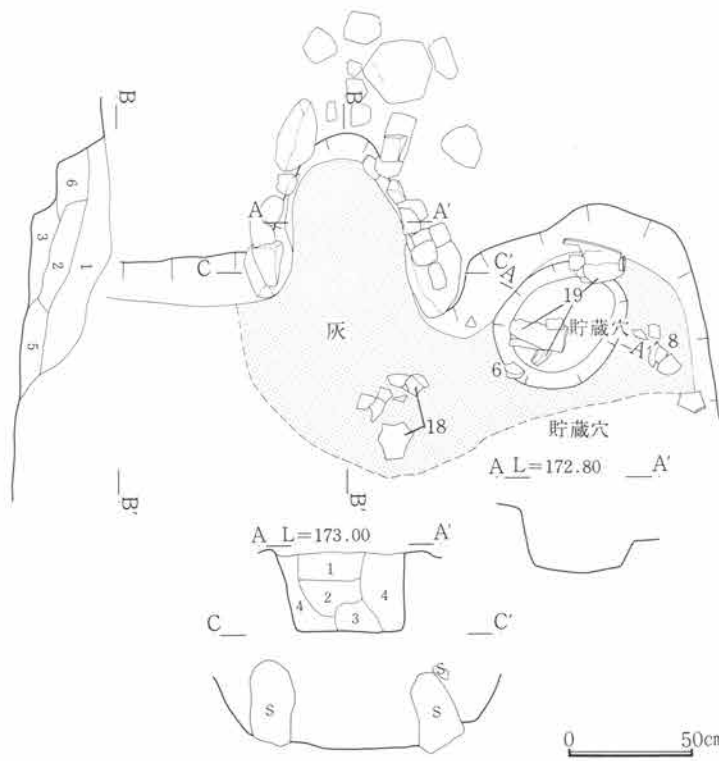
103号住居跡 (Fig. 237・238・239・240、PL. 19・100・101)

G区南部に位置し50~52G2~4の範囲にある。96号住居跡の南西にある。他の遺構との重複はないが南壁



は最近の攪乱を受け削平されており、検出されていない。規模は長辺推定で3.95m、短辺3.4mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約30cmを測り、西壁は高く約60cm~70cmを測る。主軸方位はN-86°-Eである。床面は平坦をなし、南東コーナーに貯蔵穴が検出された。規模は約70cm×50cm、深さ約10cmを測る。竈は東壁やや南寄りに検出された。袖幅約60cm、同長約70cmを測る。竈壁は石で補強されており、煙道部は確認されていないが燃焼部の先端部上に石が散乱した状態で検出された。

Fig.237 103号住居跡・172号土坑
0 2m
172号土坑
1 暗褐色土層 FA、焼土粒を含む



103号住居跡竈

- | | | | |
|---------|--------------|---------|------------|
| 1 黒褐色土層 | F P、焼土を含む | 4 暗褐色土層 | 焼土を多量に含む |
| 2 暗褐色土層 | 焼土、炭化物を多量に含む | 5 暗褐色土層 | F P、F Aを含む |
| 3 暗褐色土層 | 焼土、灰を多量に含む | 6 暗褐色土層 | 焼土を含む |

Fig.238 103号住居跡竈

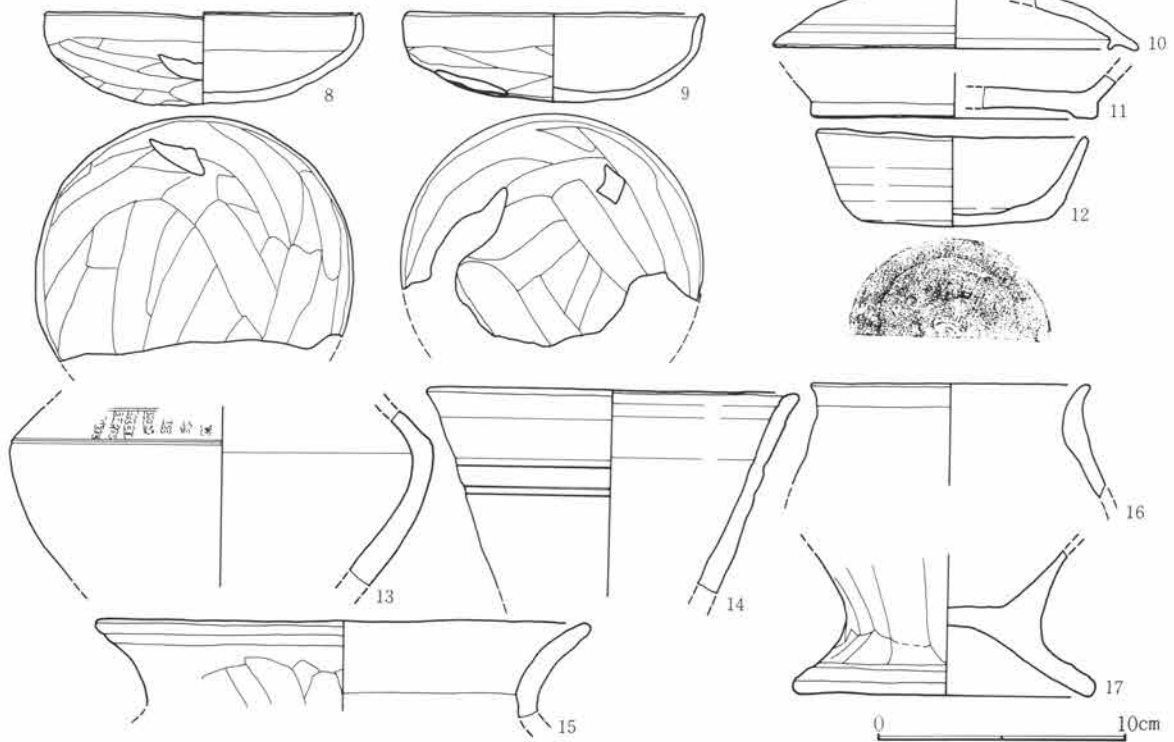
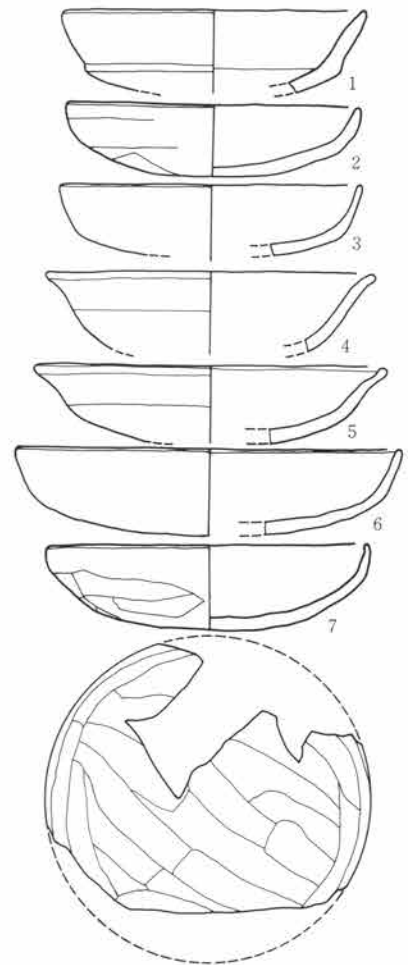


Fig.239 103号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

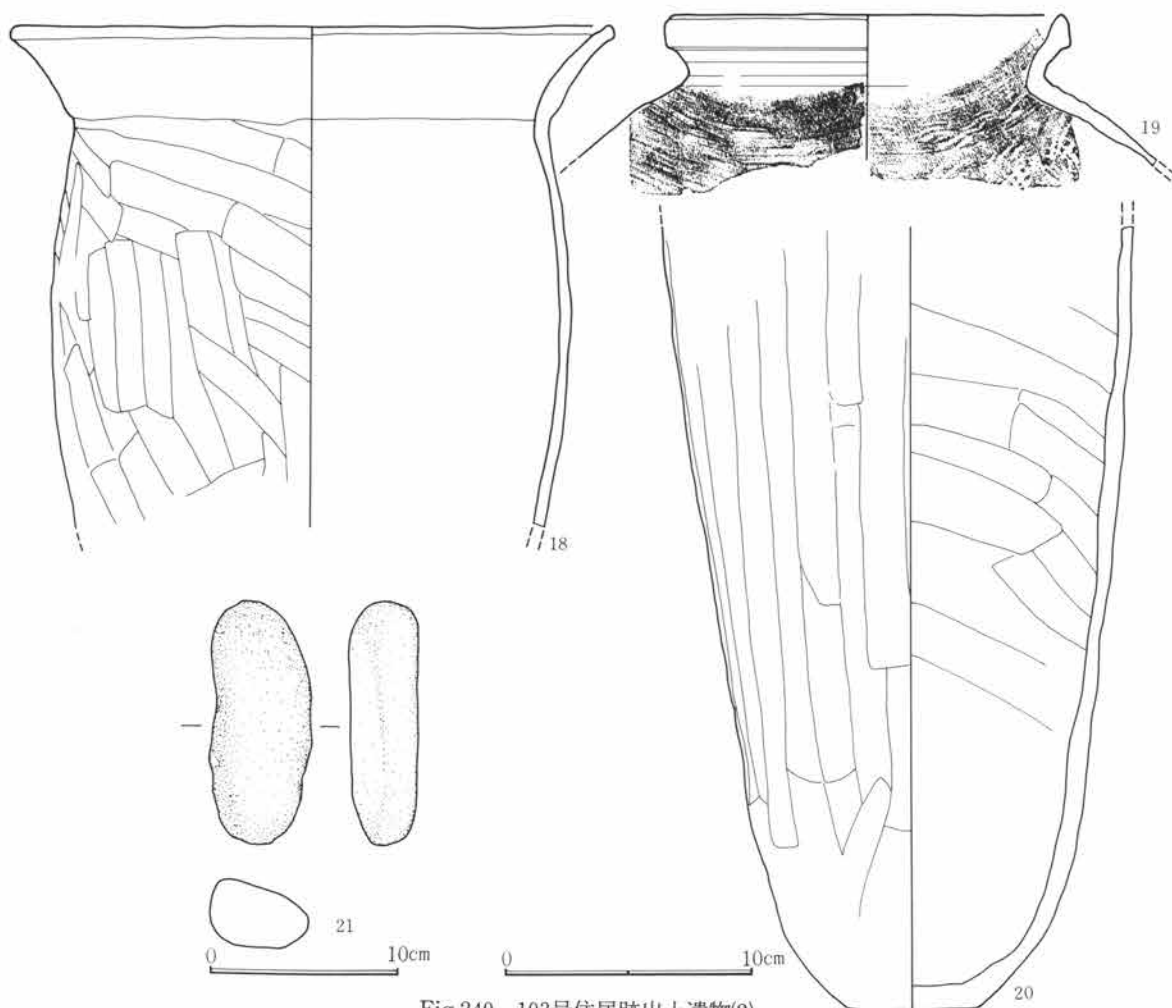


Fig.240 103号住居跡出土遺物(2)

第103号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
239-1 100	土師器 坏	口-12.0	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ口縁部稜をもち外傾する	①良好②橙色③細砂粒含む④破片
239-2 100	土師器 坏	口-11.6	覆土	口縁部ヨコナデ口縁部体部の間弱いナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部直立ぎみ	①良好②橙色③細砂粒含む④%残存
239-3 100	土師器 坏	口-12.0	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部弱く内湾する	①良好②橙色③細砂粒含む④破片
239-4 100	土師器 坏	口-13.0	覆土	口縁部緩やかに外湾する	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片
239-5 100	土師器 坏	口-14.0	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部稜をもち外傾し端部内屈する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④%残存
239-6 100	土師器 坏	口-15.2	No.6	口縁部ヨコナデ口縁部体部の間弱いナデ内面ナデ	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④%残存
239-7 100	土師器 坏	口-12.8 高-3.35	覆土	口縁部ヨコナデ口縁部体部の間弱いナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部直立ぎみ	①良好②橙色③細砂粒含む④%残存
239-8 100	土師器 坏	口-12.6 高-3.6	No.8	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部直立ぎみ	①良好②赤褐色③細砂粒含む④%残存
239-9 100	土師器 坏	口-12.0	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部直立ぎみ	①良好②橙色③細砂粒含む④%残存
239-10	須恵器 蓋	口-14.4	覆土	外面回転ヘラ調整内面返りをもつ	①良好②灰色③密④破片
239-11 100	須恵器 坏		覆土	付高台底部回転ヘラ調整	①良好②灰色③密④底部破片

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
239-12 100	須恵器 坏	口-10.7 高-4.25 底-7.6	覆土	底部回転ヘラ調整内外面自然釉口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③密④½残存
239-13 100	須恵器 長頸壺		覆土	刺突文	①良好②灰色③密④破片
239-14 101	須恵器 長頸壺	口-14.8	覆土	外面沈線状の線が入る直線状に外傾し端部弱く外屈する	①良好②灰白色③密④½残存
239-15	土師器 甕	口-19.6	覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部外反する	①良好②灰褐色③細砂粒含む④口縁部破片
239-16 100	土師器 甕	口-11.0	覆土	外面ナデ口縁部短く外湾する	①良好②褐灰色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
239-17 101	土師器 台付甕	脚底-11.5	覆土	外面ヘラケズリ内面ナデ台部ハの字状に開く	①良好②にぶい赤褐色③細砂粒含む④脚部残存
240-18 101	土師器 甕	口-23.6	No.18	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部外反する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④½残存
240-19 101	須恵器 甕	口-15.6	No.19	口縁部外反し端部直立ぎみ	①良好②灰白色③細砂粒含むが密④口縁部破片
240-20 101	土師器 長甕	底-5.0	覆土	外面ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②にぶい橙色③2~3mm砂粒含む④下半部残存

Fig. 240-21 PL. 101 | 石 長-13.0cm 幅-3.6cm 厚-3.4cm 粗粒安山岩

104号住居跡 (Fig. 241・242・243, PL. 19・101)

G区西部に位置し54~57G26~28の範囲にある。111号住居跡の北にある。他の遺構との重複は北東部で113号住居跡と重複し、新旧関係は104号住居跡が新しい。規模は長辺5.3m、短辺3.8mを測り、平面形態は隅丸

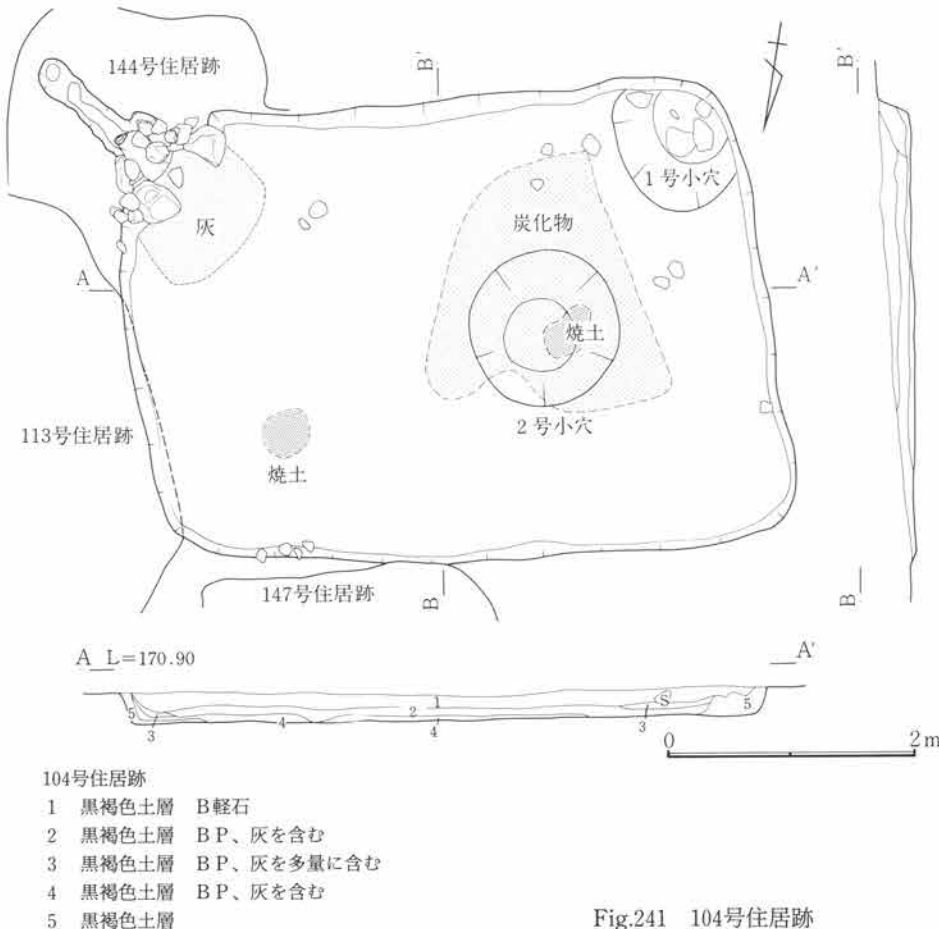


Fig.241 104号住居跡

方形を呈する。壁高は約10cm~20cmを測り、主軸方位はN-165°-Eである。床面は平坦をなし堅くしまっており、焼土・灰が散布している。南西コーナー、ほぼ中央部に小穴が検出されそれぞれ1号・2号と付した。規模は1号は約90cm×80cm、深さ約10cmを測る。2号は径約120cm、深さ約25cmを測る。2号小穴は焼土・灰の散布下から検出された。両

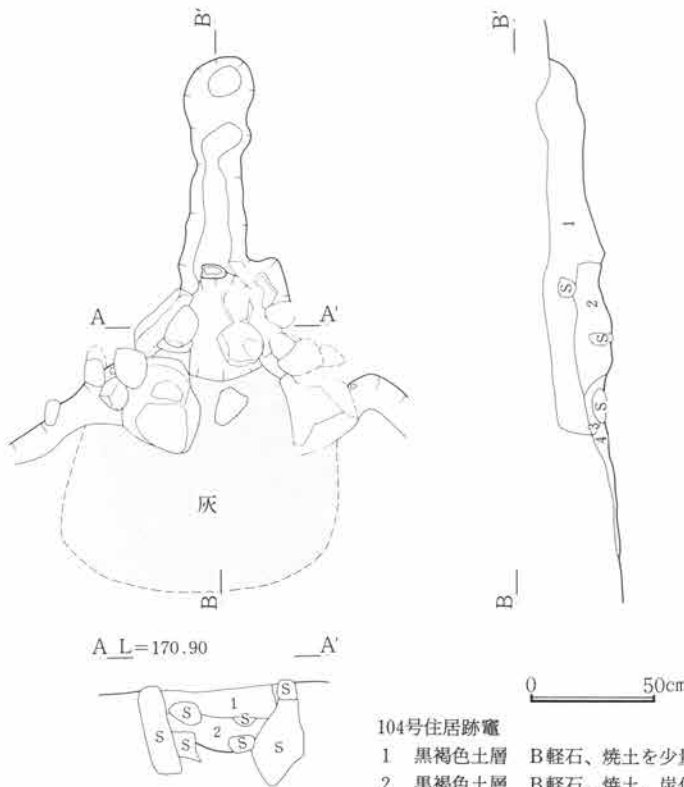


Fig.242 104号住居跡竈

第104号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
243-1 101	須恵器 埵	底-9.1	覆土	高台部ハの字状に開く	①良好②にぶい橙③細砂粒含む④高台部破片

小穴覆土内から浅間山B軽石が検出されている。また当住居跡覆土は床面上まで浅間山B軽石層に覆われ、軽石層間には純堆積層に見られるピンクの灰層が確認されている。竈は南東コーナーに検出された。規模は袖幅約80cm、燃烧部長約40cm、煙道部長約110cmを測る。袖部には石が検出された。

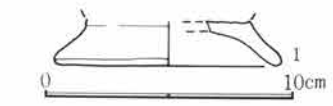


Fig.243 104号住居跡出土遺物

105号住居跡

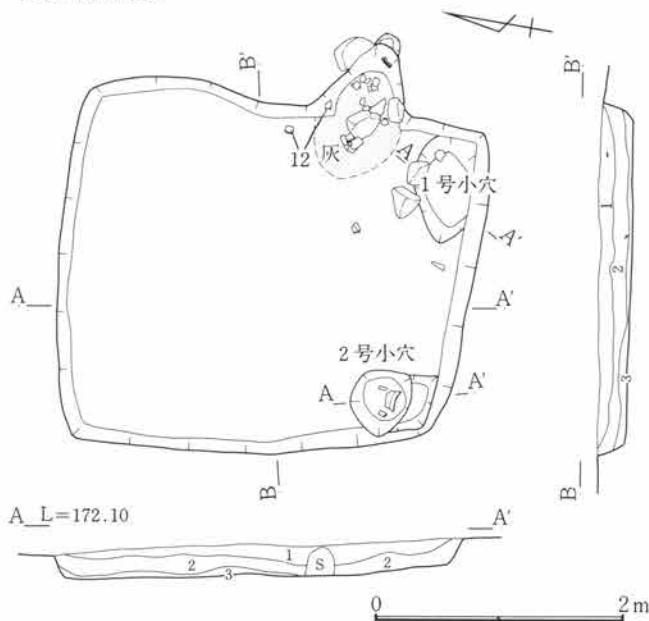


Fig.244 105号住居跡

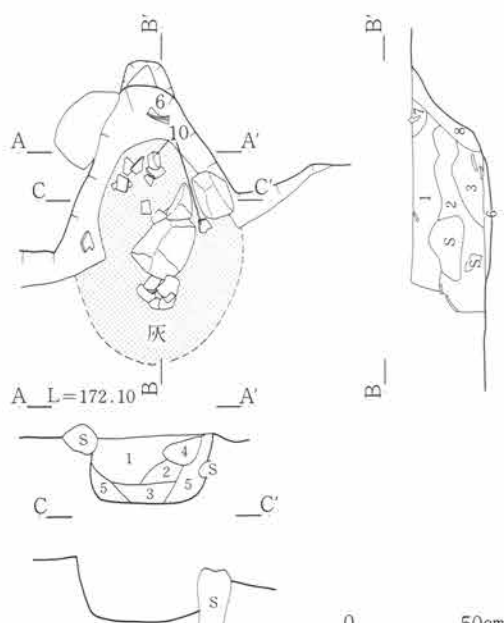
(Fig. 244・245・246・247, PL. 20・101・102)

G区西部に位置し57・58G15・16の範囲にある。97号住居跡の西にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺3.35m、短辺3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cm~25cmを測り、主軸方位はN-87°-Eである。床面は平坦をなし、南西コーナーに小穴が検出された。規模は約70cm×60cm、深さ約30cm~40cmを測る。竈手前に貯蔵穴と思われる小穴が検出され、規模は約70cm×60cm、深さ約10cmを測る。壁周溝等の諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出さ

105号住居跡

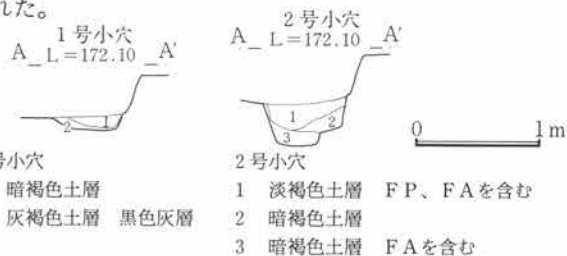
- 1 暗褐色土層 FPを含む
- 2 暗褐色土層 FP、FAを含む
- 3 暗褐色土層 FAブロックを含む

れた。規模は燃烧部幅約60cm、同長約70cmである。竈の右袖部には構築材の石が検出され、燃烧部中央からも石が検出された。



- 105号住居跡竈
- 1 暗褐色土層 FP少量含む
 - 2 暗褐色土層
 - 3 暗褐色土層 焼土、FAを含む
 - 4 暗褐色土層
 - 5 暗褐色土層 焼土を多量に含む
 - 6 灰層
 - 7 焼土ブロック
 - 8 暗褐色土層 焼土を含む

Fig.245 105号住居跡竈・小穴



- 1号小穴
1 暗褐色土層
2 灰褐色土層 黑色灰層
- 2号小穴
1 淡褐色土層 FP、FAを含む
2 暗褐色土層
3 暗褐色土層 FAを含む

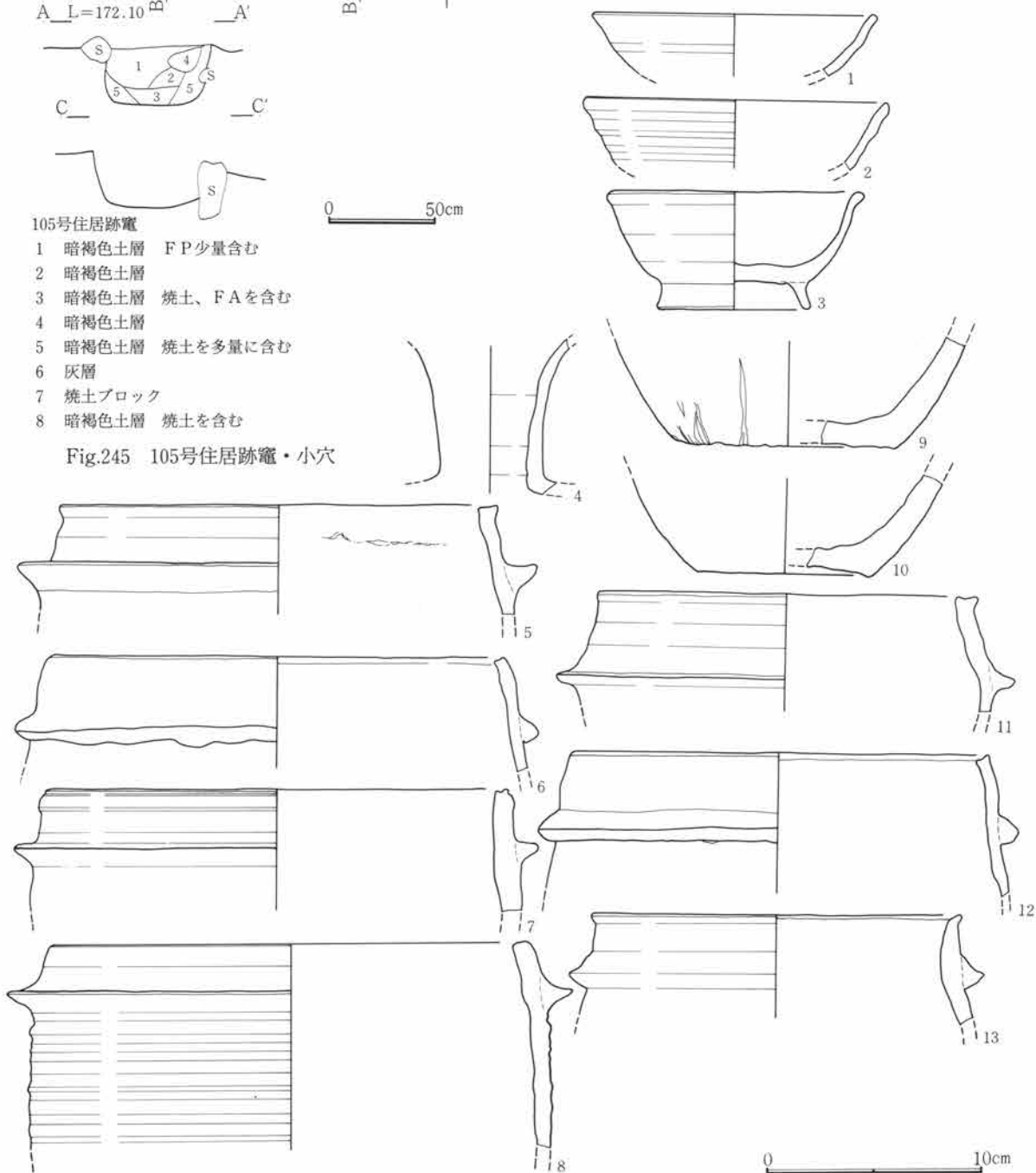


Fig.246 105号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

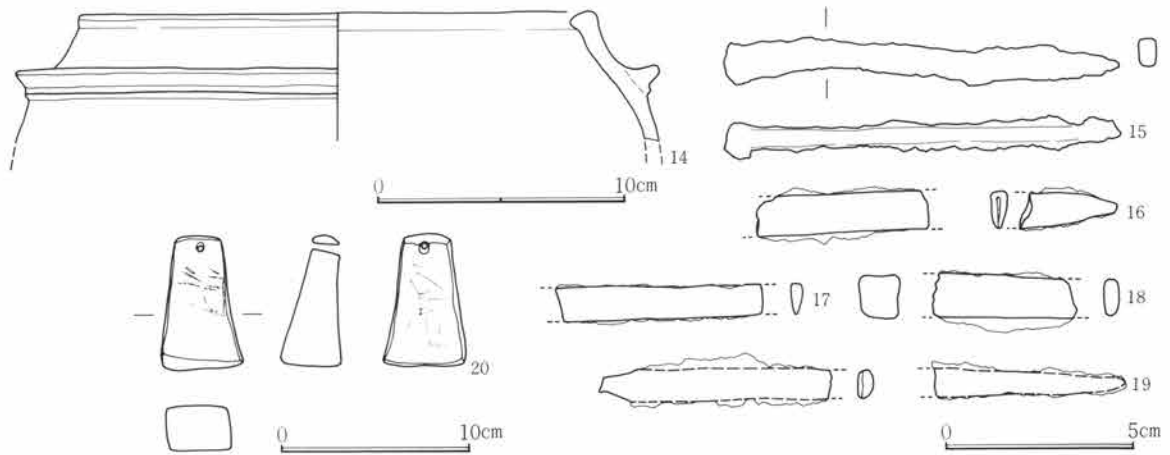


Fig.247 105号住居跡出土遺物(2)

第105号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
246-1 101	須恵器 壺	口-13.0	覆土	口縁部内湾ぎみに立ち上がる	①良好②灰白色③密④破片
246-2	須恵器 壺	口-14.0	覆土	口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③密④破片
246-3 101	土師器 壺	口-11.8 高-5.4 底-7.0	覆土	付高台口縁部内湾して立ち上がり端部外傾し屈曲する	①良好②橙色③細砂粒含む④底部残存
246-4 101	須恵器 壺		小穴覆土	内外面釉口縁部緩やかに外反して開く	①良好②灰白色③細砂粒含むが密④破片
246-5 101	羽釜	口-20.2	竈覆土	鋳上を向く内面接合痕残す口縁部内傾する	①良好②橙色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
246-6 101	羽釜	口-20.8	No.6	鋳めがみ下を向く口縁部内傾する	①良好②浅黄色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
246-7 101	羽釜	口-21.1	竈覆土	鋳横を向く口縁部直立ぎみ外面端部に沈線状巡る	①良好②浅黄褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
246-8 101	羽釜	口-21.6	小穴覆土	鋳上を向く口縁部内傾する	①良好②灰色③2~3mmの砂粒含む④口縁部残存
246-9 101	土師器 壺	底-9.9	竈覆土		①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④底部破片
246-10 101	土師器 壺	底-7.8	No.10		①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④底部破片
246-11 102	羽釜	口-17.3	竈覆土	鋳横を向く口縁部内傾する	①良好②浅黄褐色③細砂粒含む④口縁部残存
246-12 102	羽釜	口-19.0	No.12	鋳低く下を向く口縁部内湾する	①良好②にぶい褐色③細砂粒含む④口縁部破片
246-13 102	羽釜	口-17.0	覆土	鋳低く下を向く鋳から下は外湾する口縁部直立ぎみ端部外反する	①良好②にぶい褐色③細砂粒含む④口縁部破片
247-14 102	羽釜	口-20.5	覆土	鋳上を向く口縁部内傾する	①良好②にぶい赤褐色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片
Fig. 247-15	PL. 102	鉄製品	長-10.4cm 厚-5mm	角釘	
Fig. 247-16	PL. 102	鉄製品	長-8.0cm 厚-1mm	刀子	
Fig. 247-17	PL. 102	鉄製品	長-5.5cm 厚-3mm	刀子	
Fig. 247-18	PL. 102	鉄製品	長-3.9cm 厚-11mm	不明	
Fig. 247-19	PL. 102	鉄製品	長-11.1cm 厚-4mm	刀子?	
Fig. 247-20	PL. 102	石	長-7.0cm 幅-4.4cm 厚-3.2cm	砥石 流紋岩(砥沢)	

106号住居跡 (Fig. 248・249、PL. 20・102)

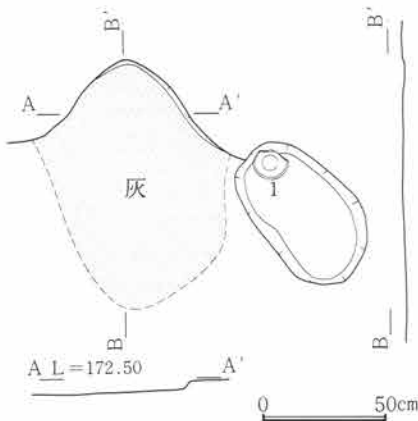


Fig.248 106号住居跡竈

G区南部に位置し42G 7・8の範囲にある。101号住居跡の北西にある。他の遺構との重複はなく、住居跡のプラン等は不明である。竈のみが検出された。規模は燃烧部幅約80cm、同長約50cmを測る。竈右手前に小穴が検出され須恵器が出土した。

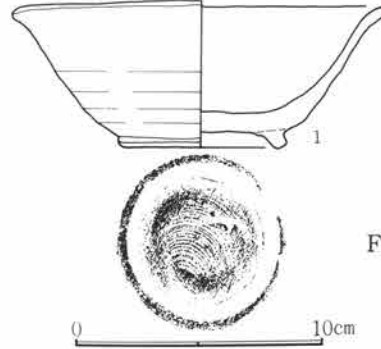


Fig.249 106号住居跡出土遺物

第106号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
249-1 102	須恵器 埴	口-14.7 高-5.8 底-6.7	No.1	付高台底部回転糸切口縁端部外反する	①良好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④残存

107号住居跡 (Fig. 250・251・252・253・254、PL. 20・102・103・104)

G区南部に位置し44~47G 9~11の範囲にある。99号住居跡の北にある。他の遺構との重複は南西部を102号住居跡と重複する。新旧関係は102号住居跡が新しい。規模は長辺4.9m、短辺4.1mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約40cm~45cmを測り、主軸方位はN-14°-Wである。床面は平坦をなし、石・炭化物等が散乱した状態で検出された。貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。竈は北壁西寄りに検出された。規模は袖幅約50cm、燃烧部長約20cmを測り、煙道部長は約90cmを測る。竈の燃烧部は壁から床内に構築さ

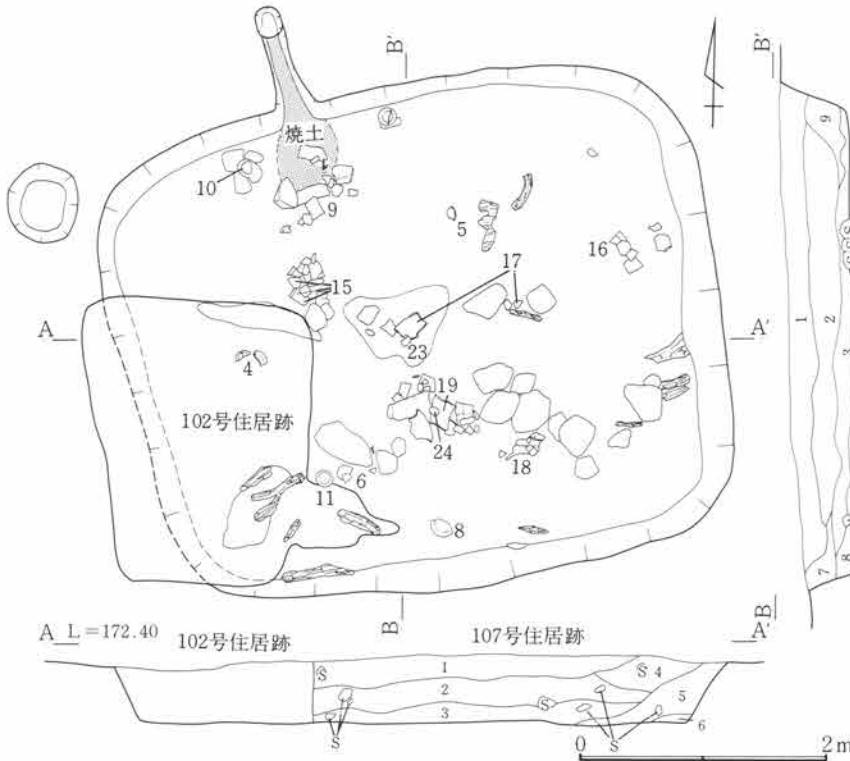


Fig.250 107号住居跡

物等が散乱した状態で検出された。貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。竈は北壁西寄りに検出された。規模は袖幅約50cm、燃烧部長約20cmを測り、煙道部長は約90cmを測る。竈の燃烧部は壁から床内に構築さ

107号住居跡

- 1 黒褐色土層 FP多量に含む
- 2 黒褐色土層 FAを含む
- 3 暗褐色土層 炭化物、FAを含む
- 4 暗褐色土層
- 5 淡褐色土層 FAを含む
- 6 淡褐色土層 炭化物を多量に含む
- 7 暗褐色土層 FP、FAを含む
- 8 暗褐色土層 FP、FA、炭化物を含む
- 9 淡褐色土層 炭化物を含む

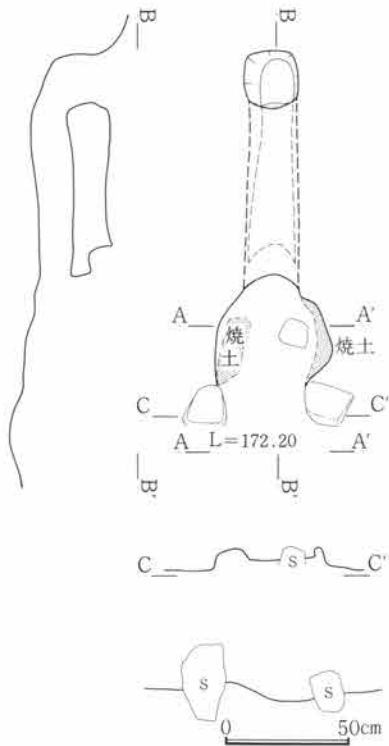


Fig.251 107号住居跡竈

れ、両袖部には石が検出された。また燃烧部の先の煙道部には天井部が遺存した状態で検出された。

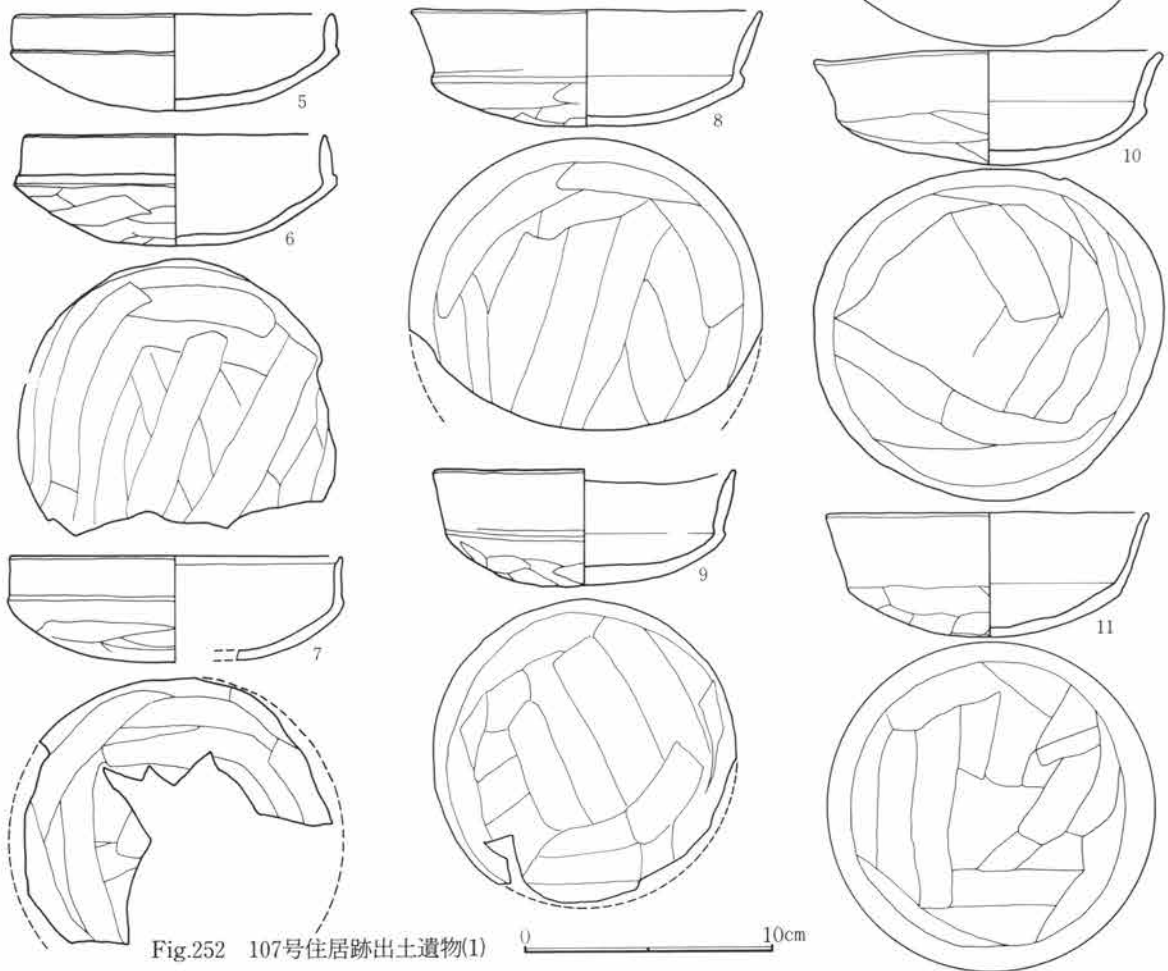
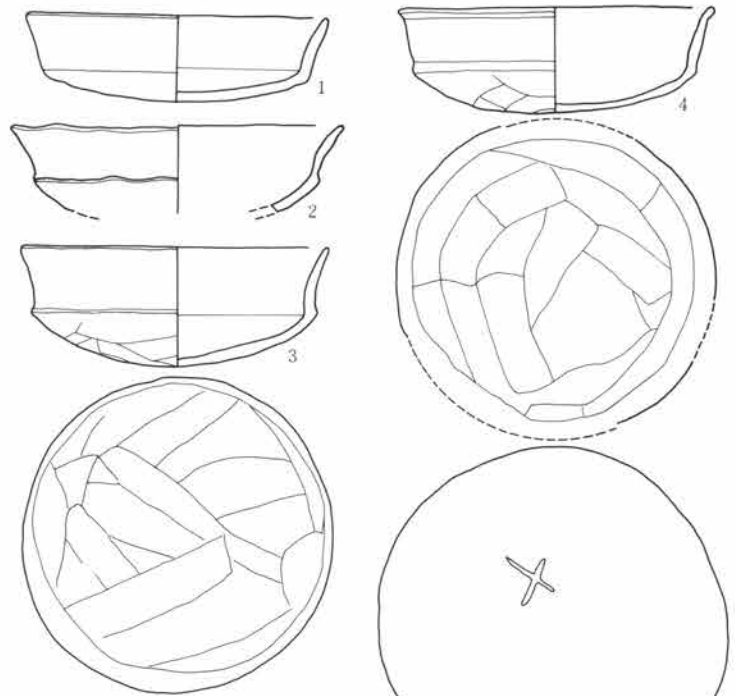


Fig.252 107号住居跡出土遺物(1)

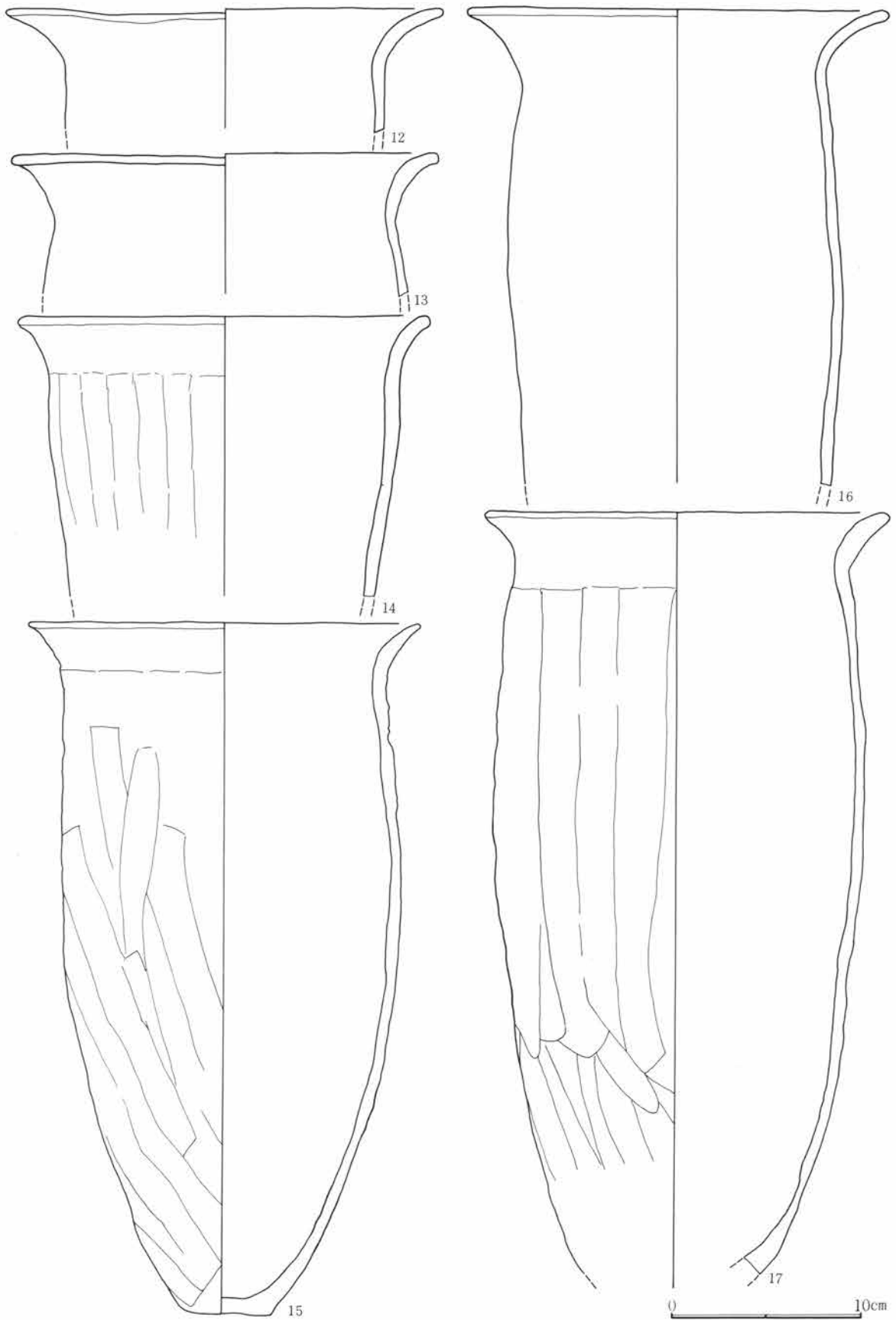


Fig.253 107号住居跡出土遺物(2)

第2章 検出された遺構と遺物

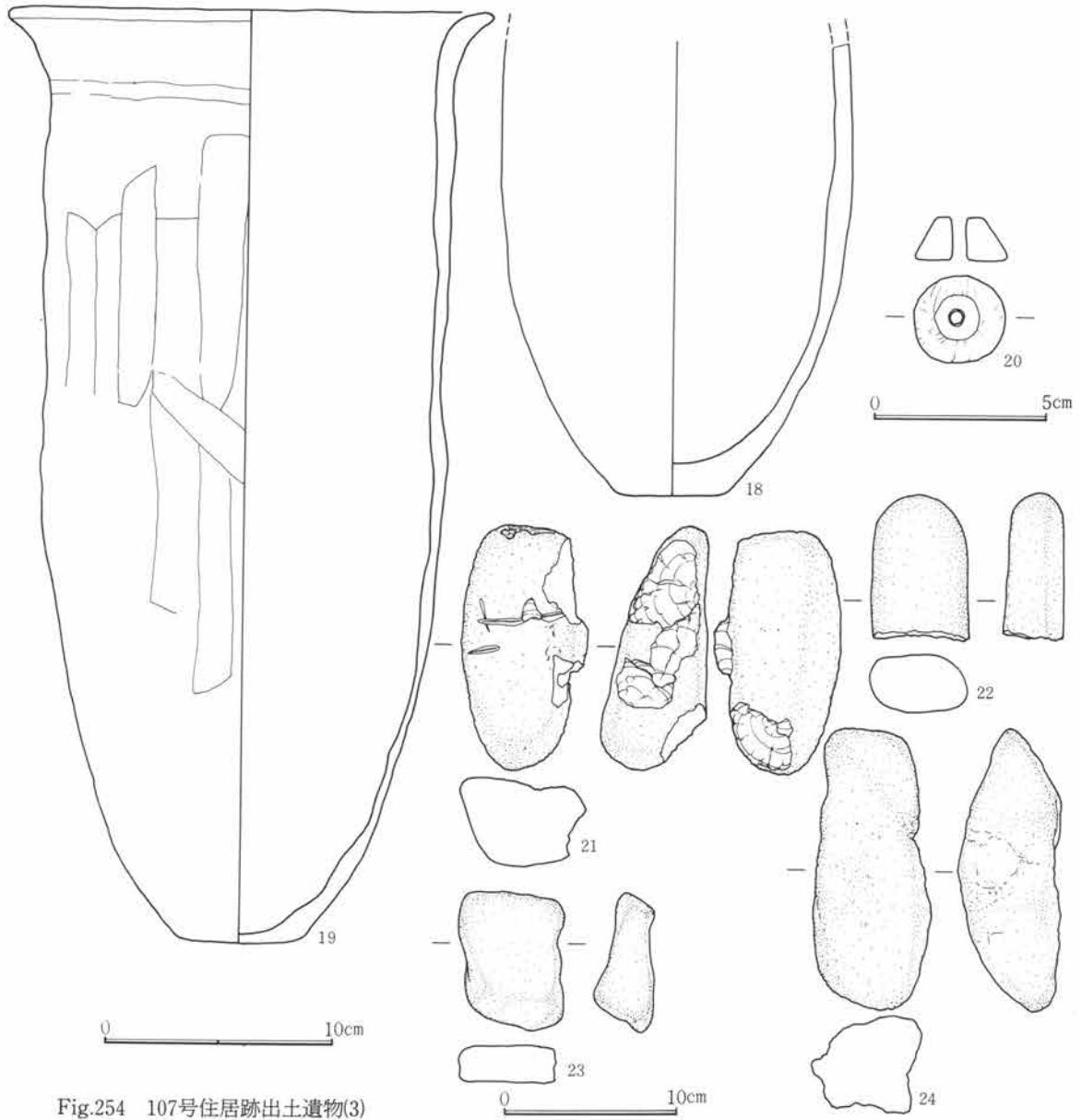


Fig.254 107号住居跡出土遺物(3)

第107号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
252-1 102	土師器 坏	口-11.8 高-3.4	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部稜をもち外傾する	①良好②明橙色③細砂粒含む④½残存
252-2 102	土師器 坏	口-13.2	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部稜をもち弱く外反する	①良好②橙色③細砂粒含む④口縁部½残存
252-3 102	土師器 坏	口-12.2	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部稜をもち外湾する	①良好②明橙色③細砂粒含む④完形
252-4 102	土師器 坏	口-12.6 高-4.1	No.4	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部稜をもち外傾する端部外屈する	①良好②明橙色③細砂粒含む④ほぼ完形
252-5 102	土師器 坏	口-12.5	No.5	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ表面磨滅して不明瞭内面ナデ口縁部稜をもち直立ぎみ	①良好②にぶい赤褐色③細砂粒含む④½残存
252-6 102	土師器 坏	口-12.0	No.6	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部稜をもち内傾する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④½残存
252-7 102	土師器 坏	口-13.2	覆土	口縁部ヨコナデ底部ヘラケズリ内面ナデ口縁部稜をもち直立する	①良好②橙色③細砂粒含む④½残存

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
252-8 102	土師器 坏	口-14.0 高-4.6 底-4.0	No.8	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部稜をもち外傾する	①良好②明橙色③細砂粒含む④残存
252-9 102	土師器 坏	口-12.0 高-4.5	No.9	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部稜をもち外傾する	①良好②明橙色③細砂粒含む④残存
252-10 102	土師器 坏	口-13.7 高-4.2	No.10	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ内面に×印ヘラ痕あり	①良好②明橙色③細砂粒含む④完形
252-11 102	土師器 坏	口-12.8 高-4.9 底-2.0	No.11	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部稜をもち外傾する	①良好②橙色③細砂粒含む④完形
253-12 104	土師器 甕	口-22.6	覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部外反する	①良好②にぶい橙色③1~2mmの砂粒含む④残存
253-13 103	土師器 甕	口-22.0	覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部外反する	①良好②にぶい橙色③1~2mmの砂粒含む④破片
253-14 103	土師器 甕	口-21.4	覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部外反する	①良好②にぶい橙色③2~3mmの砂粒含む④破片
253-15 103	土師器 甕	口-20.3 高-35.6 底-4.5	No.15	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②橙色③2~3mmの砂粒含む④ほぼ完形
253-16 103	土師器 甕	口-21.8	No.16	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ磨滅して不明瞭内面ナデ口縁部外反する	①やや軟質②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④上胴部残存
253-17 103	土師器 甕	口-21.0	No.17	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②赤褐色③1~2mmの砂粒含む④残存
254-18 104	土師器 甕	底-4.0	No.18	外面ヘラケズリ磨滅して不明瞭	①良好②にぶい橙色③2~3mm砂粒含む④底部破片
254-19 104	土師器 甕	口-20.7 高-50.0 底-5.0	No.19	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②赤褐色③2~3mmの砂粒含む④底部欠損
Fig. 254-20 PL. 103	石	長-3.9cm 高-1.9cm	紡錘車		
Fig. 254-21 PL. 103	石	長-14.0cm 幅-7.25cm 厚-5.8cm	粗粒安山岩		
Fig. 254-22 PL. 103	石	長-1.6cm 幅-6.8cm 厚-5.6cm	粗粒安山岩		
Fig. 254-23 PL. 103	石	長-7.9cm 幅-6.1cm 厚-3.45cm	粗粒安山岩		
Fig. 254-24 PL. 103	石	長-8.0cm 幅-3.2cm 厚-4.0cm	石英閃緑岩		

108号住居跡 (Fig. 255・256・257、PL. 20・21・104)

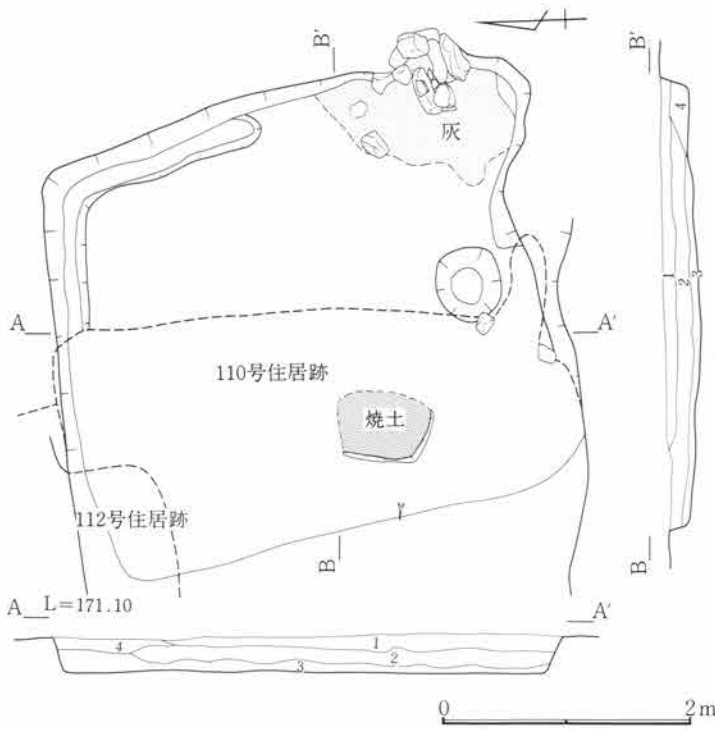


Fig.255 108号住居跡

G区北西部に位置し51・52G24~26の範囲にある。114号住居跡の北にある。他の遺構との重複は東部を109号、西部を110号住居跡と重複している。新旧関係はこの2住居跡より新しい。規模は長辺4.1m、短辺3.5mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cm~30cmを測り、主軸方位はN-83°-Eである。床面は平坦をなし、西南部には床面より約5cmの厚さで焼土・灰が集中して検出された。貯蔵穴は検出されていないが北東コーナーに周溝

108号住居跡

- 1 暗褐色土層 FAを含む
- 2 黒褐色土層 FA、焼土、炭化物を含む
- 3 黒褐色土層 炭化物、灰を含む
- 4 暗褐色土層

第2章 検出された遺構と遺物

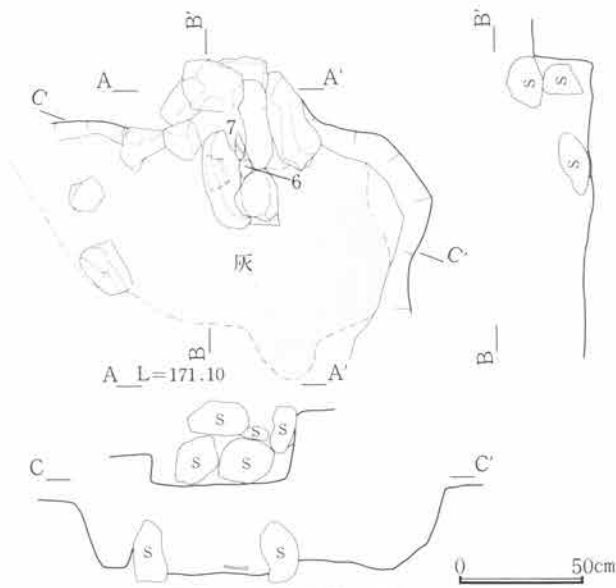


Fig.256 108号住居跡竈

が検出された。幅約20cm、深さは床面から約5cm～6cmを測る。南壁際に小穴が検出され、規模は約60cm×50cm、深さ約20cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。袖幅約80cm、燃烧部長約50cmを測る。竈は輪郭を囲むように大型の石が配されており、火を受けた痕跡がみられ壁材の可能性はある。

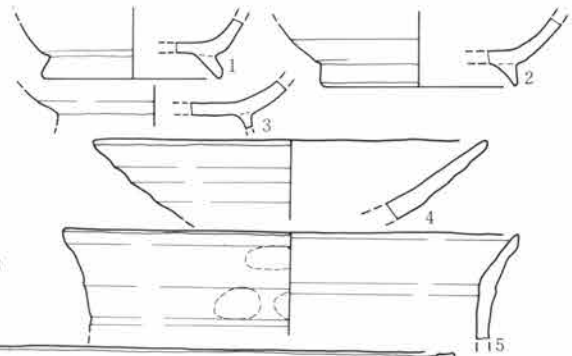


Fig.257 108号住居跡出土遺物

第108号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
257-1 104	須恵器 塊	口-7.0	覆土	付高台	①良好②灰色③密④破片
257-2 104	須恵器 坏	底-7.6	覆土	付高台	①良好②灰白色③細砂粒含む④破片
257-3 104	須恵器 坏		小穴覆土	付高台底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む④破片
257-4 104	須恵器 皿	口-15.6	覆土	口縁部直線状に外傾する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
257-5 104	土師器 甕	口-18.0	覆土	口縁部ヨコナデ指頭痕口縁部外反する	①良好②赤褐色③細砂粒含む④口縁部破片
257-6 104	甕	口-36.9	Na 6	やや薄く外傾する	①良好②にぶい赤褐色③1～2mm砂粒含む④口縁部破片
257-7 104	甕	口-37.0	Na 7	口縁部外傾する	①良好②黒褐色③1～2mmの砂粒含む④口縁部破片

109号住居跡 (Fig. 258・259、PL. 21・104・105)

G区北西部に位置し49～51G24・25の範囲にある。114号住居跡の北にある。他の遺構との重複は西部で108号住居跡と重複している。新旧関係は109号住居跡が古い。規模は長辺3.2m、短辺2.9mを測り、平面形態は

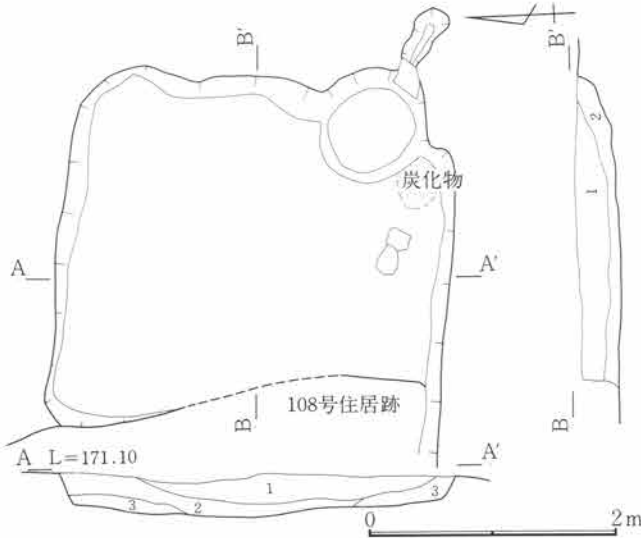


Fig.258 109号住居跡

隅丸方形を呈する。壁高は約20cm～30cmを測り、主軸方位はN-90°-Eである。床面は平坦をなし、貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。竈は南東コーナーに検出された。竈の主軸は住居跡の主軸方位からやや南にずれN-122°-Eである。規模は燃烧部幅約110cm、同長約50cm、煙道部長約70cmを測る。燃烧部から煙道部にかけて段を有し天井部が一部残存し人頭大の石が天井部に検出された。

109号住居跡

- 1 暗褐色土層
- 2 暗褐色土層 炭化物を含む
- 3 暗褐色土層 FAを含む

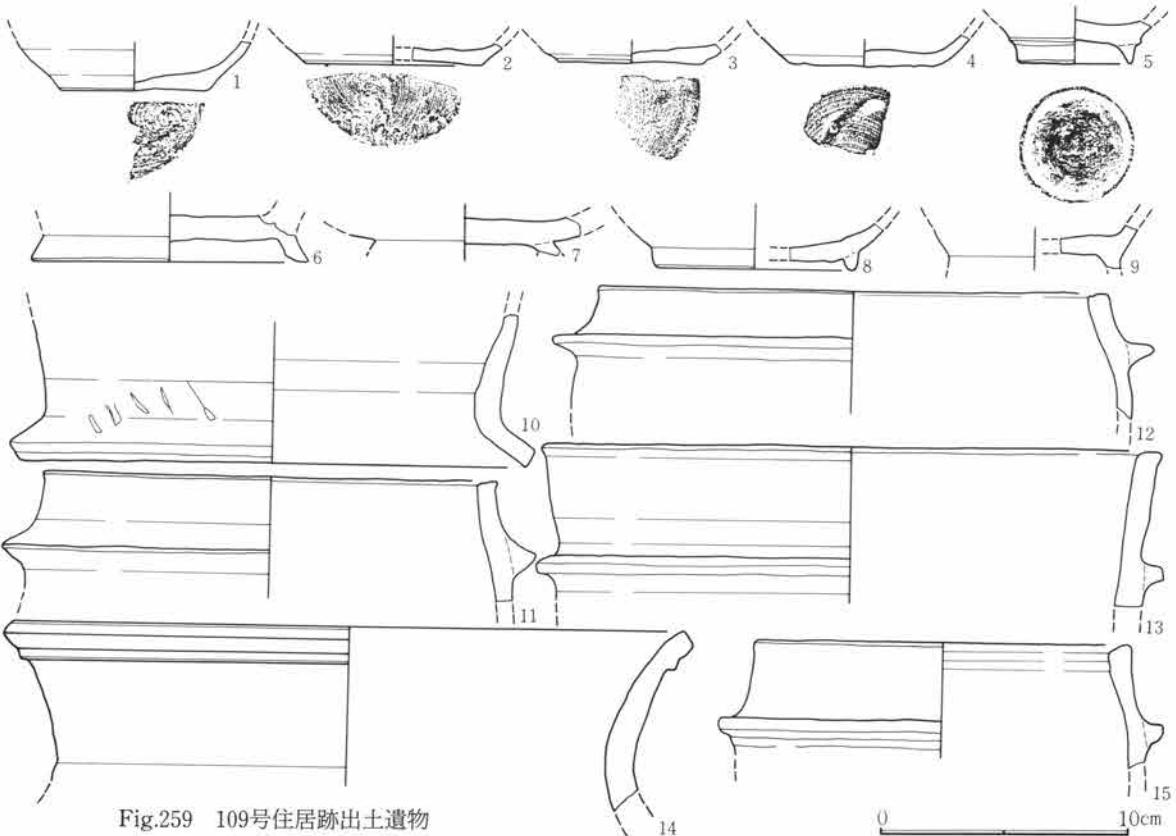


Fig.259 109号住居跡出土遺物

第109号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
259-1 104	須恵器 坏	底-6.0	覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④底部破片

第2章 検出された遺構と遺物

Fig. No PL. No	器 種 器 形	計 測 値 (cm)	出土位置	成 形 及 び 調 整 の 特 徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
259-2 104	須恵器 坏	底-7.0	覆 土	底部回転糸切右廻り	①良好②灰白色③細砂粒含 むが密④底部破片
259-3 104	須恵器 坏	底-6.0	覆 土	底部回転糸切	①良好②灰色③密④底部破 片
259-4 104	須恵器 坏	底-5.5	覆 土	底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含 む④底部破片
259-5 104	須恵器 塊	底-4.5	覆 土	付高台内面中心に突起が残る	①良好②淡橙色③1~2mm の砂粒含む④底部残存
259-6 104	須恵器 長・短頸壺	底-11.0	覆 土	付高台	①良好②灰色③密④高台部 破片
259-7 104	須恵器 長・短頸壺	底-7.4	覆 土	付高台	①良好②灰色③密④底部破 片
259-8 104	灰釉陶器 坏	底-8.0	覆 土	付高台底部回転調整	①良好②灰白色③密④底部 破片
259-9 104	須恵器 坏		覆 土	付高台	①良好②灰白色③細砂粒含 む④底部破片
259-10 105	甗	底-20.0	覆 土	底部周辺へラ痕底部くの字状に外反する	①良好②赤褐色③2~3mm の砂粒含む④底部破片
259-11 104	羽釜	口-18.0	覆 土	鑄低く横を向く口縁部内傾する	①良好②灰色③1~2mmの 砂粒含む④口縁部破片
259-12 104	羽釜	口-20.0	覆 土	鑄低くやや上を向く口縁部内湾する	①良好②にぶい橙色③1 ~2mm砂粒含む④口縁部破片
259-13 105	羽釜	口-25.0	覆 土	鑄横を向く口縁部やや外傾し甗の可能性あり	①良好②灰白色③細砂粒含 む④口縁部破片
259-14 105	須恵器 甗	口-27.2	覆 土	口縁部折り返し稜を持ち外湾する	①良好②灰白色③2~3mm の砂粒含む④口縁部破片
259-15 105	羽釜	口-15.0	覆 土	鑄低くやや上を向く口縁部内傾する	①良好②灰白色③1~2mm の砂粒含む④口縁部破片

110号住居跡 (Fig. 260・261・262、PL. 21・105)

G区北西部に位置し51~53G24~26の範囲にある。114号住居跡の北にある。他の遺構との重複関係は東部で108号住居跡、西部で111号住居跡、北部を112号住居跡と重複している。新旧関係は108号住居跡より旧く、111・112号住居跡より新しい。規模は長辺4.2m、短辺3.7mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約

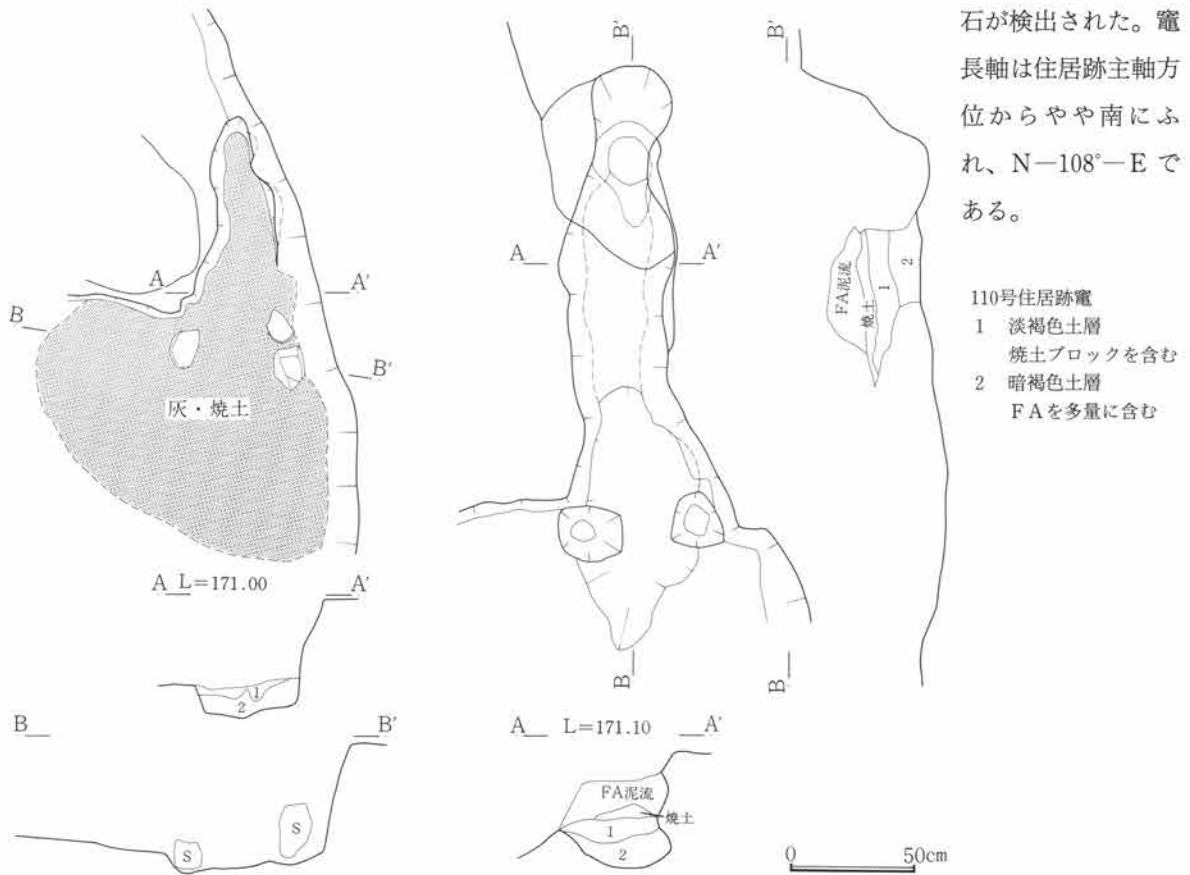


Fig.260 110号住居跡

30cm~40cmを測り、主軸方位はN-87°-Eである。床面は平坦をなし、南西コーナーに小穴が検出された。規模は約70cm×60cm、深さ約45cmを測る。竈手前には厚さ約10cmで床に密着して焼土・灰が検出された。竈は南東コーナーに検出された。108号住居跡に一部壊されているが煙道部が検出された。規模は袖幅約60cm、燃烧部長約50cm、煙道部長約140cmを測る。両袖部には

- 小穴
A_L=170.30_A'
- 1 暗褐色土層 FPを少量含む
 - 2 暗褐色土層
 - 3 黒褐色土層 焼土、FAを含む
- 110号住居跡
- 1 暗褐色土層
 - 2 暗褐色土層 FPを多量に含む
 - 3 暗褐色土層 FAを含む
 - 4 暗褐色土層 灰を含む

第1節 竪穴住居跡



石が検出された。竈
長軸は住居跡主軸方
位からやや南にふ
れ、N-108°-Eで
ある。

- 110号住居跡竈
1 淡褐色土層
焼土ブロックを含む
2 暗褐色土層
FAを多量に含む

Fig.261 110号住居跡竈

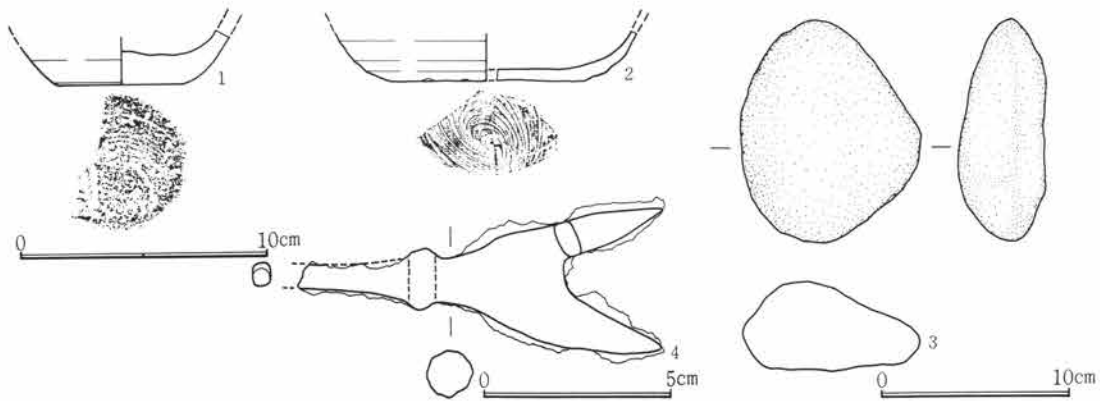


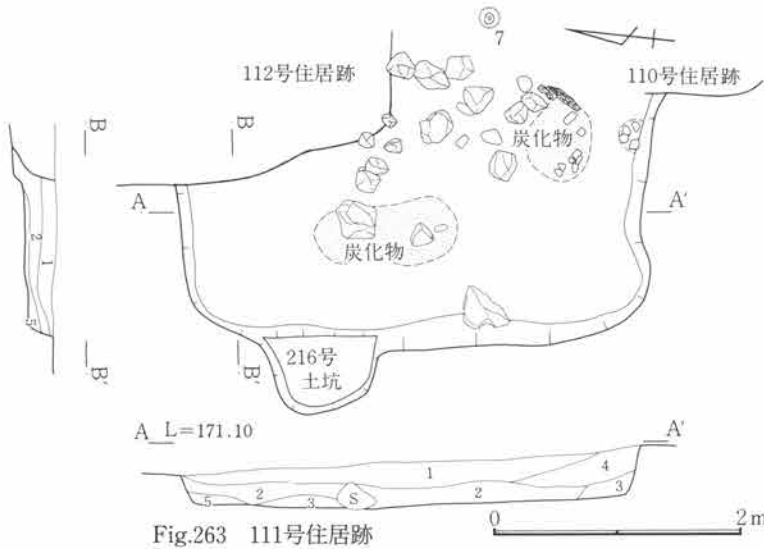
Fig.262 110号住居跡出土遺物

第110号住居跡出土遺物観察表

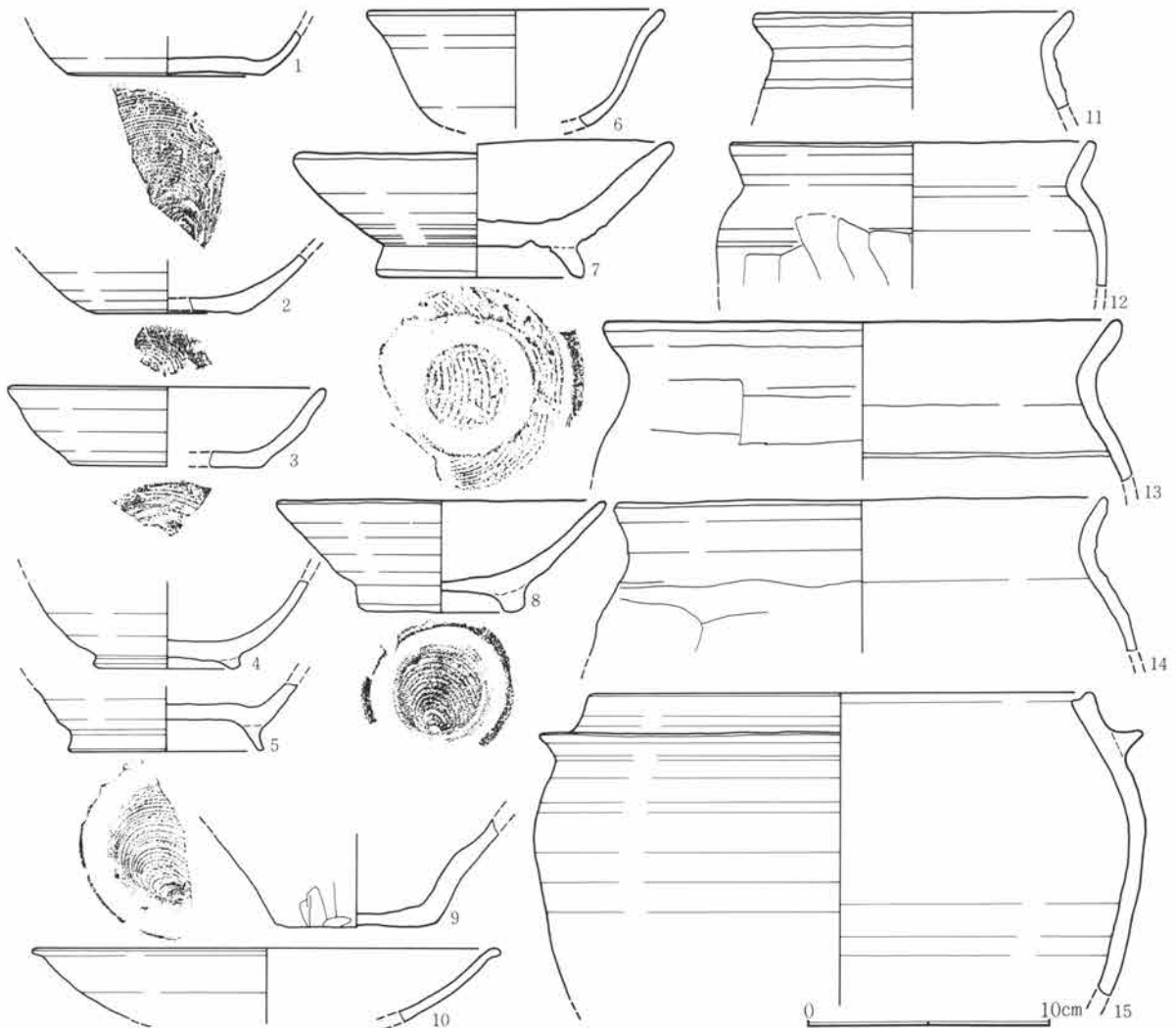
Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
262-1 105	須恵器 坏	底-4.8	覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④底部残存
262-2 105	須恵器 坏	底-7.6	覆土	底部回転糸切右廻り	①良好②灰色③密④底部残存
Fig. 262-3 PL. 105	石	長-11.8cm 幅-4.7cm 厚-4.6cm	粗粒安山岩		
Fig. 262-4 PL. 105	鉄製品	長-9.8cm 厚-5~10mm	鎌		

111号住居跡 (Fig. 263・264、PL. 21・105)

G区北西部に位置し53・54G24～26の範囲にある。121号住居跡の北西にある。他の遺構との関係は東半部を110・112号住居跡と重複している。新旧関係は両住居跡より古い。また北西部で当住居跡より新しい216号土坑



土坑と重複している。壁高は約20cm～30cmを測る。このため明確なプランは確認されていない。床面は平坦をなし、人頭大の石が多数散乱した状態で検出された。壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は検出されていない。



第111号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
264-1 105	須恵器 坏	底-7.8	覆土	底部回転糸切右廻り	①良好②灰白色③密④底部 残存
264-2 105	須恵器 坏	底-6.0	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含 む④破片
264-3 105	須恵器 坏	口-12.9 高-3.2 底-3.6	覆土	底部回転糸切口縁部内湾ぎみに立ちあがる	①良好②にぶい黄橙色③細 砂粒含む④破片
264-4 105	須恵器 塊	底-5.9	覆土	付高台底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含 む④残存
264-5 105	須恵器 塊	底-7.9	覆土	付高台底部回転糸切	①良好②灰白色③密④底部 残存
264-6 105	須恵器 塊	口-12.0	覆土	口縁端部外反する	①良好②灰白色③細砂粒含 む④破片
264-7 105	須恵器 塊	口-15.4 高-5.6 底-8.5	Na 7	付高台底部糸切高台付回転調整沈線状に残る	①良好②にぶい橙色③ 1 ~ 2 mm砂粒含む④ほぼ完形
264-8 105	須恵器 塊	口-13.3 高-4.5 底-6.8	覆土	付高台口縁部弱く内湾ぎみに立ちあがる	①良好②にぶい橙色③ 2 ~ 3 mmの砂粒含む④残存
264-9 105	須恵器 甕	底-6.5	覆土	外面ヘラ痕	①良好②にぶい赤褐色③ 1 ~ 2 mm砂粒含む④底部破片
264-10 105	灰釉陶器 皿	口-19.0	覆土	内外面釉口縁端部外側へ屈曲する	①良好②灰白色③密④口縁 部残存
264-11 105	土師器 甕	口-13.0	覆土	口縁部内外面ヨコナデ口縁部外反する	①良好②にぶい赤褐色③細 砂粒含む④口縁部破片
264-12 105	須恵器 甕	口-14.9	覆土	轆轤成形胴上部ヘラケズリ口縁部外反する	①良好②灰白色③ 2~3 mm の砂粒含む④口縁部残存
264-13 105	土師器 甕	口-21.0	覆土	口縁部ヨコナデ胴上部ヘラケズリ内面ナデ口縁部 外反する	①良好②にぶい赤褐色③細 砂粒含む④口縁部破片
264-14 105	土師器 甕	口-20.0	覆土	口縁部ヨコナデ胴上部ヘラケズリ内面ナデ口縁部 外反する	①良好②赤褐色③ 1~2 mm の砂粒含む④口縁部残存
264-15 105	羽釜	口-20.8	覆土	銚長くやや上を向く口縁部内湾する	①良好②灰色③ 1~2 mmの 砂粒含む④口縁部破片

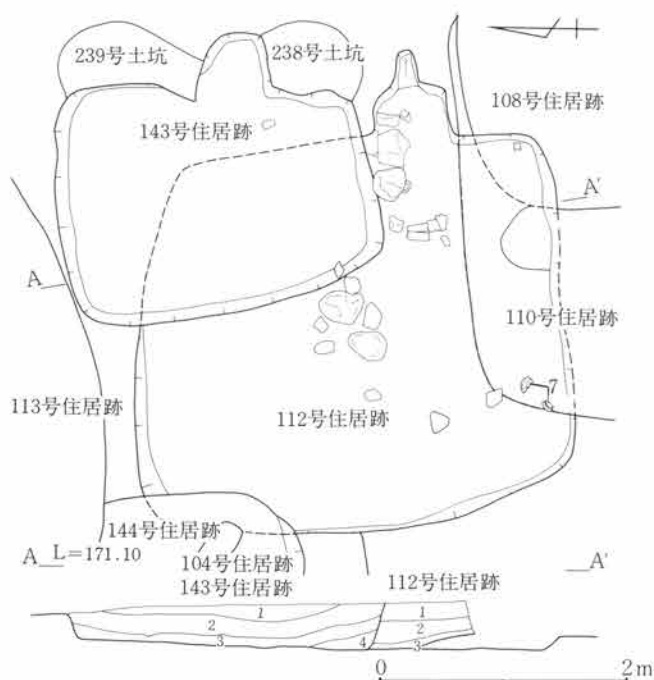
112号住居跡 (Fig. 265・266・268・269、PL. 21・22・105・106)

G区北西部に位置し52~54G25~27の範囲にある。108号住居跡の北にある。他の遺構との関係は南部で110・111号住居跡、北東部で143号住居跡、北西部で144号住居跡と重複している。新旧関係は110・111・144・143号住居跡より古い。住居跡のプランは明確ではないが規模は東西長約3.1m、南北長約3.5mを測る。竈長軸方位はN-82°-Eである。壁高は約5cm~10cmを測る。床面は平坦をなし壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約60cm、同長約50cm、煙道部長約20cmを測る。床面上には人頭大の石が散乱した状態で検出された。

143号住居跡 (Fig. 265・267・270、PL. 22・28・119)

G区北西部に位置し52・53G26・27の範囲にある。108号住居跡の北にあり、他の遺構との関係は南西部で112号住居跡と重複している。新旧関係は143号住居跡が新しい。また238・239号土坑と重複し当住居跡が新しい。規模は長辺2.65m、短辺1.9mを測り、主軸方位はN-88°-Eである。壁高は北壁で約20cmを測る。床面は平坦をなし、貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約50cm、同長約60cmを測る。

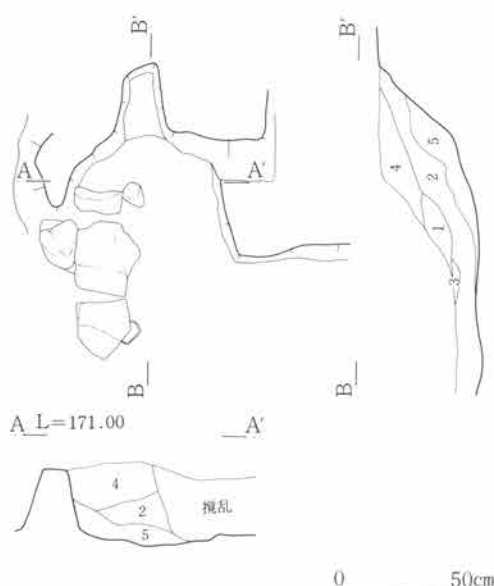
第2章 検出された遺構と遺物



- 112号住居跡
- 1 暗褐色土層 FPを少量含む
 - 2 暗褐色土層 FPを少量含む
 - 3 暗褐色土層 炭化物を含む

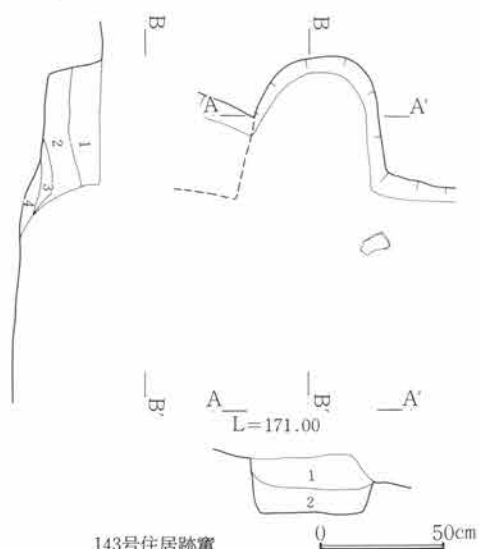
- 143号住居跡
- 1 暗褐色土層 FP、FAブロックを含む
 - 2 暗褐色土層 FAブロックを多量に含む
 - 3 暗褐色土層 FAブロックを少量含む
 - 4 暗褐色土層 黒色土を含む

Fig.265 112・143号住居跡



- 112号住居跡竈
- 1 暗褐色土層 炭化物を少量含む
 - 2 暗褐色土層 焼土、炭化物を含む
 - 3 黒色灰層 珪酸体を含む
 - 4 黒褐色土層
 - 5 暗褐色土層 焼土、炭化物を多量に含む

Fig.266 112号住居跡竈



- 143号住居跡竈
- 1 暗褐色土層 FA、FPを含む
 - 2 暗褐色土層
 - 3 暗褐色土層 FAを含む
 - 4 暗褐色土層 FA、焼土を含む

Fig.267 143号住居跡竈

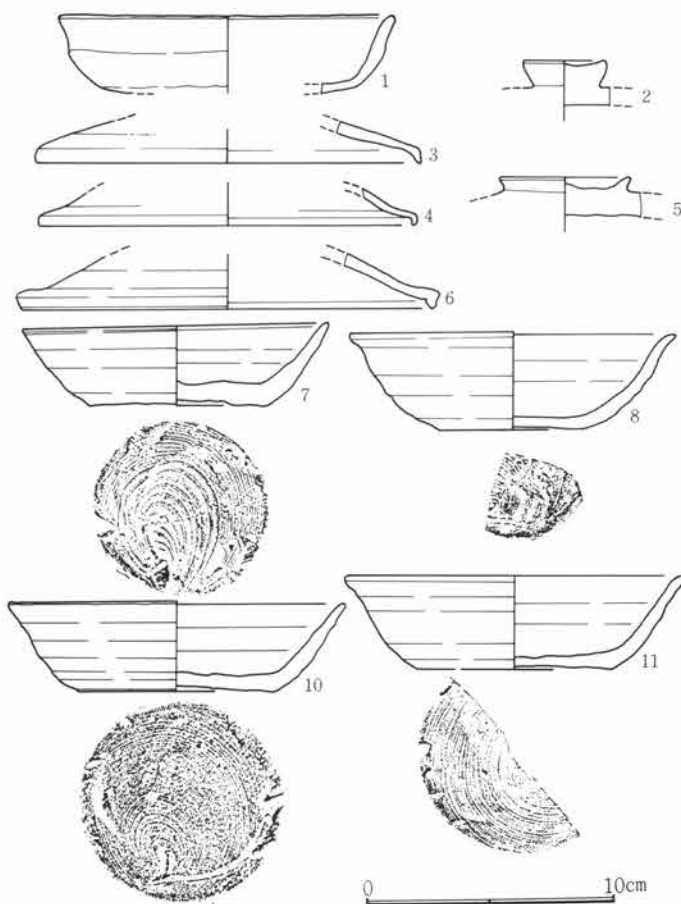


Fig.268 112号住居跡出土遺物(1)

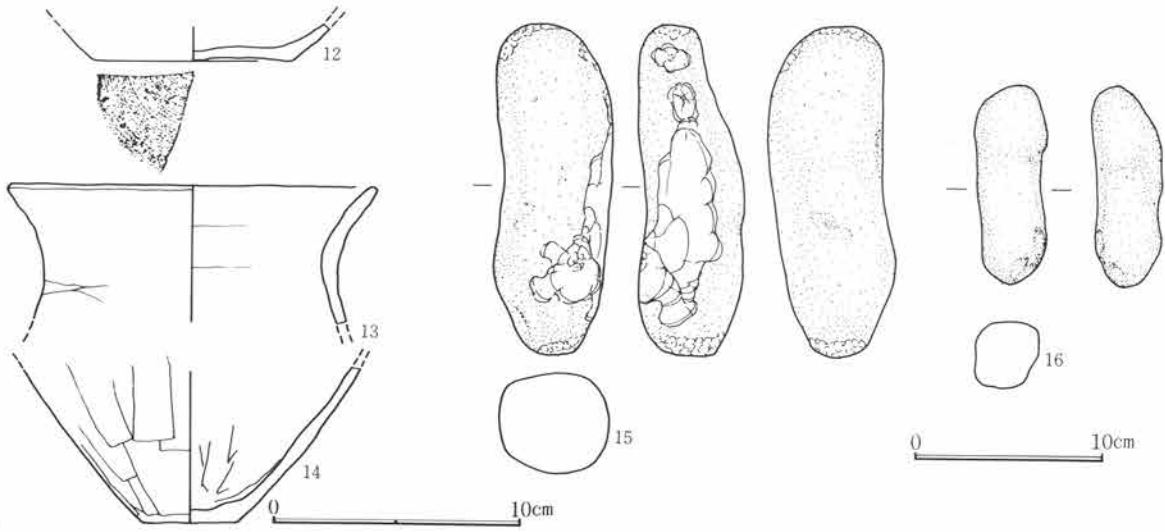


Fig.269 112号住居跡出土遺物(2)

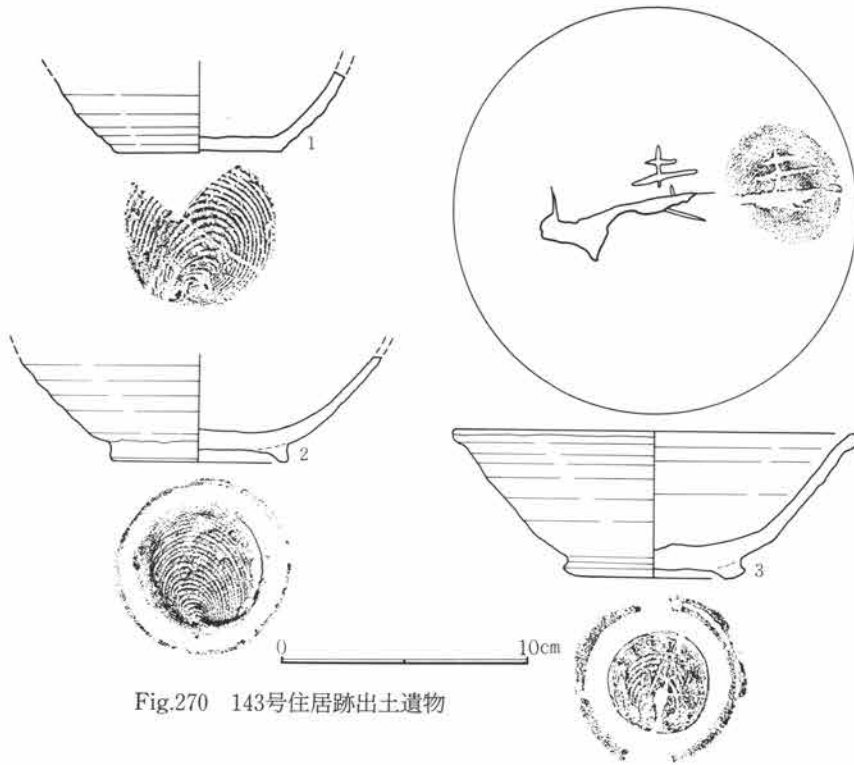


Fig.270 143号住居跡出土遺物

第112号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
268-1 105	土師器 坏	口-13.2	覆土	口縁部ヨコナデ体部弱いナデ底部ヘラケズリ内面 ナデ口縁部稜をもち外湾する	①良好②赤褐色③細砂粒含 む④口縁部破片
268-2 105	須恵器 蓋	つまみ径-3.4	覆土		①良好②灰白色③細砂粒含 む④つまみ部残存
268-3 105	須恵器 蓋	口-15.2	覆土		①良好②灰色③密④破片
268-4 105	須恵器 蓋	口-15.0	覆土		①良好②灰色③密④破片
268-5 105	須恵器 蓋	つまみ径-5.2	竈覆土		①良好②灰白色③細砂粒含 む④つまみ部残存

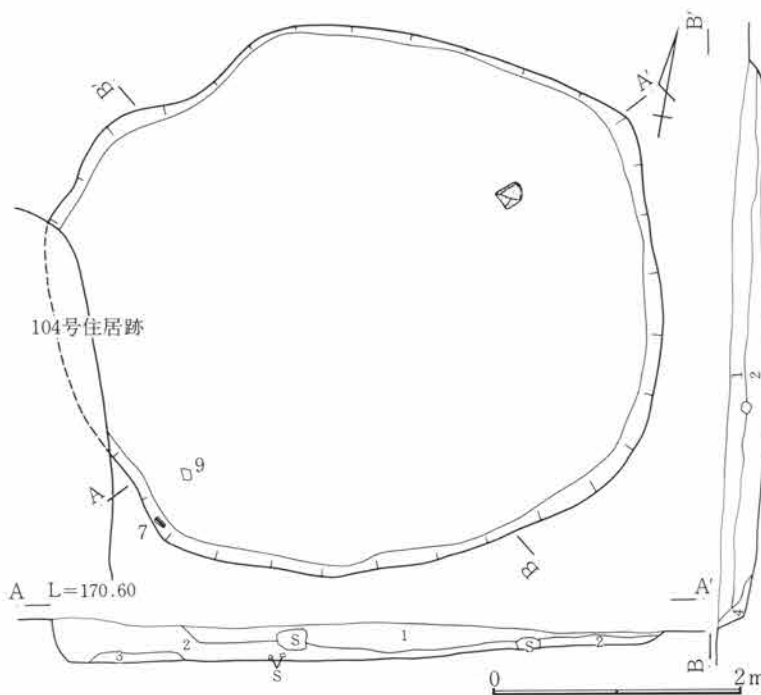
第2章 検出された遺構と遺物

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
268-6 105	須恵器 蓋	口-16.4	覆土	外面回転ヘラ調整	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④破片
268-7 106	須恵器 坏	口-12.2 高-3.2 底-7.0	№7	底部回転糸切口縁部直線状に外傾する	①良好②灰色③細砂粒含む④%残存
268-8 106	須恵器 坏	口-12.9 高-3.8 底-5.8	覆土	底部回転糸切口縁部内湾して立ちあがり端部外反する	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④%残存
268-9 106	須恵器 坏	底-8.0	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む④底部破片
268-10 106	須恵器 坏	口-13.5 高-3.5 底-8.0	小穴覆土	底部回転糸切右廻り口縁部直線状に外傾する	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④%残存
268-11 106	須恵器 坏	口-13.6 高-3.65 底-7.8	覆土	底部回転糸切口縁部外反する	①良好②灰白色③細砂粒含む④%残存
269-12 106	須恵器 坏	底-7.8	覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③3~4mmの砂粒含む④底部破片
269-13 106	土師器 甕	口-14.6	覆土	口縁部内外面ヨコナデ口縁部外反する	①良好②赤褐色③細砂粒含む④口縁部破片
269-14 106	土師器 長甕	底-3.8	竈覆土	外面ヘラケズリ内面ナデ底部ヘラ痕	①良好②黒褐色③細砂粒含む④底部%残存
Fig. 269-15 PL. 106		石 長-17.5cm 幅-6.4cm 厚-5.35cm 輝緑岩			
Fig. 269-16 PL. 106		石 長-10.6cm 幅-3.4cm 厚-3.6cm			

第143号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
270-1 119	須恵器 坏	底-6.6	覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③細砂粒含む④底部残存
270-2 119	須恵器 埴	底-7.0	覆土	付高台底部回転糸切	①良好②灰色③細砂粒含む④%残存
270-3 119	須恵器 埴	口-16.2 高-5.8 底-5.8	覆土	付高台底部回転糸切内外面煤等により黒色	①良好②胎土灰色③細砂粒含む④%残存

113号住居跡 (Fig. 271・272、PL. 22・106)



G区北西部に位置し52~55G 27~29の範囲にある。108号住居跡の北にあり、他の遺構との関係は南西部で104号住居跡と重複している。新旧関係は104号住居跡が新しい。規模は東西約5m、南北約4.3mを測り平面形態は楕円形を呈する。壁高は約20cmを測り、床面は西に向い約20cm高くなる。壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は検出されていない。

113号住居跡

- 1 暗褐色土層 F P、FAを含む
- 2 暗褐色土層 FA、炭化物を含む
- 3 黒褐色土層 FAブロックを含む
- 4 暗褐色土層 FAブロックを多量に含む

Fig.271 113号住居跡

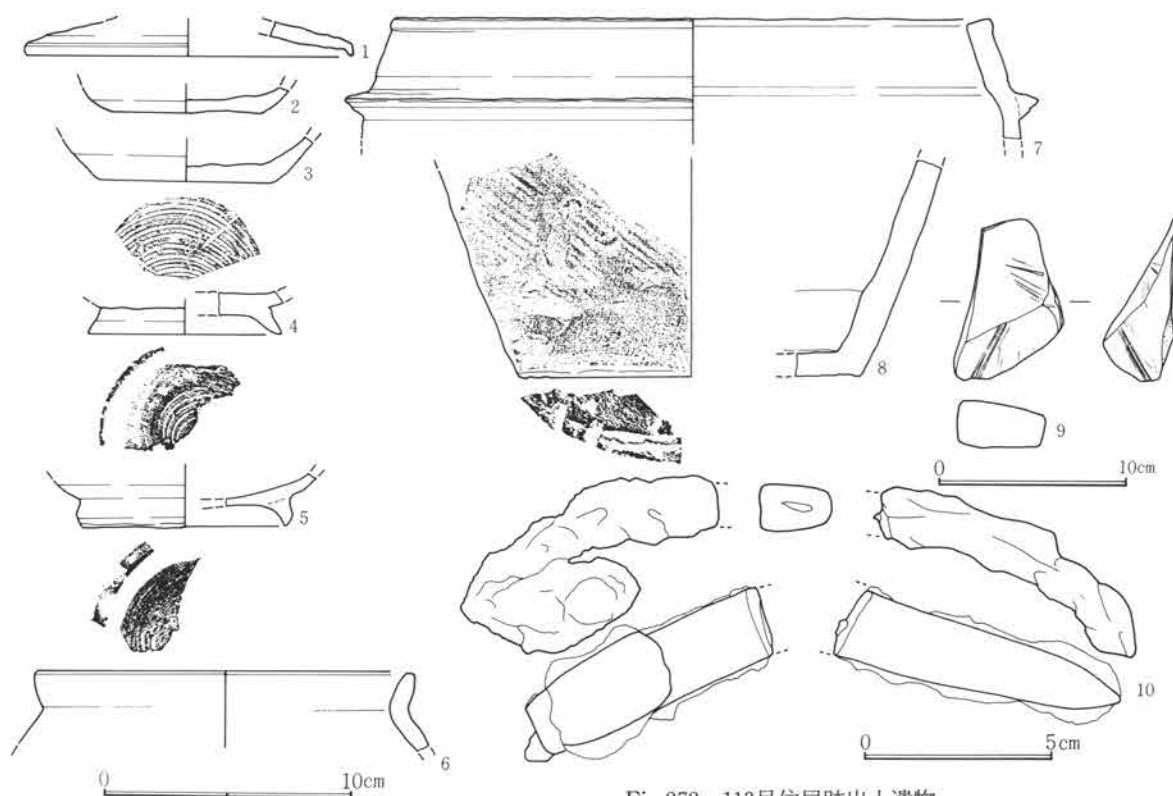


Fig.272 113号住居跡出土遺物

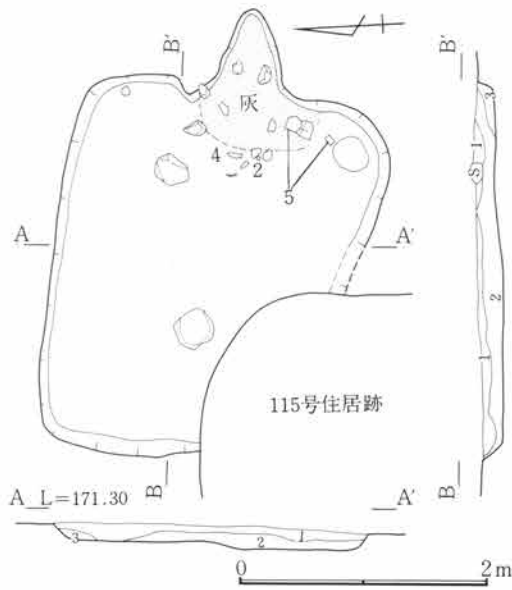
第113号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
272-1 106	須恵器 蓋	口-13.0	覆土	外面回転ヘラ調整	①良好②灰白色③細砂粒含む④破片
272-2 106	須恵器 坏	底-6.0	覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④底部破片
272-3 106	須恵器 坏	底-7.0	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③密④底部1/4残存
272-4 106	須恵器 埴	底-7.6	覆土	付高台底部回転糸切	①良好②褐色③細砂粒含む④底部破片
272-5 106	灰釉陶器 埴	底-8.0	覆土	付高台底部回転調整内外面釉	①良好②灰色③密④底部破片
272-6 106	須恵器 甕	口-15.0	覆土	口縁部短く外反する	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
272-7 106	羽釜	口-23.6	No.7	鏝横を向く口縁部横を向く	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁部破片
272-8 106	須恵器 甕	底-13.6	覆土	外面叩目	①良好②灰色③密④底部破片
Fig. 272-9	PL. 106	石 長-8.6cm 幅-3.0cm 厚-2.5cm	砥石	流紋岩(砥沢)	
Fig. 272-10	PL. 106	鉄製品 長-18.6cm 厚-12mm	(大型品)	不明	

114号住居跡 (Fig. 273・274・275・276、PL. 22・106・107)

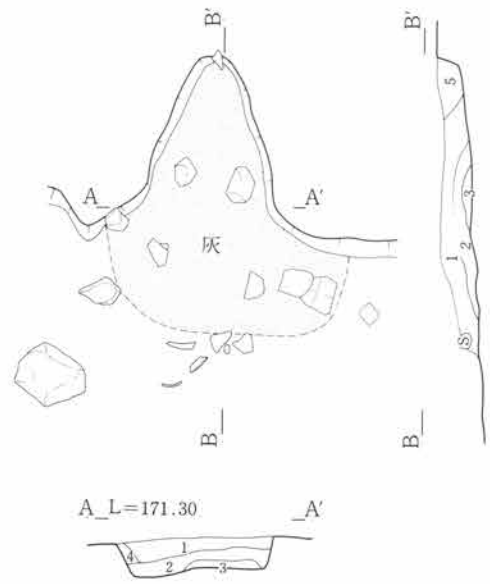
G区北西部に位置し51~53G22・23の範囲にある。108号住居跡の北にある。他の遺構との関係は南西部で115号住居跡と重複している。新旧関係は115号住居跡が新しい。規模は長辺3m、短辺2.6mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約5cm~10cmを測り、主軸方位はN-97°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁中央に検出された。規模は燃烧部幅約70cm、同長約70cmを測る。

第2章 検出された遺構と遺物



- 114号住居跡
 1 暗褐色土層
 2 暗褐色土層 泥流土を含む
 3 淡褐色土層

Fig.273 114号住居跡



- 114号住居跡竈
 1 暗褐色土層 FPを少量含む
 2 暗褐色土層 FP、FAを含む
 3 暗褐色土層 焼土、灰を含む
 4 暗褐色土層 焼土、灰を少量含む
 5 暗褐色土層 FP、焼土を含む

Fig.274 114号住居跡竈

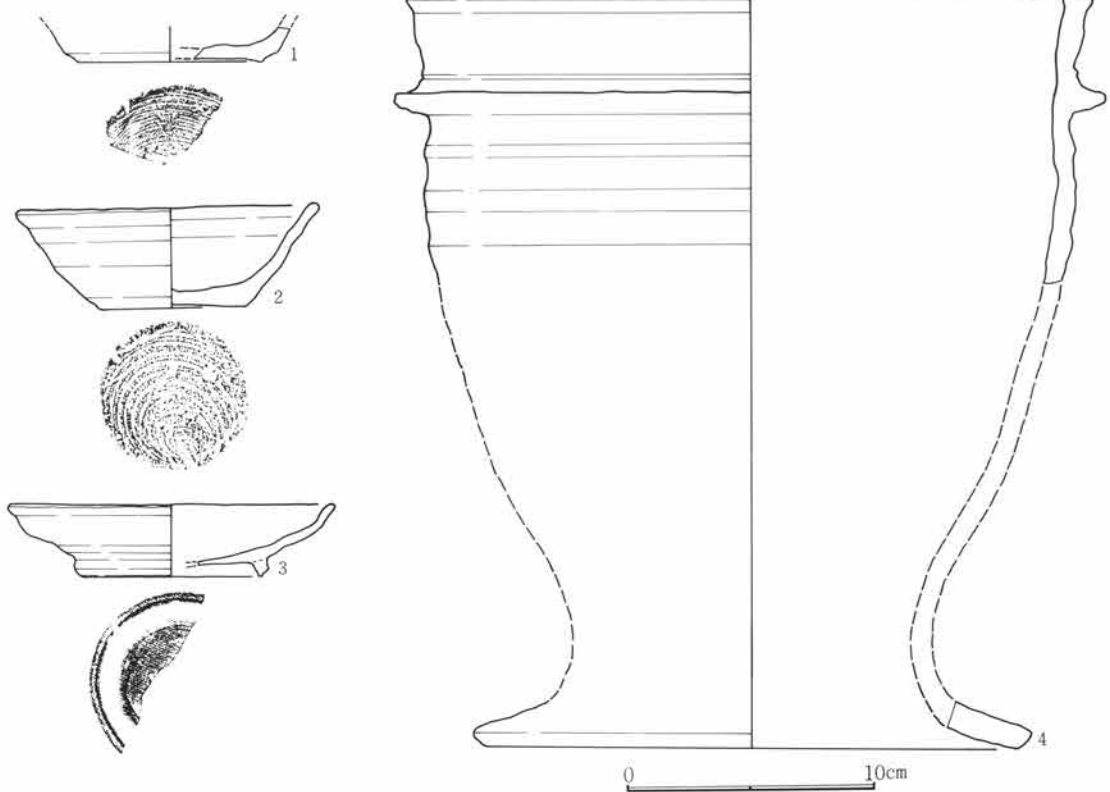


Fig.275 114号住居跡出土遺物(1)

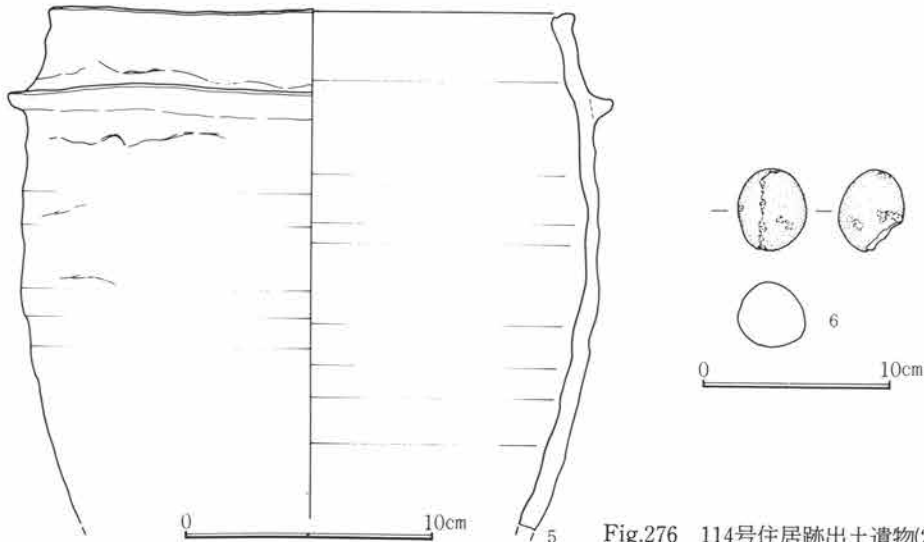


Fig.276 114号住居跡出土遺物(2)

第114号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
275-1 106	須恵器 坏	底-7.1	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む④底部破片
275-2 106	須恵器 坏	口-11.9 高-4.0 底-5.5	No.2	底部回転糸切右廻り口縁部弱く外反する	①良好②浅黄橙色③1~2mmの砂粒含む④½残存
275-3 107	灰釉陶器 皿	口-13.0 高-3.85 底-7.2	覆土	付高台内面口縁部釉外面施釉なし口縁端部内曲する	①良好②灰白色③密④½残存
275-4 107	甌	口-27.1	No.4	罎横を向く口縁外傾する	①良好②灰白色③1~2mm砂粒含む④口縁部底部破片
276-5 106	羽釜	口-20.8	No.5	罎やや上を向きゆがむ口縁部内傾する	①良好②橙色③2~3mmの砂粒含む④½残存
Fig. 276-6 PL. 106 石 長-4.3cm 幅-3.6cm 厚-3.45cm 粗粒安山岩					

115号住居跡 (Fig. 277・278・279・280・281、PL. 22・107)

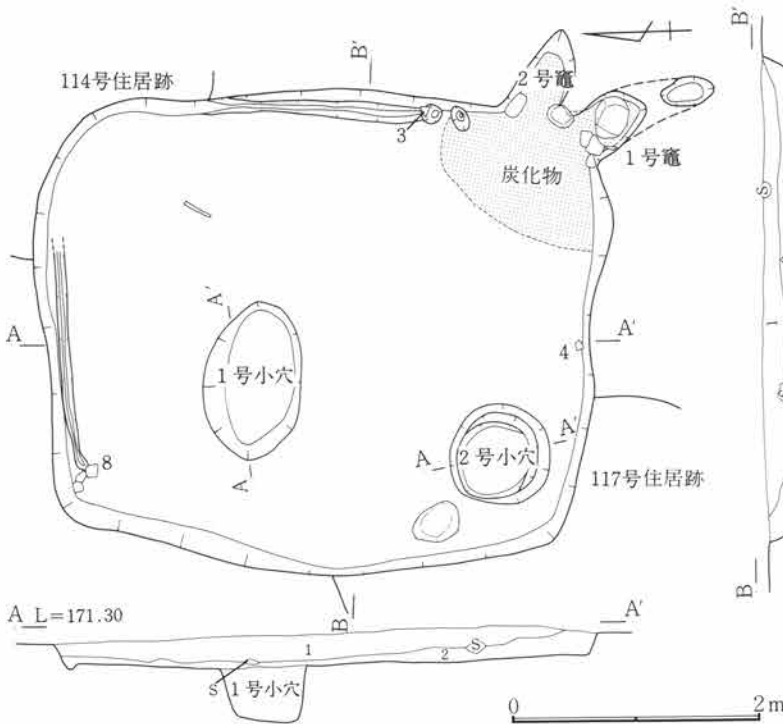
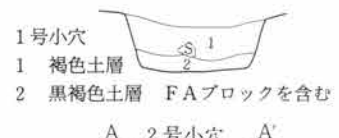


Fig.277 115号住居跡

G区北西部に位置し52~54G 20~22の範囲にある。108号住居跡の南にある。他の遺構との関係は北東部で114号住居跡、南西部で117号住居跡と重複している。両住居跡よりも新しい。規模は長辺4.

A_ 1号小穴 _A'



1号小穴
1 褐色土層
2 黒褐色土層 FAブロックを含む

A_ 2号小穴 _A'



2号小穴
1 淡褐色土層 泥流土

115号住居跡

1 暗褐色土層 FP、FAを含む
2 暗褐色土層 FP、FAブロックを含む

第2章 検出された遺構と遺物

65m、短辺3.95mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cm~20cmを測る。床面は平坦をなし、中央やや北西寄りに小穴が検出された。規模は約120cm×80cm、深さ約40cmを測り、平面形態は楕円形を呈する。壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は南東コーナーに2基が検出され、南から1号竈、2号竈とした。1号竈の規模は袖幅約40cm、燃烧部長約60cm、煙道部長約60cmを測る。両袖部には石が配されている。また燃烧部中央には大型の石が検出された。2号竈は北側に隣接して検出され、規模は袖幅約40cm、燃烧部長約70cmを測る。右側袖部石材は1号と共有した形である。竈長軸の主軸方位は1号がN-160°-E、2号竈はN-110°-Eである。

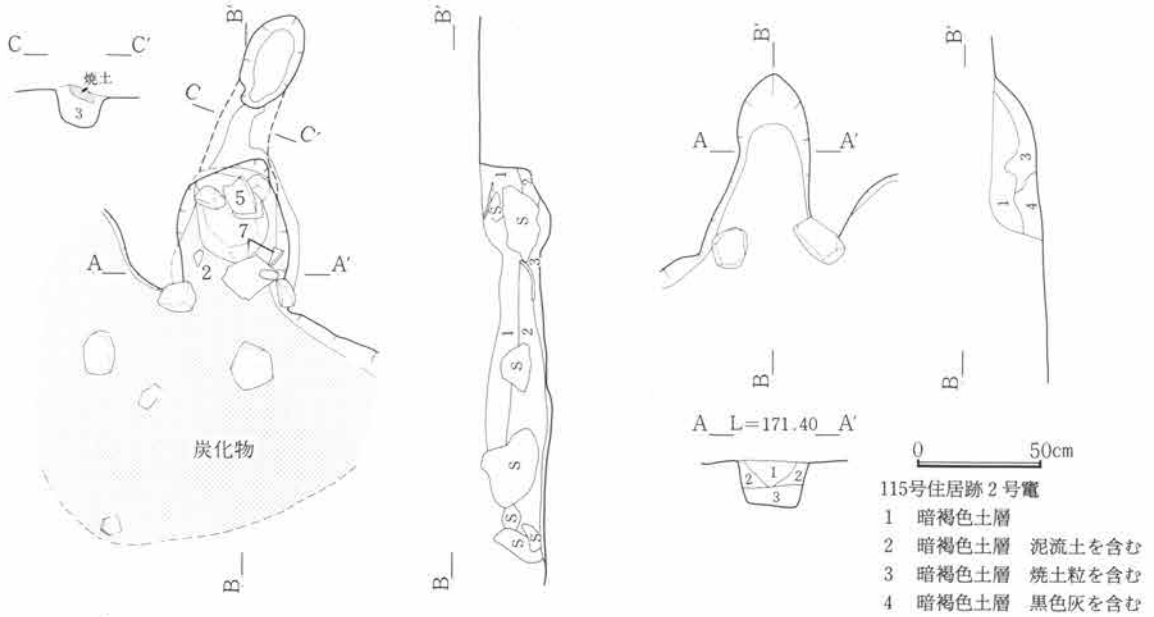


Fig.279 115号住居跡2号竈

Fig.278 115号住居跡1号竈

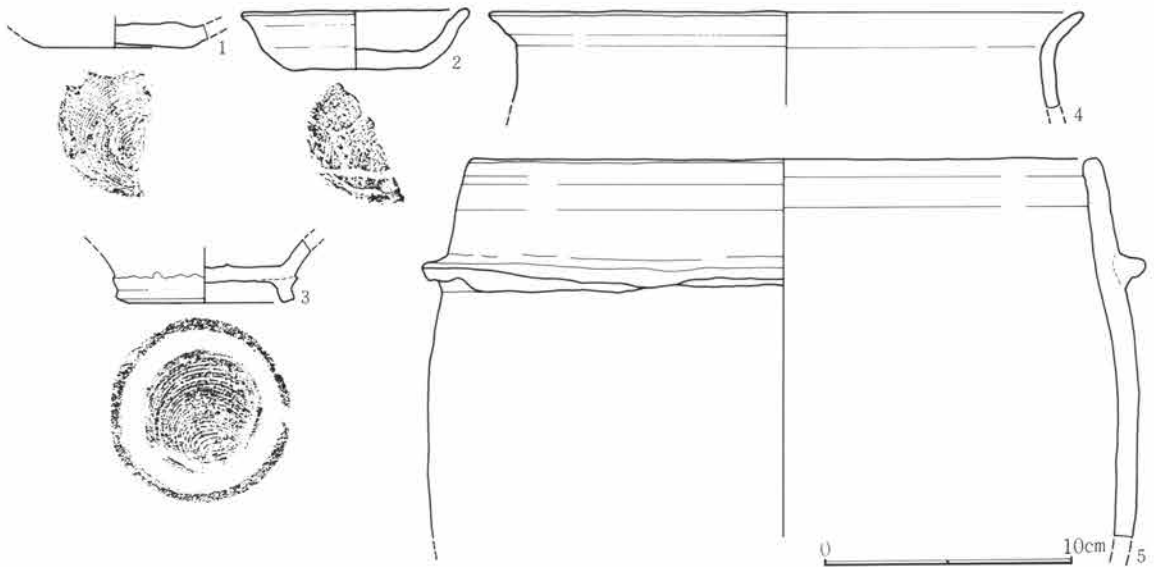


Fig.280 115号住居跡出土遺物(1)

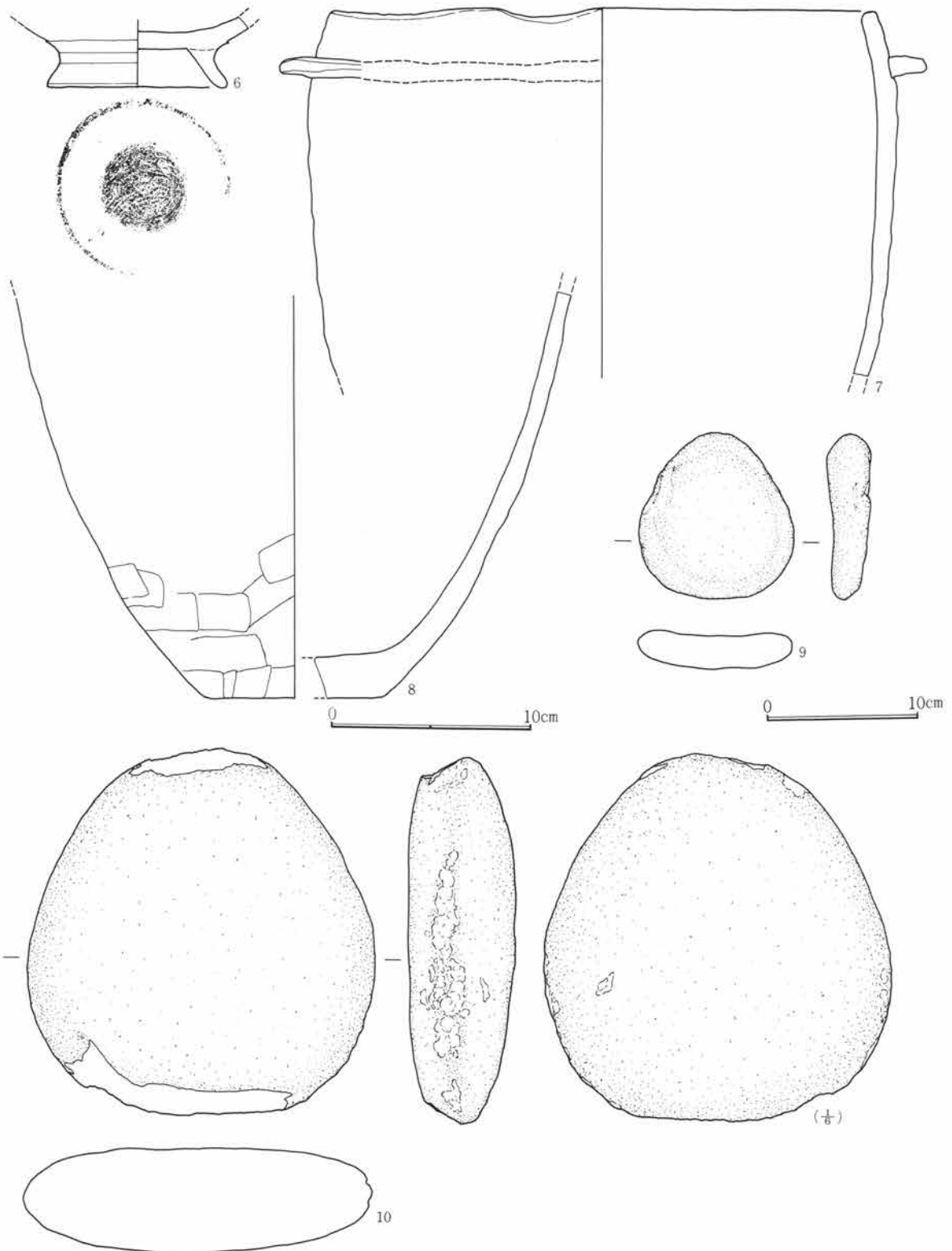


Fig.281 115号住居跡出土遺物(2)

第115号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
280-1 107	須恵器 坏	底-6.0	覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③密④底部破片
280-2 107	須恵器 小皿	口-9.0 高-2.3 底-5.0	No. 2	底部回転糸切口縁端部外反する	①良好②赤褐色③3~4mmの砂粒含む④残存
280-3 107	須恵器 埴	底-6.0	No. 3	付高台底部回転糸切	①良好②灰褐色③2~3mmの砂粒含む④底部残存
280-4 107	土師器 甕	口-23.6	No. 4	口縁部内外面ヨコナデ口縁部外反する	①良好②橙色③細砂粒含む④口縁部破片
280-5 107	羽釜	口-25.0	No. 5	口縁部直立ぎみ鋸ゆがみが大きい	①やや軟質②にぶい赤褐色③3~4mm砂粒含む④残存
281-6 107	須恵器 埴	底-8.6	No. 6	付高台底部回転調整高台高くハの字状に開く	①良好②橙色③細砂粒含む④底部残存
281-7 107	羽釜	口-27.0	No. 7	口縁部ゆがむ鋸横を向きゆがむ	①やや軟質②灰褐色③3~4mmの砂粒含む④残存
281-8 107	羽釜	底-8.4	No. 8	外面胴下部ヘラケズリ	①やや軟質②にぶい赤褐色③3~4mm砂粒含む④残存
Fig. 281-9 PL. 107	石	長-35.8cm 幅-34.1cm 厚-10.6cm	粗粒安山岩		
Fig. 281-10 PL. 107	石	長-16.2cm 幅-15.1cm 厚-4.3cm	すり石 粗粒安山岩		

116号住居跡 (Fig. 282・283・284・285、PL. 22・23・107・108)

G区北西部に位置し51~53G19・20の範囲にある。97号住居跡の北西にある。他の遺構との重複関係は北壁の一部を115号住居跡の竈と重複している。新旧関係は115号住居跡が新しい。規模は長辺3.05m、短辺2.3mを測り、主軸方位はN-96°-Eである。壁高は約10cm~20cmを測る。床面は平坦をなし南東・南西コーナーに小穴が2基検出された。

南東コーナーが1号、南西コーナーを2号とした。1号の規模は約70cm×60cm、深さ約15cm、2号の規模は約60cm×55cm、深さ約25cmを測る。竈は東壁中央に検出された。規模は燃燒部幅約50cm、同長約50cmを測る。竈内からは石が壁の輪郭に沿って石組が見られる。

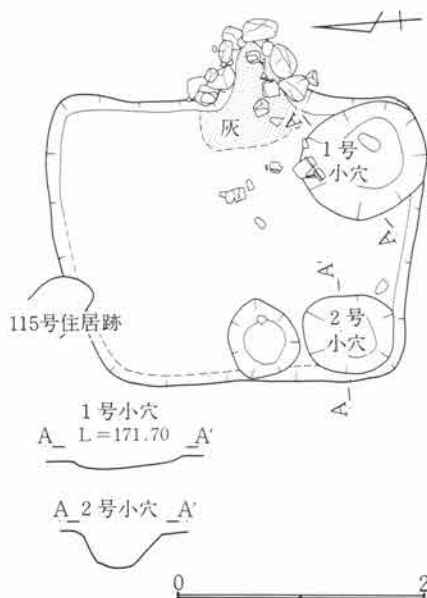


Fig.282 116号住居跡

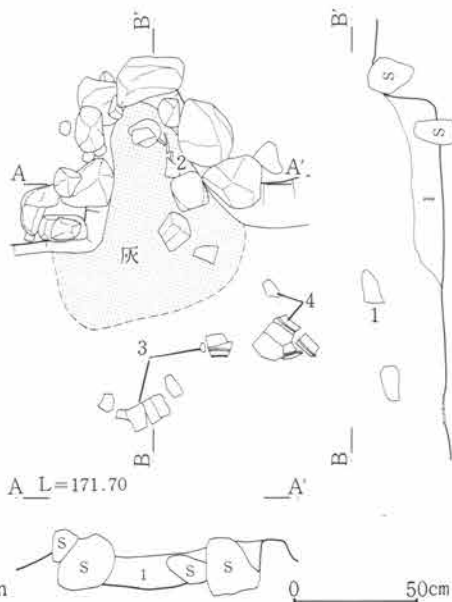


Fig.283 116号住居跡竈

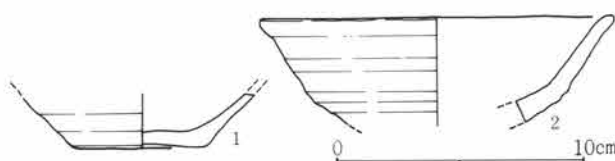


Fig.284 116号住居跡出土遺物(1)

116号住居跡竈
1 淡褐色土層 焼土を含む

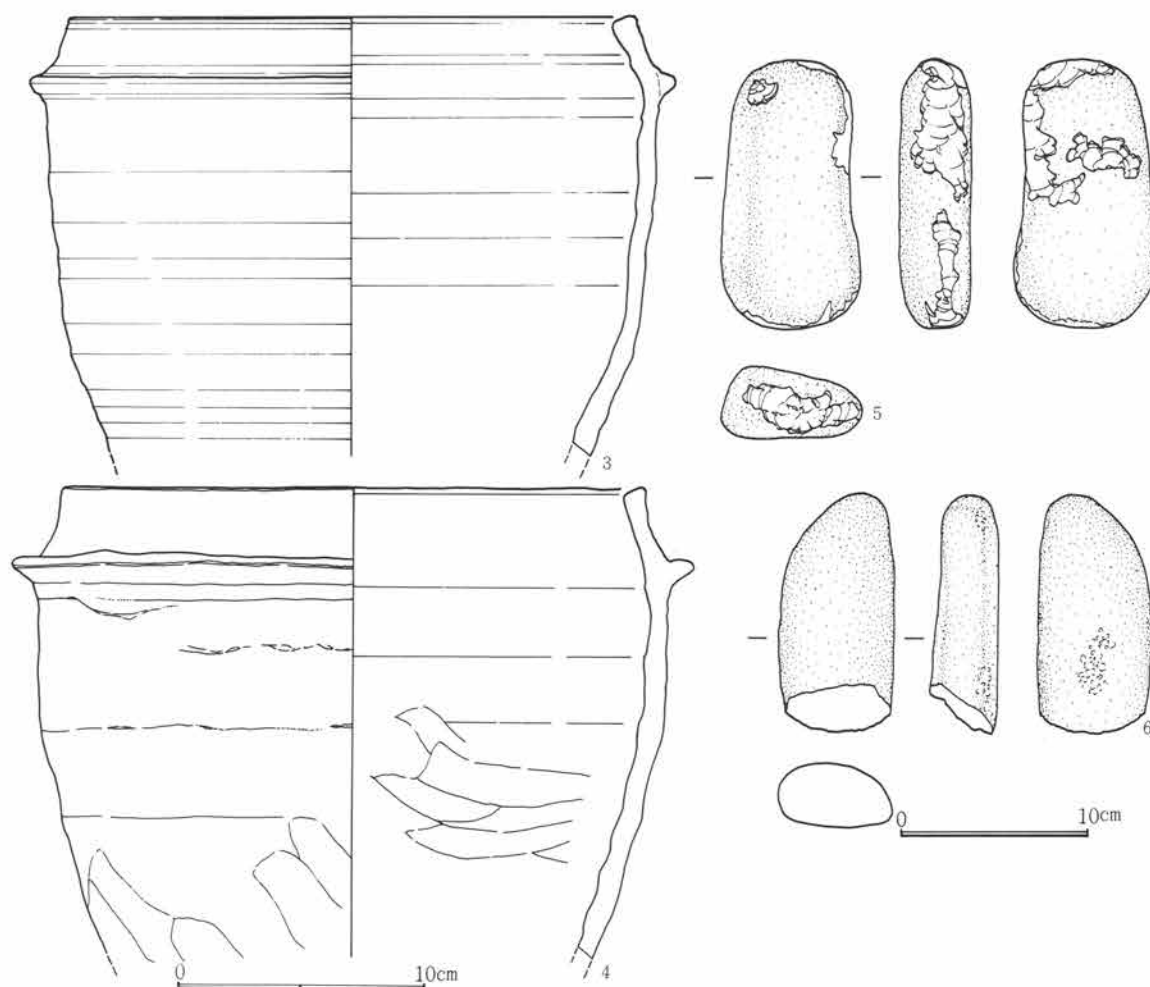


Fig.285 116号住居跡出土遺物(2)

第116号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
284-1 107	須恵器 坏	底-15.3	No 1	底部回転糸切	①良好②淡橙色③1~2mmの砂粒含む④底部残存
284-2 108	須恵器 坏	口-14.0	No 2	口縁端部弱く外反する	①良好②にぶい黄橙色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片
285-3 107	羽釜	口-22.4	No 3	鈿低く横を向く口縁部内傾する	①良好②黒褐色③1~2mmの砂粒含む④破片
285-4 107	羽釜	口-22.9	No 4	鈿やや上を向く輪積痕残り下胴部ヘラケズリ内面ヘラ状工具のナデ口縁部内傾する	①良好②にぶい橙色③2~3mmの砂粒含む④残存
Fig. 285-5 PL. 108		石 長-14.2cm 幅-7.4cm		厚-3.8cm 石英閃緑岩	
Fig. 285-6 PL. 108		石 長-12.6cm 幅-6.0cm		厚-3.6cm 石英閃緑岩	

117号住居跡 (Fig. 286・287、PL. 108)

G区北西部に位置し54・55G20・21の範囲にある。116号住居跡の西にある。他の遺構との重複関係は北東部で115号住居跡、南部で118号住居跡と重複している。新旧関係は両住居跡より古い。重複により竈は検出されていない。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。

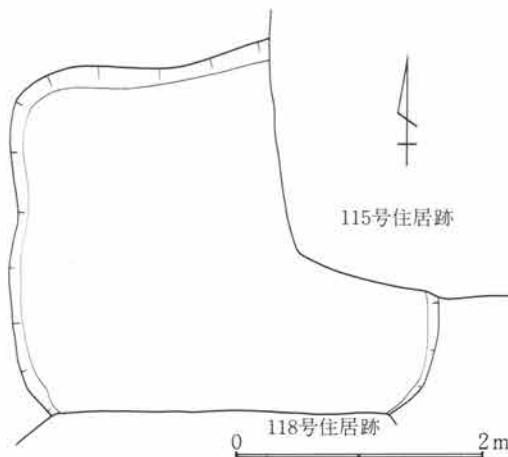


Fig.286 117号住居跡

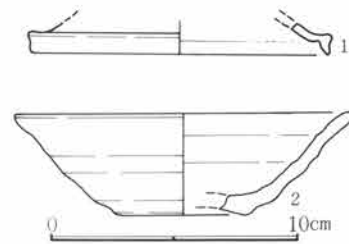


Fig.287 117号住居跡出土遺物

第117号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
287-1 108	須恵器 蓋	口-12.0	覆土		①良好②灰色③密④破片
287-2 108	須恵器 坏	口-13.4 高-4.0 底-5.4	覆土		①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④破片

118号住居跡 (Fig. 288・289・290、PL. 23・108)

G区北西部に位置し53~55G18~20の範囲にある。116号住居跡の西にある。他の遺構との重複関係は北壁で117号住居跡と重複している。新旧関係は118号住居跡が新しい。規模は長辺4.1m、短辺3.45mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約25cm~30cmを測り、主軸方位はN-85°-Eである。床面は平坦をなし、貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。竈は南東コーナーに検出された。規模は袖幅約50cm、燃燒部長約60cm、煙道部長約40cmを測る。両袖部には石が検出され竈前面から多数の石が散乱した状態で検出された。竈の長軸は住居跡の主軸方位からやや南に振れN-108°-Eである。

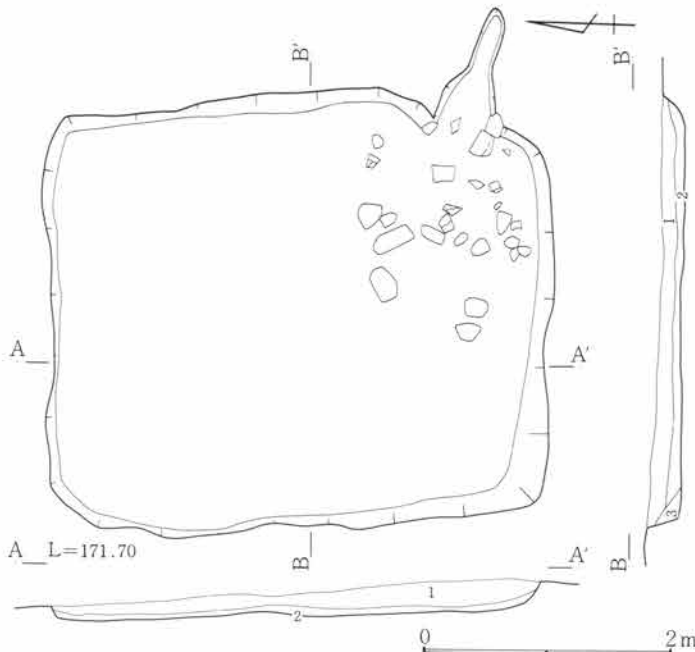
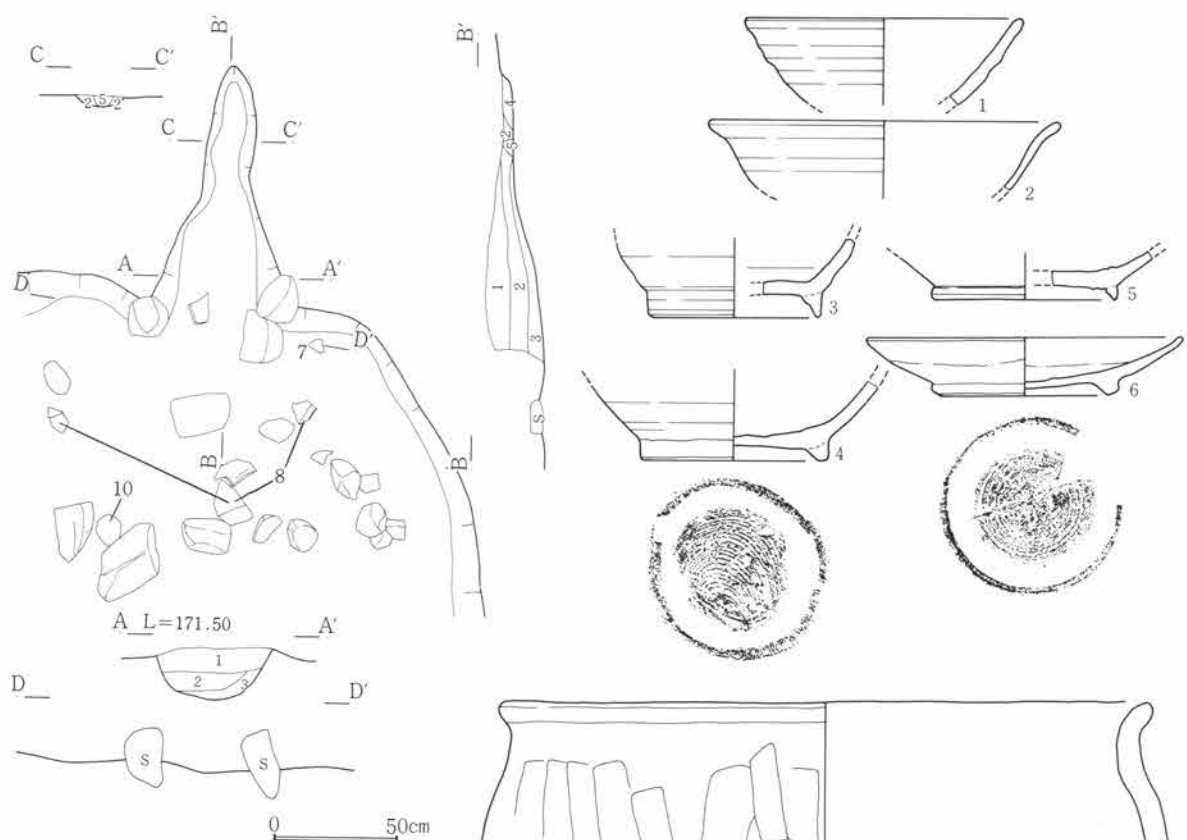


Fig.288 118号住居跡

- 118号住居跡
- 1 黒褐色土層 FPを含む
 - 2 暗褐色土層 FP、炭化物を含む
 - 3 黒褐色土層



118号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 泥流土
- 2 暗褐色土層 焼土、炭化物粒を含む
- 3 暗褐色土層 焼土、炭化物を少量含む
- 4 暗褐色土層 焼土、灰を多量に含む
- 5 焼土ブロック

Fig.289 118号住居跡竈

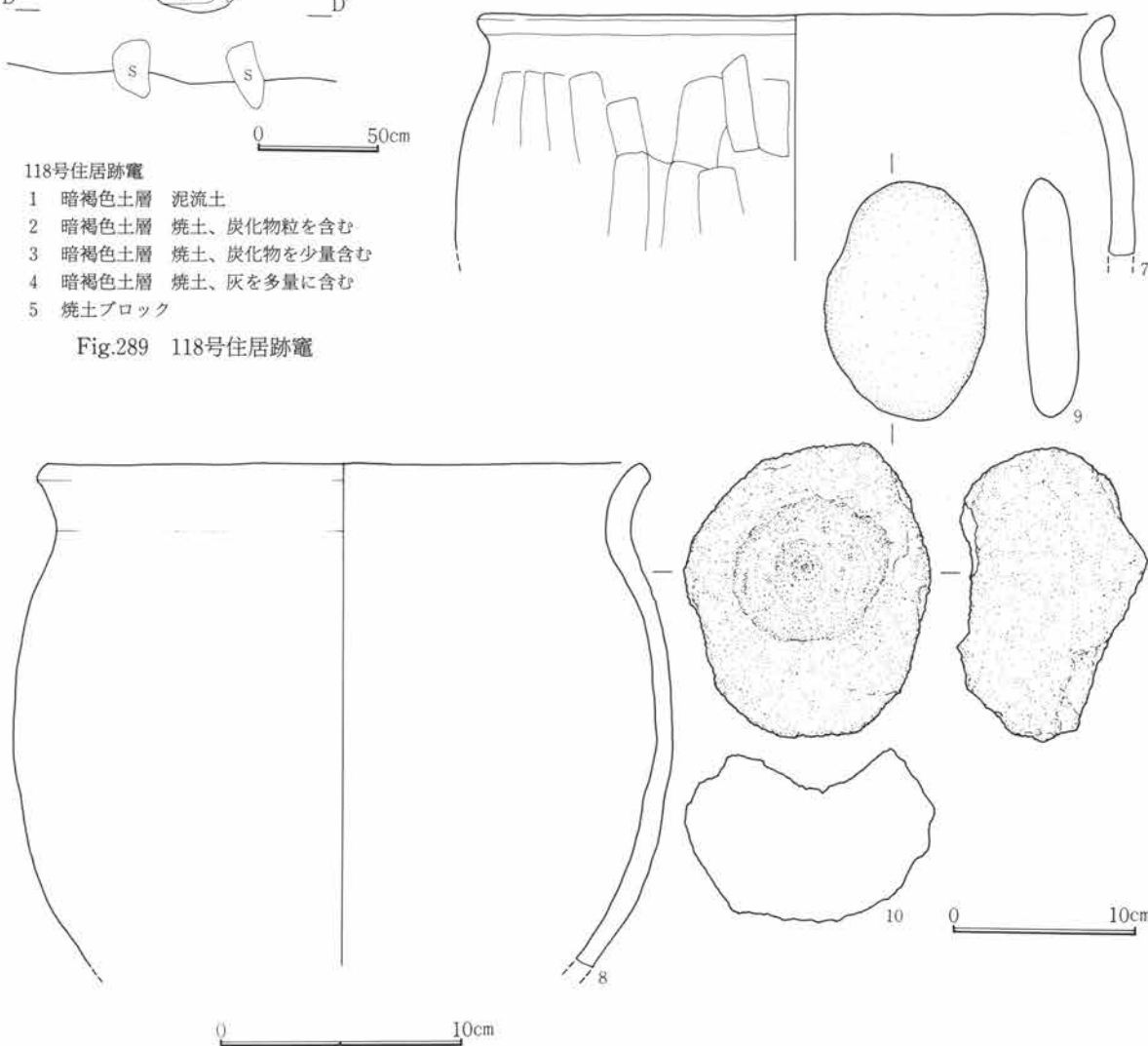


Fig.290 118号住居跡出土遺物

第2章 検出された遺構と遺物

第118号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
290-1 108	須恵器 坏	口-11.0	覆土	口縁部弱く内湾して立ち上がる	①良好②灰白色③細砂粒含む④口縁部破片
290-2 108	須恵器 坏	口-14.0	小穴覆土	口縁端部外反する	①良好②灰白色③細砂粒含む④口縁部破片
290-3 108	須恵器 埴	底-6.6	覆土	付高台底部回転糸切	①良好②灰白色③密④底部破片
290-4 108	須恵器 埴	底-7.4	覆土	付高台底部回転糸切	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④底部残存
290-5 108	灰釉陶器 埴	底-7.3	覆土	内面施釉付高台	①良好②灰白色③密④底部破片
290-6 108	灰釉陶器 皿	口-12.4 高-2.3 底-6.6	覆土	口縁端部内屈する	①良好②灰白色③密④口縁部破片
290-7 108	土師器 甕	口-25.8	No.7	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部短く外屈する	①良好②にぶい赤褐色③2~3mm砂粒含む④口縁部残存
290-8 108	土師器 甕	口-25.0	No.8	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリナデ表面剥落不明瞭口縁部外湾する	①やや軟質②にぶい橙色③2~3mm砂粒含む④残存
Fig. 290-9 PL. 108	石 長-12.9cm 幅-9cm 厚-2.8cm 粗粒安山岩				
Fig. 290-10 PL. 108	石 長-15.8cm 幅-13.5cm 厚-7.4cm くぼみ石				

119号住居跡 (Fig. 291・292・293・294、PL. 23・108・109)

G区北西部に位置し57~59G19~21の範囲にある。117号住居跡の西にある。他の遺構との重複関係は152号土坑が住居跡覆土内にある。規模は長辺5.1m、短辺4.8mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約

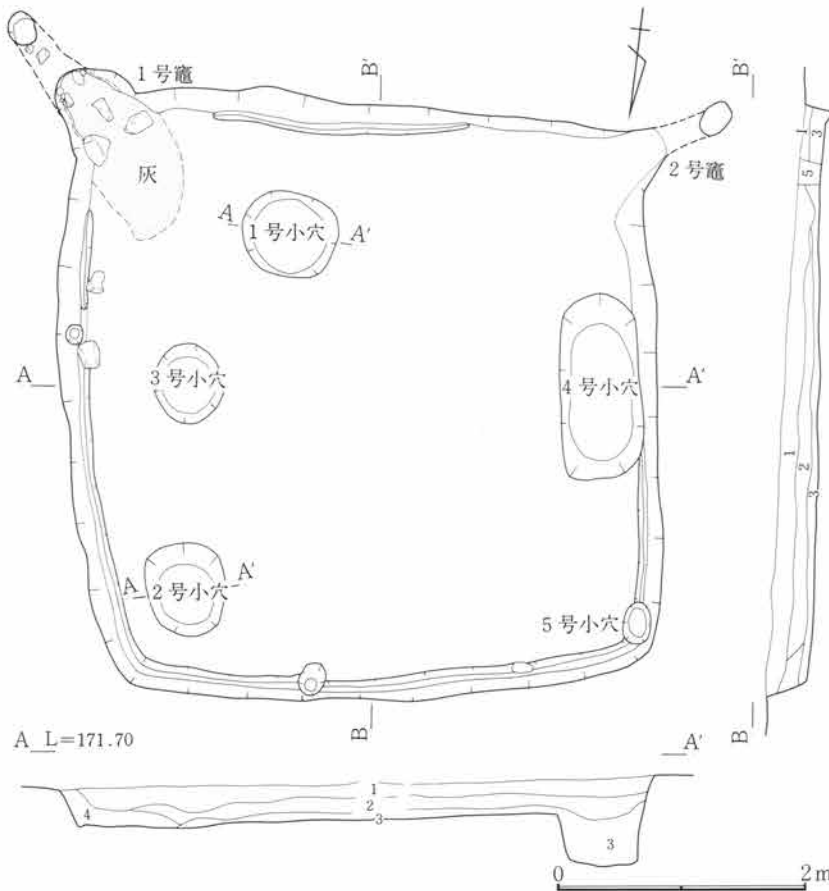
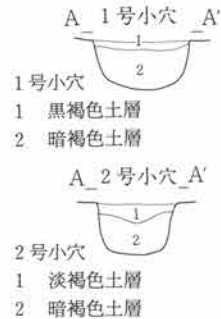


Fig.291 119号住居跡

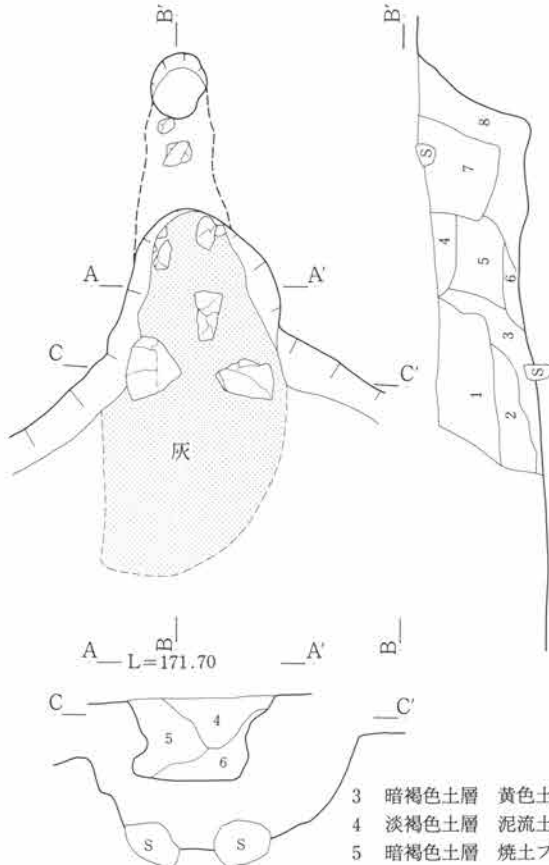
25cm~45cmをはかる。床面は平坦をなし、四周を周溝が巡る。幅は約10cm、深さ約2cm~3cmを測る。また小穴が5基検出された。各々図上に1号~5号とした。規模は1号が径約70cm、深さ約35cm、2号が径約70cm、深さ約40cm、3号が径



119号住居跡

- 1 暗褐色土層 FPを含む
- 2 暗褐色土層 FAブロックを含む
- 3 暗褐色土層 FAブロックを多量に含む
- 4 暗褐色土層 FAを含む
- 5 暗褐色土層 BPが混じる

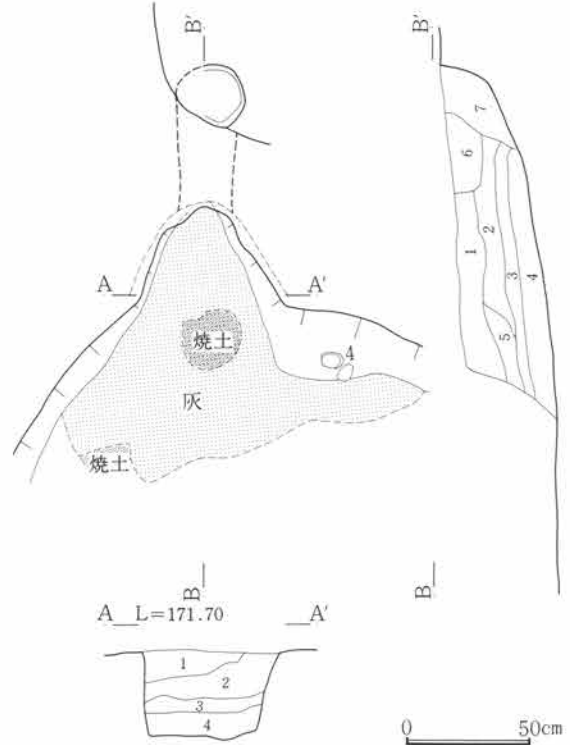
約60cm、深さ約6cm、4号が約150cm×70cm、深さ約45cm、5号が径約20cm、深さ約10cmを測る。竈は南東コーナー、南西コーナーに2基が検出された。東から1号竈・2号竈とした。1号竈は袖幅約60cm、燃烧部長約80cm、煙道部長約60cmを測る。2号竈は燃烧部幅約70cm、同長約60cm、煙道部長約50cmを測る。1号竈には両袖部、燃烧部中央から石が検出された。2号竈からは石材は検出されていない。1・2号竈ともに煙道部が検出され天井部が遺存している。



119号住居跡1号竈

- 1 暗褐色土層 FA、焼土を含む
- 2 暗褐色土層 FAを含む
- 3 暗褐色土層 黄色土粒を含む
- 4 淡褐色土層 泥流土を含む
- 5 暗褐色土層 焼土ブロックを含む
- 6 暗褐色土層
- 7 淡褐色土層 泥流土
- 8 黒褐色土層 黒色灰を含む

Fig.292 119号住居跡1号竈



119号住居跡2号竈

- 1 灰褐色土層 炭化物を少量含む
- 2 灰褐色土層 焼土、炭化物を含む
- 3 暗褐色土層 焼土を含む
- 4 暗褐色土層 焼土を多量に含む
- 5 灰褐色土層 焼土を少量含む
- 6 淡褐色土層
- 7 黒褐色土層 焼土、炭化物、FAを含む

Fig.293 119号住居跡2号竈

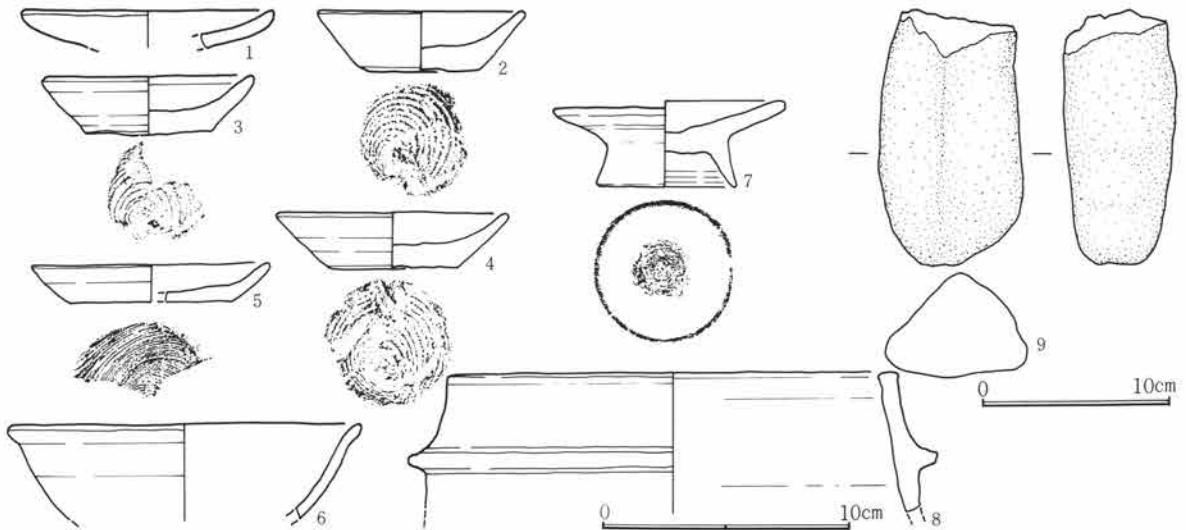


Fig.294 119号住居跡出土遺物

第119号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
294-1 108	須恵器 皿	口-10.0	覆土		①良好②浅黄橙色③細砂粒含む④口縁部破片
294-2 108	須恵器 皿	口-8.2 高-2.4 底-3.8	覆土	底部回転糸切	①良好②にぶい赤褐色③1~2mmの砂粒含む④欠残存
294-3 108	須恵器 皿	口-8.4 高-2.3 底-1.5	竈覆土	底部回転糸切	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④欠残存
294-4 108	須恵器 皿	口-9.2 高-2.2 底-5.1	No.4	底部回転糸切右廻り	①良好②灰褐色③細砂粒含む④欠残存
294-5 108	須恵器 皿	口-9.4 高-1.5 底-6.3	覆土	底部回転糸切	①良好②赤褐色③1~2mmの砂粒含む④欠残存
294-6 109	須恵器 坏	口-14.0	覆土	口縁端部外反する	①良好②淡灰色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
294-7 108	須恵器 高台付皿	口-9.2 高-3.4 底-5.5	竈覆土	付高台底部回転調整高台部への字状に開く	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④ほぼ完形
294-8 109	羽釜	口-17.8	覆土	銚やや下を向く口縁部内傾する	①良好②にぶい黄褐色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片

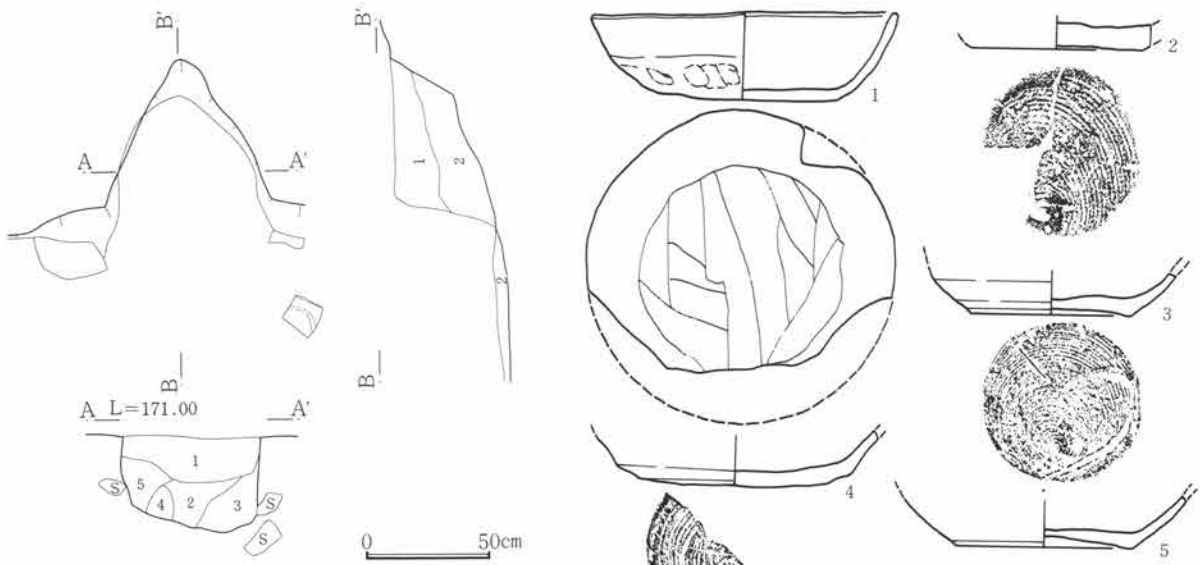
120号住居跡 (Fig. 295・296・297・298、PL. 23・24・109・110)

G区北西部に位置し57~59G22~24の範囲にある。119号住居跡の北にある。他の遺構との重複関係は南西部で122号住居跡、北壁で123号住居跡と重複している。新旧関係は122号住居跡より新しく、123号住居跡より古い。規模は長辺5.4m、短辺4mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約40cm~50cmを測り、主軸方位はN-92°-Eである。床面は平坦をなし、ほぼ中央部に焼土・炭化物が床面から数cmの厚さで堆積して検出された。貯蔵穴・壁周溝は検出されていない。南東コーナーで237号土坑と重複しており住居跡に伴う

遺構なのか不明である。また237号土坑に接する住居跡の壁側から壁の補強のように石が多数検出されている。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約90cm、同長約70cmを測る。



Fig.295 120号住居跡・237号土坑



120号住居跡電

- 1 淡褐色土層 焼土、炭化物、FPを含む
- 2 淡褐色土層 焼土、FPを少量含む
- 3 淡褐色土層 焼土を含む
- 4 淡褐色土層 焼土多量に含む
- 5 淡褐色土層 焼土ブロックを含む

Fig.296 120号住居跡竈

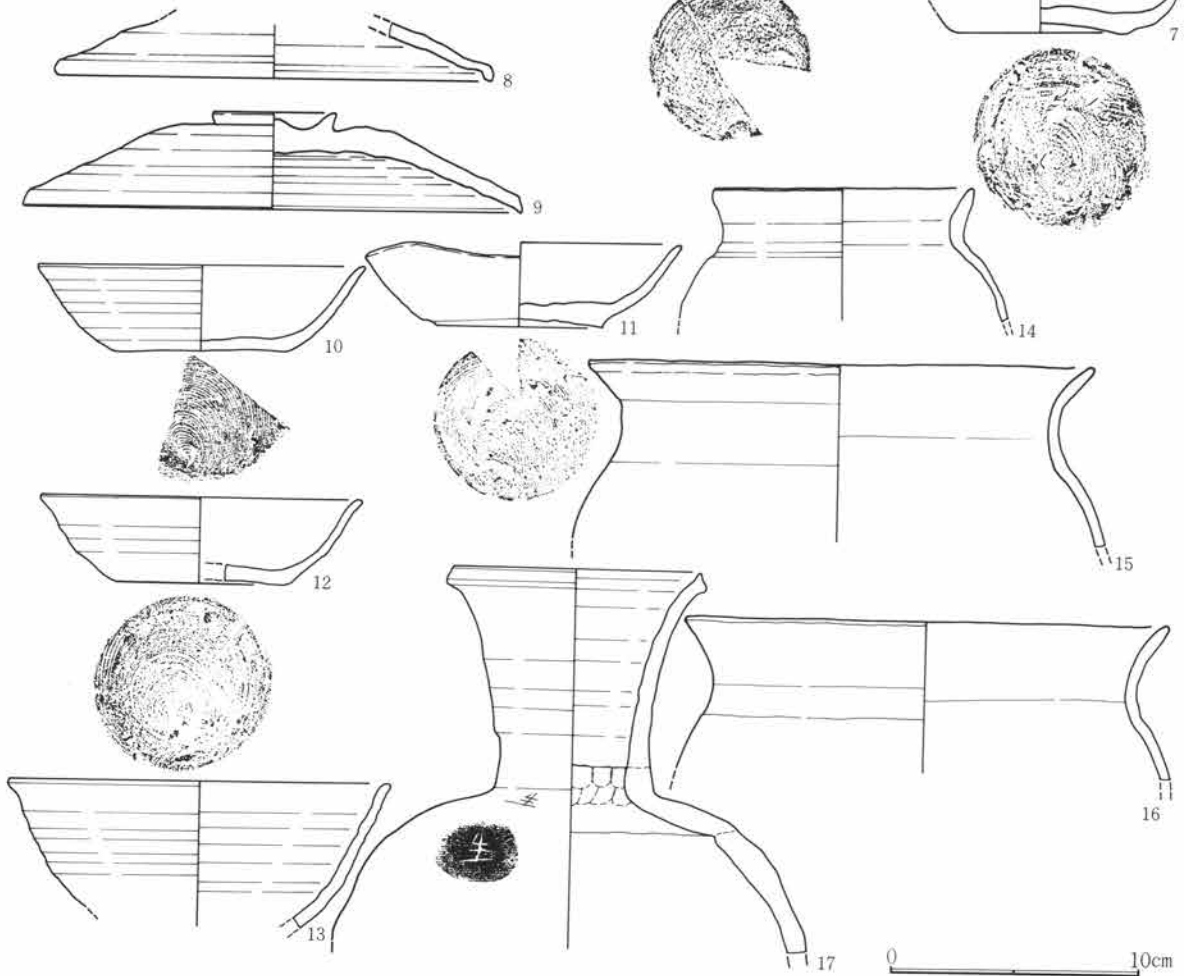


Fig.297 120号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

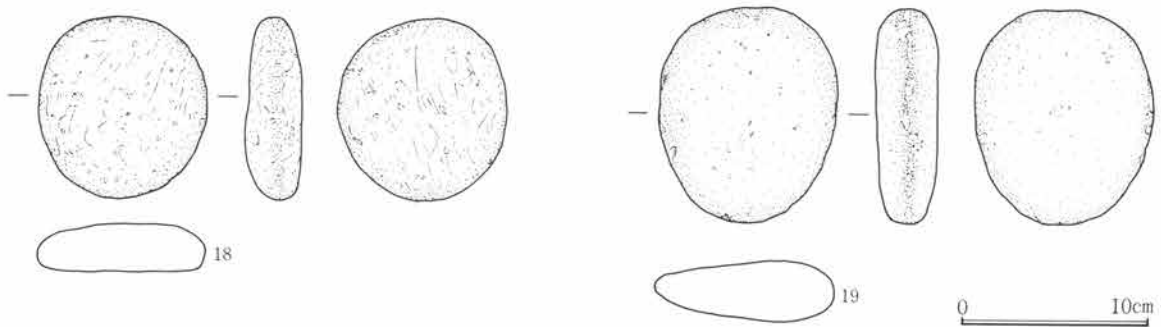


Fig.298 120号住居跡出土遺物(2)

第120号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
297-1 109	土師器 坏	口-12.2 高-3.4 底-4.7	竈 覆土	口縁部ヨコナデ体部弱い指頭痕底部ヘラケズリ内面ナデ口縁部内湾ぎみに立ち上がる	①良好②にぶい赤褐色③細砂粒含む④残存
297-2 109	須恵器 坏	底-6.7	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む④底部残存
297-3 109	須恵器 坏	底-6.4	覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③3~4mmの砂粒含む④底部残存
297-4 109	須恵器 坏	底-7.8	No 4	底部周辺回転ヘラ調整	①良好②灰色③密④底部残存
297-5 109	須恵器 坏	底-7.0	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③密④底部残存
297-6 109	須恵器 坏	口-13.4 高-4.15 底-6.4	覆土	底部回転糸切口縁部内湾して立ち上がり端部外湾する	①良好②灰色③密④残存
297-7 109	須恵器 坏	底-6.8	覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③密④底部残存
297-8 109	須恵器 蓋	口-17.2	覆土	外面回転調整	①良好②灰色③密④破片
297-9 109	須恵器 蓋	口-19.8 高-3.8 径-4.9	No 9	外面回転調整	①良好②灰白色③密④残存
297-10	須恵器 坏	口-12.8 高-3.4 底-6.6	覆土	口縁部内湾して立ち上がり端部外反する	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④底部残存
297-11 109	須恵器 坏	口-12.5 高-3.3 底-6.6	覆土	底部回転糸切右廻り口縁部内湾して立ち上がる	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④残存
297-12 109	須恵器 坏	口-15.0 高-3.4 底-7.0	No12	底部回転糸切右廻り口縁部内湾ぎみに立ち上がる	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④残存
297-13 109	須恵器 壺	口-15.2	覆土	口縁部内湾して立ち上がり端部外反する	①良好②灰色③2~3mmの砂粒含む④残存
297-14 109	土師器 台付甕	口-10.3	覆土	口縁部外反する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
297-15 109	土師器 甕	口-20.0	No15	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部外反する	①良好②橙色③1~2mmの砂粒含む④口縁部残存
297-16 109	土師器 甕	口-19.1	No16	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部外反する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部残存
297-17 109	甕	口-9.8	No17	内面に頸部貼付痕口縁部外反ぎみに立ち上がる	①良好②灰白色③密④上半部残存
Fig. 298-18 PL. 110	石	長-9.65cm 幅-8.95cm 厚-2.95cm	粗粒安山岩		
Fig. 298-19 PL. 110	石	長-10.3cm 幅-9.55cm 厚-3.3cm	粗粒安山岩		

121号住居跡 (Fig. 299・300・301・302、PL. 24・110)

G区北西部に位置し54~56G23~25の範囲にある。111号住居跡の南西にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺4m、短辺2.5mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約30cm~40cmを測り、主軸方位はN-95°-Eである。床面は平坦をなし、北東部に東西1.5m、南北1.6mの範囲で約10cm高くなっている。壁

第1節 竪穴住居跡

周溝・貯蔵穴等の諸施設が検出された。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約60cm、同長約60cmを測る。竈右袖部からは石が検出されている。

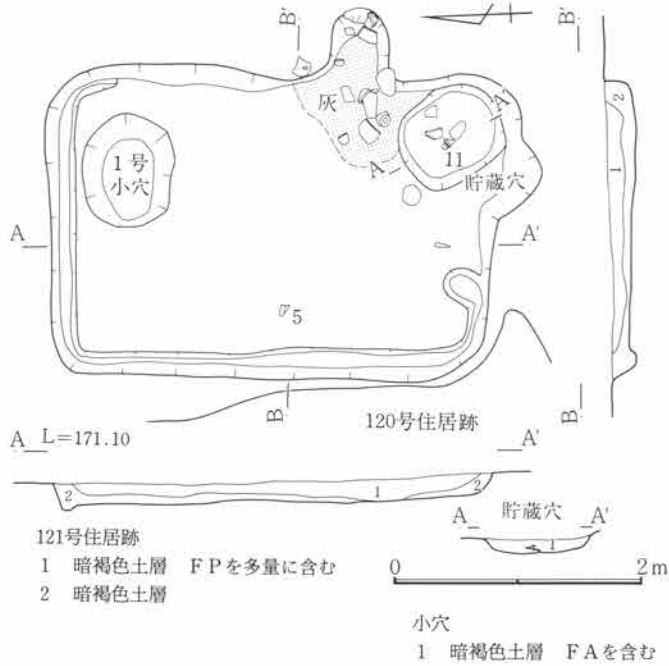


Fig.299 121号住居跡

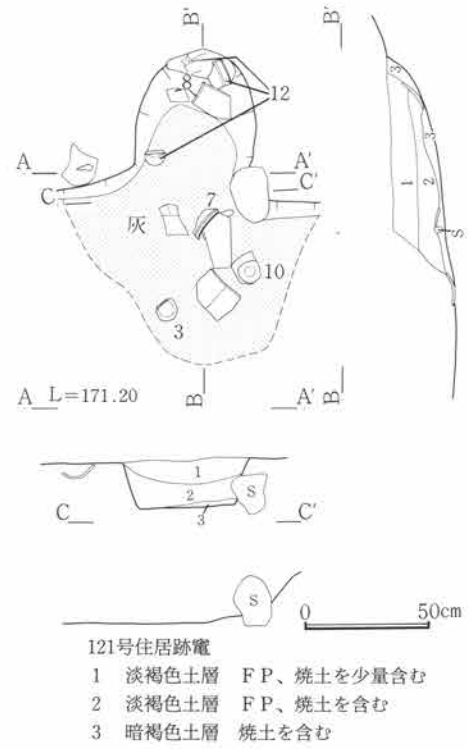


Fig.300 121号住居跡竈

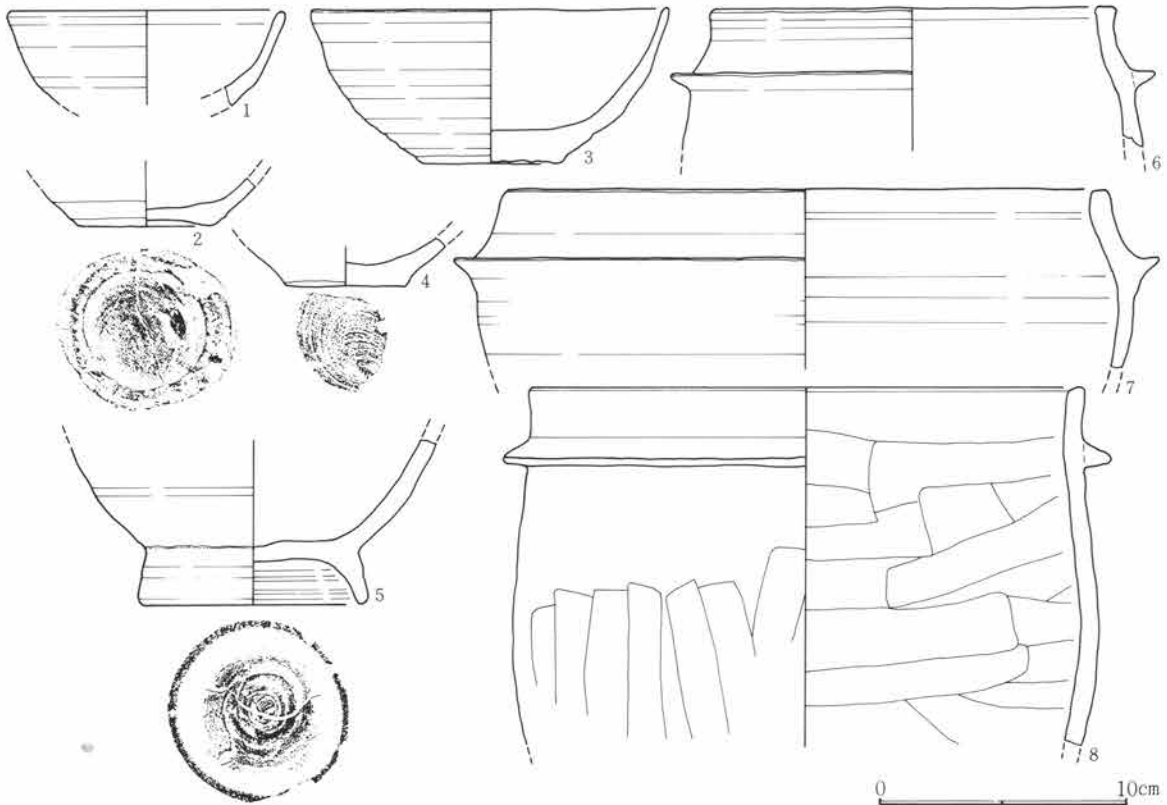


Fig.301 121号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

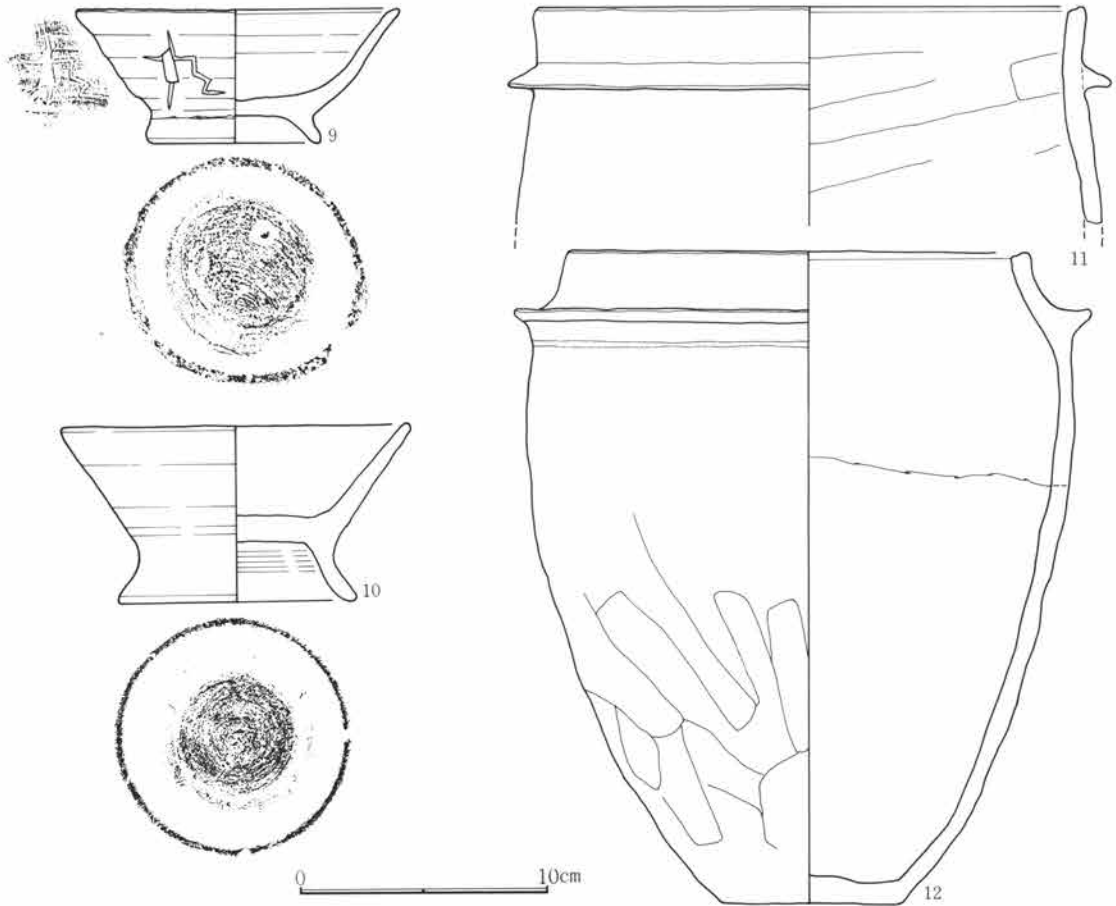


Fig.302 121号住居跡出土遺物(2)

第121号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
301-1 110	須恵器 坏	口-11.0	覆土	口縁部内湾して立ち上がる	①良好②灰白色③細砂粒含む④口縁部破片
301-2	須恵器 塊	底-7.2	覆土	底部回転糸切高台部欠落	①良好②橙色③細砂粒含む④底部残存
301-3 110	須恵器 坏	口-14.1 高-6.1 底-5.4	Na 3	底部調整磨滅して不明瞭口縁部内湾して立ち上がる	①良好②にぶい橙色③1~2mmの砂粒含む④%残存
301-4 110	須恵器 坏	底-5.0	覆土	底部回転糸切	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④底部破片
301-5 110	須恵器 塊	底-9.1	Na 5	付高台底部回転糸切	①良好②にぶい橙色③3~4mm砂粒含む④底部残存
301-6 110	羽釜	口-16.0	覆土	鋳上を向く口縁部内傾する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
301-7 110	羽釜	口-23.7	Na 7	鋳薄く上を向く口縁部内傾する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部%残存
301-8 110	羽釜	口-22.0	Na 8	鋳下を向く鋳下からヘラケズリ内面ヘラ状工具によるナデ口縁部直立ぎみ	①良好②灰白色③細砂粒含む④口縁部%残存
302-9 110	須恵器 塊	口-12.8 高-5.2 底-6.6	覆土	付高台底部回転糸切内面煤付着外面にヘラによる記号	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④%残存
302-10 110	須恵器 高台塊	口-13.9 高-6.9 底-9.3	Na10	付高台底部回転調整高台部内面煤による黒色高台高くハの字状に開く	①良好②橙色③細砂粒含む④%残存
302-11 110	羽釜	口-21.8	Na11	鋳下を向く内面ヘラ状工具によるナデ口縁部弱く外傾する	①良好②灰色③2~3mmの砂粒含む④口縁部%残存
302-12 110	羽釜	口-18.2 高-25.8 底-6.8	覆土	鋳上を向く下部ヘラケズリ口縁部内傾する	①良好②灰褐色③3~4mmの砂粒含む④%残存

122号住居跡 (Fig. 303、PL. 24)



Fig.303 122号住居跡

G区北西部に位置し58・59G21～23の範囲にある。111号住居跡の南西にある。他の遺構との重複は東部で120号住居跡と重複する。新旧関係は120号住居跡が新しい。規模は長辺3.6m、短辺3.1mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cm～20cmを測り、主軸方位はN-86°-Eである。床面は約20cmの比高をもち南側に向かい傾斜している。貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。竈は120号住居跡により壊されているが、南東部に竈があったと思われる床上には灰が散布した状態で検出された。

122号住居跡

- 1 暗褐色土層 FP、FAを少量含む
- 2 暗褐色土層 FAを含む
- 3 暗褐色土層
- 4 暗褐色土層 FAを多量に含む

123号住居跡 (Fig. 304・305・306、PL. 24・111)

G区北西部に位置し57～59G24～26の範囲にある。111号住居跡の西にある。他の遺構との関係は西大部分を124号住居跡と南一部を120号住居跡と重複している。新旧関係は120号住居跡より新しく、124号住居跡より古い。規模は長辺4.3m、短辺3.95mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は北東部では約10cm、東壁で約40cm～50cm、南壁では約60cm

～70cmを測り、主軸方位はN-92°-Eである。床面は平坦をなし南西コーナーと東隣に2基の小穴が検出された。1号は規模約70cm×55cm、深さ約15cm、2号は規模約65cm×55cm、深さ約10cmである。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は袖幅約50cm、燃烧部幅約70cmを測り、両袖部には構築材の石が配されている。

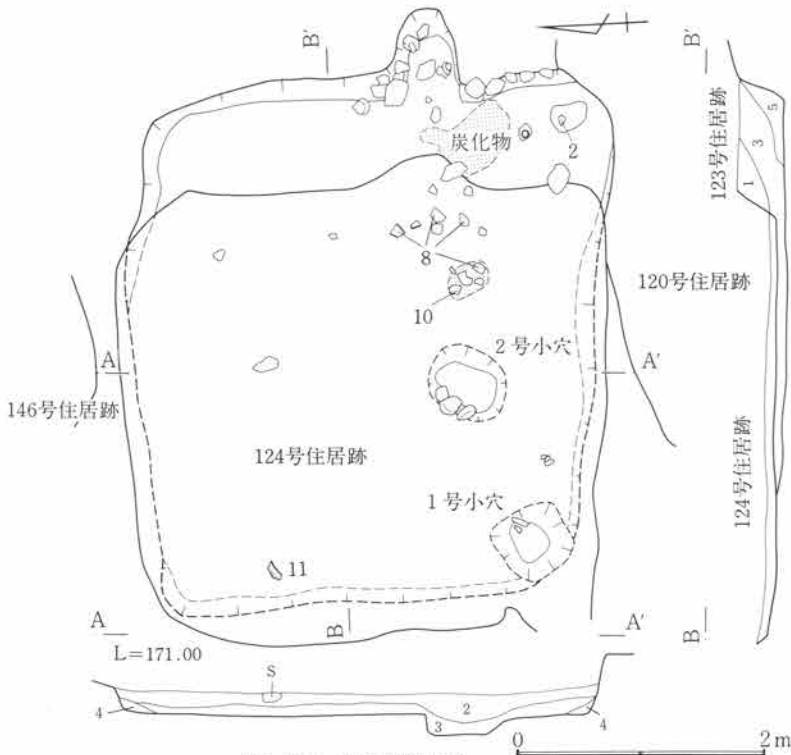
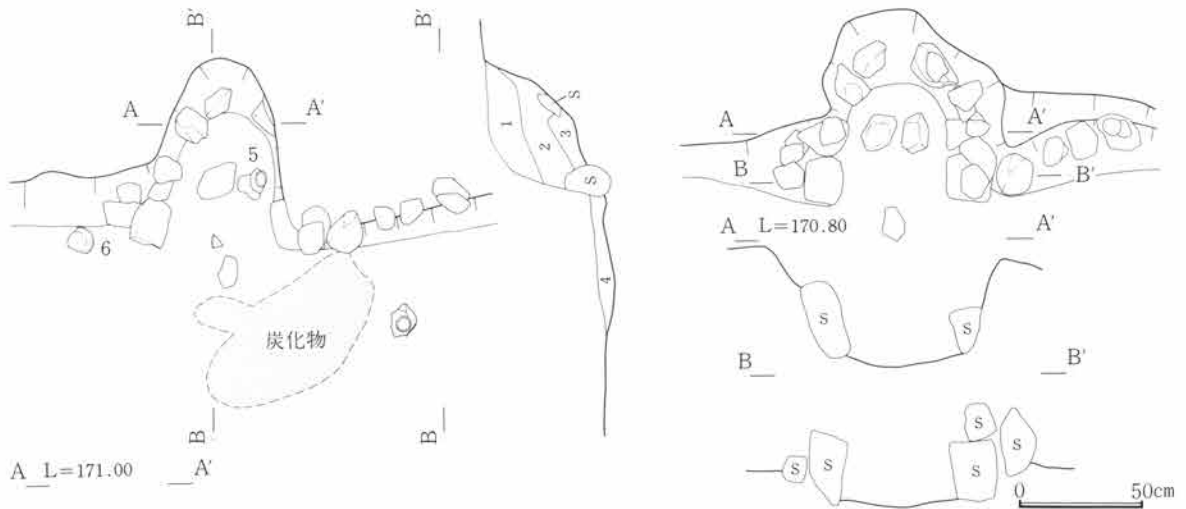


Fig.304 123号住居跡

123号住居跡

- 1 暗褐色砂質土層
- 2 暗褐色砂質土層 FAを少量含む
- 3 暗褐色砂質土層 FA、FPを少量含む
- 4 黒褐色砂質土層 FAを含む
- 5 暗褐色土層 FAを含む

第2章 検出された遺構と遺物



123号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 FPを多量に含む、FAを含む
- 2 黒褐色土層 FAブロックを含む
- 3 黒褐色土層 焼土、炭化物を多量に含む
- 4 暗褐色土層 焼土を含む

Fig.305 123号住居跡竈

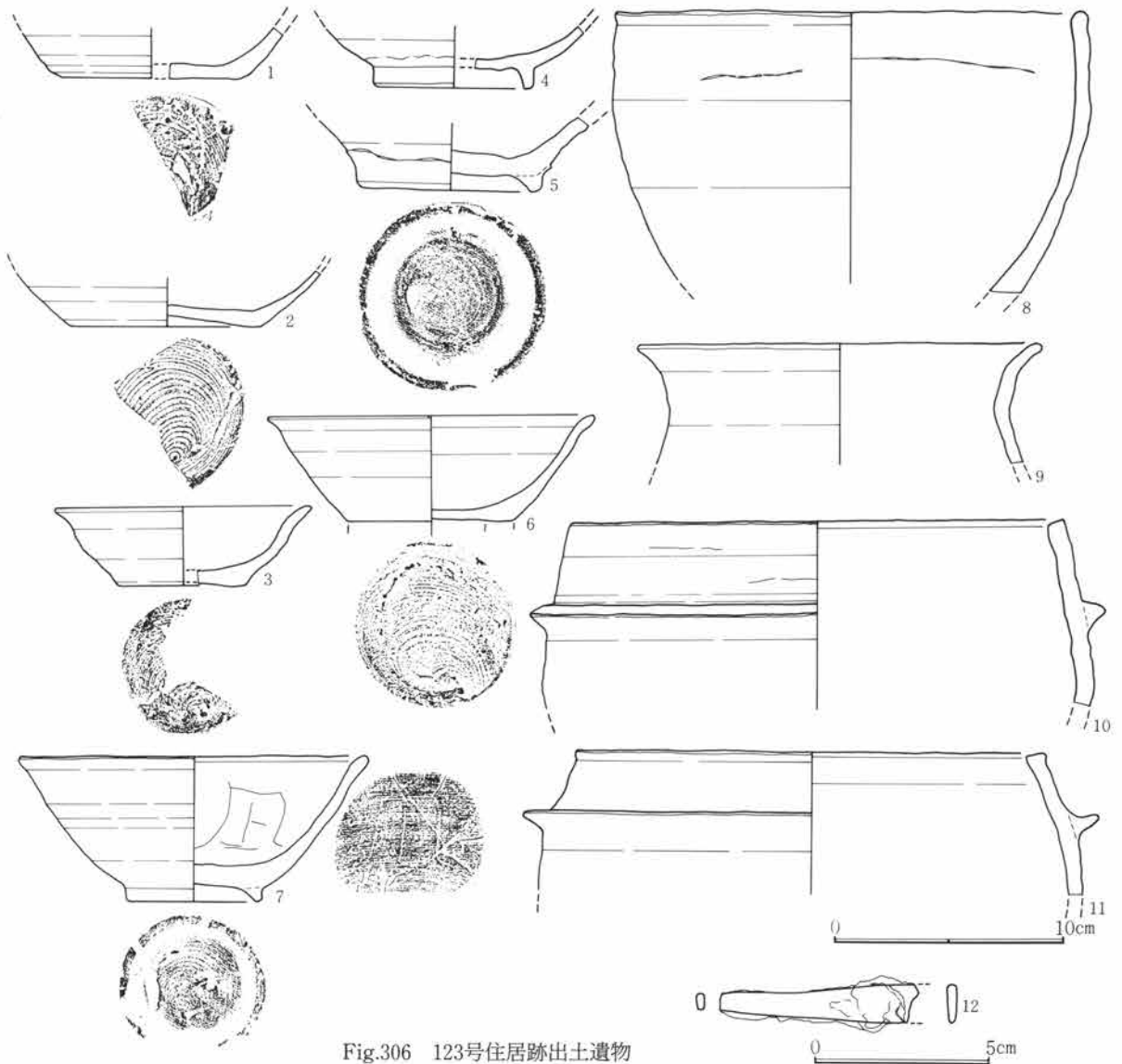


Fig.306 123号住居跡出土遺物

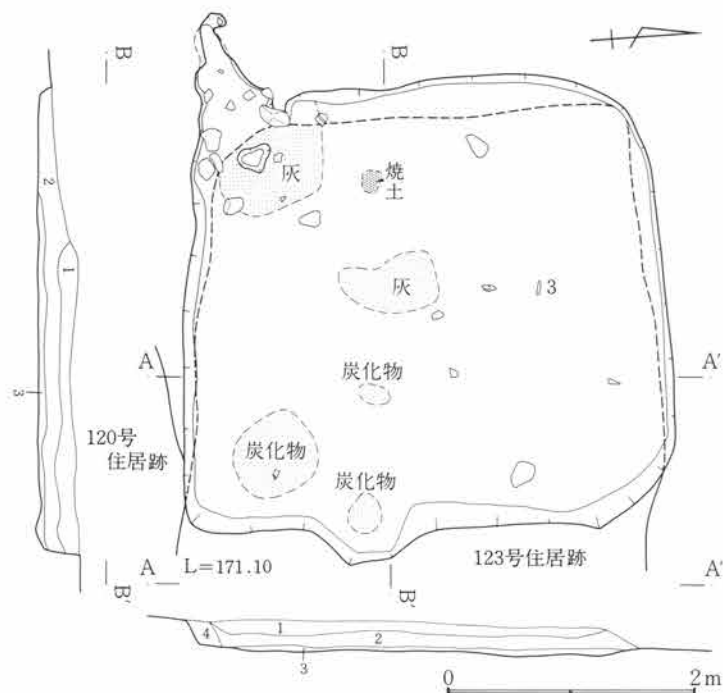
第123号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
306-1	須恵器 坏	底-7.5	竈 覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③細砂粒含む ④底部破片
306-2 111	須恵器 坏	底-8.0	No 2	底部回転糸切右廻り	①良好②灰色③細砂粒含む ④底部残存
306-3 111	須恵器 坏	口-10.9 底-5.3	覆土	底部回転糸切右廻り口縁端部外反する	①良好②灰色③1~2mmの 砂粒含む④残存
306-4 111	灰釉陶器 壺	底-6.5	覆土	付高台	①良好②灰白色③密④底部 破片
306-5 111	須恵器 坏	底-7.3	No 5	付高台底部回転調整	①良好②灰白色③2~3mm の砂粒含む④底部破片
306-6 111	須恵器 坏	口-14.0 高-4.5 底-7.0	No 6	付高台欠落底部回転糸切口縁端部外反する	①良好②灰色③細砂粒含む ④残存
306-7 111	須恵器 壺	口-14.9 底-5.5	覆土	付高台底部回転糸切内面へラ文字	①良好②褐色③細砂粒含む ④残存
306-8 111	土師器 甕	口-20.0	No 8	片口部が一部残存している	①良好②橙色③細砂粒含む ④口縁部残存
306-9 111	土師器 甕	口-17.2	覆土	口縁部外反する	①良好②にぶい橙色③1 ~2mm砂粒含む④口縁部破片
306-10 111	羽釜	口-21.0	No10	鈔横を向く口縁部内傾する	①良好②灰白色③2~3mm の砂粒含む④口縁部残存
306-11 111	羽釜	口-20.0	No11	鈔薄く上を向く口縁部内傾する	①良好②浅黄色③細砂粒含む ④口縁部残存
Fig. 306-12 PL. 111 鉄製品 長-5.7cm 厚-3mm 刀子?					

124号住居跡 (Fig. 307・308・309、PL. 24・25・111)

G区北西部に位置し58~60G24~26の範囲にある。111号住居跡の西にある。他の遺構との関係は住居跡の大部分を123号住居跡、南部の一部を120号住居跡と重複している。新旧関係は120・123号住居跡より新しい。規模は長辺4m、短辺3.9mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は北壁で約5cm~10cm、南壁約20cm

~40cmを測り、主軸方位はN-260°-Eである。床面は平坦をなし貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。東壁やや南寄りの部分に灰が検出されている。竈は南西コーナーに検出された。規模は袖幅約70cm、燃烧部長約120cmを測る。竈両袖部からは構築材の石が検出されている。



- 124号住居跡
- 1 暗褐色土層 FP多量に含む
 - 2 暗褐色土層 FP、FAブロックを含む
 - 3 黒褐色土層 FAを含む
 - 4 暗褐色土層 FP少量、FAブロックを含む

Fig.307 124号住居跡

第2章 検出された遺構と遺物

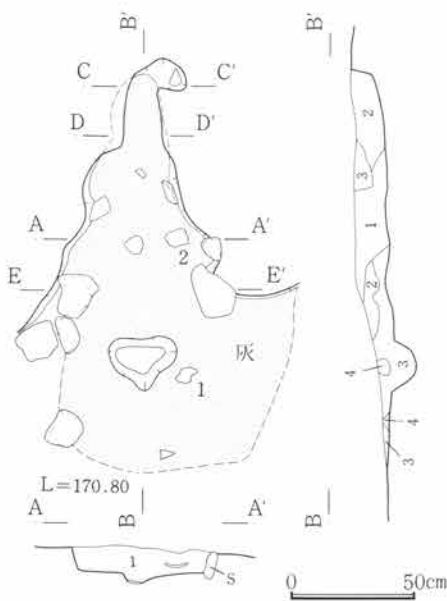


Fig.308 124号住居跡竈

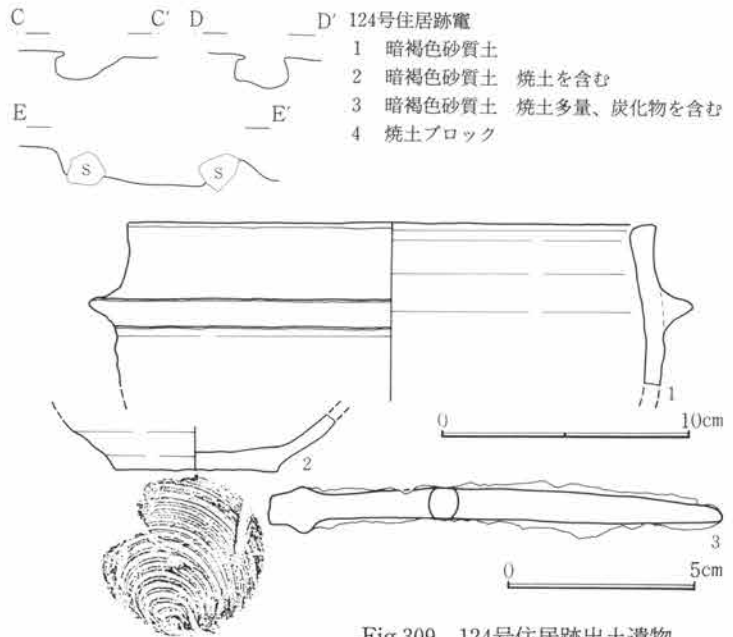


Fig.309 124号住居跡出土遺物

第124号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
309-1 111	羽釜	口-21.0	No.1	鑄横を向く口縁部内傾する	①良好②浅黄橙色③細砂粒含む④口縁部破片
309-2 111	須恵器 坏	底-6.5	No.2	底部回転糸切	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④底部残存
Fig. 309-3 PL. 111	鉄製品	長-12.0cm 厚-8mm	釘?		

125号住居跡 (Fig. 310・311・312、PL. 25・111)

G区北西部に位置し48~50G20~22の範囲にある。169号住居跡の東にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺4.5m、短辺3.7mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は5cm~6cmを測るのみで遺存は悪い。

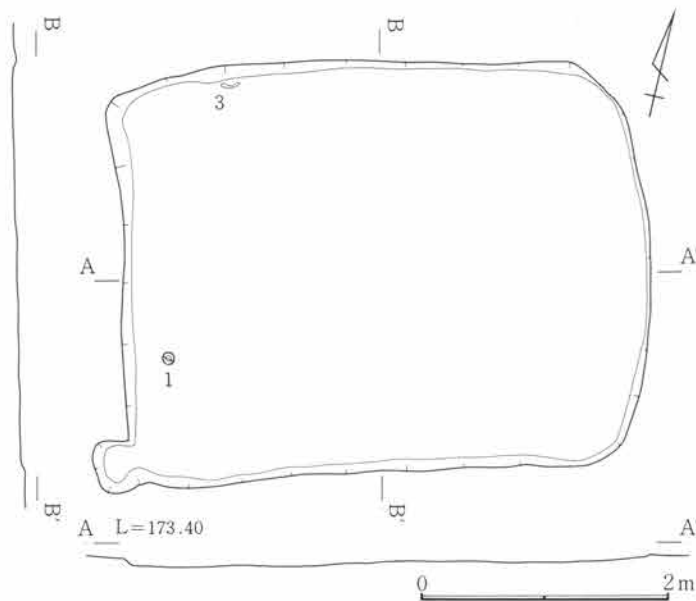


Fig.310 125号住居跡

床面は平坦をなし、貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。竈は検出されていない。

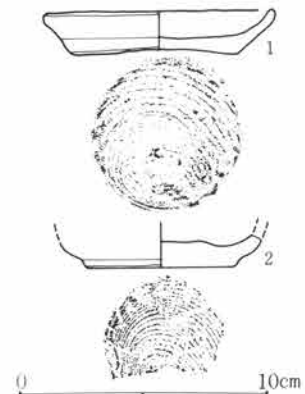


Fig.311 125号住居跡出土遺物(1)

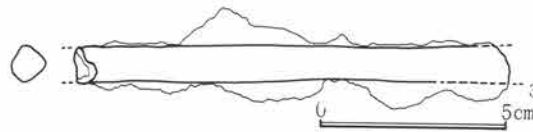


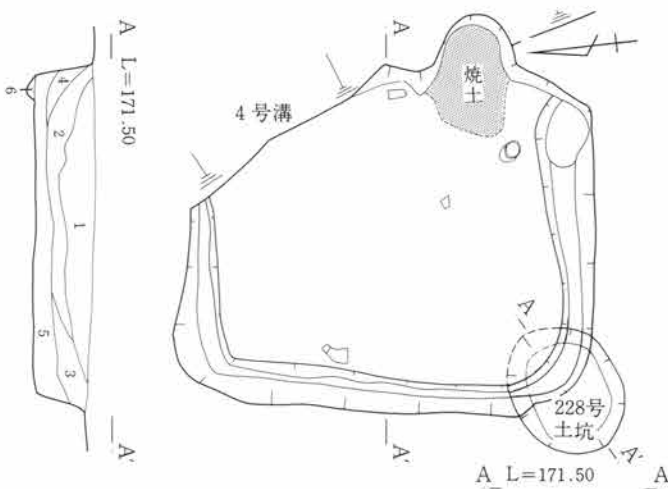
Fig.312 125号住居跡出土遺物(2)

第125号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
311-1 111	須恵器 坏	口-9.2 高-1.5 底-6.5	No.1	底部回転糸切右廻り	①良好②淡橙色③2~3mmの砂粒含む④完形
311-2 111	須恵器 坏	底-5.8	覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④底部破片
Fig. 312-3	PL. 111	鉄製品 長-11.5cm 厚-9mm 不明			

126号住居跡 (Fig. 313・314・315・316、PL. 25・111・112)

G区中央に位置し46・47G 20~22の範囲にある。125号住居跡の東にある。他の遺構との関係は北東部を4号溝、南西コーナーで228号土坑と重複している。新旧関係は土坑より新しく、溝より古い。規模は長辺3.4m、短辺2.7mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約40cmを測り、主軸方位はN-97°-Eである。床面は平坦をなし、4号溝によって壊されている。東部を除く壁には幅約30cm~40cm、深さ約5cmの周溝が巡っている。貯蔵穴は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は焼部幅約80cm、同長約60cmを測る。竈からは石は検出されていないが、袖部下より袖材がおかれた痕跡が認められた。

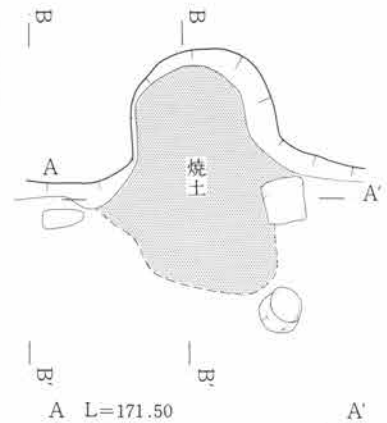


- 126号住居跡
- 1 暗褐色土層 FPを含む
 - 2 暗褐色土層 FAブロックを含む
 - 3 暗褐色土層 黒色土を含む
 - 4 淡褐色土層 FAブロック多量に含む
 - 5 暗褐色土層 FAブロックを少量含む
 - 6 淡褐色土層 FAを少量含む
- 228号土坑
- 1 暗褐色土層 FP、FAブロック多量に含む

Fig.313 126号住居跡・228号土坑

Fig.314

126号住居跡竈



- 126号住居跡竈
- 1 暗褐色土層
 - 2 暗褐色土層 焼土を少量含む
 - 3 暗褐色土層 焼土、炭化物を含む
 - 4 暗褐色土層 焼土、灰を多量に含む

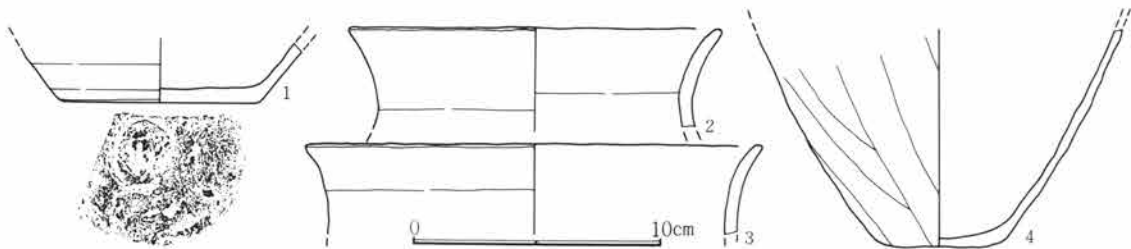
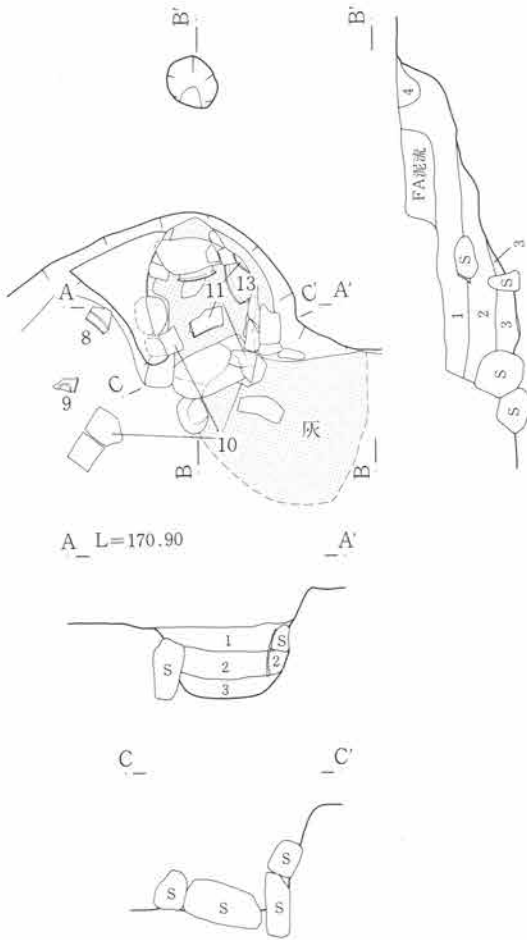


Fig.315 126号住居跡出土遺物(1)



127号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 FP、FAを少量含む
- 2 暗褐色土層 FAブロックを含む
- 3 暗褐色土層 FA、焼土、炭化物を含む
- 4 暗褐色土層 FA、焼土を含む

Fig.318 127号住居跡竈

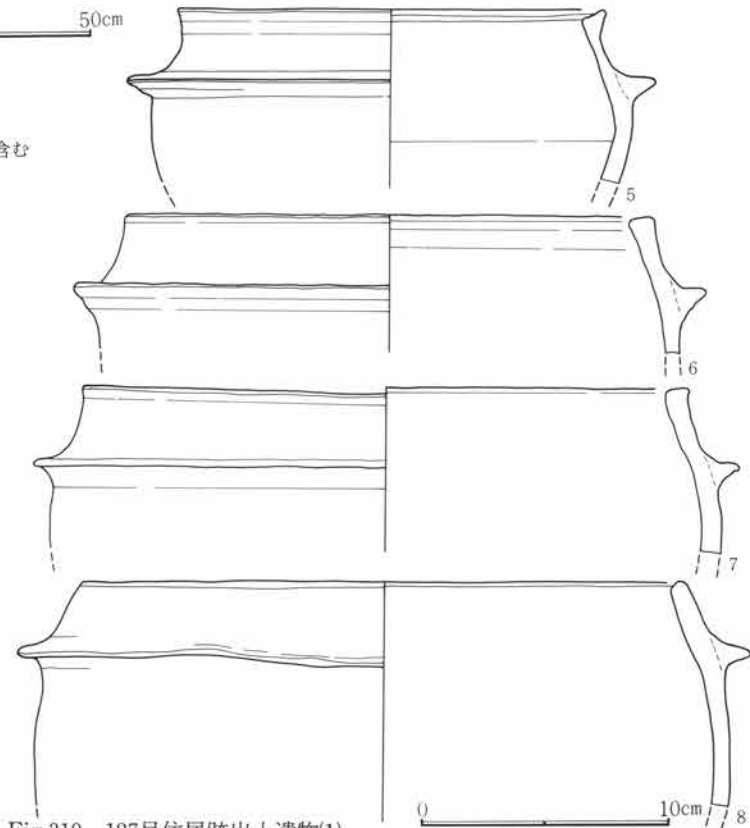
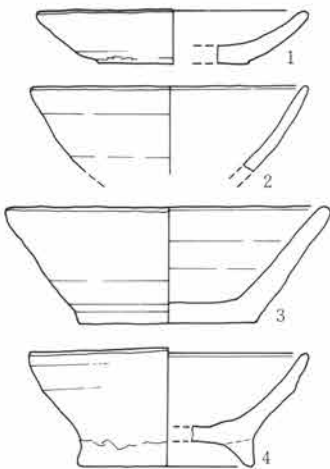


Fig.319 127号住居跡出土遺物(1)

床面は平坦をなし住居跡中央部と南西コーナーに2基の小穴が検出され各々1号・2号とした。1号は径約55cmの円形で深さ約20cm、2号は径約60cmの円形で深さ約15cmを測る。竈は南東コーナーに検出された。竈の長軸方位はN-113°-Eである。規模は袖幅約60cm、燃烧部幅約60cm、煙道部長約60cmを測る。煙道部先端には煙り出しの小穴が検出され天井部が認められた。袖部には石が検出され燃烧部前面には天井の石と思われる長めの石が検出された。

141号住居跡 (Fig. 317・321、PL. 25・118・119)

G区中央部に位置し47・48G27~29の範囲にある。109号住居跡の北西にある。他の遺構との関係は東半部の大半を127号住居跡と、南西コーナーで202号土坑と重複している。新旧関係は202号土坑より新しく127号住居跡より古い。このため141号住居跡の大半は127号住居跡により壊されている。規模は不明であるが西壁長は約3.7mを測る。西・北壁で幅約10cm、深さ数cmの壁周溝が認められた。床面は平坦をなし他の諸施設は検出されていない。竈は検出されていない。

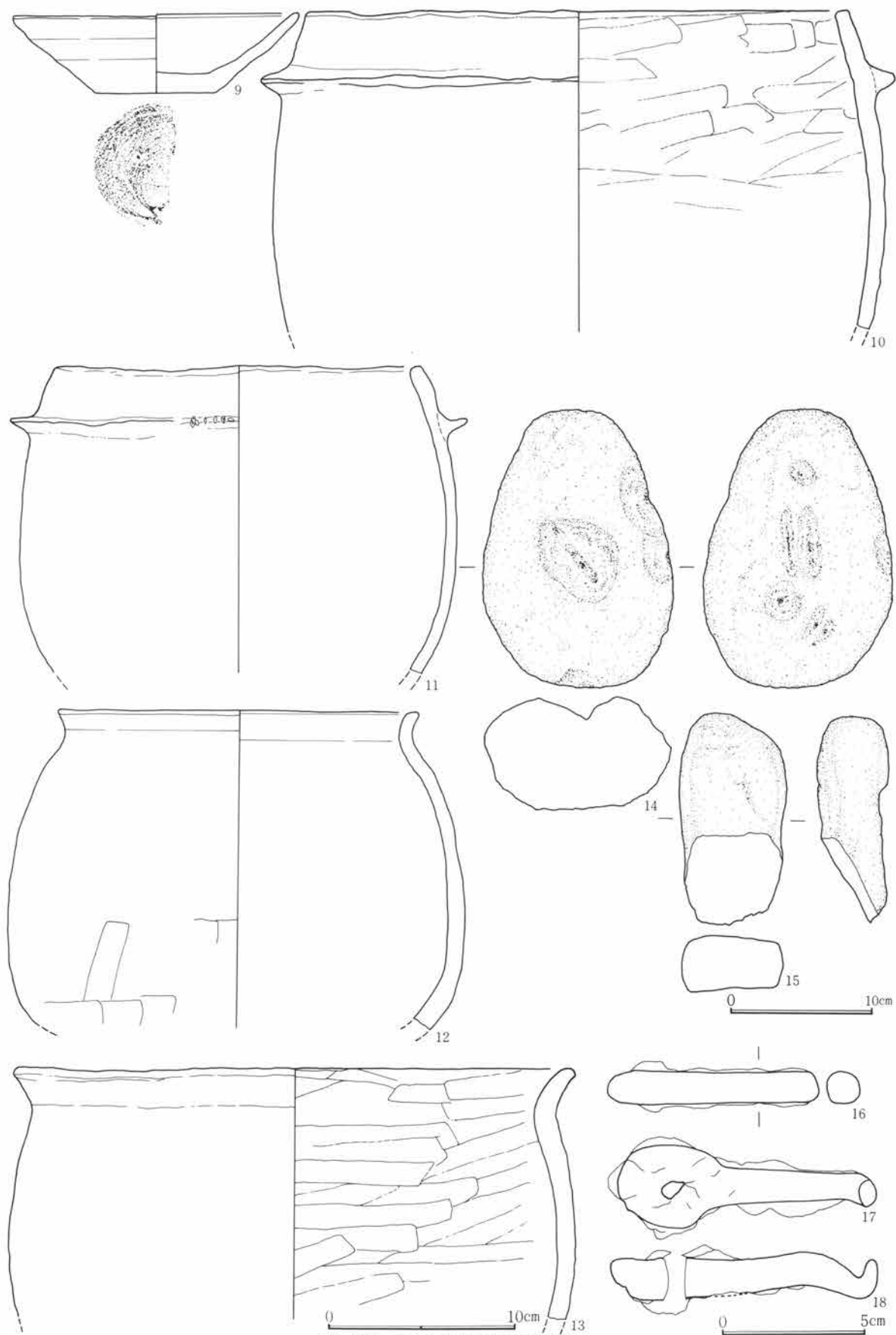


Fig.320 127号住居跡出土遺物(2)

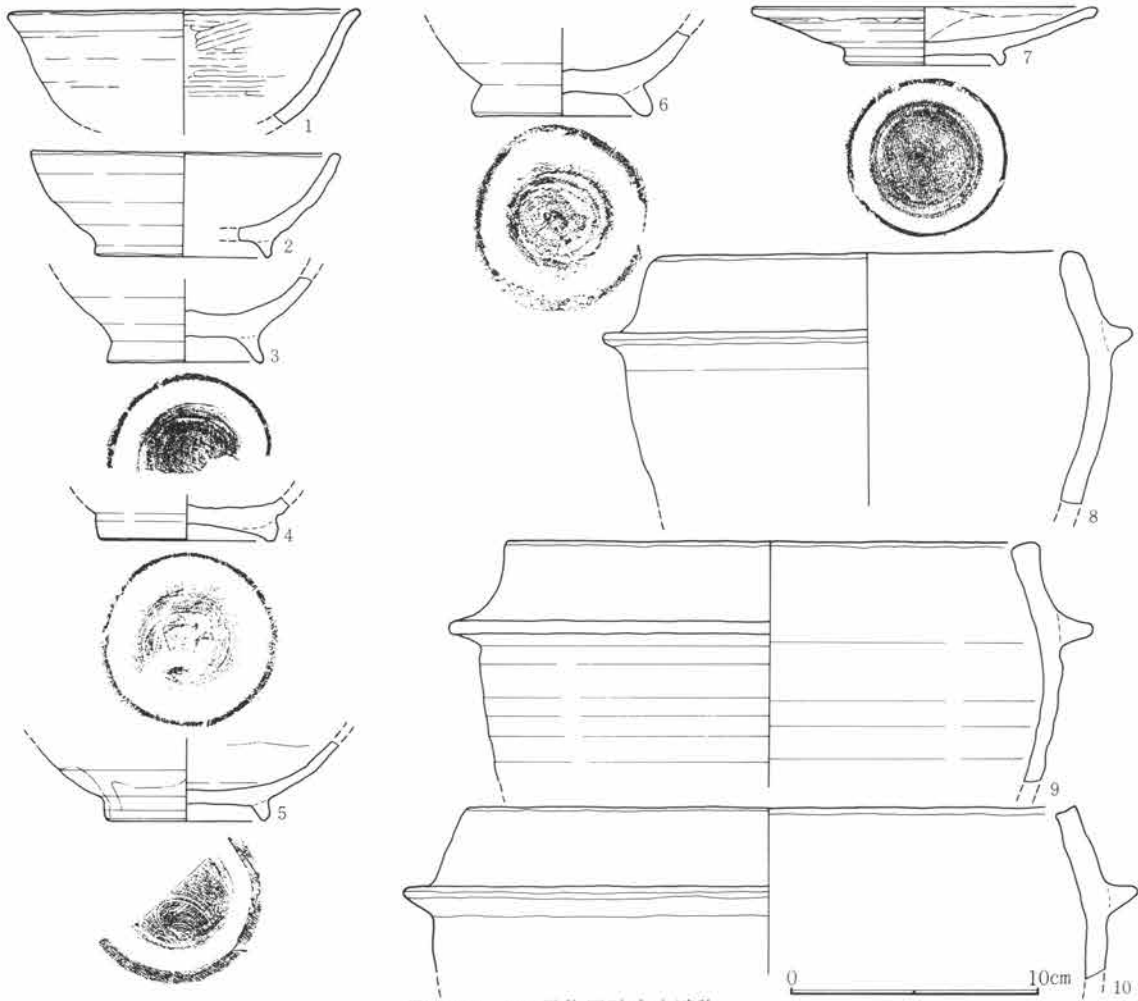


Fig.321 141号住居跡出土遺物

第127号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
319-1 112	須恵器 小皿	口-10.6 高-2.2 底-5.7	覆土	器壁やや厚く器高低い底部回転糸切	①良好②橙色③1~2mmの砂粒含む④口縁~底部破片
319-2 112	須恵器 坏	口-11.0	覆土	内面黒色ミガキ口縁部内湾して立ち上がる	①良好②淡褐色③細砂粒含む④破片
319-3 112	須恵器 坏	口-12.7 高-4.7 底-7.0	Na.3	器壁厚く直線状に外傾する底部回転糸切	①良好②にぶい橙色③1~2mmの砂粒含む④残存
319-4 112	須恵器 塊	口-11.0 高-4.7 底-7.0	覆土	口縁部に向い内湾する燻し金色付高台	①良好②灰褐色③細砂粒含む④残存
319-5 112	羽釜	口-17.0	覆土	口縁部薄く内傾し鋳下内湾する鋳横を向く	①良好②にぶい黄褐色③細砂粒含む④破片
319-6 112	羽釜	口-21.0	覆土	口縁端部器壁厚く内傾する鋳上を向く丁寧な調整口縁部内傾する	①良好②褐灰色③細砂粒含む④口縁部破片
319-7 112	羽釜	口-24.0	Na.7	口縁先端部器壁厚く鋳上を向く丁寧な調整	①良好②明褐色③細砂粒含む④口縁部破片
319-8 112	羽釜	口-24.0	Na.8	鋳薄く下を向く口縁部内湾し鋳下から内湾する口縁部内傾する	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片
320-9 113	須恵器 坏	口-14.9 高-4.1 底-6.2	Na.9	器壁やや厚く直状に外傾する底部回転糸切口縁部直線状に外傾する	①良好②にぶい橙色③1~2mmの砂粒含む④残存
320-10 112	羽釜	口-28.2	Na.10	鋳ゆがみ大きい口縁部弱く内傾する内面ヘラナデ	①良好②にぶい赤褐色③1~2mm砂粒含む④口縁部残存
320-11 112	羽釜	口-19.1	Na.11	口縁部鋳ゆがみ鋳先にヘラによるキザミがある胴部弱いヘラナデ内面ナデ口縁部内湾する	①良好②にぶい赤褐色③1~2mm砂粒含む④口縁部残存

第2章 検出された遺構と遺物

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
320-12 113	土師器 甕	口-18.8	竈覆土	口縁部弱く外傾する口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ後ナデ内面ナデ	①良好②にぶい赤褐色③1~2mm砂粒含む④口~胴部残存
320-13 112	土師器 甕	口-29.0	No.13	口縁部弱く外湾器壁厚い口縁部ヨコナデ胴部ナデ内面ヘラナデ痕残る口縁部外反する	①良好②にぶい橙色③2~3mm砂粒含む④口縁部残存
Fig. 320-14	PL. 113	石 長-19.3cm 幅-13.3cm 厚-9.2cm		粗粒安山岩	
Fig. 320-15	PL. 113	石 長-不明 幅-7.6cm 厚-4.9cm		頁岩	
Fig. 320-16	PL. 113	鉄製品 長-7.4cm 厚-11mm		不明	
Fig. 320-17	PL. 113	鉄製品 長-9.3cm 厚-7mm		不明	
Fig. 320-18		鉄製品 長-9.3cm 厚-12mm		不明	

第141号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
321-1 118	土師器 埴	口-14.0	No.1	内面黒色研磨(内黒土器)口縁端部外反する	①良好②にぶい黄褐色③細砂粒含む④口縁部破片
321-2 118	須恵器 埴	口-7.0 高-4.15	覆土	付高台口縁部内湾して立ち上がる	①良好②にぶい黄褐色③細砂粒含む④残存
321-3 118	須恵器 埴	底-6.2	No.3	付高台底部回転糸切	①良好②にぶい黄褐色③1~2mm砂粒含む④底部残存
321-4 118	須恵器 埴	底-7.0	No.4	付高台底部回転糸切内外面煤等により黒色	①良好②胎土灰色③細砂粒含む④底部残存
321-5 118	灰釉陶器 埴	底-6.2	No.5	付高台底部回転糸切	①良好②灰白色③密④底部残存
321-6 118	須恵器 埴	底-7.0	No.6	付高台底部回転糸切	①良好②淡橙色③細砂粒含む④底部残存
321-7 118	灰釉陶器 皿	口-13.7 高-2.3 底-6.4	No.7	付高台口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③密④完形
321-8 118	羽釜	口-17.0	No.8	鈔やや低く上を向く口縁部内傾する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
321-9 119	羽釜	口-21.2	No.9	鈔横を向く口縁部内傾する	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部残存
321-10 118	羽釜	口-24.0	No.10	鈔やや上を向く口縁部内傾する	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁部破片

129号住居跡 (Fig. 322・323、PL. 25・26・113)

G区中央部に位置し44G20・21の範囲にある。126号住居跡の東にある。他の遺構との関係は4号溝、226号土坑と重複している。土坑は東部に隣接して検出された。4号溝は129号住居跡より新しく住居跡の大半を壊されている。規模、主軸方位等は不明である。壁高は約20cm~30cmを測る。

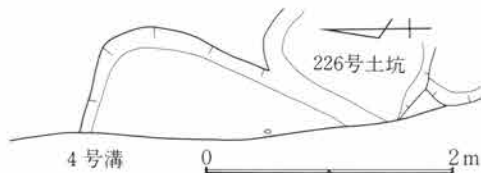


Fig.322 129号住居跡

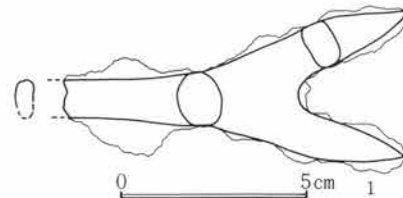


Fig.323 129号住居跡出土遺物

第129号住居跡出土遺物観察表

Fig. 323-1	PL. 113	鉄製品 長-9.2cm 厚-5~14mm	鋏
------------	---------	----------------------	---

130号住居跡 (Fig. 324・325・326・327, PL. 26・113)

G区中央部に位置し38~40G25~27の範囲にある。他の遺構との関係は西部を131号住居跡と重複している。新旧関係は130号住居跡が新しく131号住居跡の竈は壊されている。規模は長辺4.6m、短辺3.7mを測り、

平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cm~30cmを測り、主軸方位はN-75°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は燃烧部幅約70cm、同長約60cmを測る。竈は両袖部に石が配されており、壁の部分にも燃烧部を囲むように石が検出された。

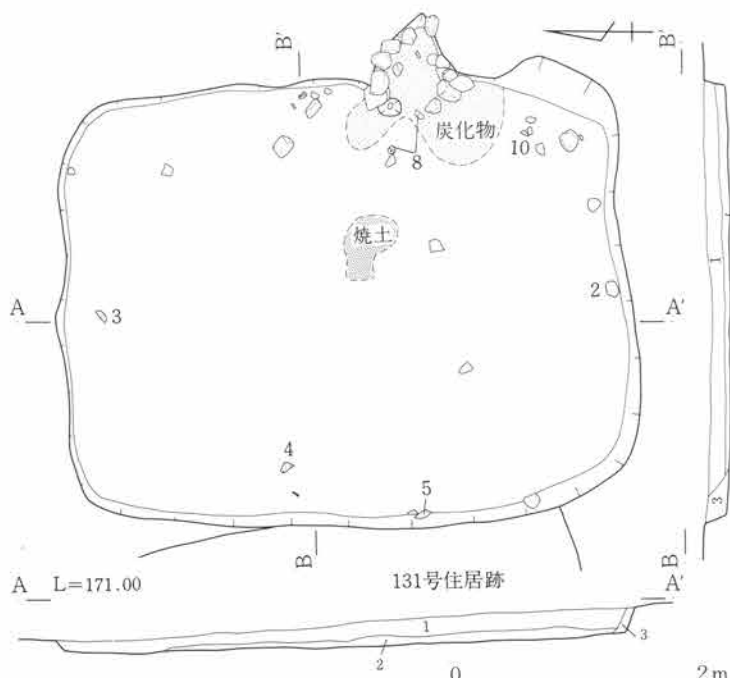
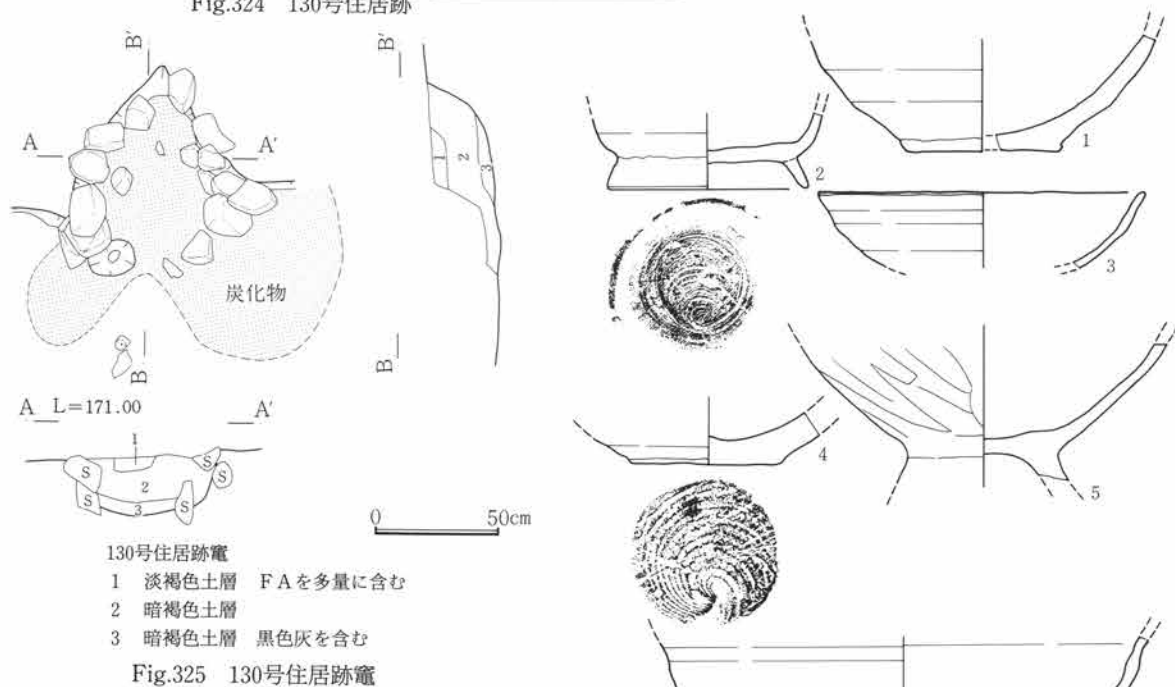


Fig.324 130号住居跡



- 130号住居跡竈
- 1 淡褐色土層 FAを多量に含む
 - 2 暗褐色土層
 - 3 暗褐色土層 黑色灰を含む

Fig.325 130号住居跡竈

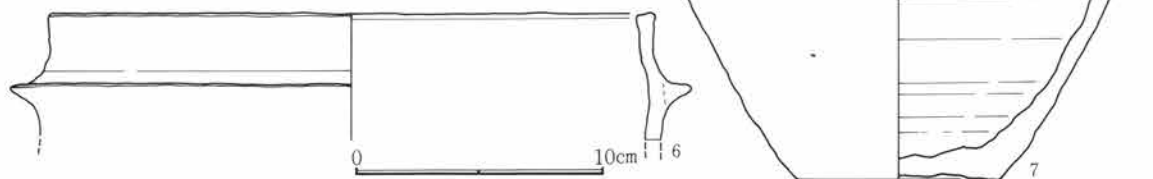


Fig.326 130号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

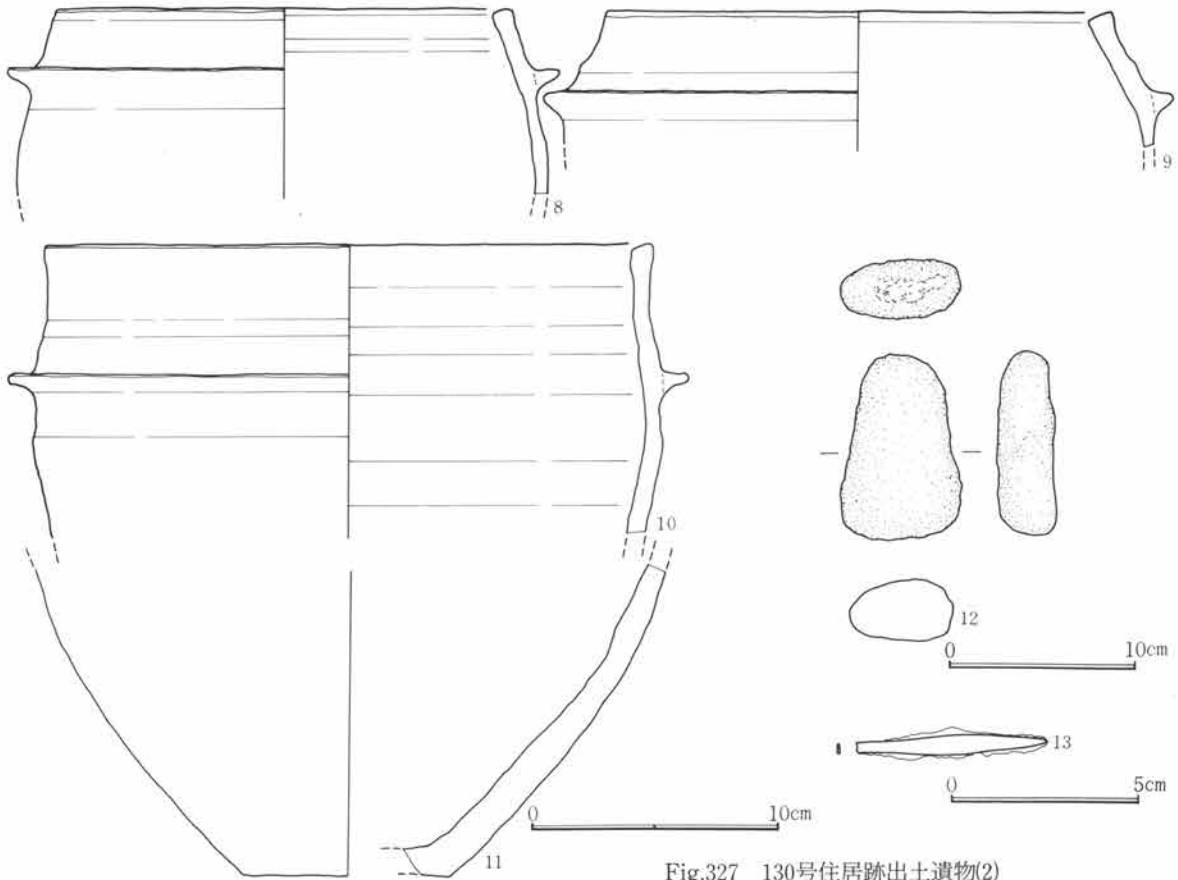


Fig.327 130号住居跡出土遺物(2)

第130号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
326-1 113	須恵器 坏	底6.0	覆土	底部から口縁部に向かい内湾して立ち上がる	①良好②橙色③細砂粒含む ④破片
326-2 113	須恵器 埴	底-8.0	No.2	付高台底部回転糸切	①良好②灰色③密④底部残存
326-3 113	灰釉陶器 埴	口-13.0	No.3	口縁部内外面釉口縁部内湾ぎみに立ち上がり端部弱く外反する	①良好②灰色③密④口縁部 1/2残存
326-4 113	須恵器 坏	底-6.1	No.4	底部回転糸切右廻り	①良好②にぶい黄褐色③4 ~5mm砂粒含む④底部残存
326-5 113	土師器 台付甕		No.5	外面ヘラケズリ内面ナデ	①良好②にぶい赤褐色③1 ~2mm砂粒含む④胴部破片
326-6 113	羽釜	口-24.0	覆土	鑄横を向く口縁部直立ぎみ	①良好②褐灰色③細砂粒含む ④口縁部破片
326-7 113	羽釜	底-7.9	覆土	外面ヘラ状工具による弱いナデ	①良好②褐灰色③2~3mm の砂粒含む④底部1/2残存
327-8 113	羽釜	口-18.0	No.8	鑄上を向く口縁部内傾する	①良好②灰色③2~3mmの 砂粒含む④口縁部破片
327-9 113	羽釜	口-20.1	覆土	鑄低く横を向く口縁部内傾する	①良好②灰黄色③1~2mm の砂粒含む④口縁部破片
327-10 113	羽釜	口-24.0	No.10	鑄薄くやや上を向く口縁部直立ぎみ	①良好②褐灰色③3~4mm の砂粒含む④口縁部破片
327-11 113	土師器 甕	底-8.2	覆土	外面ヘラ状工具による弱いナデ	①良好②にぶい橙色③1 ~2mm砂粒含む④底部破片
Fig. 327-12		石 長-9.7cm 幅-3.0cm 厚-3.2cm			
Fig. 327-13 PL. 113		鉄製品 長-5.2cm 厚-1mm 刀子?			

131号住居跡 (Fig. 328・329・330、PL. 26・113・114)

G区中央部に位置し39~42G25~27の範囲にある。133号住居跡の北にある。他の遺構との関係は東部で当住居跡より新しい130号住居跡と重複しており、竈を切り崩されている。また南西コーナーで133号住居跡と

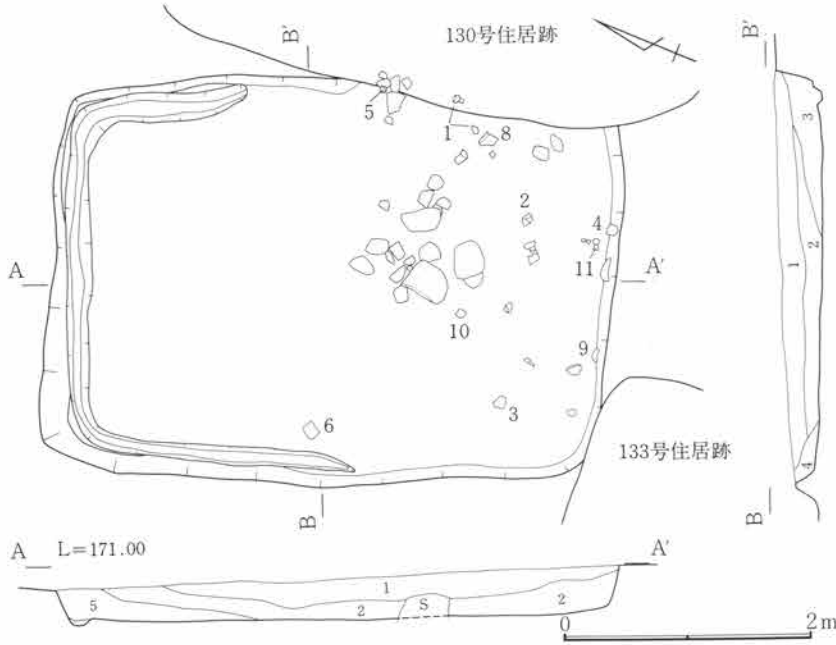


Fig.328 131号住居跡

壁を接している。規模は長辺4.7m、短辺3.3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約30cm~40cmを測り、主軸方位はN-72°-Eである。床面は平坦をなす。竈は130号住居跡に壊されるが全床面には石が散布して検出された。床面は灰の散布が見られる。

131号住居跡

- 1 褐色土層 FP、FAを少量含む
- 2 黄褐色土層 FAブロック、炭化物を含む
- 3 黄褐色土層 FAを多量に含む
- 4 灰褐色土層 FAブロックFPを少量含む
- 5 黄褐色土層 FAブロックを少量含む

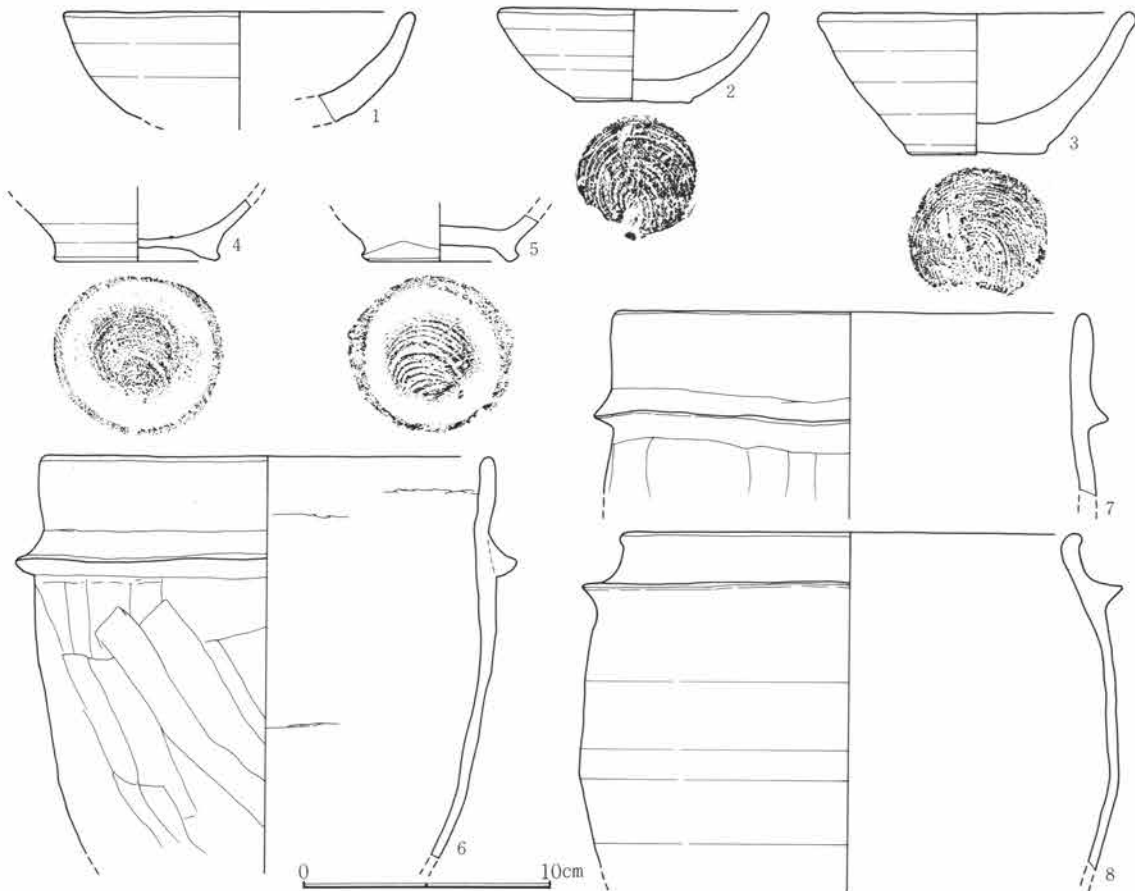


Fig.329 131号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

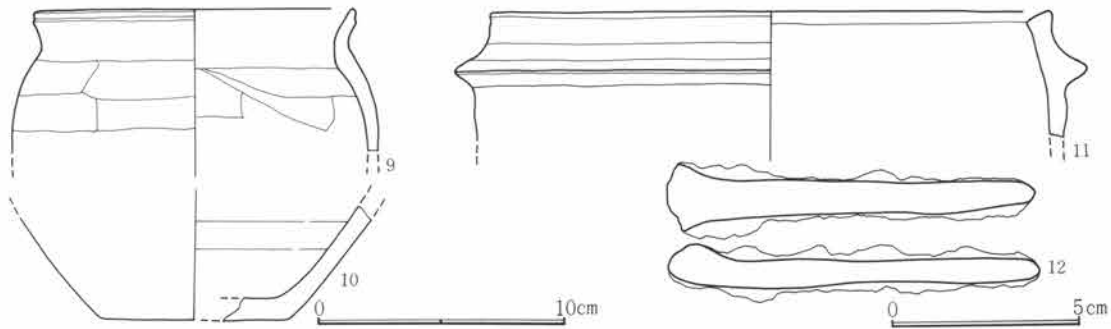


Fig.330 131号住居跡出土遺物(2)

第131号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
329-1 113	須恵器 坏	口-13.8	No.1	口縁部内湾して立ち上がる	①良好②にぶい橙色③2~3mm砂粒含む④口縁部残存
329-2 113	須恵器 坏	口-14.0 高-3.6 底-4.6	No.2	底部回転糸切右廻り口縁部内湾して立ち上がる	①良好②にぶい黄褐色③細砂粒含む④残存
329-3 114	須恵器 坏	口-12.4 高-5.55 底-5.2	No.3	底部回転糸切口縁部内湾ぎみに立ち上がり端部弱く外反する	①良好②淡橙色③2~3mmの砂粒含む④残存
329-4 114	須恵器 境	底-6.4	No.4	付高台底部回転糸切	①良好②灰褐色③1~2mmの砂粒含む④底部残存
329-5 114	須恵器 坏	底-5.6	No.5	付高台貼付部ゆがむ	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④底部残存
329-6 114	羽釜	口-17.7	No.6	鏝ゆがみ口縁部直立ぎみ	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④口縁部残存
329-7 114	羽釜	口-18.4	覆土	鏝低くゆがむ鏝下ヘラケズリ口縁部直立ぎみ	①良好②灰褐色③細砂粒含む④口縁部残存
329-8 114	羽釜	口-17.8	No.8	鏝薄くやや上を向く口縁部内湾する	①良好②赤褐色③3~4mmの砂粒含む④口縁部破片
330-9 114	土師器 甕	口-13.2	No.9	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ヘラナデ口縁部外反し端部外面沈線巡る	①良好②にぶい赤褐色③細砂粒含む④口縁部残存
330-10 114	土師器 甕	底-7.2	No.10		①良好②にぶい赤褐色③細砂粒含む④底部破片
330-11 114	羽釜	口-21.9	No.11	口縁部内傾し鏝横を向く	①良好②灰褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
Fig. 330-12 PL. 113 鉄製品 長-9.9cm 厚-8mm 釘?					

132号住居跡 (Fig. 331・332、PL. 26・114)

G区中央部に位置し41~43G22~24の範囲にある。他の遺構との関係は北東部で133・134号住居跡と重複している。新旧関係は133号住居跡が新しく、さらに134号住居跡が新しい。規模、平面形態は不明だが西壁は4.7mを測る。床面は平坦をなし、中央部東壁に近い部分から鉄滓が検出されている。

133号住居跡 (Fig. 331・333・334、PL. 26・114・115)

G区中央部に位置し40~42G23~25の範囲にある。他の遺構との関係は南西部の大半を132号住居跡、南東部を134号住居跡と重複している。新旧関係は132号住居跡より新しく134号住居跡より古い。規模、平面形態は不明であるが北壁は3.6mを測る。北東部で131号住居跡と壁を接している。壁高は約30cmを測る。床面は平坦をなし、貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。

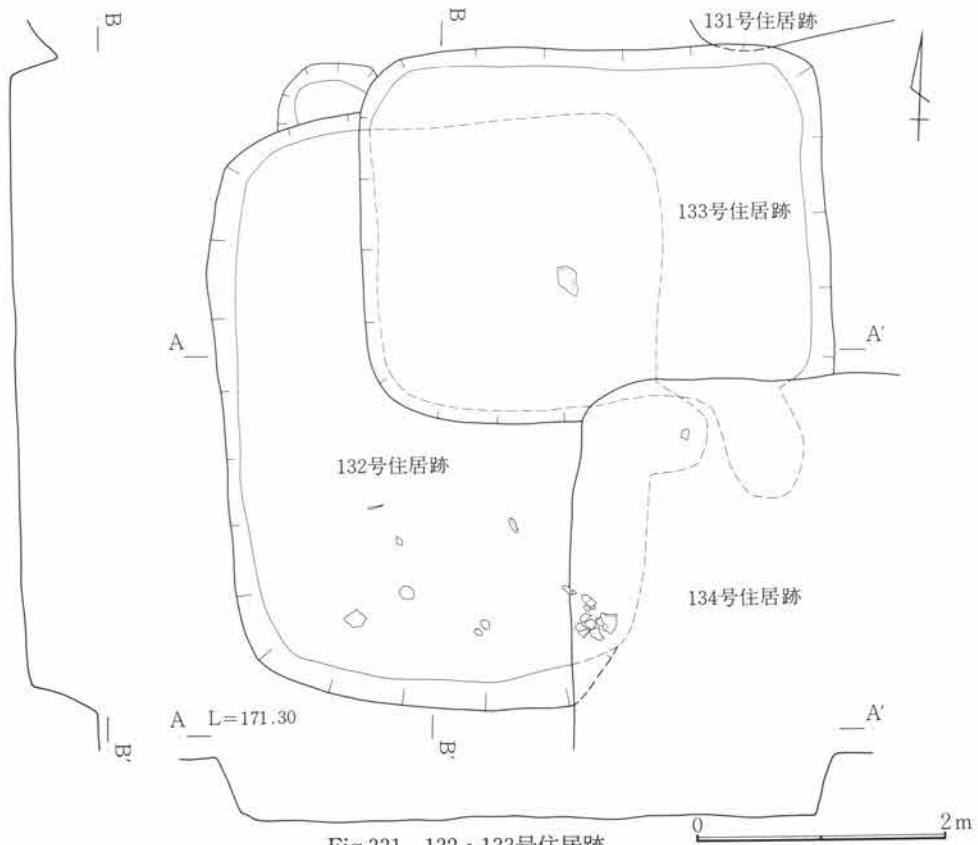


Fig.331 132・133号住居跡

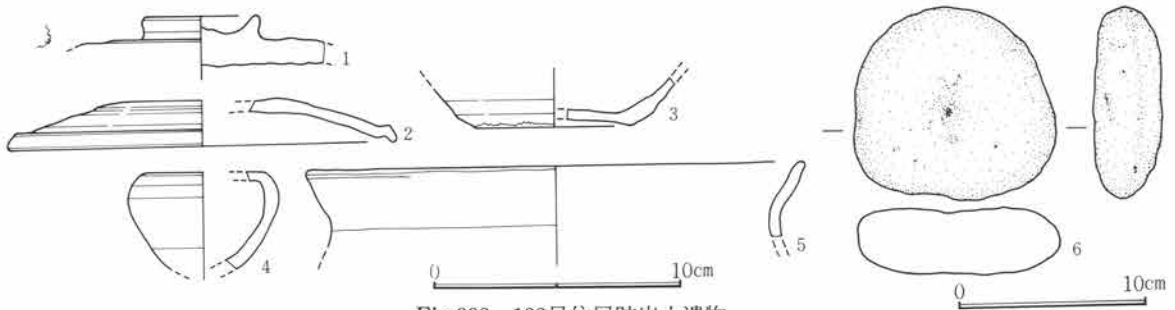


Fig.332 132号住居跡出土遺物

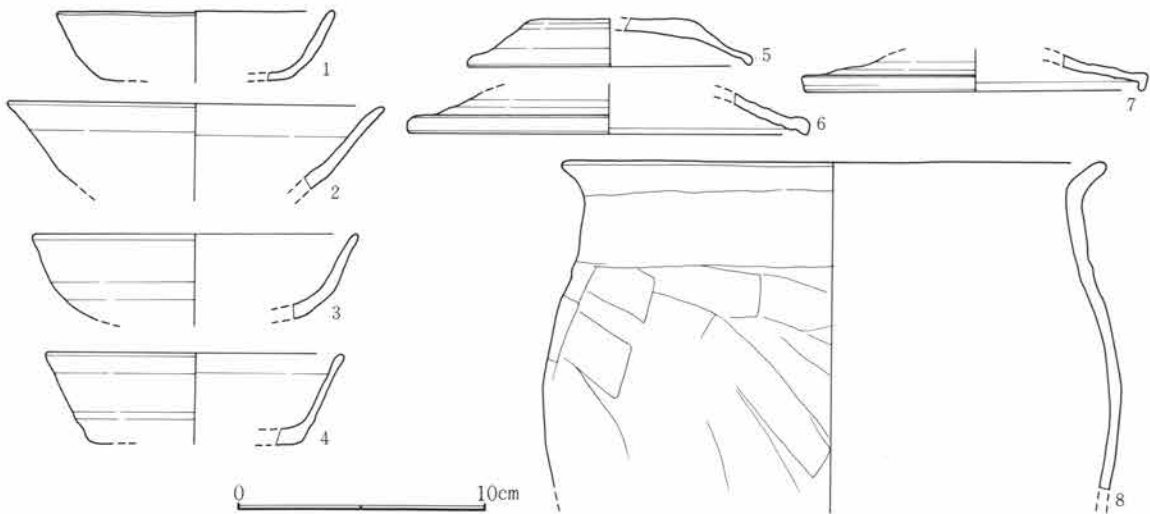


Fig.333 133号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

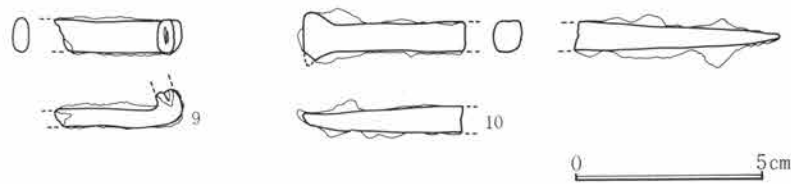


Fig.334 133号住居跡出土遺物(2)

第132号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
332-1 114	須恵器 蓋	径-4.7	覆土	外面回転ヘラ調整	①良好②灰色③密④つまみ部残存
332-2 114	須恵器 坏	口-15.4	覆土	外面回転ヘラ調整	①良好②灰色③細砂粒含む④破片
332-3 114	須恵器 坏	底-6.2	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む④底部破片
332-4 114	須恵器 小壺		覆土	胴部内湾する	①良好②灰色③密④破片
332-5 114	土師器 甕	口-19.8	覆土	口縁部内外面ヨコナデ口縁部外反する	①良好②赤褐色③細砂粒含む④口縁部破片
Fig. 332-6 PL. 114 石 長-10.4cm 幅-10.8cm 厚-3.2cm 粗粒安山岩					

第133号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
333-1 114	須恵器 坏	口-11.0	覆土	口縁部から底部へ弱く曲がる	①良好②橙色③細砂粒含む④口縁~底部残存
333-2 114	須恵器 坏	口-14.8	覆土	口縁部弱く外反する	①良好②灰白色③密④破片
333-3 114	須恵器 坏	口-12.8	覆土	口縁部弱く外湾する	①良好②灰白色③細砂粒含む④口縁部破片
333-4 114	須恵器 坏	口-11.6 高-3.6 底-7.8	覆土	口縁部弱く外湾し轆轤痕残る	①良好②灰白色③細砂粒含むが密④口縁部破片
333-5 115	須恵器 蓋	口-11.2	覆土	つまみ部に向かい厚くなり平坦面をもつ	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含むが密④破片
333-6 115	須恵器 蓋	口-15.8	覆土	端部でやや厚くなり外面にくぼみができる	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④破片
333-7 114	須恵器 蓋	口-13.4	覆土	端部下へ屈曲する外面回転ヘラ調整	①良好②灰白色③密④破片
333-8 114	土師器 甕	口-21.2	覆土	口縁部コの字状を呈し口縁端部外へ屈曲する口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②赤褐色③細砂粒含む④口縁部残存
Fig. 334-9 PL. 115 鉄製品 長-3.5cm 厚-4mm 不明					
Fig. 334-10 PL. 115 鉄製品 長-9.8cm 厚-8mm 刀子?					

134号住居跡 (Fig. 335・336・337・338、PL. 26・115)

G区中央部に位置し39~41G21~24の範囲にある。他の遺構との関係は北西部で132・133号住居跡と重複している。新旧関係は他の2住居跡より新しい。規模は長辺4.8m、短辺3.3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約40cm~50cmを測り、主軸方位はN-84°-Eである。床面は平坦をなし、西壁、南壁の一部に幅約20cm~30cm、深さ約2cm~3cmの周溝が検出された。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約70cm、同長約70cmを測る。

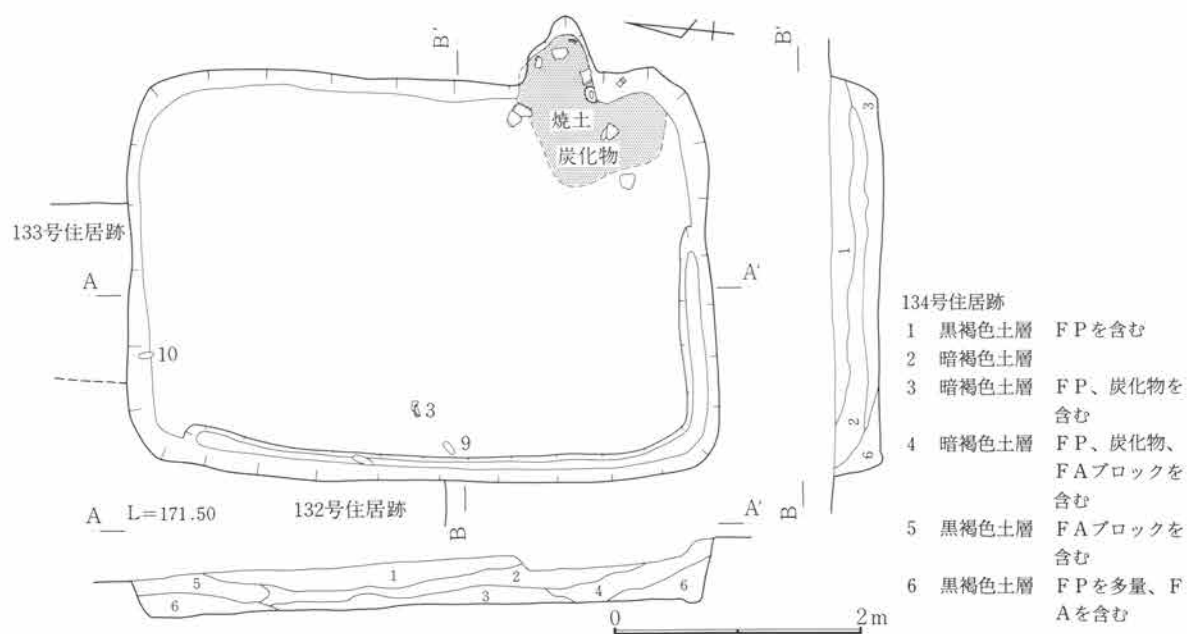


Fig.335 134号住居跡

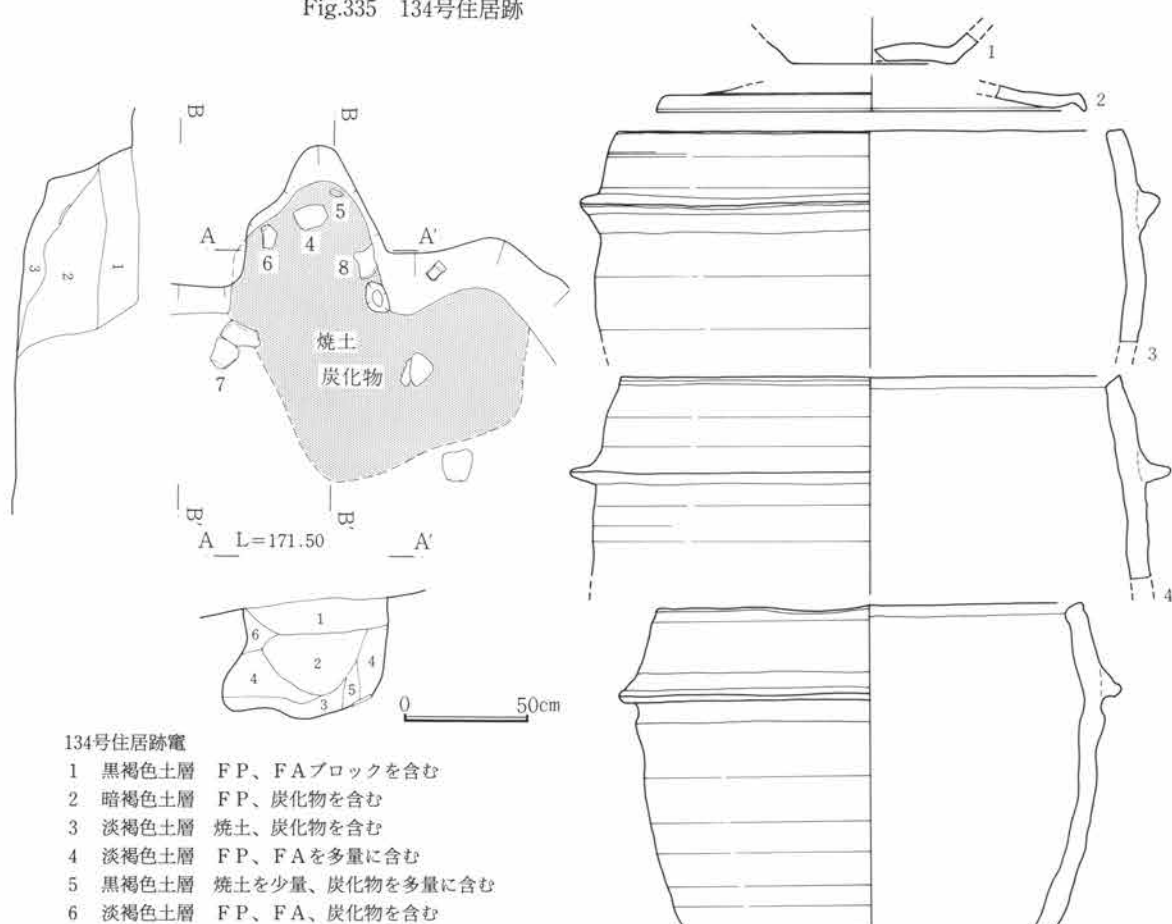


Fig.336 134号住居跡竈

Fig.337 134号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

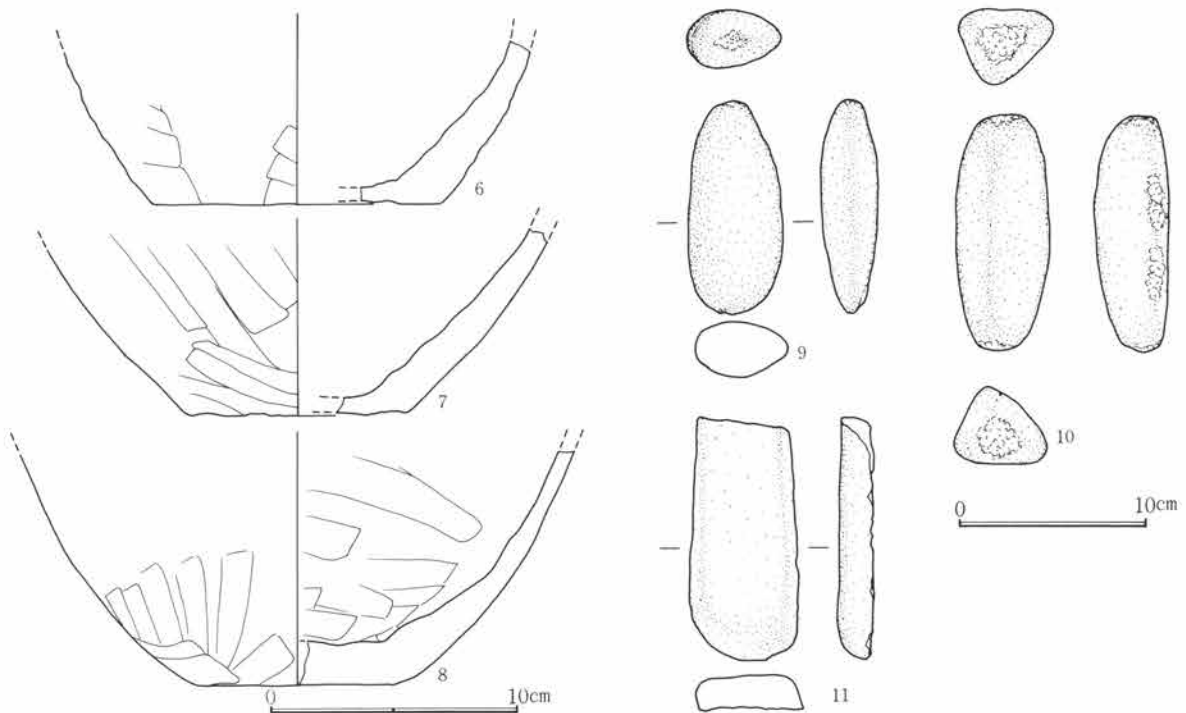


Fig.338 134号住居跡出土遺物(2)

第134号住居跡出土遺物観察表

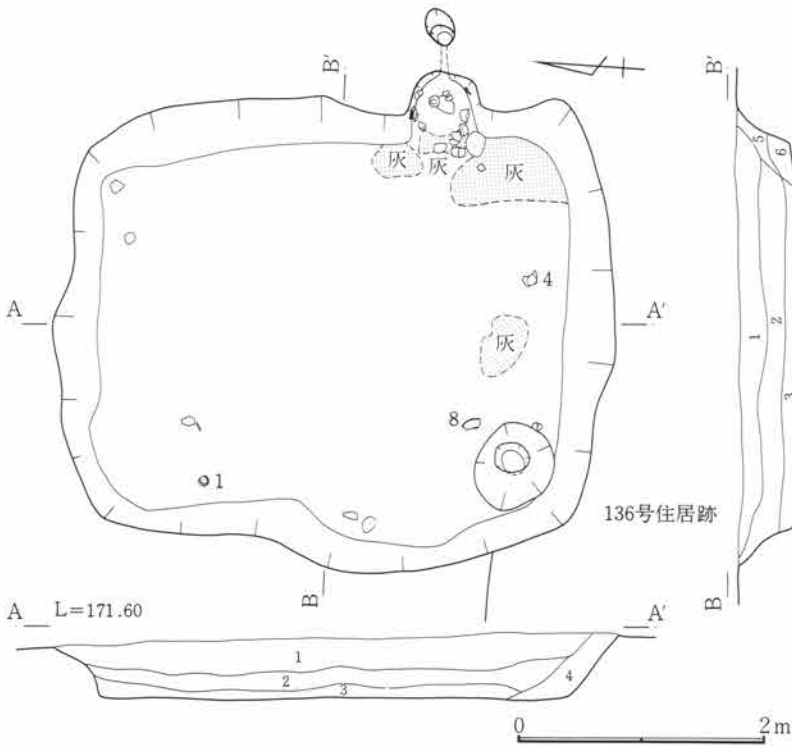
Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
337-1 115	須恵器 坏	底-6.4	覆土	底部回転糸切	①良好②褐灰色③細砂粒含む④底部破片
337-2 115	須恵器 蓋	口-17.0	覆土	外面回転ヘラ調整	①良好②灰色③細砂粒含む④破片
337-3	羽釜	口-20.0	No.3	銕低く上を向く口縁部内傾する	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片
337-4 115	羽釜	口-19.7	No.4	銕薄く横を向く口縁部内傾する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
337-5 115	羽釜	口-16.7	No.5	銕低く下を向く下胴部ヘラケズリ口縁部内傾する	①良好②褐灰色③細砂粒含む④口縁~胴部破片
338-6 115	土師器 甕	底-11.3	No.6	外面ヘラケズリ	①良好②褐灰色③3~4mmの砂粒含む④底部破片
338-7 115	土師器 甕	口-8.7	No.7	外面ヘラケズリ内面ナデ	①良好②にぶい赤褐色③3~4mm砂粒含む④底部破片
338-8 115	土師器 甕	底-7.8	No.8	外面ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②淡橙色③細砂粒含む④底部破片
Fig. 338-9	PL. 115	石 長-11.4cm 幅-3.0cm 厚-3.0cm	先端部に使用痕 粗粒安山岩		
Fig. 338-10	PL. 115	石 長-12.4cm 幅-5.0cm 厚-4.0cm	粗粒安山岩		
Fig. 338-11	PL. 115	石 長-12.8cm 幅-5.8cm 厚-1.9cm	粗粒安山岩		

135号住居跡 (Fig. 339・340・341・342、PL. 26・27・115・116)

G区中央部に位置し39~42G19~21の範囲にある。他の遺構との関係は南西部で136号住居跡と重複している。新旧関係は136号住居跡より新しい。規模は長辺4.55m、短辺3.8mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約40cm~50cmを測り、主軸方位はN-88°-Eである。床面は平坦をなし壁周溝等の諸施設は検出されていない。南西コーナーに約70cm×60cm、深さ約35cmの小穴が検出された。北東コーナーにも小穴が検出され規模は約30cm×20cm、深さ約20cmを測る。また北西コーナーに約20cmの落ち込みが検出された。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約50cm、同長約60cm、煙道部長約50cmを測る。煙道部は煙り出しの小

第1節 竪穴住居跡

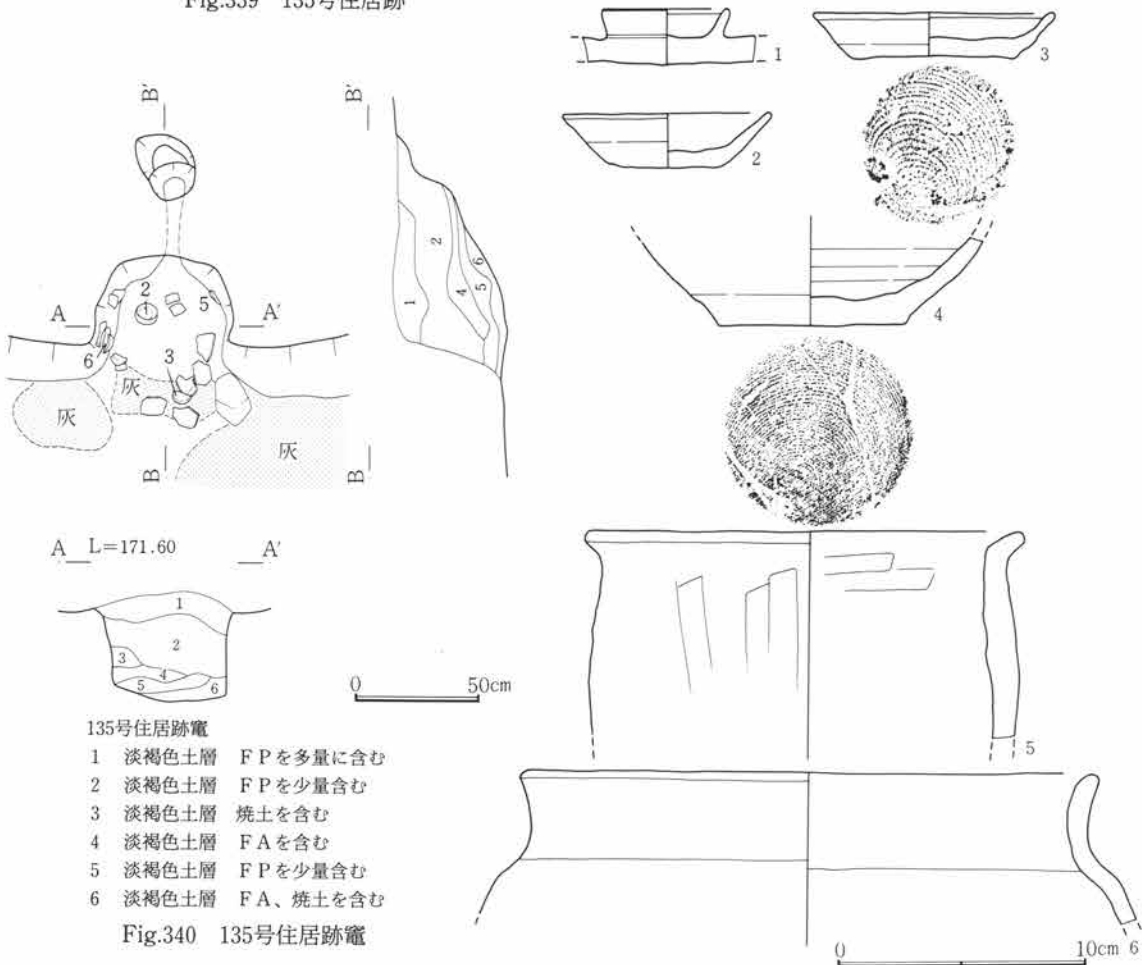
穴が検出されている。右側袖部に石が検出されている。



135号住居跡

- 1 黒褐色土層 FPを多量に含む
- 2 暗褐色土層 FPを少量含む
- 3 褐色土層
- 4 黄褐色土層 砂質土
- 5 暗褐色土層 FPを少量含む
- 6 黄褐色土層

Fig.339 135号住居跡



135号住居跡竈

- 1 淡褐色土層 FPを多量に含む
- 2 淡褐色土層 FPを少量含む
- 3 淡褐色土層 焼土を含む
- 4 淡褐色土層 FAを含む
- 5 淡褐色土層 FPを少量含む
- 6 淡褐色土層 FA、焼土を含む

Fig.340 135号住居跡竈

Fig.341 135号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

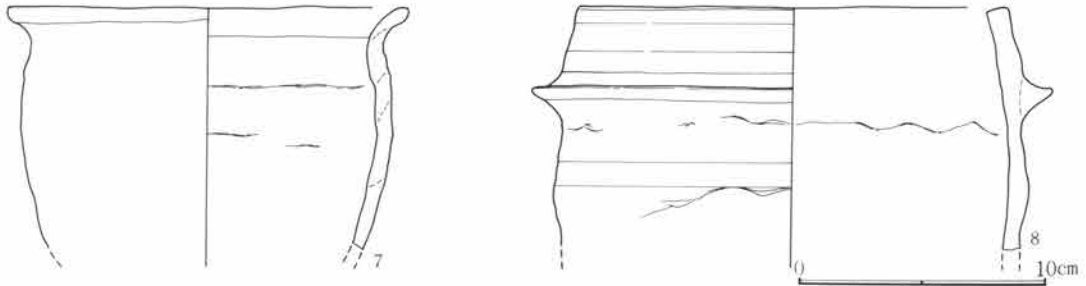


Fig.342 135号住居跡出土遺物(2)

第135号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
341-1 115	須恵器 蓋	径-5.2	No.1		①良好②灰色③密④つまみ部残存
341-2 115	須恵器 坏	口-8.3	No.2	底部ナデ調整糸切痕見えず	①良好②にふい橙色③細砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存
341-3 115	須恵器 皿	口-9.6	No.3	底部回転糸切右廻り	①良好②にふい橙色③細砂粒含む④ $\frac{3}{4}$ 残存
341-4 116	須恵器 坏	底-7.4	No.4	底部回転糸切右廻り	①良好②にふい黄橙色③細砂粒含む④底部残存
341-5 116	土師器 甕	口-17.5	No.5	外面ヘラケズリ内面ナデ口縁端部短く外側へ屈曲する	①良好②褐色③2~3mmの砂粒含む④口縁部破片
341-6 115	土師器 甕	口-23.0	No.6	口縁部内外面ヨコナデ口縁部外反する	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
342-7 115	土師器 甕	口-16.0	No.7	外面ヘラケズリ磨滅ひどく不明瞭内面輪積痕口縁部外反する	①軟質②にふい赤褐色③2~3mm砂粒含む④口縁部破片
342-8 115	羽釜	口-17.0	No.8	口縁部やや内傾し内外面に輪積痕残る	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存

136号住居跡 (Fig. 343・344、PL. 27・116)

G区中央部に位置し40~42G17~19の範囲にある。他の遺構との関係は北東部で135号住居跡と重複している。新旧関係は135号住居跡が新しい。規模は長辺3.4m、短辺2.85mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cm~15cmを測り、主軸方位はN-88°-Eである。床面は平坦をなし、南東コーナーに約60cm×50cm、深さ約15cmの小穴が検出された。竈は東壁南寄りに検出された。規模は袖幅約50cm、燃烧部長約50cmを測る。竈の両袖部には袖材の石が検出された。



Fig.343 136号住居跡

- 136号住居跡竈
- 1 暗褐色土層 F P、焼土を少量含む
 - 2 黒褐色土層 焼土、炭化物を含む
 - 3 暗褐色土層 F P、F Aを含む
 - 4 暗褐色土層 焼土、炭化物、F Aブロックを含む

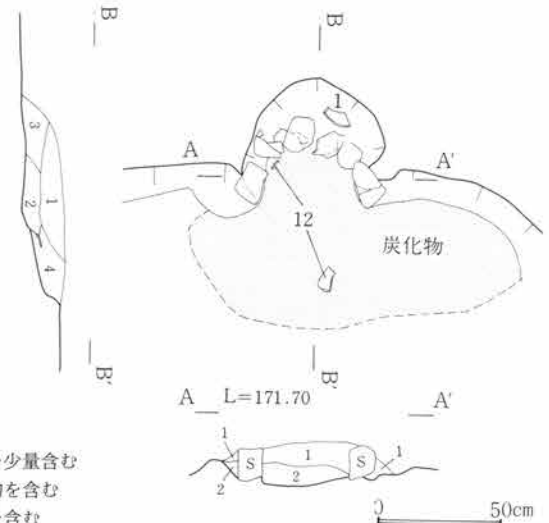


Fig.344 136号住居跡竈

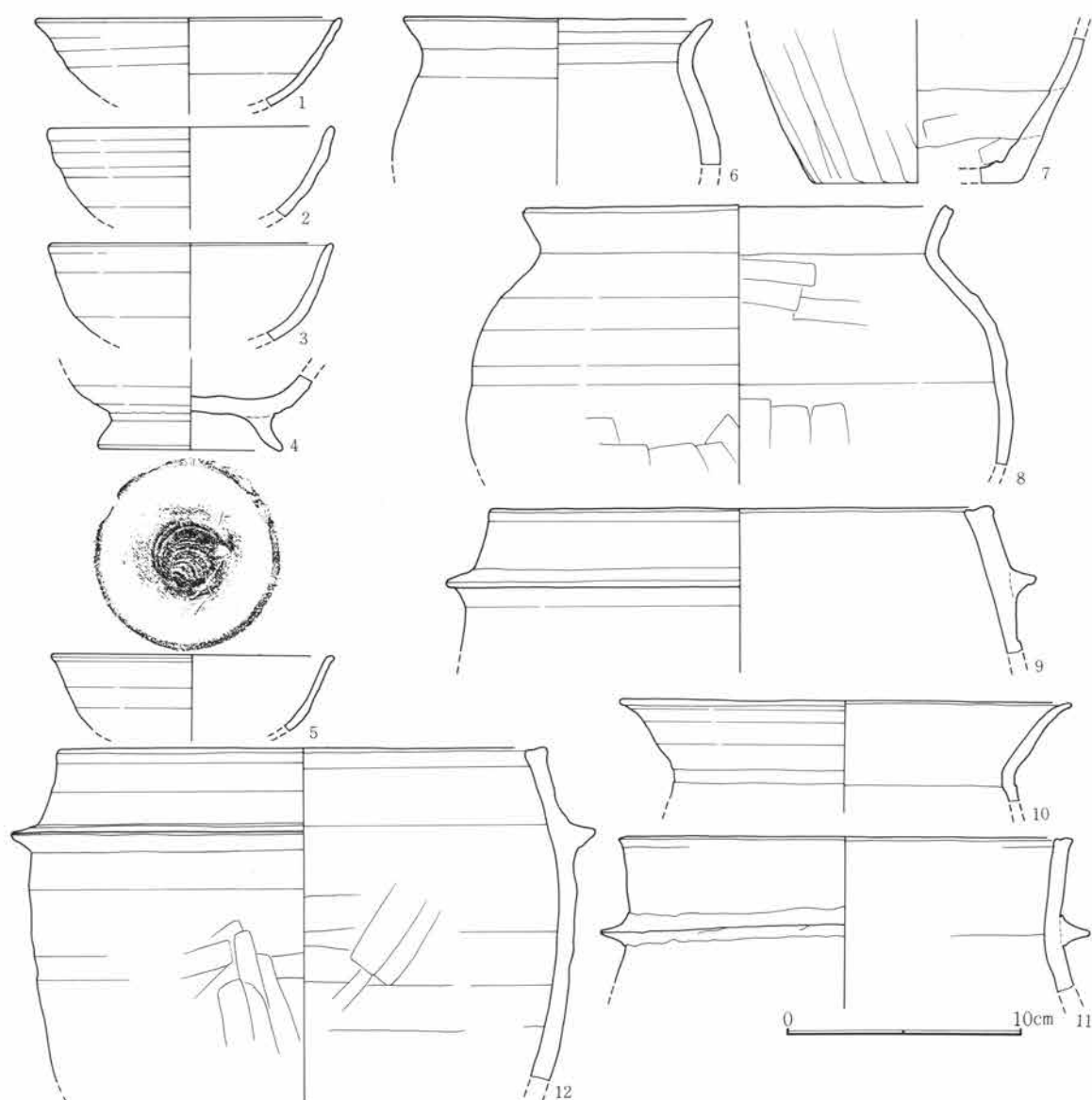


Fig.345 136号住居跡出土遺物

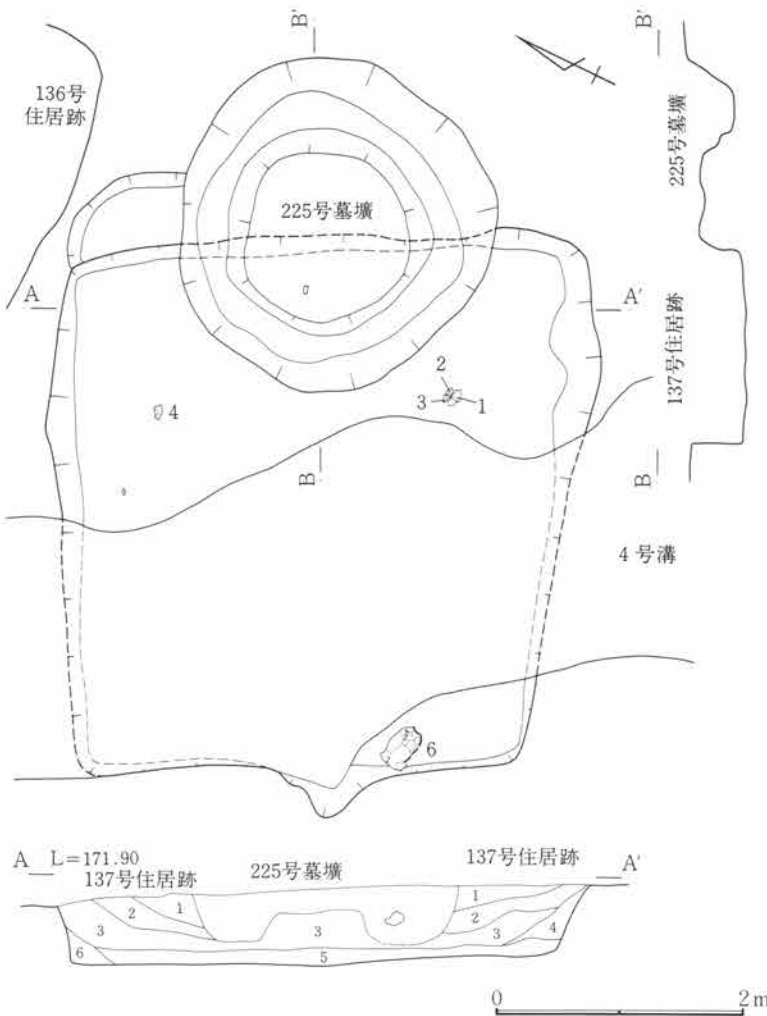
第136号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
345-1 116	須恵器 坏	口-12.8	No.1	外面轆轤成形痕残る口縁部内湾して立ち上がる	①良好②褐灰色③2~3mmの砂粒含む④口縁部残存
345-2 116	須恵器 坏	口-12.6	覆土	口縁部内湾して立ち上がる	①良好②褐灰色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
345-3 116	須恵器 坏	口-16.0	覆土	緩やかに内湾する	①良好②灰色③2~3mmの砂粒含む④口縁部破片
345-4 116	須恵器 堿	底-7.6	覆土	やや足高台底部回転糸切	①良好②灰褐色③1~2mmの砂粒含む④底部残存
345-5 115	灰釉陶器 堿	口-12.0	覆土	口縁部短く屈曲する	①良好②灰白色③密④口縁部破片
345-6 116	土師器 甕	口-13.0	覆土	口縁部外傾し胴部に向かい器壁厚くなる口縁部ヨコナデ内面ナデ	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
345-7 116	羽釜	底-8.6	覆土	外面ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②明褐色③2~3mmの砂粒含む④底部残存
345-8 116	土師器 甕	口-17.7	竈覆土	口縁先端部沈線入る口縁部ヨコナデ胴下部ヘラケズリ内面ヘラナデ後ナデ口縁部外反する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部残存

第2章 検出された遺構と遺物

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
345-9 116	羽釜	口-21.0	覆土	口縁部内傾する鈎横を向き丁寧な調整	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁部破片
345-10 116	土師器 甕	口-19.0	覆土	口縁先端部弱く屈曲する口縁部ヨコナデ	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁部破片
345-11 116	羽釜	口-19.0	竈覆土	口縁部弱く外傾し鈎歪む鈎下からやや胴部膨らむ 口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
345-12 116	羽釜	口-20.6	No12	口縁部内傾し鈎横を向く胴部ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②褐色③2~3mmの砂粒含む④破片

137号住居跡 (Fig. 346・347・348, PL. 27・116・117)



- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 137号住居跡 | 225号墓墳 (P269) |
| 1 暗褐色土層 FP、FAを少量含む | 1 暗褐色土層 炭化物を多量に含む |
| 2 灰褐色土層 FAを含む | 2 暗褐色土層 炭化物を少量含む |
| 3 暗褐色土層 FPを含む、FAを少量含む | 3 暗褐色土層 |
| 4 淡褐色土層 FAを多量に含む | |
| 5 淡褐色土層 FA、FPを含む | |
| 6 暗褐色土層 FAブロックを含む | |

Fig.346 137号住居跡・225号墓墳

G区中央部に位置し40~42G 15~17の範囲にある。136号住居跡の南にある。他の遺構との関係は東部で154号土坑、225号墓墳と重複している。新旧関係は154号土坑より新しく225号墓墳より古い。また中央の大半を住居跡より新しい4号溝により壊されている。規模、平面形態は不明であるが東壁は4.5mを測る。壁高は約40cmを測り、床面は平坦をなし、貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。

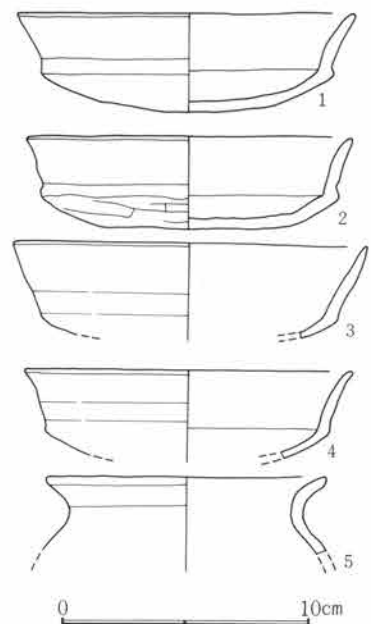


Fig.347 137号住居跡出土遺物(1)

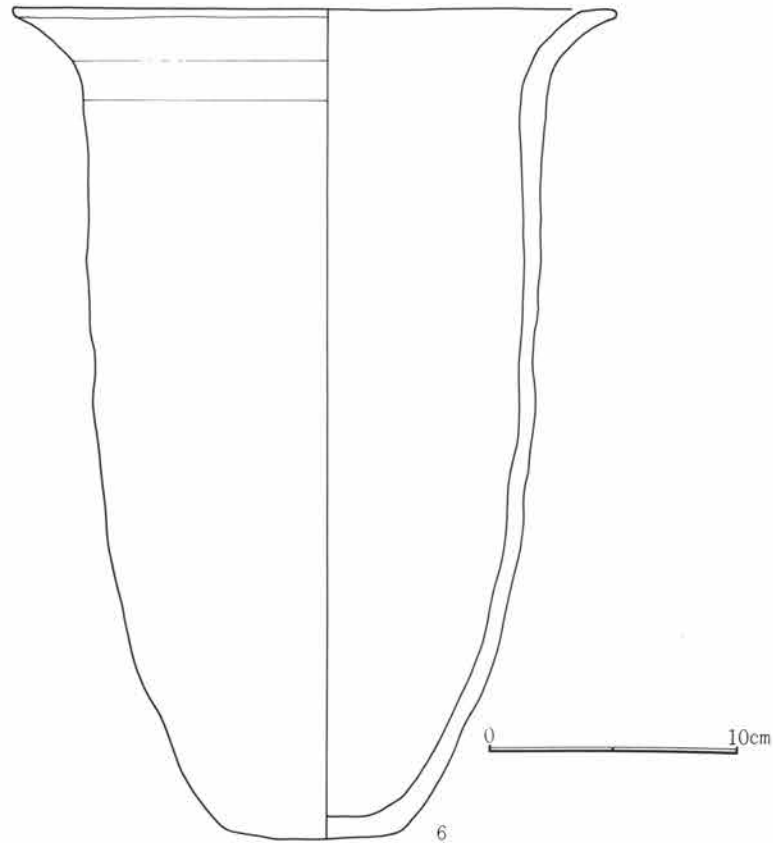


Fig.348 137号住居跡出土遺物(2)

第137号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
347-1 116	土師器 坏	口-13.4	No.1	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部稜をもち外反する	①良好②明橙色③細砂粒含む④残存
347-2 116	土師器 坏	口-13.0	No.2	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部稜をもち外反する	①良好②明橙色③細砂粒含む④残存
347-3 116	土師器 坏	口-14.0	No.3	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部稜をもち外傾する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
347-4 116	土師器 坏	口-13.0	No.4	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部稜をもち外反する	①良好②明橙色③細砂粒含む④口縁部破片
347-5 116	土師器 甕	口-11.0	覆土	口縁部外湾する	①良好②にぶい赤褐色③細砂粒含む④口縁部破片
348-6 117	土師器 甕	口-24.0 高-32.7 底-6.9	No.6	口縁先端部やや厚く外湾する口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ後全面ナデが入る内面ナデ	①やや軟質②褐灰色③1~2mmの砂粒含む④残存

138号住居跡 (Fig. 349・350・351、PL. 27・28・116・117・118)

G区東部に位置し36~38G15・16の範囲にある。137号住居跡の南西にある。他の遺構との重複関係はない。規模は長辺3.8m、短辺3.4mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約40cm~50cmを測り、主軸方位はN-82°-Eである。床面は平坦をなし、貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は袖幅約60cm、燃焼部長約40cm、煙道部長約40cmを測る。

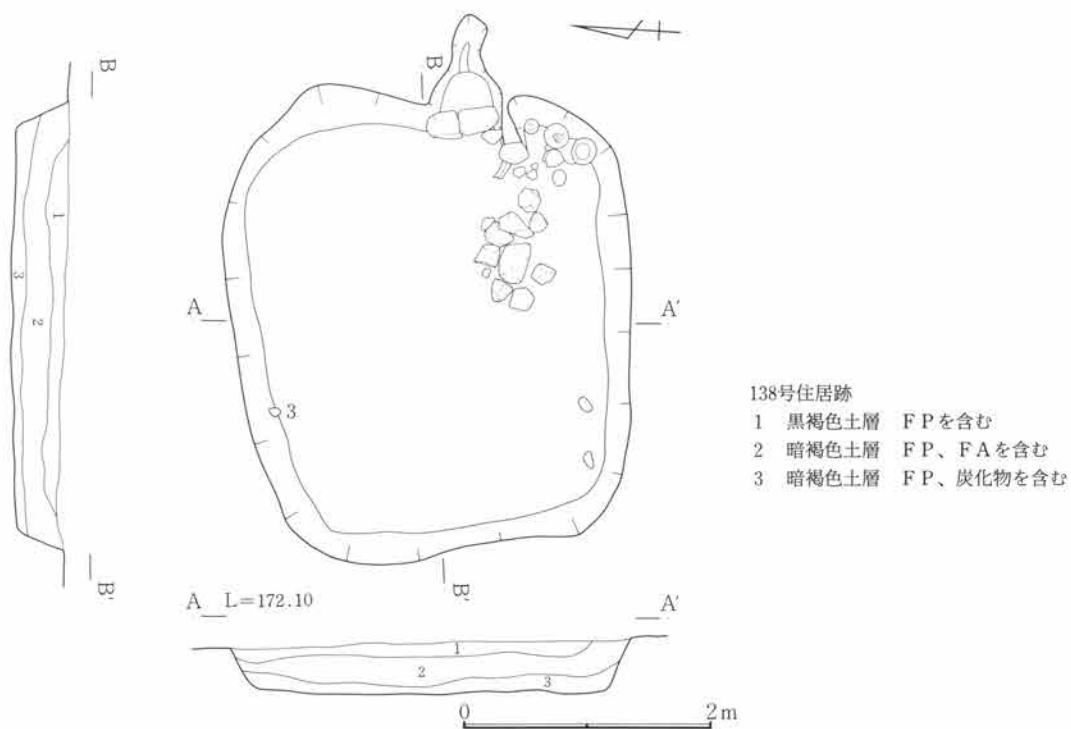


Fig.349 138号住居跡

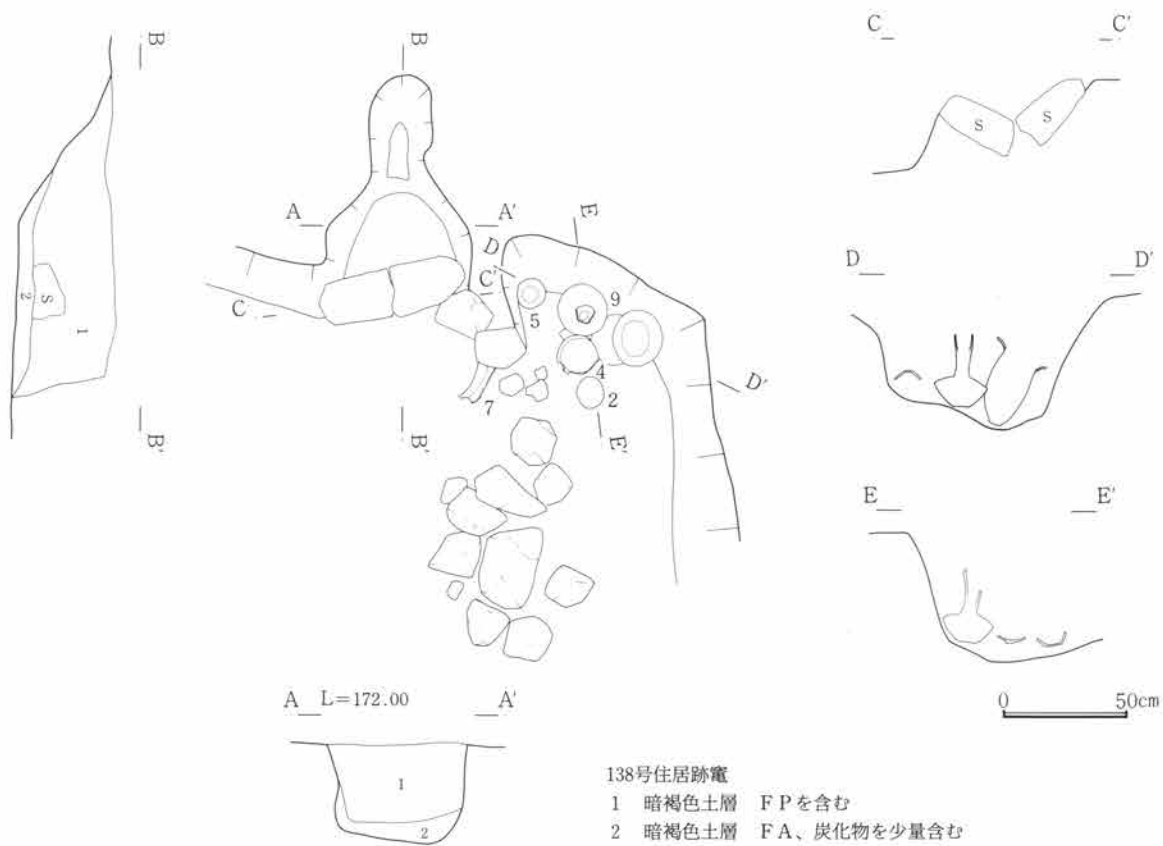


Fig.350 138号住居跡竈

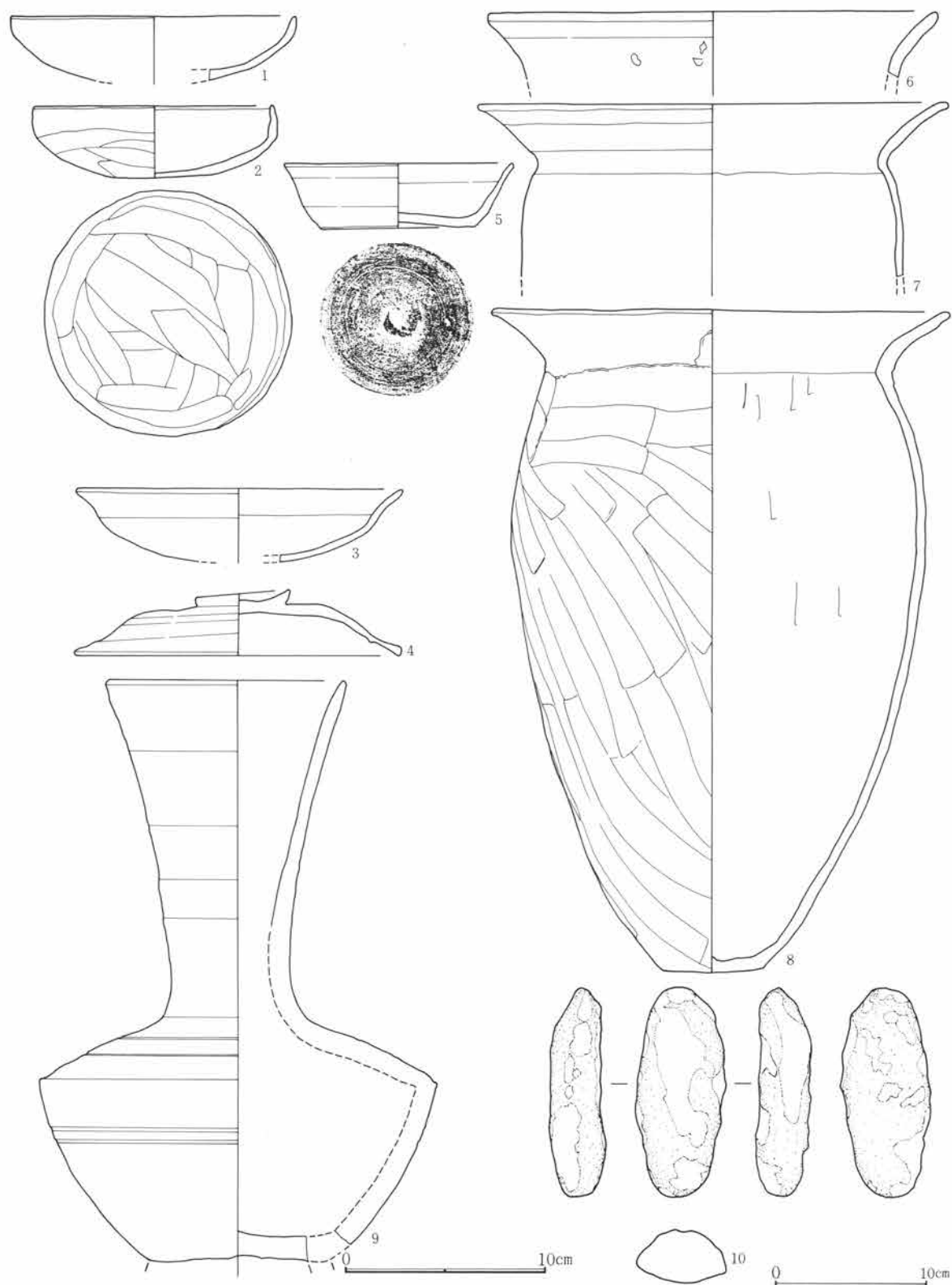


Fig.351 138号住居跡出土遺物

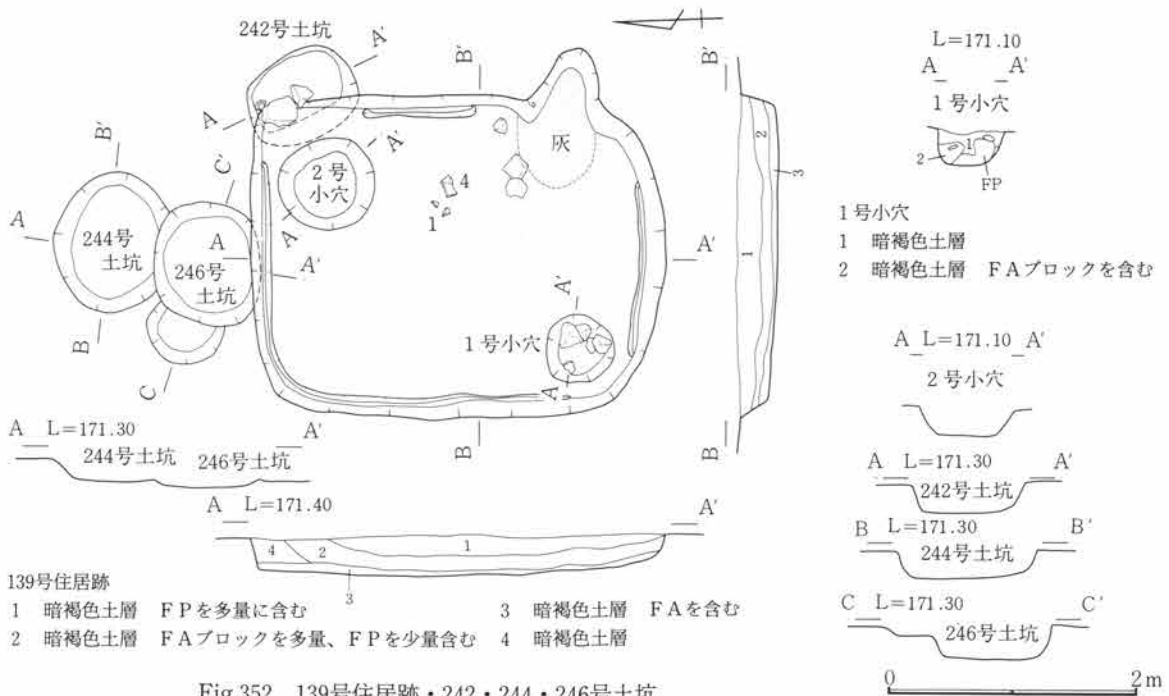
第138号住居跡出土遺物観察表

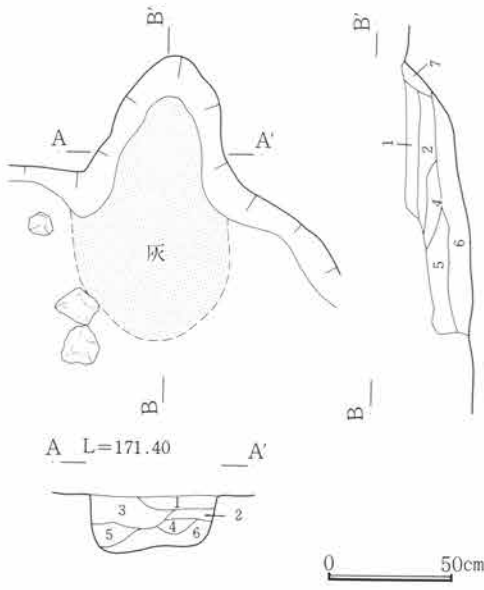
Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
351-1 116	土師器 坏	口-14.0	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部直立ぎみ	①良好②ぶい橙色③細砂粒含む④破片
351-2 116	土師器 坏	口-11.7 高-3.5	№2	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部直立ぎみ	①良好②橙色③細砂粒含む④完形
351-3 117	土師器 坏	口-16.0	№3	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部稜をもち外反する	①良好②褐色③細砂粒含む④残存
351-4 117	須恵器 蓋	口-15.8 高-4.0	№4	内面返りがある外面回転ヘラ調整	①良好②灰色③細砂粒含む④ほぼ完形
351-5 116	須恵器 坏	口-11.2 高-3.1 底-7.5	№5	底部回転ヘラ切後回転ヘラ調整口縁部直線状に外傾する	①良好②灰色③細砂粒含む④密④ほぼ完形
351-6 116	土師器 甕	口-22.0	覆土	口縁部ヨコナデ口縁部外反する	①良好②橙色③細砂粒含む④口縁部破片
351-7 118	土師器 甕	口-23.0	№7	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部外反する	①良好②橙色③細砂粒含む④口縁部残存
351-8 117	土師器 甕	口-22.4 高-32.4 底-5.0	覆土	口縁部やや厚く外傾する口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデヘラ痕残る	①良好②赤褐色③1~2mmの砂粒含む④完形
351-9 117	須恵器 長頸壺	口-11.8	№9	口縁部緩やかに外傾する体部上下段2本の沈線が入る底部付高台欠落	①良好②灰色③細砂粒含む④密④口縁部高台部欠損

Fig. 351-10 PL. 117 石長-13.7cm 幅-3.3cm 厚-3.4cm 石英閃緑岩

139号住居跡 (Fig. 352・353・354, PL. 28・117・118)

G区中央部に位置し50・51G20~22の範囲にある。他の遺構との関係は北東コーナーで242号土坑、北壁で246号土坑、南壁で140号住居跡と重複している。新旧関係は土坑より139号住居跡が新しい。規模は長辺3.3m、短辺3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cmを測り、主軸方位はN-91°-Eである。床面は平坦をなし、幅約10cm、深さ約5cm~6cmの壁周溝が検出された。南西コーナー、北東コーナーに小穴が検出され各々1号・2号とした。1号は径約80cm、深さ約20cmを測り、2号は径約50cm、深さ約20cmを測る。1号小穴覆土内からは大型の石が検出されている。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約50cm、同長約60cmを測る。





139号住居跡竈

- 1 淡褐色土層 FAを含む
- 2 暗褐色土層 焼土、炭化物を含む
- 3 暗褐色土層 焼土、炭化物を多量に含む
- 4 暗褐色土層 FA、焼土を少量含む
- 5 淡褐色土層 FAブロックを含む
- 6 淡褐色土層 FAブロック、焼土、炭化物を含む
- 7 淡褐色土層 焼土、炭化物を多量に含む

Fig.353 139号住居跡竈

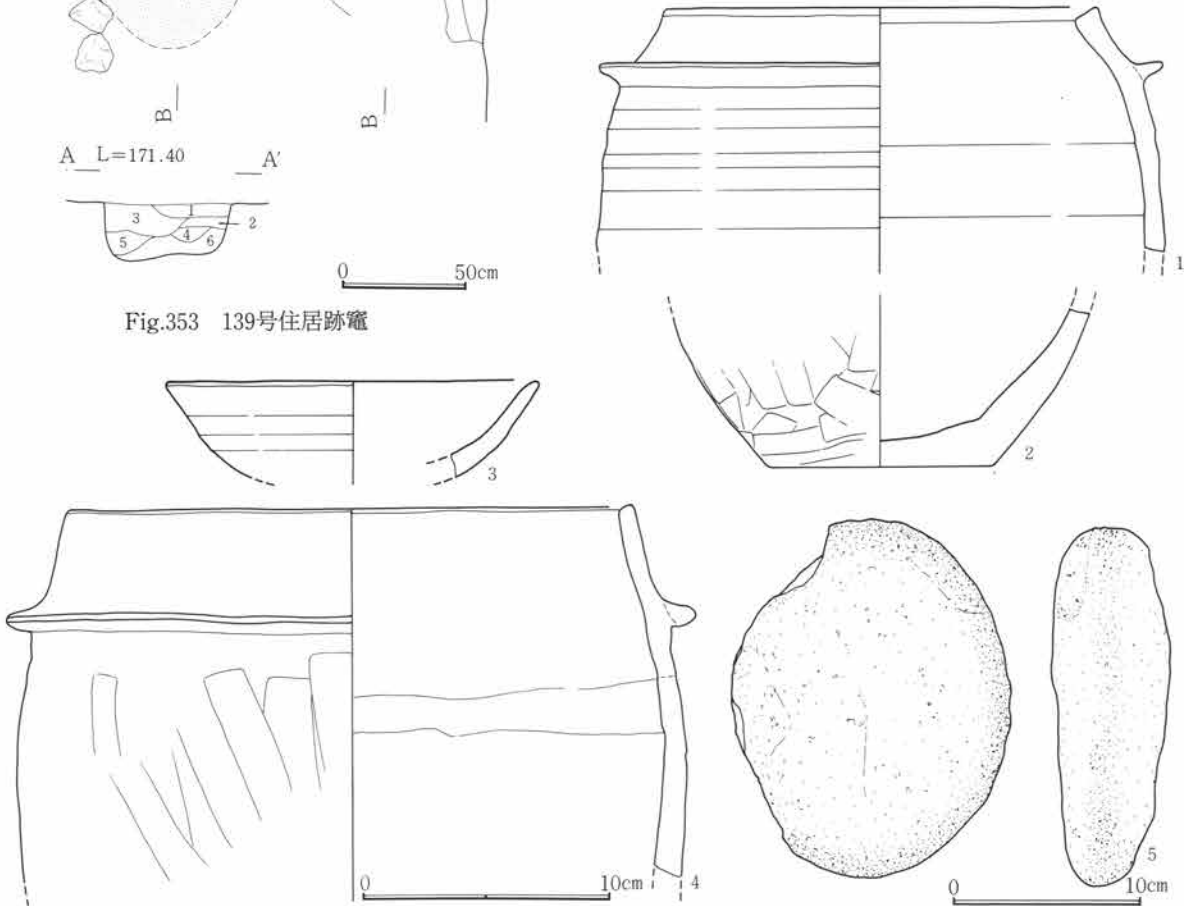


Fig.354 139号住居跡出土遺物

第139号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
354-1 118	羽釜	口-17.2	No.1	口縁部内湾する鑄上を向く胴部轆轤調整痕明瞭	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④口縁部残存
354-2 117	須恵器 甕	底-8.8	覆土	外面ヘラケズリ内面ナデ	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④底部破片
354-3 118	須恵器 坏	口-14.8	覆土	口縁部に向い弱く外湾する	①良好②にぶい黄褐色③細砂粒含む④口縁部破片
354-4 118	羽釜	口-22.4	No.4	口縁部緩やかに内傾する鑄断面丸みをもち下を向く胴部ヘラケズリ	①良好②鈍い赤褐色③1~2mm砂粒含む④口縁~胴部破片
Fig. 354-5 PL. 117 石 長-19.2cm 幅-6.4cm 厚-6.4cm 石英閃緑岩					

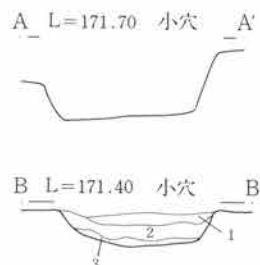
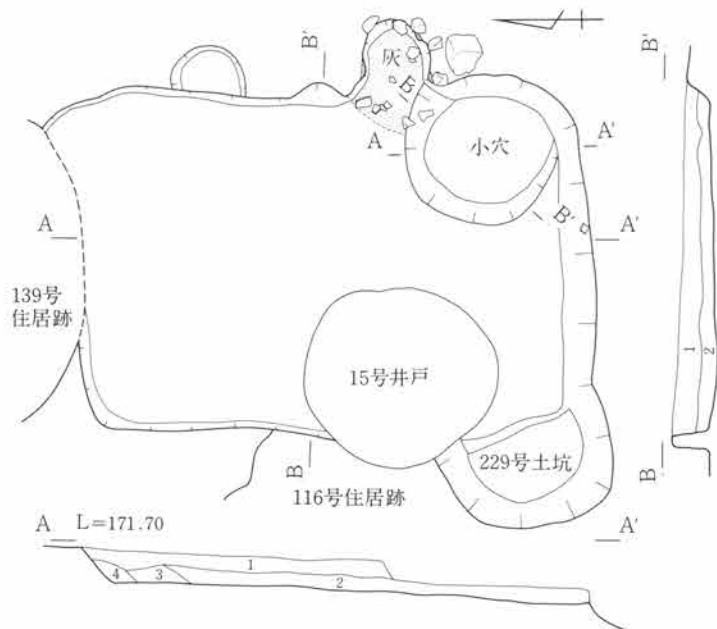
140号住居跡 (Fig. 355・356・357・358、PL. 28・118)

G区中央部に位置し50・51G18~20の範囲にある。97号住居跡の北にある。他の遺構との関係は北壁で139号住居跡、南西コーナーで229号土坑と重複している。新旧関係は139号住居跡より旧く、土坑より新しい。

第2章 検出された遺構と遺物

また住居跡より新しい15号井戸が床を壊している。規模は長辺4.4m、短辺2.8mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は南壁で約30cm、他の壁は約10cmを測る。主軸方位はN-89°-Eである。南東コーナー竈脇に小穴が検出された。規模は径約120cmの円形を呈し深さ約25cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。規模

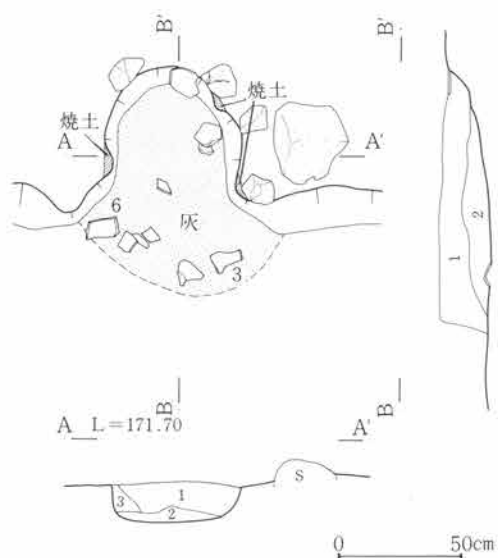
は燃烧部幅約55cm、同長約60cmを測る。竈の壁に沿い石が検出された。



- 小穴
- 1 淡褐色土層 炭化物を少量含む
 - 2 淡褐色土層 FAブロックを含む
 - 3 灰褐色土層 焼土、FAを含む

- 140号住居跡
- 1 黒褐色土層 FPを多量に含む
 - 2 暗褐色土層 FAを含む
 - 3 褐色土層 FAブロックを含む
 - 4 褐色土層 FAを多量に含む

Fig.355 140号住居跡



- 140号住居跡竈
- 1 灰褐色土層 FPを含む
 - 2 暗褐色土層 焼土、炭化物を含む
 - 3 暗褐色土層 焼土、炭化物を多量に含む

Fig.356 140号住居跡竈

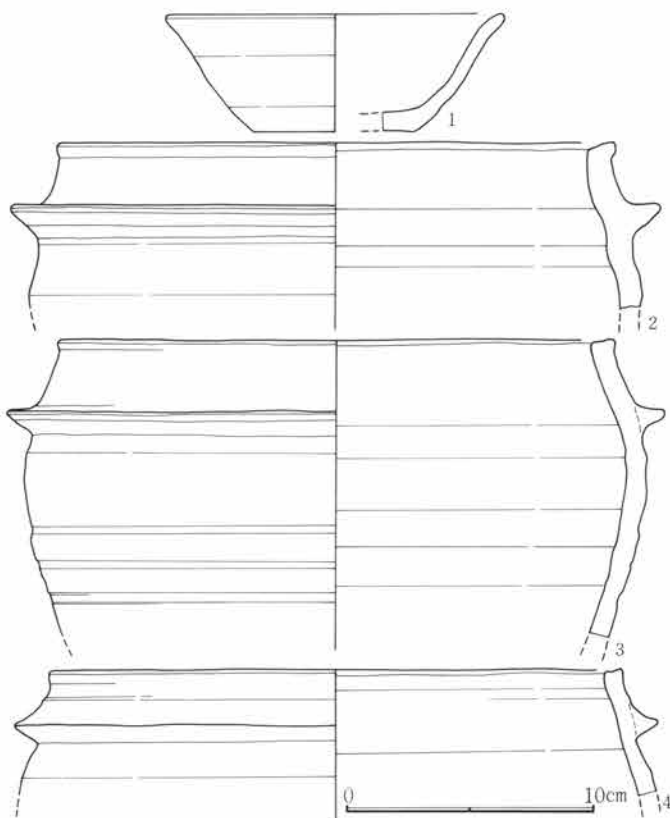


Fig.357 140号住居跡出土遺物(1)

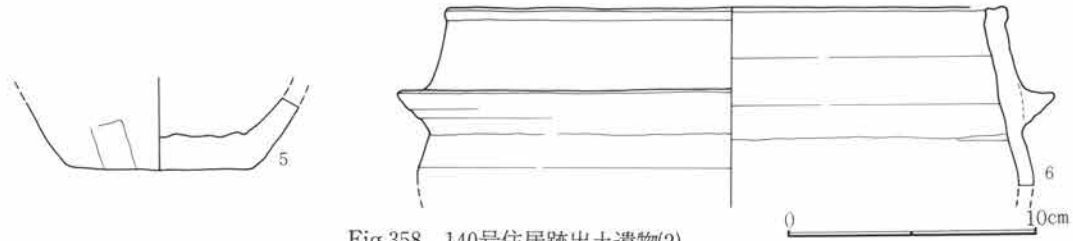


Fig.358 140号住居跡出土遺物(2)

第140号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
357-1 118	須恵器 坏	口-13.4 高-4.6 底-6.2	竈 覆土	口縁部でやや外湾する	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④口縁~底部破片
357-2 118	羽釜	口-22.0	覆土	口縁部外側へ屈曲する鋳上を向く	①良好②褐灰色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
357-3 118	羽釜	口-22.0	No.3	口縁部内傾する内外面共に轆轤調整痕跡瞭然を向く	①良好②褐灰色③細砂粒含む④口縁部破片
357-4 118	羽釜	口-22.6	覆土	鋳三角形で横を向く口縁部内傾する	①良好②褐黄灰色③2~3mmの砂粒含む④口縁部破片
358-5 118	土師器 甕	底-7.4	覆土	内外面へラナデ痕	①良好②黄灰色③1~2mmの砂粒含む④底部残存
358-6 118	羽釜	口-23.0	No.6	口縁部で外側へやや外湾する鋳上を向く内面へラナデ	①良好②褐灰色③細砂粒含む④口縁部残存

145号住居跡 (Fig. 359・360・361、PL. 28・29・119)

G区南部に位置し45~47G 2~4の範囲にある。95号住居跡の西にある。他の遺構との関係は北西部で96号住居跡と重複している。新旧関係は96号住居跡が新しい。また住居跡内南に145号住居跡より新しい13号井戸があり床面を壊されている。規模は長辺4.9m、短辺4.7mを測り、平面形態は隅丸方形を呈するものと思われる。

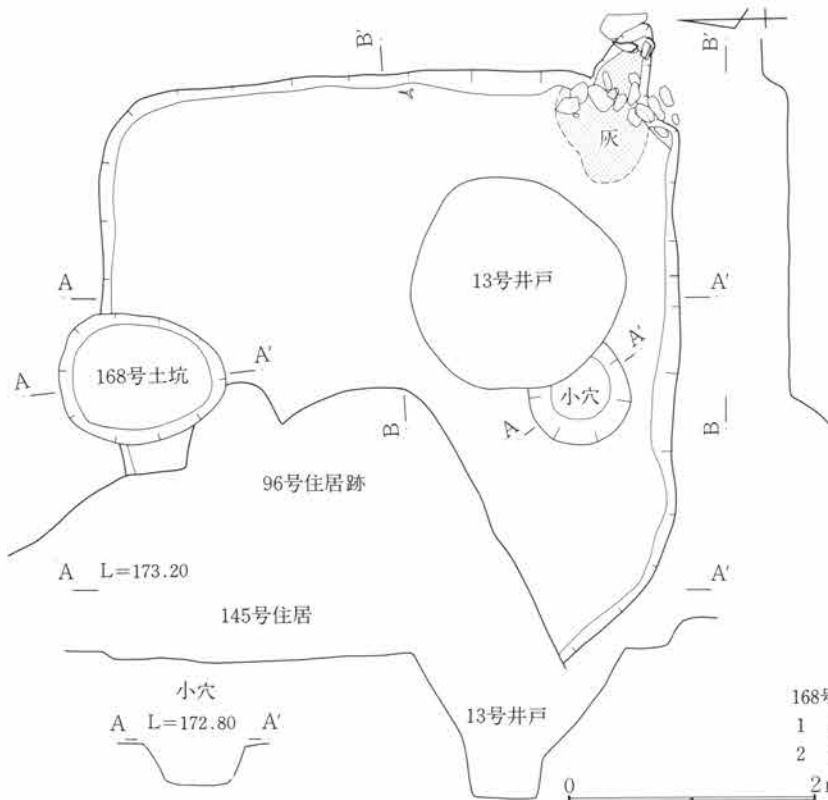
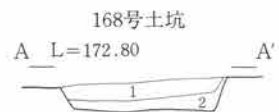


Fig.359 145号住居跡・168号土坑

壁高は約10cm~20cmを測り、主軸方位はN-89°-Eである。床面は平坦をなし、貯蔵穴・壁周溝等の諸施設は検出されていない。床面南寄り13号井戸の西に接し小穴が検出された。規模は径約70cmの円形を呈し、深さ約35cmを測る。竈は南東コーナーに検出された。規模は袖幅約50cm、燃烧部長約60cmを測る。燃烧



168号土坑
1 褐色土層 FP、FAブロックを含む
2 黒褐色土層 炭化物を含む

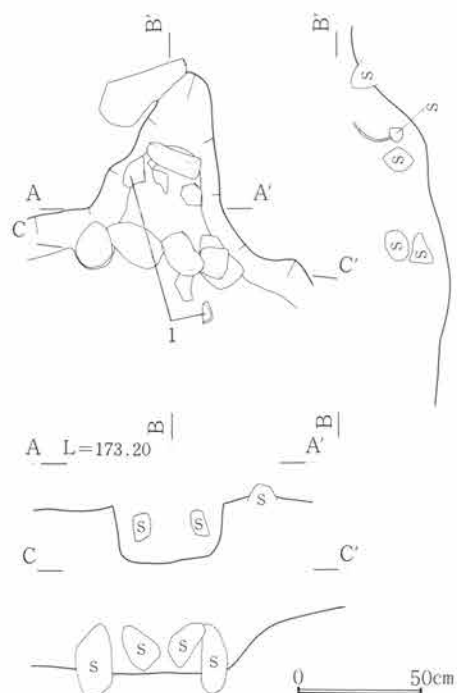


Fig.360 145号住居跡竈

部両袖部には袖石が検出され燃焼部内にも石が検出された。

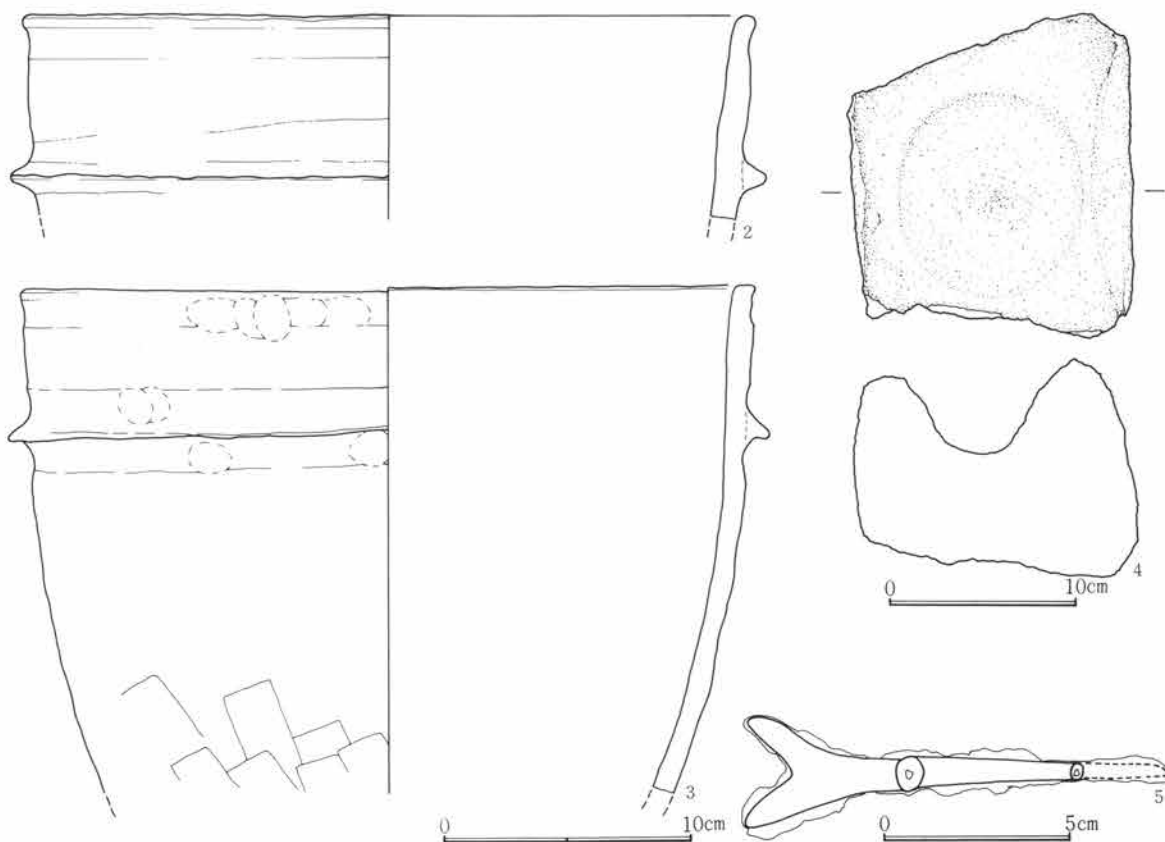
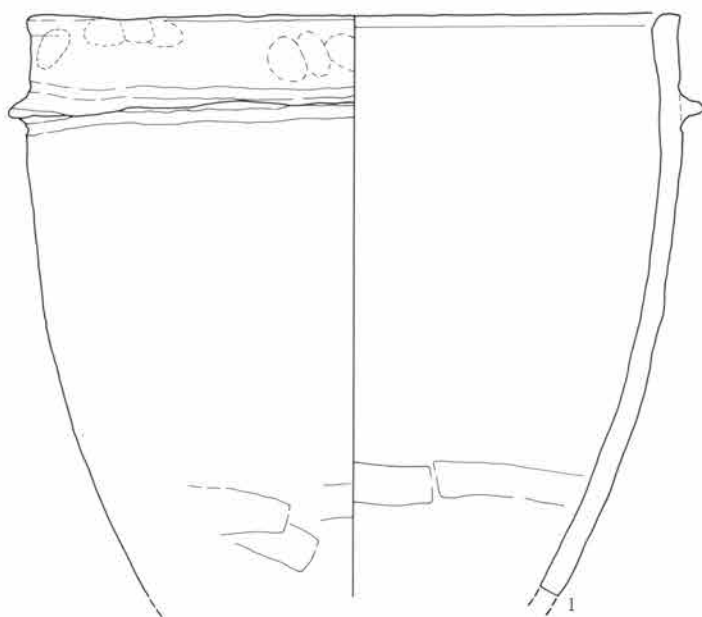


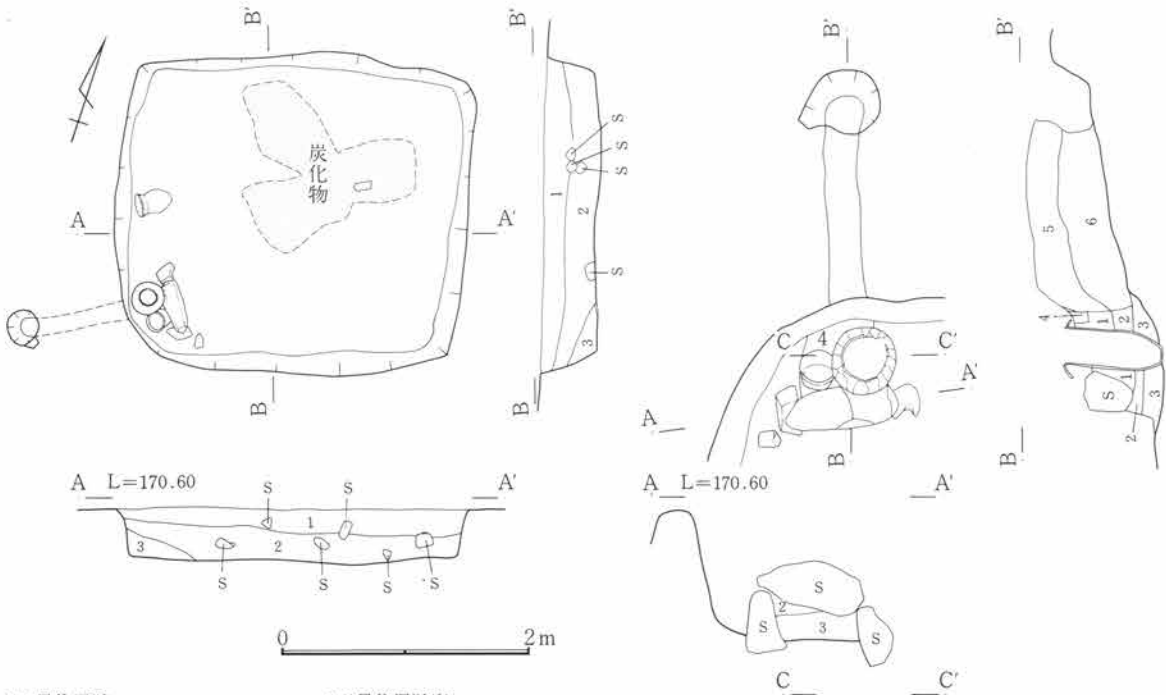
Fig.361 145号住居跡出土遺物

第145号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ③胎土 ②色調 ④残存
361-1 119	甗	口-25.8	No.1	口縁部指頭痕鏝低く口縁部直線状に立ち上がる胴下部へラナデ内面へラナデ	①良好②赤褐色③1~2mm砂粒含④口縁~胴部残存
361-2 119	甗	口-28.5	覆土	口縁部直線状に立ち上がる鏝低く横を向く	①良好②にぶい褐色③1~2mm砂粒含④口縁部残存
361-3 119	甗	口-29.0	覆土	口縁部指頭痕胴下部へラケズリ口縁部直立する	①良好②にぶい褐色③細砂粒含む④口縁~胴部残存
Fig. 361-4 PL. 119	石 長-17.1cm 幅-14.9cm 厚-13.2cm くぼみ石 角閃石安山岩				
Fig. 361-5 PL. 119	鉄製品 長-11.5cm 厚-3~9mm 鏝				

146号住居跡 (Fig. 362・363・364、PL. 29・119・120)

G区北西部に位置し57~59G26~28の範囲にある。104号住居跡の西にある。他の遺構との重複関係はない。規模は長辺3m、短辺2.6m、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約30cm~40cmを測り、主軸方位はN-106°-Wである。床面は平坦をなし、中央部に広い範囲で炭化物が散布している。竈は西壁南西コーナーに近い位置に検出された。長軸の方向は住居跡の主軸方位にほぼ平行している。規模は袖幅約50cm、燃焼部長約20cm、煙道部長約90cmを測り、煙り出しの小穴が検出された。両袖部には石が検出され、燃焼部前面からも石が検出された。



- | | |
|------------------|----------------------|
| 146号住居跡 | 146号住居跡竈 |
| 1 暗褐色土層 FAを含む | 1 黒褐色土層 FAブロックを含む |
| 2 暗褐色土層 FA、FPを含む | 2 焼土ブロック |
| 3 淡褐色土層 | 3 暗褐色土層 FAを含む |
| | 4 暗褐色土層 FAを多量に含む |
| | 5 暗褐色土層 FA、FPを含む |
| | 6 暗褐色土層 FAブロックを多量に含む |

Fig.362 146号住居跡

Fig.363 146号住居跡竈

第2章 検出された遺構と遺物

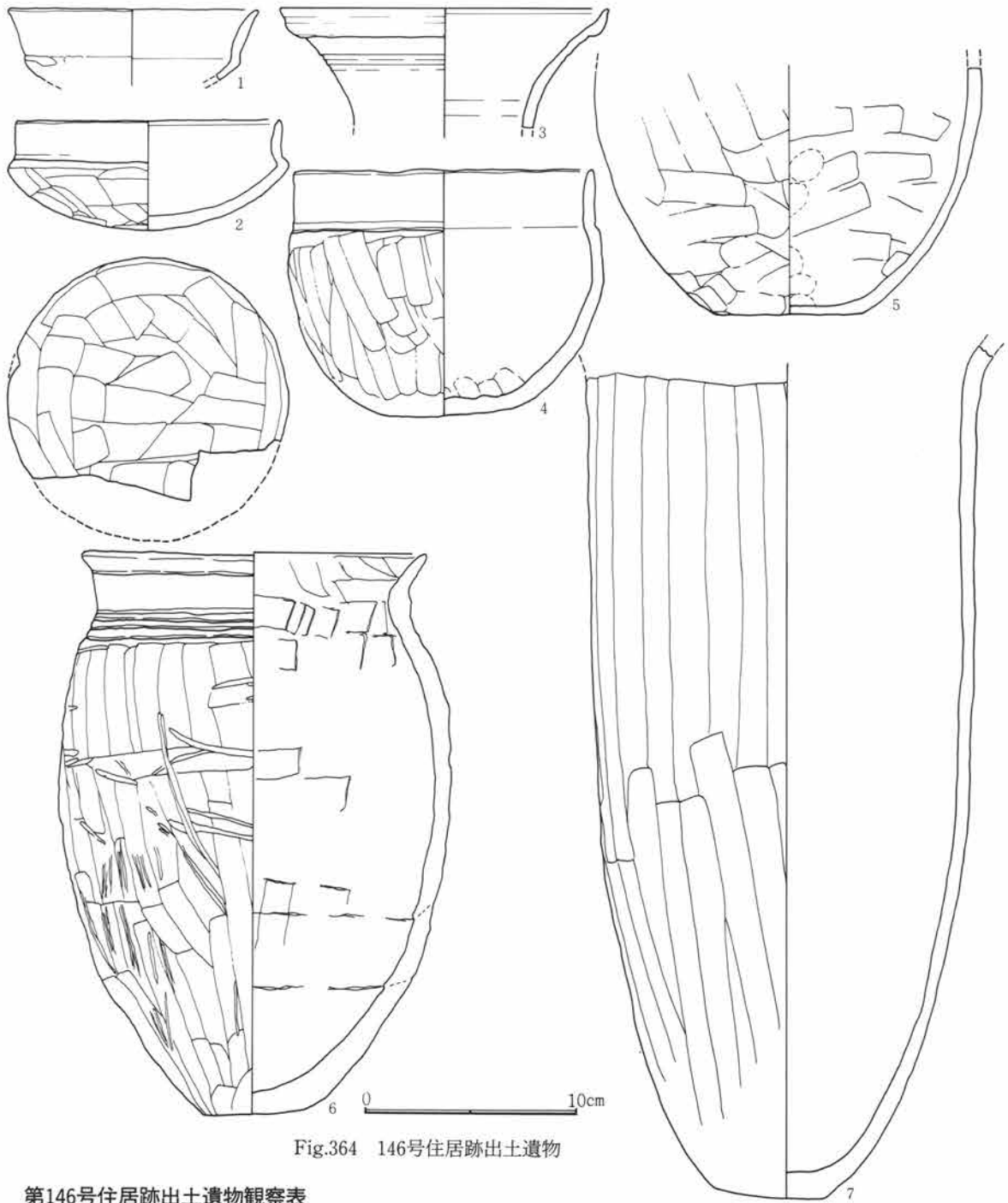


Fig.364 146号住居跡出土遺物

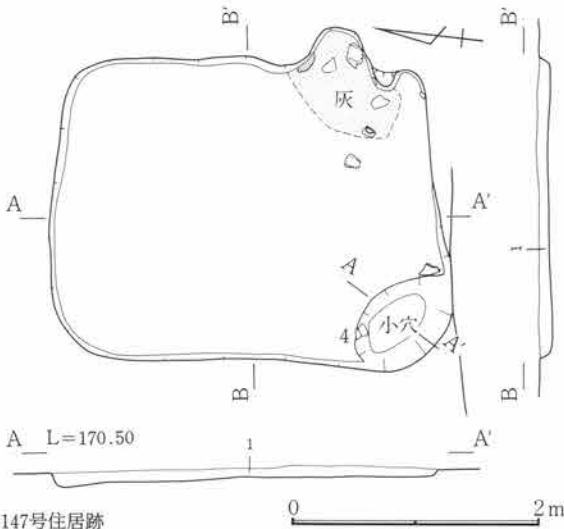
第146号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
364-1 119	土師器 坏	口-11.5	覆土	口縁部弱く外傾する口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②明橙色③細砂粒含むが密④口縁部破片
364-2 119	土師器 坏	口-12.1 高-5.1	覆土	口縁部やや内湾ぎみに立ち上がる口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④残存
364-3 119	須恵器 壺	口-15.2	覆土	口縁部折返し段をもつ口縁部下に2本の沈線	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
364-4 120	土師器 壺	口-13.8 高-11.3	No.4	口縁部直立する底部は丸底を呈する口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ底部ヘラナデ痕	①良好②褐灰色③1~2mmの砂粒含む④完形
364-5 120	土師器 甕	底-6.6	覆土	胴部やや丸みをもつ外面ヘラケズリ内面ヘラナデ指頭痕	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④下胴部残存

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
364-6 120	土師器 甕	口-15.8 高-25.8 底-4.7	覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ヘラナデヘラ痕残る口縁部外反する	①良好②にぶい橙色③3~4mmの砂粒含む④完形
364-7 120	土師器 長甕	底-5.2	覆土	口縁部下から直線状に下がる外面ヘラケズリ内面ナデ内外面煤付着	①良好②にぶい橙色③2~3mm砂粒含む④口縁部欠損

147号住居跡 (Fig. 365・366・367, PL. 29・120)

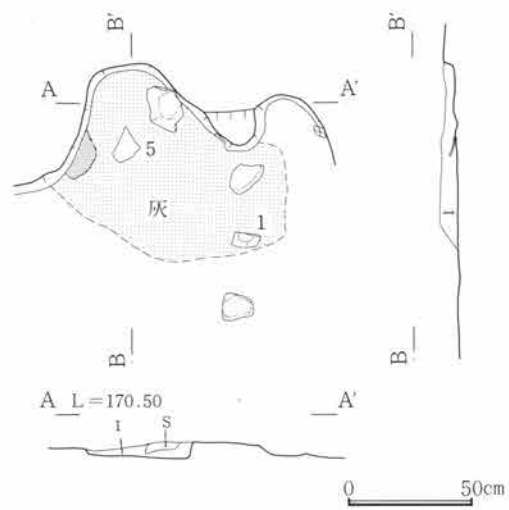
G区北西部に位置し55・56G28~30の範囲にある。104号住居跡の北にあり、南壁を104号住居跡と接している。規模は長辺3.25m、短辺2.5mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cmを測り、主軸方位はN-82°-Eである。床面は平坦をなし、南西コーナーに小穴が検出された。規模は約100cm×60cm、深さ約15cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃烧部幅約80cm、同長約50cmを測る。



147号住居跡
1 暗褐色土層 FAを含む



Fig.365 147号住居跡



147号住居跡竈
1 暗褐色土層

Fig.366 147号住居跡竈

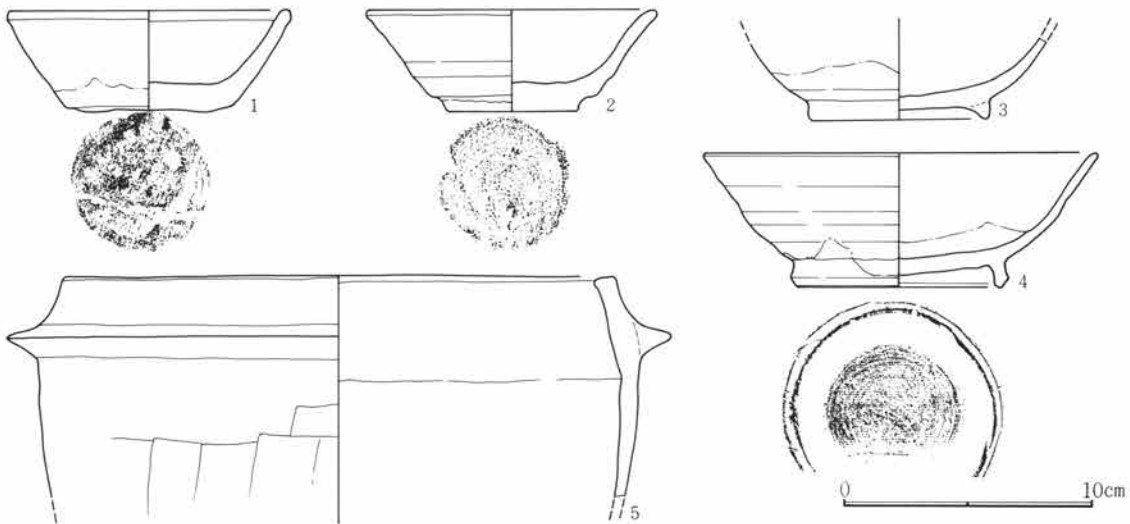


Fig.367 147号住居跡出土遺物

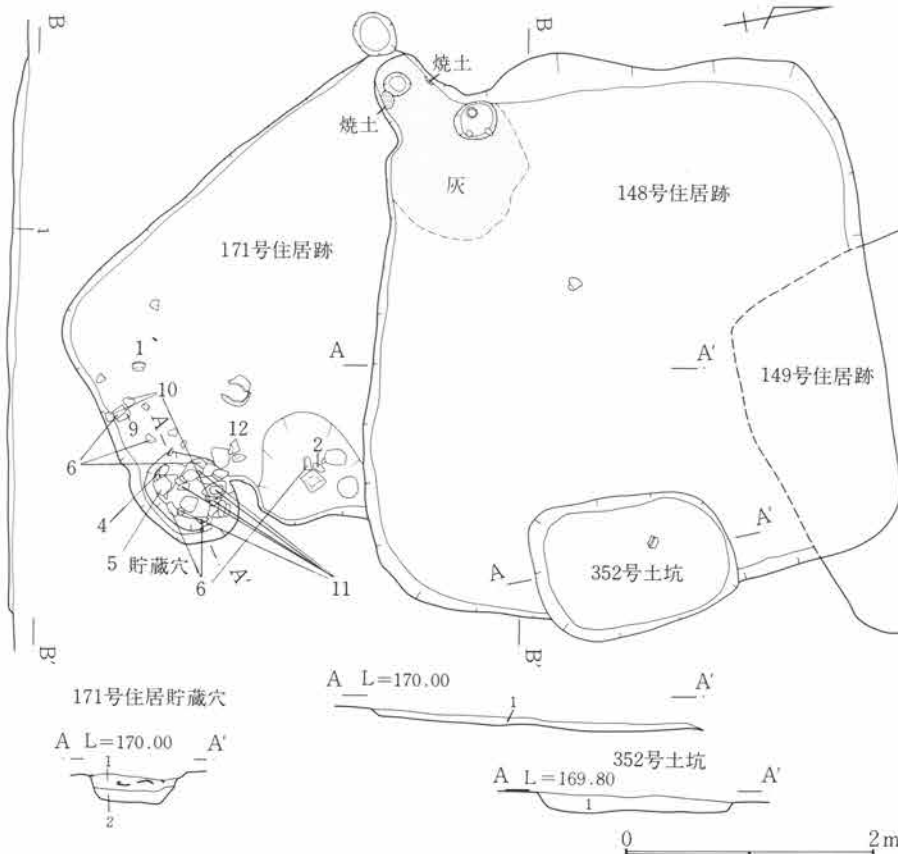
第147号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
367-1 120	須恵器 坏	口-11.0 高-3.9 底-5.0	No.1	弱く内湾ぎみに立ち上がり底部凹凸が多い	①良好②浅黄橙色③細砂粒含む④残存
367-2 121	須恵器 坏	口-11.4 高-4.0 底-5.2	覆土	底部厚くなる口縁部やや外湾する底部回転糸切右廻り	①良好②灰白色③細砂粒含む④残存
367-3 120	灰釉陶器 埴	底-7.0	覆土	付高台底部回転糸切外面釉	①良好②灰白色③密④底部破片
367-4 120	灰釉陶器 埴	口-15.6 高-5.3 底-8.0	No.4	付高台底部回転調整内外面釉内面底釉の切れ目にトチンコン	①良好②灰白色③密④残存
367-5 120	羽釜	口-21.8	No.5	口縁部内湾する鋸横を向き鋸下内湾する	①良好②赤褐色③2~3mmの砂粒含む④口縁部破片

148号住居跡 (Fig. 368・369・370、PL. 29・30・119・120・121)

G区北西部に位置し57~59G34~37の範囲にある。184号住居跡の西にある。他の遺構との関係は南部で171号住居跡、北部で149号住居跡と重複しており、東壁で352号土坑と重複している。新旧関係は149・171号住居跡より新しく、352号土坑より新しい。規模は長辺4.6m、短辺3.9mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約5cm~10cmを測り、主軸方位はN-165°-Wである。床面はほぼ平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は南西コーナーに検出された。規模は燃焼部幅約60cm、同長約70cm、煙道部長約40cmを測る。住居跡コーナーに検出された竈長軸方位は住居跡長軸より西にずれその方位はN-113°-Wである。

171号住居跡 (Fig. 368・371・372、PL. 36・132・133)



G区北西部に位置し56・57G33~35の範囲にある。184号住居跡の西にある。規模、平面形態は不明であるが、南壁は4mを測る。床面は平坦をなし、北東コーナーに貯蔵穴を検出した。竈は検出されておらず148号住居跡に切り崩されている。右袖部には痕跡と思われる地山の掘り残しが確認された。

148号住居跡
1 暗褐色土層

352号土坑
1 暗褐色土層

171号住居跡貯蔵穴
1 暗褐色土層
2 暗褐色土層 FAを含む

Fig.368 148・171号住居跡・352号土坑

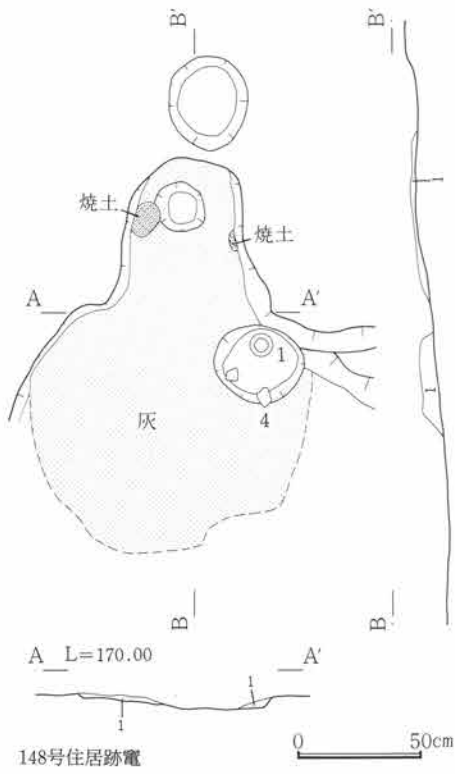


Fig.369 148号住居跡竈

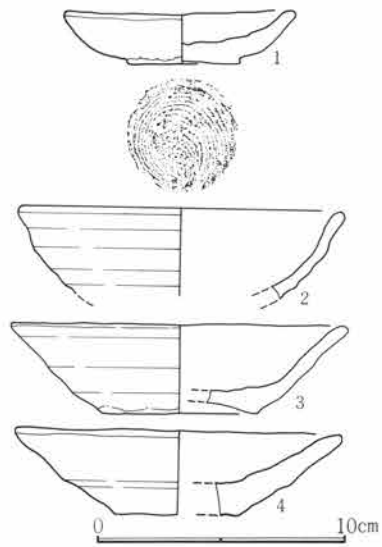
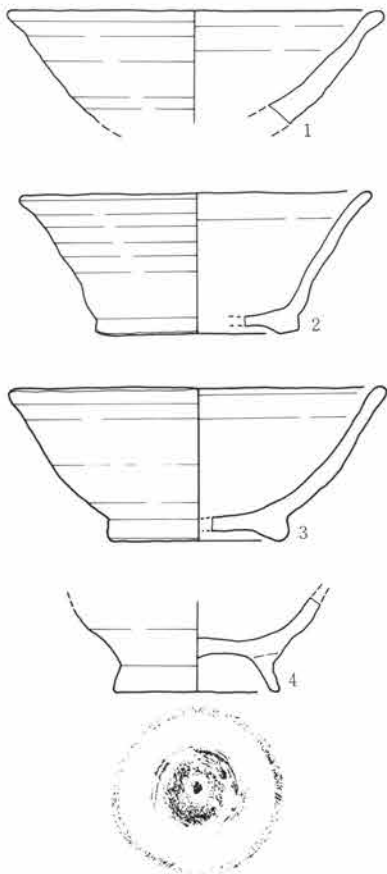


Fig.370 148号住居跡出土遺物

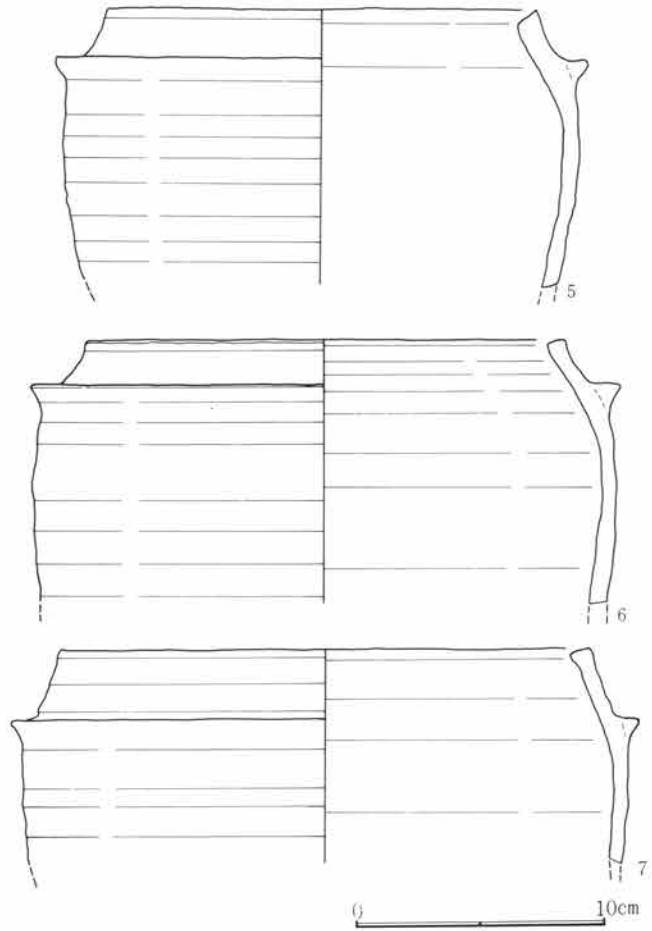


Fig.371 171号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

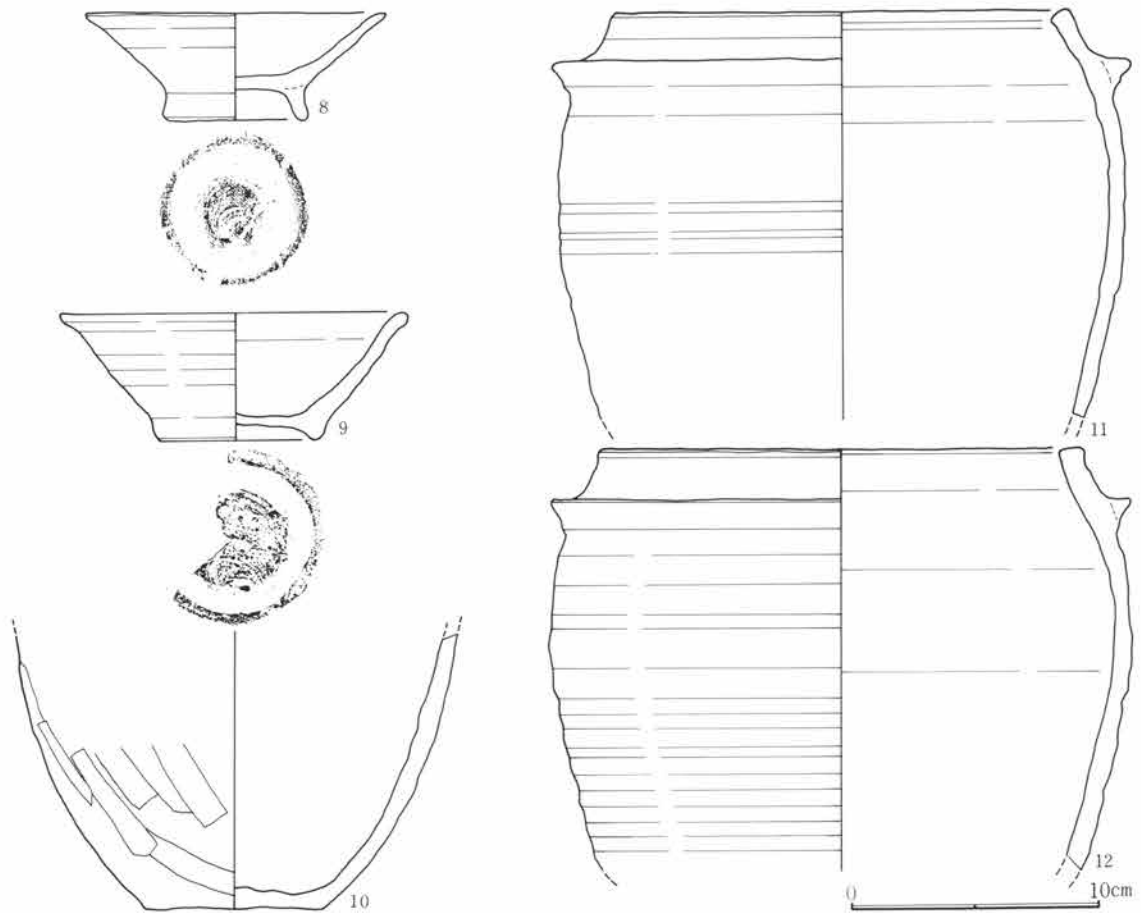


Fig.372 171号住居跡出土遺物(2)

第148号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
370-1 121	須恵器 坏	口-9.15 高-2.1 底-4.4	No.1	底部回転糸切右廻り口縁部多少程度煤により黒色	①良好②橙色③3~4mmの砂粒含む④完形
370-2 119	須恵器 坏	口-13.0	覆土	口縁部内湾して立ち上がる	①良好②灰白色③細砂粒含む④破片
370-3 121	須恵器 坏	口-13.4 高-3.5 底-6.4	覆土	底部回転糸切口縁部弱く外湾する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④残存
370-4 120	須恵器 坏	口-13.0 高-3.3 底-4.9	No.4	口縁部直線状に外傾する	①良好②にぶい橙色③1~2mmの砂粒含む④破片

第171号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
371-1 132	須恵器 埴	口-15.0	No.1	口縁部弱く外湾する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
371-2 132	須恵器 坏	口-14.0 高-5.5	No.2	口縁部弱く外傾する付高台	①良好②にぶい赤褐色③2~3mmの砂粒含む④残存
371-3 132	須恵器 埴	口-15.0 高-6.0 底-6.7	覆土	口縁部弱く外傾する付高台	①良好②にぶい黄橙色③1~2mmの砂粒含む④残存
371-4 132	須恵器 埴	底-6.5	No.4	付高台	①良好②にぶい橙色③2~3mm砂粒含む④底部残存
371-5 132	羽釜	口-17.0	No.5	口縁部内湾する罍上を向く	①良好②褐色③2~3mmの砂粒含む④口縁部残存

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
371-6 132	羽釜	口-19.0	Na 6	口縁部内湾する鑄上を向く	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存
371-7 132	羽釜	口-21.2	覆土	口縁部内傾し鑄上を向く	①良好②橙色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
372-8 132	須恵器 埴	口-12.0 高-4.2 底-5.3	覆土	口縁部直線状に外傾する付高台底部回転糸切	①良好②にぶい黄橙色③細砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存
372-9 132	須恵器 埴	口-13.8 高-5.0 底-6.0	Na 9	口縁部弱く外湾する付高台底部回転糸切	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④ $\frac{3}{4}$ 残存
372-10 132	土師器 甕	底-7.2	Na10	外面ヘラケズリ内面ナデ	①良好②にぶい橙色③3~4mm砂粒含む④底部残存
372-11 133	羽釜	口-18.0	Na11	口縁部内湾する鑄上を向く	①良好②褐色③2~3mmの砂粒含む④口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存
372-12 133	羽釜	口-19.3	Na12	口縁部内湾する鑄上を向く内外面轆轤成形痕残る	①良好②にぶい橙色③2~3mm砂粒含む④口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存

149号住居跡 (Fig. 373・374・375・376、PL. 30・120・121)

G区北西部に位置し56~58G36~38の範囲にある。184号住居跡の西にある。他の遺構との関係は南部で148号住居跡と重複している。新旧関係は149号住居跡が新しい。規模は長辺3.3m、短辺3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約40cm~50cmを測り、主軸方位はN-73°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁やや南寄りに検出された。規模は袖幅約40cm、燃烧部長約60cm、煙道部長約120cmを測る。両袖部、燃烧部中央に石が検出されている。燃烧部前面より構築材と思われる石が検出されている。燃烧部内からは甕が検出されている。煙道部先端には煙り出しの小穴が検出され、天井部は良好な遺存を示している。

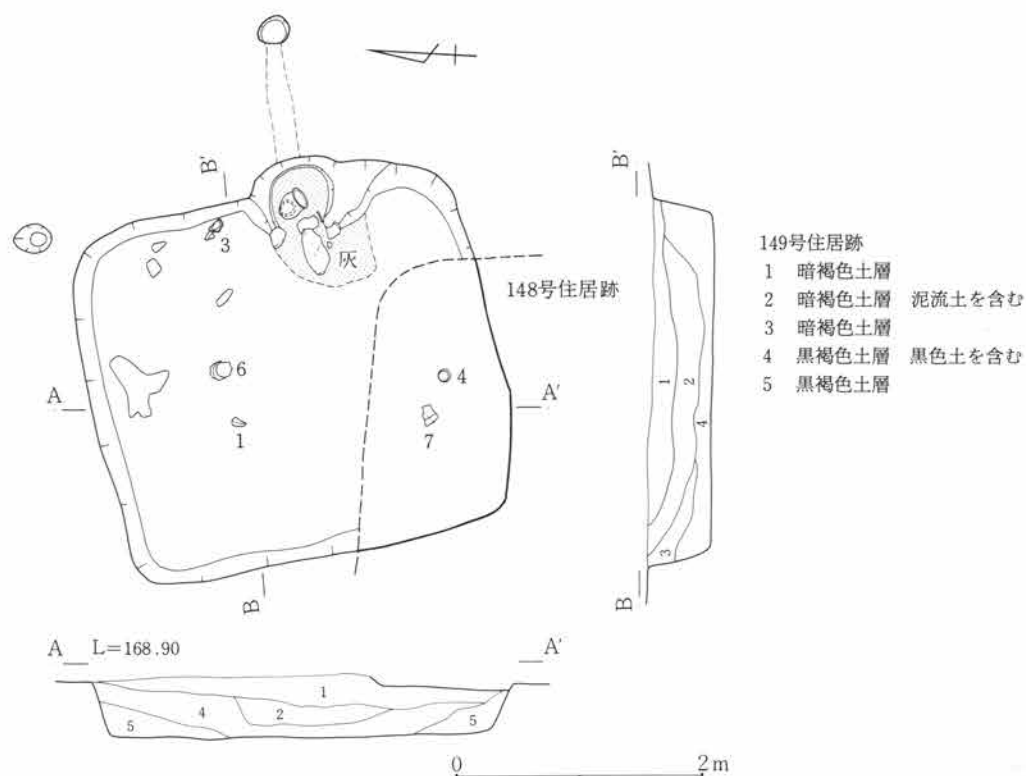


Fig.373 149号住居跡

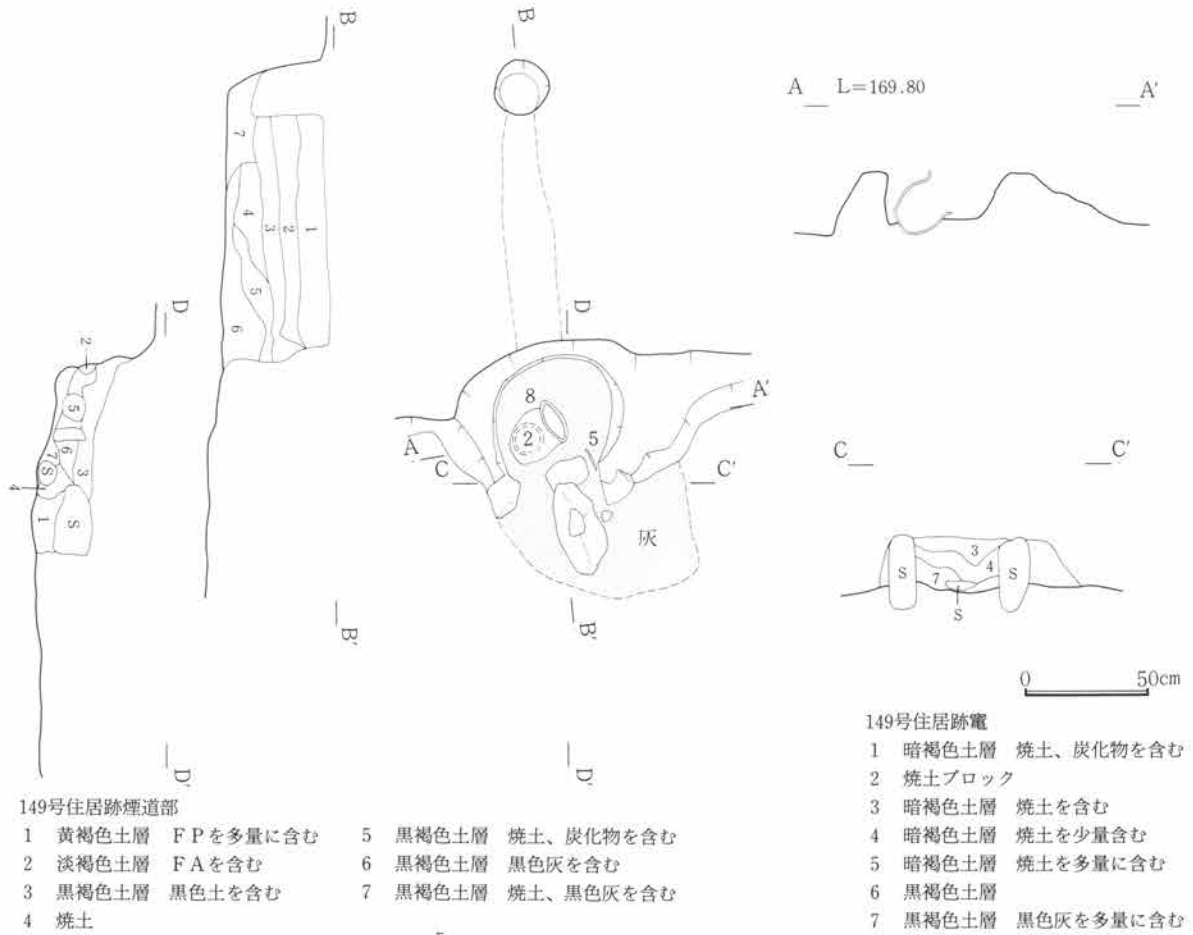


Fig.374 149号住居跡竈

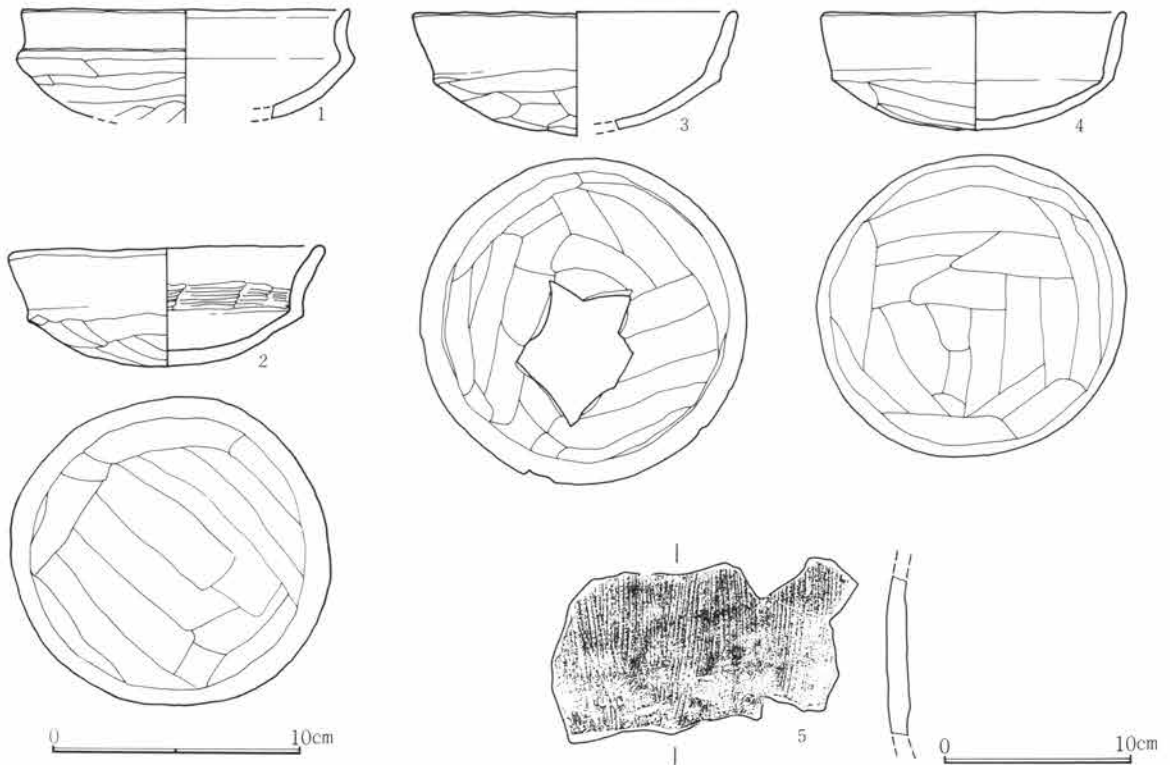


Fig.375 149号住居跡出土遺物(1)

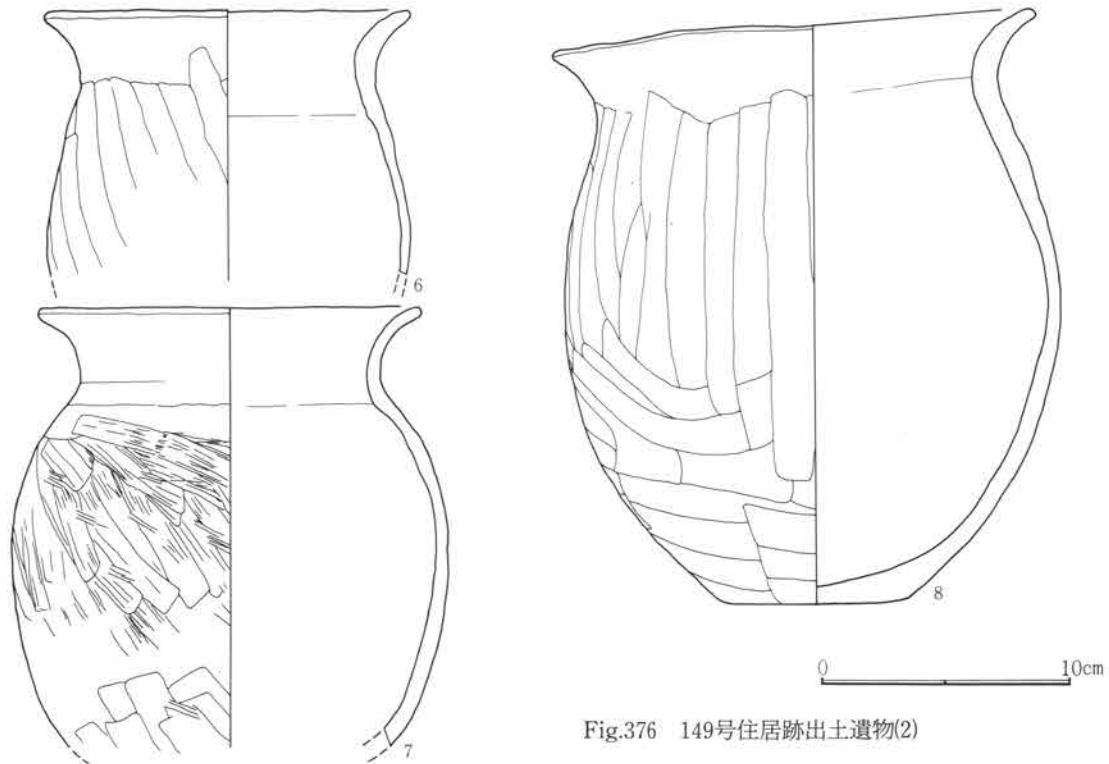


Fig.376 149号住居跡出土遺物(2)

第149号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
375-1 120	土師器 坏	口-15.4	No.1	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部稜をもち直立する内面端部沈線巡る	①良好②赤褐色③細砂粒含む④破片
375-2 121	土師器 坏	口-12.6 高-4.65	No.2	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ内面稜部にヘラ状工具によるナデ内面底部にもヘラ当て痕	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④完形
375-3 121	土師器 坏	口-12.9	No.3	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部稜をもち外傾する	①良好②明橙色③細砂粒含む④ほぼ完形
375-4 121	土師器 坏	口-12.1 高-4.65	No.4	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部稜をもち外傾する	①良好②明橙色③1~2mmの砂粒含む④完形
375-5 121	埴輪		No.5	円筒埴輪	①良好②赤褐色③細砂粒含む④破片
376-6 121	土師器 甕	口-14.5	No.6	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部外反する	①良好②淡橙色③細砂粒含む④口縁部残存
376-7 121	土師器 甕	口-15.3	No.7	口縁部ヨコナデ胴部刷毛目後磨き状の弱いナデ内面ヘラ状工具による弱いナデ口縁部外湾する	①良好②にぶい橙色③2~3mmの砂粒含む④残存
376-8 121	土師器 甕	口-19.2 高-22.8 底-7.0	No.8	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ヘラ状工具による弱いナデ口縁部外反する	①良好②淡橙色③2~3mmの砂粒含む④完形

150号住居跡 (Fig. 377・378・379・380、PL. 30・121・122)

G区北西部に位置し54~56G35~37の範囲にある。166号住居跡の西に接して検出された。他の遺構との関係は西部で151号住居跡、住居跡内全体で184号住居跡、南西部で169号住居跡と重複している。新旧関係は151・169・184号住居跡より新しい。規模は長辺4.2m、短辺3.75mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cm~30cmを測り、主軸方位はN-80°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁に検出された。規模は袖幅約80cm、燃焼部長約60cm、煙道部長約50cmを測る。右袖部に石が検出された。

184号住居跡 (Fig. 377・381・382、PL. 39・136)

G区北西部に位置し54~56G35~37の範囲にある。166号住居跡の北に接して検出された。他の遺構との関

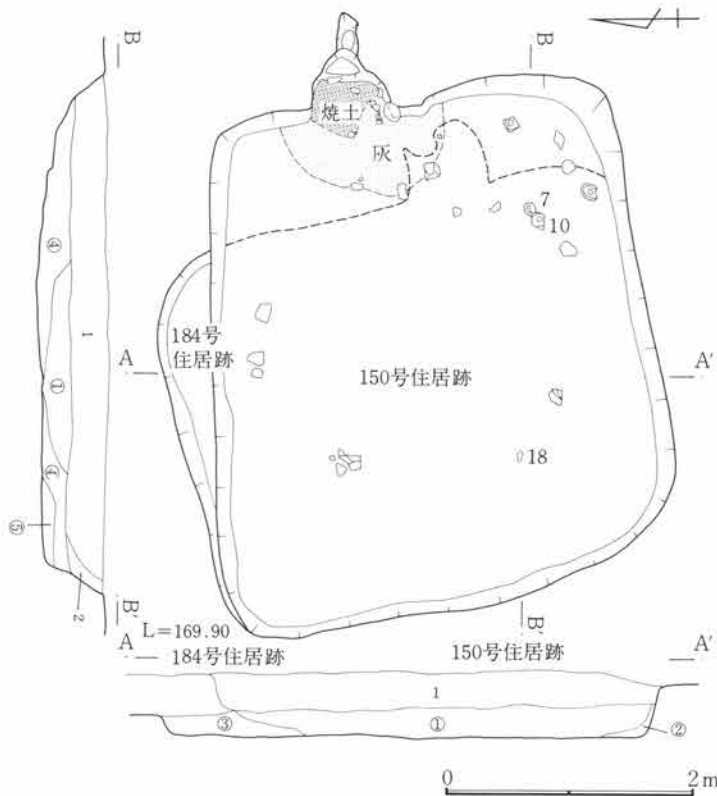


Fig.377 150・184号住居跡

係は住居跡の大半を150号住居跡、南西部を169号住居跡、北部を151号住居跡と重複している。新旧関係は150号住居跡より旧く151号住居跡より新しい。169号住居跡との関係は不明である。規模は長辺3.9m、短辺3.3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cmを測り、主軸方位はN-76°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁にその痕跡を認めるのみである。

150号住居跡

- 1 淡褐色土層 FP、焼土、炭化物を含む
- 2 黄褐色土層

184号住居跡

- ① 淡褐色土層 FPを含む
- ② 黒褐色土層 FAブロックを含む
- ③ 黒褐色土層 FAブロック多量を含む
- ④ 淡褐色土層 FA細粒を含む
- ⑤ 黒褐色土層 黒色土を含む

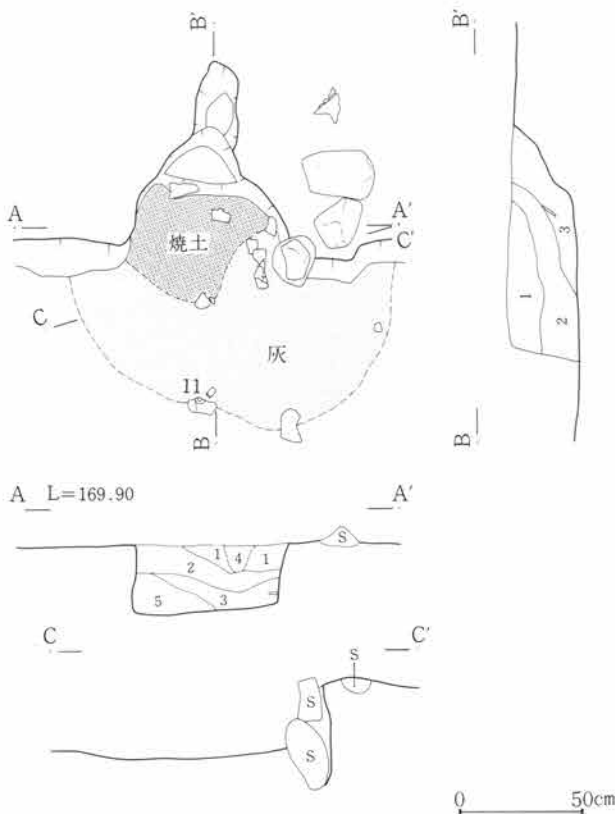


Fig.378 150号住居跡竈

150号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 FPを含む
- 2 暗褐色土層 FAを含む
- 3 暗褐色土層 焼土を含む
- 4 暗褐色土層 焼土ブロックを含む
- 5 焼土、灰層

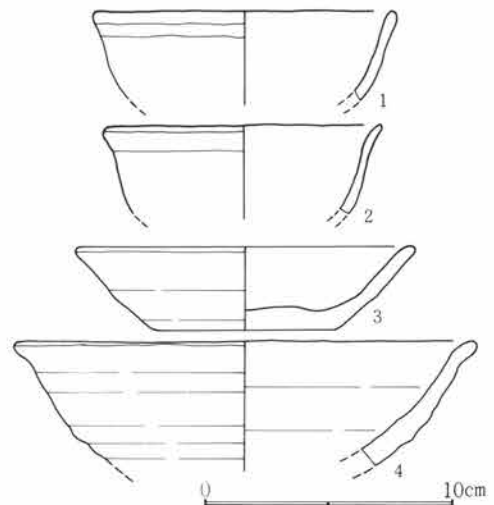


Fig.379 150号住居跡出土遺物(1)

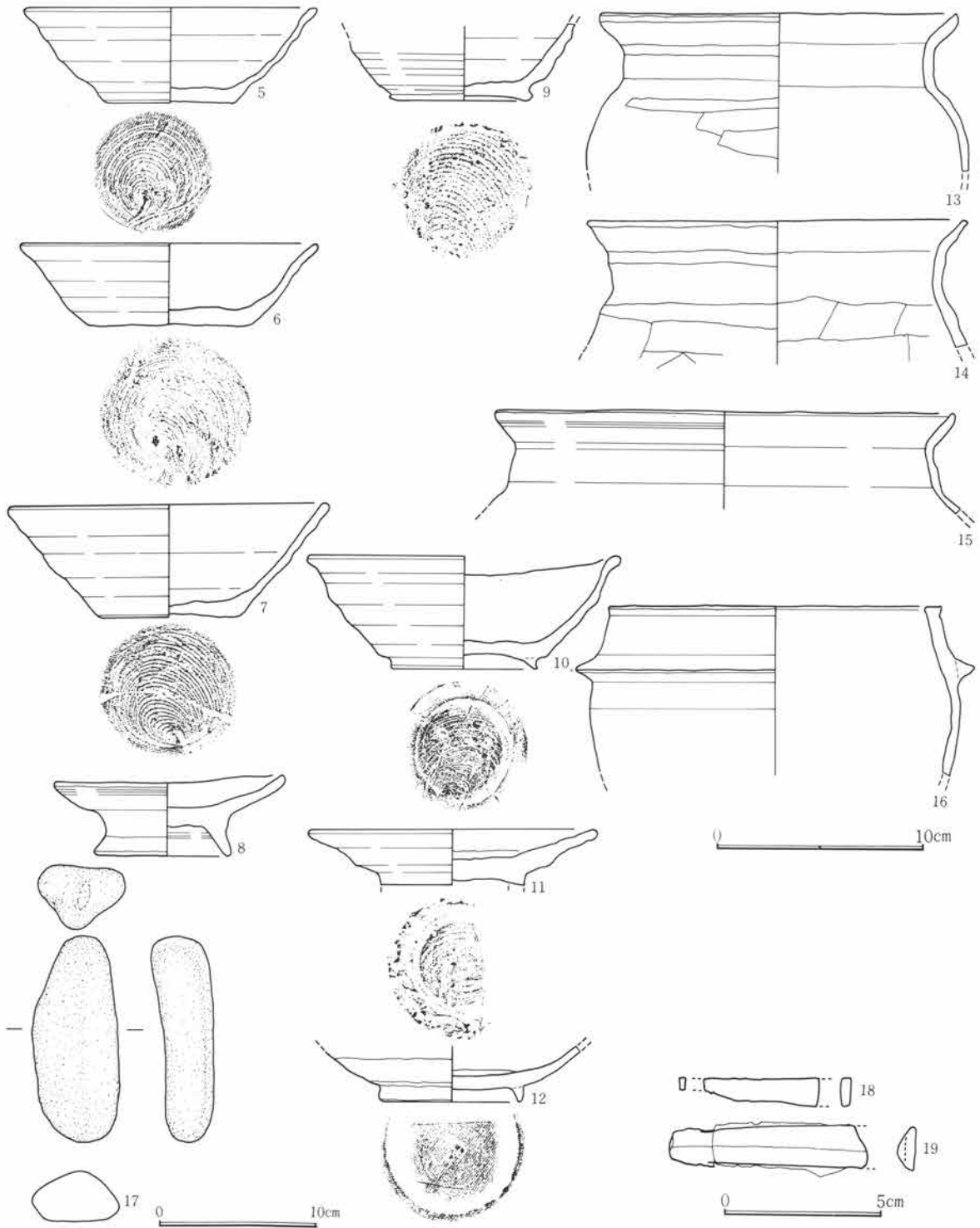


Fig.380 150号住居跡出土遺物(2)



Fig.381 184号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

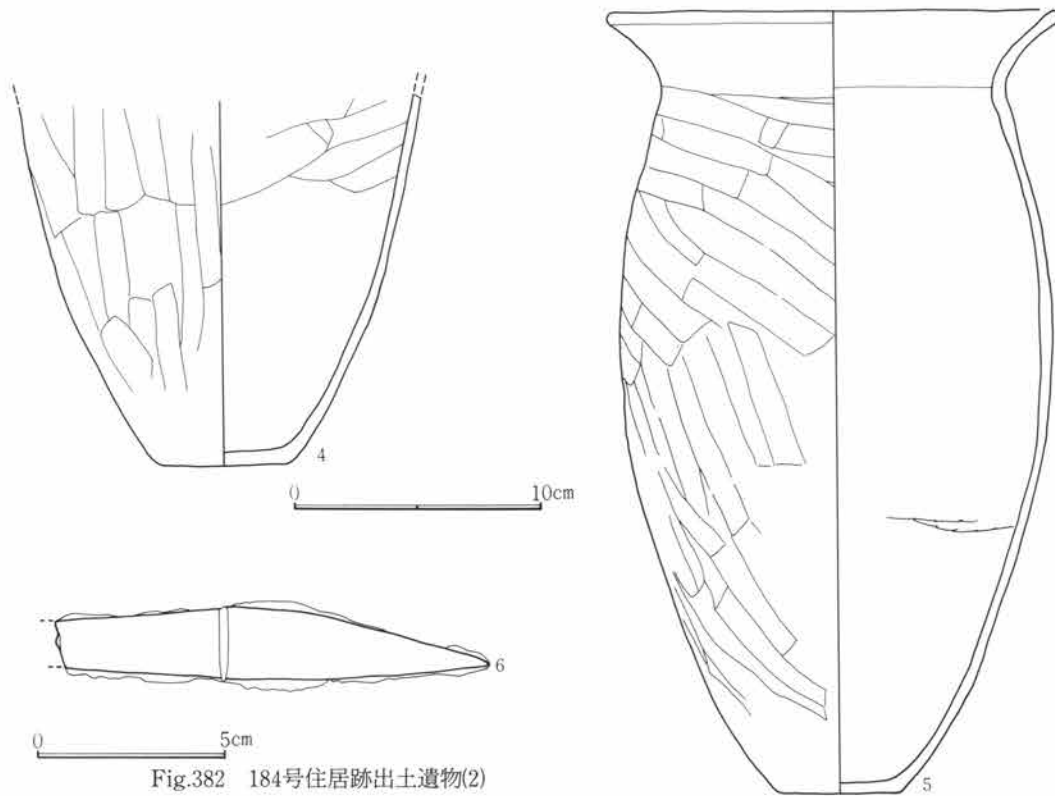


Fig.382 184号住居跡出土遺物(2)

第150号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
379-1 121	内黒 坏	口-11.6	覆土	内面黒色ミガキ	①良好②橙色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
379-2 120	内黒 坏	口-10.8	覆土	内面黒色ミガキ	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
379-3 121	須恵器 坏	口-13.2 高-3.3 底-7.0	覆土	器壁厚く口縁部やや外湾する底部調整不明瞭	①良好②浅黄褐色③2~3mmの砂粒含む④%残存
379-4 121	須恵器 境	口-18.0	覆土	口縁部弱く外湾する轆轤成形痕残る	①良好②にぶい橙色③細砂粒含むが密④口縁部%残存
380-5 122	須恵器 坏	口-13.8 高-4.5 底-5.8	覆土	外面轆轤成形痕残る内面底部轆轤成形痕くぼむ底部回転糸切右廻り	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④%残存
380-6 122	須恵器 坏	口-14.0 高-3.9 底-7.2	覆土	外面轆轤成形による凹凸あり口縁部に向かいやや外湾する底部回転糸切右廻り	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④%残存
380-7 121	須恵器 坏	口-15.0 高-5.3 底-6.4	No.7	底部へ口縁部へ直線上に外傾する底部回転糸切右廻り	①良好②灰色③細砂粒含む④%残存
380-8 122	須恵器 皿	口-11.0 高-3.9 底-6.5	竈煙道覆土	口縁部弱く内湾する高台高くハの字状に開く	①良好②浅黄褐色③細砂粒含む④%残存
380-9 122	須恵器 坏	底-6.8	覆土	底部肥厚する回転糸切	①良好②灰色③細砂粒含む④底部残存
380-10 122	須恵器 坏	口-14.8 高-5.35 底-6.8	No.10	外面成形の轆轤痕残る口縁部外湾する付高台底部回転糸切	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④%残存
380-11 122	須恵器 皿	口-13.6	No.11	外面に段をもつ付高台欠落	①良好②褐色③細砂粒含む④%残存
380-12 122	灰釉陶器 境	底-6.6	覆土	内面釉付高台	①良好②灰白色③密④底部%残存
380-13 122	土師器 甕	口-16.8	覆土	口縁部内湾ぎみに開く口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②にぶい橙色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
380-14 122	土師器 甕	口-17.8	覆土	口縁部コの字状を呈する口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②にぶい橙色③1~2mmの砂粒含む④口縁部%残存

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
380-15 122	土師器 甕	口-22.0	覆土	口縁部コの字状を呈する口縁部ヨコナデ内面ナデ	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
380-16 122	羽釜	口-15.6	覆土	口縁部やや内湾する鋤横を向く	①良好②灰白色③細砂粒含む④口縁部破片
Fig. 380-17 PL. 122		石 長-13.2cm 幅-5.6cm 厚-4.0cm 粗粒安山岩			
Fig. 380-18 PL. 122		鉄製品 長-3.7cm 厚-3mm 不明			
Fig. 380-19 PL. 122		鉄製品 長-6.3cm 厚-6mm 刀子?			

第184号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
381-1 136	土師器 坏	口-10.4	覆土	口縁部やや直立ぎみになる口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②橙色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
381-2 136	土師器 坏	口-11.8	覆土	口縁部薄くなるやや外湾する	①良好②橙色③細砂粒含む④口縁部破片
381-3 136	土師器 甕	口-19.4	覆土	器壁薄く口縁部くの字を呈する	①良好②赤褐色③細砂粒含む④口縁部破片
382-4 136	土師器 甕	底-5.0	貯穴覆土	外面ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②橙色③細砂粒含む④胴下半部残存
382-5 136	土師器 甕	口-18.0 高-31.0 底-5.0	覆土	口縁部くの字状に曲がり胴上位に最大径がくる口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④残存
Fig. 382-6 PL. 136		鉄製品 長-11.6cm 厚-2mm 刀子			

151号住居跡 (Fig. 383・384・385、PL. 30・122)

G区北西部に位置し54~56G36~38の範囲にある。166号住居跡の西にある。他の遺構との関係は東部で150・184号住居跡、北東部で153号住居跡、北西部で152号住居跡と重複している。新旧関係は184号住居跡より新しく、150・152・153号住居跡より古い。規模は重複が激しいため推定では長辺3.5m、短辺3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cmを測り、主軸方位はN-88°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁に検出された。竈南部を150号住居跡に切り崩されている。規模は燃焼部幅約80cm、同長約50cmを測る。

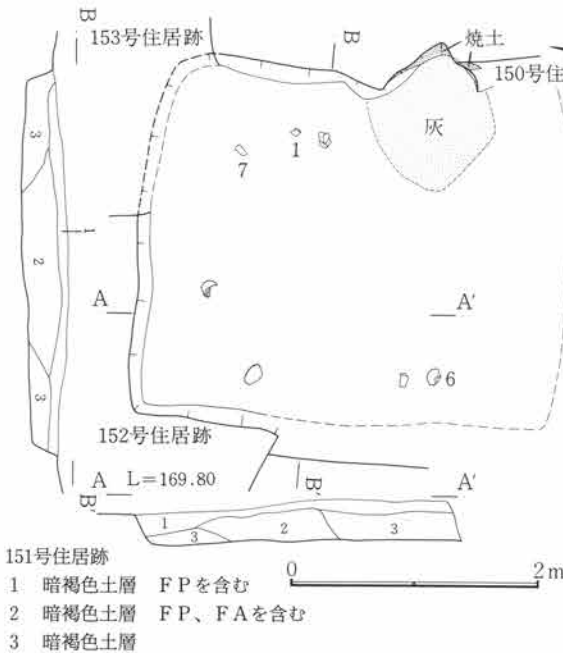


Fig.383 151号住居跡

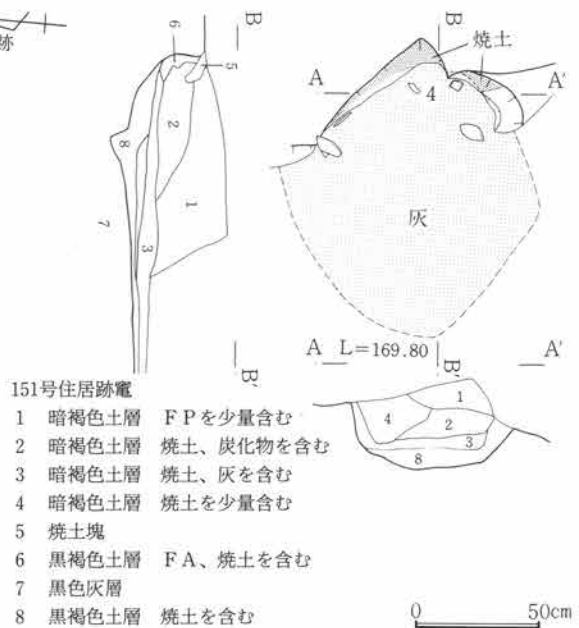


Fig.384 151号住居跡竈

第2章 検出された遺構と遺物

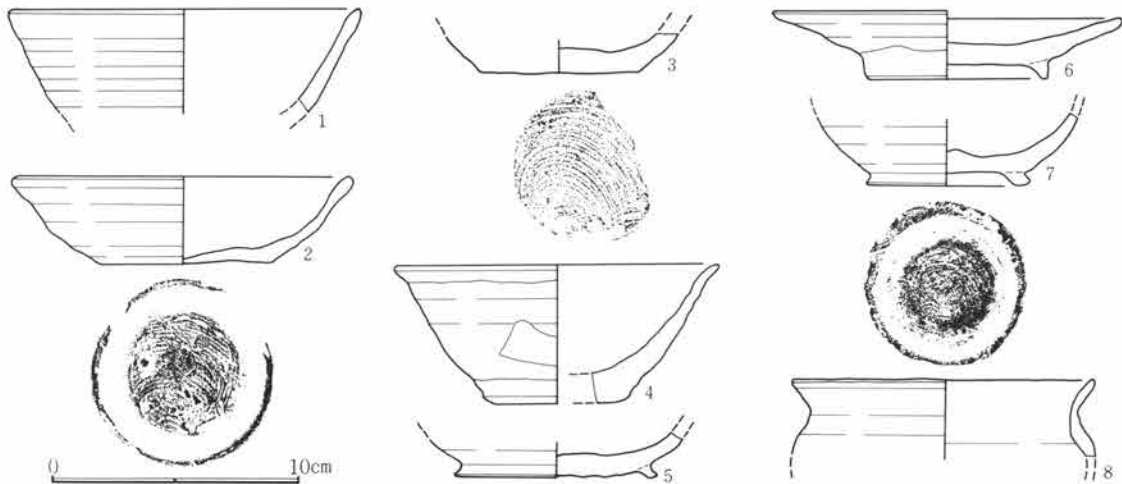


Fig.385 151号住居跡出土遺物

第151号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
385-1 122	須恵器 坏	口-14.0	No 1	外面轆轤成形痕残る	①良好②灰色③細砂粒含むが密④口縁部破片
385-2 122	須恵器 坏	口-13.5 高-3.5 底-6.7	覆土	口縁部厚くなり轆轤調整痕残る底部中心部薄くなる底部回転糸切	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④残存
385-3 122	須恵器 坏	底-6.3	覆土	内面底部にミガキ底部回転糸切	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④底部残存
385-4 122	須恵器 坏	口-13.0 高-5.5 底-5.0	No 4	口縁部外湾する体部へラ状工具によるナデ	①良好②灰色③1~2mm砂粒含む④口縁~底部残存
385-5 122	須恵器 坏	底-7.7	覆土	付高台高台薄く外側へ開く	①良好②灰色③2~3mmの砂粒含む④底部残存
385-6 122	須恵器 皿	口-14.0 高-2.7 底-7.0	No 6	付高台貼付痕残る底部回転糸切	①良好②灰色③細砂粒含む④残存
385-7 122	須恵器 坏	底-6.0	No 7	付高台高台部外周は外側へ広がる	①良好②褐色灰色③細砂粒含む④底部残存
385-8 122	土師器 甕	口-12.0	電覆土	口縁部薄くなり外湾する口縁部ヨコナデ	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片

152号住居跡 (Fig. 386・387、PL. 30・31・122・123)

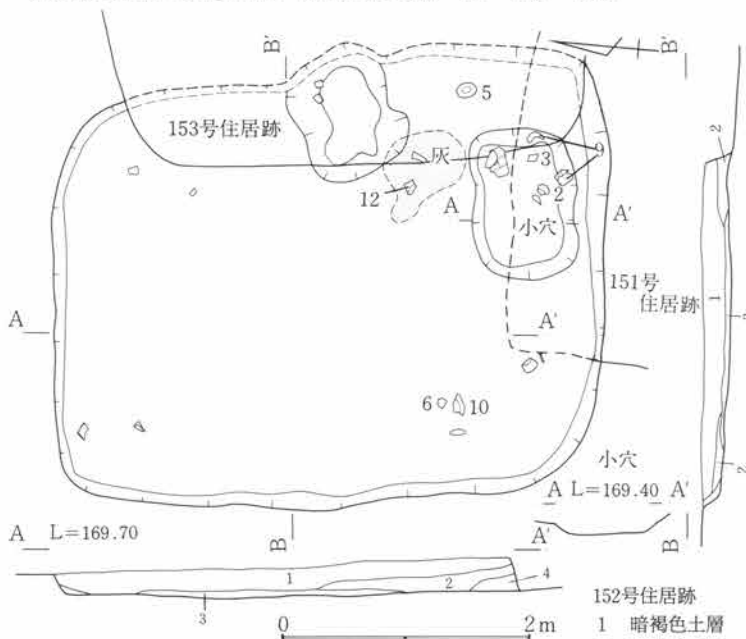


Fig.386 152号住居跡

G区北西部に位置し55・56G 38~40の範囲にある。150号住居跡の西にある。他の遺構との関係は東部で153号住居跡、南部で151号住居跡と重複している。新旧関係は151号住居跡より新しく、153号住居跡より古い。規模は東壁の大半がないため推定であるが長辺4.4m、短辺3.2mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約15cm~20cmを測り、主軸方位はN-86°-Eである。床面は平坦

- 152号住居跡
 1 暗褐色土層 F Pを多量に含む 3 暗褐色土層
 2 暗褐色土層 F Pを少量含む 4 暗褐色土層 黒色土を含む

をなし、南東部竈前面と思われる部分に炭が散布した状態で検出された。壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は検出されていない。

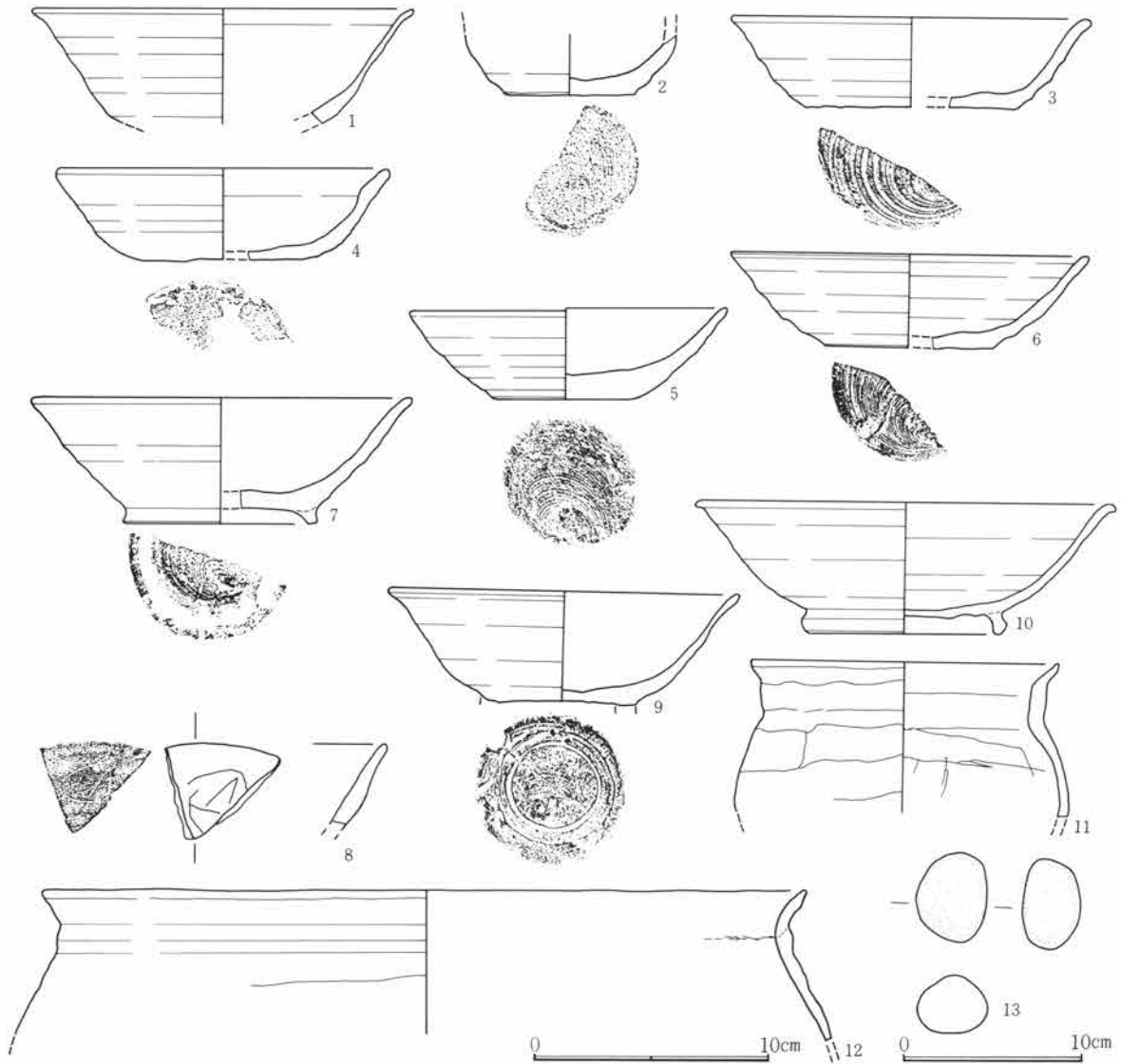


Fig.387 152号住居跡出土遺物

第152号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
387-1 122	須恵器 坏	口-16.0	覆土	口縁部屈曲する外面轆轤痕残る	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
387-2 123	須恵器 坏	底-5.5	No.2	底部回転糸切内面底部中心もり上がる	①良好②橙色③1~2mmの砂粒含む④底部1/2残存
387-3 123	須恵器 坏	口-15.0 高-3.8	No.3	外面轆轤痕残る口縁部外湾する底部回転糸切	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含むが密④1/2残存
387-4 123	須恵器 坏	口-14.0 高-3.8	覆土	口縁部厚く緩やかに外湾する外面轆轤痕残る底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む④1/2残存
387-5 123	須恵器 坏	口-13.3 高-3.8	No.5	底部厚くなる外面轆轤成形痕底部回転糸切	①良好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④完形
387-6 123	須恵器 坏	口-15.0 高-3.9	No.6	内外面ともに轆轤成形痕残る底部回転糸切	①良好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④1/2残存
387-7 123	須恵器 坏	口-16.0 高-5.2	覆土	外面轆轤成形痕付高台底部回転糸切	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④1/2残存

第2章 検出された遺構と遺物

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
387-8 123	須恵器 坏		覆土	内外面いぶし黒色内面に刻字状の刻線	①良好②黒褐色③細砂粒含む④口縁部破片
387-9 123	須恵器 坏	口-14.7 高-4.6	No.9	付高台欠落口縁部弱く外湾する	①良好②灰色③2~3mmの砂粒含む④%残存
387-10 123	灰釉陶器 埴	口-17.5 高-5.5	No.10	付高台高台部に一段稜をもつ口縁部は外へ屈曲する	①良好②灰白色③密④%残存
387-11 123	土師器 甕	口-12.8	覆土	口縁端部薄く外湾する口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部%残存
387-12 123	土師器 甕	口-32.0	No.12	口縁部弱く外湾する口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ輪積痕残る	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
Fig. 387-13 PL. 123 石 長-4.9cm 幅-3.2cm 厚-3.4cm 頁岩					

153号住居跡 (Fig. 388・389・390・391、PL. 31・123・124)

G区北西部に位置し54・55G.38~40の範囲にある。150号住居跡の西にある。他の遺構との関係は西部で152号住居跡、南部で151号住居跡と重複している。新旧関係は151・152号住居跡より新しい。規模は長辺4.2m、短辺3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約15cm~20cmを測り、主軸方位はN-78°-Eである。床面は平坦をなし、南東部に貯蔵穴と思われる小穴が検出された。規模は約80cm×70cm、深さ約5cm~6cmを測る。小穴内から石が検出されている。壁周溝は検出されていない。竈は東壁中央部に検出された。規模は燃燒部幅約90cm、同長約60cmを測る。

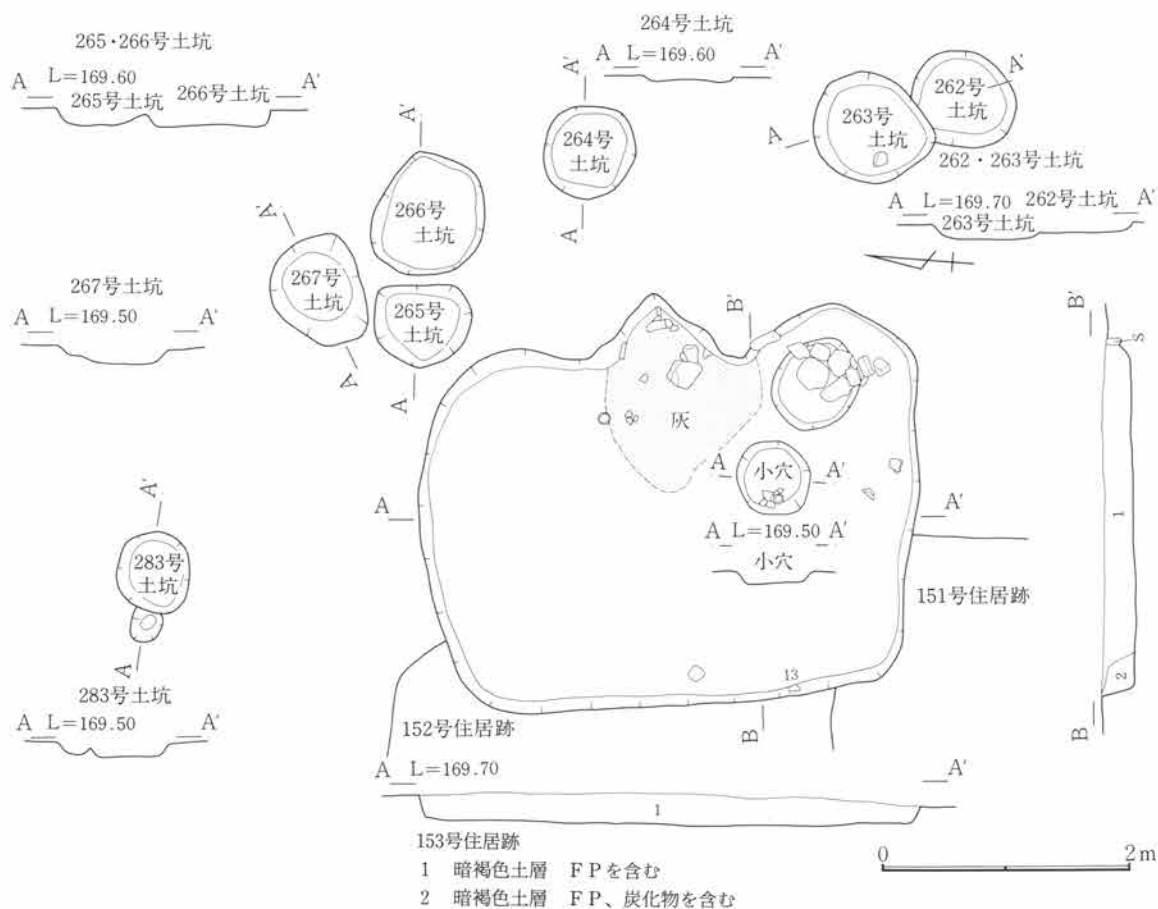
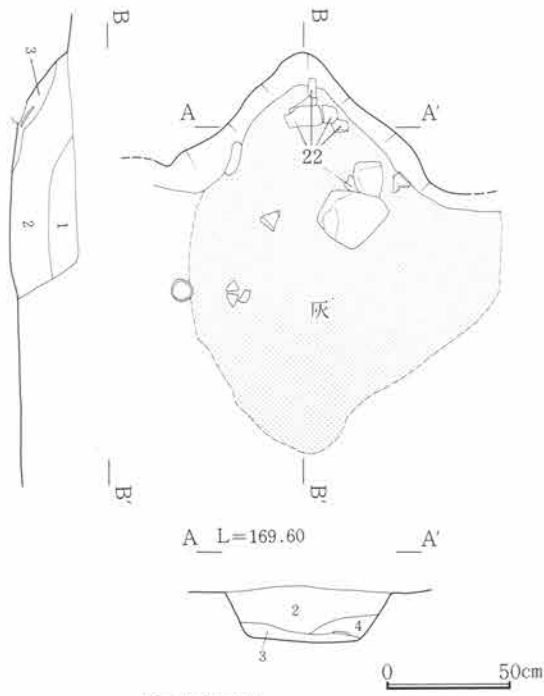


Fig.388 153号住居跡・262・263・264・265・266・267・283号土坑



- 153号住居跡竈
- 1 暗褐色土層 FPを含む
 - 2 暗褐色土層
 - 3 暗褐色土層 焼土を含む
 - 4 暗褐色土層 炭化物、灰を含む

Fig.389 153号住居跡竈

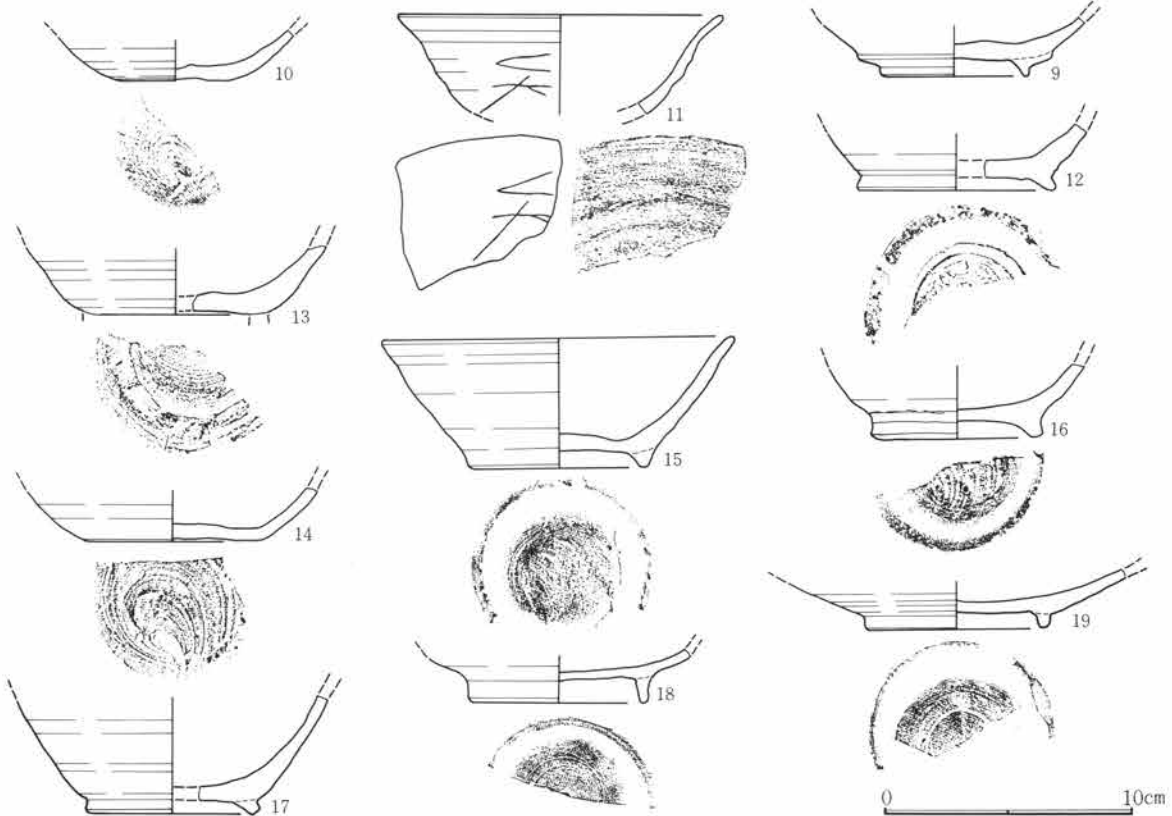
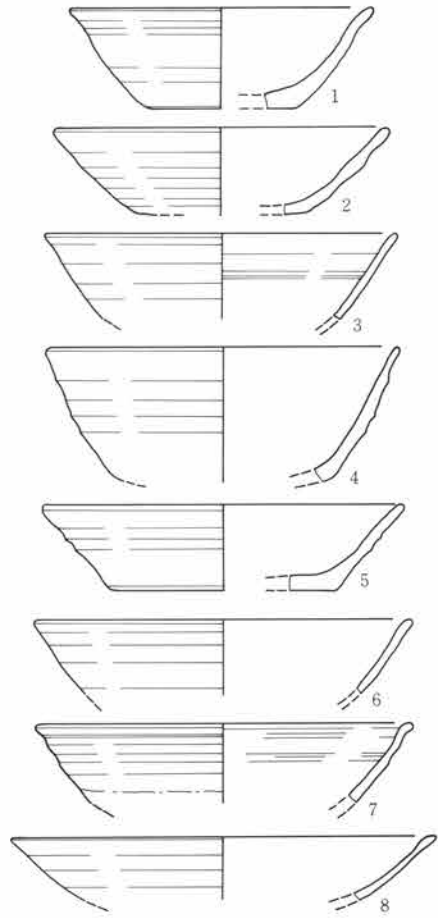


Fig.390 153号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

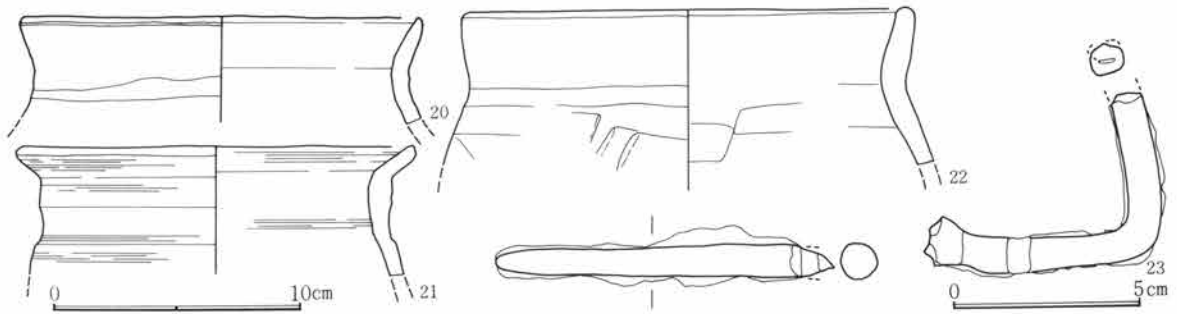


Fig.391 153号住居跡出土遺物(2)

第153号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
390-1 123	須恵器 坏	口-12.0 高-4.0 底-5.6	覆土	口縁部薄く弱く外湾する底部回転糸切	①良好②灰色③細砂粒含む ④½残存
390-2 123	須恵器 坏	口-13.2	覆土	外面轆轤痕残る口縁部直線状に外傾する	①良好②灰色③1~2mmの 砂粒含む④口縁部破片
390-3	灰釉陶器 碗	口-13.9	覆土	内外面施釉	①良好②灰白色③密④口縁 部破片
390-4 123	須恵器 坏	口-13.9	覆土	外面轆轤成形痕残る	①良好②灰色③1~2mmの 砂粒含む④口縁部破片
390-5 123	須恵器 坏	口-14.2 高-3.4 底-8.8	覆土	外面轆轤痕底部回転糸切口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③1~2mm の砂粒含む④½残存
390-6 123	灰釉陶器 皿	口-15.0	覆土	口縁部外側へ屈曲する内外面施釉	①良好②灰白色③密④口縁 部破片
390-7 123	灰釉陶器 碗	口-14.9	覆土	内外面施釉	①良好②灰白色③密④口縁 部破片
390-8 123	灰釉陶器 皿	口-17.0	覆土	口縁部弱く内湾して立ち上がる	①良好②灰白色③密④口縁 部破片
390-9	須恵器 碗	底-5.6	覆土	付高台貼付段をもつ底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含 む④底部破片
390-10 123	須恵器 坏	底-4.6	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含 む④底部破片
390-11 123	須恵器 坏	口-12.9	覆土	口縁部弱く外湾する外面に刻線	①良好②灰色③1~2mmの 砂粒含む④口縁部破片
390-12 123	須恵器 碗	底-7.6	覆土	表面剝離著しい付高台	①軟質②褐灰色③2~3mm の砂粒含む④底部破片
390-13 123	須恵器 坏	底-6.4	No.13	外面轆轤痕底部回転糸切付高台欠落	①良好②灰白色③1~2mm の砂粒含む④底部破片
390-14 123	須恵器 坏	底-6.8	覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③2~3mm の砂粒含む④底部½残存
390-15 123	須恵器 碗	口-14.0 高-5.1 底-6.8	覆土	付高台底部回転糸切口縁部直線状に外傾する	①良好②褐灰色③3~4mm の砂粒含む④½残存
390-16 123	須恵器 碗	底-6.2	覆土	付高台貼付痕残る底部回転糸切	①良好②にぶい橙色③1 ~2mm砂粒含む④底部½残存
390-17 123	須恵器 碗	底-6.4	覆土	底部から緩やかに内湾して立ち上る付高台底部回 転糸切	①良好②灰色③細砂粒含む ④底部½残存
390-18 124	灰釉陶器 碗	底-6.7	覆土	付高台	①良好②灰白色③密④底部 ½残存
390-19 124	灰釉陶器 皿	底-6.9	覆土	内面底部施釉付高台	①良好②灰白色③密④底部 ½残存
391-20 124	土師器 甕	口-16.0	覆土	口縁部外反する	①良好②にぶい橙色③1 ~2mm砂粒含む④口縁部破片
391-21 124	土師器 甕	口-16.0	覆土	口縁部ヨコナデ痕が残る口縁部外反する	①良好②赤褐色③細砂粒含 む④口縁部破片
391-22 124	土師器 甕	口-18.0	No.22	口縁部屈曲弱く立ち上がる口縁部ヨコナデ胴部へ ラケズリ内面ヘラナデ	①良好②赤褐色③2~3mm の砂粒含む④口縁部½残存

Fig. 391-23 PL. 124 鉄製品 長-9.2cm 厚-10mm 不明

154号住居跡 (Fig. 392・393・394・395、PL. 31・124)

G区北西部に位置し51~53G35~38の範囲にある。150号住居跡の西にある。他の遺構との重複関係はない。規模は長辺4.7m、短辺3.1mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cm~30cmを測り、主軸方位は

N-82°-Eである。床面は平坦をなし住居跡中央部に炭化物の散布が見られる。また、南東部に貯蔵穴と思われる小穴が検出された。規模は約120cm×70cm、深さ約20cmを測り、覆土内から石が検出された。壁周溝は検出されていない。竈は東壁中央部に検出された。規模は燃烧部幅約80cm、同長約60cmを測る。

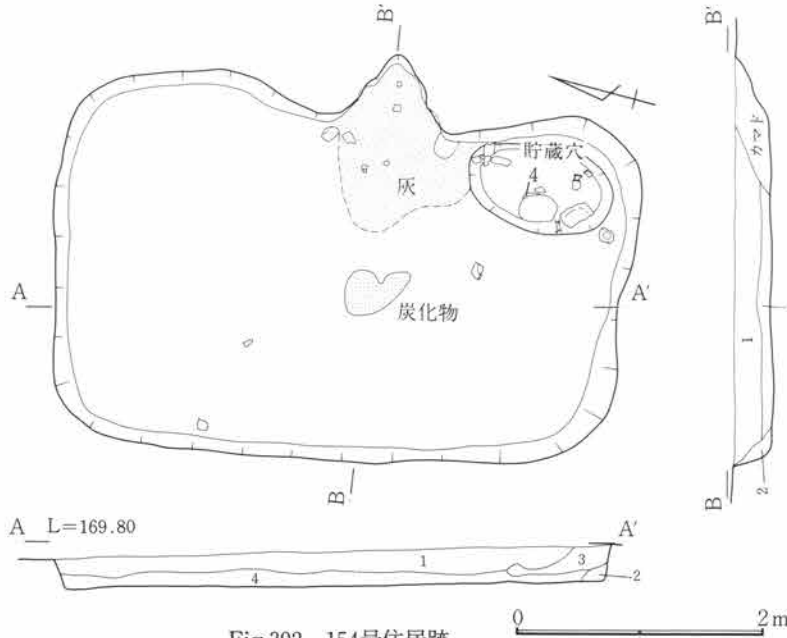


Fig.392 154号住居跡

154号住居跡

- 1 淡褐色土層 FP、FAを含む
- 2 淡褐色土層
- 3 淡褐色土層 焼土を含む
- 4 淡褐色土層 FPを少量含む

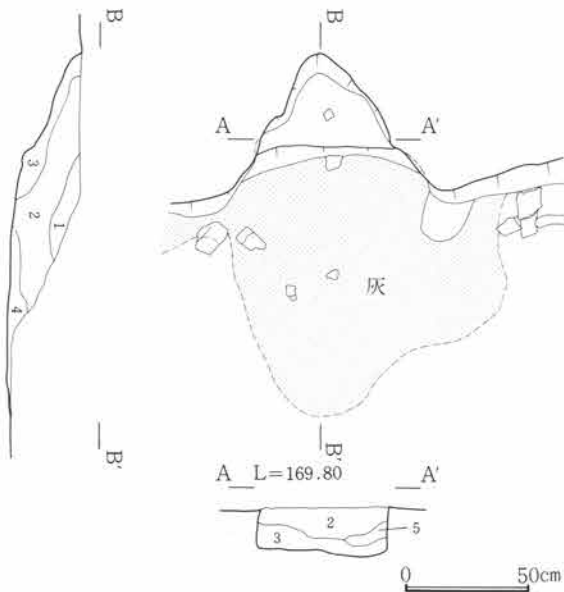


Fig.393 154号住居跡竈

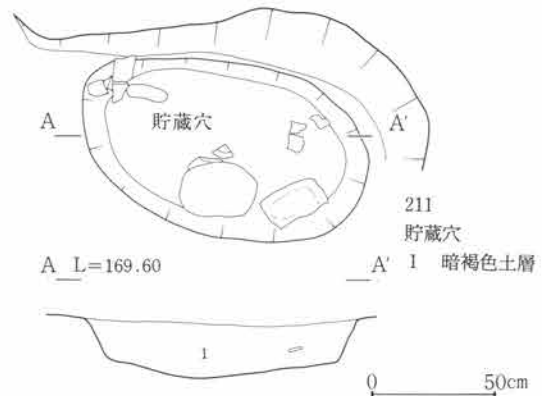


Fig.394 154号住居跡貯蔵穴

154号住居跡竈

- 1 暗褐色土層
- 2 暗褐色土層 泥流土を含む
- 3 暗褐色土層 焼土を含む
- 4 暗褐色土層
- 5 暗褐色土層 FAを含む

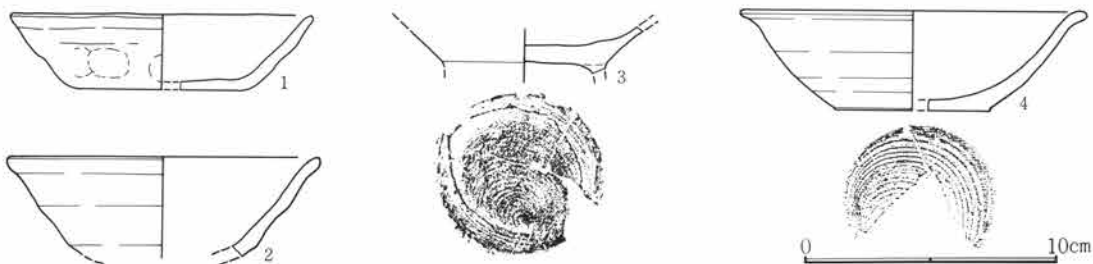


Fig.395 154号住居跡出土遺物(1)

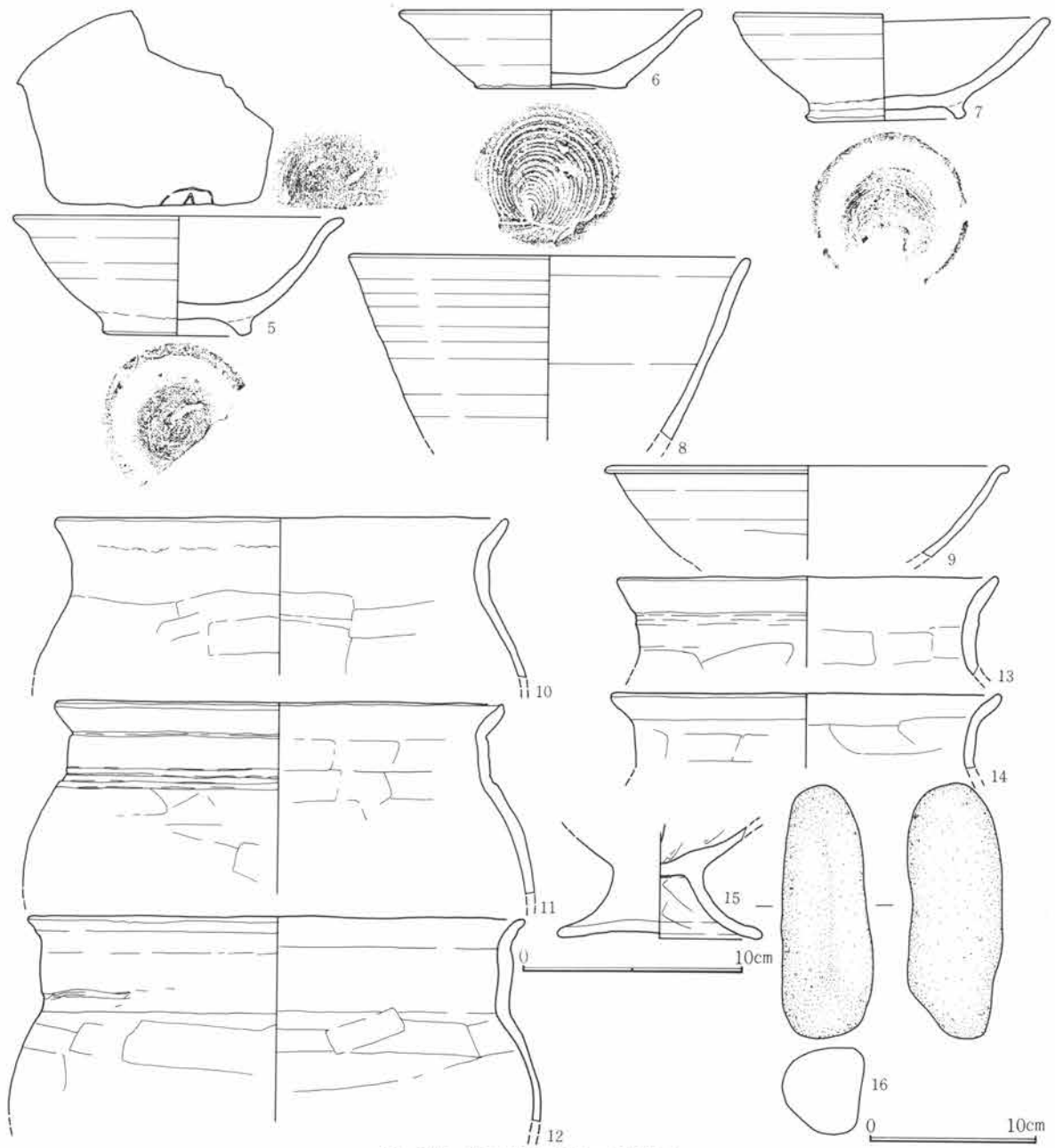


Fig.396 154号住居跡出土遺物(2)

第154号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
395-1 124	土師器 坏	口-12.0 高-3.0 底-6.7	覆土	口縁部ヨコナデ体部指頭痕底部ヘラケズリ口縁部直線状に外傾する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁~底部破片
395-2 124	須恵器 坏	口-12.4	覆土	外面轆轤成形痕2段	①良好②灰白色③細砂粒含む④口縁部%残存
395-3 124	須恵器 塊		覆土	付高台穴落底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む④底部残存
395-4 124	須恵器 坏	口-13.7 高-3.95 底-6.1	No.4	口縁端部外反する底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む④%残存
396-5 124	須恵器 塊	口-14.8 高-5.35 底-6.7	覆土	付高台底部回転調整内外面燻口縁端部外反する	①良好②褐色③細砂粒含む④%残存
396-6 124	須恵器 坏	口-13.45 高-3.5 底-6.8	覆土	器高浅く底径せばまる底部回転糸切右廻り口縁端部外反する	①良好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④%残存

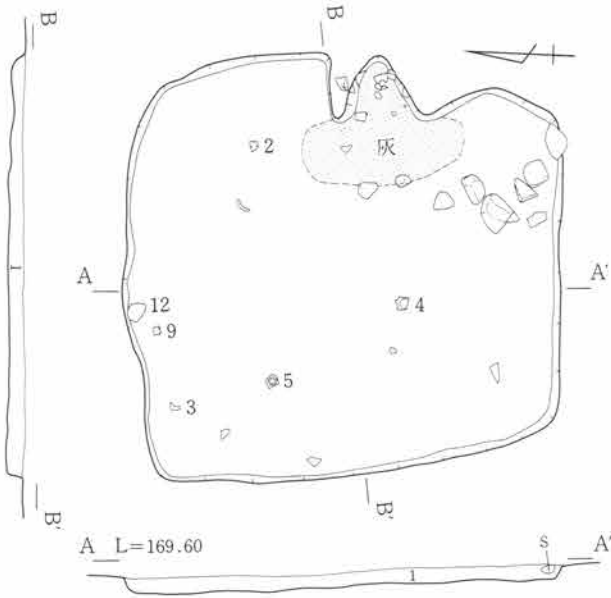
第1節 竪穴住居跡

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
396-7 124	須恵器 埴	口-14.05 高-4.75 底-7.2	覆土	緩やかに内湾する付高台底部回転糸切	①良好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④%残存
396-8 124	須恵器 鉢	口-18.0	覆土	外面轆轤痕残る	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
396-9 124	灰釉陶器 埴	口-18.0	覆土	口縁端部外側に屈曲する	①良好②灰白色③密④口縁部破片
396-10 124	土師器 甕	口-20.4	覆土	口縁部弱いコの字状を呈する口縁部轆轤痕残る口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②にぶい褐色③1~2mm砂粒含む④口縁部%残存
396-11 124	土師器 甕	口-20.0	覆土	口縁部コの字状を呈し沈線状にナデ口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片
396-12 124	土師器 甕	口-22.2	覆土	口縁部コの字状を呈する口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ヘラナデ頸部にヘラ痕	①良好②にぶい褐色③1~2mm砂粒含む④口縁部%残存
396-13 124	土師器 甕	口-17.0	覆土	口縁部弱く外湾する口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②にぶい褐色③細砂粒含む④口縁部%残存
396-14 124	土師器 甕	口-17.4	覆土	口縁部弱く内湾ぎみに外傾する口縁部ヘラナデ内面ヘラナデ	①良好②にぶい褐色③細砂粒含む④口縁部破片
396-15 124	土師器 台付甕	脚-9.2	覆土	台部ややゆがむヨコナデ内面ヘラナデ裾部ヨコナデ甕底部ヘラ痕残る	①良好②にぶい褐色③細砂粒含む④台部残存

Fig. 396-16 PL. 124 石長-15.6cm 幅-5.6cm 厚-5.6cm 石英閃緑岩

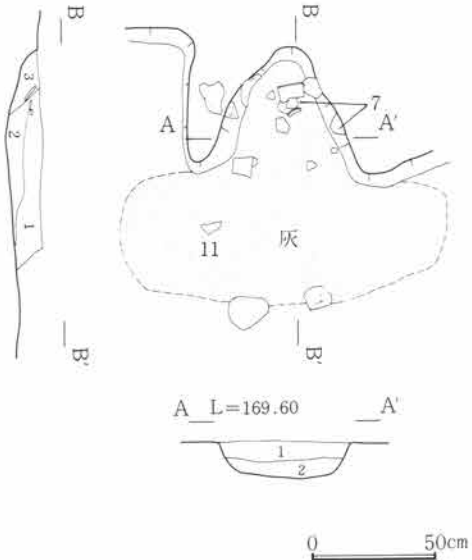
155住居跡 (Fig. 397・398・399, PL. 31・125)

G区北西部に位置し50~52G39・40の範囲にある。151号住居跡の東にある。他の遺構との重複関係はない。規模は長辺3.7m、短辺3.4mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cm~15cmを測り、主軸方位はN-81°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁に検出された。規模は燃焼部幅約70cm、同長約50cmを測る。



155号住居跡
1 灰褐色土層 FAを少量含む

Fig.397 155号住居跡



155号住居跡竈
1 暗褐色土層 FPを多量に含む
2 暗褐色土層 焼土、炭化物、灰を含む
3 暗褐色土層 焼土を多量に含む

Fig.398 155号住居跡竈

第2章 検出された遺構と遺物

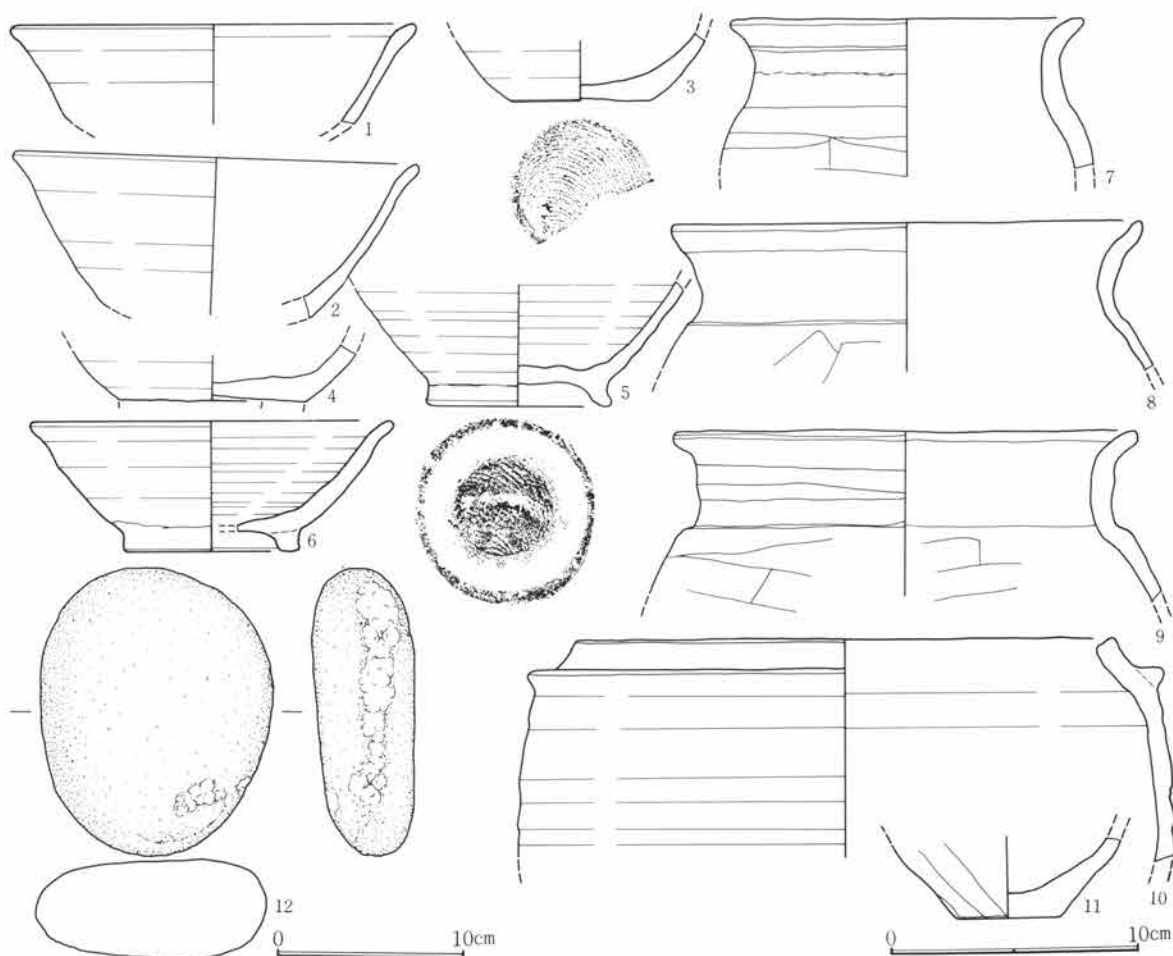


Fig.399 155号住居跡出土遺物

第155号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
399-1 125	須恵器 坏	口-15.8	覆土	口縁部外側へ屈曲する	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
399-2 125	須恵器 坏	口-15.8	No.2	口縁端部弱く外湾する外面轆轤痕残る	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁部破片
399-3 125	須恵器 坏	底-5.4	No.3	底部回転糸切	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④底部残存
399-4 125	須恵器 碗		No.4	付高台欠落底部回転糸切	①良好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④底部残存
399-5 125	須恵器 坏	底-7.0	No.5	付高台内外面轆轤成形痕残る底部回転糸切	①良好②褐色③3~4mmの砂粒含む④底部残存
399-6 125	須恵器 坏	口-14.2 高-5.15 底-6.8	覆土	内面轆轤成形痕残る付高台口縁端部外反する	①良好②灰白色③2~3mm砂粒含む④口縁~底部残存
399-7 125	土師器 甕	口-13.8	No.7	口縁部緩やかに外湾する口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②にぶい赤褐色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片
399-8 125	土師器 甕	口-18.4	覆土	口縁部緩やかに外反する口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②にぶい赤褐色③細砂粒含む④口縁部残存
399-9 125	土師器 甕	口-18.2	No.9	口縁部コの字状を呈する口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②赤褐色③細砂粒含む④口縁部破片
399-10 125	羽釜	口-21.4	覆土	口縁部短く内傾する銚短く上を向く外面轆轤成形痕残る	①良好②灰色③2~3mmの砂粒含む④口縁部残存
399-11 125	土師器 甕	底-4.0	No.11	外面ヘラケズリ	①良好②にぶい赤褐色③1~2mm砂粒含む④底部破片
Fig. 399-12 PL. 125 石 長-16.1cm 幅-5.6cm 厚-6.2cm 石英閃緑岩					

156号住居跡 (Fig. 400・401・402、PL. 31・32・125)

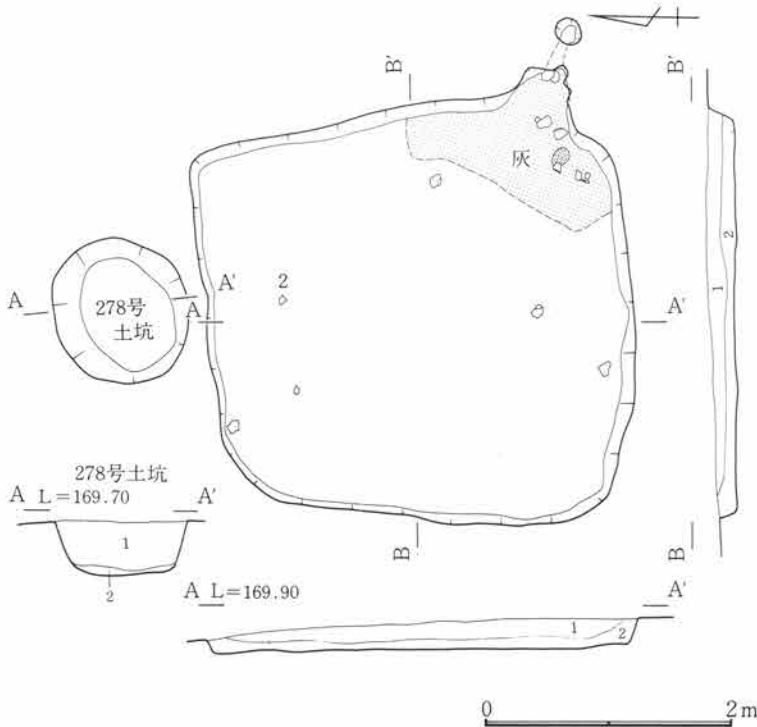


Fig.400 156号住居跡・278号土坑

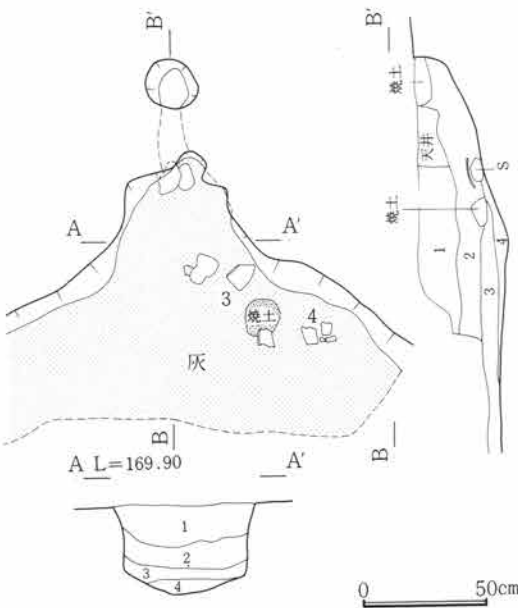
G区北部に位置し43~45G 38~40の範囲にある。159号住居跡の西に接して検出された。他の遺構との重複関係はない。規模は一辺3.5mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cm~20cmを測り、主軸方位はN-76°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は南東コーナーに検出された。規模は燃烧部幅約80cm、同長約40cm、煙道部長約50cmを測る。竈の長軸方位は住居跡方位よりさらに南にずれN-110°-Eである。

156号住居跡

- 1 淡褐色土層
- 2 淡褐色土層 黄褐色土粒を含む

278号土坑

- 1 淡褐色土層 炭化物を含む
- 2 淡褐色土層 炭化物を多量に含む



156号住居跡竈

- 1 淡褐色土層 FA、FP、焼土、炭化物を含む
- 2 淡褐色土層 焼土、炭化物を少量含む
- 3 淡褐色土層 FAを含む
- 4 黒褐色土層 黒色灰を含む

Fig.401 156号住居跡竈

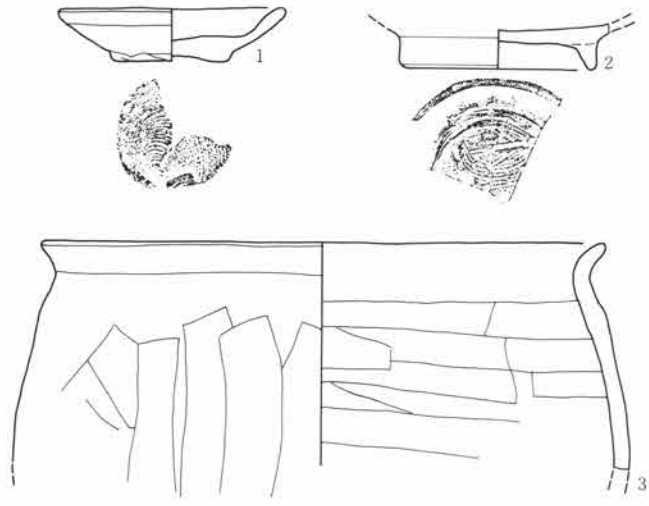


Fig.402 156号住居跡出土遺物

第156号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
402-1 125	須恵器 皿	口-8.8 高-2.1 底-4.4	覆土	底部切残し段を持つ底部回転糸切右廻り	①良好②にぶい黄橙色③1~2mmの砂粒含む④残存
402-2 125	灰釉陶器 坏	底-7.4	No 2	付高台底部糸切	①良好②灰白色③密④底部残存
402-3 125	土師器 甕	口-22.2	No 3	口縁部短く屈曲する外面ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②灰褐色③4~5mmの砂粒含む④口縁部破片
402-4	土師器 甕	口-30.0	No 4	口縁部屈曲する器壁厚く外面ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②にぶい赤褐色③3~4mm砂粒含む④口縁部破片

157号住居跡 (Fig. 403・404、PL. 32・125)

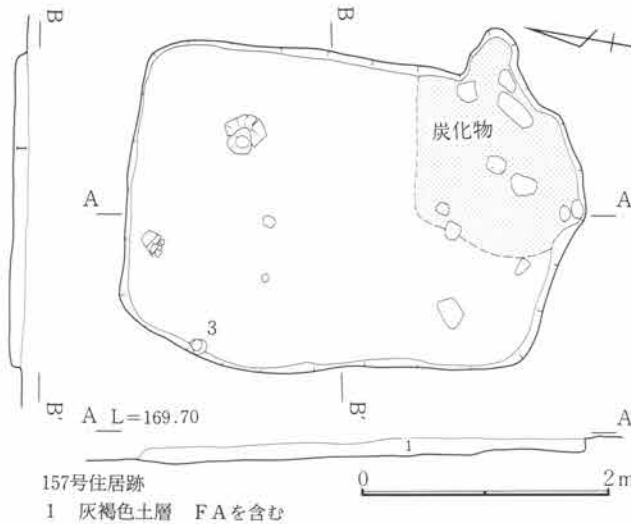


Fig.403 157号住居跡

G区北部に位置し42~44G41~43の範囲にある。159号住居跡の北に接して検出された。他の遺構との重複関係はない。規模は長辺3.7m、短辺2.6mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約5cm~10cmを測り、主軸方位はN-82°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃烧部幅約60cm、同長約40cmを測る。竈前面から石が検出された。

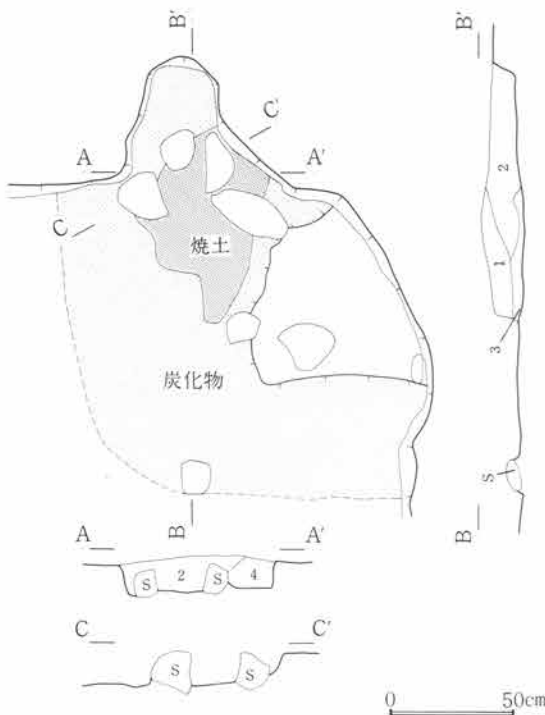


Fig.404 157号住居跡竈

157号住居跡竈
1 暗褐色土層
2 暗褐色土層
焼土、炭化物を含む
3 暗褐色土層
灰を含む
4 暗褐色土層
焼土、炭化物を多量
に含む

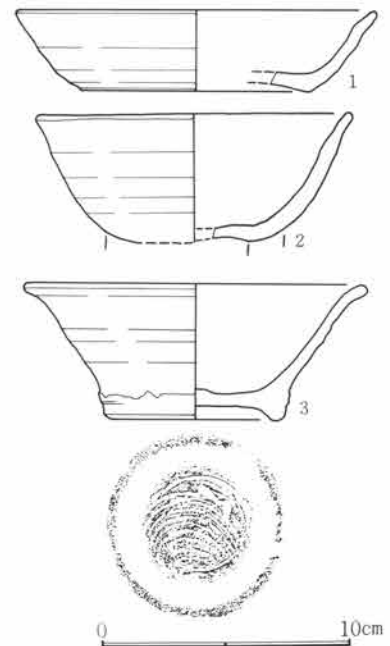


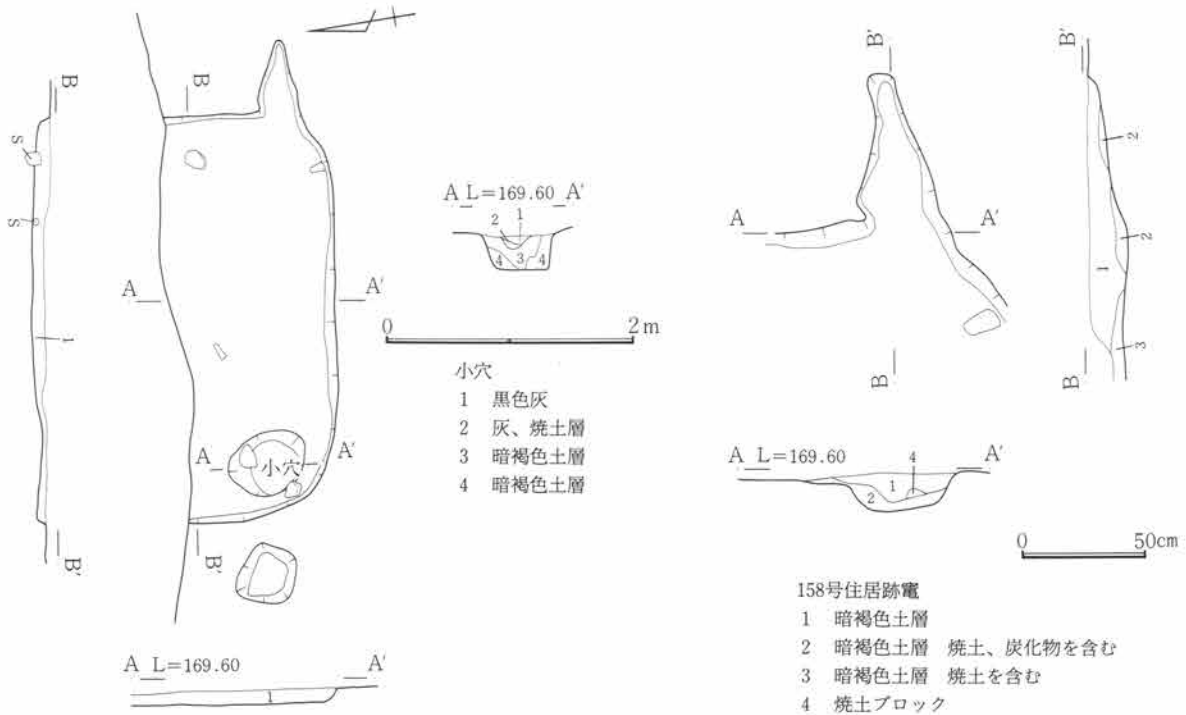
Fig.405 157号住居跡出土遺物

第157号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
405-1 125	須恵器 坏	口-14.3 高-3.2 底-9.0	覆土	底部手持ヘラケズリ	①良好②灰色③密④破片
405-2 125	須恵器 埴	口-12.6	覆土	付高台欠落	①良好②にぶい橙色③1~2mmの砂粒含む④破片
405-3 125	須恵器 埴	口-13.6 高-5.4 底-7.2	No.3	付高台底部回転糸切口縁端部外反する	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④%残存

158号住居跡 (Fig. 406・407、PL. 32)

G区北部に位置し39~41G45・46の範囲にある。157号住居跡の北西にある。他の遺構との重複はない。調査が2次に別れていたため北半部は不明である。南壁は3.3mを測る。壁高は約5cm~10cmを測り、主軸方位はN-97°-Eである。床面は平坦をなし、南西部に小穴が検出された。規模は約70cm×50cm、深さ約20cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約30cm、同長約70cmを測る。

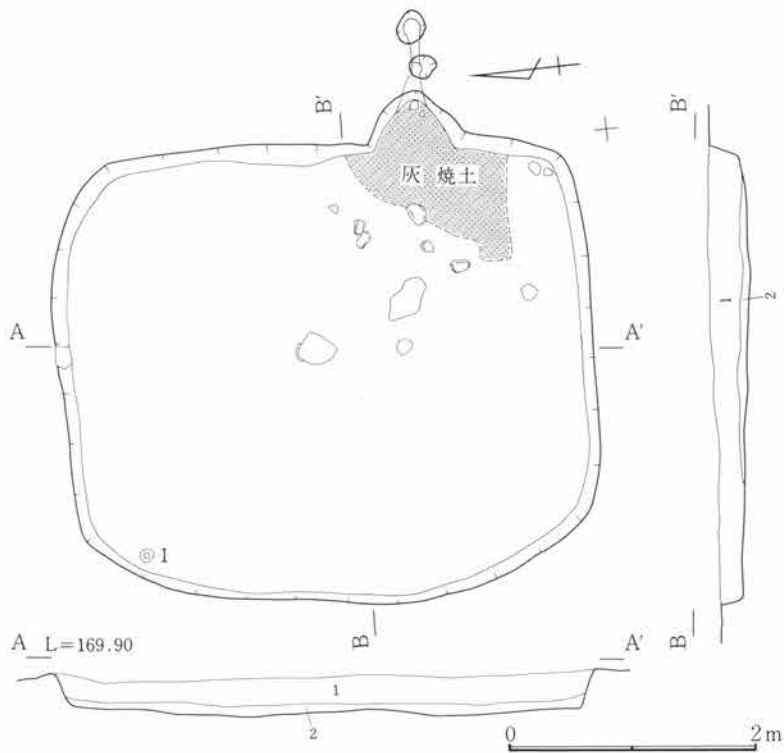


158号住居跡
1 暗褐色土層 FPを含む
Fig.406 158号住居跡

158号住居跡竈
1 暗褐色土層
2 暗褐色土層 焼土、炭化物を含む
3 暗褐色土層 焼土を含む
4 焼土ブロック
Fig.407 158号住居跡竈

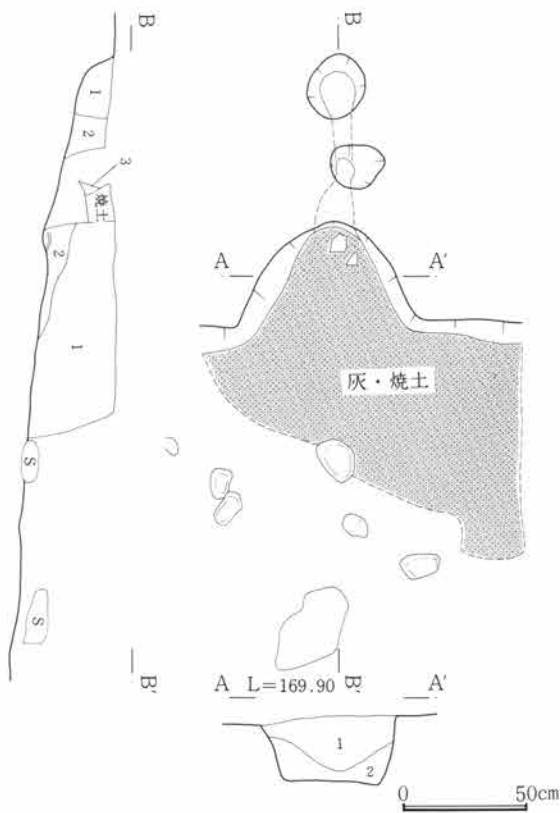
159号住居跡 (Fig. 408・409・410・411、PL. 32・125・126)

G区北部に位置し41~43G39~41の範囲にある。156号住居跡の北東に接して検出された。他の遺構との重複関係はない。規模は長辺4.35m、短辺3.75mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cm~25cmを測り、主軸方位はN-93°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約90cm、同長約50cm、煙道部長約70cmを測る。煙道部先端には煙り出しの小穴が検出された。



159号住居跡
1 暗褐色土層 FPを含む
2 暗褐色土層

Fig.408 159号住居跡



159号住居跡竈
1 淡褐色土層 炭化物を含む
2 淡褐色土層 焼土を含む

Fig.409 159号住居跡竈

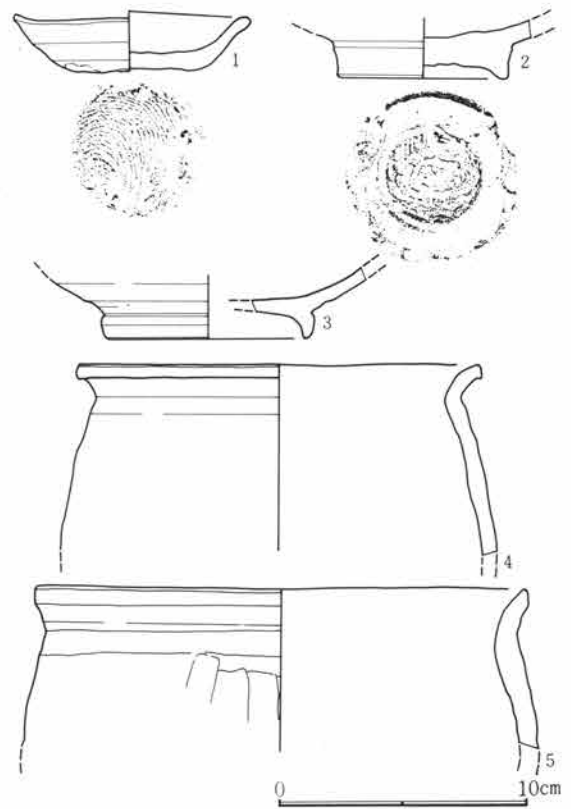


Fig.410 159号住居跡出土遺物(1)

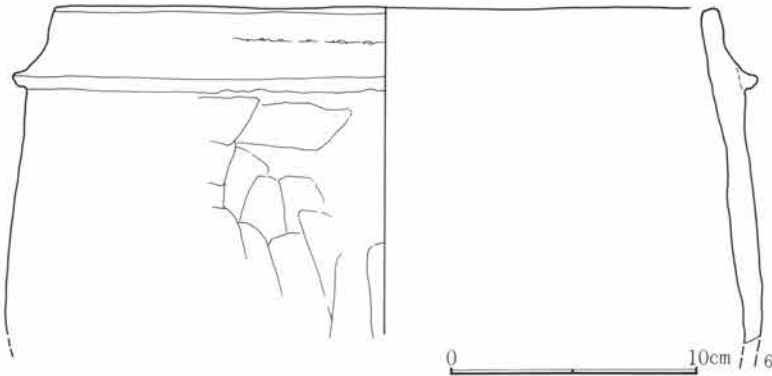
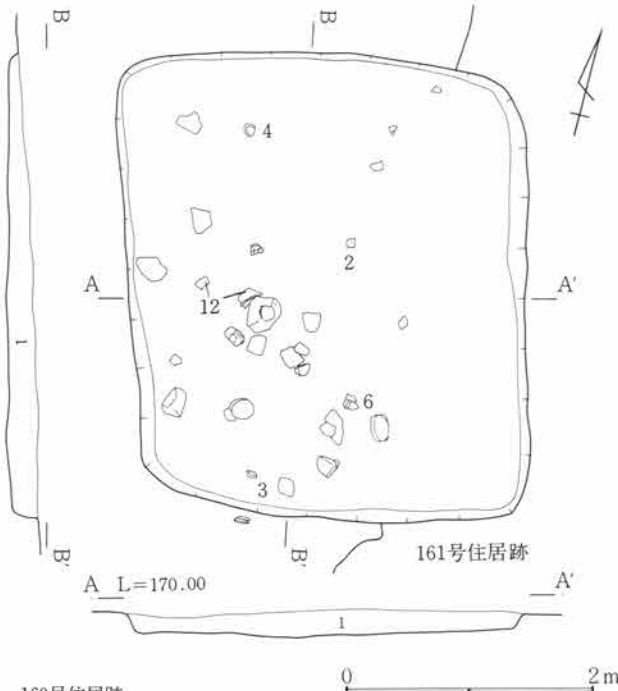


Fig.411 159号住居跡出土遺物(2)

第159号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
410-1 125	須恵器 皿	口-9.4 高-2.4 底-4.4	No 1	口縁部ゆがみ大きい底部回転糸切	①良好②橙色③2~3mmの砂粒含む④完形
410-2 125	須恵器 埴	底-6.8	竈覆土	付高台底部剝落ひどく調整不明瞭	①良好②灰白色③細砂粒含む④底部残存
410-3 125	灰釉陶器 埴	底-7.8	覆土	付高台	①良好②灰色③密④底部破片
410-4 126	土師器 甕	口-16.0	覆土	口縁部屈曲する	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁部破片
410-5 126	土師器 甕	口-19.5	覆土	口縁部弱く屈曲する外面ヘラケズリ内面ナデ	①良好②にぶい褐色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片
411-6 126	羽釜	口-26.4	覆土	鋸低く下を向く胴部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②にぶい橙色③2~3mm砂粒含む④口縁部破片

160号住居跡 (Fig. 412・413・414、PL. 33・126)



160号住居跡
1 暗褐色土層 黄褐色土粒、炭化物粒を含む

Fig.412 160号住居跡

G区北部に位置し44~46G35~37の範囲にある。156号住居跡の南にある。他の遺構との関係は東部で161号住居跡と重複している。新旧関係は160号住居跡が新しい。規模は長辺3.8m、短辺3.3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cm~25cmを測り、北壁は浅く約10cmである。主軸方位は竈が検出されていないため不明である。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。床面上には人頭大の石が多数散布した状態で検出された。

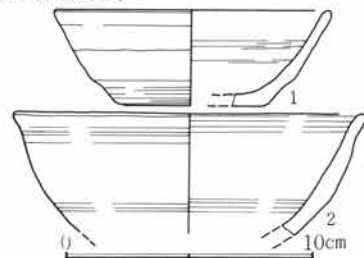


Fig.413 160号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

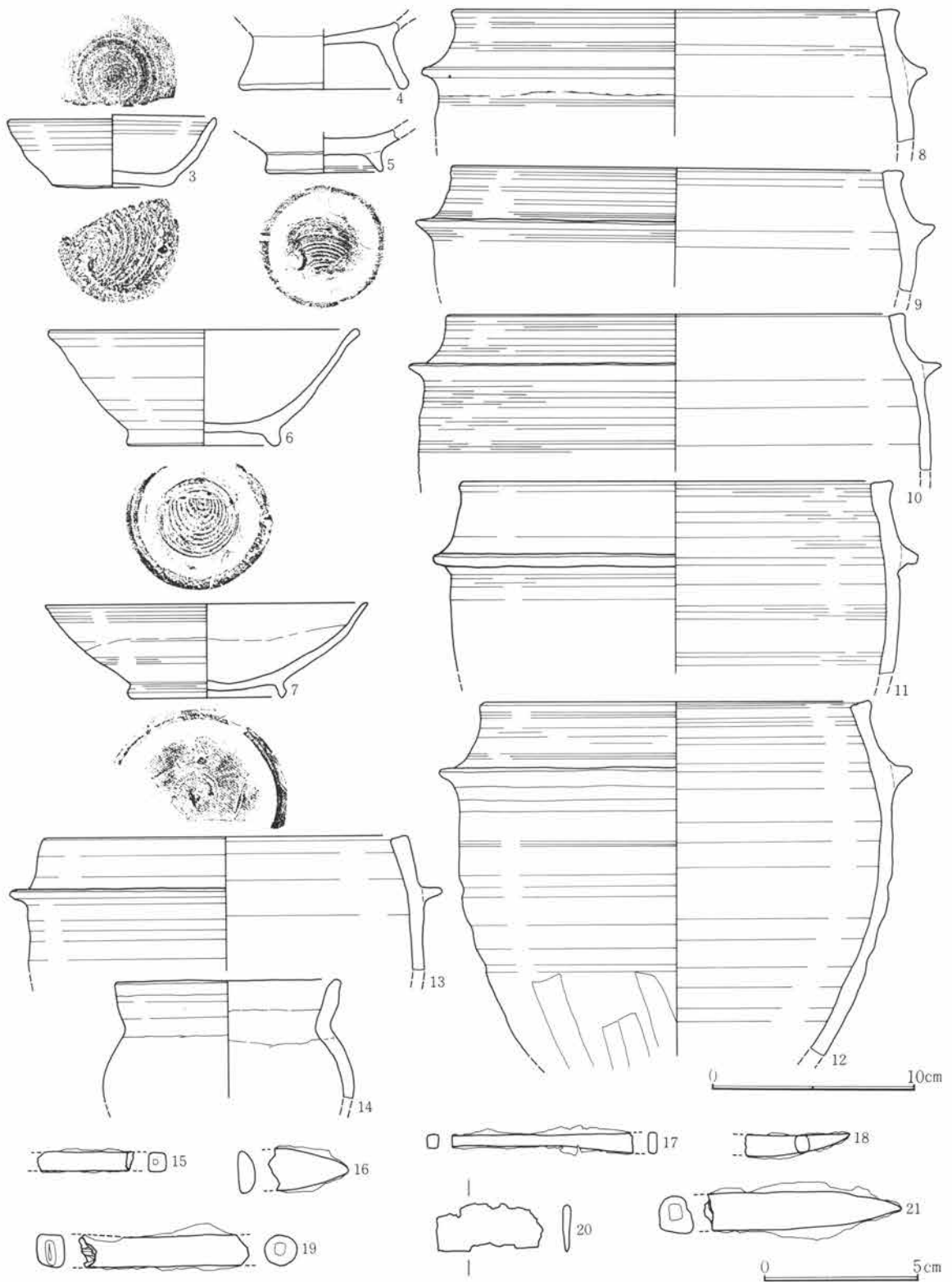


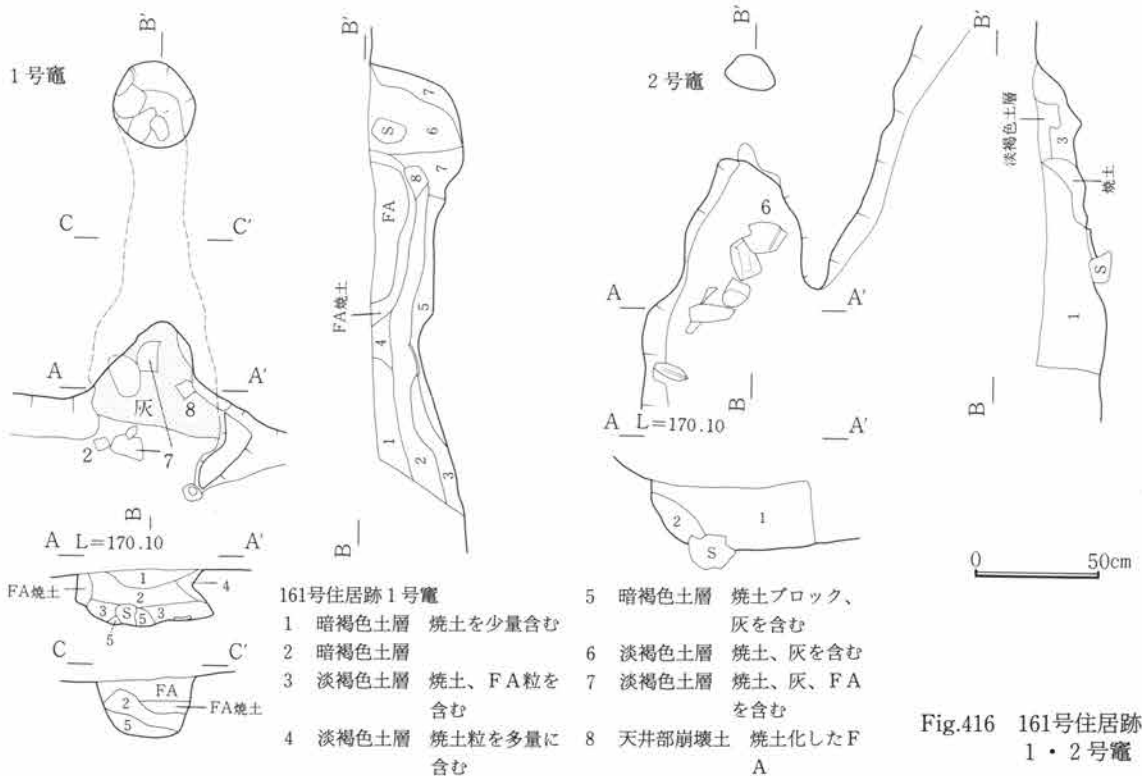
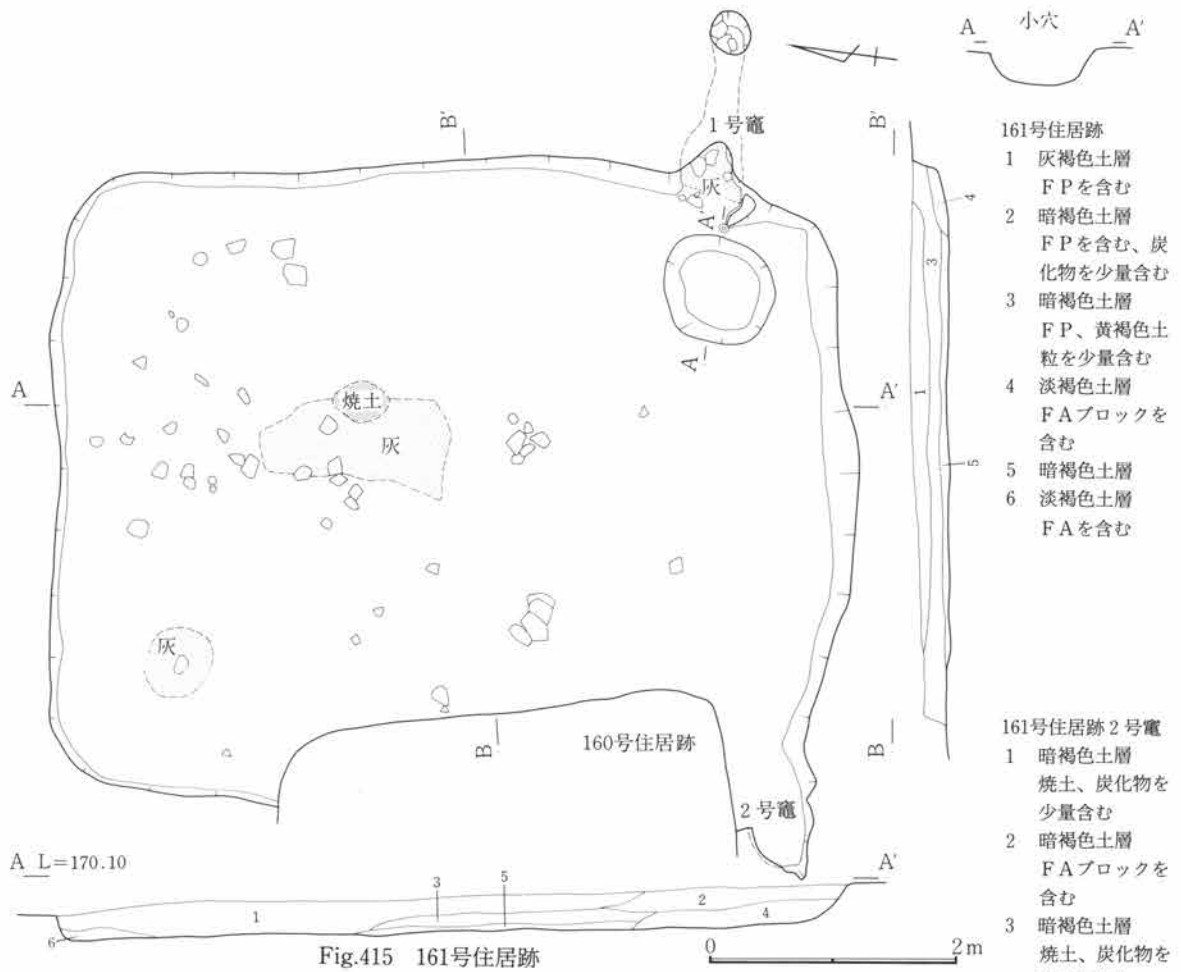
Fig.414 160号住居跡出土遺物(2)

第160号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
413-1 126	須恵器 坏	口-10.9 高-3.8 底-6.0	覆土	腰部に弱い稜をもち底部に向い内湾する底部回転糸切	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④½残存
413-2 126	須恵器 埴	口-14.0	No.2	口縁部弱く内湾する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
414-3 126	須恵器 坏	口-10.2 高-3.5 底-5.0	No.3	腰部に弱い稜をもち底部へ内湾する底部回転糸切右廻り	①良好②にぶい橙色③1~2mmの砂粒含む④½残存
414-4 126	須恵器 埴	底-8.0	No.4	足高高台付高台底部はナデによる調整	①良好②にぶい橙色③2~3mm砂粒含む④高台部残存
414-5 126	須恵器 埴	底-5.3	覆土	付高台底部回転糸切	①良好②にぶい赤橙色③細砂粒含む④高台部残存
414-6 126	須恵器 埴	口-15.0 高-5.6 底-7.0	No.6	口縁部弱く外湾する付高台底部回転糸切	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④½残存
414-7 126	灰釉陶器 埴	口-15.6 高-4.5 底-7.4	覆土	口縁部で弱く外側へ屈曲付高台底部回転調整	①良好②灰白色③密④½残存
414-8 126	羽釜	口-21.8	覆土	口縁部弱く内湾し鍔横を向く鍔下に貼付痕が残る	①良好②にぶい橙色③2~3mm砂粒含む④口縁部破片
414-9 126	羽釜	口-22.0	覆土	口縁部やや内湾する	①良好②灰色③2~3mmの砂粒含む④口縁部破片
414-10 126	羽釜	口-22.2	覆土	口縁部弱く内湾する鍔薄くやや上を向く	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
414-11 126	羽釜	口-21.0	覆土	口縁部直立ぎみで鍔横を向く	①良好②灰色③細砂粒含む④口縁部破片
414-12 126	羽釜	口-19.0	No.12	口縁部内湾する鍔上を向く胴下半ヘラケズリ	①良好②にぶい橙色③5~6mm砂粒含む④口縁-胴部½残存
414-13	羽釜	口-17.4	覆土	鍔薄く横を向く口縁部弱く内湾する	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片
414-14 126	土師器 甕	口-11.0	覆土	口縁部やや直立ぎみに外傾する	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片
Fig. 414-15 PL. 126	鉄製品	長-3.5cm 厚-2mm	不明		
Fig. 414-16 PL. 126	鉄製品	長-2.5cm 厚-6mm	刀子		
Fig. 414-17 PL. 126	鉄製品	長-5.8cm 厚-3mm	刀子		
Fig. 414-18 PL. 126	鉄製品	長-3.4cm 厚-5mm	刀子		
Fig. 414-19 PL. 126	鉄製品	長-5.3cm 厚-3mm	不明		
Fig. 414-20 PL. 126	鉄製品	長-3.2cm 厚-2mm	刀子		
Fig. 414-21 PL. 126	鉄製品	長-6.2cm 厚-5mm	不明		

161号住居跡 (Fig. 415・416・417、PL. 33・127)

G区北部に位置し42~45G34~38の範囲にある。156号住居跡の南にある。他の遺構との関係は西部で160号住居跡と重複している。新旧関係は160号住居跡が新しい。規模は長辺6.6m、短辺5.2mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cm~30cmを測り、主軸方位はN-80°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄り、南西コーナーの2カ所に検出された。各々1号・2号とした。規模は、1号が燃焼部幅約80cm、同長約60cm、煙道部長約110cmを測る。煙道部先端には煙り出しの小穴が検出され天井部が遺存した状態で検出された。竈長軸は住居跡主軸方位よりやや東へずれN-91°-Eである。2号は竈右袖部の一部を160号住居跡に壊されている。規模は燃焼部幅約70cm、同長約110cmを測る。竈長軸の主軸方位は住居跡主軸より西へずれN-121°-Wである。



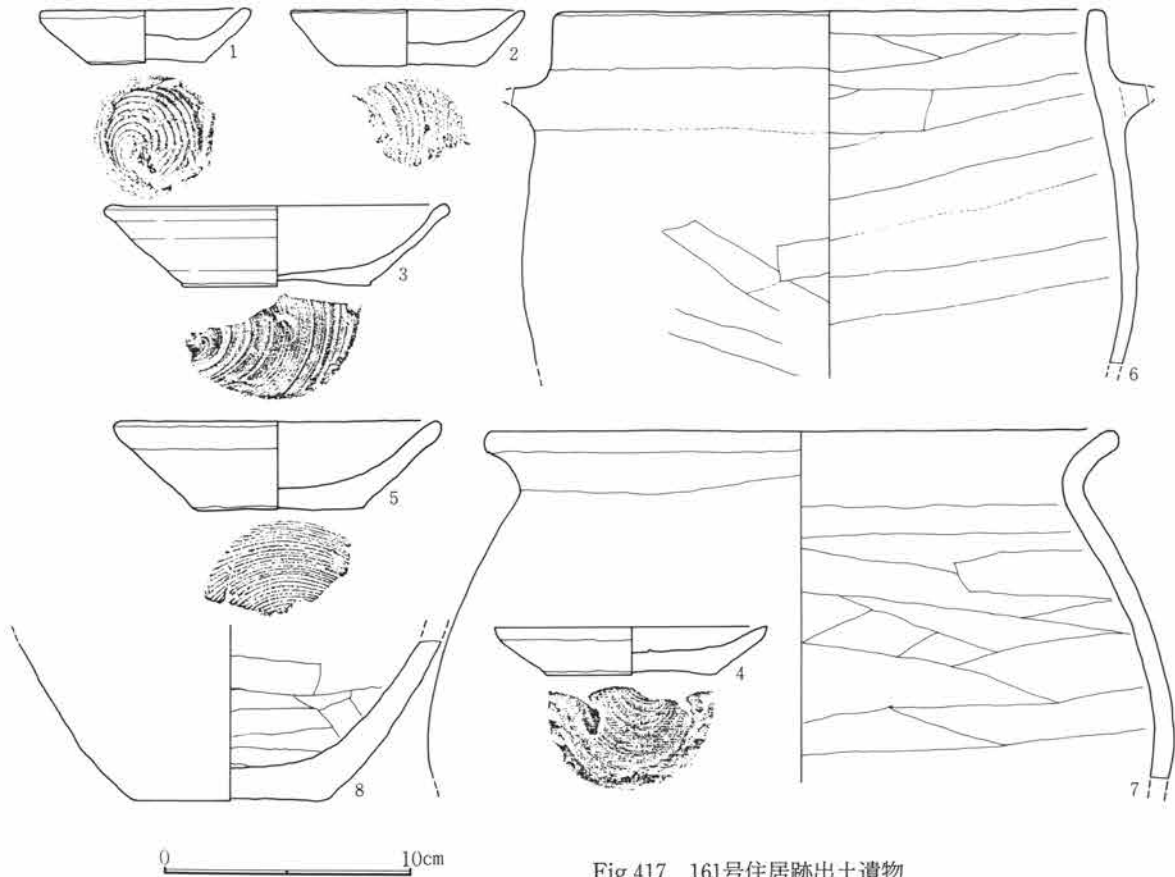


Fig.417 161号住居跡出土遺物

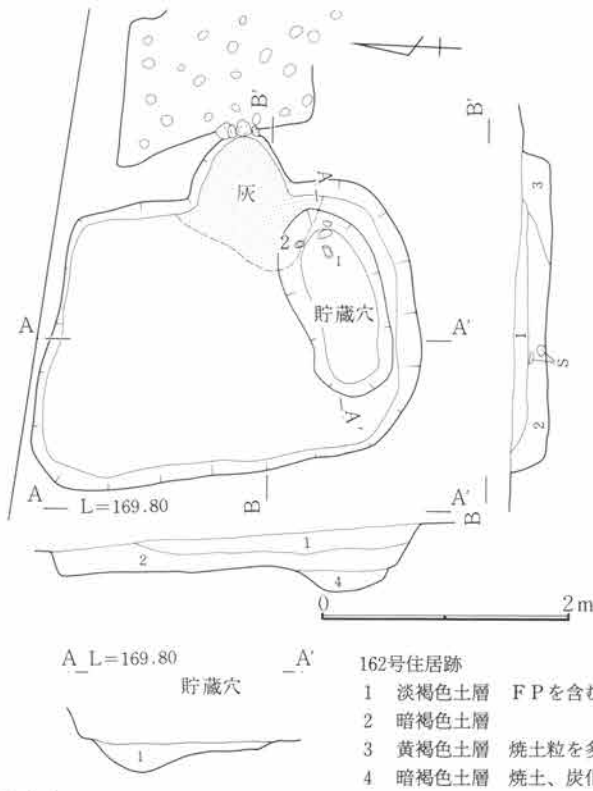
第161号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
417-1 127	須恵器 皿	口-8.0 高-2.1 底-4.4	覆土	器高低く口縁部直線的に外傾する底部回転糸切右廻り	①良好②にぶい赤褐色③2~3mmの砂粒含む④完形
417-2 127	須恵器 皿	口-9.0 高-2.2 底-5.6	No.2	口縁部直線的に外傾する底部回転糸切	①良好②褐灰色③5~6mmの砂粒含む④½残存
417-3 127	須恵器 坏	口-13.4 高-3.15 底-7.4	覆土	口縁部開く底部中心部薄くなる底部回転糸切	①良好②灰色③2~3mmの砂粒含む④½残存
417-4 127	須恵器 皿	口-12.6 高-3.5 底-6.4	覆土	口縁部やや肥厚する底部回転糸切	①良好②にぶい橙色③2~3mmの砂粒含む④½残存
417-5 127	須恵器 皿	口-10.8 高-1.9 底-6.6	覆土	口縁部直立する底部内面轆轤痕残る底部回転糸切	①良好②灰色③細砂粒含む④½残存
417-6 127	羽釜	口-21.6	No.6	口縁部直立ぎみで鋳先端部欠損する胴下半部ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②にぶい赤褐色③3~4mm砂粒含む④口縁部破片
417-7 127	土師器 甕	口-24.8	No.7	口縁部短く屈曲する外面不定方向ナデ内面ヘラナデ	①良好②にぶい橙色③5~6mm砂粒含む④口縁部½残存
417-8 127	土師器 甕	底-7.6	No.8	外面ナデ内面ヘラナデ	①良好②にぶい赤褐色③3~4mm砂粒含む④底部½残存

162号住居跡 (Fig. 418・419・420、PL. 33・127)

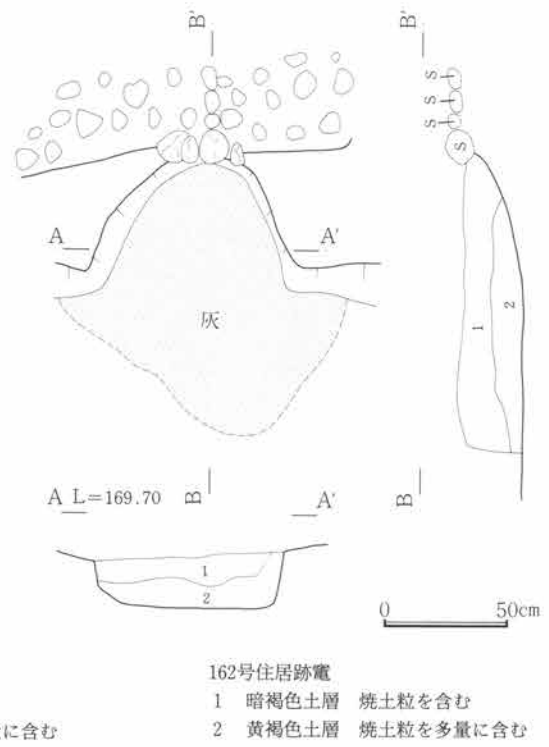
G区北部に位置し37・38G44~46の範囲にある。158号住居跡の東にある。他の遺構との重複関係はない。竈東に接して拳よりやや小型の集石が検出されたが性格等は不明である。規模は長辺3.2m、短辺2.3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cm~30cmを測り、主軸方位はN-81°-Eである。床面は平坦をなし、南壁に接して楕円形の落ち込みが検出された。規模は約150cm×80cm、深さ約10cmを測る。壁周溝は検出されていない。竈は東壁に検出された。規模は燃焼部幅約90cm、同長約40cmを測る。

第2章 検出された遺構と遺物



貯蔵穴
1 暗褐色土層 焼土、炭化物を含む

Fig.418 162号住居跡



162号住居跡電
1 暗褐色土層 焼土粒を含む
2 黄褐色土層 焼土粒を多量に含む

Fig.419 162号住居跡電

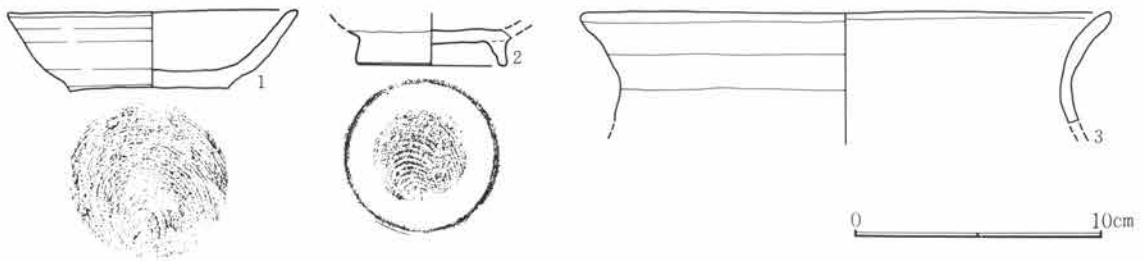


Fig.420 162号住居跡出土遺物

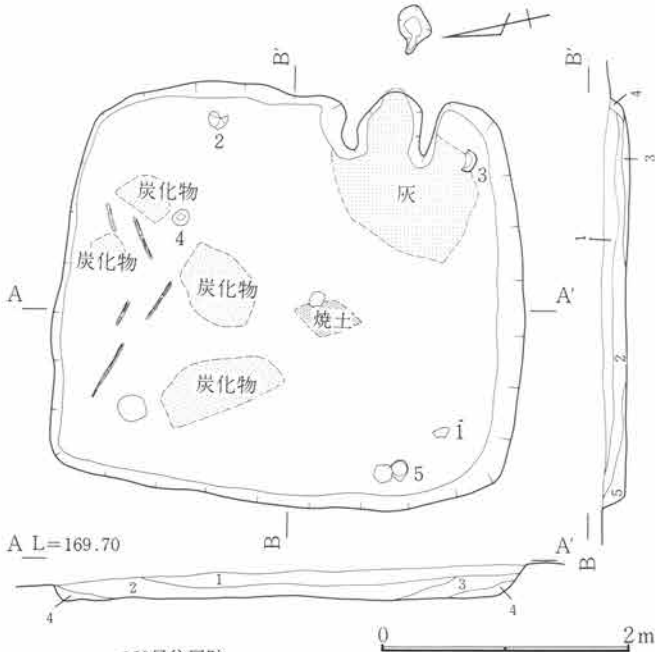
第162号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
420-1 127	須恵器 坏	口-11.5 高-2.9 底-6.4	No.1	口縁部直線状に外傾する底部回転糸切右廻り	①良好②にぶい赤褐色③1~2mmの砂粒含む④残存
420-2 127	須恵器 坏	底-6.0	No.2	付高台底部回転糸切	①良好②灰色③密④高台部残存
420-3 127	土師器 甕	口-21.0	電覆土	口縁部緩やかにカーブする口縁部ヨコナデ	①良好②橙色③細砂粒含む④口縁部破片

163号住居跡 (Fig. 421・422・423、PL. 33・34・127)

G区北西部に位置し59~61G40~42の範囲にある。152号住居跡の北西部にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺3.8m、短辺3.35mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cm~30cmを測り、主軸方位はN-108°-Eである。床面は平坦をなし、床上には焼土、炭化物、炭等が散布した状態で検出された。また木片と思われる炭化材も検出されている。住居跡覆土の状況からは焼失家屋の可能性は薄い。壁周溝・貯蔵

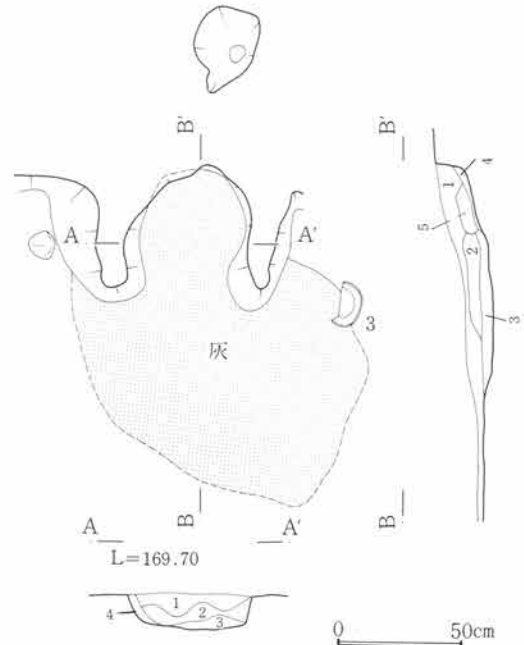
穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。形状は住居跡床面上に両袖が張り出している。規模は袖幅約60cm、燃烧部長約60cm、煙道部長約70cmを測る。煙道部先端には煙り出しの小穴が検出され天井部の一部も検出された。



163号住居跡

- 1 淡褐色土層
- 2 淡褐色土層 黄褐色土ブロックを少量含む
- 3 淡褐色土層 焼土ブロック多量に含む
- 4 淡褐色土層 黄褐色土を含む
- 5 淡褐色土層 黒色土を含む

Fig.421 163号住居跡



163号住居跡竈

- 1 黒褐色土層 炭化物、黒色灰を含む
- 2 黒褐色土層 焼土粒、炭化物、黒色灰を含む
- 3 黒褐色土層 黒色灰、炭化物を多量に含む
- 4 黒褐色土層 炭化物、黒色灰を少量含む
- 5 焼土層

Fig.422 163号住居跡竈

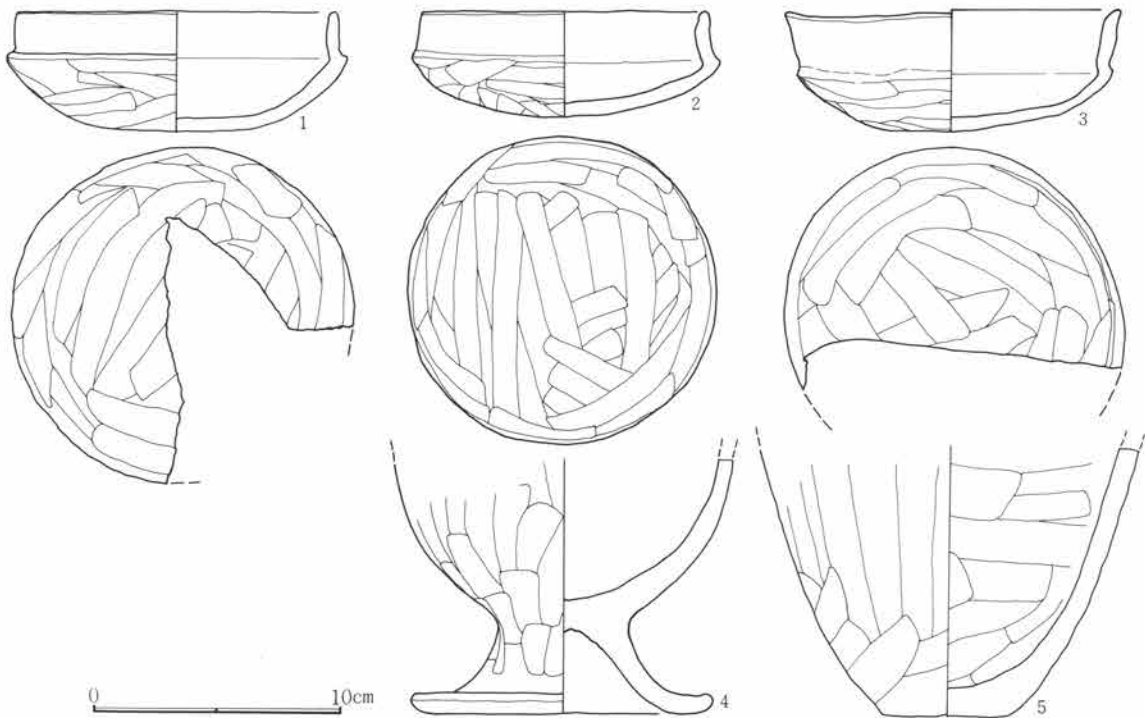
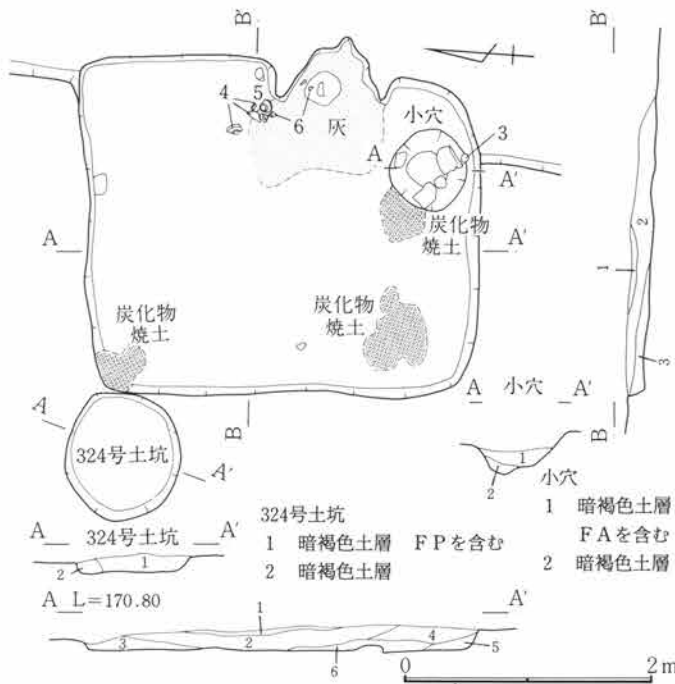


Fig.423 163号住居跡出土遺物

第163号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ③胎土 ②色調 ④残存
423-1 127	土師器 坏	口-12.8 高-4.75	No.1	口縁部稜をもち弱く内傾する口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②赤褐色③細砂粒含む④%残存
423-2 127	土師器 坏	口-11.5 高-4.15	No.2	口縁部稜をもちやや内傾する口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②赤褐色③細砂粒含む④完形
423-3 127	土師器 坏	口-13.25 高-4.85	No.3	口縁部稜をもち弱く外傾する口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②明橙色③細砂粒含む④%残存
423-4 127	土師器 台付甕	底-12.0	No.4	外面ヘラケズリ裾部ヨコナデ内面ナデ台ハの字状に開き端部外湾する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④下部台部残存
423-5 127	土師器 甕	底-4.9	No.5	外面ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②浅黄橙色③1~2mmの砂粒含む④底部残存

164号住居跡 (Fig. 424・425・426、PL. 34・127・128)



G区北西部に位置し61~63G27・28の範囲にある。124号住居跡の北西部にある。他の遺構との重複はないが北西コーナーで324号土坑と接している。規模は長辺3.2m、短辺2.7mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cm~15cmを測り、主軸方位はN-87°-Eである。床面は平坦をなし、西壁と北・南壁の一部に周溝が検出された。幅約10cm~15cm、深さ約5cm~6cmを測る。南東部に小穴が検出された。規模は径約60cm、深さ約20cmを測る。竈は東壁に検出された。規模は燃烧部幅約80cm、同長約60cmを測る。

164号住居跡

- 1 黒褐色土層
- 2 暗褐色土層 FPを含む
- 3 黒褐色土層 焼土、炭化物を多量に含む
- 4 暗褐色土層
- 5 暗褐色土層 焼土を含む
- 6 暗褐色土層 焼土、炭化物を含む

Fig.424 164号住居跡・324号土坑

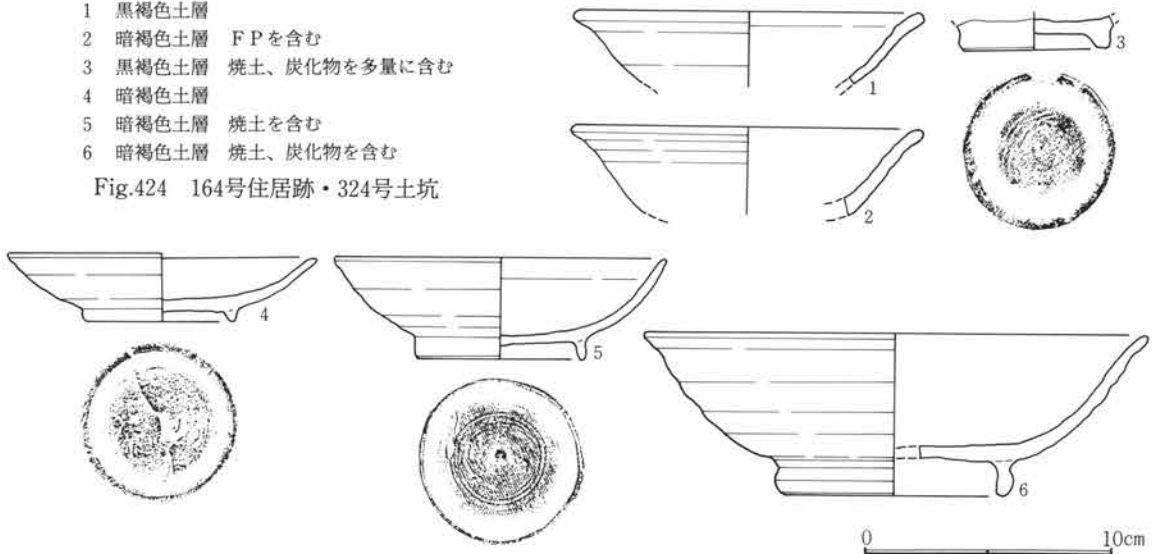


Fig.425 164号住居跡出土遺物(1)

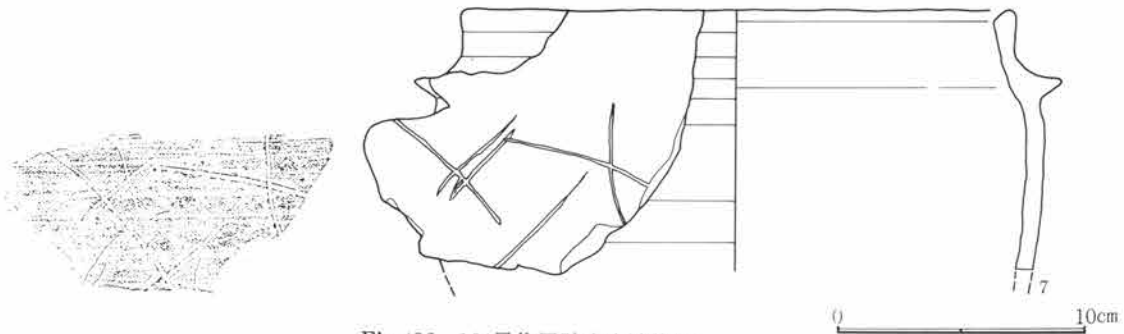


Fig.426 164号住居跡出土遺物(2)

第164号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
425-1 127	須恵器 埴	口-14.0	覆土	口縁部外湾する	①良好②灰色③2~3mmの砂粒含む④口縁部破片
425-2 127	須恵器 坏	口-14.0	覆土	口縁部弱く外湾する	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
425-3 127	須恵器 埴	底-5.6	No.3	付高台底部回転調整	①良好②灰色③細砂粒含む④高台部残存
425-4 127	灰釉陶器 皿	口-12.3 高-2.7 底-6.0	No.4	付高台底部回転調整底部高台部に煤付着	①良好②灰白色③密④残存
425-5 128	灰釉陶器 埴	口-13.2 底-6.5	No.5	口縁部緩やかに内湾する付高台底部回転調整	①良好②灰白色③密④残存
425-6 128	灰釉陶器 埴	口-20.0 高-6.4 底-8.7	No.6	口縁部轆轤痕残る付高台口縁部内湾して立ち上がる	①良好②灰白色③密④口縁~底部残存
426-7 128	羽釜	口-22.0	覆土	口縁部直立きみ鉤横を向く外面へラ記号	①良好②におい橙色③細砂粒含む④口縁部破片

165号住居跡 (Fig. 427・428・429・430、PL. 34・128・129)

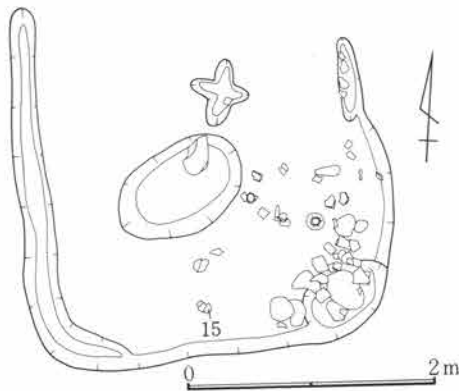


Fig.427 165号住居跡

G区北西部に位置し64・65G34・35の範囲にある。171号住居跡の北西にある。他の遺構との重複はない。住居跡の北壁は明確に確認できなかったが一辺約3mを測る。平面形態は隅丸方形を呈するものと思われ、主軸方位は不明である。床面は平坦をなし、中央部に落ち込みが、北に接し炉が検出された。落ち込みの規模は約110cm×70cm、深さ約40cmを測る。西壁に周溝が検出され、規模は幅約20cm~30cm、深さ約5cm~10cmを測る。竈は検出されていない。当住居跡は中央の落ち込み、炉、台座に用いられたと思われる石が検出されるなど小鍛冶跡と考えられる。

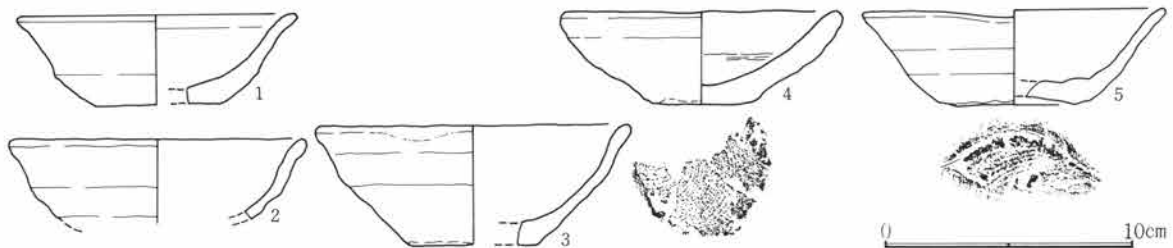


Fig.428 165号住居跡出土遺物(1)

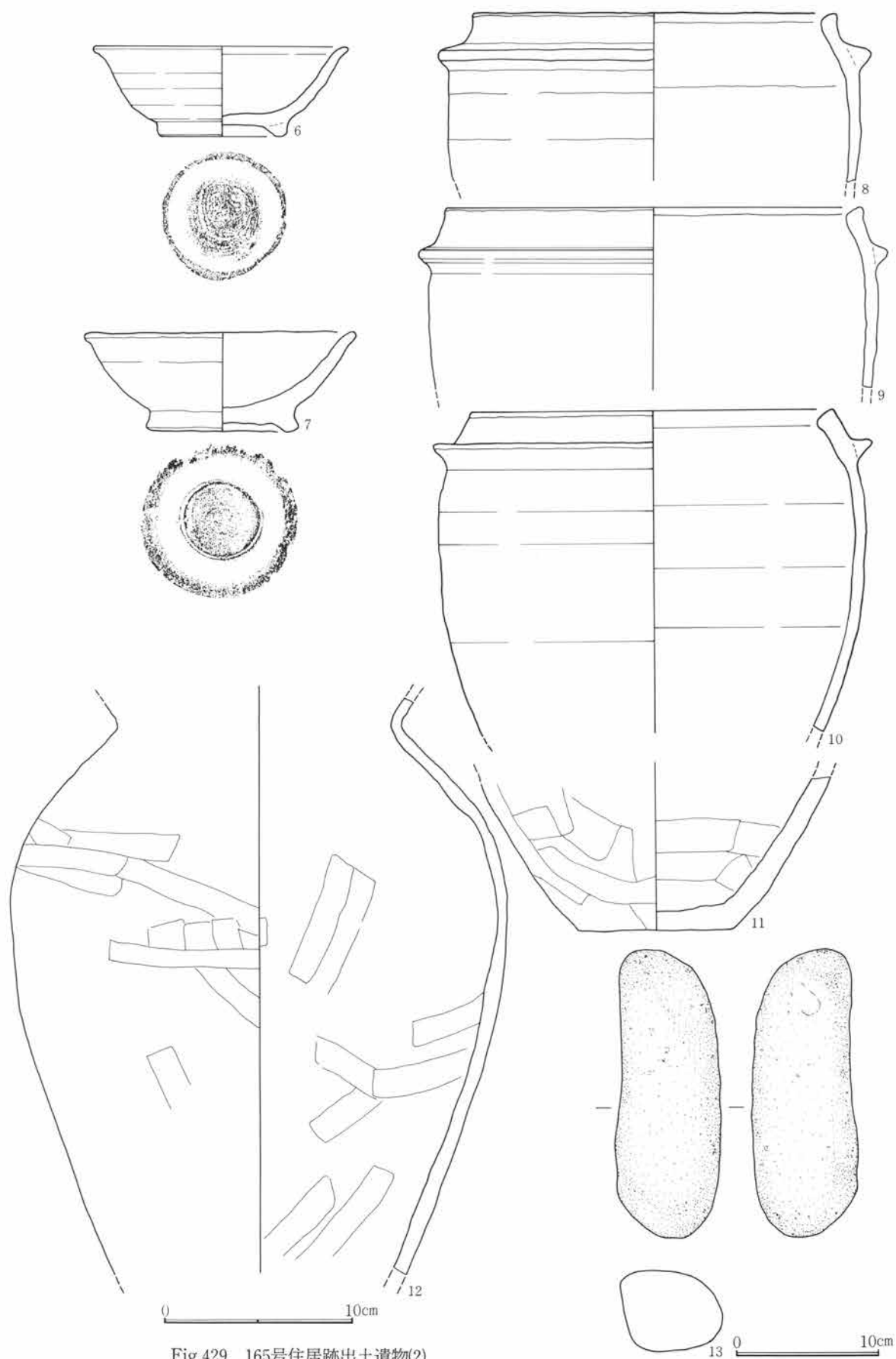


Fig.429 165号住居跡出土遺物(2)

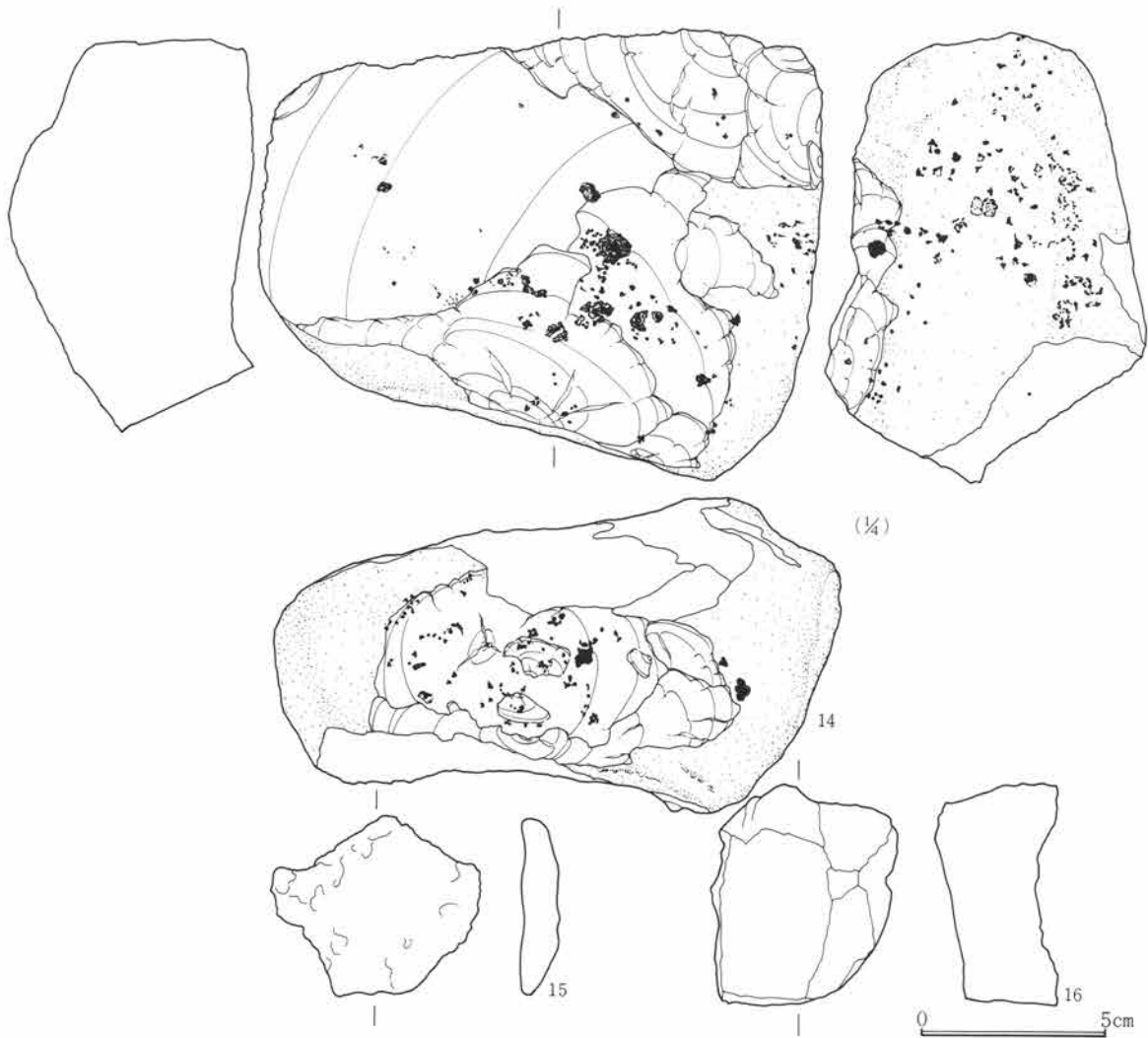


Fig.430 165号住居跡出土遺物(3)

第165号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
428-1 128	須恵器 坏	口-11.2 高-3.55 底-5.0	覆土	口縁端部外側へ屈曲する	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④残存
428-2 128	土師器 坏	口-11.7	覆土	口縁部弱く外湾する	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④口縁部残存
428-3 128	須恵器 坏	口-12.4 高-4.85 底-5.0	覆土	口縁端部弱く外湾する	①良好②にぶい橙色③1~2mmの砂粒含む④残存
428-4 128	須恵器 坏	口-11.0 高-3.7 底-4.2	小穴覆土	口縁部器壁厚く外傾する底部回転糸切底径小さい	①良好②にぶい橙色③1~2mmの砂粒含む④残存
428-5 128	須恵器 坏	口-12.0 高-3.75 底-6.0	覆土	口縁部短く外湾する	①良好②灰白色③細砂粒含む④残存
429-6 128	須恵器 埴	口-13.3 高-4.65 底-6.6	覆土	付高台底部回転調整口縁端部外湾する	①良好②灰色③2~3mmの砂粒含む④残存
429-7 128	須恵器 埴	口-14.2 高-5.1 底-7.8	覆土	付高台底部回転調整口縁端部外側へ屈曲する	①良好②にぶい橙色③1~2mmの砂粒含む④残存
429-8 128	羽釜	口-19.0	覆土	口縁部短く鈔横を向く	①良好②にぶい黄橙色③2~3mm砂粒含む④口縁部破片
429-9 128	羽釜	口-21.8	覆土	口縁部弱く内湾する鈔低く横を向く	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
429-10 128	羽釜	口-18.9	覆土	口縁部短く内湾する鈔上を向く	①良好②灰色③3~4mmの砂粒含む④残存

第2章 検出された遺構と遺物

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
429-11 128	土師器 甕	底-8.0	覆土	外面ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②にぶい褐色③3~4mm砂粒含④底部%残存
429-12 129	須恵器 甕		小穴覆土	口縁部細くなり最大径上胴部にある内外面ヘラナデ	①良好②灰色③3~4mm砂粒含④頸~下胴部%残存
Fig. 429-13	PL. 128	石 長-20.8cm 幅-8.2cm 厚-6.0cm	粗粒安山岩		
Fig. 430-14	PL. 129	石 長-30.4cm 幅-24.3cm 厚-17.0cm	鍛冶跡の台石アブライト		
Fig. 430-15	PL. 128	鉄製品 長-4.9cm 幅-5.6cm 厚-10mm	鉄滓		
Fig. 430-16		鉄製品 長-5.9cm 幅-5.0cm 厚-34mm	鉄滓		

166号住居跡 (Fig. 431・432・434・435、PL. 34・128・129)

G区北西部に位置し53~55G32~35の範囲にある。150号住居跡の南に接して検出された。他の遺構との関係は北西部で169号住居跡、南西部で168号住居跡、南東部で167号住居跡、4号溝と重複している。新旧関係は167・168号住居跡より旧く、169号住居跡・4号溝より古い。規模は長辺5.4m、短辺4.2mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cmを測り、主軸方位はN-78°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南に検出された。竈の北半部は4号溝によって切り崩されている。残存部の規模は燃焼部幅約50cm、燃焼部長約50cmである。

167号住居跡 (Fig. 431・433・436、PL. 35・129・130)

G区北西部に位置し53・54G32~35の範囲にある。150号住居跡の南にある。他の遺構との関係は南東部で4号溝、北西部の大半は166号住居跡と重複している。新旧関係は4号溝・166号住居跡が新しく大半は遺存していない。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は検出されていない。

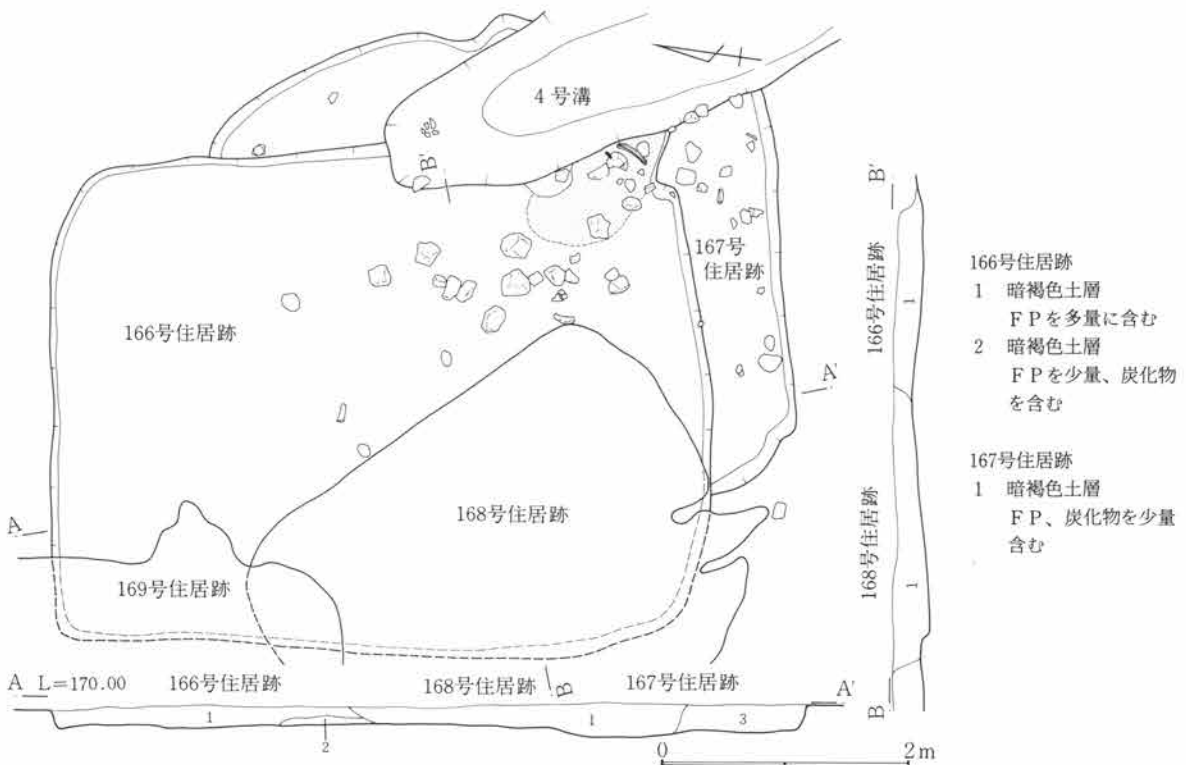
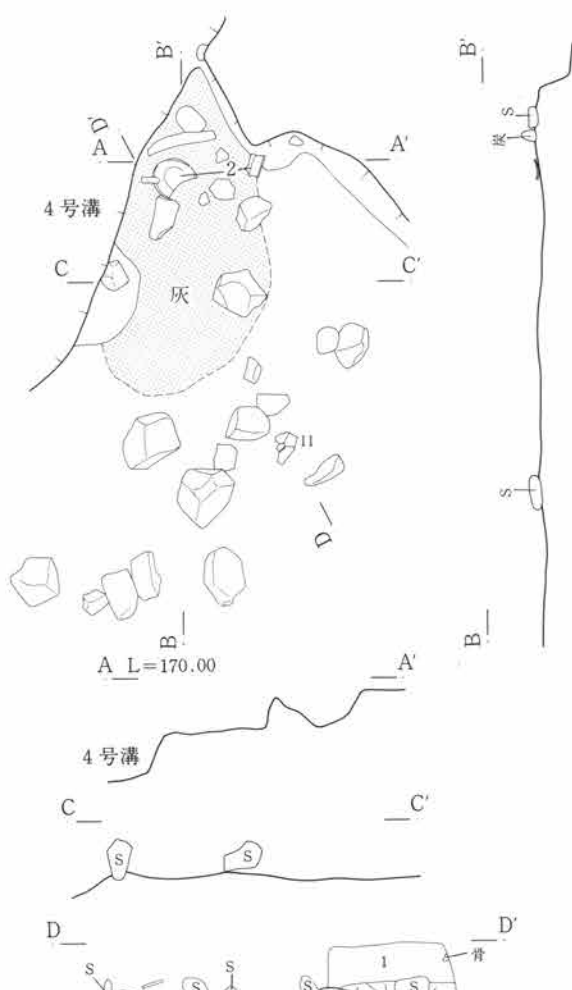


Fig.431 166・167号住居跡

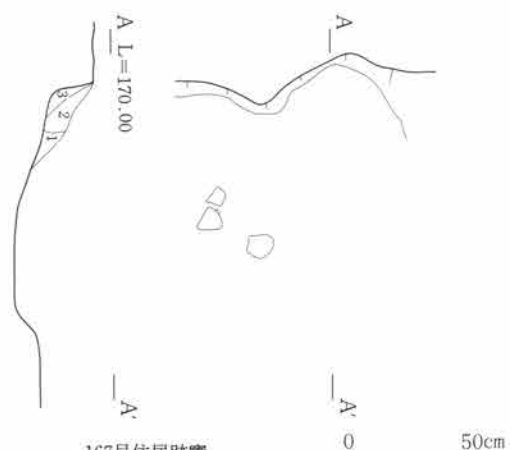


166号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 焼土粒少量含む
- 2 暗褐色土層 焼土ブロックを含む
- 3 焼土

0 50cm

Fig.432 166号住居跡竈

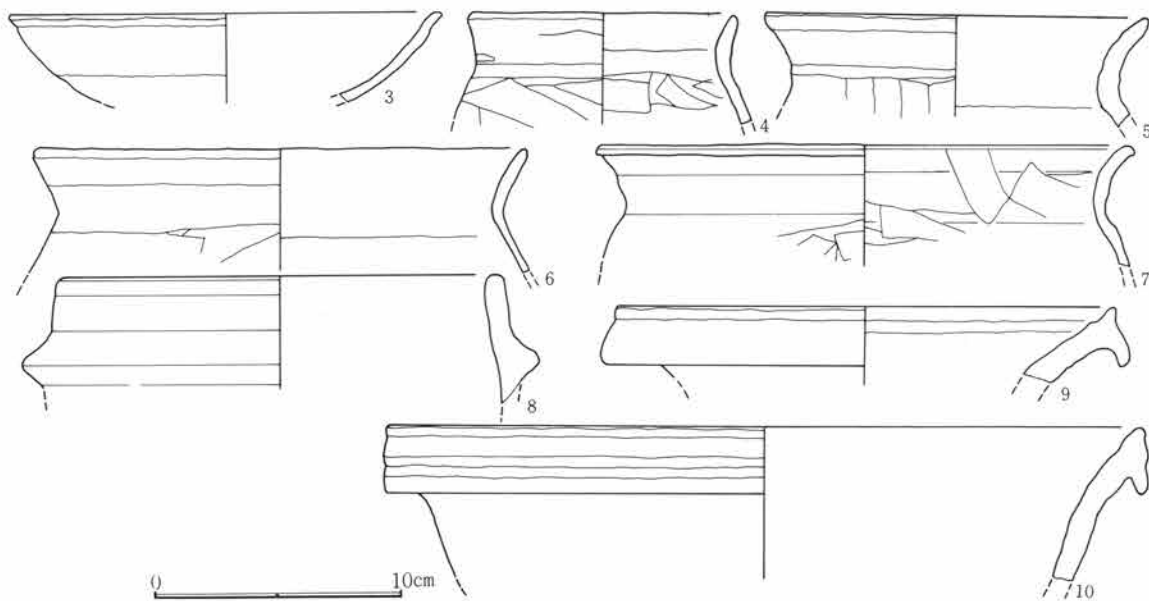
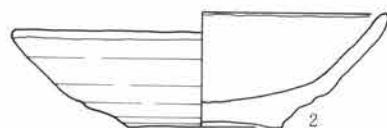


167号住居跡竈

- 1 黒褐色土層 焼土、灰を含む
- 2 黒褐色土層 灰を多量に含む
- 3 黒褐色土層 焼土を含む

Fig.433 167号住居跡竈

0 50cm



0 10cm

Fig.434 166号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

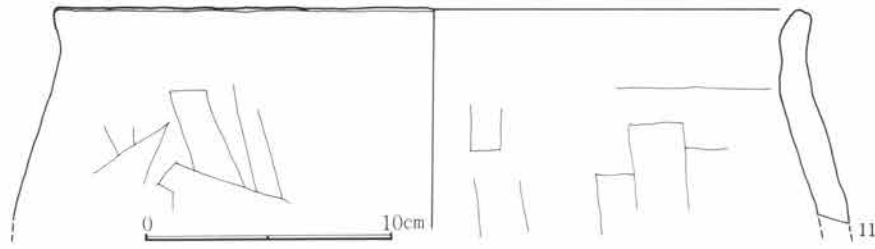


Fig.435 166号住居跡出土遺物(2)

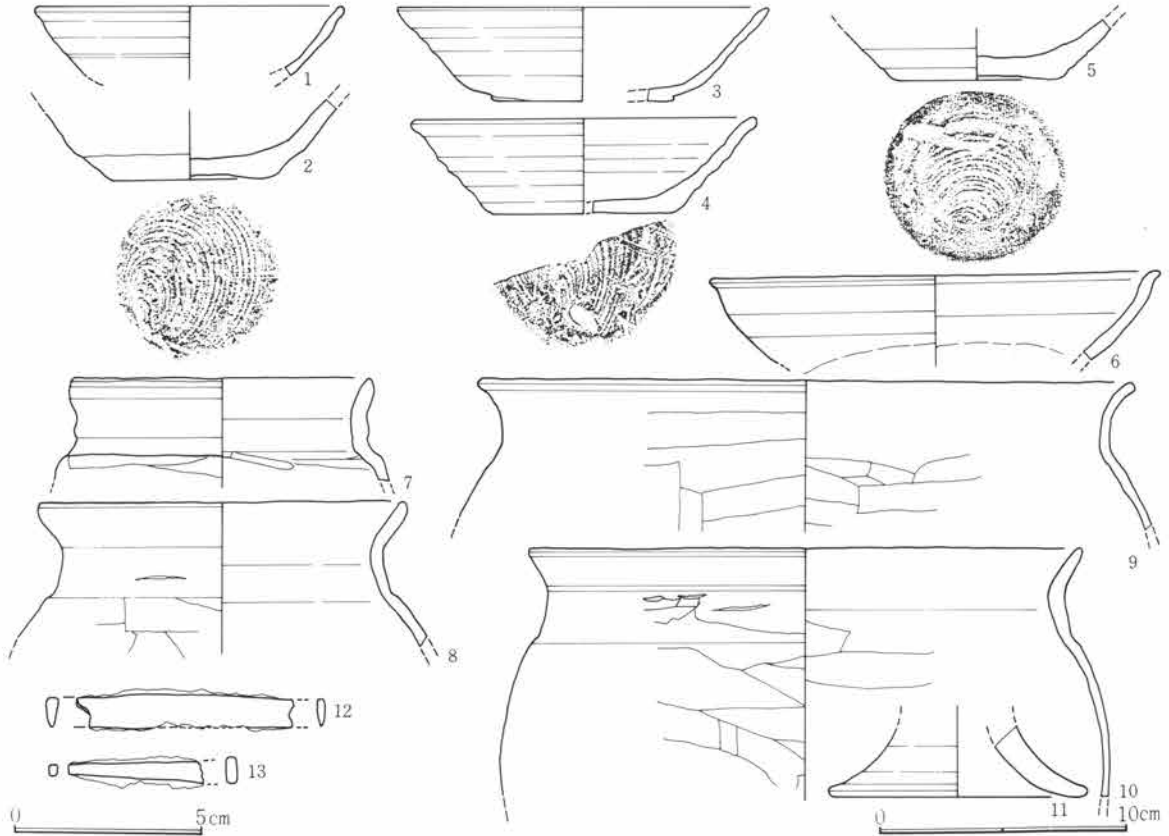


Fig.436 167号住居跡出土遺物

第166号住居跡出土遺物観察表

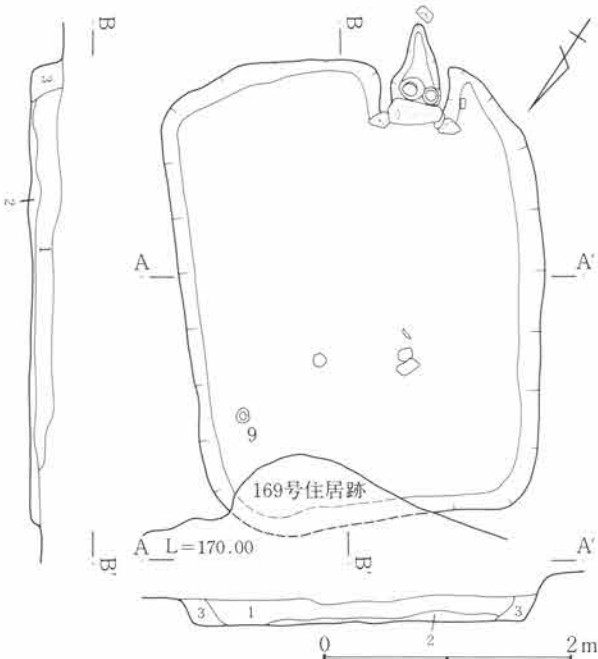
Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
434-1 129	須恵器 坏	口-14.8 高-5.5 底-6.6	覆土	口縁端部弱く外側へ屈曲する底部回転糸切	①良好②浅黄橙色③1~2mmの砂粒含む④1/2残存
434-2 128	須恵器 坏	口-14.6 高-4.55 底-6.0	No.2	底部回転の遅い糸切痕不明瞭口縁部内湾して立ち上がる	①良好②にぶい黄橙色③細砂粒含む④1/2残存
434-3 128	灰釉陶器 皿	口-19.0	覆土	口縁端部外側へ弱く屈曲する	①良好②灰白色③密④口縁部破片
434-4 128	土師器 甕	口-10.5	覆土	口縁部直立ぎみに立ち上がる口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
434-5 129	土師器 甕	口-15.0	覆土	口縁部緩やかに外湾する口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ	①良好②浅黄橙色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
434-6 129	土師器 甕	口-19.4	竈覆土	口縁部外反する口縁部ヨコナデ外面ヘラケズリ内面ナデ	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
434-7 129	土師器 甕	口-21.0	覆土	口縁部弱くコの字状を呈する口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
434-8 129	羽釜	口-17.4	覆土	口縁直立ぎみ鏝低く横を向く	①良好②灰褐色③2~3mmの砂粒含む④口縁部破片

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
434-9	須恵器 壺	口-19.7	覆土		①良好②灰色③細砂粒含む ④口縁部破片
434-10 129	須恵器 壺	口-29.8	覆土	口縁部稜をもち外傾する	①良好②灰色③1~2mmの 砂粒含む④口縁部破片
435-11 129	土師器 甕	口-29.2	Na11	外面ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②褐色③3~4mm の砂粒含む④口縁部破片

第167号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
436-1 129	須恵器 坏	口-12.2	覆土	緩やかに内湾する	①良好②灰白色③細砂粒含む ④口縁部破片
436-2 129	須恵器 坏	底-6.2	覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③1~2mmの 砂粒含む④底部残存
436-3 129	須恵器 坏	口-14.6 高-3.7 底-7.0	覆土	口縁部ハの字状に外傾する底部回転糸切	①良好②灰色③2~3mmの 砂粒含む④破片
436-4 129	須恵器 坏	口-13.4 高-3.75 底-6.8	覆土	口縁部弱く外側に屈曲する内外面轆轤痕明瞭に残る底部回転糸切	①良好②褐色③2~3mm の砂粒含む④残存
436-5 130	須恵器 坏	底-6.0	覆土	付高台欠落底部回転糸切	①良好②黄灰色③2~3mm の砂粒含む④底部残存
436-6 130	灰釉陶器 埴	口-17.6	覆土	口縁部端部外側に屈曲する	①良好②灰白色③密④口縁 部破片
436-7 130	土師器 甕	口-11.8	覆土	口縁部直立きみに立ち上がる口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②にぶい橙色③細砂 粒含む④口縁部破片
436-8 130	土師器 甕	口-14.6	覆土	口縁部コの字状を呈する口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②にぶい黄褐色③細 砂粒含む④口縁部破片
436-9 130	土師器 甕	口-25.8	覆土	口縁部コの字状を呈する口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②にぶい橙色③細砂 粒含む④口縁部破片
436-10 130	土師器 甕	口-21.8	覆土	口縁部コの字状を呈する口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②にぶい褐色③細砂 粒含む④口縁部破片
436-11 130	土師器 台付甕	底-10.0	覆土	内外面ヨコナデハの字状に開く	①良好②にぶい橙色③1 ~2mm砂粒含む④台部残存
Fig. 436-12 PL. 130	鉄製品	長-5.7cm 厚-3mm	刀子		
Fig. 436-13 PL. 130	鉄製品	長-3.6cm 厚-4mm	不明		

168号住居跡 (Fig. 437・438・439・440, PL. 35・130・131)



G区北西部に位置し54~56G32~34の範囲にある。150号住居跡の南にある。他の遺構との関係は北部で169号住居跡、東部で166号住居跡と重複している。新旧関係は166・169号住居跡より古い。規模は長辺3.8m、短辺3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約25cm~30cmを測り、主軸方位はN-142°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は南壁西寄りに検出された。規模は袖幅約50cm、燃烧部長約80cmを測る。竈両袖部からは石が検出された。袖石の上にさらに石が検出された。

168号住居跡

- 1 暗褐色土層 FPを含む
- 2 暗褐色土層
- 3 淡褐色土層 黄褐色土ブロックを含む

Fig.437 168号住居跡

第2章 検出された遺構と遺物

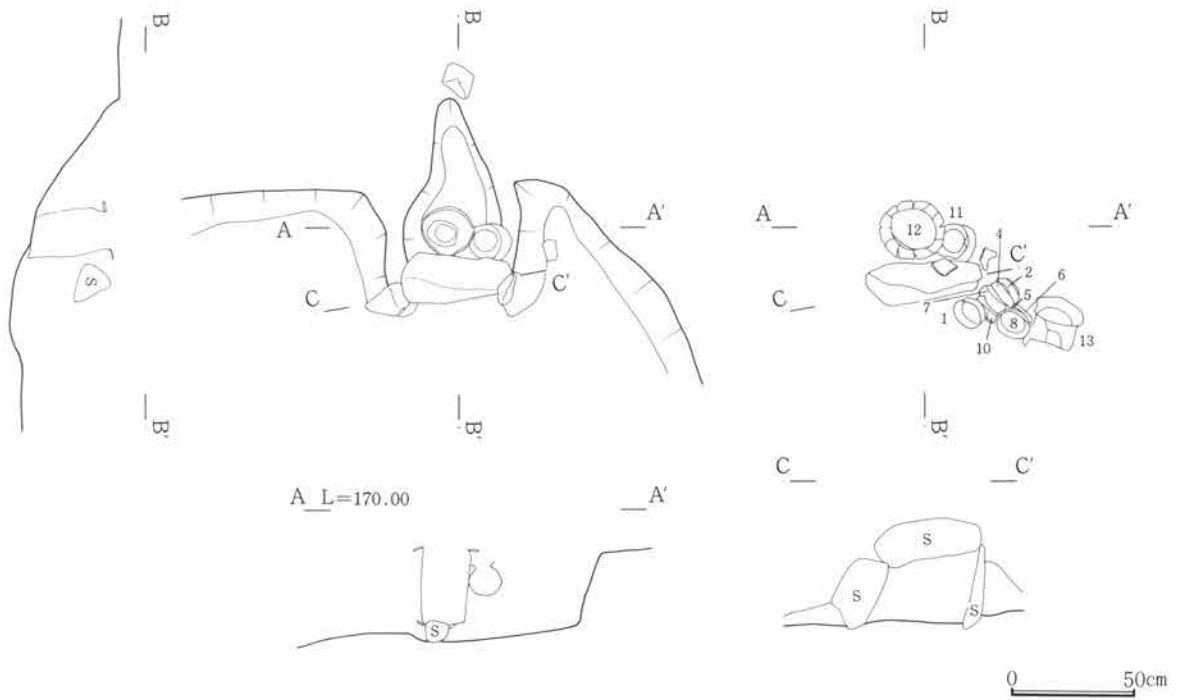


Fig.438 168号住居跡竈

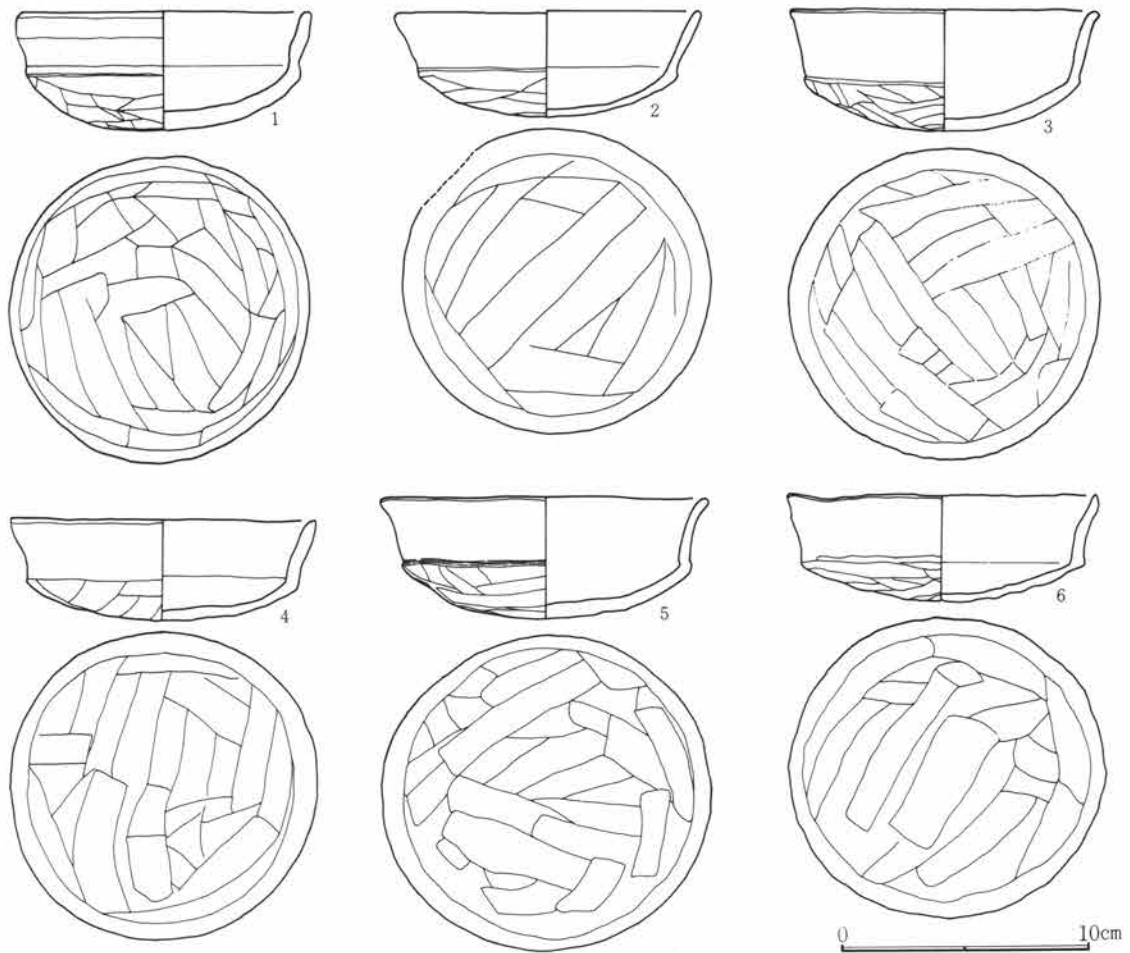


Fig.439 168号住居跡出土遺物(1)

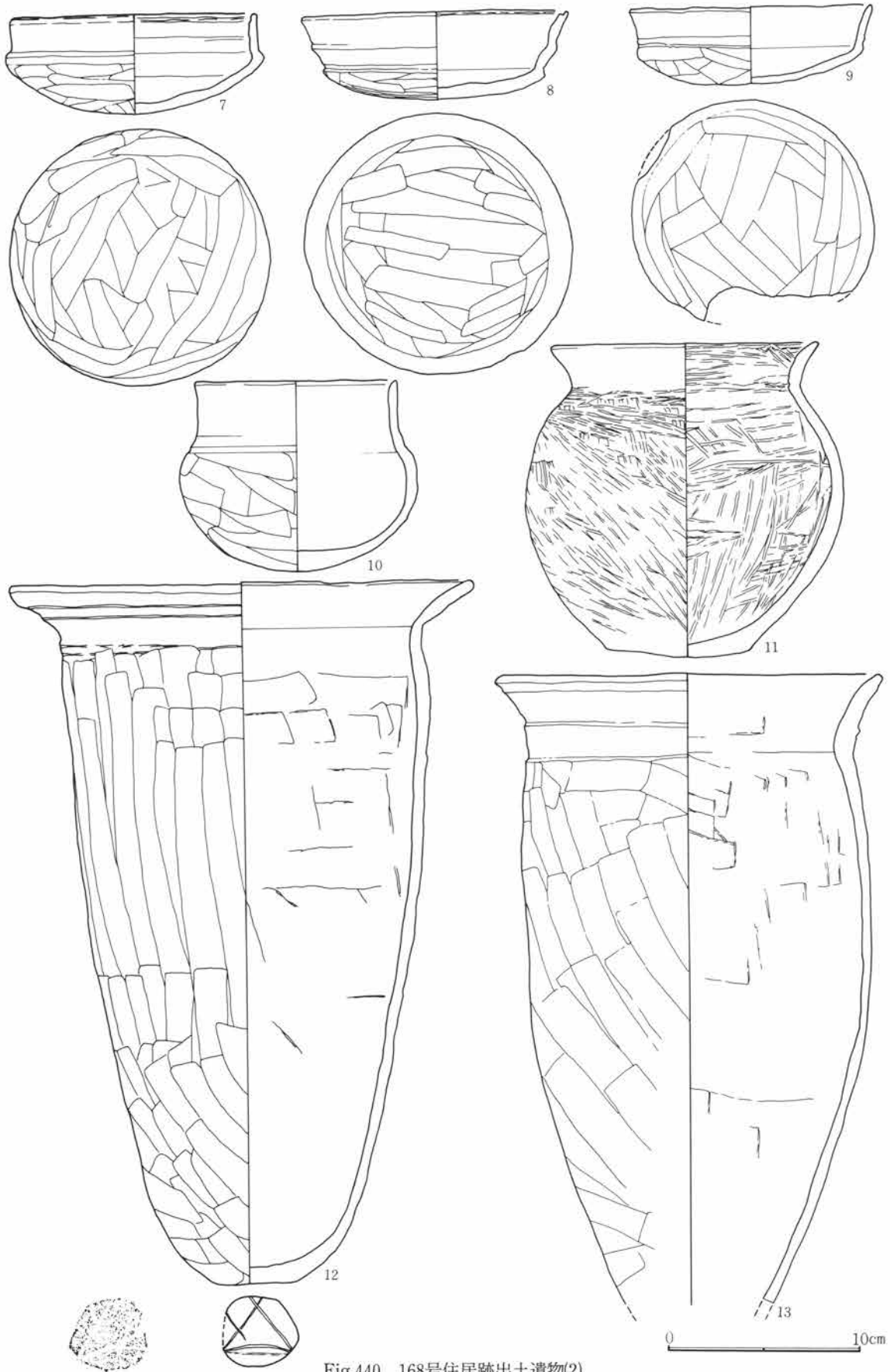


Fig.440 168号住居跡出土遺物(2)

第168号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
439-1 130	土師器 坏	口-11.7 高-4.6	No 1	口縁部やや肥厚し弱く内湾する口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②明橙色③1~2mmの砂粒含む④完形
439-2 130	土師器 坏	口-12.1 高-4.2	No 2	口縁部外側へ開く口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②明橙色③1~2mmの砂粒含む④完形
439-3 130	土師器 坏	口-12.0 高-4.8	覆土	口縁部外傾する口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②明橙色③細砂粒含む④完形
439-4 130	土師器 坏	口-12.2 高-4.0	No 4	口縁部外湾する口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②明橙色③1~2mmの砂粒含む④完形
439-5 130	土師器 坏	口-13.1 高-4.85	No 5	口縁部外湾する口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②明橙色③細砂粒含む④完形
439-6 130	土師器 坏	口-12.4 高-4.1	No 6	底部浅く口縁部外湾する口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②明橙色③1~2mmの砂粒含む④完形
440-7 130	土師器 坏	口-12.4 高-5.1	No 7	口縁部直立する口縁部内面に沈線入る口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②にぶい赤褐色③細砂粒含む④完形
440-8 130	土師器 坏	口-13.7 高-4.5	No 8	口縁部中に稜をもち外側へ開く端部内側に沈線が巡る口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②にぶい赤褐色③細砂粒含む④完形
440-9 130	土師器 坏	口-12.2 高-3.9	No 9	口縁部外傾する口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②明橙色③細砂粒含む④残存
440-10 130	土師器 壺	口-10.4 高-9.7	No 10	口縁部直立する底部丸底口縁部ヨコナデ胴底部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②明橙色③1~2mmの砂粒含む④完形
440-11 130	土師器 壺	口-13.6 高-16.0 底-7.0	No 11	口縁部弱く外反し胴部球形を呈する口縁部ヨコナデ胴部刷毛調整後ミガキ内面ミガキヘラナデ	①良好②黒褐色③1~2mmの砂粒含む④完形
440-12 131	土師器 長甕	口-23.7 高-35.6 底-3.8	No 12	口縁部くの字状に屈曲し底部へラ記号状に残る口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ヘラナデ痕残る	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④完形
440-13 131	土師器 長甕	口-19.3	No 13	口縁部弱く外湾する胴部は長胴化する口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ヘラナデヘラ痕残る	①良好②にぶい橙色③2~3mm砂粒含む④下胴部欠損

169号住居跡 (Fig. 441・442・443, PL. 36・130・131)

G区北西部に位置し55~57G34~36の範囲にある。151号住居跡の南にある。他の遺構との関係は北東部で150・184号住居跡、東部、南東部で166・168号住居跡と重複している。新旧関係は166・168号住居跡より新しく、150号住居跡より古い。184号住居跡との新旧関係は不明である。規模は長辺3.8m、短辺3.5mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cm~30cmを測るが西壁は約5cm~6cmを測る。主軸方位はN-

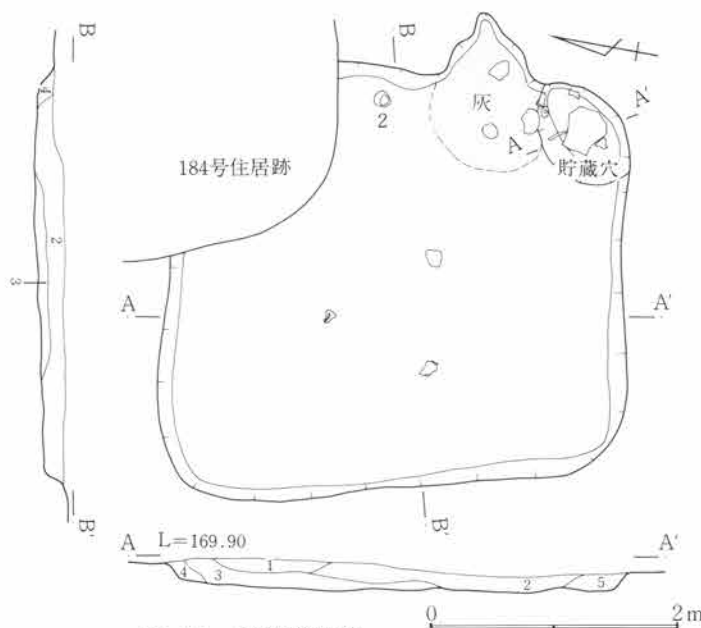


Fig.441 169号住居跡

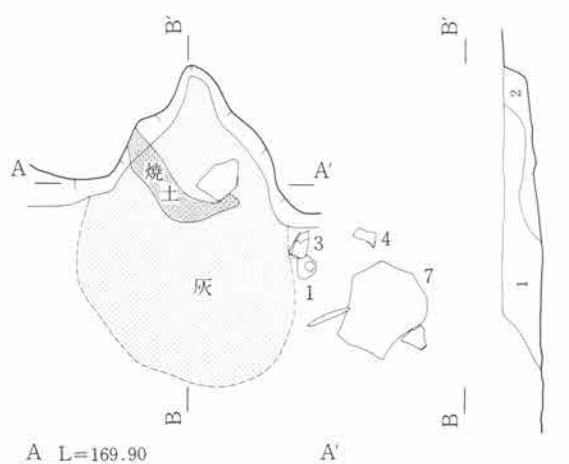
73°-Eである。床面は平坦をなし、南東コーナーに貯蔵穴が検出された。規模は約100cm×65cm、深さ約15cmを測る。

壁周溝は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃烧部幅約80cm、同長約60cmを測る。



169号住居跡

- 1 暗褐色土層 FPを含む
- 2 暗褐色土層 FPを含む
- 3 暗褐色土層 FAを含む
- 4 暗褐色土層 FAブロックを含む
- 5 淡褐色土層 黄褐色土粒を含む



A L=169.90

169号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 FPを含む
- 2 暗褐色土層 焼土を含む

Fig.442 169号住居跡竈

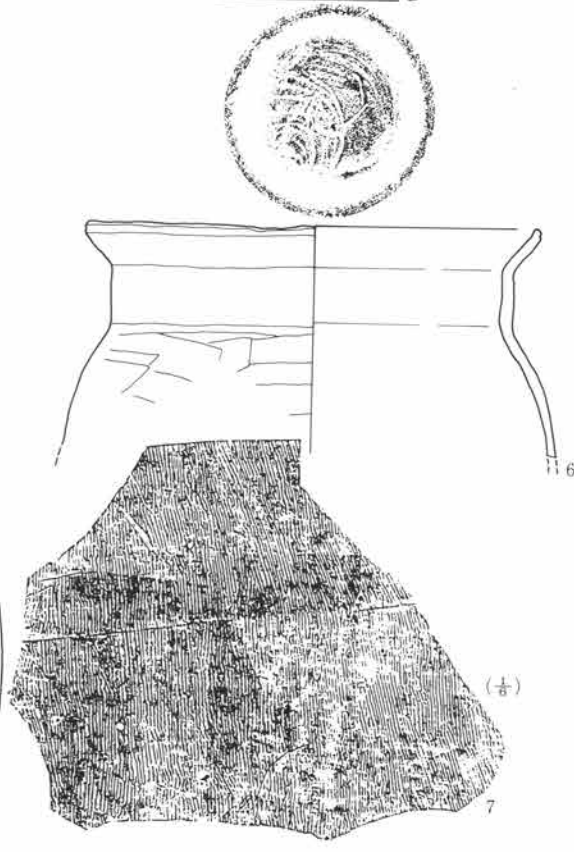
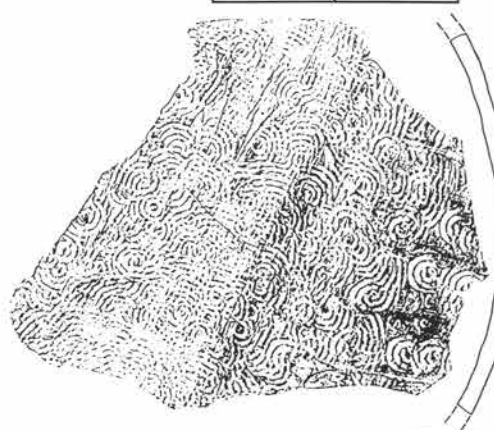
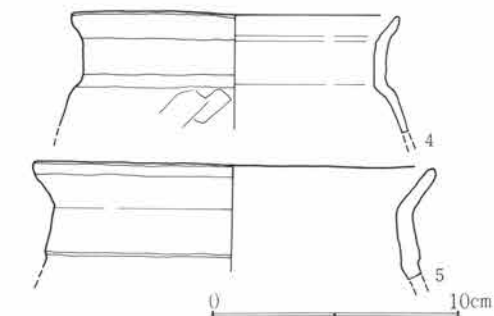
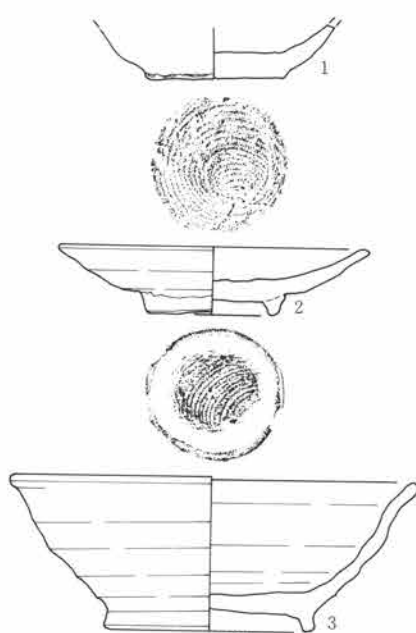


Fig.443 169号住居跡出土遺物

第169号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
443-1 130	須恵器 坏	底-5.5	No 1	底部から口縁部に向い緩やかに外湾しながら立ち上る底部回転糸切	①良好②灰色③細砂粒含む ④底部残存

第2章 検出された遺構と遺物

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
443-2 131	須恵器 皿	口-12.4 高-2.65 底-2.6	No 2	高台貼付雑楕円形を呈す底部回転糸切付高台	①良好②灰色③1~2mmの 砂粒含む④残存
443-3 131	須恵器 坏	口-16.2 高-6.1 底-8.4	No 3	体部轆轤成形痕残る口縁部弱く外湾する付高台底部 回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含 む④残存
443-4 131	土師器 甕	口-7.0	No 4	小形甕台部の付くものとみられる口縁部コの字状 を呈する口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②にふい橙色③細砂 粒含む④口縁部残存
443-5 131	土師器 甕	口-16.0	覆 土	口縁部コの字状を呈し頸部下はハの字状に広がる 口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②にふい橙色③細砂 粒含む④口縁部破片
443-6 131	土師器 甕	口-18.0	覆 土	口縁部コの字状を呈する口縁端部内外面に沈線が 入る口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②橙色③細砂粒含 む④口縁部残存
443-7	須恵器		No 7	外面叩き目内面アテ目痕を残す	①良好②灰色③細砂粒含 む④肩部破片
Fig. 443-8 PL. 131 鉄製品 長-15.3cm 厚-2~8mm 刀子					

170号住居跡 (Fig. 444・445、PL. 36・131・132)

G区北西部に位置し52・53G31・32の範囲にある。172号住居跡の南にある。他の遺構との関係は東半部を4号溝、南部を40号溝と重複している。新旧関係は40号溝より新しく、4号溝より古い。このため住居跡の



Fig.444 170号住居跡

約2分の1は切り崩されている。このため規模その他は不明であるが西壁は4.5mを測る。壁高は約10cm~30cmを測る。床面は平坦をなし、南西コーナーに小穴を検出した。規模は径約80cm、深さ約15cmを測る。壁周溝等の諸施設は検出されていない。竈は検出されていない。

170号住居跡

- 1 暗褐色土層 F P、炭化物を含む
- 2 暗褐色土層 F Pを含む
- 3 黒褐色土層 F P、黒色土を含む

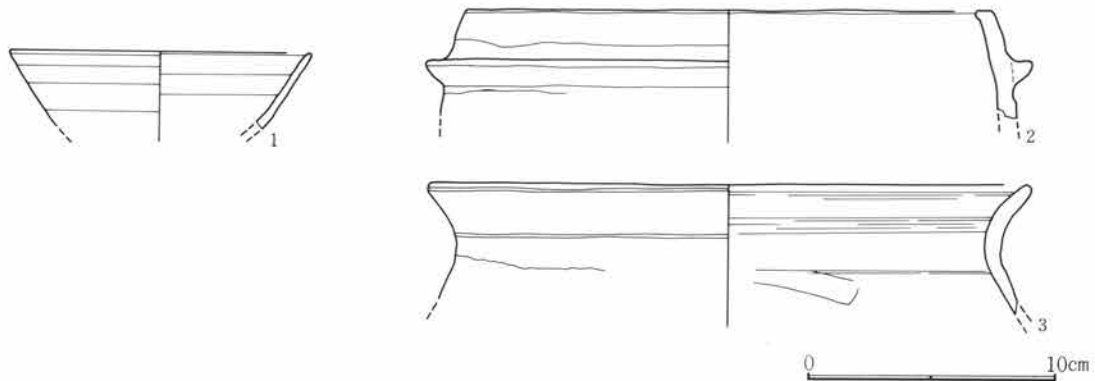


Fig.445 170号住居跡出土遺物(1)

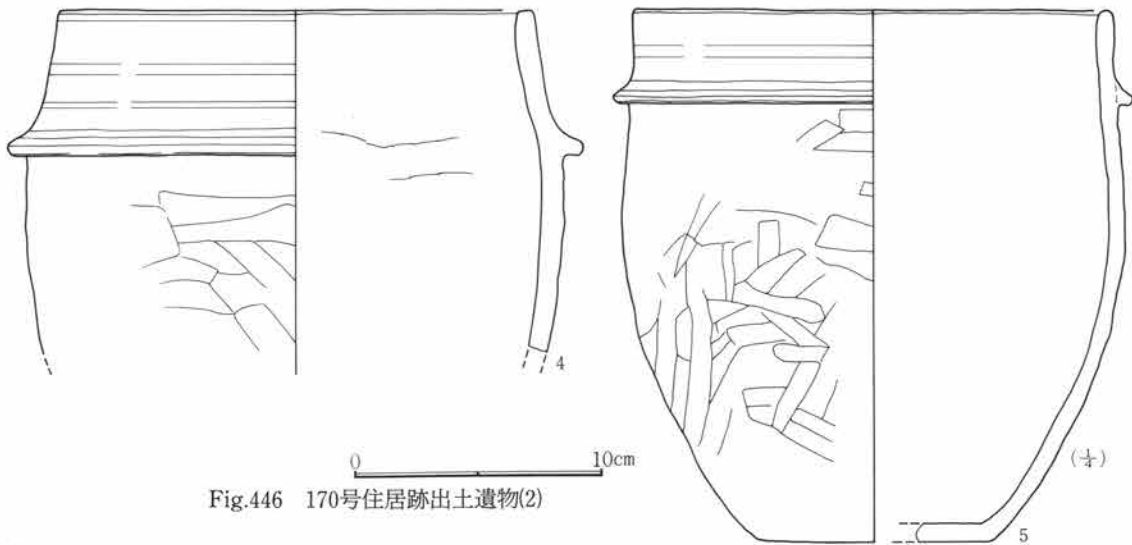


Fig.446 170号住居跡出土遺物(2)

第170号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
445-1 131	灰釉陶器 坏	口-12.0	覆土		①良好②灰白色③密④破片
445-2 132	羽釜	口-21.0	覆土	口縁部弱く内湾する鋳低く上を向く口縁部内外面ヨコナデ	①良好②赤褐色③5~6mmの砂粒含む④口縁部破片
445-3	土師器 甕	口-24.0	No.3	口縁部弱くコの字状を呈する口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ヨコナデ胴部ヘラナデ	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
446-4	羽釜	口-19.0	No.4	口縁部直立きみ鋳下に最大径がくる口縁部ヨコナデ鋳下を向く胴部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②にぶい赤褐色③3~4mm砂粒含む④口縁部破片
446-5 132	羽釜	口-25.6 高-28.1	No.5	口縁部直立する鋳低く下を向く口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ後ナデ内面ナデ	①良好②にぶい橙色③3~4mmの砂粒含む④残存

172号住居跡 (Fig. 447・448・449、PL. 36・133)

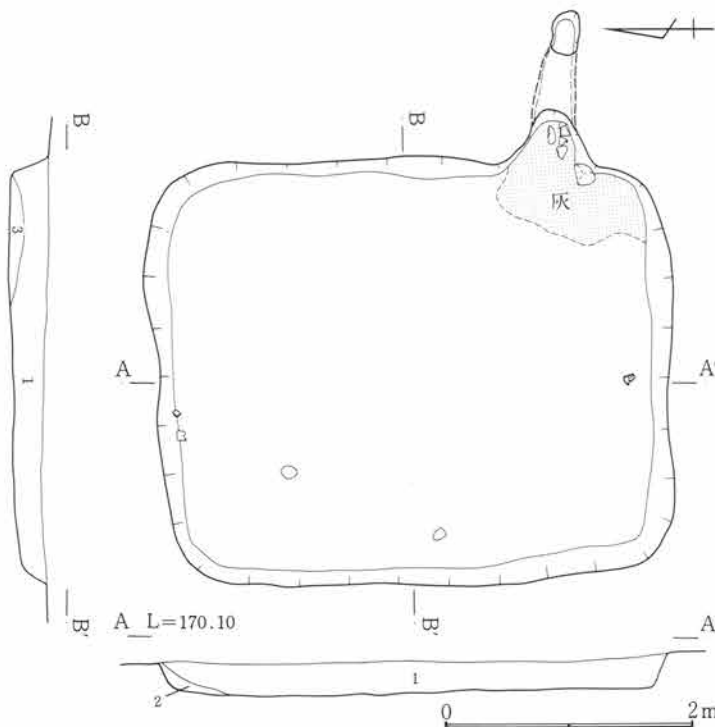


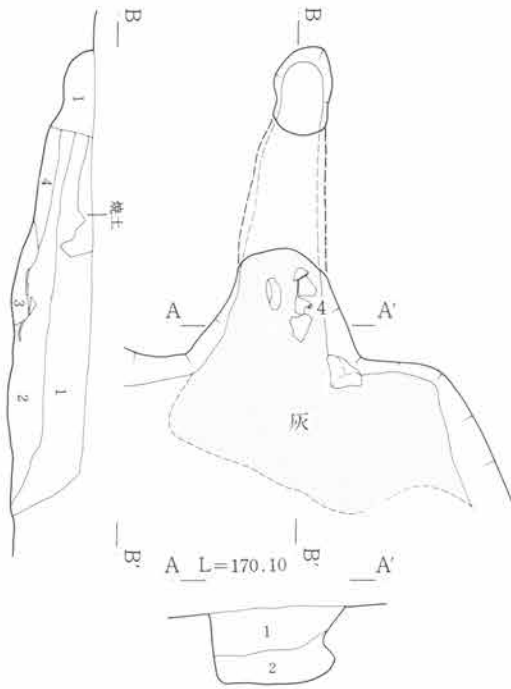
Fig.447 172号住居跡

G区北西部に位置し50~52G33~35の範囲にある。154号住居跡の南にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺4.3m、短辺3.5mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cm~30cmを測り、主軸方位はN-87°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約20cm、同長約30cm、煙道部長約80cmを測る。右側袖部に石が検出された。煙道部先端には煙り出しの小穴が検出され天井の一部が検出された。

172号住居跡

- 1 暗褐色土層 FAを含む
- 2 暗褐色土層
- 3 暗褐色土層 FA、黄褐色土ブロックを含む

第2章 検出された遺構と遺物



- 172号住居跡竈
- 1 黒褐色土層 FP、FAを多量に含む
 - 2 黒褐色土層 焼土、炭化物、灰を含む
 - 3 黒褐色土層 焼土、灰を多量に含む
 - 4 黒褐色土層 焼土、灰を含む

Fig.448 172号住居跡竈

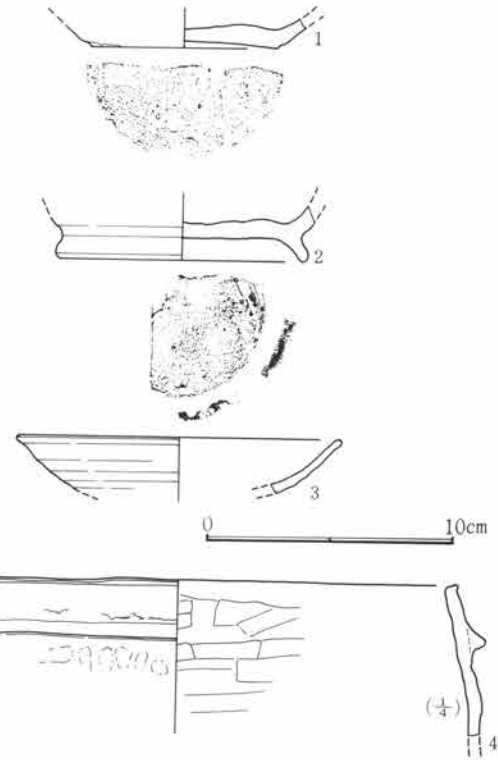


Fig.449 172号住居跡出土遺物

第172号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
449-1 133	須恵器 坏	底-7.4	覆土	底部回転糸切底部中心上へ盛り上がる	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④底部残存
449-2 133	須恵器 碗	底-10.0	覆土	付高台底部回転糸切	①良好②灰色③密④底部残存
449-3 133	灰釉陶器 皿	口-12.8	覆土	口縁端部弱く外側へ屈曲する	①良好②灰白色③密④口縁部破片
449-4 133	羽釜	口-30.0	No.4	口縁端部外側へ屈曲する銚低く下を向く口縁部ヨコナデ銚下に指頭痕残る内面ヘラナデ	①良好②橙色③3~4mmの砂粒含む④口縁部破片

173号住居跡 (Fig. 450、PL. 36)

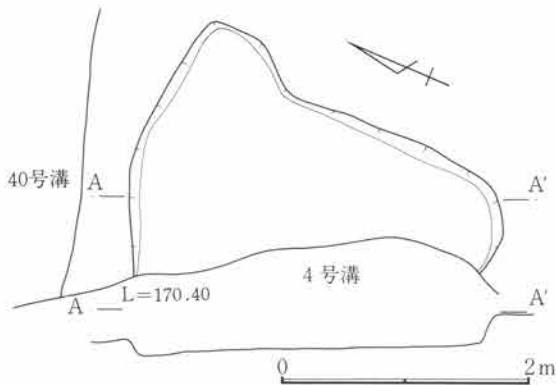


Fig.450 173号住居跡

G区北部に位置し49・50G30・31の範囲にある。170号住居跡の南西にある。他の遺構との関係は4号溝と重複している。新旧関係は4号溝が新しい。このため住居跡の大半は切り崩されている。壁高は約10cm~20cmを測り、規模、主軸方位等は不明である。床面は平坦をなし、竈は検出されていない。

174号住居跡 (Fig. 451・452・453, PL. 37・133)

G区北部に位置し43~45G28~30の範囲にある。127号住居跡の東にある。他の遺構との関係は北西部で175号住居跡と重複している。新旧関係は174号住居跡が新しい。規模は長辺

4m、短辺3.6mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cm~20cmを測り、主軸方位はN-86°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃烧部幅約60cm、同長約60cm、煙道部長約50cmを測る。煙道部先端には煙り出しの小穴が北に軸が振れて検出された。

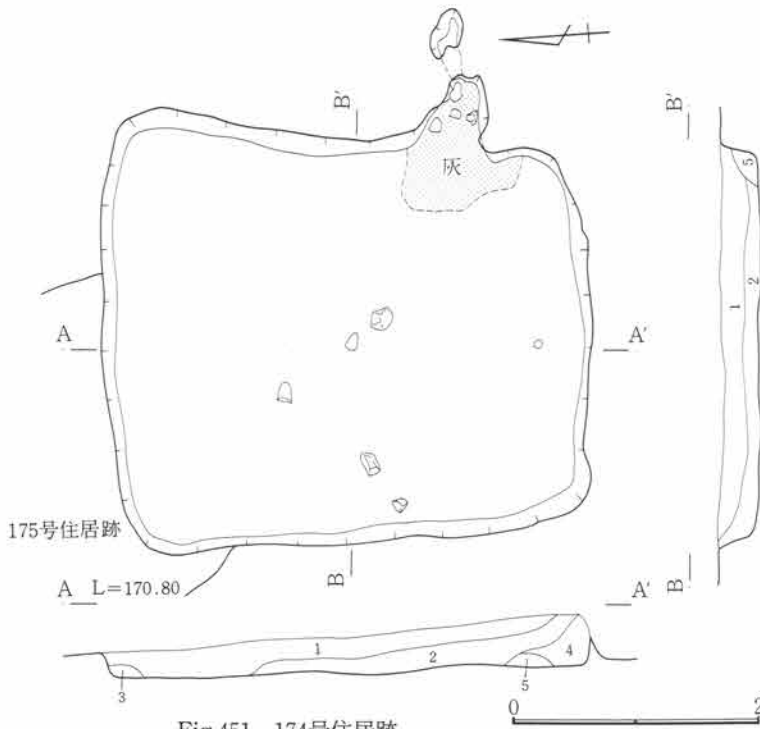
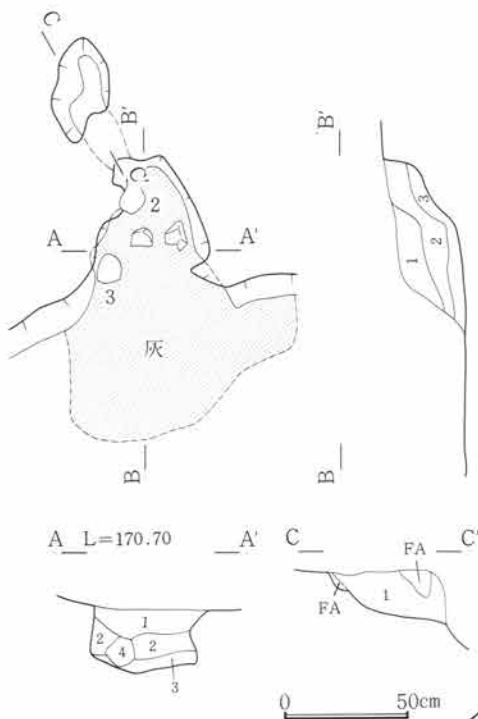


Fig.451 174号住居跡

- 174号住居跡
- 1 淡褐色土層 FA、FPを含む
 - 2 淡褐色土層 FAブロックを含む
 - 3 淡褐色土層 砂質土
 - 4 淡褐色土層
 - 5 淡褐色土層 FAを多量に含む



174号住居跡竈

- 1 淡褐色土層 FA、FPを含む
- 2 淡褐色土層 FAブロックを含む
- 3 淡褐色土層 焼土、灰を含む
- 4 FAブロック

Fig.452 174号住居跡竈

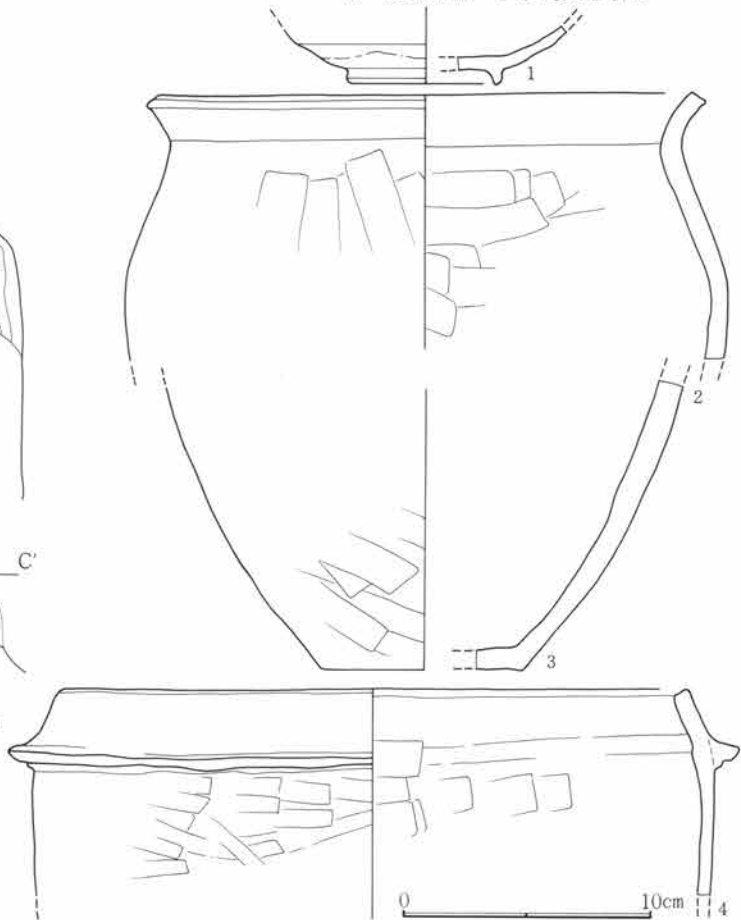


Fig.453 174号住居跡出土遺物

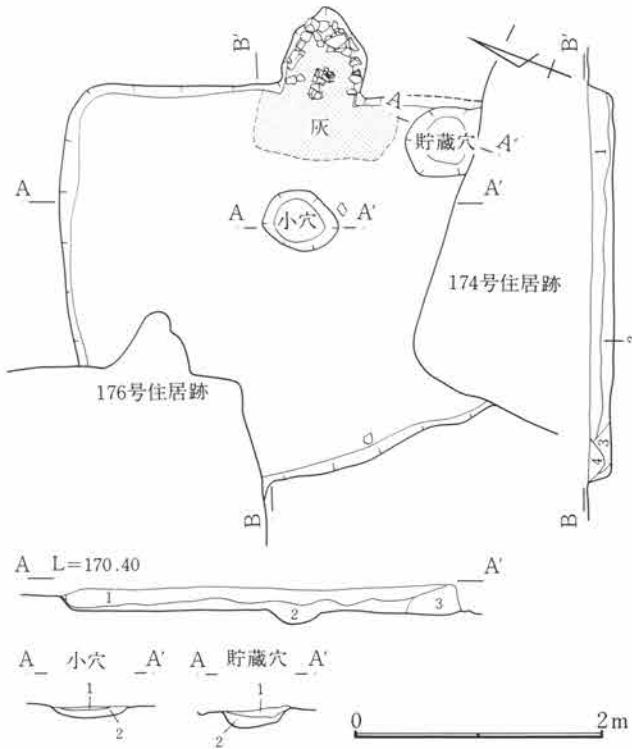
第2章 検出された遺構と遺物

第174号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
453-1 133	灰釉陶器 杯	底-5.8	覆土	付高台高台内面半月形を呈す	①良好②灰白色③密④底部破片
453-2 133	土師器 甕	口-21.1	No.2	口縁端部平坦面をもつ口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②にぶい赤褐色③4~5mm砂粒含④口縁部破片
453-3 133	土師器 甕	底-5.0	No.3	外面ヘラケズリ内面ナデ	①良好②にぶい赤褐色③2~3mm砂粒含む④底部破片
453-4 133	羽釜	口-24.8	覆土	口縁部弱く内湾する鋳貼付下面凸凹が明瞭鋳下黒色外面ヘラナデ内面ヘラナデ	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含④口縁部破片

175号住居跡 (Fig. 454・455、PL. 37・133・134)

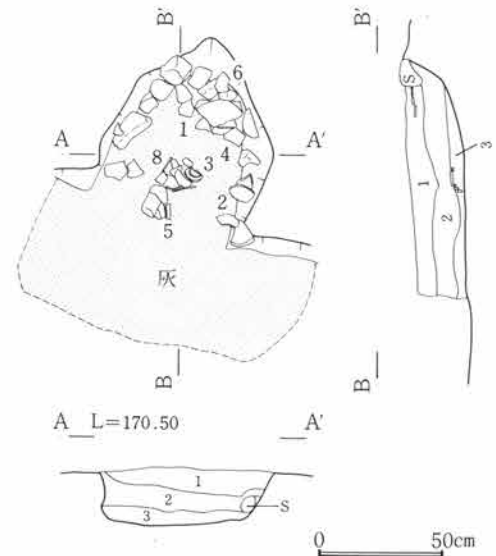
G区北部に位置し43~45G30~32の範囲にある。177号住居跡の東にある。他の遺構との関係は南部で174号住居跡、北西部で176号住居跡と重複している。新旧関係は174・176号住居跡が新しい。重複のため規模は不明であるが平面形態は隅丸方形を呈するものと思われる。壁高は約15cm~20cmを測り、主軸方位はN-71°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈前面に小穴が検出された。規模は約60cm×50cm、深さ約10cmを測る。竈は東壁に検出された。規模は燃焼部幅約70cm、同長約80cmを測る。竈の内壁には構築材と思われる石が多数検出された。



- 175号住居跡
- 1 淡褐色土層 FP、炭化物を少量含む
 - 2 淡褐色土層 FAを含む
 - 3 淡褐色土層 FAを多量に含む
 - 4 淡褐色土層 FPを含む
- 貯蔵穴
- 1 暗褐色土層
 - 2 暗褐色土層 黒色灰、炭化物を含む

- 小穴
- 1 灰褐色土層
 - 2 炭化物、灰層

Fig.454 175号住居跡



- 175号住居跡竈
- 1 黒褐色土層 FPを多量に含む
 - 2 暗褐色土層 FAブロックを含む
 - 3 暗褐色土層 焼土、灰を含む

Fig.455 175号住居跡竈

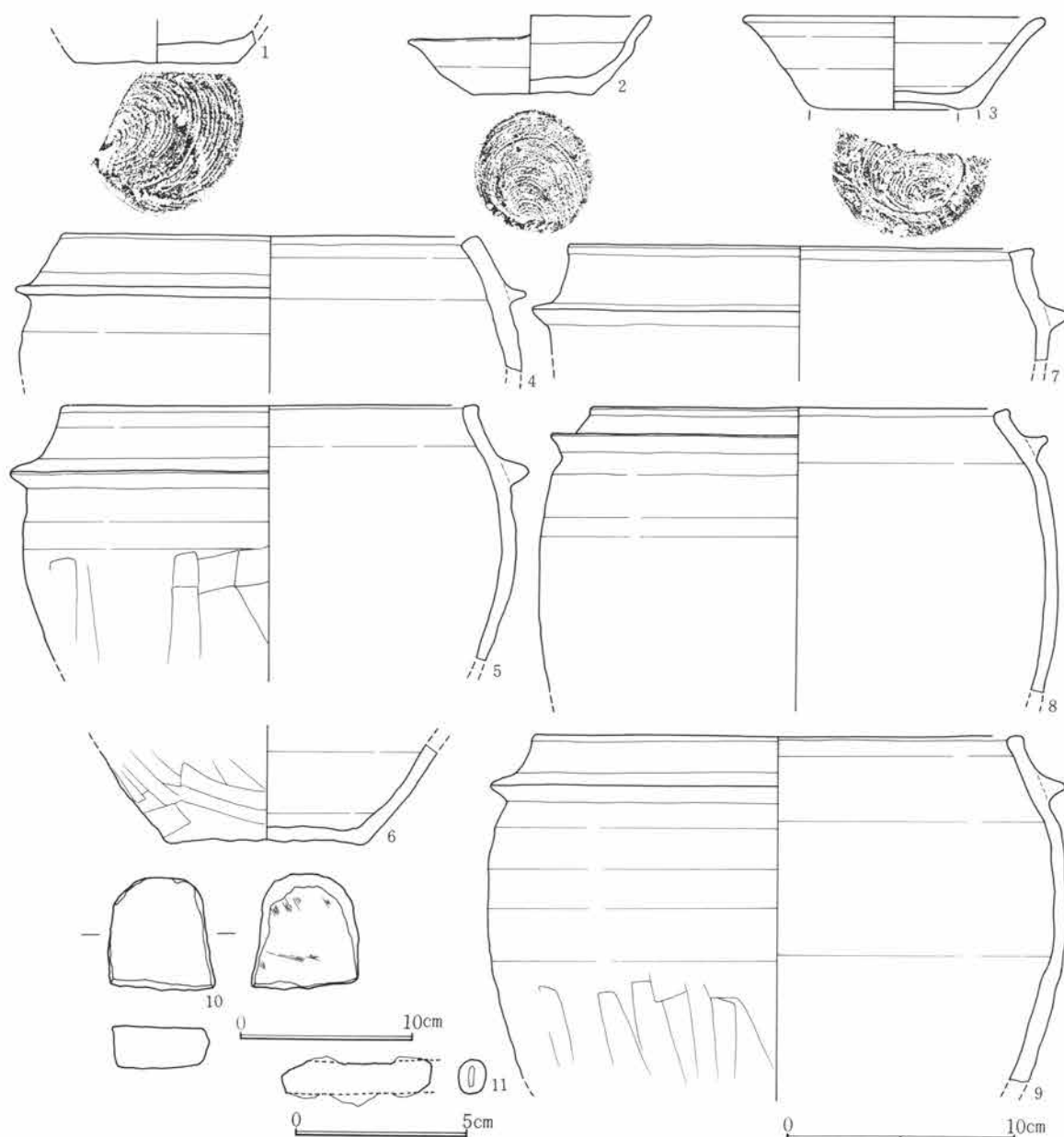


Fig.456 175号住居跡出土遺物

第175号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
456-1 133	須恵器 坏	底-7.0	No.1	底部回転糸切	①良好②黒褐色③2~3mmの砂粒含む④底部残存
456-2 133	須恵器 坏	口-10.5 高-3.4 底-5.3	No.2	体部に稜をもち立ち上がる口縁部ゆがみがひどい 底部回転糸切右廻り	①良好②浅黄褐色③細砂粒含む④完形
456-3 133	須恵器 壺	口-13.0	No.3	口縁端部外側へ屈曲する底部回転糸切付高台欠落	①良好②褐灰色③1~2mmの砂粒含む④残存
456-4 133	羽釜	口-18.0	No.4	口縁部内湾する鋳薄く横を向く	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片
456-5 134	羽釜	口-18.0	No.5	口縁部内湾する鋳貼付雑で横を向く胴部ヘラケズリ	①良好②褐灰色③2~3mmの砂粒含む④口縁部破片
456-6 133	土師器 甕	底-8.5	No.6	外面ヘラケズリ内面ナデ	①良好②にぶい橙色③2~3mm砂粒含む④底部破片
456-7 134	羽釜	口-20.0	覆土	口縁部内湾する鋳横を向く	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片

第2章 検出された遺構と遺物

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
456-8 133	羽釜	口-18.0	No. 8	口縁部内湾する鋳横を向く	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含④口縁部残存
456-9 134	羽釜	口-21.0	覆土	口縁部内湾する下胴部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④口縁部残存
Fig. 456-10 PL. 134	石	長-7.2cm 幅-6.4cm 厚-2.8cm	流紋岩(砥沢?)		
Fig. 456-11 PL. 134	鉄製品	長-4.3cm 厚-2mm	不明		

176号住居跡 (Fig. 457・458・459・460、PL. 37・134・135)

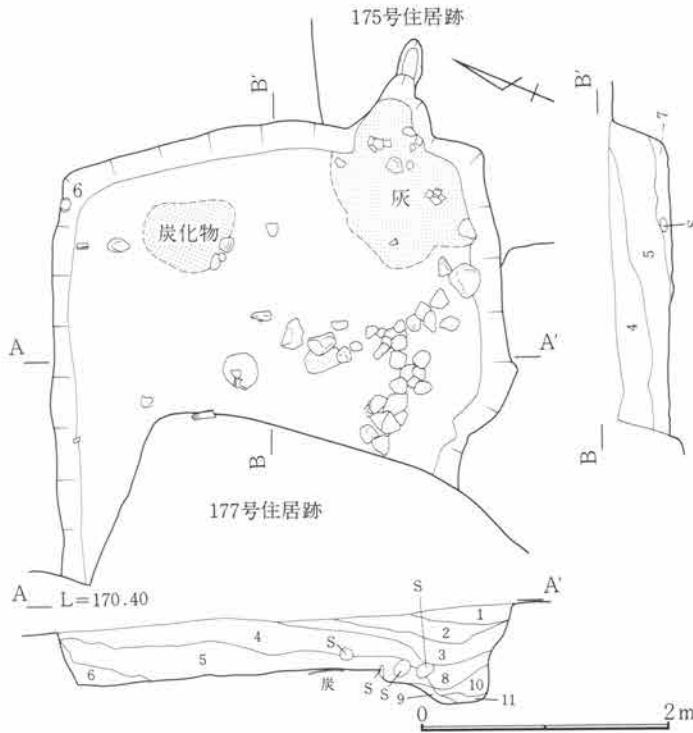


Fig.457 176号住居跡

176号住居跡

- 1 暗褐色土層 泥流土を含む
- 2 暗褐色土層
- 3 暗褐色土層 泥流土ブロックを含む
- 4 暗褐色土層 炭化物を多量に含む
- 5 暗褐色土層 FA粒、炭化物を少量含む
- 6 暗褐色土層 泥流土を含む
- 7 暗褐色土層 黒色土を含む
- 8 暗褐色土層 FAブロックを含む
- 9 暗褐色土層 黒色灰層
- 10 暗褐色土層
- 11 淡褐色土層 FAを多量に含む

176号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 FA粒を少量含む
- 2 暗褐色土層 FA粒、焼土粒を含む

G区北部に位置し45~47G30~32の範囲にある。179号住居跡の南にある。他の遺構との関係は東部で175号住居跡、西部で177号住居跡と重複している。新旧関係は175号住居跡より新しく、177号住居跡より古い。このため規模は不明であるが、東壁は3.9mを測る。壁高は約30cm~40cmを測り、主軸方位はN-59°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝等の諸施設は検出されていない。床面上には多数の石が検出された。竈は東壁南よりに検出された。規模は燃焼部幅約60cm、同長約50cm、煙道部長約60cmを測る。

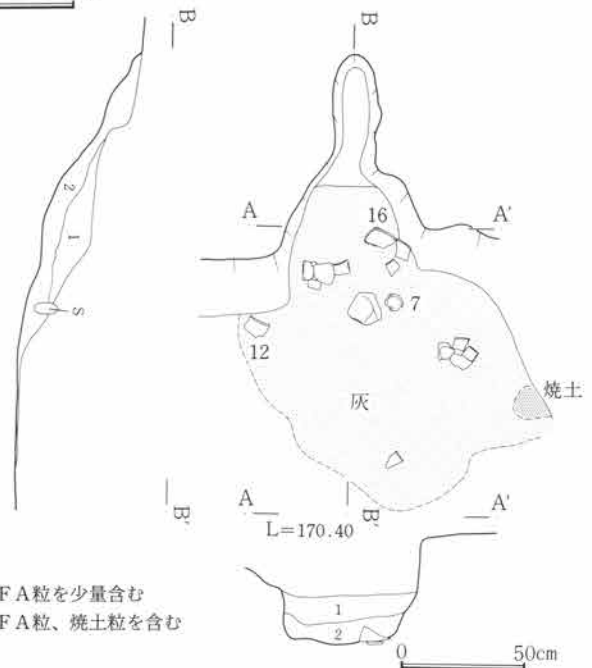


Fig.458 176号住居跡竈

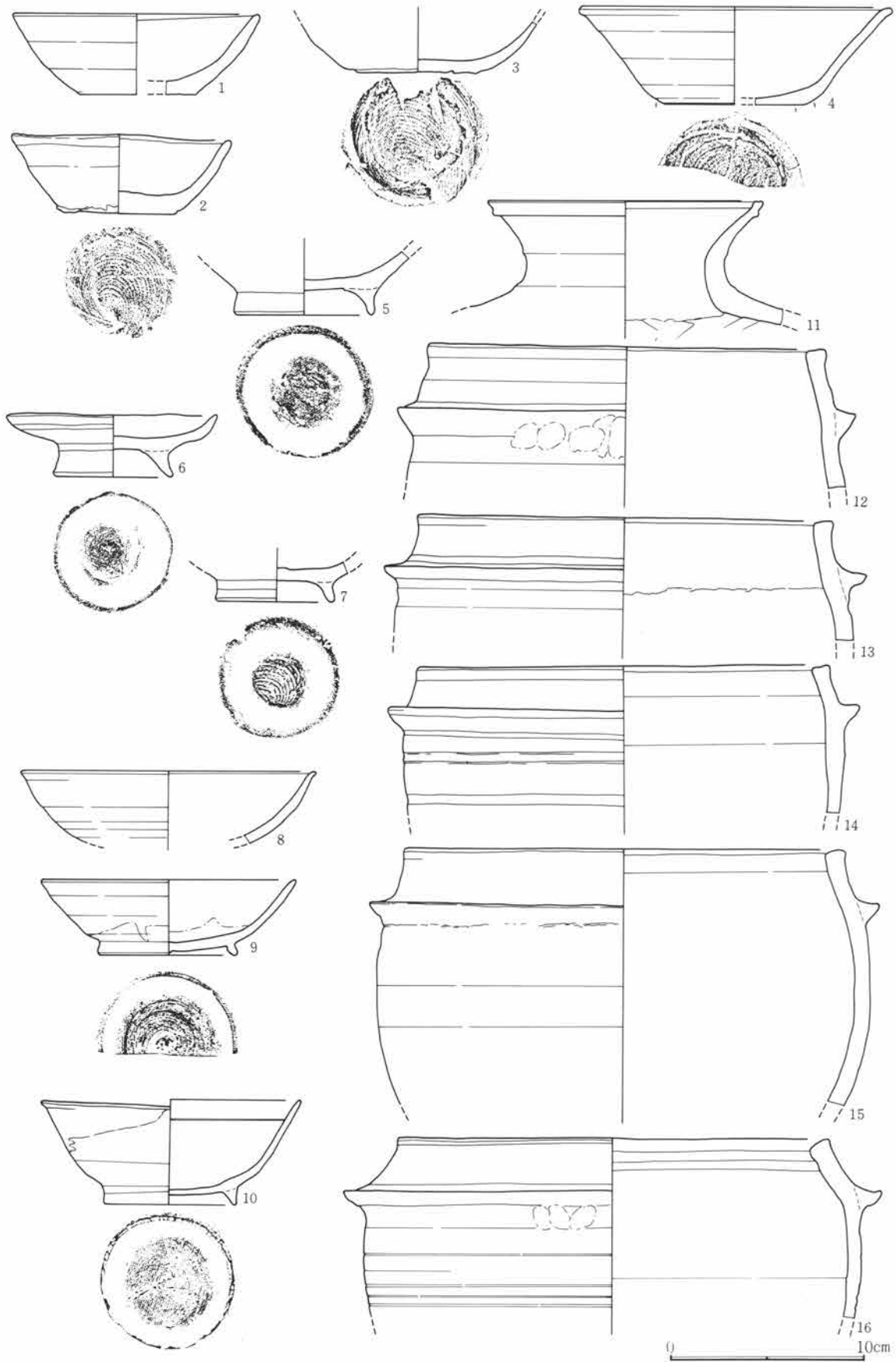


Fig.459 176号住居跡出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

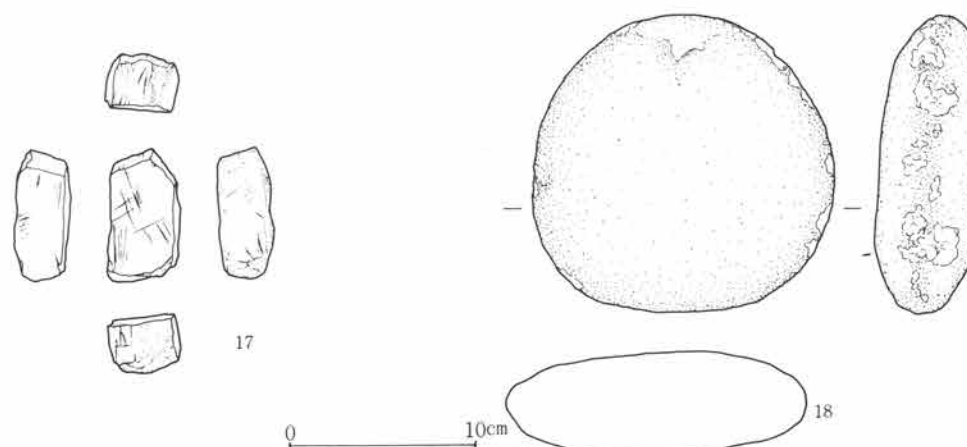


Fig.460 176号住居跡出土遺物(2)

第176号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ③胎土 ④残存	②色調 ④残存
459-1 134	須恵器 坏	口-12.5 高-4.1 底-6.0	覆土	底部から弱く内湾して立ち上がる底部回転糸切	①良好②褐色③細砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存	
459-2 134	須恵器 坏	口-11.2 高-4.0 底-5.5	覆土	底部回転糸切内面底部轆轤痕明瞭	①良好②にぶい黄褐色③細砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存	
459-3 134	須恵器 坏	底-6.1	覆土	底部回転糸切右廻り	①良好②黒褐色③細砂粒含む④底部残存	
459-4 134	須恵器 埴	口-15.5	覆土	口縁部外湾する底部回転糸切高台欠落	①良好②灰色③細砂粒含む④ $\frac{1}{2}$ 残存	
459-5 134	須恵器 埴	底-6.8	覆土	付高台底部回転糸切	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④底部残存	
459-6 134	須恵器 皿	口-10.7 高-3.2 底-6.0	覆土	足高高台底部回転調整口縁部内湾する	①良好②にぶい黄褐色③細砂粒含む④完形	
459-7 134	須恵器 埴	底-6.0	No.7	付高台底部回転糸切	①良好②橙色③1~2mmの砂粒含む④底部残存	
459-8 134	灰釉陶器 埴	口-15.0	覆土	口縁端部弱く屈曲する	①良好②灰白色③密④口縁部破片	
459-9 134	灰釉陶器 埴	口-13.0 高-3.8 底-6.9	覆土	付高台底部回転調整口縁部内湾して立ち上がる	①良好②灰白色③砂粒含むが密④ $\frac{1}{2}$ 残存	
459-10 134	灰釉陶器 埴	口-13.2 高-5.4	覆土	付高台底部回転調整	①良好②灰白色③密④ $\frac{1}{2}$ 残存	
459-11 134	須恵器 壺	口-14.0	覆土	口縁端部稜をもち薄くなる口縁部外湾する	①良好②灰色③密④口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存	
459-12 134	羽釜	口-20.2	No.12	鏝低く上を向く鏝の下に指頭痕残る	①良好②にぶい褐色③細砂粒含む④口縁部破片	
459-13 134	羽釜	口-21.0	覆土	鏝横を向く口縁部弱く内傾する	①良好②明褐色③細砂粒含む④口縁部破片	
459-14 134	羽釜	口-21.0	覆土	口縁部弱く内湾する鏝上を向く	①良好②灰白色③細砂粒含む④口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存	
459-15 135	羽釜	口-22.4	覆土	口縁部内湾する鏝上を向き鏝貼付痕下面に残る	①良好②灰黄白色③3~4mm砂粒含む④口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存	
459-16 134	羽釜	口-22.0	No.16	口縁部内湾する鏝上を向く	①良好②明褐色③2~3mm砂粒含む④口縁部破片	
Fig. 460-17 PL. 135		石 長-7.2cm 幅-3.2cm 厚-3.6cm 砥石 流紋岩(砥沢?)				
Fig. 460-18 PL. 135		石 長-16.8cm 幅-12.0cm 厚-5.6cm 粗粒安山岩				

177号住居跡 (Fig. 461・462、PL. 37・38・135)

G区北部に位置し31~33G30~32の範囲にある。174号住居跡の西にある。他の遺構との関係は北東部で176号住居跡、南部で178号住居跡と重複している。新旧関係は176・178号住居跡より新しい。規模は一辺3.5mを

第1節 竪穴住居跡

測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約50cm～60cmを測る。床面は平坦をなし、床面上には灰が散布した状態で検出された。壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は検出されていない。

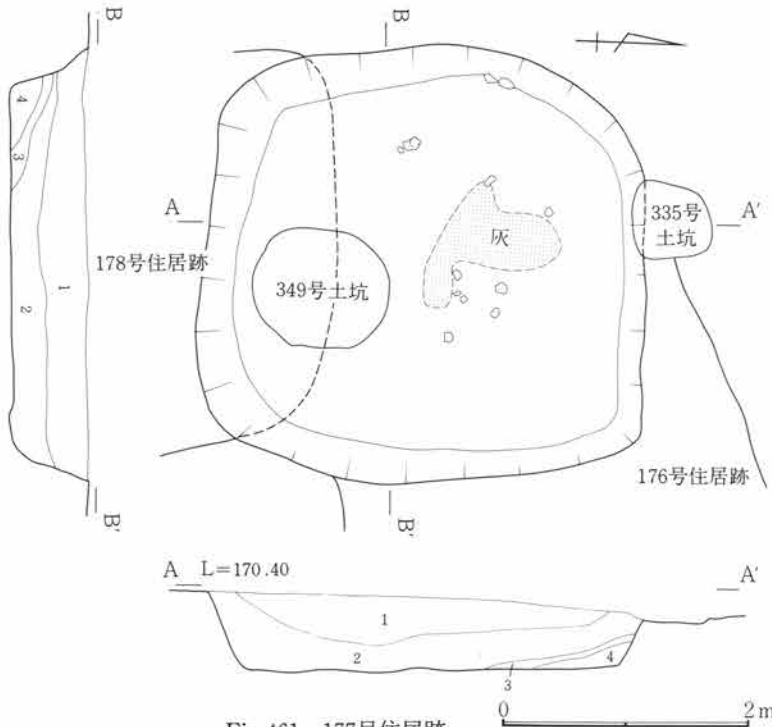


Fig.461 177号住居跡

177号住居跡

- 1 暗褐色土層
- 2 暗褐色土層 FAを少量含む
- 3 淡褐色土層 FAを含む
- 4 黒褐色土層 FAを多量に含む

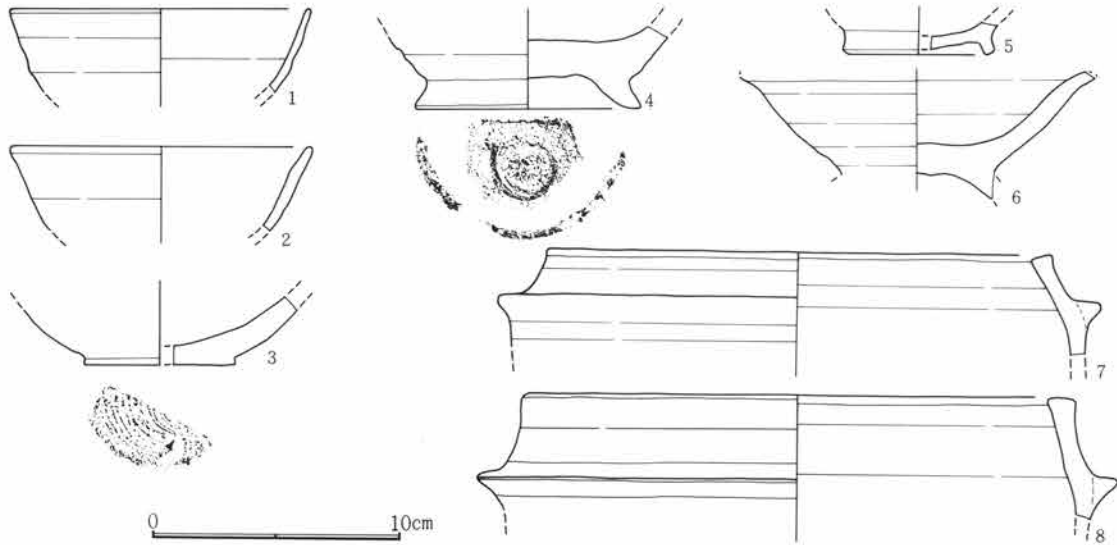


Fig.462 177号住居跡出土遺物

第177号住居跡出土遺物観察表

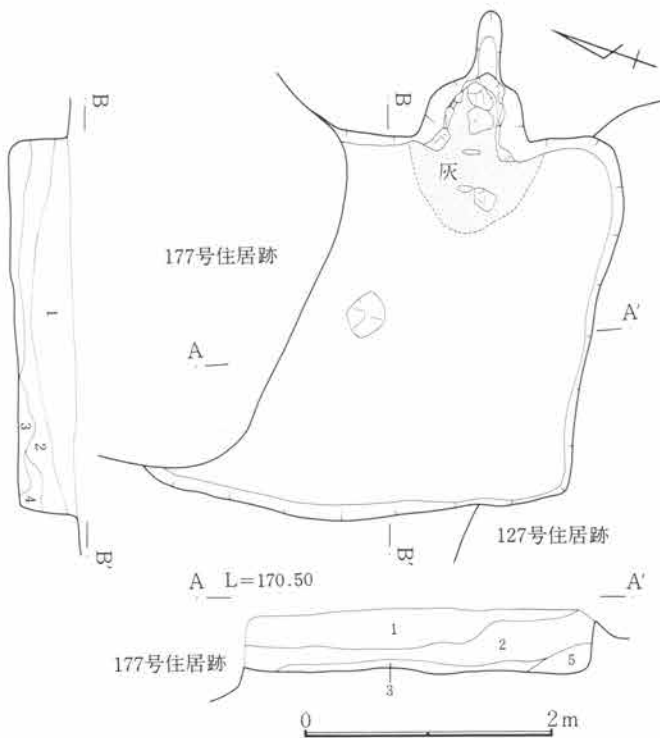
Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
462-1 135	灰釉陶器 碗	口-12.0	覆土	口縁部弱く屈曲する	①良好②灰白色③密④破片
462-2 135	須恵器 坏	口-12.0	覆土	口縁部弱く外反する	①良好②灰白色③細砂粒含む④口縁部破片
462-3 135	須恵器 坏	底-6.0	覆土	底部回転糸切	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④破片
462-4 135	須恵器 碗	底-9.0	覆土	付高台底部回転調整	①良好②褐灰色③1~2mmの砂粒含む④底部残存
462-5 135	灰釉陶器 碗	底-6.0	覆土	付高台底部回転調整	①良好②浅黄色③密④底部破片

第2章 検出された遺構と遺物

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
462-6 135	須恵器 埴		覆土	口縁部外反する高台部欠落	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④残存
462-7 135	羽釜	口-20.0	覆土	鈿上を向く口縁部内傾する	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
462-8 135	羽釜	口-22.0	覆土	鈿横を向く口縁部内傾する	①良好②灰褐色③細砂粒含む④口縁部破片

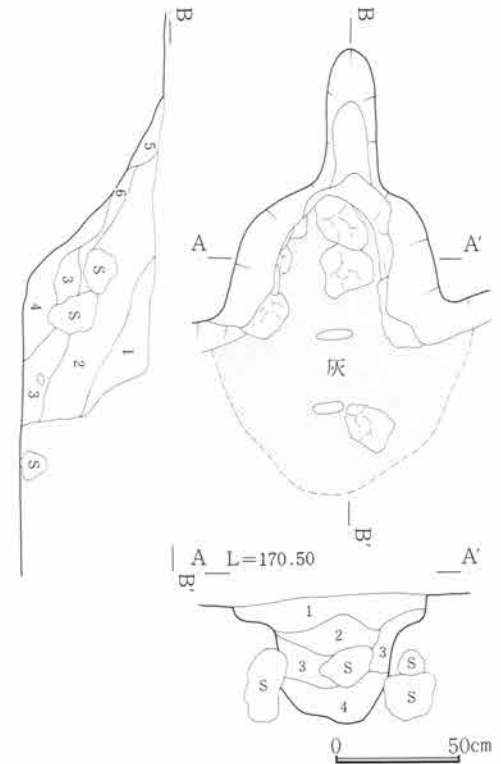
178号住居跡 (Fig. 463・464・465・466, PL. 38・135)

G区北部に位置し46~48G29・30の範囲にある。174号住居跡の西にある。他の遺構との関係は南部で127号住居跡、北部で177号住居跡と重複している。新旧関係は127号住居跡より新しく、177号住居跡より古い。規模は長辺3.9m、短辺3.1mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cm~30cmを測り、主軸方位はN-70°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁に検出された。規模は燃烧部幅約70cm、同長約60cm、煙道部長約60cmを測る。燃烧部から煙道部にかけて急な傾斜で立ち上がる。両袖部、燃烧部内から石が検出された。燃烧部内壁には石が2段状に積んだ状態で検出された。



- 178号住居跡
- 1 暗褐色土層 FPを少量含む
 - 2 暗褐色土層 FAブロックを多量に含む
 - 3 暗褐色土層 FAブロックを少量含む
 - 4 暗褐色土層
 - 5 暗褐色土層 黒色土を含む、FAブロックを含む

Fig.463 178号住居跡



- 178号住居跡竈
- 1 暗褐色土層
 - 2 暗褐色土層 FA粒を多量に含む
 - 3 暗褐色土層 焼土粒を多量に含む
 - 4 暗褐色土層 焼土ブロック
 - 5 淡褐色土層 FAを多量に含む
 - 6 淡褐色土層 FAを含む

Fig.464 178号住居跡竈(1)

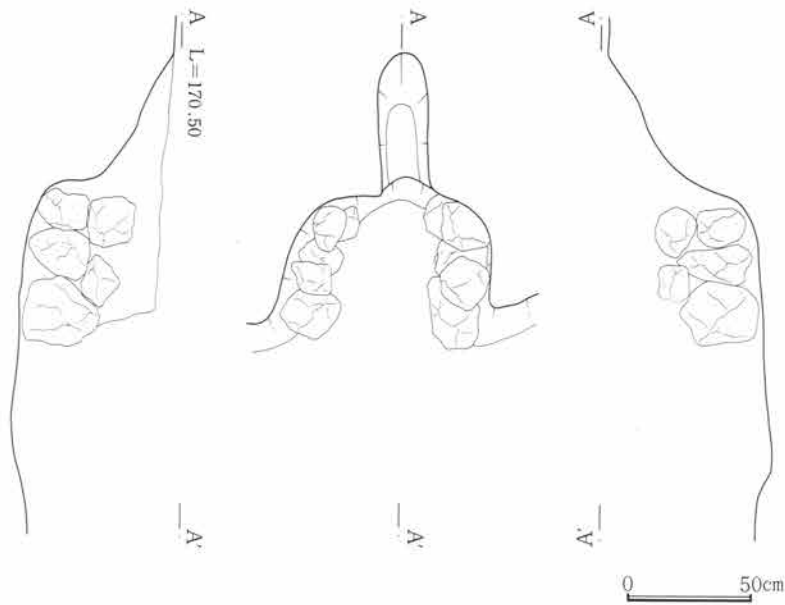


Fig.465 178号住居跡竈(2)

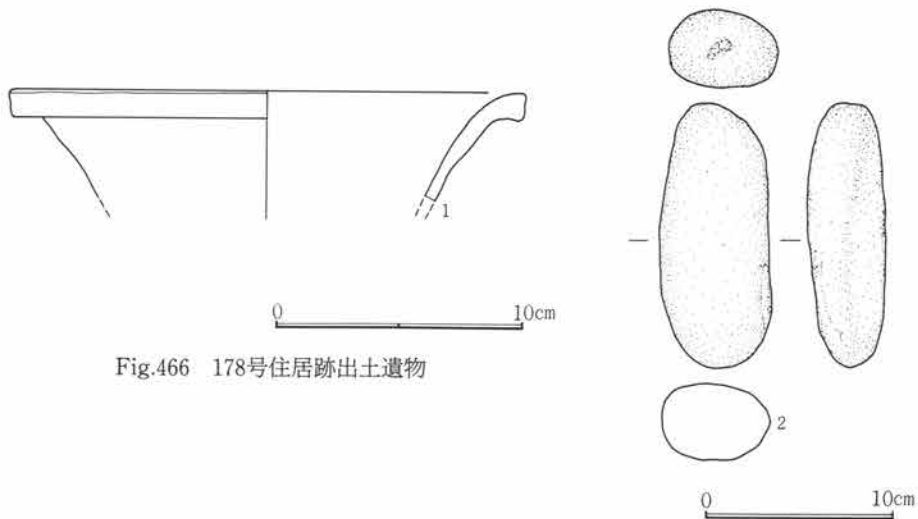


Fig.466 178号住居跡出土遺物

第178号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
466-1 135	須恵器 壺	口-20.4	覆土	口縁部稜をもち外反する	①良好②灰黄橙色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
Fig. 466-2	PL. 135	石 長-15.2cm 幅-4.0cm 厚-4.5cm		粗粒安山岩	

179号住居跡 (Fig. 467・468、PL. 38・135)

G区北部に位置し45・46G33~35の範囲にある。176号住居跡の北にある。他の遺構との関係は南部で40号溝、北部で160号住居跡と重複している。新旧関係は40号溝・160号住居跡より古い。規模その他は不明である。床面は平坦をなし、壁高は約10cmである。竈は検出されていない。

第2章 検出された遺構と遺物



Fig.467 179号住居跡

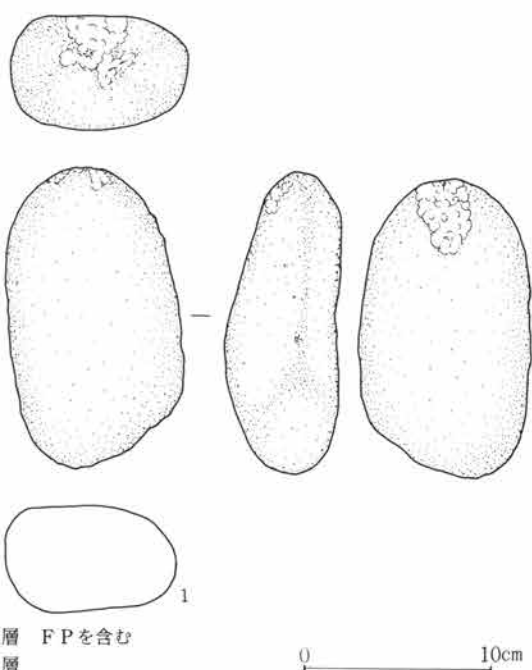


Fig.468 179号住居跡出土遺物

第179号住居跡出土遺物観察表

Fig. 468-1	PL. 135	石	長-16.4cm	幅-9.6cm	厚-5.8cm	粗粒安山岩
------------	---------	---	----------	---------	---------	-------

181号住居跡 (Fig. 469・470、PL. 38・135)

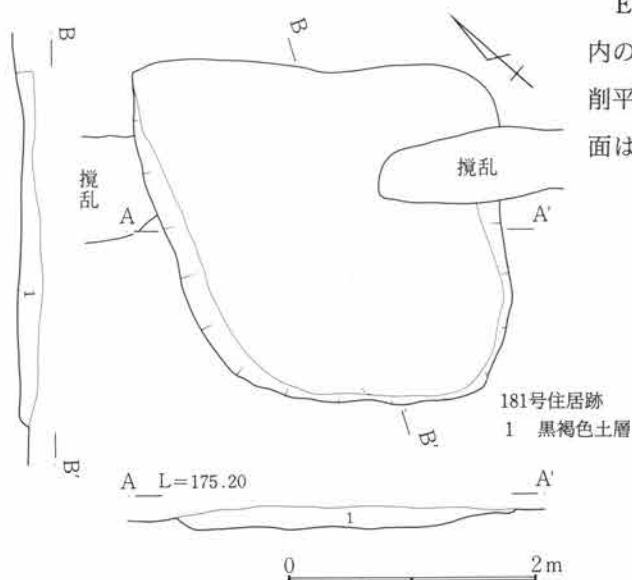


Fig.469 181号住居跡

E区に位置し50・51E45・46の範囲にある。調査区内の南にある。北東部、南壁の一部を新しい川により削平されている。壁高は約5cm~10cmと遺存が悪く床面はほぼ平坦をなす。竈は検出されていない。

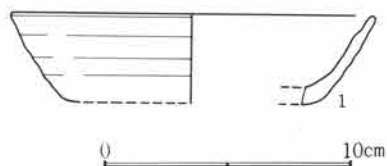


Fig.470 181号住居跡出土遺物

第181号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
470-1 135	須恵器 坏	口-14.4	覆土	器高低く直線的に外傾する	①良好②灰色③細砂粒含む ④破片

182号住居跡 (Fig. 471・472・473、PL. 38・135・136)

E区に位置し40・41E 2・3の範囲にある。西半部は検出されていない。規模は東壁で3.1mを測る。壁高は約5cm～10cmを測り、主軸方位はN-59°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝等の諸施設は検出されていない。南東コーナーに貯蔵穴が検出された。規模は約90cm×30cm、深さ約20cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃烧部幅約70cm、同長約70cmを測る。

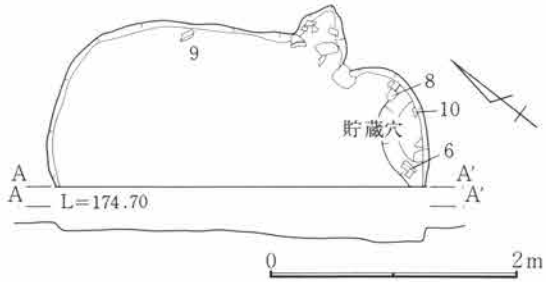
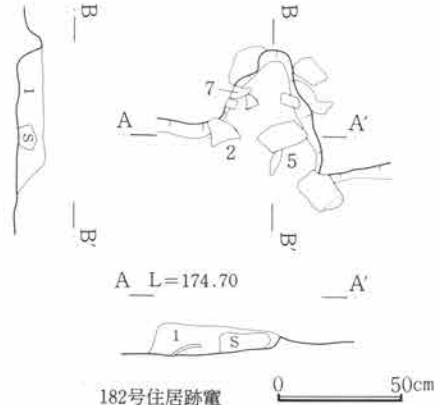


Fig.471 182号住居跡



182号住居跡竈

1 暗褐色土層 焼土を含む

Fig.472 182号住居跡竈

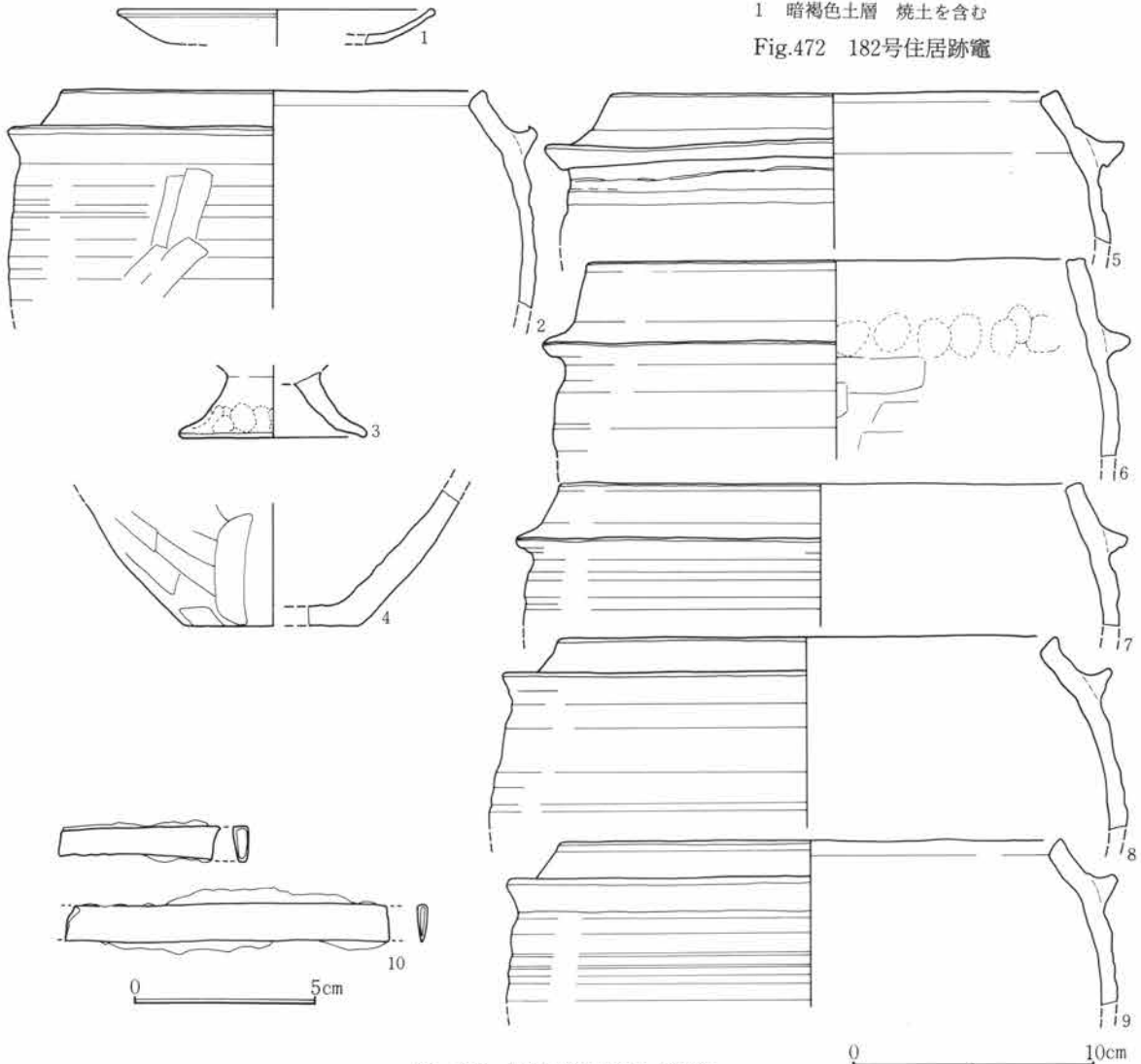


Fig.473 182号住居跡出土遺物

第182号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
473-1 135	灰釉陶器 皿	口-7.0	覆土	口縁端部弱く屈曲する	①良好②灰白色③密④口縁部破片
473-2 135	羽釜	口-17.4	No 2	口縁部内湾する胴部に弱いナデ	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
473-3 135	土師器 台付甕	底-7.6	覆土	外面指頭痕	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④脚部破片
473-4 135	土師器 甕	底-7.0	竈覆土	外面ヘラケズリ	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④底部破片
473-5 135	羽釜	口-18.2	No 5	口縁部内傾し鈔貼付ゆがみ横を向く	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片
473-6 135	羽釜	口-20.3	No 6	鈔横を向く内面指頭痕ヘラナデ	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片
473-7 136	羽釜	口-11.4	No 7	口縁部内傾し鈔横を向く	①良好②橙色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
473-8 136	羽釜	口-20.4	No 8	口縁部内湾する鈔上を向く	①良好②淡橙色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
473-9 136	羽釜	口-20.5	No 9	口縁部内湾し鈔上を向く	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片
Fig. 473-10 PL. 136 鉄製品 長-13.1cm 厚-3mm 不明					

183号住居跡 (Fig. 474・475・476、PL. 39・136)

E区に位置し55~57E32・33の範囲にある。北半部の大半は新しい川に削平されている。規模は南壁が2.7mを測り、平面形態は隅丸方形を呈するものと思われる。壁高は約10cmを測り、主軸方位はN-90°-Eである。床面は平坦をなし、南東コーナーに小穴が検出された。規模は径約60cm、深さ約20cmを測る。竈は東壁に検出された。規模は燃焼部幅約80cm、同長約60cmを測る。

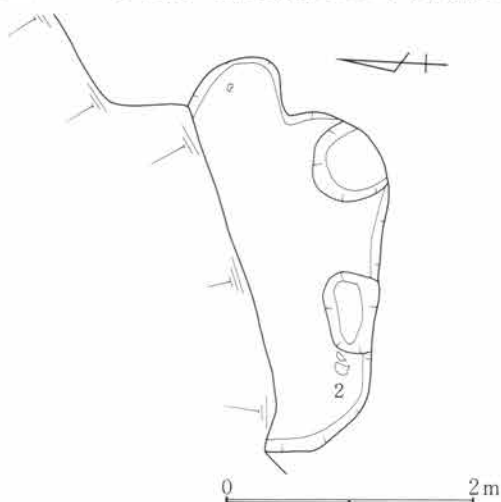


Fig.474 183号住居跡

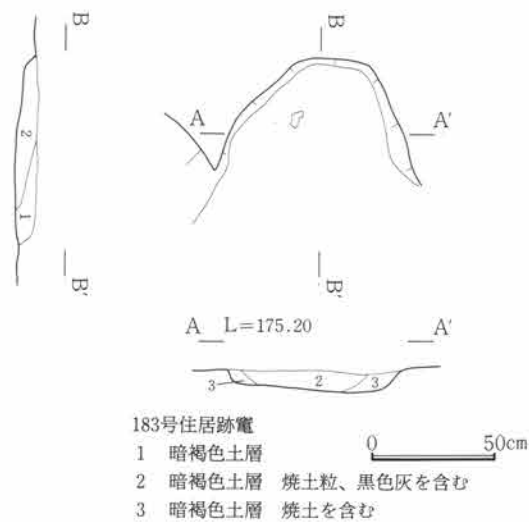


Fig.475 183号住居跡竈

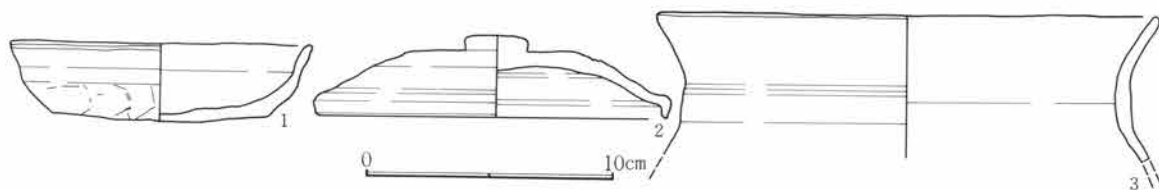


Fig.476 183号住居跡出土遺物

第183号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
476-1 136	土師器 坏	口-12.0 高-3.1 底-8.6	覆土	体部弱い稜を持つ体部弱いヘラナデ底部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④残存
476-2 136	須恵器 蓋	口-14.2 高-3.3	No 2	ボタン状つまみ上面回転糸切	①良好②にぶい橙色③2~3mmの砂粒含む④残存
476-3 136	土師器 甕	口-20.0	覆土	口縁部ココナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片

186号住居跡 (Fig. 477・478・479、PL. 39・136)

G区北東部に位置し37~39G28~30の範囲にある。187号住居跡の南に接して検出され、187号住居跡の竈

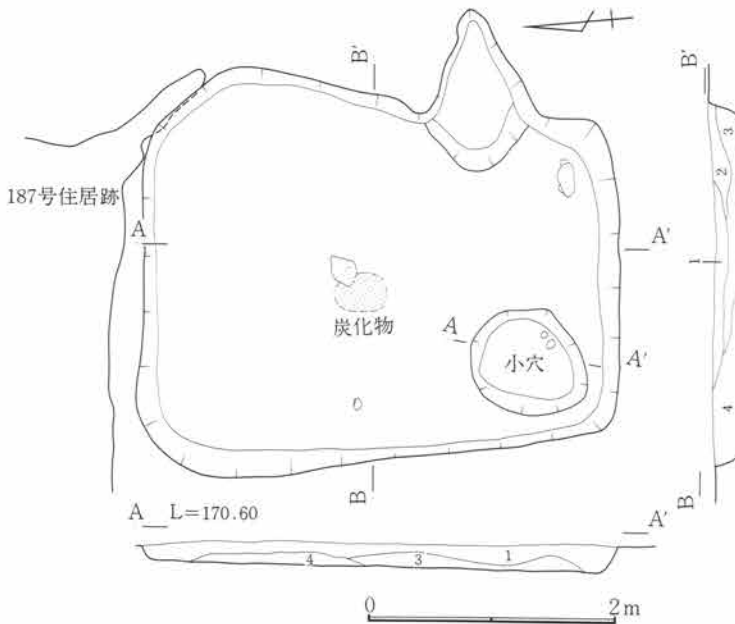


Fig.477 186号住居跡

と接するが新旧関係は不明である。他の遺構との重複はない。規模は長辺4m、短辺3.3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cm~20cmを測り、主軸方位はN-88°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約80cm、同長約90cmを測る。



186号住居跡

- 1 暗褐色土層 FAを少量含む
- 2 暗褐色土層 FAを多量に含む
- 3 暗褐色土層 FA、礫を含む
- 4 暗褐色土層

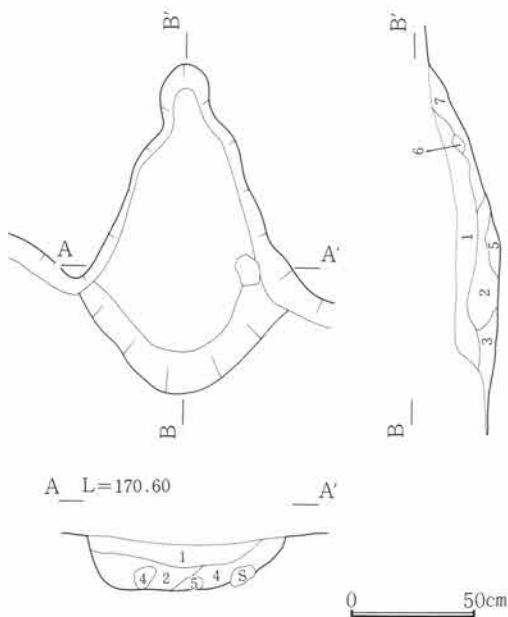


Fig.478 186号住居跡竈

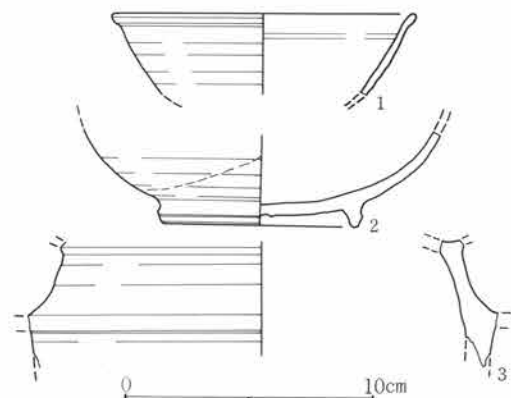


Fig.479 186号住居跡出土遺物

186号住居跡竈

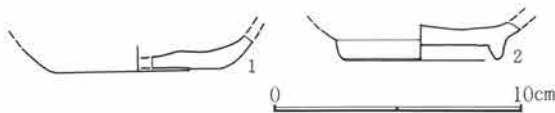
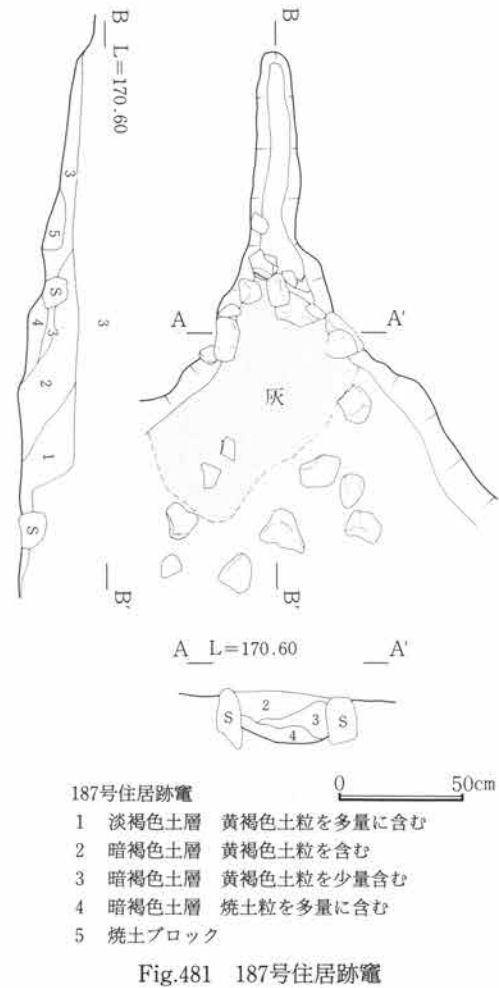
- 1 暗褐色土層
- 2 淡褐色土層 焼土、FAを含む
- 3 暗褐色土層 焼土を含む
- 4 暗褐色土層 焼土、FAを含む
- 5 焼土ブロック
- 6 焼土、灰層
- 7 黒色灰層

第186号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
479-1 136	須恵器 坏	口-12.0	覆土	口縁部外側へ屈曲する	①良好②黒褐色③1~2mmの砂粒含む④破片
479-2 136	灰釉陶器 塊	底-7.8	覆土	付高台高台部外面に稜をもつ	①良好②灰白色③密④底部破片
479-3 136	羽釜	口-16.0	覆土	口縁部ヨコナデ内面ナデ	①良好②灰色③細砂粒含む④破片

187号住居跡 (Fig. 480・481・482・483, PL. 39・136・137)

G区北東部に位置し37~39G30~32の範囲にある。186号住居跡の北に接して検出され、竈が一部接するが新旧関係は不明である。他の遺構との重複はない。規模は長辺4.3m、短辺3.3mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cmを測り、主軸方位はN-145°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝等は検出されていない。北東コーナーに石が多量に検出された。石の下には小穴が検出された。規模は約80cm×70cm、深さ約25cmを測る。竈は南東コーナーに検出された。規模は燃焼部幅約50cm、同長約50cm、煙道部長約70cmを測る。竈燃焼部内から多量の石が検出された。



第1節 竪穴住居跡

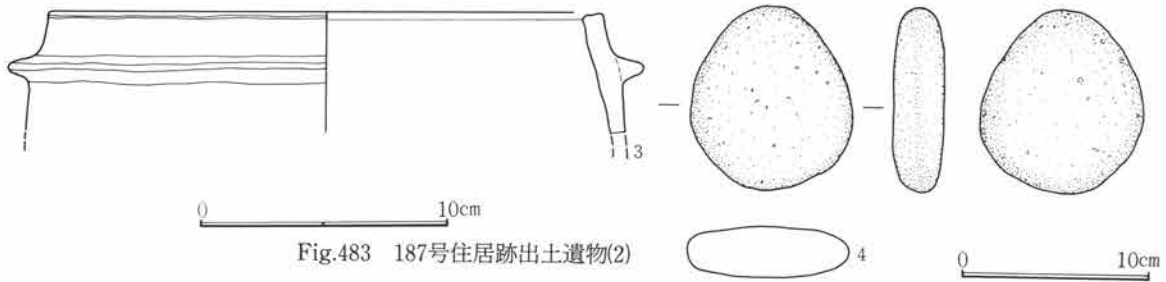


Fig.483 187号住居跡出土遺物(2)

第187号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
482-1 137	須恵器 坏	底-6.6	覆土	底部回転糸切	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④底部破片
482-2 136	灰釉陶器 塊	底-6.3	覆土	付高台底部回転調整	①良好②灰白色③密④底部破片
483-3	羽釜	口-22.0	覆土	鋳薄く横を向く口縁部内傾する	①良好②灰褐色③細砂粒含む④口縁部破片
Fig. 483-4 PL. 137		石 長-10.4cm 幅-3.2cm 厚-2.6cm			

188号住居跡 (Fig. 484・485・486、PL. 40・137)

G区北東部に位置し39~41G33・34の範囲にある。187号住居跡の北西にある。他の遺構との関係は南西部で353号土坑と重複している。新旧関係は住居跡が新しい。規模は長辺3.6m、短辺3.5mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約25cm~35cmを測り、主軸方位はN-85°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃烧部幅約110cm、同長約70cmを測る。

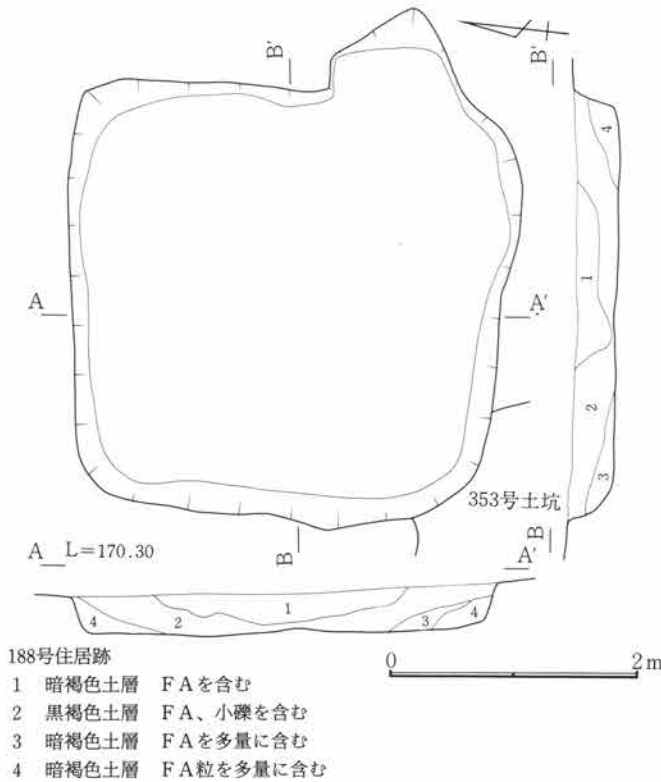


Fig.484 188号住居跡

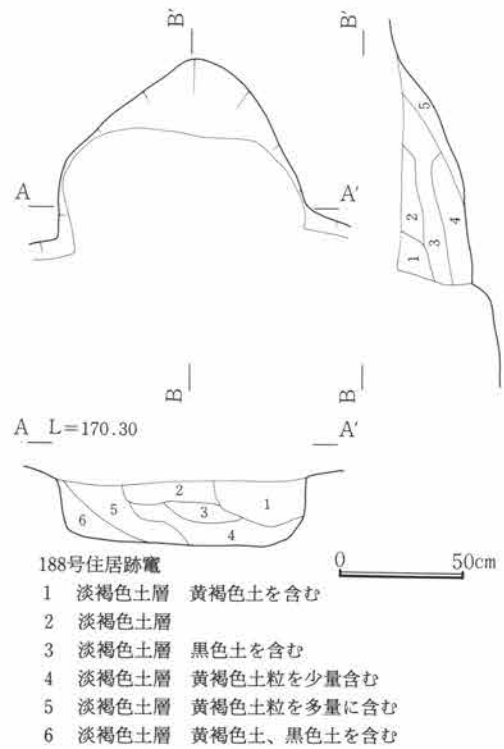


Fig.485 188号住居跡竈

第2章 検出された遺構と遺物

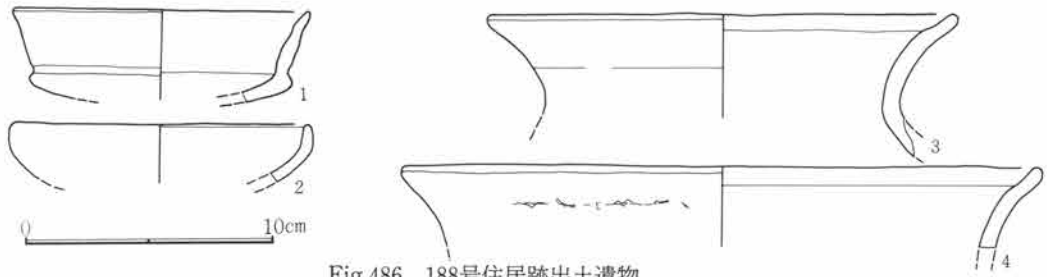


Fig.486 188号住居跡出土遺物

第188号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
486-1 137	土師器 坏	口-11.8	覆土	口縁部稜をもち外傾する	①良好②明橙色③細砂粒含む④口縁部破片
486-2 137	土師器 坏	口-12.0	覆土	口縁部直立ぎみに立ち上がる口縁部ヨコナデ	①良好②橙色③細砂粒含む④口縁部破片
486-3	土師器 甕	口-18.7	覆土	口縁部内面に稜をもつ口縁部ヨコナデ外反する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
486-4 137	土師器 甕	口-25.6	覆土	口縁部内面に稜をもつ外面接合痕口縁部ヨコナデ	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片

189号住居跡 (Fig. 487・488・489、PL. 40・137)

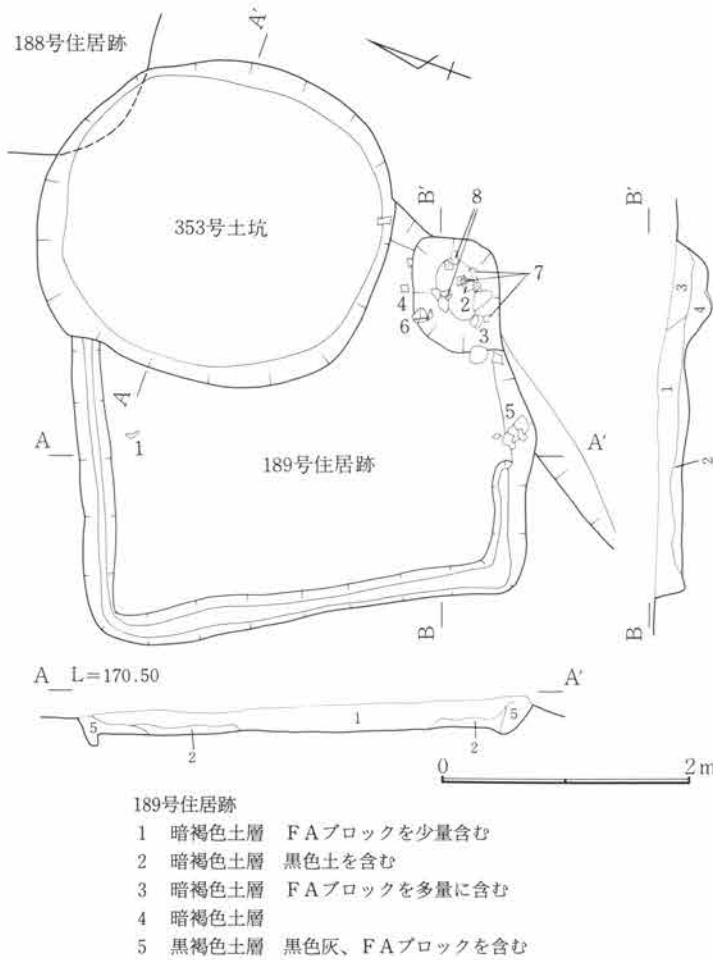


Fig.487 189号住居跡・353号土坑

G区北東部に位置し40~42G31~33の範囲にある。187号住居跡の西にある。他の遺構との関係は北東部で353号土坑と重複している。新旧関係は土坑が新しい。このため竈は切り崩され検出されていない。規模は西壁で3.75mを測る。壁高は約20cmを測る。床面は平坦をなし、周溝が検出された。規模は幅約20cm~30cm、深さ約5cm~6cmを測る。南東コーナーに小穴が検出された。規模は約90cm×70cm、深さ約35cmを測る。

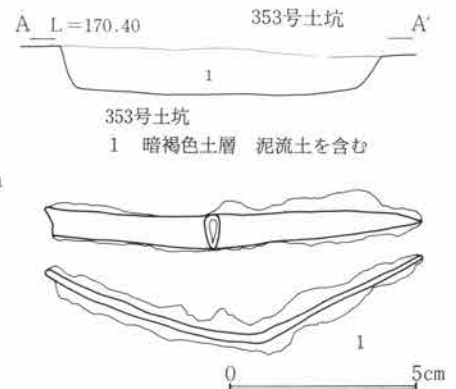


Fig.488 189号住居跡出土遺物(1)

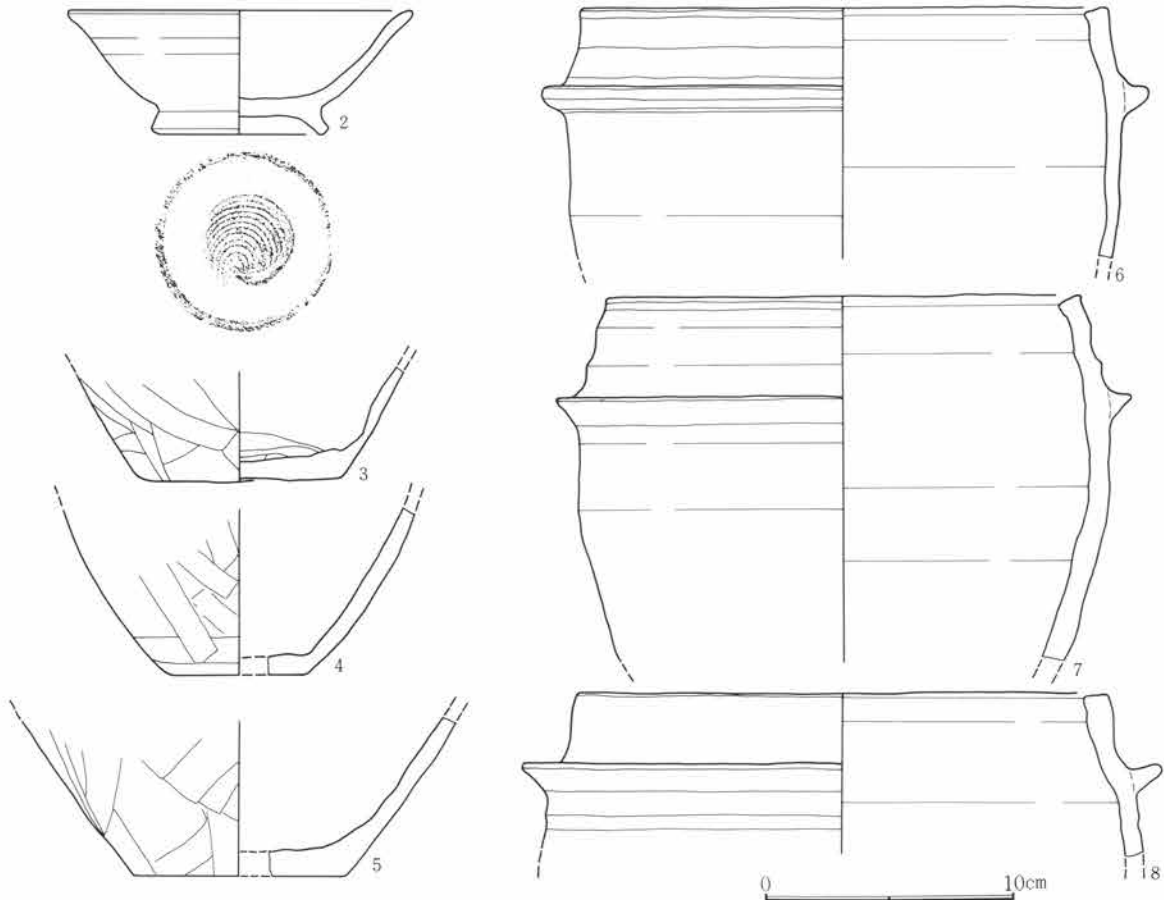


Fig.489 189号住居跡出土遺物(2)

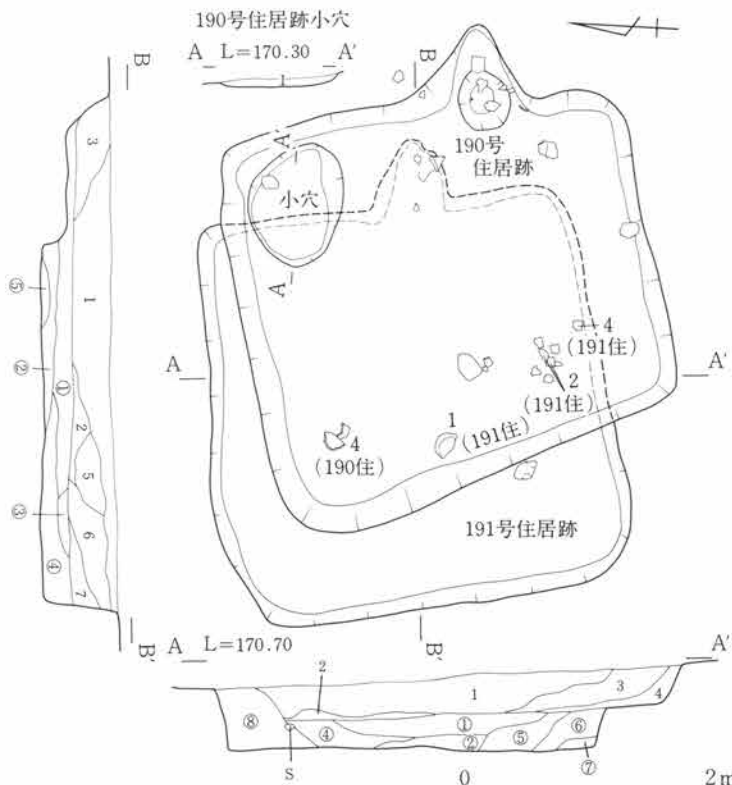
第189号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ③胎土	②色調 ④残存
Fig. 488-1	PL. 137	鉄製品 長-9.9cm 厚-2mm		刀子		
489-2 137	須恵器 埴	口-13.7 高-4.9 底-7.0	No 2	口縁部弱く外反する付高台底部回転糸切	①良好②にぶい黄褐色③1~2mmの砂粒含む④片残存	
489-3 137	土師器 甕	底-8.2	No 3	外面ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②にぶい黄褐色③2~3mm砂粒含む④底部破片	
489-4 137	須恵器 甕	底-5.4	No 4	外面ヘラケズリ内面ナデ	①良好②灰黄褐色③1~2mmの砂粒含む④底部破片	
489-5 137	須恵器 甕	底-8.4	No 5	外面ヘラケズリ	①良好②にぶい黄褐色③2~3mm砂粒含む④底部破片	
489-6 137	羽釜	口-21.0	No 6	口縁部弱く内傾し鑄横を向く	①良好②灰色③細砂粒含む④口縁部破片	
489-7 137	羽釜	口-18.8	No 7	口縁部内傾し鑄上を向く	①良好②灰褐色③細砂粒含む④口縁部片残存	
489-8 137	羽釜	口-21.0	No 8	口縁部内傾し鑄上を向く	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片	

190号住居跡 (Fig. 490・491・493、PL. 40・137・138)

G区北東部に位置し33~35G28・29の範囲にある。186号住居跡の東にある。他の遺構との関係は西半部で191号住居跡と重複している。新旧関係は190号住居跡が新しい。規模は長辺3.6m、短辺2.65mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cm~20cmを測り、主軸方位はN-80°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝等は検出されていない。北東コーナーに小穴が検出された。規模は約100cm×80cm、深さ約10cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約70cm、同長約80cmを測る。

第2章 検出された遺構と遺物



- 190号住居跡
- 1 暗褐色土層 FPを含む
 - 2 暗褐色土層 黒色土を含む
 - 3 暗褐色土層 炭化物を含む
 - 4 暗褐色土層 黒色土を多量に含む
 - 5 暗褐色土層 炭化物を多量に含む
 - 6 暗褐色土層 FAブロックを含む
 - 7 黄褐色土層

Fig.490 190・191号住居跡

191号住居跡

(Fig. 490・492・494、PL. 40・138)

G区北東部に位置し34~36G28・29の範囲にある。186号住居跡の東にある。他の遺構との関係は東半部で190号住居跡と重複している。新旧関係は190号住居跡が新しい。規模は長辺3.3m、短辺3.2mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約30cm~40cmを測り、主軸方位はN-81°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は痕跡が認められている。規模は燃焼部幅約60cm、同長約60cmを測る。

191号住居跡

- ① 淡褐色土層 FAを少量含む
- ② 淡褐色土層 FAブロックを少量含む
- ③ 淡褐色土層 FAを含む
- ④ 暗褐色土層 FA、黄褐色土を含む
- ⑤ 淡褐色土層 FAを多量に含む
- ⑥ 淡褐色土層 FAを含む
- ⑦ 暗褐色土層 FA粒を含む
- ⑧ 暗褐色土層 小礫を含む

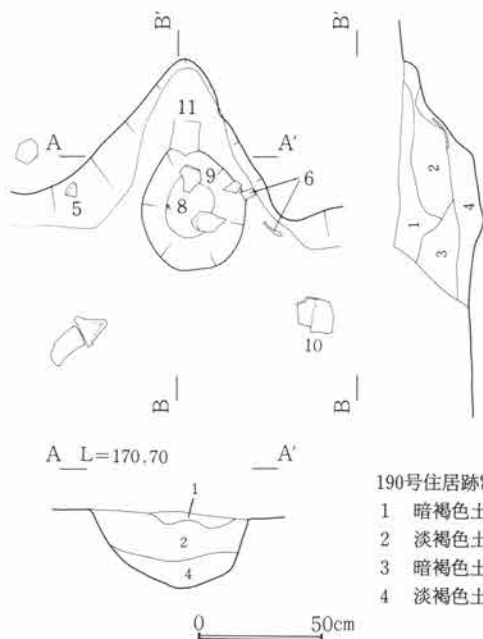
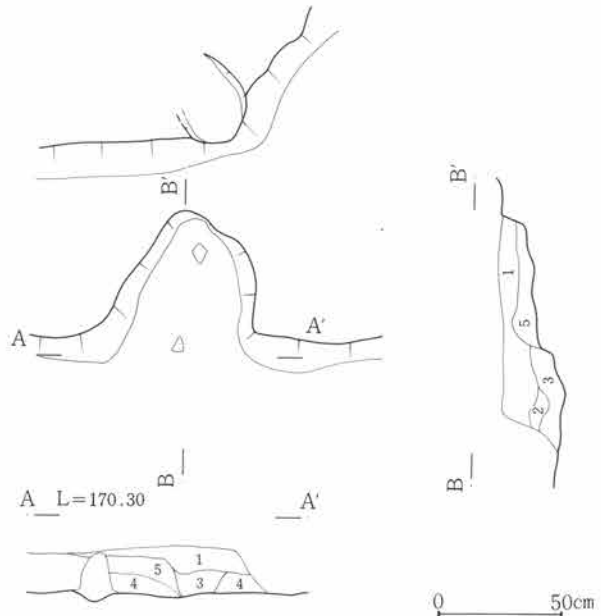


Fig.491 190号住居跡竈

190号住居跡竈

- 1 暗褐色土層
- 2 淡褐色土層 FAを多量に含む
- 3 暗褐色土層 焼土、炭化物を多量に含む
- 4 淡褐色土層 焼土、FAを多量に含む



191号住居跡竈

- 1 暗褐色土層
- 2 暗褐色土層 淡褐色土粒を含む
- 3 暗褐色土層 炭化物を多量に含む
- 4 暗褐色土層 焼土を多量に含む
- 5 暗褐色土層 焼土ブロックを多量に含む

Fig.492 191号住居跡竈

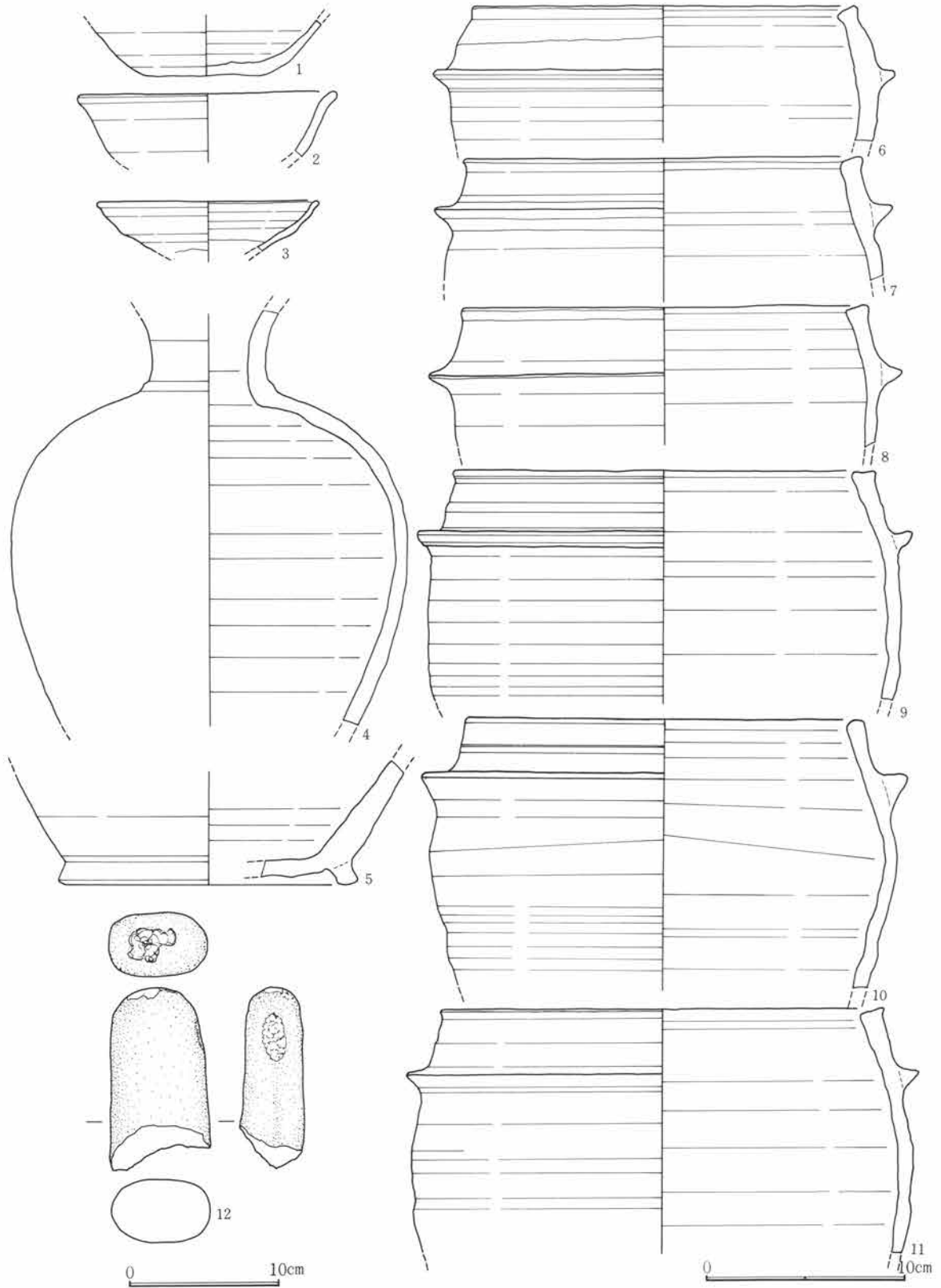


Fig.493 190号住居跡出土遺物

第2章 検出された遺構と遺物

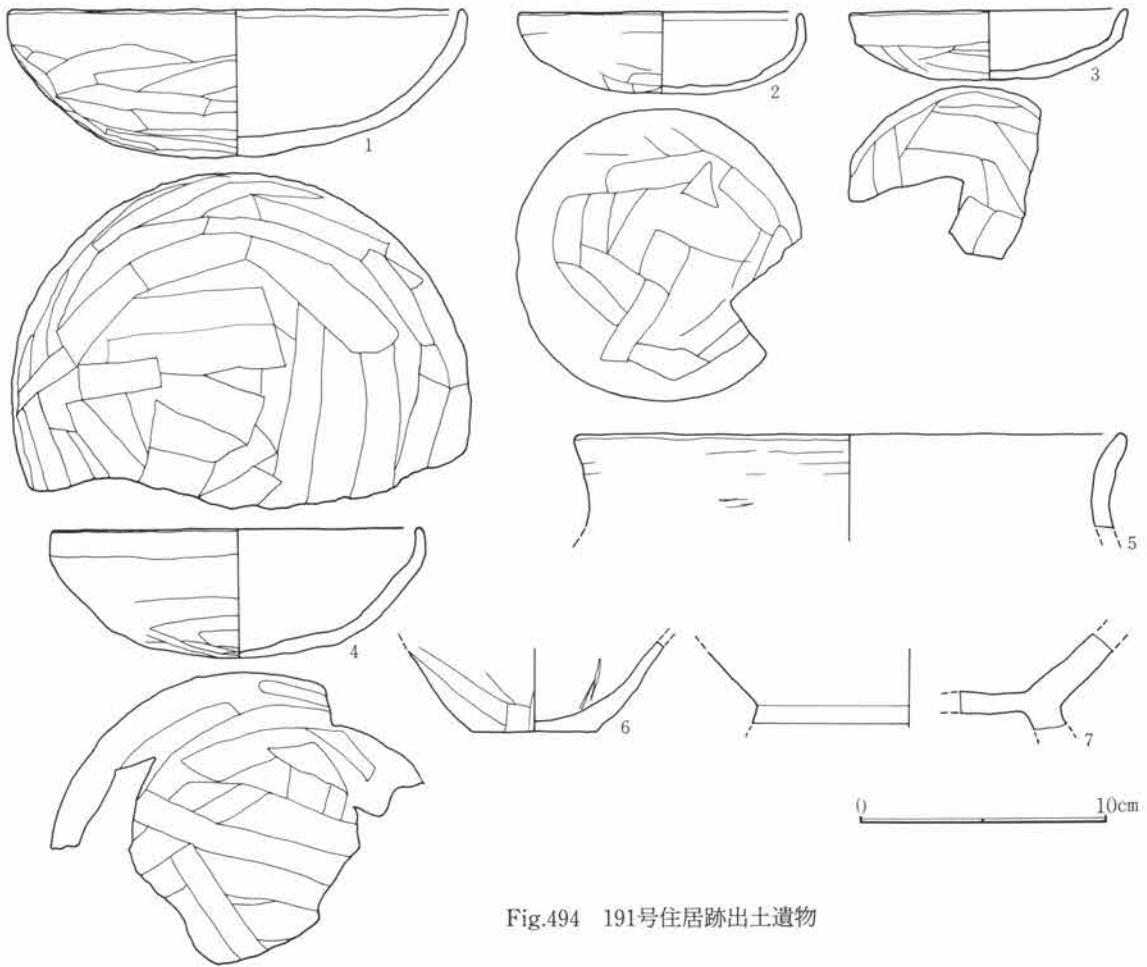


Fig.494 191号住居跡出土遺物

第190号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
493-1 138	須恵器 坏	底-5.6	覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③細砂粒含む ④底部%残存
493-2 137	須恵器 坏	口-12.8	覆土	口縁部外湾する	①良好②にぶい黄橙色③細 砂粒含む④口縁部破片
493-3 138	灰釉陶器 皿	口-10.8	覆土	口縁部内湾し屈曲する	①良好②灰白色③密④口縁 部破片
493-4 137	須恵器 壺		No.4	外面上胴部自然釉内面轆轤痕残る	①良好②灰色③1~2mmの 砂粒含む④口縁~胴部破片
493-5 137	須恵器 壺	底-14.2	No.5	付高台内面轆轤痕残る	①良好②灰色③密④底部破 片
493-6 138	羽釜	口-18.8	No.6	口縁部内湾し鑿上を向く	①良好②褐灰色③細砂粒含 む④口縁部破片
493-7	羽釜	口-19.6	覆土	口縁部内傾し鑿横を向く	①良好②灰黄色③1~2mm の砂粒含む④口縁部破片
493-8	羽釜	口-20.0	No.8	口縁部弱く内傾する鑿横を向く	①良好②灰黄褐色③1~2 mmの砂粒含む④口縁部破片
493-9 138	羽釜	口-20.8	No.9	口縁部内傾し鑿上を向く	①良好②にぶい赤橙色③1 ~2mm砂粒含む④口縁部破片
493-10 138	羽釜	口-19.4	No.10	口縁部内湾し鑿上を向く	①良好②にぶい橙色③1 ~2mm砂粒含む④口縁部破片
493-11 138	羽釜	口-21.8	No.11	口縁部内傾し鑿横を向く	①良好②にぶい赤橙色③2 ~3mm砂粒含む④口縁部破片
Fig. 493-12 PL. 137 石 長-12.8cm 幅-3.6cm 厚-4.8cm 粗粒安山岩					

第191号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器 種 器 形	計 測 値(cm)	出土位置	成 形 及 び 調 整 の 特 徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
494-1 138	土 師 器 坏	口-17.9 高-5.8	No 1	口縁部直立ぎみに立ち上がる口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②明橙色③細砂粒含む④残存
494-2 138	土 師 器 坏	口-11.3 高-3.2	No 2	口縁部内湾ぎみに立ち上がる口縁部ヨコナデ口縁部と体部の間弱いナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②橙色③細砂粒含む④残存
494-3 138	土 師 器 坏	口-11.0	覆 土	口縁部体部の境に明瞭な稜をもつ口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④残存
494-4 138	土 師 器 坏	口-15.0 高-5.1	No 4	口縁部直立ぎみ口縁部ヨコナデ口縁部体部の間弱いナデ体部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④残存
494-5	土 師 器 甕	口-22.0	覆 土	口縁部ヨコナデ	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
494-6 138	土 師 器 甕	底-5.0	覆 土	外面ヘラケズリ内面ヘラナデヘラ痕残る	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④底部残存
494-7 138	須 恵 器 壺		覆 土	付高台	①良好②灰色③2~3mmの砂粒含む④底部破片

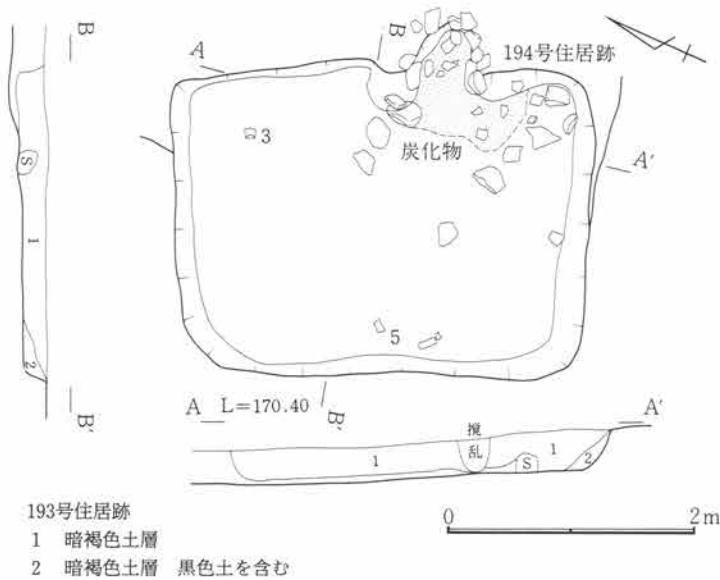


Fig.495 193号住居跡

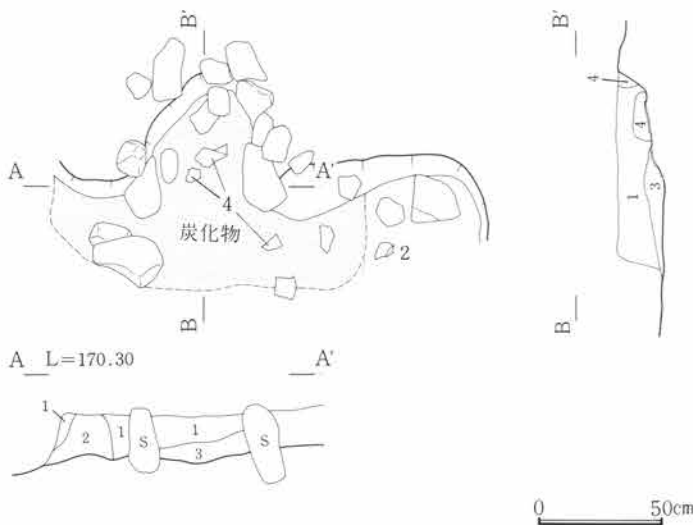


Fig.496 193号住居跡竈

193号住居跡

(Fig. 495・496・497, PL. 40・41・138・139)

G区北東部に位置し35~37G 33~35の範囲にある。188号住居跡の東にある。他の遺構との関係は東半部で194号住居跡と重複している。新旧関係は193号住居跡が新しい。規模は長辺3.4m、短辺2.5mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cm~30cmを測り、主軸方位はN-66°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃焼部幅約70cm、同長約50cmを測る。竈壁面、燃焼部内から石が多数検出されている。

193号住居跡竈

- 1 淡褐色土層 炭化物を少量含む
- 2 淡褐色土層 FAを含む
- 3 淡褐色土層
- 4 淡褐色土層 焼土を含む

第2章 検出された遺構と遺物

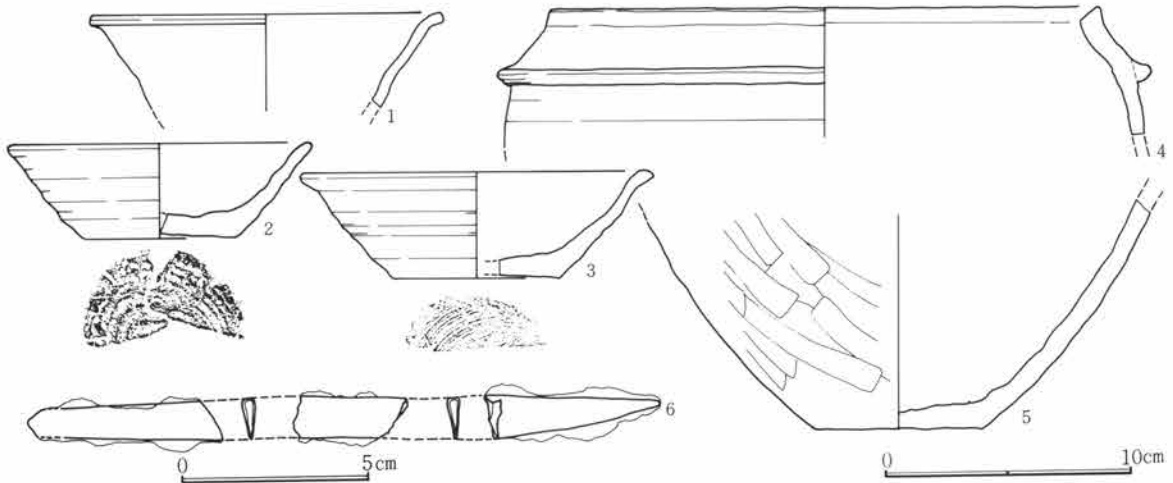


Fig.497 193号住居跡出土遺物

第193号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
497-1 138	須恵器 埴	口-14.0	覆土	口縁端部屈曲する	①良好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④口縁部残存
497-2 138	須恵器 坏	口-12.0 高-3.7 底-6.0	No 2	口縁部弱く外湾する底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む④残存
497-3 138	須恵器 坏	口-14.0 高-4.2 底-6.6	No 3	口縁部外湾する底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む④残存
497-4	羽釜	口-21.8	No 4	口縁部内湾し鑄短く横を向く	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
497-5 139	土師器 甕	底-6.6	No 5	外面ヘラケズリ	①良好②にぶい橙色③3~4mm砂粒含む④底部残存
Fig. 497-6 PL. 138	鉄製品	長-12.6cm 厚-2mm	刀子		

194号住居跡 (Fig. 498・499・500、PL. 41・138・139)

G区北東部に位置し35・36G33~35の範囲にある。188号住居跡の東にある。他の遺構との関係は西半部で193号住居跡と重複している。新旧関係は194号住居跡が古い。規模は長辺4.35m、短辺2.5mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cm~30cmを測り、主軸方位はN-78°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃烧部幅約70cm、同長約30cmを測る。

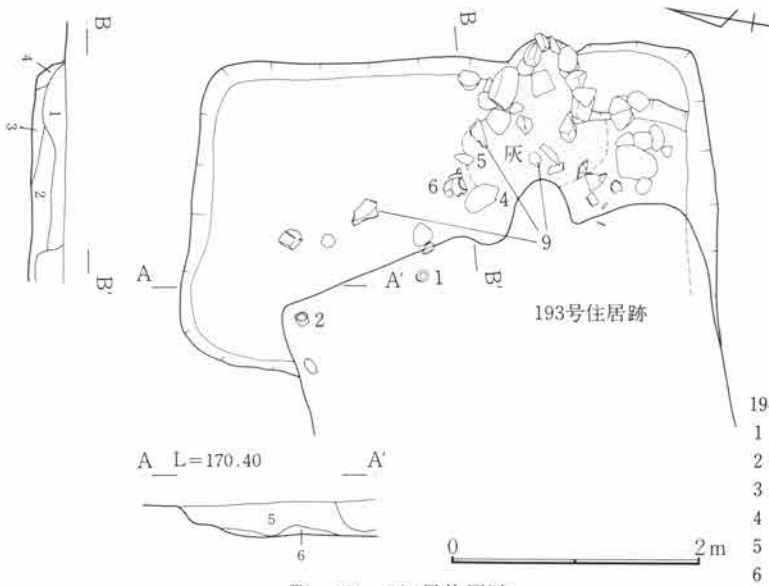
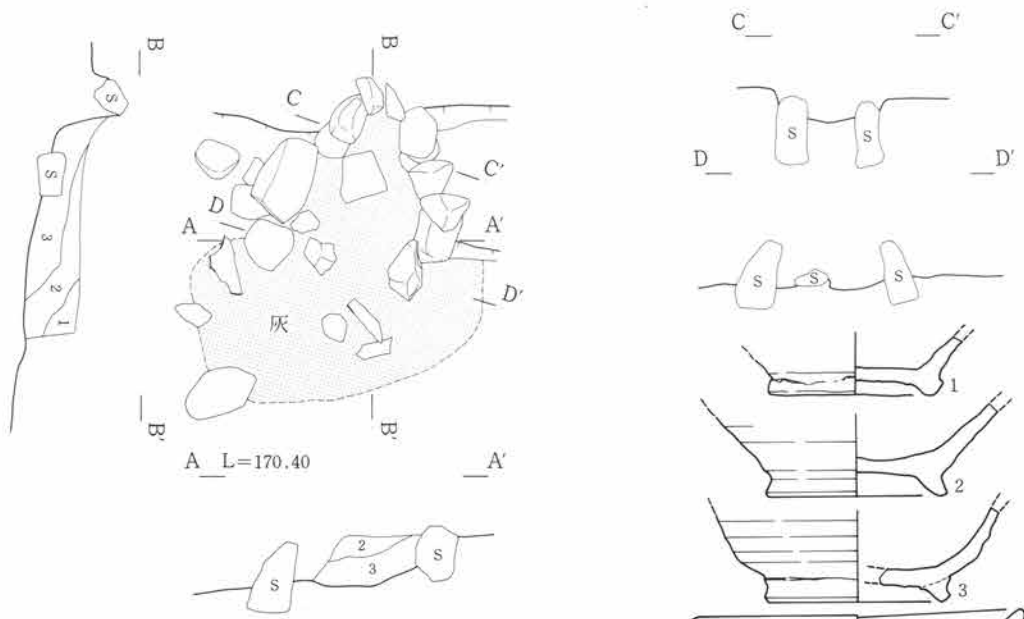


Fig.498 194号住居跡

194号住居跡

- 1 暗褐色土層 小礫を含む
- 2 暗褐色土層 FAブロックを多量に含む
- 3 黒褐色土層 FAを含む
- 4 黒褐色土層
- 5 暗褐色土層 黒色土を含む
- 6 暗褐色土層



- 194号住居跡竈
- 1 暗褐色土層
 - 2 暗褐色土層 焼土、FAを含む
 - 3 暗褐色土層 焼土、FAを多量に含む

Fig.499 194号住居跡竈

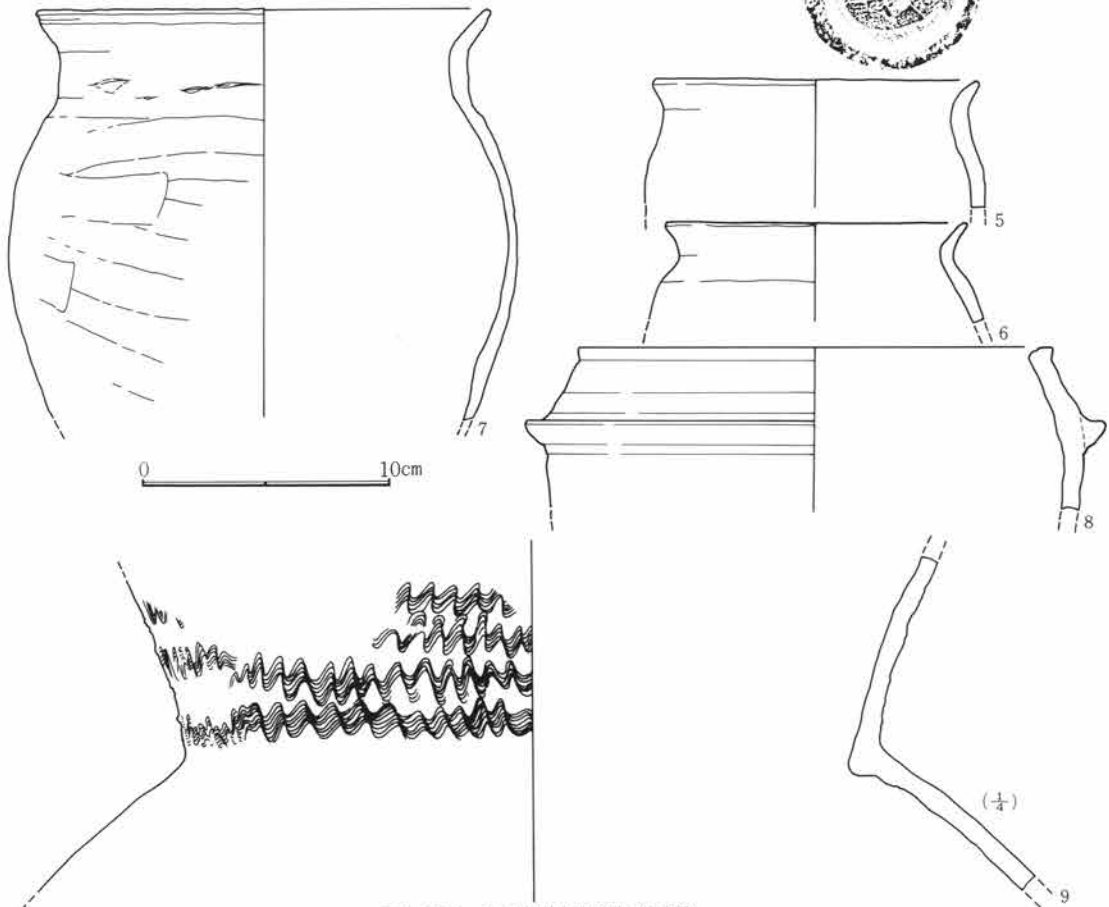


Fig.500 194号住居跡出土遺物

第2章 検出された遺構と遺物

第194号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
500-1 138	須恵器 埴	底-6.9	No.1	付高台底部回転糸切	①良好②浅黄橙色③2~3mmの砂粒含む④底部残存
500-2 139	須恵器 埴	底-7.2	No.2	付高台底部回転調整	①良好②淡黄灰色③1~2mmの砂粒含む④底部残存
500-3 139	須恵器 埴	底-7.3	覆土	付高台	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④底部破片
500-4 139	須恵器 坏	口-13.1 高-5.4 底-7.1	No.4	燻により内外面黒色口縁端部外側へ屈曲する付高台底部回転糸切	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④完形
500-5 139	土師器 甕	口-13.0	No.5	内外面ヨコナデ口縁部外湾する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
500-6 139	土師器 甕	口-12.0	No.6	口縁部ヨコナデ口縁部外反する	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④口縁部残存
500-7 139	土師器 甕	口-18.0	竈覆土	口縁部コの字状を呈する端部外面に沈線が巡る口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②赤褐色③2~3mmの砂粒含む④口縁部残存
500-8	羽釜	口-18.8	覆土	口縁部内湾し鏝上を向く	①良好②灰色③細砂粒含む④口縁部破片
500-9 139	須恵器 甕		No.9	口縁部波状文が四段確認内面ナデ部分的に焰により黒色	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④頸部残存

第2節 土坑

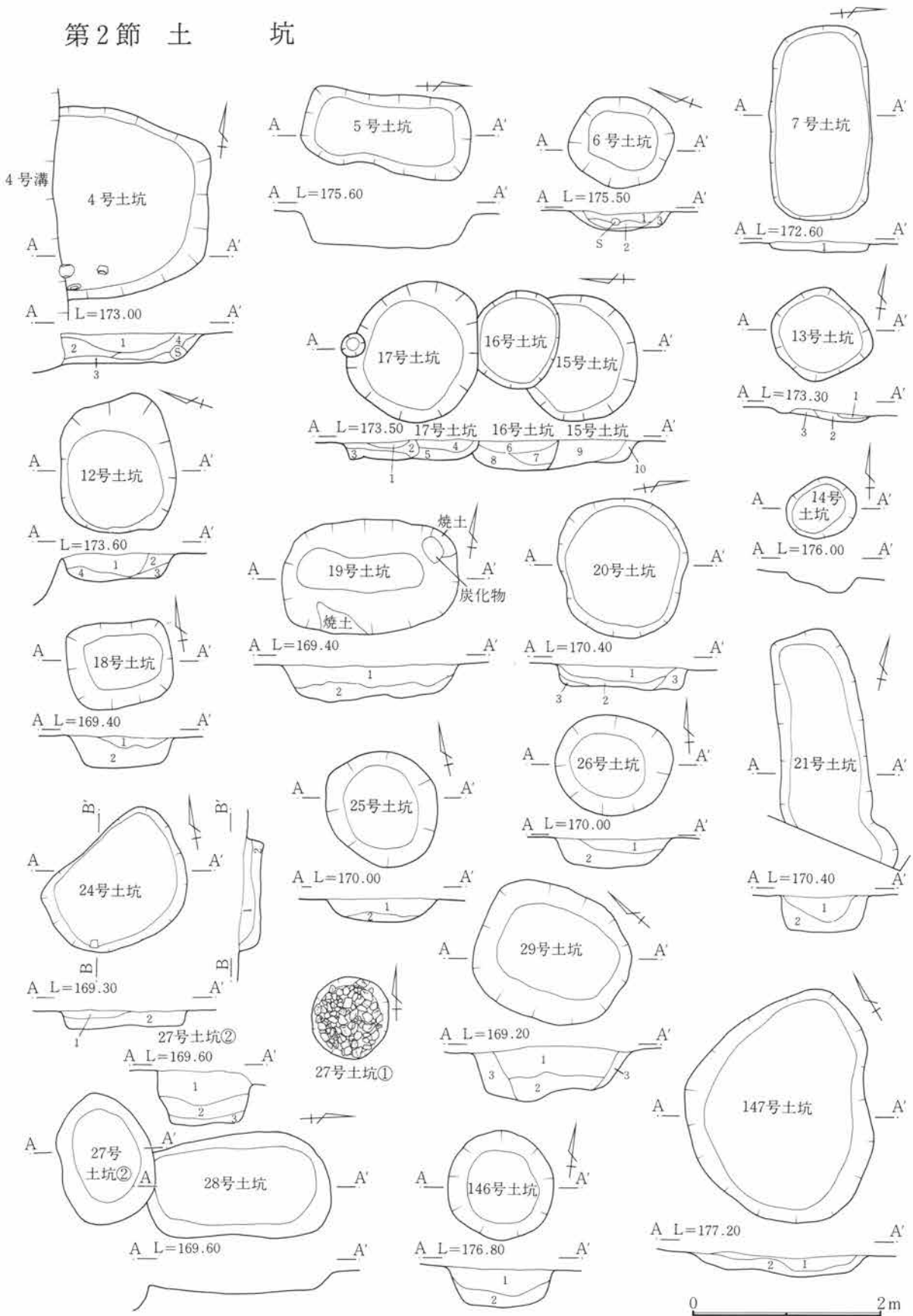


Fig.501 土坑遺構(1)

第2章 検出された遺構と遺物

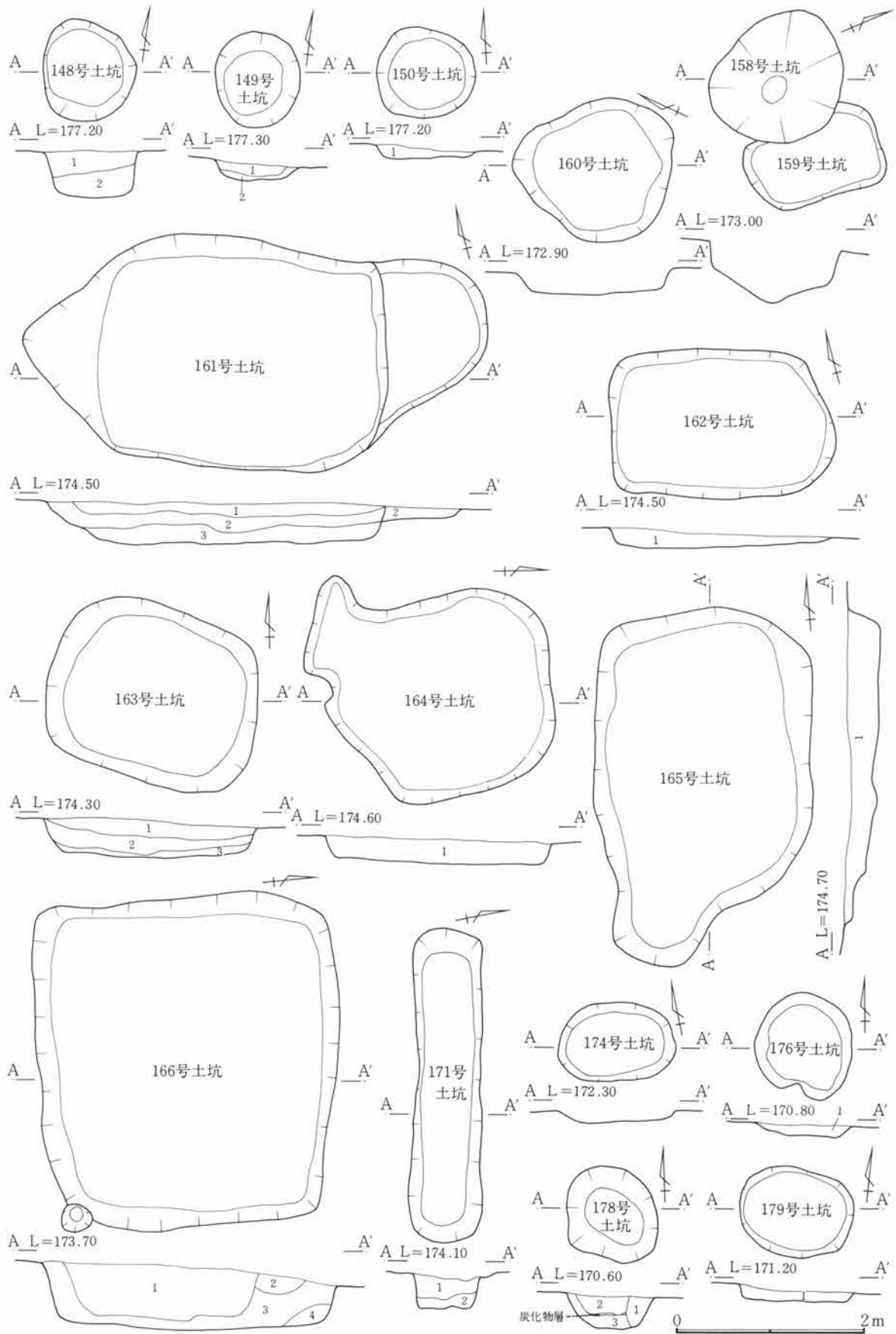


Fig.502 土坑遺構(2)

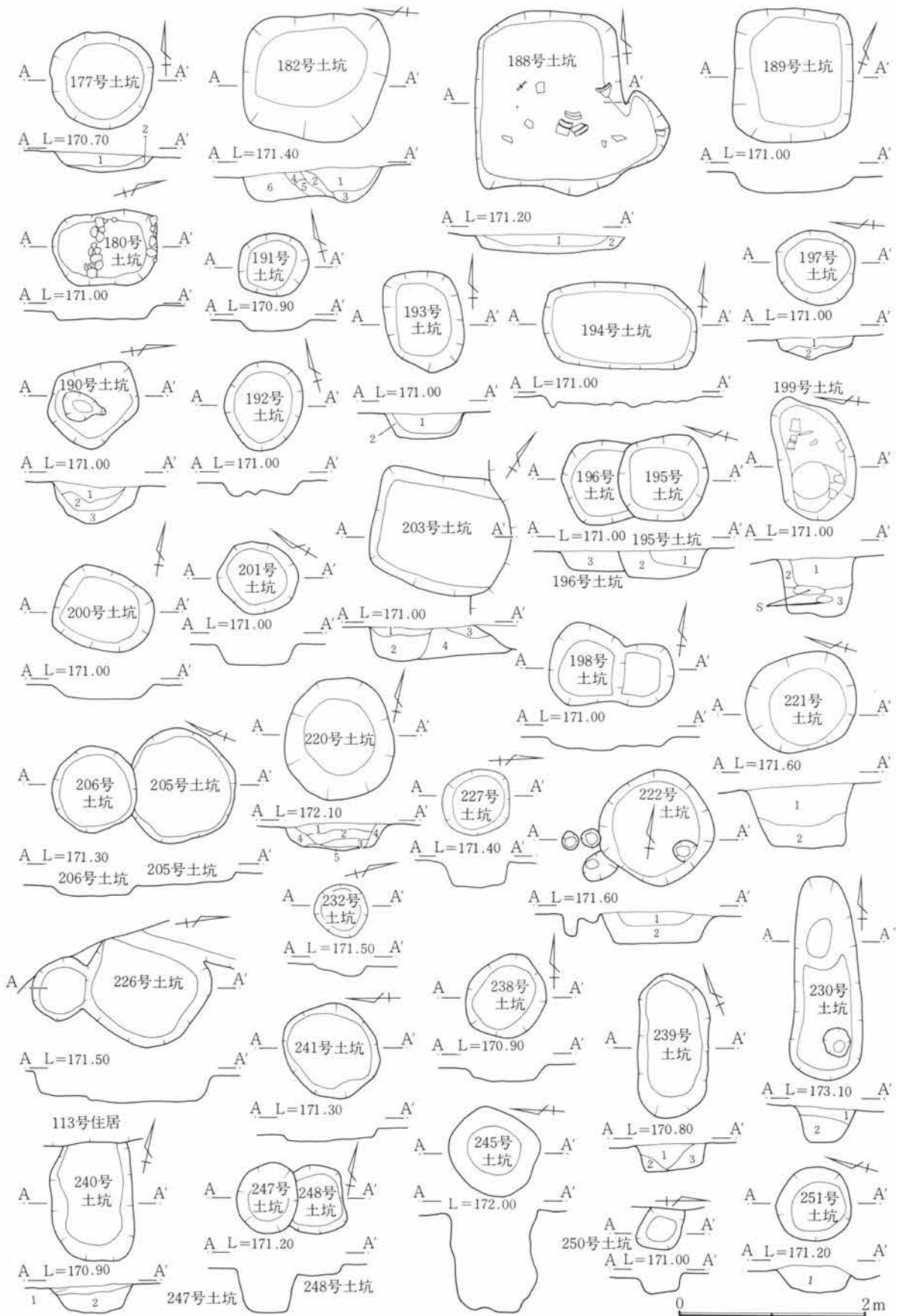


Fig.503 土坑遺構(3)

第2章 検出された遺構と遺物

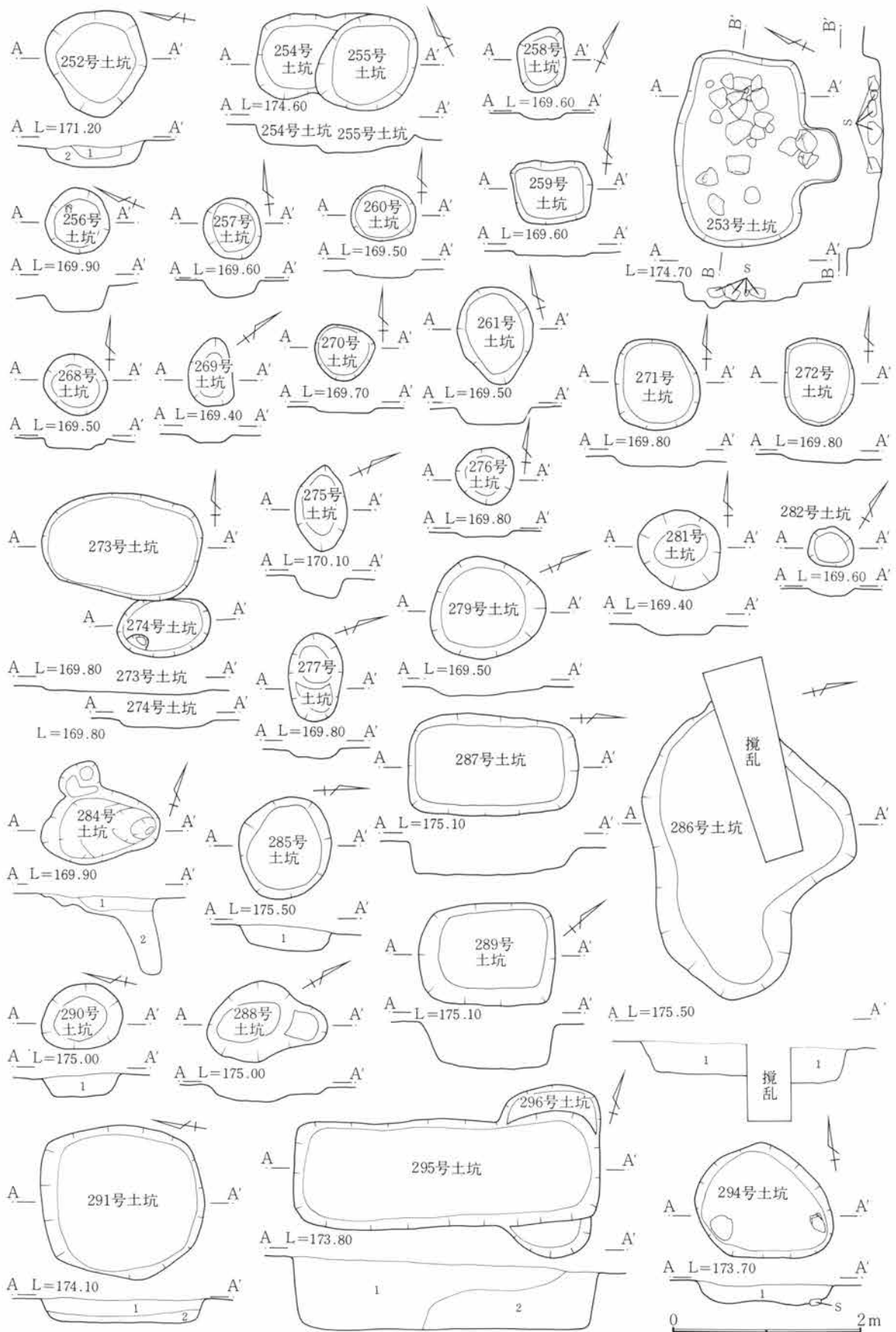


Fig.504 土坑遺構(4)

第2節 土坑

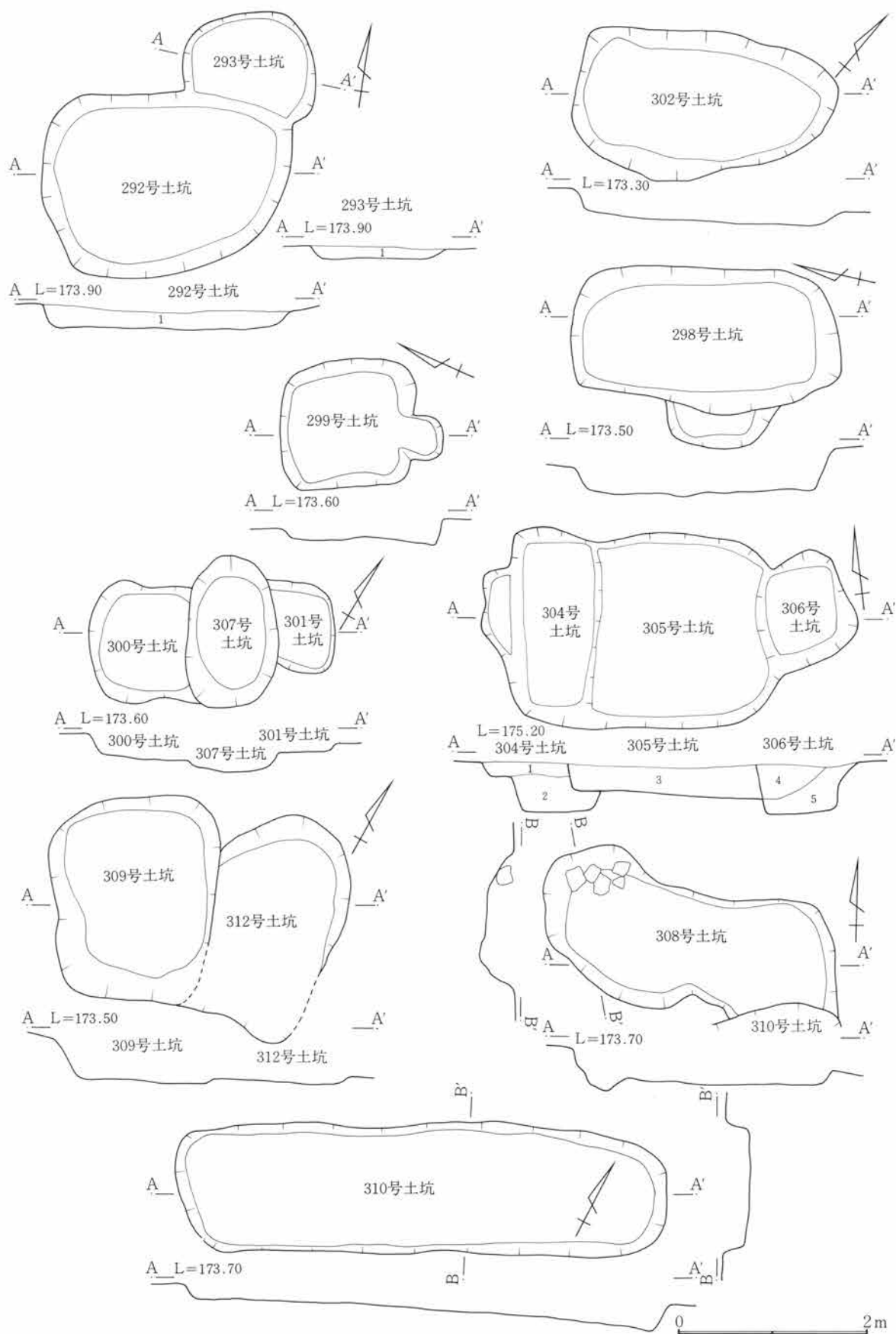


Fig.505 土坑遺構(5)

第2章 検出された遺構と遺物

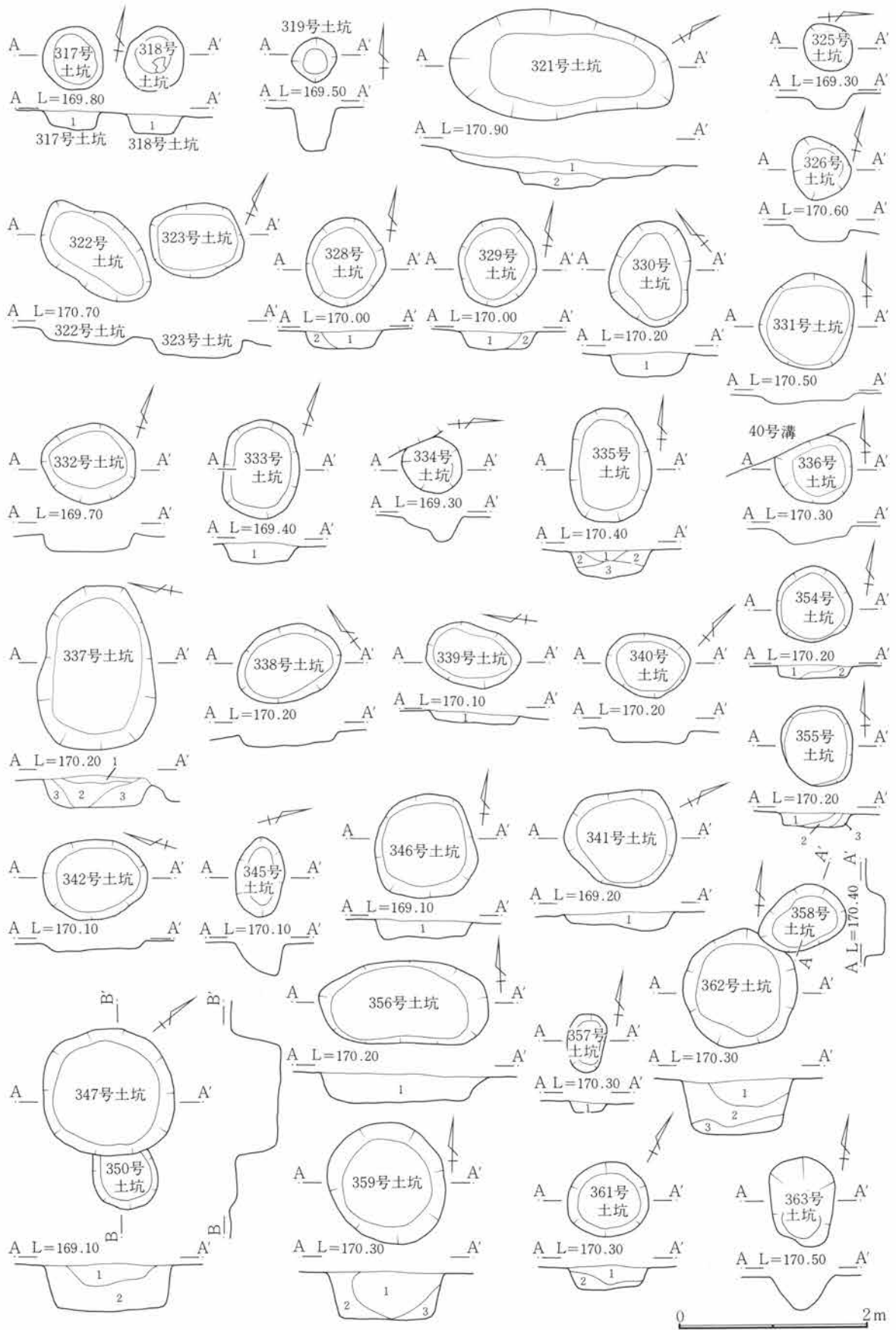


Fig.506 土坑遺構(6)

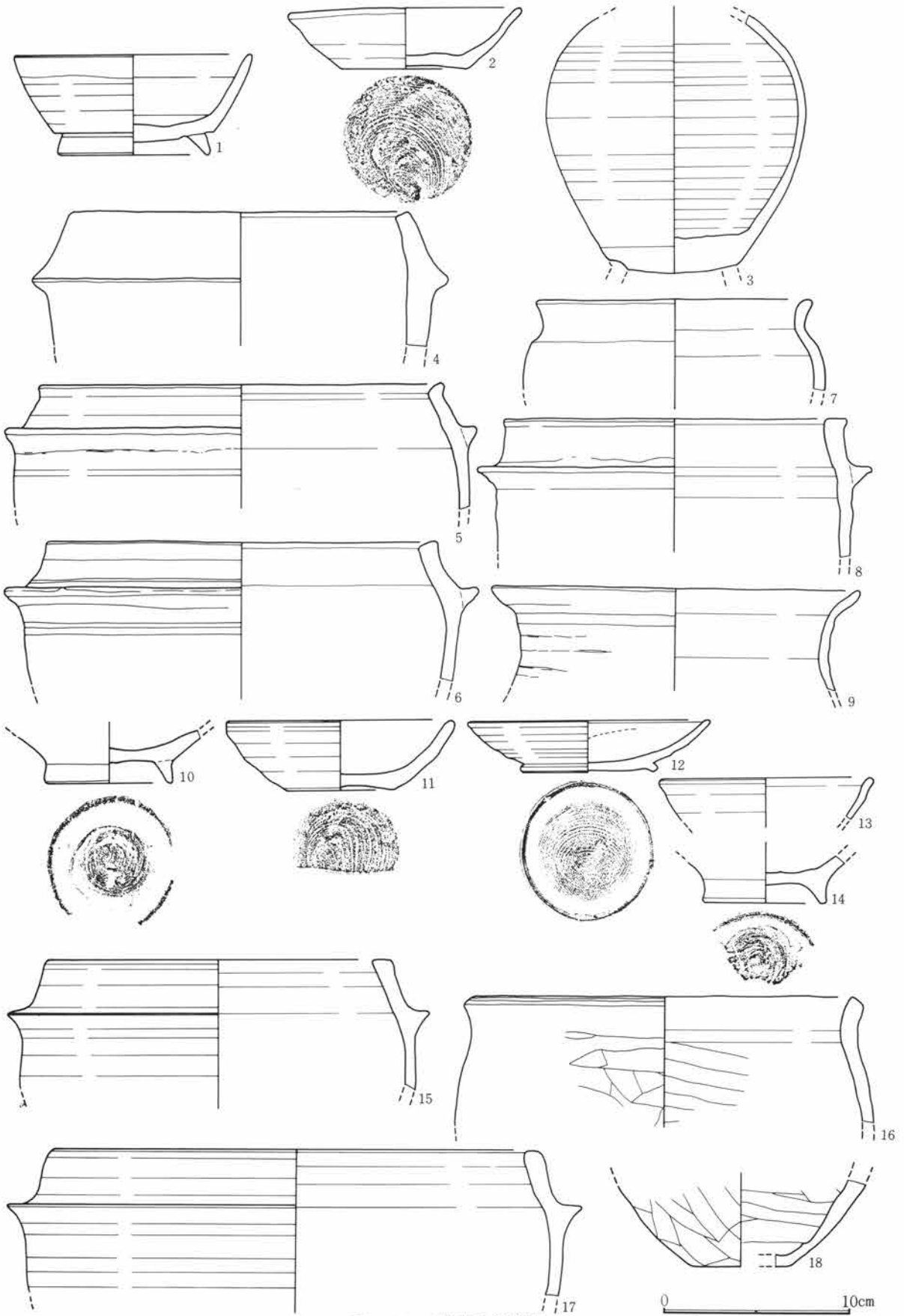


Fig.507 土坑出土遺物(1)

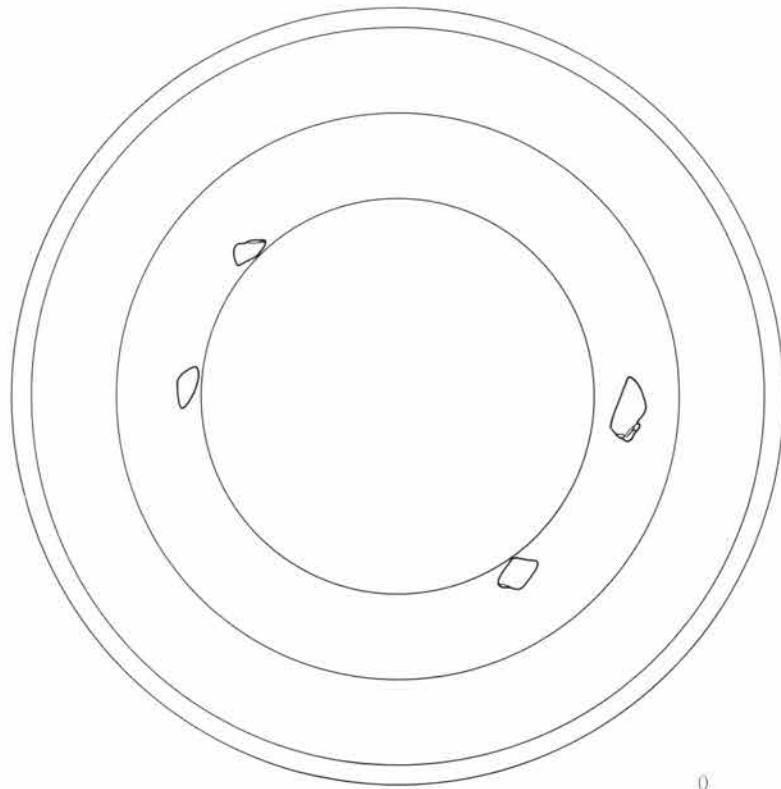
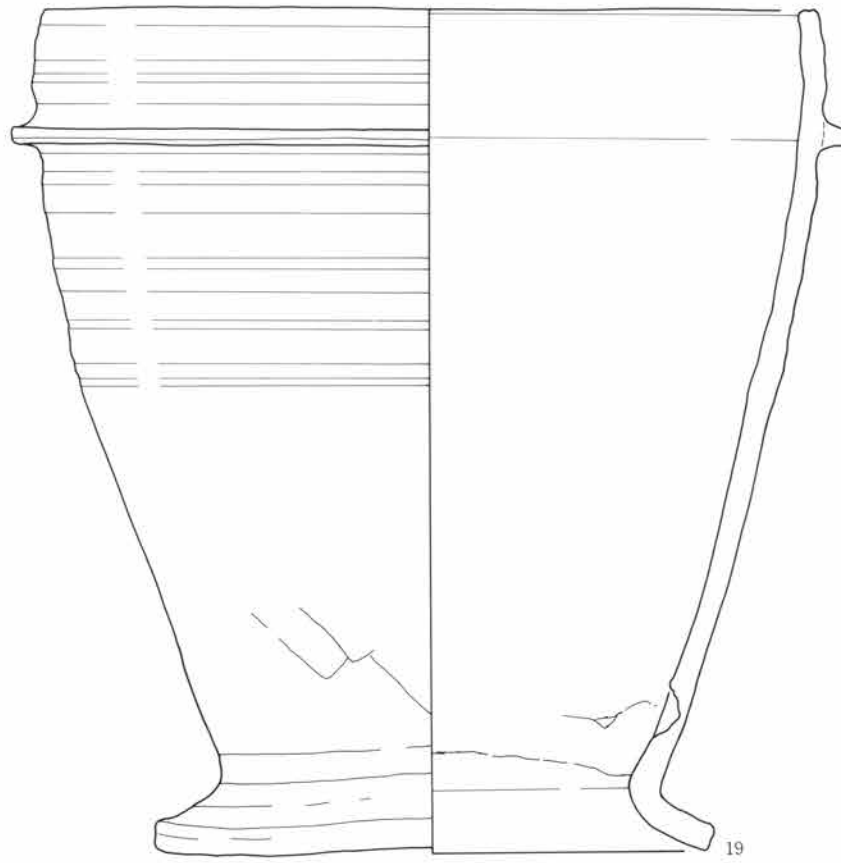


Fig.508 土坑出土遺物(2)

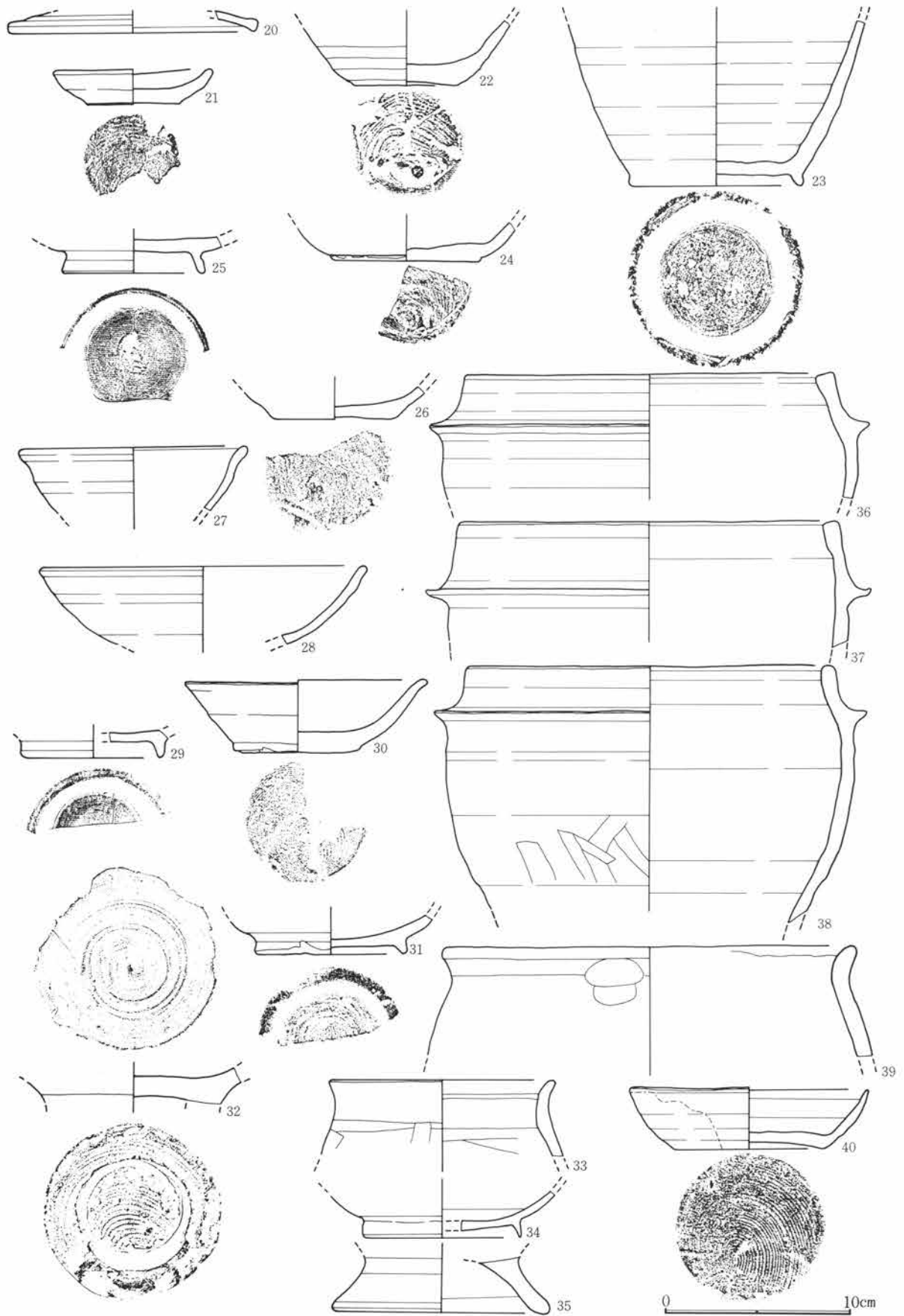


Fig.509 土坑出土遺物(3)

第2章 検出された遺構と遺物

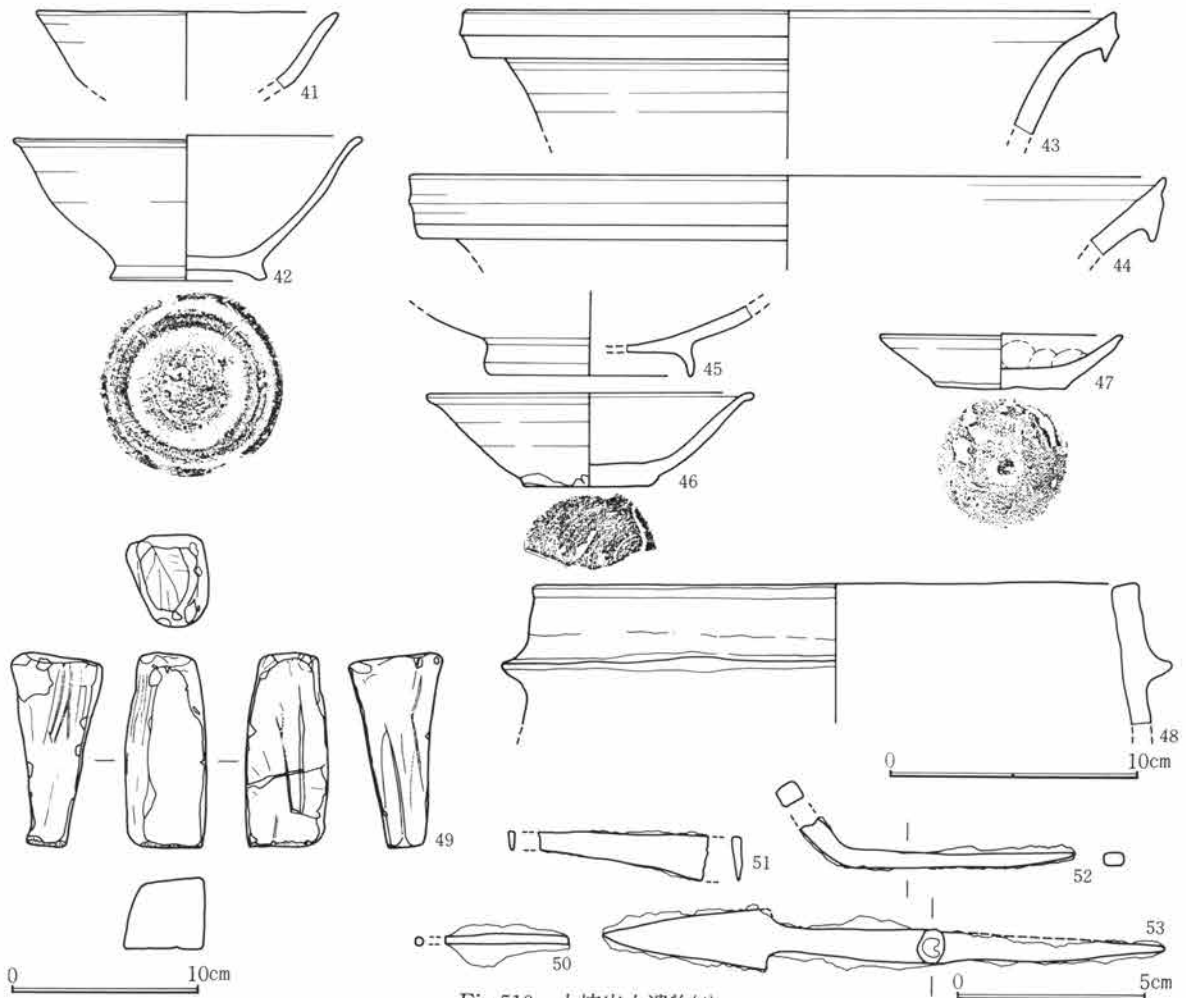


Fig.510 土坑出土遺物(4)

土坑出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
507-1 140	須恵器 埴	口-12.6 高-5.3 底-8.0	4号土坑 覆土	付高台口縁部弱く内湾し立ち上がる	①良好②灰色③密④残存
507-2 140	須恵器 坏	口-12.45 高-3.2 底-6.8	4号土坑 覆土	底部回転糸切右廻り口縁部弱く外反する	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④完成
507-3 140	須恵器 長頸壺	胴-13.65	4号土坑 覆土	胴部内湾して立ち上がる底部付高台欠落	①良好②灰色③密④残存
507-4 140	羽釜	口-17.8	26号土坑 覆土	口縁部内傾し鋳短く下を向く	①良好②にぶい橙色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片
507-5	羽釜	口-21.4	188号土坑 覆土	口縁部内湾し端部外屈する鋳上を向く	①良好②灰白色③細砂粒含む④口縁部破片
507-6 140	羽釜	口-22.8	188号土坑 覆土	口縁部内湾し鋳上を向く	①良好②橙色③細砂粒含む④口縁部破片
507-7 140	土師器 甕	口-14.5	188号土坑 覆土	口縁部くの字状に外傾する口縁部ココナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ	①良好②にぶい黄橙色③細砂粒含む④口縁部破片
507-8 140	羽釜	口-18.0	189号土坑 覆土	口縁部直立ぎみ鋳やや上を向く	①良好②灰黄色③細砂粒含む④口縁部破片
507-9 140	土師器 甕	口-19.6	189号土坑 覆土	口縁部ココナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部コの字状を呈する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
507-10 140	土師器 埴	底-6.8	188号土坑 覆土	底部回転糸切付高台	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④底部残存
507-11 140	須恵器 坏	口-12.0 高-3.65 底-5.6	196号土坑 覆土	底部回転糸切口縁部内湾して立ち上がる	①良好②灰白色③細砂粒含む④残存

第2節 土 坑

Fig. No. PL. No.	器 種 器 形	計 測 値(cm)	出土位置	成 形 及 び 調 整 の 特 徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
507-12 140	灰釉陶器 壺	口-12.6 高-2.7 底-6.8	199号土坑 覆土	底部回転糸切付高台口縁端部弱く外屈する口縁部 内外面施釉	①良好②灰白色③密④残 存
507-13 141	灰釉陶器 壺	口-11.0	199号土坑 覆土	口縁端部外側へ弱く屈曲する口縁部内外面施釉	①良好②灰白色③密④口縁 部破片
507-14 140	須惠器 壺	底-6.2	199号土坑 覆土	底部回転糸切付高台内外面黒色燻	①良好②灰色③細砂粒含む ④底部残存
507-15	羽釜	口-18.2	199号土坑 覆土	口縁部内傾し鑄横を向く	①良好②浅黄橙色③細砂粒 含む④口縁部破片
507-16 141	土師器 甕	口-20.0	199号土坑 覆土	外面ヘラケズリ内面ヘラナデ口縁部弱く外反する	①良好②橙色③細砂粒含む ④口縁部破片
507-17 140	羽釜	口-25.6	199号土坑 覆土	口縁部内傾し鑄横を向く	①良好②浅黄橙色③1~2 mmの砂粒含む④口縁部破片
507-18 141	土師器 甕	底-5.0	199号土坑 覆土	外面ヘラケズリ内面ヘラナデ	①良好②灰褐色③細砂粒含む ④底部破片
508-19 140	甌	口-31.2 高-31.0 底-22.5	188号土坑 覆土	口縁部弱く外傾し鑄短く横を向く内面下胴部にく ぼみあり	①良好②明褐色③2~3mm の砂粒含む④残存
509-20 141	蓋	口-13.0	221号土坑 覆土	外面回転ヘラ調整	①良好②灰色③細砂粒含む ④破片
509-21	須惠器 皿	口-8.2 高-1.8 底-4.8	221号土坑 覆土	底部回転糸切	①良好②淡黄色③細砂粒含む ④残存
509-22 141	須惠器 坏	底-5.4	221号土坑 覆土	底部回転糸切	①良好②にぶい橙色③細砂 粒含む④底部残存
509-23 141	須惠器 壺	底-9.0	237号土坑 覆土	付高台胴部直線状に外傾する	①良好②灰白色③細砂粒含む ④残存
509-24 141	須惠器 坏	底-7.6	237号土坑 覆土	底部回転糸切右廻り	①良好②灰色③3~4mmの 砂粒含む④底部破片
509-25 141	須惠器 壺	底-7.4	242号土坑 覆土	底部回転ヘラ調整付高台	①良好②灰白色③密④底部 残存
509-26 141	須惠器 坏	底-6.2	256号土坑 覆土	底部回転糸切	①良好②灰白色③細砂粒含む ④底部残存
509-27 141	須惠器 壺	口-11.8	261号土坑 覆土	口縁端部外反する	①良好②灰白色③細砂粒含む ④口縁部破片
509-28 141	灰釉陶器 壺		267号土坑 覆土	口縁端部外側へ弱く屈曲する内外面施釉	①良好②灰白色③密④口縁 部破片
509-29 141	灰釉陶器 壺	底-7.0	271号土坑 覆土	付高台底部回転調整	①良好②灰白色③密④底部 破片
509-30 141	須惠器 坏	口-12.8 高-3.8 底-6.2	298号土坑 覆土	底部回転糸切口縁端部外反する	①良好②にぶい褐色③細砂 粒含む④残存
509-31 141	須惠器 壺	底-7.7	298号土坑 覆土	底部回転糸切付高台	①良好②灰色③1~2mmの 砂粒含む④底部残存
509-32 141	土師器 甕		274号土坑 覆土	底部回転糸切付高台欠落	①良好②にぶい橙色③細砂 粒含む④底部残存
509-33 141	土師器 甕	口-11.8	256号土坑 覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部外 湾する	①良好②橙色③細砂粒含む ④口縁部残存
509-34 141	灰釉陶器 壺	底-8.4	298号土坑 覆土	底部回転調整付高台	①良好②灰白色③密④底部 破片
509-35 141	須惠器 壺	底-11.2	278号土坑 覆土	脚ハの字状に開く	①良好②にぶい橙色③細砂 粒含む④脚部残存
509-36	羽釜	口-19.4	199号土坑 覆土	口縁部内傾し鑄横を向く	①良好②にぶい橙色③細砂 粒含む④口縁部破片
509-37 141	羽釜	口-19.8	237号土坑 覆土	口縁部内傾し鑄先端上を向く	①良好②にぶい黄橙色③細 砂粒含む④口縁部破片
509-38 141	羽釜	口-19.2	250号土坑 覆土	口縁部外湾して内傾する胴下部ヘラケズリ	①良好②暗赤灰色③1~2 mmの砂粒含む④残存
509-39 141	土師器 甕	口-21.6	298号土坑 覆土	口縁部ヨコナデ指あて痕口縁端部外反する	①良好②灰褐色③1~2mm の砂粒含む④口縁部破片
509-40 142	灰釉陶器 坏	口-12.6 高-3.3 底-7.8	308号土坑 覆土	底部回転糸切右廻り底部盛り上がる口縁部弱く内 湾ぎみに立ち上がる	①良好②灰色③密④ほぼ完 形
510-41 142	土師器 坏	口-12.0	318号土坑 覆土	内黒土器口縁端部弱く外反する	①良好②灰色③2~3mmの 砂粒含む④口縁部破片

第2章 検出された遺構と遺物

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
510-42 142	須恵器 壺	口-13.9 高-5.7 底-6.2	318号土坑 覆土	底部回転糸切付高台口縁端部外反する	①良好②褐色③3~4mmの砂粒含む④%残存
510-43 142	須恵器 壺	口-26.0	317号土坑 覆土	口縁部稜をもち外側へ張り出す	①良好②褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
510-44 142	須恵器 大壺	口-41.0	318号土坑 覆土	口縁部稜をもち外側へ張り出す	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
510-45	須恵器 壺	底-8.0	347号土坑 覆土	付高台	①良好②灰白色③密④底部破片
510-46	須恵器 坏	口-13.0 高-3.7 底-5.0	347号土坑 覆土	底部回転糸切口縁端部外反する	①良好②灰白色③細砂粒含む④%残存
510-47 142	須恵器 灯明皿	口-9.7 高-2.2 底-5.1	359号土坑 覆土	底部ナデ調整内面指頭痕口縁端部一部にタール状付着物	①良好②灰白色③1~2mmの砂粒含む④完形
510-48	羽釜	口-24.0	353号土坑 覆土	口縁部内傾し鏝上を向く	①良好②にぶい橙色③2~3mm砂粒含む④口縁部破片
Fig. 510-49	石 長-10.0cm 幅-4.5cm 厚-3.6cm 砥石 流紋岩(砥沢)				
Fig. 510-50 PL. 140	鉄製品 長-3.4cm 厚-3mm 不明				
Fig. 510-51 PL. 140	鉄製品 長-4.6cm 厚-2mm 刀子?				
Fig. 510-52 PL. 142	鉄製品 長-7.5cm 厚-5mm 不明				
Fig. 510-53 PL. 142	鉄製品 長-15.2cm 厚-20mm 鏃				

第3節 墓 墳

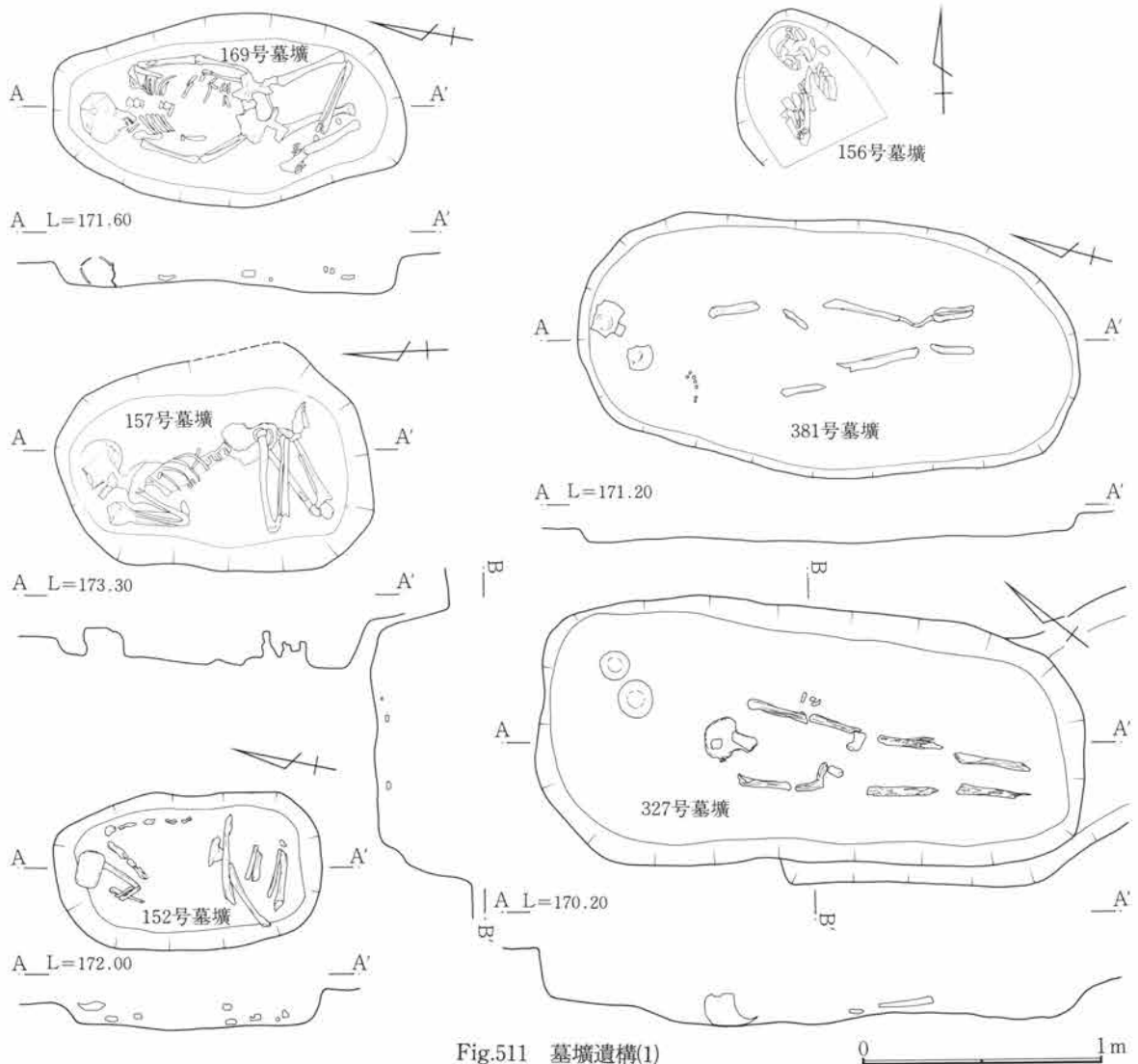


Fig.511 墓墳遺構(1)

第3節 墓 墳

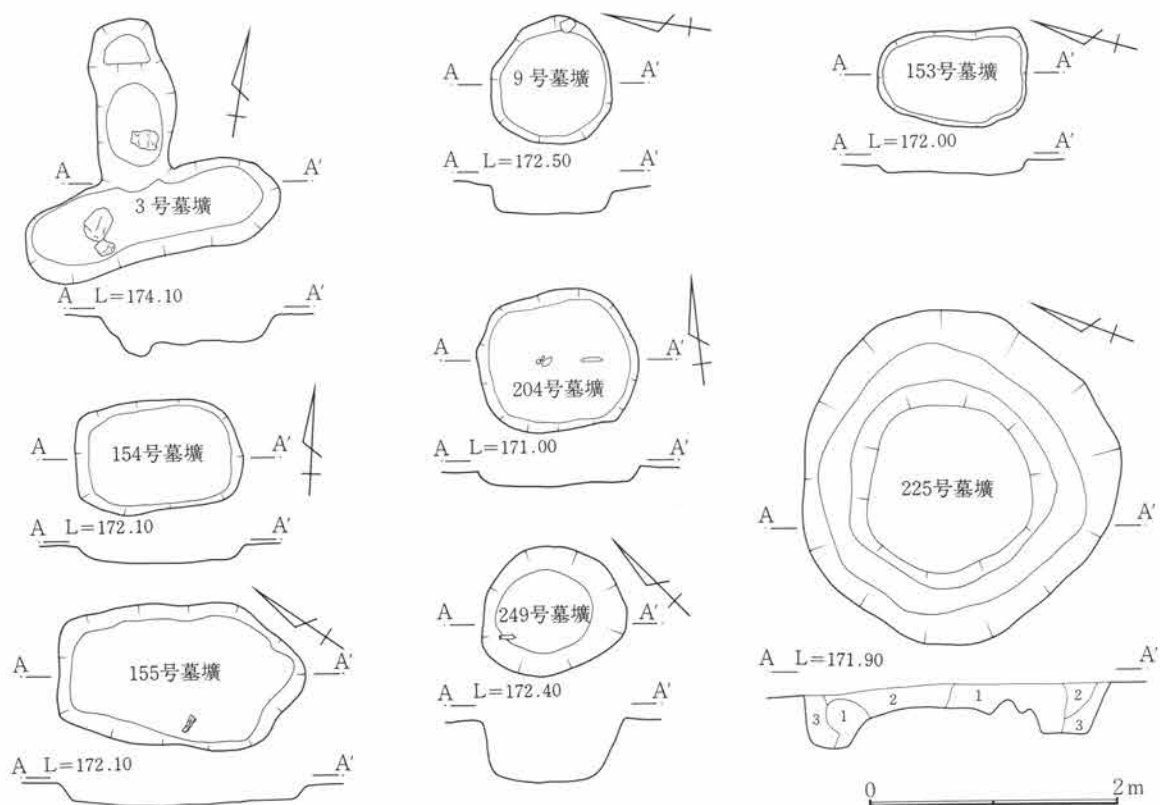


Fig.512 墓墳遺構(2)

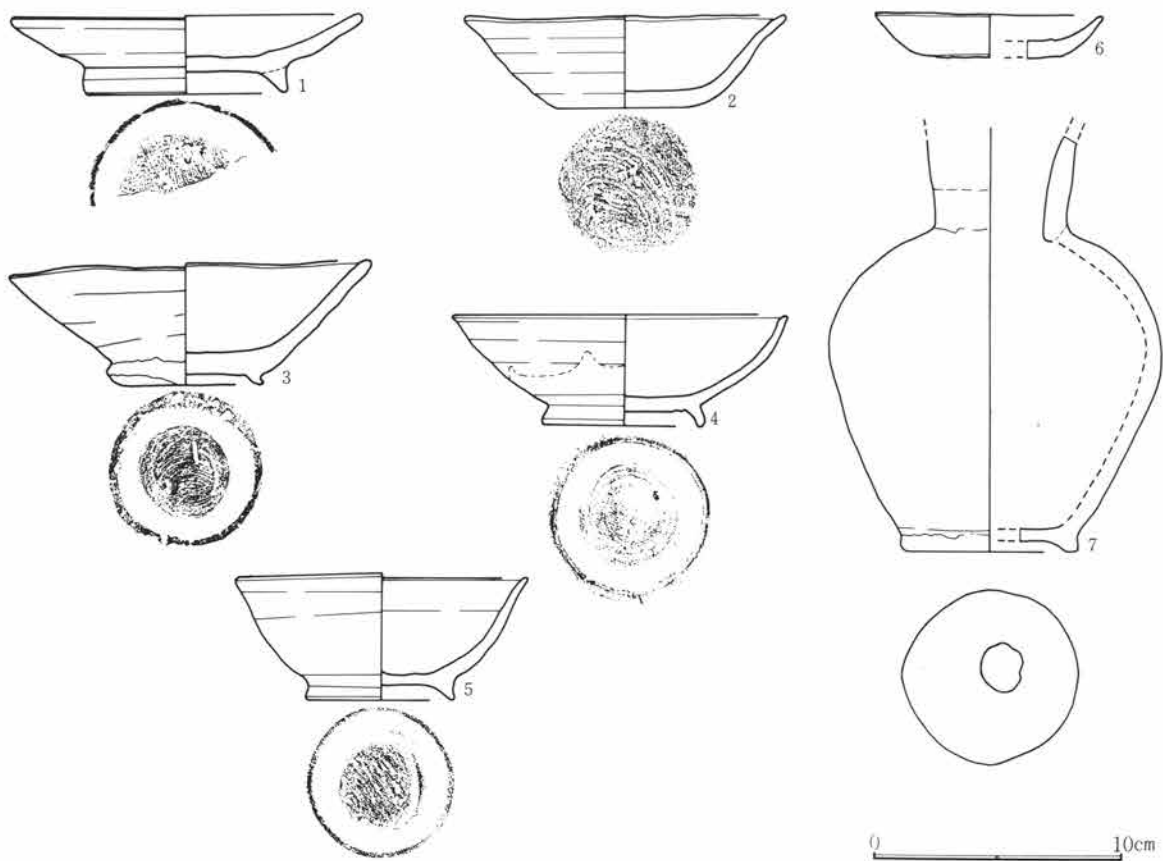


Fig.513 墓墳出土遺物(1)

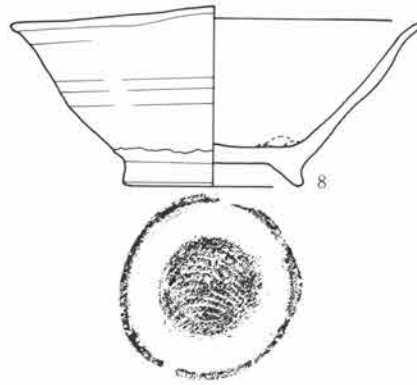


Fig.514 墓墳出土遺物(2)

墓墳出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
513-1 142	須恵器 皿	口-13.9 高-3.1 底-7.8	204号土坑 覆土	底部回転糸切付高台	①良好②明褐色③1~2mmの砂粒含む④残存
513-2 142	須恵器 坏	口-12.8 高-3.7 底-5.3	327号土坑 覆土	底部回転糸切口縁端部外反する	①良好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④完形
513-3 142	須恵器 碗	口-14.4 高-5.0 底-5.8	327号土坑 覆土	底部回転糸切付高台内外面部分的に煤付着	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④完形
513-4 142	灰釉陶器 碗	口-13.4 高-4.4 底-6.3	381号土坑 覆土	底部回転調整付高台腰部内湾し口縁端部外屈する	①良好②灰白色③密④完形
513-5 142	須恵器 碗	口-11.5 高-5.0 底-5.7	381号土坑 覆土	底部回転糸切口縁部内湾して立ち上がる	①良好②灰白色③細砂粒含む④残存
513-6 142	須恵器 小皿	口-9.0 高-1.6 底-5.8	225号土坑 覆土	底部回転糸切	①良好②にぶい赤色③1~2mm砂粒含む④口縁部破片
513-7 142	須恵器 壺	底-7.0	225号土坑 覆土	底部付高台穿孔胴部内湾する外面剥落著しい	①やや軟質②灰黄褐色③3~5mm砂粒含む④口縁部欠損
514-8 142	須恵器 碗	口-16.3 高-7.1 底-7.0	381号土坑 覆土	底部回転糸切付高台口縁端部外反する	①良好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④残存

第4節 溝

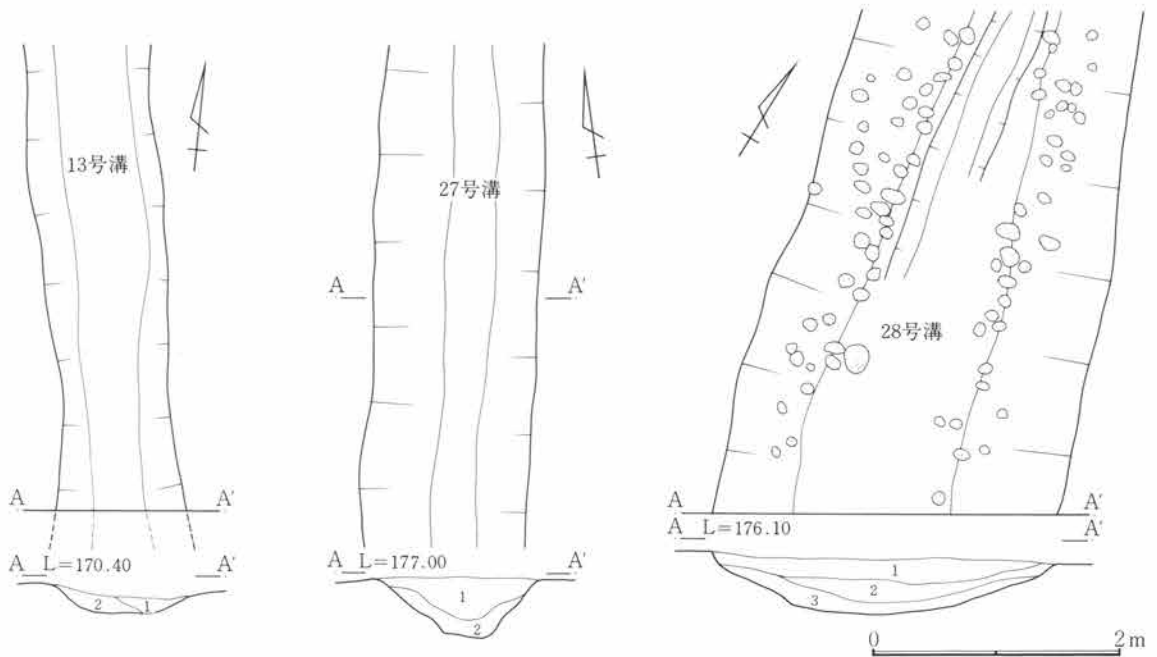


Fig.515 溝遺構(1)

第4節 溝

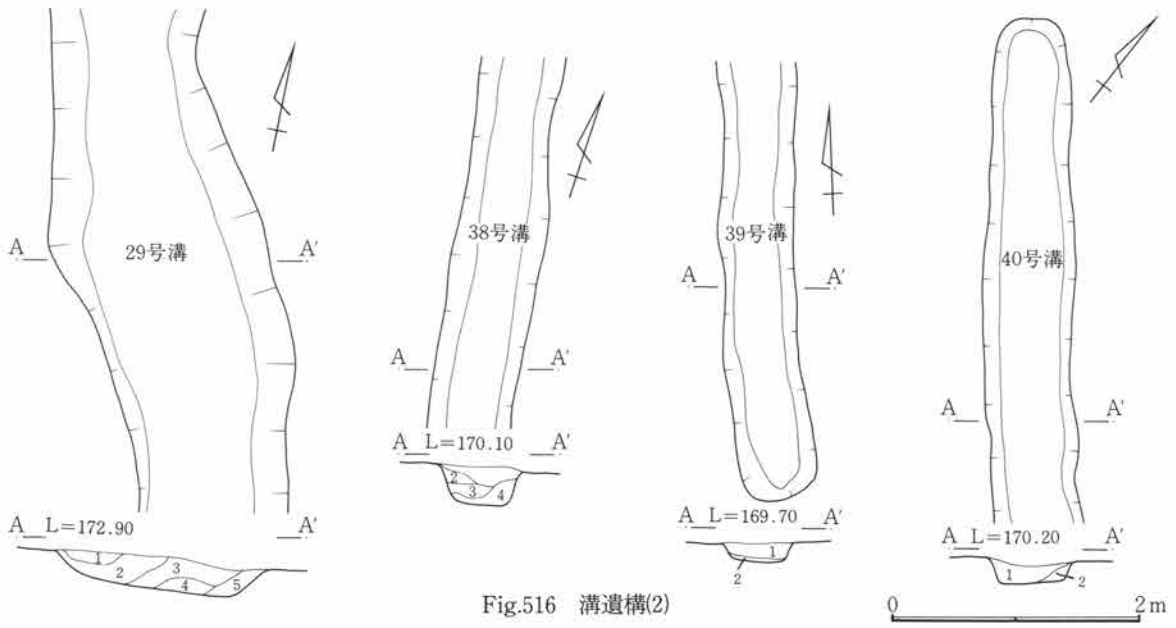


Fig.516 溝遺構(2)

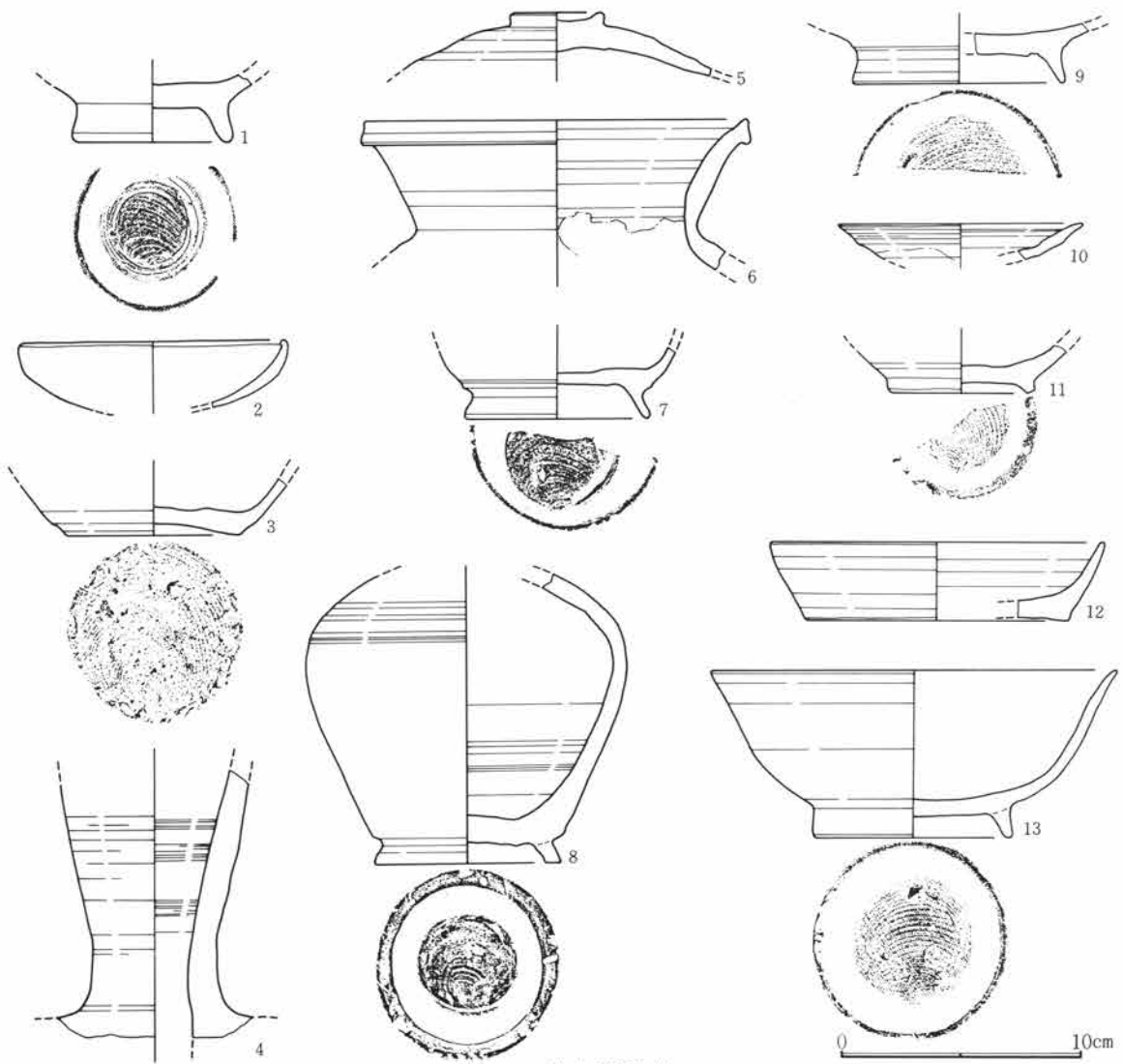


Fig.517 溝出土遺物(1)

第2章 検出された遺構と遺物

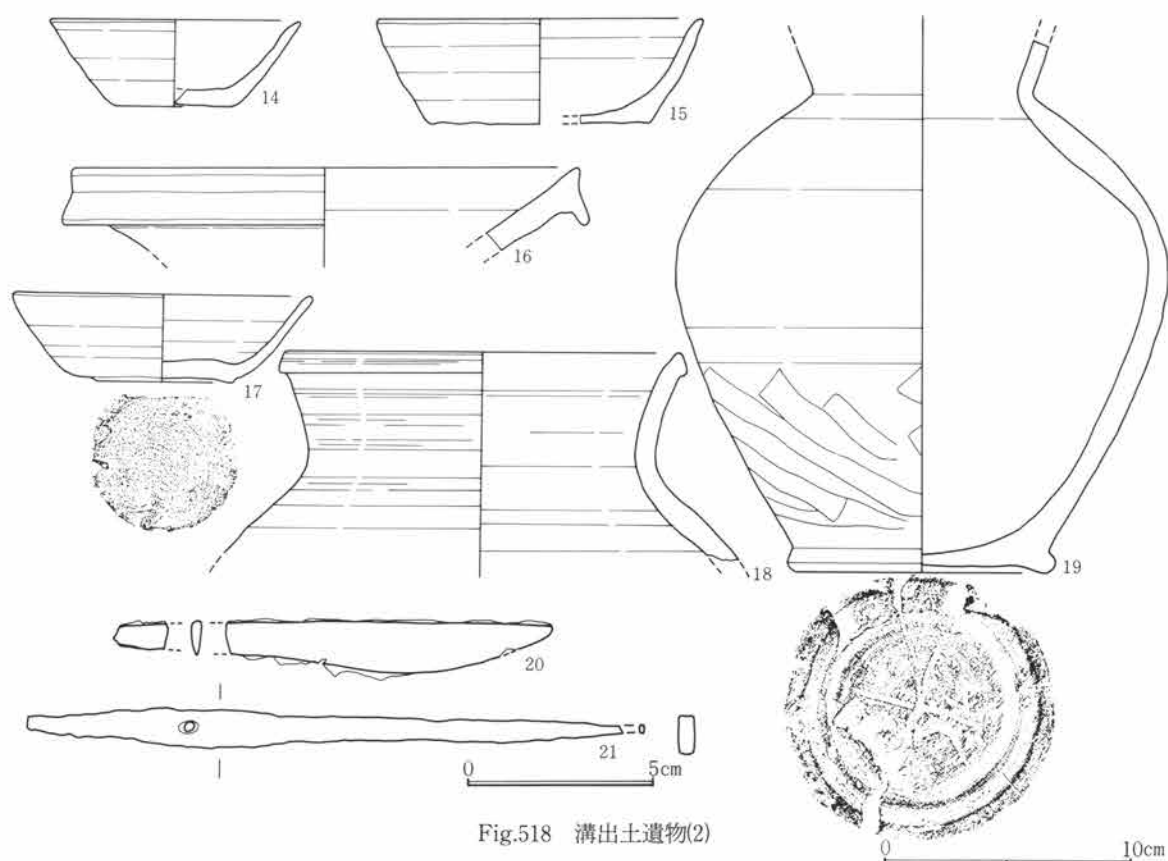


Fig.518 溝出土遺物(2)

溝出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
517-1 143	須恵器 壺	底-6.2	4号溝 覆土	底部回転糸切付高台	①良好②浅黄橙色③細砂粒含む④底部残存
517-2 143	土師器 坏	口-11.0	17号溝 覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁端部内側へ屈曲する	①良好②橙色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片
517-3 143	須恵器 坏	底-7.0	17号溝 覆土	底部回転糸切	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④底部残存
517-4 143	須恵器 長頸壺		17号溝 覆土	口縁部外反ぎみに外傾する	①良好②灰色③密④頸部残存
517-5 143	須恵器 蓋		17号溝 覆土	外面回転ヘラ調整	①良好②灰色③細砂粒含む④破片
517-6 143	須恵器 壺	口-16.0	17号溝 覆土	口縁部稜をもち外側へ張り出す	①良好②灰色③密④口縁部1/4残存
517-7 143	須恵器 壺	底-7.4	17号溝 覆土	底部回転糸切付高台	①良好②灰色③密④底部1/4残存
517-8 143	須恵器 壺	底-7.7	17号溝 覆土	底部回転糸切付高台胴部内湾して立ち上がる	①良好②灰白色③密④1/4残存
517-9	須恵器 壺	底-8.8	17号溝 覆土	底部回転糸切付高台高台薄くハの字状に開く	①良好②灰色③密④1/4残存
517-10 143	灰釉陶器 皿	口-10.0	28号溝 覆土	内面段をもつ内外面施釉	①良好②灰白色③密④口縁部破片
517-11 143	須恵器 壺	底-5.6	28号溝 覆土	底部回転糸切付高台	①良好②浅黄色③細砂粒含む④1/4残存
517-12 143	須恵器 坏	口-13.6 高-3.2 底-10.8	28号溝 覆土	口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③細砂粒含む④破片
517-13 143	灰釉陶器 壺	口-16.6 高-6.9 底-8.0	1号溝 覆土	底部回転糸切付高台腰部から内湾して立ち上がる	①良好②灰白色③密④1/4残存
518-14 143	須恵器 坏	口-10.0	29号溝 覆土	底部回転糸切口縁部直線状に外傾する	①良好②灰色③密④1/4残存

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
518-15 143	須恵器 坏	口-13.0	29号溝 覆土	腰部から弱く内湾ぎみに立ち上がる	①良好②灰色③密④破片
518-16 143	須恵器 壺	口-20.0	29号溝 覆土	口縁部後をもち外へ張り出す	①良好②灰色③密④口縁部破片
518-17	須恵器 坏	口-12.0 高-3.5 底-5.4	31号溝 覆土	底部回転糸切右廻り腰部弱く内湾する	①良好②灰色③密④残存
518-18 143	須恵器 甕	口-16.2	40号溝 覆土	口縁部後をもち外側へ張り出す	①良好②褐灰色③密④口縁部残存
518-19 143	須恵器 壺	底-10.0	28号溝 覆土	胴下部ヘラケズリ付高台底部記号状痕	①良好②褐灰色③細砂粒含む④残存
Fig. 518-20 PL. 143 鉄製品 長-12.5cm 厚-3mm 刀子					
Fig. 518-21 PL. 143 鉄製品 長-16.0cm 厚-2mm 鋤					

第5節 井戸

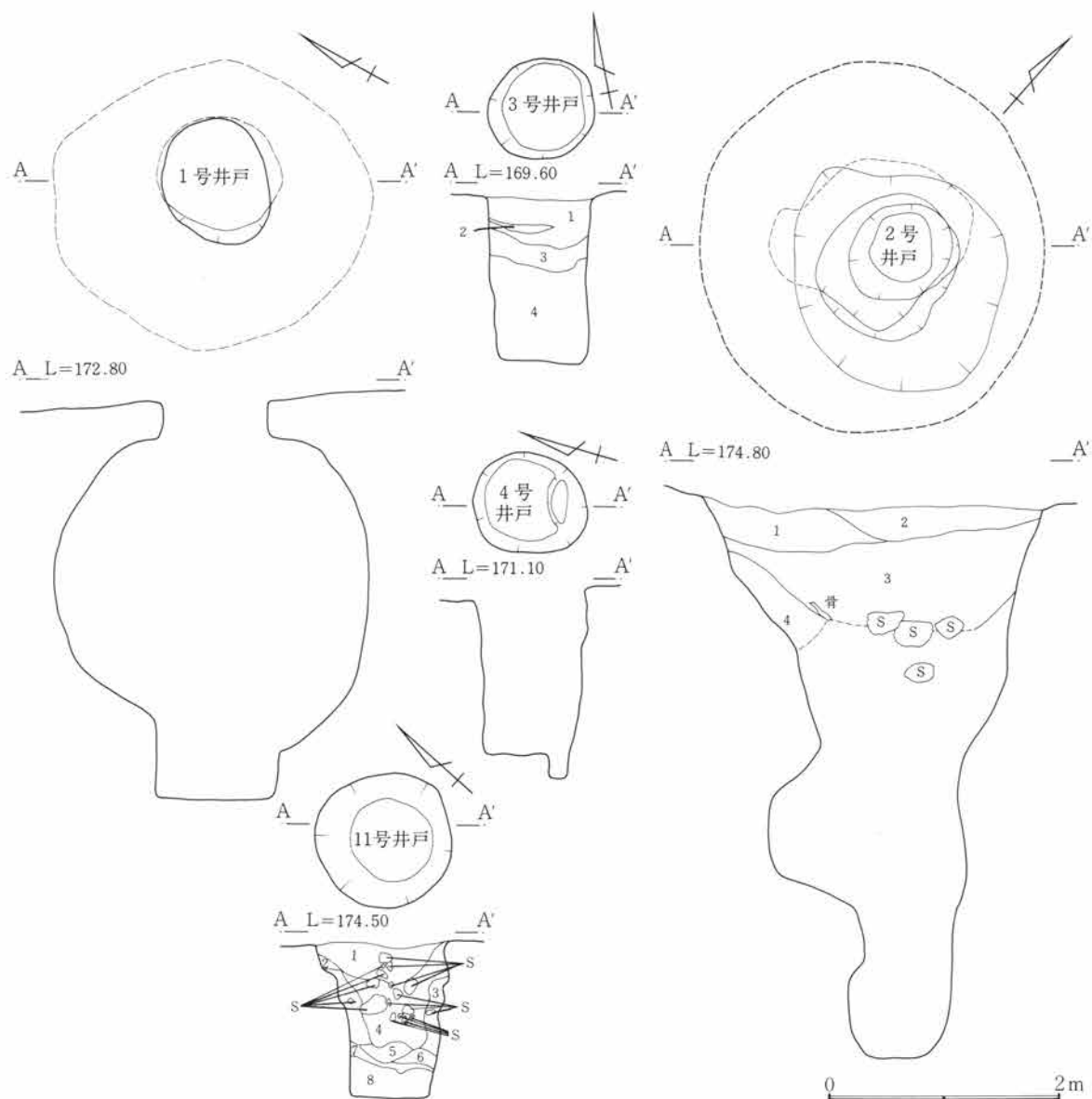


Fig.519 井戸遺構(1)

第2章 検出された遺構と遺物

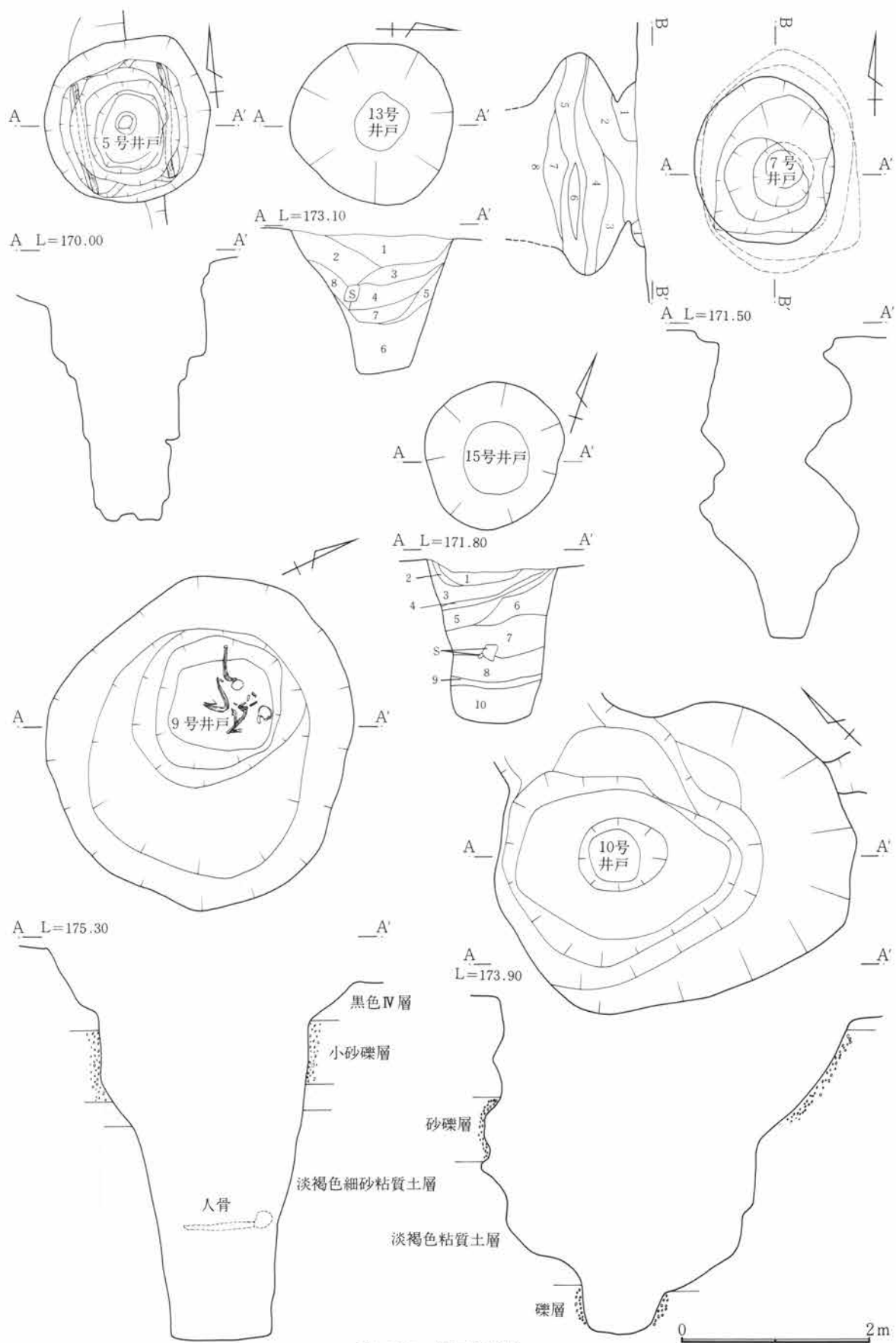


Fig.520 井戸遺構(2)

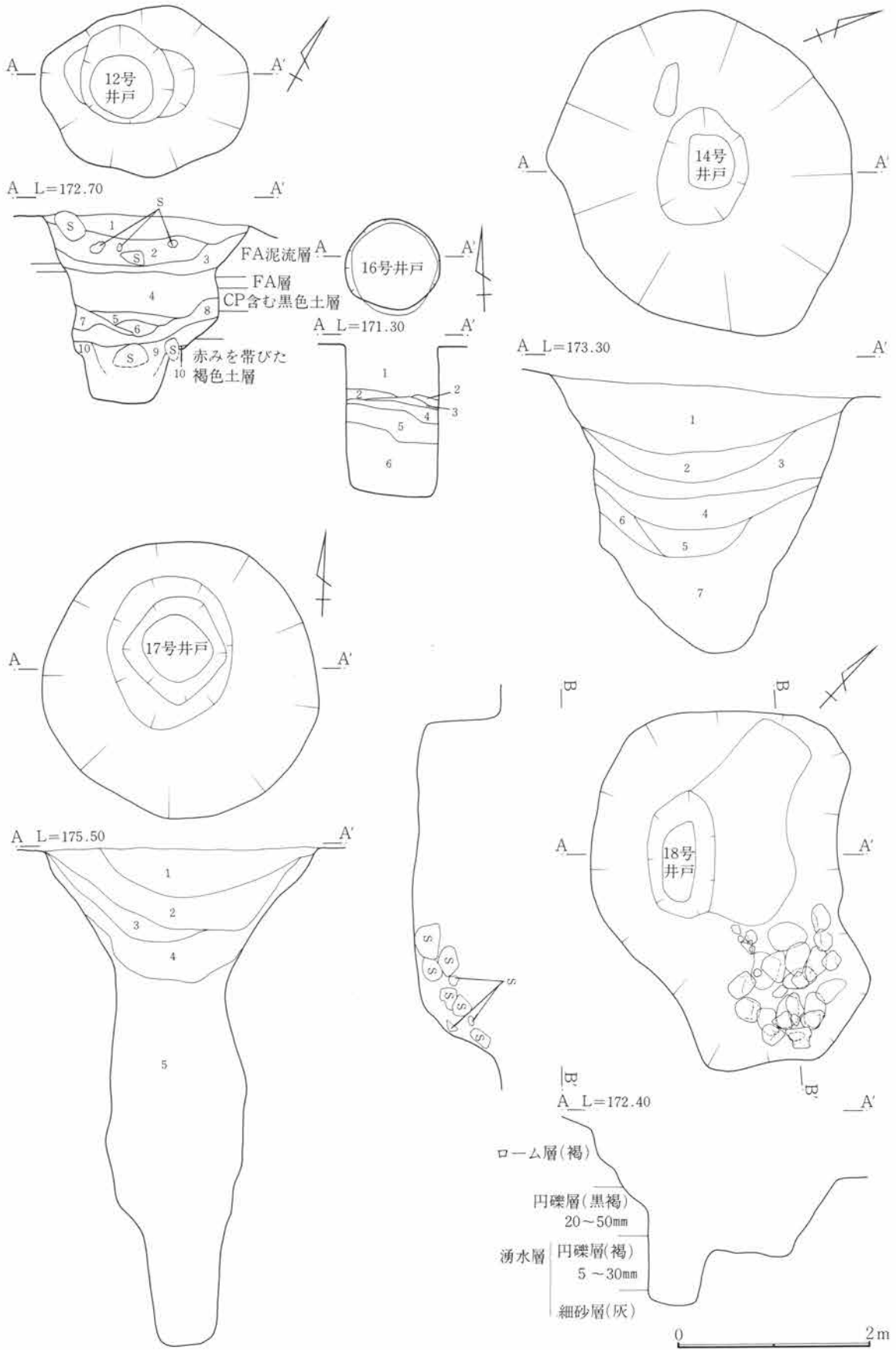


Fig.521 井戸遺構(3)

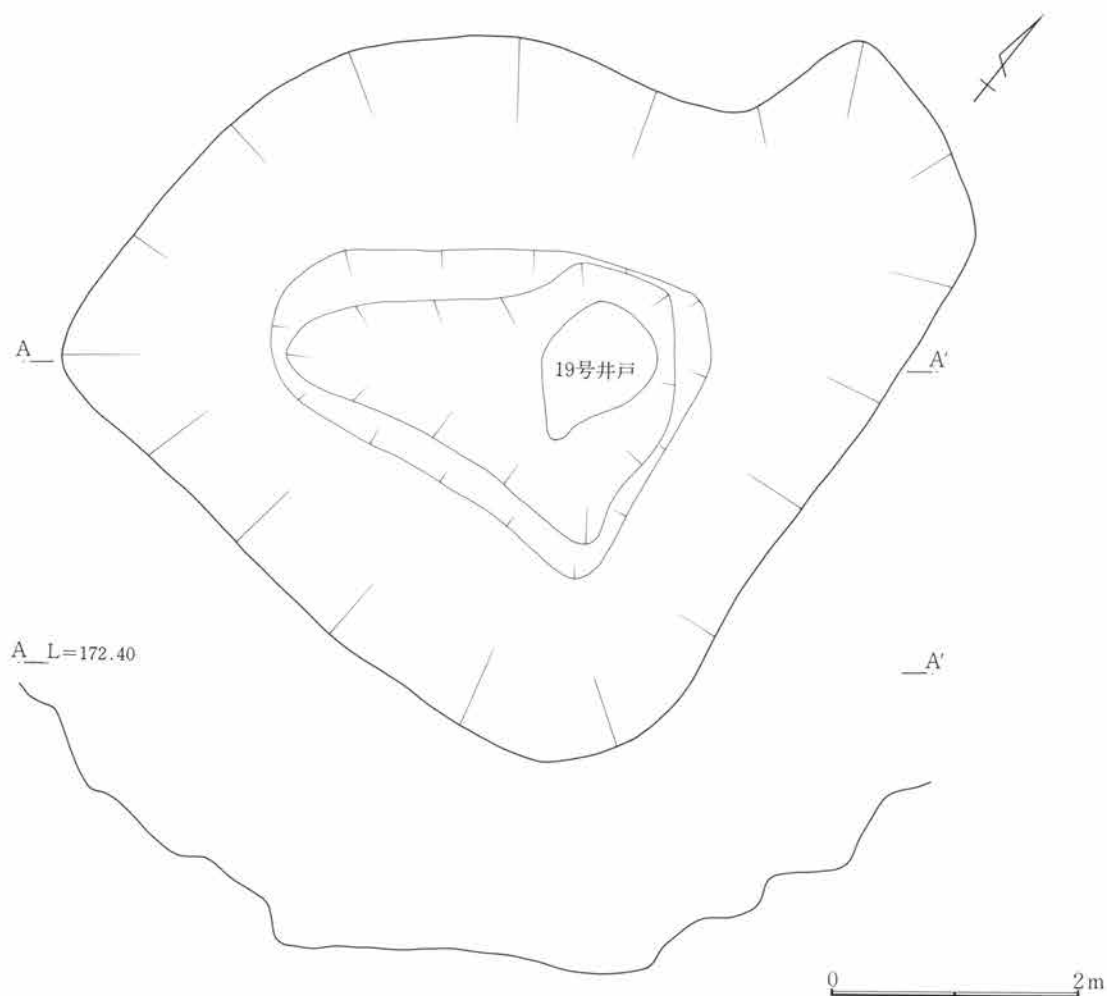


Fig.522 井戸遺構(4)

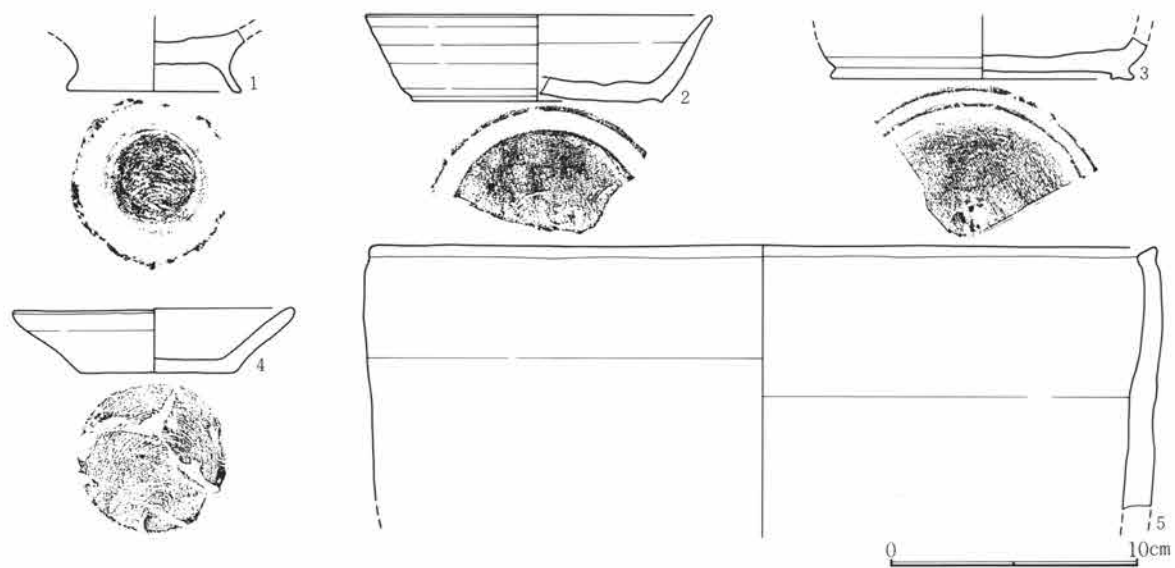


Fig.523 井戸出土遺物(1)

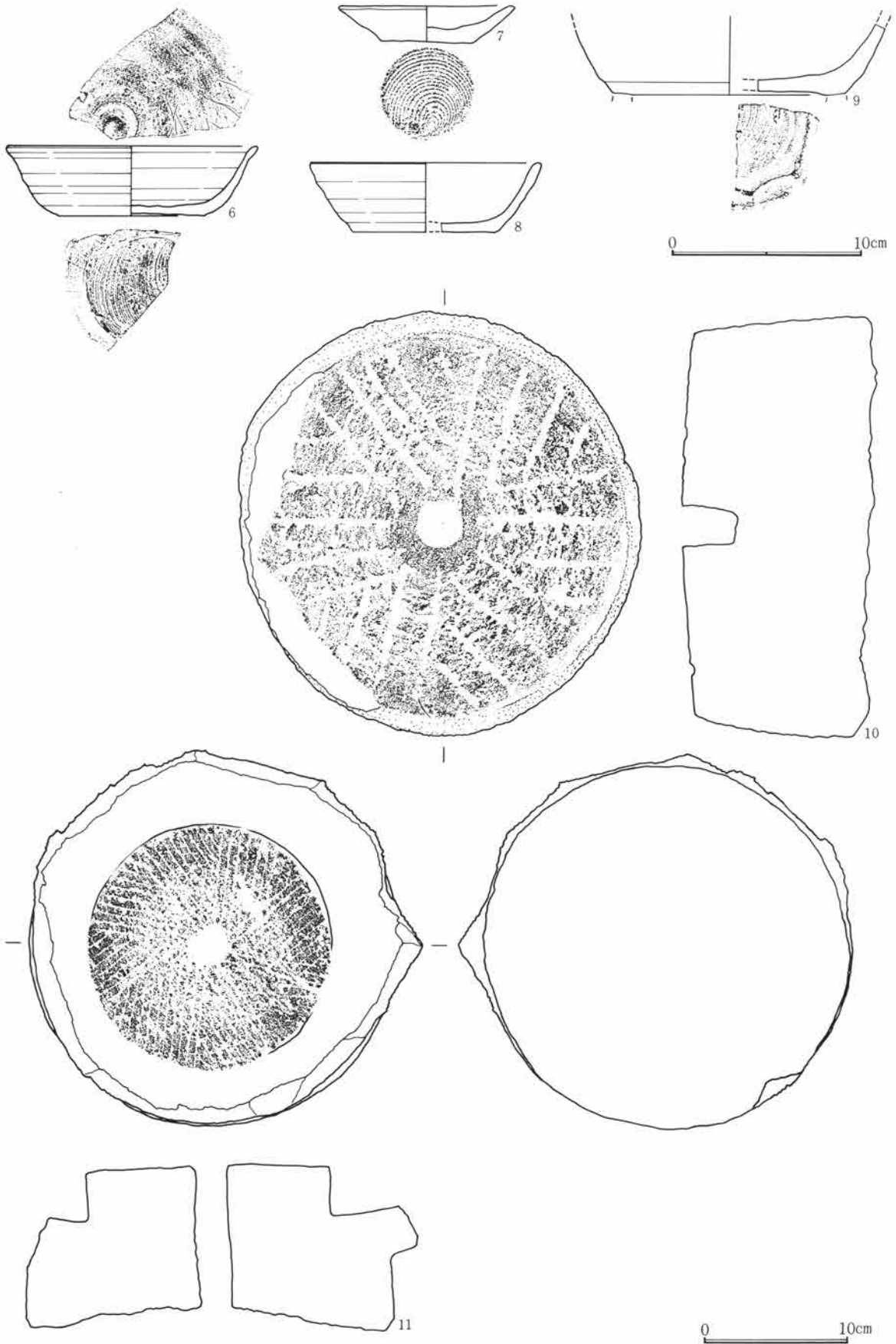


Fig.524 井戸出土遺物(2)

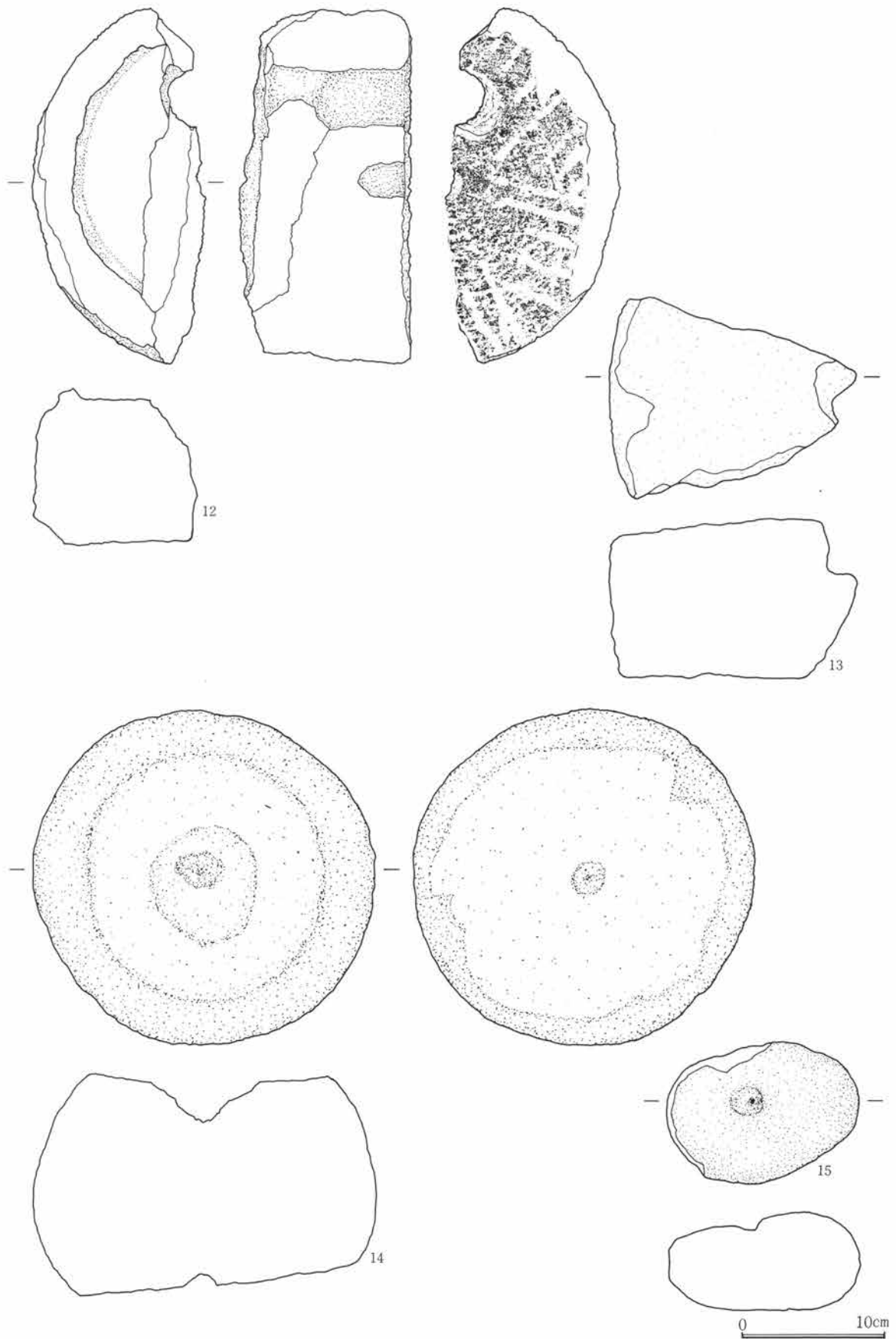


Fig.525 井戸出土遺物(3)

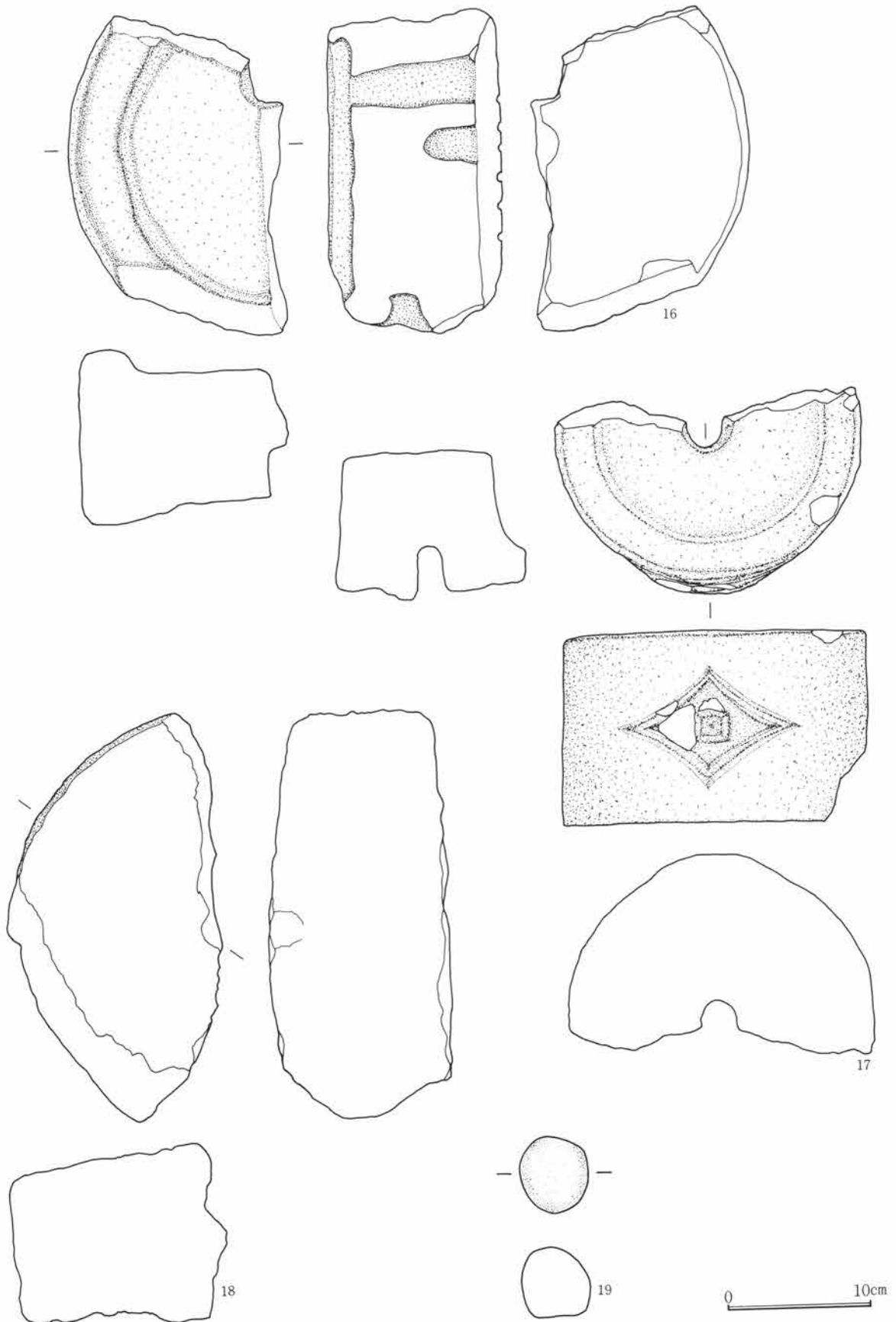


Fig.526 井戸出土遺物(4)

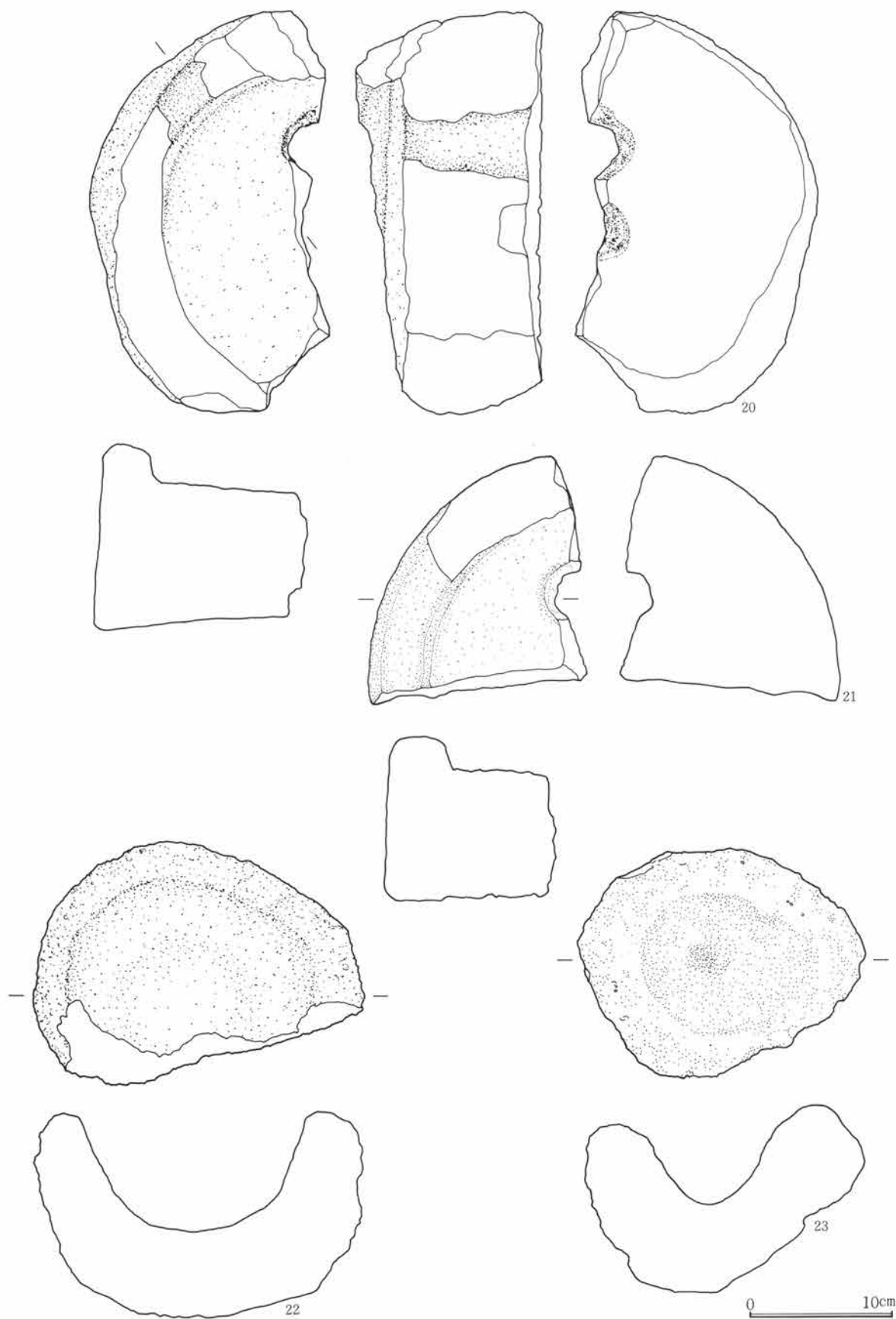


Fig.527 井戸出土遺物(5)

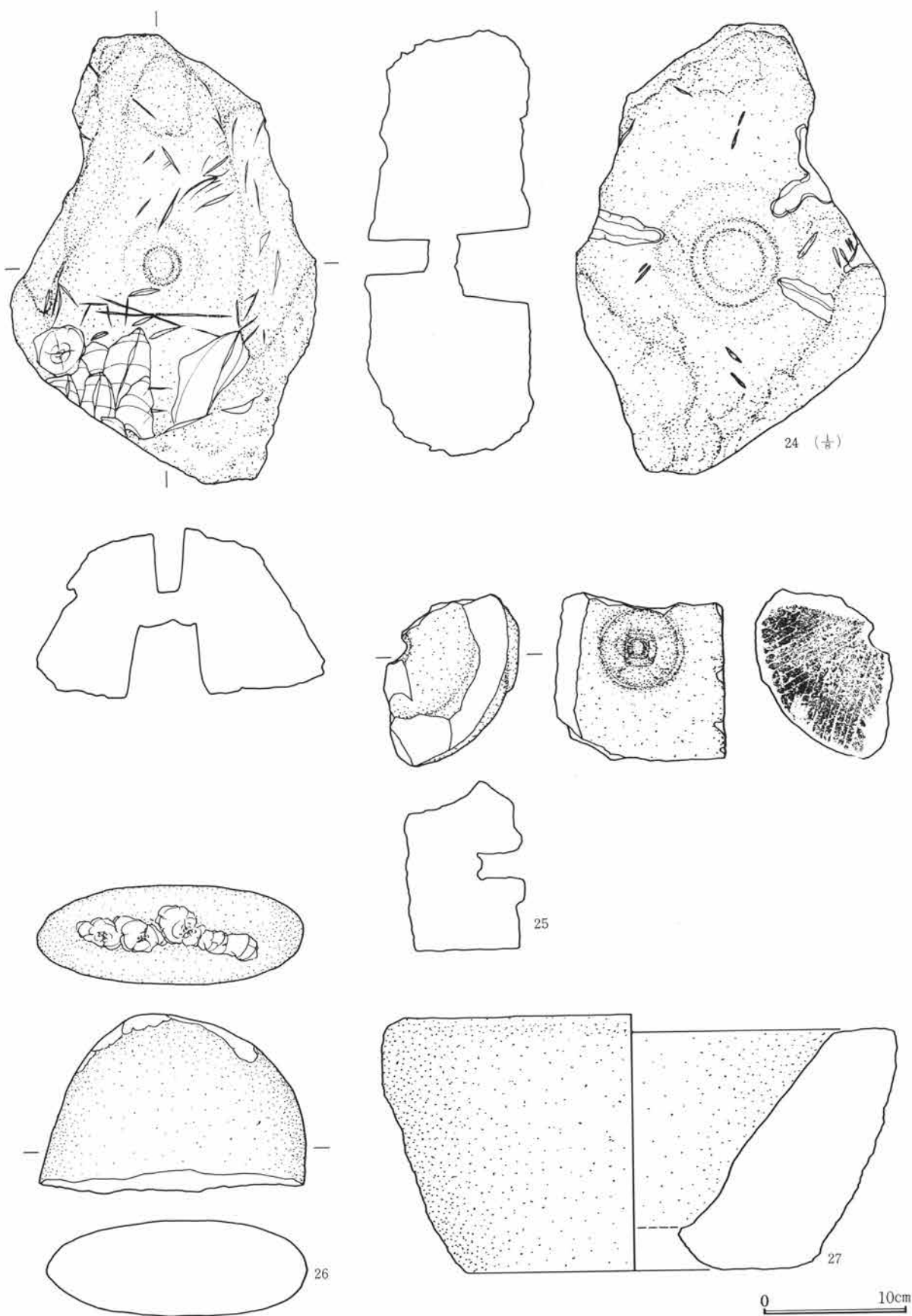


Fig.528 井戸出土遺物(6)

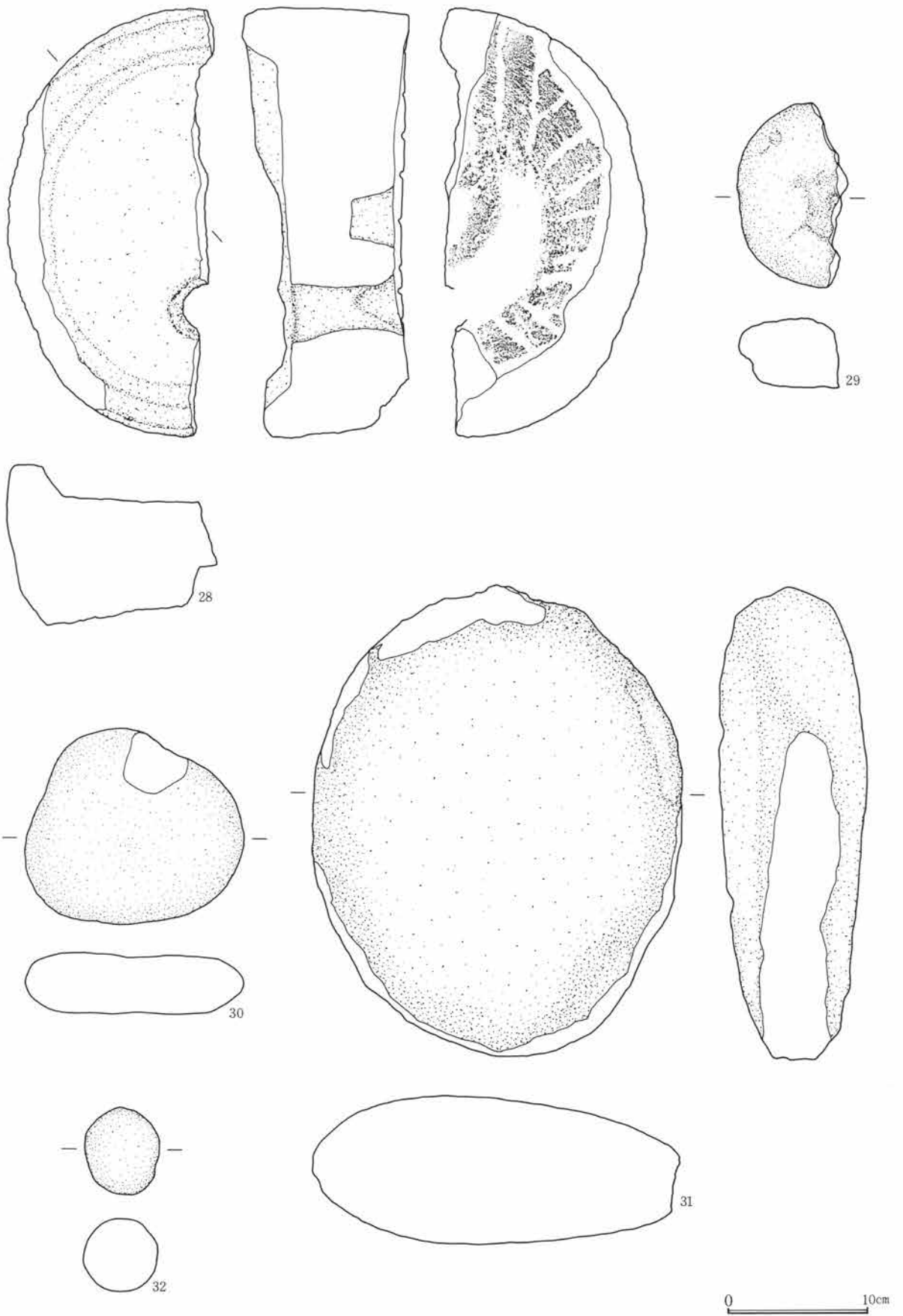


Fig.529 井戸出土遺物(7)

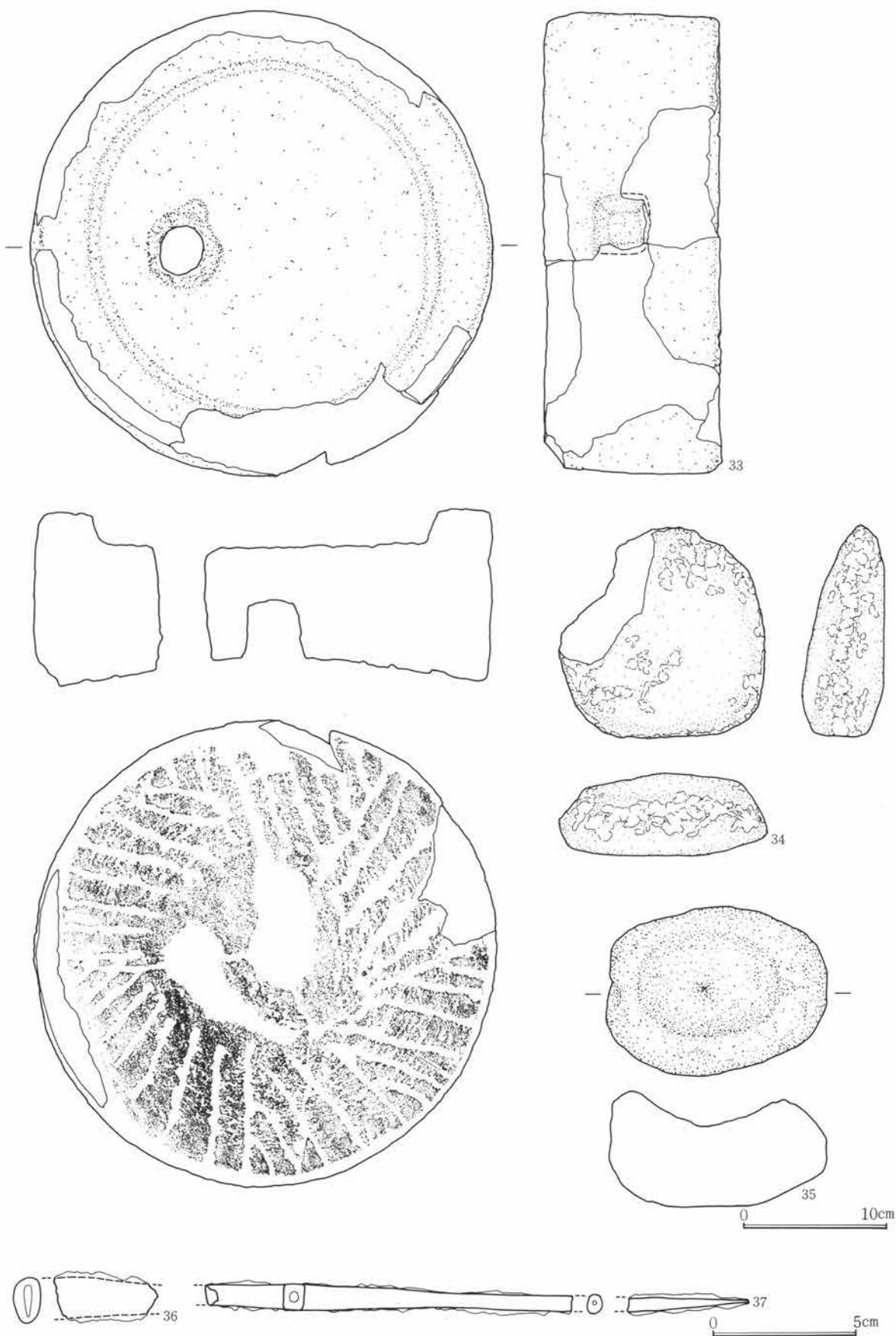


Fig.530 井戸出土遺物(8)

第2章 検出された遺構と遺物

井戸出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
523-1 144	須恵器 埴	底-7.0	8号井戸 覆土	底部回転糸切付高台	①良好②褐色③細砂粒含む④底部残存
523-2 144	須恵器 坏	口-13.8 底-10.0	10号井戸 覆土	底部回転ヘラ調整削り出し高台口縁部直線状に外傾する	①良好②灰白色③細砂粒含む④残存
523-3 144	須恵器 坏	底-12.0	10号井戸 覆土	底部回転ヘラ調整付高台	①良好②灰色③密④底部残存
523-4 144	須恵器 坏	口-11.2 高-2.6 底-6.0	10号井戸 覆土	底部回転糸切口縁部直線状に外傾する底部外面に煤附着	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④完形
523-5 144	土甕	口-29.0	1号井戸 覆土	口縁部段をもつ	①良好②褐色③細砂粒含む④口縁部破片
524-6 144	須恵器 坏	口-13.0 底-7.6	10号井戸 覆土	底部回転糸切口縁部端部外反する	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④残存
524-7 144	須恵器 皿	口-9.1 高-1.8 底-4.8	12号井戸 覆土	底部回転糸切右廻り口縁部直線状に外傾する	①良好②黒褐色③細砂粒含む④ほぼ完形
524-8 144	須恵器 坏	口-12.0	12号井戸 覆土	底部ヘラ調整口縁部弱く内湾ぎみに立ち上がる	①良好②灰色③密④残存
524-9 144	須恵器 坏	底-12.0	14号井戸 覆土	底部回転糸切付高台	①良好②灰色③細砂粒含む④破片
Fig. 524-10 PL. 144		石白 径-28.0cm 厚-13.5cm	粗粒安山岩		
Fig. 524-11 PL. 145		石白 径-25.6cm 厚-9.6cm	粗粒安山岩		
Fig. 525-12 PL. 145		石白 長-24.5cm 厚-10.5cm	粗粒安山岩		
Fig. 525-13 PL. 145		石白 長-17.5cm 厚-11.5cm	粗粒安山岩		
Fig. 525-14 PL. 146		石白 径-23.2cm 厚-15.6cm	角閃石安山岩		
Fig. 525-15 PL. 144		石 長-13.4cm 幅-9.8cm 厚-6.9cm くぼみ石	粗粒安山岩		
Fig. 526-16 PL. 146		石白 長-22.8cm 厚-12.0cm	粗粒安山岩		
Fig. 526-17 PL. 146		石白 長-21.0cm 厚-13.5cm	粗粒安山岩		
Fig. 526-18 PL. 151		石白 長-28.5cm 厚-12.4cm	粗粒安山岩		
Fig. 526-19 PL. 144		石 長-4.8cm 幅-4.8cm 厚-5.2cm	アブライト		
Fig. 527-20 PL. 148		石白 長-28.0cm 厚-12.8cm	粗粒安山岩		
Fig. 527-21 PL. 146		石白 長-22.0cm 厚-11.8cm	粗粒安山岩		
Fig. 527-22 PL. 145		石製品 径-20.8cm 深-14.5cm	粗粒安山岩		
Fig. 527-23 PL. 145		石製品 径-20.0cm 深-12.8cm	軽石(二ツ岳)		
Fig. 528-24 PL. 147		石製品 長-32.0cm 厚-11.6cm	粗粒安山岩		
Fig. 528-25 PL. 149		石白 長-12.5cm 厚-11.0cm	粗粒安山岩		
Fig. 528-26 PL. 151		石 長-19.0cm 厚-6.5cm	石英閃緑岩		
Fig. 528-27 PL. 149		石製品 径-36.0cm 厚-17.6cm	角閃石安山岩		
Fig. 529-28 PL. 149		石白 長-31.5cm 厚-12.0cm	粗粒安山岩		
Fig. 529-29 PL. 151		石 長-12.8cm 厚-5.2cm	粗粒安山岩		
Fig. 529-30 PL. 148		石 長-15.6cm 厚-4.2cm	石英閃緑岩		
Fig. 529-31 PL. 148		石 長-33.5cm 幅-10.5cm 厚-10.0cm	石英閃緑岩		
Fig. 529-32 PL. 151		石白 径-32.5cm 厚-12.5cm	粗粒安山岩		
Fig. 530-33 PL. 150・151		石白 径-32.8cm 厚-12.5cm	粗粒安山岩		
Fig. 530-34		石 長-14.5cm 幅-3.5cm 厚-5.8cm	石英閃緑岩		
Fig. 530-35 PL. 149		石製品 径-15.0cm 深-8.5cm	粗粒安山岩		
Fig. 530-36 PL. 148		鉄製品 長-3.8cm 厚-4mm	不明		
Fig. 530-37 PL. 148		鉄製品 長-17.0cm 厚-2mm	不明		

土坑一覧表

番号	形状	規模(cm)	土 層
4	方形	170×130×73	1. 暗褐色土層 2. 灰褐色土層FAを含む 3. 黒褐色土層黒色灰を含む 4. 暗褐色土層
5	長方形	178×85×12	
6	円形	113×95×18	1. 黒褐色土層軽石、炭化物を含む 2. 黒褐色土層軽石を含む 3. 暗褐色土層軽石を含む
7	長方形	201×108×11	1. 暗褐色土層軽石、焼土、炭化物を含む
12	隅丸方形	143×123×30	1. 暗褐色土層FAブロックを多量に含む 2. 暗褐色土層FA、FPを含む 3. 暗褐色土層FAブロックを含む 4. 暗褐色土層FPを含む
13	隅丸方形	95×94×7	1. 焼土 2. 黒褐色土層焼土粒、FAを含む 3. 暗褐色土層FA、FPを含む
14	円形	75×60×21	
15	円形	130×—×27	1. 淡褐色土層FA、FPを含む 2. 淡褐色土層砂質土 3. 黒褐色土層FA、炭化物を含む 4. 黒褐色土層FPを多量に含む 5. 黒褐色土層炭化物を少量含む 6. 暗褐色土層FA、FPを含む
16	円形	105×90×30	7. 淡褐色土層FPを含む 8. 暗褐色土層FAを含む 9. 暗褐色土層FA少量、FPを多量に含む
17	円形	153×140×20	10. 黒褐色土層炭化物を含む
18	方形	110×92×32	1. 黒褐色土層FAブロック、炭化物を少量含む 2. 褐色土層FAブロック、炭化物を多量に含む
19	楕円形	187×121×37	1. 褐色土層炭化物を多量に含む 2. 褐色土層炭化物層
20	円形	145×140×23	1. 黒褐色土層炭化物を少量含む 2. 黒褐色土層FAを含む 3. 暗褐色土層炭化物、FAを含む
21	長方形	260×90×37	1. 黒褐色土層炭化物を含む 2. 暗褐色土層FAを含む
24	長方形	160×117×17	1. 暗褐色土層炭化物、FAブロックを含む 2. 暗褐色土層炭化物、FPを多量に含む
25	円形	125×117×28	1. 暗褐色土層FA、FPを含む砂質土 2. 暗褐色土層FAブロックを含む
26	円形	123×105×31	1. 暗褐色土層炭化物を少量含む 2. 暗褐色土層FPを含む
27①	円形	86×82×18	
27②	長円形	138×98×47	1. 暗褐色土層炭化物、礫を含む 2. 炭化物を含む 3. 炭化物を多量に含む
28	長方形	193×110×24	
29	円形	168×145×42	1. 暗褐色土層FP、炭化物を含む 2. 暗褐色土層炭化物を多量に含む 3. 暗褐色土層炭化物を少量含む
146	円形	115×112×38	1. 黒褐色土層FPを含む 2. 暗褐色土層FPを多量に含む
147	長円形	245×200×18	1. 黒褐色土層FPを少量含む 2. FPを多量に含む
148	円形	105×98×47	1. 褐色土層FA、FPを含む 2. 黒褐色土層FPを少量含む
149	円形	100×88×17	1. 黒褐色土層FPを少量含む 2. 褐色土層
150	円形	105×95×15	1. 黒褐色土層 158 円形 145×130×67 159 長方形 140×—×9 160 円形 165×153×30
161	楕円形	490×243×43	1. 暗褐色土層FPを多量に含む 2. 暗褐色土層FPを含む 3. 黒褐色土層
162	長方形	238×158×20	1. 暗褐色土層FPを含む
163	長方形	230×182×32	1. 暗褐色土層FPを含む 2. 暗褐色土層FAブロックを含む 3. 褐色土層FAブロックを多量に含む
164	楕円形	265×215×25	1. 褐色土層FPを多量に含む
165	長方形	370×230×35	1. 暗褐色土層FPを含む
166	方形	340×320×63	1. 黄褐色土層FP、炭化物を含む 2. 黒褐色土層FAブロックを含む 3. 黒褐色土層FA、FPを含む 4. 黒褐色土層FAを含む
171	長方形	330×70×35	1. 暗褐色土層FAを含む 2. 暗褐色土層FAを含む砂質土
174	楕円形	123×88×10	
176	円形	108×102×10	1. 暗褐色土層FAを含む
177	円形	108×102×20	1. 暗褐色土層FAを含む 2. 黒褐色土層FA、黒褐色土を含む
178	長円形	110×90×35	1. 暗褐色土層FAブロックを多量に含む 2. 暗褐色土層焼土ブロックを含む 3. 暗褐色土層炭化物を含む
179	長円形	120×92×10	1. 暗褐色土層FAを含む 180 長円形 110×80×13
188	方形	210×195×20	1. 暗褐色土層FAを含む 2. 黒褐色土層炭化物、黒色灰を含む 189 方形 193×125×20
190	円形	98×88×42	1. 淡褐色土層FA、炭化物を含む 2. 淡褐色土層FAブロックを含む 3. 淡褐色土層
191	円形	75×68×10	192 円形 95×85×15
193	長円形	105×85×26	1. 褐色土層FA、FPを含む 2. 褐色土層FAブロックを含む
194	長方形	167×92×15	
195	円形	95×90×30	1. 暗褐色土層FAブロックを少量含む 2. 淡褐色土層FAブロックを多量に含む 3. 淡褐色土層FAブロックを含む
196	円形	90×—×20	
197	円形	85×78×22	1. 暗褐色土層FAを含む 2. 暗褐色土層FAブロックを多量に含む
198	円形	133×88×13	200 長円形 185×105×15 201 円形 186×177×23
203	方形	148×125×35	1. 暗褐色土層FA、炭化物を少量含む 2. 暗褐色土層FAを含む 3. 暗褐色土層 4. 淡褐色土層炭化物を含む
205	円形	120×113×14	206 円形 90×90×15
220	円形	130×115×30	1. 暗褐色土層FAを少量含む 2. 暗褐色土層FAを含む 3. 暗褐色土層FA、炭化物を含む 4. 暗褐色土層FAブロックを含む 5. 灰層
221	円形	118×100×68	1. 暗褐色土層FAブロックを含む 2. 暗褐色土層炭化物を少量含む
222	円形	120×120×30	1. 淡褐色土層FAブロックを含む 2. 淡褐色土層FAを含む
226	方形	130×—×30	227 円形 68×68×27
230	楕円形	215×75×42	1. 暗褐色土層 2. 暗褐色土層FPを多量に含む
232	円形	57×55×10	238 円形 88×88×18

第2章 検出された遺構と遺物

土坑一覧表

番号	形状	規模(cm)	土	層
239	楕円形	145×75×27	1. 黒褐色土層FPを少量含む 2. 暗褐色土層FA、FPブロックを少量含む 3. 暗褐色土層FAブロックを多量に含む	
240	長方形	一×88×30	1. 黒褐色土層FPを含む 2. 暗褐色土層FA、FPを含む	
241	円形	100×95×13	245 円形 100×95×55	247 円形 75×64×49
248	方形	73×一×10	250 方形	45×45×20
251	円形	80×78×30	1. 黒褐色土層炭化物を多量にFPを含む	
252	円形	112×106×23	1. 淡褐色土層FAを多量に含む 2. 淡褐色土層FAブロックを含む	
254	円形	100×100×27		
255	円形	90×一×22	256 円形 68×68×23	257 円形 65×60×18
258	楕円形	63×50×10	259 方形	83×67×5
260	円形	70×60×10	261 円形 108×80×19	268 円形 68×60×12
270	円形	65×58×6	271 円形	95×90×10
272	円形	62×49×5	273 楕円形 173×110×5	274 楕円形 98×60×5
275	楕円形	90×55×22	276 円形	62×60×7
277	楕円形	92×58×19	279 円形 120×108×10	281 円形 88×85×8
282	円形	48×42×7		
284	楕円形	125×108×80	1. 淡褐色土層FAを含む 2. 淡褐色土層	
285	円形	110×100×10	1. 淡褐色土層FPを多量に含む	
286	不整形	350×212×39	1. 黒褐色土層FPを多量に含む	
287	長方形	183×100×36	288 ヒョウタン形 125×87×18	290 円形 85×68×24
1. 淡褐色土層FPを含む				
291	円形	170×163×24	1. 暗褐色土層FPを多量に含む 2. 暗褐色土層FPを含む	
292	楕円形	280×190×28	293 円形 140×120×10	1. 暗褐色土層FPを含む
294	円形	150×125×24	1. 暗褐色土層FPを含む	
295・296	長円形	325×115×77	1. 暗褐色土層FPを含む 2. 黄褐色土層ローム粒を含む 297・298 長方形 295×140×52	
299	方形	175×135×27	300・301・307 方形 265×160×41	302 楕円形 280×160×37
304・305・306	方形	395×20×54	1. 暗褐色土層FPを含む 2. 暗褐色土層黒色ブロック土を含む 3. 暗褐色土層 4. 暗褐色土層FPを含む 5. 暗褐色土層FAを含む	
308	長方形	310×125×40	309・312 方形 205×180×50	310 長方形 505×140×26
317	円形	65×65×20	1. 淡褐色土層	
318	円形	70×60×22	1. 淡褐色土層 319 円形 48×44×45	
321	楕円形	235×116×30	1. 暗褐色土層 2. 淡褐色土層	
322	楕円形	132×78×14	1. 淡褐色土層FAを少量含む 323 長円形 95×78×13	
325	円形	55×48×15	326 円形	65×60×20
328	円形	95×83×18	1. 暗褐色土層FAを少量含む 2. 暗褐色土層 330 長円形 110×88×35	
1. 暗褐色土層FAを多量に含む				
331	円形	100×98×13	332 楕円形 100×85×22	333 長円形 102×80×18
1. 淡褐色土層FAブロックを含む				
334	円形	65×58×25		
335	長円形	120×85×28	1. 淡褐色土層FAを含む 2. 淡褐色土層FA炭化物を含む 3. 淡褐色土層 336 円形 80×75×14	
337	長円形	173×125×30	1. 淡褐色土層FA粒を含む 2. 淡褐色土層FAブロックを少量含む 3. 淡褐色土層FAブロックを多量に含む	
338	楕円形	105×78×15	339 楕円形 98×65×14	1. 淡褐色土層FAを含む 340 楕円形 90×65×14
341	円形	118×104×18	1. 淡褐色土層FAを含む 342 楕円形 110×85×10	
345	楕円形	85×53×30		
346	円形	108×105×22	347 円形 140×135×50	1. 淡褐色土層FAを含む 2. 淡褐色土層FAブロックを含む
354	円形	80×80×16	1. 淡褐色土層FAを少量含む 2. 淡褐色土層FAブロックを含む	
355	円形	84×74×17	1. 淡褐色土層黄褐色土粒を含む 2. 暗褐色土層黄褐色土、黒色土を含む	
356	楕円形	180×86×33	1. 暗褐色土層FAブロックを含む 357 長円形 63×40×13	
1. 暗褐色土層 358 楕円形 95×65×22				
359	円形	125×123×50	1. 黒褐色土層炭化物を多量に含む 2. 黒褐色土層 3. 黒褐色土層礫を多量に含む	
361	円形	87×78×25	362 円形 125×120×60	1. 暗褐色土層 2. 暗褐色土層礫を含む 3. 暗褐色土層炭化物を含む
363	長円形	93×70×40		

墓墳一覧表

番号	形状	規模(cm)	土	層
3	不整形	210×192×32	9 円形 103×98×36	152 楕円形 110×65×10
153	楕円形	120×78×12	154 楕円形	135×88×14
155	楕円形	200×118×19	156	157 楕円形 130×110×20
169	長円形	145×80×16	204 楕円形	65×56×9
225	円形	265×250×38	249 円形 115×100×50	327 長方形 227×103×27

溝一覧表

13溝	1. 砂層 小礫を含む 2. B軽石2次推積層 27溝 1. 黒褐色土層 FPを含む 2. 黄褐色土層 FP、砂粒を含む			
28溝	1. 黒褐色土層 拳大のFPを含む 2. 暗褐色土層 FPを少量含む 3. 暗褐色土層 29溝 1. 暗褐色土層 2. 暗褐色土層拳大のFPを含む 3. 暗褐色土層 細砂粒を含む 4. 暗褐色土層 砂を多量に含む 5. 黒褐色土層 粘質土 38溝 1. 暗褐色砂質土層 黄褐色土粒少量含む 2. 淡褐色砂質土層 黄褐色土粒多量に含む 3. 暗褐色砂質土層 黄褐色土粒微量に含む 4. 淡褐色砂質土層 黒色土ブロックを含む 39溝 1. 淡褐色砂質土層 黄褐色土粒少量含む 2. 粘質黒褐色土層 黄褐色土粒含む 40溝 1. 淡褐色土層 黄褐色土粒少量含む 2. 淡褐色土層 黄褐色土粒 FAを含む			

井戸一覧表

1井戸	チョウチン形 105×90×340	2井戸	2段袋状	3井戸	円筒状 90×90×140	1. 灰褐色土層 砂質土 2. 灰褐色土層FPを含む 3. 灰褐色土層 砂質ブロックを含む 4. 灰褐色土層 砂質ブロックを多量に含む	4井戸	円筒状 95×85×160
5井戸	ロート状 172×172×248	7井戸	2段袋状 173×147×315	1. 黒褐色土層 CPを含む 2. 灰褐色土層 砂質土 3. 淡褐色土層 4. 灰褐色土層 5. 灰色砂質土 6. 灰褐色土層 黄褐色土ブロックを含む 7. 灰褐色土層 8. 褐色粘質土				
9井戸	変形ロート状 345×315×393	10井戸	ロート状 370×300×345	11井戸	円筒状 117×116×132	1. 暗褐色土層 砂を多量に含む 2. 暗褐色土層 灰褐色土を含む 3. 灰褐色土層 4. 灰褐色土層 角安を多量に含む 5. 灰褐色土層 FA泥流を含む 6. 灰褐色土層 FA泥流主体層 7. FA、FA泥流層 8. 暗褐色土層		
12井戸	ロート状 215×175×195	1. 灰褐色土層 砂を多量に含む 炭化物を少量含む 2. 暗褐色土層 砂、炭化物を含む 3. 灰褐色土層 泥流を含む 4. 黒褐色土層 5. 黒褐色土層 6. FP 軽石層 7. 黒褐色土層 8. 暗褐色土層 9. 暗褐色土層 10. 黒褐色土層 13井戸				ロート状 170×168×145	1. 暗褐色土層 2. 暗褐色土層 FAブロックを多量に含む 3. 暗褐色土層 褐色土ブロックを多量に含む 4. 暗褐色土層 FAを含む	

第5節 井 戸

5. 暗褐色土層 粘質土	6. 暗褐色土層 FAを多量に含む	7. 暗褐色土層 FAを含む	8. 暗褐色土層 砂質土	14井戸	ロー
ト状	350×290×292	1. 暗褐色土層 FPを含む	2. 暗褐色土層 FPを多量に含む	3. 暗褐色土層 FPを少量含む砂質土	
4. 暗褐色土層 FP大粒多量に含む	5. 暗褐色土層 砂、礫主体層	6. 黒褐色土層	7. 暗褐色土層 FAブロックを多量に含む		
15井戸	円筒状 155×145×157	1. 灰褐色土層 川原石を含む砂質土	2. 砂層	3. 灰褐色土層 黄褐色土 炭化物を含む	4. 暗褐色土層 砂質 炭化物を含む
5. 暗褐色土層 川原石 炭化物を含む	6. 暗褐色土層 川原石を含む砂質土	7. 暗褐色土層 黄褐色土粒を含む	8. 暗褐色土層 黒色土を含む	9. 暗褐色土層 炭化物を含む砂質土	10. 暗褐色土層
16井戸	円筒状 98×95×157	1. 暗褐色土層 FA、B P少量含む砂質土	2. 黒褐色土層 褐色砂質土	3. 褐色土層 黒色土を含む	4. 灰褐色土層 FAを少量含む
5. 灰褐色土層 黒色土、FAを含む	6. 灰褐色土層	17井戸	ロート状	285×280×510	1. 暗褐色土層 FP細粒を含む
2. 暗褐色土層 径20cm前後のFPを多量に含む	3. 暗褐色土層	4. 暗褐色土層 FP粒を多量に含む	5. 暗褐色土層 黒色土ブロックを含む	18井戸	不定形 365×253×170
19井戸	不定形 735×585×175				

第6節 掘立柱建物跡

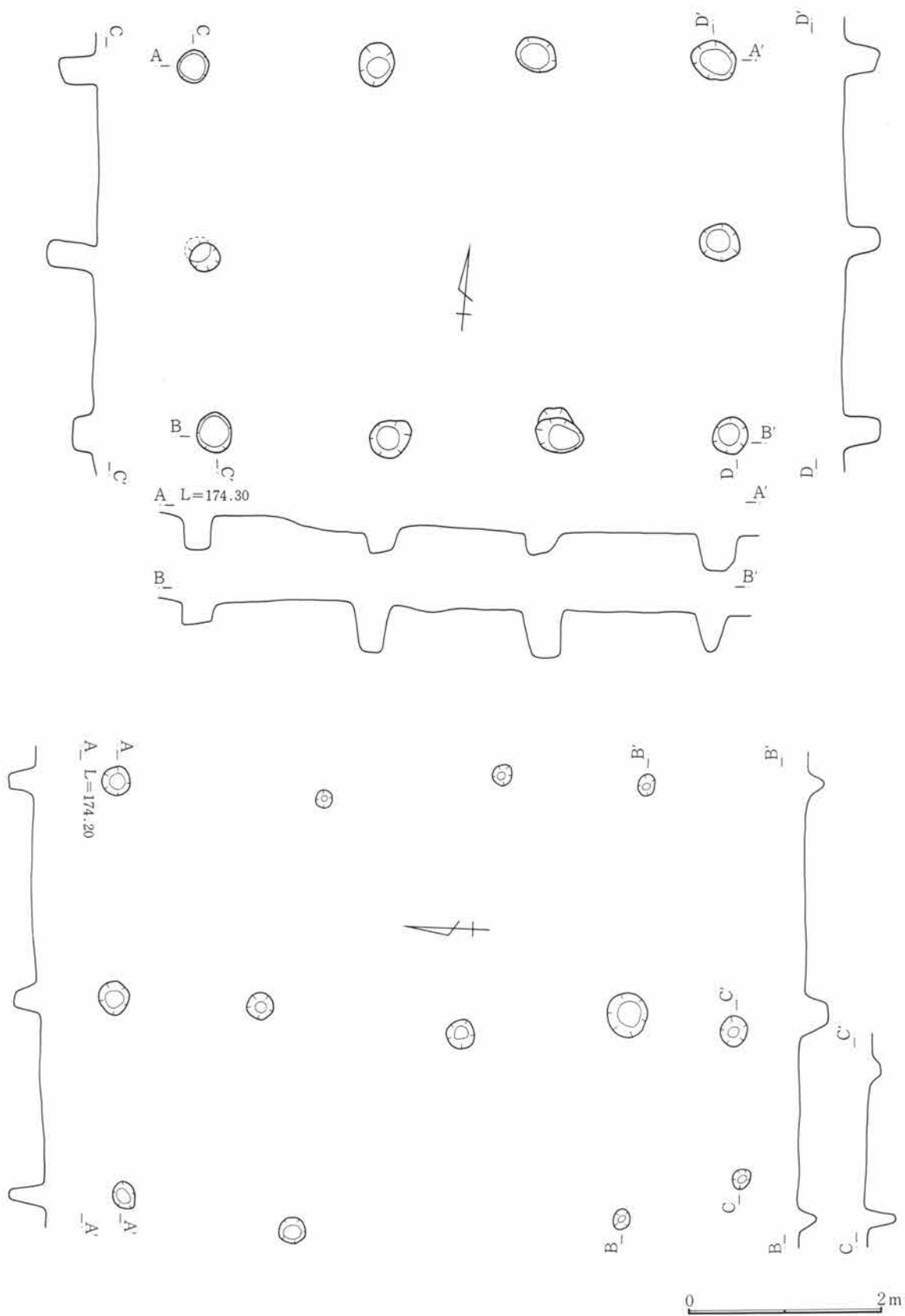


Fig.531 1・2号掘立柱建物跡

第3章 渋川市有馬遺跡出土の平安時代および 中世人骨について

森本岩太郎
吉田 俊爾

1 はじめに

この人骨は、昭和57年1月～59年1月の財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団による渋川市八木原所在の有馬遺跡発掘調査より発見されたもので、平安時代に属するもの6体（SK-3号、SK-9号、SE-9号、SK-225号、SK-327号、SK-381号）、中世に属するもの4体（SK-152号、SK-156号、SK-157号、SK-169号）の合計10個体分である。人骨は同事業団の発掘調査によって取り上げられ、後日鑑定のため筆者のもとへ届けられた。ここにその鑑定結果を報告する。

なお、以上の人骨のほかはこの有馬遺跡からは弥生時代後期の人骨が58個体分出土している。（別報）。

2 人骨の出土状態

(A)平安時代人骨

出土図から埋葬姿勢を推定すると、1体（SE-9号）が北東頭位で左側臥屈位、ほかの2体（SK-327号、SK-381号）が北頭位で仰臥伸展位のように見える。3個体とも各部分の骨は完全に保存されてないが、骨の配列具合からみていずれの個体も人骨の解剖学的位置関係に乱れはないと思われる。また、1個体（SK-225号）は長頸の壺に納められた火葬骨である。残りの2個体（SK-3号、SK-9号）についてはよく分からない。

(B)中世人骨

出土図を見ると4個体（SK-152号、SK-156号、SK-157号、SK-169号）とも北頭位の右側臥屈位である。いずれの個体も人骨の解剖学的位置関係に乱れはない。

3 人骨所見

平安時代・中世人骨はともに保存状態が不良である。したがって身体各部の骨は、部分的に崩壊し骨粉状態を呈していたり、崩壊寸前にあるものが少なくない。このため人骨はパラフィンで固定し、土塊と一緒に取り上げてある。以上のような人骨について、できるだけ慎重にパラフィンを融解して土塊から分離することに努めたが、完形を保つ人骨は少ない。したがって、人骨の形質人類学的特徴を完全に把握することは不可能である。以下、判明した範囲内で人骨所見を述べる。

なお、人骨名については和名を用いたが、歯の種別については記号を用い、アラビア数字で永久歯を、アルファベットの大文字で乳歯を示した。また、●印は歯槽閉鎖、()内は未萌出歯、×印は欠損のため状況不明のことをそれぞれ表している。計測はすべて Martin 法に従い、推定身長は大腿骨最大長から藤井の式を用いて算出した。ただし、計測値のうち左右のあるものについては原則として左側の値だけを示し、右側の値を示すときはその旨特に記してある。

(A)平安時代人骨

(1)SK-3号人骨

残っているのは遊離歯⁶ だけである。咬耗度は Martin の第2度である。おそらく成人のものであろう。性別は不詳。

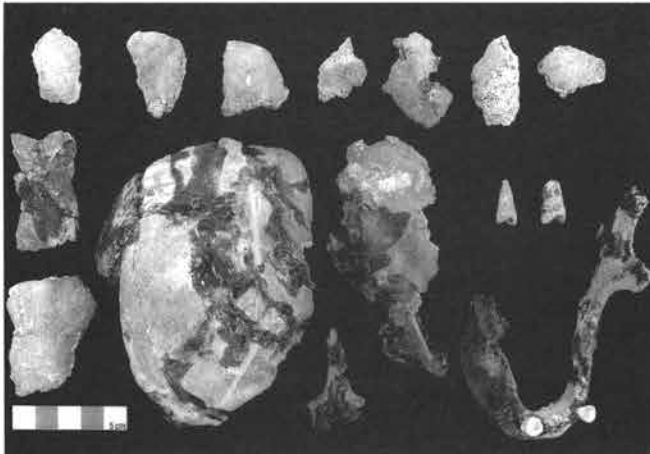


写真1 SE-9号平安時代人骨

(2)SE-9号人骨(写真1、2)

熟年期の女性人骨1個体分である。全身の骨が比較的良く残っている。頭蓋は左の側頭骨下顎窩周辺、左右の頭頂骨、前頭骨の前頭鱗・右眼窩上縁、左の頬骨および下顎骨の各破片が主なものである。下顎骨は左右の下顎角と左下顎体を欠く。部分的に残る冠状縫合は内・外板とも一部に骨結合化が認められる。同じく矢状縫合では内・外板ともに骨結合化は見られない。最小下顎枝幅は31mmである。

歯および歯槽の状況を次に示す。

×××5××××	×××××××8
●××5××●●	●●3××●●●

咬耗度は5・5 | 3が Martin の第3度、8 | 8が同じく第1度で、咬合様式は缺状咬合型である。

なお、5 | 8は遊離歯である。3 | の歯冠にはエナメル質減形成が見られる。

椎骨の破片が若干残っている。上肢骨としては、左右の上腕骨体片と左橈骨体中央部がある。骨盤は右の腸骨体片がある。自由下肢骨は左大腿骨体片と右大腿骨の骨頭・骨体片、左脛骨体片と下ろを欠く右脛骨、左腓骨体片が残っている。上腕骨体、大腿骨体、および脛骨体はいずれも細く作りもきゃしゃである。また、右大腿骨頭は小さい。

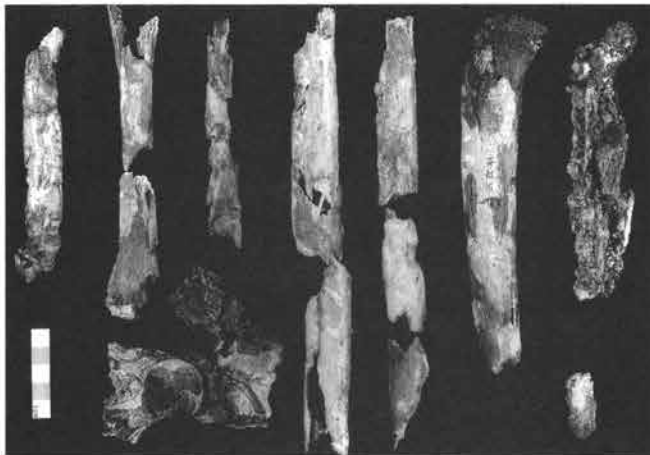


写真2 SE-9号平安時代人骨の上肢骨(左上)と下肢骨(左下・右)

(3)SK-9号

長骨の細片で、性別、年齢とも不詳である。

(4)SK-225号人骨

長頸の壺棺に埋納された成人の火葬骨が約30gある。後頭骨の内後頭隆起周辺と長骨片が確認できる。性別は不詳である。

(5)SK-327号人骨(写真3)

壮年期の男性人骨1個体分であるが、残存する骨は少ない。頭蓋は脳頭蓋の破片と左の下顎体片および遊離歯8 | 3 | だけが残っているに過



写真3 SK-327号平安時代人骨の頭蓋骨片(左)上肢骨片(中)および下肢骨片(右)

ぎない。咬耗度は3 | が Martin の第2度、8 | が同じく第1度である。3 | の歯冠にはエナメル質減形成が見られる。上肢骨は左右の上腕骨体片と左尺骨体片がある。下肢骨としては左右の大腿骨体片、脛骨体片およ

び左の腓骨体片が残っている。大腿骨の粗線の発達は比較的良い。

(6)SK-381号人骨(写真4)



写真4 SK-381号平安時代人骨の遊離歯 $\overline{87654}$ (上)と $\overline{876}$ (下)

壮年期の性別不詳人骨1個体分である。残存する骨は少ない。頭蓋は骨粉状となっている。ほかに遊離歯 $\overline{87654}$ ・ $\overline{876}$ が残っている。咬耗度は $\overline{6}$ ・ $\overline{6}$ が Martin の第2度、他は同じく第1度である。上肢骨は所属部位不明の長骨体片がある。下肢骨は左右の大腿骨体片、左右不明の脛骨・腓骨体片が残っている。

(B)中世人骨

(1)SK-152号人骨(写真5)

年齢不詳の女性成人骨1個体分であるが、残存する骨は少ない。頭蓋は後頭鱗、左右の側頭鱗、右の側頭骨乳突部、前頭鱗の各破片が残っている。



写真5 SK-152号中世人骨の上肢骨(中上)と下肢骨(下)

乳様突起は小さい。椎骨の破片が若干ある。上肢骨としては、左右の上腕骨体がある。骨盤は左右の腸骨体片がある。自由下肢骨としては、左右の大腿骨体と脛骨体および左右の腓骨体片が残っている。上腕骨体、大腿骨体および脛骨体は細く作りがきゃしゃである。

(2)SK-156号人骨(写真6)

6歳前後の小児人骨1個体分である。ほぼ全身の骨が破片の状態に残っている。頭蓋は脳頭蓋と顔面頭蓋の右半分が比較的良く残っている。

歯および歯槽の状況を次に示す。

6	×	E	D	C	×	×		×	×	C	×	×	×	(2)	(3)
6	(1)	E	D	C	B	×		×	×	×	×	×	(1)	(2)	×

$\overline{6}$ ・ $\overline{6}$ には若干の咬耗が認められる。

以上のほかに、肋骨、上・下肢骨の破片が残っている。

(3)SK-157号人骨(写真7、8)

壮年期の男性人骨1個体分である。全身の骨が良く残っている。頭蓋は頭頂部、前頭部および顔面の左半を欠くほかは比較的良く

残っている。矢状縫合とラムダ縫合の外板では部分的に骨結合化が見られる。乳様突起は大きく膨隆している。外後頭隆起の膨隆度は Broca の第1度である。右の下顎体厚は13mm、最小下顎枝幅は34mmである。

歯および歯槽の状況を次に示す。

7	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	7
●	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	7

咬耗度は Martin の第2度で、咬合様式は鉗子状咬合型である。上下の臼歯の歯冠にはエナメル質減形成が認められる。 $\overline{8}$ ・ $\overline{8}$ ・ $\overline{8}$ は未萌出であるが、歯槽内に埋伏しているのか先天的に欠如しているのか分

からない。脊柱および胸郭の骨については、環椎・軸椎を含む椎骨片と肋骨片がある。上肢帯は左右肩甲骨の肩甲棘・外側角がある。自由上肢骨としては、骨頭を欠く左上腕骨とほぼ完全な左橈骨がある。また左尺骨の肘頭および右尺骨の上端も残っている。上腕骨体はそれほど頑丈には見えないが、前腕の骨は太く頑丈である。骨盤は左の腸骨・座骨片、右の腸骨片および仙骨がある。自由下肢骨は左右の大腿骨、脛骨および左右の腓骨片が残っている。ただし、右大腿骨は下端を欠き、右脛骨は上・下端を欠く。大腿骨の殿筋粗面の発達は良く、脛骨は太く頑丈である。大腿骨最大長は418mmである。大腿骨体の横断示数は上部が83.9で広型に属し、中央部が115.4で中等度のピラ



写真6 SK-156号中世人骨の頭蓋右側面観



写真7 SK-157号中世人骨の頭蓋右側面観



写真8 SK-157号中世人骨の上肢骨(左上)、骨盤(左下・右の中上)と下肢骨(右)

骨の肘頭および右尺骨の上端も残っている。上腕骨体はそれほど頑丈には見えないが、前腕の骨は太く頑丈である。骨盤は左の腸骨・座骨片、右の腸骨片および仙骨がある。自由下肢骨は左右の大腿骨、脛骨および左右の腓骨片が残っている。ただし、右大腿骨は下端を欠き、右脛骨は上・下端を欠く。大腿骨の殿筋粗面の発達は良く、脛骨は太く頑丈である。大腿骨最大長は418mmである。大腿骨体の横断示数は上部が83.9で広型に属し、中央部が115.4で中等度のピラ

(4)SK-169号人骨(写真9、10)

壮年期の女性人骨1個体分である。全身の骨が良く残っている。頭蓋は頭頂孔周辺と右の上顎骨を欠損しているだけであるが、土圧により著しく変形している。冠状縫合の外板は大部分骨結合化しているが、ほかの縫合についてはよく分からない。外後頭隆起の膨隆度はBrocaの第2度である。下顎体厚は13mm、右の最小下顎枝幅は33mmである。

歯および歯槽の状況を次に示す。

×	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	×
●	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	●

咬耗度はMartinの第1～2度、咬合様式は鋏状咬合型である。ほとんどの歯の歯冠にはエナメル質減形成が認められる。8|8は未萌出と思われるが、歯槽内に埋伏しているのか先天性に欠如しているのか分からない。胸郭の骨は肋骨片がある。上肢帯は左右の肩峰と左の鎖骨片がある。自由上肢骨としては、左右の上腕骨体、同じく橈・尺骨体が残っている。骨盤は左右の腸骨片がある。自由下肢骨としては、左右の大



写真9 SK-169号中世人骨の頭蓋右側面観

腿骨、同じく脛骨が残っている。ただし、左大腿骨は上・下端を欠き、右大腿骨は上・下端の一部を欠いている。また、左脛骨は骨体の下部を欠き、右脛骨は骨体中央部と下端を欠いている。右大腿骨の最大長は392mmである。また、右大腿骨体の横断示数は上部が78.6で広型に属し、中央部が113.0で中等度のピラステル形成がある。右大腿骨の最大長を用いて推定身長を算出すると148.9cmとなる。以上の下肢骨のほかに足の骨として左の踵骨と距骨があり、距骨にはいわゆる蹲踞面が認められる。上記の上・下肢骨はいずれも細く、作りがぎゃしゃである。



写真10 SK-169号中世人骨の上肢骨(左上) 骨盤(左下) および下肢骨(右)

4 若干の考察

以上の所見から出土人骨の性別、年齢をまとめたのが第1表である。これによれば出土人骨は、平安時代に属するものが男性1体・女性1体・性別不詳4体計6個体分で、その年齢構成は熟年期1体・壮年期2体の割合であり、中世に属するものが男性1体・女性2体・小児1体計4個体分で、その年齢構成は壮年期2体・年齢不詳(成人)1体・小児1体の割合である。年齢構成について、平安時代・中世人骨を合わせてみると、老年期のものはなく熟年期1体・壮年期4体・年齢不詳1体である。このことは

古代末・中世の人々が現代日本人と比べて短命であったことを裏づける。

エナメル質減形成については、平安時代・中世人骨を合わせて、歯の観察が可能な5個体のうち4個体(平安時代人骨のSE-9号・SK-327号・中世人骨のSK-157号、SK-169号)、80%に認められた。エナメル質減形成は、個体が永久歯形成進行中の幼児期に飢餓、蛋白質・ビタミンの欠乏、および消化器疾患・伝染病・内分泌異常などの疾病に見舞われるとエナメル質の形成が一時的に阻害され、その時期に相当するエナメル質の表面に歯冠をとりまく溝や小孔が生じ、これは生涯修復されることなく残存すると言われている。以上のことから、古代末から中世にかけてこの地に住んでいた人々の苛酷な生活の一端をうかがうことができる。

次に大腿骨についてみると、中世の男(SK-157号)と女(SK-169号)各1体につき、最大長と骨体の上・中央部横断示数が得られた。男女とも骨体上部の示数は比較的小さく、やや扁平であり、中央部には中等度のピラステル形成が認められた。大腿骨最大長から算出した推定身長は男が158cm、女が149cmであり、当時としては、男は標準、女はやや背が高いと言える。

5 まとめ

有馬遺跡から出土した平安時代・中世人骨は、平安時代人骨が6体分(壮年期男性1・熟年期女性1・壮

第3章 渋川市有馬遺跡出土の平安時代および中世人骨について

年期性別不詳1・成人性別不詳2・年齢性別不詳1)、中世人骨が4体分(壮年期男性1・壮年期女性1・年齢不詳女性1・小児1)で、総数10個体分である。平安時代・中世合わせて4個体の歯にエナメル質減形成が認められた。中世人骨男女各1体の大腿骨は上部が偏平で、中央部にはピラステルの形成がある。この中世人骨の推定身長は男性が158cm、女性が149cmである。この女性の距骨にはいわゆる蹲踞面が見られた。

第1表 出土人骨の性別および年齢など

時代	人骨番号	性別	年齢	備考
平安	S K- 3号	不詳	成人	エナメル質減形成あり。
	S E- 9号	女	熟年	
	S K- 9号	不詳	不詳	壺棺に埋納された火葬骨。 エナメル質減形成あり。
	S K-225号	不詳	成人	
	S K-327号	男	壮年	
	S K-381号	不詳	壮年	
中世	S K-152号	女	成人	エナメル質減形成あり。大腿骨はやや偏平で、ピラステルあり。推定身長158cm エナメル質減形成あり。大腿骨はやや偏平で、ピラステルあり。推定身長149cm
	S K-156号	不詳	小児	
	S K-157号	男	壮年	
	S K-169号	女	壮年	

第4章 有馬遺跡出土天部形立像

本金銅製像は、有馬遺跡平安時代遺構確認精査中に出土した。このため明確に伴う遺構は認められていないが81号住居跡付近より検出された。本像は全長5.9cm、像高5.3cm、顔長は1.5cm、重量43.1gを測る。

本金銅製品は天部形立像であり、主に経塚等の遺構から検出される事が多い。しかし、本遺跡内あるいは周辺にはそのような遺跡の確認はない。また本品は三尊像等の脇侍の可能性もある。顔面・体部前面には薄い金が認められるが、鍍金とは認められず後段の化学分析の結果からも箔押しである事が確かめられた。背中・足部裏面中央に2ヵ所の突起が認められるが、光背を止めた柄とみなされ、その光背は拳身光であるものと考えられる。铸造は割形铸造であり、台座と本体とも一铸で造られ、製作時期は10世紀前半中頃と考えられる。なお、県内では他に国分僧寺・尼寺中間地域遺跡で男神立像が出土している^{註1}。下図はその実測図である。(本文をまとめるにあたり、東京国立博物館主任研究官浅井和春氏よりご意見をうかがい、東京国立文化財研究所化学室長平尾良光氏には化学分析でお世話になった。)

註1 「上野国分僧寺・尼寺中間地域」(3) 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 群馬県教育委員会 1988

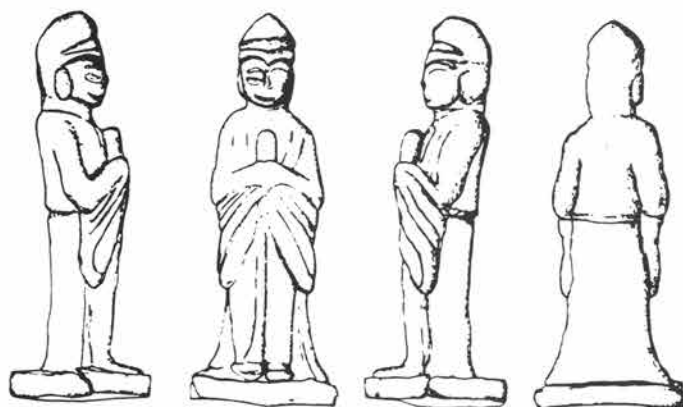


Fig.532 国分寺中間地域遺跡出土男神立像

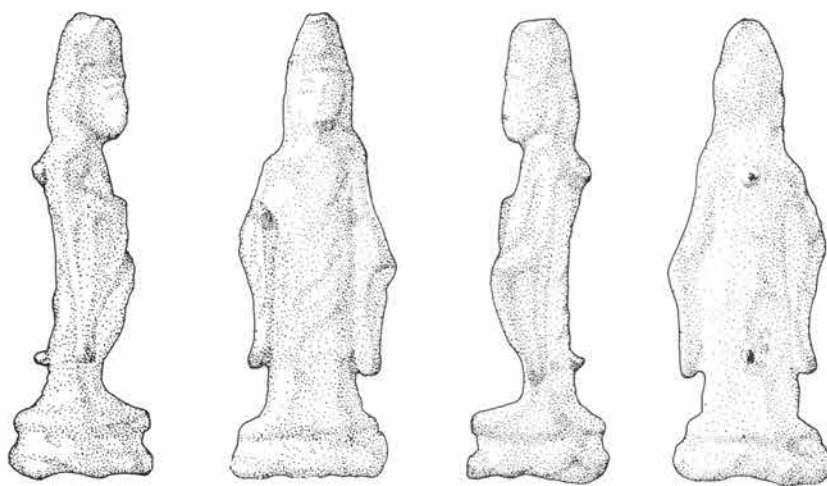


Fig.533 有馬遺跡出土天部形立像

非破壊蛍光X線分析法による 有馬遺跡出土天部形立像

東京国立文化財研究所 平尾 良光

1 はじめに

群馬県埋蔵文化財調査事業団からの要請で群馬県 渋川市八木原 有馬遺跡から出土した天部形立像について化学組成を蛍光X線分析法で非破壊的に調査し、資料の材料組成に関する情報を得た。

2 分析法

蛍光X線分析はフィリップス社製波長分散型蛍光X線分析装置PW1404LSで行なった。

機器の使用条件はスカンジウム管球を用い、60kV、50mAで一次X線を発生させ、資料に照射し、二次X線を空気圧下でシンチレーションカウンタとガスフローカウンタの併用で測定した。測定範囲は10度から50度までで、25分かけて走査し、スペクトルを得た。

3 蛍光X線分析の結果

測定場所は顔前面と光背つけねのある背中部分の2ヵ所で、両箇所とも錆でかなり覆われており、金属部分は見えなかった。蛍光X線分析法では、表面約5~10マイクロメートルの深さまでの情報を得られるだけなので、測定された化学組成は、必ずしも本体組成を反映しているとはいえない。顔前面から得られたスペクトルを図1で示す。(東文研測定番号：XFL365) 顔の部分と背中部分では本質的に組成の違いは見られないので、顔の部分で代表した。

この図から判別できることは、銅が主成分で、かなりの量の砒素が含まれている。また鉛も多い。測定部分が錆で覆われていることから、錆に濃縮された両元素が強調されているかもしれないが、砒素と鉛は人為的に加えられている可能性が強い。他に微量のアンチモン、スズ、銀が含まれている。スズは含まれてはいるが、微量であり、スズを意識して加えてあるようには見えない。

鍍金部分からは金のピークが見え、水銀は見えない。一般的に、水銀による鍍金の場合、蛍光X線強度で金の約1/10程度の水銀が存在する。ここでは1/20も見えないので、水銀を使用していないかもしれない(但し、金の強度が弱いので、強くは言いきれない)。銀のピークが鍍金部分では、背中部分よりも強いので、金に銀が多少混じっていると思われる。金の強度が鍍金の面積に比して低いのは金の薄いことを意味しているかもしれない。

図1 a 天部形立像の蛍光X線スペクトル

図1 a 天部形立像の蛍光X線スペクトル (図1 a を20倍に拡大)

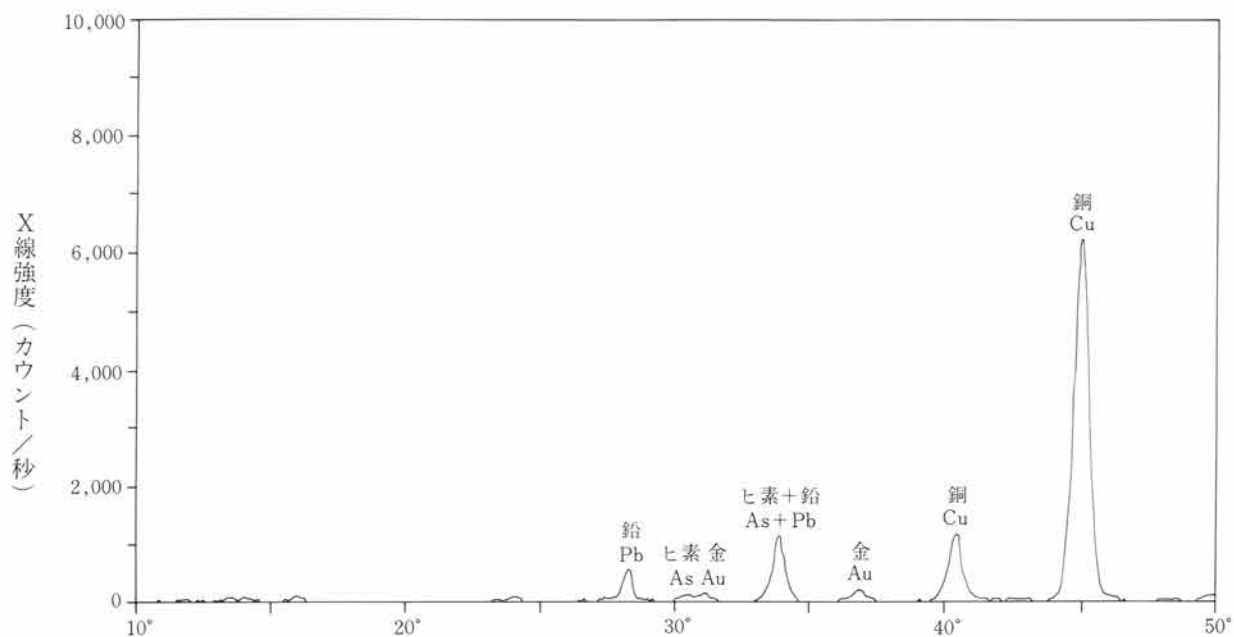


図1 a 天部形立像の蛍光X線スペクトル
角度(度)

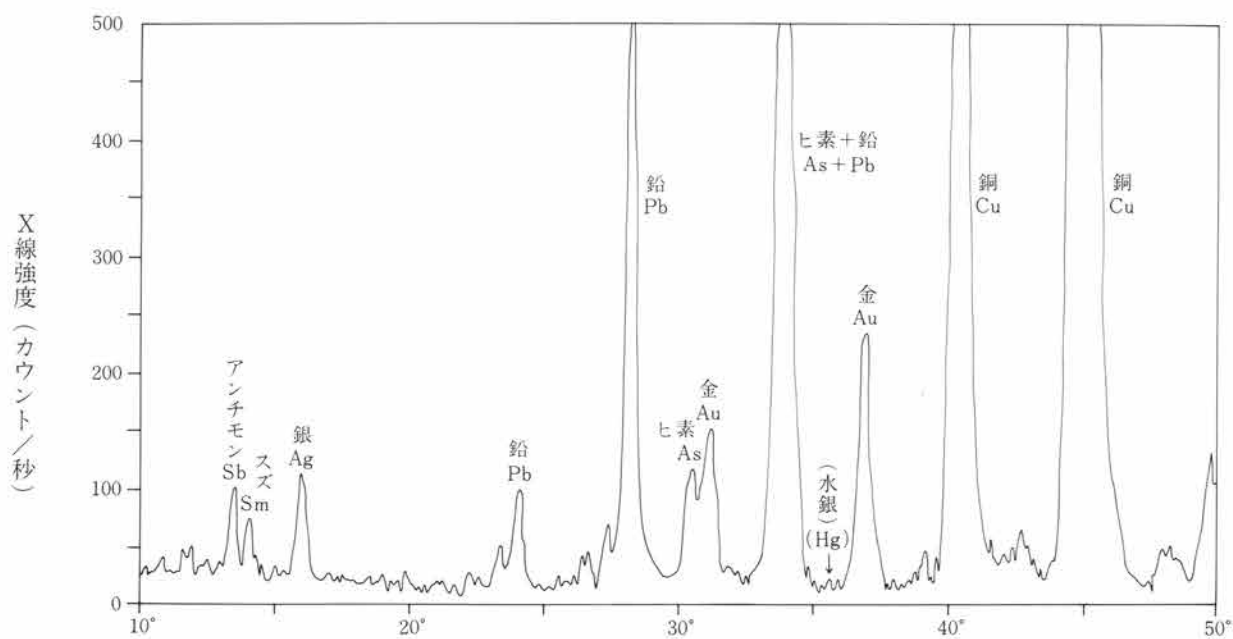


図1 b 天部形立像の蛍光X線スペクトル (図1 aを20倍に拡大)
角度(度)

第5章 有馬遺跡出土の陶磁器

大西 雅広

1 はじめに

有馬遺跡からは、中世を主体とした総数122点の陶磁器が出土している。資料の選択にあたっては、緑釉陶器と貿易陶磁は総てを、中世国産陶器と軟質陶器は体部細片を除き図化した。近世陶磁器は、表土出土の細片が殆どであるため遺存度の高い個体のみ選択した。なお、有馬遺跡出土陶磁器の内訳は表のとおりである。

2 古代陶磁器

出土地点の判明する緑釉陶器はすべてG区出土で、西半に集中している。唯一東寄りから出土している12は、細片である。G区西出土の緑釉陶器のうち115・116号住居、61G-22グリッドの間には接合関係があり、この付近での使用を示している。また、9

(42G-02)と11(164号住居)は同一個体の可能性がある。緑釉陶器の特徴は9~11は胎土が硬質で濃緑色の釉を施し、器表にはヘラミガキ調整を行わない。14、15は同一個体の可能性が高く、胎土は淡黄色で軟質である。釉は黄緑色に近く、器表にはヘラミガキ調整を行っている。13は胎土はやや硬質であるが器表にはヘラミガキ調整を行ない、釉調も黄緑色がかっている。本遺跡出土の緑釉陶器は2箇所の製作地から供給されていたと考えられる。

G区北側遺構外からは、中国製白磁碗(8)が出土している。この白磁碗は、太宰府分類の白磁碗II類に分類され、本県では越州窯系青磁以上に希少性の高い製品である。この白磁碗は、前代の緑釉陶器の集中傾向や10世紀の銅製小仏と共に古代末の有馬遺跡を考えるうえで重要な資料である。

3 中世陶磁器

中国製磁器は12世紀後半~13世紀前半の竜泉窯系劃花文青磁碗(1・6)、13世紀代の竜泉窯系鎬蓮弁文青磁碗(3・4)と15~16世紀の青磁碗(6)などは総てG区出土である。また、14世紀後半~15世紀の白磁皿・杯(28・29)はG区17号井戸、16世紀の白磁(7)はG区161号土坑から出土している。28・29の白磁は、量的には少ないものの県内各地から出土しており、県内に広く流通している。中世陶磁器の主体は、在地製の内耳鍋と播鉢といった調理用具であり、使用痕も顕著であるうえ、2・9・17号井戸には石臼(粉挽き臼)が伴っている。これらは14~16世紀の所産と考えられ、同時期の飲食器である中国製磁器や瀬戸・美濃系施釉陶器、貯蔵容器の国内製焼締陶器も存在する。13世紀代の在地製軟質陶器は確認されないが、焼締陶器に13世紀代に属する可能性の高いものがあるうえ、竜泉窯系青磁碗がG区のみから出土していることから13世紀から16世紀の約300年間はG区西半以西が居住域となっていたと考えられる。

4 近世陶磁器

近世陶磁器は表土出土の細片が殆どで、遺構も検出されていない。このことから、調査区内に屋敷地は存在しなかった可能性が高い。

註

- 1 白磁碗II類に先行する越州窯系青磁や白磁I・IX類は、推定上野国府域や国分僧・尼寺中間地域を中心に出土量は増加しているがII類の確実な例は本遺跡が初例である。この時期の白磁は、一部の入々のみがあると考えられるため、古代末の有馬遺跡に有力者の居住

有馬遺跡出土陶磁器集計表(緑釉陶器は除く)

出土地点	掘 載 遺 物				不掘載遺物				総計
	軟質陶器	国産陶磁器	中国陶磁器	小計	陶磁器	軟質陶器	小計		
1号井戸	2	0	0	2	0	0	0	2	
2号井戸	3	0	0	3	0	0	0	3	
7号井戸	1	0	0	1	0	0	0	1	
9号井戸	5	2(焼締)	0	7	0	0	0	7	
10号井戸	9	3	0	12	1	0	1	13	
17号井戸	3	0	2	5	0	0	0	5	
18号井戸	4	0	0	4	0	0	0	4	
4号土坑	0	0	0	0	4	0	4	4	
22号土坑	0	0	0	0	1	0	1	1	
154号土坑	0	0	0	0	1	0	1	1	
157号土坑	0	1(施釉)	0	1	0	0	0	1	
161号土坑	0	0	1	1	0	0	0	1	
308号土坑	2	1(焼締)	0	3	0	0	0	3	
36~39E-30	0	1(磁器)	0	1	0	0	0	1	
36~38F-30	0	1(施釉)	0	1	0	0	0	1	
F区2層	0	1(施釉)	0	1	0	1	1	2	
F区IIIa層	0	0	0	0	5	0	5	5	
G区IIIa層	0	1(施釉)	0	1	0	0	0	1	
G区	0	0	7	7	0	0	0	7	
表 探	0	0	0	0	65	0	65	65	
総 計	29	11	10	50	77	1	78	128	

第5章 有馬遺跡出土の陶磁器

や10世紀代の銅製小仏の存在から付近に寺院が存在し、この時期まで継続していた可能性も考えられる。有馬遺跡の付近には「有馬廃寺」があるが、渋川市教育委員会の調査では8世紀代の瓦が確認されたのみであった。

- 2 森田 勉 「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究2』日本貿易陶磁研究会 1982 には「日本各地から出土の報告があることから、かなりの量が輸入されたことと思われる。」とされている。県内においてもこの種の白磁は、1遺跡からの出土量は少ないものの報告例は増加しており、本県にもかなりの量がもたらされていたと考えられる。

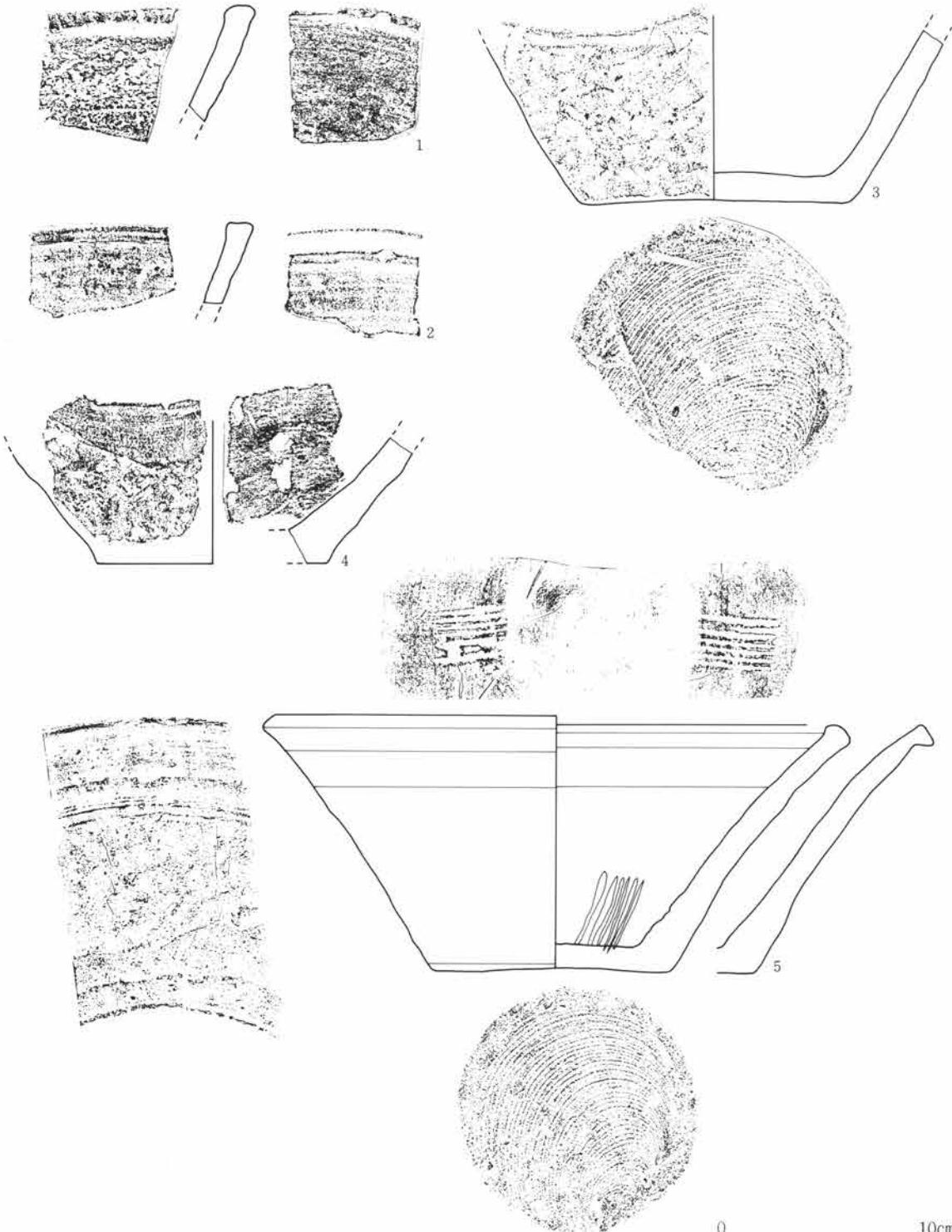


Fig.534 陶磁器(1)

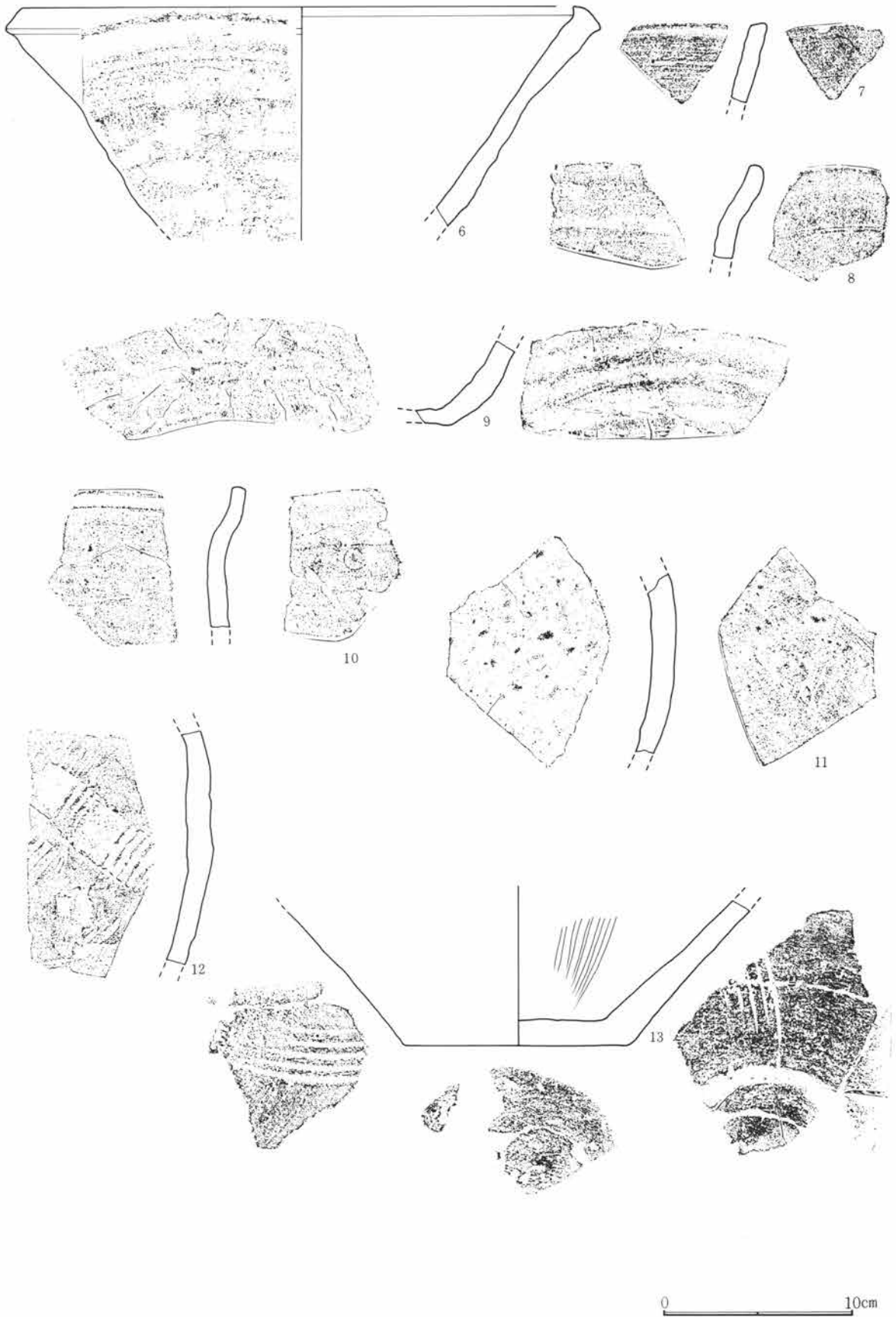


Fig.535 陶磁器(2)

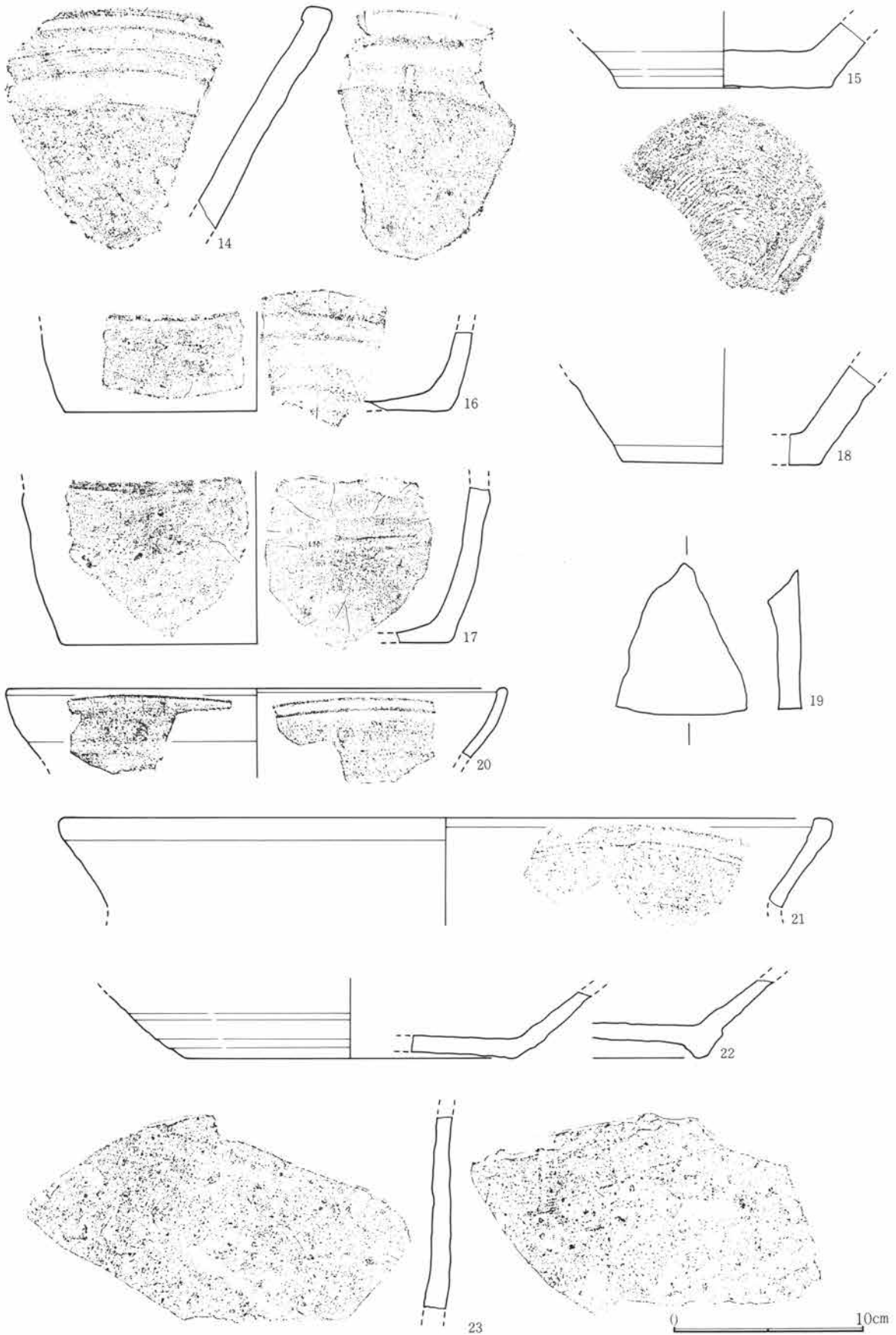


Fig.536 陶磁器(3)

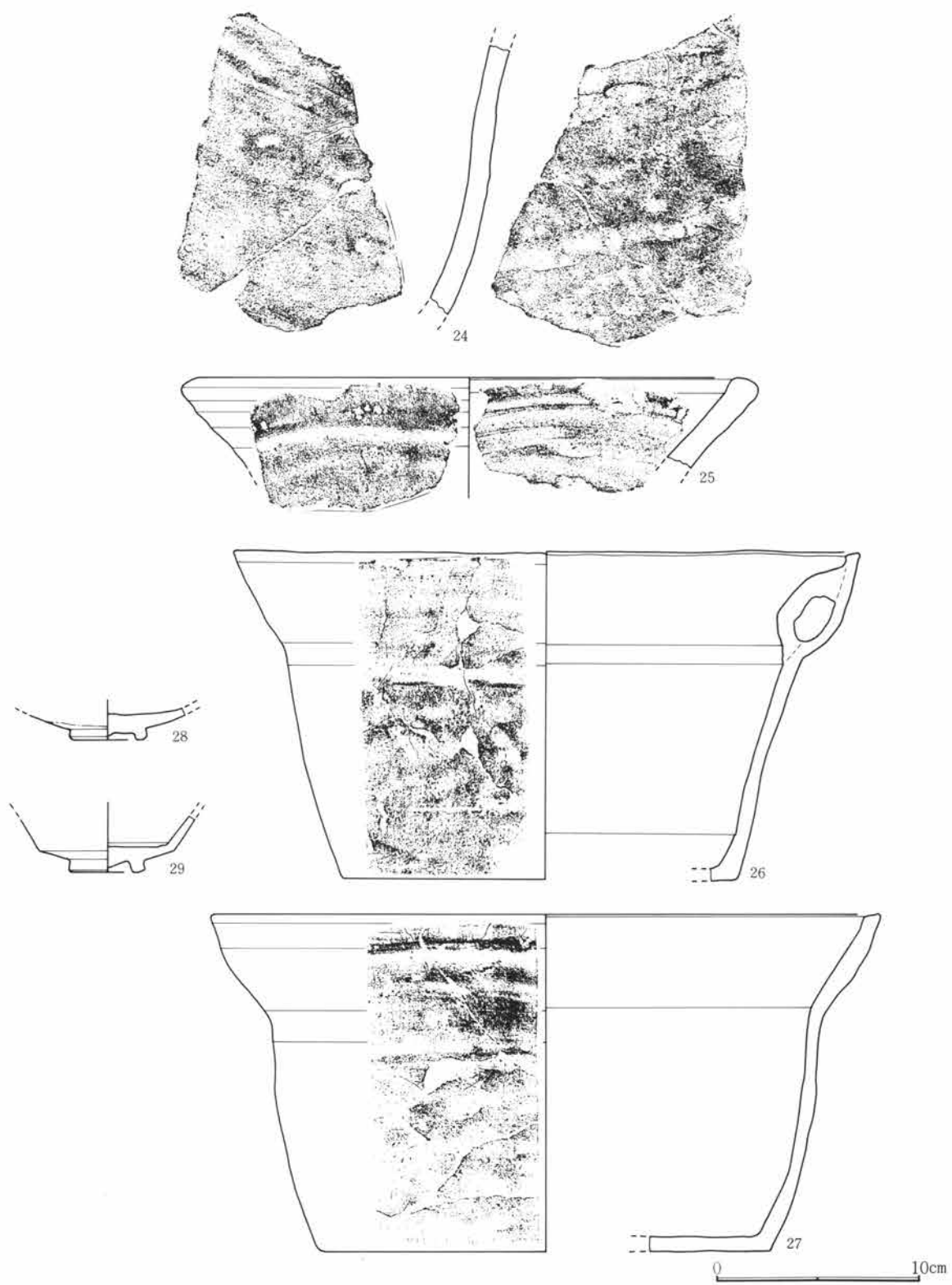


Fig.537 陶磁器(4)

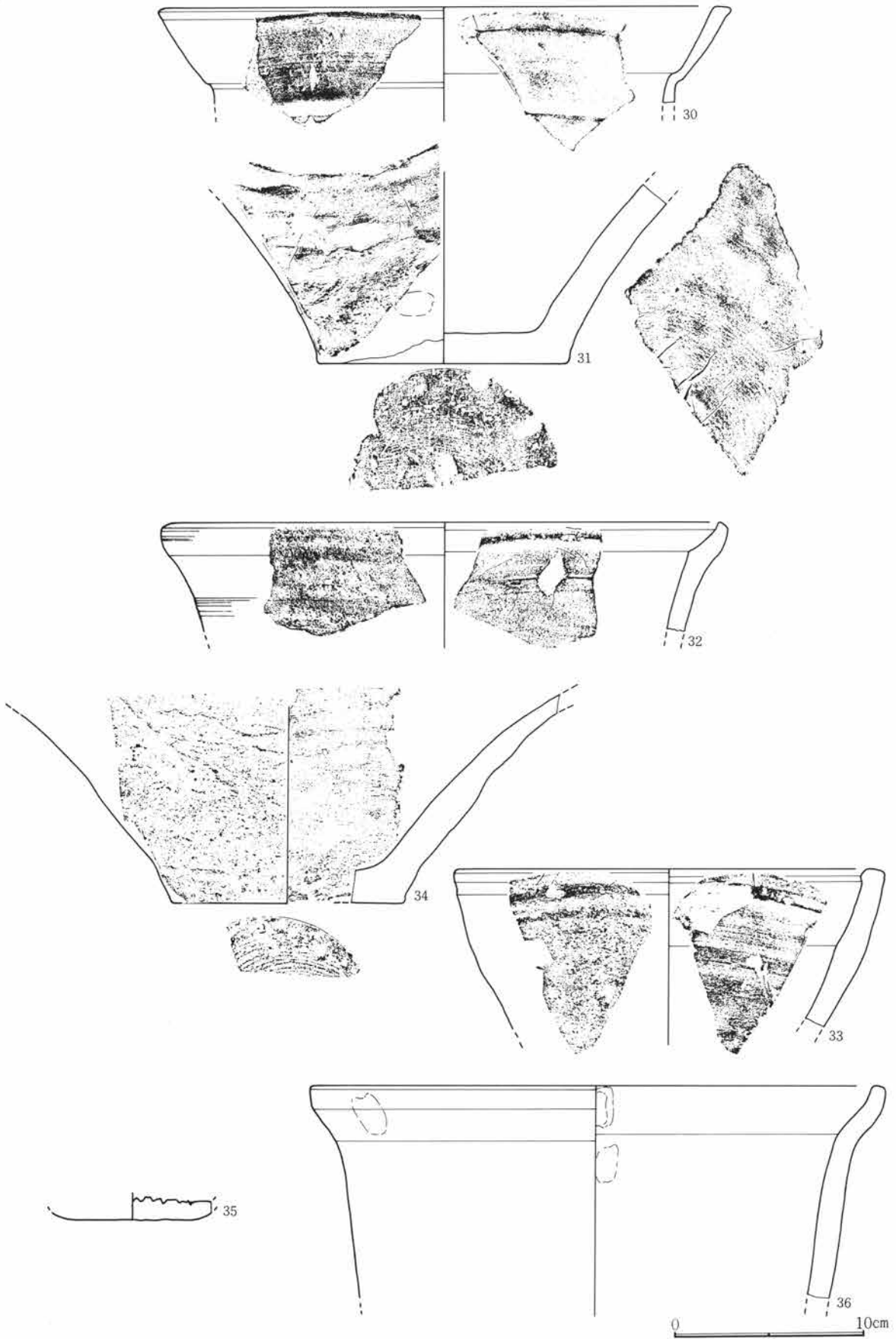


Fig.538 陶磁器(5)

第5章 有馬遺跡出土の陶磁器

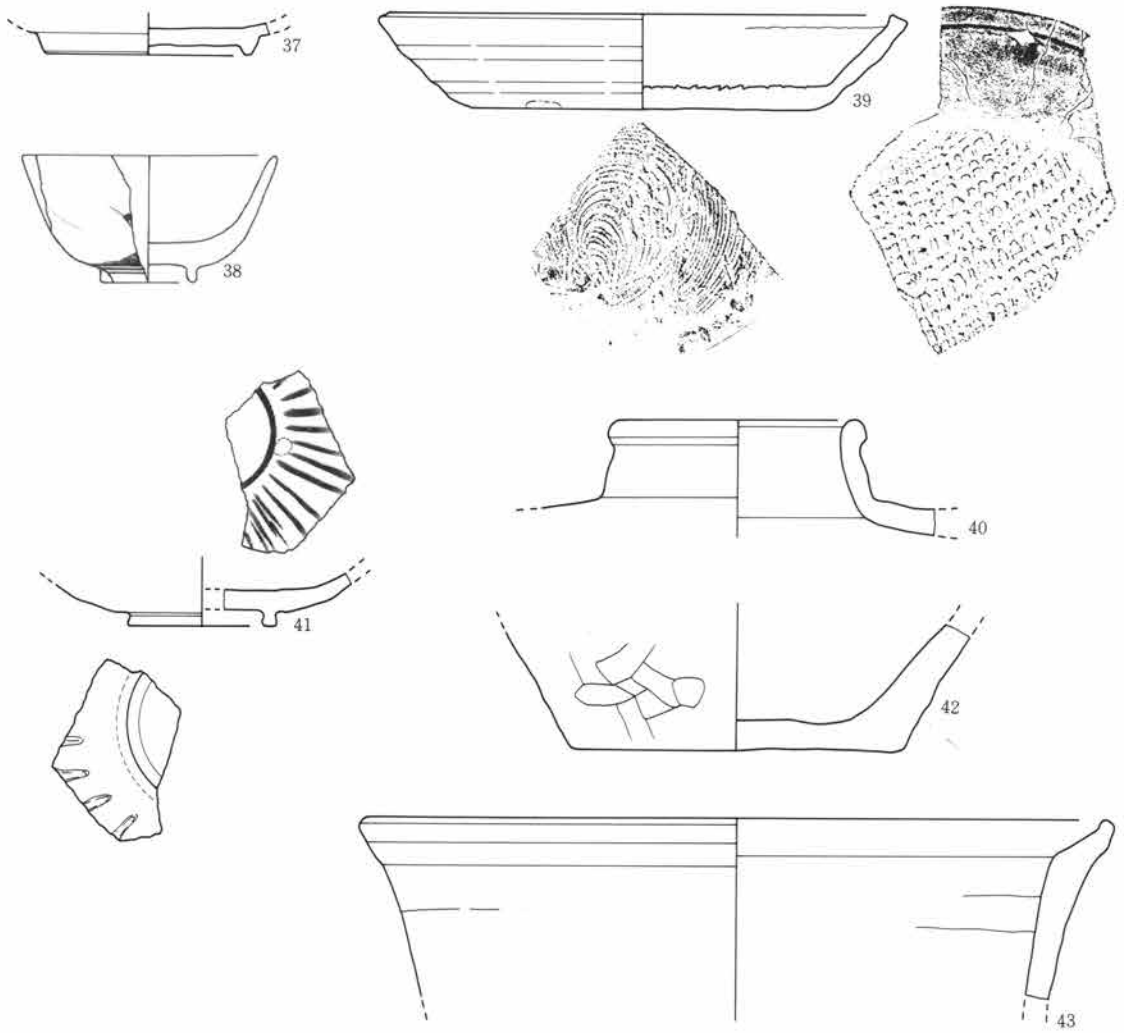


Fig.539 陶磁器(6)

青磁・白磁・緑釉陶器

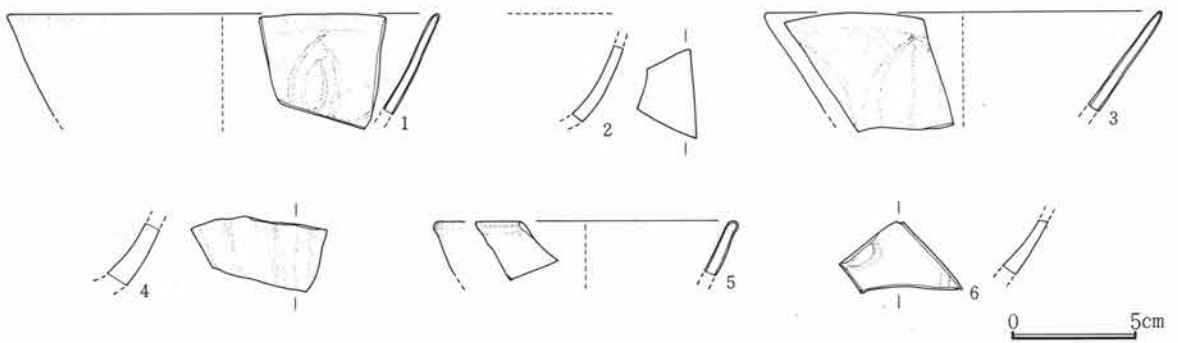


Fig.540 青磁・白磁・緑釉陶器(1)

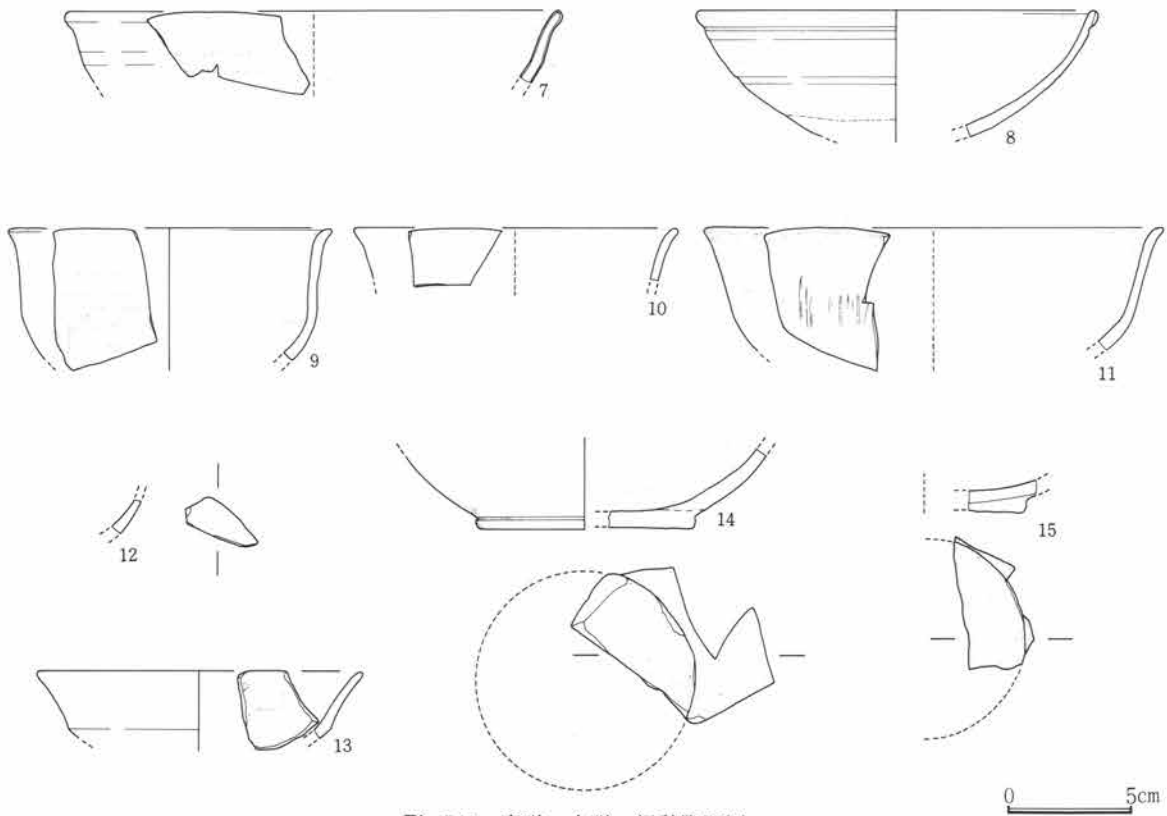


Fig.541 青磁・白磁・緑釉陶器(2)

有馬遺跡出土陶磁器観察表(1)

番号	器種・種別	出土位置	口径・底径・器高	胎土の特徴	器形などの特徴	釉調・絵付けなどの特徴	備考
1	播鉢 軟質陶器面	1号井戸	-×-×-	灰黄色。	口縁端部は丸みを帯び、内に小さく折り返す。		在地製。 15C。
2	播鉢 軟質陶器	1号井戸	-×-×-	器表は灰黒色。断面は灰色。	口縁端部は平坦で、内側に小さく折り返す。		在地製。 15C。
3	播鉢 軟質陶器	2号井戸	-×(12.7)×-	褐灰色。白色砂を多量に含む。	底部外面は左回転糸切り。底部周縁と体部下位は、使用により摩滅する。		在地製。 14~16C。
4	播鉢 軟質陶器	2号井戸	-×(11.0)×-	灰白色。白色砂を多量に含む。	体部外面下端はヘラナデ。内面は使用により摩滅する。		在地製。 15~16C。
5	播鉢 軟質陶器	7号井戸	28.0×11.5×12.0	器表は灰色。断面は灰白色。白色砂を含む。	体部は外反する。内面に6本1単位の播目を4箇所施す。片口を1箇所造る。口縁端部内面と底部周縁・体部下位内面は、使用により摩滅する。		在地製。 16C前半。
6	播鉢 軟質陶器	2号井戸	31.0×-×-	灰色。白色砂を多量に含む。	口縁部はヨコナデ調整。体部内面の器表は剝離する。		在地製。 15C。
7	内耳鍋 軟質陶器	9号井戸	-×-×-	器表は黒灰色。断面は褐灰色。	口縁端部は平坦。		在地製。15C 後半~16C。
8	内耳鍋 軟質陶器	9号井戸	-×-×-	器表は黒灰色。断面は灰白色。白色砂を少量含む。	口縁部はヨコナデ調整を行う。		在地製。 14~15C。
9	火鉢 軟質陶器	9号井戸	-×-×-	にぶい赤褐色。	体部外面下端はヘラナデ調整を行う。		在地製。 15~16C。
10	内耳鍋 軟質陶器	9号井戸	-×-×-	器表は褐灰色。断面は灰白色。白色砂を少量含む。	口縁部はヨコナデ調整を行う。口縁端部は平坦。		在地製。 14~15C。
11	壺 焼締陶器	9号井戸	-×-×-	器表は黒灰色。断面は灰白色。粘土が縞状をなす。		外面上部に灰釉が掛かる。	常滑系。 14~15C。

有馬遺跡出土陶磁器観察表(2)

番号	器種・種別	出土位置	口径・底径・器高	胎土の特徴	器形などの特徴	釉調・絵付けなどの特徴	備考
12	甕 焼締陶器	9・10号 井戸	-×-×-	灰白色。白色鉱物粒を含む。		体部上半に自然釉が掛かる。	製作地不詳。 中世。
13	播鉢 軟質陶器	9号井戸	-×(10.7)×-	灰色。白色砂を多量に含む。	内面に5本単位の播目を施す。体部外面下端にヘラケズリを行う。底部内面周縁と体部内面下位は、使用により摩滅する。		在地製。 16C。
14	播鉢 軟質陶器	10号井戸	-×-×-	器表は黒褐色。断面はにぶい橙色。	口縁部内面を内側に小さく折り返す。体部内面下位は使用により摩滅する。		在地製。 15C後半～16C前半。
15	播鉢 軟質陶器	10号井戸	-×10.9×-	にぶい黄橙色。	底部外面左回転糸切り。底部周縁と体部内面下位は使用により摩滅する。		在地製。 15～16C。
16	内耳鍋 軟質陶器	10号井戸	-×(20.0)×-	器表は黒褐色。断面は灰白色。			在地製。 15～16C。
17	内耳鍋 軟質陶器	10号井戸	-×(20.0)×-	器表は黒灰色。断面は灰白色。	体部外面下端はヘラナデ調整を行う。		在地製。 15～16C。
18	播鉢 軟質陶器	10号井戸	-×(10.0)×-	灰白色。	内面に5本単位の播目を施す。内面は使用により摩滅する。		在地製。 15～16C。
19	甕 焼締陶器	10号井戸	-×-×-	赤灰色。		無釉。	常滑系。 14～15C。
20	内耳鍋 軟質陶器	10号井戸	(26.0)×-×-	褐色。	口縁部は内湾する。器壁は薄い。		在地製。 15C後半～16C前半。
21	内耳鍋 軟質陶器	10号井戸	(40.0)×-×-	灰色。白色砂を含む。	口縁部は外反する。口縁端部はヨコナデ調整。		在地製。 16C。
22	灰釉鉢 陶器	10号井戸	-×(17.0)×-	淡黄色。	底部周縁と体部下端はヘラケズリを行う。脚を貼り付ける。	内面から体部下位まで灰釉を施す。	瀬戸・美濃系。 15～16C。
23	甕 焼締陶器	10号井戸	-×-×-	褐色。			製作地不詳。 中世。
24	播鉢 軟質陶器	10号井戸	-×-×-	器表は黒褐色。断面はにぶい褐色。	体部外面下端はヘラケズリを行う。		在地製。 15～16C。
25	播鉢 軟質陶器	10号井戸	(26.3)×-×-	器表は黒褐色。断面はにぶい赤褐色。	口縁端部は内側に小さく折り返す。		在地製。 16C前半。
26	内耳鍋 軟質陶器	17号井戸	30.4×(19.2)× 15.8	にぶい褐色。	口縁部は外反する。体部外面に煤付着。		在地製。 16C。
27	内耳鍋 軟質陶器	17号井戸	(32.3)×(21.8)× 16.2	器表は黒褐色。断面は褐色。	口縁部は外反する。体部下位から口縁部外面には煤が付着する。		在地製。 16C。
28	白磁皿	17号井戸	-×3.7×-	淡黄色。焼成不足。	削り出し高台。	細かい貫入の入る白磁釉を施す。高台脇以下は無釉。	中国製。 16C。
29	白磁杯	17号井戸	-×(3.7)×-	淡黄色。焼成不足。	削り出し高台。	細かい貫入の入る白磁釉を施す。高台脇以下は無釉。	中国製。 16C。
30	内耳鍋 軟質陶器	17号井戸	(30.0)×-×-	灰色。	口縁部は外反し、内面には段を有する。		在地製。 15C。
31	播鉢 軟質陶器	18号井戸	-×(13.0)×-	にぶい赤褐色。	内面は使用により摩滅する。		在地製。 15～16C。
32	内耳鍋 軟質陶器	18号井戸	(28.7)×-×-	灰白色。	外面には煤が付着する。		在地製。 15C。
33	播鉢 軟質陶器	18号井戸	(22.4)×-×-	器表・断面中央は黒灰色。器表付近は灰白色。	口縁端部は小さく内面に折り曲げる。体部内面は使用により摩滅する。		在地製。 16C前半。
34	播鉢 軟質陶器	18号井戸	-×-×-	器表は黒灰色。断面はにぶい褐色。	体部下端はヘラナデ調整。		在地製。 15～16C。
35	おろし皿 陶器	157号土坑	-×(6.6)×-	灰白色。	内面に櫛状工具でおろし目を施す。底部外面は回転糸切り。	無釉。	瀬戸・美濃系。 15～17C。

有馬遺跡出土陶磁器観察表(3)

番号	器種・種別	出土位置	口径・底径・器高	胎土の特徴	器形などの特徴	釉調・絵付けなどの特徴	備考
36	内耳鍋軟質陶器	308号土坑	(30.4)×-×-	器表は灰白色。断面はにぶい橙色。	口縁部は短く外反した後、端部は内傾する。外面には煤が付着する。		在地製。 14~15C。
37	志野丸皿陶器	F区II層	-×(8.0)×-	灰白色。	高台は逆台形を呈する。	志野釉を厚く施す。粗い貫入が入る。	瀬戸・美濃系。 17C。
38	染付碗磁器	36~39E30	(10.2)×(3.8)×5.0	灰白色。		外面に草花を描く。呉須は暗青灰色に発色する。	伊万里系。 18C。
39	灰釉おろし皿陶器	G区IIIa層	(21.0)×(13.2)×3.8	灰白色。	底部は右回転糸切り。底部内面には5本単位の櫛状工具でおろし目を施す。	細かい貫入の入る灰釉を施す。底部外面は無釉。	瀬戸・美濃系。 16C。
40	壺焼締陶器	308号土坑	(9.8)×-×-	褐色。	頸部はやや内傾し、口縁端部は外方に折り返す。	外面には自然釉が掛かる。	製作地不詳。 15~16C。
41	灰釉菊皿陶器	36~38F30	-×(5.8)×-	淡黄色。	内外面に丸ノミで花卉を表す。張り付け高台。	灰釉を施す。内面に細かい貫入が入る。高台脇以下無釉。	瀬戸・美濃系。 17C。
42	搦鉢軟質陶器	表土	-×(13.2)×-	灰色。白色鉱物粒を多く含む。	底部外面は左回転糸切り。底部中央と底部と体部の境を除き、使用により摩滅する。		在地製。 15~16C。
43	内耳鍋軟質陶器	308号土坑	(30.3)×-×-	灰白色。白色鉱物粒を多く含む。暗赤色粘土粒を少量含む。	体部の器表は厚い。口縁部は外反し、端部は僅かに直立する。		在地製。 14C。

青磁・白磁・緑釉陶器観察表

番号	器種・種別	出土位置	口径・底径・器高	胎土の特徴	器形などの特徴	釉調・絵付けなどの特徴	備考
1	龍泉窯系青磁碗	G区南	(17.3)×-×-	灰色。磁化していない。	内面に片切り彫りで花卉を描く。外面は無文。	粗い貫入の入る青磁釉を施す。	中国製。 12C中頃~13C前半。
2	龍泉窯系青磁碗	G区北	-×-×-	灰白色。		青磁釉を施す。外面のみ粗い貫入が入る。	中国製。 13~14C。
3	龍泉窯系青磁碗	G区表土	(16.0)×-×-	灰白色。	外面に、片切り彫りで鎬蓮弁文を描く。間弁を有する。	青磁釉を施す。	中国製。 13C。
4	龍泉窯系青磁碗	G区南	-×-×-	灰白色。	外面に、片切り彫りで鎬蓮弁文を描く。	青磁釉を施す。	中国製。 13C。
5	龍泉窯系青磁碗	G区表土	(12.0)×-×-	灰白色。	口縁端部は丸みを有する。	青磁釉を施す。外面には粗い貫入が入る。	中国製。 14~15C。
6	龍泉窯系青磁碗	G区南	-×-×-	灰白色。	内面には、片切り彫りで蓮弁文を施す。	青磁釉を施す。	中国製。 12C中頃~13C前半。
7	白磁皿	161号土坑	(20.0)×-×-	灰白色。粗い。	口縁端部は外反する。外面は口縁部下までヘラケズリを行う。	灰色を帯びた白磁釉を施す。	中国製。 16C。
8	白磁碗	G区北	(16.0)×-×-	灰白色。	口縁部は小さい玉縁をなす。体部外面中位以下はヘラケズリを行う。	黄色味を帯びた白磁釉を施す。高台脇以下は無釉。	中国製。 11C後半~12C前半。
9	緑釉陶器碗	45G-02 III b層	(13.0)×-×-	灰色。硬質。細砂粒を少量含む。	体部は屈曲し、口縁部は外反する。体部下位以下はヘラケズリを行う。	光沢のある鉛緑釉を施す。	
10	緑釉陶器碗	164号住居	(12.8)×-×-	灰色~灰白色。硬質。	体部は屈曲し、口縁部は外反する。体部下位以下はヘラケズリを行う。	光沢のある鉛緑釉を施す。	11と同一個体か。
11	緑釉陶器碗	G区北西側道	(18.2)×-×-	灰色~灰白色。硬質。	口縁部は外反する。ヘラミガキ調整は行わない。	光沢のある緑釉を薄く施す。	10と同一個体か。
12	緑釉陶器碗?	189号住居掘り方	-×-×-	灰白色。硬質。	ヘラミガキ調整の有無は不明。	光沢のある緑釉を施す。	
13	緑釉陶器皿	表採	(13.0)×-×-	灰色。硬質。	体部は屈曲し、口縁部は外反する。口縁部内面に陰刻花文を描く。ヘラミガキ調整を施す。	光沢のある緑釉を施す。	

第5章 有馬遺跡出土の陶磁器

番号	器種・種別	出土位置	口径・底径・器高	胎土の特徴	器形などの特徴	釉調・絵付けなどの特徴	備考
14	緑釉陶器瓶	115・120号住居、61G-25	—×(8.6)×—	淡黄色。軟質。	体部は外方に広く開く。器面調整は丁寧である。	淡い緑釉を外面に施す。	15と同一個体か。
15	緑釉陶器瓶	115・120号住居	—×—×—	淡黄色。軟質。	体部は外方に広く開く。器面調整は丁寧である。	淡い緑釉を外面に施す。	14と同一個体か。

表採遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
542-1 155	灰釉陶器 皿	口-13.2 高-3.5 底-5.7		内外面口縁部に施釉口縁端部外側へ屈曲する底部回転糸切付高台	①良好②灰白色③密④完形
542-2 155	灰釉陶器 壺	口-15.2 高-5.2 底-7.0		底部回転糸切付高台腰部から弱い内湾で立ち上がる	①良好②灰白色③密④残存
542-3 155	灰釉陶器 壺	口-13.1 高-4.0 底-6.7		底部回転調整口縁部内外面施釉つがけ口縁端部外側へ屈曲する	①良好②灰白色③密④ほぼ完形
542-4 155	須恵器 坏	口-14.0 高-3.8 底-6.4		底部回転糸切右廻り口縁部弱く外湾	①良好②灰色③細砂粒含む④残存
542-5 155	須恵器 坏	口-11.0 高-3.5 底-5.5		底部回転糸切右廻り口縁部弱く外反する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④残存
542-6 155	須恵器 壺	口-12.0 高-5.5 底-6.5		付高台口縁部直線状に外傾する	①良好②にぶい橙色③1~2mmの砂粒含む④残存
542-7 155	須恵器 壺	底-6.5		付高台底部回転糸切高台薄くハの字状に開く	①良好②にぶい黄橙色③密④底部残存
542-8	須恵器 壺	口-10.5 高-5.0 底-7.0		底部回転糸切付高台口縁部直線状に外傾する	①良好②灰色③密④残存
542-9 155	須恵器 長頸壺			刺突文巡る	①良好②灰色③密④破片
542-10 155	須恵器 坏	口-13.0 高-3.4 底-6.6		底部回転糸切口縁部弱く外湾する	①良好②灰色③密④残存

表採遺物

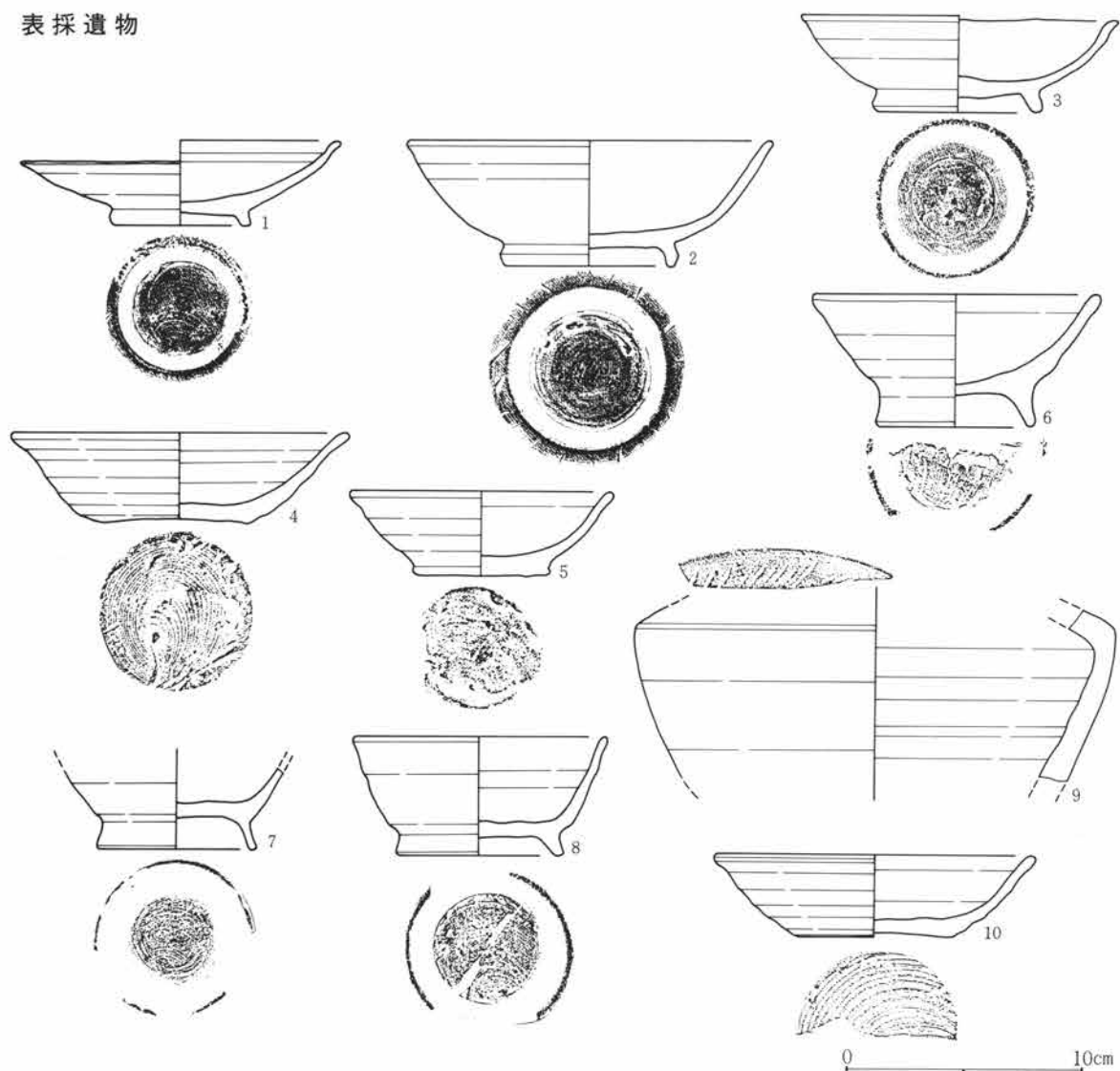


Fig.542 表採遺物

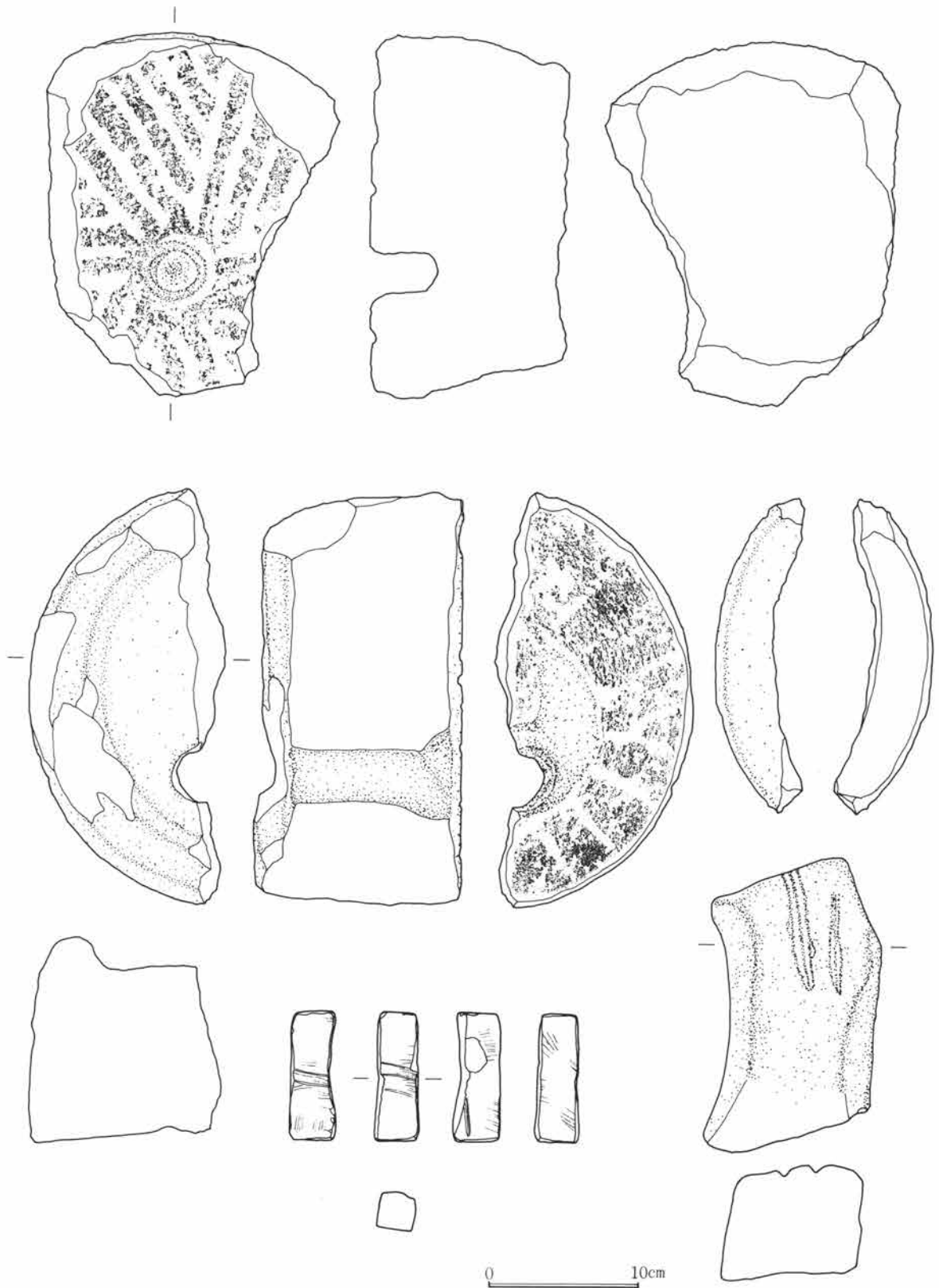


Fig.543 表採遺物

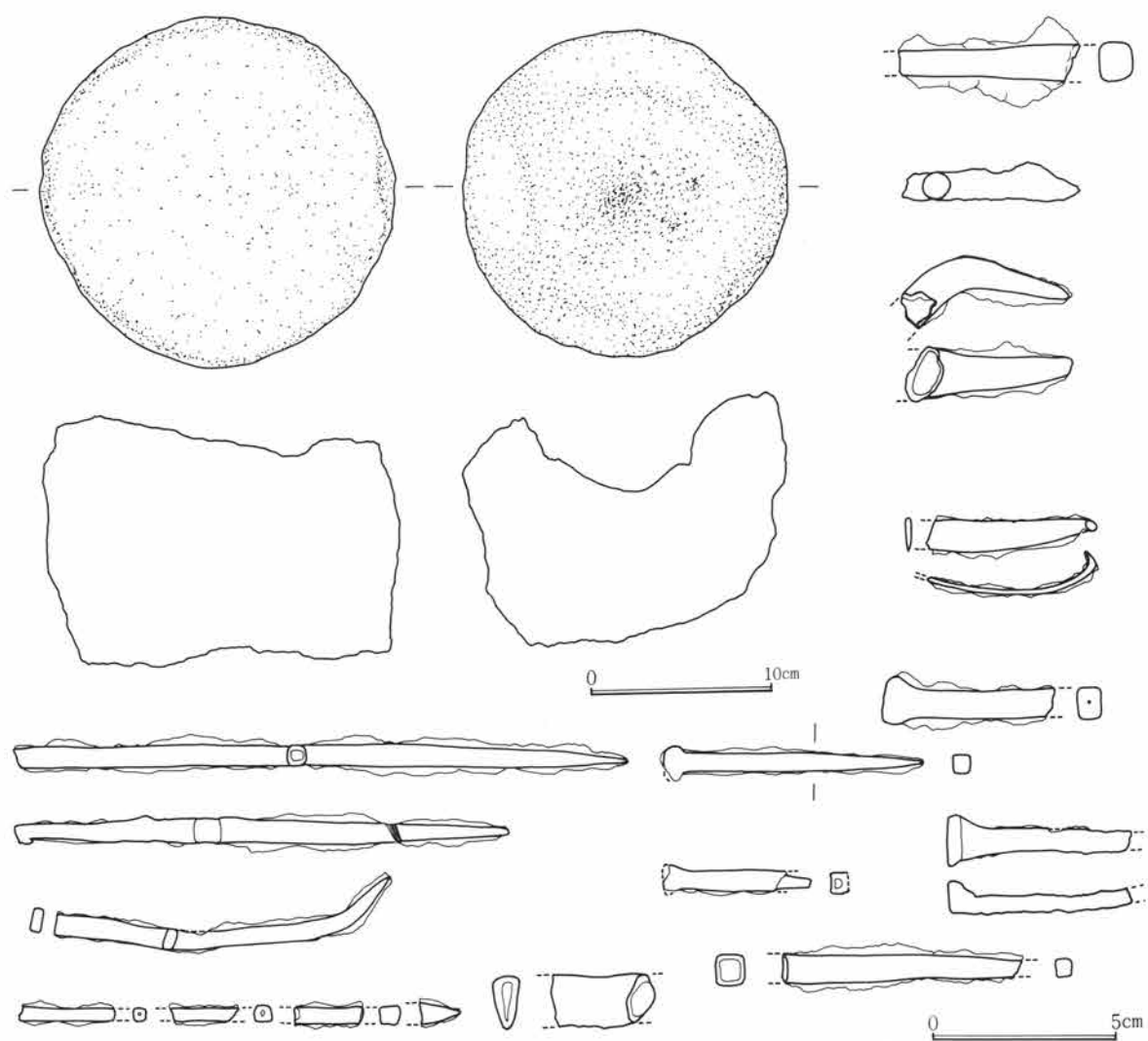


Fig.544 表採遺物

大久保B遺跡

第1章 検出された遺構と遺物

第1節 竪穴住居跡

1号住居跡 (Fig. 545・546・547、PL. 157・161)

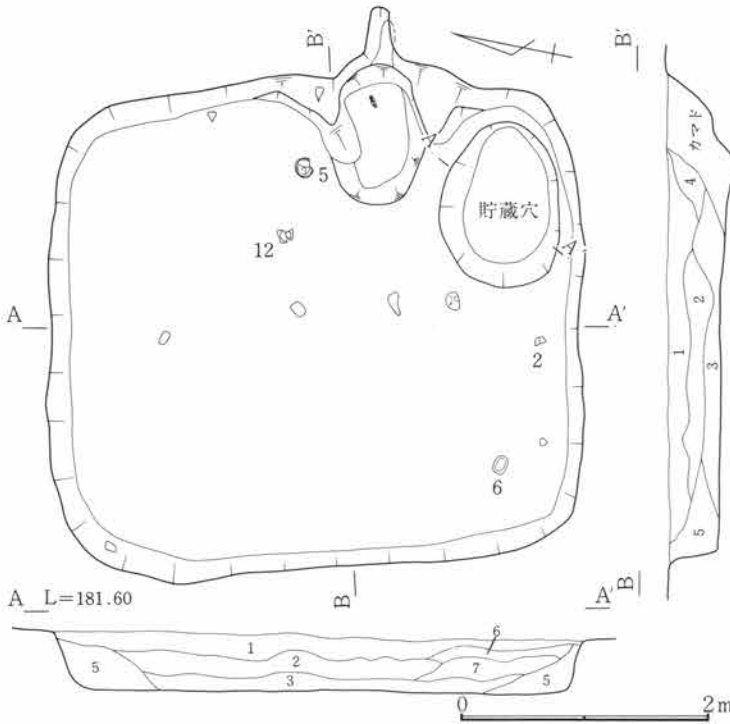


Fig.545 1号住居跡

B区北部に位置し52~54B41~43の範囲にある。2号住居跡の北にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺4.4m、短辺4.1mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約30cm~40cmを測る。主軸方位はN-82°-Eである。床面は平坦をなし、南東コーナーに貯蔵穴が検出された。規模は約1.2m×90cmを測る。竈は東壁南寄りに検出された。規模は袖幅約80cm、燃烧部幅約1mを測る。袖部は地山が掘り残されて検出された。

1号住居跡

- 1 暗褐色土層 軽石を少量含む
- 2 暗褐色土層 軽石多量、焼土少量含む
- 3 暗褐色土層
- 4 暗褐色土層 軽石多量に含む
- 5 暗褐色土層 軽石を少量含む
- 6 暗褐色土層 焼土を多量に含む
- 7 暗褐色土層 軽石を含む

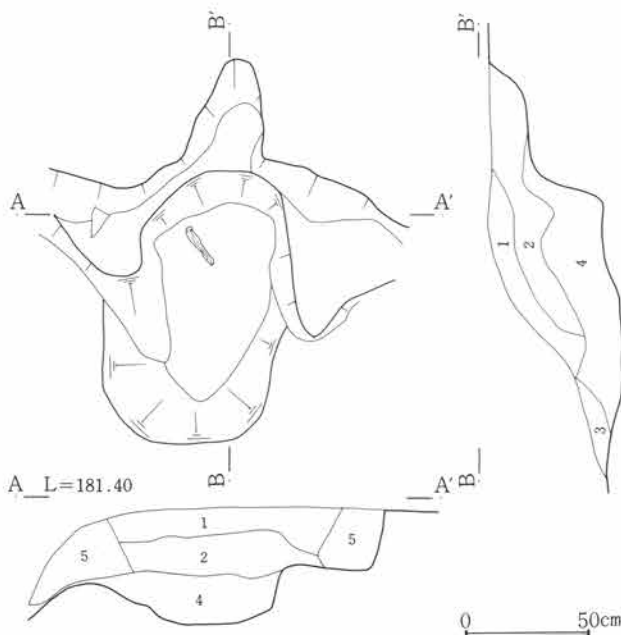
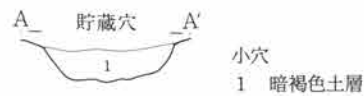


Fig.546 1号住居跡竈



- 小穴
1 暗褐色土層

1号住居跡竈

- 1 暗褐色土層 軽石を少量含む
- 2 暗褐色土層 焼土を含む
- 3 暗褐色土層 焼土粒、炭化物を多量に含む
- 4 暗褐色土層 焼土を多量に含む
- 5 暗褐色土層 軽石を多量に含む

第1章 検出された遺構と遺物

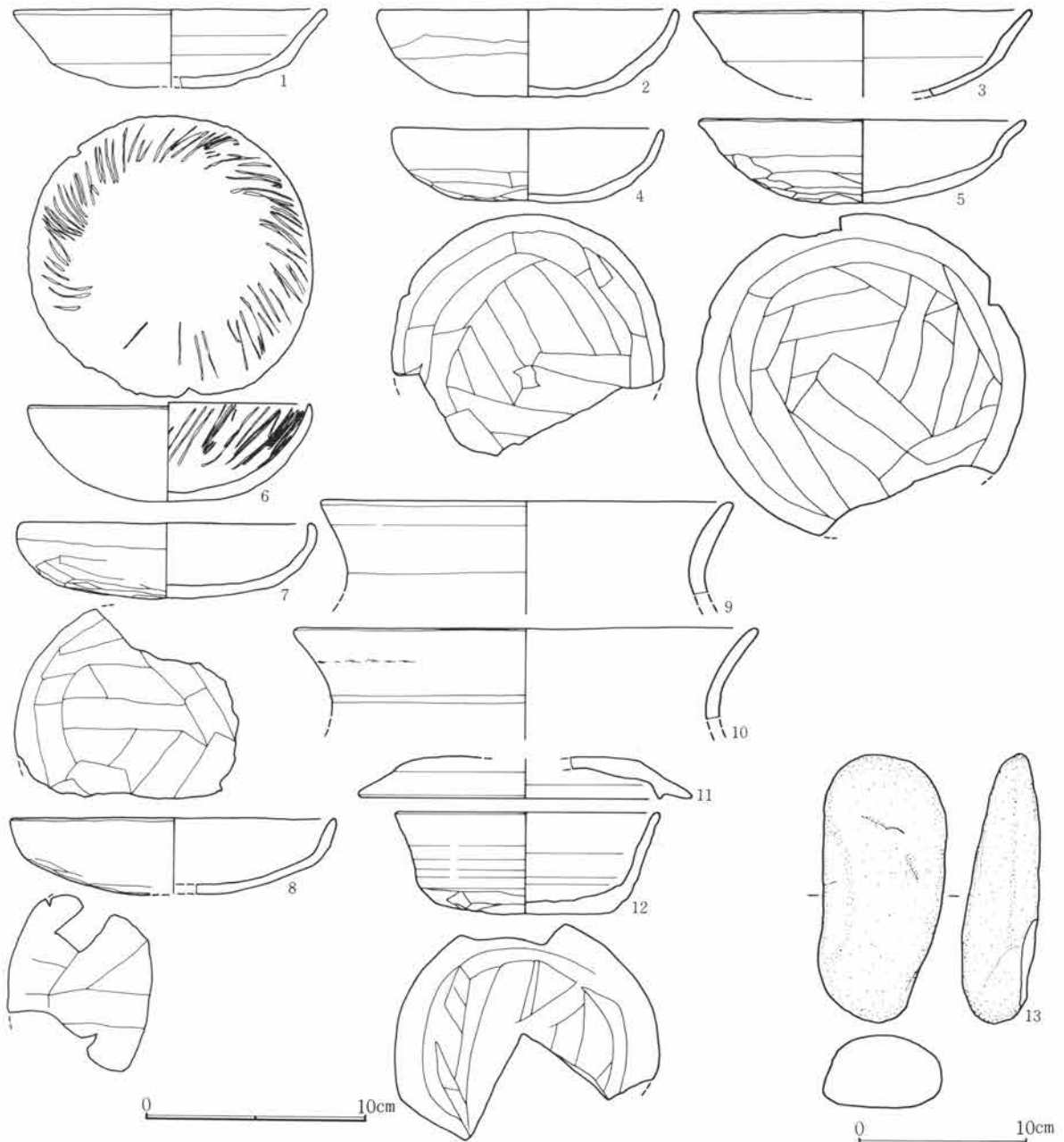


Fig.547 1号住居跡出土遺物

第1号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
547-1 161	土師器 坏	口-13.8 高-3.5	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部稜をもち外傾する	①良好②にぶい橙色③1~2mmの砂粒含む④残存
547-2 161	土師器 坏	口-13.0 高-3.85	Na 2	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部内湾ぎみに立ち上がる	①良好②にぶい橙色③1~2mmの砂粒含む④残存
547-3 161	土師器 坏	口-15.0	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部稜をもち外傾する	①良好②にぶい橙色③1~2mmの砂粒含む④残存
547-4 161	土師器 坏	口-12.1 高-3.4	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ体部口縁部の間弱いナデ内面ナデ口縁部直立ぎみ	①良好②橙色③細砂粒含む④残存
547-5 161	土師器 坏	口-14.4 高-3.7	Na 5	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部稜をもち外傾する	①良好②橙色③細砂粒含む④ほぼ完形
547-6 161	土師器 坏	口-12.5 高-4.35 底-2.1	Na 6	口縁部ヨコナデ体部弱いヘラケズリ内面暗文口縁部内湾して立ち上がる	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④完形

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
547-7 161	土師器 坏	口-12.8 高-3.3	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ口縁部体部の間弱いナデ口縁部直立ぎみ	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④%残存
547-8 161	土師器 坏	口-14.4 高-3.4	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部直線状に外傾する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④%残存
547-9	土師器 甕	口-18.2	覆土	口縁部ヨコナデ口縁部外反する	①良好②浅黄橙色③細砂粒含む④口縁部破片
547-10	土師器 甕	口-20.4	覆土	口縁部ヨコナデ口縁部外反する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
547-11 161	須恵器 蓋	口-14.6	覆土	外面回転ヘラ調整内面返りをもつ	①良好②灰白色③密④破片
547-12 161	須恵器 坏	口-11.6 高-4.5 底-4.5	No.12	底部ヘラケズリ口縁部直線状に外傾する	①良好②灰色③密④%残存

Fig. 547-13 PL. 161 石 長-15.9cm 幅-7.6cm 厚-4.5cm 砂岩

2号住居跡 (Fig. 548・549・550・551・552、PL. 157・161・162・163・164)

B区北部に位置し50～52B36～39の範囲にある。1号住居跡の南にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺5.9m、短辺4.8mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約50cm～70cmを測る。主軸方位はN-73°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・柱穴・貯蔵穴等の諸施設は検出されていない。竈は東壁南寄りに検出された。規模は、燃烧部幅約80cm、同長約40cm、煙道部長約1mを測る。竈前面床上には広い範囲で焼土が散布した状態で検出された。燃烧部中央、煙道部先端煙り出し部から土器片が集中して検出された。

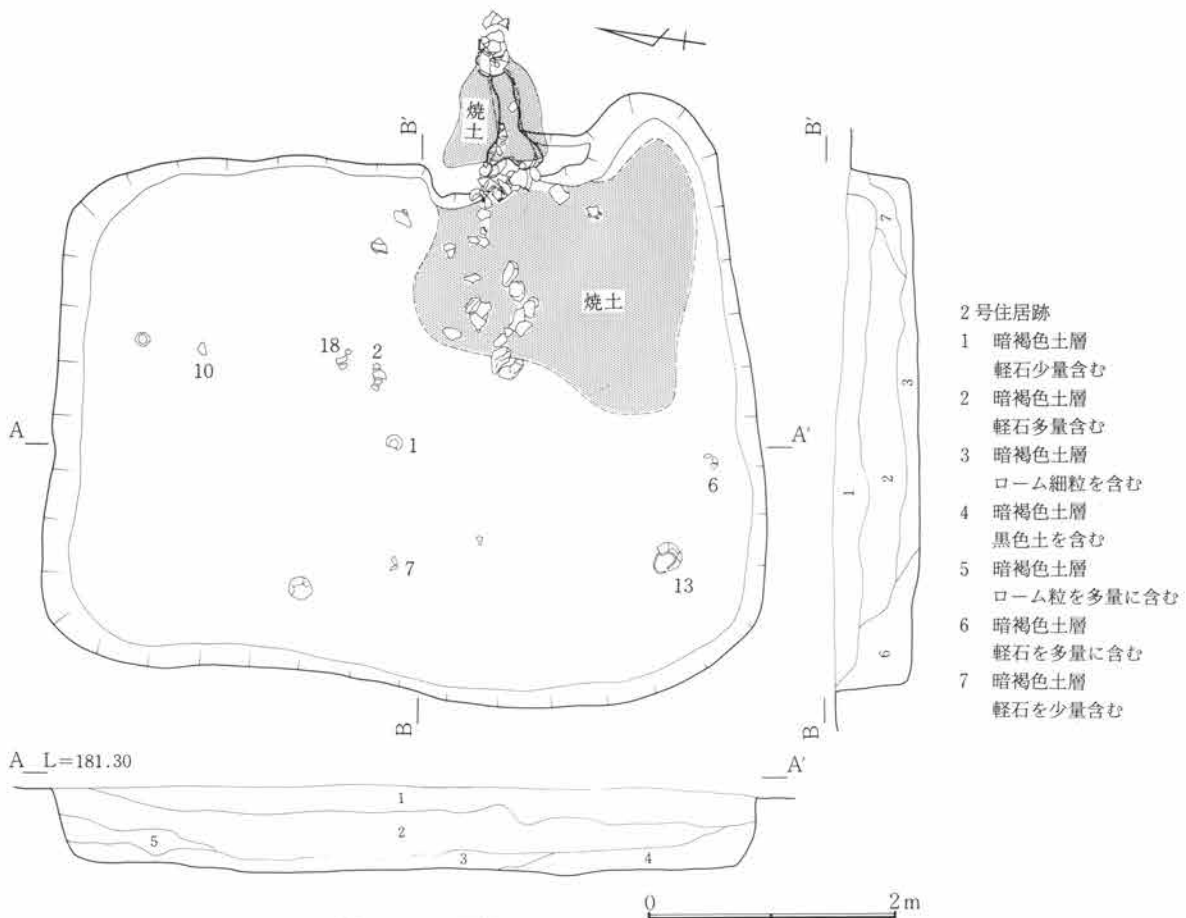


Fig.548 2号住居跡

第1章 検出された遺構と遺物

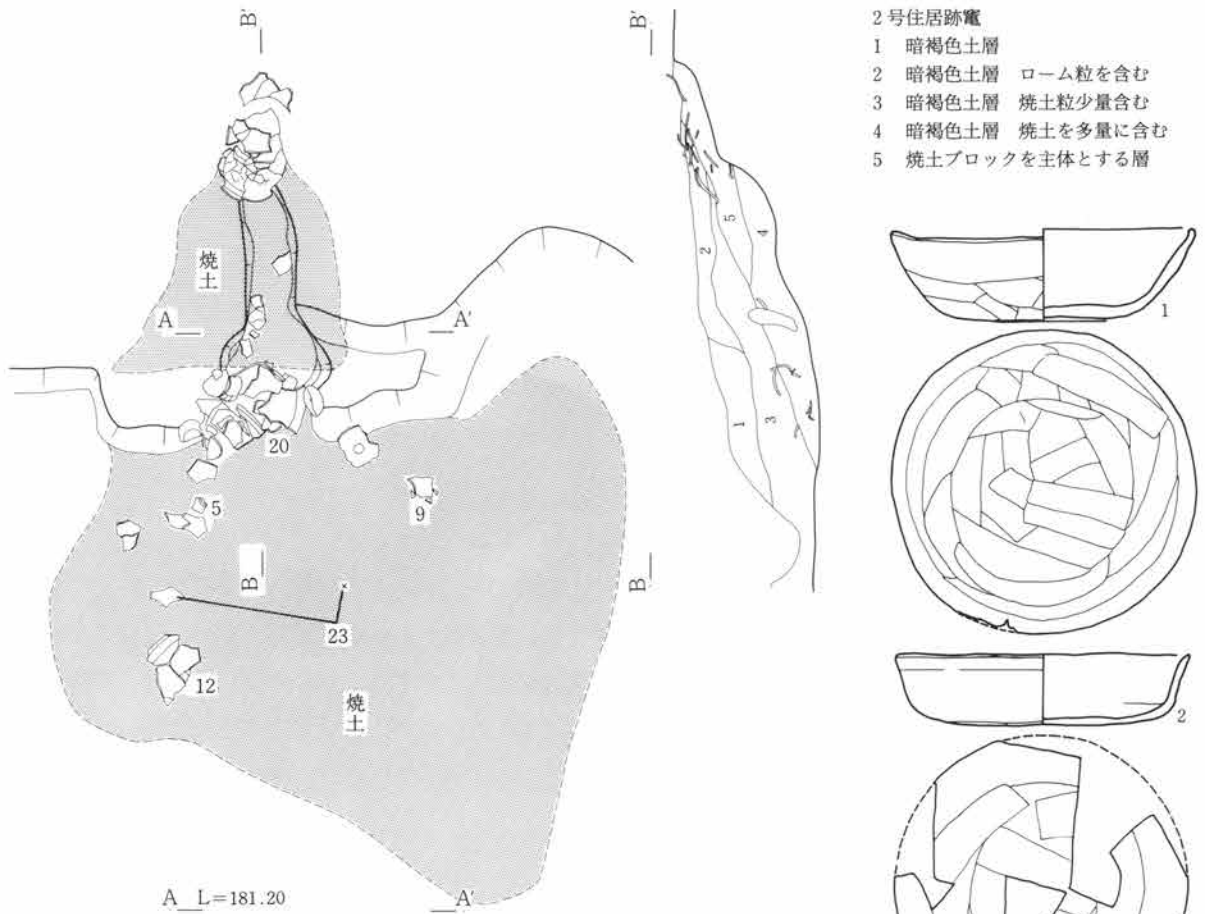


Fig.549 2号住居跡竈

0 50cm

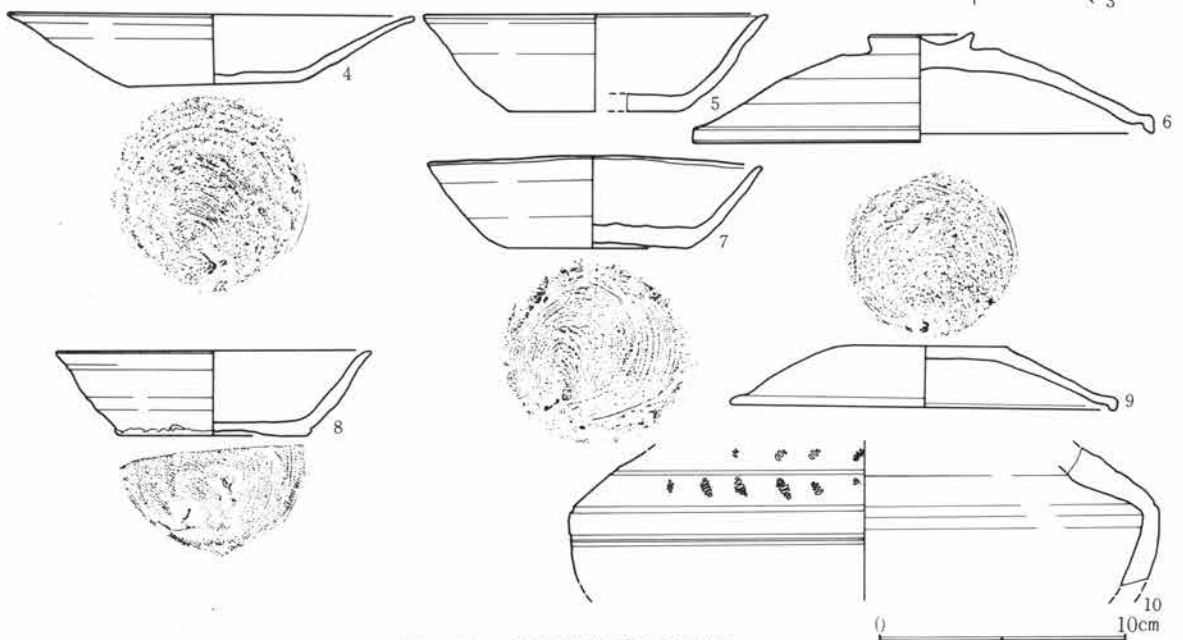


Fig.550 2号住居跡出土遺物(1)

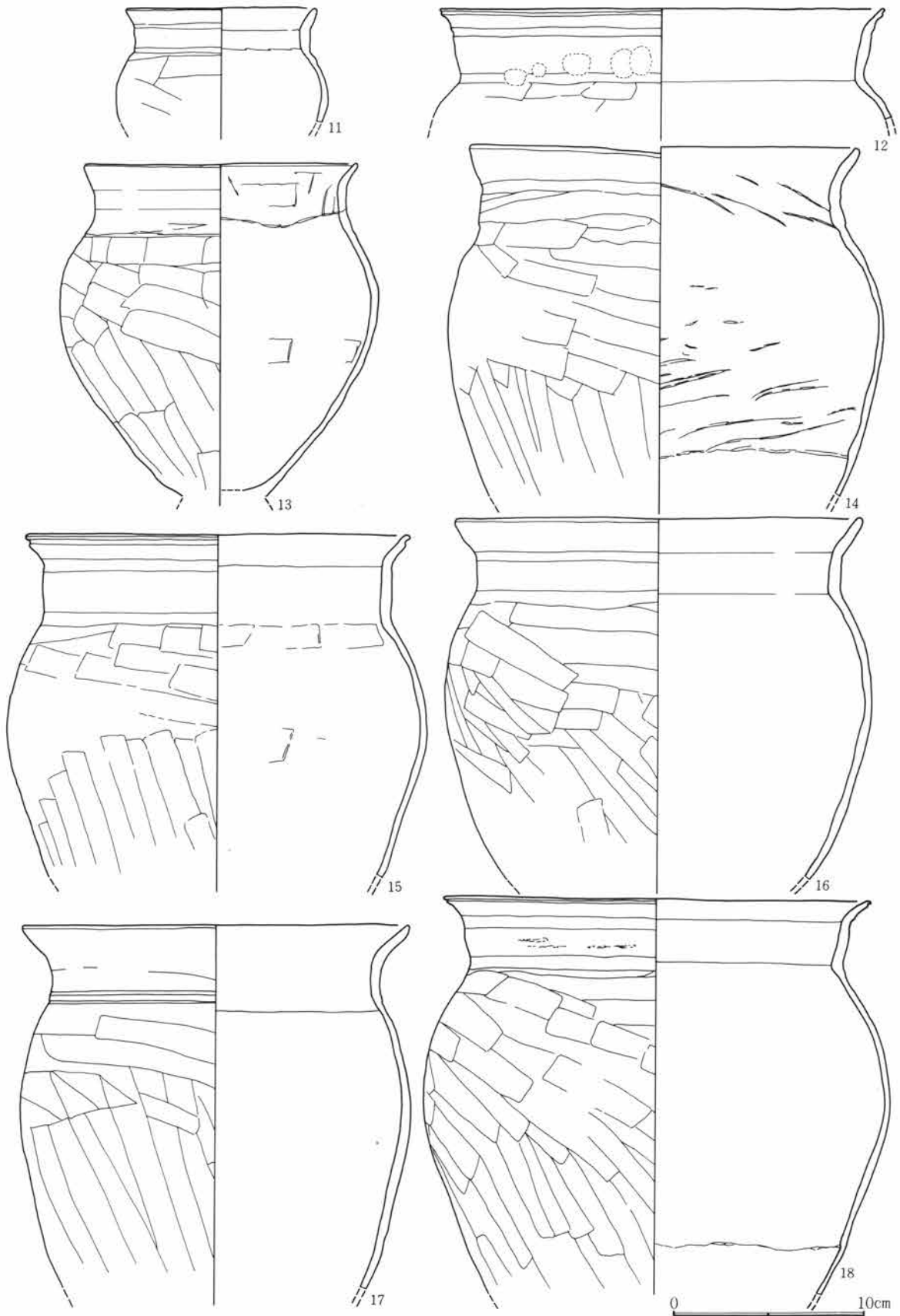


Fig.551 2号住居跡出土遺物(2)

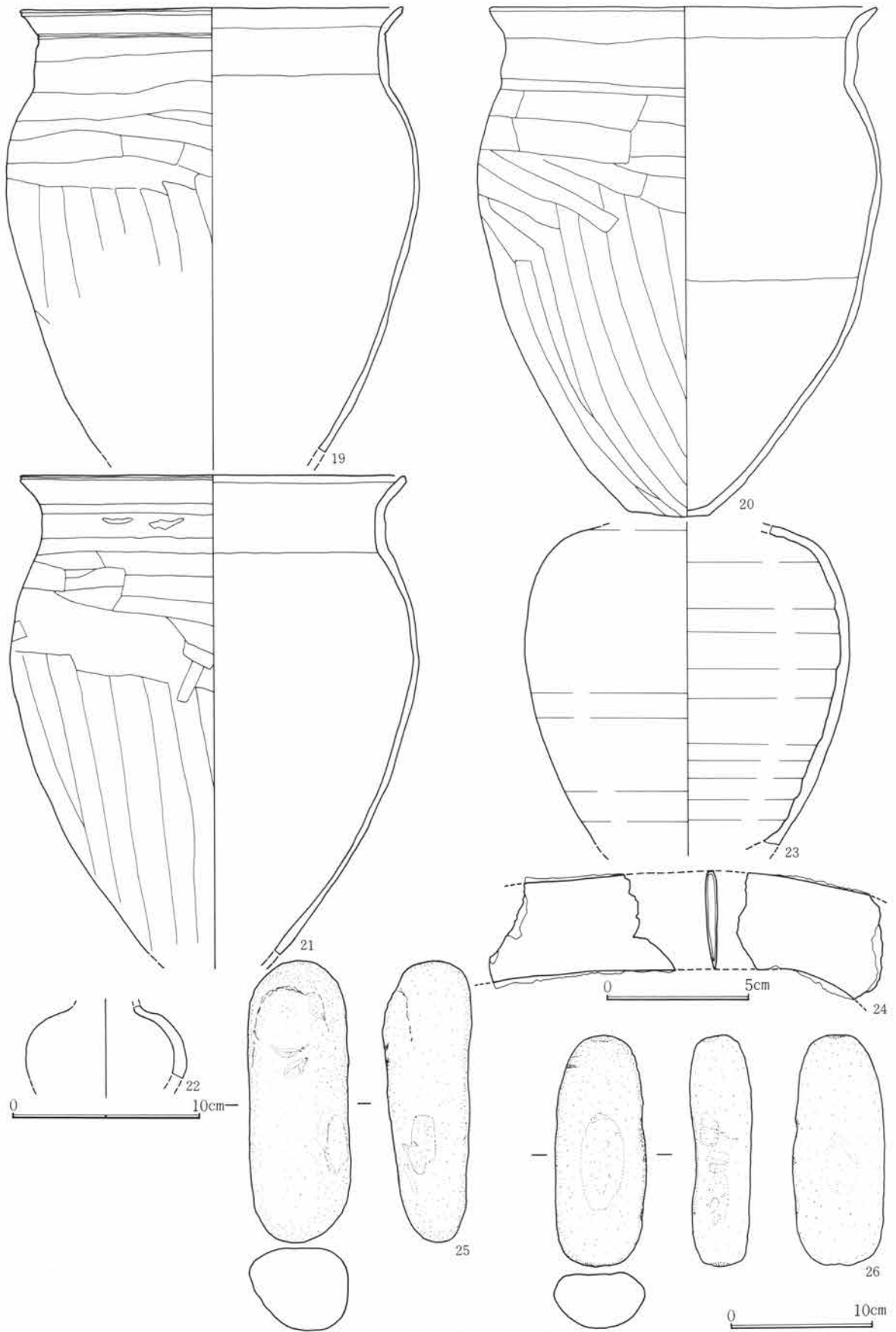


Fig.552 2号住居跡出土遺物(3)

第2号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)		出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
550-1 161	土師器 坏	口-12.2	高-3.7	No.1	口縁部ヨコナデ体部弱いナデ底部ヘラケズリ内面ナデ口縁端部内側へ内屈する	①良好②にぶい橙色③1~2mmの砂粒含む④完形
550-2 161	土師器 坏	口-11.6	高-2.8	No.2	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部直線状に外傾し端部弱く外反する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④残存
550-3 161	須恵器 蓋			覆土	内湾しながら開く	①良好②褐色③密④破片
550-4 161	須恵器 皿	口-16.1 底-7.1	高-3.1	覆土	底部回転系切右廻り	①良好②褐色③1~5mmの砂粒含む④残存
550-5 161	須恵器 坏	口-13.6 底-6.8	高-3.9	No.5	底部回転系切右廻り腰部から内湾ぎみに立ち上がり口縁部弱く外反する	①良好②灰色③2~3mmの砂粒含む④残存
550-6 161	須恵器 蓋	口-18.4	高-4.3	No.6	外面回転ヘラ調整端部内曲するつまみ部糸切痕残る	①良好②灰白色③細砂粒含む④完形
550-7 161	須恵器 坏	口-13.3 底-7.2	高-3.6	No.7	底部回転系切右廻り口縁部直線状に外傾する	①良好②灰色③密④残存
550-8 161	須恵器 坏	口-12.6 底-7.5	高-3.4	電覆土	底部回転系切右廻り口縁端部弱く外反する	①良好②灰白色③細砂粒含む④残存
550-9 161	須恵器 蓋	口-15.2	高-2.4	No.9	上面回転系切右廻り	①良好②灰白色③2~3mmの砂粒含む④残存
550-10 162	須恵器 長頸壺			No.10	肩部刺突文沈線が巡る	①良好②灰色③密④破片
551-11 162	土師器 甕	口-9.8		電覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部コの字状を呈する	①良好②赤褐色③細砂粒含む④口縁部残存
551-12 162	土師器 甕	口-22.8		No.12	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ頸部指頭痕内面ナデ口縁部コの字状を呈する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部残存
551-13 162	土師器 台付甕	口-14.1		No.13	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部にヘラ痕口縁部外反する	①良好②にぶい褐色③細砂粒含む④台部欠損
551-14 162	土師器 甕	口-20.2		覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデヘラ痕残る口縁部だれたコの字状を呈する	①良好②赤褐色③細砂粒含む④残存
551-15 162	土師器 甕	口-20.0		電覆土	口縁部ヨコナデ端部沈線巡る胴部ヘラケズリ内面ナデヘラ痕残る	①良好②橙色③細砂粒含む④残存
551-16 162	土師器 甕			覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部コの字状を呈する	①良好②赤褐色③細砂粒含む④残存
551-17 162	土師器 甕	口-20.0		電覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部コの字状を呈する	①良好②赤褐色③細砂粒含む④残存
551-18 163	土師器 甕	口-22.0		No.18	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部コの字状を呈す端部外屈する	①良好②にぶい褐色③細砂粒含む④残存
552-19 163	土師器 甕	口-20.2		電覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部コの字状を呈する	①良好②赤褐色③細砂粒含む④残存
552-20 163	土師器 甕	口-20.3 底-4.4	高-26.5	No.20	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部コの字状を呈する	①良好②赤褐色③細砂粒含む④完形
552-21 164	土師器 甕	口-20.2		電覆土	口縁部ヨコナデ胴部ヘラケズリ内面ナデ口縁部コの字状を呈する	①良好②赤褐色③細砂粒含む④残存
552-22 162	須恵器 小壺			覆土		①良好②黒褐色③細砂粒含む④肩部破片
552-23 163	須恵器 壺			No.23	内湾ぎみに立ち上がる	①良好②褐色③密④破片
Fig. 552-24	PL. 163	鉄製品 長-11.5cm 厚-4mm 鎌				
Fig. 552-25	PL. 163	石 長-19.6cm 幅-7.1cm 厚-6.2cm ひん岩				
Fig. 552-26	PL. 163	石 長-16.0cm 幅-6.4cm 厚-3.85cm 粗粒安山岩				

3号住居跡 (Fig. 553・554・555、PL. 157・164)

B区北東部に位置し43~45B48~50の範囲にある。1・2号住居跡の東にある。他の遺構との重複はない。規模は長辺4.2m、短辺3.7mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約10cm~20cmを測る。主軸方位はN-84°-Eである。床面は平坦をなし、南西コーナーに小穴が検出された。規模は径約50cm、深さ約30cm~40cmを測る。竈は南東コーナーに検出された。規模は燃焼部幅約80cm、同長約70cmを測る。

第1章 検出された遺構と遺物

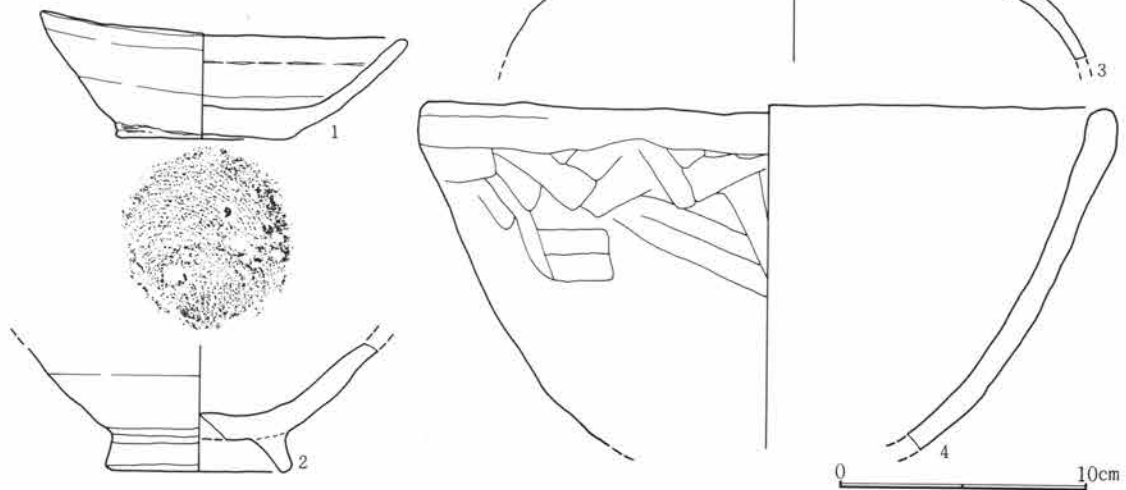
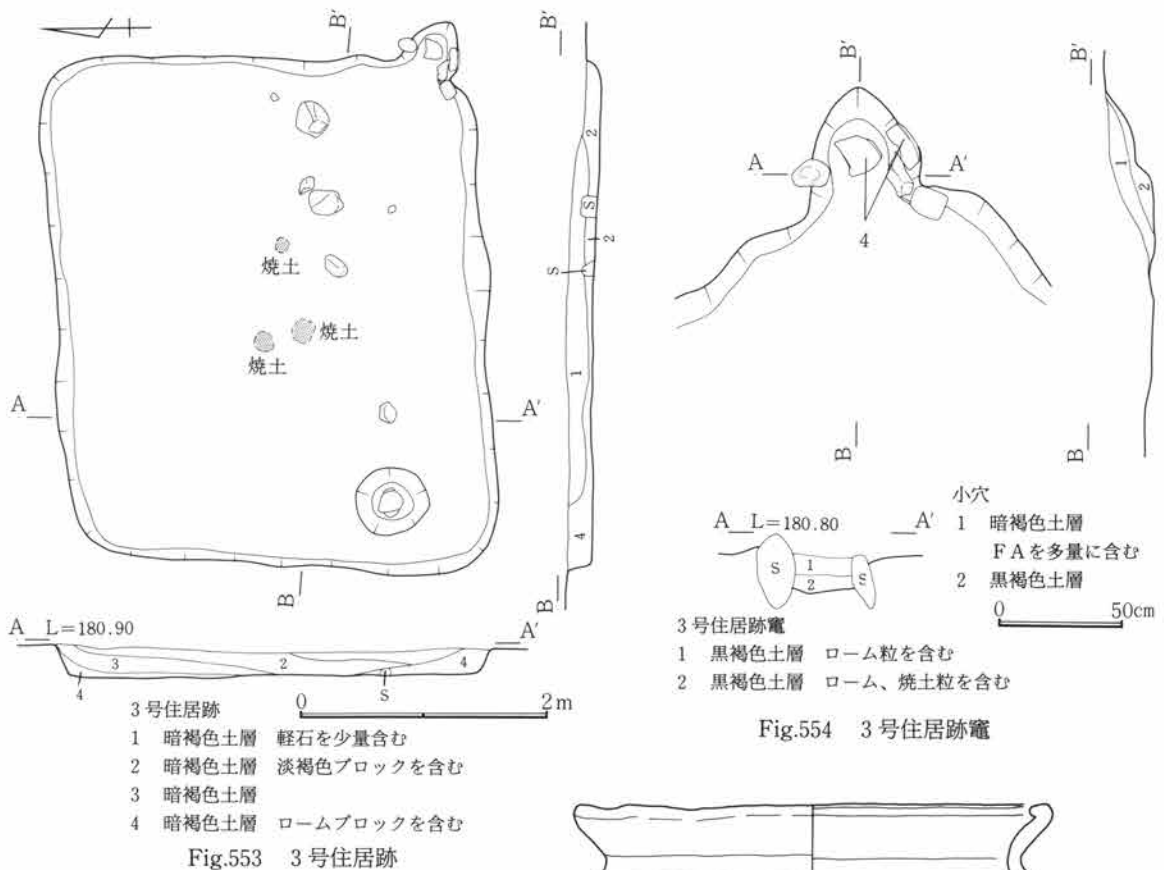


Fig.555 3号住居跡出土遺物

第3号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
555-1 164	土師器 坏	口-14.7 高-4.2 底-6.8	竈覆土	底部回転糸切	①良好②にぶい橙色③2~3mmの砂粒含む④1/2残存
555-2 164	土師器 埴	底-7.4	覆土	底部回転糸切付高台ハの字状に開く	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④1/2残存
555-3 164	須恵器 甕	口-19.0	竈覆土	口縁部ヨコナデ内外面ヘラナデ口縁端部内側に屈曲する	①良好②灰白色③細砂粒含む④口縁部1/2残存
555-4 164	土師器 鉢	口-27.2	No.4	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部肥厚し立ち上がる	①良好②赤褐色③5~6mmの砂粒含む④1/2残存

4号住居跡 (Fig. 556・557・558、PL. 157・158・164・165)

B区中央部に位置し15～18B22～24の範囲にある。6号住居跡の東にある。他の遺構との重複はなく南東コーナーは調査区域外、西部の一部には電信柱があり、未発掘である。規模は長辺5.2m、短辺4.7mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。主軸方位はN-88°-Eである。床面は平坦をなし、北半部に柱穴が2基検出された。竈は東壁南寄りに検出された。規模は燃烧部幅約70cm、同長60cmを測る。

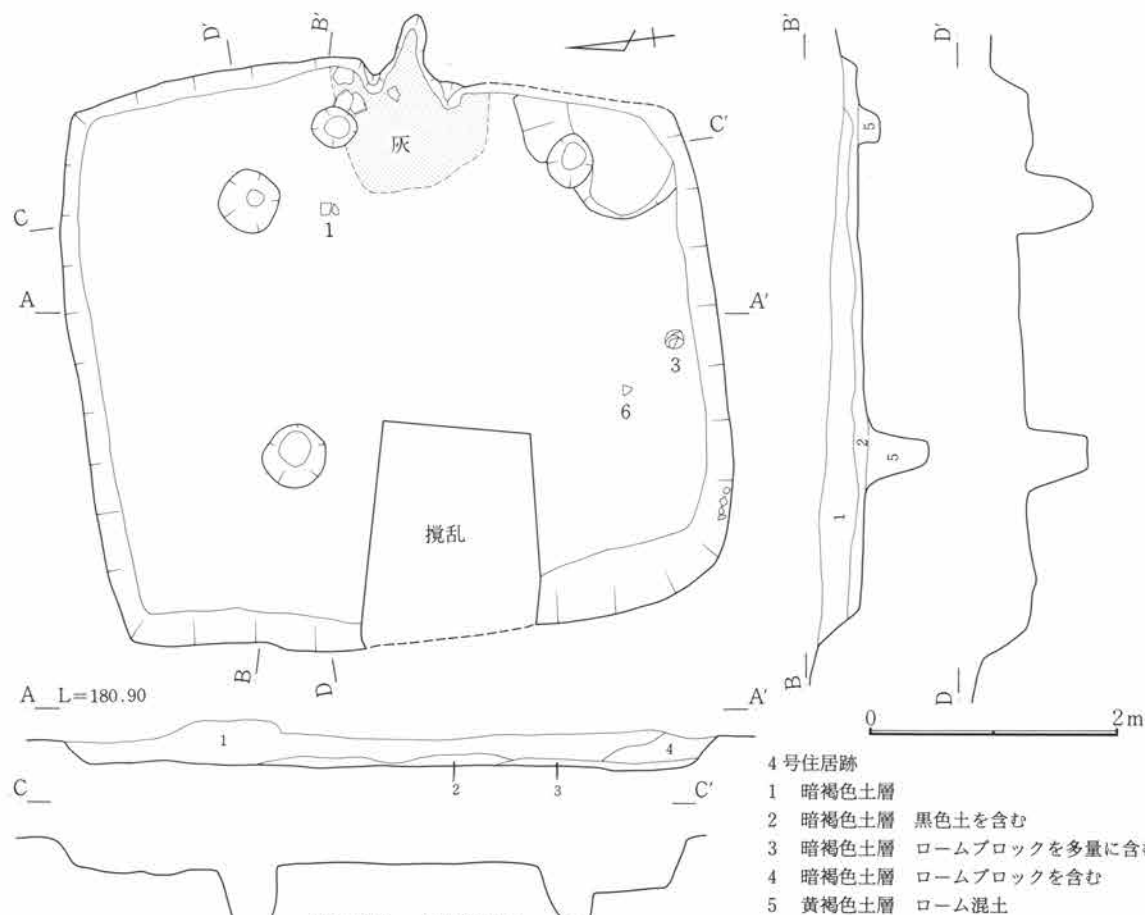


Fig.556 4号住居跡

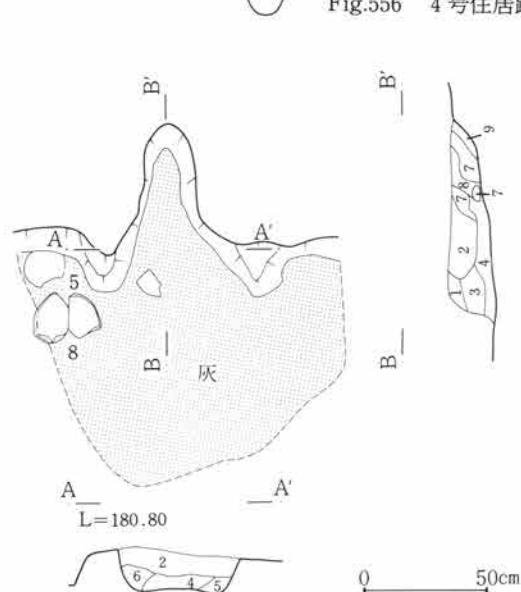


Fig.557 4号住居跡竈

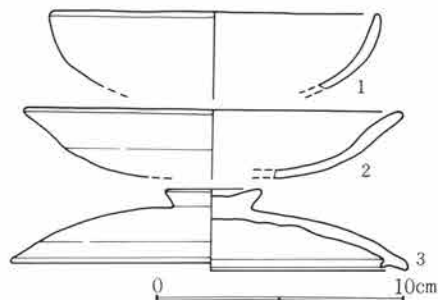


Fig.558 4号住居跡出土遺物(1)

第1章 検出された遺構と遺物

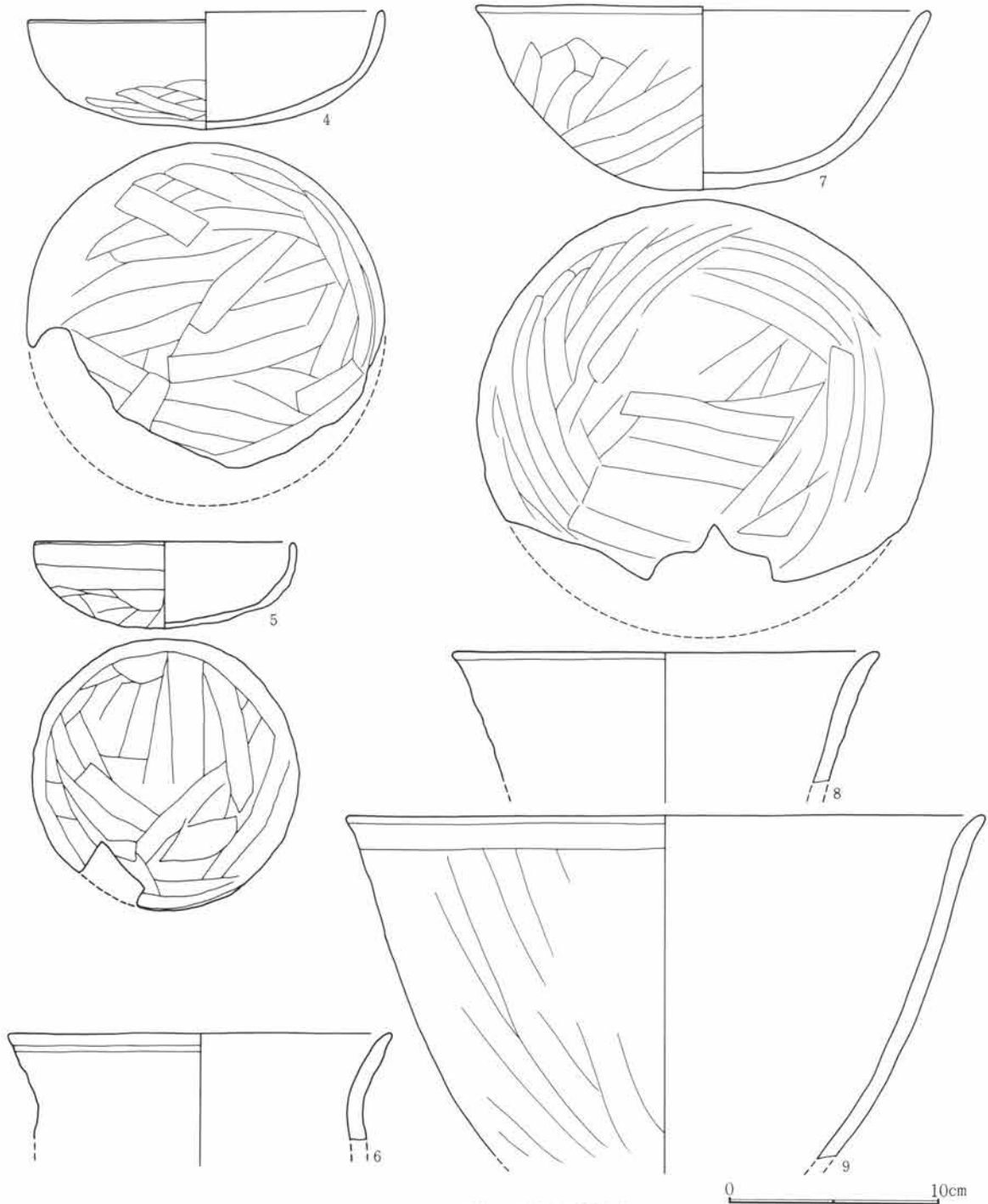


Fig.559 4号住居跡出土遺物(2)

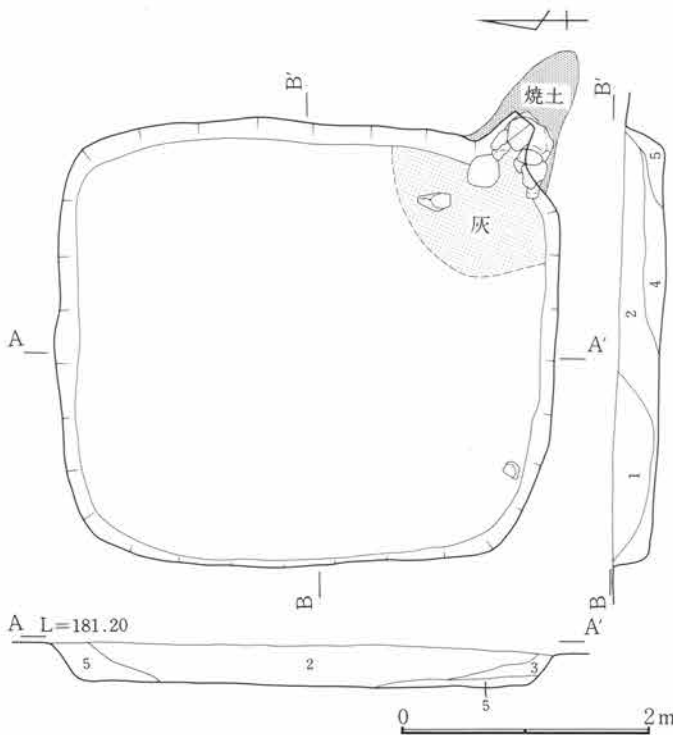
第4号住居跡出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
558-1 164	土師器 坏	口-12.8	No.1	口縁部ヨコナデ口縁部体部の境弱いナデ内面ナデ口縁部直立ぎみ	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
558-2 164	土師器 坏	口-14.8	覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部稜をもち外反する	①良好②橙色③細砂粒含む④口縁部破片
558-3 164	須恵器 蓋	口-3.7 高-3.2 底-15.7	No.3	外面回転ヘラ調整内面返りをもつ	①良好②灰色③1~2mmの砂粒含む④完形
559-4 164	土師器 坏	口-16.6 高-5.5	竈覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部内湾して立ち上がる	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④残存

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
559-5 164	土師器 坏	口-12.2 高-4.0	No 5	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ口縁部と体部の境弱いナデ内面ナデ	①良好②橙色③細砂粒含む④ほぼ完形
559-6 165	土師器 甕	口-17.8	No 6	口縁部ヨコナデ口縁部外反する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
559-7 165	土師器 鉢	口-21.2 高-8.5	竈覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラケズリ内面ナデ口縁部やや外反する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④残存
559-8 164	土師器 鉢	口-19.8	No 8	口縁部ヨコナデ体部ヘラナデ内面ナデ口縁部短く外側へ屈曲する	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④口縁部破片
559-9 165	土師器 鉢	口-29.8	竈覆土	口縁部ヨコナデ体部ヘラナデ内面ナデ口縁部弱く外反する	①良好②黒褐色③1~2mmの砂粒含む④口縁部破片

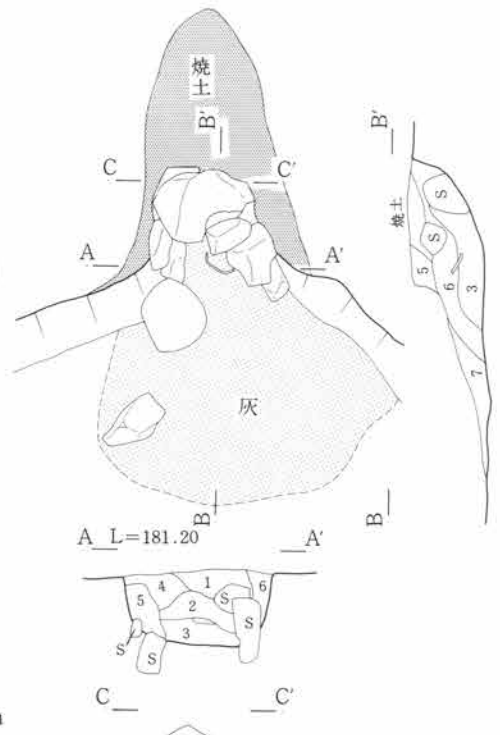
5号住居跡 (Fig. 560・561・562, PL. 158)

B区中央部に位置し51~53B27~29の範囲にある。6号住居跡の北に接し、他の遺構との重複はない。規模は長辺4m、短辺3.5mを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は約20cm~30cmを測る。主軸方位は、N-90°-Eである。床面は平坦をなし、壁周溝・柱穴等の諸施設は検出されていない。竈は南東コーナーに検出された。規模は燃焼部幅約60cm、同長約50cmを測り、煙道部は確認できなかったが付近から焼土が集中して検出された。



- 5号住居跡
- 1 暗褐色土層 軽石を多量に含む
 - 2 暗褐色土層 軽石を少量含む
 - 3 黒褐色土層
 - 4 暗褐色土層
 - 5 暗褐色土層 褐色土ブロックを含む

Fig.560 5号住居跡



- 5号住居跡竈
- 1 暗褐色土層 ローム粒を含む
 - 2 暗褐色土層 焼土粒、炭を含む
 - 3 暗褐色土層 黒色灰、焼土を含む
 - 4 暗褐色土層 ローム粒を多量に含む
 - 5 暗褐色土層 焼土粒を多量に含む
 - 6 暗褐色土層 ローム粒、焼土粒を含む
 - 7 暗褐色土層 黒色灰を多量に含む

Fig.561 5号住居跡竈

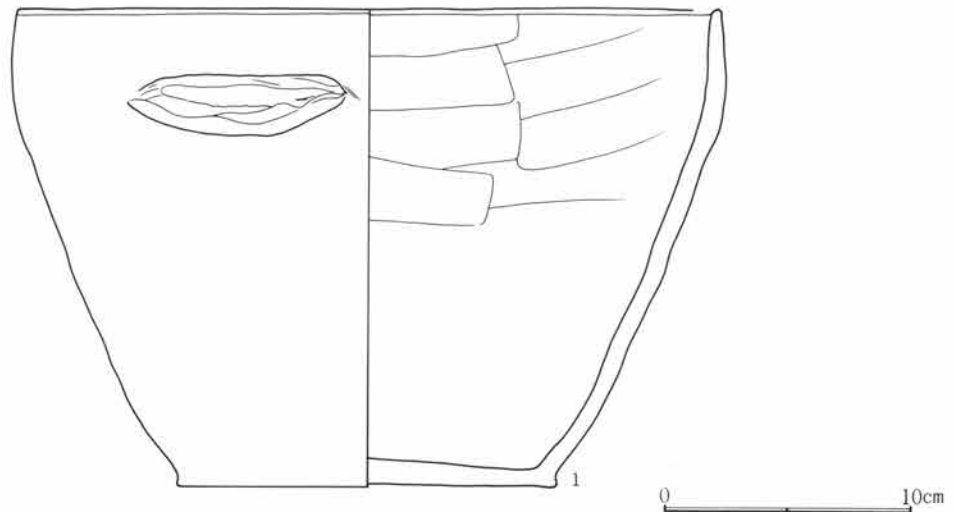
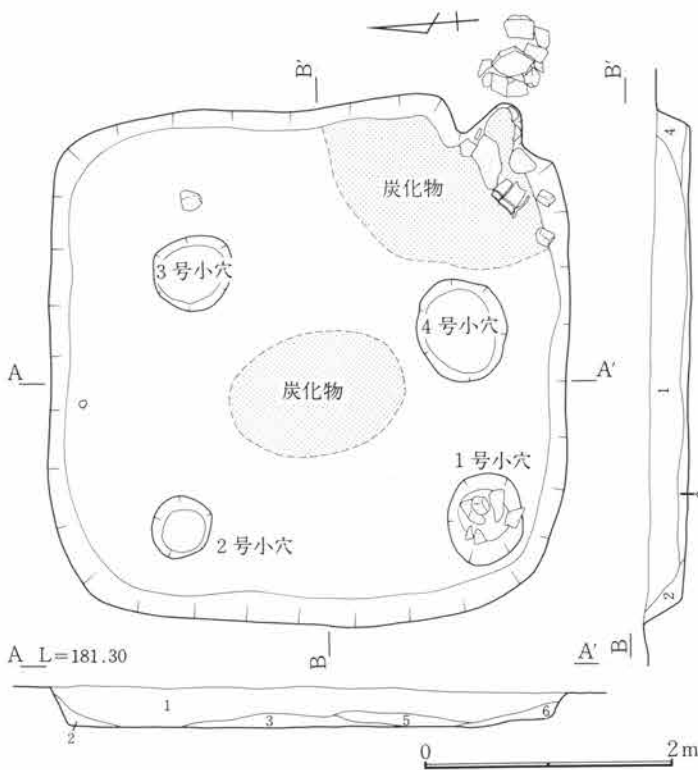


Fig.562 5号住居跡出土遺物

第5号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
562-1	土師器 土釜	口-28.0 高-18.8 底-15.2	竈覆土	口縁部ヨコナデ内面ヘラナデ口縁部に鑿状の貼付あり	①良好②にぶい褐色③2~3mmの砂粒含む④残存

6号住居跡 (Fig. 563・564・565、PL. 158・165)



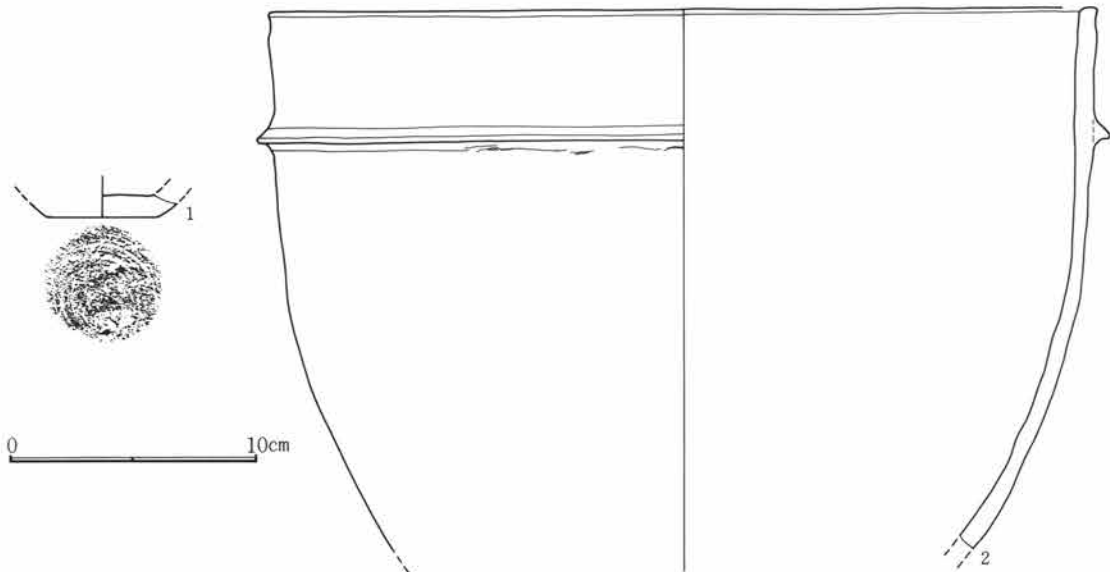
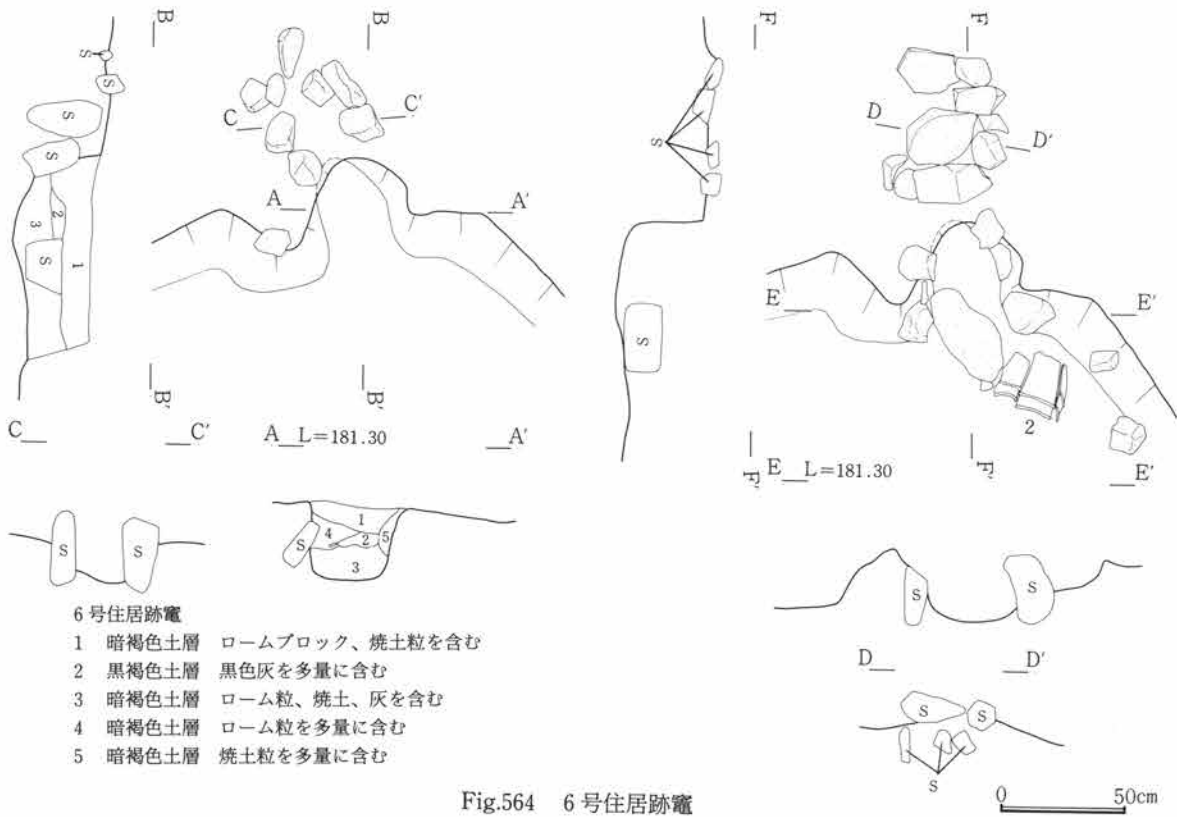
B区中央部に位置し51~55 B24~26の範囲にある。5号住居跡の南に接している。他の遺構との重複はない。規模は一辺4.3mの隅丸方形を呈する。壁高は約30cm~40cmを測る。主軸方位はN-90°-Eである。床面は平坦をなし、中央部に炭化物が検出され、さらに小穴が4基検出された。規模は1号が径約75cm×60cm、深さ約50cm、2号は径約50cm、深さ約20cm、3号は径約50cm、深さ約16cm、4号は径約85cm、深さ約15cmである。小穴1号覆土より石が検出された。規模は燃焼部幅約60cm、同長約60cmを測る。竈前床面上には炭化物が広がって検出された。

6号住居跡

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1 暗褐色土層 軽石を多量に含む | 4 褐色土層 |
| 2 暗褐色土層 ロームブロックを含む | 5 暗褐色土層 軽石を含む |
| 3 黒褐色土層 黒色灰を含む | 6 黒褐色土層 軽石を少量含む |

Fig.563 6号住居跡

第1節 竪穴住居跡



第6号住居跡出土遺物観察表

Fig. No. PL. No.	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
565-1	土師器 皿	底-4.4	覆土	底部回転糸切	①良好②にぶい橙色③細砂粒含む④底部残存
565-2 165	甑	口-32.8	No 2	鋳短く下を向く口縁部弱く外傾する	①良好②赤褐色③2~3mmの砂粒含む④残存

第2節 土坑・溝・井戸

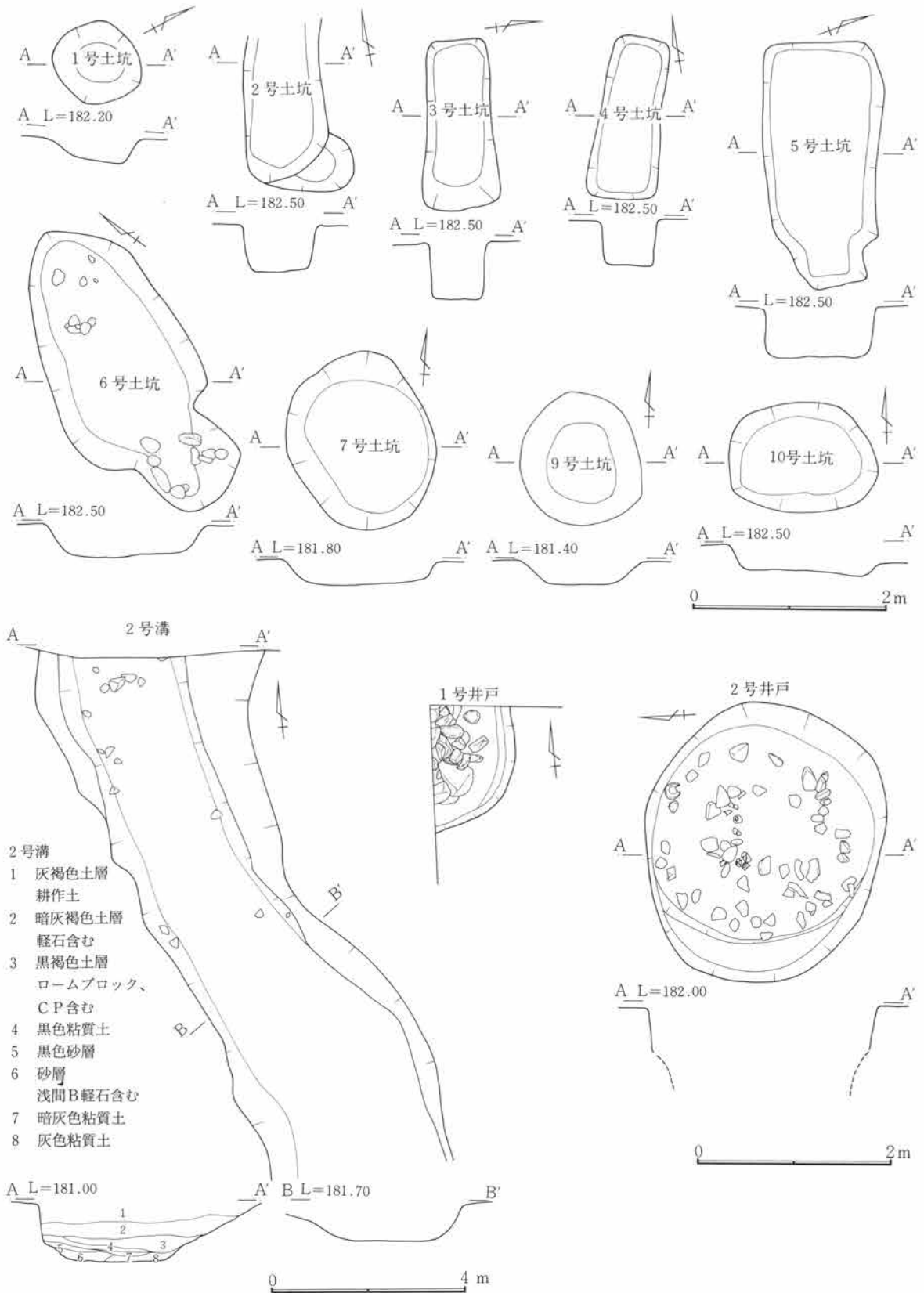
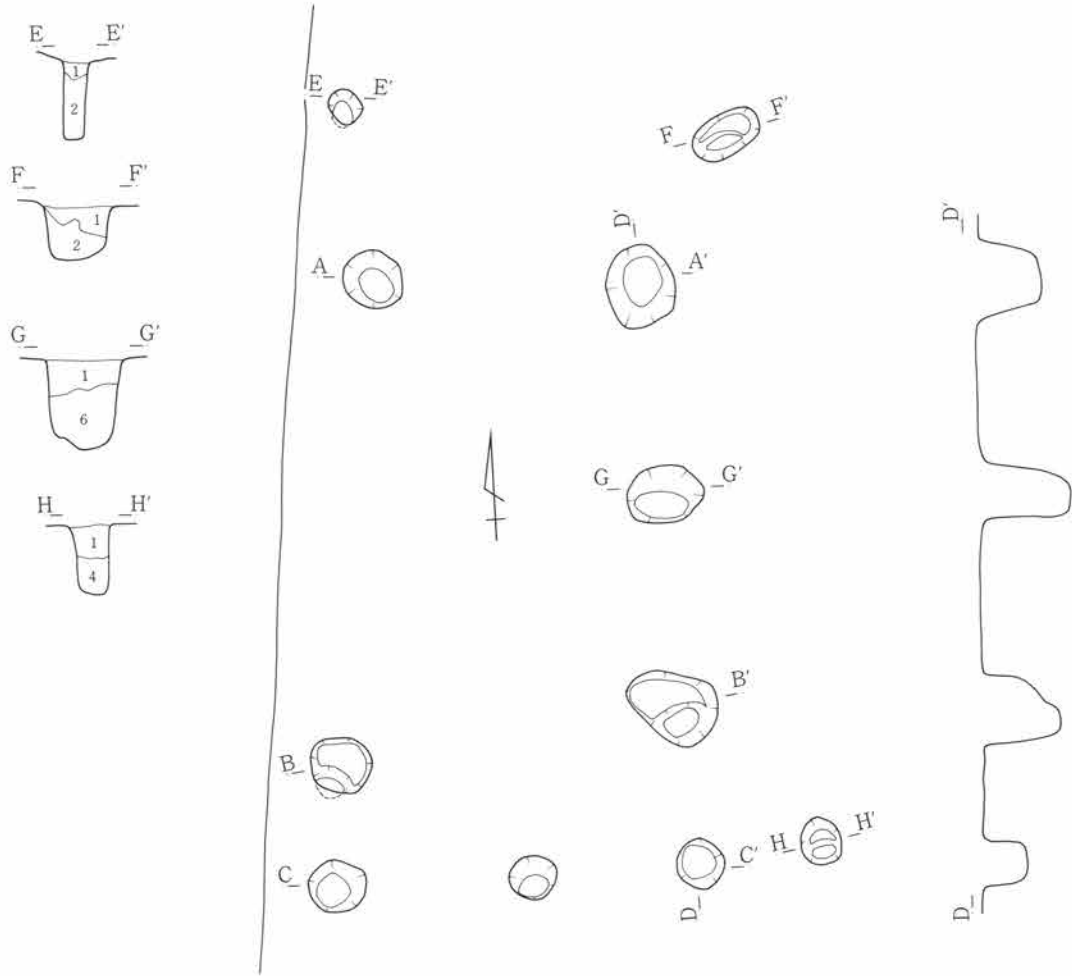


Fig.566 土坑・溝・井戸遺構

第3節 掘立柱建物跡



1号掘立柱建物跡

- 1 茶褐色土層 FAブロックを含む
- 2 暗褐色土層 軽石を少量含む
- 3 茶褐色土層 軽石を多量に含む
- 4 暗褐色土層
- 5 黒褐色土層 ロームブロックを含む
- 6 暗褐色土層 ローム粒を含む
- 7 茶褐色土層 軽石、FAを含む

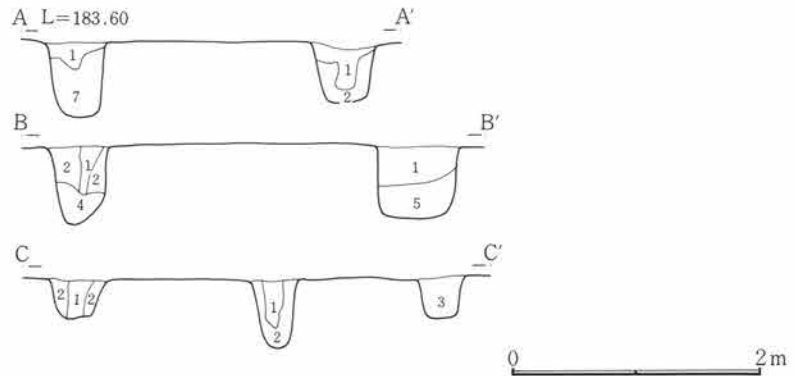


Fig.567 1号掘立柱建物跡

第2章 陶磁器

大西 雅広

はじめに

大久保遺跡からは、総数400点の軟質陶器を含む近世陶磁器が出土している。これらの陶磁器総てを報告書に掲載・報告することは時間的制約から行い得ないため、口縁部・底部を中心に遺存度の高い個体を選択した。なお、調理・貯蔵容器は、全体に遺存度が低いために細片をも選択し、17世紀に属すると思われる物もこれに含めた。このような基準で約40点にあたる104点の陶磁器を選択した。出土地点毎の内訳は表に示したとおりである。先の選択基準からすれば、この表に表れた不掲載率の高さと出土個体数の少なさは、間接的に2

大久保B遺跡出土陶器集計表

	掲載遺物			不掲載遺物			総計
	陶磁器	軟質陶器	小計	陶磁器	軟質陶器	小計	
1号井戸	3	2	5	0	1	1	6
2号井戸	40	6	46	26	9	35	81
1号土坑	1	0	1	0	0	0	1
3号土坑	2	0	2	2	0	2	4
5号土坑	0	0	0	4	1	5	5
6号土坑	3	0	3	1	1	2	5
1号溝	1	0	1	7	3	10	11
2号溝	0	0	0	0	2	2	2
51B-58トレ	0	0	0	0	1	1	1
28E-58トレ	33	2	35	24	11	35	70
60E-26~28	3	1	4	115	79	194	198
E区西側道	2	0	2	1	0	1	3
E区東側道	0	0	0	0	2	2	2
C区東側道	0	0	0	0	1	1	1
表土	4	0	4	3	2	5	9
2号住居跡	1	0	1	0	0	0	1
総計	93	11	104	183	113	296	400

次の廃棄などを示していると考えられる。ここで使用する陶磁器の年代観は、有田焼・波佐見焼などの肥前系については「肥前陶磁の変遷と出土分布」⁽¹⁾、「波佐見焼の変遷」⁽²⁾を瀬戸・美濃系については『美濃の古陶』⁽³⁾「本業焼の変遷(1)~(3)」⁽⁴⁾によった。なお、筆者は調査担当ではないため、遺物の出土状態や遺構については触れず、出土陶磁器についてのみまとめることとする。

陶磁器出土遺構及び出土地点

B・C区からは、近世陶磁器の出土量は5点と非常に少なく、図示し得たのは2号住居跡確認時に出土した燈明皿受け皿(109)のみである。遺構としてはC区東側に2号溝が検出されているものの、遺物は軟質陶器細片2点であり、明らかに2次的なありかたである。また、4・5・6号住居跡の間には、時期が確定できないが畑が確認されていることからB・C区は近世には畑地として利用されていたと考えられる。

E区は遺構・遺物共に多く、中でもE区北西部には井戸・土坑・交差する溝などの遺構が集中している。また、溝の区画内(東側)に設定されたと思われるトレンチ(28E-58トレ)からは、まとめて陶磁器が出土している。井戸は2基確認されているが、1号井戸は調査区外に続くために一部の調査となっている。1号井戸からは5点の陶器が出土している。時期的には1の陶胎染付碗が18世紀前半、3の堺系播鉢が18世紀末~19世紀前半であり、時期的には単一ではない。2号井戸は1号井戸の東約5mに位置し、最も出土量の多い遺構である。陶磁器は「覆土・下部層」とに分けて取り上げられているが、両者は18世紀代を中心として19世紀前半の陶磁器を少量混じえ、時期差は認められない。2号井戸出土磁器碗(7)は、28E58トレンチ出土の破片と接合関係がある。土坑は6基検出され、このうち1・3・5・6号土坑から陶磁器が少量ながら出土している。陶磁器はいずれも18世紀代で54のみ19世紀前半に下る可能性がある。E区では、1カ所のトレンチ(28E-58)から70点の陶磁器が出土している。陶磁器は、全体に遺存率が高く遺構の存在を示唆している。このトレンチは土坑・井戸の東に検出された交差する溝の東約15mに設定されており、溝による区

画内の遺物と推定される。また、染付碗（7）の2号井戸との接合関係は、2号井戸と溝東側の空間との関わりを推測させる。

出土陶磁器

大久保遺跡出土陶磁器は、一部17世紀後半に入る可能性のあるものが存在するものの、ほとんどは18世紀代の所産であり、19世紀前半は徳利、搦鉢などが認められる程度である。これらのうち碗類は、波佐見系の陶胎染付や磁器染付（1・7・9・14・57・58など）が主体を占め、瀬戸・美濃系陶器（11・12・16・17など）が客体的に、唐津系（13）が少量存在する。これは県内他遺跡の傾向と比較すると、いわゆる「尾呂茶碗」が少ないものの他の点については一致する。皿類は、量的に少ないが波佐見系の染付（24）と有田周辺の「墨弾き」を使用したやや高級品と思われるものが2点出土している。搦鉢は瀬戸・美濃系は最も少なく、無釉・焼締陶器の堺系と思われるものが主体を占める。堺系と思われる搦鉢は、近年県内各地で多く確認され始めている。これら以外には、製作地不詳であるが、信楽焼に似た胎土を有する搦鉢（36・37・38）が少量出土している。この搦鉢も少量ながら県内各地で認められ、県内全体に供給されていたようである。練り鉢・甕・片口に関しては、近県の地方窯創業以前のため、総て瀬戸・美濃系である。在地製軟質陶器は、内耳焙烙・火鉢・香炉・鉢形鍋がある。このうち鉢形鍋は取手や吊手が付かず、器壁が薄く体部外面に多量の煤が付着している。

まとめ

大久保遺跡出土陶磁器は、飲食器、調理・貯蔵容器、灯火具、仏具など日常生活用品がかなりまとまって出土している。また、出土地点も県道前橋・伊香保線以北のE区北西部に集中し、この部分には井戸、土坑、交差する溝が存在する。出土陶磁器の内容・出土地点や井戸の存在から交差する溝は、屋敷地の区画溝と考えられる。遺跡地内からは他にまとまった陶磁器の出土や遺構がなく、一部ではあるがB区に畑が認められることからE区北西部以外は畑地として利用されていたと考えられる。また、出土陶磁器には安価な大量生産品⁽⁵⁾が殆どであり、高級品や嗜好品が認められないことから、周辺に広がる畑地の耕作を生活の糧としていた農村の一屋敷であったと推定される。

註

- 1 大橋康二 「肥前陶磁の変遷と出土分布」 『国内出土の肥前陶磁』 佐賀県立九州陶磁文化館 1984
- 2 大橋康二 「波佐見焼の変遷」 『長崎の陶磁』 佐賀県立九州陶磁文化館 1988
- 3 美濃古窯研究会 『美濃の古陶』 光琳社出版 1976
- 4 藤澤良祐 「本業焼の変遷（1）」 『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要VI』 瀬戸市歴史民俗資料館 1987
- 5 藤澤良祐 「本業焼の変遷（2）・（3）」 『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要VII』 瀬戸市歴史民俗資料館 1988
- 6 現在旧大久保村は、畑作中心であるが明和4（1767）年の『村明細帳』によれば「金田惣兵衛組 反別 七五町六反六歩」の内訳が「六町三反九畝二四歩 田方、六九町二反〇畝一二歩 畑方」、「金谷九兵衛組 反別 二五町二反一畝十歩」の内訳が「一町三反三畝十歩 田方、二三町八反八畝〇〇歩 畑方」、「栗原源右衛門組 反別 一八町六反四畝一四歩」の内訳が「一町六反七畝一八歩 田方、一六町九反六畝二六歩 畑方」、「高橋幸右衛門組 反別 一八町五反二畝〇六歩」の内訳が「一町六反一畝二四歩 田方、一六町九反〇畝一二歩 畑方」、「樺沢佐吾衛門組 反別 六五町九反五畝一四歩」の内訳が「三町一反五畝二三歩 田方、六二町七反九畝二一歩 畑方」とあり、18世紀後半にも畑作中心の村であったことがわかる。また、佐渡奉行街道は東約1kmを南北に通っているため、大久保宿との関連は考えられない。

第2章 陶磁器

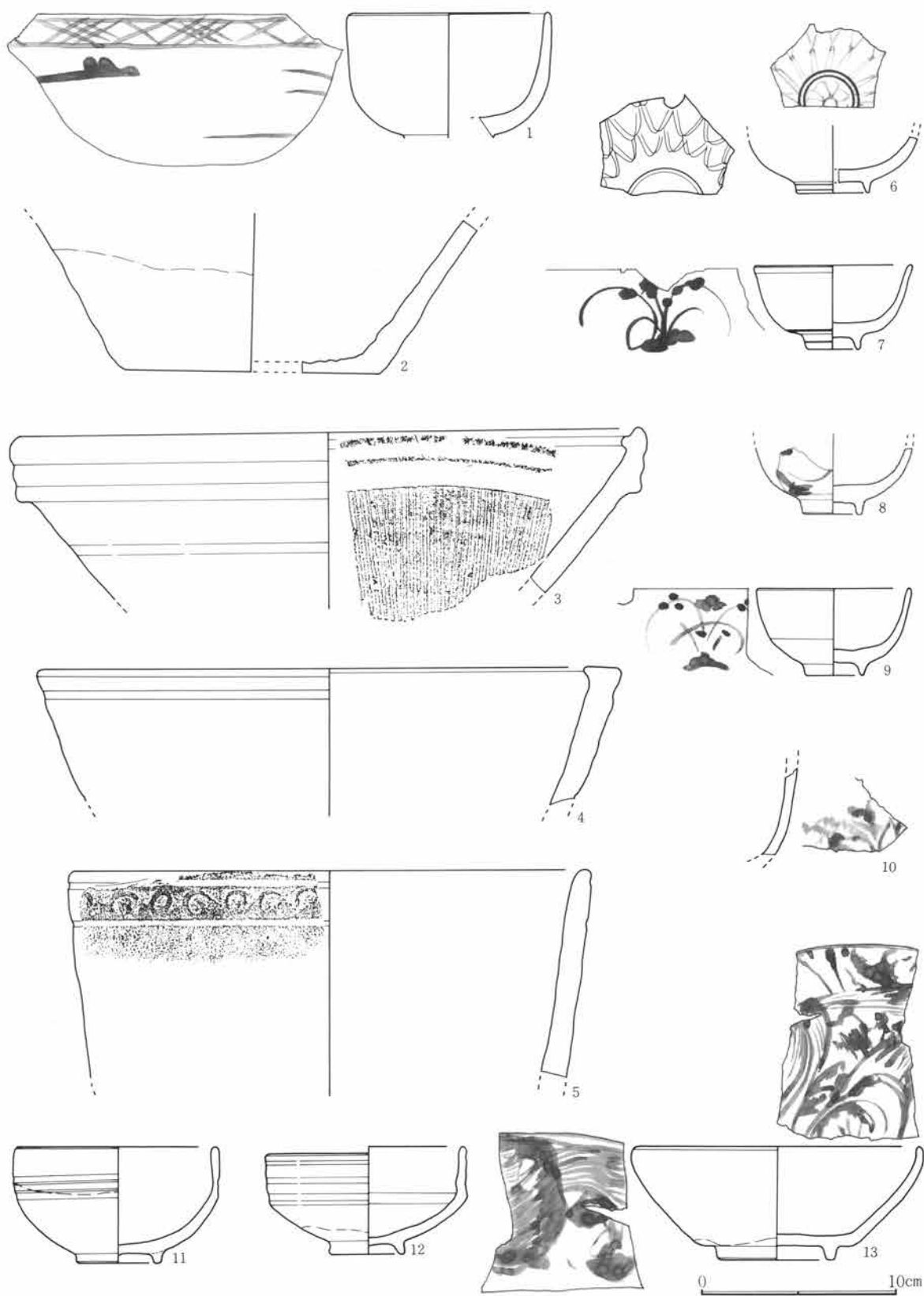


Fig.568 陶磁器(1)

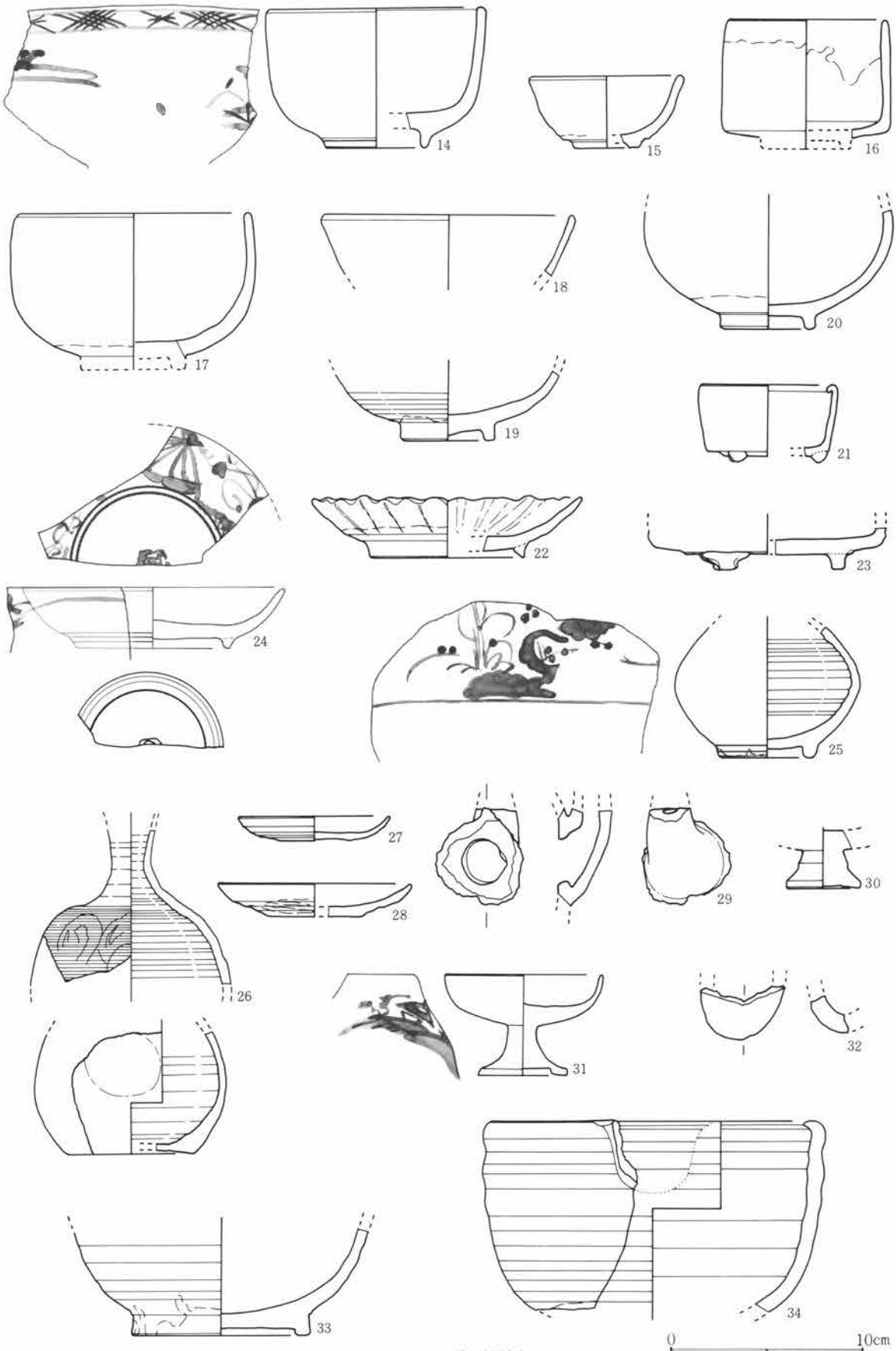


Fig.569 陶磁器(2)

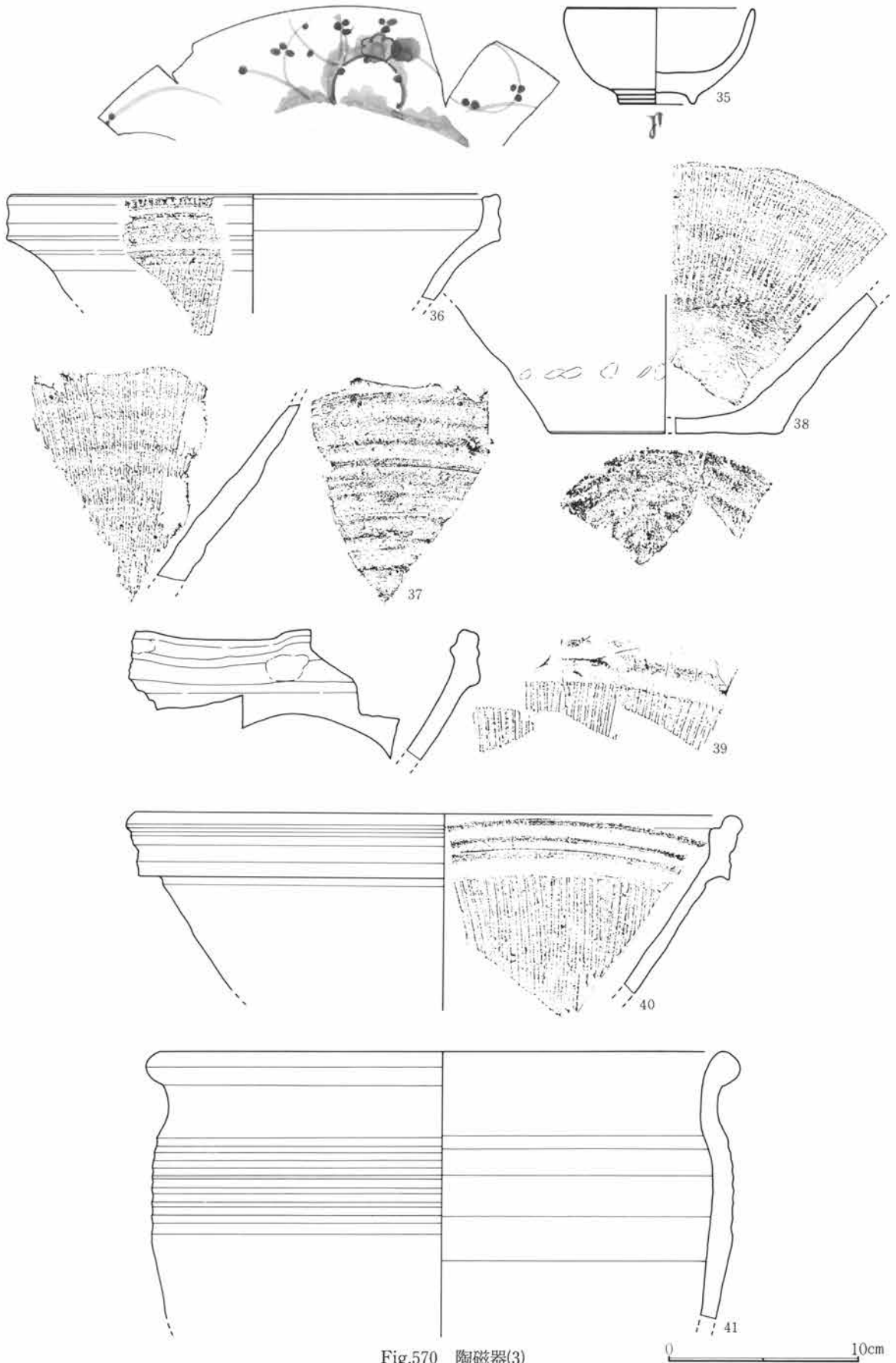


Fig.570 陶磁器(3)

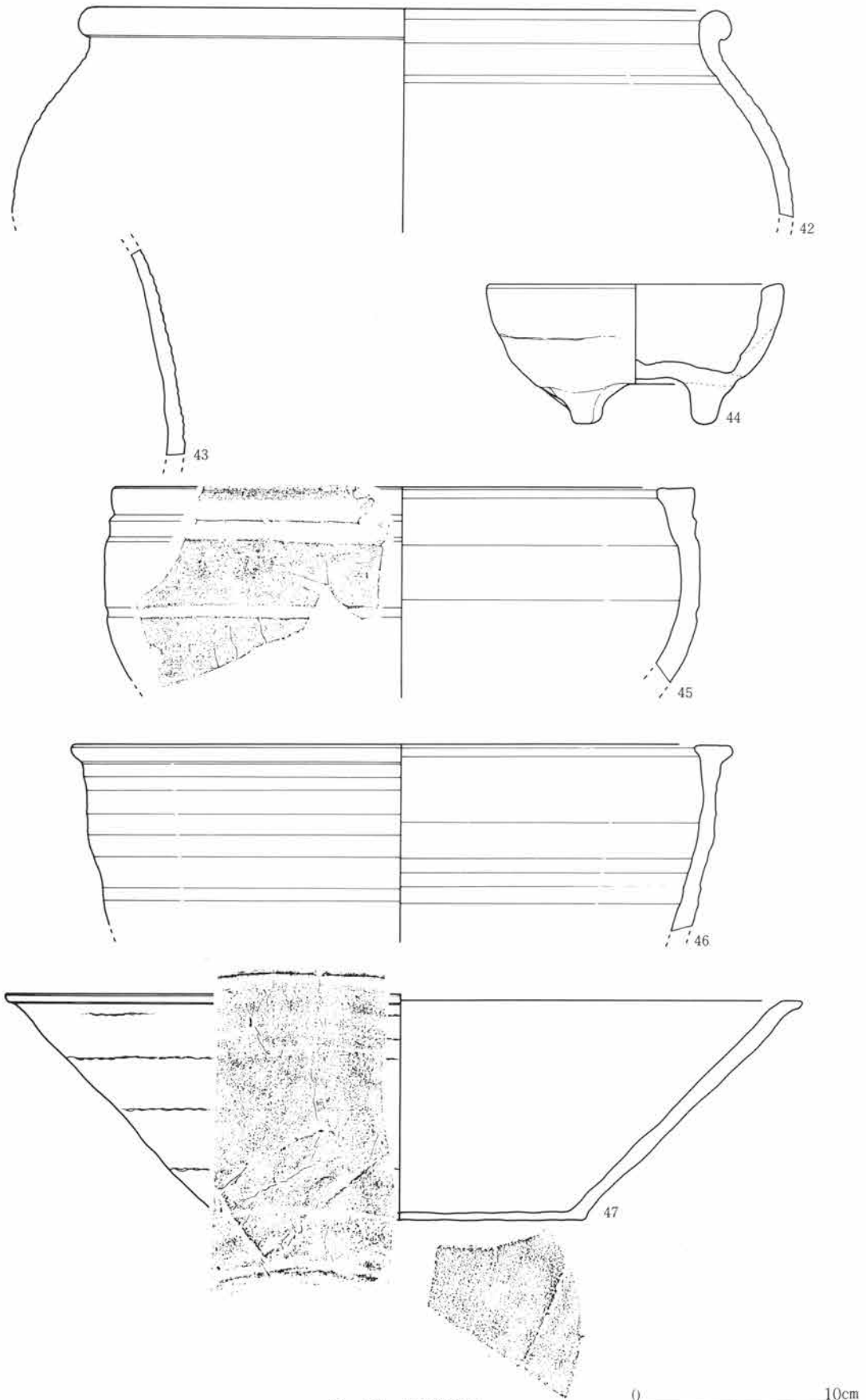
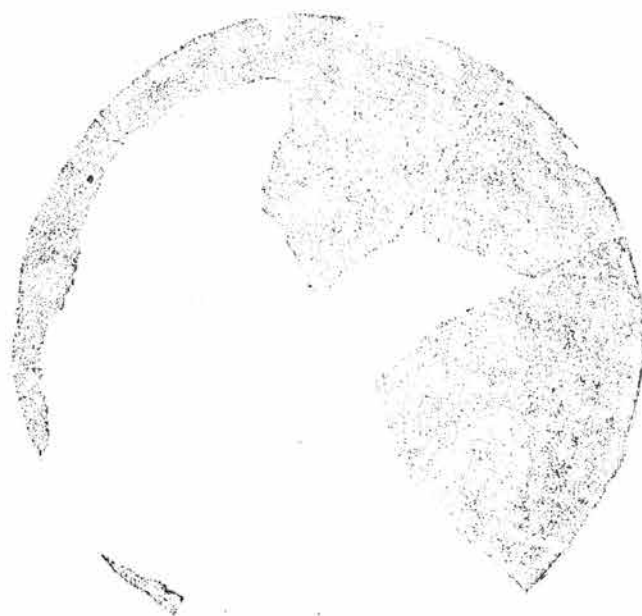


Fig.571 陶磁器(4)



48



0 10cm

Fig.572 陶磁器(5)

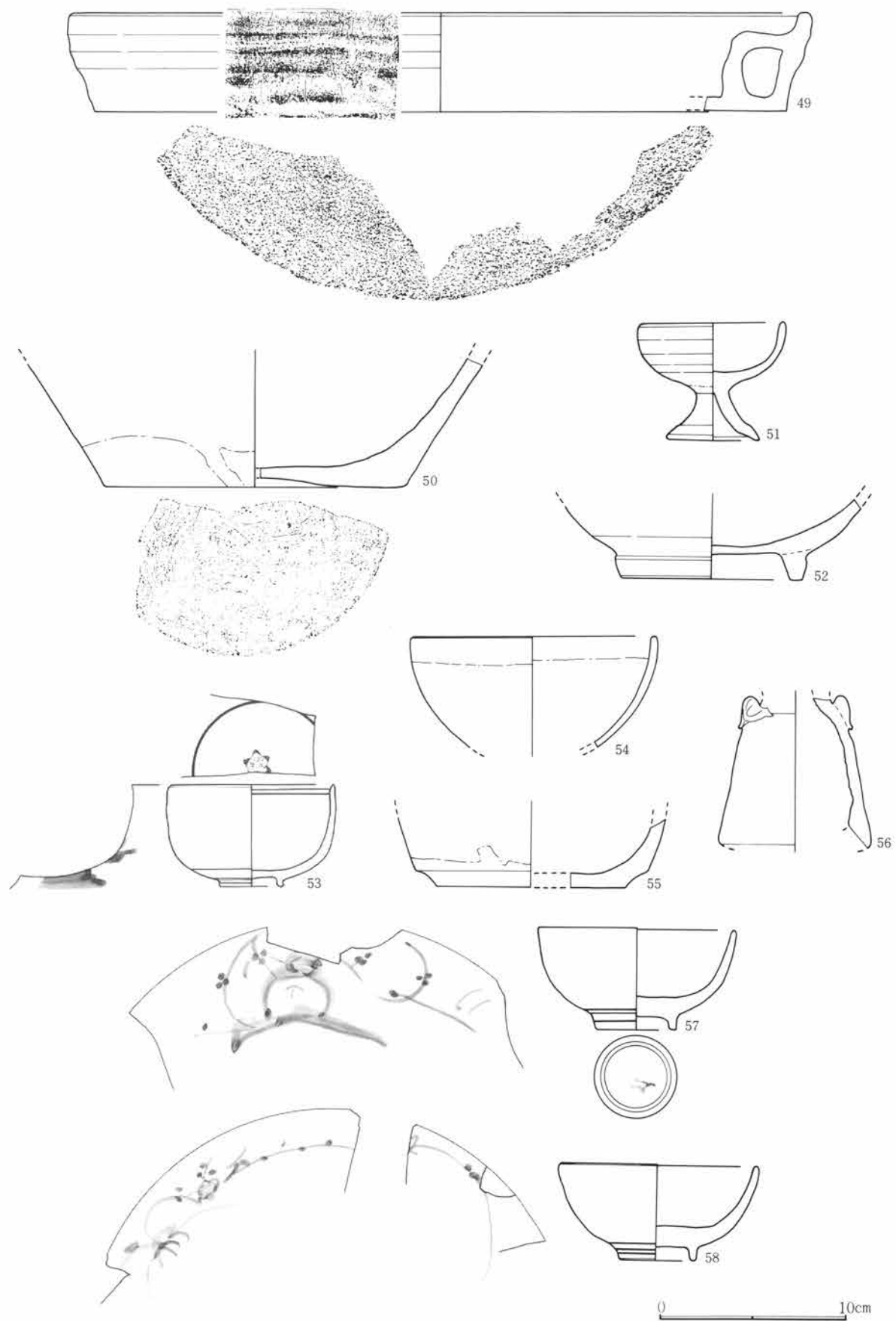


Fig.573 陶磁器(6)

第2章 陶磁器

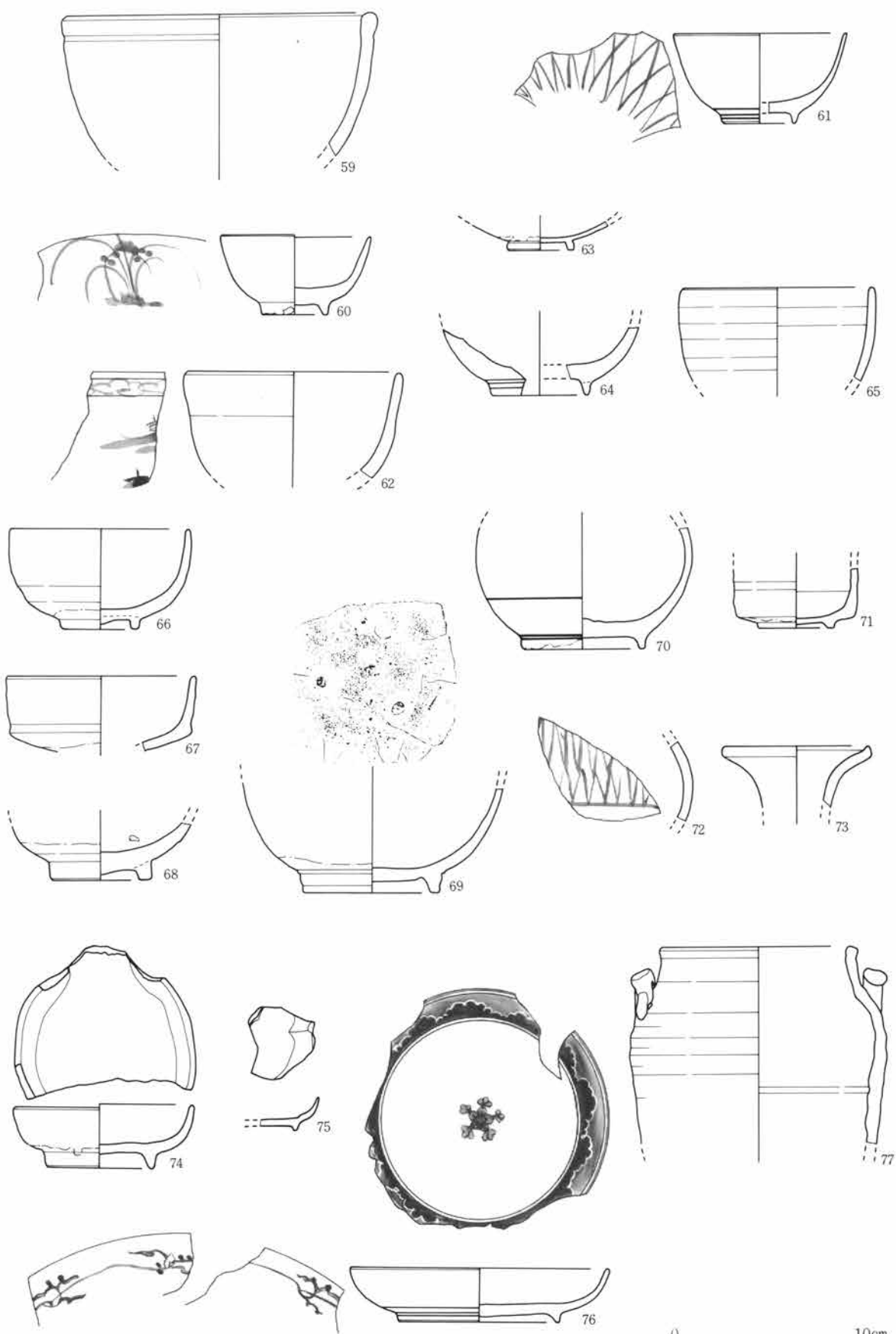


Fig.574 陶磁器(7)

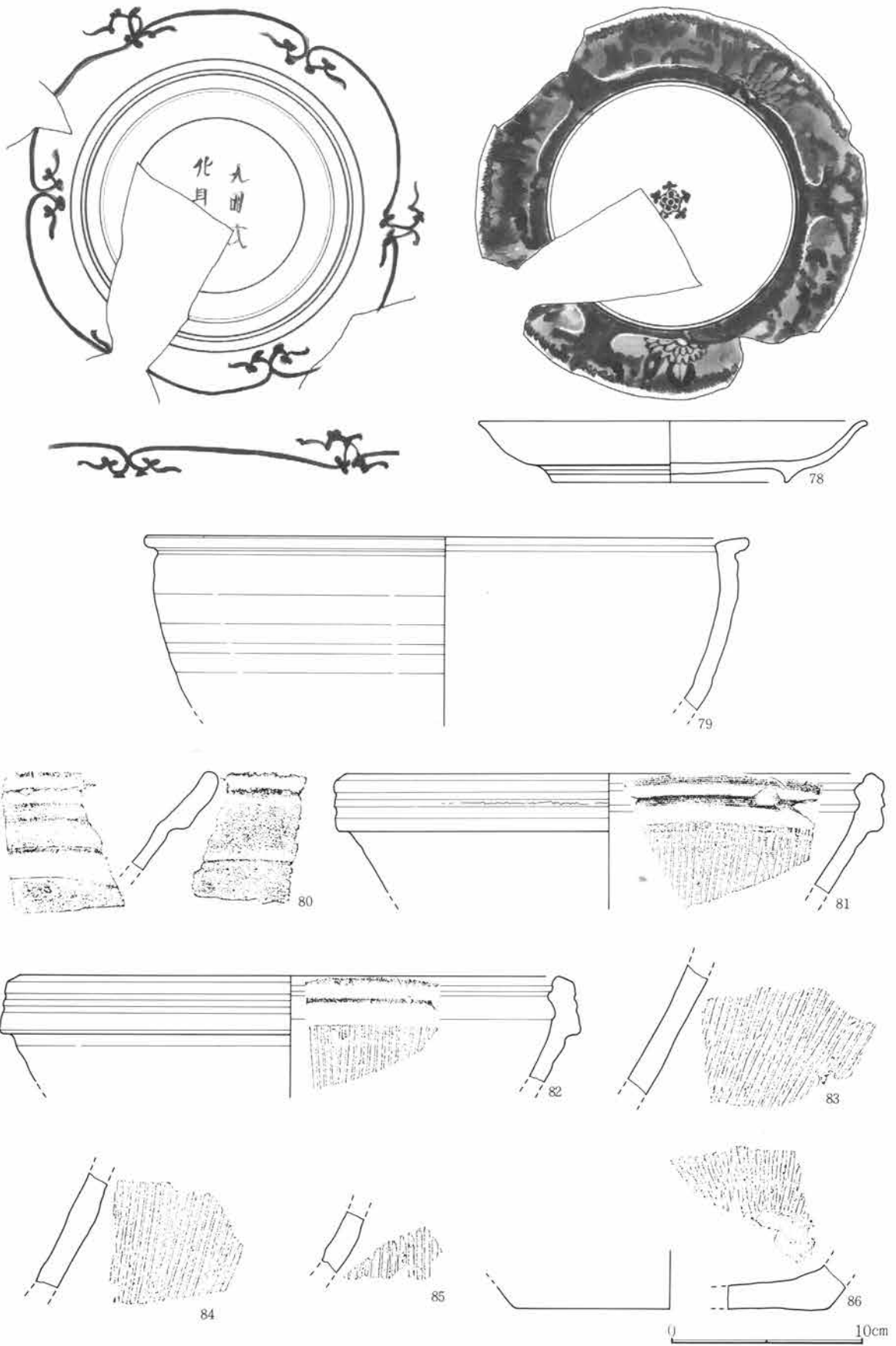
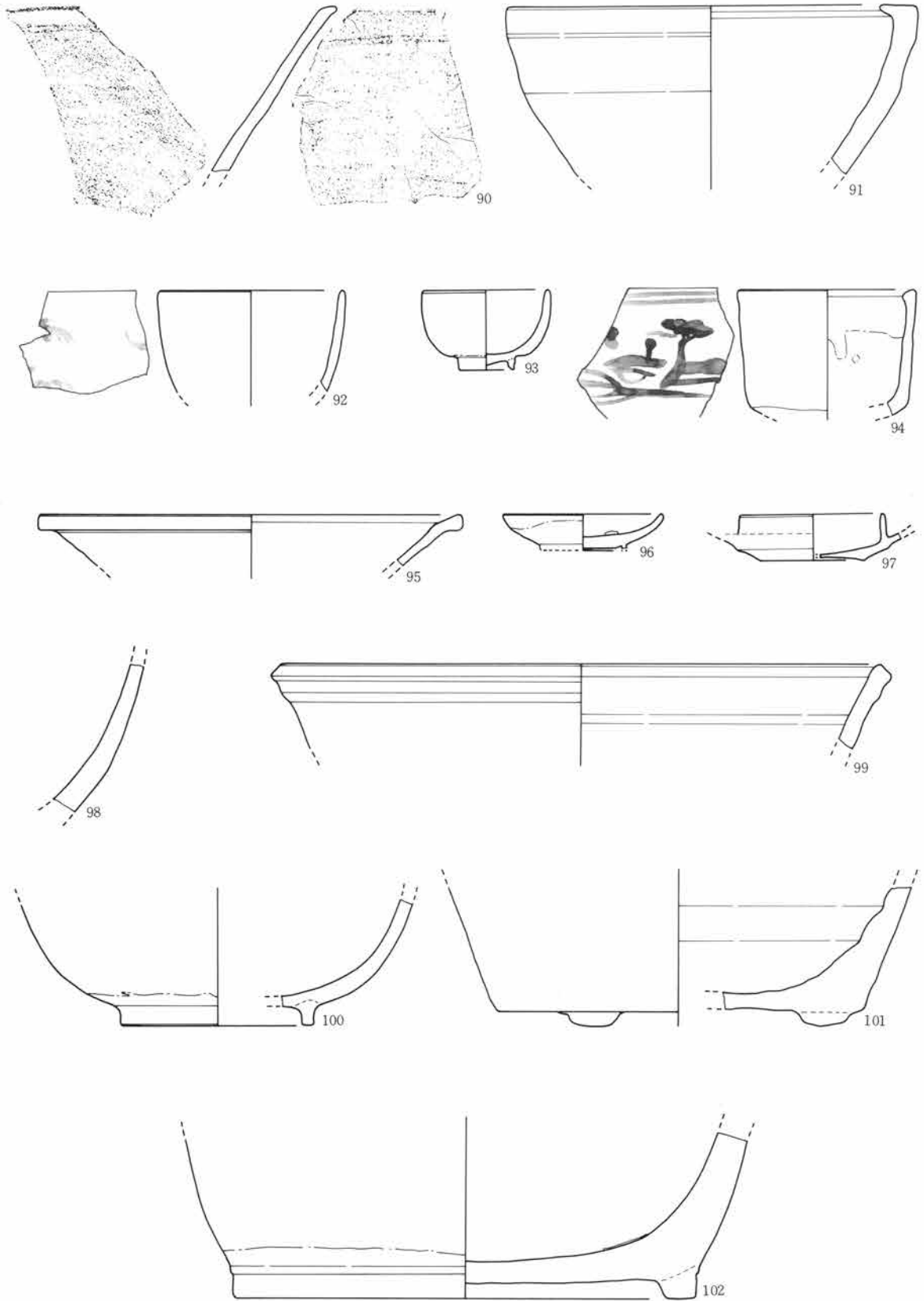


Fig.575 陶磁器(8)



Fig.576 陶磁器(9)



0 10cm

Fig.577 陶磁器(10)

第2章 陶磁器

大久保遺跡出土陶磁器観察表(1)

番号	器種・種別	出土位置	口径・底径・器高	胎土の特徴	器形などの特徴	釉調・絵付けなどの特徴	備考
1	陶胎染付碗器	1号井戸	(10.2)×-×-	器表は褐灰色。断面は灰色。	口縁部は直立する。	主文様は山水文。粗い貫入の入る透明釉を施す。	伊万里系。18C前半。
2	播鉢器	1号井戸	-×(12.8)×-	淡黄色。粗い。	体部外面は回転ヘラケズリ。14本1単位の播目を施す。	錆釉を全面に施した後、底部～体部下半は釉を拭い取る。	瀬戸・美濃系。18C。
3	播鉢器	1号井戸	(32.0)×-×-	赤褐色。	口縁部外面を3段に造る。口縁端部内面に突帯を巡らす。9本単位の播目を浅く引き上げる。体部外面は口縁部下までヘラケズリを行う。	無釉。	堺系。18C後半～19C前半。
4	火鉢軟質陶器	1号井戸	(29.4)×-×-	にぶい橙色。赤色粘土粒・黒色鉱物粒多量に含む。	口縁端部は内面に突き出す内面はナデ。外面の器表は剥離する。		在地製品。18～19C。
5	火鉢軟質陶器	1号井戸	(26.3)×-×-	器表は黒灰色。断面は灰白色～橙色			在地製品。18～19C。
6	染付碗磁器	2号井戸下層	-×3.7×-	灰白色。	高台幅は狭い。	外面は二重網目文。内面は一重網目文。呉須は明るい青灰色。	伊万里系。18C。
7	染付碗磁器	2号井戸	(8.0)×2.7×(4.3)	灰白色。	口縁部は僅かに外反する。	体部外面に草花文を施す。呉須は暗青灰色に発色する。透明釉は僅かに白濁する。	伊万里系。18C。
8	染付碗磁器	2号井戸下層	-×3.0×-	灰白色。		外面に草花文を描く。呉須は青灰色に発色する。透明釉は白濁する。	伊万里系。18C。
9	染付碗磁器	2号井戸	(7.8)×(4.4)×2.9	灰白色。		体部の一方に草花文を描く。呉須は青灰色に発色する。透明釉は一部白濁する。高台端部は鉄足状に発色する。	伊万里系。18C。
10	陶胎染付碗器	2号井戸	-×-×-	灰色。		体部外面に呉須で文様を描く。呉須の発色は薄い。	伊万里系。18C?
11	腰錆碗器	2号井戸	9.8×4.2×5.7	淡黄色。粗い。	口縁部と体部の境の回転を利用した沈線を3条巡らす。	内面から口縁部外面に灰釉、それ以下に鉄釉に近い錆釉を施す。高台端部のみ無釉。	瀬戸・美濃系。18C中頃。
12	灰釉碗器	2号井戸	(10.1)×5.4×3.8	灰白色。やや粗い。	体部は外方に開き、口縁部は直立する。張り付け高台。	高台脇以下を除き灰釉を施す。粗い貫入が入る。	瀬戸・美濃系。18C中頃。
13	刷毛目碗器	2号井戸	(14.7)×5.8×5.7	にぶい橙色。緻密。	体部は直線的に開く。口縁部は内湾する。漆継ぎ。	内外面に白土を雑に施し、長石釉系の透明釉を掛ける。高台脇以下は無釉。	唐津系。18C末～19C前半。
14	陶胎染付碗器	2号井戸	(11.4)×(5.2)×7.2	灰色。	口縁部はほぼ直立する。	体部に山水文?を描く。粗い貫入の入る透明釉を施す。	伊万里系。18C前半。
15	鉄釉小碗器	2号井戸	(8.0)×(3.4)×3.8	淡黄色。粗い。	口縁部は小さく外反する。	鉄釉を施す。高台脇以下は無釉。	瀬戸・美濃系。17～18C。
16	掛け分け碗器	2号井戸	(8.0)×-×-	青灰色。	筒形を呈する。外面は体部中位までヘラケズリ。	黄褐色の灰釉を施し、口縁部のみ鉄釉を掛け分ける。	瀬戸・美濃系。18C。
17	灰釉碗器	2号井戸下層	(11.8)×-×-	褐灰色。	口縁部は内傾気味に立ち上がる。	灰オリーブ色の灰釉を施す。粗い貫入が入る。高台脇以下は無釉。	瀬戸・美濃系。18C前半。
18	灰釉碗器	2号井戸	(12.8)×-×-	灰白色。	口縁部は直線的に開く。	明るいオリーブ灰色の灰釉を施す。	瀬戸・美濃系。19C。
19	灰釉碗器	2号井戸	-×(4.6)×-	灰白色。	幅の広い高台を張り付ける。	明オリーブ灰色の灰釉を高台脇まで施す。	瀬戸・美濃系。18C。
20	灰釉碗器	2号井戸	-×4.4×-	灰白色。	外面は口縁部付近までヘラケズリを行う。	粗い貫入の入る灰釉を施す。高台脇以下は無釉。	瀬戸・美濃系。18C。
21	灰釉香炉器	2号井戸下層	(7.0)×-×4.1	灰白色。	体部は内傾気味に立ち上がり、口縁端部を内側に折り曲げる。底部に粒状の脚を貼り付ける。	外面に灰釉を施す。底部と内面は無釉。	瀬戸・美濃系。18～19C前半
22	灰釉菊皿器	2号井戸	(14)×(8)×(2.9)	灰白色。やや粗い。	外面は丸ノミで花卉を表す。内面は型押しで花卉を表す。貼り付け高台。	粗い貫入の入る灰釉を施す。高台脇以下は無釉。	瀬戸・美濃系。不詳。

大久保遺跡出土陶磁器観察表(2)

番号	器種・種別	出土位置	口径・底径・器高	胎土の特徴	器形などの特徴	釉調・絵付けなどの特徴	備考
23	鉄釉香炉 陶器	2号井戸 下層	-×-×-	浅黄色。	底部に脚を貼り付ける。底部外面はヘラケズリ。	底部外面を除き鉄釉を施す。内面には降灰がある。	瀬戸・美濃系。 18C。
24	染付皿 磁器	2号井戸	(13.6)×(8.0)× 3.1	灰白色。	高台はやや内傾する。口縁部は外方に開く。	体部内面に扇と蔓草文を描く。底部内面に五弁花、底部外面には渦福を描く。	伊万里系。 18C。
25	染付徳利 磁器	2号井戸	-×(4.6)×-	灰白色。	最大径は体部中位にある。	体部に草花と老木を描く。呉須は暗青灰色に発色する。高台端は鉄足状に発色する。内面無釉。	伊万里系。 18C。
26	錆釉べこかん徳利 陶器	2号井戸	-×(6.6)×-	青灰色。炆器質に焼き締まる。	体部をくぼませる。	外面に錆釉を施し、底部のみ釉を拭い取る。	瀬戸・美濃系。 19C。頸部と底部は同一個体か？
27	燈明皿 陶器	2号井戸	7.9×3.6×1.2	青灰色。炆器質に焼き締まる。	底径は小さく、体部は内湾する。	鉄釉を薄く施す。外面の釉は拭い取る。内面の一部に降灰による自然釉が掛かる。	製作地不詳。 18C後半。
28	燈明皿 陶器	2号井戸 下層	(9.4)×-×2.0	灰色。	底径は小さい。口縁部下までヘラケズリ。	内面から口縁部外面まで錆釉を施す。	製作地不詳。 18C後半～19C。
29	灰釉汁注 陶器	2号井戸	-×-×-	灰白色。	器壁を丸く切り取り注口を張り付ける。	内外面に灰釉を施す。粗い貫入が入る。	瀬戸・美濃系。 17～18C。
30	仏飯器 陶器	2号井戸	-×(3.8)×-	灰白色。	高台内側を浅く削り取る。	透明釉を施す。高台は無釉。	瀬戸・美濃系。 18C。
31	染付仏飯器 磁器	2号井戸	(8.2)×4.6×5.2	白色。	杯部は大きく広がる。	外面に楼閣山水文を描く。呉須は青灰色に発色する。	伊万里系。 18C。
32	不明 陶器	2号井戸	-×-×-	灰白色～褐色。	手づくね。	外面に降灰による自然釉が掛かる。	製作地不詳。 不詳。
33	灰釉片口鉢 陶器	2号井戸 下層	-×(9.0)×-	灰白色。	高台の内側は低く、外側は高い。体部外面ヘラケズリ。	明黄褐色の灰釉を施す。高台脇以下は無釉。	瀬戸・美濃系。 18～19C。
34	灰釉片口鉢 陶器	2号井戸	(15.8)×-×-	淡黄色。	口縁部は内側に折り曲げる。口縁部外面は浅い沈線を巡らせ、口縁部下までヘラケズリを行う。	細かい貫入の入る黄褐色の灰釉を施す。高台脇以下は無釉。	瀬戸・美濃系。 18C。
35	染付碗 磁器	28E-58 2号井戸	9.7×3.8×4.9	灰白色。	口縁部は外方に開く。	体部外面に雪輪と草花文を描く。高台内に不明文様を描く。呉須は青灰色に発色する。	伊万里系。 18C。
36	播陶 鉢器	2号井戸	(25.2)×-×-	明褐色。石英と長石を含む。	口縁部は外反し、端部を直立させる。端部外面に2条の沈線を巡らす。	無釉。内面に降灰による自然釉が掛かる。	信楽系？ 18C。
37	播陶 鉢器	2号井戸	-×-×-	にぶい黄褐色。石英と長石を含む。	間隔の狭い7本単位の播目を施す。体部外面下位はヘラケズリ。体部外面下位の轆轤目は顕著。	無釉。	信楽系？ 18C。
38	播陶 鉢器	2号井戸	-×(11.8)×-	にぶい黄褐色。石英と長石を含む。	播目は間隔の広い7本単位の。底部に砂付着。底部と体部下位は使用により摩滅する。	無釉。	信楽系？ 18C。
39	播陶 鉢器	2号井戸	-×-×-	赤褐色。	口縁部外面に2条の沈線を巡らす。口縁端部に段を造る。幅の広い片口を有する。9本単位の深い播目を口縁端部付近まで引き上げる。	無釉。	堺系。 18C後半～19C前半。
40	播陶 鉢器	2号井戸	(32.0)×-×-	赤褐色。	口縁部は折り返し、外面を3段に造る。口縁端部内面に段を有する。深い9本単位の播目を口縁部まで引き上げる。	無釉。	堺系。 18C末～19C前半。
41	鉄釉壺 陶器	2号井戸	(30.8)×-×-	灰白色。	口縁部は折り返して丸くする。肩部に7条の沈線を巡らす。	鉄釉を施す。	瀬戸・美濃系。 不詳。

第2章 陶磁器

大久保遺跡出土陶磁器観察表(3)

番号	器種・種別	出土位置	口径・底径・器高	胎土の特徴	器形などの特徴	釉調・絵付けなどの特徴	備考
42	鉄釉甕陶器	2号井戸	(31.4)×-×-	灰白色。	口縁部は外方に折り返し丸く造る。外面に沈線を巡らす。	鉄釉を施す。	瀬戸・美濃系。18C。
43	鉄釉甕陶器	2号井戸	-×-×-	青灰色。	外面に沈線を施す。	外面に錆釉を施す。	瀬戸・美濃系。17~19C。
44	香炉軟質陶器	2号井戸	14.8×-×6.9	器表と中央は黒色。器表付近は灰白色。	口縁端部の器壁は厚い。外面はヘラミガキ。3本の脚を張り付ける。		在地製。18~19C。
45	火鉢軟質陶器	2号井戸	(29.0)×-×-	淡橙色。	外面に3条の沈線を巡らす。体部ナデ。		在地製。18~19C。
46	灰釉練鉢陶器	2号井戸	(32.8)×-×-	淡黄色。粗い。	口縁端部を外方に折り返す。外面は体部中位までヘラケズリ。	灰釉を施す。細かい貫入が入る。	瀬戸・美濃系。18C後半。
47	鉢形鍋軟質陶器	2号井戸	39.4×18.3×11.2	器表は黒灰色。断面は灰白色。	体部は直線的に開く。口縁端部を外方に折り返す。体部外面に煤付着。		在地製。18C。
48	内耳焙烙軟質陶器	2号井戸	38.2×34.0×5.6	器表は黒褐色。断面は褐色。	内耳は3カ所に貼り付ける。体部外面のみ煤付着。		在地製。18C。
49	内耳焙烙軟質陶器	2号井戸下層	(39)×(36.4)×5.2	外面は黒褐色。内面は黄褐色。断面はにぶい褐色。	体部下位はヘラケズリ。		在地製。18C。
50	播鉢陶器	1号土坑	-×(16.0)×-	灰白色。	15本単位の播目を施す。体部下端と底部は使用により摩滅する。	錆釉を施す。体部外面下端と底部の釉を拭い取る。	瀬戸・美濃系。18C。
51	灰釉仏飯器陶器	3号土坑	(7.5)×4.9×6.2	淡黄色。	脚の上部は細く、裾は広がる。杯部は口縁部外面までヘラケズリを行う。	杯部の下から脚部までは無釉。やや白濁した灰釉を施す。	瀬戸・美濃系。18C。
52	刷毛目鉢陶器	3号土坑	-×(9.6)×-	赤褐色。器表は暗赤褐色。		内面に白土を刷毛掛けする。内面のみ長石釉系の透明釉を施す。	唐津系。18C。
53	染付丸碗磁器	6号土坑	(9.0)×3.4×5.3	白色。	口縁部は直立し、器高は高い。高台は小さく低い。	外面の文様は不明。底部内面には簡略化した五弁花を描く。	伊万里系。18C後半。
54	掛け分け碗陶器	6号土坑	(13.0)×-×-	淡黄色。粗い。	体部は内湾する。	口縁部に呉須釉、口縁部以外に透明釉を掛ける。粗い貫入が入る。	瀬戸・美濃系。19C前半。
55	船釉德利陶器	6号土坑	-×(10.0)×-	淡黄色。	外面はヘラケズリを行う。	外面に船釉を薄く施す。内面と体部下端以下は無釉。	瀬戸・美濃系。18C。
56	青磁瓶器	1号溝	-×-×-	灰白色。	肩部に取っ手状の文様を貼り付ける。	外面に青磁釉を厚く施す。	伊万里系。18C。
57	染付碗磁器	28E-58	(10.4)×4.2×5.4	灰白色。	口縁部はやや外方に開く。	体部外面に雪輪と草花文を描く。高台内に不明文様を描く。呉須の発色は薄い。	伊万里系。18C。
58	染付碗磁器	28E-58	10.2×3.8×5.0	灰白色。	口縁部は内湾気味に開く。	外面に雪持笹と梅の折れ枝文を描く。底部内面は蛇の目釉ハギ。	伊万里系。18C。
59	灰釉片口鉢陶器	28E-58	(16.4)×-×-	淡黄色。	口縁部は肥厚する。口縁部外面には沈線を巡らし、外面は口縁部下までヘラケズリを行う。	明黄褐色の灰釉を施す。釉は白濁する。	瀬戸・美濃系。18C。
60	染付碗磁器	28E-58	7.7×3.2×4.1	灰白色。	口縁部は外方に開く。	体部外面に1ヶ所草花文を描く。呉須は暗緑灰色に発色する。透明釉は一部白濁する。	伊万里系。18C。
61	染付碗磁器	28E-58	(8.8)×(3.6)×4.7	灰白色。	口縁部は外方に開く。	体部外面に1重網目を描く。呉須は青灰色に発色する。	伊万里系。18C。
62	陶胎染付碗陶器	28E-58	(11.0)×-×-	灰色。	口縁部の下でやや絵れる。	呉須は緑灰色に発色する。粗い貫入が入る。	伊万里系。18C前半。
63	灰釉碗陶器	28E-58	-×3.5×-	淡黄色。	体部は外方に開く。	細かい貫入の入る灰釉を施す。高台脇以下は無釉。	瀬戸・美濃系。18~19C。

大久保遺跡出土陶磁器観察表(4)

番号	器種・種別	出土位置	口径・底径・器高	胎土の特徴	器形などの特徴	釉調・絵付けなどの特徴	備考
64	染付碗磁器	28E-58	-×(4.9)×-	灰白色。	体部は外方に開く。	呉須は青灰色に発色する。	伊万里系。18C。
65	灰釉碗陶器	28E-58	(9.8)×-×-	灰白色。	口縁部はほぼ直立する。外面は体部中位までヘラケズリを行う。	灰釉を施す。	瀬戸・美濃系。18C?
66	柿釉碗陶器	28E-58	(9.4)×4.0×5.2	灰白色。	口縁部は緩く内湾する。貼り付け高台。	柿釉を施す。高台脇以下は無釉。	瀬戸・美濃系。18C中頃。
67	灰釉碗陶器	28E-58	(9.8)×-×-	灰白色。	口縁部はほぼ直立する。外面は高台脇までヘラケズリを行う。	粗い貫入の入る灰釉を施す。高台脇以下は無釉。	瀬戸・美濃系。18C後半。
68	胎釉碗	28E-58	-×5.3×-	灰色。	高台幅は狭い。	胎釉を施す。高台脇以下にも薄く施す。高台端部のみ無釉。内面に卯の斑釉が流れる。	瀬戸・美濃系。18C。
69	胎釉鉢陶器	28E-58	-×7.0×-	灰白色。	外面はヘラケズリを行う。目痕は3つある。	胎釉を施す。釉は白濁する。高台脇以下は無釉。	瀬戸・美濃系。18C。
70	染付德利磁器	28E-58	-×6.1×-	灰白色。	胴部は張る。	体部下位と高台外側に圈線を巡らす。呉須は青灰色に発色する。	伊万里系。18~19C。
71	筒形香炉?陶器	28E-58	-×(4.9)×-	灰白色。	体部下端に稜線を有し、体部は筒形を呈する。外面に沈線を巡らす。	灰釉を施す。貫入が入る。体部外面のみ施釉する。	瀬戸・美濃系。18~19C前半。
72	染付德利磁器	28E-58	-×-×-	灰白色。		1重網目文を描く。呉須は青灰色に発色する。	伊万里系。17~18C。
73	瓶磁器	28E-58	(7.6)×-×-	白色。	口縁部は広く開き、端部を上折り曲げる。	透明釉を施す。	伊万里系。18C。
74	御深井釉皿陶器	28E-58	9.2×5.3×3.3	青灰色。	型押しによる木瓜形の皿。貼り付け高台。	御深井釉を高台脇まで施す。貫入が入る。	瀬戸・美濃系。17C末~18C前半。
75	白磁手塩皿磁器	28E-58	-×-×1.8	白色。	型押しによる木瓜形。	白磁釉を施す。	伊万里系。19C?
76	染付皿磁器	28E-58	(13.2)×8.2×2.8	白色。	高台径は大きい。口縁部は内傾して立ち上がる。底部にハリ支え一つあり。	体部内面は墨弾きにより雲状の文様を描く。底部内面には五弁花、体部外面には唐草文を描く。口鏝。	伊万里系。17C末~18C前半。
77	鉄釉二耳壺陶器	28E-58	(10.0)×-×-	灰白色。	肩はなで肩である。体部外面は雑なヘラケズリ。	外面は鉄釉を施す。口縁端部と内面は無釉。	瀬戸・美濃系。18C。
78	染付皿磁器	28E-58	20.0×12.0×3.1	白色。	口縁端部は外反する。平面形は花卉をかたどる。高台は内傾する。	底部内面に五弁花、体部外面に唐草文、底部外面に「大明成化年製」銘を描く。体部内面の呉須は流れる。焼成不足のため、不規則な貫入が入る。	伊万里系。17C後半~18C前半。
79	灰釉練り鉢陶器	28E-58	(31.0)×-×-	灰白色。	口縁端部は外方に折り曲げる。	灰釉を施す。粗い貫入が入る。	瀬戸・美濃系。18C。
80	播陶鉢陶器	28E-58	(20.0)×-×-	淡黄色。	口縁部は折り返して厚く造る。内面には段差を有する。	錆釉を施す。	瀬戸・美濃系。18C後半。
81	播陶鉢陶器	28E-58	(27.0)×-×-	赤褐色。	口縁端部内面に段を造る。8本単位の深い播目を口縁部まで引き上げる。外面は口縁部下までヘラケズリを行う。	無釉。	堺系。18C後半~19C前半。
82	播陶鉢陶器	28E-58	(30.0)×-×-	赤褐色。	口縁端部内面に段を造る。8本単位の深い播目を口縁部まで引き上げる。外面は口縁部下までヘラケズリを行う。	無釉。	堺系。18C後半~19C前半。
83	播陶鉢陶器	28E-58	-×-×-	赤褐色。	深い播目を施す。外面はヘラケズリを行う。	無釉。	堺系。18C後半~19C前半。

第2章 陶磁器

大久保遺跡出土陶磁器観察表(5)

番号	器種・種別	出土位置	口径・底径・器高	胎土の特徴	器形などの特徴	釉調・絵付けなどの特徴	備考
84	播鉢 陶器	28E-58	-×-×-	赤褐色。	深い播目を施す。外面はヘラケズリを行う。	無釉。	堺系。 18C末~19C前半。
85	播鉢 陶器	28E-58	-×-×-	赤褐色。	深い播目を施す。外面はヘラケズリを行う。	無釉。	堺系。 18C末~19C前半。
86	播鉢 陶器	28E-58	-×(16.2)×-	赤褐色。	深い播目を施す。外面はヘラケズリを行う。	無釉。	堺系。 18C末~19C前半。
87	播鉢 陶器	28E-58	-×(16.2)×-	赤褐色。	深い播目を施す。外面はヘラケズリを行う。	無釉。	堺系。 18C末~19C前半。
88	播鉢 陶器	28E-58	-×(14.6)×-	赤褐色。	深い播目を施す。外面はヘラケズリを行う。	無釉。	堺系。 18C末~19C前半。
89	播鉢 陶器	28E-58	-×(15.9)×-	赤褐色。	9本単位の深い播目を施す。外面はヘラケズリを行う。底部外面に板状圧痕残る。	無釉。	堺系。 18C末~19C前半。
90	鉢形鍋 軟質陶器	28E-58	(23.4)×-×-	器表・断面中央は黒色。器表付近は灰白色。	口縁端部を外方に折り曲げる。体部は直線的に開く。体部外面に煤付着。		在地製。 18C。
91	火鉢 軟質陶器	28E-58	(2.06)×-×-	器表・断面中央は黒灰色。器表付近は灰白色。	体部は内湾し、口縁端部は内側に折り曲げる。口縁部はヨコナデ調整。内面はナデ調整。外面はヘラナデ調整。		在地製。 18~19C。
92	陶胎染付碗 陶器	28E-58	(9.5)×-×-	灰色。	口縁部は内湾気味に立ち上がる。	呉須の発色は鈍い。オリーブ灰色の透明釉を施す。粗い貫入が入る。	伊万里系。 18C。
93	灰釉小碗 陶器	E区西側 道	6.2×2.7×4.0	灰白色。	口縁部はほぼ直立する。体部下半はヘラケズリを行う。	粗い貫入の入る、灰釉を施す。高台脇以下は無釉。	瀬戸・美濃系。 18C。
94	陶胎染付火 入れ? 陶器	表土	(9.0)×-×-	灰色。 粗い。	口縁端部を内面に折り返して厚くする。体部は直立する。	呉須は青灰色に発色する。透明釉を口縁部内面から体部外面に施す。釉には貫入が入り、光沢はない。	伊万里系。 17C末~18C前半。
95	灰釉鉢? 陶器	表土	(21.0)×-×-	灰色。	体部は広く開き、口縁部は外反する。	貫入の入る灰釉を施す。	瀬戸・美濃系。 不明。
96	灰釉燈明皿 陶器	60E26~ 28	(7.8)×(4.3)× (1.7)	淡黄色。	口縁部は内湾する。内面に目痕一つ残る。外面には重ね焼き痕が残る。底部回転系切り。	内面から口縁部外面に灰釉を施す。貫入が入る。	製作地不詳。 18C後半~19C前半。
97	燈明皿 受け皿 陶器	2号住居	-×5.2×2.4	灰色。	受け部は高い。外面はヘラケズリを行う。	内面に錆釉を施す。外面は無釉。	製作地不詳。 19C。
98	灰釉練り鉢 陶器	60E26~ 28	-×-×-	淡黄色。	内面に目痕一つ残る。	灰釉を施す。	瀬戸・美濃系。 17~19C。
99	播鉢 陶器	E区西側 道	(30.0)×-×-	灰白色。	口縁部は折り返し、やや厚く造る。口縁部内面に浅い沈線を2条巡らす。	錆釉を施す。	瀬戸・美濃系。 18C後半。
100	灰釉鉢 陶器	60E26~ 28	-×(9.6)×-	灰白色。 粗い。	体部外面下位はヘラケズリを行う。	貫入の入る灰釉を施す。高台脇以下は無釉。	瀬戸・美濃系。 18~19C。
101	手あぶり 軟質陶器	60E26~ 28	-×(18.3)×-	器表は黒灰色。断面は暗赤灰色。	体部は直線的に開く。底部に丸い脚を貼り付ける。		在地製。 18~19C。
102	鉄釉甕 陶器	表土	-×(23.2)×-	灰白色。	目痕一つ残る。貼り付け高台。	鉄釉を施す。高台脇以下の釉を拭い取る。	瀬戸・美濃系。 18~19C。

表採遺物

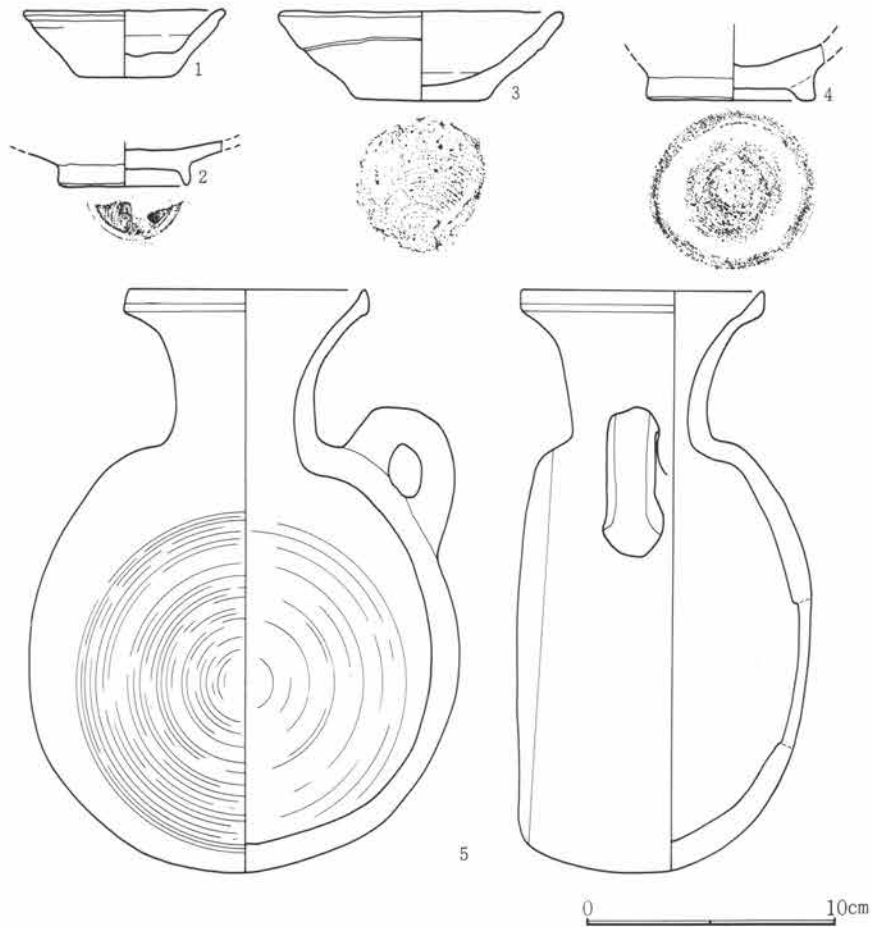


Fig.578 表採遺物

溝・三の宮・表採出土遺物観察表

Fig. No PL. No	器種 器形	計測値(cm)	出土位置	成形及び調整の特徴	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存
578-1 165	土師器 小皿	口-8.0 高-2.6 底-3.8	溝		①良好②橙色③細砂粒含む ④%残存
578-2 165	須恵器 埴	底-5.1	溝	底部回転糸切付高台	①良好②橙色③1~2mmの 砂粒含む④底部残存
578-3 165	土師器 坏	口-11.4 高-3.5 底-5.2	三の宮 頂上	底部回転糸切外面ナデ	①良好②淡橙色③細砂粒含 む④%残存
578-4 165	土師器 埴	底-6.5	三の宮 頂上	付高台底部回転調整	①良好②にぶい橙色③細砂 粒含む④底部残存
578-5 165	須恵器 提瓶	口-9.7 高-22.9	表採	口縁部稜をもつ取手が付く	①良好②灰白色③細砂粒含 む④%残存

写真図版



1号住居跡



2・3号住居跡



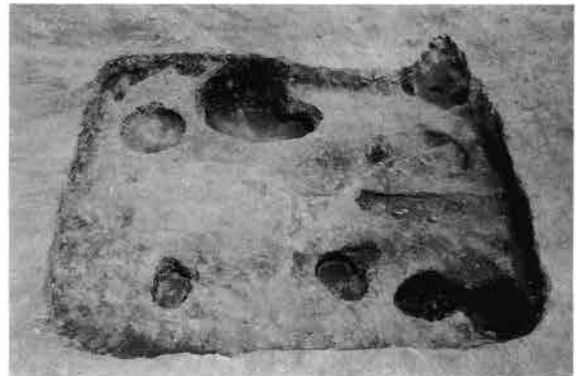
4号住居跡



5号住居跡



5号住居跡竈



6号住居跡



6号住居跡竈



8号住居跡



8号住居跡竈



9・16号住居跡掘り方



9号住居跡竈



10号住居跡



11・12号住居跡



11号住居跡竈



12号住居跡遺物



13号住居跡



13号住居跡竈



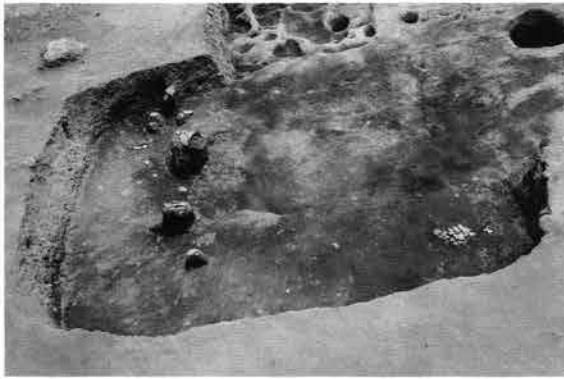
14号住居跡掘り方



14号住居跡



15号住居跡



16号住居跡



16号住居跡竈掘り方



17号住居跡



17号住居跡竈

PL - 4



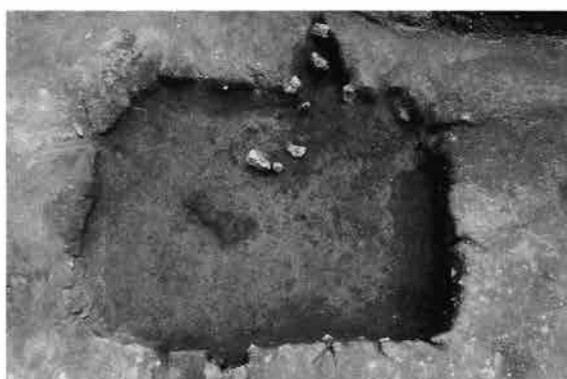
18号住居跡



18号住居跡竈



18号住居跡遺物



19号住居跡



19号住居跡竈



20号住居跡



20号住居跡竈



21号住居跡



21号住居跡竈



21号住居跡竈煙道部



21号住居跡馬の歯



22・24号住居跡



22号住居跡竈



24号住居跡竈



23号住居跡



23号住居跡竈掘り方

PL - 6



25・26号住居跡



25号住居跡遺物



26号住居跡掘り方



27号住居跡



28号住居跡



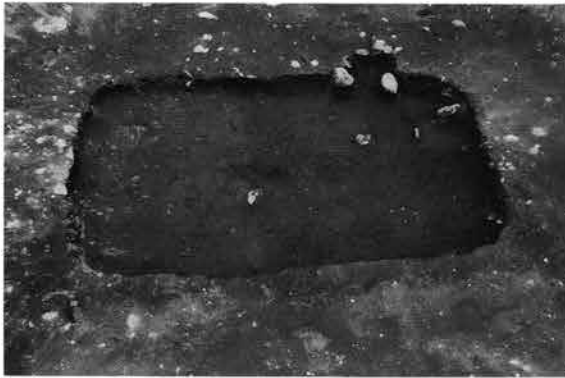
28号住居跡掘り方



28号住居跡竈



29号住居跡



30号住居跡



30号住居跡竈



31号住居跡



32号住居跡掘り方



32号住居跡竈



33号住居跡



33号住居跡竈



34号住居跡



34号住居跡竈



35号住居跡



35号住居跡竈



36号住居跡



36号住居跡竈



37号住居跡



37号住居跡竈



37号住居跡遺物



38号住居跡



38号住居跡竈



40号住居跡



40号住居跡



40号住居跡竈



40号住居跡竈



40号住居跡竈



40号住居跡竈

PL-10



41号住居跡



42号住居跡



42号住居跡竈



43号住居跡



43号住居跡1・2号竈



43号住居跡1号竈



43号住居跡2号竈



44号住居跡



48号住居跡



50号住居跡



50号住居跡竈



51号住居跡



52号住居跡



52号住居跡竈



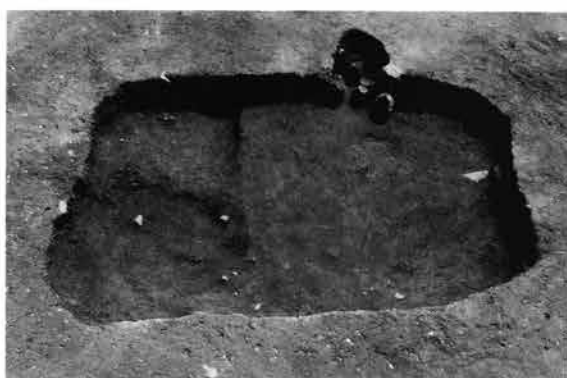
53号住居跡



53号住居跡竈



53号住居跡貯藏穴



55号住居跡



55号住居跡竈



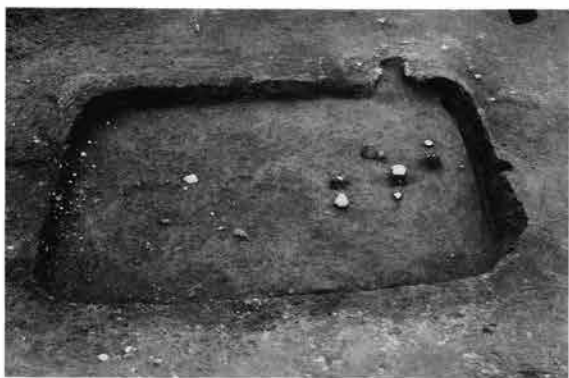
56号住居跡



56号住居跡竈



57号住居跡竈



58号住居跡



58号住居跡竈



59号住居跡



59号住居跡竈



61・62・63号住居跡



61号住居跡竈



62号住居跡竈



62号住居跡竈



63号住居跡竈



65号住居跡



65号住居跡竈



65号住居跡竈



65号住居跡鉄製品



67号住居跡



67号住居跡小穴



68号住居跡



69号住居跡



69号住居跡遺物



70号住居跡



70号住居跡竈



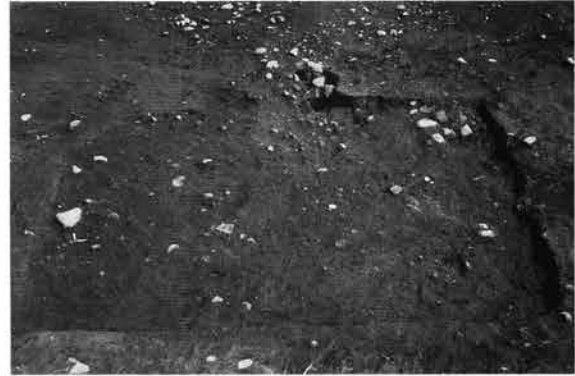
70号住居跡遺物



71号住居跡



79号住居跡



80号住居跡



80号住居跡竈



81号住居跡竈



92号住居跡掘り方



92号住居跡竈



93号住居跡



93号住居跡竈



94号住居跡



94号住居跡竈



95号住居跡



95号住居跡竈



95号住居跡貯藏穴遺物



96号住居跡



96号住居跡竈



96号住居跡遺物



97号住居跡



97号住居跡竈



98号住居跡



98号住居跡竈



99号住居跡



99号住居跡竈



99号住居跡竈



99号住居跡竈



100号住居跡



101号住居跡



101号住居跡竈



102号住居跡



102号住居跡竈



103号住居跡



103号住居跡竈



103号住居跡竈



104号住居跡



104号住居跡竈



104号住居跡セクションB軽石



104号住居跡セクションB軽石



105号住居跡



105号住居跡竈



105号住居跡小穴



106号住居跡竈



107号住居跡



107号住居跡竈



107号住居跡竈掘り方



108号住居跡



108号住居跡竈



108号住居跡竈



109号住居跡竈



110・111・112・143号住居跡



110号住居跡竈



110号住居跡竈



110号住居跡鉄製品



112号住居跡



112・143号住居跡



112号住居跡竈



113号住居跡



114号住居跡



114号住居跡竈



115号住居跡



115号住居跡竈



116号住居跡掘り方



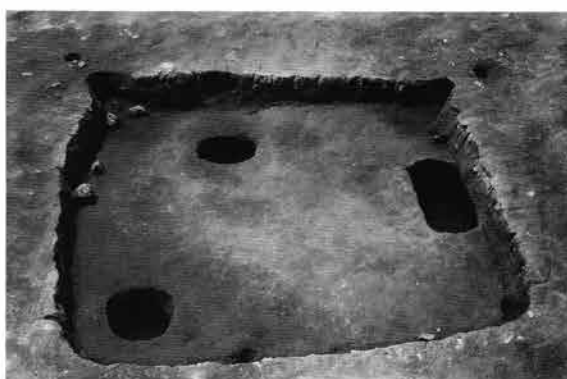
116号住居跡竈



118号住居跡



118号住居跡竈



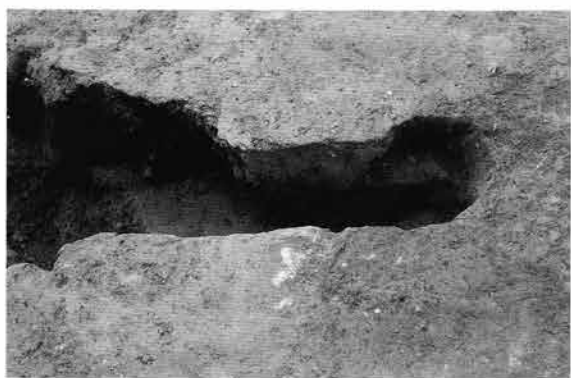
119号住居跡



119号住居跡 1号竈



119号住居跡 2号竈



119号住居跡 2号竈



120号住居跡



120号住居跡竈



121号住居跡



121号住居跡竈



122号住居跡



123号住居跡



123号住居跡竈



123号住居跡竈



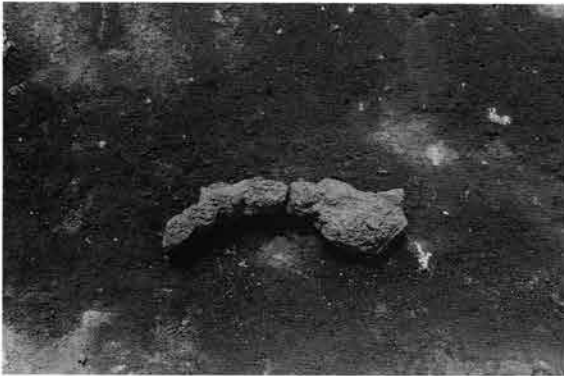
124号住居跡



124号住居跡竈



125号住居跡



125号住居跡鉄製品



126号住居跡・228号土坑



126号住居跡竈



127・141号住居跡



127号住居跡竈



129号住居跡・226号土坑



129号住居跡鉄製品



130号住居跡



130号住居跡竈



131号住居跡



132・133号住居跡



134号住居跡



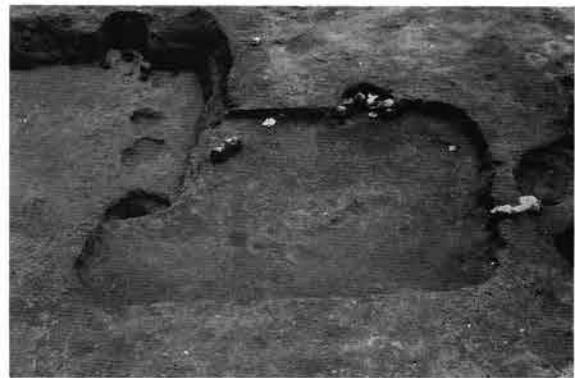
134号住居跡竈



135号住居跡



135号住居跡竈



136号住居跡



136号住居跡竈



137号住居跡・225号墓壇



137号住居跡南北セクション
(浅間B軽石堆積状況)



225号墓壇遺物



138号住居跡



138号住居跡竈



138号住居跡竈周辺遺物



138号住居跡竈周辺遺物



139号住居跡



139号住居跡竈



140号住居跡



140号住居跡竈



143号住居跡竈



145号住居跡



145号住居跡竈



146号住居跡



146号住居跡竈



146号住居跡遺物



146号住居跡遺物



147号住居跡



147号住居跡竈



148号住居跡



148号住居跡竈



149号住居跡



149号住居跡竈



150号住居跡



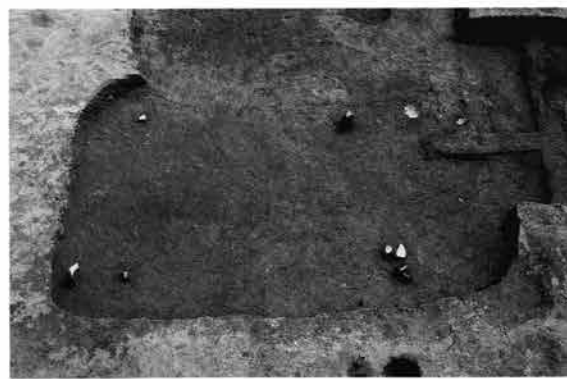
150号住居跡竈



151号住居跡



151号住居跡竈



152号住居跡



152号住居跡竈



153号住居跡



153号住居跡竈



154号住居跡



154号住居跡竈



155号住居跡



155号住居跡竈



156号住居跡



156号住居跡竈



156号住居跡竈



157号住居跡



157号住居跡竈



158号住居跡



158号住居跡竈



159号住居跡



159号住居跡竈



160号住居跡



160号住居跡鉄製品



161号住居跡



161号住居跡1号竈



161号住居跡2号竈



162号住居跡



162号住居跡竈



163号住居跡



163号住居跡竈



164号住居跡



165号住居跡



165号住居跡遺物



165号住居跡遺物



165号住居跡小炉



166号住居跡



166号住居跡竈



167号住居跡



167号住居跡竈



168号住居跡



168号住居跡竈



168号住居跡竈周辺遺物



168号住居跡竈



168号住居跡竈周辺遺物



168号住居跡竈



169号住居跡



169号住居跡竈



170号住居跡



171号住居跡



171号住居跡遺物



172号住居跡



172号住居跡竈



173号住居跡



174号住居跡



174号住居跡竈



174号住居跡竈掘り方



175号住居跡



175号住居跡竈



176号住居跡



176号住居跡竈



177号住居跡



177号住居跡遺物



178号住居跡



178号住居跡竈



178号住居跡竈掘り方



179号住居跡



181号住居跡



182号住居跡



182号住居跡竈



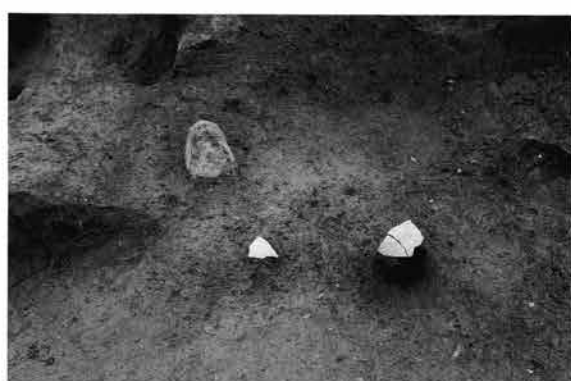
183号住居跡



183号住居跡竈



184号住居跡



184号住居跡竈



186号住居跡



186号住居跡竈



187号住居跡



187号住居跡竈



188号住居跡



188号住居跡竈



189号住居跡



189号住居跡遺物



190・191号住居跡



190号住居跡竈



191号住居跡竈



193号住居跡



193号住居跡竈



193号住居跡竈



194号住居跡



194号住居跡竈



F区東側掘立柱建物跡



1号井戸



2号井戸



3号井戸

PL -42



4号井戸



5号井戸



5号井戸遺物



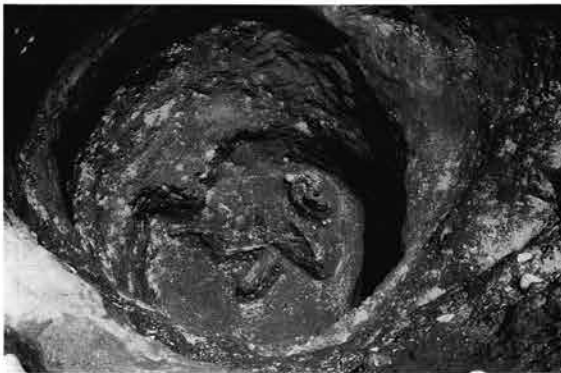
7号井戸



8号井戸



9号井戸



9号井戸人骨



10号井戸



11号井戸



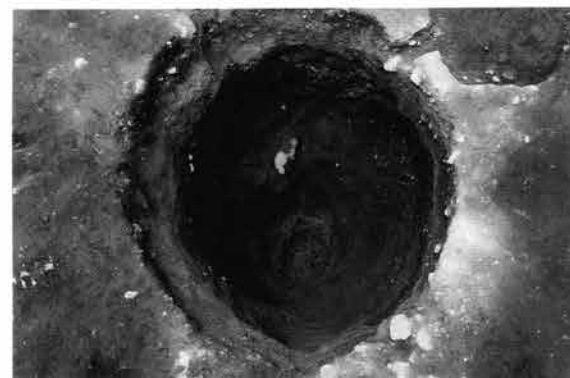
12号井戸



13号井戸



13号井戸遺物(獣骨)



14号井戸



15号井戸



17号井戸



18号井戸



3号土坑



4号土坑



4号土坑遺物



5号土坑



6号土坑



7号土坑



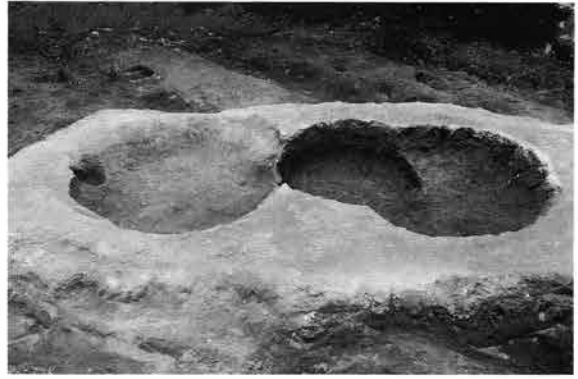
12号土坑



13号土坑



14号土坑



15·16·17号土坑



18号土坑



20·21号土坑



22号土坑



23·24号土坑

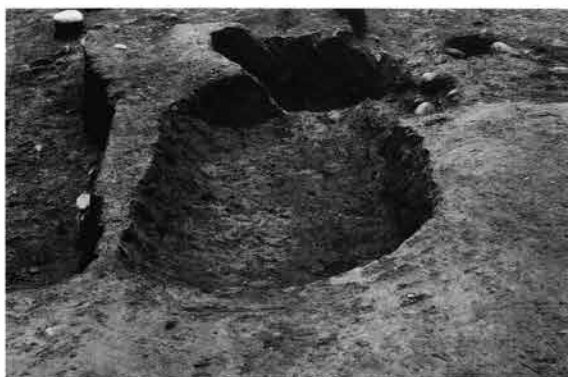


27号土坑①



27号土坑②

PL - 46



28号土坑



29号土坑



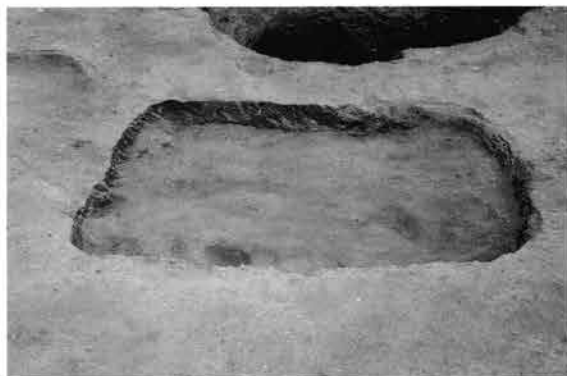
159号土坑



160号土坑



161号土坑



162号土坑



163号土坑



164号土坑



165号土坑



166号土坑



171号土坑



172号土坑



188号土坑



189号土坑



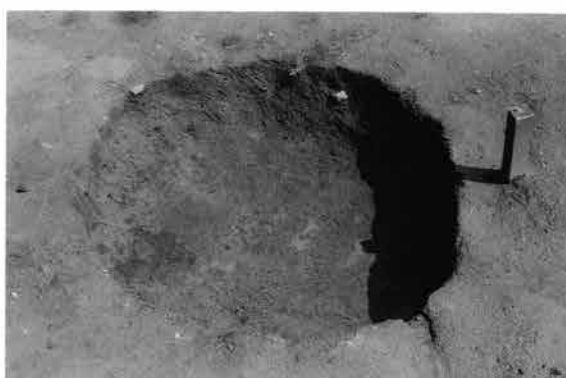
190号土坑



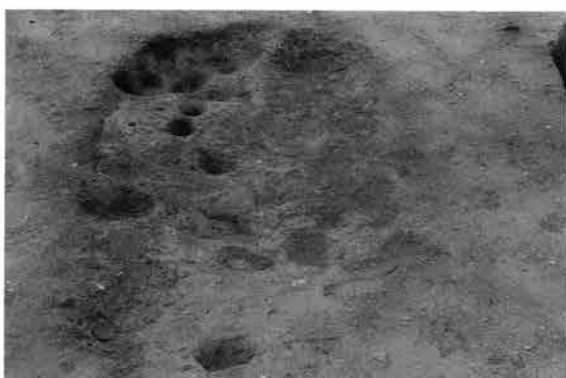
191号土坑



192号土坑



193号土坑



194号土坑



195·196号土坑



197号土坑



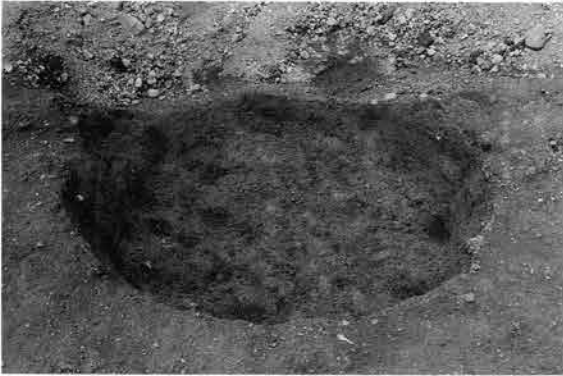
198号土坑



199号土坑



200号土坑



201号土坑



202号土坑



203号土坑



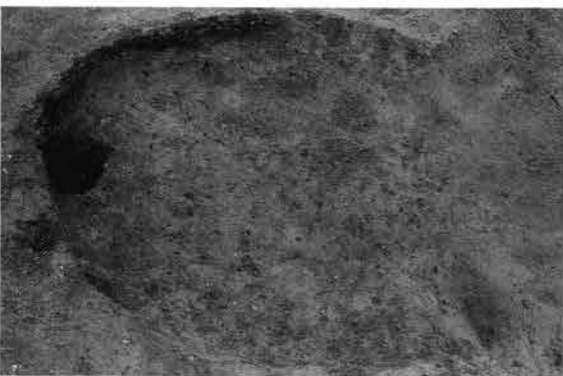
209 · 210 · 211 · 212 · 213 · 214号土坑



221号土坑



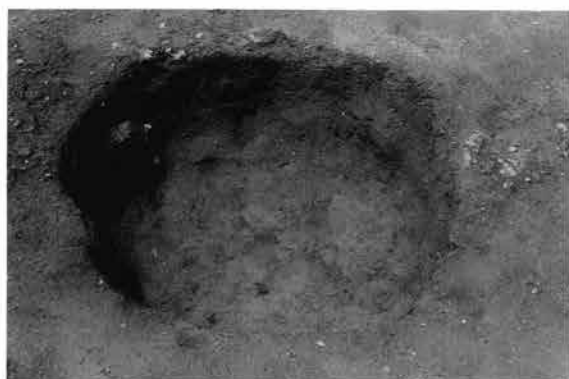
222号土坑



223号土坑



224号土坑



227号土坑



229号土坑



230号土坑



237号土坑



242号土坑



244·246号土坑



245号土坑



252号土坑



253号土坑



256号土坑



257号土坑



258·282号土坑



259号土坑



260号土坑



261号土坑



262·263号土坑



264号土坑



265 · 266 · 267号土坑



268号土坑



269号土坑



270号土坑



271 · 272号土坑



273 · 274号土坑



275号土坑



276号土坑



277号土坑



278号土坑



279号土坑



283号土坑



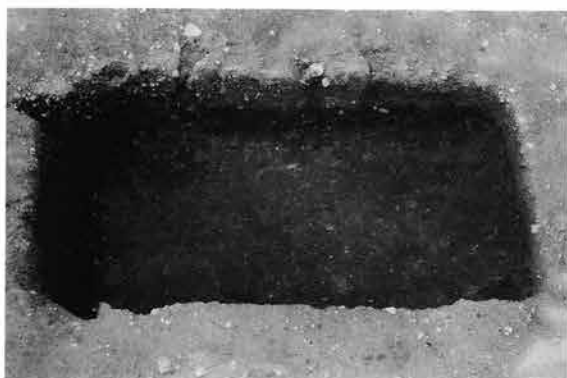
284号土坑



285号土坑



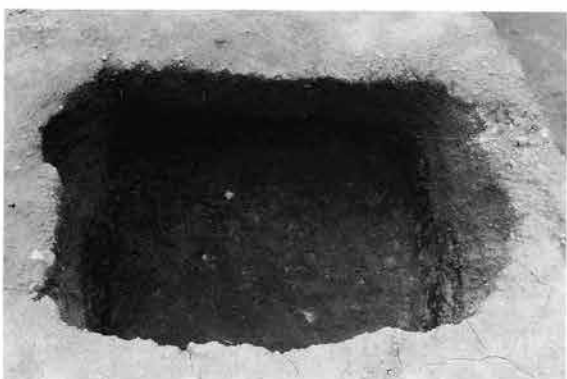
286号土坑



287号土坑



288号土坑



289号土坑



290号土坑



291号土坑



292号土坑



293号土坑



294号土坑



295 · 296号土坑



298号土坑



299号土坑



300 · 301 · 307号土坑



302号土坑



304 · 305 · 306号土坑



308号土坑

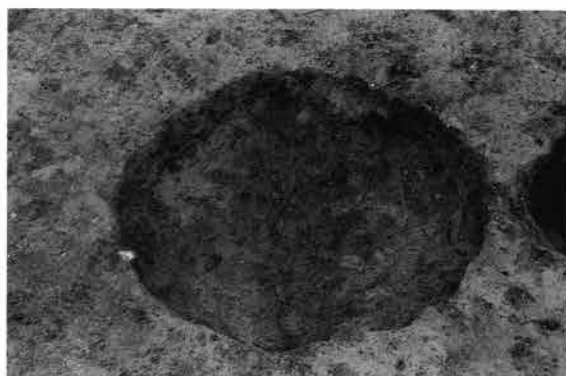


309号土坑

PL-56



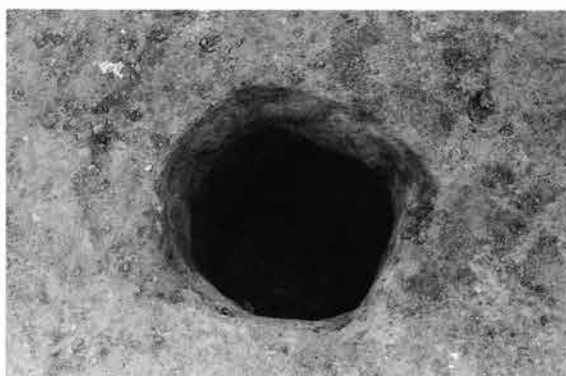
310号土坑



316号土坑



317·318号土坑



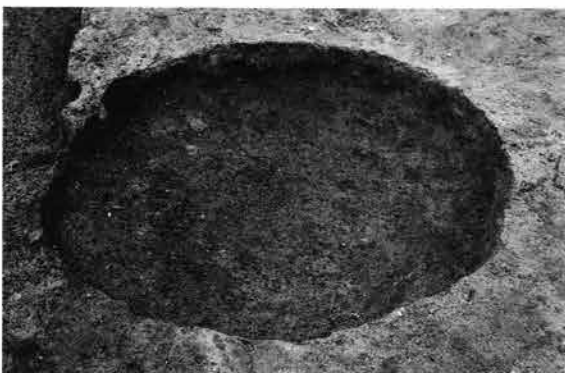
319号土坑



321号土坑



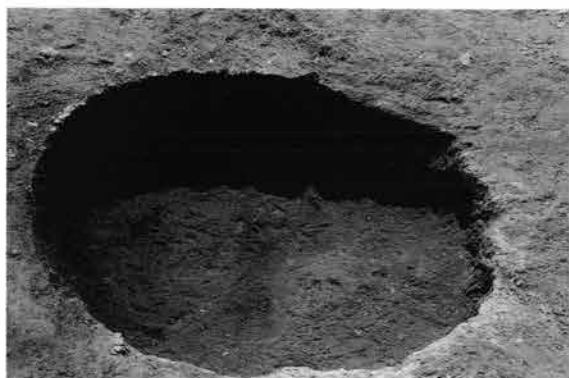
322·323·326号土坑



324号土坑



325号土坑



328号土坑



329号土坑



330号土坑



331号土坑



332号土坑



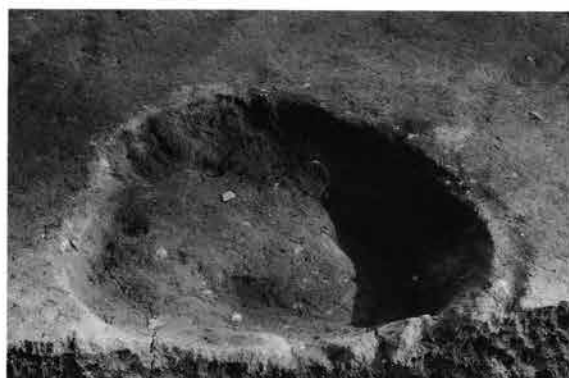
333号土坑



334号土坑



335号土坑



336号土坑



337号土坑



338号土坑



339号土坑



340号土坑



341号土坑



342号土坑



345号土坑



346号土坑



347号土坑



348号土坑



351号土坑



352号土坑



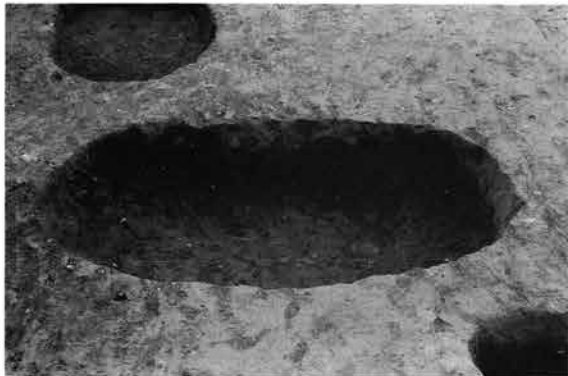
353号土坑



354号土坑



355号土坑



356号土坑



357号土坑



358号土坑



359号土坑



360号土坑



361号土坑



362号土坑



152号墓壙



153号墓壙



154号墓壙



155号墓壙



156号墓壙



157号墓壙



196号墓壙



204号墓壙



225号墓墳



225号墓墳セクション



249号墓墳



327号墓墳



327号墓墳遺物



381号墓墳



381号墓墳遺物



381号墓墳函



4号溝



4号溝



6号溝セクション



7・8号溝



8号溝



13号溝



14号溝



14号溝

PL - 64



14号溝



17号溝



27号溝



28号溝



29号溝



32号溝



34号溝



35号溝



38号溝



39号溝



40号溝遺物



43号溝



41・42号溝



45号溝

PL - 66



北カルバート水田



北カルバート水田



水田内畦



北カルバート B 水田及び畠境の溝



B 水田及び畠境の溝



E区B軽石下畠



E区B軽石下畠



E区B軽石下畠



北側道部B軽石下畠



G区中世畠



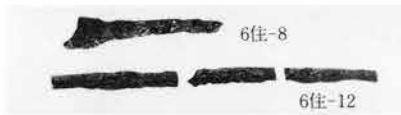
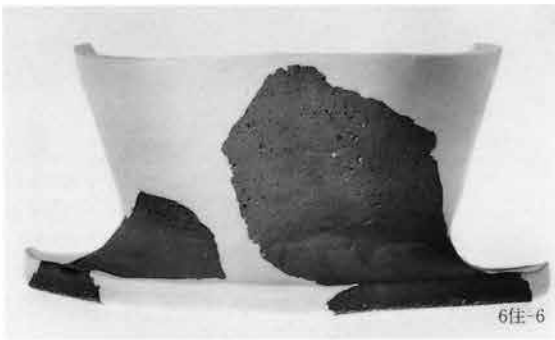
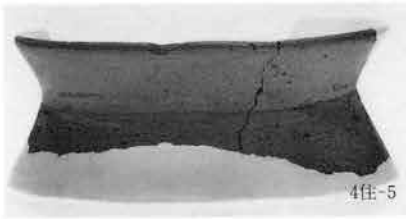
F区東側道部中世畠



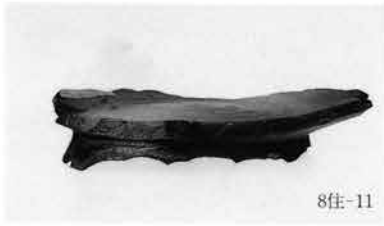
G区中世畠

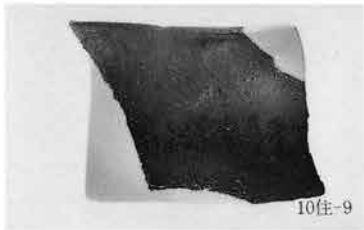
PL - 68





PL - 70







12住-8



12住-9



12住-10



13住-1



13住-2



13住-3



13住-4



13住-5



13住-8



13住-6



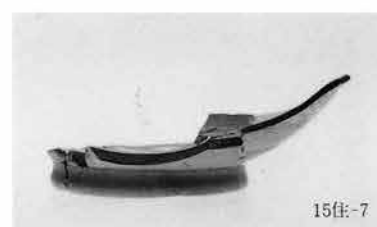
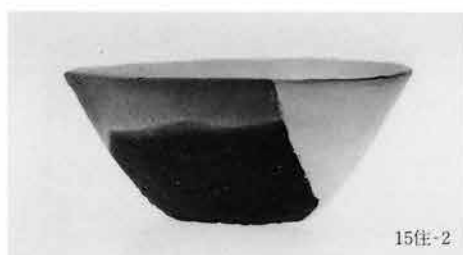
13住-7



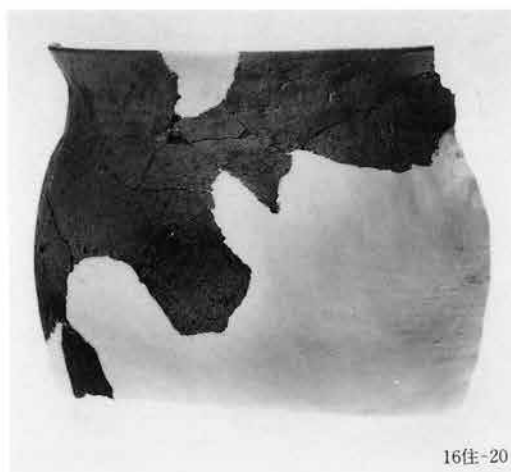
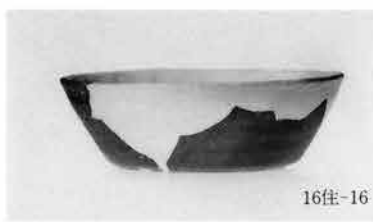
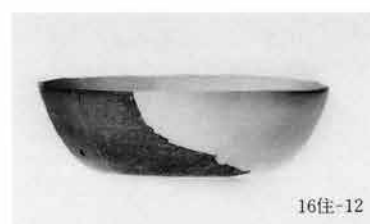
14住-1



14住-2



PL - 74





16住-21



16住-22



17住-1



17住-2



17住-3



17住-4



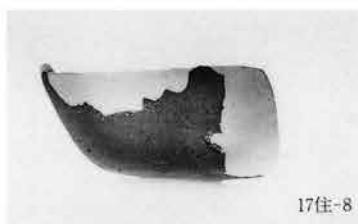
17住-5



17住-6



17住-7



17住-8



17住-9



17住-10



17住-11



18住-1



18住-2



18住-3



19住-1



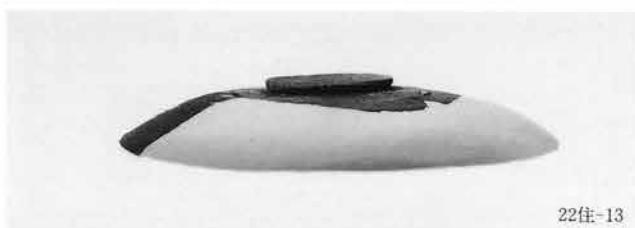
19住-2



19住-3

PL - 76





22住-13



22住-10



22住-19



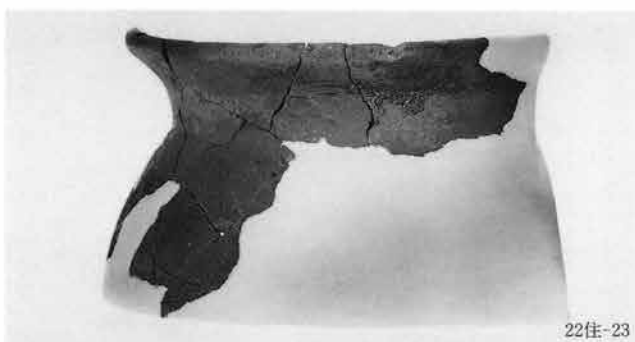
22住-11



22住-17



22住-21



22住-23



22住-27



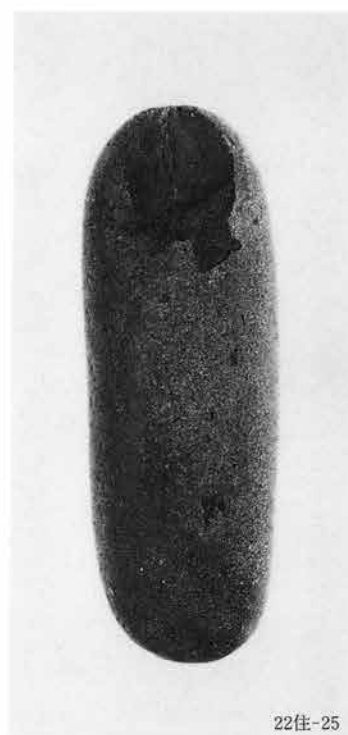
22住-22



22住-24



22住-26



22住-25

PL - 78



23住-1



23住-2



24住-2



24住-1



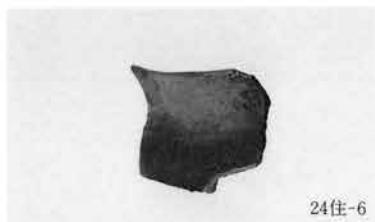
24住-3



24住-5



24住-4



24住-6



25住-4



25住-2



25住-3



25住-5



25住-6



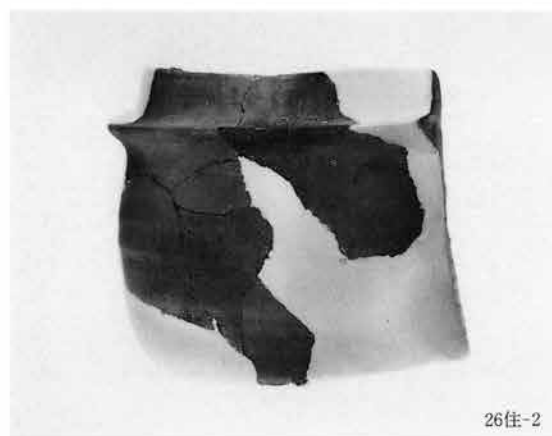
26住-1



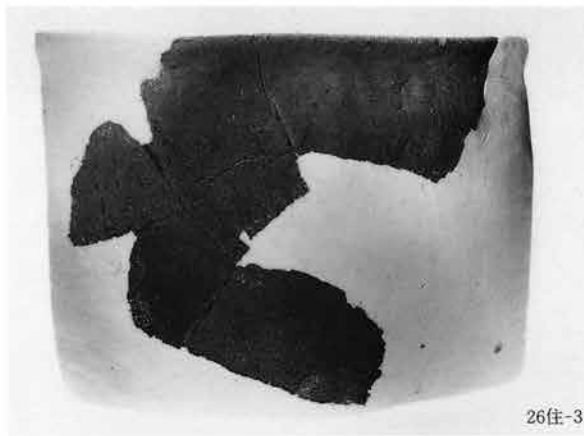
26住-4



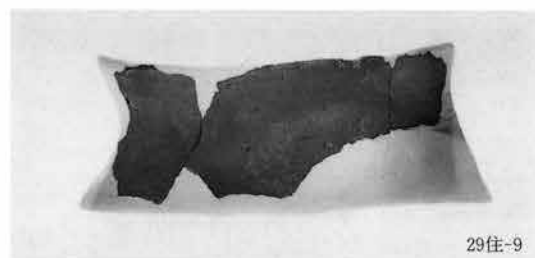
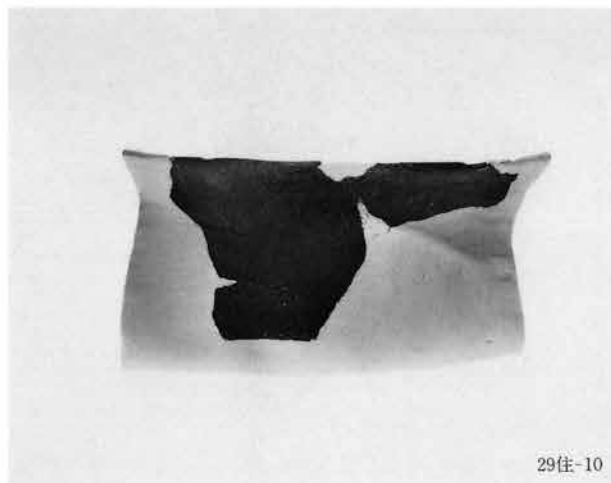
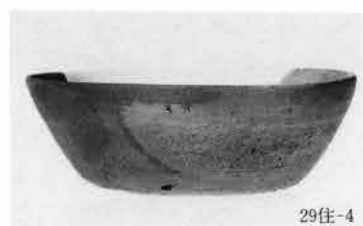
25住-7



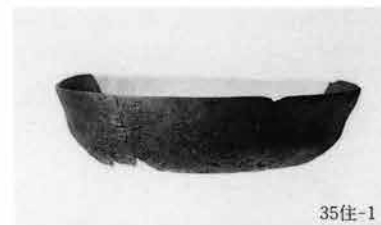
26住-2

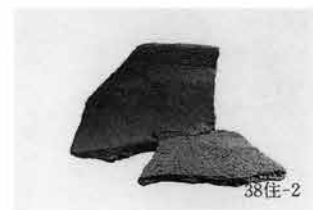
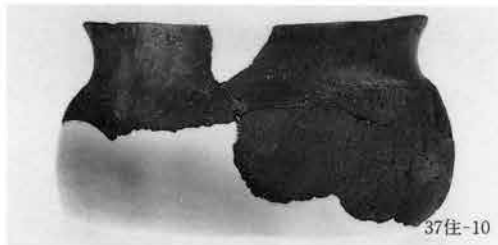
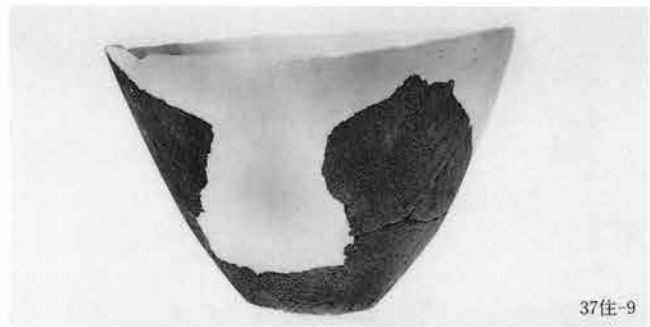
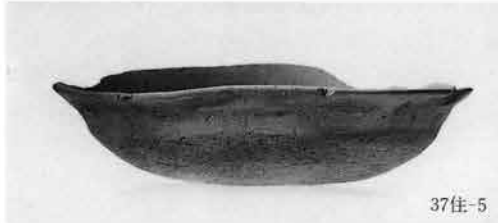


26住-3







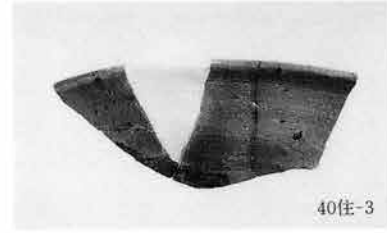




38住-3



40住-2



40住-3



38住-4



40住-1



40住-6



38住-5



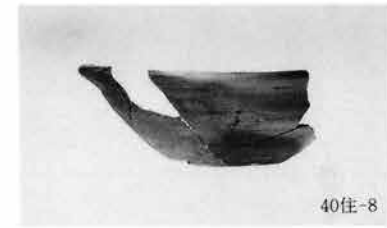
40住-4



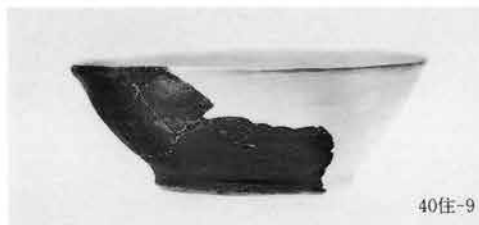
40住-7



40住-5



40住-8



40住-9



40住-11



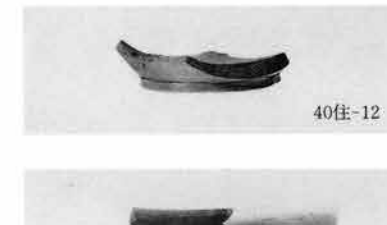
40住-14



40住-10



40住-13



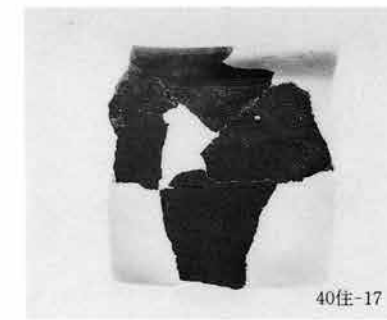
40住-12



40住-15



40住-16



40住-17

PL - 84



41住-1



41住-2



41住-3



41住-4



41住-5



41住-6



41住-7



41住-10



41住-8



41住-9



41住-12



42住-2



42住-3



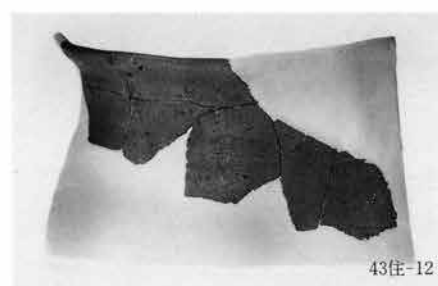
41住-11

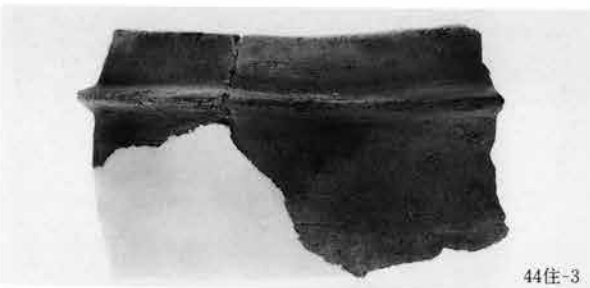
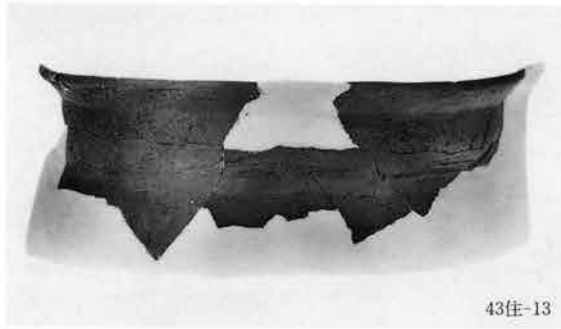


41住-14



42住-5







50住-9



50住-10



50住-11



50住-12



50住-13



50住-14



50住-17



50住-18



51住-5



51住-3



50住-15



51住-1



51住-2



50住-16



51住-4



51住-6



52住-1



52住-2



52住-4



52住-6



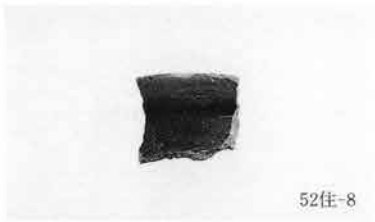
52住-3



52住-5

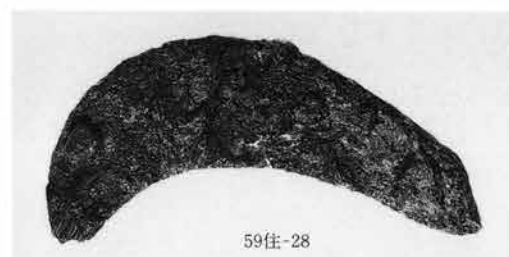


52住-7





PL - 90







63住-11



63住-12



63住-14



63住-13



63住-16



63住-15



63住-17



64住-1



64住-3



64住-4



65住-3



65住-1



64住-2



65住-4



65住-2



65住-5



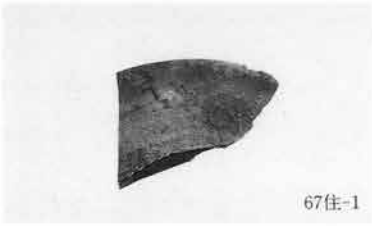
65住-6



65住-7



65住-8



67住-1



67住-2



67住-3



69住-1



69住-2



70住-1



70住-3



70住-2



70住-5



70住-4



79住-3



79住-1



79住-6



79住-7



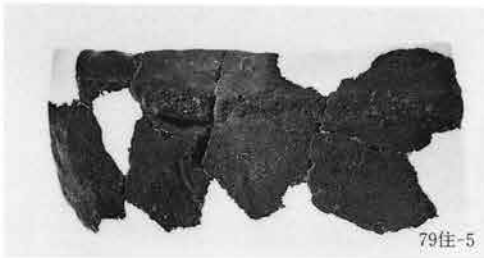
79住-4



80住-2



80住-4



79住-5



81住-1



80住-1



81住-2

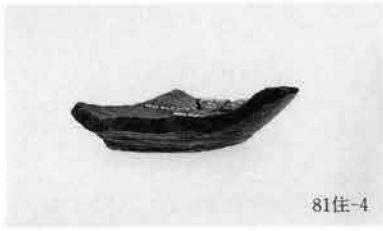


80住-3



81住-3

PL - 94



81住-4



92住-1



92住-2



92住-6



92住-4



92住-5



92住-3



92住-10



92住-7



92住-8



92住-9



92住-13



92住-11



92住-12



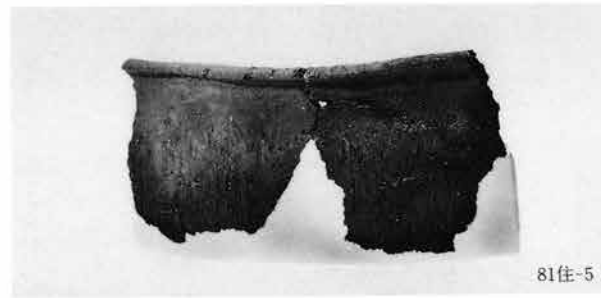
92住-17



92住-14



92住-18



81住-5



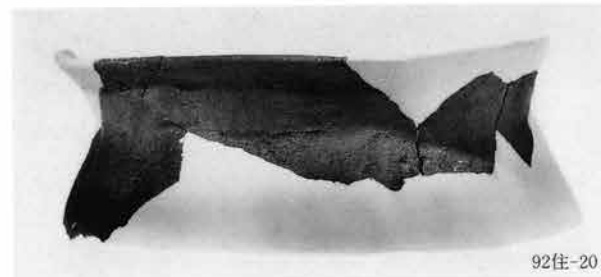
92住-15



92住-16



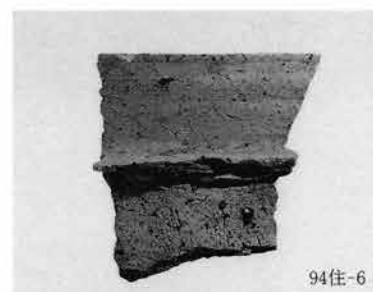
92住-19



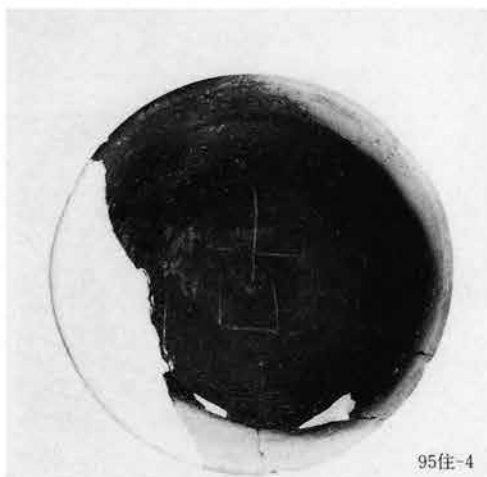
92住-20



92住-22

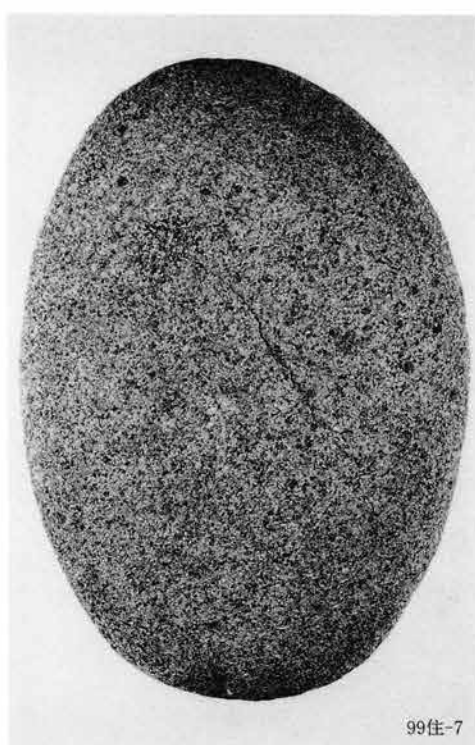
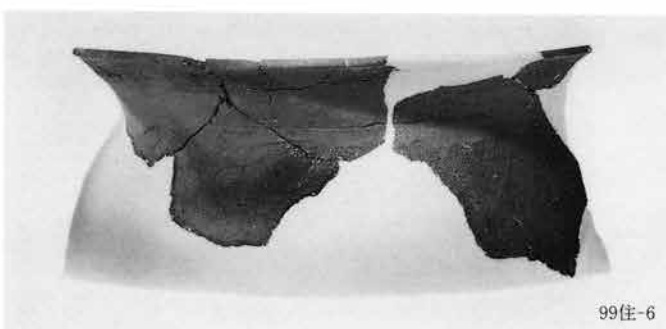
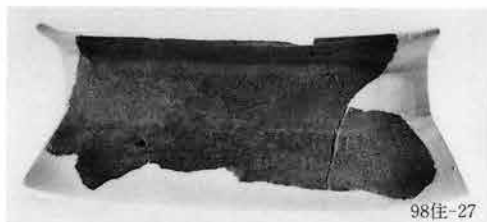


PL - 96





PL - 98





100住-1



100住-2



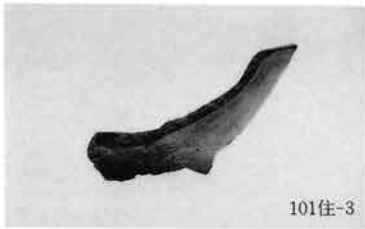
101住-5



101住-1



101住-2



101住-3



101住-6



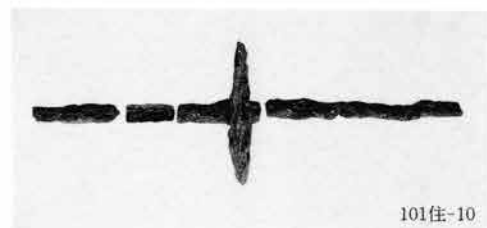
101住-7



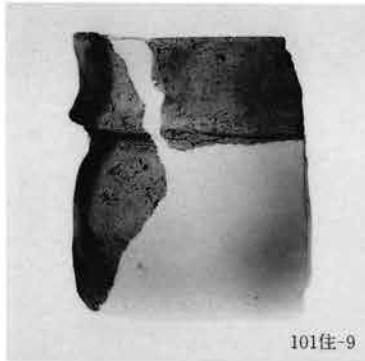
101住-8



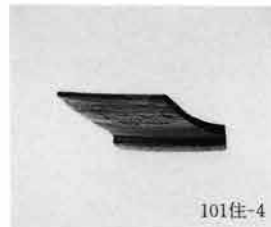
101住-6



101住-10



101住-9



101住-4



102住-6



102住-1



102住-2



102住-3



102住-5



102住-4



102住-7

PL - 100



102住-10



102住-8



103住-1



102住-12



103住-2



102住-11



102住-13



102住-9



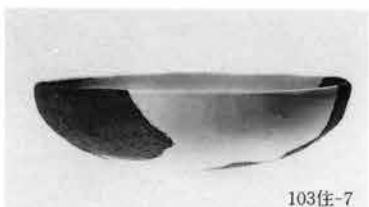
103住-6



103住-3



103住-5



103住-7



103住-8



103住-9



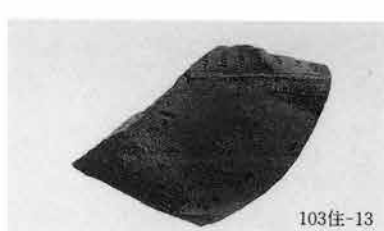
103住-12



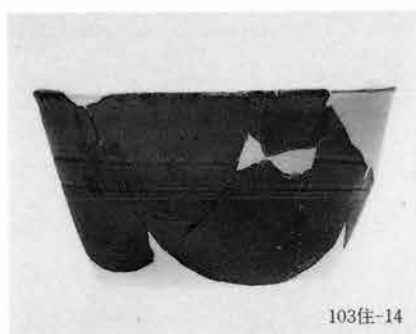
103住-11



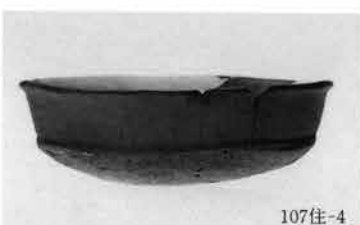
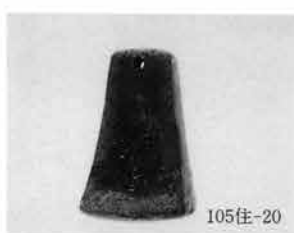
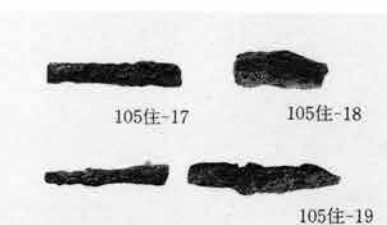
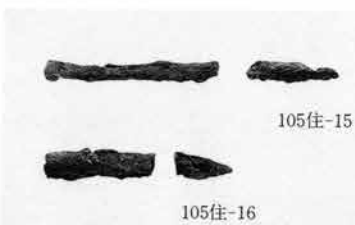
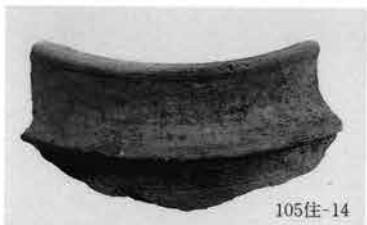
103住-16



103住-13



PL - 102





107住-13



107住-16



107住-14



107住-21



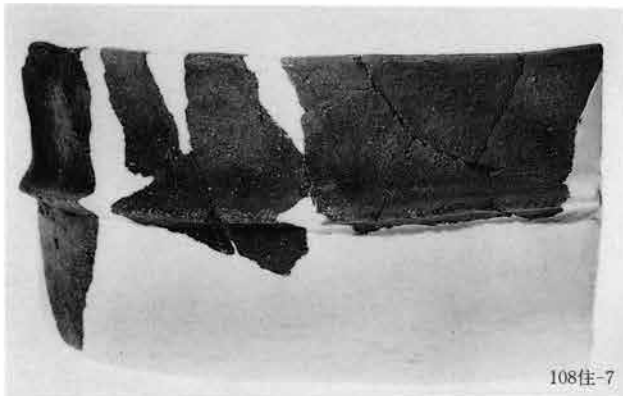
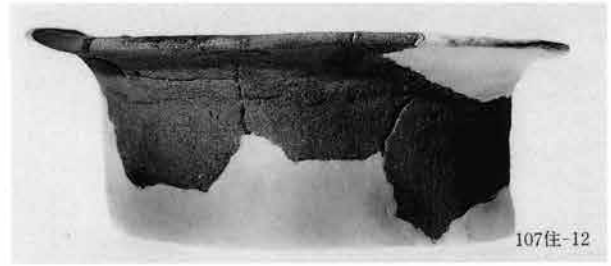
107住-15

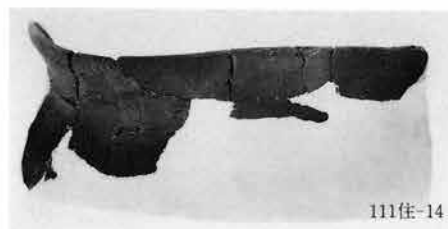
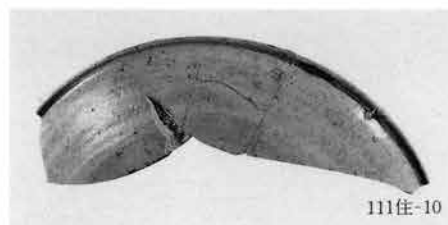
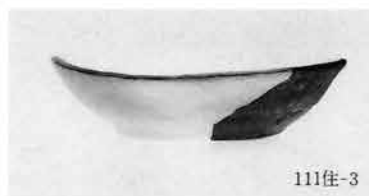
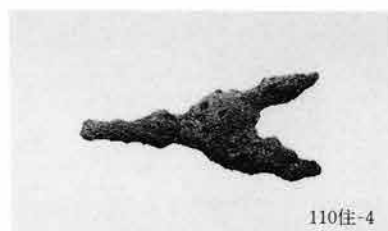
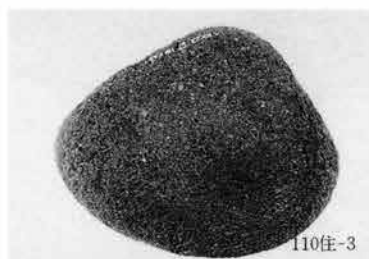
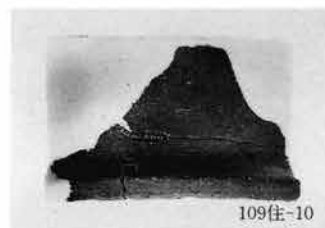


107住-20

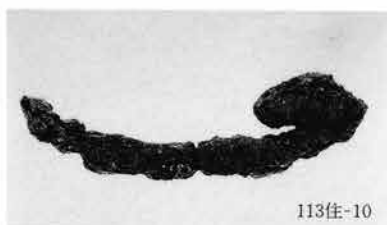
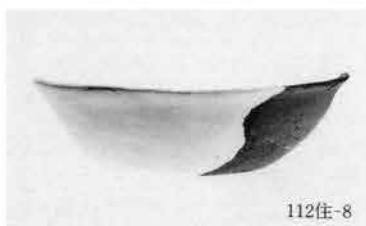


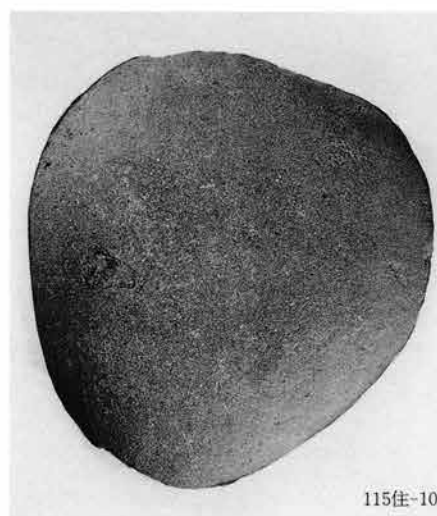
107住-17

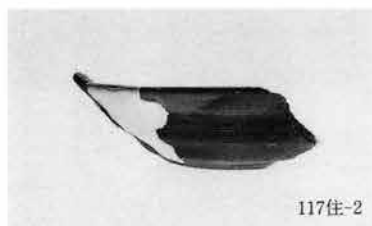
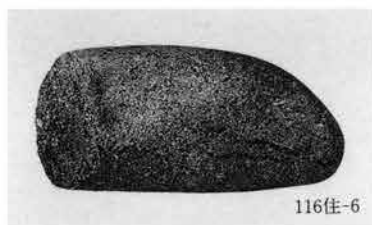
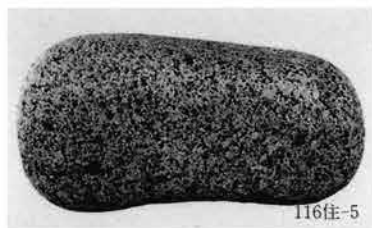
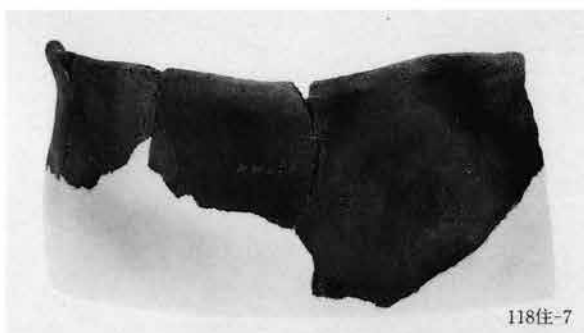


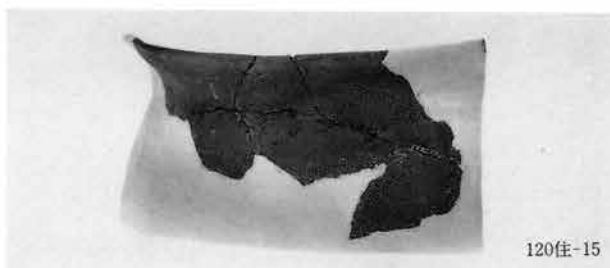
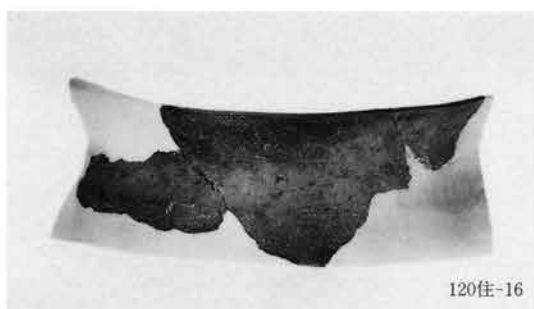
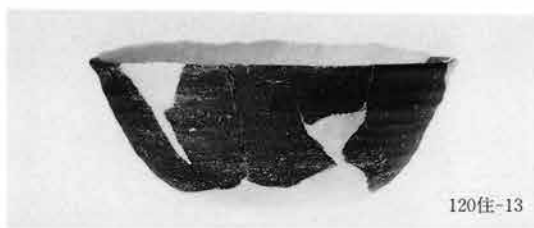


PL - 106

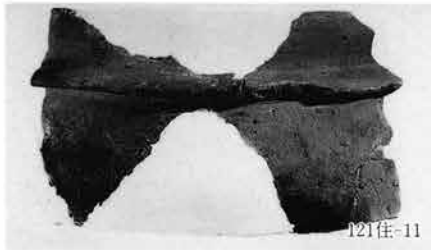


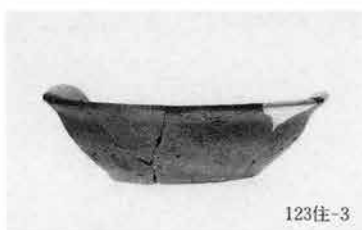




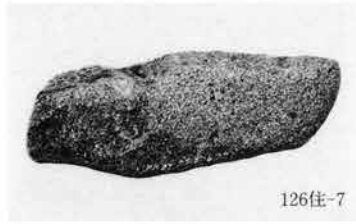


PL - 110





PL - 112





127住-9



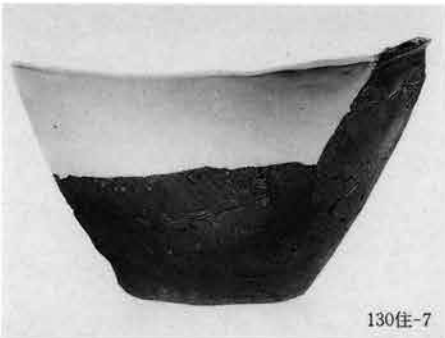
127住-14



130住-1



130住-11



130住-7



131住-1



127住-12



130住-2



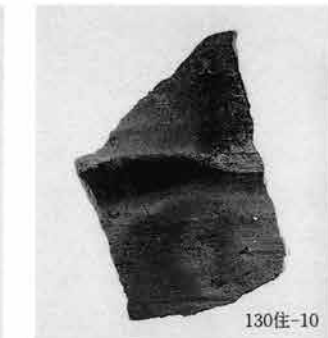
130住-4



130住-3



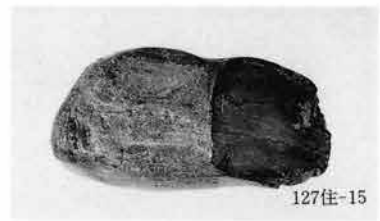
130住-9



130住-10



131住-2



127住-15



127住-16



127住-17



129住-1



130住-5



130住-6



130住-8



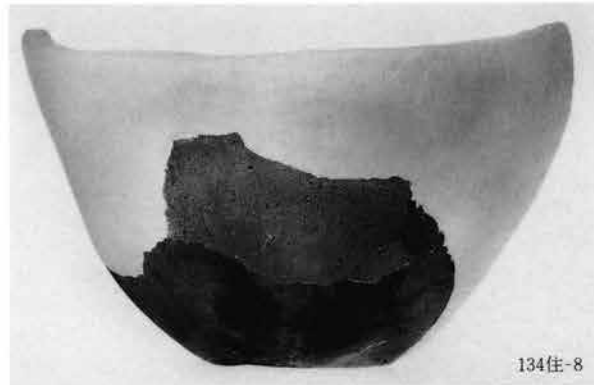
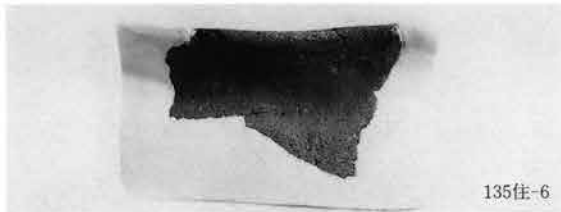
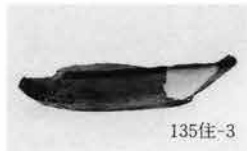
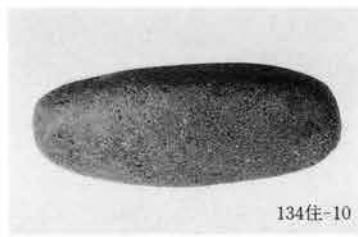
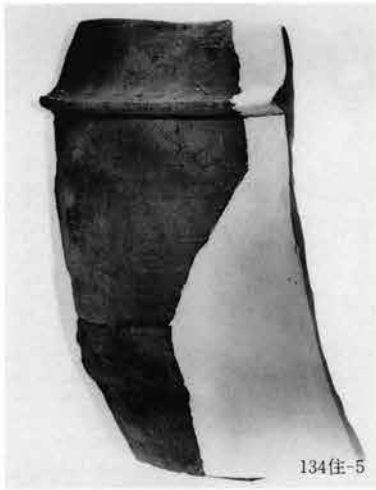
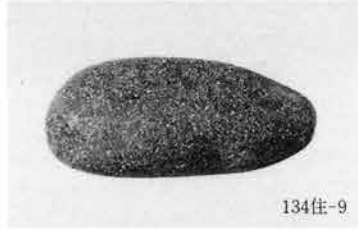
130住-13



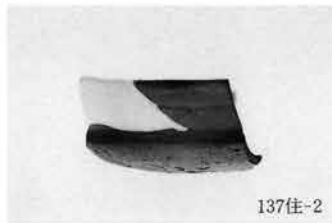
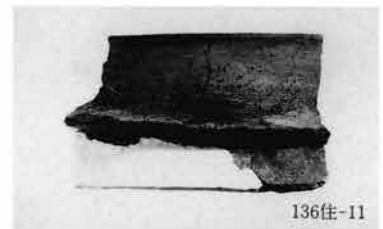
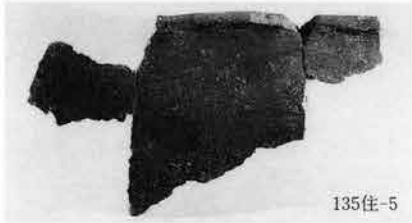
131住-12

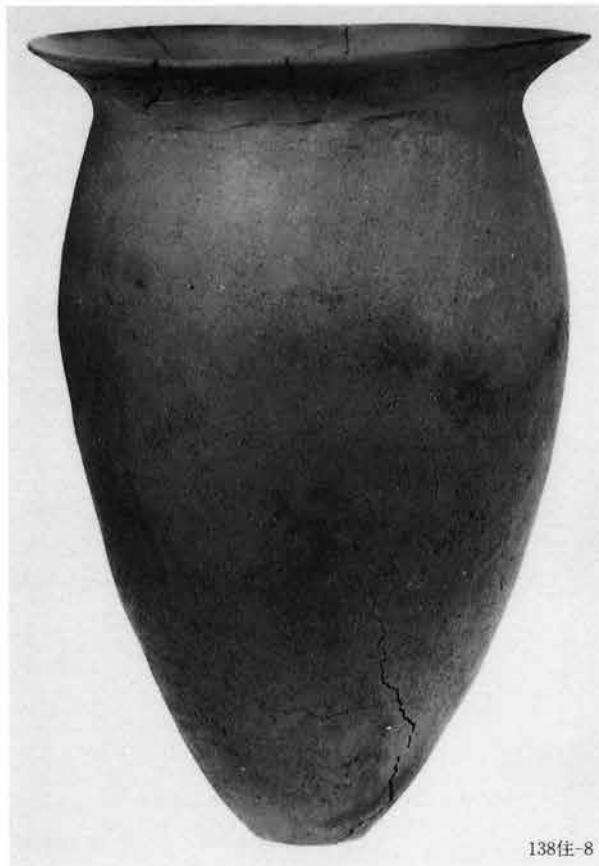
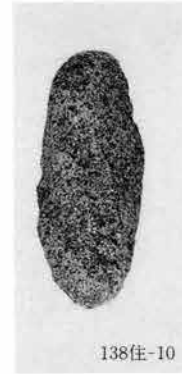
PL-114



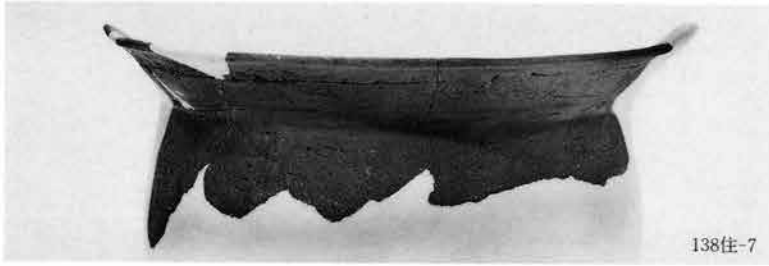


PL - 116





PL-118



138住-7



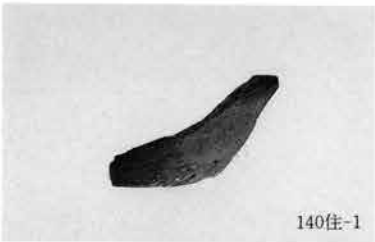
139住-1



139住-3



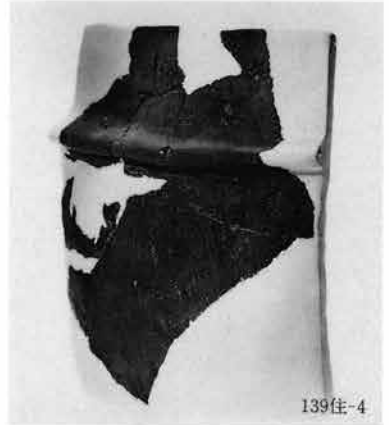
140住-3



140住-1



140住-5



139住-4



140住-2



140住-4



141住-3



140住-6



141住-10



141住-4



141住-2



141住-1



141住-5



141住-7



141住-6



141住-8



141住-9



143住



143住-1



143住-2



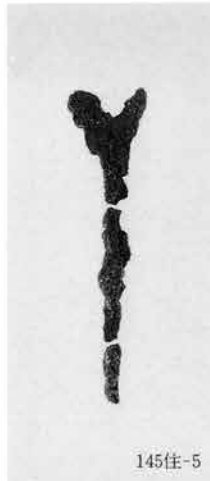
143住-3



145住-2



143住-3



145住-5



145住-3



145住-1



146住-1



146住-3



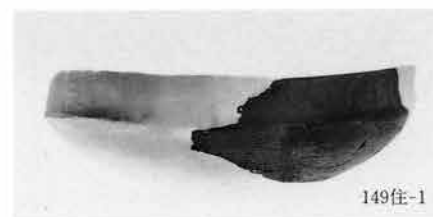
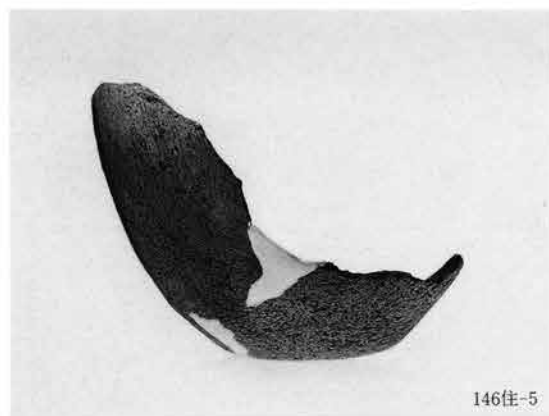
145住-4

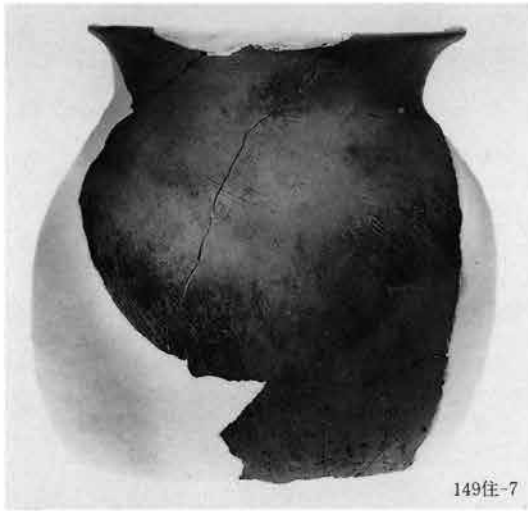
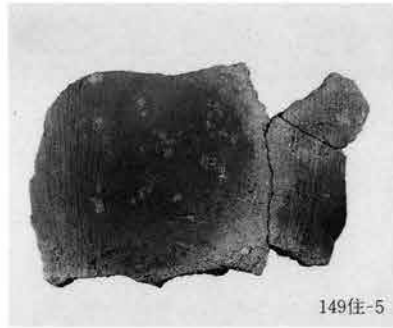
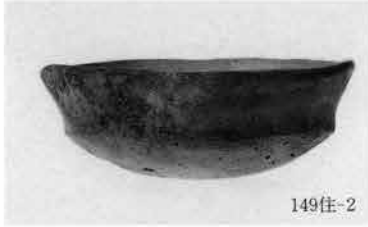
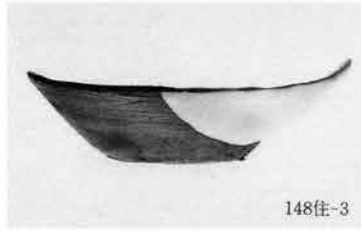


148住-2

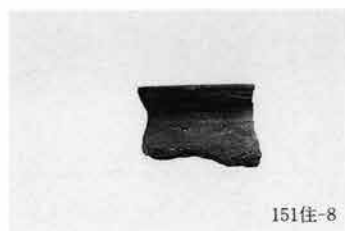
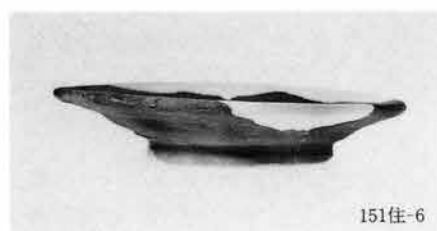
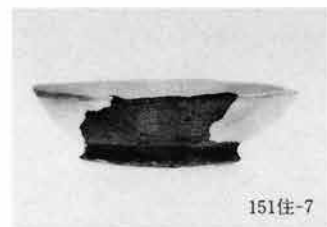
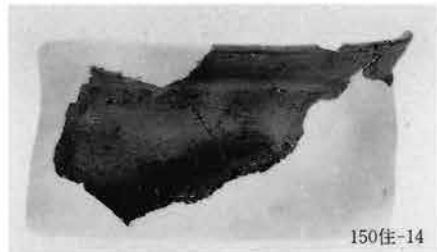
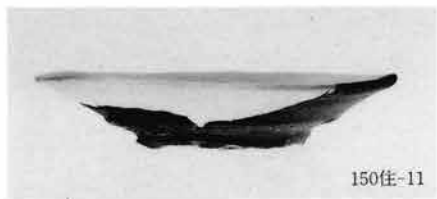
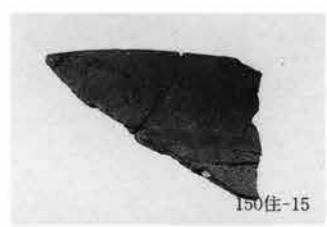
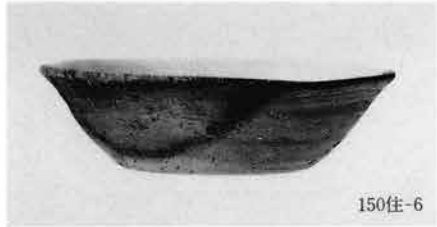


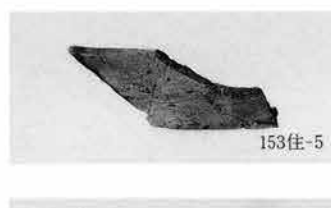
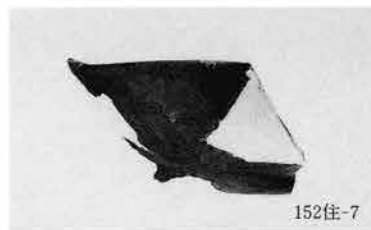
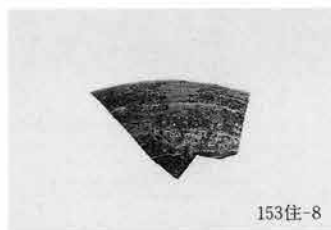
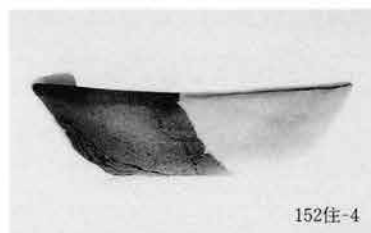
146住-2



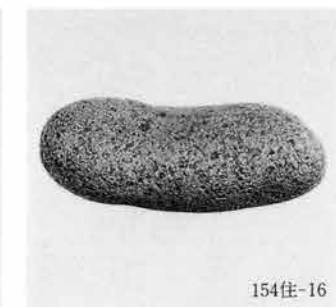
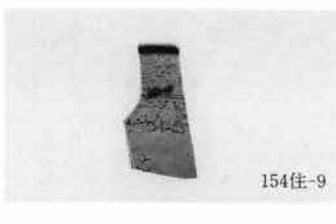
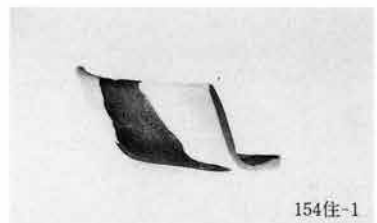


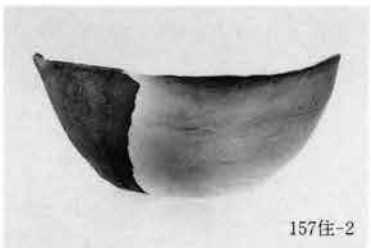
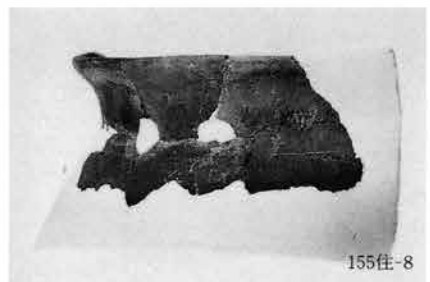
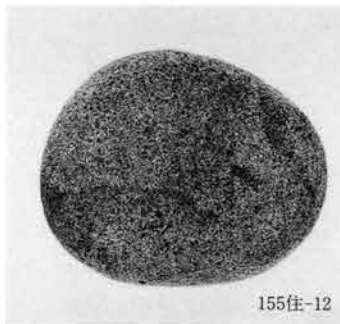
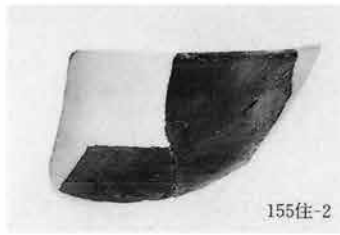
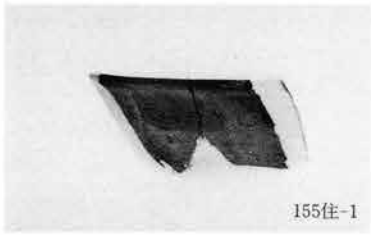
PL - 122





PL - 124

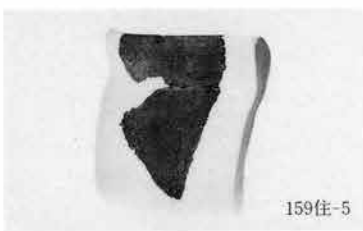




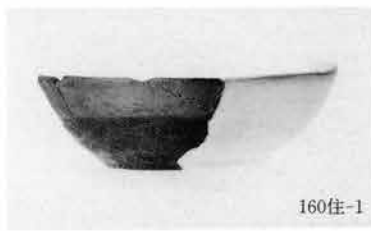
PL - 126



159住-4



159住-5



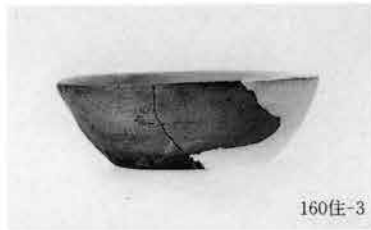
160住-1



159住-6



160住-4



160住-3



160住-6



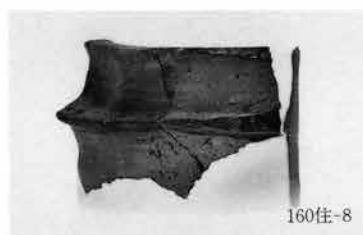
160住-2



160住-14



160住-11



160住-8



160住-7



160住-12



160住-9



160住-10



160住-5



160住-15

160住-16

160住-17

160住-18

160住-19

160住-20

160住-21



161住-1



161住-3



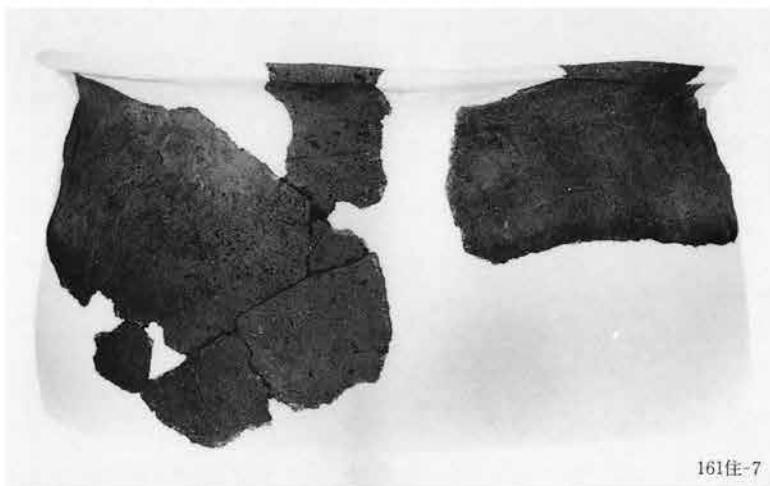
161住-5



161住-2



161住-4



161住-7



161住-6



161住-8



162住-1



162住-3



163住-4



164住-1



163住-1



164住-2



163住-2



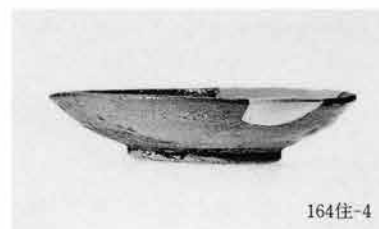
163住-5



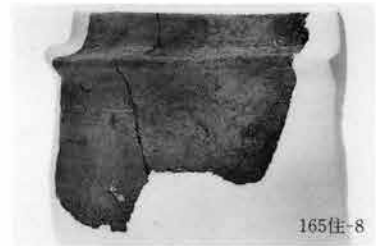
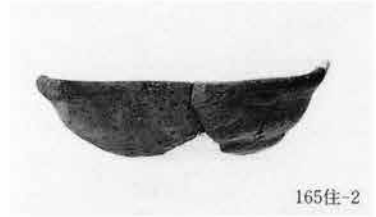
162住-2



164住-3



164住-4





165住-14



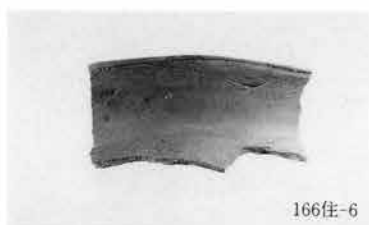
165住-12



166住-1



166住-5



166住-6



166住-7



166住-11



166住-8



166住-10



167住-1



167住-2



167住-3



167住-4

PL - 130



167住-5



167住-6



167住-7



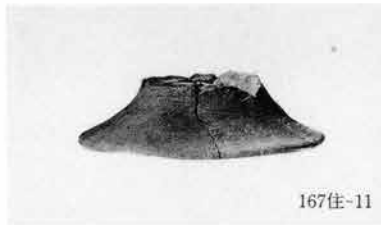
167住-10



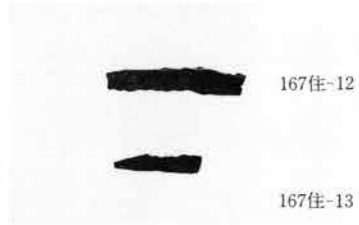
167住-8



167住-9



167住-11



167住-12

167住-13



168住-1



168住-2



168住-3



168住-4



168住-5



168住-8



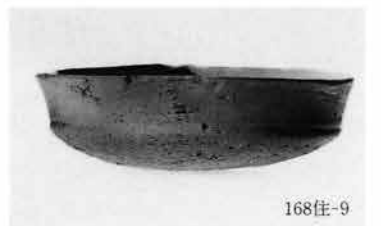
168住-7



168住-6



168住-10



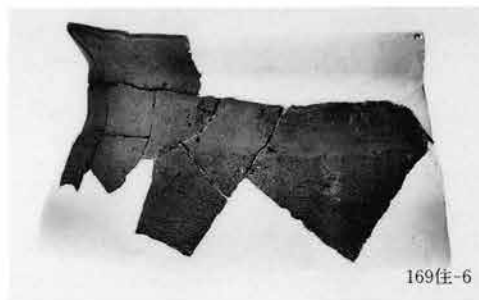
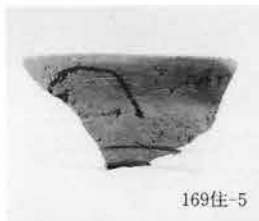
168住-9



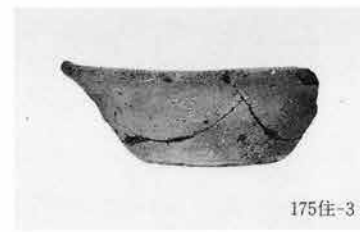
169住-1



168住-11







PL - 134



175住-5



175住-11



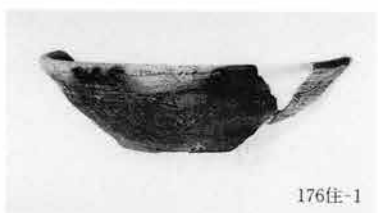
175住-9



175住-7



175住-10



176住-1



176住-2



176住-3



176住-4



176住-5



176住-6



176住-7



176住-8



176住-9



176住-10



176住-12



176住-13



176住-16



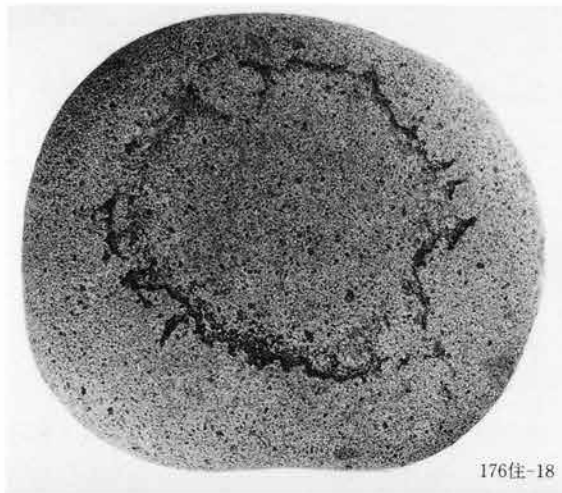
176住-11



176住-14



176住-18



176住-18



177住-1



176住-17



177住-2



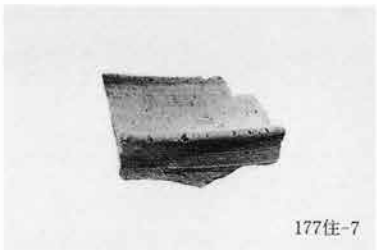
177住-4



176住-15



177住-3



177住-7



177住-5



177住-6



177住-8



178住-1



178住-2



179住-1



181住-1



182住-1



182住-3



182住-4



182住-2

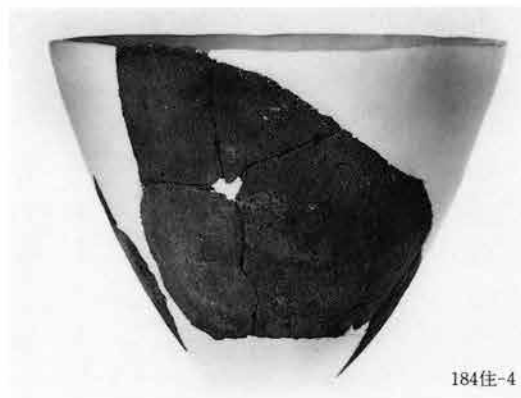
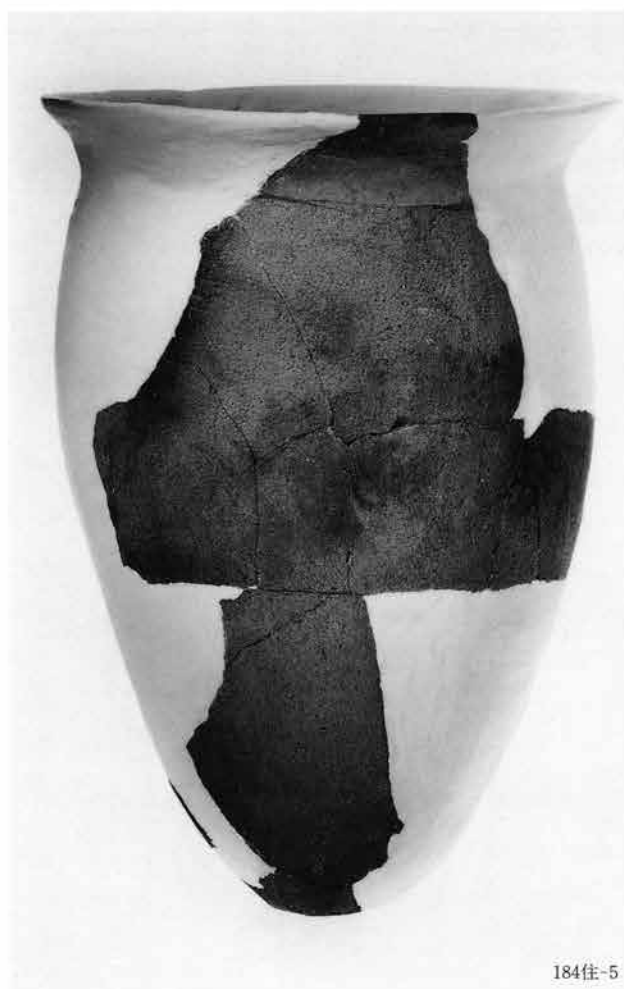
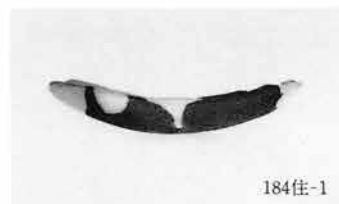
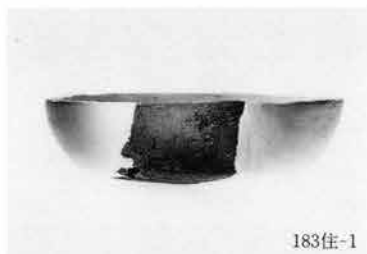


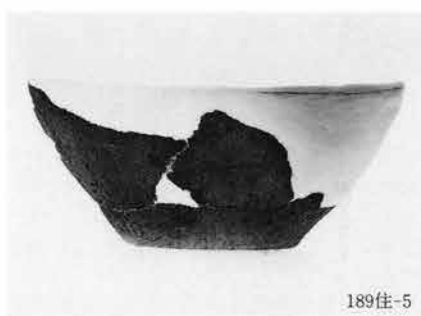
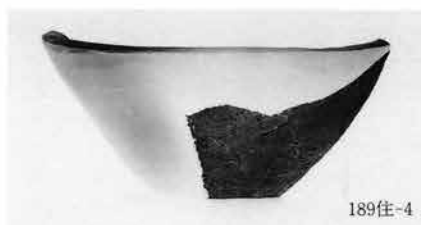
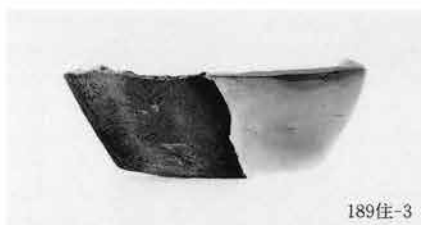
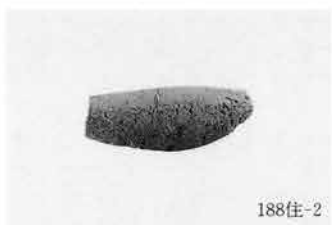
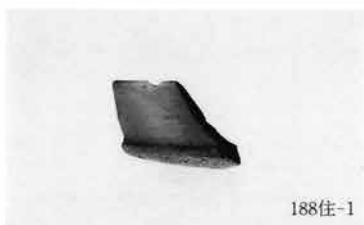
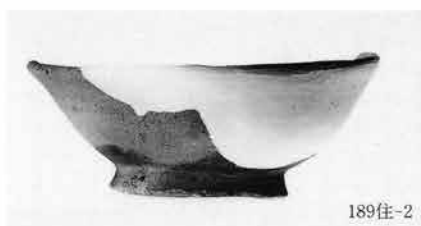
182住-6



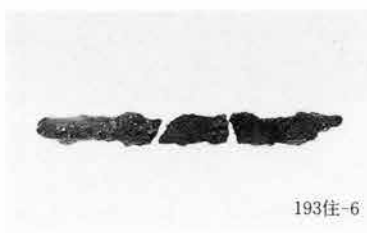
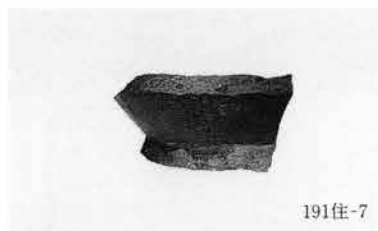
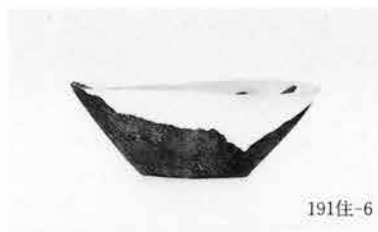
182住-5

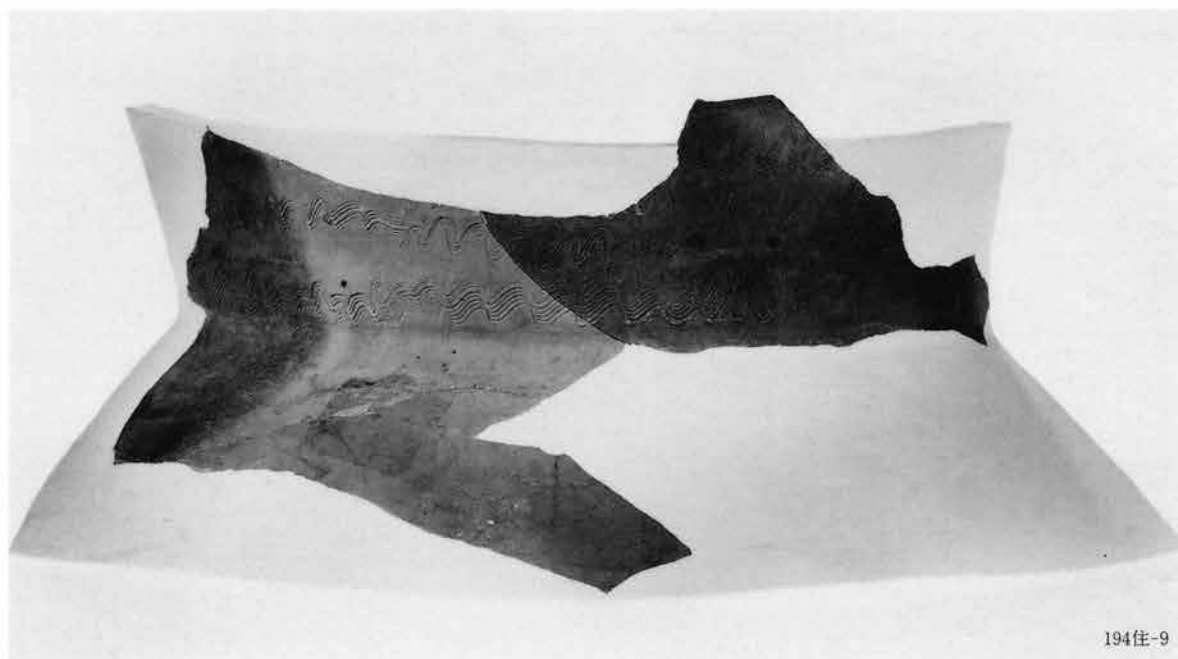
PL - 136



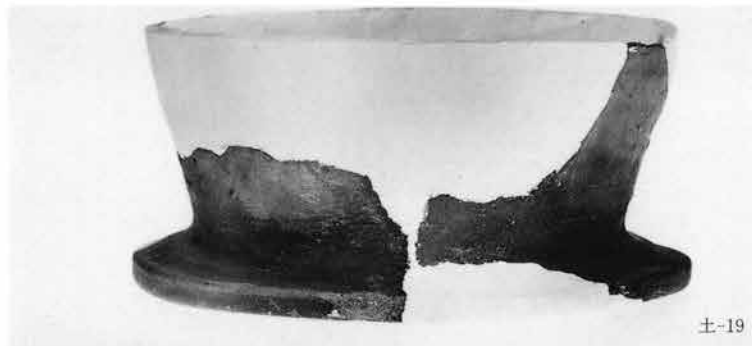
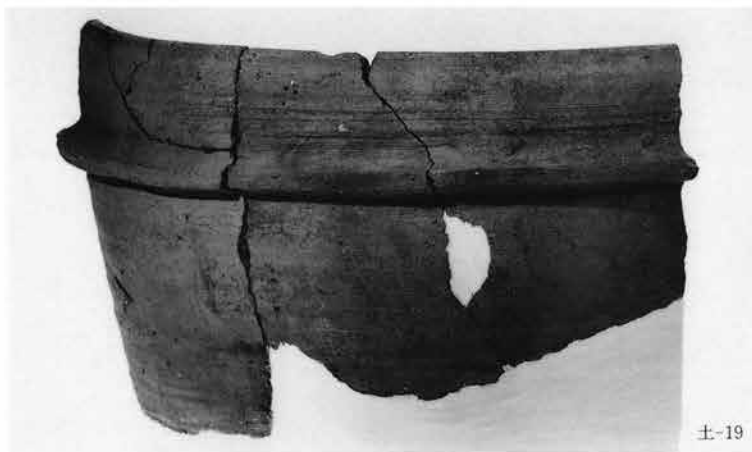


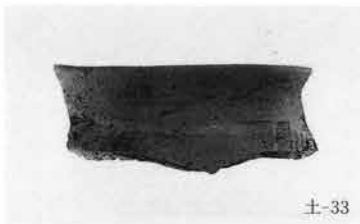
PL - 138





PL - 140





PL - 142



土-53



土-52



土-40



土-43



土-42



土-41



土-44



351土



土-47



墓-1



墓-7



308土



墓-6



墓-2



墓-3



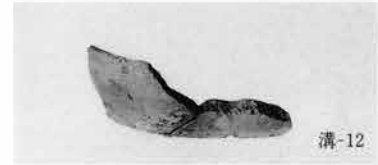
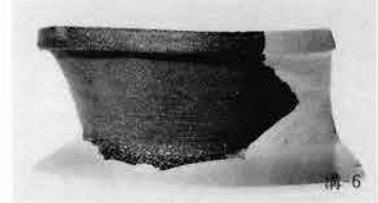
墓-4



墓-8



墓-5



PL - 144



井-5



井-1



井-2



井-3



井-6



井-4



井-10



井-7



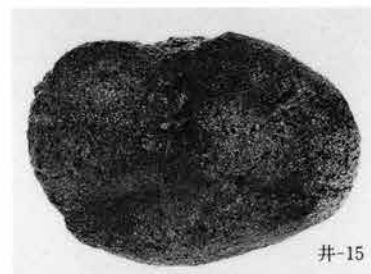
井-8



井-9



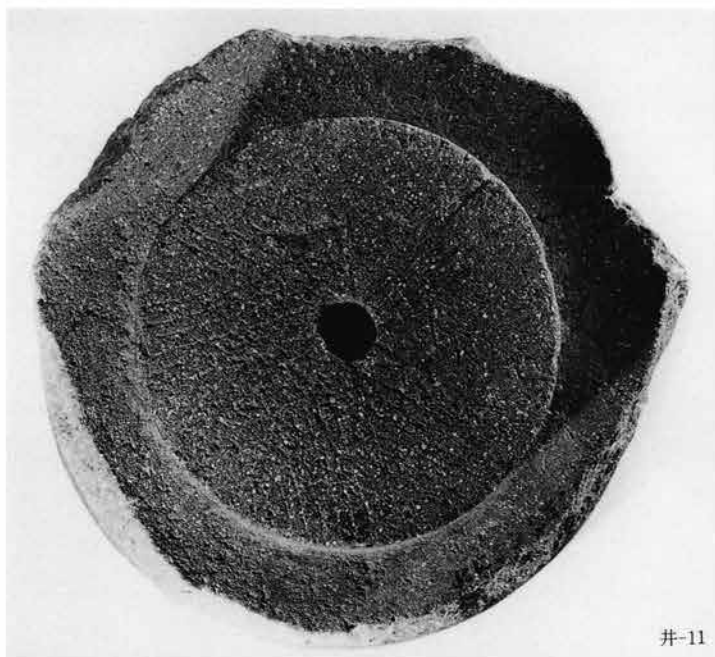
井-10



井-15



井-19



井-11



井-13



井-11



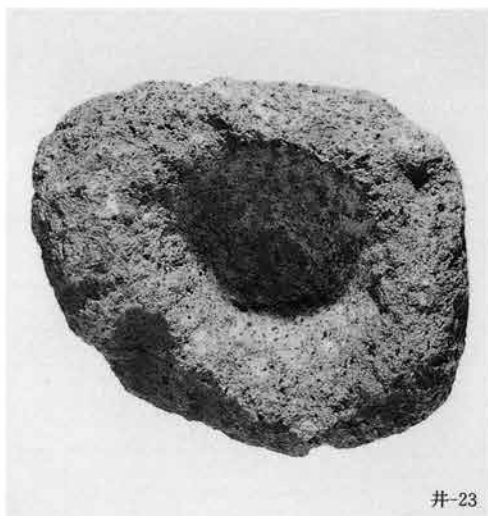
井-22



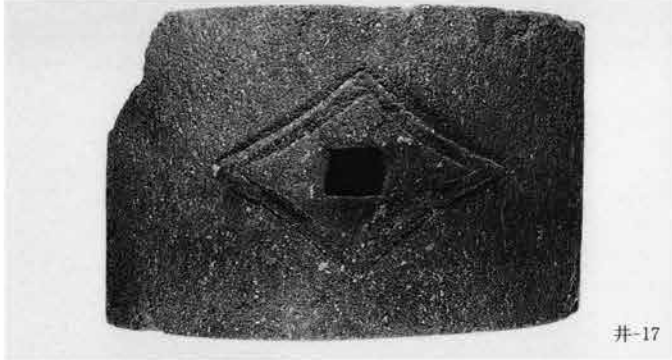
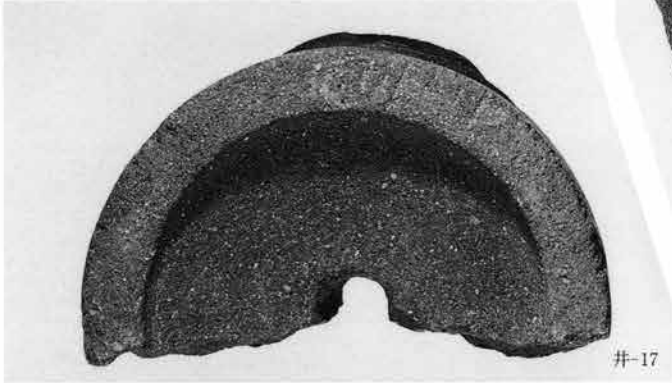
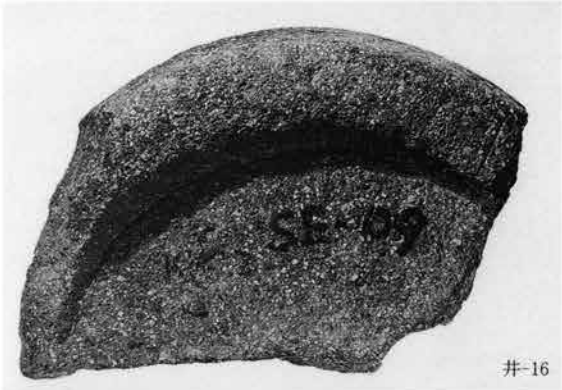
井-12

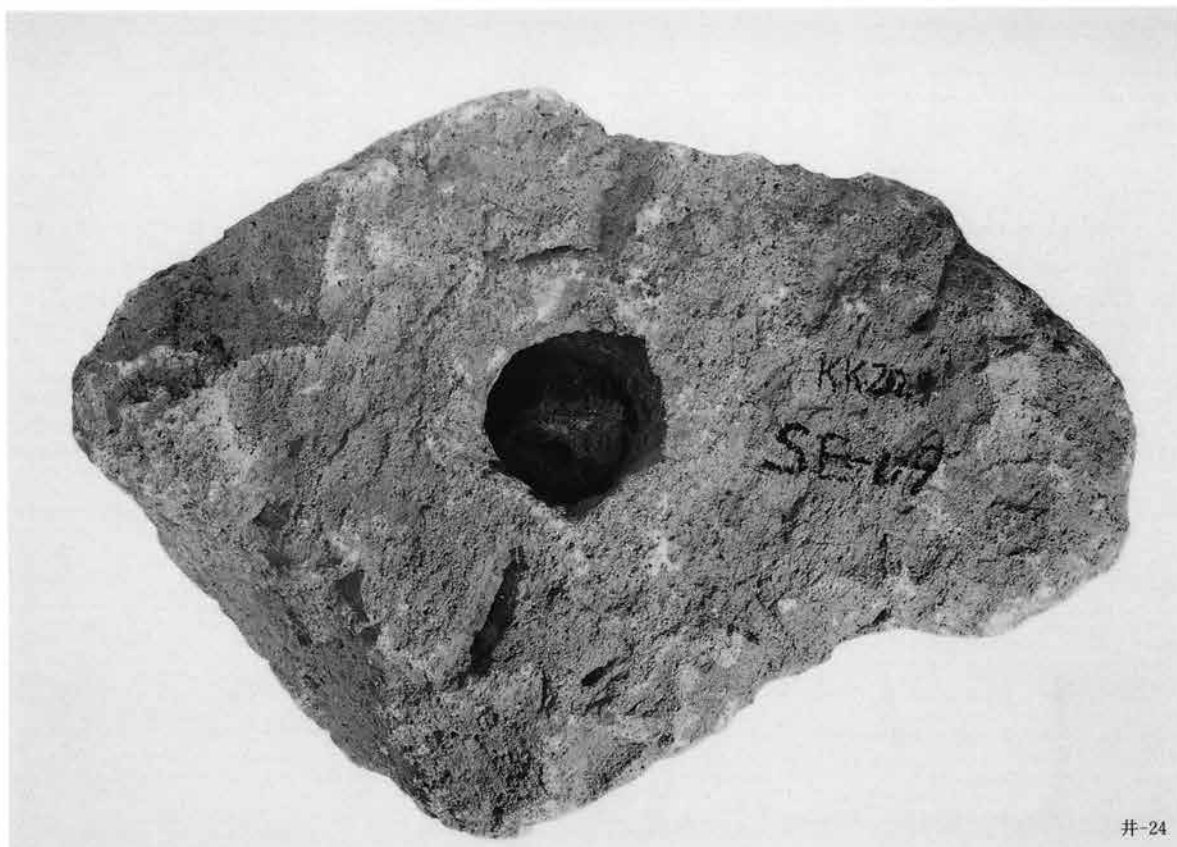


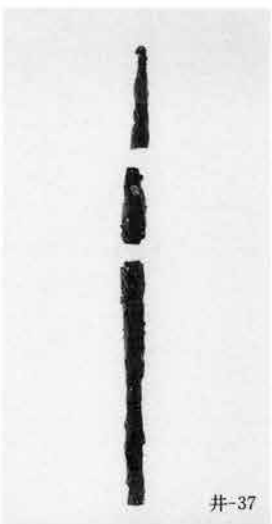
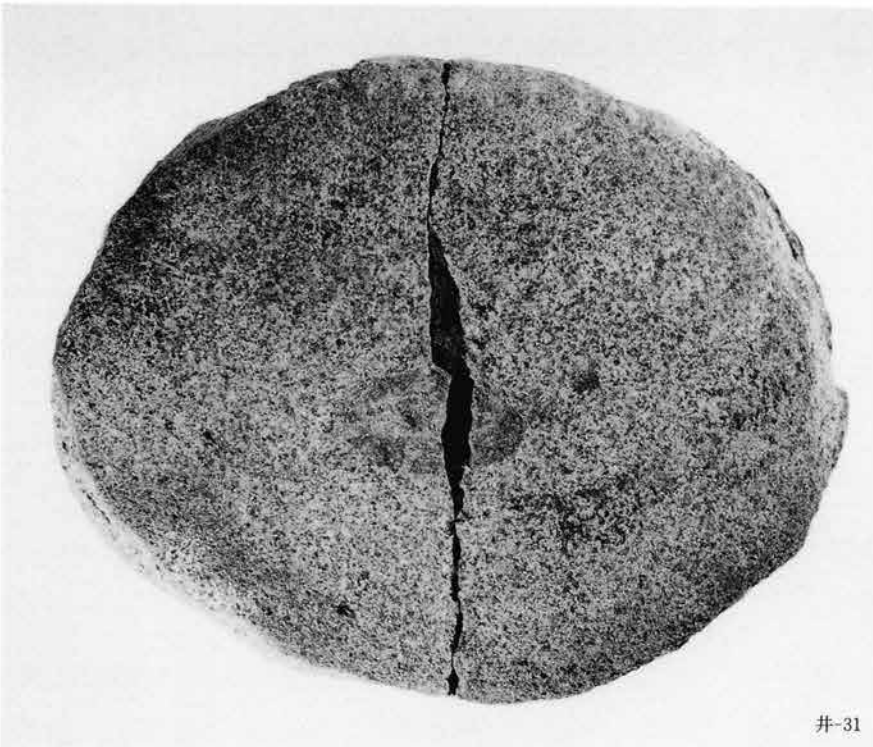
井-12

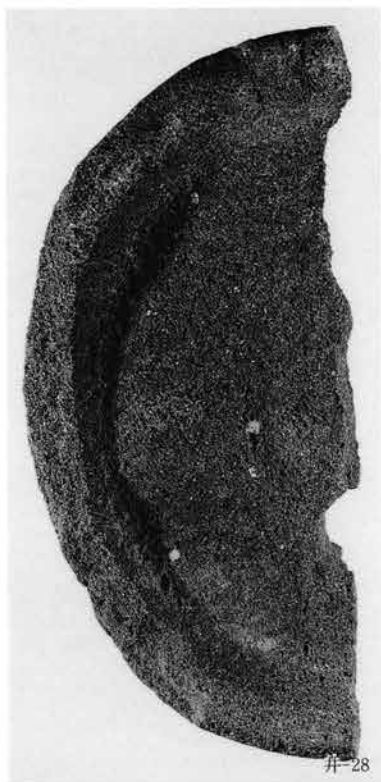


井-23

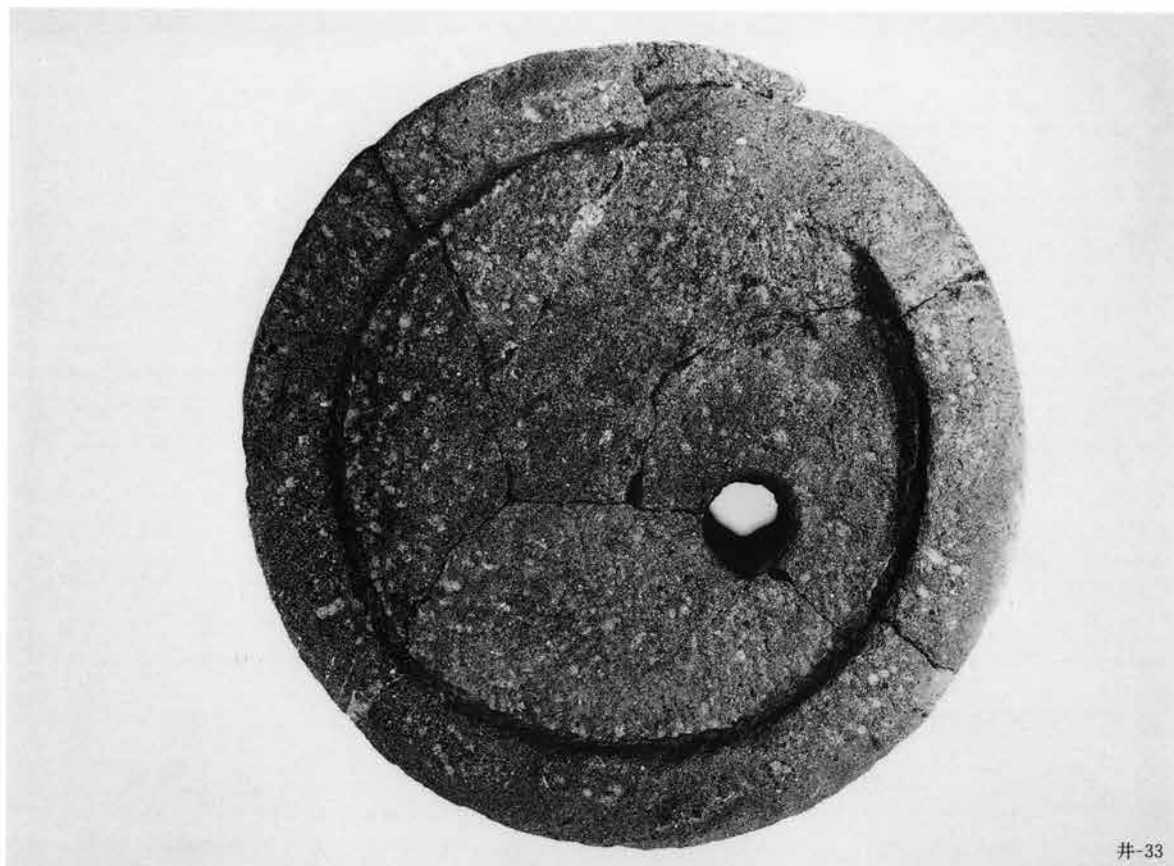








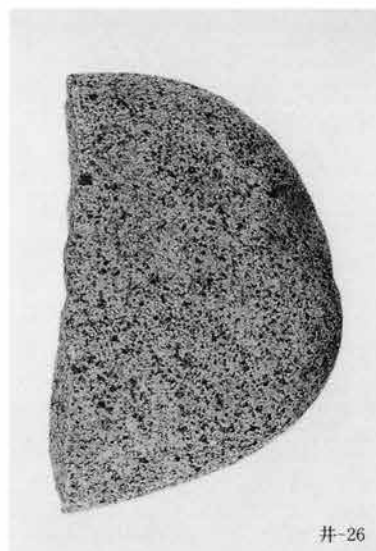
PL - 150



井-33



井-33





陶-3



陶-3



陶-6



陶-6



陶-14



陶-14



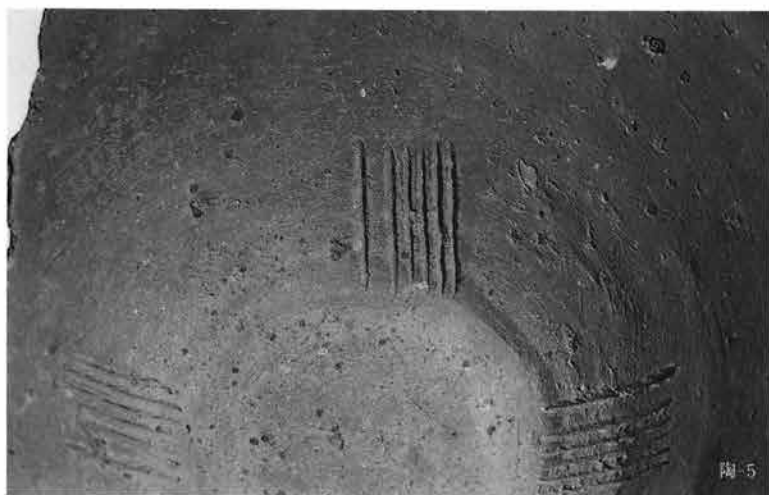
陶-27



陶-28



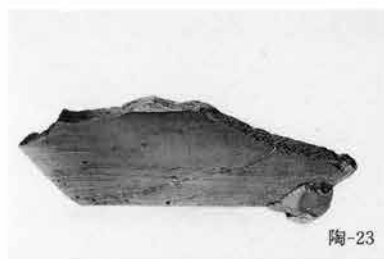
陶-5



陶-5



陶-5



陶-23



陶-15



陶-15



陶-32



陶-32

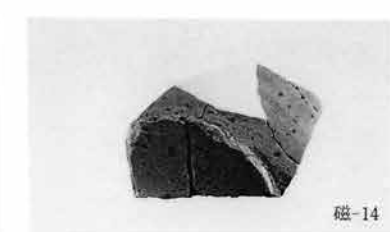
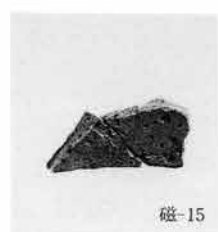
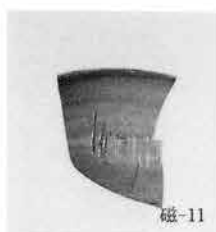
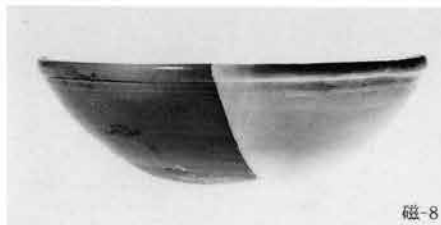
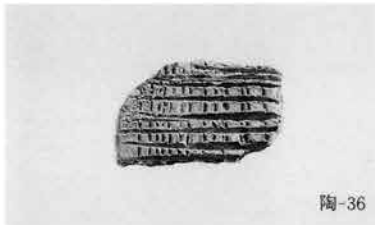
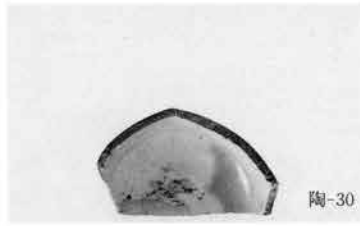




表-1



表



表-2

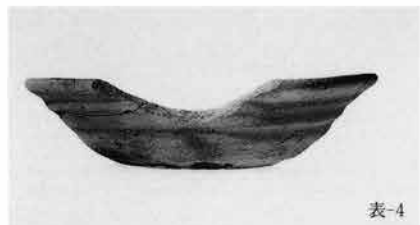


表-4



表



表-3



表



表-7



表-6



表-10



表



表-9

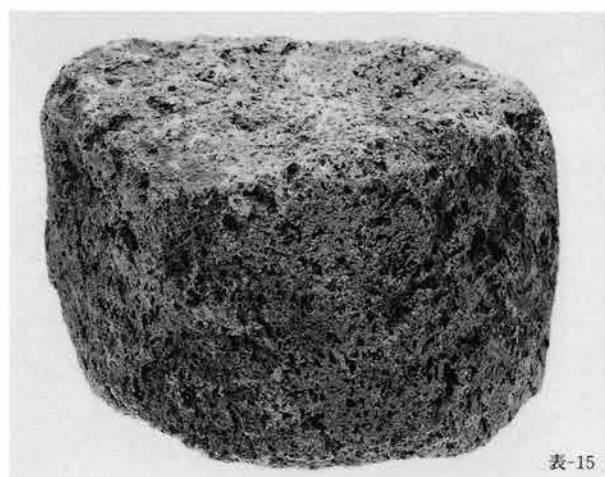


表-15



表-16



表-9



表-14



表-11



表-13



表-13



表採



表採



表採



表-12



表-12



表採



表採



表採



表採



表採



表採



1号住居跡



1号住居跡竈



2号住居跡



2号住居跡竈



2号住居跡竈



3号住居跡



3号住居跡竈



4号住居跡



4号住居跡竈



5号住居跡



5号住居跡竈



6号住居跡



6号住居跡竈



1号掘立柱建物跡



1号井戸



2号井戸



2号井戸



7・8号土坑



8号土坑



2号溝



3号溝



4号溝



6号溝



B区B軽石下畠



B区B軽石下畠



B区東側道畠



E区西側側道部小穴群



E区西側側道部小穴群



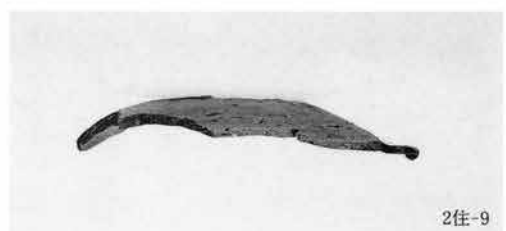
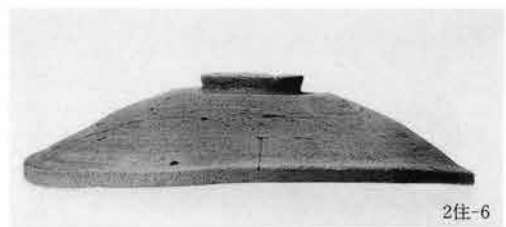
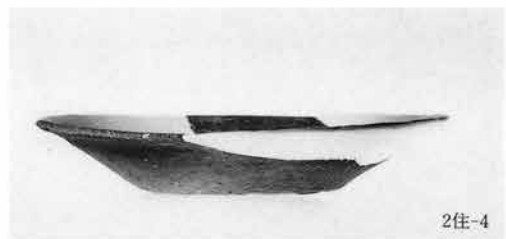
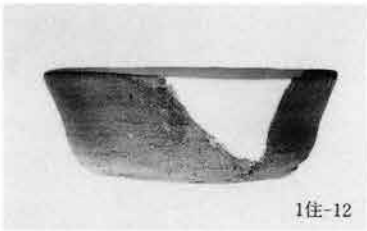
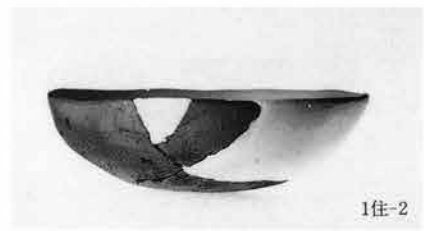
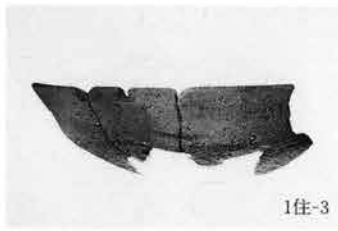
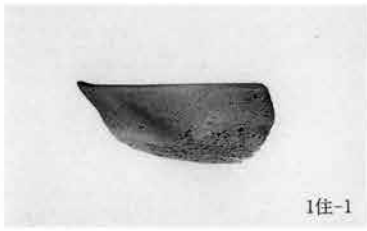
E区カルバート畠



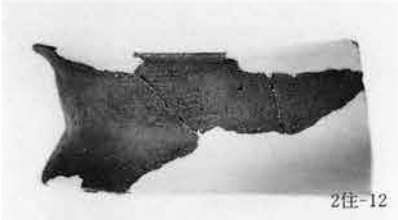
E区西側畠

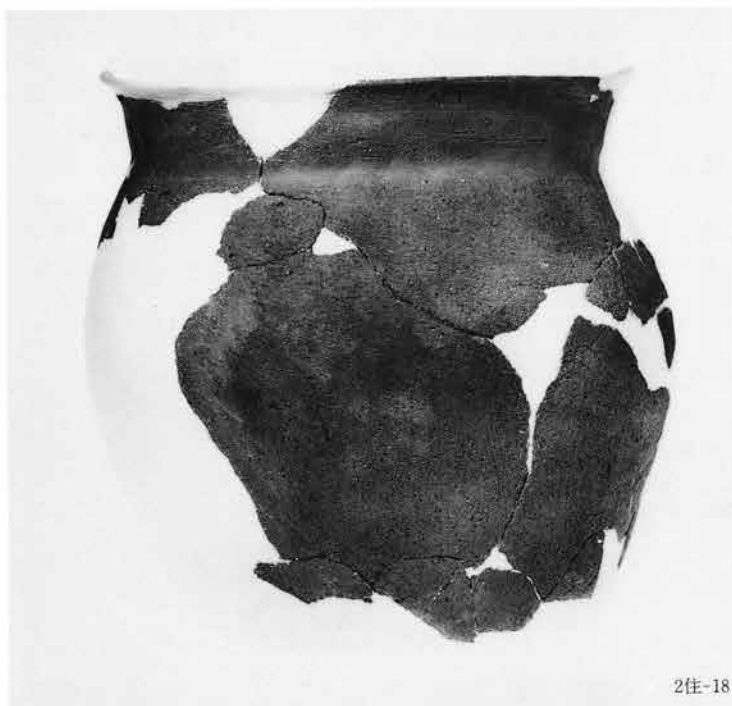


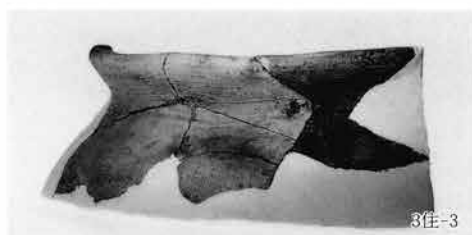
E区西側畠



PL - 162









6住-2



4住-6



4住-7



表-1



表-2



表-3



表-4



4住-9



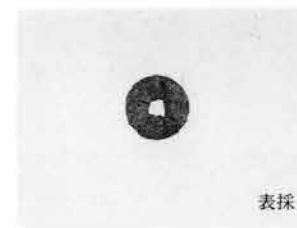
表-5



表-5

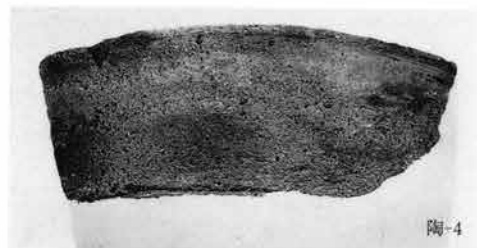


2井

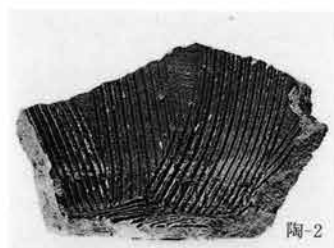


表採

PL - 166



陶-4



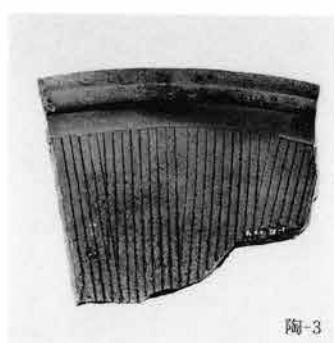
陶-2



陶-2



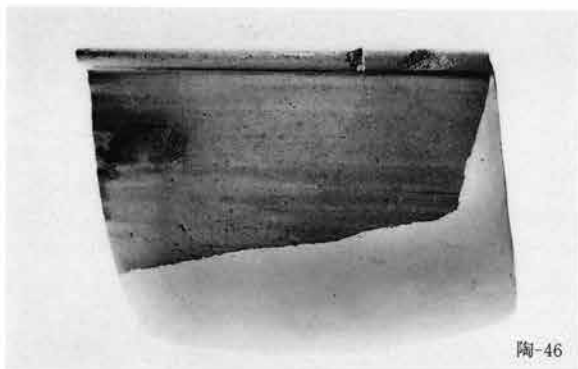
陶-5



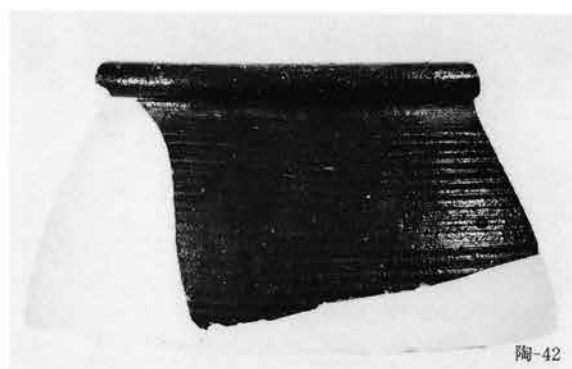
陶-3



陶-3



陶-46



陶-42



陶-38



陶-38



陶-37



陶-37



陶-45



陶-34



陶-44



陶-1



陶-1



陶-44



陶-19



陶-7



陶-19



陶-7



陶-12



陶-27



陶-27



陶-36



陶-36



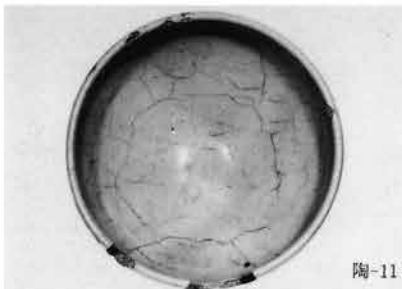
陶-12



陶-16



陶-16



陶-11



陶-25



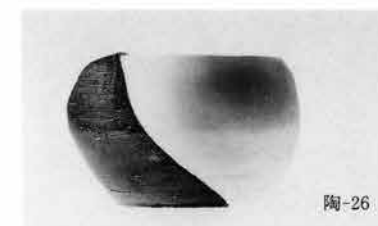
陶-25



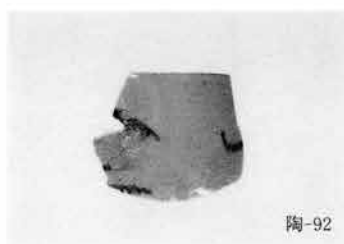
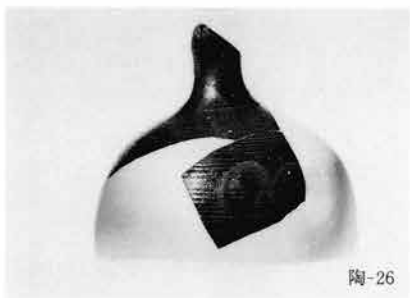
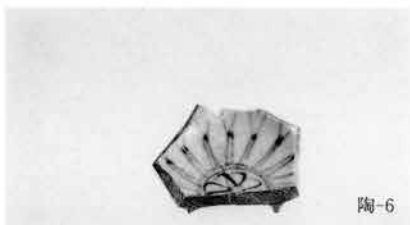
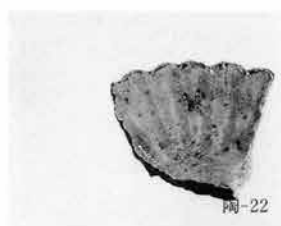
陶-11

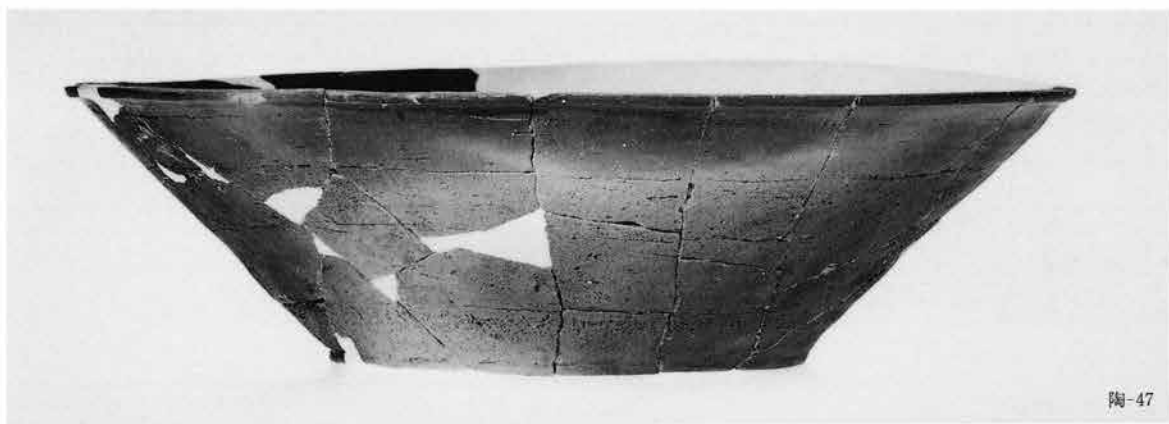


陶-9



陶-26





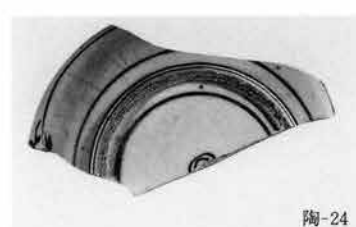
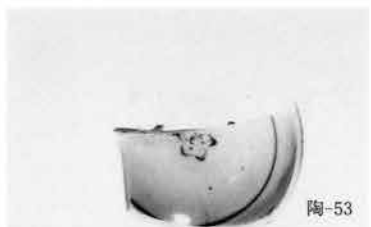
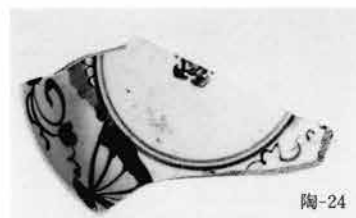
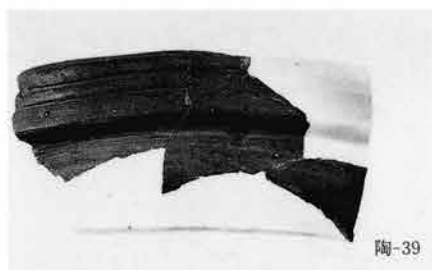
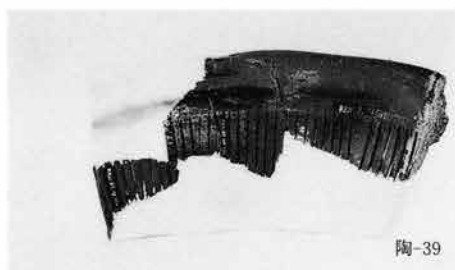
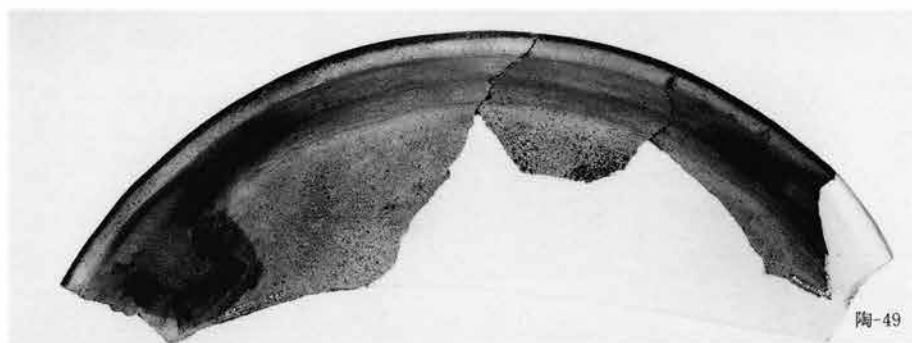
陶-47

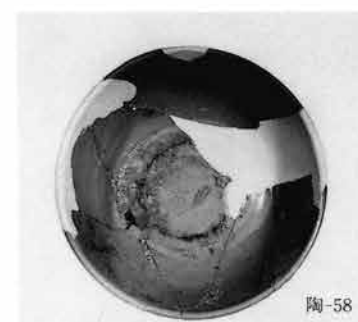
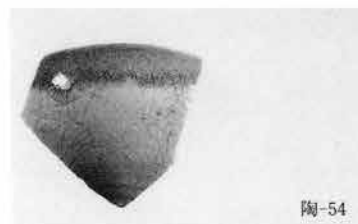
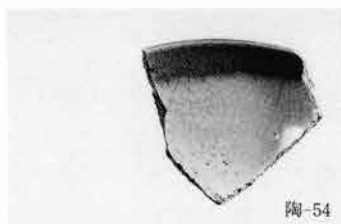
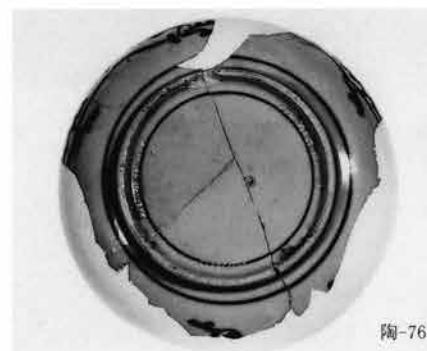
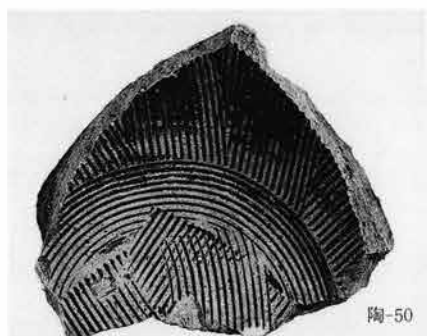


陶-48



陶-48





PL-172



陶-75



陶-75



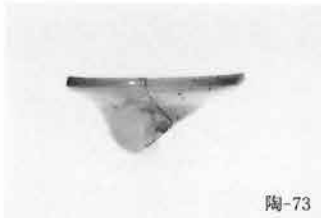
陶-64



陶-71



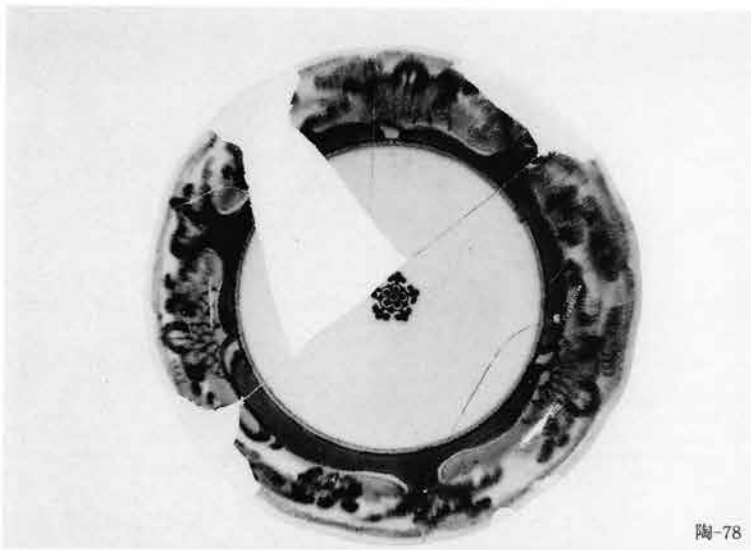
陶-69



陶-73



陶-68



陶-78



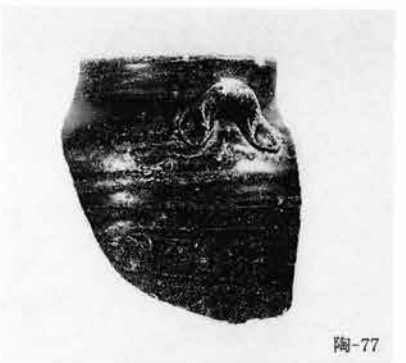
陶-67



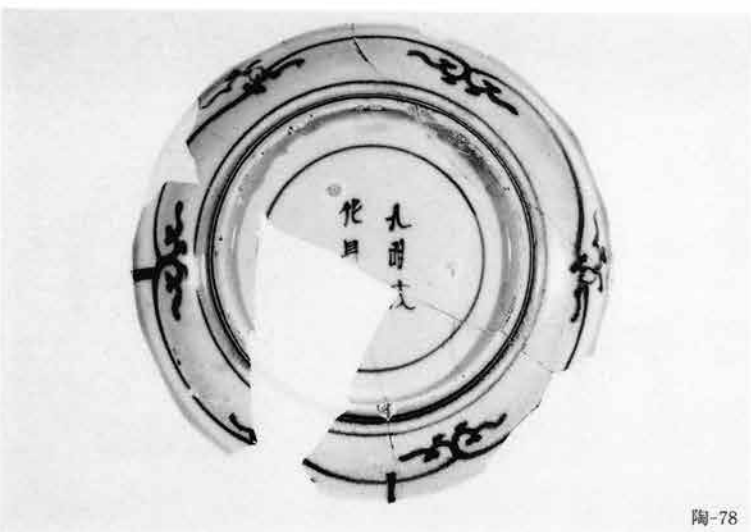
陶-66



陶-78



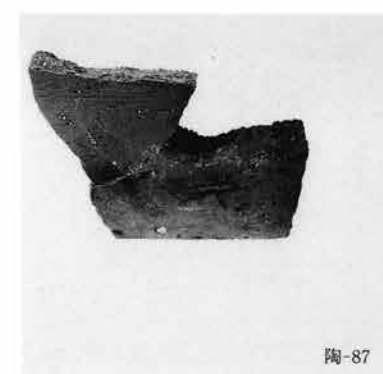
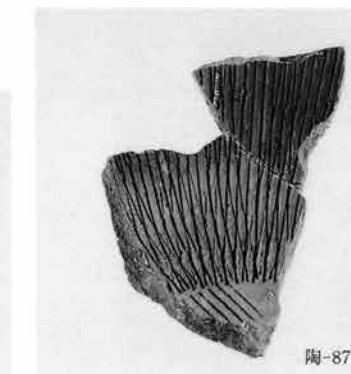
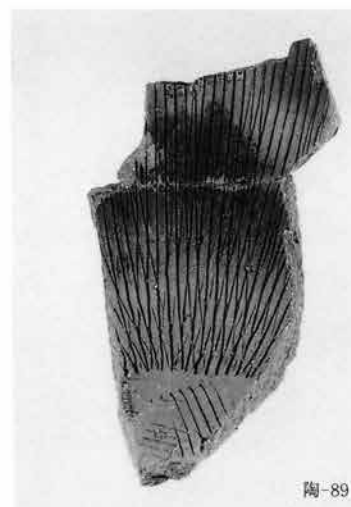
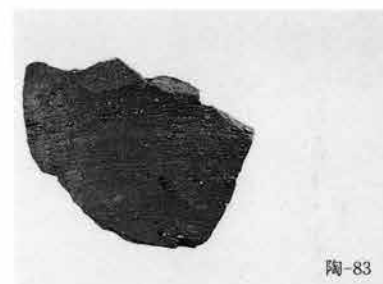
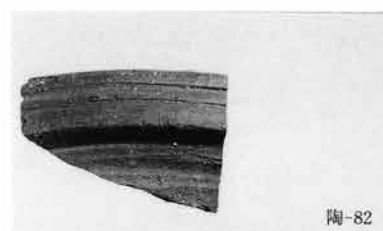
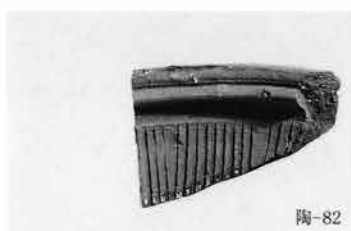
陶-77



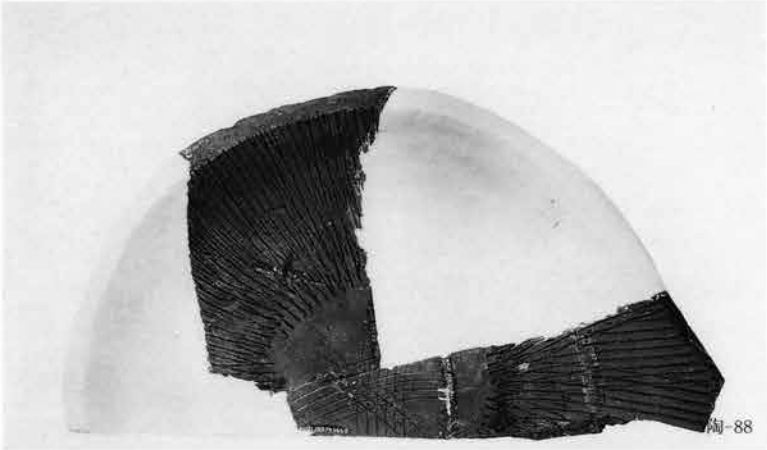
陶-78



陶-79



PL - 174



陶-88



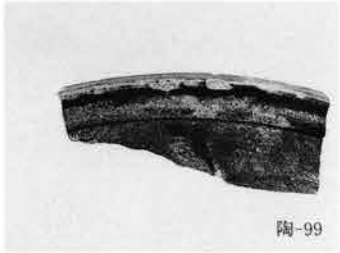
陶-101



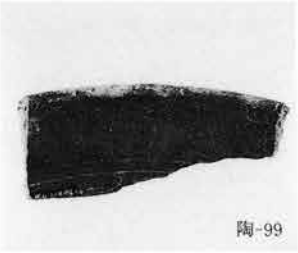
陶-88



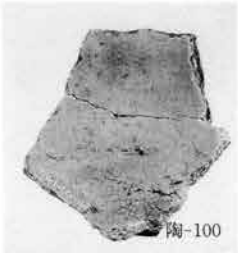
陶-96



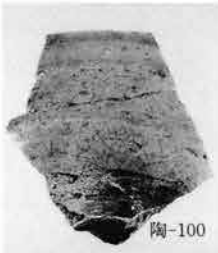
陶-99



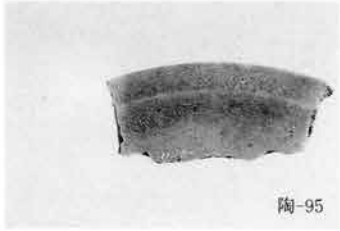
陶-99



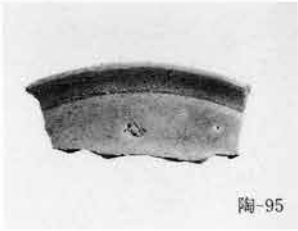
陶-100



陶-100



陶-95



陶-95



陶-94



陶-94

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告第94集

有馬遺跡 I
大久保B遺跡

一関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第26集一

平成元年 8月25日 印刷

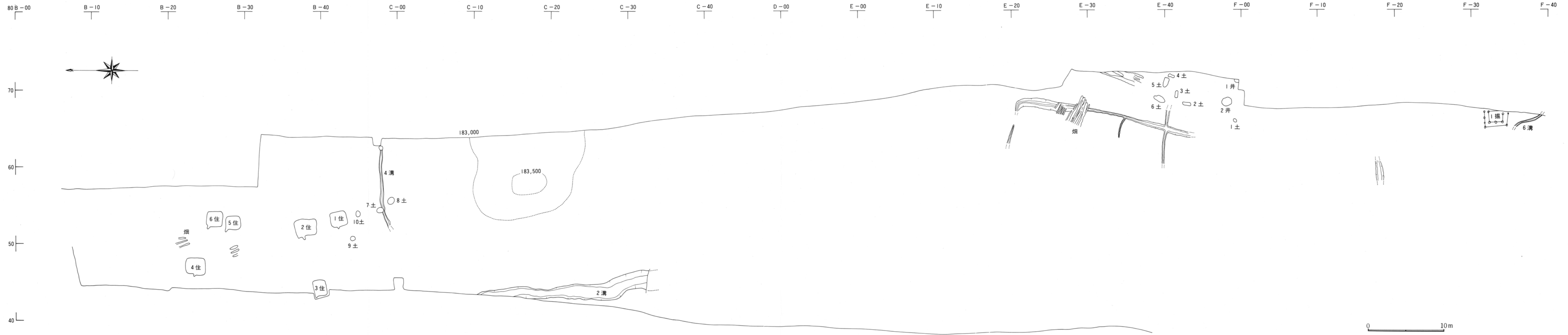
平成元年 8月31日 発行

編集／(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
勢多郡北橋村下箱田784番地の2
電話 (0279) 52-2511(代表)

発行／群馬県考古資料普及会
勢多郡北橋村下箱田784番地の2
電話 (0279) 52-2511(代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社

大久保B遺跡全体図



有馬遺跡全体図 2

